千葉県文化財センター調査報告第462集

千原台ニュータウンX

―― 市原市草刈遺跡（東部地区旧石器時代）――

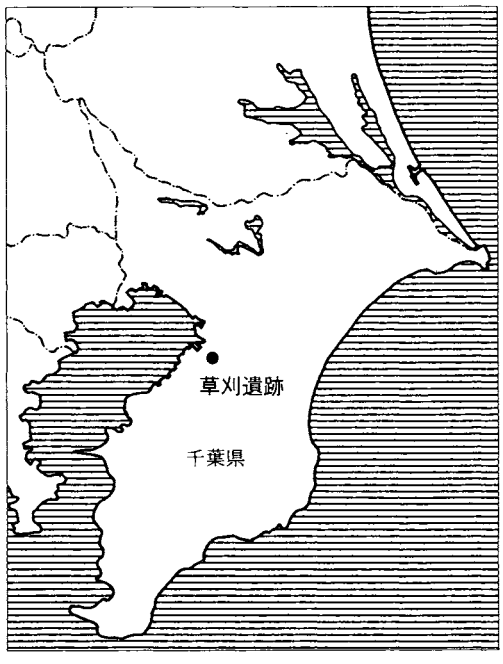
平成15年11月

都　市　基　盤　整　備　公　団

財団法人　千葉県文化財センター

千原台ニュータウンX

―― 市原市草刈(くさかり)遺跡（東部地区旧石器時代）――



序　　文

財団法人千葉県文化財センターは，埋蔵文化財の調査研究，文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され，以来，数多くの遺跡の発掘調査を実施し，その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび，千葉県文化財センター調査報告第462集として，都市基盤整備公団千葉地域支社の千原台地区土地区画整理事業に伴って実施した市原市草刈遺跡（東部地区旧石器時代）の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では，旧石器時代各時期の石器集中地点が98か所検出され，この地域における旧石器時代の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり，この報告書が学術資料として，また郷土研究の資料として広く活用されることを願っております。

終わりに，調査に際し御指導，御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関，また，発掘から整理までご苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成15年11月28日

財団法人千葉県文化財センター

理事長　　清水新次

凡　　例

1　本書は，都市基盤整備公団千葉地域支社による千原台地区におけるニュータウン建設計画に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　本書に収録したのは，千葉県市原市草刈字上切付1263-1（現ちはら台西３丁目３番）ほかに所在する草刈遺跡のうち，東部地区の旧石器時代資料である。東部の範囲には以下の地区が含まれる。ただし，Ａ区・Ｂ区についてはすでに報告書を刊行済みである。

遺跡名	遺跡コード
草刈遺跡Ｃ区	219-010
草刈遺跡Ｄ区	219-013
草刈遺跡Ｅ区	219-029
草刈遺跡Ｇ区	219-034
草刈古墳群	219-014　（Ｐ区）

3　発掘調査から報告書刊行に至る業務は，都市基盤整備公団千葉地域支社の委託を受け，財団法人千葉県文化財センターが実施した。

4　発掘調査及び整理作業の経緯と組織・担当者は第１章第１節に記載した。

5　本書に掲載した石器の実測，石器及び石材の分類，原稿執筆，編集は，島立　桂が担当した。ただし，出土石器について，安斎正人（東京大学），安蒜政雄（明治大学），小野　昭（東京都立大学），佐藤宏之（東京大学），鈴木忠司（京都文化博物館），堤　隆（御代田町教育委員会），中村由克（野尻湖ナウマン象博物館），藤野次史（広島大学）の各氏に御教示を得た。

6　発掘調査から報告書刊行に至るまで，千葉県教育庁教育振興部文化財課，都市基盤整備公団千葉地域支社，市原市教育委員会の御指導，御協力を得た。

7　第１図に国土地理院発行１/25,000地形図「蘇我」（N-54-19-15-2）を利用した。

8　本書で使用した図面の方位はすべて座標北である。座標値は日本測地系である。

9　挿図に使用した記号の用例は，以下のとおりである。

石器；ナイフ形石器（Kn ★），台形石器（Tr ▲），角錐状石器（Ka ✪），槍先形石器（Po ✪），掻器（Es ◎），削器（Ss ○），彫器（Gr ○），錐状石器（Dr ○），楔形石器（Pi ○），加工痕ある剥片（Rf ○），使用痕ある剥片（Uf ○），石刃（Bl ▲），小石刃（Bls ▲），敲石類（Ha ■），台石（Anb ■），礫器（Pb ■），石斧（Ax ◆），その他の石器（○），剥片（B ●），削片（Sp ●），砕片（C •），石核（D □），細石刃核（Mc □），原石（E ◐），礫（＊）

石材；黒曜石（Ob ●），安山岩（An ○），軟質の安山岩=トロトロ石（Ant ○），流紋岩（Rh □），花崗岩（Gi □），蛇紋岩（Se □），頁岩（Sh ▲），珪質頁岩（Csh ▲），凝灰岩（Tu ▲），チャート（Ch ▲），粘板岩（Sl ◎），砂岩（Sa ✪），礫岩（Pe □），瑪瑙・玉髄（Ag ■），石英（Qu ◐），ホルンフェルス（Ho ★），不明（□）

本文目次

第１章　はじめに …… 1
　第１節　調査の概要 …… 1
　　１　発掘調査の経緯 …… 1
　　２　調査の方法 …… 2
　　３　整理の方針と報告の概要 …… 2
　第２節　遺跡の位置と環境 …… 3
　　１　遺跡の位置と地形 …… 3
　　２　草刈遺跡と周辺の遺跡 …… 3
　第３節　基本土層 …… 7
第２章　草刈遺跡Ｃ区 …… 9
　第１節　調査の概要 …… 9
　第２節　第１文化層 …… 9
　第３節　第３文化層 …… 16
　第４節　第４文化層 …… 24
　第５節　第５文化層 …… 161
　第６節　第６文化層 …… 191
　第７節　ブロック外出土遺物 …… 236
第３章　草刈遺跡Ｄ区 …… 243
　第１節　調査の概要 …… 243
　第２節　第２文化層 …… 243
　第３節　第４文化層 …… 272
　第４節　第５文化層 …… 295
　第５節　第６文化層 …… 303
　第６節　ブロック外出土遺物 …… 335
第４章　草刈遺跡Ｅ区 …… 338
　第１節　調査の概要 …… 338
　第２節　第４文化層 …… 338
　第３節　第５文化層 …… 353
　第４節　第６文化層 …… 360
　第５節　ブロック外出土遺物 …… 400
第５章　草刈遺跡Ｇ区 …… 403
　第１節　調査の概要 …… 403
　第２節　第３文化層 …… 403
　第３節　第４文化層 …… 409

第４節　第６文化層 …… 414
第５節　第７文化層 …… 450
第６節　ブロック外出土遺物 …… 475
第６章　草刈遺跡Ｐ区 …… 479
第１節　調査の概要 …… 479
第２節　第４文化層 …… 479
第３節　第６文化層 …… 526
第４節　第７文化層 …… 554
第５節　ブロック外出土遺物 …… 559
第７章　まとめ …… 567
報告書抄録

挿図目次

第１章　調査の概要
第１図　草刈遺跡周辺の旧石器時代遺跡 …… 4
第２図　草刈遺跡東部地区調査概要図 …… 5
第３図　草刈遺跡東部地区基本土層図 …… 8

第２章　草刈遺跡Ｃ区
第４図　草刈遺跡Ｃ区旧石器時代調査概要図 …… 10
第５図　C13-Ｂブロック出土遺物分布図(１) …… 11
第６図　C13-Ｂブロック出土遺物分布図(２) …… 12
第７図　C13-Ｂブロック出土遺物実測図(１) …… 14
第８図　C13-Ｂブロック出土遺物実測図(２) …… 15
第９図　C13-Ｄブロック出土遺物分布図(１) …… 17
第10図　C13-Ｄブロック出土遺物分布図(２) …… 18
第11図　C13-Ｄブロック出土遺物分布図(３) …… 19
第12図　C13-Ｄブロック出土遺物実測図(１) …… 21
第13図　C13-Ｄブロック出土遺物実測図(２) …… 22
第14図　C13-Ｄブロック出土遺物実測図(３) …… 23
第15図　C12-Ａブロック出土遺物分布図(１) …… 25
第16図　C12-Ａブロック出土遺物分布図(２) …… 25
第17図　C12-Ａブロック出土遺物実測図 …… 26
第18図　C13-Ａブロック出土遺物分布図(１) …… 27
第19図　C13-Ａブロック出土遺物分布図(２) …… 28
第20図　C13-Ａブロック出土遺物分布図(３) …… 29
第21図　C13-Ａブロック出土遺物実測図(１) …… 31
第22図　C13-Ａブロック出土遺物実測図(２) …… 32
第23図　C13-Ａブロック出土遺物実測図(３) …… 33
第24図　C13-Ａブロック出土遺物実測図(４) …… 34
第25図　C13-Ａブロック出土遺物実測図(５) …… 35
第26図　C13-Ｃブロック出土遺物分布図(１) …… 37
第27図　C13-Ｃブロック出土遺物分布図(２) …… 38
第28図　C13-Ｃブロック出土遺物分布図(３) …… 39
第29図　C13-Ｃブロック出土遺物分布図(４) …… 40
第30図　C13-Ｃブロック出土遺物分布図(５) …… 41
第31図　C13-Ｃブロック出土遺物実測図(１) …… 43
第32図　C13-Ｃブロック出土遺物実測図(２) …… 44
第33図　C13-Ｃブロック出土遺物実測図(３) …… 45
第34図　C13-Ｃブロック出土遺物実測図(４) …… 46
第35図　C13-Ｃブロック出土遺物実測図(５) …… 47
第36図　C13-Ｅブロック出土遺物分布図(１) …… 48
第37図　C13-Ｅブロック出土遺物分布図(２) …… 48
第38図　C13-Ｅブロック出土遺物実測図 …… 49
第39図　C13-Ｈブロック出土遺物分布図(１) …… 51
第40図　C13-Ｈブロック出土遺物分布図(２) …… 52
第41図　C13-Ｈブロック出土遺物分布図(３) …… 53

第42図　C13-Hブロック出土遺物実測図(1) …… 54
第43図　C13-Hブロック出土遺物実測図(2) …… 55
第44図　C13-Hブロック出土遺物実測図(3) …… 56
第45図　C17-Aブロック出土遺物分布図(1) …… 58
第46図　C17-Aブロック出土遺物分布図(2) …… 59
第47図　C17-Aブロック出土遺物分布図(3) …… 60
第48図　C17-Aブロック出土遺物分布図(4) …… 61
第49図　C17-Aブロック出土遺物分布図(5) …… 62
第50図　C17-Aブロック出土遺物実測図(1) …… 66
第51図　C17-Aブロック出土遺物実測図(2) …… 67
第52図　C17-Aブロック出土遺物実測図(3) …… 68
第53図　C17-Aブロック出土遺物実測図(4) …… 69
第54図　C17-Aブロック出土遺物実測図(5) …… 70
第55図　C17-Aブロック出土遺物実測図(6) …… 71
第56図　C17-Bブロック出土遺物分布図(1) …… 73
第57図　C17-Bブロック出土遺物分布図(2) …… 74
第58図　C17-Bブロック出土遺物分布図(3) …… 75
第59図　C17-Bブロック出土遺物分布図(4) …… 76
第60図　C17-Bブロック出土遺物実測図(1) …… 80
第61図　C17-Bブロック出土遺物実測図(2) …… 81
第62図　C17-Bブロック出土遺物実測図(3) …… 82
第63図　C17-Bブロック出土遺物実測図(4) …… 83
第64図　C17-Bブロック出土遺物実測図(5) …… 84
第65図　C17-Eブロック出土遺物分布図(1) …… 86
第66図　C17-Eブロック出土遺物分布図(2) …… 86
第67図　C17-Eブロック出土遺物実測図 …… 87
第68図　C17-Fブロック出土遺物分布図(1) …… 89
第69図　C17-Fブロック出土遺物分布図(2) …… 89
第70図　C17-Fブロック出土遺物実測図 …… 90
第71図　C17-Gブロック出土遺物分布図(1) …… 92
第72図　C17-Gブロック出土遺物分布図(2) …… 93
第73図　C17-Gブロック出土遺物分布図(3) …… 94
第74図　C17-Gブロック出土遺物分布図(4) …… 95
第75図　C17-Gブロック出土遺物実測図(1) …… 97
第76図　C17-Gブロック出土遺物実測図(2) …… 98
第77図　C17-Gブロック出土遺物実測図(3) …… 99
第78図　C17-Gブロック出土遺物実測図(4) …… 100
第79図　C17-Gブロック出土遺物実測図(5) …… 101
第80図　C17-Gブロック出土遺物実測図(6) …… 102
第81図　C17-Gブロック出土遺物実測図(7) …… 103
第82図　C23-Aブロック出土遺物分布図(1) …… 105
第83図　C23-Aブロック出土遺物分布図(2) …… 106
第84図　C23-Aブロック出土遺物分布図(3) …… 107
第85図　C23-Aブロック出土遺物分布図(4) …… 108
第86図　C23-Aブロック出土遺物分布図(5) …… 109
第87図　C23-Aブロック出土遺物分布図(6) …… 110
第88図　C23-Aブロック出土遺物実測図(1) …… 112
第89図　C23-Aブロック出土遺物実測図(2) …… 113
第90図　C23-Aブロック出土遺物実測図(3) …… 114
第91図　C23-Aブロック出土遺物実測図(4) …… 115
第92図　C23-Aブロック出土遺物実測図(5) …… 116
第93図　C23-Aブロック出土遺物実測図(6) …… 117
第94図　C23-Aブロック出土遺物実測図(7) …… 118
第95図　C23-Aブロック出土遺物実測図(8) …… 119
第96図　C23-Bブロック出土遺物分布図(1) …… 122
第97図　C23-Bブロック出土遺物分布図(2) …… 123
第98図　C23-Bブロック出土遺物分布図(3) …… 124
第99図　C23-Bブロック出土遺物実測図(1) …… 126
第100図　C23-Bブロック出土遺物実測図(2) …… 127
第101図　C23-Bブロック出土遺物実測図(3) …… 128
第102図　C23-Bブロック出土遺物実測図(4) …… 129
第103図　C23-Cブロック出土遺物分布図(1) …… 130
第104図　C23-Cブロック出土遺物分布図(2) …… 131
第105図　C23-Cブロック出土遺物分布図(3) …… 132
第106図　C23-Cブロック出土遺物実測図(1) …… 134
第107図　C23-Cブロック出土遺物実測図(2) …… 135
第108図　C23-Cブロック出土遺物実測図(3) …… 136
第109図　C23-Cブロック出土遺物実測図(4) …… 137
第110図　C23-Cブロック出土遺物実測図(5) …… 138
第111図　C23-Dブロック出土遺物分布図(1) …… 140
第112図　C23-Dブロック出土遺物分布図(2) …… 140
第113図　C23-Dブロック出土遺物実測図 …… 141
第114図　C23-Fブロック出土遺物分布図(1) …… 142
第115図　C23-Fブロック出土遺物分布図(2) …… 142
第116図　C23-Fブロック出土遺物実測図 …… 143
第117図　C17-⑭母岩分布図(1) …… 146

第118図　C17-⑭母岩分布図(２) …… 147
第119図　C17-⑭母岩分布図(３) …… 148
第120図　C17-⑭母岩分布図(４) …… 149
第121図　C17-⑭母岩分布図(５) …… 150
第122図　C17-⑭母岩実測図(１) …… 151
第123図　C17-⑭母岩実測図(２) …… 153
第124図　C17-⑭母岩実測図(３) …… 154
第125図　C17-⑭母岩実測図(４) …… 155
第126図　C17-⑭母岩実測図(５) …… 156
第127図　C17-⑭母岩実測図(６) …… 157
第128図　C17-⑭母岩実測図(７) …… 158
第129図　C17-⑭母岩実測図(８) …… 159
第130図　C17-⑭母岩実測図(９) …… 160
第131図　C９-Ａブロック出土遺物分布図(１) …… 162
第132図　C９-Ａブロック出土遺物分布図(２) …… 162
第133図　C９-Ａブロック出土遺物実測図 …… 163
第134図　C16-Ａブロック出土遺物分布図(１) …… 164
第135図　C16-Ａブロック出土遺物分布図(２) …… 165
第136図　C16-Ａブロック出土遺物分布図(３) …… 166
第137図　C16-Ａブロック出土遺物分布図(４) …… 167
第138図　C16-Ａブロック出土遺物実測図(１) …… 168
第139図　C16-Ａブロック出土遺物実測図(２) …… 169
第140図　C16-Ａブロック出土遺物実測図(３) …… 170
第141図　C16-Ａブロック出土遺物実測図(４) …… 171
第142図　C16-Ａブロック出土遺物実測図(５) …… 172
第143図　C16-Ａブロック出土遺物実測図(６) …… 173
第144図　C16-Ａブロック出土遺物実測図(７) …… 174
第145図　C58Ｂ-Ａブロック出土遺物分布図(１) … 177
第146図　C58Ｂ-Ａブロック出土遺物分布図(２) … 178
第147図　C58Ｂ-Ａブロック出土遺物分布図(３) … 179
第148図　C58Ｂ-Ａブロック出土遺物分布図(４) … 180
第149図　C58Ｂ-Ａブロック出土遺物実測図(１) … 181
第150図　C58Ｂ-Ａブロック出土遺物実測図(２) … 182
第151図　C58Ｂ-Ａブロック出土遺物実測図(３) … 183
第152図　C61-Ｄブロック出土遺物分布図(１) …… 185
第153図　C61-Ｄブロック出土遺物分布図(２) …… 186
第154図　C61-Ｄブロック出土遺物実測図 …… 187
第155図　C61-Ｅブロック出土遺物分布図(１) …… 189
第156図　C61-Ｅブロック出土遺物分布図(２) …… 189
第157図　C61-Ｅブロック出土遺物実測図 …… 190
第158図　C８-Ａブロック出土遺物分布図(１) …… 191
第159図　C８-Ａブロック出土遺物分布図(２) …… 192
第160図　C８-Ａブロック出土遺物分布図(３) …… 193
第161図　C８-Ａブロック出土遺物実測図 …… 193
第162図　C17-Ｃブロック出土遺物分布図(１) …… 195
第163図　C17-Ｃブロック出土遺物分布図(２) …… 195
第164図　C17-Ｃブロック出土遺物実測図 …… 196
第165図　C17-Ｄブロック出土遺物実測図 …… 198
第166図　C17-Ｄブロック出土遺物分布図(１) …… 198
第167図　C17-Ｄブロック出土遺物分布図(２) …… 199
第168図　C21-Ａブロック出土遺物分布図(１) …… 200
第169図　C21-Ａブロック出土遺物分布図(２) …… 202
第170図　C21-Ａブロック出土遺物実測図(１) …… 203
第171図　C21-Ａブロック出土遺物実測図(２) …… 204
第172図　C23-Ｅブロック出土遺物分布図(１) …… 207
第173図　C23-Ｅブロック出土遺物分布図(２) …… 208
第174図　C23-Ｅブロック出土遺物分布図(３) …… 209
第175図　C23-Ｅブロック出土遺物分布図(４) …… 209
第176図　C23-Ｅブロック出土遺物分布図(５) …… 210
第177図　C23-Ｅブロック出土遺物分布図(６) …… 210
第178図　C23-Ｅブロック出土遺物分布図(７) …… 211
第179図　C23-Ｅブロック出土遺物分布図(８) …… 211
第180図　C23-Ｅブロック出土遺物実測図 …… 212
第181図　C23-Ｇブロック出土遺物分布図(１) …… 214
第182図　C23-Ｇブロック出土遺物分布図(２) …… 214
第183図　C23-Ｈブロック出土遺物分布図(１) …… 216
第184図　C23-Ｈブロック出土遺物分布図(２) …… 217
第185図　C23-Ｈブロック出土遺物分布図(３) …… 218
第186図　C23-Ｈブロック出土遺物分布図(４) …… 218
第187図　C23-Ｈブロック出土遺物分布図(５) …… 219
第188図　C23-Ｈブロック出土遺物分布図(６) …… 219
第189図　C23-Ｈブロック出土遺物分布図(７) …… 220
第190図　C23-Ｈブロック出土遺物分布図(８) …… 220
第191図　C23-Ｈブロック出土遺物分布図(９) …… 221
第192図　C23-Ｈブロック出土遺物実測図 …… 222
第193図　C23-Ｉブロック出土遺物実測図 …… 224

第194図　C23-Ⅰブロック出土遺物分布図(1) …… 225
第195図　C23-Ⅰブロック出土遺物分布図(2) …… 225
第196図　C58A-Aブロック出土遺物分布図(1) … 226
第197図　C58A-Aブロック出土遺物分布図(2) … 226
第198図　C58A-Aブロック出土遺物実測図 …… 227
第199図　C61-Aブロック出土遺物分布図(1) …… 228
第200図　C61-Aブロック出土遺物分布図(2) …… 228
第201図　C61-Aブロック出土遺物分布図(3) …… 229
第202図　C61-Aブロック出土遺物実測図 …… 229
第203図　C61-Bブロック出土遺物分布図(1) …… 230
第204図　C61-Bブロック出土遺物分布図(2) …… 231
第205図　C61-Bブロック出土遺物分布図(3) …… 231
第206図　C61-Cブロック出土遺物分布図(1) …… 232
第207図　C61-Cブロック出土遺物分布図(2) …… 233
第208図　C61-Cブロック出土遺物分布図(3) …… 234
第209図　C61-Cブロック出土遺物分布図(4) …… 234
第210図　C61-Cブロック出土遺物実測図 …… 235
第211図　草刈遺跡C区ブロック外出土遺物
分布図(1) …… 238
第212図　草刈遺跡C区ブロック外出土遺物
分布図(2) …… 239
第213図　C12グリッド単独出土遺物実測図 …… 240
第214図　C13・C17グリッド単独出土遺物実測図 … 240
第215図　C16グリッド単独出土遺物実測図 …… 241
第216図　C23グリッド単独出土遺物実測図 …… 241
第217図　C58Aグリッド単独出土遺物実測図 …… 241
第218図　C58Bグリッド単独出土遺物実測図 …… 242
第219図　草刈遺跡C区一括出土遺物実測図 …… 242

第 3 章　草刈遺跡D区
第220図　草刈遺跡D区旧石器時代調査概要図 …… 244
第221図　C77-Dブロック出土遺物分布図(1) …… 246
第222図　C77-Dブロック出土遺物分布図(2) …… 247
第223図　C77-Dブロック出土遺物分布図(3) … 248
第224図　C77-Dブロック出土遺物分布図(4) …… 249
第225図　C77-Dブロック出土遺物分布図(5) …… 250
第226図　C77-Dブロック出土遺物分布図(6) …… 251
第227図　C77-Dブロック出土遺物分布図(7) …… 252
第228図　C77-Dブロック内出土炉跡 …… 259
第229図　C77-Dブロック出土遺物実測図(1) …… 260
第230図　C77-Dブロック出土遺物実測図(2) …… 261
第231図　C77-Dブロック出土遺物実測図(3) …… 262
第232図　C77-Dブロック出土遺物実測図(4) …… 263
第233図　C77-Dブロック出土遺物実測図(5) …… 264
第234図　C77-Dブロック出土遺物実測図(6) …… 265
第235図　C77-Dブロック出土遺物実測図(7) …… 266
第236図　C77-Dブロック出土遺物実測図(8) …… 267
第237図　C77-Dブロック出土遺物実測図(9) …… 268
第238図　C77-Dブロック出土遺物実測図(10) …… 269
第239図　C77-Dブロック出土遺物実測図(11) …… 270
第240図　C77-Dブロック出土遺物実測図(12) …… 271
第241図　C62-Aブロック出土遺物分布図(1) …… 273
第242図　C62-Aブロック出土遺物分布図(2) …… 274
第243図　C62-Aブロック出土遺物実測図(1) …… 275
第244図　C62-Aブロック出土遺物実測図(2) …… 276
第245図　C62-Bブロック出土遺物分布図(1) …… 277
第246図　C62-Bブロック出土遺物分布図(2) …… 278
第247図　C62-Bブロック出土遺物実測図 …… 279
第248図　C72N40-Aブロック出土遺物分布図(1) … 281
第249図　C72N40-Aブロック出土遺物分布図(2) … 281
第250図　C72N40-Aブロック出土遺物実測図 …… 282
第251図　C77-Aブロック出土遺物分布図(1) …… 283
第252図　C77-Aブロック出土遺物分布図(2) …… 284
第253図　C77-Aブロック出土遺物実測図(1) …… 286
第254図　C77-Aブロック出土遺物実測図(2) …… 287
第255図　C77-Bブロック出土遺物分布図(1) …… 289
第256図　C77-Bブロック出土遺物分布図(2) …… 290
第257図　C77-Bブロック出土遺物実測図(1) …… 291
第258図　C77-Bブロック出土遺物実測図(2) …… 292
第259図　C77-Cブロック出土遺物分布図(1) …… 293
第260図　C77-Cブロック出土遺物分布図(2) …… 294
第261図　C77-Cブロック出土遺物実測図 …… 294
第262図　C55-Aブロック出土遺物実測図 …… 295
第263図　C55-Aブロック出土遺物分布図(1) …… 296
第264図　C55-Aブロック出土遺物分布図(2) …… 296
第265図　C57-Aブロック出土遺物分布図(1) …… 298

第266図　C57-Aブロック出土遺物分布図(2) …… 299
第267図　C57-Aブロック出土遺物実測図(1) …… 300
第268図　C57-Aブロック出土遺物実測図(2) …… 301
第269図　C46-Aブロック出土遺物分布図(1) …… 304
第270図　C46-Aブロック出土遺物分布図(2) …… 304
第271図　C46-Aブロック出土遺物実測図 …… 305
第272図　C56-Aブロック出土遺物分布図(1) …… 306
第273図　C56-Aブロック出土遺物分布図(2) …… 307
第274図　C56-Aブロック出土遺物分布図(3) …… 308
第275図　C56-Aブロック出土遺物分布図(4) …… 309
第276図　C56-Aブロック出土遺物実測図(1) …… 311
第277図　C56-Aブロック出土遺物実測図(2) …… 312
第278図　C56-Aブロック出土遺物実測図(3) …… 313
第279図　C72N40-Bブロック出土遺物分布図(1) … 315
第280図　C72N40-Bブロック出土遺物分布図(2) … 316
第281図　C72N40-Bブロック出土遺物実測図(1) … 317
第282図　C72N40-Bブロック出土遺物実測図(2) … 318
第283図　C72N40-Cブロック出土遺物分布図(1) … 319
第284図　C72N40-Cブロック出土遺物分布図(2) … 320
第285図　C72N40-Cブロック出土遺物実測図(1) … 321
第286図　C72N40-Cブロック出土遺物実測図(2) … 322
第287図　C72N40-Dブロック出土遺物分布図(1) … 324
第288図　C72N40-Dブロック出土遺物分布図(2) … 325
第289図　C72N40-Dブロック出土遺物分布図(3) … 326
第290図　C72N40-Dブロック出土遺物実測図(1) … 328
第291図　C72N40-Dブロック出土遺物実測図(2) … 329
第292図　C72N40-Dブロック出土遺物実測図(3) … 330
第293図　C76-Aブロック出土遺物分布図(1) …… 332
第294図　C76-Aブロック出土遺物分布図(2) …… 333
第295図　C76-Aブロック出土遺物実測図 …… 334
第296図　草刈遺跡D区ブロック外出土遺物実測図 …335
第297図　草刈遺跡D区ブロック外出土遺物
分布図(1) …… 336
第298図　草刈遺跡D区ブロック外出土遺物
分布図(2) …… 336

第４章　草刈遺跡E区

第299図　草刈遺跡E区旧石器時代調査概要図 …… 339
第300図　C32-Cブロック出土遺物実測図 …… 340
第301図　C32-Cブロック出土遺物分布図(1) …… 341
第302図　C32-Cブロック出土遺物分布図(2) …… 341
第303図　C32-Dブロック出土遺物分布図(1) …… 343
第304図　C32-Dブロック出土遺物分布図(2) …… 344
第305図　C32-Dブロック出土遺物実測図 …… 345
第306図　C33-Bブロック出土遺物分布図(1) …… 347
第307図　C33-Bブロック出土遺物分布図(2) …… 347
第308図　C33-Bブロック出土遺物実測図 …… 348
第309図　C34-Aブロック出土遺物分布図(1) …… 350
第310図　C34-Aブロック出土遺物分布図(2) …… 351
第311図　C34-Aブロック出土遺物実測図 …… 352
第312図　C32-Bブロック出土遺物分布図(1) …… 355
第313図　C32-Bブロック出土遺物分布図(2) …… 356
第314図　C32-Bブロック出土遺物実測図 …… 357
第315図　C33-Aブロック出土遺物実測図 …… 358
第316図　C33-Aブロック出土遺物分布図(1) …… 359
第317図　C33-Aブロック出土遺物分布図(2) …… 359
第318図　C32-Aブロック出土遺物分布図(1) …… 361
第319図　C32-Aブロック出土遺物分布図(2) …… 361
第320図　C32-Aブロック出土遺物実測図 …… 362
第321図　C33-Cブロック出土遺物分布図(1) …… 364
第322図　C33-Cブロック出土遺物分布図(2) …… 364
第323図　C33-Cブロック出土遺物実測図 …… 365
第324図　C34-Bブロック出土遺物実測図 …… 366
第325図　C34-Bブロック出土遺物分布図(1) …… 367
第326図　C34-Bブロック出土遺物分布図(2) …… 367
第327図　C34-Bブロック出土遺物分布図(3) …… 368
第328図　C34-Cブロック出土遺物分布図(1) …… 369
第329図　C34-Cブロック出土遺物分布図(2) …… 370
第330図　C34-Cブロック出土遺物実測図 …… 371
第331図　C34-Dブロック出土遺物実測図 …… 372
第332図　C34-Dブロック出土遺物分布図(1) …… 373
第333図　C34-Dブロック出土遺物分布図(2) …… 374
第334図　C34-Eブロック出土遺物実測図 …… 375
第335図　C34-Eブロック出土遺物分布図(1) …… 376
第336図　C34-Eブロック出土遺物分布図(2) …… 376
第337図　C34-Fブロック出土遺物分布図(1) …… 377

第338図　C34-Fブロック出土遺物分布図(2) …… 378
第339図　C34-Fブロック出土遺物実測図 …… 379
第340図　C34E40-Aブロック出土遺物分布図(1) … 380
第341図　C34E40-Aブロック出土遺物分布図(2) … 381
第342図　C34E40-Aブロック出土遺物実測図(1) … 382
第343図　C34E40-Aブロック出土遺物実測図(2) … 383
第344図　C37-Aブロック出土遺物分布図(1) …… 385
第345図　C37-Aブロック出土遺物分布図(2) …… 386
第346図　C37-Aブロック出土遺物実測図(1) …… 388
第347図　C37-Aブロック出土遺物実測図(2) …… 389
第348図　C38-Aブロック出土遺物実測図 …… 390
第349図　C38-Aブロック出土遺物分布図(1) …… 391
第350図　C38-Aブロック出土遺物分布図(2) …… 391
第351図　C43-Aブロック出土遺物実測図 …… 392
第352図　C43-Aブロック出土遺物分布図(1) …… 393
第353図　C43-Aブロック出土遺物分布図(2) …… 394
第354図　C45-Aブロック出土遺物分布図(1) …… 396
第355図　C45-Aブロック出土遺物分布図(2) …… 397
第356図　C45-Aブロック出土遺物実測図(1) …… 398
第357図　C45-Aブロック出土遺物実測図(2) …… 399
第358図　草刈遺跡E区ブロック外出土遺物
分布図(1) …… 401
第359図　草刈遺跡E区ブロック外出土遺物
分布図(2) …… 401
第360図　草刈遺跡E区ブロック外出土遺物実測図　402

第 5 章　草刈遺跡G区
第361図　草刈遺跡G区旧石器時代調査概要図 …… 404
第362図　C20-Aブロック出土遺物分布図(1) …… 405
第363図　C20-Aブロック出土遺物分布図(2) …… 406
第364図　C20-Aブロック出土遺物実測図(1) …… 408
第365図　C20-Aブロック出土遺物実測図(2) …… 409
第366図　C14N40-Aブロック出土遺物実測図 …… 410
第367図　C14N40-Aブロック出土遺物分布図(1) … 411
第368図　C14N40-Aブロック出土遺物分布図(2) … 411
第369図　C15-Aブロック出土遺物実測図 …… 412
第370図　C15-Aブロック出土遺物分布図(1) …… 413
第371図　C15-Aブロック出土遺物分布図(2) …… 413
第372図　C21-Bブロック出土遺物分布図(1) …… 415
第373図　C21-Bブロック出土遺物分布図(2) …… 415
第374図　C21-Bブロック出土遺物実測図 …… 416
第375図　C26-A1ブロック出土遺物分布図(1) …… 419
第376図　C26-A1ブロック出土遺物分布図(2) …… 420
第377図　C26-A1ブロック出土遺物分布図(3) …… 421
第378図　C26-A1ブロック出土遺物分布図(4) …… 422
第379図　C26-A1ブロック出土遺物分布図(5) …… 422
第380図　C26-A1ブロック出土遺物実測図(1) …… 425
第381図　C26-A1ブロック出土遺物実測図(2) …… 426
第382図　C26-A1ブロック出土遺物実測図(3) …… 427
第383図　C26-A1ブロック出土遺物実測図(4) …… 428
第384図　C26-A2ブロック出土遺物分布図(1) …… 431
第385図　C26-A2ブロック出土遺物分布図(2) …… 432
第386図　C26-A2ブロック出土遺物分布図(3) …… 433
第387図　C26-A2ブロック出土遺物実測図(1) …… 435
第388図　C26-A2ブロック出土遺物実測図(2) …… 436
第389図　C26-A3ブロック出土遺物分布図(1) …… 438
第390図　C26-A3ブロック出土遺物分布図(2) …… 439
第391図　C26-A3ブロック出土遺物分布図(3) …… 440
第392図　C26-A3ブロック出土遺物実測図(1) …… 443
第393図　C26-A3ブロック出土遺物実測図(2) …… 444
第394図　C26-A3ブロック出土遺物実測図(3) …… 445
第395図　C26-A4ブロック出土遺物分布図(1) …… 446
第396図　C26-A4ブロック出土遺物分布図(2) …… 447
第397図　C26-A1～A4ブロック出土遺物分布図 …… 448
第398図　C26-A4ブロック出土遺物実測図 …… 449
第399図　C12-Bブロック出土遺物分布図(1) …… 453
第400図　C12-Bブロック出土遺物分布図(2) …… 454
第401図　C12-Bブロック出土遺物分布図(3) …… 455
第402図　C12-Bブロック出土遺物分布図(4) …… 456
第403図　C12-Bブロック出土遺物分布図(5) …… 457
第404図　C12-Bブロック出土遺物分布図(6) …… 458
第405図　C12-Bブロック出土遺物分布図(7) …… 458
第406図　C12-Bブロック出土遺物分布図(8) …… 459
第407図　C12-Bブロック出土遺物分布図(9) …… 459
第408図　C12-Bブロック出土遺物分布図(10) …… 460
第409図　C12-Bブロック出土遺物分布図(11) …… 460

第410図　C12-Bブロック出土遺物分布図(12)　…… 461
第411図　C12-Bブロック出土遺物実測図(1)　…… 463
第412図　C12-Bブロック出土遺物実測図(2)　…… 464
第413図　C12-Bブロック出土遺物実測図(3)　…… 465
第414図　C12-Bブロック出土遺物実測図(4)　…… 466
第415図　C12-Bブロック出土遺物実測図(5)　…… 467
第416図　C14-A・Cブロック出土遺物実測図　…… 469
第417図　C14-Aブロック出土遺物分布図(1)　…… 470
第418図　C14-Aブロック出土遺物分布図(2)　…… 470
第419図　C14-Bブロック出土遺物分布図(1)　…… 472
第420図　C14-Bブロック出土遺物分布図(2)　…… 472
第421図　C14-Cブロック出土遺物分布図(1)　…… 474
第422図　C14-Cブロック出土遺物分布図(2)　…… 474
第423図　C14-Cブロック出土遺物分布図(3)　…… 475
第424図　草刈遺跡G区ブロック外出土遺物分布図　477
第425図　草刈遺跡G区ブロック外出土遺物実測図　478

第 6 章　草刈遺跡P区
第426図　草刈遺跡P区旧石器時代調査概要図　…… 480
第427図　4A-Bブロック出土遺物分布図(1)　…… 481
第428図　4A-Bブロック出土遺物分布図(2)　…… 482
第429図　4A-Bブロック出土遺物実測図　…… 483
第430図　4B-Aブロック出土遺物実測図　…… 485
第431図　4B-Aブロック出土遺物分布図(1)　…… 486
第432図　4B-Aブロック出土遺物分布図(2)　…… 487
第433図　4B-Bブロック出土遺物実測図(1)　…… 488
第434図　4B-Bブロック出土遺物実測図(2)　…… 489
第435図　4B-Bブロック出土遺物分布図(1)　…… 491
第436図　4B-Bブロック出土遺物分布図(2)　…… 492
第437図　4B-Dブロック出土遺物分布図(1)　…… 494
第438図　4B-Dブロック出土遺物分布図(2)　…… 495
第439図　4B-Dブロック出土遺物実測図　…… 496
第440図　4B-Eブロック出土遺物分布図(1)　…… 498
第441図　4B-Eブロック出土遺物分布図(2)　…… 499
第442図　4B-Fブロック出土遺物分布図(1)　…… 500
第443図　4B-Fブロック出土遺物分布図(2)　…… 500
第444図　4B-Fブロック出土遺物実測図　…… 501
第445図　4B-Gブロック出土遺物分布図(1)　…… 502
第446図　4B-Gブロック出土遺物分布図(2)　…… 503
第447図　4B-Gブロック出土遺物実測図　…… 504
第448図　4B-Hブロック出土遺物分布図(1)　…… 505
第449図　4B-Hブロック出土遺物分布図(2)　…… 506
第450図　4B-Hブロック出土遺物実測図　…… 507
第451図　5B-Aブロック出土遺物分布図(1)　…… 509
第452図　5B-Aブロック出土遺物分布図(2)　…… 510
第453図　5B-Aブロック出土遺物実測図(1)　…… 512
第454図　5B-Aブロック出土遺物実測図(2)　…… 513
第455図　5B-Bブロック出土遺物分布図(1)　…… 514
第456図　5B-Bブロック出土遺物分布図(2)　…… 515
第457図　5B-Bブロック出土遺物実測図(1)　…… 516
第458図　5B-Bブロック出土遺物実測図(2)　…… 517
第459図　5B-Cブロック出土遺物分布図(1)　…… 518
第460図　5B-Cブロック出土遺物分布図(2)　…… 519
第461図　5B-Cブロック出土遺物実測図　…… 519
第462図　5C-Aブロック出土遺物分布図(1)　…… 521
第463図　5C-Aブロック出土遺物分布図(2)　…… 521
第464図　5C-Aブロック出土遺物実測図　…… 522
第465図　5C-Bブロック出土遺物分布図(1)　…… 523
第466図　5C-Bブロック出土遺物分布図(2)　…… 523
第467図　5C-Bブロック出土遺物実測図　…… 524
第468図　4B・5Bグリッド出土遺物分布図　…… 525
第469図　4Bブロック群周辺出土遺物　…… 526
第470図　1B-Aブロック出土遺物分布図(1)　…… 527
第471図　1B-Aブロック出土遺物分布図(2)　…… 528
第472図　1B-Aブロック出土遺物実測図　…… 529
第473図　4A-Aブロック出土遺物分布図(1)　…… 531
第474図　4A-Aブロック出土遺物分布図(2)　…… 532
第475図　4A-Aブロック出土遺物実測図　…… 533
第476図　4B-Cブロック出土遺物分布図(1)　…… 534
第477図　4B-Cブロック出土遺物分布図(2)　…… 535
第478図　4B-Cブロック出土遺物実測図　…… 536
第479図　6E-Aブロック出土遺物分布図(1)　…… 538
第480図　6E-Aブロック出土遺物分布図(2)　…… 539
第481図　6E-Aブロック出土遺物分布図(3)　…… 540
第482図　6E-Aブロック出土遺物分布図(4)　…… 541
第483図　6E-Aブロック出土遺物分布図(5)　…… 542

第484図　6E-Aブロック出土遺物分布図(6) …… 543
第485図　6E-Aブロック出土遺物分布図(7) …… 544
第486図　6E-Aブロック出土遺物分布図(8) …… 545
第487図　6E-Aブロック出土遺物分布図(9) …… 546
第488図　6E-Aブロック出土遺物分布図(10) …… 547
第489図　6E-Aブロック出土遺物実測図(1) …… 550
第490図　6E-Aブロック出土遺物実測図(2) …… 551
第491図　6E-Aブロック出土遺物実測図(3) …… 552
第492図　6E-Aブロック出土遺物実測図(4) …… 553
第493図　2B-Aブロック出土遺物分布図(1) …… 556
第494図　2B-Aブロック出土遺物分布図(2) …… 557
第495図　2B-Aブロック出土遺物実測図 …… 558
第496図　6C-Aブロック出土遺物分布図(1) …… 560
第497図　6C-Aブロック出土遺物分布図(2) …… 561
第498図　草刈遺跡P区ブロック外出土遺物分布図　563
第499図　草刈遺跡P区ブロック外出土遺物実測図　564
第500図　草刈遺跡P区上層遺構内出土遺物実測図(1) …… 565
第501図　草刈遺跡P区上層遺構内出土遺物実測図(2) …… 566

第 7 章　まとめ
第502図　Ⅶ～Ⅵ層出土の石器群(1) …… 571
第503図　Ⅶ～Ⅵ層出土の石器群(2) …… 572
第504図　ブロック別石器垂直分布グラフ(1) …… 577
第505図　ブロック別石器垂直分布グラフ(2) …… 578
第506図　ブロック別石器垂直分布グラフ(3) …… 579
第507図　ブロック別石器垂直分布グラフ(4) …… 580
第508図　ブロック別石器垂直分布グラフ(5) …… 581
第509図　ブロック別石器垂直分布グラフ(6) …… 582
第510図　ブロック別石器垂直分布グラフ(7) …… 583

表目次

第 2 章　草刈遺跡C区
第 1 表　C13-Bブロック母岩別石器組成表 …… 16
第 2 表　C13-Bブロック石材別石器組成表 …… 16
第 3 表　C13-Dブロック母岩別石器組成表 …… 23
第 4 表　C13-Dブロック石材別石器組成表 …… 23
第 5 表　C12-Aブロック母岩別石器組成表 …… 26
第 6 表　C12-Aブロック石材別石器組成表 …… 26
第 7 表　C13-Aブロック母岩別石器組成表 …… 29
第 8 表　C13-Aブロック石材別石器組成表 …… 29
第 9 表　C13-Cブロック母岩別石器組成表 …… 42
第 10 表　C13-Cブロック石材別石器組成表 …… 42
第 11 表　C13-Eブロック母岩別石器組成表 …… 49
第 12 表　C13-Eブロック石材別石器組成表 …… 49
第 13 表　C13-Hブロック母岩別石器組成表 …… 55
第 14 表　C13-Hブロック石材別石器組成表 …… 55
第 15 表　C17-Aブロック母岩別石器組成表 …… 65
第 16 表　C17-Aブロック石材別石器組成表 …… 65
第 17 表　C17-Bブロック母岩別石器組成表 …… 85
第 18 表　C17-Bブロック石材別石器組成表 …… 85
第 19 表　C17-Eブロック母岩別石器組成表 …… 88
第 20 表　C17-Eブロック石材別石器組成表 …… 88
第 21 表　C17-Fブロック母岩別石器組成表 …… 90
第 22 表　C17-Fブロック石材別石器組成表 …… 90
第 23 表　C17-Gブロック母岩別石器組成表 …… 103
第 24 表　C17-Gブロック石材別石器組成表 …… 103
第 25 表　C23-Aブロック母岩別石器組成表 …… 120
第 26 表　C23-Aブロック石材別石器組成表 …… 120
第 27 表　C23-Bブロック母岩別石器組成表 …… 125
第 28 表　C23-Bブロック石材別石器組成表 …… 125
第 29 表　C23-Cブロック母岩別石器組成表 …… 133
第 30 表　C23-Cブロック石材別石器組成表 …… 133
第 31 表　C23-Dブロック母岩別石器組成表 …… 139
第 32 表　C23-Dブロック石材別石器組成表 …… 139
第 33 表　C23-Fブロック母岩別石器組成表 …… 144
第 34 表　C23-Fブロック石材別石器組成表 …… 144
第 35 表　C9-Aブロック母岩別石器組成表 …… 161

第36表　C9-Aブロック石材別石器組成表 …… 161
第37表　C16-Aブロック母岩別石器組成表 …… 176
第38表　C16-Aブロック石材別石器組成表 …… 176
第39表　C58B-Aブロック母岩別石器組成表 …… 184
第40表　C58B-Aブロック石材別石器組成表 …… 184
第41表　C61-Dブロック母岩別石器組成表 …… 186
第42表　C61-Dブロック石材別石器組成表 …… 186
第43表　C61-Eブロック母岩別石器組成表 …… 190
第44表　C61-Eブロック石材別石器組成表 …… 190
第45表　C8-Aブロック母岩別石器組成表 …… 194
第46表　C8-Aブロック母岩別礫一覧表 …… 194
第47表　C8-Aブロック石材別石器組成表 …… 194
第48表　C17-Cブロック母岩別石器組成表 …… 197
第49表　C17-Cブロック石材別石器組成表 …… 197
第50表　C17-Dブロック母岩別石器組成表 …… 199
第51表　C17-Dブロック石材別石器組成表 …… 199
第52表　C21-Aブロック母岩別石器組成表 …… 205
第53表　C21-Aブロック石材別石器組成表 …… 205
第54表　C23-Eブロック母岩別石器組成表 …… 213
第55表　C23-Eブロック母岩別礫一覧表 …… 213
第56表　C23-Eブロック石材別石器組成表 …… 213
第57表　C23-Gブロック母岩別石器組成表 …… 215
第58表　C23-Gブロック石材別石器組成表 …… 215
第59表　C23-Hブロック母岩別石器組成表 …… 223
第60表　C23-Hブロック母岩別礫一覧表 …… 223
第61表　C23-Hブロック石材別石器組成表 …… 223
第62表　C23-Iブロック母岩別石器組成表 …… 224
第63表　C23-Iブロック石材別石器組成表 …… 224
第64表　C58A-Aブロック母岩別石器組成表 …… 227
第65表　C58A-Aブロック石材別石器組成表 …… 227
第66表　C61-Aブロック母岩別石器組成表 …… 229
第67表　C61-Aブロック石材別石器組成表 …… 229
第68表　C61-Bブロック母岩別石器組成表 …… 230
第69表　C61-Bブロック石材別石器組成表 …… 230
第70表　C61-Cブロック母岩別石器組成表 …… 235
第71表　C61-Cブロック母岩別礫一覧表 …… 235
第72表　C61-Cブロック石材別石器組成表 …… 235

第3章　草刈遺跡D区
第73表　C77-Dブロック母岩別石器組成表 …… 258
第74表　C77-Dブロック石材別石器組成表 …… 258
第75表　C62-Aブロック母岩別石器組成表 …… 275
第76表　C62-Aブロック石材別石器組成表 …… 275
第77表　C62-Bブロック母岩別石器組成表 …… 278
第78表　C62-Bブロック石材別石器組成表 …… 278
第79表　C72N40-Aブロック母岩別石器組成表 …… 280
第80表　C72N40-Aブロック石材別石器組成表 …… 280
第81表　C77-Aブロック母岩別石器組成表 …… 286
第82表　C77-Aブロック石材別石器組成表 …… 286
第83表　C77-Bブロック母岩別石器組成表 …… 292
第84表　C77-Bブロック石材別石器組成表 …… 292
第85表　C77-Cブロック母岩別石器組成表 …… 295
第86表　C77-Cブロック石材別石器組成表 …… 295
第87表　C55-Aブロック母岩別石器組成表 …… 297
第88表　C55-Aブロック石材別石器組成表 …… 297
第89表　C57-Aブロック母岩別石器組成表 …… 302
第90表　C57-Aブロック石材別石器組成表 …… 302
第91表　C46-Aブロック母岩別石器組成表 …… 305
第92表　C46-Aブロック石材別石器組成表 …… 305
第93表　C56-Aブロック母岩別石器組成表 …… 310
第94表　C56-Aブロック石材別石器組成表 …… 310
第95表　C72N40-Bブロック母岩別石器組成表 …… 316
第96表　C72N40-Bブロック石材別石器組成表 …… 316
第97表　C72N40-Cブロック母岩別石器組成表 …… 322
第98表　C72N40-Cブロック石材別石器組成表 …… 322
第99表　C72N40-Dブロック母岩別石器組成表 …… 327
第100表　C72N40-Dブロック石材別石器組成表 …… 327
第101表　C76-Aブロック母岩別石器組成表 …… 335
第102表　C76-Aブロック石材別石器組成表 …… 335

第4章　草刈遺跡E区
第103表　C32-Cブロック母岩別石器組成表 …… 342
第104表　C32-Cブロック石材別石器組成表 …… 342
第105表　C32-Dブロック母岩別石器組成表 …… 346
第106表　C32-Dブロック石材別石器組成表 …… 346
第107表　C33-Bブロック母岩別石器組成表 …… 348

第108表　C33-Bブロック石材別石器組成表 …… 348
第109表　C34-Aブロック母岩別石器組成表 …… 353
第110表　C34-Aブロック石材別石器組成表 …… 353
第111表　C32-Bブロック母岩別石器組成表 …… 354
第112表　C32-Bブロック石材別石器組成表 …… 354
第113表　C33-Aブロック母岩別石器組成表 …… 360
第114表　C33-Aブロック石材別石器組成表 …… 360
第115表　C32-Aブロック母岩別石器組成表 …… 363
第116表　C32-Aブロック石材別石器組成表 …… 363
第117表　C33-Cブロック母岩別石器組成表 …… 365
第118表　C33-Cブロック石材別石器組成表 …… 365
第119表　C34-Bブロック母岩別石器組成表 …… 368
第120表　C34-Bブロック石材別石器組成表 …… 368
第121表　C34-Cブロック母岩別石器組成表 …… 371
第122表　C34-Cブロック石材別石器組成表 …… 371
第123表　C34-Dブロック母岩別石器組成表 …… 374
第124表　C34-Dブロック石材別石器組成表 …… 374
第125表　C34-Eブロック母岩別石器組成表 …… 375
第126表　C34-Eブロック石材別石器組成表 …… 375
第127表　C34-Fブロック母岩別石器組成表 …… 378
第128表　C34-Fブロック石材別石器組成表 …… 378
第129表　C34E40-Aブロック母岩別石器組成表 …… 384
第130表　C34E40-Aブロック石材別石器組成表 …… 384
第131表　C37-Aブロック母岩別石器組成表 …… 387
第132表　C37-Aブロック石材別石器組成表 …… 387
第133表　C38-Aブロック母岩別石器組成表 …… 392
第134表　C38-Aブロック石材別石器組成表 …… 392
第135表　C43-Aブロック母岩別石器組成表 …… 394
第136表　C43-Aブロック石材別石器組成表 …… 394
第137表　C45-Aブロック母岩別石器組成表 …… 400
第138表　C45-Aブロック石材別石器組成表 …… 400

第 5 章　草刈遺跡G区
第139表　C20-Aブロック母岩別石器組成表 …… 407
第140表　C20-Aブロック石材別石器組成表 …… 407
第141表　C14N40-Aブロック母岩別石器組成表 …… 410
第142表　C14N40-Aブロック石材別石器組成表 …… 410
第143表　C15-Aブロック母岩別石器組成表 …… 412
第144表　C15-Aブロック石材別石器組成表 …… 412
第145表　C21-Bブロック母岩別石器組成表 …… 414
第146表　C21-Bブロック石材別石器組成表 …… 414
第147表　C26-A1ブロック母岩別石器組成表 …… 429
第148表　C26-A1ブロック石材別石器組成表 …… 429
第149表　C26-A2ブロック母岩別石器組成表 …… 434
第150表　C26-A2ブロック石材別石器組成表 …… 434
第151表　C26-A3ブロック母岩別石器組成表 …… 442
第152表　C26-A3ブロック石材別石器組成表 …… 442
第153表　C26-A4ブロック母岩別石器組成表 …… 450
第154表　C26-A4ブロック石材別石器組成表 …… 450
第155表　C12-Bブロック母岩別礫一覧表 …… 468
第156表　C12-Bブロック石材別石器組成表 …… 468
第157表　C12-Bブロック母岩別石器組成表 …… 469
第158表　C14-Aブロック母岩別石器組成表 …… 471
第159表　C14-Aブロック石材別石器組成表 …… 471
第160表　C14-Aブロック母岩別礫一覧表 …… 471
第161表　C14-Bブロック母岩別礫一覧表 …… 471
第162表　C14-Bブロック母岩別石器組成表 …… 473
第163表　C14-Bブロック石材別石器組成表 …… 473
第164表　C14-Cブロック母岩別石器組成表 …… 473
第165表　C14-Cブロック石材別石器組成表 …… 473
第166表　C14-Cブロック母岩別礫一覧表 …… 473

第 6 章　草刈遺跡P区
第167表　4A-Bブロック母岩別石器組成表 …… 483
第168表　4A-Bブロック石材別石器組成表 …… 483
第169表　4B-Aブロック母岩別石器組成表 …… 487
第170表　4B-Aブロック石材別石器組成表 …… 487
第171表　4B-Bブロック母岩別石器組成表 …… 490
第172表　4B-Bブロック石材別石器組成表 …… 490
第173表　4B-Dブロック母岩別石器組成表 …… 493
第174表　4B-Dブロック石材別石器組成表 …… 493
第175表　4B-Eブロック母岩別石器組成表 …… 497
第176表　4B-Eブロック石材別石器組成表 …… 497
第177表　4B-Fブロック母岩別石器組成表 …… 501
第178表　4B-Fブロック石材別石器組成表 …… 501
第179表　4B-Gブロック母岩別石器組成表 …… 503

第180表　4B-Gブロック石材別石器組成表 …… 503
第181表　4B-Hブロック母岩別石器組成表 …… 506
第182表　4B-Hブロック石材別石器組成表 …… 506
第183表　5B-Aブロック母岩別石器組成表 …… 508
第184表　5B-Aブロック石材別石器組成表 …… 508
第185表　5B-Bブロック母岩別石器組成表 …… 517
第186表　5B-Bブロック石材別石器組成表 …… 517
第187表　5B-Cブロック母岩別石器組成表 …… 520
第188表　5B-Cブロック石材別石器組成表 …… 520
第189表　5C-Aブロック母岩別石器組成表 …… 520
第190表　5C-Aブロック石材別石器組成表 …… 520
第191表　5C-Bブロック母岩別石器組成表 …… 522
第192表　5C-Bブロック石材別石器組成表 …… 522
第193表　1B-Aブロック母岩別石器組成表 …… 529
第194表　1B-Aブロック石材別石器組成表 …… 529
第195表　4A-Aブロック母岩別石器組成表 …… 530
第196表　4A-Aブロック石材別石器組成表 …… 530
第197表　4B-Cブロック母岩別石器組成表 …… 537
第198表　4B-Cブロック石材別石器組成表 …… 537
第199表　6E-Aブロック母岩別石器組成表 …… 549
第200表　6E-Aブロック石材別石器組成表 …… 549
第201表　6E-Aブロック母岩別礫一覧表 …… 549
第202表　2B-Aブロック母岩別石器組成表 …… 555
第203表　2B-Aブロック石材別石器組成表 …… 555
第204表　6C-Aブロック母岩別礫一覧表 …… 559

図版目次

カラー図版
1.旧石器時代第1・2文化層主要石器
2.旧石器時代第3・4文化層主要石器
3.旧石器時代第4文化層主要石器
4.旧石器時代第5文化層主要石器
5.旧石器時代第6文化層主要石器
6.旧石器時代主要石器接合資料

図版
図版1　草刈遺跡C区土層断面・旧石器時代遺物出土状況1
図版2　草刈遺跡C区旧石器時代遺物出土状況2
図版3　草刈遺跡C区旧石器時代遺物出土状況3
図版4　草刈遺跡C区旧石器時代遺物出土状況4
図版5　草刈遺跡C区旧石器時代遺物1(C13-B・C13-Dブロック)
図版6　草刈遺跡C区旧石器時代遺物2(C13-C・C13-Eブロック)
図版7　草刈遺跡C区旧石器時代遺物3(C13-Aブロック)
図版8　草刈遺跡C区旧石器時代遺物4(C12-A・C13-H・C17-Aブロック)
図版9　草刈遺跡C区旧石器時代遺物5(C17-Aブロック)
図版10　草刈遺跡C区旧石器時代遺物6(C17-Bブロック)
図版11　草刈遺跡C区旧石器時代遺物7(C17-E・C17-F・C23-Bブロック)

図版12　草刈遺跡Ｃ区旧石器時代遺物８(C17-Ｇブロック)
図版13　草刈遺跡Ｃ区旧石器時代遺物９(C23-Ａブロック)
図版14　草刈遺跡Ｃ区旧石器時代遺物10(C23-Ａ・C23-Ｃブロック)
図版15　草刈遺跡Ｃ区旧石器時代遺物11(C23-Ｄ・C23-Ｆブロック,C17-⑭母岩)
図版16　草刈遺跡Ｃ区旧石器時代遺物12(C17-⑭母岩,Ｃ９-Ａ・C16-Ａブロック)
図版17　草刈遺跡Ｃ区旧石器時代遺物13(C16-Ａブロック)
図版18　草刈遺跡Ｃ区旧石器時代遺物14(C16-Ａ・C58B-Ａ・C61-Ｅブロック)
図版19　草刈遺跡Ｃ区旧石器時代遺物15(C61-Ｄ・C8-Ａ・C17-Ｃ・C17-Ｄ・C23-Ｉ・C61-Ａ・C58A-Ａブロック)
図版20　草刈遺跡Ｃ区旧石器時代遺物16(C61-Ｃ・C21-Ａ・C23-Ｅブロック)
図版21　草刈遺跡Ｃ区旧石器時代遺物17(C23-Ｈブロック,ブロック外)
図版22　草刈遺跡Ｃ区旧石器時代遺物18(接合資料)
図版23　草刈遺跡Ｄ区土層断面・旧石器時代遺物出土状況１
図版24　草刈遺跡Ｄ区旧石器時代遺物出土状況２
図版25　草刈遺跡Ｄ区旧石器時代遺物１(C77-Ｄブロック)
図版26　草刈遺跡Ｄ区旧石器時代遺物２(C77-Ｄブロック)
図版27　草刈遺跡Ｄ区旧石器時代遺物３(C77-Ｄ・C62-Ａ・C72N40-Ａブロック)
図版28　草刈遺跡Ｄ区旧石器時代遺物４(C62-Ｂ・C77-Ａ・C77-Ｃ・C77-Ｂブロック)
図版29　草刈遺跡Ｄ区旧石器時代遺物５(C55-Ａ・C57-Ａ・C56-Ａブロック)
図版30　草刈遺跡Ｄ区旧石器時代遺物６(C72N40-Ｂ・C46-Ａ・C72N40-Ｃ・C72N40-Ｄブロック)
図版31　草刈遺跡Ｄ区旧石器時代遺物７(C72N40-Ｄ・C76-Ａブロック,ブロック外)
図版32　草刈遺跡Ｄ区旧石器時代遺物８(接合資料)
図版33　草刈遺跡Ｅ区土層断面・旧石器時代遺物出土状況１
図版34　草刈遺跡Ｅ区旧石器時代遺物出土状況２・旧石器時代遺物１(接合資料)
図版35　草刈遺跡Ｅ区旧石器時代遺物２(C32-Ｃ・C33-Ｂ・C32-Ｄ・C34-Ａ・C32-Ｂブロック)
図版36　草刈遺跡Ｅ区旧石器時代遺物３(C33-Ａ・C32-Ａ・C33-Ｃ・C34-Ｂ・Ｃ34-Ｃ・C34-Ｄ・C34-Ｅブロック)
図版37　草刈遺跡Ｅ区旧石器時代遺物４(C34-Ｆ・C34E40-Ａ・C37-Ａ・C38-Ａブロック)
図版38　草刈遺跡Ｅ区旧石器時代遺物５(C43-Ａ・C45-Ａブロック,ブロック外)
図版39　草刈遺跡Ｇ区旧石器時代遺物出土状況１
図版40　草刈遺跡Ｇ区旧石器時代遺物出土状況２
図版41　草刈遺跡Ｇ区旧石器時代遺物１(C20-Ａ・C14N40-Ａ・C15-Ａ・C21-Ｂブロック)
図版42　草刈遺跡Ｇ区旧石器時代遺物２(C26-A1ブロック)
図版43　草刈遺跡Ｇ区旧石器時代遺物３(C26-A2・C26-A3ブロック)
図版44　草刈遺跡Ｇ区旧石器時代遺物４(C26-A3・C26-A4ブロック,ブロック外,C14-Ａ・C14-Ｃブロック)
図版45　草刈遺跡Ｇ区旧石器時代遺物５(C12-Ｂブロック)
図版46　草刈遺跡Ｇ区旧石器時代遺物６(接合資料)
図版47　草刈遺跡Ｐ区土層断面・旧石器時代遺物出土状況１
図版48　草刈遺跡Ｐ区旧石器時代遺物１(4A-Ｂ・4B-Ａ・4B-Ｂ・4B-Ｆブロック)
図版49　草刈遺跡Ｐ区旧石器時代遺物２(4B-Ｄ・4B-Ｇ・4B-Ｈ・5B-Ｃ・5C-Ａブロック)

図版50　草刈遺跡Ｐ区旧石器時代遺物３(5B-Ａ・5B-Ｂ・5C-Ｂブロック,4Bブロック群)
図版51　草刈遺跡Ｐ区旧石器時代遺物４(1B-Ａ・4A-Ａ・4B-Ｃ・6E-Ａブロック)
図版52　草刈遺跡Ｐ区旧石器時代遺物５(6E-Ａ・2B-Ａブロック)
図版53　草刈遺跡Ｐ区旧石器時代遺物６(ブロック外,上層遺構)
図版54　草刈遺跡Ｐ区旧石器時代遺物７(接合資料)

第1章　はじめに

第1節　調査の概要

1　発掘調査の経緯

市原市と千葉市にまたがる台地上に，住宅・都市整備公団（現都市基盤整備公団）による千原台地区土地区画整理事業が計画された。このため，千葉県教育委員会は，事業地内の埋蔵文化財の取扱いについて関係諸機関と協議した結果，可能な限り公園，緑地として現状保存に努める一方で，現状保存の困難な部分については，やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなり，記録保存については，財団法人千葉県文化財センターが委託を受けて発掘調査を実施することとなった。

今回報告する草刈遺跡東部地区は，約30haに及ぶ遺跡の東半部に相当し，調査は昭和53年度から平成8年度まで断続的に行った。このうちN区は，ちはら台公園として整備・保存されている。また，確認調査・A区・B区，及び東部地区縄文時代については，すでに報告書を刊行している。

本書は草刈遺跡東部地区から出土した旧石器時代（下層調査）を対象としたもので，発掘調査の実施内容・担当者は，次のとおりである。

昭和57年度

組　織　班長　三森俊彦

担当者　C区　田村　隆・柴田龍司・今泉　潔・金子　進

内　容　C区　下層調査対象面積　37,000㎡

昭和58年度

組　織　班長　三森俊彦

担当者　C区　田村　隆・榊原弘二　　D区　田村　隆・小高春雄

内　容　C区　下層調査対象面積　490㎡　　D区　下層調査対象面積　32,000㎡

昭和59年度

組　織　班長　古内　茂

担当者　D区　山口典子　　E区　小高春雄・渡辺修一

内　容　D区　下層調査対象面積　2,000㎡　　E区　下層調査対象面積　20,000㎡

昭和61年度

組　織　班長　阪田正一

担当者　G区　高田　博・白井久美子・川島利道・今泉　潔

P区（草刈古墳群）　雨宮龍太郎・西口　徹・福田　誠

内　容　G区　下層調査対象面積　18,000㎡

P区（草刈古墳群）　下層調査対象面積　15,500㎡

昭和62年度

組　織　班長　阪田正一

担当者　G区　西川博孝・加納　実

内　容　G区　下層調査対象面積　10,000㎡

2　調査の方法

発掘区の設定は，国家座標を基準として40m×40mの大グリッドを設け，この中を４m×４mの小グリッドに分割して行った。また，下層確認調査では，小グリッドをさらに４分割して２m×２mのグリッドを設定し，調査対象面積の４％を基本として武蔵野ローム層上面まで掘り下げた。

発掘調査は，確認調査，本調査ともに調査年度・工事区を基本単位として５つの調査区（草刈遺跡Ｃ～Ｅ・Ｇ・Ｐ区）に分けて実施した。出土遺物は，４m×４mの小グリッドごとに１点ずつ取り上げた。

3　整理の方針と報告の概要

草刈遺跡は，調査対象面積が約30haに及び，出土した旧石器時代遺物も15,000点と膨大なものであった。このため，報告書作成にあたっても，調査区を基本単位として作業を進めたが，隣接する調査区相互の同時代資料を併せて検討する必要が生じたことから，遺跡全体を東西の２地区にまとめて作成することとした。東部地区はＣ～Ｅ・Ｇ・Ｎ・Ｐ区，西部地区はＦ・Ｈ～Ｍ区が該当する。

整理作業を行っていくなかで，草刈遺跡全体のグリッドも整備し直して不備を補ったが，旧石器時代については，遺物とその出土位置との対応関係に齟齬が生じないようにするため，昭和53年度に設定した調査開始時のグリッドをそのまま使用した。

整理作業は昭和61年度から調査区ごとに水洗・注記作業を実施し，平成11年度以降は「東部地区旧石器時代」としての作業へ移行した。作業実施年度ならびに担当者は以下のとおりである。

平成11年度
　組　織　所長　石田廣美
　担当者　島立　桂
　内　容　記録整理から分類・選別の一部まで

平成12年度
　組　織　所長　三浦和信
　担当者　島立　桂
　内　容　分類・選別の一部から実測の一部まで

平成13年度
　組　織　所長　三浦和信
　担当者　島立　桂
　内　容　実測の一部

平成14年度
　組　織　所長　谷　旬
　担当者　島立　桂
　内　容　実測の一部から原稿執筆まで

平成15年度
　組　織　所長　谷　旬
　担当者　島立　桂
　内　容　編集・刊行

第２節　遺跡の位置と環境

１　遺跡の位置と地形

草刈遺跡は，ちはら台ニュータウン造成地域の西端，市原市ちはら台西３丁目３番（旧草刈字上切付1263-1）ほかに所在し，現在の京成電鉄ちはら台駅を中心とする台地上に位置する。千葉市街地からは東南へ10km，下総台地南部を西に向かって流れる村田川の河口からは５kmほど上流の右岸台地上である。

草刈遺跡の南側は村田川の侵食によって急崖となっているが，北側は緩やかに「茂呂谷津」に接しており，幅150m～400m，長さ1.5kmほどの東西に長い台地上に展開する。標高は27m～40mの下総台地上位面で，東から西に向かって緩やかに下っている。

２　草刈遺跡と周辺の遺跡

草刈遺跡からは，旧石器時代から中世にかけての各種遺構が約7,000基検出された。主な遺構としては，旧石器時代各時期の石器ブロック，縄文時代中期の貝塚と竪穴住居・小竪穴を中心とする環状集落，弥生時代中期・後期の環壕集落，古墳時代全般にわたる集落と古墳群，奈良・平安時代の集落と村落内寺院と考えられる掘立柱建物跡群などである。

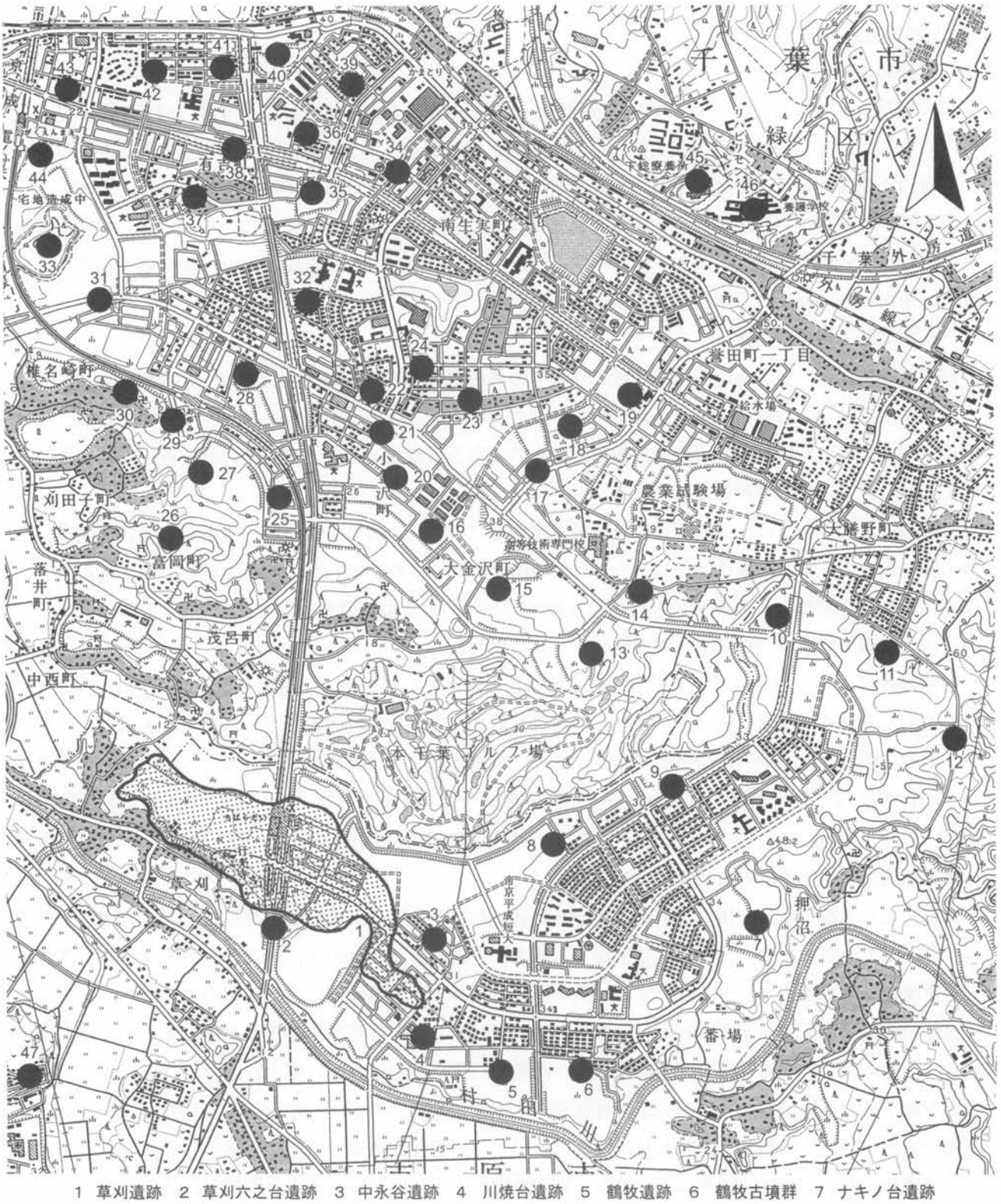
旧石器時代については，武蔵野ローム層最上部から立川ローム層の上面に至る各層から約15,000点の石器・礫が出土しており，東部地区については98か所のブロックを確認した。なお，単独で出土した石器のなかで縄文時代草創期に帰属すると判断した槍先形石器，有茎尖頭器については，『千原台ニュータウンⅧ　－市原市草刈遺跡（東部地区縄文時代）－』に掲載した。

草刈遺跡は，村田川に沿って分布する旧石器時代の遺跡としては最も下流に位置する（第１図１）。ちはら台ニュータウン事業地内において旧石器時代石器群が出土した遺跡として，草刈遺跡とは浅い谷を隔てた南側に隣接して草刈六之台遺跡（２）があり，東側には中永谷遺跡（３）がある。草刈遺跡東部地区から細い尾根づたいに東南方向へ向かうと川焼台遺跡（４）があり，さらに，村田川を遡ると鶴牧遺跡（５），鶴牧古墳群（６），ナキノ台遺跡（７），ばあ山遺跡（８），野馬堀遺跡（９）が並ぶ。ちはら台地区北東部端には押沼遺跡群（10～12）がある。

草刈六之台遺跡では，立川ローム層Ｘ層からⅢ層にかけて７枚の文化層が確認されたが，Ⅵ層以下の資料が充実している。とくにＸ層，Ⅸ層下部，Ⅸ層上部で確認した３枚の文化層からは，それぞれ刃部磨製石斧を含む石器群が出土している。さらにⅨ層下部では神津島産黒曜石による大型の台形石器，Ⅸ層上部では信州産黒曜石を主体とする石刃石器群に刃部磨製石斧とともに石斧用の砥石が伴っている。草刈遺跡でも，それぞれ対応する時期の石器群があり，両者の関連が想定される。中永谷遺跡では立川ローム層Ⅶ層とⅣ層下部の資料が中心である。野馬堀遺跡ではＸ層，Ⅳ層，Ⅲ層から剥片類が，ばあ山遺跡では石刃，槍先形石器が出土している。それ以外の遺跡については，整理作業未了のため詳細不明である。

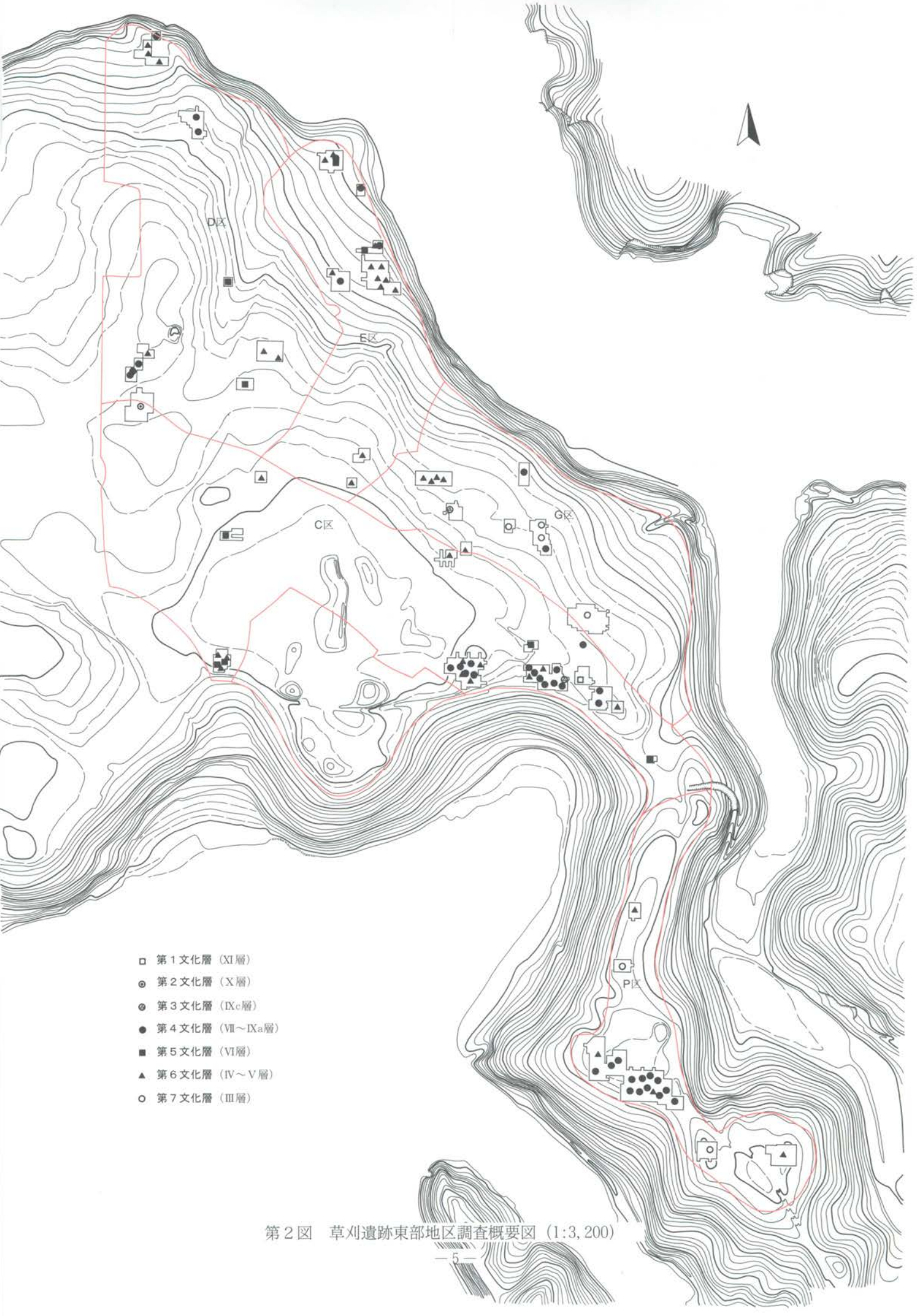
草刈遺跡の北側では，東南部ニュータウン事業地内を中心に旧石器時代の石器群が確認されている。大規模な遺跡は少ないが，一地域全体の様子を窺うことのできる貴重な資料である。以下，出土層位ごとに概観する。

Ｘ層の資料ははっきりしないが，高沢遺跡（43）ではⅨ層下部～Ｘ層上部で楔形石器，刃部磨製石斧の再生剥片を利用した加工痕ある剥片，小型の剥片類による小規模なブロックが検出されている。石材は半数が良質の黒曜石（信州産か）で，このほか玉髄，凝灰岩，頁岩がある。



1 草刈遺跡 2 草刈六之台遺跡 3 中永谷遺跡 4 川焼台遺跡 5 鶴牧遺跡 6 鶴牧古墳群 7 ナキノ台遺跡 8 ばあ山遺跡 9 野馬堀遺跡 10 押沼大六天遺跡 11 押沼第１遺跡 12 押沼第２遺跡 13 バクチ穴遺跡 14 大膳野南貝塚 15 太田法師遺跡 16 ムコアラク遺跡 17 六通金山遺跡 18 六通神社南遺跡 19 白鳥台遺跡 20 御塚台遺跡 21 小金沢古墳群 22 小金沢貝塚 23 六通貝塚 24 六通遺跡 25 神明社裏遺跡 26 春日作遺跡 27 椎名崎古墳群C支群 28 椎名崎古墳群B支群 29 今台遺跡 30 椎名神社遺跡 31 椎名崎遺跡 32 木戸作遺跡 33 城ノ台遺跡 34 馬ノ口遺跡 35 有吉南貝塚 36 有吉北貝塚 37 有吉城跡 38 有吉南遺跡 39 鎌取遺跡 40 鎌取場台遺跡 41 南二重堀遺跡 42 高沢遺跡 43 有吉遺跡 44 上赤塚遺跡 45 辺田山谷遺跡 46 コロニー内遺跡 47 大厩遺跡

第１図　草刈遺跡周辺の旧石器時代遺跡（1:25,000）



第２図　草刈遺跡東部地区調査概要図（1:3, 200）

IX層の資料は多くの遺跡で出土している。白鳥台遺跡（19）では安山岩製の楔形石器，剥片類に軟質砂岩による石斧用の砥石が伴っている。城ノ台遺跡（33）でも安山岩製の楔形石器を中心とする石器群が出土している。環状ブロック群の一部かも知れない。鎌取遺跡（39）では安山岩による台形石器を主体とする石器群と頁岩製の石刃石器群がブロックを違えて出土している。小金沢貝塚（22），馬ノ口遺跡（34）でも台形石器を含む石器群がある。有吉城跡（37）では石斧が数点出土しているが，頻繁な刃部再生の後，楔形石器や石核に転用されている。六通金山遺跡（17）でも刃部磨製石斧が出土している。

VII～VI層では，太田法師遺跡（15）で信州産黒曜石による石刃石器群がまとまっており，良好な接合資料も得られている。また，馬ノ口遺跡では高原山産黒曜石や東北産頁岩による２側縁調整のナイフ形石器を含む石刃石器群がある。

IV層では，バクチ穴遺跡（13）で高原山産と考えられる黒曜石やメノウを中心とする切出形ナイフ形石器，角錐状石器，掻器の一群があり，類例は鎌取遺跡，小金沢古墳群（21），有吉遺跡（43）などでも出土している。小金沢古墳群，鎌取場台遺跡（40）では礫群も見られる。

III層には複数時期の石器群があるが，有吉遺跡（第４次調査）からは，ナイフ形石器終末期に帰属する細身の木葉形による槍先形石器のブロックがある。同時期の資料は小金沢古墳群にもあり，槍先形石器を製作したブロックとして注目される。ムコアラク遺跡（16）では樋状剥離をもつ槍先形石器がある。

細石刃石器群の出土は乏しいが，春日作遺跡（26）からは県南嶺岡産の珪質頁岩と信州産黒曜石による細石刃石器群がある。細石刃核は得られていない。また，椎名崎古墳群Ｂ支群（28）でも古墳の墳丘下から黒曜石による野岳・休場型細石刃核を指標とする細石刃石器群が出土している。

六通神社南遺跡（18）では土器出現期に帰属する大型の槍先形石器がまとまっており，石器石材の原産地推定分析によると奈良県二上山のサヌカイトや岐阜県の下呂石が含まれている。また，東南部ニュータウン北東に隣接する辺田山谷遺跡（45）では，富里市南大溜袋遺跡に代表される狭長な槍先形石器が散見される。

東南部ニュータウンでは，このほかにも，神明社裏遺跡（25）などで多数の旧石器時代資料が出土しているが，整理作業未了のため詳細不明である。

ちはら台ニュータウン関連文献
（財）千葉県文化財センター　1980年『千原台ニュータウンⅠ（野馬堀遺跡・ばあ山遺跡・他）』
（財）千葉県文化財センター　1983年『千原台ニュータウンⅡ　草刈遺跡Ａ区（第１次調査）　鶴牧古墳群・人形塚』
（財）千葉県文化財センター　1986年『千原台ニュータウンIII　草刈遺跡（Ｂ区）』
（財）千葉県文化財センター　1991年『千原台ニュータウンIV　中永谷遺跡』
（財）千葉県文化財センター　1994年『千原台ニュータウンVI　－草刈六之台遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　2003年『千原台ニュータウンVIII　－市原市草刈遺跡（東部地区縄文時代）－』
（財）千葉県文化財センター　2003年『千原台ニュータウンIX　－市原市押沼第１・第２遺跡（上層）－』
東南部ニュータウン関連文献
（財）千葉県文化財センター　1979年『千葉東南部ニュータウン６　－椎名崎遺跡』
（財）千葉県文化財センター　1979年『千葉東南部ニュータウン７　－木戸作遺跡（第２次）－』
（財）千葉県文化財センター　1979年『千葉東南部ニュータウン８　－ムコアラク遺跡・小金沢古墳群－』
（財）千葉県文化財センター　1980年『千葉東南部ニュータウン９　－六通遺跡・御塚台遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　1982年『千葉東南部ニュータウン10　－小金沢貝塚－』

（財）千葉県文化財センター　1981年『千葉東南部ニュータウン11　－六通金山遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　1983年『千葉東南部ニュータウン12　－南二重堀遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　1983年『千葉東南部ニュータウン14　－バクチ穴遺跡・有吉遺跡（第３次）・有吉南遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　1984年『千葉東南部ニュータウン15　－馬ノ口遺跡・有吉城跡・白鳥台遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　1990年『千葉東南部ニュータウン17　－高沢遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　1993年『千葉東南部ニュータウン18　－鎌取遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　1998年『千葉東南部ニュータウン19　－千葉市有吉北貝塚１－』
（財）千葉県文化財センター　1999年『千葉東南部ニュータウン21　－有吉遺跡（第４次）・高沢古墳群－』
（財）千葉県文化財センター　1999年『千葉東南部ニュータウン22　－鎌取場台遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　2003年『千葉東南部ニュータウン26　－千葉市椎名神社遺跡・古城小弓遺跡・六通神社南遺跡・御塚台遺跡－』
（財）千葉県文化財センター　2003年『千葉東南部ニュータウン27　－千葉市春日作遺跡－』

第３節　基本土層

本遺跡における立川ローム層の堆積状況は，下総台地で広く観察される基本層序と共通する。千葉市から市原市にかけての東京湾岸地域では不明瞭なことが多い第２黒色帯下部中の間層（Ⅸｂ層）が北側緩斜面のＥ区を中心に確認されており，当地域の中では比較的良好な堆積状況といえる。立川ローム層の厚さは，台地平坦部の薄いところで1.5m，北側斜面部の厚いところで2.4mあり，概ね1.8m前後である。

Ⅲ層：黄褐色の軟質ローム層で，厚さは30cm～40cmである。

Ⅳ層：赤みを帯びた黄褐色の硬質ローム層である。武蔵野台地のⅣ層上部に相当する層は軟質化してⅢ層に取り込まれており，本層は武蔵野台地Ⅳ層下部に対応すると考えられる。赤色スコリアを含み，厚さは10cm～30cmである。

なお，Ｅ区の北側テラス部ではⅣ層が60cm～70cmも堆積しており，その中ほどに黒色帯が観察された。したがって，上部（Ⅳａ層）はスコリア粒をほとんど含まない明色のローム層，中部（Ⅳｂ層）は褐色を帯びるローム層（黒色帯），下部（Ⅳｃ層）は赤色スコリア粒を多く含むほか，明るいロームブロックが斑点状に混入するローム層の３層に細分した。おそらく，他の地点のⅣ層はＥ区のⅣｃ層に対応する。

Ⅴ層：にぶい黄褐色の硬質ローム層で，下総台地における立川ローム層第１黒色帯に相当する。厚さは20cmほどである。

Ⅵ層：明黄褐色の硬質ローム層で，黒色粒と火山ガラスによって構成されるＡＴ（姶良丹沢火山灰層）のブロックがまとまっている。厚さは15cm～30cmである。

Ⅶ層：黄褐色の硬質ローム層で，第２黒色帯上半部に相当する。ＡＴが細かく拡散しており，あまり暗い色調ではない。厚さは15cm～30cmである。

Ⅸ層：褐色～暗褐色の硬質ローム層で，第２黒色帯下半部である。調査当時は単一の土層として認識されたり，Ⅶａ層（現在のⅦ層下部とⅨａ層），Ⅶｂ層（現在のⅨｂ層），Ⅶｃ層（現在のⅨｃ層）に区分されたりしている。整理作業の中で細分可能な場合は，以下のとおりとした。

Ⅸａ層：赤みを帯びた褐色硬質ローム層で，第２黒色帯下半部の上層である。赤色，黒色，暗緑色のスコリアを含む。厚さは20cmほどである。

Ⅸｂ層：赤みがかった黄褐色の硬質ローム層で，第２黒色帯下半部中の間層である。安定した土層ではな

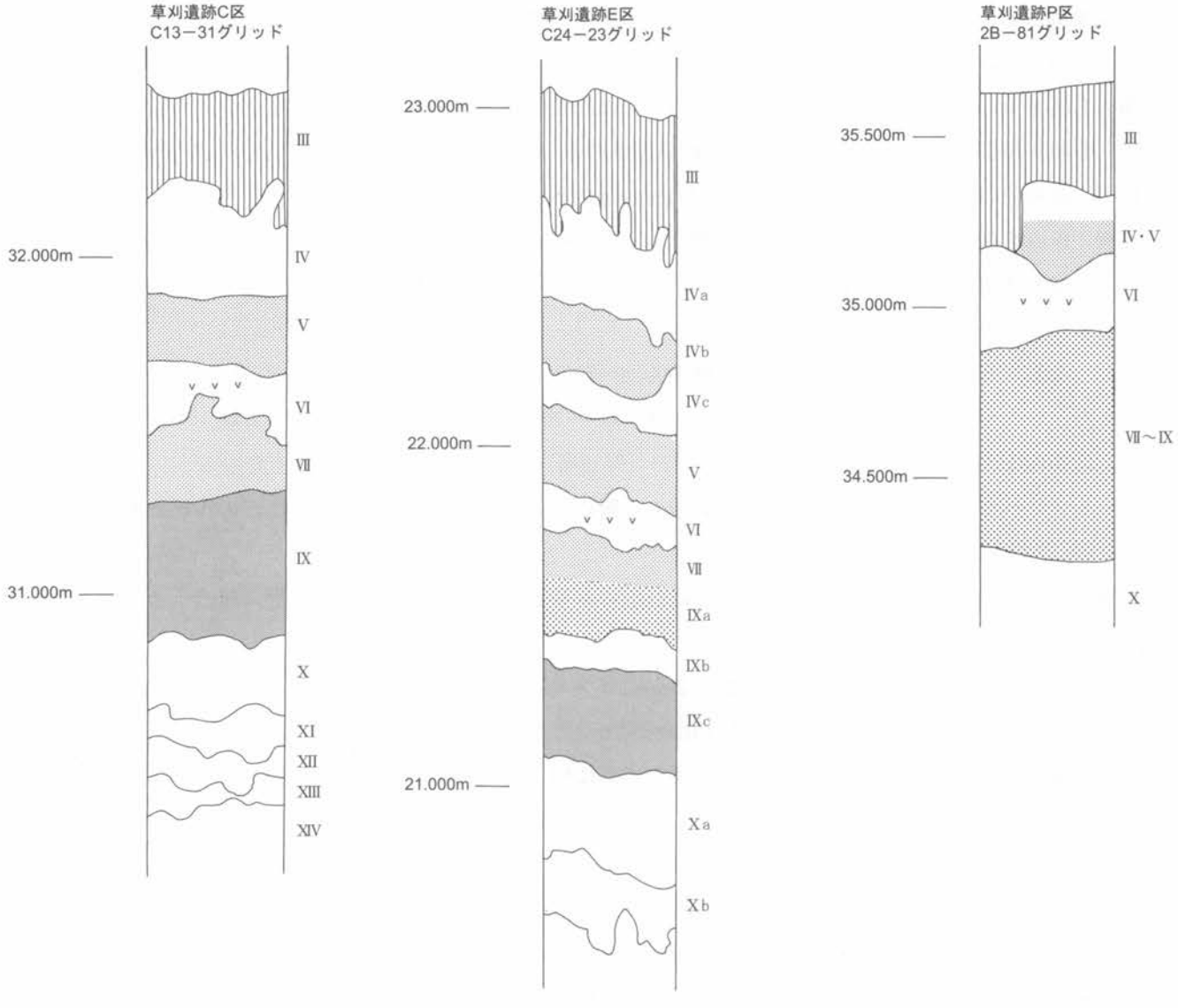
いが，一部の調査区で確認できた。

Ⅸｃ層：暗褐色の硬質ローム層で，第２黒色帯下半部の下層にあたる。立川ローム層の中では最も暗く，薄墨を流したようにみえる。赤色・暗緑色のスコリアがⅨａ層よりも多く，また大型のものが顕著である。厚さは30㎝～40㎝である。

Ｘ層：黄褐色の硬質ローム層であるが，Ⅸ層に比べて軟質になる。スコリアは激減するが，部分的に赤橙色で小型のスコリアを含む。厚さは20㎝～30㎝である。

Ⅺ層：にぶい褐色～灰色の軟質ローム層で，Ｘ層との境界は波状をなし，不整合になっている。スコリアは見られない。武蔵野ローム層最上部と考えられる。

草刈遺跡東部地区では，第Ⅰ文化層（Ⅺ層），第２文化層（Ｘ層），第３文化層（Ⅸｃ層），第４文化層（Ⅸａ層～Ⅶ層），第５文化層（Ⅵ層），第６文化層（Ⅳ層），第７文化層（Ⅲ層）を設定した。



第３図　草刈遺跡東部地区基本土層図

第２章　草刈遺跡Ｃ区（219-010）

第１節　調査の概要

草刈遺跡Ｃ区（草刈遺跡道路部分）では，旧石器時代（下層）の調査を昭和57・58年度に実施した。調査区の位置は，草刈遺跡の東南部で，村田川に面した台地の南側である。

昭和57年度は37,000㎡を調査対象として確認調査を行い，引き続き本調査を行った。また，昭和58年度は490㎡を調査対象として確認調査を行い，調査を終了した。調査の結果，34か所のブロックと20か所の単独出土地点を検出した。ブロックの大半は，台地の縁辺部に集中する（第４図）。

34か所のブロックは，以下のとおり５枚の文化層に区分できる。

第１文化層は，立川ローム層最下部（Ｘ層）から武蔵野ローム層最上部（XI層）にかけて包含される石器群で，28点の石器が１か所のブロック（C13-Ｂブロック）から出土した。草刈遺跡のみならず，房総半島全域でも最も古い時期の石器群のひとつである。

第２文化層は，草刈遺跡Ｄ区で確認した立川ローム層最下層（Ｘ層）を中心とする石器群である。Ｃ区では，単独出土資料の中に当該期に帰属する資料が散見されるが，ブロックとしてのまとまりは見られなかったことから，文化層を設定しなかった。定型的なナイフ形石器出現以前の石器群で，既報告では，隣接する草刈六之台遺跡に良好な資料がある（草刈六之台遺跡第１文化層）。

第３文化層は，立川ローム層第２黒色帯下半部（IX層下部）を中心に包含される石器群で，44点の石器が１か所のブロック（C13-Ｄブロック）から出土した。台形石器を指標とする石器群である。

第４文化層は，立川ローム層第２黒色帯上半部（VII～IX層上部）に包含され，Ｃ区で最も出土量の多い石器群である。1,209点の石器・礫が15か所のブロック（C12-Ａ，C13-Ａ・Ｃ・Ｅ・Ｈ，C17-Ａ・Ｂ・Ｅ～Ｇ，C23-Ａ～Ｄ・Ｆブロック）から出土した。石器1,163点に対して礫46点で，石器が圧倒的に多い。

第５文化層は，立川ローム層のVI層を中心に包含される石器群で，278点の石器群が５か所のブロック（C9-Ａ，C16-Ａ，C58B-Ａ，C61-Ｄ・Ｅブロック）から出土した。遠隔地石材による石刃石器群である。

第６文化層は，立川ローム層のソフトローム層下部（III層）からハードローム層最上部（IV層）にかけて包含される石器群で，920点の石器・礫が12か所のブロック（C8-Ａ，C17-Ｃ・Ｄ，C21-Ａ，C23-Ｅ・Ｇ・Ｈ・Ｉ，C58A-Ａ，C61-Ａ～Ｃブロック）から出土した。武蔵野台地IV層下部の石器群に概ね相当する。なお，C21-Ａブロックと草刈遺跡Ｇ区C26-Ａブロックとは接合資料がある。

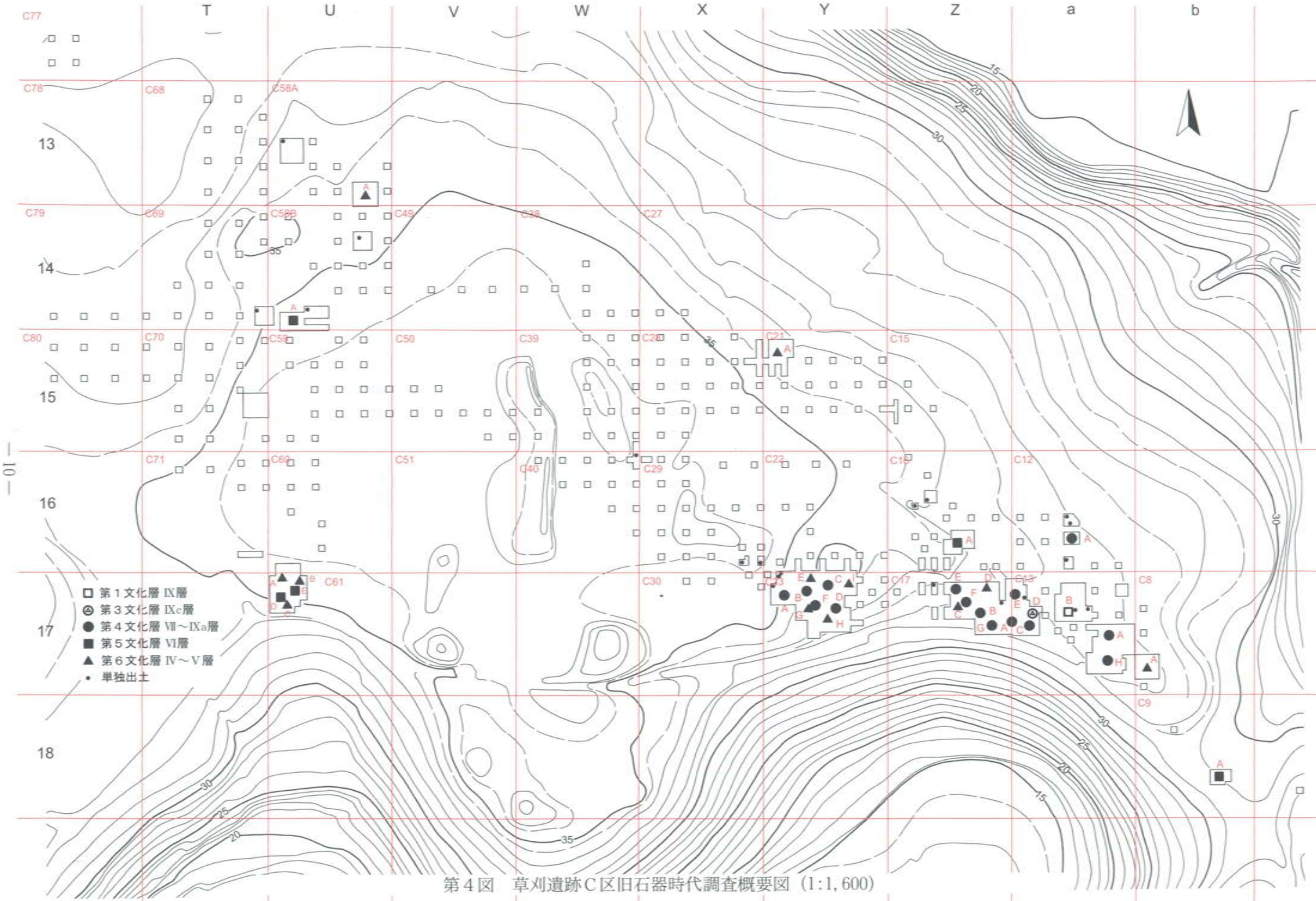
第２節　第１文化層

第１文化層は，立川ローム層最下部（Ｘ層）から武蔵野ローム層最上部（XI層）にかけて包含されており，草刈遺跡において最も古い石器群である。C13-Ｂブロック１か所が該当する。

１　C13-Ｂブロック（第５～８図，第１・２表）

１）ブロックの概要

C13-Ｂブロックは，調査区東部のC13-34グリッドに位置する。ブロックの立地は，南西に向かって開く

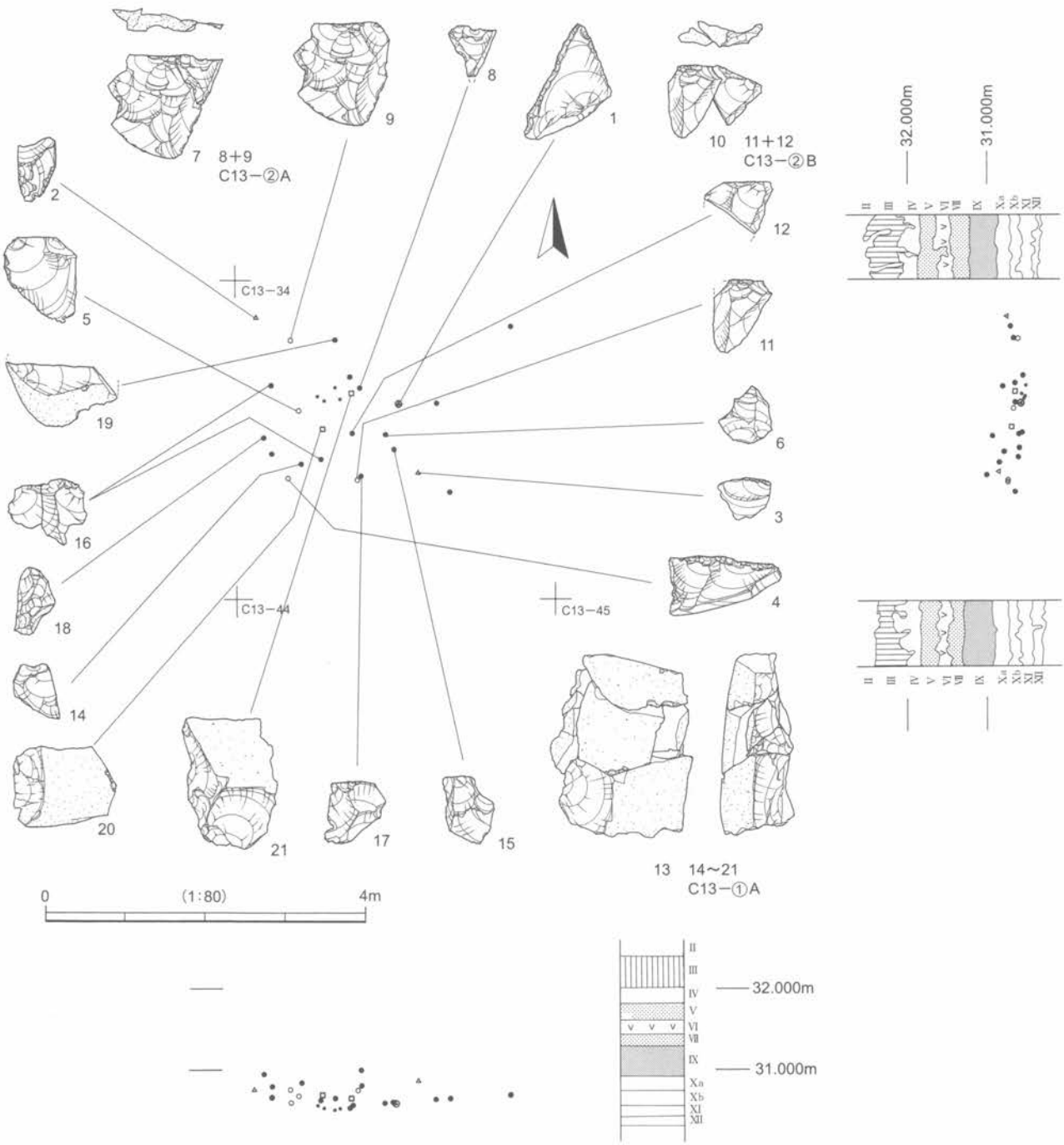


第４図　草刈遺跡Ｃ区旧石器時代調査概要図（1:1,600）

谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点までの距離は12mほどである。

ブロックの規模と形状は，直径３mの範囲に28点の石器が分布する。出土層位はIX層下部からXI層にかけてで，各石器は40cmほどの高低差をもって，北東に向かって緩やかに下って包含されている（第５・６図）。

調査時点での各層ごとの出土石器数は，IX層１点，X層上部（Xa）７点，X層下部（Xb）８点，XI層12点である（ただし，地層の名称は変更した）。また，垂直分布のグラフ（第504図）を見ると，X層下部とXI層の境界付近に石器が集中しており，その若干下位に生活面があったと考えられる。



第５図　C13－Bブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－

ブロックは，尖頭器１点，台形石器２点，使用痕ある剥片４点，剥片15点（14個体），砕片４点，石核２点（１個体）の合計28点（26個体）で構成される。石材は，珪質頁岩18点，チャート10点である。石核１点は被熱により変色しており，隣接地に火処のあったことが想定される。

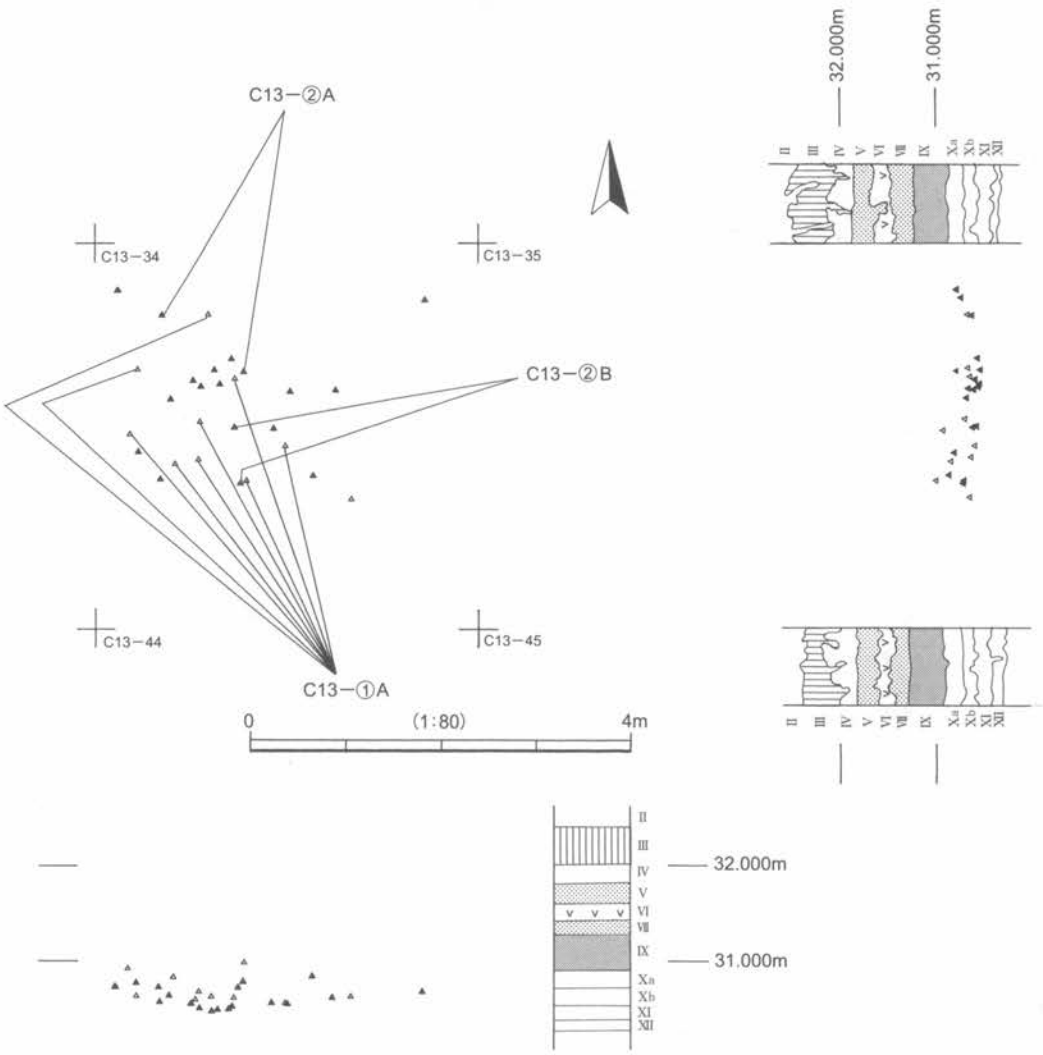
２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは３母岩を識別した。内訳は，珪質頁岩２母岩（C13-②・③），チャート１母岩（C13-①）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は89%（25/28点）である。

・C13-①：自然面，内部ともに暗紫色で節理面は褐色のチャートである。原石は，拳の半分程度の大きさの円礫と考えられるが，これを粗く分割して石核の素材にしている。本ブロックには分割片１個体が持ち込まれ，剥片生産が行われたと考えられる。

石器群の内訳は，剥片８点（７個体），石核２点（１個体）の合計10点（８個体；54.1ｇ）で，このうち剥片７点（５個体）と石核２点（１個体）が接合する（合計53.6ｇ）。

・C13-②：自然面は明橙褐色，内部は灰緑色の地に白色の斑が混じる嶺岡産珪質頁岩である。珪化度が高く光沢に富んでおり，チャートに近い岩相である。同一母岩の資料は14点で，剥片に小型品を含むこと，接合資料が二組あることから，ブロック内で剥片生産を行ったと考えられる。ただし，



第６図　C13－Ｂブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－

自然面を広く残す大型の剥片や石核（残核）が見られないことから，母岩消費の半ばに限定された資料であろう。部分的に残る自然面のようすから，原石は角礫ないしは亜角礫と想定される。

石器群の内訳は，尖頭器１点，台形石器１点，使用痕ある剥片４点，剥片６点，砕片２点の合計14点（21.6ｇ）である。接合資料は，使用痕ある剥片１点と剥片１点が表裏で接合したものが二組ある（接合資料Ａ；7.4ｇ，接合資料Ｂ；3.0ｇ）。

・C13-③：黄灰色の地に灰色の斑が入る珪質頁岩である。砕片１点の単独資料（0.2ｇ）である。

なお，母岩分類できなかった資料に，珪質頁岩の台形石器１点，剥片１点，砕片１点がある（合計1.8ｇ）。中には，C13-②母岩に近い資料も見られるが，小型品で確証がないため同一母岩とはしなかった。

３）出土遺物（第７図）

１～６は，県南嶺岡産と考えられる珪質頁岩を用いた石器である。１は，横長剥片を素材とする尖頭器である。裏面の左側縁全体と右側縁の先端部に細かな調整加工を行い，鋭利な先端部を作り出している。素材の打面は広く残されており，底辺が斜めになる三角形の石器に仕上げられている。調整加工はすべて表面から裏面に向けてなされているが，ナイフ形石器通有のブランティング加工に類似しており，急角度の安定した剥離痕が連続する。先端部周辺はわずかに磨耗しており，裏面右側縁の一部には刃こぼれが見られる。先端の一部が欠損する。２は，小型の横長剥片を素材とし，素材の打面をそのまま残して末端部に微細な調整加工を施した台形石器である。調整加工は，裏面から表面に向けて行われている。３も小型の横長剥片を素材とする台形石器で，打面とこれに対向する裏面の末端に微細な調整加工が見られる。４は，横長剥片を利用した使用痕ある剥片である。左右の縁辺に小規模な刃こぼれがある。なお，表面の打面直下には細かな剥離面が連続するが，一般的にこのような横長剥片に細かな頭部調整は行われないことから，台形石器を製作するための調整加工と見るべきかも知れない。５は，不定型の剥片を利用した使用痕ある剥片である。左側縁の鋭利な縁辺に刃こぼれがある。表裏ともに打瘤が平坦で均質であることから，両極打撃による剥片の可能性がある。６は小型不定型な剥片である。表面には上下両方向からの剥離面が見られる。

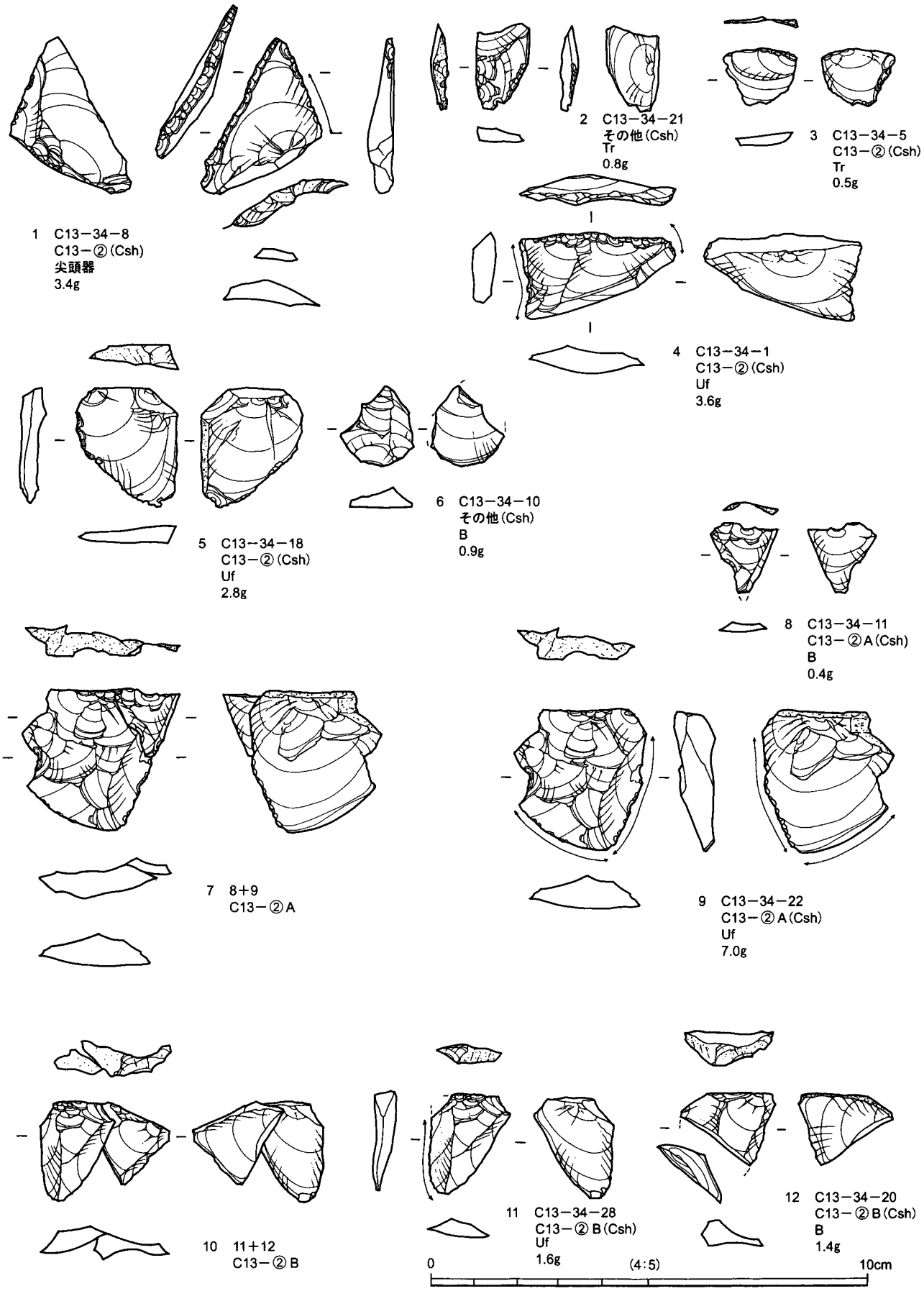
４）接合資料とその関連資料（第７・８図）

・C13-①（第８図13～21）　暗紫色のチャートで，剥片８点（７個体）と石核２点（１個体）の合計10点（８個体）で構成される。

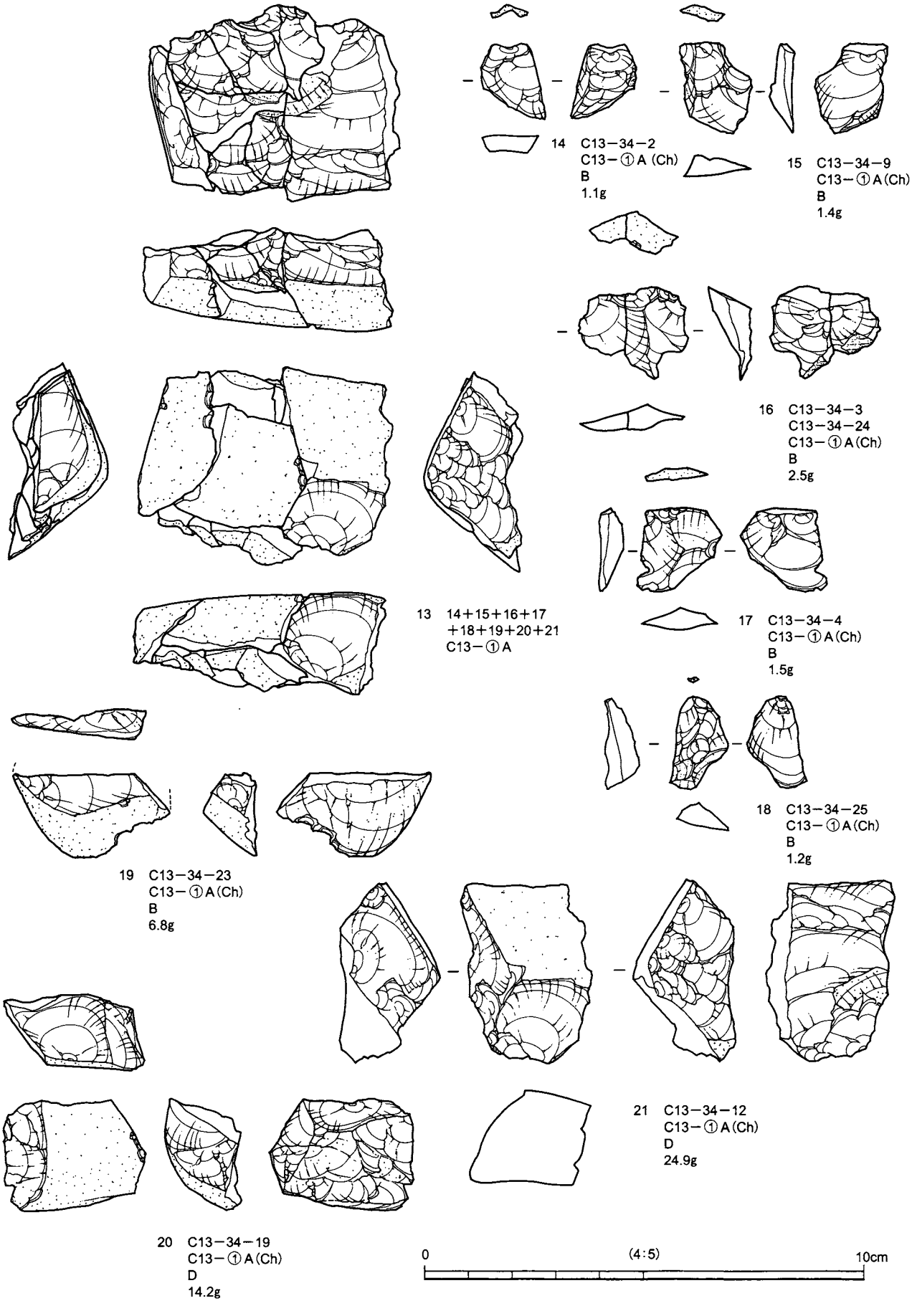
13は，剥片７点（６個体；14～19）と石核２点（１個体；20・21）の接合資料である。本接合資料から見た剥片剥離作業は，拳の半分程度の大きさの円礫を分割し，その分割片のひとつから小型不定型の剥片を生産するものである。打面から背面にかけては自然面，作業面は礫の分割面（主要剥離面）を用い，打点は石核の周囲を移動している。

具体的な剥離手順は，①：分割礫を用意し（持ち込み），石核素材とする。②：19（石核の一部）が節理面に沿って割れる。③：分割面を作業面として剥片生産を開始する。はじめに実測図13の最上段の面で，上位から14→15→16の順で小型不定型の剥片を連続して剥離する。④：石核が二つに割れる（20・21）。⑤：20の石核を用い，実測図20の上面を作業面として，18→17の順に小型不定型の剥片を剥離する。その後，剥片若干を剥離して，石核20の作業を終了する。21については，実測図21の表面下半の剥離，次いで右側面の剥離を行い，作業を終了している。なお，21は被熱により灰褐色に変色している。

・C13-②（第７図１・３・５・７～12）　自然面は明橙褐色，内部は灰緑色の嶺岡産珪質頁岩で，尖頭器



第7図　C13－Bブロック出土遺物実測図（1）



第８図　C13－Ｂブロック出土遺物実測図（２）

第１表　C13-Ｂブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C13-①(Ch)																			8(7)		2(1)	10(8)		10(8)
C13-②(Csh)		1		1							4								6	2		14		14
C13-③(Csh)																				1		1		1
その他(Csh)		1																	1	1		3		3
合　計		2		1							4								15(14)	4	2(1)	28(26)		28(26)

第２表　C13-Ｂブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
珪質頁岩(Csh)		2		1							4								7	4		18		18
チャート(Ch)																			8(7)		2(1)	10(8)		10(8)
合　計		2		1							4								15(14)	4	2(1)	28(26)		28(26)

１点，台形石器１点，使用痕ある剥片４点，剥片６点，砕片２点の合計14点で構成される。

７は，使用痕ある剥片１点（９）と剥片１点（８）の接合資料である。８→９の順に同一の打面（自然面）から剥離されている。８・９の表面は，主要剥離面と同一方向のネガティブな剥離面が大半であるが，９の下端左側にはポジティブな剥離面の可能性が高い平坦面があり，剥片素材の石核の主要剥離面かも知れない。

10も使用痕ある剥片１点（11）と剥片１点（12）の接合資料である。11→12の順に剥離されている。８・９と同様，表面は同一方向の剥離面に覆われている。

第３節　第３文化層

第３文化層は，立川ローム層第２黒色帯下部のIX層下部を中心に包含される石器群で，C13-Ｄブロック１か所が該当する。

１　C13-Ｄブロック（第９～14図，第３・４表）

１）ブロックの概要

C13-Ｄブロックは，調査区東部のC13-31グリッドに位置する。ブロックの立地は，南西に向かって開く谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点までの距離は10mほどである。

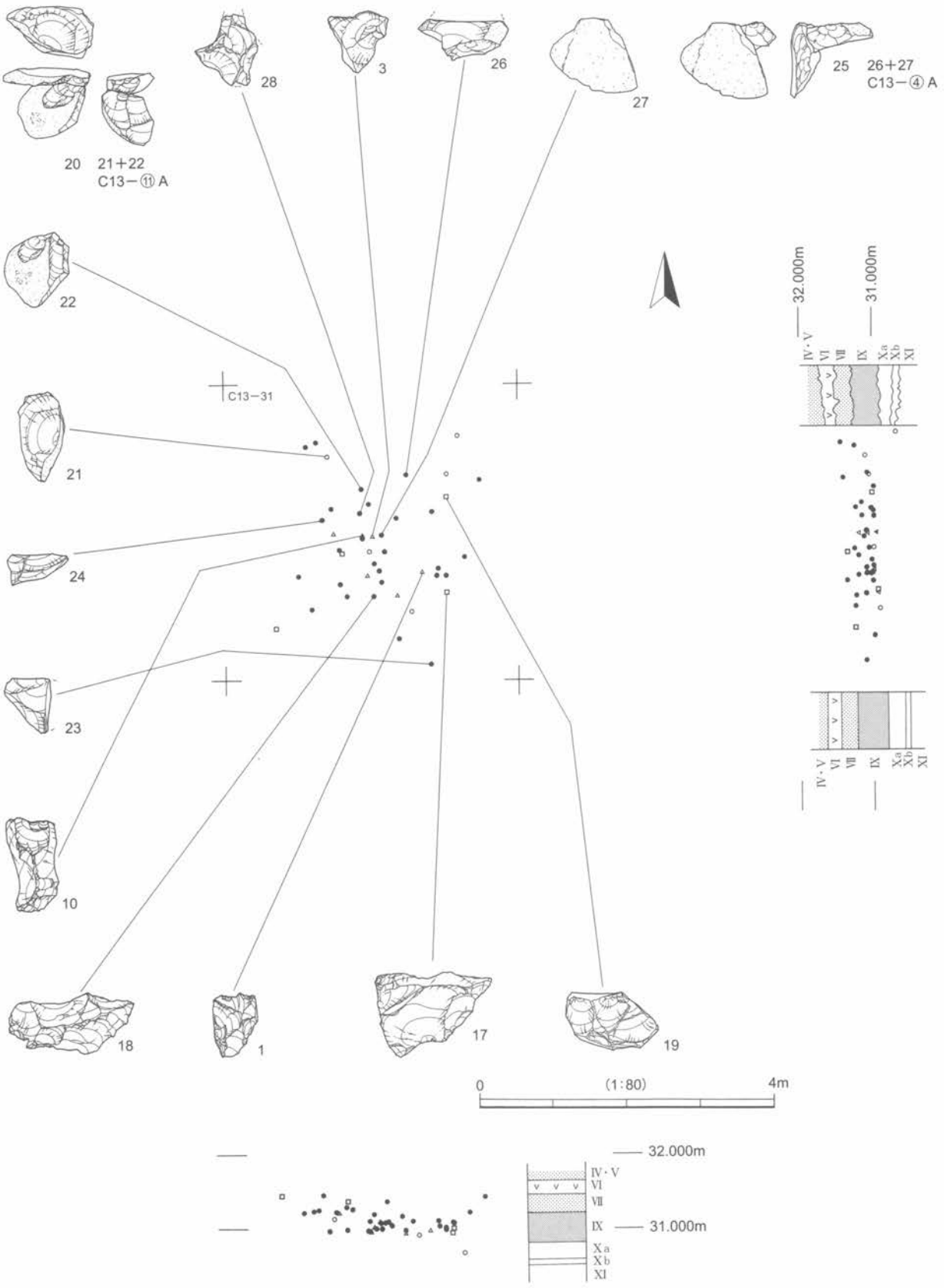
ブロックの規模と形状は，直径3.5mほどの範囲に44点の石器が分布する。出土層位はIX層下部を中心としており，各石器は40cmほどの高低差をもって，ほぼ水平に包含されている（第９～11図）。

なお，珪質頁岩の加工痕ある剥片１点（第12図９；C13-㉛母岩）は，ほかの石器に比べて出土層位が深いこと（X層下部とXI層の境界付近），第１文化層C13-Ｂブロックの C13-②母岩に似た石材であることから，第１文化層に帰属する可能性もある。

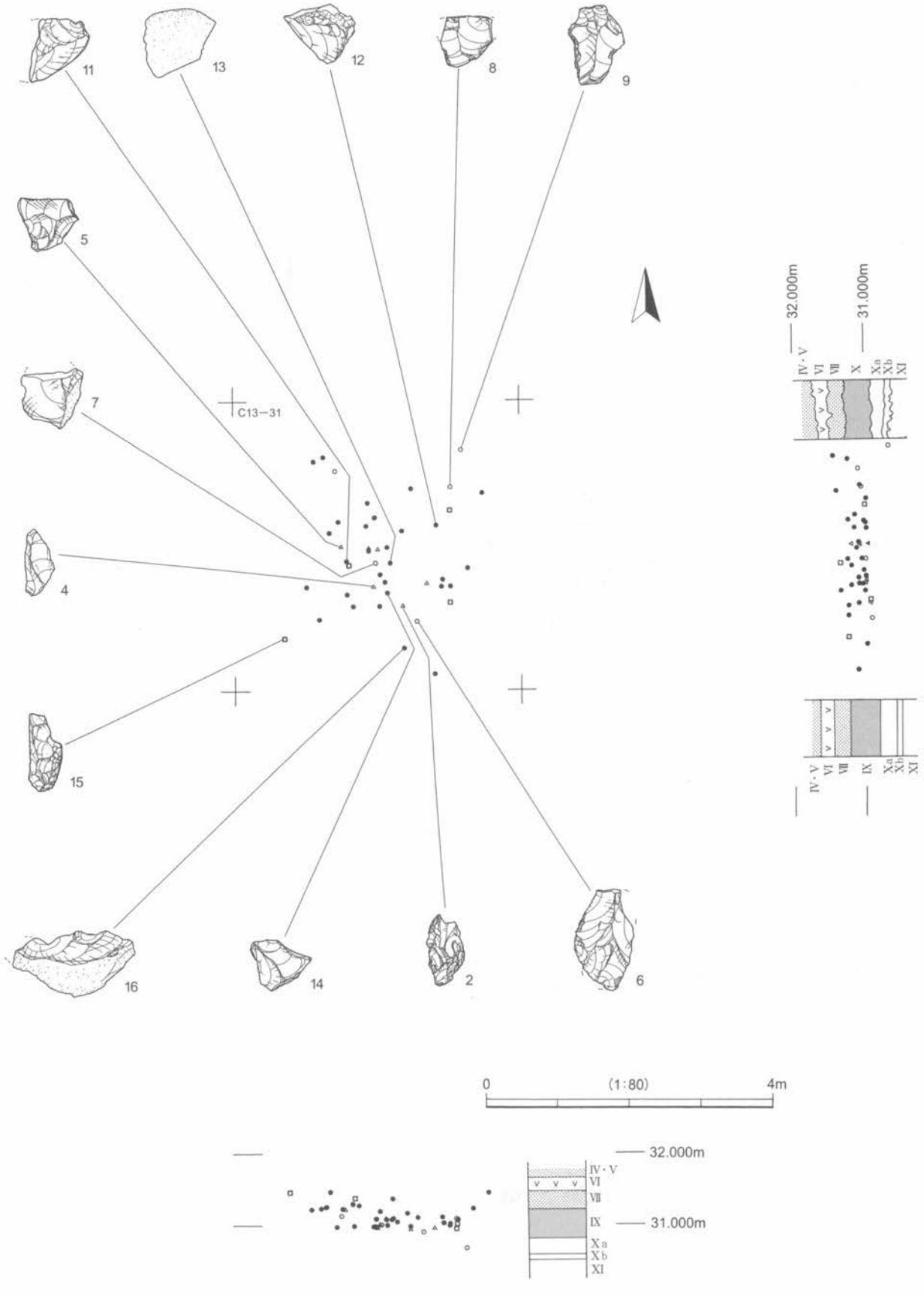
ブロックは，台形石器５点，削器１点，加工痕ある剥片３点，使用痕ある剥片１点，石刃１点，剥片29点，石核４点の合計44点で構成される。石材は，黒曜石１点，安山岩７点，安山岩（トロトロ石）１点，頁岩１点，珪質頁岩22点，チャート２点，ホルンフェルス８点，メノウ２点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは14母岩を識別した。内訳は，黒曜石１母岩（C13-㉜）頁岩１母岩（C13-⑩），珪質頁岩８母岩（C13-④～⑨・㉛・㉞），チャート１母岩（C13-㉖），ホルンフェルス２母岩（C13-⑪・㉝），メノウ１母岩（C13-⑫）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は61％（27/44点）である。



第９図　C13－Ｄブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図（１）－



第10図　C13－Dブロック出土遺物分布図（2）　－石器別分布図（2）－

・C13-④：自然面は褐色，内部は暗灰緑色の地に青みがかった黒色の縞が多方向に入る珪質頁岩である。剥片３点(合計23.9ｇ）で構成され，このうち２点（合計19.2ｇ）が接合する。

・C13-⑤：自然面と節理面は橙褐色，内部は灰白色の珪質頁岩（または珪化した流紋岩）である。剥片素材の石核１点（22.1ｇ）の単独資料である。

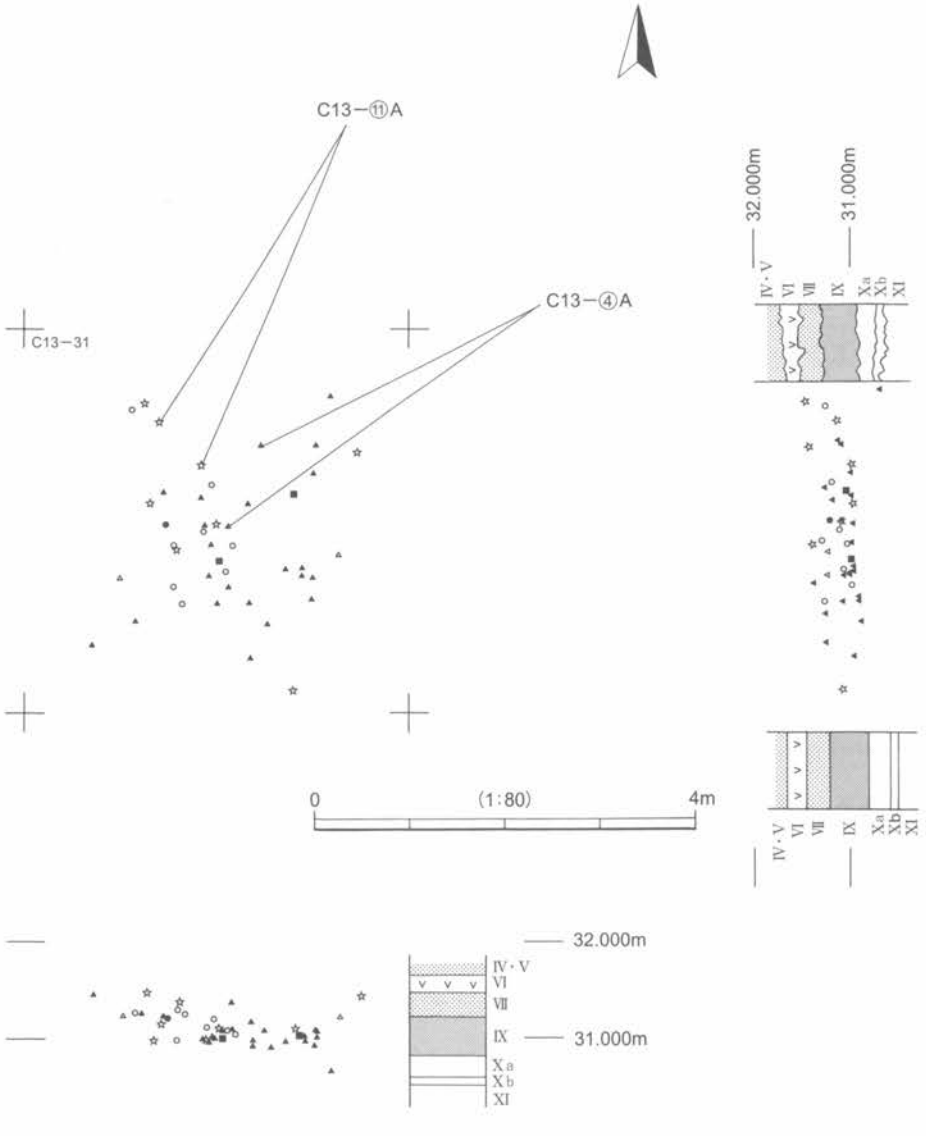
・C13-⑥：灰色の地に赤褐色の部分が混じる珪質頁岩である。台形石器１点（3.4ｇ)の単独資料である。

・C13-⑦：暗紫色の珪質頁岩である。剥片１点（10.1ｇ）の単独資料である。

・C13-⑧：自然面は赤褐色，内部は紫がかった灰色の珪質頁岩である。白色及び灰白色の斑が入る。石核１点（14.4ｇ）の単独資料である。

・C13-⑨：灰緑色で均質緻密な珪質頁岩である。石刃１点（6.3ｇ）の単独資料である。

・C13-⑩：黄褐色で一部黒灰色の頁岩である。被熱によって部分的に変色した可能性もある。削器１点（10.2ｇ）の単独資料である。



第11図　C13－Ｄブロック出土遺物分布図（３）　－石材別分布図－

・C13-⑪：黒灰色のホルンフェルスである。台形石器１点，加工痕ある剥片１点，剥片３点の合計５点（28.3ｇ）で構成され，このうち加工痕ある剥片１点と剥片１点が接合する（合計20.1ｇ）。母岩消費半ばの工程の資料であろう。

・C13-⑫：自然面と自然面に近い部分は赤褐色，内部は黄白色のメノウである。ただし，赤褐色の部分は被熱による変色の可能性が高い。剥片１点（7.1ｇ）の単独資料である。

・C13-㉖：青灰色のチャートである。小型の剥片２点（合計1.2ｇ）で構成される。

・C13-㉛：自然面及びその周辺は黄褐色，内部は青灰色で，きめ細かく硬質な嶺岡産珪質頁岩である。加工痕ある剥片１点と使用痕ある剥片１点（合計8.4ｇ）で構成される。

・C13-㉜：青みがかった黒色不透明の黒曜石で，白色の夾雑物を含む。神津島産であろうか。台形石器１点（3.6ｇ）の単独資料である。

・C13-㉝：淡黒灰色のホルンフェルスである。石核１点（14.5ｇ）の単独資料である。

・C13-㉞：内外ともに黄褐色の珪質頁岩である。石器群の内訳は，台形石器１点，加工痕ある剥片１点，剥片３点，石核１点の合計６点（25.8ｇ）である。

なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩の剥片７点（合計18.0ｇ），安山岩（トロトロ石）の剥片１点（0.9ｇ），珪質頁岩の台形石器１点，剥片５点（合計11.9ｇ），ホルンフェルスの剥片２点（合計1.1ｇ），メノウの剥片１点（2.1ｇ）がある。

３）出土遺物（第12・13図）

１～５は，台形石器である。１は，珪質頁岩による横長剥片を素材とし，打面の一部と末端に細かな調整加工を行っている。２も珪質頁岩による横長剥片を素材とするが，１と異なる点として，打面と末端に表裏両面から調整加工を行っていること，打面の除去をはじめとして素材の形状を大きく変えていることが挙げられる。３は，ホルンフェルスによる不定型な剥片を用いている。右側縁を切断した後，細かな調整加工を行っている。４は，珪質頁岩による横長剥片を素材とし，打面には細かな調整加工が見られる。５は，黒曜石による不定型な剥片を素材とする（実測図左面の上端に素材の主要剥離面が残る）。打面と末端に粗い調整加工が見られる。上端の鋭利な縁辺には刃こぼれがある。

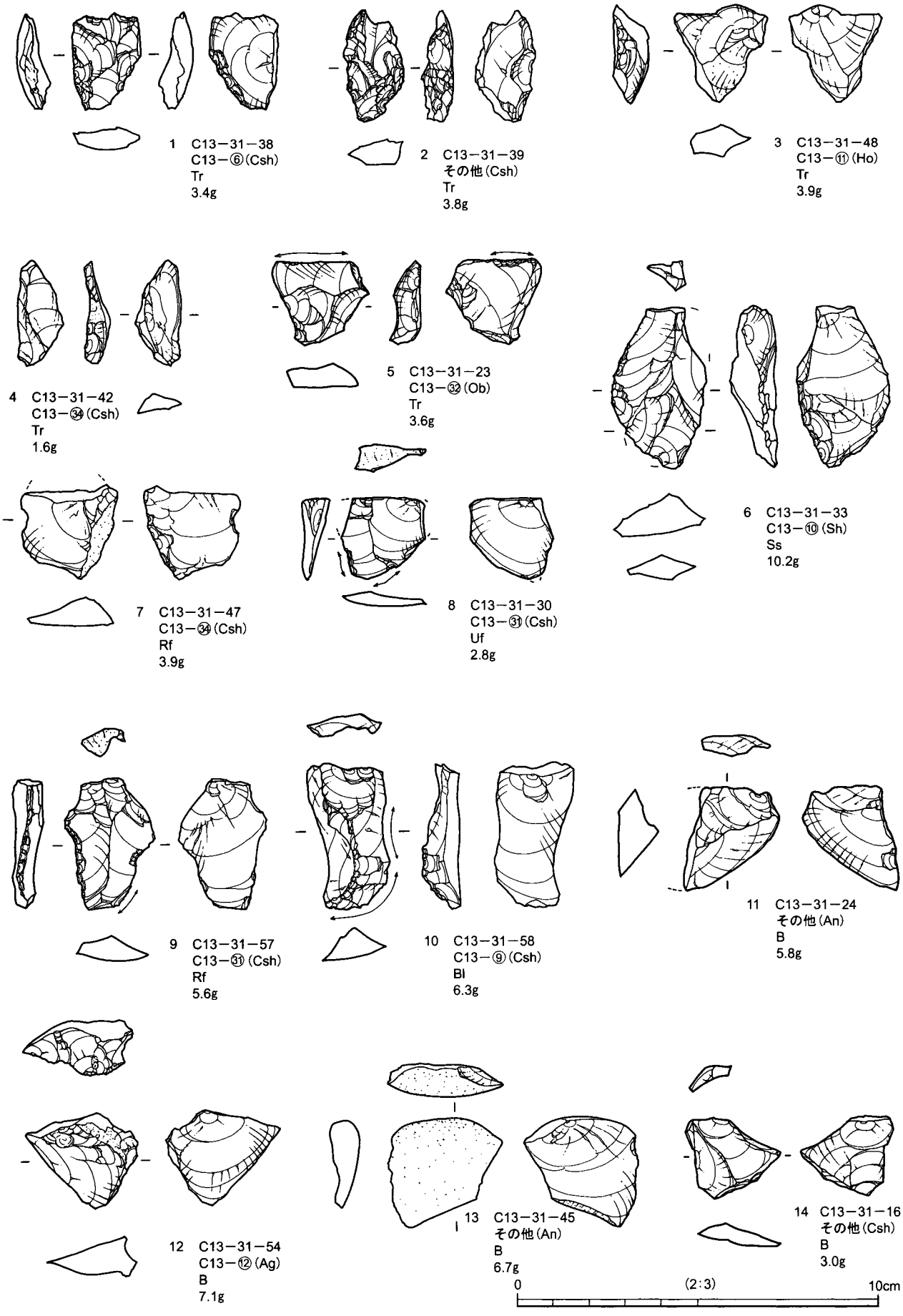
６は，珪質頁岩による不定型な剥片を用いた削器である。裏面（素材の主要剥離面側）の左側縁に細かな調整加工が連続する。７は，珪質頁岩による不定型な剥片を用いた加工痕ある剥片である。裏面の左側縁に調整加工が見られる。上部を欠損しており，全体の形状は不明である。８は，珪質頁岩による不定型の剥片を利用した使用痕ある剥片である。末端に刃こぼれがある。９は，８と同一母岩の珪質頁岩による加工痕ある剥片である。不整形の縦長剥片を素材として，表面左側縁に調整加工を行っている。右側縁の一部に刃こぼれが見られる。

10は，珪質頁岩による石刃である。打面は大きな１枚の剥離面による平坦打面で，表面中央には石核の側面調整痕（稜形成痕）が見られる。また，右側縁には刃こぼれがある。

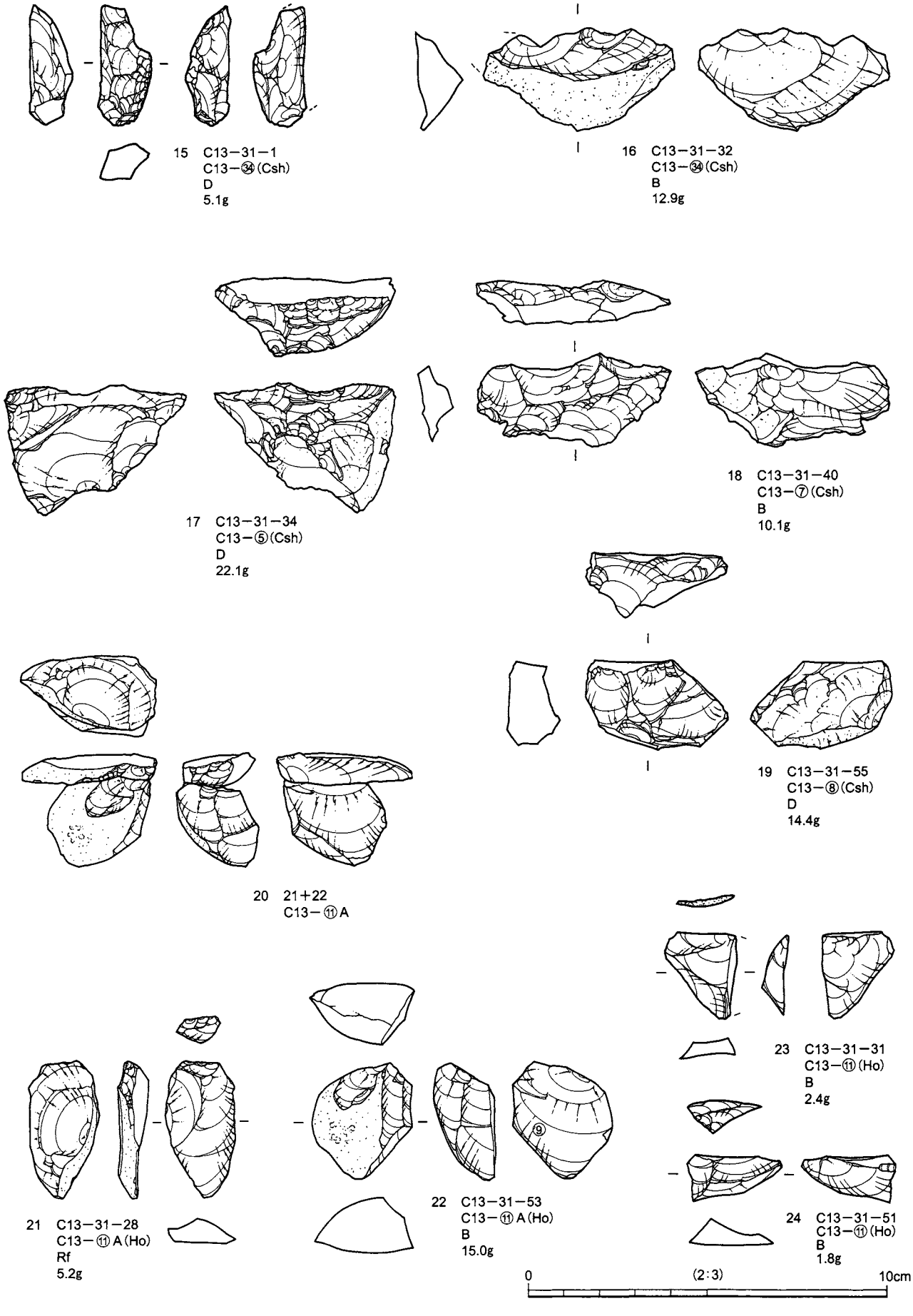
11～14・16・18は各種石材による剥片である。総じて不定型ないしは横長である。15・17・19は，不定型の剥片を生産した石核である。厚手の剥片，あるいは分割礫を素材とする。

４）接合資料とその関連資料（第13・14図）

・C13-⑪（第13図20～24）　黒灰色のホルンフェルスで，台形石器１点，加工痕ある剥片１点，剥片３点で構成される。このうち加工痕ある剥片１点と剥片１点が接合する。



第12図　C13－Dブロック出土遺物実測図（1）



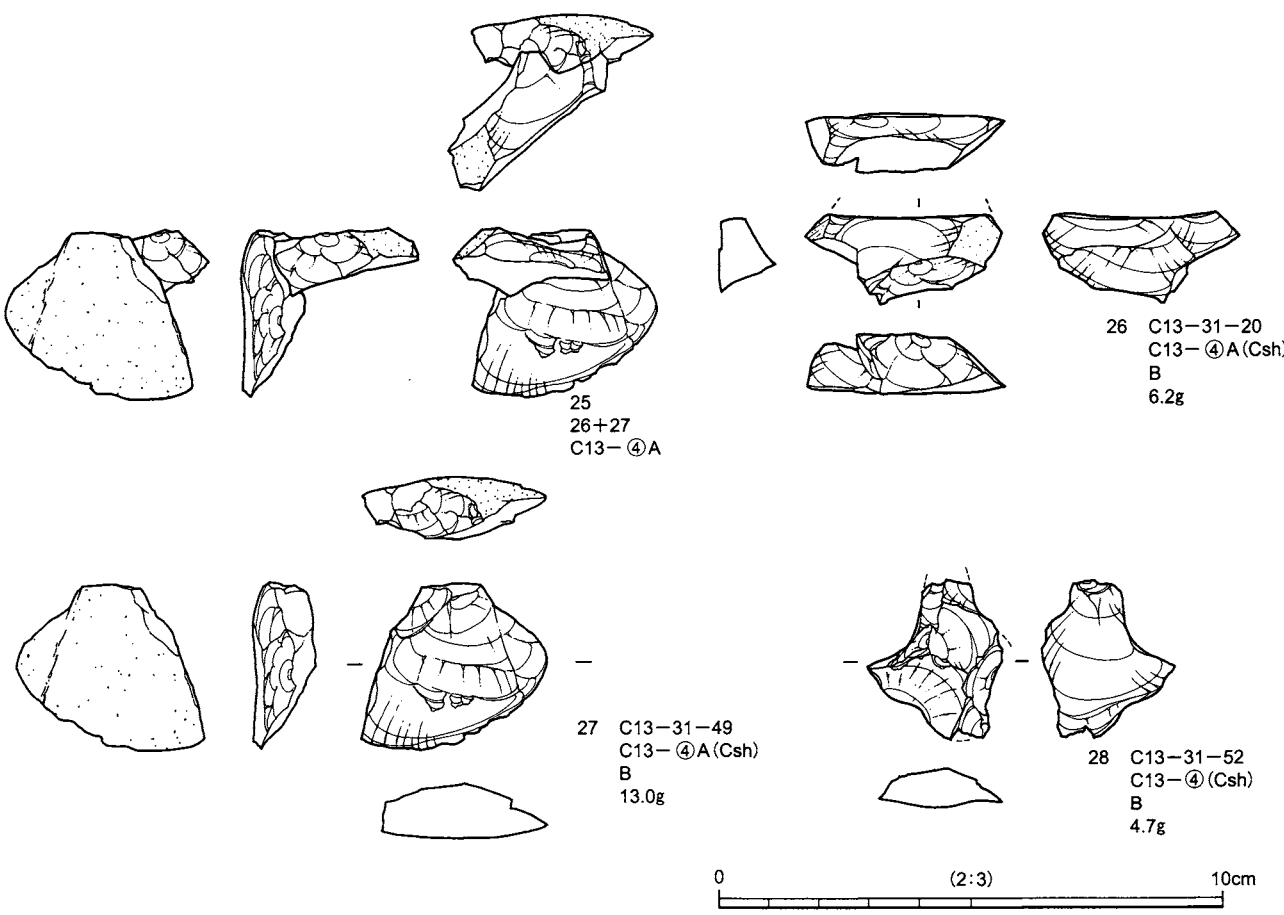
第13図　C13－Dブロック出土遺物実測図（2）

第３表　C13-Dブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C13-④(Csh)																			3			3		3
C13-⑤(Csh)																					1	1		1
C13-⑥(Csh)		1																				1		1
C13-⑦(Csh)																			1			1		1
C13-⑧(Csh)																					1	1		1
C13-⑨(Csh)												1										1		1
C13-⑩(Sh)						1																1		1
C13-⑪(Ho)		1								1									3			5		5
C13-⑫(Ag)																			1			1		1
C13-㉙(Ch)																			2			2		2
C13-㉛(Csh)										1	1											2		2
C13-㉜(Ob)		1																				1		1
C13-㉝(Ho)																					1	1		1
C13-㉞(Csh)		1								1									3		1	6		6
その他(An)																			7			7		7
その他(Ant)																			1			1		1
その他(Csh)		1																	5			6		6
その他(Ho)																			2			2		2
その他(Ag)																			1			1		1
合　計		5				1				3	1	1							29		4	44		44

第４表　C13-Dブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)		1																				1		1
安山岩(An)																			7			7		7
安山岩(Ant)																			1			1		1
頁岩(Sh)						1																1		1
珪質頁岩(Csh)		3								2	1	1							12		3	22		22
チャート(Ch)																			2			2		2
ホルンフェルス(Ho)		1								1									5		1	8		8
メノウ(Ag)																			2			2		2
合　計		5				1				3	1	1							29		4	44		44



第14図　C13－Dブロック出土遺物実測図（３）

20は，加工痕ある剥片（21）と剥片（22）の接合資料である。22→21の順に剥離しており，交互剥離によって不定型な剥片を生産している。

3・23・24は，接合しないが同一母岩と判断した資料である。3は台形石器，23・24は小型不定型の剥片である。

・C13-④（第14図25～28）　暗灰緑色の珪質頁岩で，剥片3点で構成される。

25は，不定型の剥片2点（26・27）の接合資料である。27→26の順で剥離されている。打面と作業面を頻繁に入れ替えて剥片を剥離する手順が想定される。

28は，不定型の剥片である。表面は多方向からの剥離面に覆われている。

第4節　第4文化層

第4文化層は，立川ローム層第2黒色帯上半部（Ⅶ～Ⅸ層上部）を中心に包含される石器群で，C12-A，C13-A・C・E・H，C17-A・B・E～G，C23-A～D・Fブロックの合計15か所のブロックが該当する。草刈遺跡C区の中ではブロック数の最も多い文化層であるが，細かく見るとⅦ層とⅨ層上部の石器群は分離される可能性が高く，ほかの文化層に比べて時間幅が広いと考えられる。ただし，石器数量の多寡とその内容の評価，層厚，包含層の傾斜など諸種の問題があり，細分はできなかった。

1　C12－Aブロック（第15～17図，第5・6表）

1）ブロックの概要

C12-Aブロックは，調査区東部のC12-74・75グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地中央の平坦部で，台地縁辺の傾斜変換点までの距離は40mである。

ブロックの規模と形状は，直径3mの範囲に13点の石器・礫が散漫に分布する。石器と礫は平面的に混在している。出土層位はⅦ層を中心としており，各石器・礫は30cmほどの高低差をもって，比較的水平に包含されている（第 15・16 図）。

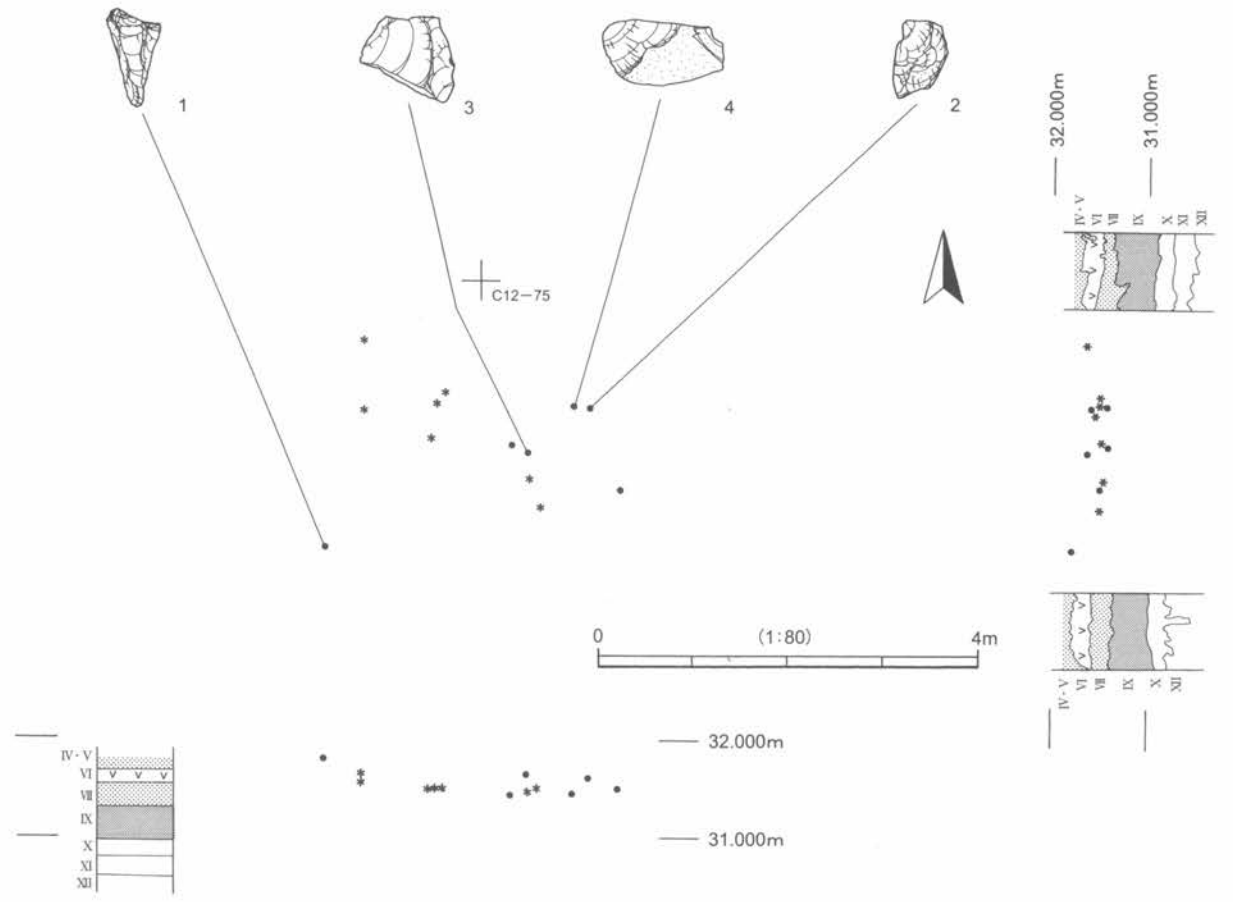
ブロックは，剥片6点，礫7点の合計13点で構成される。石器石材は，珪質頁岩1点，チャート2点，ホルンフェルス3点，礫石材は，7点すべてが砂岩である。礫は，母岩分類のできたものが1母岩6点（C12-R①母岩；1,278.3g），母岩の不明なものが1点である。前者は被熱によって割れ，大小の礫片になっていたが，接合して小児頭ほどの完形の円礫に復元できた。表面にはあばた状及び爪跡状の傷があり，被熱前に台石として用いられていたかも知れない。

2）母岩の特徴と内容

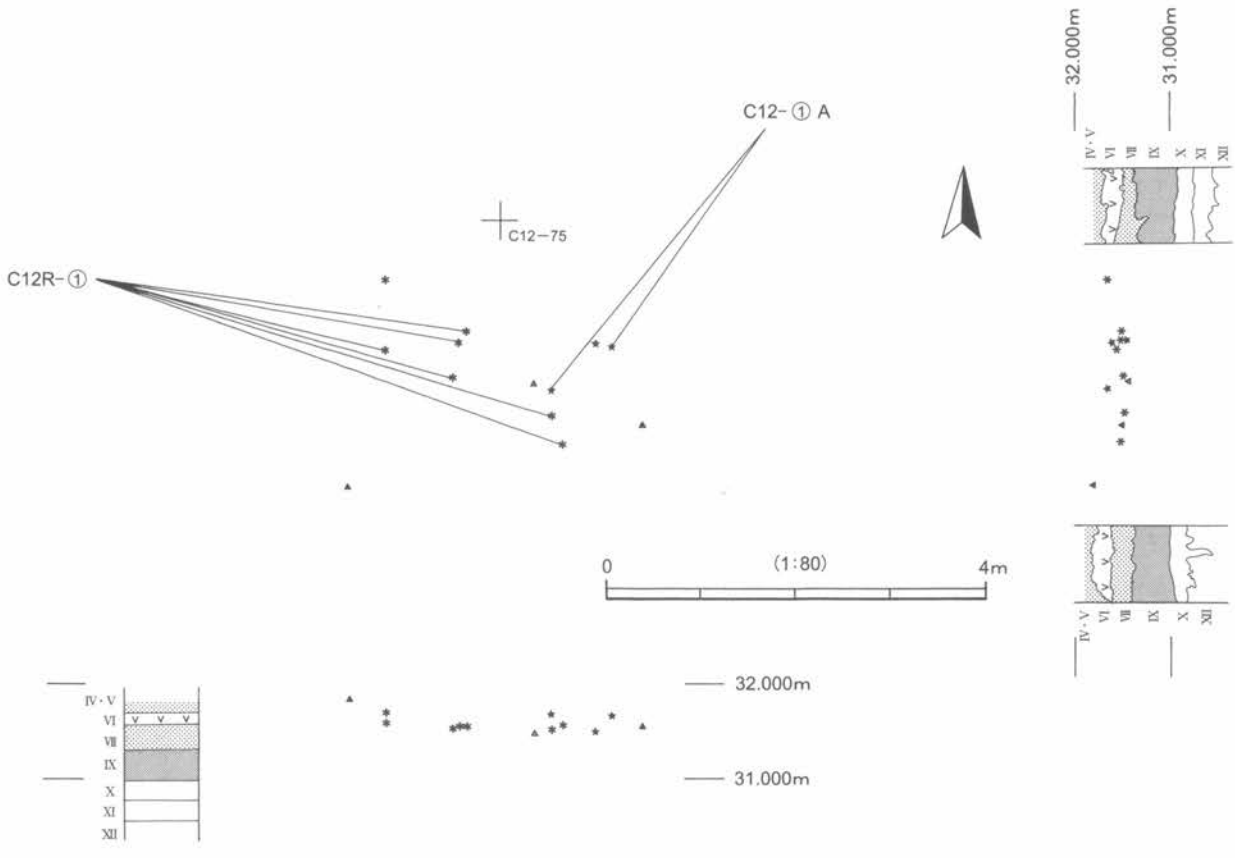
本ブロックでは，ホルンフェルス1母岩（C12-①）を識別したにすぎない。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は50%（3/6点）である。

・C12-①：自然面は赤褐色，内部は淡黒灰色のホルンフェルスである。石器群の内訳は剥片3点（合計12.4g）で，そのうちの2点が表裏で接合する（7.6g）。

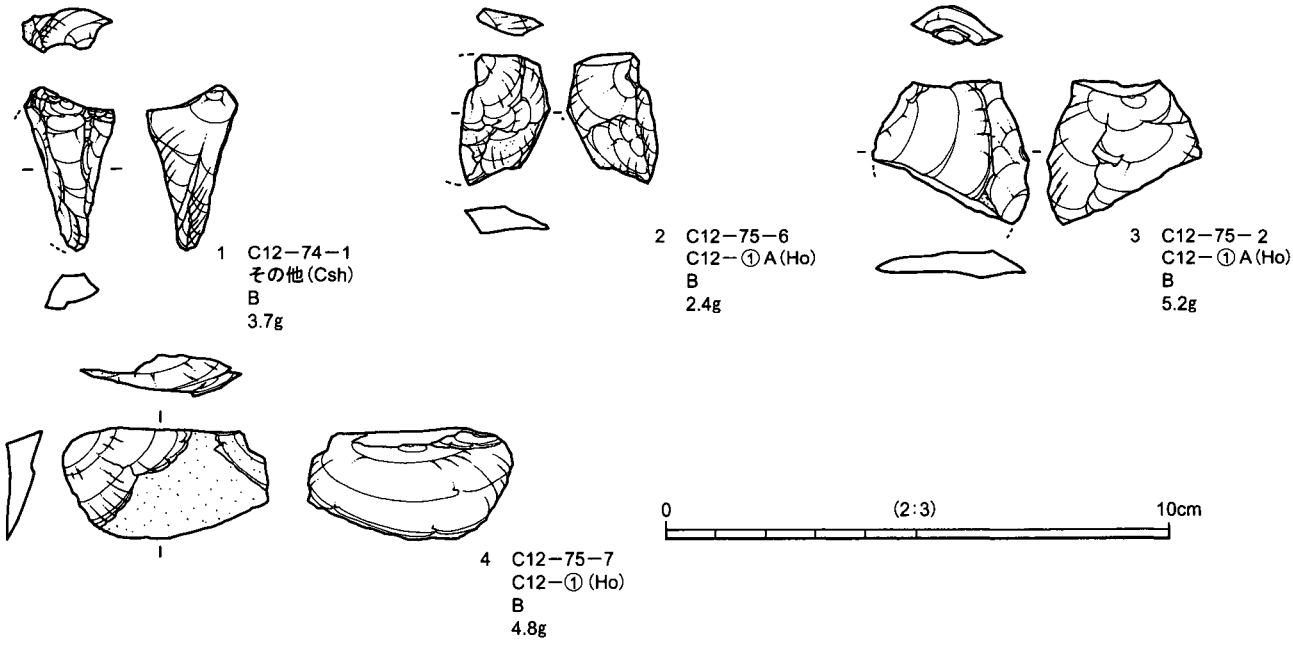
なお，母岩分類できなかった資料に，珪質頁岩の剥片1点（4.0g），チャートの剥片2点（合計0.6g）がある。チャートの剥片は2点とも小型不定型のもので，石器ないしは石器の素材として搬入したとは思えない。剥片生産あるいは石器の製作時に剥離され，放置されたものであろう。



第15図　C12-Aブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



第16図　C12-Aブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－



第17図　C12-Aブロック出土遺物実測図

第５表　C12-Aブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C12-①(Ho)																			3			3		3
その他(Csh)																			1			1		1
その他(Ch)																			2			2		2
C12R-①(Sa)																							6	6
その他(Sa)																							1	1
合　計																			6			6	7	13

第６表　C12-Aブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
珪質頁岩(Csh)																			1			1		1
チャート(Ch)																			2			2		2
砂岩(Sa)																							7	7
ホルンフェルス(Ho)																			3			3		3
合　計																			6			6	7	13

3）出土遺物（第17図）

１は，暗灰緑色の珪質頁岩を利用した不定型の剥片である。珪化度が高く，チャートに近い岩相である。剥片剥離時に打点で二つに割れている。表面上端の，打面に接した部分には細かな剥離面が連続しており，頭部調整を思わせる。２～４は，C12-①母岩に帰属するホルンフェルスによる不定型の剥片である。図示しなかったが，２と３は表裏で接合する。

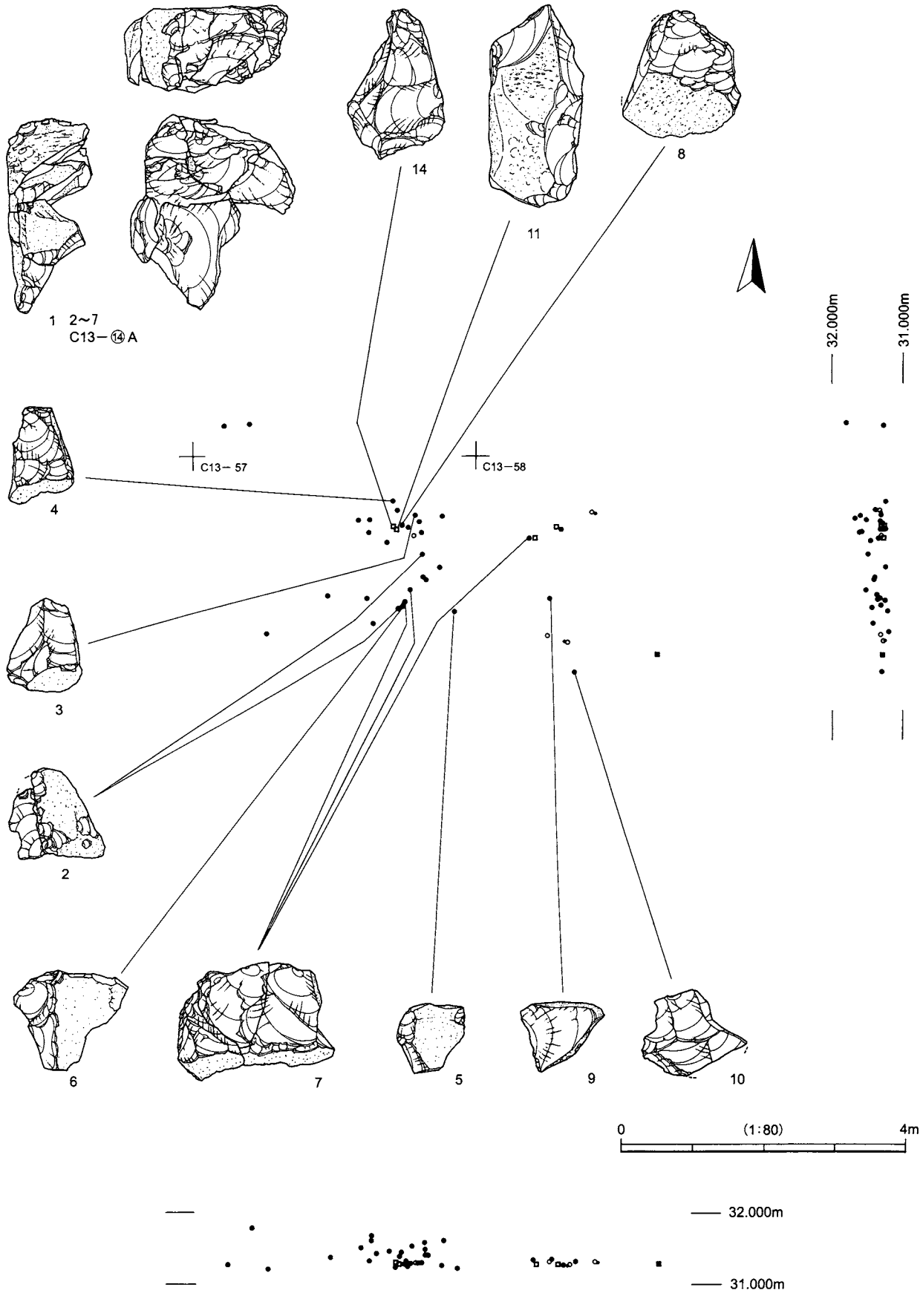
2　C13－Aブロック（第18～25図，第７・８表）

1）ブロックの概要

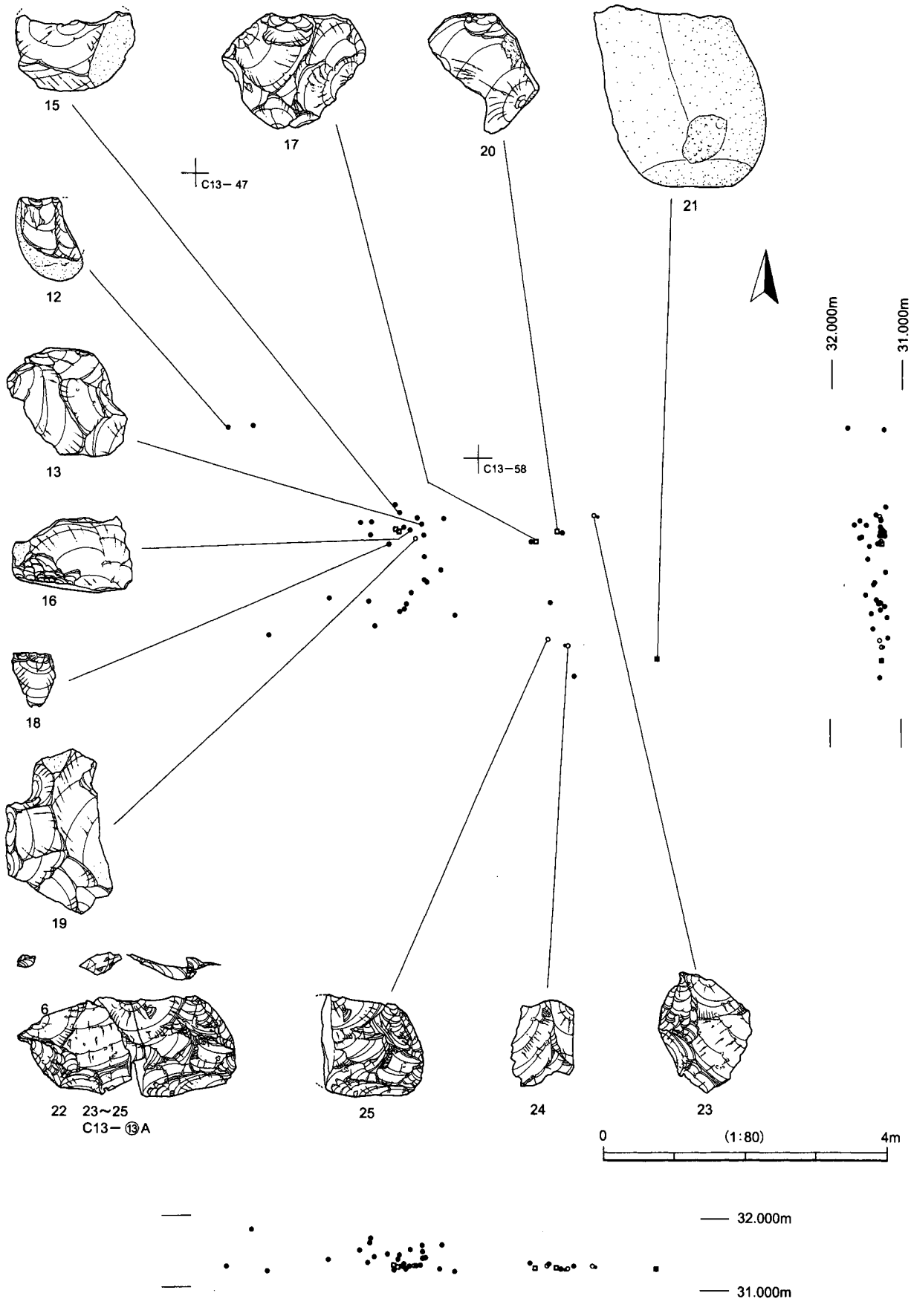
C13-Aブロックは，調査区東部のC13-47・57・58グリッドに位置する。ブロックの立地は，南西に向かって開く谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点までの距離は14mほどである。

ブロックの規模と形状は，長軸７m，短軸４mの範囲に41点の石器が分布する。ブロックの中心は直径２mの範囲で，ここに27点の石器が集中する。出土層位はⅦ層からⅨ層上部にかけてで，各石器は50cmほどの高低差をもって，南に向かって緩やかに下って包含されている（第18～20図）。

ブロックは，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片３点，敲石１点，剥片30点(27個体)，砕片２点，石



第18図　C13-Aブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図（1）－



第19図　C13-Aブロック出土遺物分布図（2）　－石器別分布図（2）－

核４点の合計41点（38個体）で構成される。石材は，黒曜石５点，安山岩32点，珪質頁岩３点，砂岩１点である。

２）母岩の特徴と内容

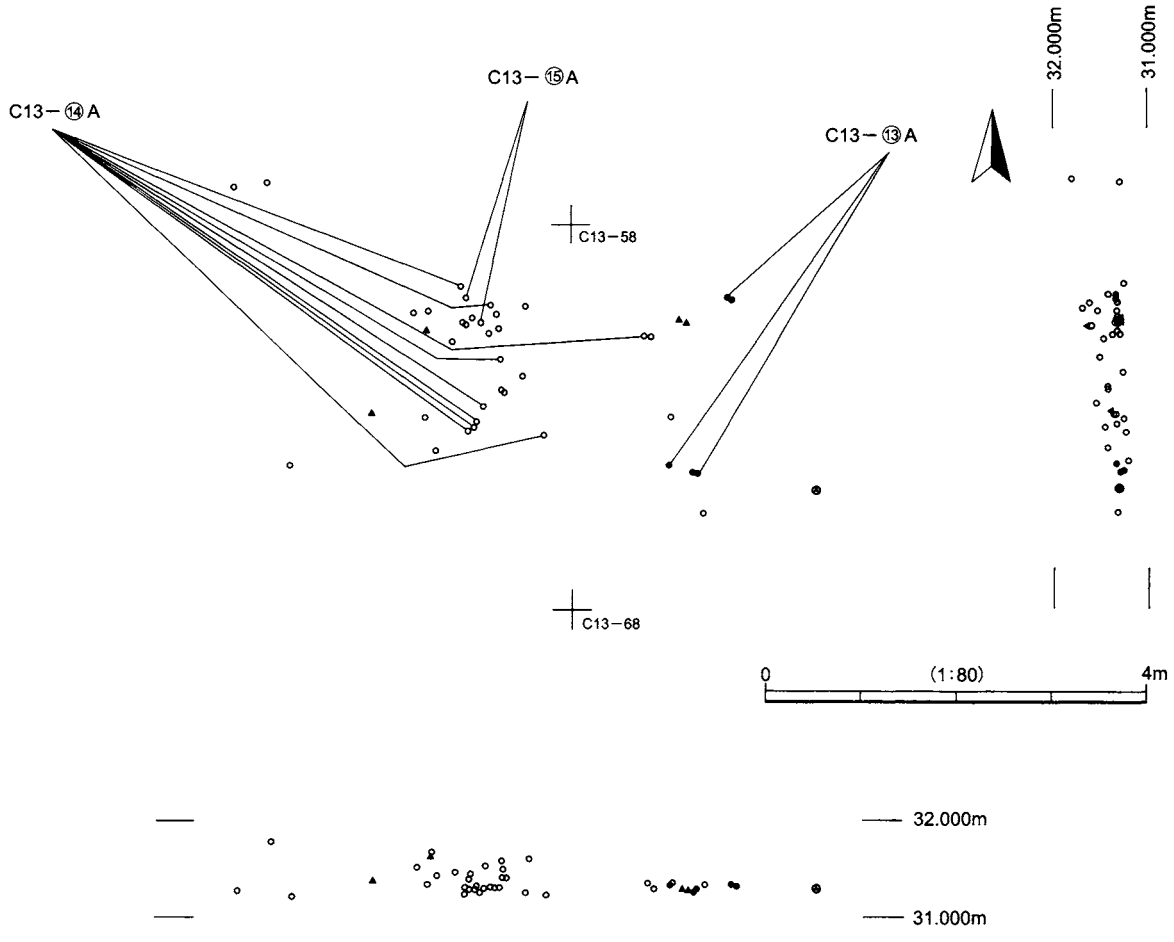
本ブロックでは５母岩を識別した。内訳は，黒曜石１母岩（C13-⑬），安山岩２母岩（C13-⑭・⑮），

第７表　C13-Aブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C13-⑬(Ob)											3											3		3
C13-⑭(An)																			12(9)		1	13(10)		13(10)
C13-⑮(An)																			3			3		3
C13-⑯(Csh)																					1	1		1
C13-⑰(Sa)															1							1		1
その他(Ob)																				2		2		2
その他(An)										1									13		2	16		16
その他(Csh)																			2			2		2
合　計										1	3				1				30(27)	2	4	41(38)		41(38)

第８表　C13-Aブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)											3									2		5		5
安山岩(An)										1									28(25)		3	32(29)		32(29)
珪質頁岩(Csh)																			2		1	3		3
砂岩(Sa)															1							1		1
合　計										1	3				1				30(27)	2	4	41(38)		41(38)



第20図　C13-Aブロック出土遺物分布図（３）　－石材別分布図－

珪質頁岩１母岩（C13-⑯），砂岩１母岩（C13-⑰）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は51％（21/41点）である。

・C13-⑬：漆黒色不透明の黒曜石である。φ１㎜～２㎜の淡黄色の夾雑物を多量に含み，青みがかった灰色の縞が平行に入る。箱根・畑宿産であろうか。石器群の内訳は，中型の剥片を利用した使用痕ある剥片３点（合計64.3ｇ）で，すべて表裏で接合する。ブロックの東側に分布する。

・C13-⑭：黒灰色で，夾雑物の乏しい安山岩である。自然面にはφ１㎜～２㎜の細かな凹凸が多数見られるが，全体になだらかな曲面であることから，原石は比較的大型の円礫と思われる。石器群の内訳は，剥片12点（９個体），石核１点の合計13点（10個体；381.8ｇ）で，このうち剥片９点（６個体；154.9ｇ）が接合する。ブロックの西側にまとまって分布する。

・C13-⑮：灰色でやや軟質の安山岩である。自然面は摩滅して平滑になっている。石器群の内訳は中型の剥片３点（合計79.9ｇ）で，このうち２点 が表裏で接合する(合計39.1ｇ）。

・C13-⑯：自然面と節理面は橙褐色，内部は灰緑色の地に暗紫色の斑が散在する嶺岡産珪質頁岩である。不定型の剥片を素材とする石核１点（24.8ｇ）の単独資料である。

・C13-⑰：淡い灰緑色で，きめ細かな硬質の砂岩である。全体の1/4ほどが遺存する敲石１点（230.6ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石の砕片２点(合計0.2ｇ)，安山岩の加工痕ある剥片１点，剥片13点，石核２点(合計196.9ｇ)，嶺岡産と思われる珪質頁岩の剥片２点（合計3.7ｇ)がある。

３）出土遺物（第23・24図）

12・13・15・16・18は，安山岩による不定型の剥片，14・17は，厚手の剥片を用いた不定型剥片用の石核である。概ね，表裏両面を作業面とする扁平な石核を用い，交互剥離の手法と求心的な打点の移動によって生産された剥片と考えられる。

19は，安山岩による不整型な縦長剥片を用いた加工痕ある剥片である。表面左側縁に粗い剥離痕が連続する。小型の剥片を生産した石核の可能性もある。20は，中型の不定型な剥片を用いた石核で，裏面左半分が素材の主要剥離面である。石材は嶺岡産の珪質頁岩である。

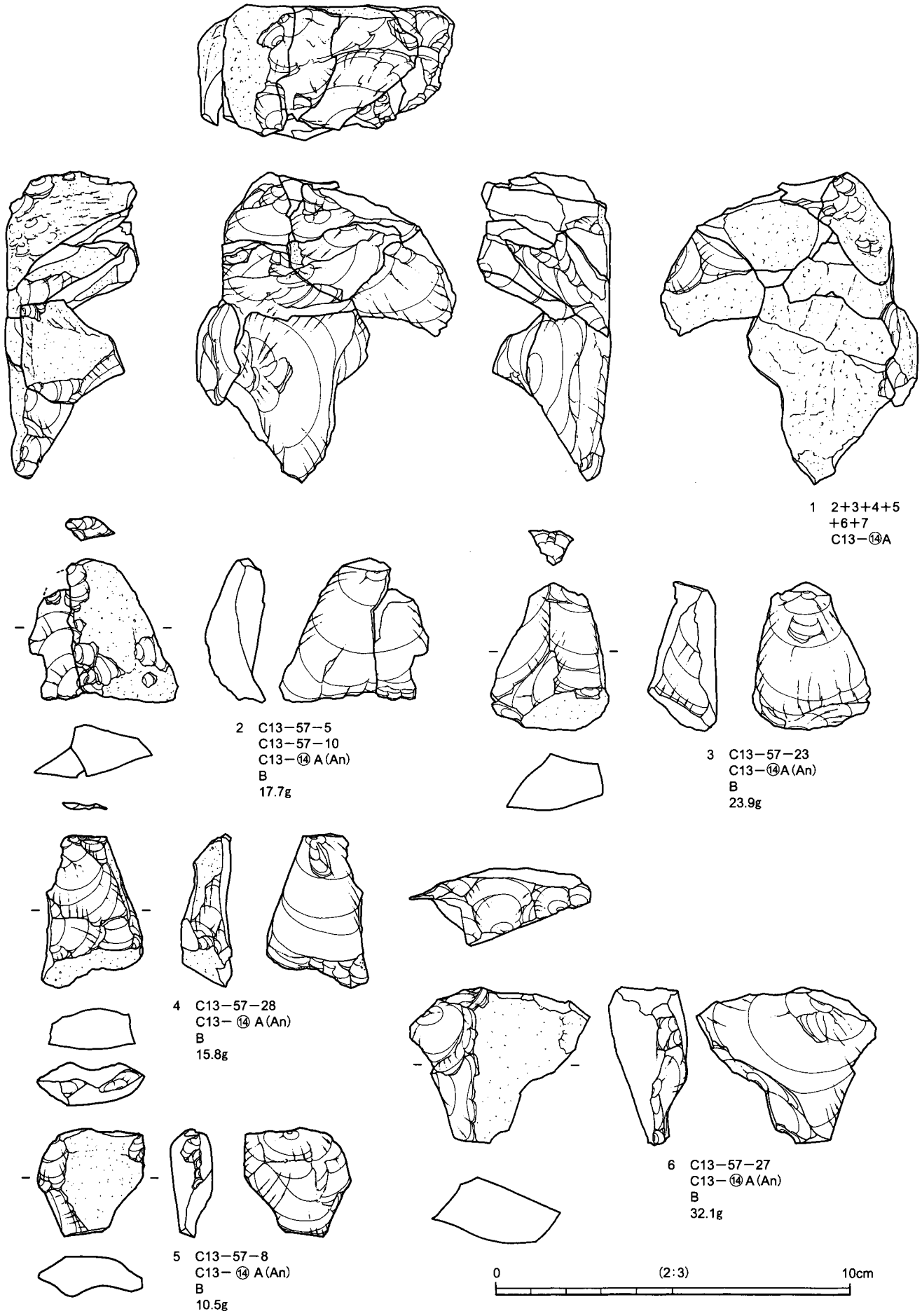
21は，砂岩の敲石が破損したものである。表面下部にあばた状の凹凸が見られる。使用中に欠損したと考えられるが，残りは回収できなかった。

４）接合資料とその関連資料（第21・22・25図）

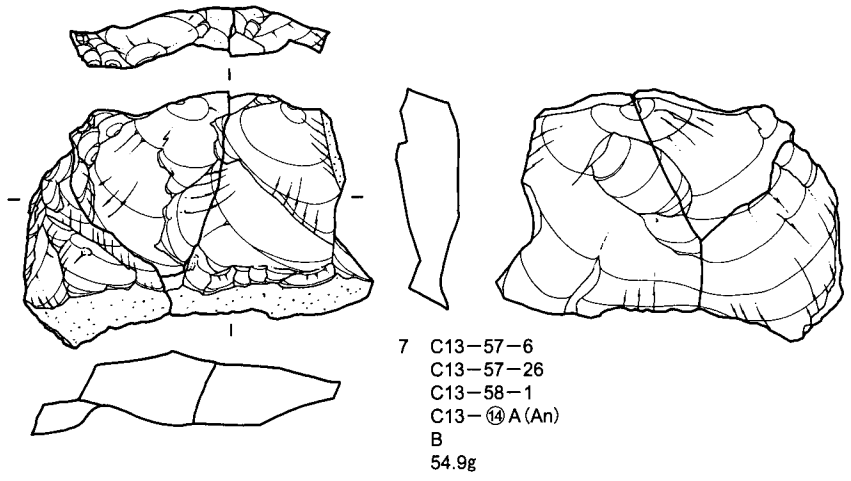
・C13-⑭（第21図１～６，第22図７～11） 黒灰色の安山岩で，原石は大型の円礫と考えられる。同一母岩は，剥片12点（９個体）と石核１点の合計13点（10個体）で構成される。

１は，不定型の剥片９点（６個体；２～７）の接合資料である。作業の手順は以下のとおりである。①：粗く分割した礫片を石核の素材とする。②：同一打面から２→３→４→７の順に不定型の剥片を剥離する。また，４を剥離する以前に，下方から５を剥離しているが，３との先後関係は不明である。③：７の剥離以後に横位から剥片数枚を剥離し，石核高が低くなった段階で６を剥離している。

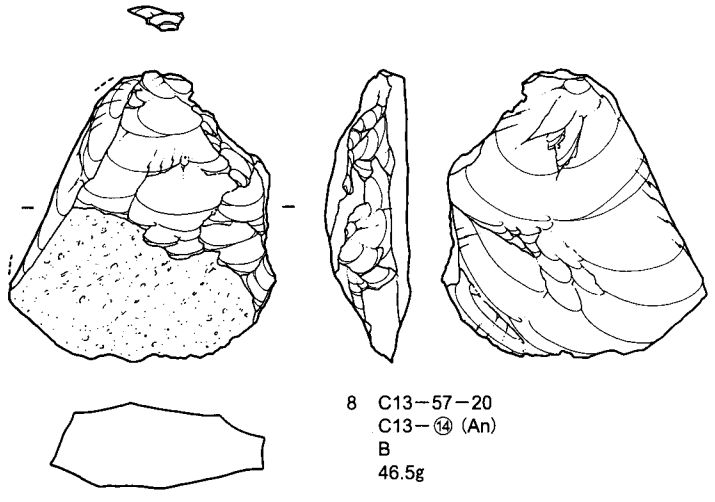
８～11は，上記の一群とは接合しないが，同一母岩と判断した資料である。８～10は，不定型の剥片で，上記と同一個体の可能性がある。いっぽう，11は，大型厚手の剥片を素材とした石核で，実測図最上段の左側に残る広い剥離面が素材の主要剥離面である。本石核は，小型の剥片数枚を剥離したに過ぎないものであることから，上記接合資料とは別個体である。原石を分割して複数の石核素材とし，それぞれで剥片



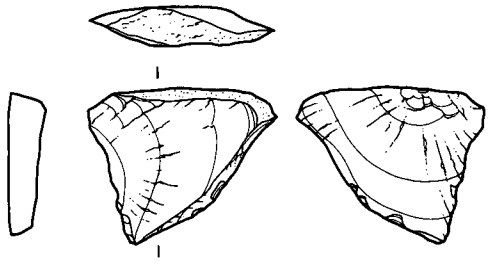
第21図　C13-Aブロック出土遺物実測図（1）



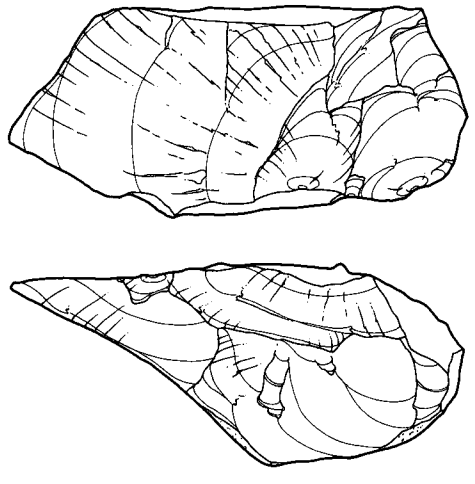
7 C13−57−6
C13−57−26
C13−58−1
C13−⑭A(An)
B
54.9g

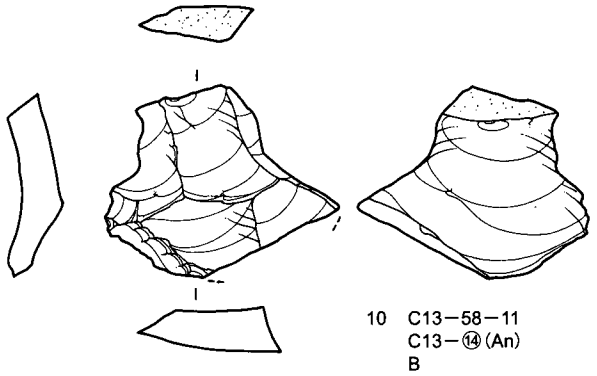


8 C13−57−20
C13−⑭(An)
B
46.5g



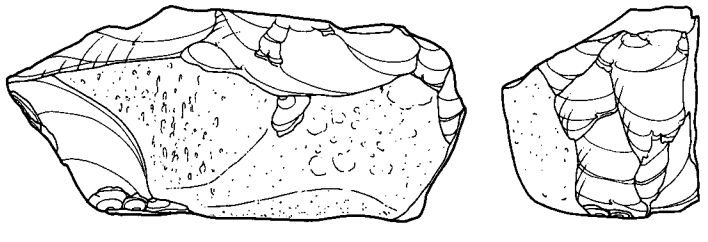
9 C13−58−7
C13−⑭(An)
B
7.3g





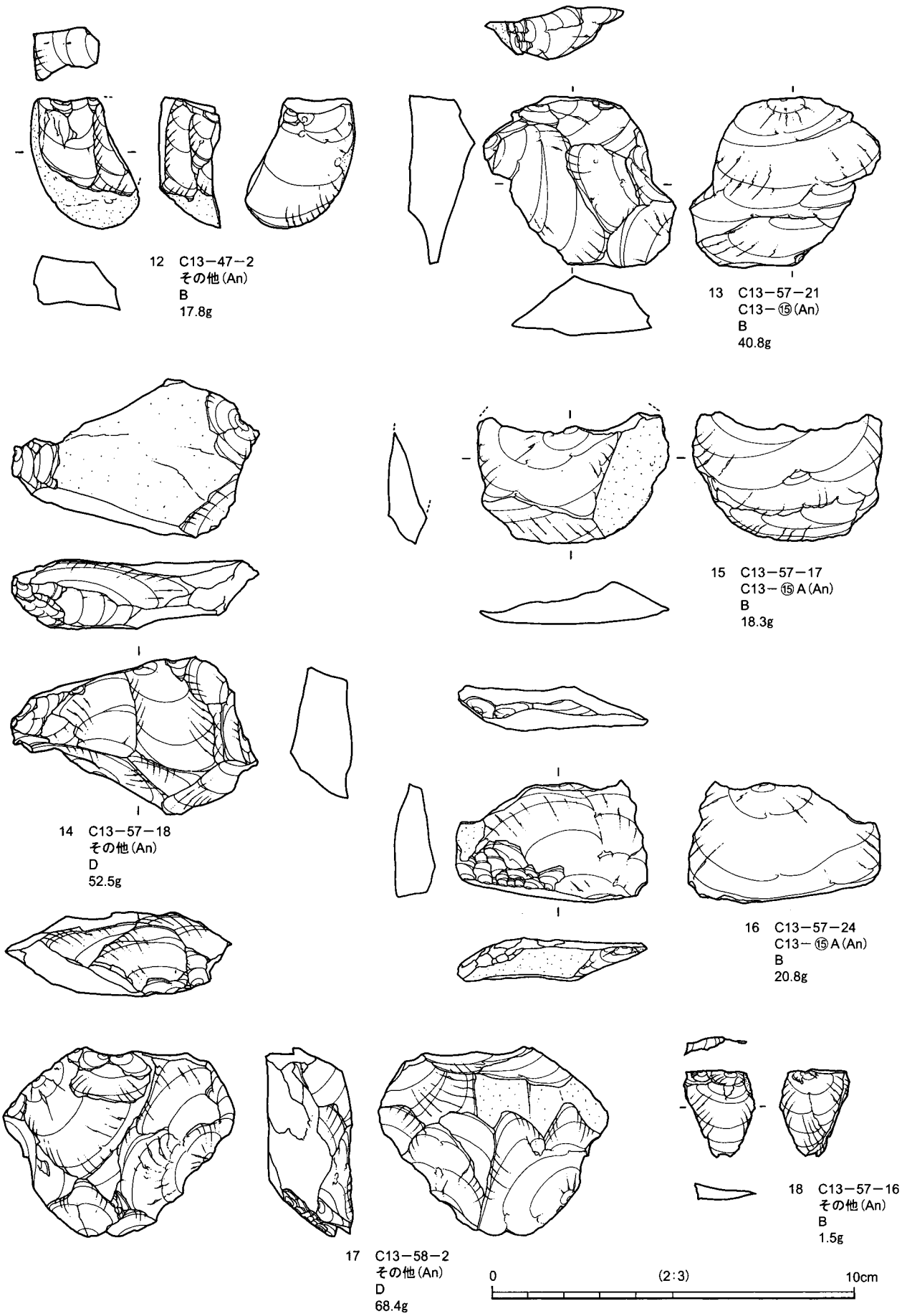
10 C13−58−11
C13−⑭(An)
B
15.1g

0 (2:3) 10cm

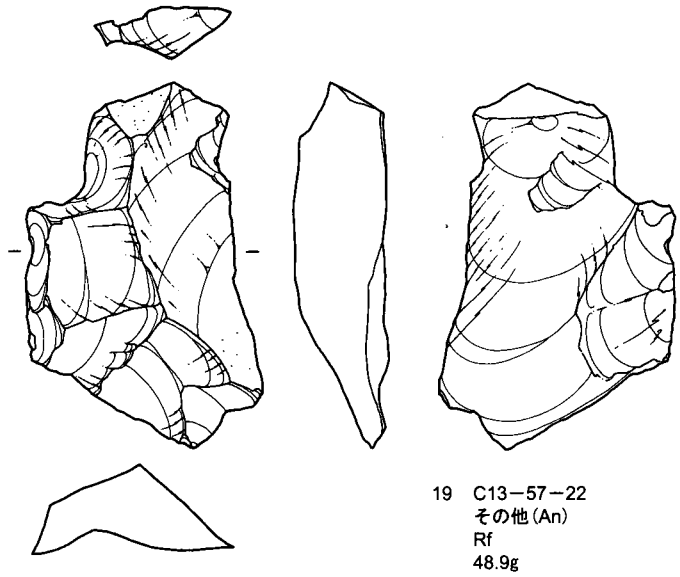


11 C13−57−19
C13−⑭(An)
D
158.0g

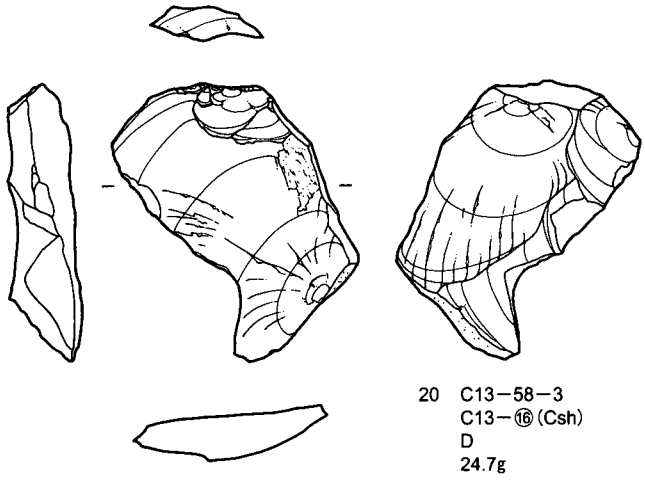
第22図　C13-Aブロック出土遺物実測図（2）



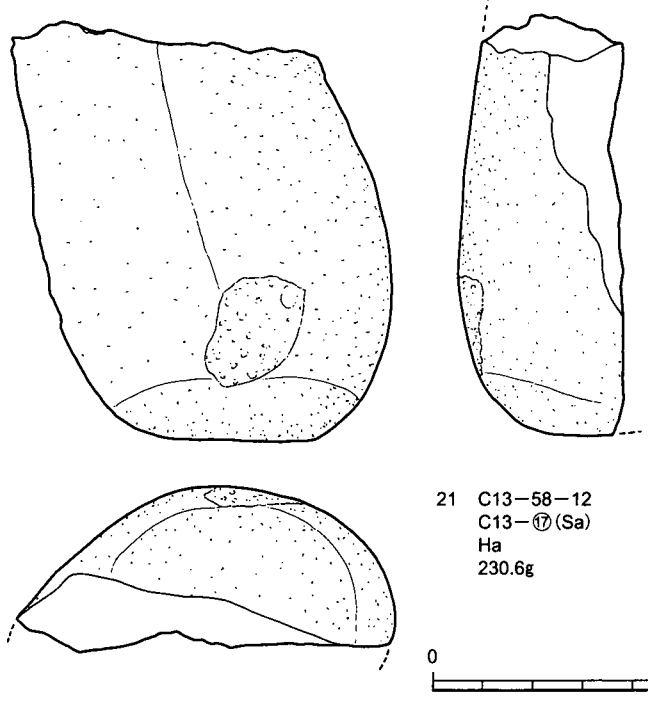
第23図　C13-Aブロック出土遺物実測図（3）



19　C13－57－22
その他(An)
Rf
48.9g



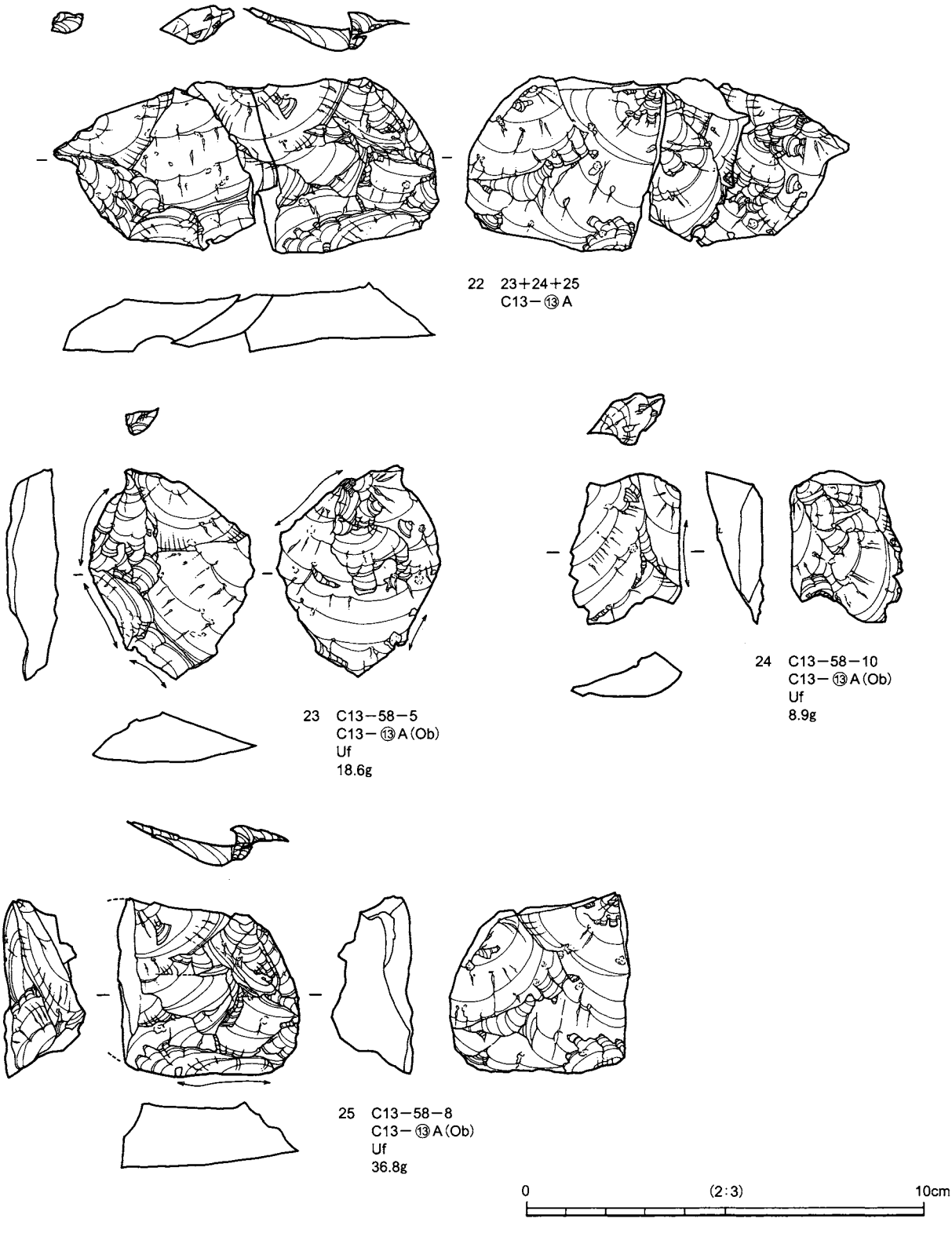
20　C13－58－3
C13－⑯(Csh)
D
24.7g



21　C13－58－12
C13－⑰(Sa)
Ha
230.6g

0　(2:3)　10cm

第24図　C13-Aブロック出土遺物実測図（4）



第25図　C13-Aブロック出土遺物実測図（5）

生産を実施した結果であろう。本ブロックでは，原石の分割に関連する資料は見られないことから，よそで原石を分割した後，本ブロックに分割片２～３個体を持ち込んだのであろう。

・C13-⑬（第25図22～25）　漆黒色不透明の黒曜石で，使用痕ある剥片３点で構成される。

22は，使用痕ある剥片３点（23～25）の接合資料である。同一の打面を用いて，23→24→25の順に不定型の剥片を剥離し，加工することなく使用している。

3　C13－Cブロック（第26～35図，第９・10表）

1）ブロックの概要

C13-Cブロックは，調査区東部のC13-40～42グリッドに位置する。ブロックの立地は，南西に向かって開く谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点までの距離は５ｍほどである。

ブロックの規模と形状は，直径５ｍの範囲に346点の石器が満遍なく密に分布する。垂直分布図では，出土層位はⅥ層を中心としており，各石器は40㎝ほどの高低差をもって水平に包含されている（第26･30図）。ただし，石器群の内容及び周辺ブロックとの接合関係，同一母岩の分布状況から，第４文化層（Ⅶ～Ⅸ層上部）に帰属する石器群と考えた。

ブロックを構成する石器は，ナイフ形石器１点，使用痕ある剥片１点，剥片175点（168個体），砕片163点，石核６点の合計346点（339個体）で，石材は，黒曜石336点，流紋岩２点，珪質頁岩３点，チャート１点，ホルンフェルス２点，メノウ２点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは６母岩を識別した。内訳は，黒曜石１母岩（C13-㉚），流紋岩１母岩（C17-⑭），珪質頁岩１母岩（C13-㉕），チャート１母岩（C13-㉙），ホルンフェルス１母岩（C13-㉘），メノウ１母岩（C13-㉗）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は99％（343/346点）である。

・C13-㉕：節理面は明橙褐色，内部は黄褐色の地に暗紫色の斑がある嶺岡産の珪質頁岩である。剥片１点（4.1ｇ）の単独資料である。

・C13-㉗：淡黄灰色半透明で一部赤褐色のメノウである。剥片２点（合計5.4ｇ）で構成される。

・C13-㉘：淡黒灰色で，節理面は黒褐色のホルンフェルスである。石核１点（26.2ｇ）の単独資料である。

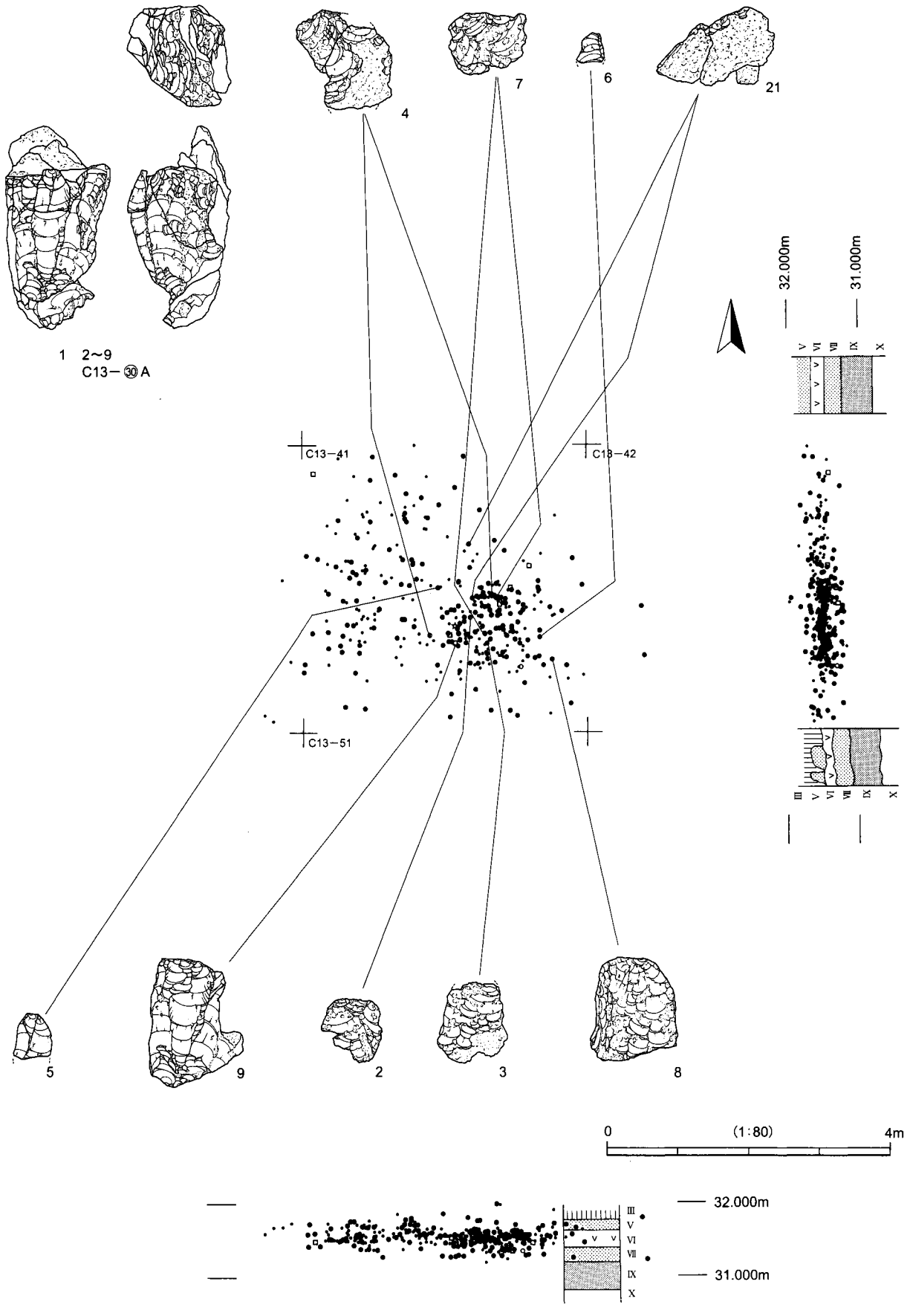
・C13-㉙：暗灰緑色で節理の少ない良質なチャートである。自然面は滑らかな曲面で，原石は円礫と考えられる。剥片１点（6.7ｇ）の単独資料である。

・C13-㉚：漆黒色不透明で，大小の夾雑物を含む黒曜石である。部分的に夾雑物の厚い層がある。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，剥片170点（163個体），砕片162点，石核３点の合計336点（365.8ｇ）である。

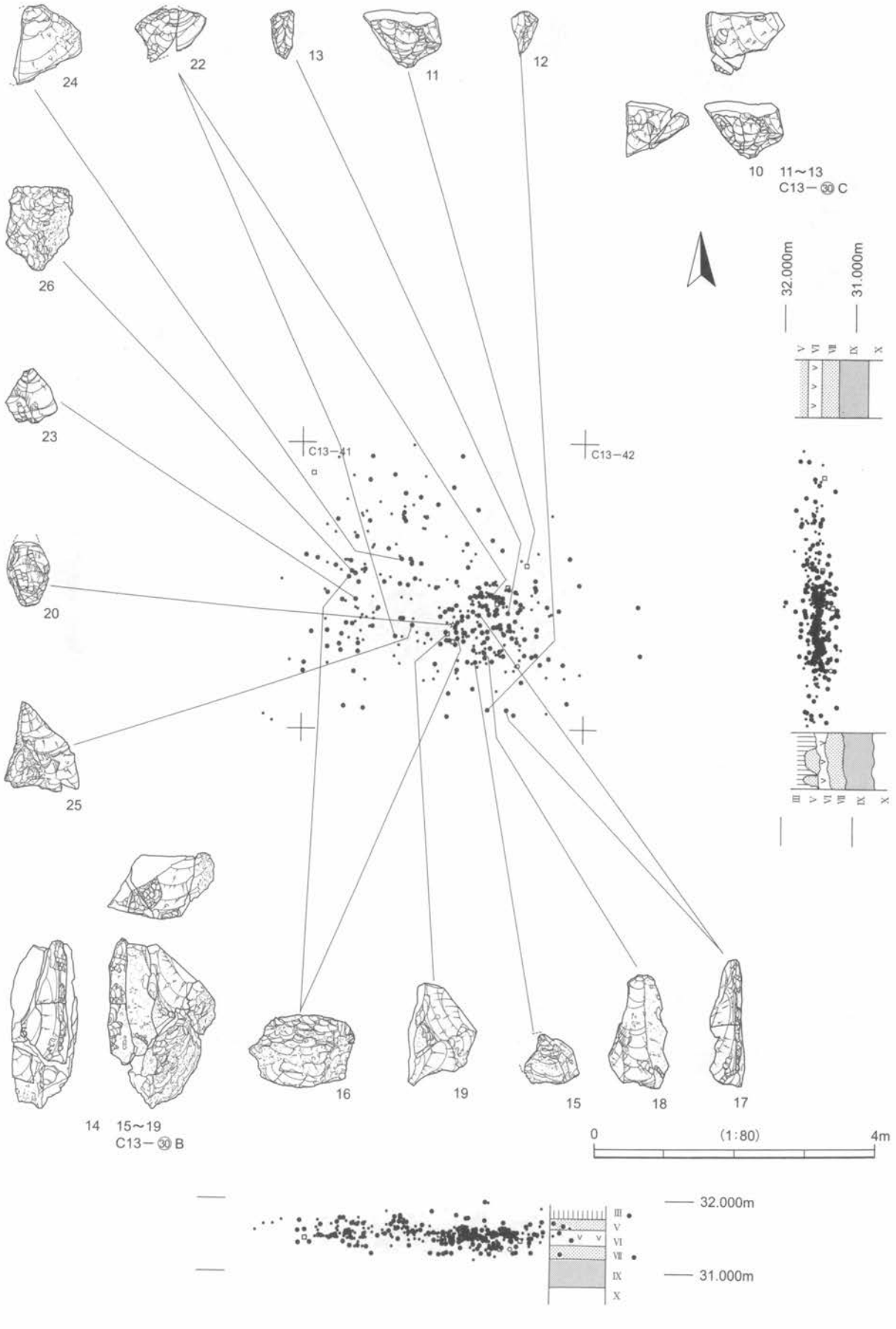
接合グループは７グループある。Ａグループは，剥片９点（7個体）と石核１点（合計129.5ｇ）の接合，Ｂグループは，剥片６点（５個体）と石核１点（合計80.1ｇ）の接合資料である。そのほかに，剥片２点と石核１点の接合資料，剥片３点の接合資料，欠損した剥片２点が接合して１個体になった接合資料３グループがある。

・C17-⑭：自然面は褐色，内部は灰緑色で黒色の縞が帯状に入る流紋岩である。原石は，幼児の頭ほどの大きさの円礫と想定される。本ブロックでの石器群の内訳は，石核２点である（合計238.3ｇ）。

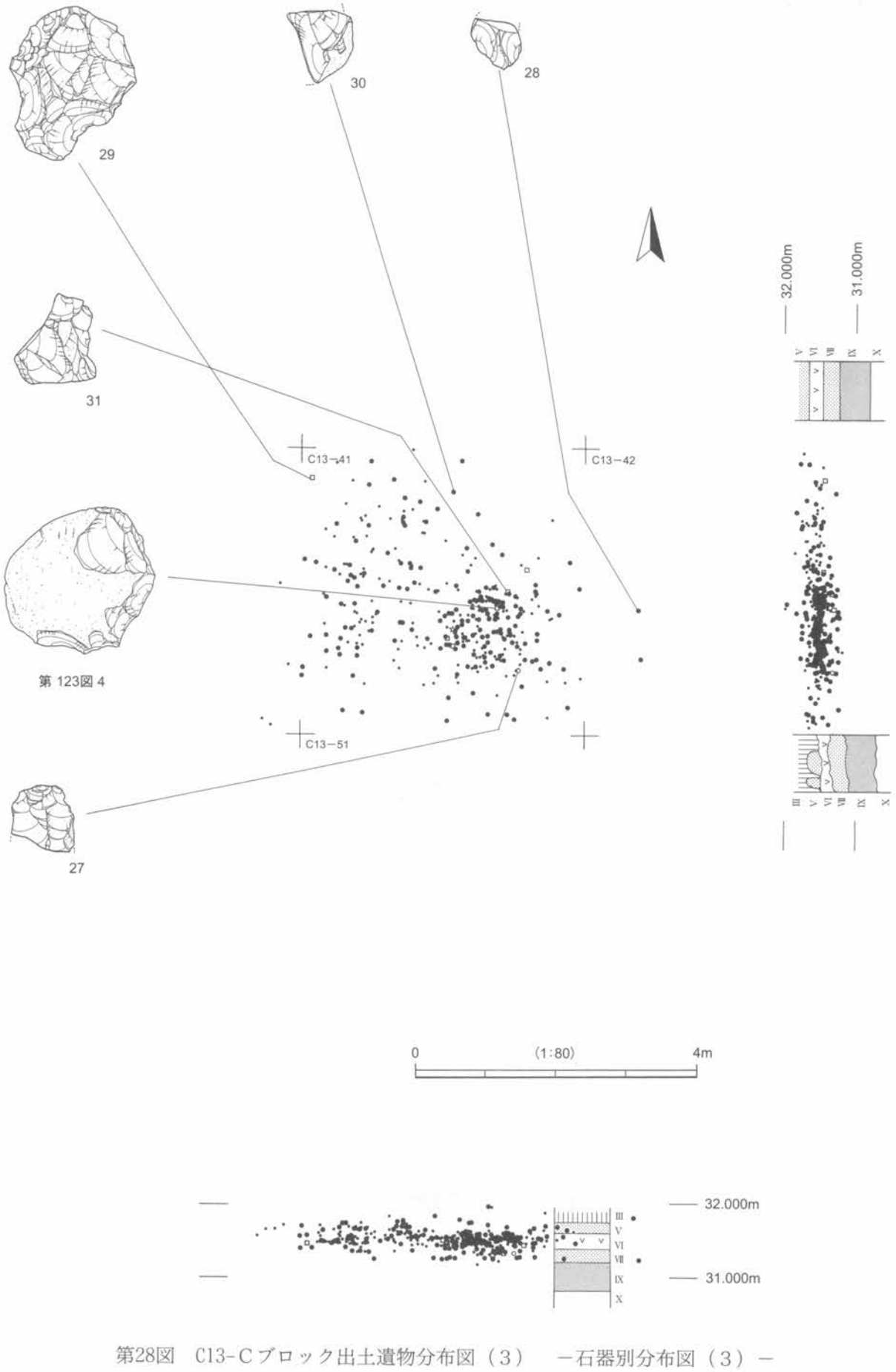
接合資料は７グループあり，C17-Aブロックを中心に同一母岩が広く分布している。Ａグルー



第26図　C13-Cブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図（1）－



第27図　C13-Cブロック出土遺物分布図（2）　－石器別分布図（2）－



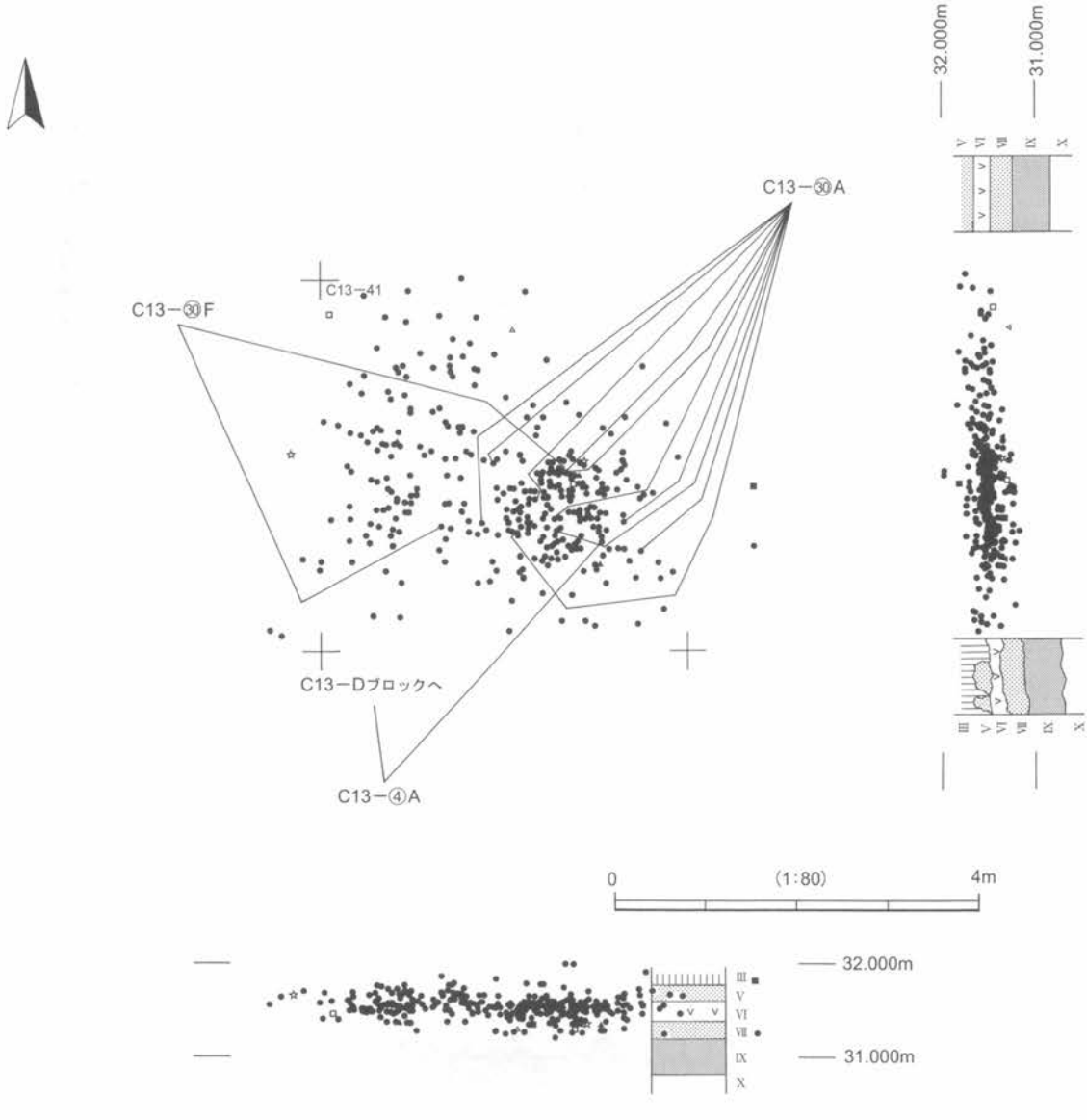
第28図　C13-Cブロック出土遺物分布図（3）　－石器別分布図（3）－

プは，本ブロックの石核１点（146.3ｇ）がC17-Ａブロックの剥片24点，石核１点，C17-Ｂブロックの剥片１点，石核１点，C17-Ｇブロックの剥片７点，石核６点と接合する。また，接合はしないが，同一母岩として，C17-Ａブロックに67点，C17-Ｂブロックに３点，C17-Ｇブロックに１点がある。

なお，母岩分類できなかった資料に，珪質頁岩の使用痕ある剥片１点，剥片１点（合計8.0ｇ），ホルンフェルスの砕片１点（0.2ｇ）がある。

３）出土遺物（第34・35図）

27は，嶺岡産珪質頁岩による縦長剥片（あるいは石刃）を利用した使用痕ある剥片である。裏面の左側縁に刃こぼれがある。下半部は欠損する。28は，メノウによる不定型な剥片である。表面と裏面の剥離方向が大きく異なり，また，側面に表裏と直交する方向の剥離面があることから，打点を頻繁に移動する石核から剥離されたと考えられる。29は，流紋岩による石核である。大型の円礫から得た厚手の剥片を素材



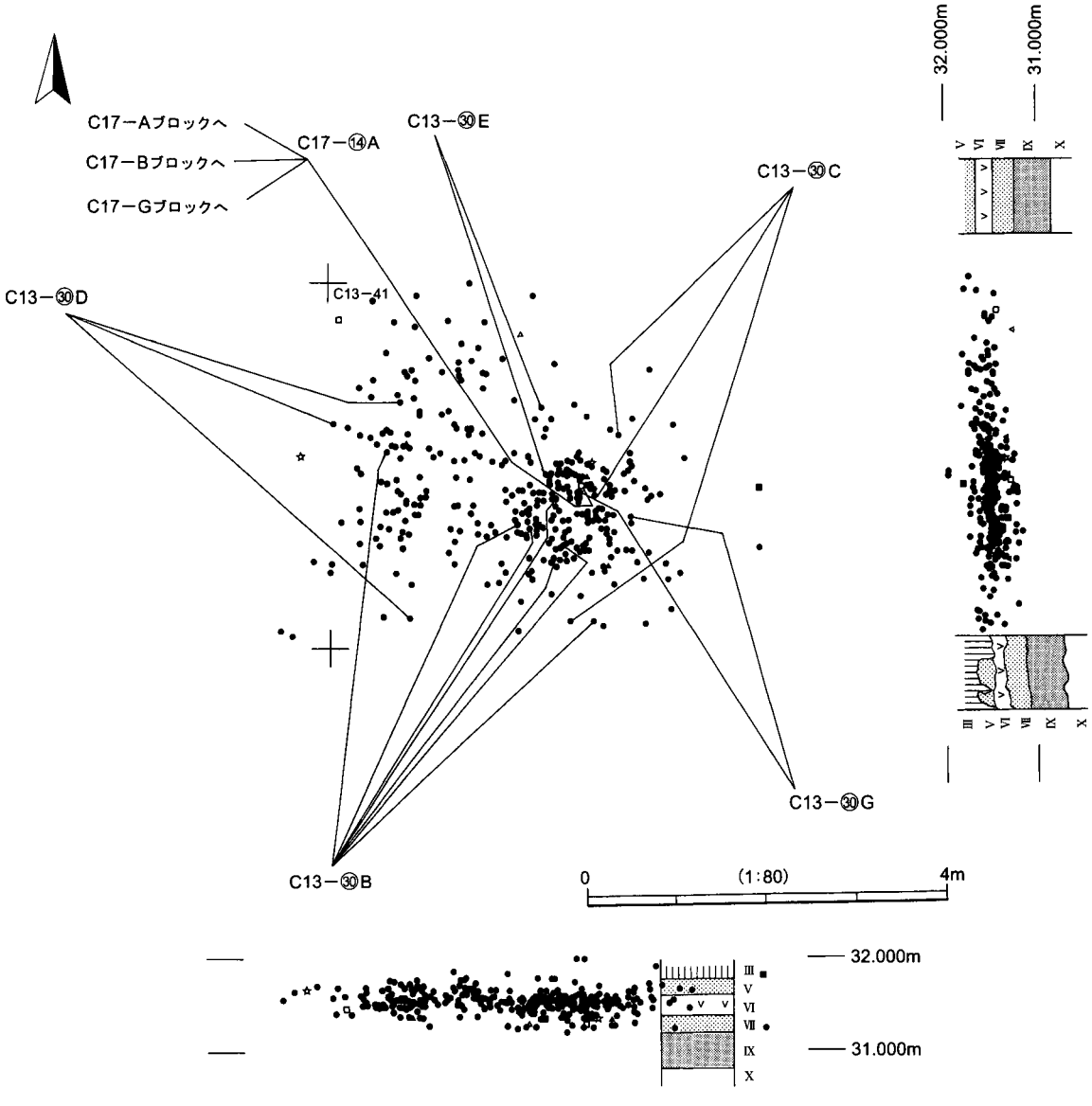
第29図　C13-Ｃブロック出土遺物分布図（４）　－石材別分布図（１）－

とし，素材の表面側で求心的な打点移動によって不定型の剥片を生産している。同一母岩がC17-A・Bブロック等に多量に分布する。30は，チャートによる不定型な剥片，31は，ホルンフェルスによる剥片素材の石核である。

4）接合資料とその関連資料（第31～34図）

・C13-㉚（第31図1～8，第32図9～13，第33図14～19，第34図20～26） 漆黒色不透明の黒曜石で，ナイフ形石器1点，剥片170点（163個体），砕片162点，石核3点の合計336点で構成される。

1は，剥片9点（8個体；2～8）と石核1点（9）の接合資料である（接合資料A）。各面とも節理面（黄褐色の不純物の層）と剥離面に覆われ，自然面は残されていないことから，本接合資料では原石の性状はわからない。ただし，同一母岩に角礫面を残すものがあり，原石の大きさは不明であるものの，粗く分割された礫片を石核の素材としたのであろう。石核に残された剥離面の状況から，石刃を生産した個体と考えられるが，欠損した剥片1点（5）が石刃の可能性があるものの，それ以外に石刃は見あたらな



第30図　C13-Cブロック出土遺物分布図（5）　－石材別分布図（2）－

い。良好な資料は搬出されたと考えられる。

接合資料から見た剥片剥離作業は，①：原石を粗く分割し，石核の素材を得る。実測図の左右の側面（C・D面）に残る広い剥離面が分割面にあたると考えられる（D側面がネガティブ，C側面がポジティブな面)。②：実測図下位に打面を作る。この時，7が正面から奥に向かって剥離される。③：下設の打面から縦長の剥片（あるいは石刃）が剥離される。④：裏面にある不純物の層を除去する石核調整で，上端から下位に向けて打点を移動しながら，2→3→4の順に不定型の剥片を剥離している。⑤：上設の打面を作る。打面の形成は，下設の打面と同様，正面から奥に向かって行われる。これは，正面に作業面を限定するためであろう。⑥：上設の打面から5，6を含む縦長剥片（あるいは石刃）を剥離する。打面は平坦で，細部調整はほとんど見られない。⑦：左側面（D面）を打面とし，裏面側で8を剥離する。④と同様の石核背面調整を意図したと考えられるが，石核（9）の裏側が大きく抉られてしまう。これにより石核は放棄され，作業が終了する。

10は，剥片2点（12・13）と石核1点（11）の接合資料である（接合資料C)。

接合資料から見た剥片剥離作業は，①：厚手の剥片を石核素材とする。素材の主要剥離面は，10の裏面に広く残る剥離面である。ただし，上面（打面）の剥離面もポジティブな剥離面であり，分割された礫片による石核から剥離された厚手の剥片を石核に用いていると考えられる。②：上面を打面，表面を作業面として，12→13の順に小型で細身の剥片を剥離している。

14は，剥片6点（4個体；15～18）と石核1点（19）の接合資料である（接合資料B)。

接合資料から見た剥片剥離作業は，①：大型厚手の剥片を剥離し，石核の素材とする。実測図14の表面には自然面が残されており，原石が角礫であることがわかる。また，裏面には素材の主要剥離面が広く残されている。②：右側面にある不純物の塊を除去する。表面から裏面に向かって，15→16の順で不定型の剥片を剥離している。③：上端に打面を設け，左側面（石核の小口の部分）を作業面として，17→18の順に目的とする縦長剥片を剥離している。

20は，幅広の縦長剥片を素材とした2側縁調整のナイフ形石器である。素材の打面を基部に残し，左側縁全体と右側縁の基部寄りに調整加工を行っている。左側面は表裏両側から調整しており，この加工面は表裏と直交する。裏面の基部には，打瘤の除去と考えられる平坦な調整加工が見られる。

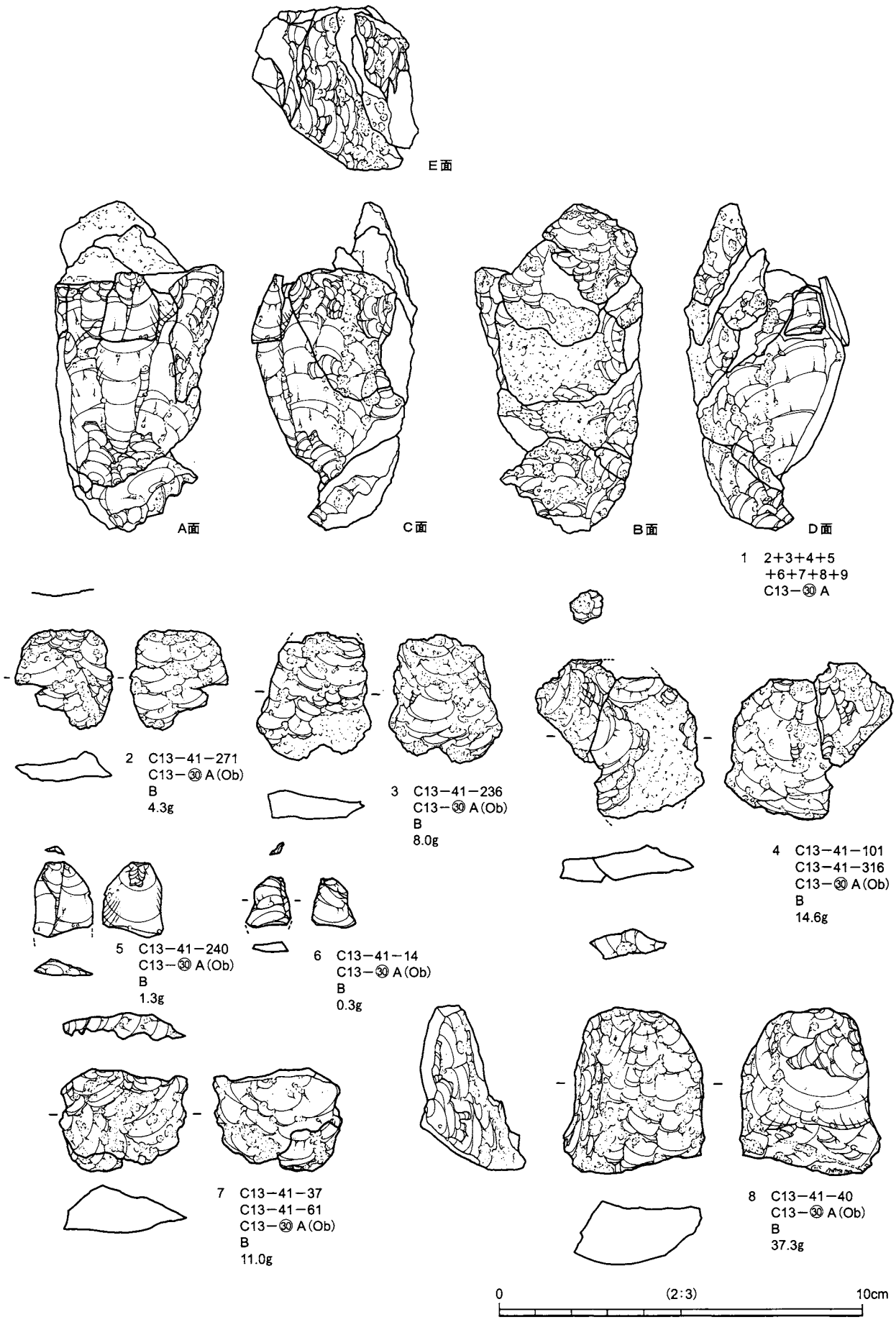
21～26は，不定型の剥片である。表裏のいずれかに不純物の層があり，概ね，石核の打面形成ないしは

第9表　C13-Cブロック母岩別石器組成表

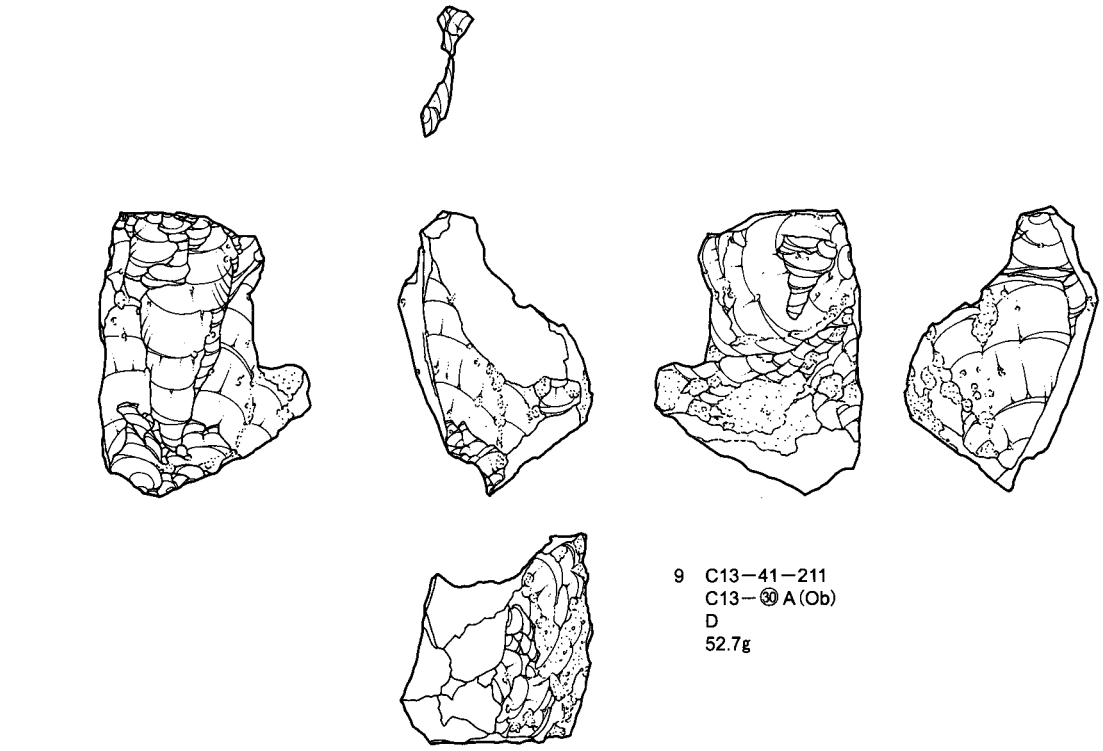
母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C13-㉕(Csh)																			1			1		1
C13-㉗(Ag)																			2			2		2
C13-㉘(Ho)																					1	1		1
C13-㉙(Ch)																			1			1		1
C13-㉚(Ob)	1																		170(163)	162	3	336(329)		336(329)
C17-㉔(Rh)																					2	2		2
その他(Csh)											1								1			2		2
その他(Ho)																				1		1		1
合　計	1										1								175(168)	163	6	346(339)		346(339)

第10表　C13-Cブロック石材別石器組成表

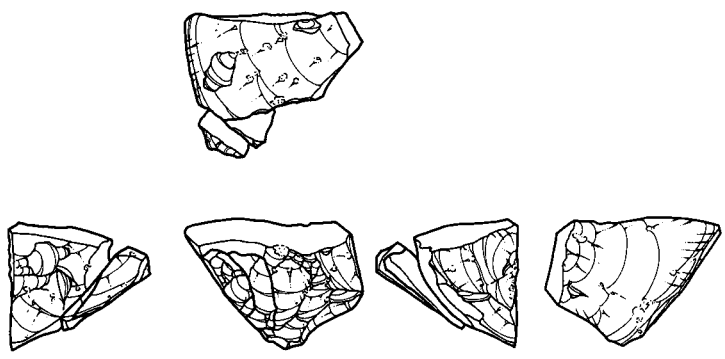
石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)	1																		170(163)	162	3	336(329)		336(329)
流紋岩(Rh)																					2	2		2
珪質頁岩(Csh)											1								2			3		3
チャート(Ch)																			1			1		1
ホルンフェルス(Ho)																				1	1	2		2
メノウ(Ag)																			2			2		2
合　計	1										1								175(168)	163	6	346(339)		346(339)



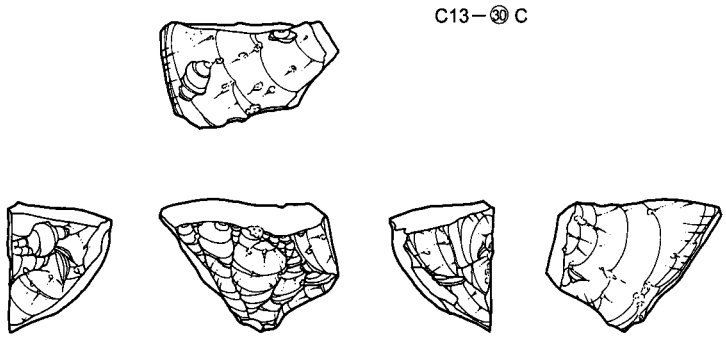
第31図　C13-Cブロック出土遺物実測図（1）



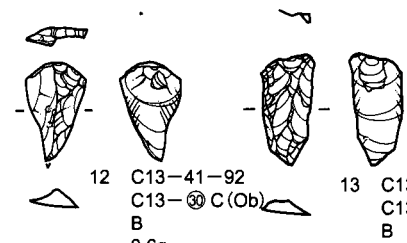
9　C13−41−211
C13−㉚A(Ob)
D
52.7g



10　11+12+13
C13−㉚C



11　C13−41−292
C13−㉚C(Ob)
D
15.1g

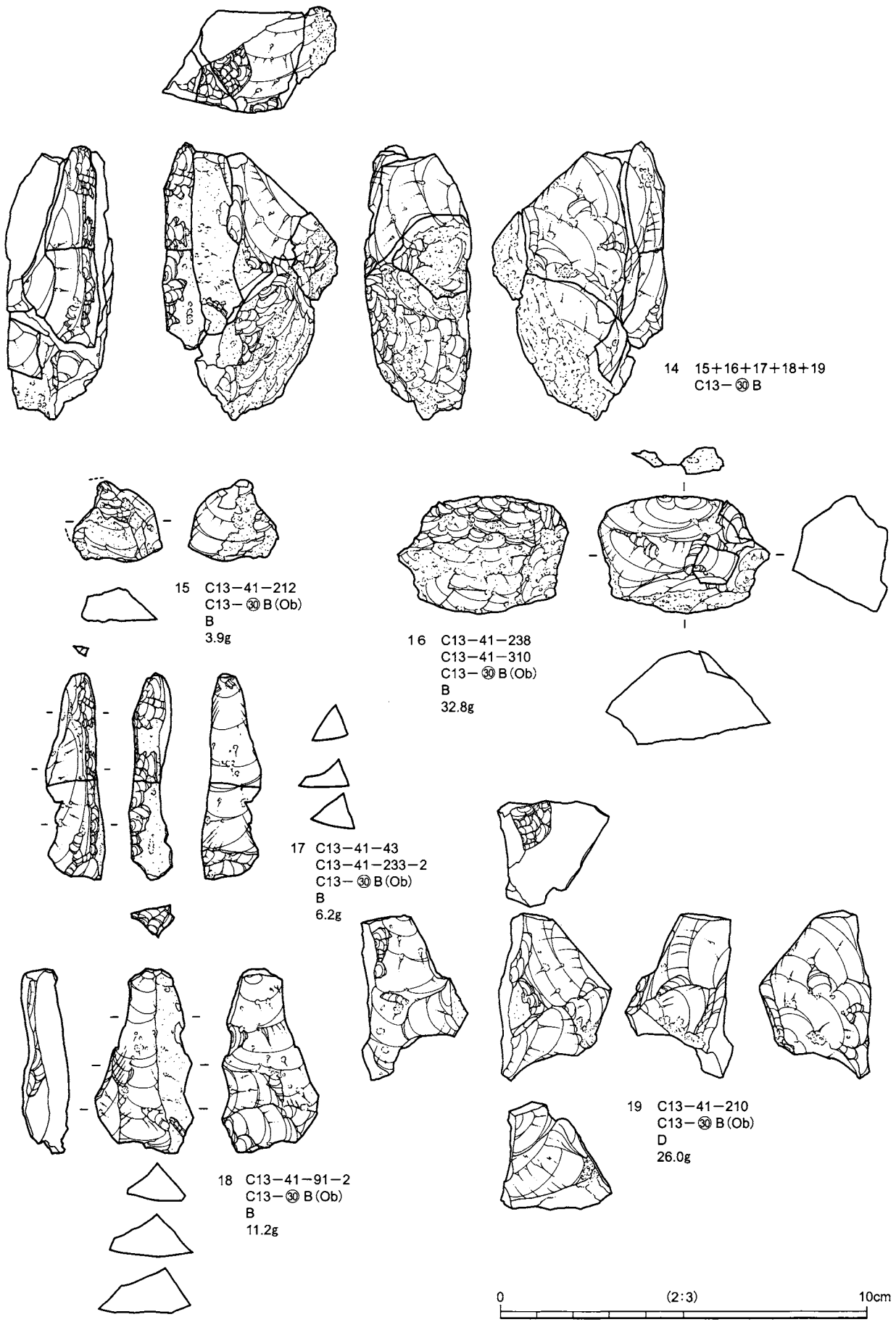


12　C13−41−92
C13−㉚C(Ob)
B
0.6g

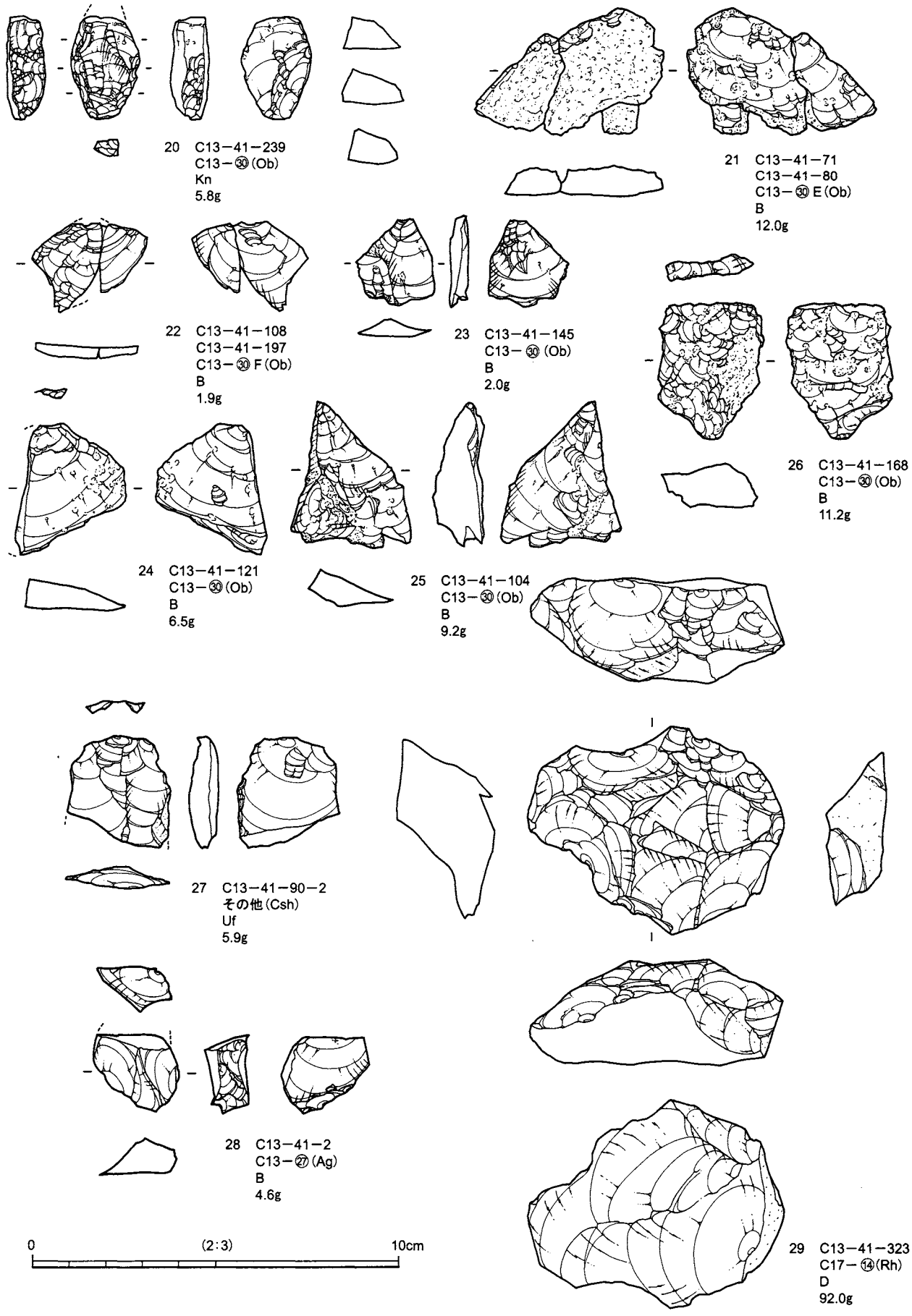
13　C13−41−198
C13−㉚C(Ob)
B
0.6g

0　(2:3)　10cm

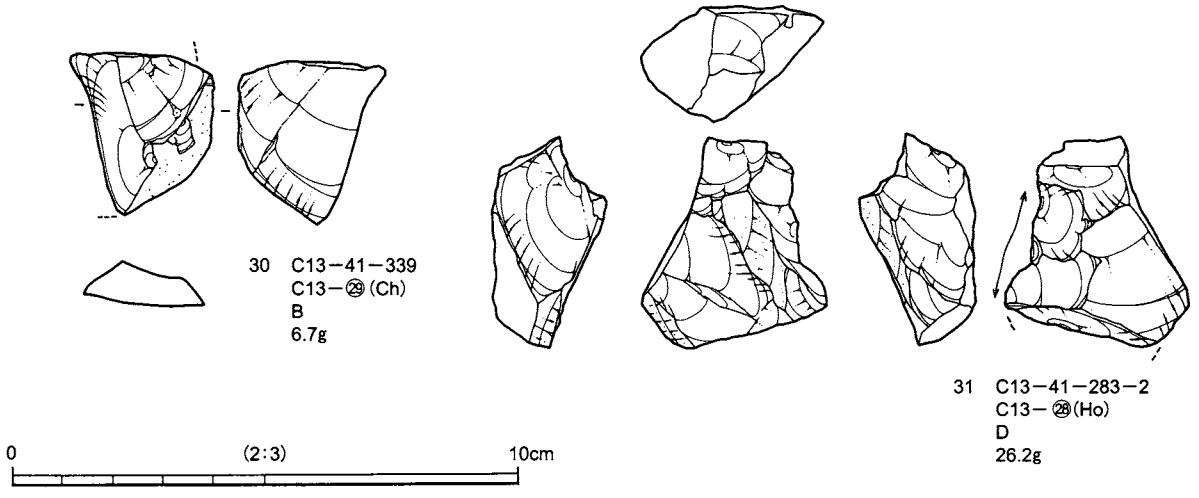
第32図　C13-Cブロック出土遺物実測図（2）



第33図　C13-Cブロック出土遺物実測図（3）



第34図　C13-Cブロック出土遺物実測図（4）



第35図　C13-Cブロック出土遺物実測図（5）

側面調整の際に剥離されたと考えられる。

4　C13-Eブロック（第36〜38図，第11・12表）

1）ブロックの概要

C13-Eブロックは，調査区東部のC13-09・10・20グリッドに位置する。ブロックの立地は，南西に向かって開く谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点までの距離は16mほどである。

ブロックの規模と形状は，長軸5m，短軸3mの範囲に10点の石器・礫が散漫に分布する。出土層位はⅦ層からⅨ層にかけてが6点，Ⅲ層からⅣ層にかけてが4点で，これをすべて同一文化層とすべきか問題を残すが，資料数が少なく垂直分布の傾向が不明瞭なことから，今回は一括して扱った（第36・37図）。

ブロックは，加工痕ある剥片1点，使用痕ある剥片2点，剥片3点，礫4点の合計10点で構成される。石器石材は，黒曜石1点，安山岩4点，珪質頁岩1点，礫石材は，頁岩2点，砂岩2点である。礫は，母岩分類のできたものが4点（4母岩）で，3点は完形ないしは完形に近いものである。

2）母岩の特徴と内容

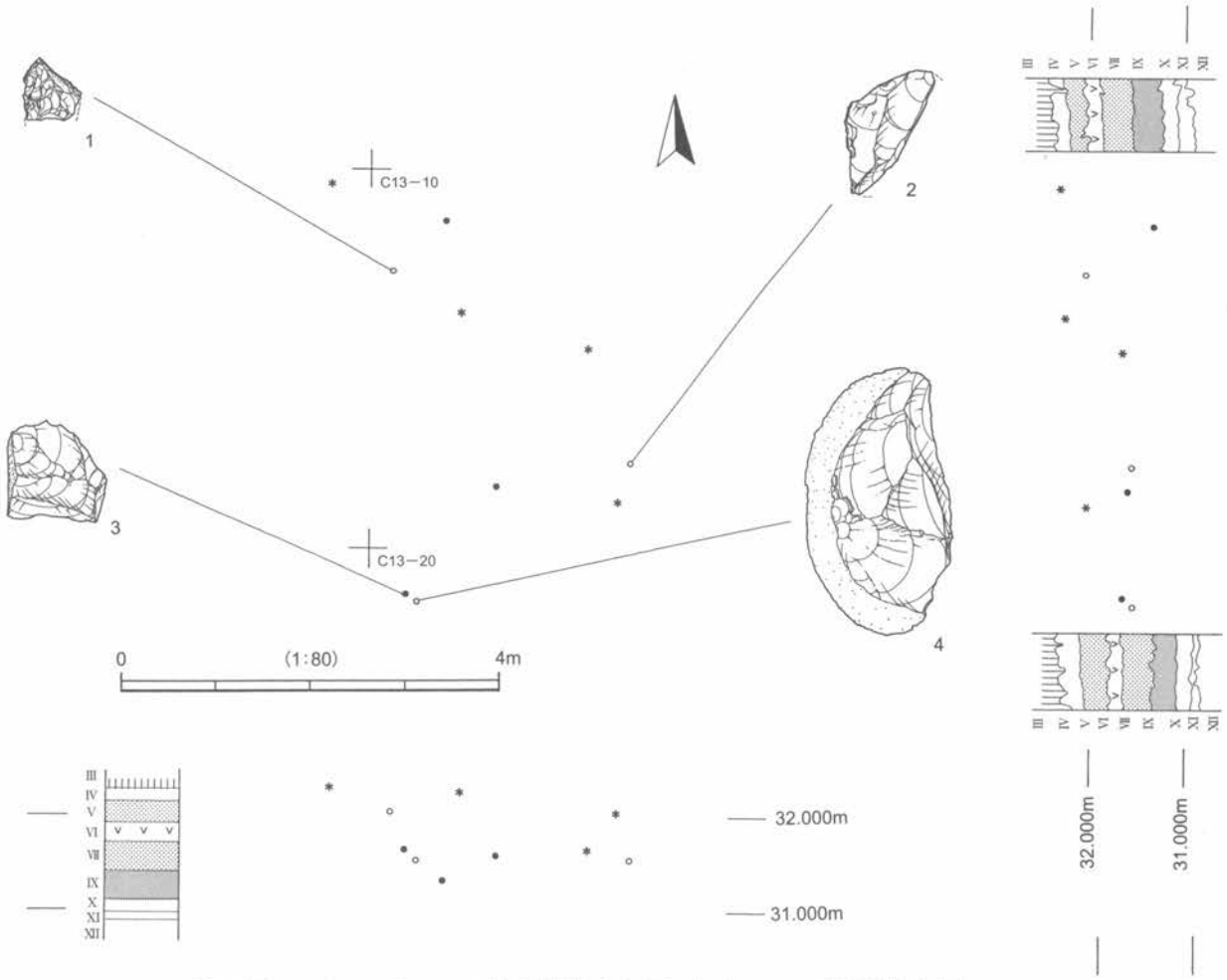
本ブロックでは，安山岩1母岩（C13-⑱）を識別したにすぎない。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は17%（1/6点）である。

・C13-⑱：黒灰色で部分的にきめの粗い安山岩である。節理面は赤褐色で，白色の夾雑物を少量含む。本ブロックでは剥片1点（11.0g）の単独資料であるが，同一母岩がC13-Hブロックに6点あり，そのうちの4点と本ブロックの資料が接合する（接合資料C13-⑱B）。

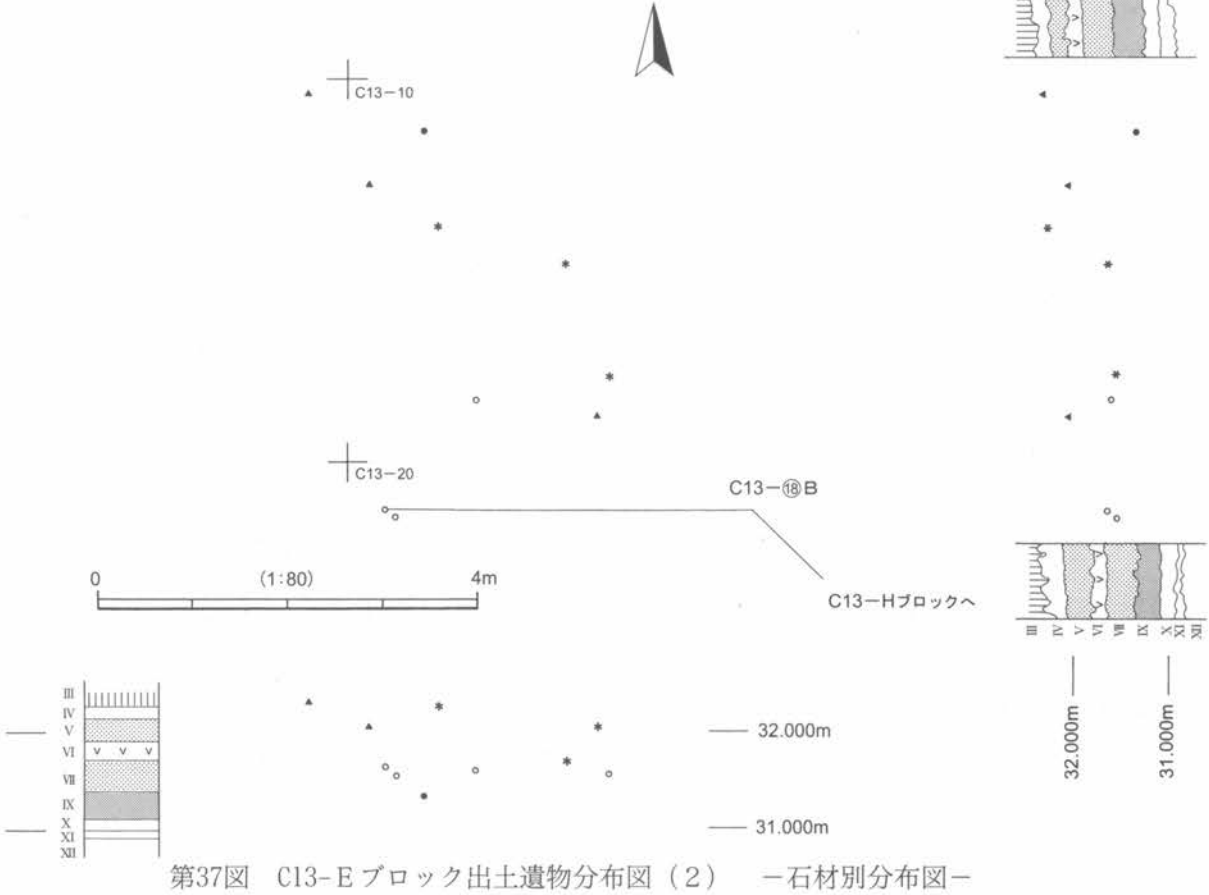
なお，母岩分類できなっかった資料に，黒曜石の小型の剥片1点(0.5g)，安山岩の使用痕ある剥片2点，剥片1点（合計91.2g），嶺岡産珪質頁岩の加工痕ある剥片1点（3.3g）がある。

3）出土遺物（第38図）

1は，加工痕ある剥片である。左側縁には裏面から調整加工がなされているが，下半部を大きく折損するため，全体の形状は不明である。右側面は，表面側から折ったようになっている。表面の一次面は不定



第36図　C13-Eブロック出土遺物分布図（1）　−石器別分布図−



第37図　C13-Eブロック出土遺物分布図（2）　−石材別分布図−

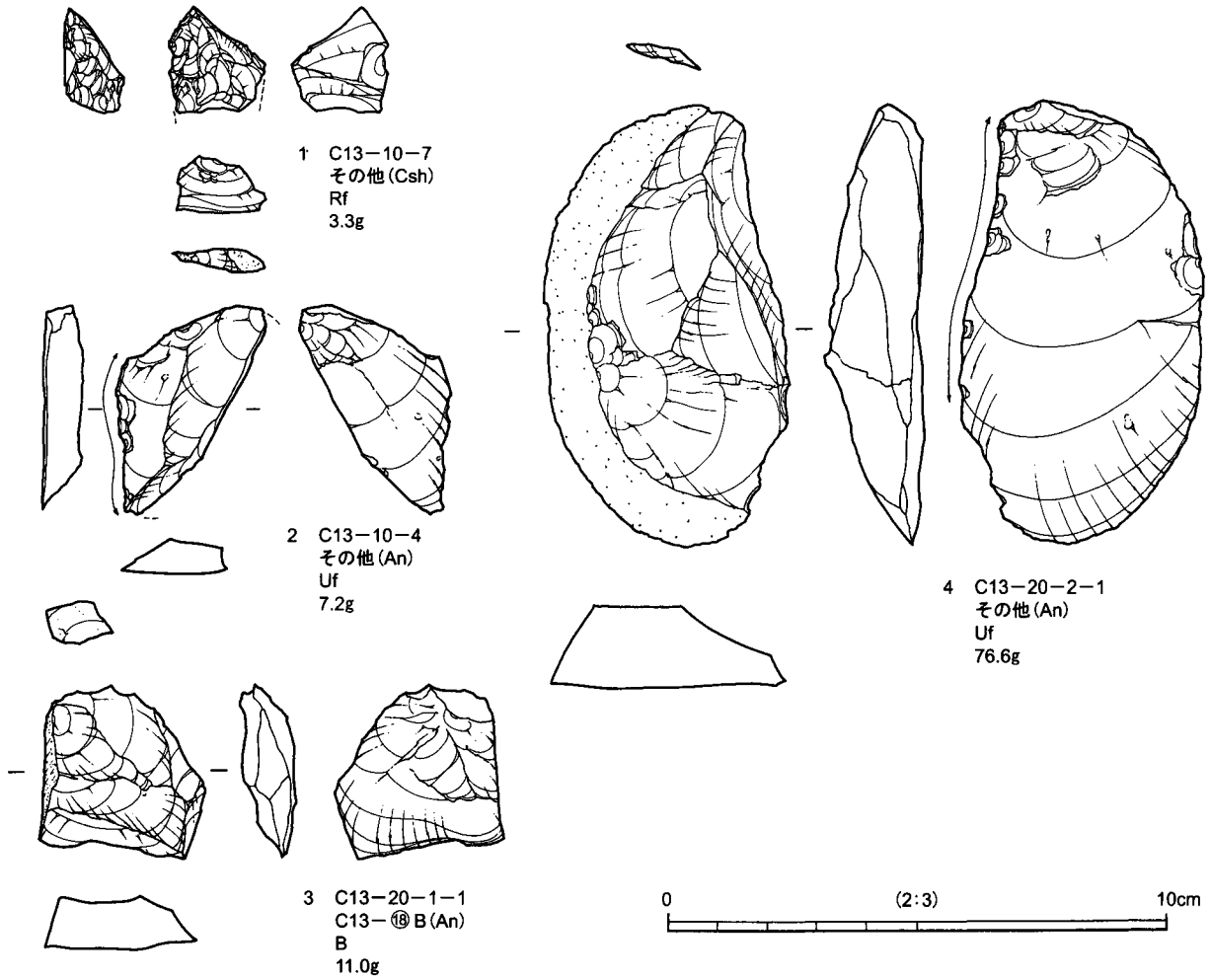
方向からで，比較的厚手の剥片である。ナイフ形石器の一種であろうか。石材は，黄褐色の部分と紫がかった灰色の部分のある嶺岡産珪質頁岩である。２は，打点から二つに割れた不定型な剥片を利用した使用痕ある剥片である。左側縁に刃こぼれが見られる。石材は，淡黒灰色の安山岩である。４も安山岩による不定型な剥片を用いた使用痕ある剥片である。裏面の左側縁に刃こぼれがある。表面は，主要剥離面とは直

第11表　C13-Eブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C13-⑱(An)																			1			1		1
その他(Ob)																			1			1		1
その他(An)											2								1			3		3
その他(Csh)										1												1		1
C13R-⑫(Sh)																							1	1
C13R-⑬(Sa)																							1	1
C13R-⑭(Sa)																							1	1
C13R-⑮(Sh)																							1	1
合　計										1	2								3			6	4	10

第12表　C13-Eブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)																			1			1		1
安山岩(An)											2								2			4		4
頁岩(Sh)																							2	2
珪質頁岩(Csh)										1												1		1
砂岩(Sa)																							2	2
合　計										1	2								3			6	4	10



第38図　C13-Eブロック出土遺物実測図

交する方向の剥離面と自然面によって構成されている。比較的大型の円礫から剥離されたと考えられる。３は，不定型の剥片である。４と同様，表面と裏面の剥離方向は直交する。C13-Hブロックの資料と接合する。

5　C13-Hブロック（第39～44図，第13・14表）

1）ブロックの概要

C13-Hブロックは，調査区東部のC13-67・68・76～78・87・88グリッドに位置する。ブロックの立地は，南西に向かって開く谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点までの距離は５ｍほどである。

ブロックの規模と形状は，直径９ｍの範囲に52点の石器・礫が分布する。細かく見ると，ブロック中央部は空白となっており，北側は散漫に，南側はややまとまって分布する。礫も11点中10点がブロック南端にまとまりを見せている。出土層位はⅦ層を中心としており，各石器は60cmほどの高低差をもって，東に向かって緩やかに下って包含されている（第39～41図）。

ブロックは，ナイフ形石器３点，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片４点，剥片33点，礫11点の合計52点で構成される。石器石材は，黒曜石１点，安山岩15点，安山岩（トロトロ石）１点，頁岩３点，珪質頁岩17点，チャート３点，ホルンフェルス１点，礫石材は，頁岩２点，チャート５点，砂岩４点である。礫は，11点すべてが単独母岩で，長軸３～４cm，短軸２cm程度の小型の完形品である。石質によって不鮮明な場合もあるが，概ね被熱していると考えられる。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは５母岩を識別した。内訳は，安山岩１母岩（C13-⑱），珪質頁岩３母岩（C13-⑲・⑳・㉒），チャート１母岩（C13-㉑）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は24%（10/41点）である。

・C13-⑱：黒灰色の安山岩で，母岩の特徴は，C13-Eブロックで記したとおりである。石器群の内訳は剥片６点（合計56.5ｇ）で，二組に分かれて接合する。接合資料Aは，剥片２点が表裏で接合するもの（合計19.9ｇ），接合資料Bは，本ブロックの剥片４点（合計36.4ｇ）とC13-Eブロックの剥片１点とが表裏で接合するものである。ブロックの西南部に偏って分布する。

・C13-⑲：黄白色できめ細かな珪質頁岩である。ナイフ形石器１点(2.7ｇ）の単独資料である。

・C13-⑳：黄褐色の地に淡褐色の縞が入る珪質頁岩である。剥片１点(1.4ｇ）の単独資料である。

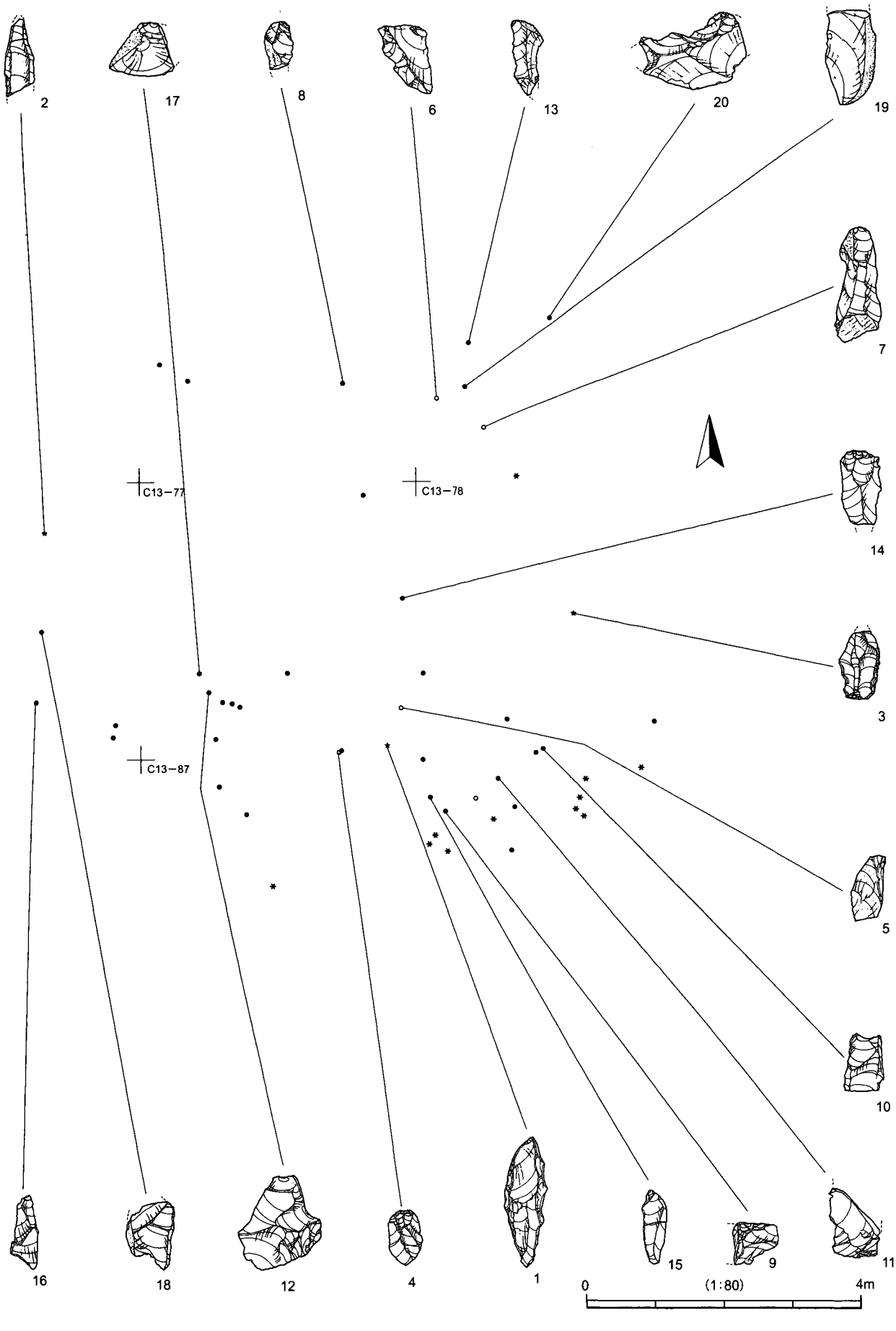
・C13-㉑：灰緑色の地に青みがかった黒色の縞が入るチャートである。自然面は黒褐色，節理面は赤褐色である。使用痕ある剥片１点（8.5ｇ）の単独資料である。

・C13-㉒：灰緑色で硬質緻密な珪質頁岩である。自然面は橙褐色，節理面は黄褐色である。自然面は平滑であるが，転石時に生じたと考えられる爪形の痕跡が多数あることから，原石は大型の円礫と考えられる。剥片１点（15.0g）の単独資料である。

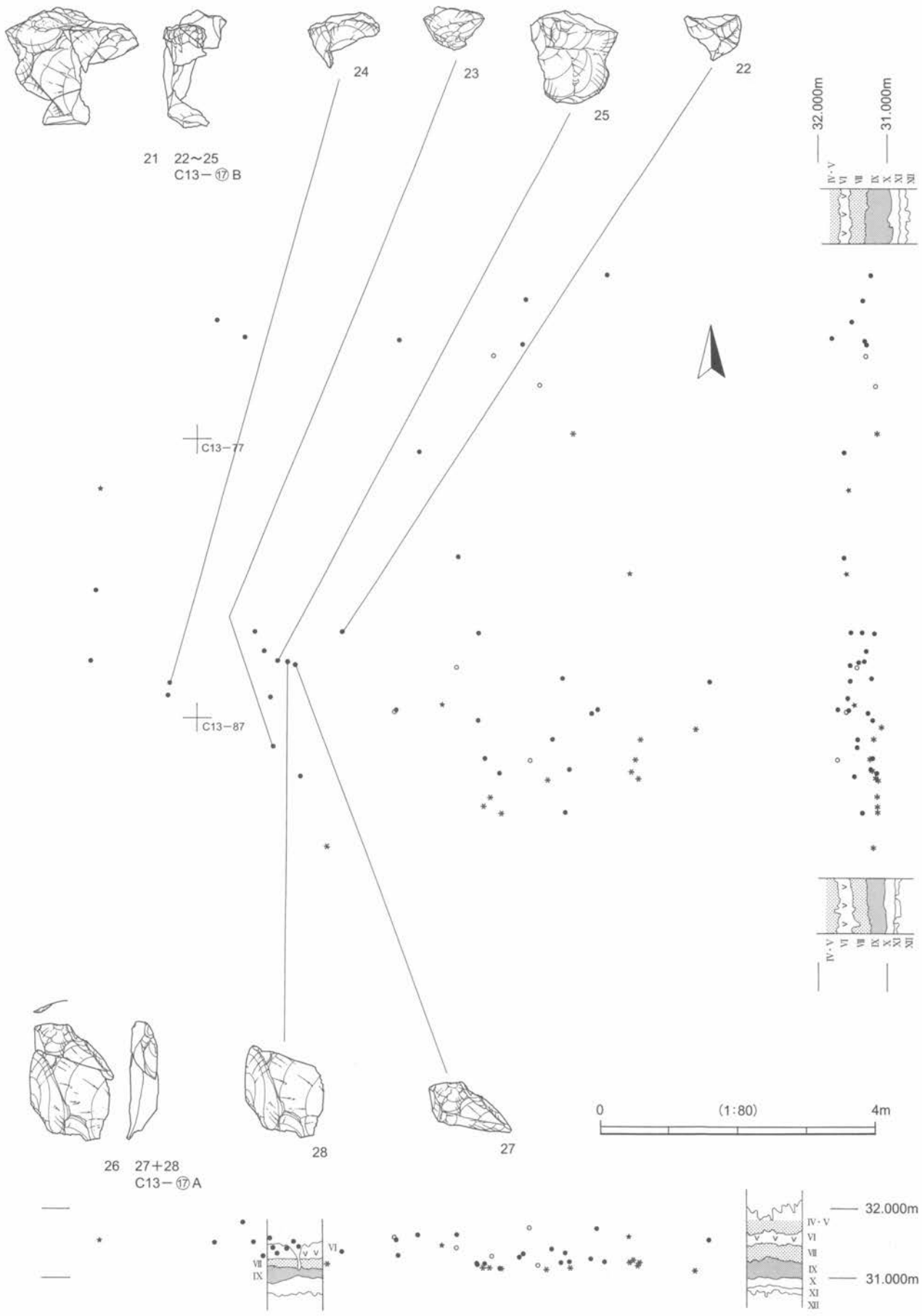
なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石の剥片１点（0.8ｇ），安山岩のナイフ形石器１点，剥片８点（合計54.0ｇ），安山岩（トロトロ石）の剥片１点（1.0ｇ），頁岩のナイフ形石器１点，剥片２点（合計3.4ｇ），嶺岡産珪質頁岩の加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片３点，剥片10点（合計22.0ｇ），チャートの剥片２点（合計2.5ｇ），ホルンフェルスの剥片１点（1.0ｇ）がある。

3）出土遺物（第42・43図）

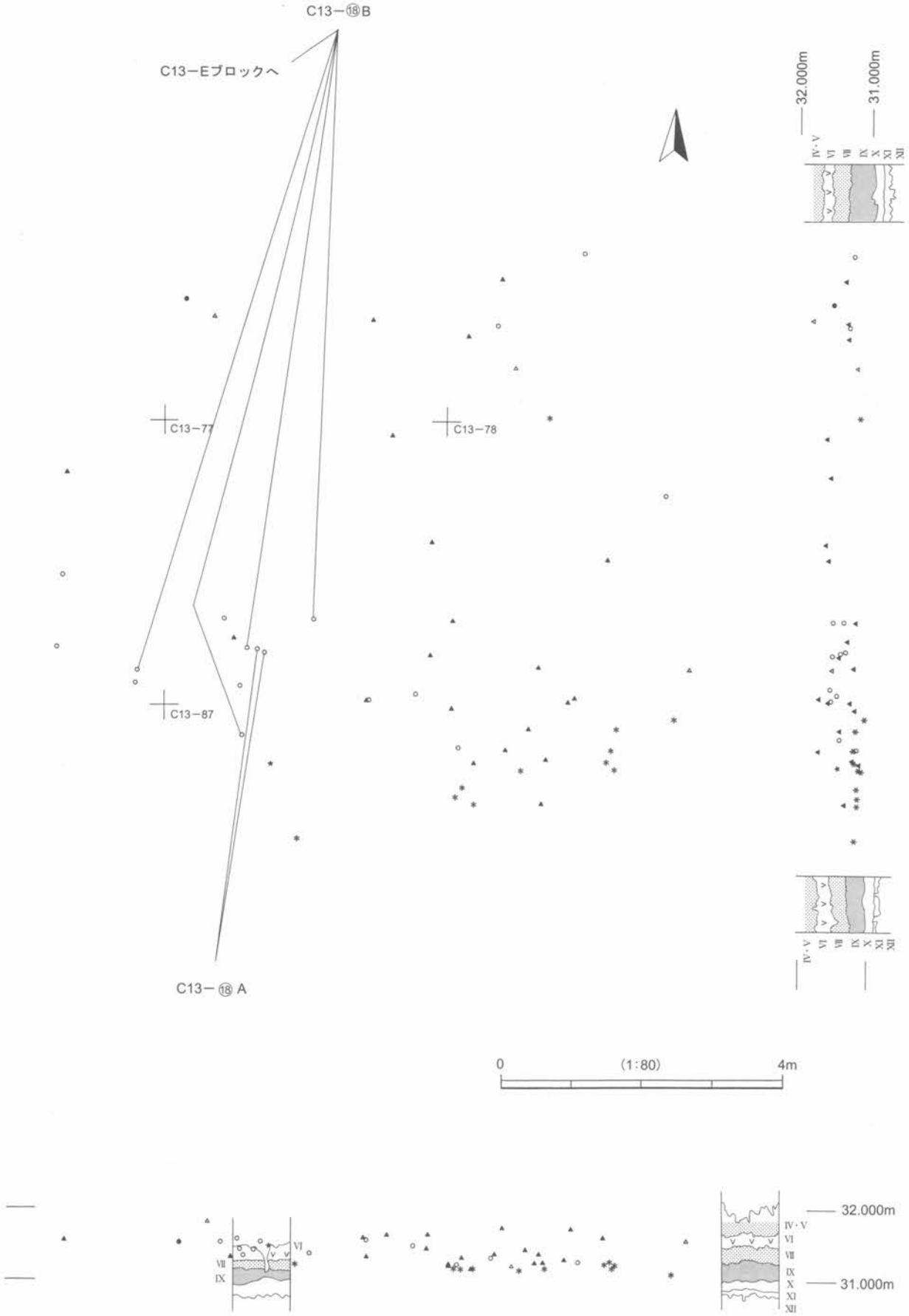
１は，横長剥片を素材としたナイフ形石器である。両側縁の大半に調整加工がなされているが，特に基



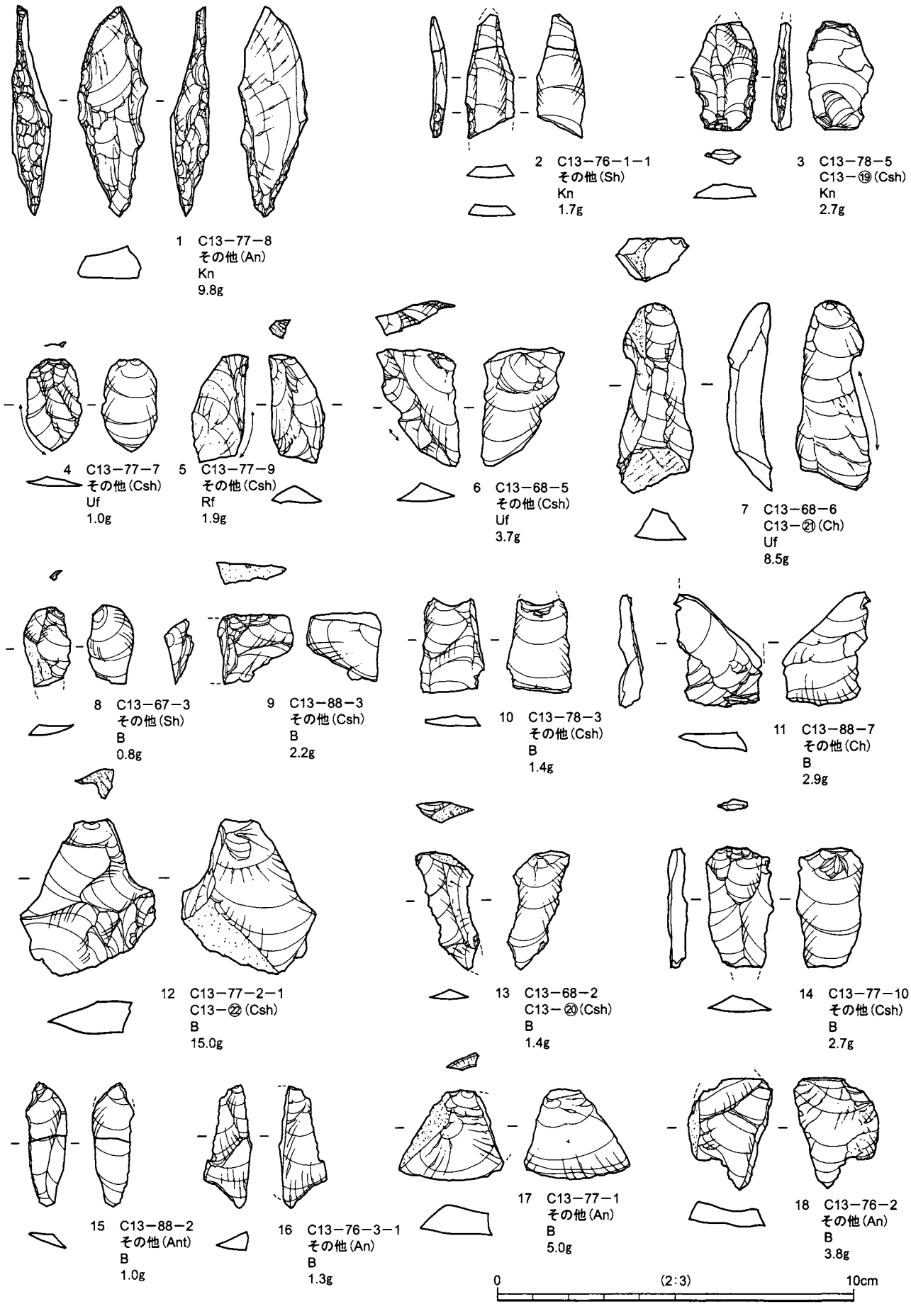
第39図　C13-Hブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図（1）－



第40図　C13-Hブロック出土遺物分布図（2）　－石器別分布図（2）－



第41図　C13-Hブロック出土遺物分布図（3）　−石材別分布図−



第42図　C13-Hブロック出土遺物実測図（1）

部は，表裏両方向から細かく調整されており，調整加工面と表裏面とのなす角度が直角に近くなっている。石材は，黒灰色の安山岩である。２は，石刃を素材とするナイフ形石器である。先端，基部ともに欠損するため細かな点は不明であるが，基部調整のナイフ形石器と考えられる。石材は，黄灰色に風化したやや軟質の頁岩である。３も石刃を素材とするナイフ形石器である。素材の打面を基部に広く残し，右側面を中心に調整加工を行っている。石材は，黄白色で硬質緻密な珪質頁岩である。

４～７は，使用痕ある剥片である。４～６は嶺岡産珪質頁岩，７はチャートによる不整形の縦長剥片を用いている。

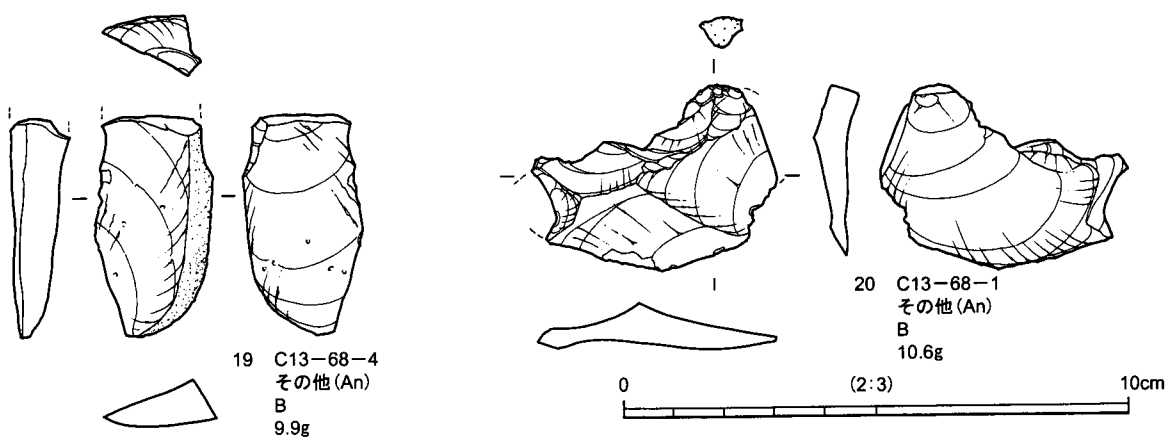
８～20は，各種剥片である。14・15は石刃，８～11，13・16・19は不整形の縦長剥片である。12・17・

第13表　C13-Hブロック母岩別石器組成表

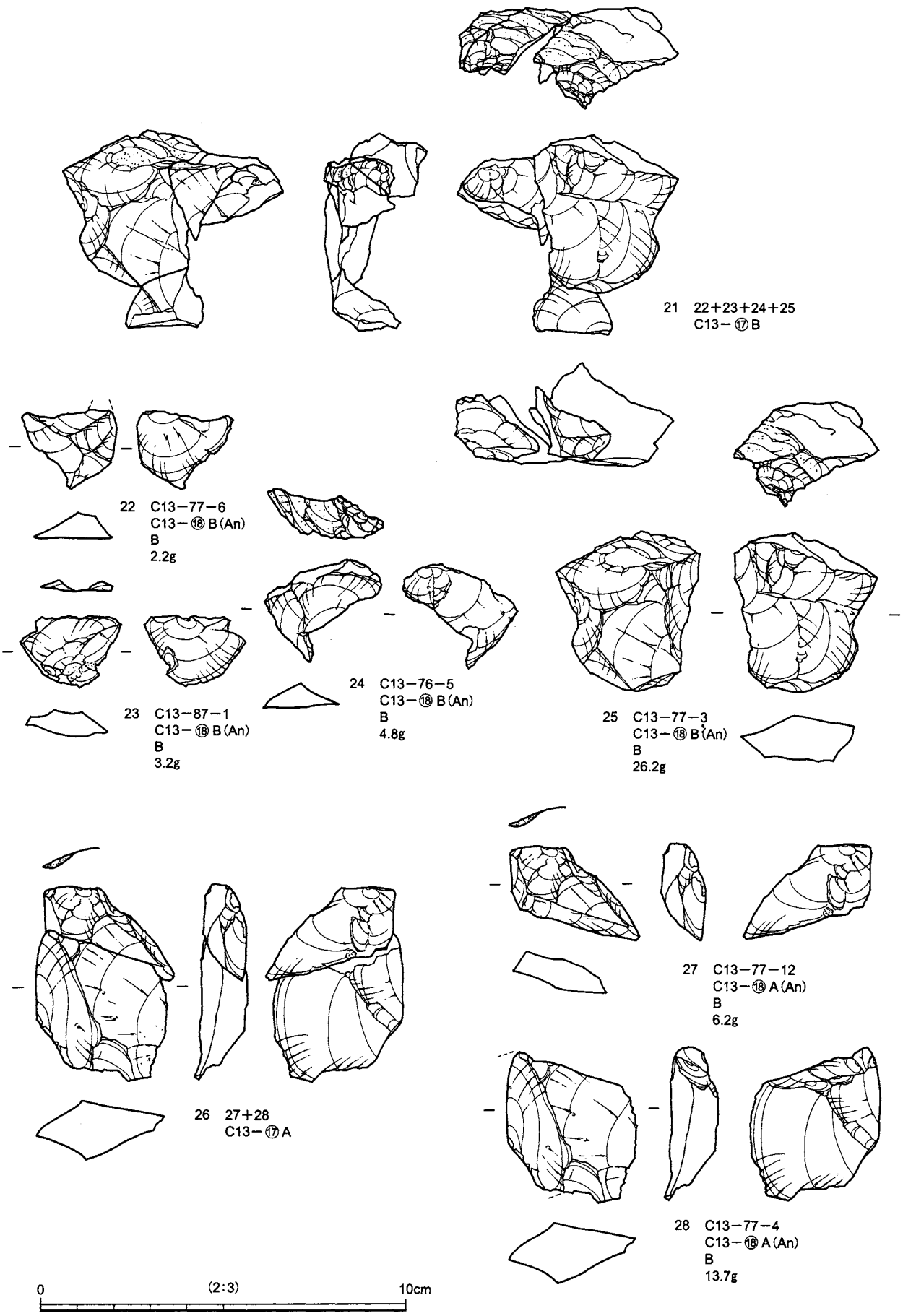
母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C13-⑱(An)																			6			6		6
C13-⑲(Csh)	1																					1		1
C13-⑳(Csh)																			1			1		1
C13-㉑(Ch)											1											1		1
C13-㉒(Csh)																			1			1		1
その他(Ob)																			1			1		1
その他(An)	1																		8			9		9
その他(Ant)																			1			1		1
その他(Sh)	1																		2			3		3
その他(Csh)										1	3								10			14		14
その他(Ch)																			2			2		2
その他(Ho)																			1			1		1
C13R-①(Ch)																							1	1
C13R-②(Sa)																							1	1
C13R-③(Sa)																							1	1
C13R-④(Sa)																							1	1
C13R-⑤(Ch)																							1	1
C13R-⑥(Sh)																							1	1
C13R-⑦(Sh)																							1	1
C13R-⑧(Ch)																							1	1
C13R-⑨(Ch)																							1	1
C13R-⑩(Sa)																							1	1
C13R-⑪(Ch)																							1	1
合　計	3									1	4								33			41	11	52

第14表　C13-Hブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)																			1			1		1
安山岩(An)	1																		14			15		15
安山岩(Ant)																			1			1		1
頁岩(Sh)	1																		2			3	2	5
珪質頁岩(Csh)	1									1	3								12			17		17
チャート(Ch)											1								2			3	5	8
砂岩(Sa)																							4	4
ホルンフェルス(Ho)																			1			1		1
合　計	3									1	4								33			41	11	52



第43図　C13-Hブロック出土遺物実測図（２）



第44図　C13-Hブロック出土遺物実測図（3）

18は不定型の剥片，20は横長剥片である。概ね，表面は主要剥離面と同一方向ないしは全く逆方向の剥離面で構成されている。17の表面にはポジティブな剥離面があり，剥片素材の石核から剥離されたことがわかる。石材は，８～11・14が嶺岡産珪質頁岩，12・13が産地不明の珪質頁岩，15～20は安山岩である。

４）接合資料とその関連資料（第44図）

・C13-⑱（第44図21～28）　黒灰色の安山岩で，剥片６点で構成される。また，C13-Eブロックに剥片１点が分布しており，本ブロックの４点と接合する。

21は，本ブロックに分布する剥片４点（21～25）の接合資料である。接合資料から見た剥片剥離技術は，求心的な打点移動によって中・小型で不定型の剥片を剥離するものである。接合資料では剥離の順番が不明であるが，上位から23と24とが接合した状態のもの，下端から22が剥離され，次に25が剥離されている。図化していないが，最後にC13-Eブロックの剥片が剥離され，石核は持ち出されている。

26は，剥片２点の接合資料である。28→27の順に不定型の剥片を剥離している。打面は90度近く異なっている。

以上から，C13-Hブロックで剥片生産が行われ，①：その後，C13-Eブロックで作業が継続されたか，②：C13-Hブロックで得られた剥片の一部がC13-Eブロックで廃棄されたかのいずれかが考えられる。接合順では最後に剥離された剥片がC13-Eブロックに分布していたことから，前者の可能性が高いのではないだろうか。

６　C17-Aブロック（第45～55図，第15・16表）

１）ブロックの概要

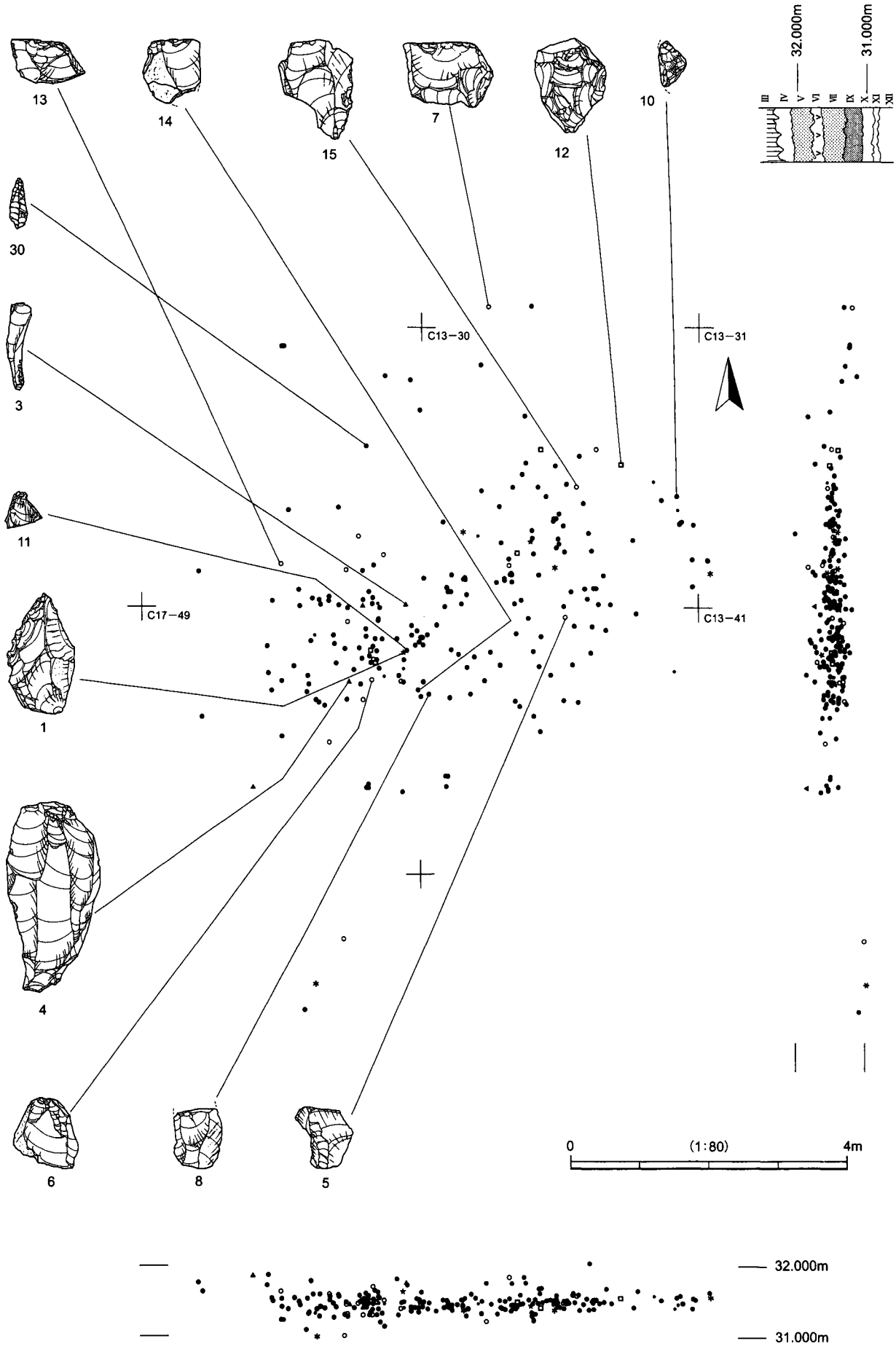
C17-Aブロックは，調査区東部のC13-20・30・31・40，C17-39・49・59グリッドに位置する。ブロックの立地は南西に向かって開く谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点までの距離は５ｍほどである。周辺には，同一文化層のブロックが密集している。

ブロックの規模と形状は，長軸10m，短軸７ｍの範囲に225点の石器・礫が分布するが，長軸７m，短軸４ｍほどの範囲に大多数の資料がまとまっている。出土層位はⅦ層からⅨ層上部にかけてで，各石器は50㎝ほどの高低差をもって，北に向かって緩やかに下って包含されている（第45～49図）。

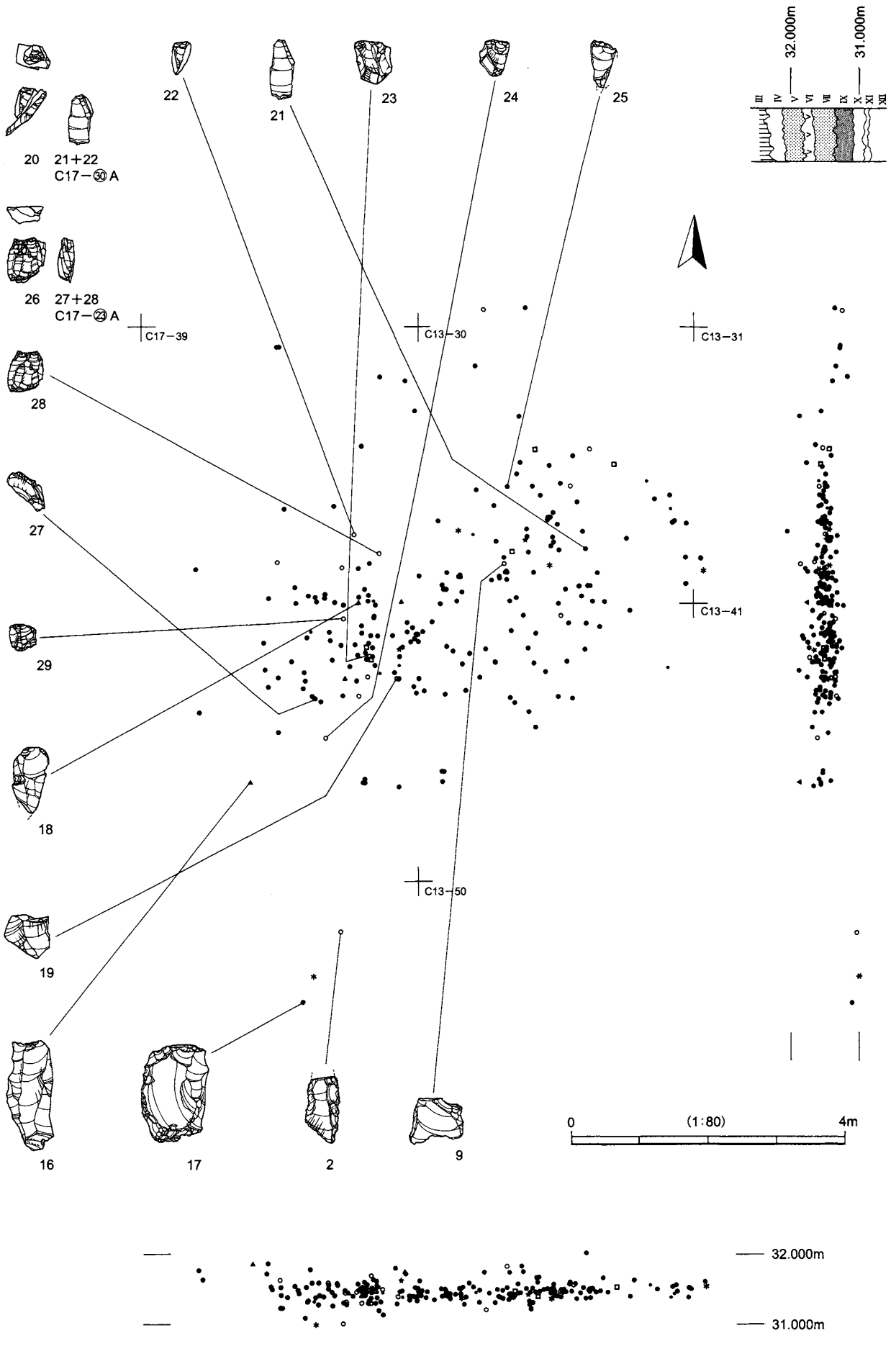
ブロックは，ナイフ形石器２点，削器２点，楔形石器８点，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片５点，石刃４点，剥片186点（183個体），砕片８点，石核５点，礫４点の合計225点（222個体）で構成される。石器石材は，黒曜石７点，安山岩３点，流紋岩108点，頁岩21点，珪質頁岩22点，砂岩19点，ホルンフェルス28点，メノウ13点，礫石材は，流紋岩１点，頁岩１点，チャート１点，砂岩１点である。礫は，母岩分類できたものが２点（２母岩），母岩の不明なものが２点である。前２者は完形品で，そのうちの一つは３㎝ほどの小円礫で被熱の痕跡はさほど明瞭ではない。もう一つは拳二つ分ほどの大型の円礫で，被熱のため全体が黒く煤けている。また，一部に敲打痕があり，楔形石器製作等のための台石として機能した時期のあった可能性が高い。

２）母岩の特徴と内容

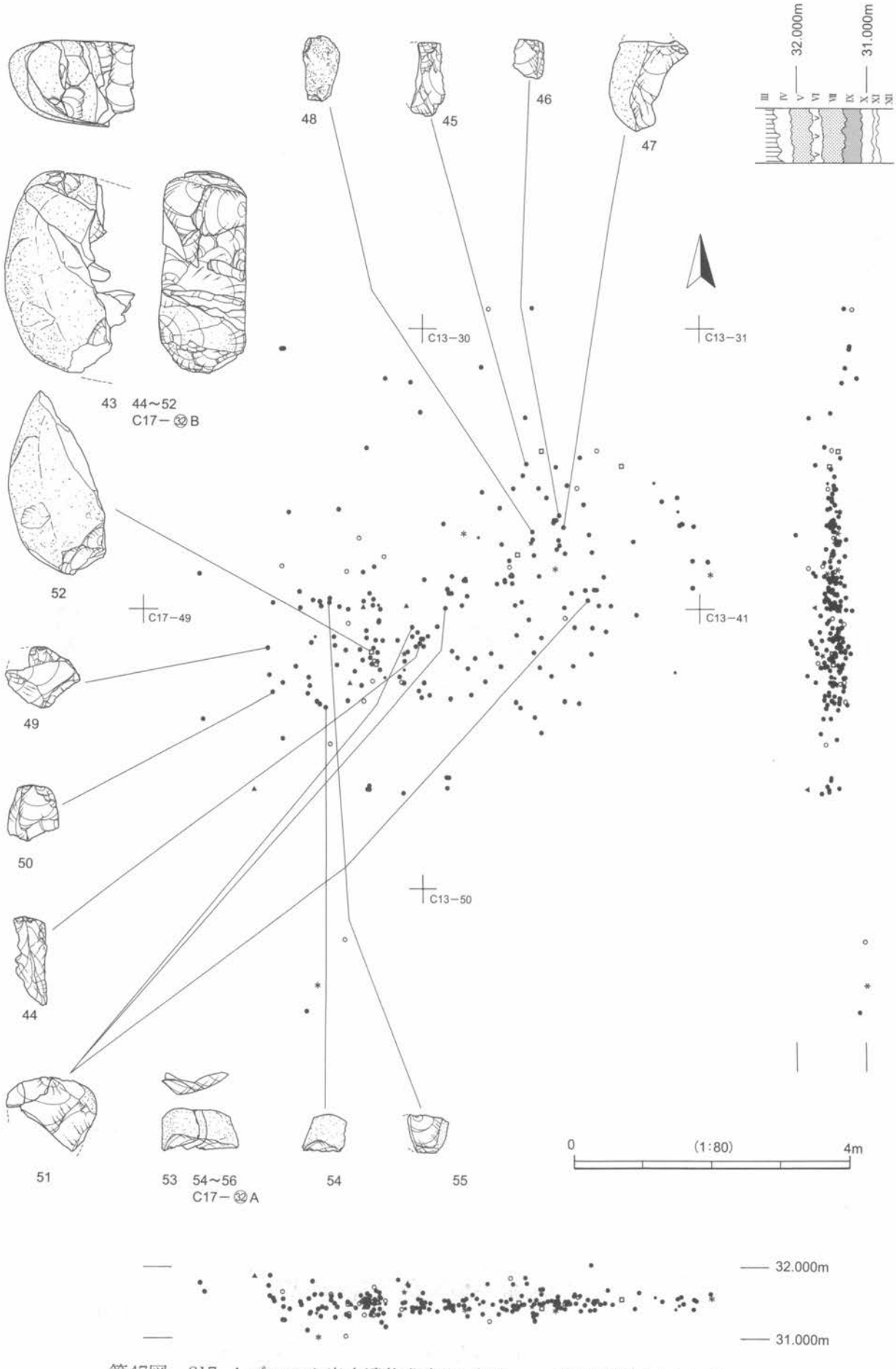
本ブロックでは15母岩を識別した。内訳は，流紋岩１母岩（C17-⑭），頁岩５母岩（C17-⑰・㊷～㊺），珪質頁岩３母岩（C17-㉓・㊱，C23-⑩），砂岩１母岩（C17-㊵），ホルンフェルス２母岩（C17-㉜・㊻），メノウ３母岩（C17-㉚・㊶・C23-⑬）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は84％（186/221点）



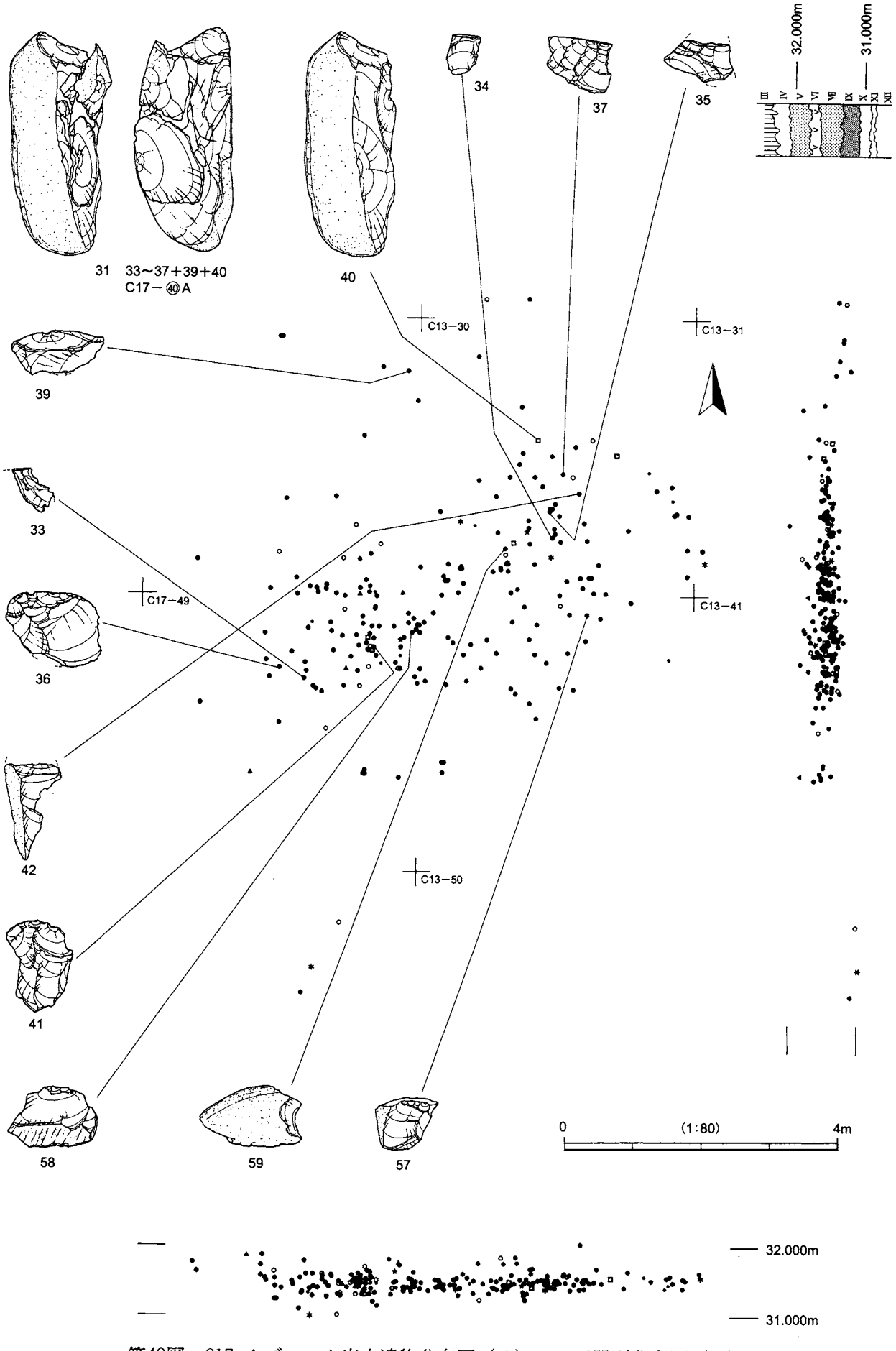
第45図　C17-Aブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図（1）－



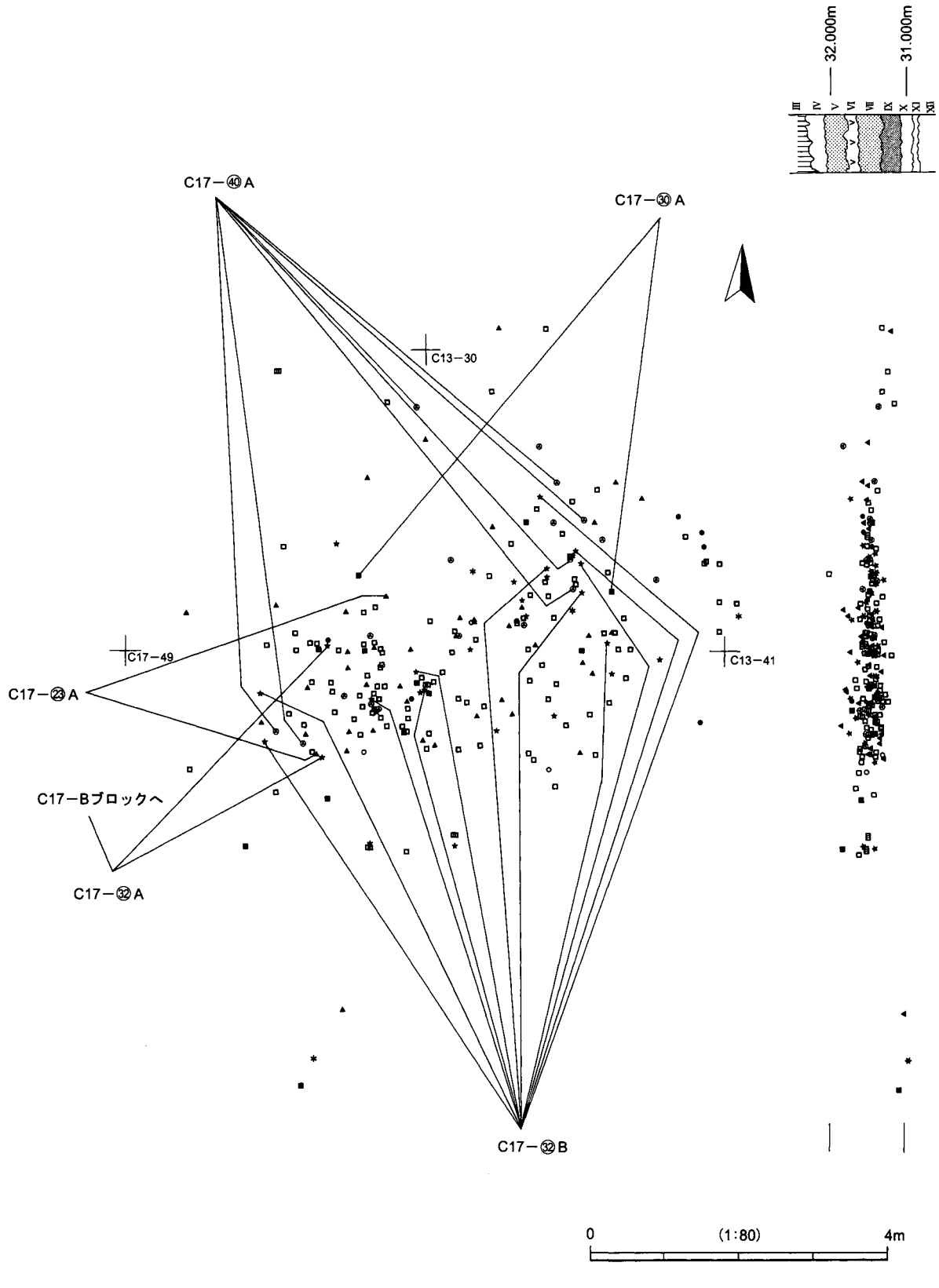
第46図　C17-Aブロック出土遺物分布図（2）　－石器別分布図（2）－



第47図　C17-Aブロック出土遺物分布図（3）　－石器別分布図（3）－



第48図　C17-Aブロック出土遺物分布図（4）　－石器別分布図（4）－



第49図　C17-Aブロック出土遺物分布図（5）　－石材別分布図－

である。

・C17-⑭：自然面は橙褐色から黄褐色，内部は灰緑色の地に黒色と白色の縞が帯状に入る流紋岩である。原石は，小児の頭ほどの大きさの円礫と思われる。

石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，剥片101点（98個体），砕片５点，石核１点の合計108点（105個体；315.2ｇ）である。

接合資料は７グループある。Ａグループは，剥片24点（22個体），石核１点の25点（23個体；153.0ｇ）が接合する資料で，このほかに，C13-Ｃブロックの石核１点，C17-Ｂブロックの剥片１点，石核１点，C17-Ｇブロックの剥片７点，石核６点が接合する。このうち，C17-Ｂブロックの剥片と石核は，本ブロックの剥片，石核にそれぞれ接合して１個体ずつになり，また，C17-Ｇブロックの剥片２点も，本ブロックの剥片と接合して２個体となっている。したがって，本ブロックとC17-Ｂ・C17-Ｇブロックとは，通常の剥片剥離作業で生産された剥片や石核の接合と，折損した剥片同士や破損した石核同士の接合の両者が見られる。

Ｂグループは，ナイフ形石器１点，剥片８点（７個体）の合計９点（８個体；82.8ｇ）による接合資料で，C17-Ｂブロックの剥片２点と接合している。

また，剥片１点がC17－Ｇブロックの剥片１点と接合して１個体となるもの（Ｄグループ），剥片２点が表裏で接合するもの（Ｅ～Ｇグループ）がある。

このほか，接合しない同一母岩は，C13-Ｃブロックに１点，C17-Ｂブロックに３点，C17-Ｇブロックに１点がある。

C17-⑭母岩については，本遺跡内，とくにC17-Ａブロックを中心としたブロックで，原石すべてを消費したと考えられる。

・C17-⑰：灰白色に風化した頁岩である。やや軟質ではあるが，きめが細かく均質である。石器群の内訳は，削器１点，楔形石器１点，使用痕ある剥片１点，剥片９点の合計12点（29.1ｇ）である。同一母岩は，C17-Ｂブロックに12点ある。本ブロックでは接合資料は見られないものの，小型の剥片類が主体を占めており，剥片剥離工程半ばの作業が行われたと考えられる。

・C17-㉓：灰褐色の地に灰白色の部分が混じる珪化度の高い珪質頁岩である。玉随の可能性もある。石器群の内訳は，楔形石器２点，剥片７点の合計９点（5.5ｇ）で，このうち，楔形石器１点と剥片１点が接合する（合計2.4ｇ）。このほかに，同一母岩がC17-Ｂブロックに１点ある。本ブロック内では，ブロックの東側に偏って分布する。

・C17-㉚：黄色みを帯びた乳白色のメノウである。石器群の内訳は，楔形石器３点，剥片２点の合計５点（5.7ｇ）で，このうち，楔形石器１点と剥片１点が接合する（合計2.4ｇ）。このほかに，同一母岩がC17-Ｂブロックに１点ある。ブロックの中心より北側に分布する。

・C17-㉜：自然面は黒灰色，内部は淡黒灰色のホルンフェルスである。原石は拳よりやや大きめの円礫と考えられる。石器群の内訳は，剥片26点（24個体），石核1点の合計27点（25個体；262.7ｇ）である。

接合資料は２つに分けられる。Ａグループは，本ブロックの剥片２点（合計3.2ｇ）とC17-Ｂブロックの剥片１点による接合資料，Ｂグループは，剥片10点（８個体）と石核１点による接合資料（合計222.2ｇ）である。

接合資料の概略は，原石から作業を開始してこれを二分した後，一方では剥片生産を実施しているが，個体消費の前半で中断して，その石核を持ち出している。もう一方の個体は，剥片生産をほとんど行うことなく石核を廃棄している。本母岩の分布は，ブロックの西南部にまとまるが，そのほかの範囲にも広く見られる。

・C17-㊱：灰緑色の地に白色と濃紫色の縞があり，節理面は橙褐色の嶺岡産珪質頁岩である。本ブロックでは，削器１点（2.3ｇ）の単独資料であるが，ほかに同一母岩として，C17-Ｇブロックに石刃用の石核１点がある。いずれのブロックでも剥片生産を実施した形跡はない。

・C17-㊵：灰黒色の砂岩である。石器群の内訳は，剥片11点，石核1点の合計12点（273.4ｇ）である。この内，剥片６点と石核１点が接合する（合計254.7ｇ）。

接合資料が示す作業の内容は，C17-㉜母岩と極めて類似している。拳大程度の円礫を用いて作業を開始し，これを二分する。一方では剥片生産を実施しているが，個体消費の前半で中断し，石核を持ち出している。もう一方は，剥片生産をほとんど行うことなく石核を廃棄している。本母岩の分布は，ブロック内の一部に偏らず，広く見られる。

・C17-㊶：褐色半透明で，黒褐色の縞が入るメノウである。また，黄白色で軟質の不純物が帯状に見られる。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，石刃２点，剥片１点の合計4点（22.2ｇ）で，すべて搬入品と考えられる。

・C17-㊷：淡褐色で硬質緻密な東北産頁岩である。小型の石刃１点（1.4ｇ）の単独資料である。

・C17-㊸：暗褐色で光沢があり，硬質緻密な東北産頁岩である。石核１点（24.8ｇ）の単独資料である。

・C17-㊹：褐色で硬質緻密な東北産頁岩である。大型の石刃１点（46.9ｇ）の単独資料である。

・C17-㊺：節理面は黒褐色，内部は黒色の硬質な頁岩である。ナイフ形石器１点（23.2ｇ）の単独資料である。

・C17-㊻：黄灰色で軟質なホルンフェルスである。石核１点（85.2ｇ）の単独資料である。

・C23-⑩：灰緑色できめの細かい嶺岡産珪質頁岩である。本ブロックでは使用痕ある剥片１点（2.1ｇ）の単独資料であるが，同一母岩がC23-Ｂブロックに１点，C23-Ｃブロックに２点ある。

・C23-⑬：黄灰色と紫がかった黒灰色の混在する半透明のメノウである。灰白色の不純層が多方向にみられ，良質な石器石材とはいい難い。本ブロックでは剥片２点（合計4.0ｇ）が分布するだけで単独資料に近い状況であるが，同一母岩が，C17-Ｂブロックに１点，C23-Ｂブロックに３点，C23-Ｃブロックに48点あり，C23-Ｃブロックで生産されたものが持ち込まれた可能性が考えられる。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石の剥片４点，砕片３点（合計2.5ｇ），安山岩の楔形石器１点，剥片２点（合計2.5ｇ），頁岩の剥片５点（合計10.9ｇ），珪質頁岩の楔形石器１点，使用痕ある剥片３点，剥片７点（合計35.3ｇ），砂岩の剥片７点（合計4.8ｇ），メノウの剥片２点（合計3.8ｇ）がある。黒曜石は小型の剥片ばかりであるが，漆黒色不透明で夾雑物を含んでおり，肉眼的に栃木県高原山産と考えられる。また，珪質頁岩の大半は嶺岡産と想定される。

３）出土遺物（第50・51図）

１は，頁岩のナイフ形石器である。自然面の厚い打面を基部に残し，左側縁に粗い調整加工を行っている。未製品であろうか。２は，珪質頁岩による縦長剥片を用いた削器である。両側縁の表裏に細かな調整加工が連続する。上半部が欠損する。

3・4は，東北産頁岩による石刃である。4は，製品として遠隔地から搬入されたと考えられる大型の石刃である。3は，下総台地におけるⅥ・Ⅶ層周辺でしばしば見られる，大型の石刃あるいは剥片を転用した石核から剥離されたと想定される小型の石刃である。右側面に石核の素材面がある。

5～7・9は，珪質頁岩による不定型の剥片を利用した使用痕ある剥片である。

8・10・11は不定型の剥片である。12は不定型剥片を生産した石核であるが，東北産頁岩を用いた厚手の剥片を素材とする。

30は，珪質頁岩の楔形石器から剥離された削片である。

4）接合資料とその関連資料（第51～55図）

・C17-⑰（第51図13～15） 灰白色の頁岩で，掻器1点，楔形石器1点，使用痕ある剥片1点，剥片9点で構成される。

13は使用痕ある剥片，14は不定型の剥片，15は削器とした資料である。

・C17-㊶（第51図16～19） 褐色半透明で，黒褐色の縞が入るメノウで，石刃2点，剥片2点で構成される。

16・18は中・小型の石刃，17は不整形の縦長剥片，19は不定型の剥片を素材とした加工痕ある剥片である。不定型の剥片は，石刃生産に関連した打面形成時に剥離された剥片ではなかろうか。

・C17-㉚（第51図20～25） 黄色みを帯びた乳白色のメノウで，楔形石器3点，剥片2点で構成される。

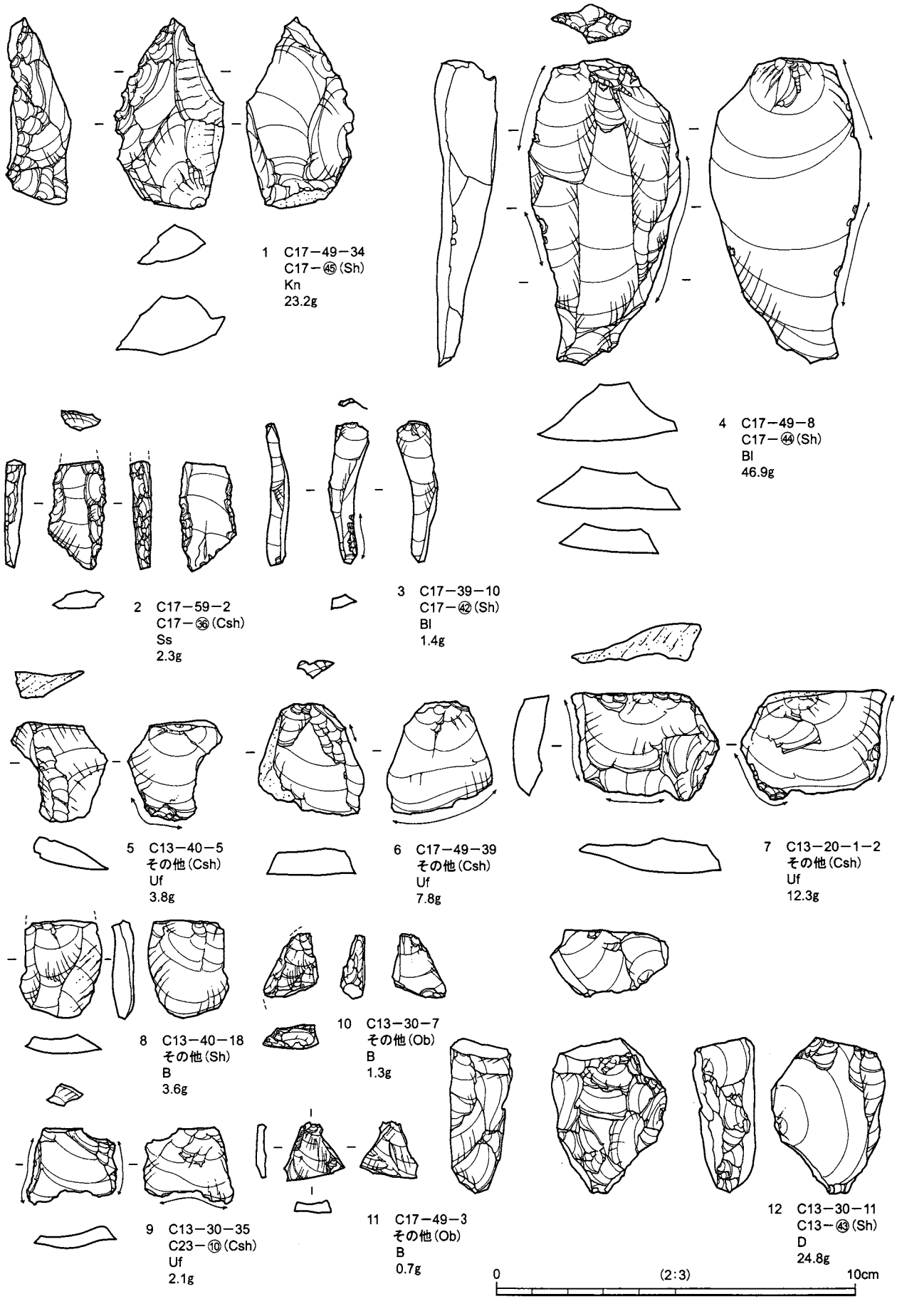
20は，小型の楔形石器（22）に削片（21）が接合した資料である。楔形石器に比べて接合している削片がかなり大きいことから，21の剥離以後もかなりの枚数の削片（または調整剥片）が剥離されたことがわ

第15表　C17-Aブロック母岩別石器組成表

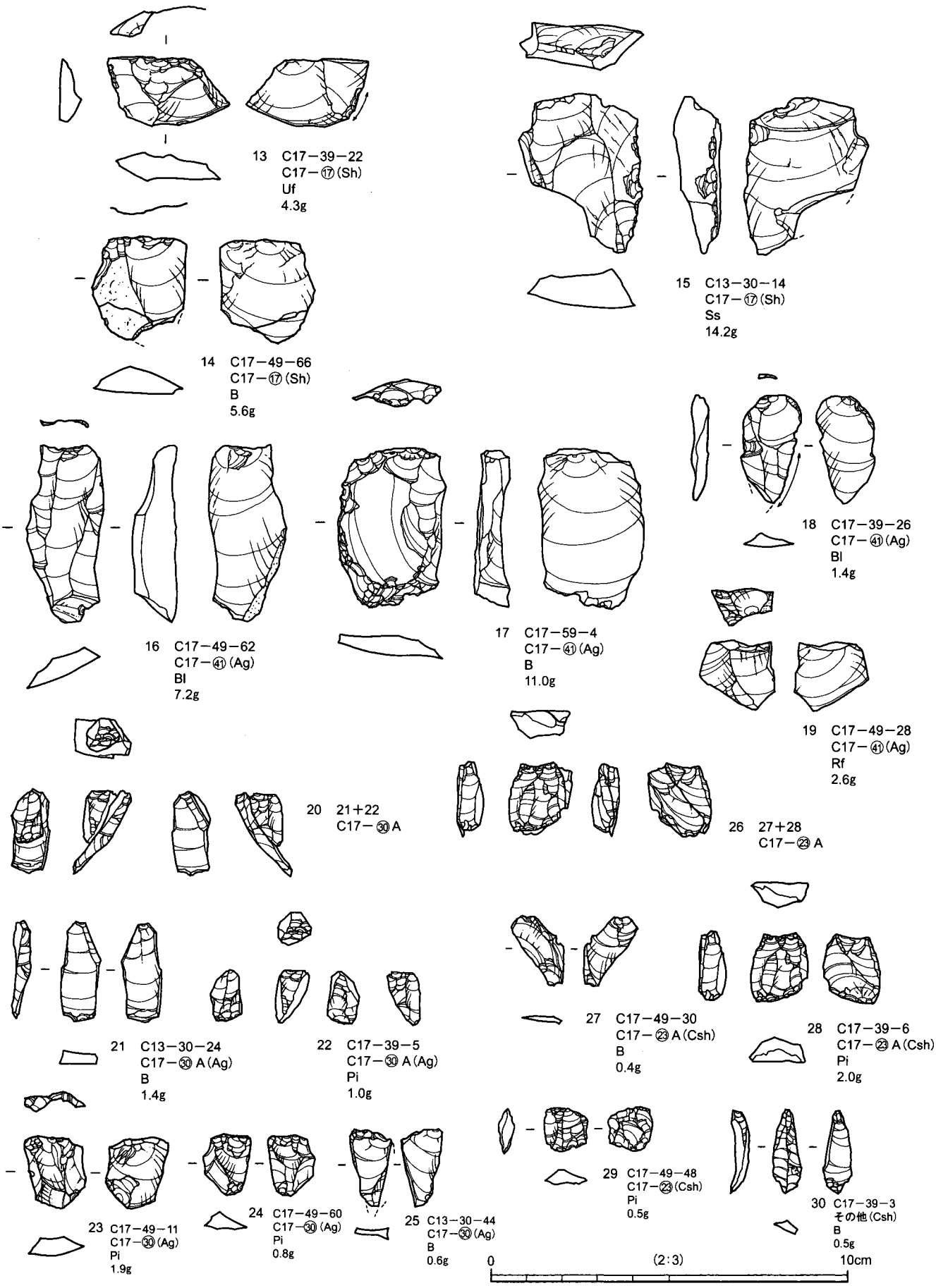
母岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C17-⑭(Rh)	1																		99(96)	5	3(1)	108(103)		108(103)
C17-⑰(Sh)						1			1		1								9			12		12
C17-㉓(Csh)									2										7			9		9
C17-㉚(Ag)									3										2			5		5
C17-㉜(Ho)																			26(24)		1	27(25)		27(25)
C17-㉟(Csh)						1																1		1
C17-㊵(Sa)																			11		1	12		12
C17-㊶(Ag)										1		2							1			4		4
C17-㊷(Sh)												1										1		1
C17-㊸(Sh)																					1	1		1
C17-㊹(Sh)												1										1		1
C17-㊺(Sh)	1																					1		1
C17-㊻(Ho)																					1	1		1
C23-⑩(Csh)											1											1		1
C23-⑬(Ag)																			2			2		2
その他(Ob)																			4	3		7		7
その他(An)									1										2			3		3
その他(Sh)																			5			5		5
その他(Csh)									1		3								7			11		11
その他(Sa)																			7			7		7
その他(Ag)																			2			2		2
C18R-⑱(Rh)																							1	1
C18R-⑲(Ch)																							1	1
その他(Sh)																							1	1
その他(Sa)																							1	1
合計	2					2			8	1	5	4							184(181)	8	7(5)	221(216)	4	225(220)

第16表　C17-Aブロック石材別石器組成表

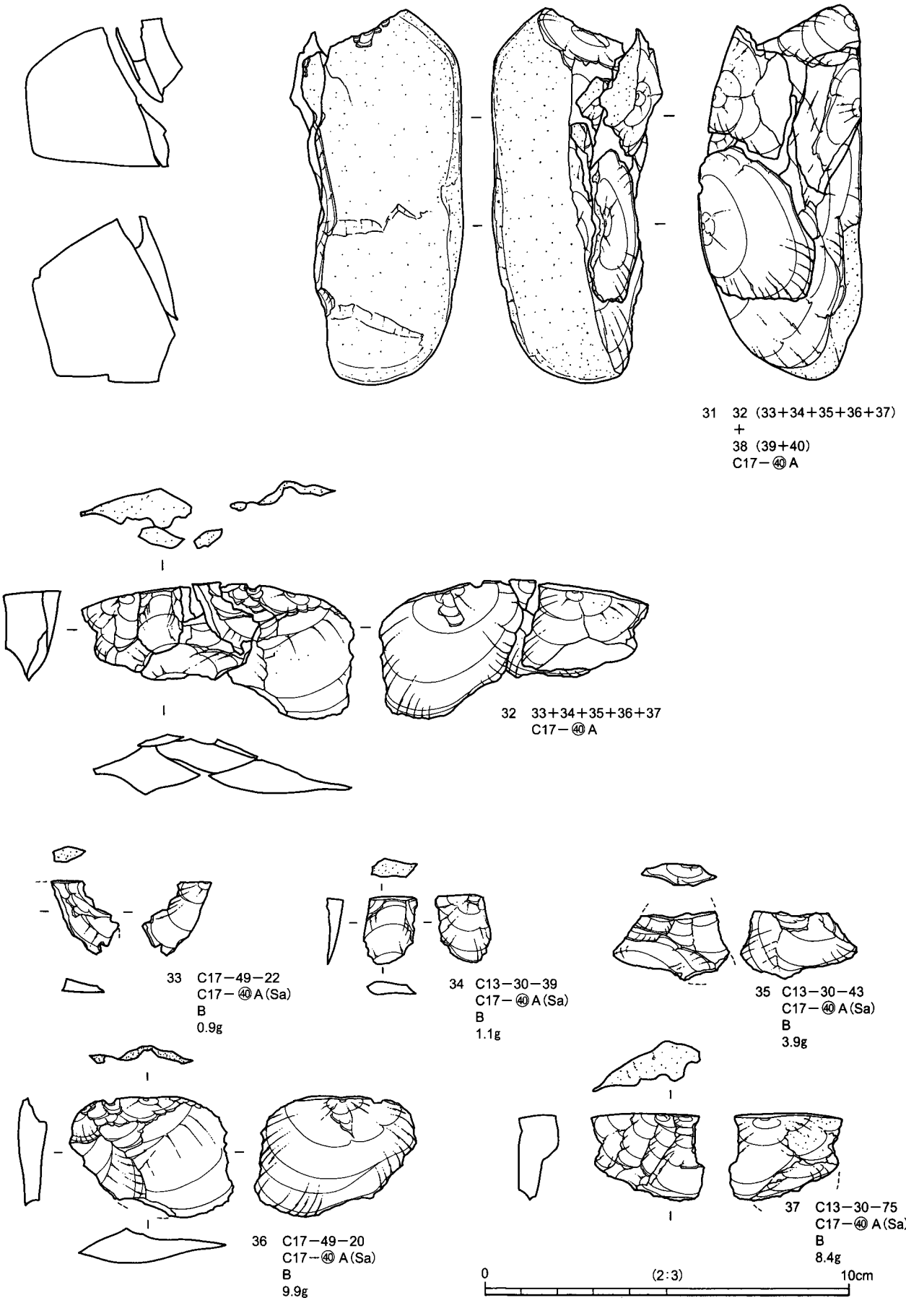
石材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)																			4	3		7		7
安山岩(An)									1										2			3		3
流紋岩(Rh)	1																		99(96)	5	3(1)	108(103)	1	109(104)
頁岩(Sh)	1					1			1		1	2							14		1	21	1	22
珪質頁岩(Csh)						1			3		4								14			22		22
チャート(Ch)																							1	1
砂岩(Sa)																			18		1	19	1	20
ホルンフェルス(Ho)																			26		2	28		28
メノウ(Ag)									3	1		2							7			13		13
合計	2					2			8	1	5	4							184(181)	8	7(5)	221(216)	4	225(220)



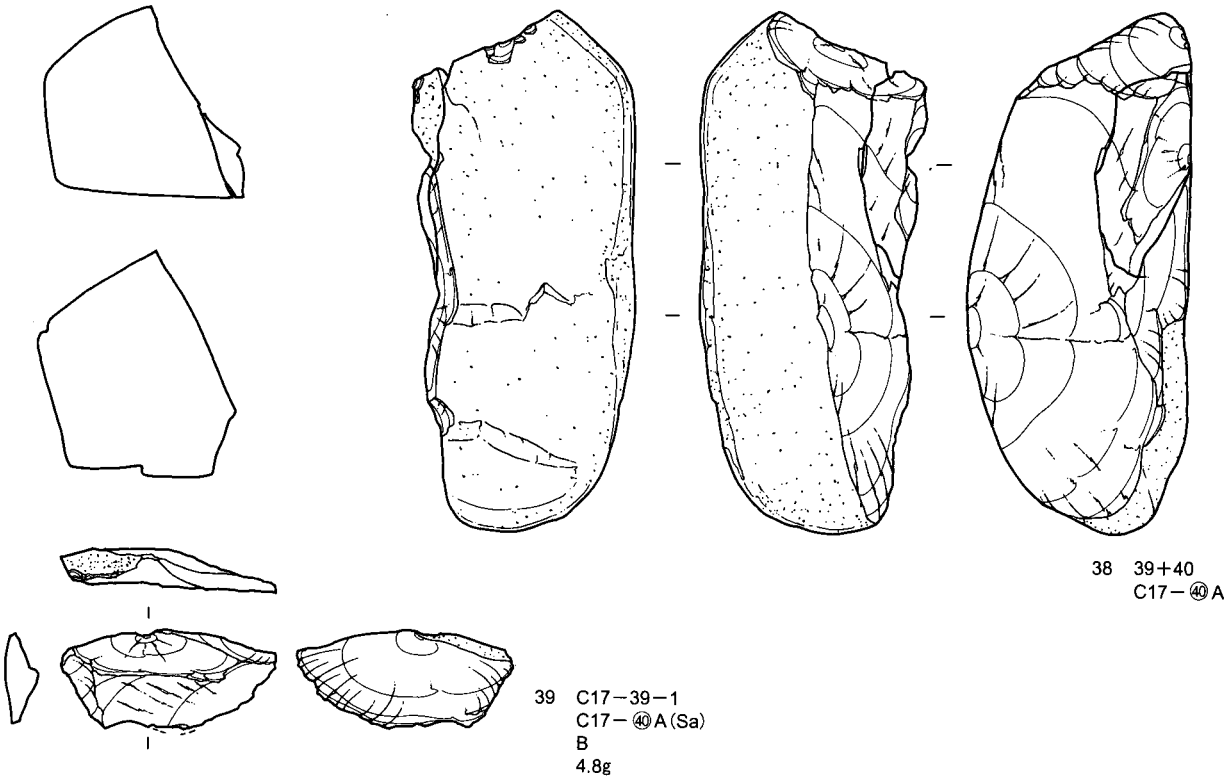
第50図　C17-Aブロック出土遺物実測図（1）



第51図　C17-Aブロック出土遺物実測図（2）

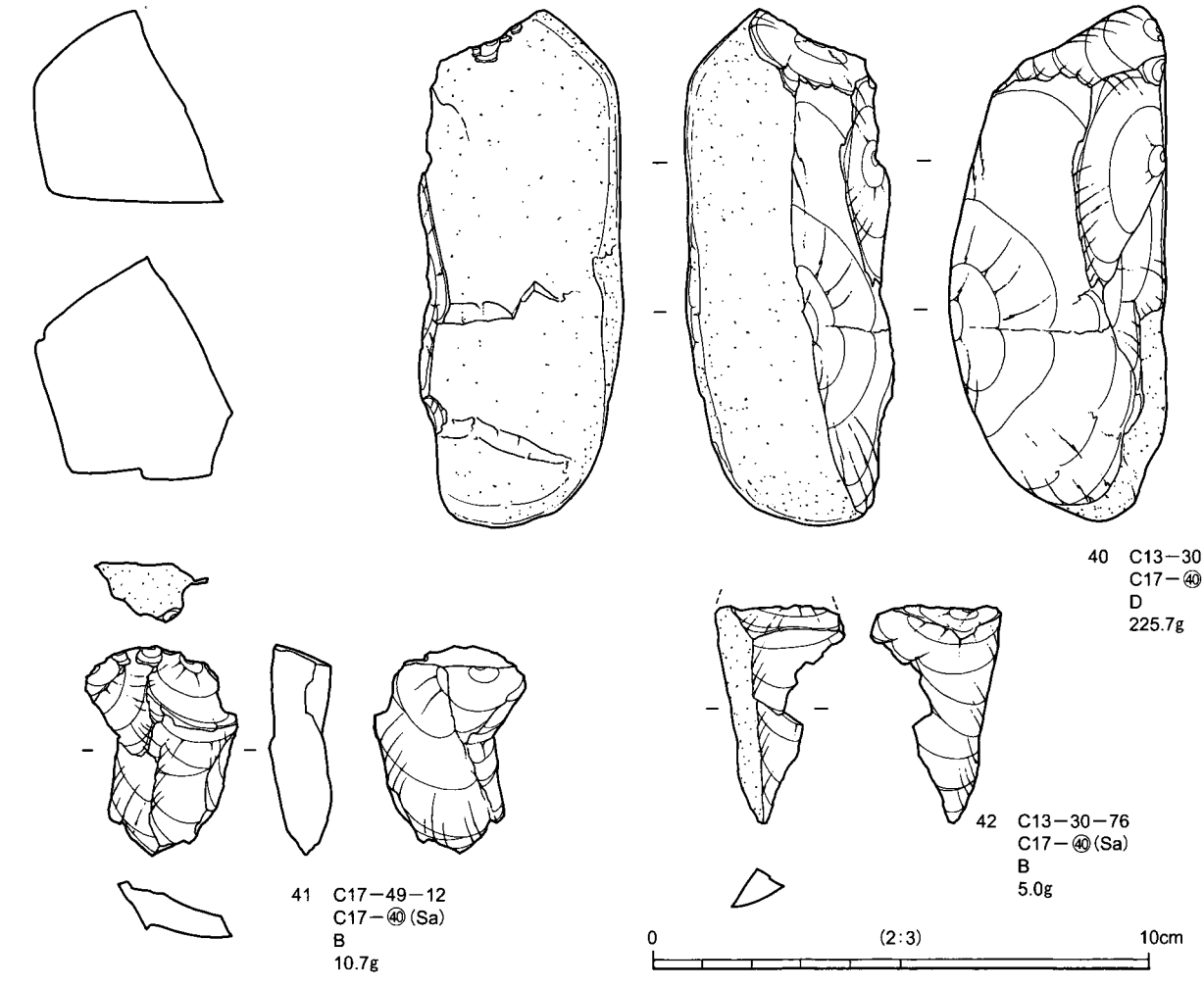


第52図　C17-Aブロック出土遺物実測図（3）



38　39+40
C17－㊵A

39　C17－39－1
C17－㊵A(Sa)
B
4.8g



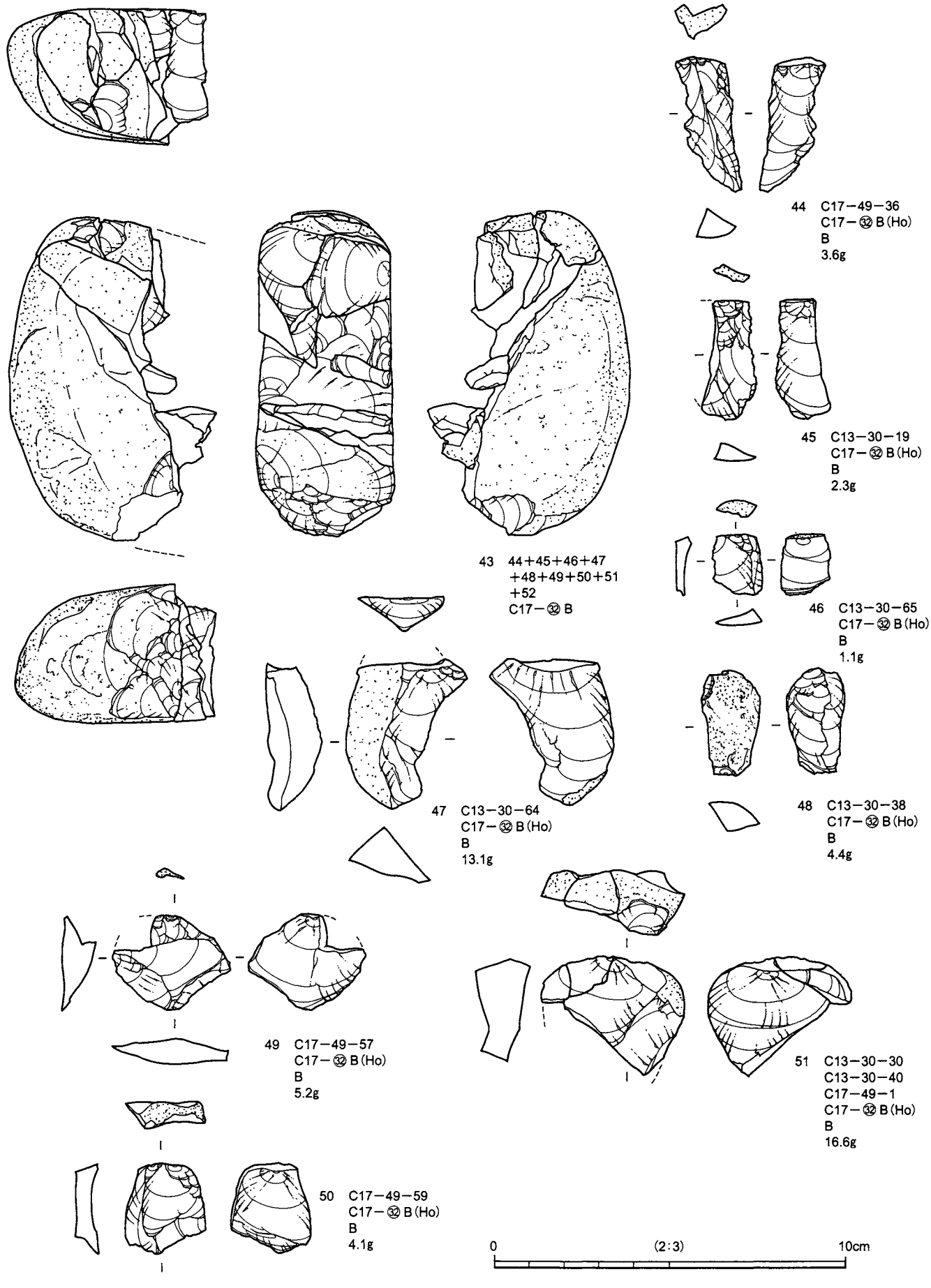
40　C13－30－16
C17－㊵A(Sa)
D
225.7g

41　C17－49－12
C17－㊵(Sa)
B
10.7g

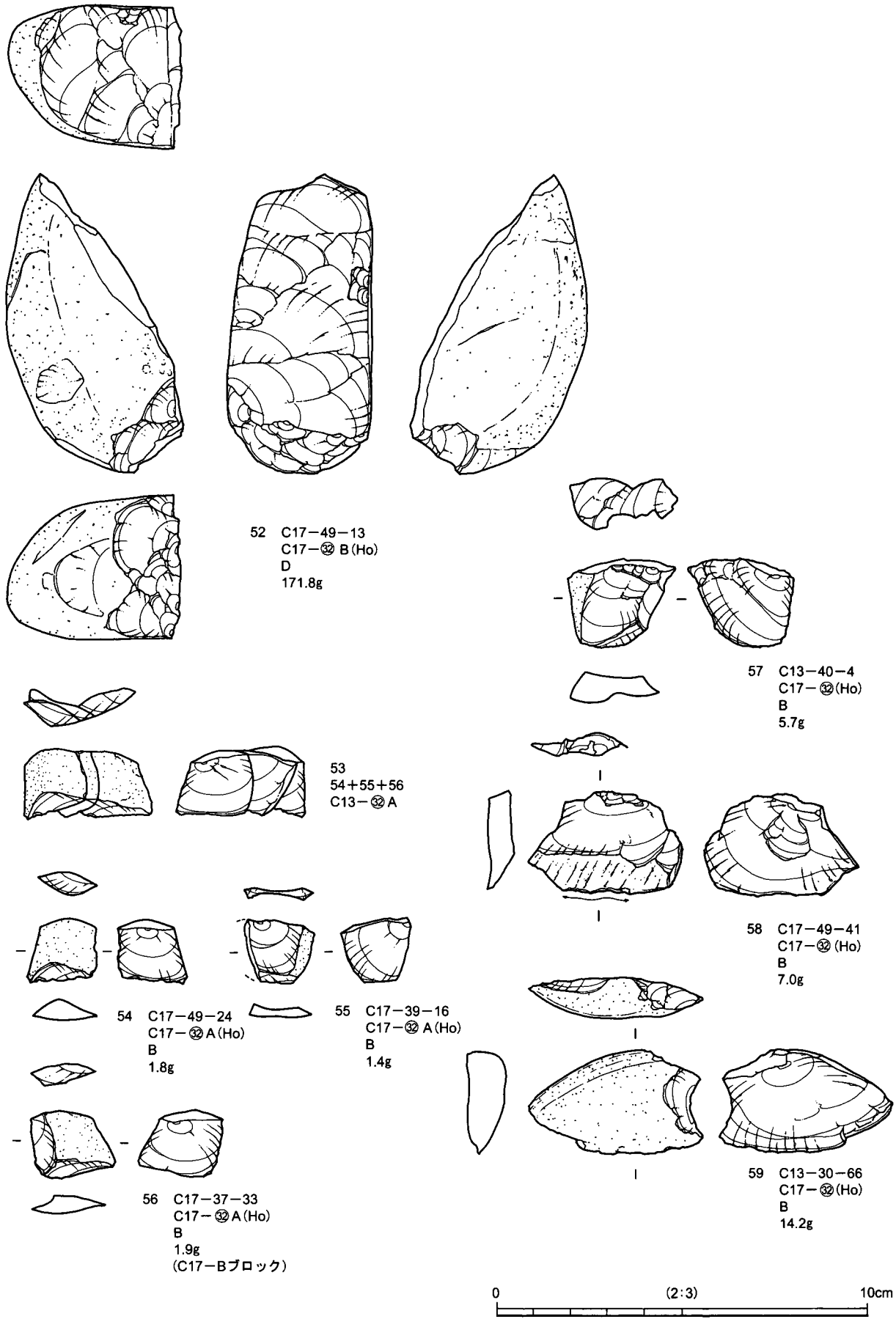
42　C13－30－76
C17－㊵(Sa)
B
5.0g

0　(2:3)　10cm

第53図　C17-Aブロック出土遺物実測図（4）



第54図　C17-Aブロック出土遺物実測図（5）



第55図　C17-Aブロック出土遺物実測図（6）

かる。23～25も楔形石器及びそれに関連した剥片である。

・C17-㉓（第51図26～29）　灰褐色の珪質頁岩で，楔形石器２点，剥片７点で構成される。

26は，楔形石器（28）に剥片（27）が接合したものである。29は，極めて小型の楔形石器である。

・C17-㊵（第52図31～37，第53図38～42）　灰黒色の砂岩で，剥片11点，石核１点で構成される。

31は，剥片６点（33～37・39）と石核１点（40）の接合資料である。接合資料から見た剥片剥離技術は，はじめに原石を大きく二つに分割する。一方の個体は接合資料32で示した。自然面の同一打面から，33→34→35→36→37の順に不定型の剥片を剥離している。石核は残されていない。もう一方の個体は接合資料38で，石核（40）から横長剥片（39）を含む３枚ほどの剥片を剥離している。石核右側面に残された大きな剥離面が分割面にあたる。このほか，接合しないが41，42など前者の個体から剥離されたと考えられる不定型の剥片５点がある。

・C17-㉜（第54図43～51，第55図52～59）　淡黒灰色のホルンフェルスで，剥片26点（24個体），石核１点で構成される。剥片13点（11個体）と石核１点が二組に分かれて接合する。

43は，剥片10点（８個体；44～51）と石核１点（52）の接合資料である。はじめに，原石を二つに分割する。一方の個体は，44～51の剥片で構成されるが，石核は見られない。概ね，47→48→49→51の順で，打面と打撃方向を換えながら実測図43の上部で不定型の剥片を剥離した後，裏面の自然面を打面として50を剥離している。おそらく，これに続いて44→45→46の順で，50と同一打面から不定型の剥片を剥離している。もう一方の個体は石核１点（52）だけであるが，石核下端部には剥片数枚を剥離した痕跡がある。

53は，小型で同規模の不定型な剥片３点（54～56）の接合資料である。54→55→56の順で剥離している。このうち56はC17-Bブロックに分布する。

このほか，接合しないが57～59などの不定型な剥片がある。

7　C17-Bブロック（第56～64図，第17・18表）

1）ブロックの概要

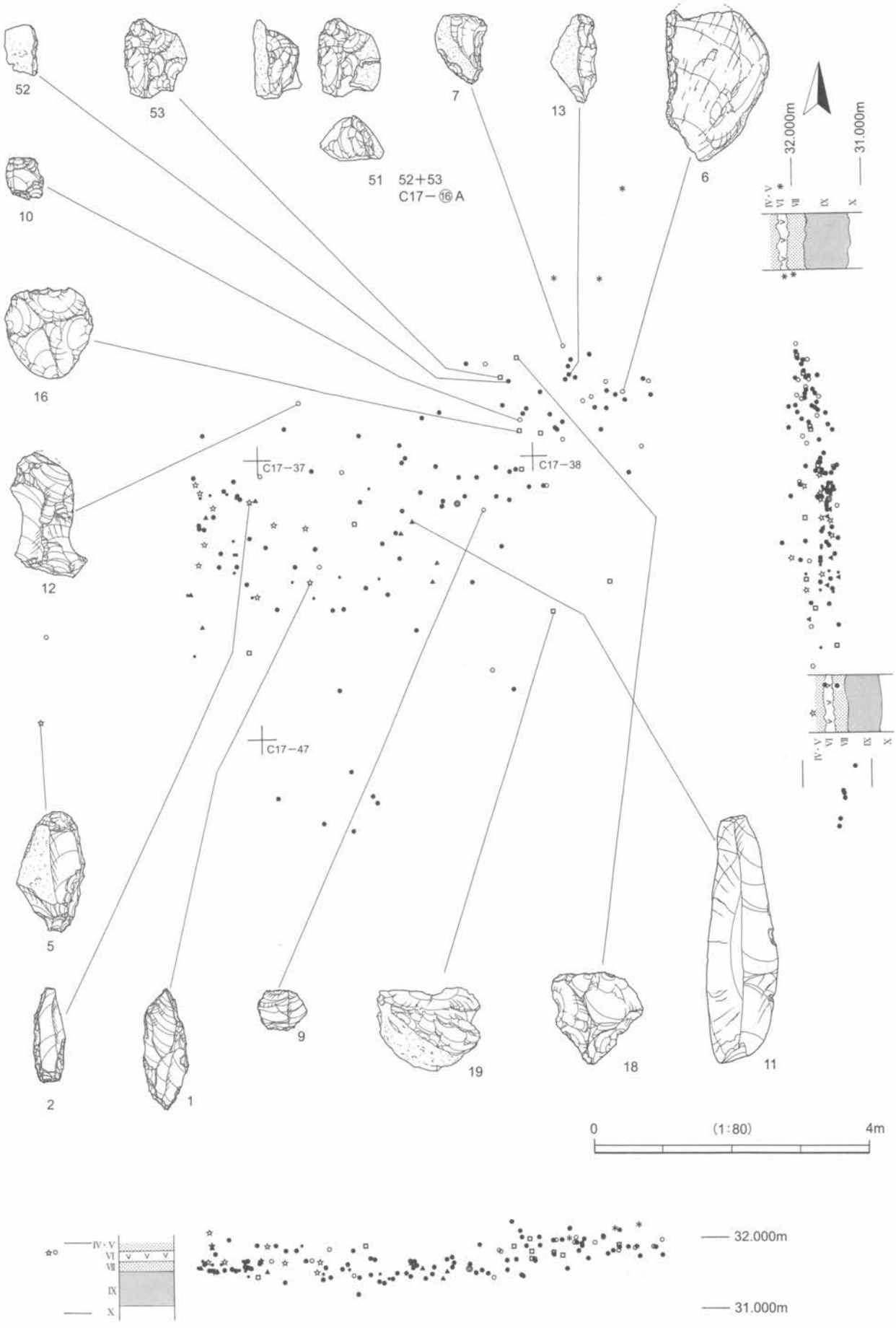
C17-Bブロックは，調査範囲東側のC17-26～28・36～38・47グリッドに位置する。ブロックの立地は，南西に向かって開く谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点までの距離は５mほどである。

ブロックの規模と形状は，長軸12m，短軸６mの範囲に152点の石器・礫が満遍なく分布する。出土層位はⅦ層を中心としており，各石器は80cmほどの高低差をもって水平に包含されている（第56～59図）。

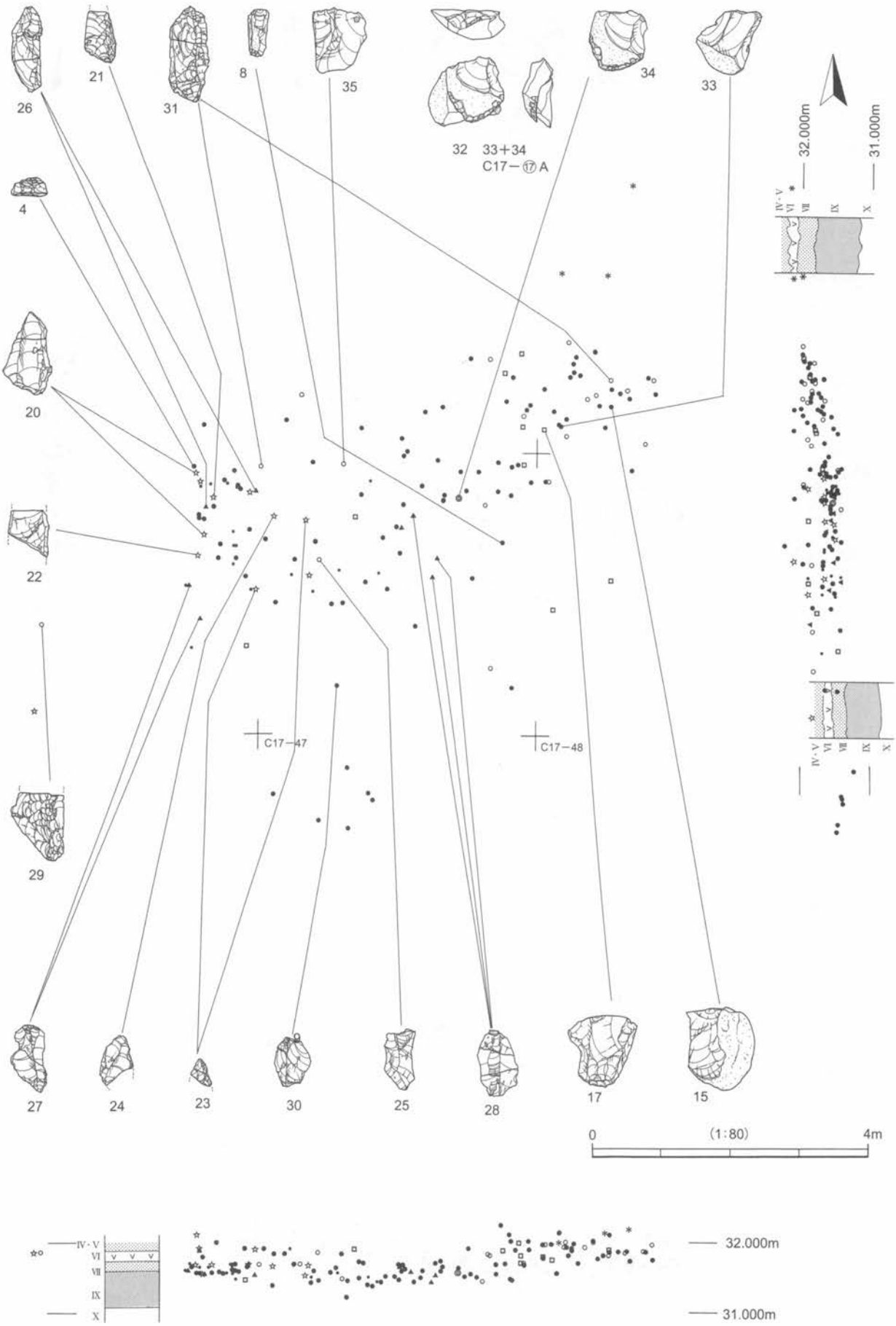
ブロックは，ナイフ形石器11点（９個体），掻器１点，削器２点，楔形石器６点，加工痕ある剥片３点（２個体），使用痕ある剥片７点，石刃８点（４個体），剥片86点，砕片16点，石核９点，礫３点の合計152点（145個体）で構成され，石器石材は，黒曜石61点，安山岩17点，流紋岩７点，頁岩25点，珪質頁岩30点，チャート１点，ホルンフェルス３点，メノウ５点，礫石材は，安山岩１点，流紋岩１点，チャート１点である。礫は，母岩分類のできたものが２点（２母岩）と母岩の不明なものが１点ある。前者は長軸４cm～５cmほどの小型の完形礫である。

2）母岩の特徴と内容

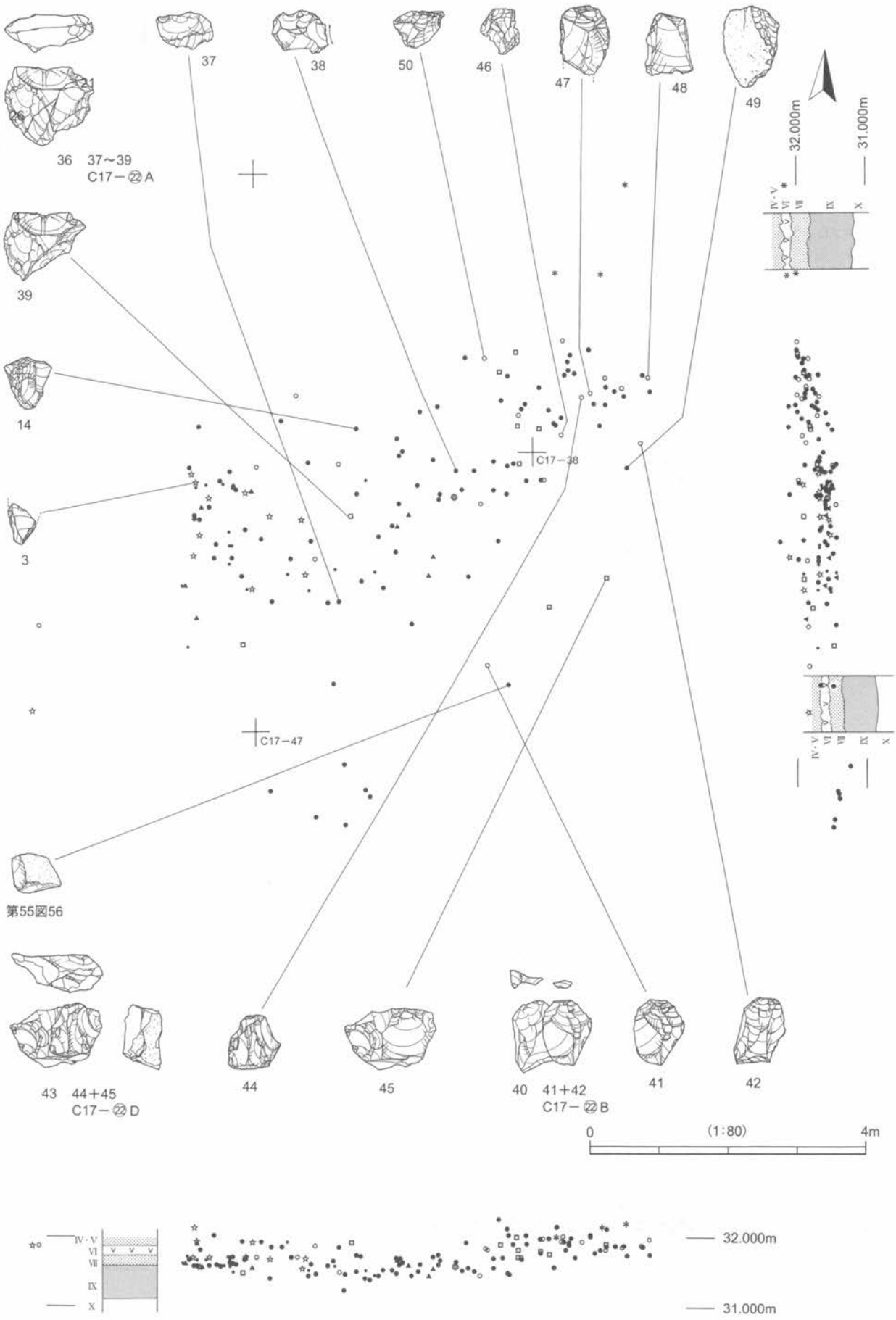
本ブロックでは21母岩を識別した。内訳は，黒曜石１母岩（C17-⑮），安山岩１母岩（C17-⑯），流紋岩１母岩（C17-⑭），頁岩７母岩（C17-⑰～㉑・㉔，C23-⑨），珪質頁岩５母岩（C17-㉒・㉓・㉕・㉖，C23-②），チャート１母岩（C17-㉗），ホルンフェルス２母岩（C17-㉘・㉜），メノウ３母岩（C17-㉙・㉚，C23-



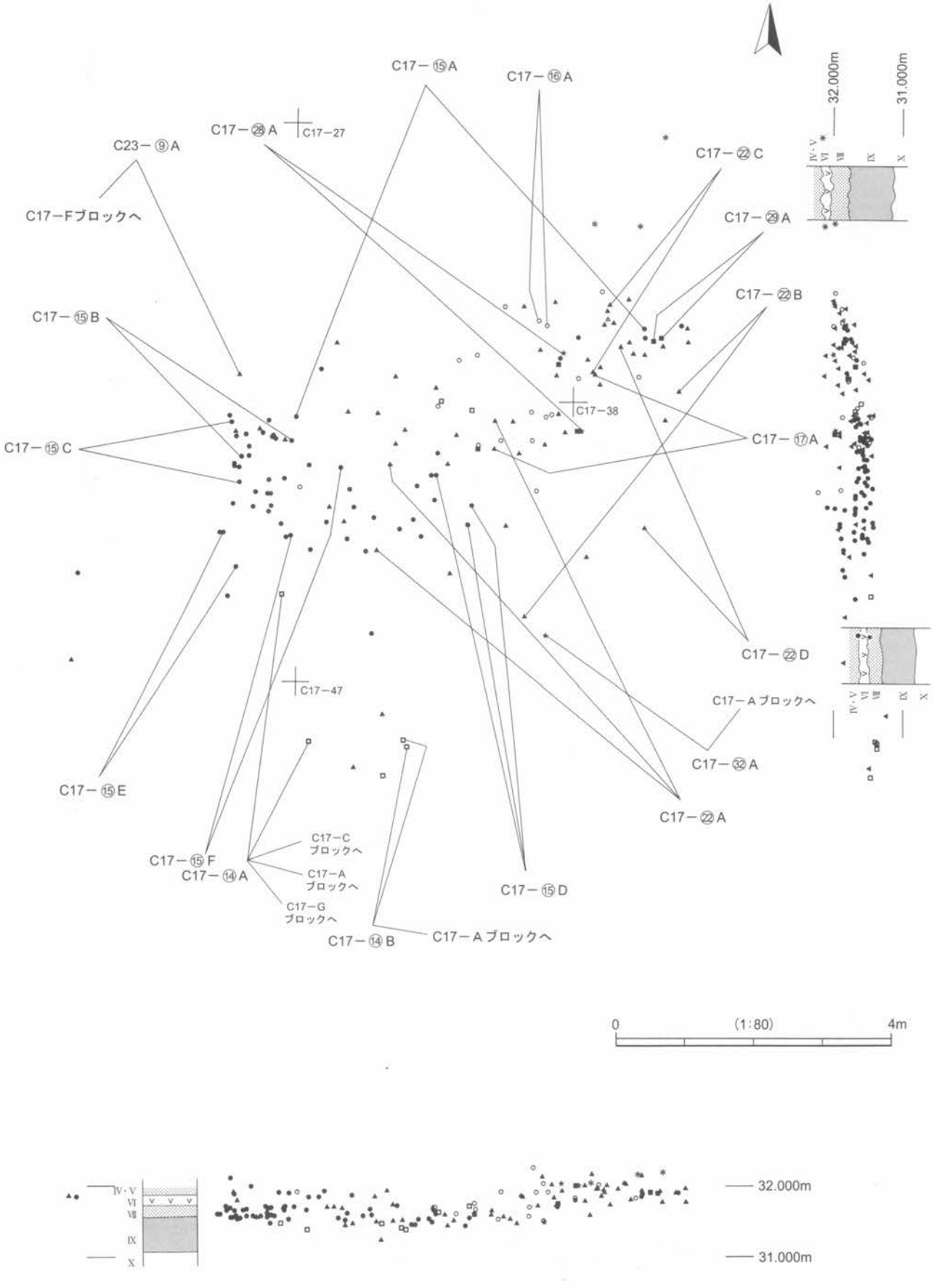
第56図　C17-Bブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図（1）－



第57図　C17-Bブロック出土遺物分布図（2）　－石器別分布図（2）－



第58図　C17-Bブロック出土遺物分布図（3）　－石器別分布図（3）－



第59図　C17-Bブロック出土遺物分布図（4）　－石材別分布図－

⑬）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は66％（98/149点）である。

・C17-⑭：灰緑色の流紋岩で，母岩の特徴は，C17-Aブロックで記したとおりである。石器群の内訳は，剥片６点，石核１点の合計７点（103.7ｇ）である。接合資料は２グループある。

Aグループは剥片１点，石核１点（合計57.5ｇ）である。これは，C13-Cブロックの石核１点，C17-Aブロックの剥片24点，石核１点，C17-Gブロックの剥片７点，石核６点と接合する。このうち，C17-Aブロックの剥片１点と石核３点は本ブロックの剥片，石核とそれぞれ接合し，１個体ずつになる。

Bグループは剥片２点（合計41.4ｇ）で，C17-Aブロックのナイフ形石器１点，剥片８点と接合する。

また，接合しない同一母岩は，C13-Cブロックに１点，C17-Aブロックに67点，C17-Gブロックに１点がある。

・C17-⑮：漆黒色不透明で，φ２㎜以下の黄白色の夾雑物を含む黒曜石である。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器７点（５個体），加工痕ある剥片３点（２個体），使用痕ある剥片１点，石刃７点（３個体），剥片14点，砕片１点の合計33点（26個体；34.4ｇ）である。接合資料は６グループあるが，いずれも欠損品同士の接合資料である。

・C17-⑯：黒灰色で，やや軟質の安山岩である。石器群の内訳は，剥片２点，石核１点の合計３点（21.3ｇ）である。このうち，剥片１点と石核１点（合計20.0ｇ）が接合する。

・C17-⑰：灰白色に風化した頁岩で，母岩の特徴は，C17-Aブロックで記したとおりである。石器群の内訳は，掻器１点，楔形石器１点，剥片９点，砕片１点の合計12点（21.4ｇ）である。このうち，掻器１点と剥片１点（合計11.7ｇ）が接合する。同一母岩は，C17-Aブロックに12点ある。本ブロックでも石器群の主体は小型の剥片類で，剥片剥離作業の半ばの工程が行われたと考えられる。

・C17-⑱：黒褐色で硬質緻密な東北産頁岩である。石刃１点（41.7ｇ）の単独資料である。

・C17-⑲：灰色を帯びた淡褐色で硬質緻密な東北産頁岩である。ナイフ形石器１点（4.5ｇ）の単独資料である。

・C17-⑳：暗褐色で光沢に富み，硬質緻密な東北産頁岩である。ナイフ形石器１点（8.1ｇ）の単独資料である。

・C17-㉑：自然面は灰色，内部は青みを帯びた黒灰色の頁岩である。原石は円礫と考えられるが，大きさは不明である。石核１点（24.8ｇ）の単独資料である。

・C17-㉒：自然面は橙褐色，内部は灰褐色の地に青黒い斑のある嶺岡産珪質頁岩である。珪化度が高く，チャートに近い岩相である。石器群の内訳は，楔形石器２点，使用痕ある剥片５点，剥片13点，石核３点の合計23点（84.6ｇ）である。接合資料は４グループある。

Aグループは，剥片２点と石核１点（合計17.2ｇ）の接合資料で，このほかに剥片２点による接合資料が３グループある。本ブロックでは，原石の一部について消費したと考えられる。

・C17-㉓：灰褐色の珪質頁岩で，母岩の特徴は，C17-Aブロックで記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（3.1ｇ）の単独資料であるが，同一母岩はC17－Aブロックに９点がある。

・C17-㉔：淡褐色で部分的に赤褐色の硬質緻密な東北産頁岩である。打面再生剥片の可能性のある剥片を利用した使用痕ある剥片１点（10.9ｇ）の単独資料である。

・C17-㉕：自然面は灰褐色で平坦，内部は灰緑色の嶺岡産珪質頁岩である。ナイフ形石器１点（19.7ｇ）の単独資料である。

・C17-㉖：自然面は黄褐色，内部は灰緑色の地に黄褐色の節理が多方向に入っている珪質頁岩である。不定型の剥片１点（15.6ｇ）の単独資料である。

・C17-㉗：自然面は黄褐色，内部は青灰色の地に黒色の縞が入るチャートである。剥片１点（6.2ｇ）の単独資料である。

・C17-㉘：内外とも黒灰色のホルンフェルスである。原石は小型の円礫と考えられる。石器群の内訳は剥片２点（合計3.0ｇ）で，表裏で接合する。

・C17-㉙：自然面は明橙褐色，内部は黄白色で，比較的きめの粗いメノウである。石器群の内訳は，削器１点，剥片１点（合計46.4ｇ）で，相互に接合する。同一母岩が，C17-Ｇブロックに１点ある。

・C17-㉚：乳白色のメノウで，母岩の特徴は，C17-Ａブロックで記したとおりである。本ブロックでは楔形石器１点（1.8ｇ）の単独資料であるが，同一母岩は，C17-Ａブロックに５点ある。

・C17-㉜：淡黒灰色のホルンフェルスで，母岩の特徴は，C17-Ａブロックで記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（1.9ｇ）の単独資料であるが，C17-Ａブロックには同一母岩が27点あり，このうち剥片２点と本ブロックの１点が接合する。

・C23-②：自然面と節理面は橙褐色，内部は灰緑色の嶺岡産珪質頁岩である。本ブロックでは剥片１点（1.9ｇ）の単独資料である。同一母岩は，C17-Ｇブロックに５点，C23-Ａブロックに64点，C23-Ｃブロックに２点ある。

・C23-⑨：自然面と自然面に近い部分は黒褐色，内部は灰色がかった暗褐色の地に黄灰色の縞模様のある頁岩である。珪化して緻密な部分と，黄褐色に風化して石質が粗くなっている部分がある。原石は小児の頭ほどの円礫と思われる。石器群の内訳は，剥片１点，石核２点（合計62.8ｇ）で，剥片１点（2.2ｇ）は，C17-Ｆブロックの使用痕ある剥片１点と接合する。ほかに同一母岩は，C23-Ｂブロックに２点，C23-Ｃブロックに４点，C23-Ｄブロックに１点ある。

・C23-⑬：黄灰色と紫がかった黒灰色とが混在する不透明のメノウで，母岩の特徴は，C17-Ａブロックで記したとおりである。本ブロックでは楔形石器１点（1.2ｇ）の単独資料であるが，同一母岩は，C17-Ａブロックに２点，C23-Ｂブロックに３点，C23-Ｃブロックに48点ある。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石の剥片14点，砕片14点（合計4.2ｇ），安山岩の削器１点，剥片12点，石核１点（合計34.0ｇ），頁岩のナイフ形石器１点，楔形石器１点，剥片３点（合計5.7ｇ），珪質頁岩の剥片３点（合計3.2ｇ），メノウの剥片１点（0.1ｇ）がある。黒曜石は小型の剥片，砕片類であるが，栃木県高原山産を主体として信州産を数例含んでいる。頁岩は東北産と「利根川産黒色頁岩」，産地不明のものなどがある。

３）出土遺物（第60・61図）

１～３・５はナイフ形石器である。１は，東北産頁岩による石刃を素材とし，打面部の除去と末端部の修正によって柳葉形に仕上げている。２も東北産頁岩の石刃を素材とする。素材の打面を基部に残し，左側縁全体と右側縁の基部側に裏面から調整している。３はナイフ形石器の基部の破片である。１・２と同様，東北産の頁岩を用いている。５は，嶺岡産珪質頁岩の横長剥片を用いたナイフ形石器である。素材の打面部は裏面からの調整加工によって除去されている。４は，高原山産と考えられる黒曜石によるナイフ

形石器の調整剥片（ブランティング・チップ）である。

6はメノウ，7は安山岩の不定型な剥片を用いた削器である。素材剥片の縁辺に細かな調整加工を行っているが，素材の形状は大きく変化していないようである。

9・10は小型の楔形石器である。9は東北産の頁岩，10はメノウを用いている。また，8は上下両端に損傷があり，両極打撃により剥離された剥片と考えられる。

12は，東北産頁岩による不定型の剥片を用いた使用痕ある剥片である。表面は多方向からの剥離面に覆われており，石刃の打面再生剥片かも知れない。

13～15は各種不定型の剥片，16～19は厚手の剥片を用いた石核である。石核は，いずれも素材の裏面を作業面とし，求心的な打点の移動によって小型不定型の剥片を生産している。なお，18と19は同一母岩であるが，両者から生産されたはずの小型不定型の剥片は本ブロックに分布していない。したがって，石核をブロック外から搬入した可能性がある。

4）接合資料とその関連資料（第62～64図）

・C17-⑮（第62図20～31） 漆黒色不透明の黒曜石である。高原山産と考えられる。ナイフ形石器7点（5個体），加工痕ある剥片3点（2個体），使用痕ある剥片1点，石刃7点（3個体），剥片14点，砕片1点の合計33点（26個体）で構成される。

20～24は，ナイフ形石器である。完形品がなく調整加工も粗いことから，未完成のまま廃棄された可能性が高い。縦長剥片と横長剥片の両方を素材に用いている。25・31は石刃を用いた加工痕ある剥片である。両者ともナイフ形石器の未製品の可能性もある。26～28は小型の石刃，29は石核の側面調整の痕跡をもつ石刃を利用した使用痕ある剥片，30は小型の縦長剥片である。

接合資料はすべて欠損品同士によるもので，表裏面で接合するものはない。ただし，小型不定型の剥片をも一定量含むことから，製品ないしは半製品の搬入とは考えられない。小型の石刃生産とそれを素材とした石器の調整加工を行っており，剥片剥離作業は母岩消費半ばに限定された資料と判断される。

・C17-⑰（第62図32～35） 灰白色に風化した頁岩で，掻器1点，楔形石器1点，剥片9点，砕片1点で構成される。

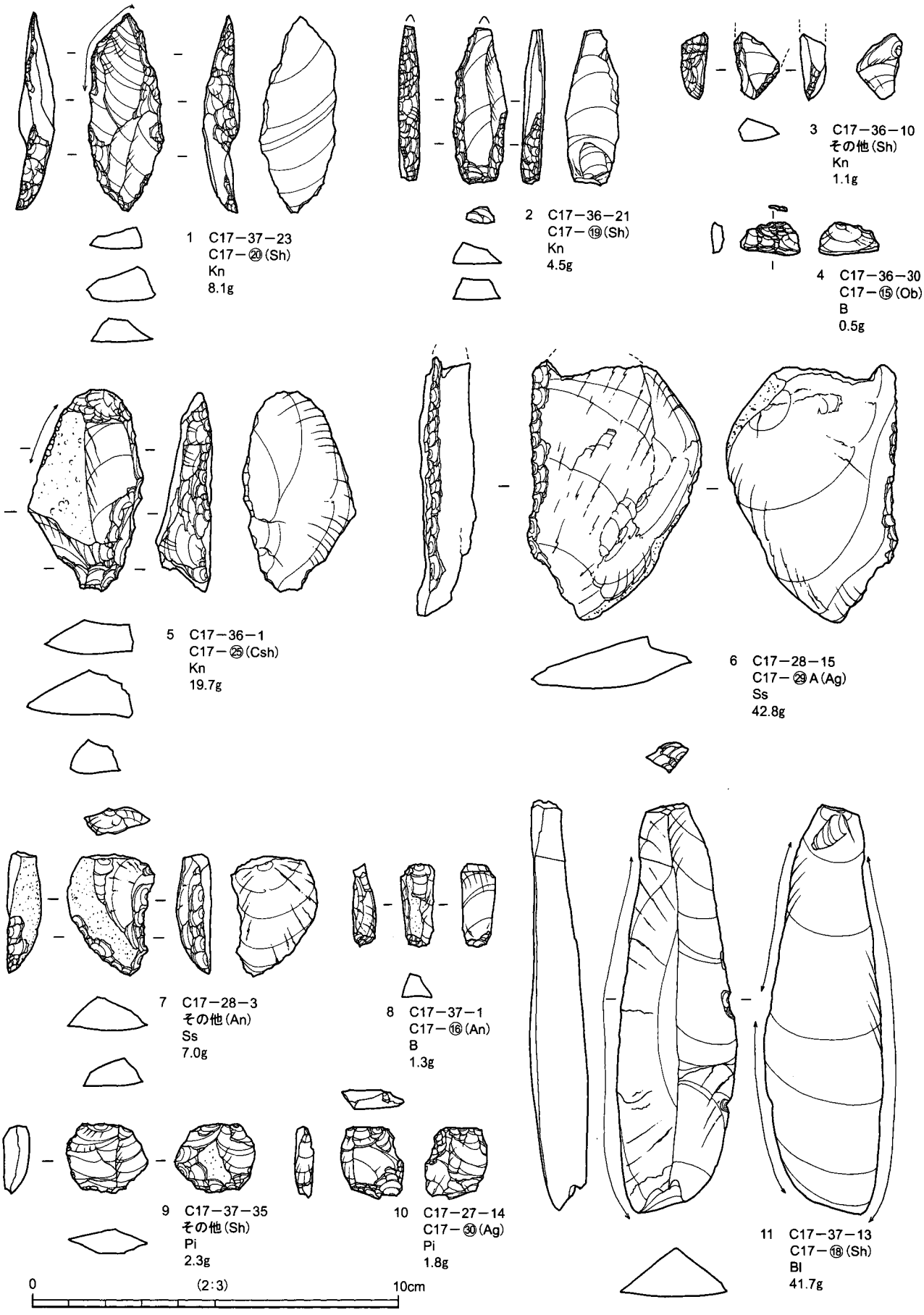
32は，掻器（34）と剥片（33）の接合資料である。不定型の剥片を連続して剥離しており，はじめに剥離した剥片の末端部に細かな調整加工を行い，刃部を作り出している。このほか，楔形石器（35）や小型不定型の剥片類9点が本母岩に含まれる。

・C17-㉒（第63図36～45，第64図46～50） 灰褐色の地に青黒い斑のある珪質頁岩で，楔形石器2点，使用痕ある剥片5点，剥片13点，石核3点で構成される。

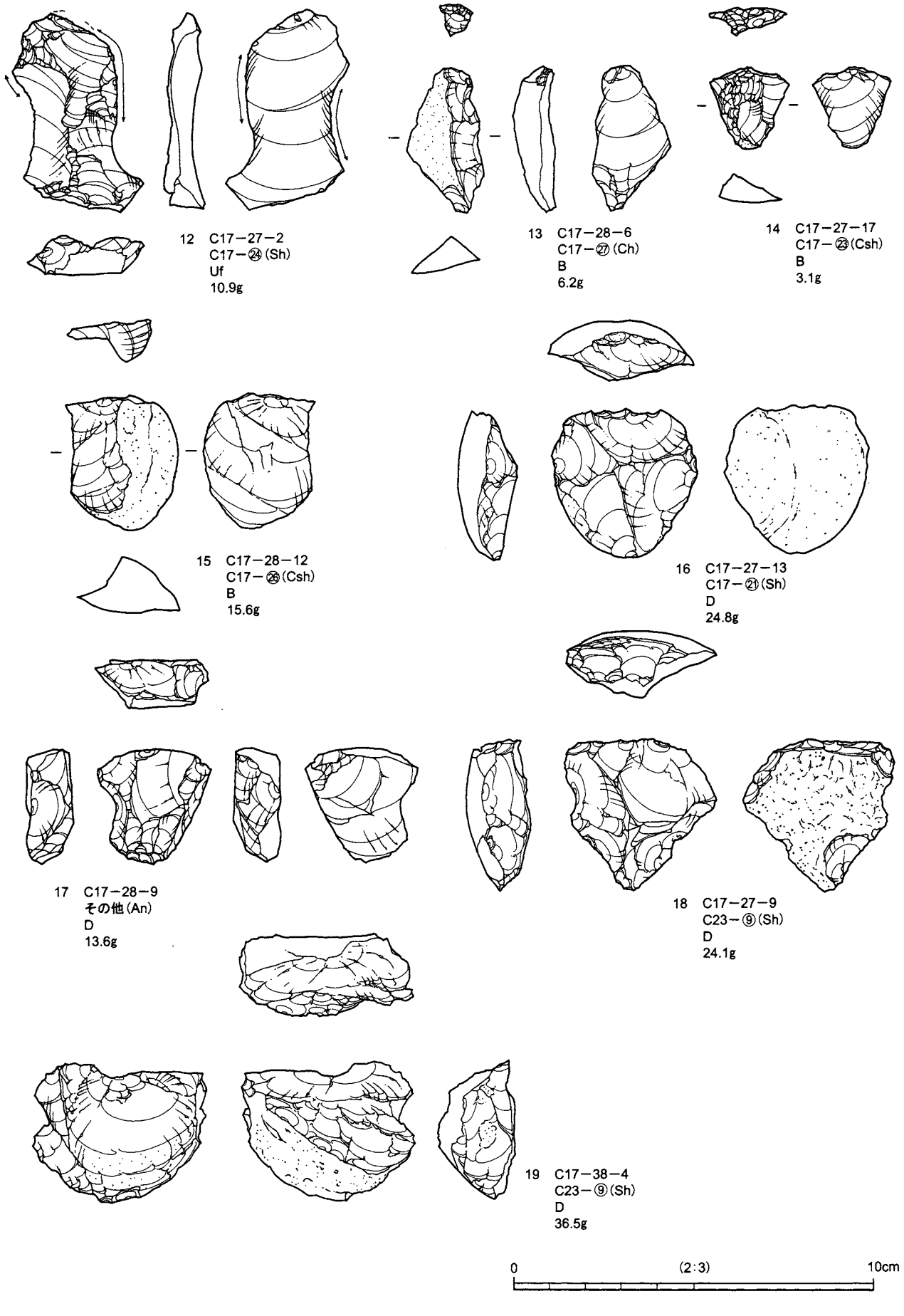
36は，剥片2点（37・38）と石核1点（39）の接合資料である。厚手の剥片を石核の素材とし，交互剥離と求心的な打点の移動によって小型不定型の剥片を生産している。実測図36の最上段の図の右斜め上に素材の主要剥離面が残る。はじめに，素材の主要剥離面側を作業面として剥片を剥離していたが，打面と作業面を入れ替え，主要剥離面を打面として37→38の順に剥片を剥離している。

40は，使用痕ある剥片2点（41・42）の接合資料である。41と42は同一打面から連続して剥離された縦長剥片を利用したものであるが，40の下端を見ると裏面とは直交する方向の剥離面があり，上記36のような求心的な打点移動が想起される。

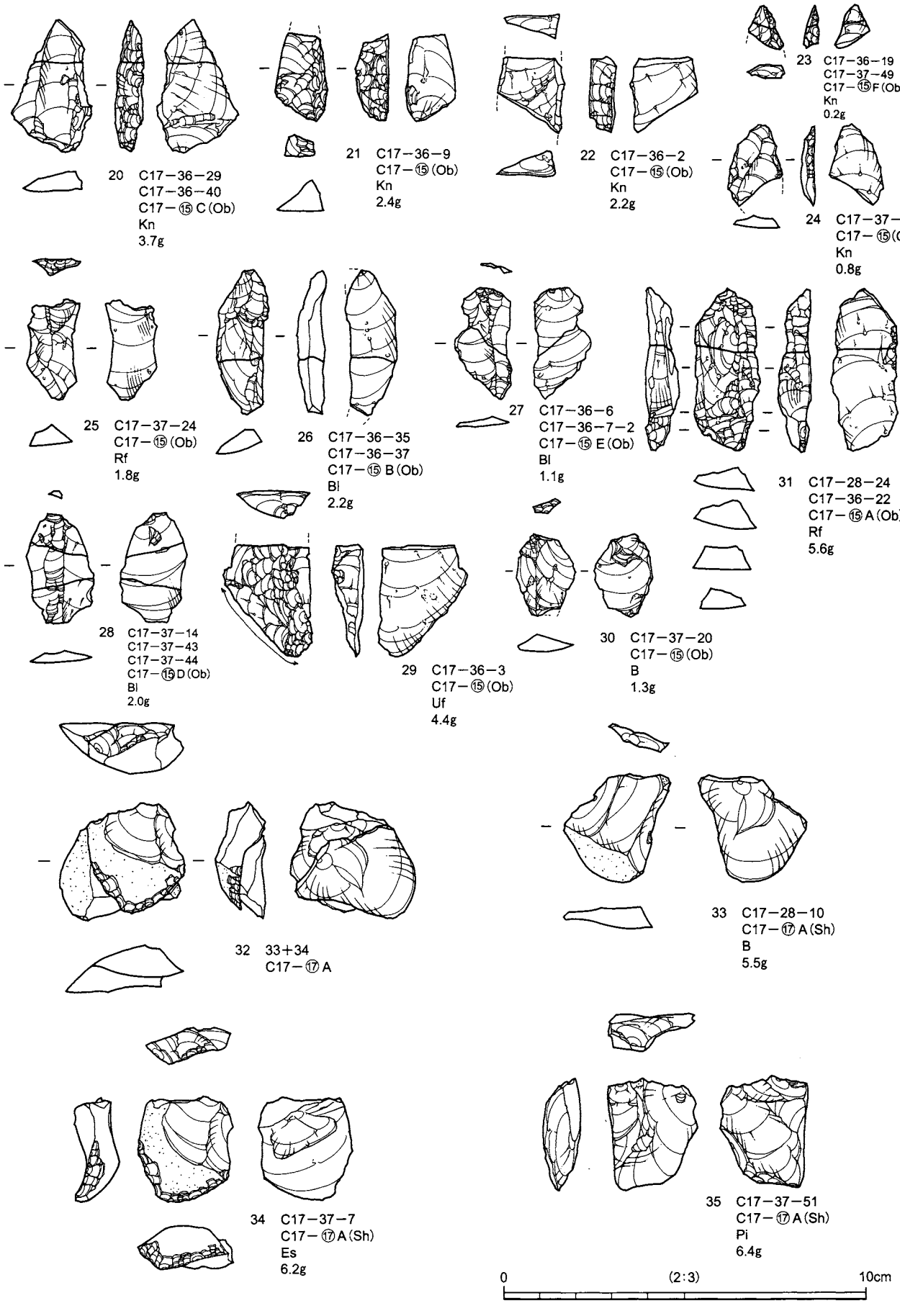
43は，使用痕ある剥片（44）と石核（45）の接合資料である。36と同様，剥片素材の石核を用い，求心



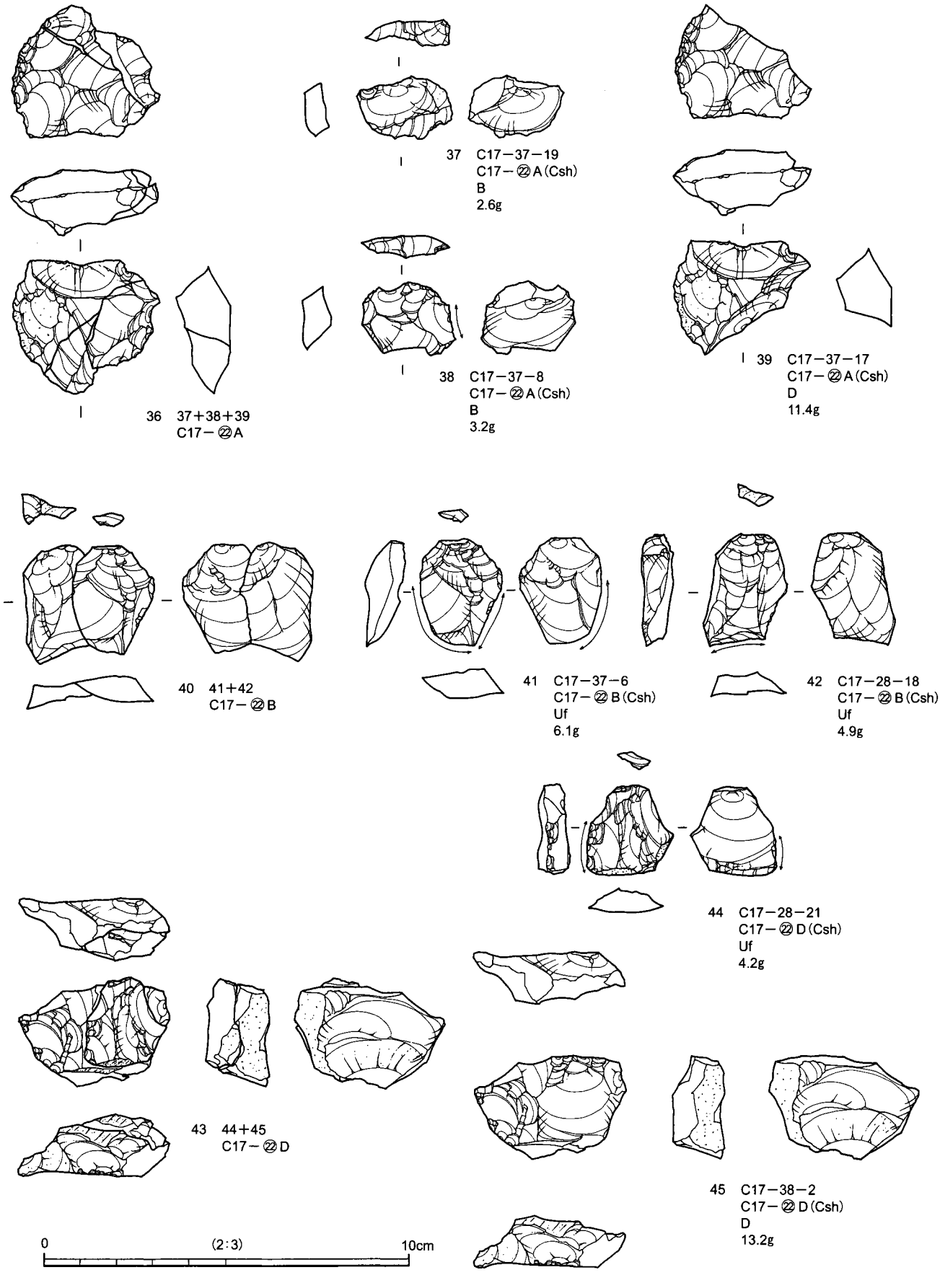
第60図　C17-Bブロック出土遺物実測図（1）



第61図　C17-Bブロック出土遺物実測図（2）



第62図　C17-Bブロック出土遺物実測図（3）

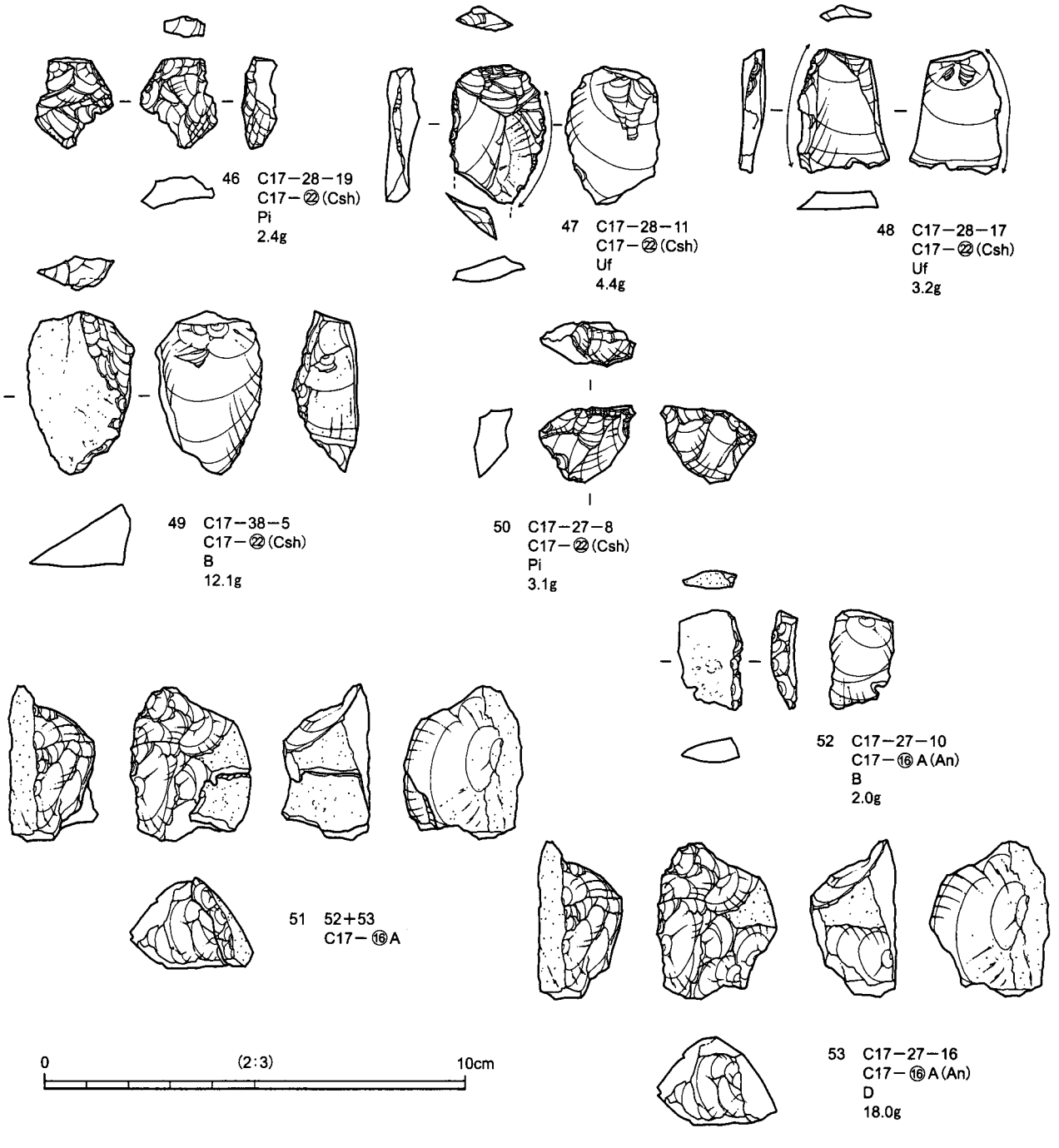


第63図　C17-Bブロック出土遺物実測図（4）

的な打点移動によって剥片生産を行っている。

46～50は，同一母岩であるが接合資料に含まれなかった石器である。不定型の剥片を素材とする楔形石器（46・50）や縦長剥片を利用した使用痕ある剥片（47・48）がある。

以上の資料から，本母岩の剥片剥離作業は，次のような母岩消費のあり方が想定される。①：原石から厚手の剥片を剥離して石核の素材とする。②：中・小型の縦長剥片を生産する。③：小型不定型の剥片を生産する。



第64図　C17-Bブロック出土遺物実測図（5）

第17表　C17-Bブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C17-⑭(Rh)																			6		1	7		7
C17-⑮(Ob)	7(5)									3(2)	1	7(3)							14	1		33(26)		33(26)
C17-⑯(An)																			2		1	3		3
C17-⑰(Sh)					1				1										9	1		12		12
C17-⑱(Sh)												1										1		1
C17-⑲(Sh)	1																					1		1
C17-⑳(Sh)	1																					1		1
C17-㉑(Sh)																					1	1		1
C17-㉒(Csh)									2		5								13		3	23		23
C17-㉓(Csh)																			1			1		1
C17-㉔(Sh)											1											1		1
C17-㉕(Csh)	1																					1		1
C17-㉖(Csh)																			1			1		1
C17-㉗(Ch)																			1			1		1
C17-㉘(Ho)																			2			2		2
C17-㉙(Ag)						1													1			2		2
C17-㉚(Ag)									1													1		1
C17-㉜(Ho)																			1			1		1
C23-②(Csh)																			1			1		1
C23-⑨(Sh)																			1		2	3		3
C23-⑬(Ag)									1													1		1
その他(Ob)																			14	14		28		28
その他(An)						1													12		1	14		14
その他(Sh)	1								1										3			5		5
その他(Csh)																			3			3		3
その他(Ag)																			1			1		1
C17R-⑭(Ch)																							1	1
C17R-⑮(Rh)																							1	1
その他(An)																							1	1
合　計	11(9)				1	2			6	3(2)	7	8(4)							86	16	9	149(142)	3	152(145)

第18表　C17-Bブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)	7(5)									3(2)	1	7(3)							28	15		61(54)		61(54)
安山岩(An)						1													14		2	17	1	18
流紋岩(Rh)																			6		1	7	1	8
頁岩(Sh)	3				1				2		1	1							13	1	3	25		25
珪質頁岩(Csh)	1								2		5								19		3	30		30
チャート(Ch)																			1			1	1	2
ホルンフェルス(Ho)																			3			3		3
メノウ(Ag)						1			2										2			5		5
合　計	11(9)				1	2			6	3(2)	7	8(4)							86	16	9	149(142)	3	152(145)

・C17-⑯（第64図51～53）　黒灰色で，やや軟質の安山岩である。剥片２点，石核１点の合計３点で構成される。

51は，剥片（52）と石核（53）の接合資料である。厚手の剥片を石核の素材として，求心的な打点の移動によって小型不定型の剥片を生産している。

8　C17-Eブロック（第65～67図，第19・20表）

1）ブロックの概要

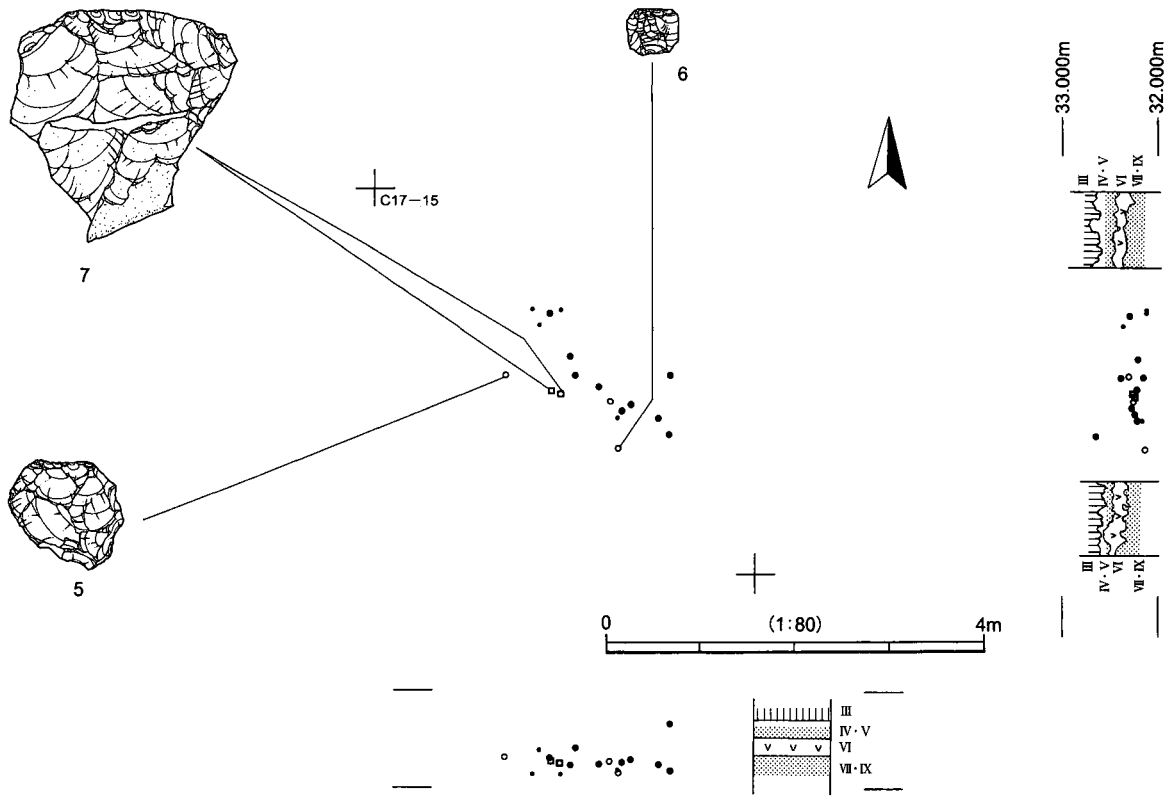
C17-Eブロックは，調査範囲東側のC17-15グリッドに位置する。ブロックの立地は，南西に向かって開く谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点までの距離は12mほどである。

ブロックの規模と形状は，長軸２m，短軸１mの範囲に18点の石器がまとまっている。出土層位はⅦ層を中心としており，各石器は30cmほどの高低差をもって水平に包含されている（第65・66図）。

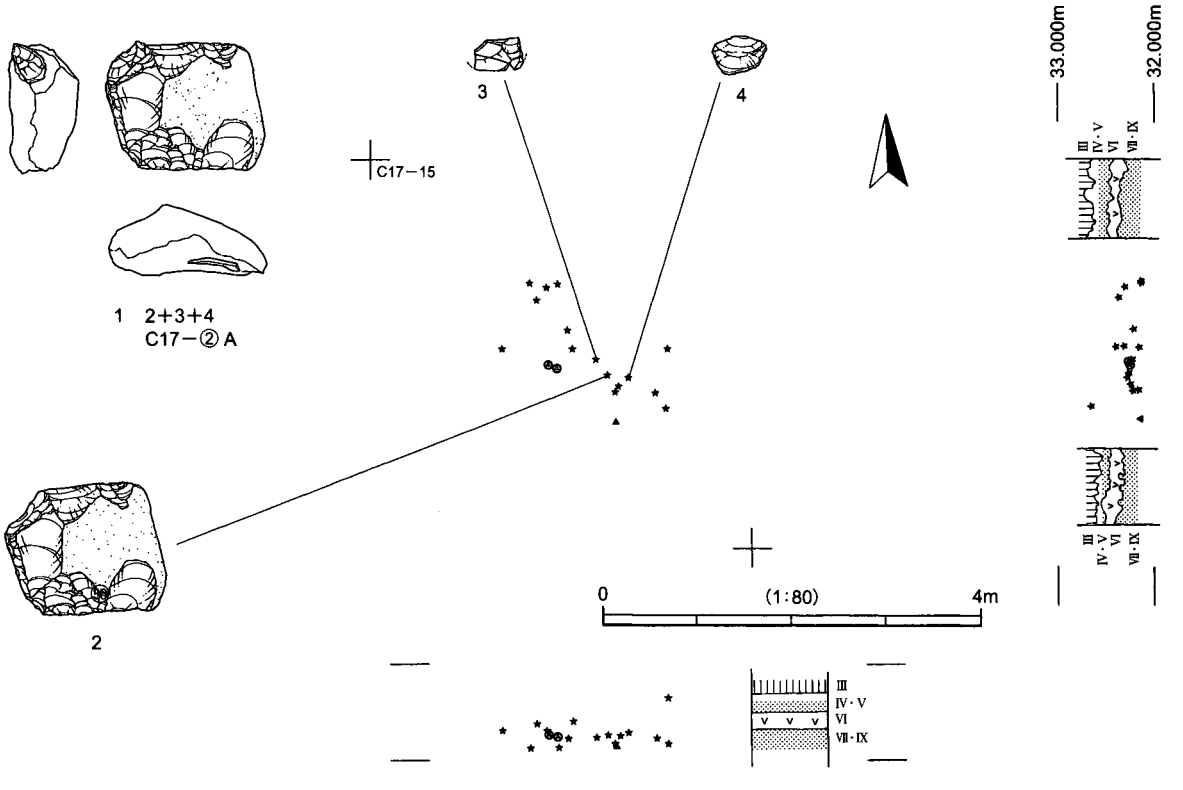
ブロックは，楔形石器３点，剥片９点，砕片４点，石核２点（１個体）の合計18点（17個体）で構成される。石材は，頁岩１点，砂岩２点，ホルンフェルス15点で，全体の７割が同一母岩である。

2）母岩の特徴と内容

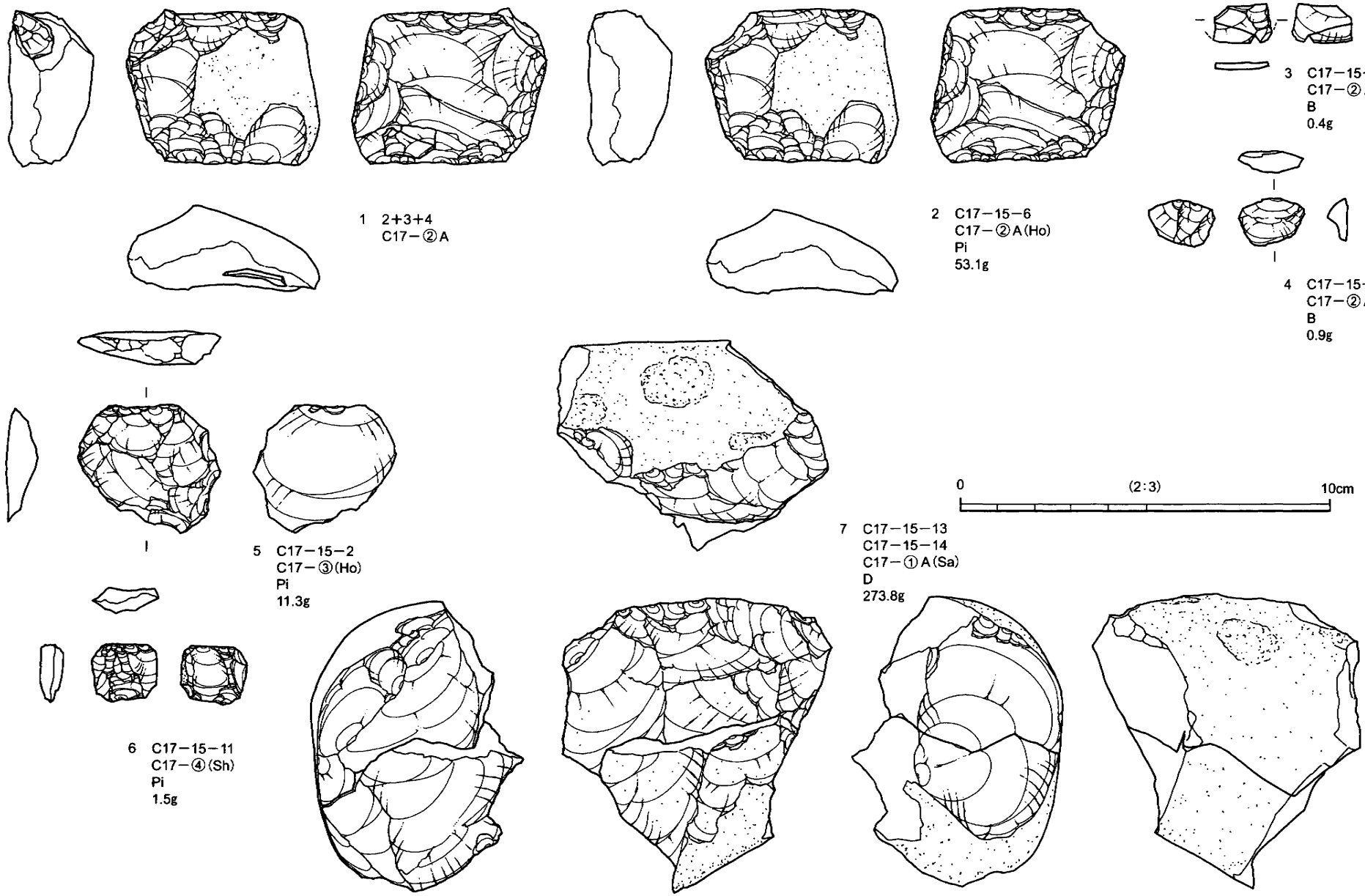
本ブロックでは４母岩を識別した。内訳は，頁岩１母岩（C17-④），砂岩１母岩（C17-①），ホルンフェルス２母岩（C17-②・③）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は94%（17/18点）である。



第65図　C17-Eブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



第66図　C17-Eブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－



第67図　C17-Eブロック出土遺物実測図

第19表　C17-Eブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C17-①(Sa)																					2(1)	2(1)		2(1)
C17-②(Ho)									1										8	4		13		13
C17-③(Ho)									1													1		1
C17-④(Sh)									1													1		1
その他(Ho)																			1			1		1
合　計									3										9	4	2(1)	18(17)		18(17)

第20表　C17-Eブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
頁岩(Sh)									1													1		1
砂岩(Sa)																					2(1)	2(1)		2(1)
ホルンフェルス(Ho)									2										9	4		15		15
合　計									3										9	4	2(1)	18(17)		18(17)

・C17-①：自然面は暗褐色，内部は黄色みがかった黒灰色の砂岩である。原石は，拳二つ分ほどの円礫と思われる。石器群の内訳は，石核２点（１個体；273.8ｇ）の単独資料である。自然面には爪跡のような傷のまとまりが３か所あることから，石核として消費される以前に台石として機能していた可能性が高い。

・C17-②：きめの細かい黒灰色の部分ときめの粗い淡褐色の部分とが互層をなすホルンフェルスである。楔形石器１点，剥片８点，砕片４点の合計13点（60.1ｇ）で構成される。このうち，楔形石器１点と剥片２点が接合する（合計54.4ｇ）。

・C17-③：黒灰色のホルンフェルスである。楔形石器１点（11.3ｇ）の単独資料である。

・C17-④：黒褐色で光沢に富み，硬質緻密な東北産頁岩である。楔形石器１点（1.5ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，ホルンフェルスの剥片１点（1.4ｇ）がある。

3）出土遺物（第67図）

５は，ホルンフェルスによる不定型の剥片を素材とする楔形石器である。打面と対向する末端部に損傷が見られるが，調整加工は少ない。６は，頁岩による楔形石器である。表面は，上下両方向からの調整加工に覆われており，素材時の剥離面は残されていない。

７は，砂岩による石核である。破損した台石を石核に転用したものと考えられる。正面図上端の自然面を打面として剥片剥離作業を試みているが，石質が不良だったためか良好な剥片は剥離されなかったようである。剥片生産途中で二つに割れ，作業を放棄している。

4）接合資料とその関連資料（第67図）

・C17-②（第67図１～４）　黒灰色と淡褐色の部分が互層をなすホルンフェルスで，楔形石器１点，剥片８点，砕片４点の合計13点で構成される。

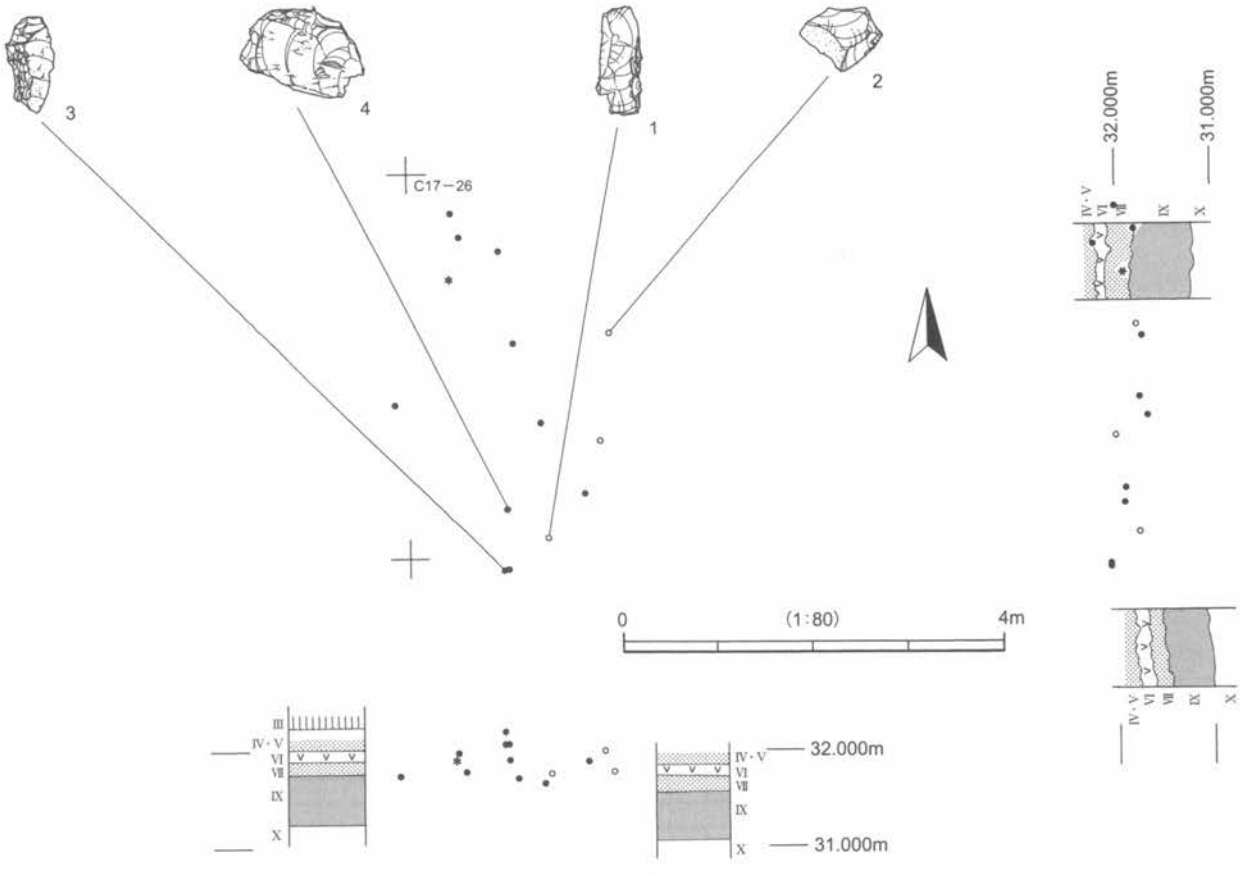
１は，比較的大型の楔形石器（２）とその調整剥片（３・４）の接合資料である。表面に自然面，裏面に素材の主要剥離面を広く残す。上下の縁辺は，楔形石器一般と同様，潰れている。同一母岩で接合しなかったものも小型の剥片や砕片類で構成されており，楔形石器の製作に関連した資料と考えられる。

9　C17-Fブロック（第68～70図，第21・22表）

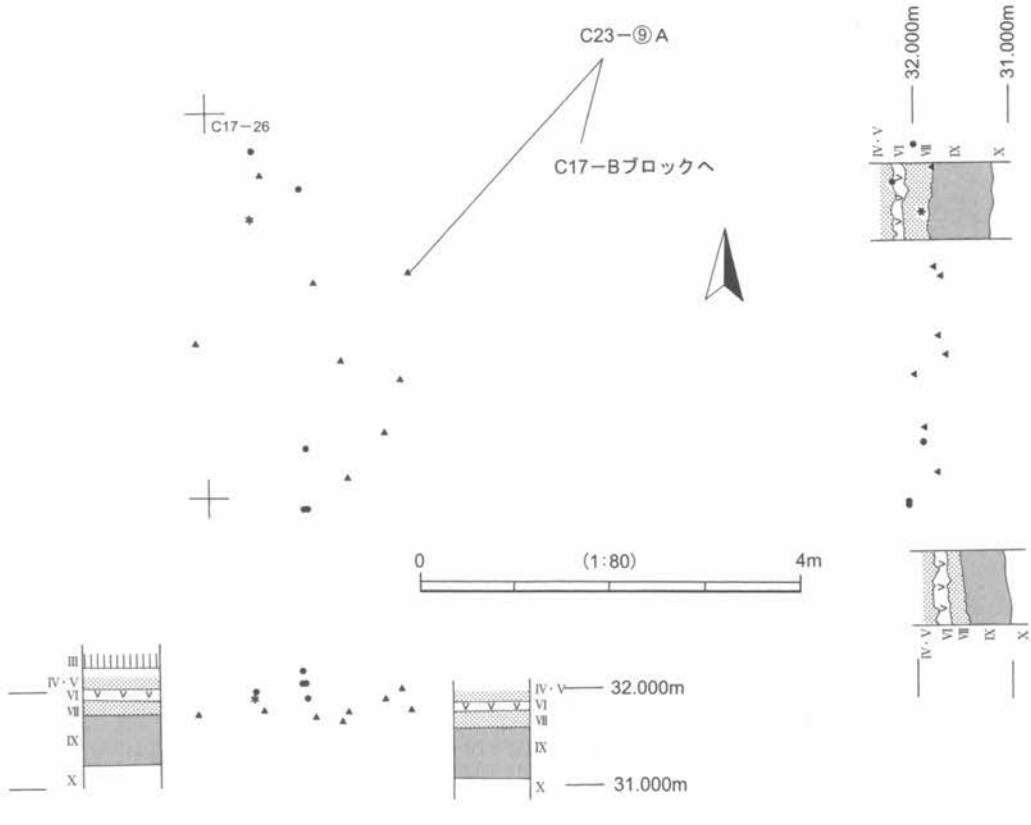
1）ブロックの概要

C17-Fブロックは，調査範囲東側のC17-25・26・36グリッドに位置する。ブロックの立地は，南西に向かって開く谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点までの距離は10mほどである。

ブロックの位置と形状は，長軸４m，短軸２mの範囲に14点の石器・礫が散漫に分布する。出土層位は



第68図　C17-Fブロック出土遺物分布図（1）　−石器別分布図−



第69図　C17-Fブロック出土遺物分布図（2）　−石材別分布図−

Ⅶ層からⅨ層にかけてで，各石器は50cmほどの高低差をもって，北に向かって緩やかに下がって包含されている（第68・69図）。

ブロックは，削器１点，使用痕ある剥片２点；剥片10点，礫１点の合計14点で構成される。石器石材は，黒曜石５点，頁岩３点，珪質頁岩５点，礫石材は，頁岩１点（母岩の不明）である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは４母岩を識別した。内訳は，黒曜石１母岩（C17-⑤），頁岩２母岩（C17-⑥，C23-⑨），珪質頁岩１母岩（C17-⑦）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は54%（７/13点）である。

・C17-⑤：漆黒色不透明の黒曜石である。φ２mm以下の黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。剥片３点（合計7.9ｇ）で構成される。

・C17-⑥：黒褐色で硬質緻密な東北産頁岩である。削器１点（3.2ｇ）の単独資料である。

・C17-⑦：褐色の珪質頁岩である。使用痕ある剥片１点，剥片１点（合計8.6ｇ）で構成される。

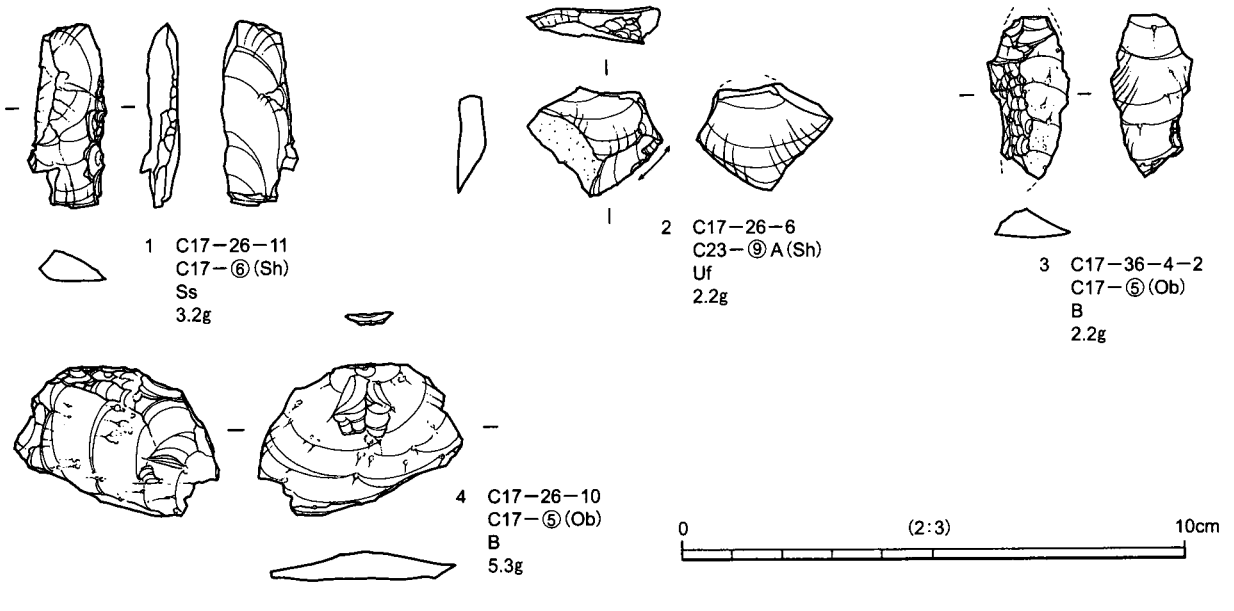
・C23-⑨：灰色がかった暗褐色と黄灰色の混在する頁岩で，母岩の特徴は，C17-Ｂブロックで記したとおりである。本ブロックでは使用痕ある剥片１点（2.2ｇ）の単独資料であるが，C17-Ｂブロックの

第21表　C17-Ｆブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C17-⑤(Ob)																			3			3		3
C17-⑥(Sh)						1																1		1
C17-⑦(Csh)											1								1			2		2
C23-⑨(Sh)											1											1		1
その他(Ob)																			2			2		2
その他(Sh)																			1			1		1
その他(Csh)																			3			3		3
その他(Sh)																							1	1
合　計						1					2								10			13	1	14

第22表　C17-Ｆブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)																			5			5		5
頁岩(Sh)						1					1								1			3	1	4
珪質頁岩(Csh)											1								4			5		5
合　計						1					2								10			13	1	14



第70図　C17-Ｆブロック出土遺物実測図

剥片１点と接合する。このほかに同一母岩は，C17-Bブロックに３点，C23-Bブロックに２点，C23-Cブロックに４点，C23-Dブロックに１点ある。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石の剥片２点（合計0.4ｇ），頁岩の剥片１点（0.4ｇ），珪質頁岩の剥片３点（合計8.1ｇ）がある。黒曜石は信州産を含み，頁岩は東北産の可能性が高い。

３）出土遺物（第70図）

１は，頁岩による横長剥片を用いた削器である。素材の主要剥離面側（実測図では左の面）の末端部に細かな調整加工が見られる。２は，頁岩による使用痕ある剥片である。不定型の剥片を利用している。３・４は黒曜石による同一母岩の剥片である。３の表面左側には，石核の側面調整痕と見られる剥離面が連続しており，小型の石刃とすべきかも知れない。４は，横長の剥片である。

10　C17-Gブロック（第71～81図，第23・24表）

１）ブロックの概要

C17-Gブロックは，調査範囲東側のC17-38・47・48・58グリッドに位置する。ブロックの立地は，南西に向かって開く谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点までの距離は５ｍほどである。

ブロックの規模と形状は，長軸８ｍ，短軸４ｍの範囲に58点の石器・礫が分布する。ただし，長軸５ｍ，短軸３ｍの範囲にほとんどの石器が集まっている。出土層位はⅦ層からⅨ層上部にかけてで，各石器は60㎝ほどの高低差をもって水平に包含されている（第71～74図）。

ブロックは，ナイフ形石器１点，加工痕ある剥片２点（１個体），使用痕ある剥片１点，剥片34点（28個体），石核15点（10個体），礫５点の合計58点（46個体）で構成される。石器石材は，流紋岩29点，珪質頁岩18点，チャート２点，砂岩１点，ホルンフェルス２点，メノウ１点，礫石材は，砂岩４点，ホルンフェルス１点である。礫は，母岩分類できたもの５点（２母岩）である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは10母岩を識別した。内訳は，流紋岩３母岩（C17-⑭・㉛・㉝），珪質頁岩４母岩（C17-㉟～㊲，C23-②），チャート１母岩（C17-㊳），ホルンフェルス１母岩（C17-㉞），メノウ１母岩（C17-㉙）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は89％（47/53点）である。

・C17-⑭：灰緑色の流紋岩で，母岩の特徴は，C17-Aブロックで記したとおりである。石器群の内訳は，剥片11点（９個体），石核６点（３個体）の合計17点（12個体；345.5ｇ）で，接合資料は３グループある。

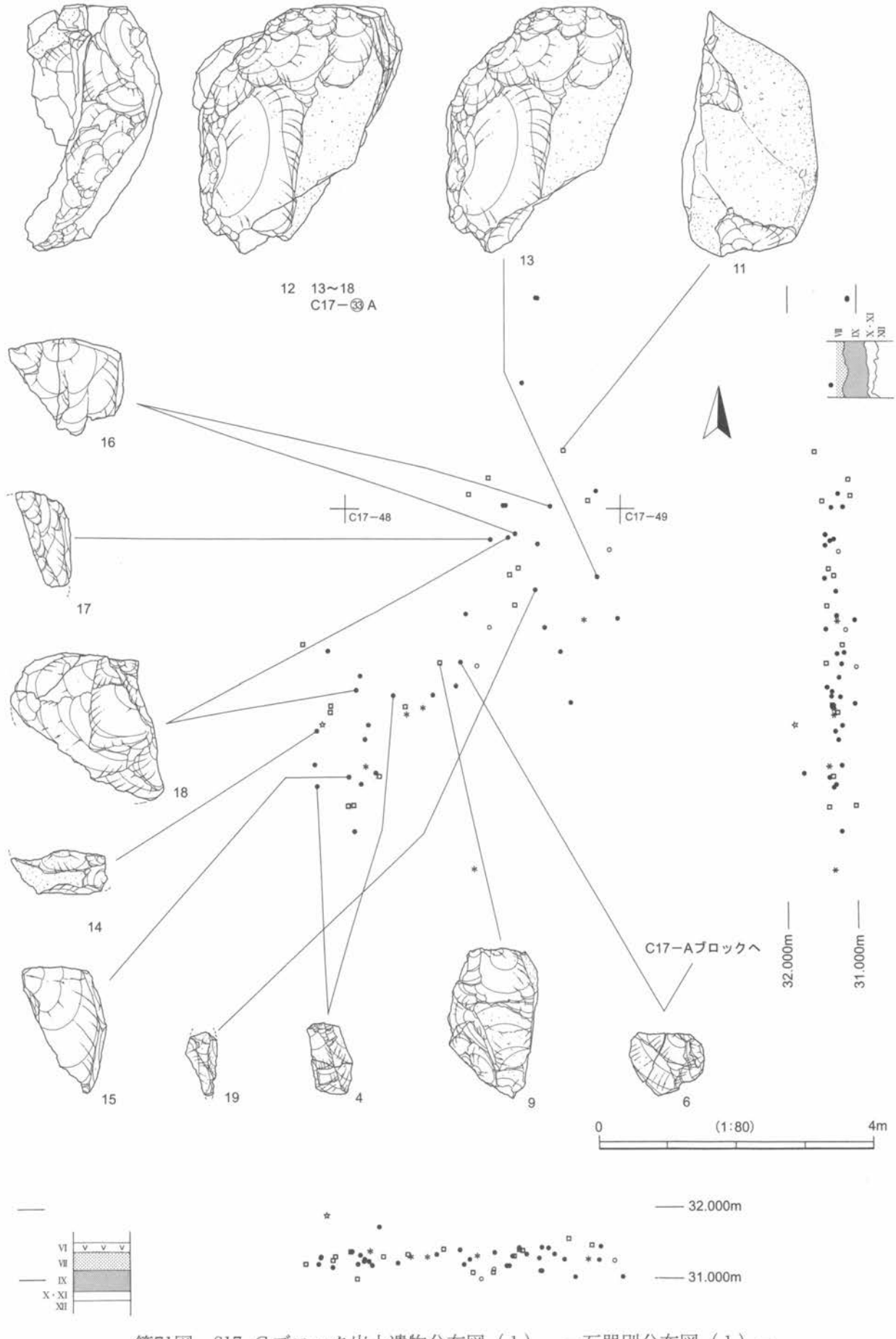
Aグループは，剥片７点，石核６点（３個体）で構成される（合計337.5ｇ）。このグループには本ブロックの資料以外に，C13-Cブロックの石核１点，C17-Aブロックの剥片24点（22個体），石核１点，C17-Bブロックの剥片１点，石核１点が接合する。

それ以外の接合資料に，本ブロックの剥片１点とC17-Aブロックの剥片１点が接合して１個体となるもの（7.4ｇ），本ブロックの剥片２点が接合して１個体となるもの（4.1ｇ）がある。

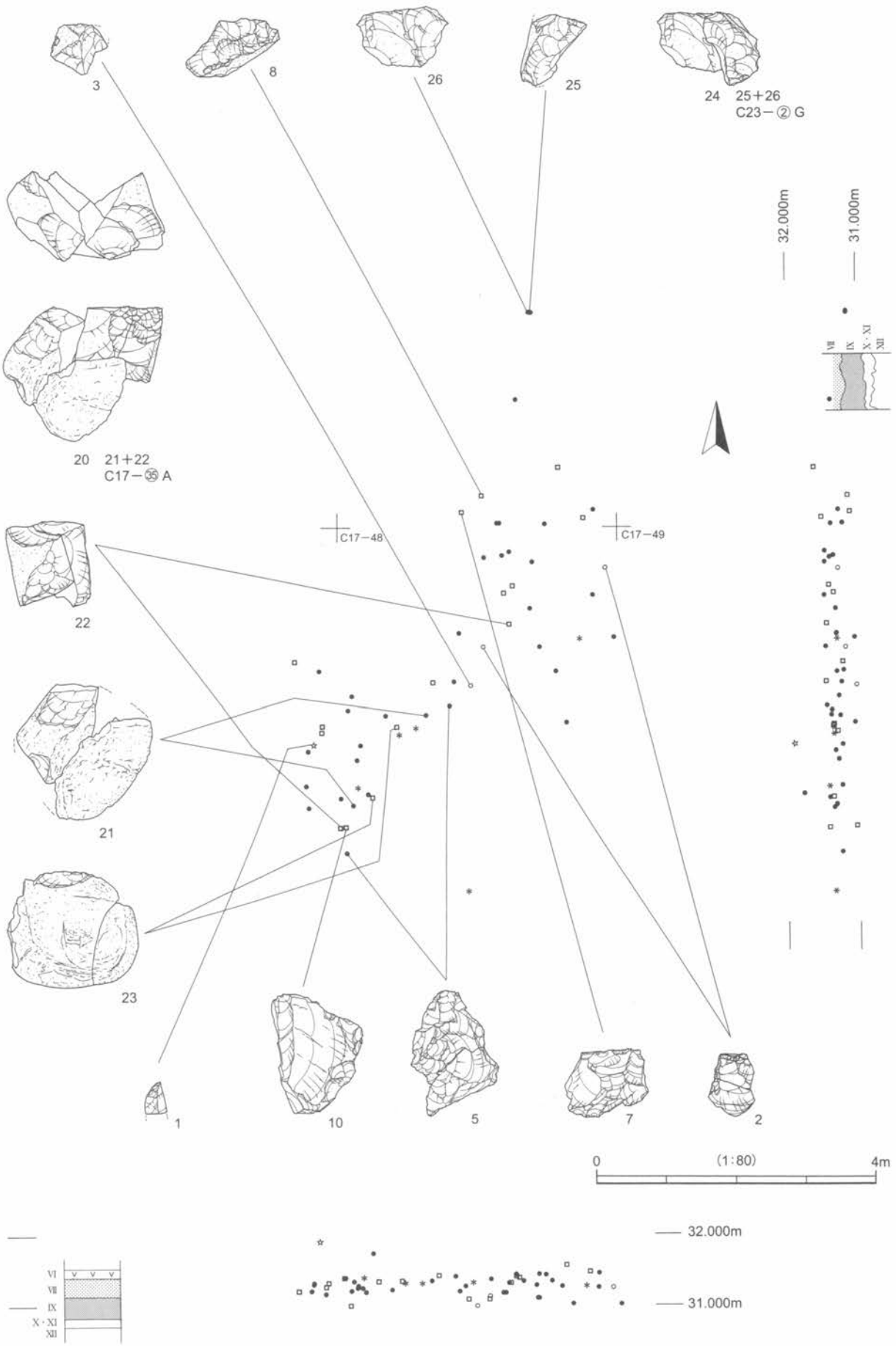
同一母岩は，C13-Cブロックに３点，C17-Aブロックに82点，C17-Bブロックに５点がある。

・C17-㉙：黄白色のメノウで，母岩の特徴は，C17-Bブロックで記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（4.4ｇ）の単独資料であるが，同一母岩が，C17-Bブロックに２点ある。

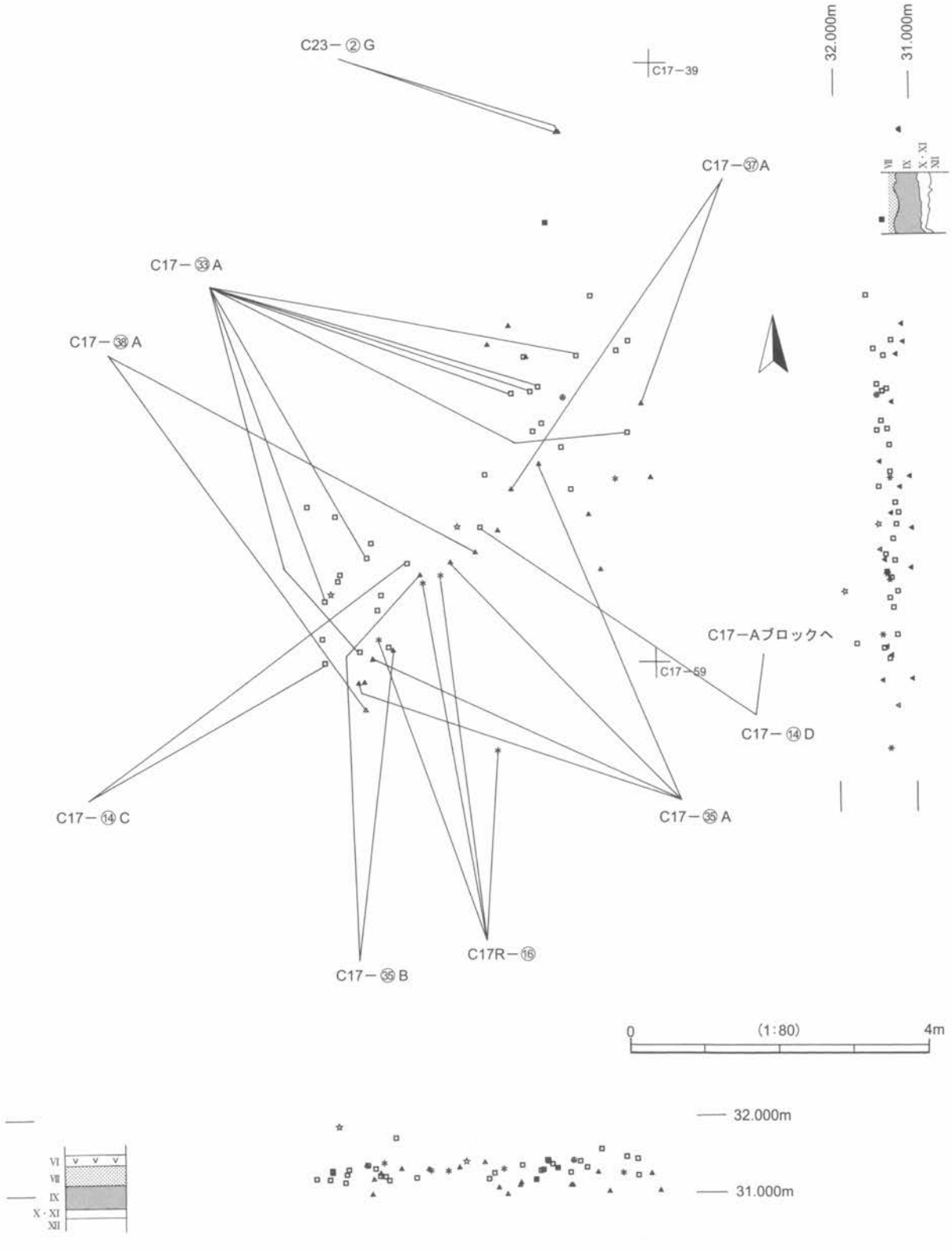
・C17-㉛：緑色を帯びた灰色の流紋岩（あるいは凝灰岩）である。表面は被熱のためか赤化しているが，



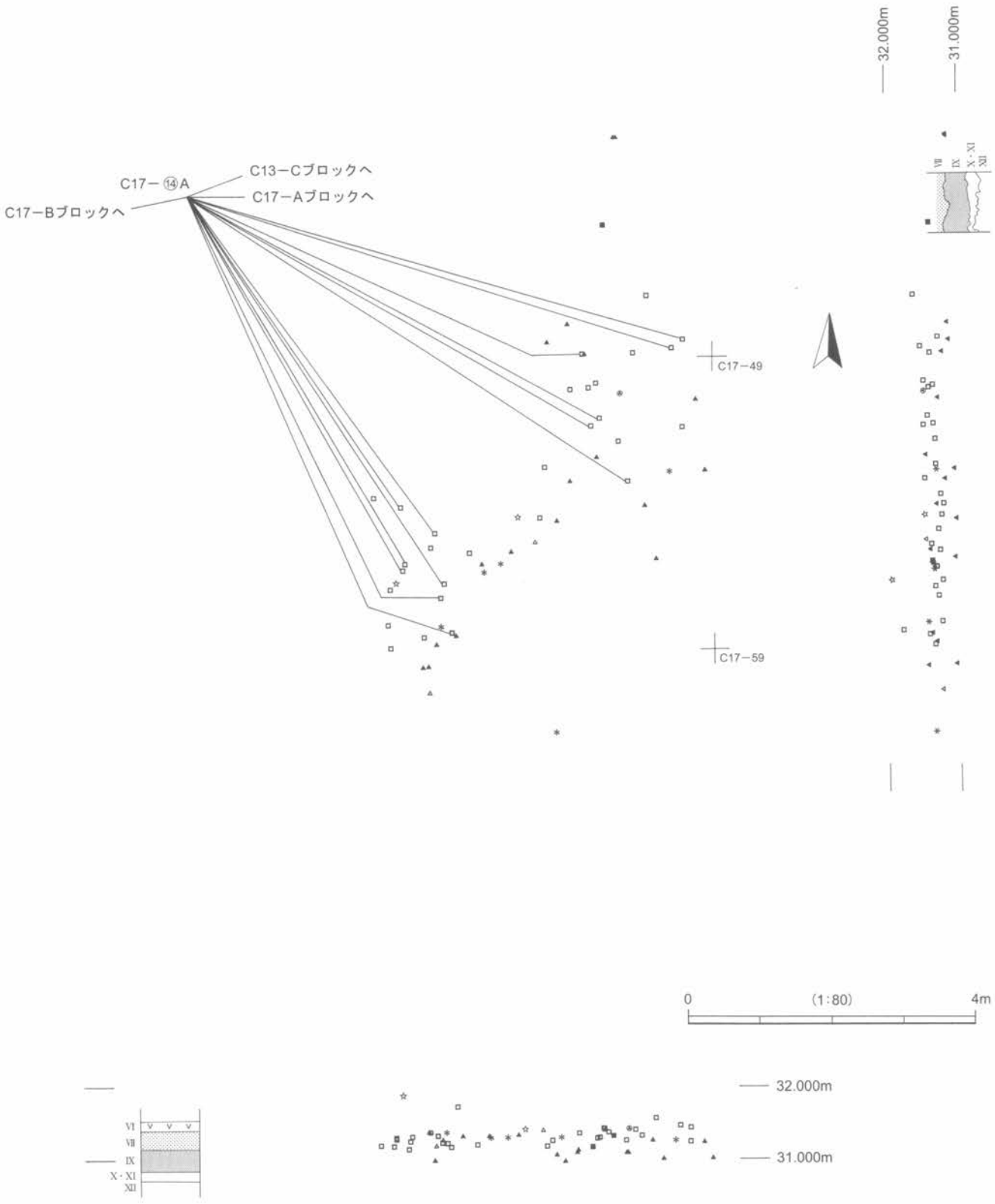
第71図　C17-Gブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図（1）－



第72図　C17-Gブロック出土遺物分布図（2）　－石器別分布図（2）－



第73図　C17-Gブロック出土遺物分布図（3）　－石材別分布図（1）－



第74図　C17-Gブロック出土遺物分布図（4）　－石材別分布図（2）－

比較的硬質である。原石は，拳ほどの大きさの円礫と考えられる。石核１点の単独資料（561.3ｇ）である。

・C17-㉝：緑色を帯びた灰色の流紋岩（あるいは凝灰岩）で，原石は，大型の円礫と考えられる。C17-㉛母岩に比べて軟質である。石器群の内訳は，剥片11点（９個体；550.9ｇ）で，このうち剥片８点（６個体；548.0ｇ）が接合する。

・C17-㉞：自然面は黒灰色，内部は灰色の地に黒灰色の縞が入るホルンフェルスである。部分的に赤化し，節理に沿ってひび割れている。石核１点（102.3ｇ）の単独資料である。

・C17-㉟：自然面は暗褐色，内部は灰緑色の地に灰白色の線が多方向に入る珪質頁岩である。原石は拳よりも一回りほど小振りの円礫で，本ブロックで母岩消費の全体が行われたと考えられる。石器群の内訳は，剥片２点（１個体），石核４点（２個体）の合計６点（201.4ｇ）である。

接合資料は２グループある。Ａグループは，剥片２点（１個体）と石核２点（１個体）による接合資料（合計118.8ｇ），Ｂグループは，石核２点による接合資料（１個体；82.6ｇ）である。

・C17-㊱：灰緑色の嶺岡産珪質頁岩で，母岩の特徴は，C17-Ａブロックで記したとおりである。本ブロックでは石核１点（40.7ｇ）の単独資料であるが，同一母岩は，C17-Ａブロックに１点ある。

・C17-㊲：灰白色の嶺岡産珪質頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片２点（１個体；3.0ｇ）の単独資料である。

・C17-㊳：青灰色の地に青黒色の線が多方向に入るチャートである。石器群の内訳は，剥片２点（１個体；30.2ｇ）の単独資料である。

・C23-②：自然面と節理面は橙褐色，内部は灰緑色の嶺岡産珪質頁岩である。本ブロックでは，使用痕ある剥片１点，剥片３点，石核１点の合計５点（42.7ｇ）で，このうち，剥片２点（合計22.1ｇ）が接合する。同一母岩は，C17-Ｂブロックに１点，C23-Ａブロックに64点，C23-Ｃブロックに２点ある。

なお，母岩分類できなかった資料に，珪質頁岩の剥片３点，石核１点（合計35.6ｇ），砂岩の剥片１点(2.0ｇ)，ホルンフェルスのナイフ形石器１点（0.6ｇ）がある。珪質頁岩は，いずれも嶺岡産と考えられる。

３）出土遺物（第75・76図）

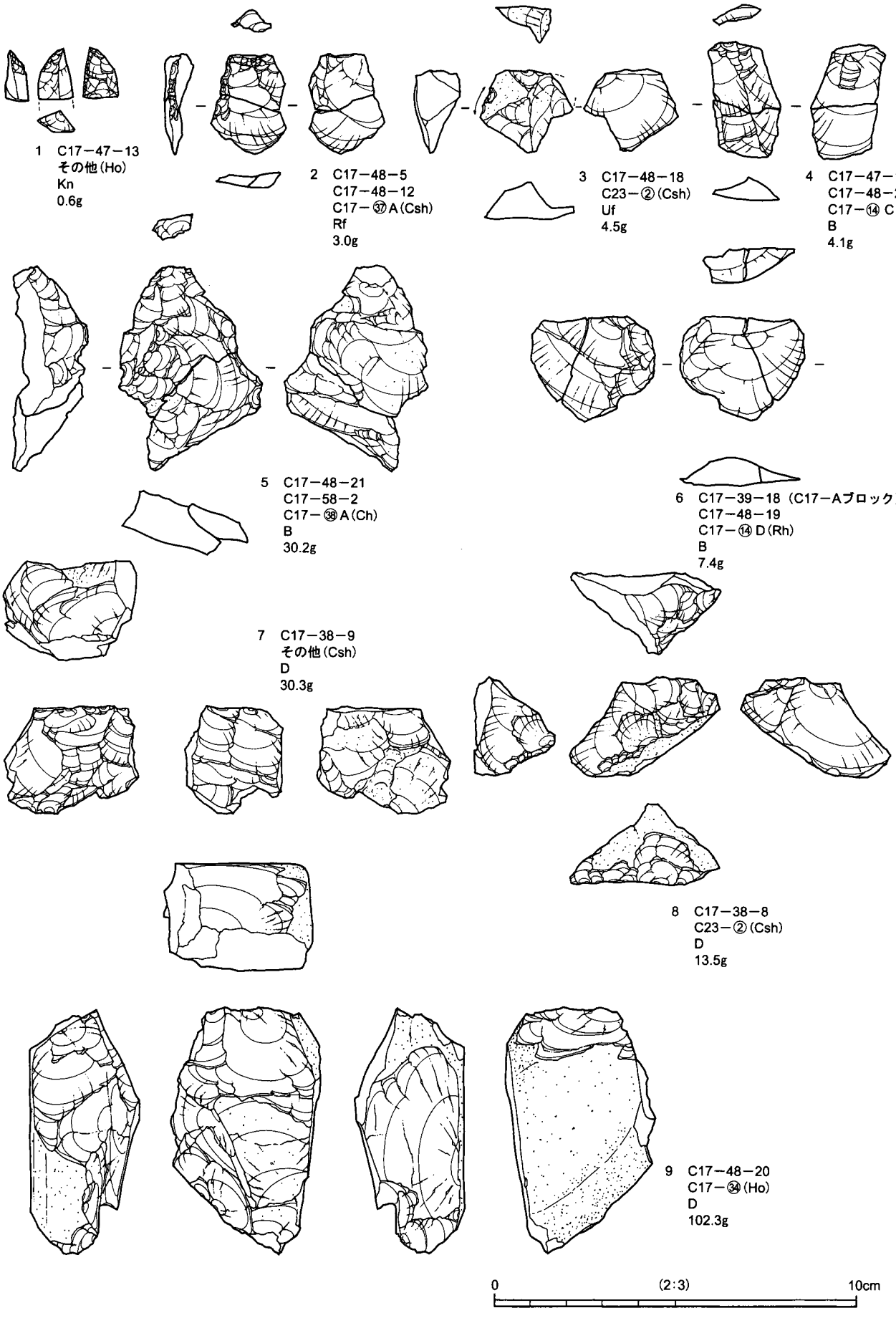
１は，灰色のホルンフェルスによるナイフ形石器である。正面図右側の剥離面が素材の主要剥離面と考えられる。素材の打面部を斜めに切るように調整加工を行っている。下半部は欠損する。２は，珪質頁岩による不定型な剥片を用いた加工痕ある剥片である。表面左側縁に細かな剥離痕が連続する。３は，頁岩による不定型な剥片を利用した使用痕ある剥片である。打面に続く鋭利な縁辺に刃こぼれが見られる。

４～６は，各種石材の不定型な剥片，７～11は，不定型な剥片を生産した石核である。11は礫素材であるが，それ以外は厚手の剥片ないしは分割礫を用いている。

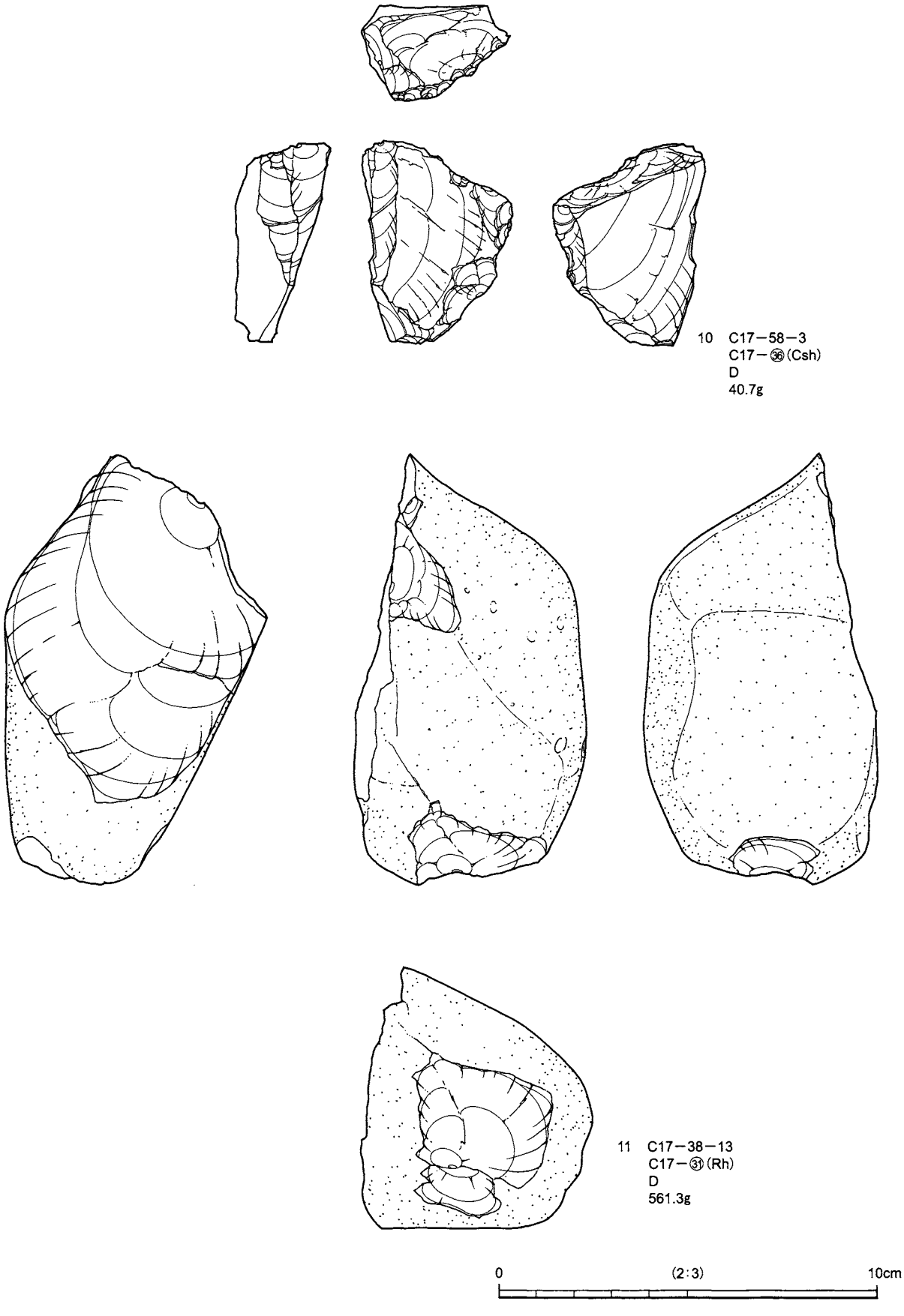
４）接合資料とその関連資料（第75～81図）

・C17-㉝（第77図12，第78図13，第79図14～19）　緑色を帯びた灰色の流紋岩（あるいは凝灰岩）で，剥片11点（９個体）で構成される。

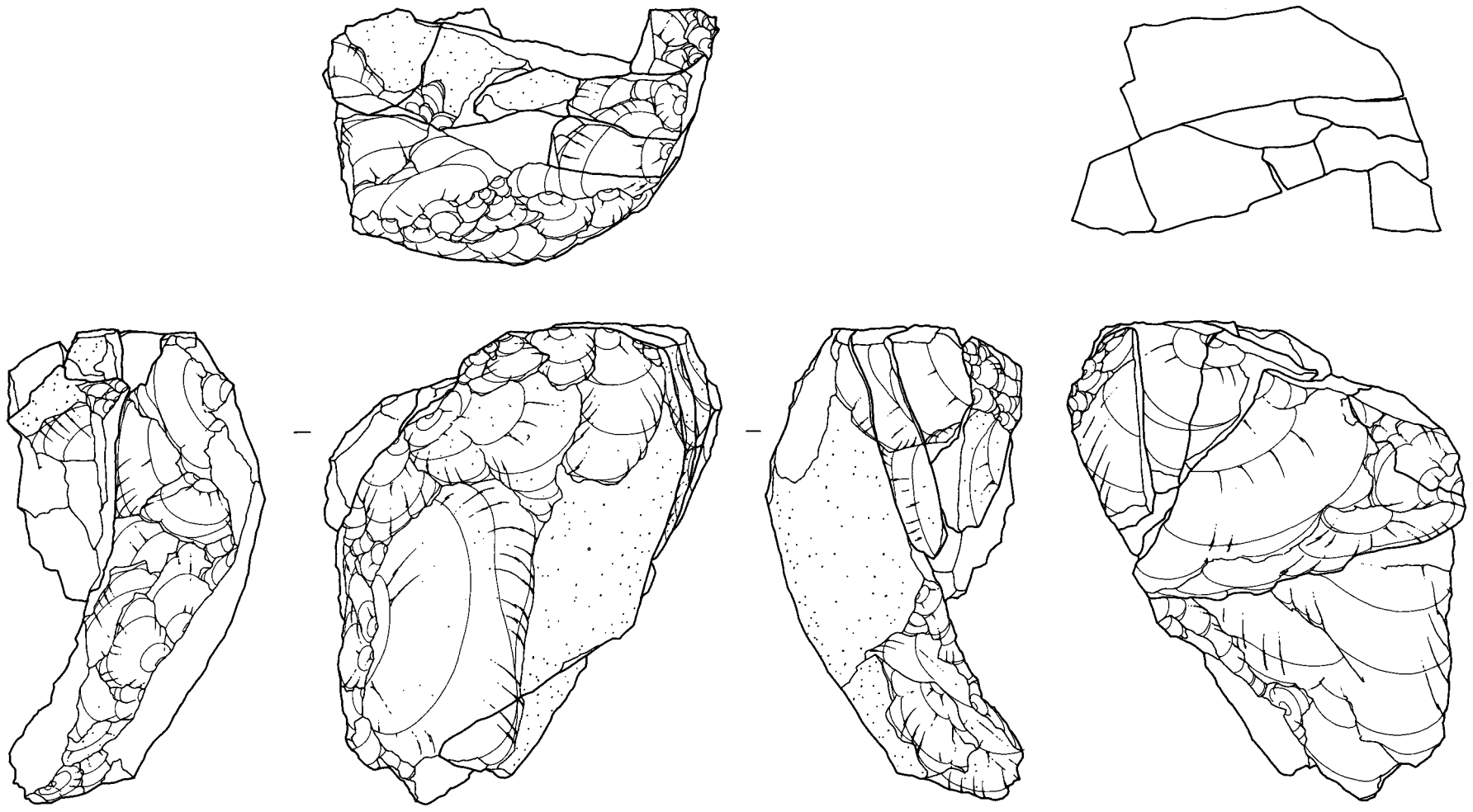
12は，剥片８点（６個体；13～18）の接合資料である。接合資料から見た剥片剥離作業は，はじめに大型の円礫を素材とし，交互剥離と求心的な打点移動によって不定型の剥片を剥離する。その中で14を右下



第75図　C17-Gブロック出土遺物実測図（1）



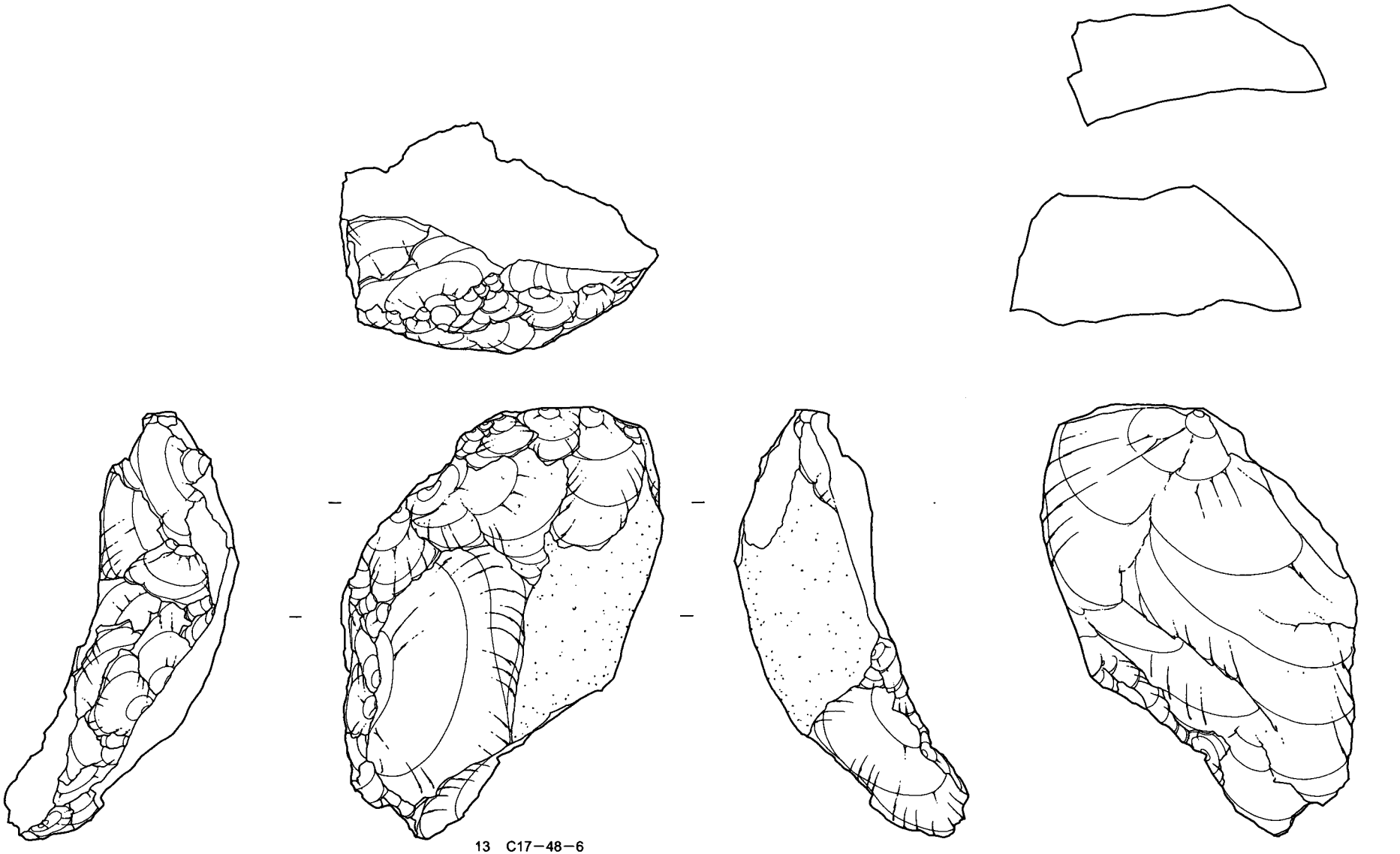
第76図　C17-Gブロック出土遺物実測図（2）



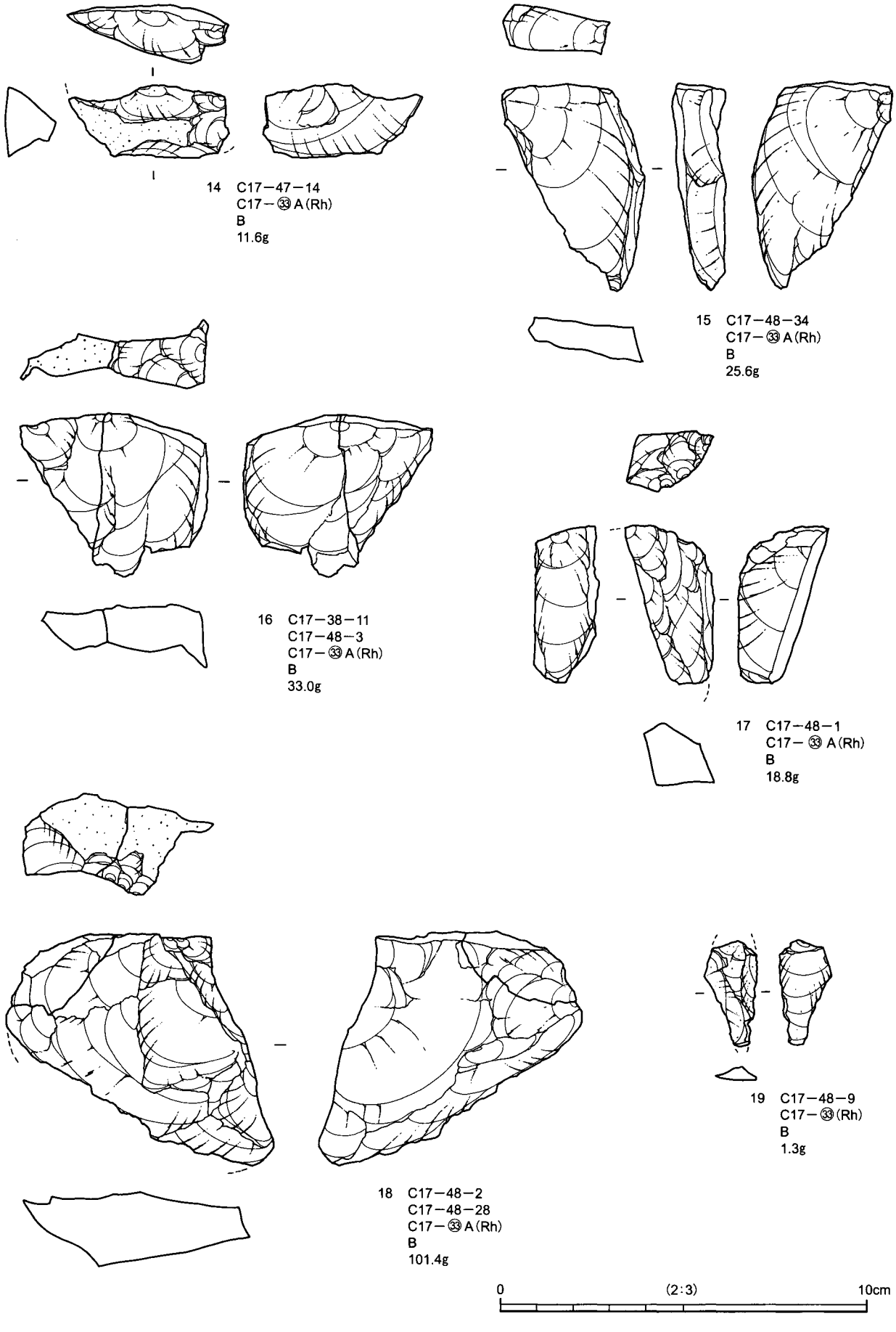
12　13＋14＋15＋16＋17＋18
C17－㉝A

0　(2:3)　10cm

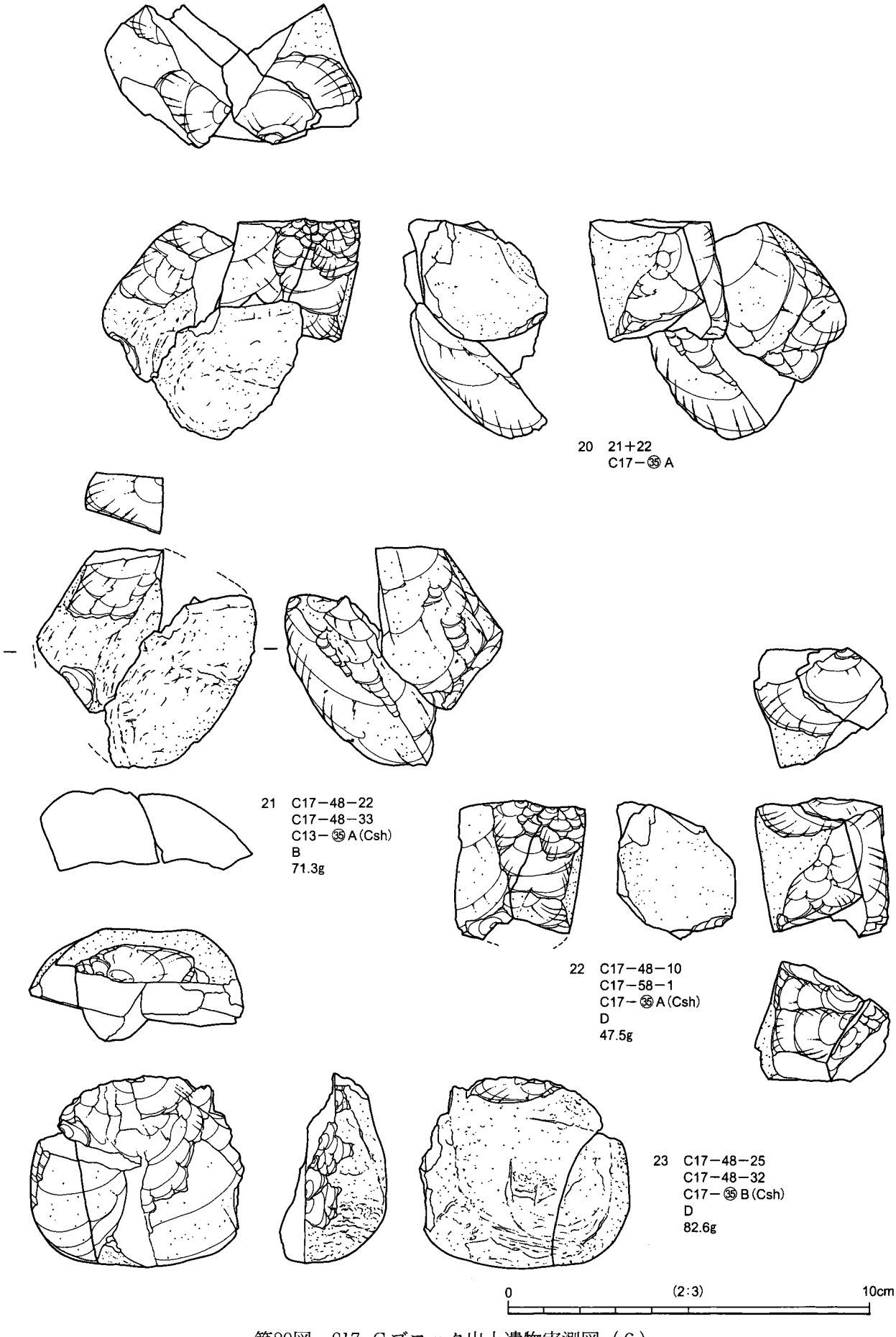
第77図　C17-Gブロック出土遺物実測図（3）



第78図　C17-Gブロック出土遺物実測図（4）



第79図　C17-Gブロック出土遺物実測図（5）



第80図　C17-Gブロック出土遺物実測図（6）

方から剥離している。次に，上端の打面から13→15→16・18→17の順に大型不定型の剥片を生産している。

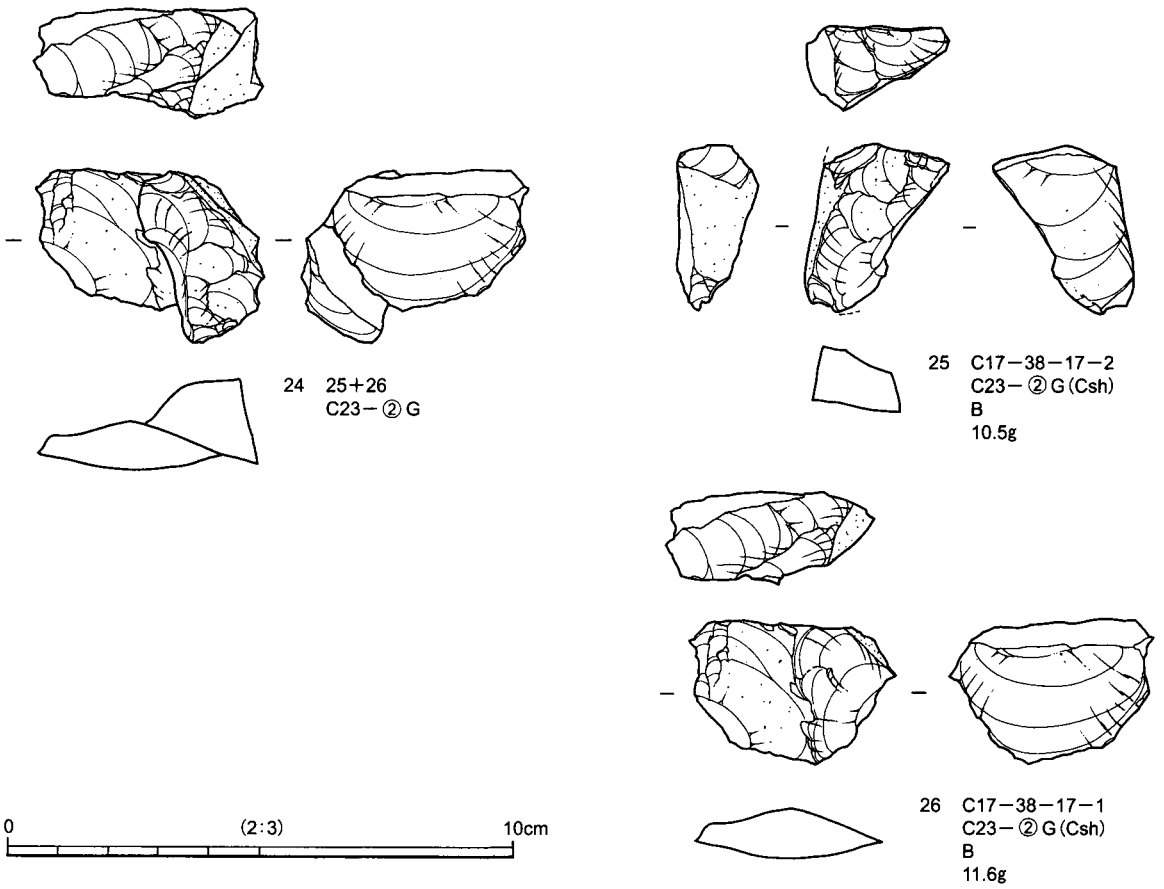
なお，18の表面右端には数回の打撃による剥離面があることから，①：18は16とともに大型剥片として剥離された後，意図的に分割されたか，あるいは②：剥片剥離時に割れた後，何らかの理由で18の表面に

第23表　C17-Gブロック母岩別石器組成表

母岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C17-⑭(Rh)																			11(9)		6(3)	17(12)		17(12)
C17-㉙(Ag)																			1			1		1
C17-㉛(Rh)																					1	1		1
C17-㉝(Rh)																			11(9)			11(9)		11(9)
C17-㉞(Ho)																					1	1		1
C17-㉟(Csh)																			2(1)		4(2)	6(3)		6(3)
C17-㊱(Csh)																					1	1		1
C17-㊲(Csh)										2(1)												2(1)		2(1)
C17-㊳(Ch)																			2(1)			2(1)		2(1)
C23-②(Csh)											1								3		1	5		5
その他(Csh)																			3		1	4		4
その他(Sa)																			1			1		1
その他(Ho)	1																					1		1
C17R-⑯(Sa)																							4	4
C17R-⑰(Ho)																							1	1
合計	1									2(1)	1								34(28)		15(10)	53(41)	5	58(46)

第24表　C17-Gブロック石材別石器組成表

石材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
流紋岩(Rh)																			22(18)		7(4)	29(22)		29(22)
珪質頁岩(Csh)										2(1)	1								8(7)		7(5)	18(14)		18(14)
チャート(Ch)																			2(1)			2(1)		2(1)
砂岩(Sa)																			1			1	4	5
ホルンフェルス(Ho)	1																				1	2	1	3
メノウ(Ag)																			1			1		1
合計	1									2(1)	1								34(28)		15(10)	53(41)	5	58(46)



第81図　C17-Gブロック出土遺物実測図（7）

打撃を加えたかのいずれかである。

このほか，接合しないが不整形の縦長剥片（19）がある。石核は残されていない。

・C17-㉟（第80図20～23）　灰緑色の地に灰白色の線が多方向に入る珪質頁岩で，剥片２点（１個体；21），石核４点（２個体；22・23）の合計６点（３個体）で構成される。

本母岩の剥片剥離作業は，はじめに円礫を粗く分割し，石核の素材を生産する。この段階で21，22，23ほかが得られる。次に，それぞれから小型の剥片が剥離されることになるが，21については厚手の剥片が３～４個に割れただけで，剥片生産は行われずに廃棄されている。22は，小型の剥片を剥離した石核である。剥片剥離作業中に石核が二つに割れるが，その後も剥片剥離作業を継続している。23は接合しないが同一母岩の厚手の剥片を素材とする石核である。小規模な剥片生産を実施しただけで作業を終了している。

・C23-②（第81図24～26）　灰緑色の嶺岡産珪質頁岩で，使用痕ある剥片１点，剥片３点，石核１点の合計５点で構成される。

24は，剥片２点（25・26）の接合資料である。25と26は互いに節理面で接合しているため，両者の関係はよくわからない。

11　C23-Aブロック（第82～95図，第25・26表）

１）ブロックの概要

C23-Aブロックは，調査範囲南側のC23-10～12・20～22グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の南西に向かって開く谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点までの距離は18mほどである。

ブロックの規模と形状は，長軸９m，短軸６mの範囲に128点の石器・礫が分布する。出土層位はⅨ層上部を中心としており，各石器は40cmほどの高低差をもって水平に包含されている（第82～87図）。

ブロックは，ナイフ形石器１点，削器１点，楔形石器１点，使用痕ある剥片３点，剥片104点（96個体），砕片12点，石核５点，礫１点の合計128点（120個体）で構成される。石器石材は，黒曜石12点，頁岩16点，珪質頁岩88点，チャート１点，ホルンフェルス10点，礫石材は，チャート１点（母岩の不明）である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは８母岩を識別した。内訳は，黒曜石２母岩（C23-⑥・⑦），頁岩２母岩（C23-⑤・⑧），珪質頁岩２母岩（C23-②・㉒），チャート１母岩（C23-④），ホルンフェルス１母岩（C23-①）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は78%（99/127点）である。

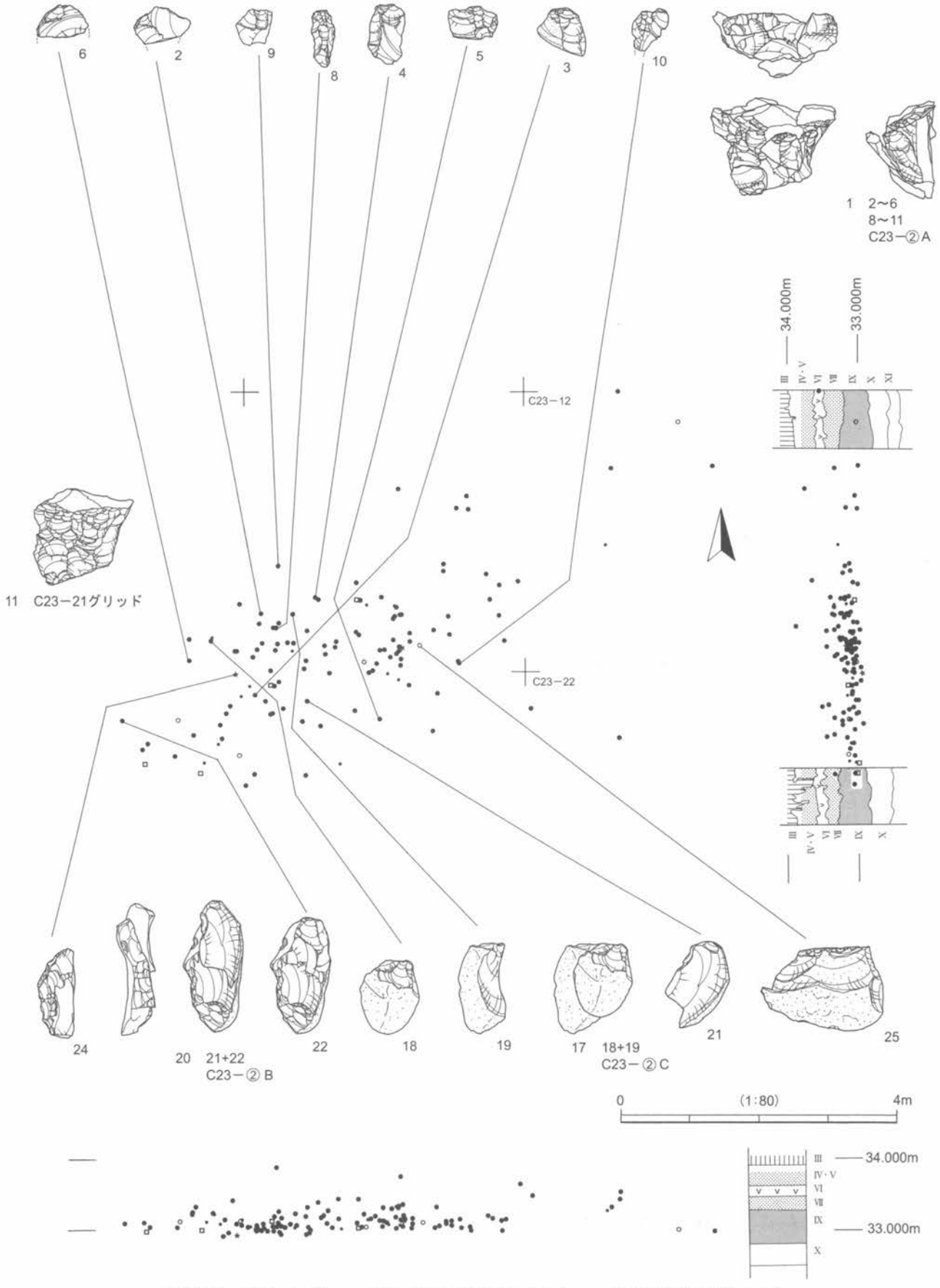
・C23-①：自然面は黒色で光沢に富み，内部は黒灰色，節理面は褐色のホルンフェルスである。原石は拳より一回りほど小さな円礫である。

石器群の内訳は，剥片８点，石核1点の合計９点（182.6g）である。接合資料は，剥片５点，石核１点（合計177.9g）で構成され，さらにC23-Bブロックの剥片２点も接合する。このほかに同一母岩が，C23-Bブロックに剥片４点ある。

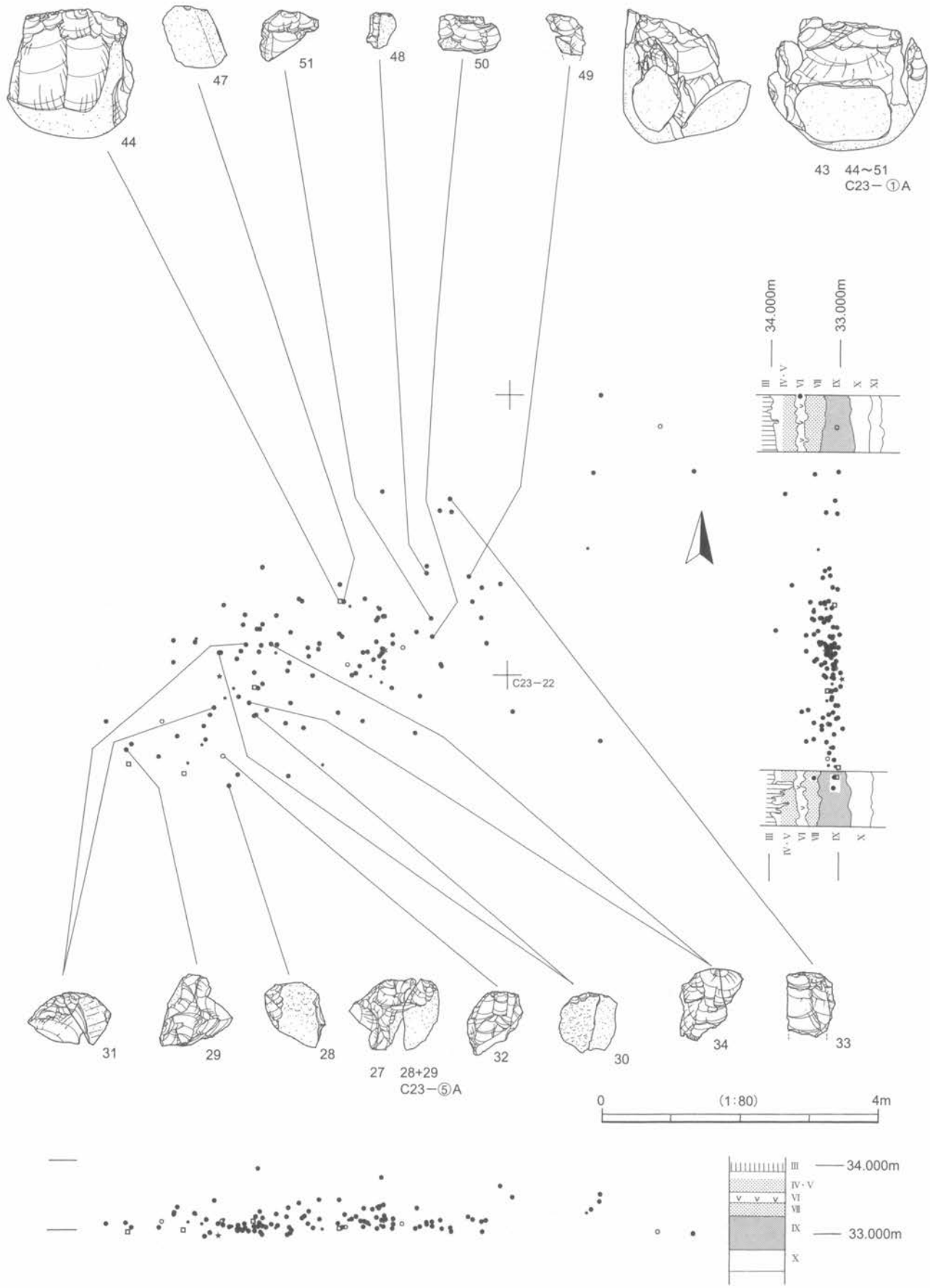
・C23-②：自然面は橙褐色，内部は橙褐色から灰緑色にまで漸位的に変化する嶺岡産珪質頁岩である。

石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，使用痕ある剥片１点，剥片51点（49個体），砕片８点，石核３点の合計64点（62個体；211.0g）である。ブロックの全域にわたって分布する。

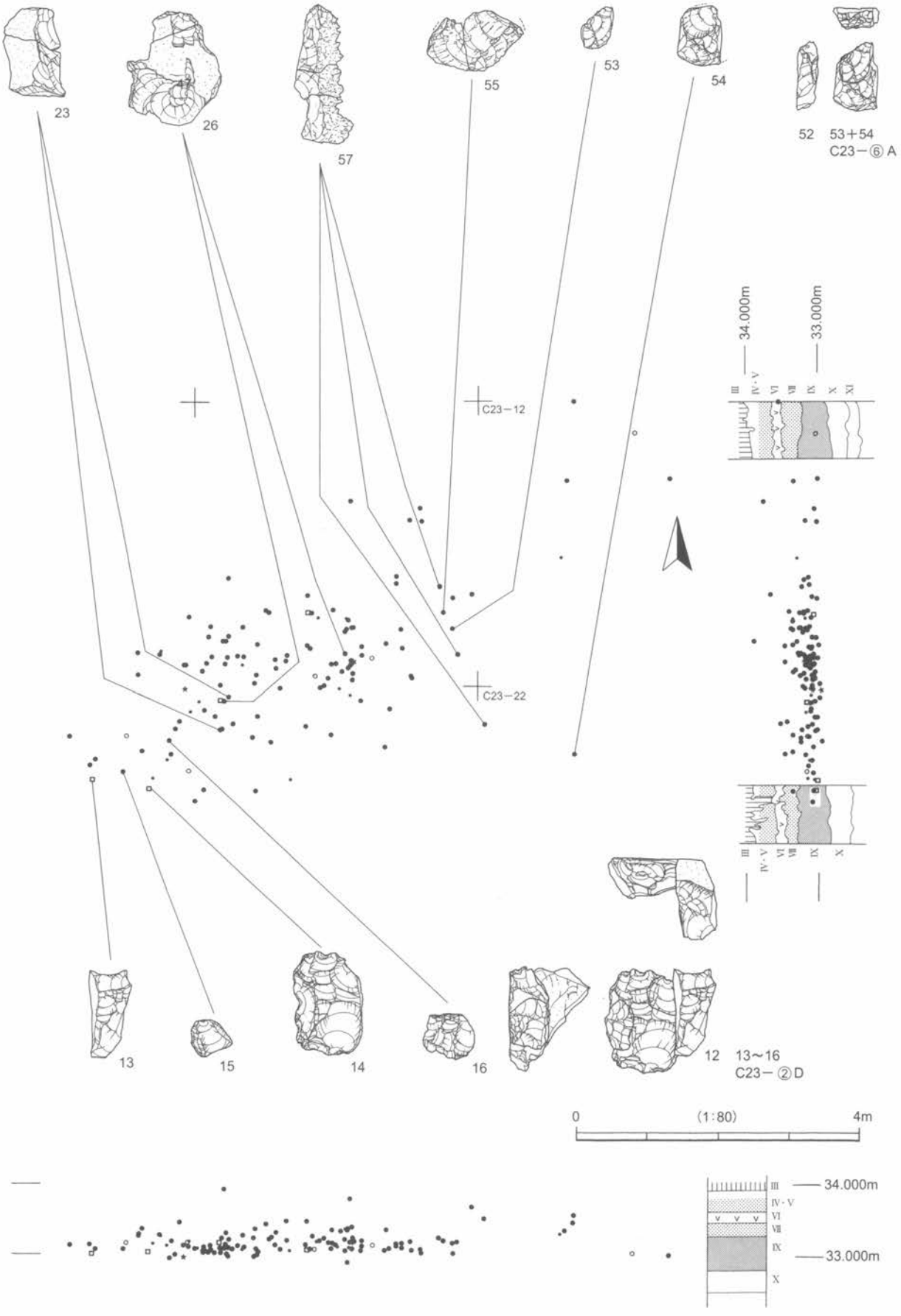
接合資料は６グループある。Aグループは，剥片８点と石核１点による接合資料（合計46.6g），Dグループは剥片２点と石核２点による接合資料（合計53.7g）である。このほかに，剥片３点



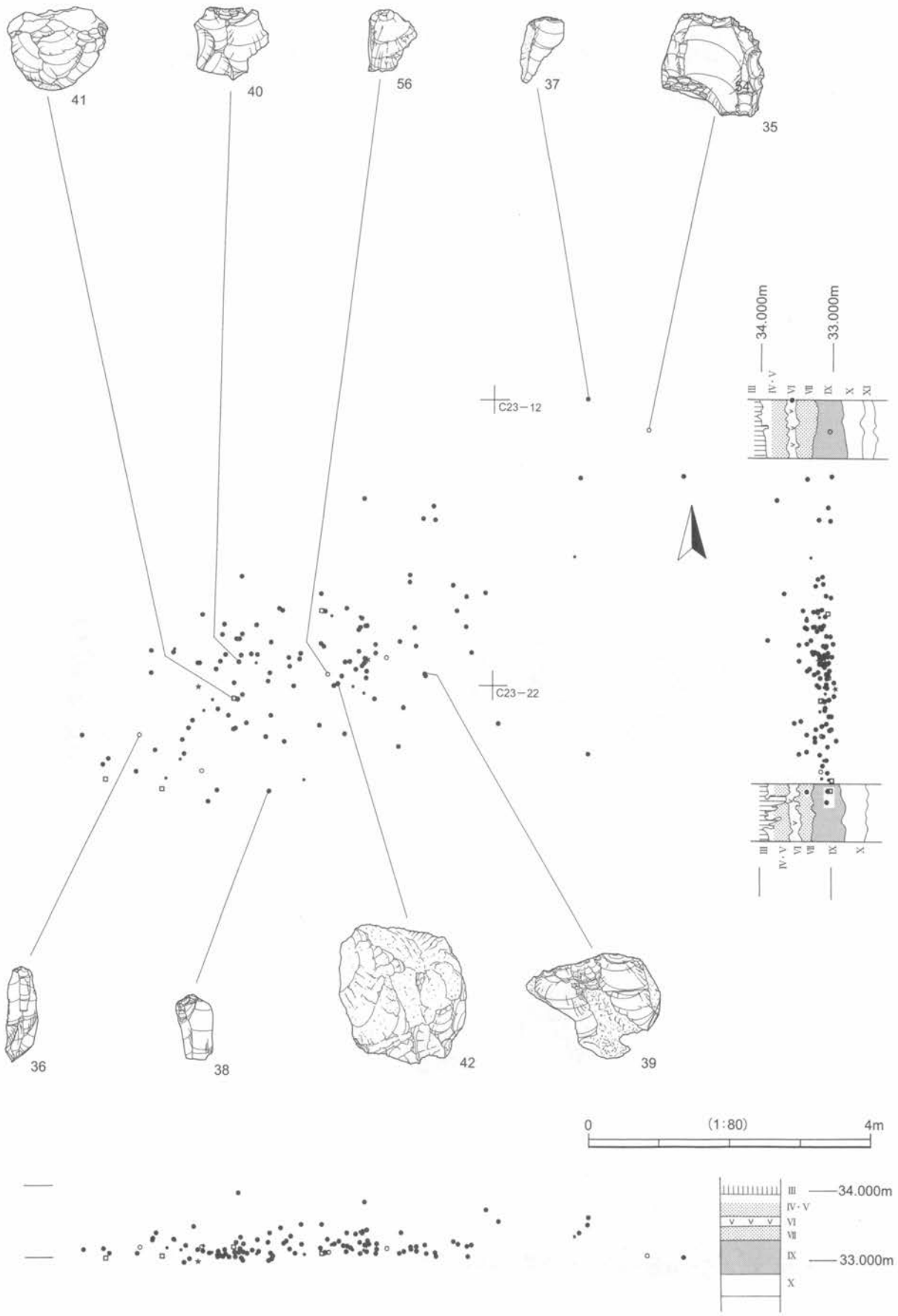
第82図　C23-Aブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図（1）－



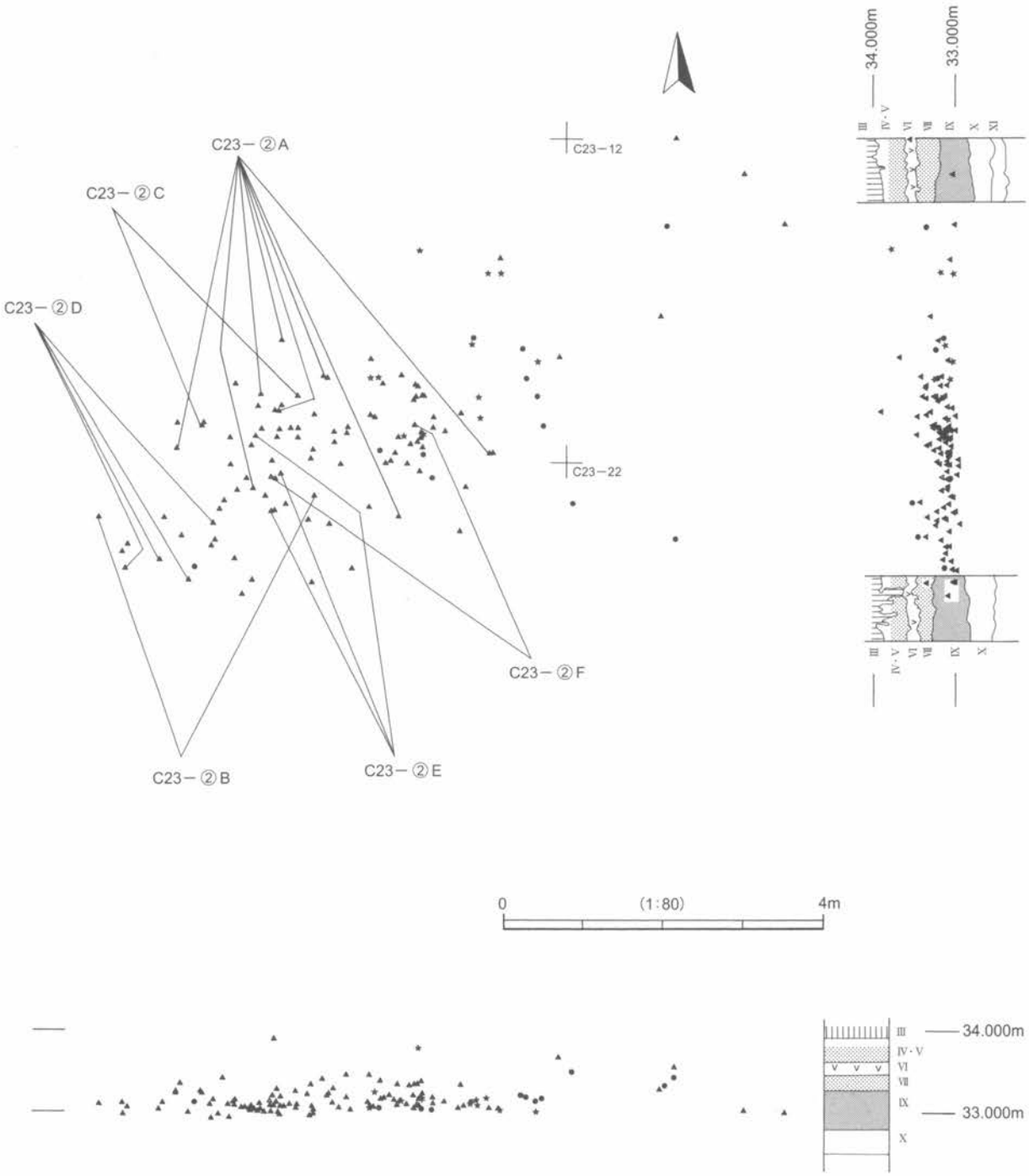
第83図　C23-Aブロック出土遺物分布図（2）　－石器別分布図（2）－



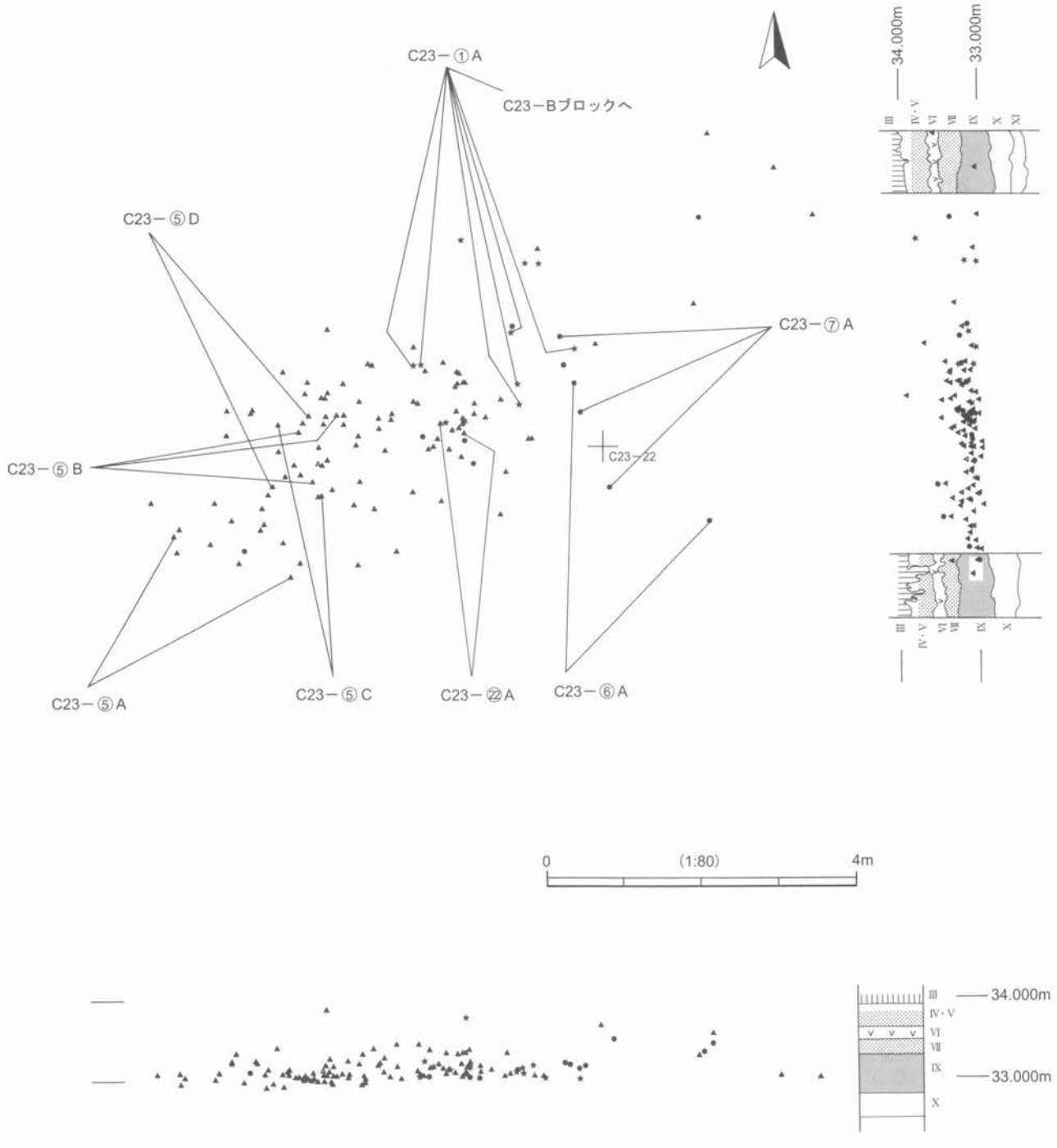
第84図　C23-Aブロック出土遺物分布図（3）　－石器別分布図（3）－



第85図　C23-Aブロック出土遺物分布図（4）　－石器別分布図（4）－



第86図　C23-Aブロック出土遺物分布図（5）　－石材別分布図（1）－



第87図　C23-Aブロック出土遺物分布図（6）　－石材別分布図（2）－

（２個体；8.7ｇ）による接合資料と，欠損したものが１個体になったもの，剥片２点による接合資料が２グループある。また，接合しない同一母岩は，C17-Ｂブロックに１点，C17-Ｇブロックに５点，C23-Ｃブロックに２点ある。原石の大きさは不明であるが，剥片剥離作業の前半の資料と考えられる。

・C23-④：灰緑色の地に褐色の節理面が多方向に入るチャートである。銚子産であろうか。石核１点（57.3ｇ）の単独資料である。

・C23-⑤：明灰緑色の頁岩（凝灰岩）である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片14点（11個体）の合計15点（12個体；51.2ｇ）である。

接合資料は４グループあり，Ｂグループが剥片３点（２個体；3.6ｇ）による接合資料である。ほかに剥片２点（合計16.0ｇ）による接合資料と，欠損した剥片が接合して１個体になったものが２グループある。剥片剥離作業の前半の資料であろうか。

・C23-⑥：黒色不透明の黒曜石で，黄灰色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。C23-⑦母岩に似るが，本母岩の方が若干透明感がある。剥片２点（合計5.5ｇ）で構成され，相互に接合する。

・C23-⑦：漆黒色不透明で，夾雑物を多く含む黒曜石である。栃木県高原山産と考えられる。楔形石器１点，剥片４点（２個体）の合計５点（３個体；27.3ｇ）で構成される。接合資料は，剥片３点が接合して１個体になったものである（12.5ｇ）。

・C23-⑧：紫がかった暗褐色の硬質な頁岩である。削器１点（28.9ｇ）の単独資料である。同一母岩が，C23-Ｂブロックに２点あるが，本遺跡内に製作痕跡のない搬入品である。

・C23-㉒：褐色から黒褐色に変異する嶺岡産珪質頁岩である（ノジュール）。剥片２点（接合して１個体；13.2ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石の剥片４点，砕片１点（合計2.5ｇ），珪質頁岩の使用痕ある剥片１点，剥片18点，砕片３点（合計118.0ｇ），ホルンフェルスの剥片１点（1.1ｇ）がある。珪質頁岩には県南嶺岡産を含む。

３）出土遺物（第92図35～42）

35は，頁岩の削器である。不定型の剥片を素材として，右側縁を中心に裏面からの調整加工により粗い鋸歯状の刃部を作り出している。

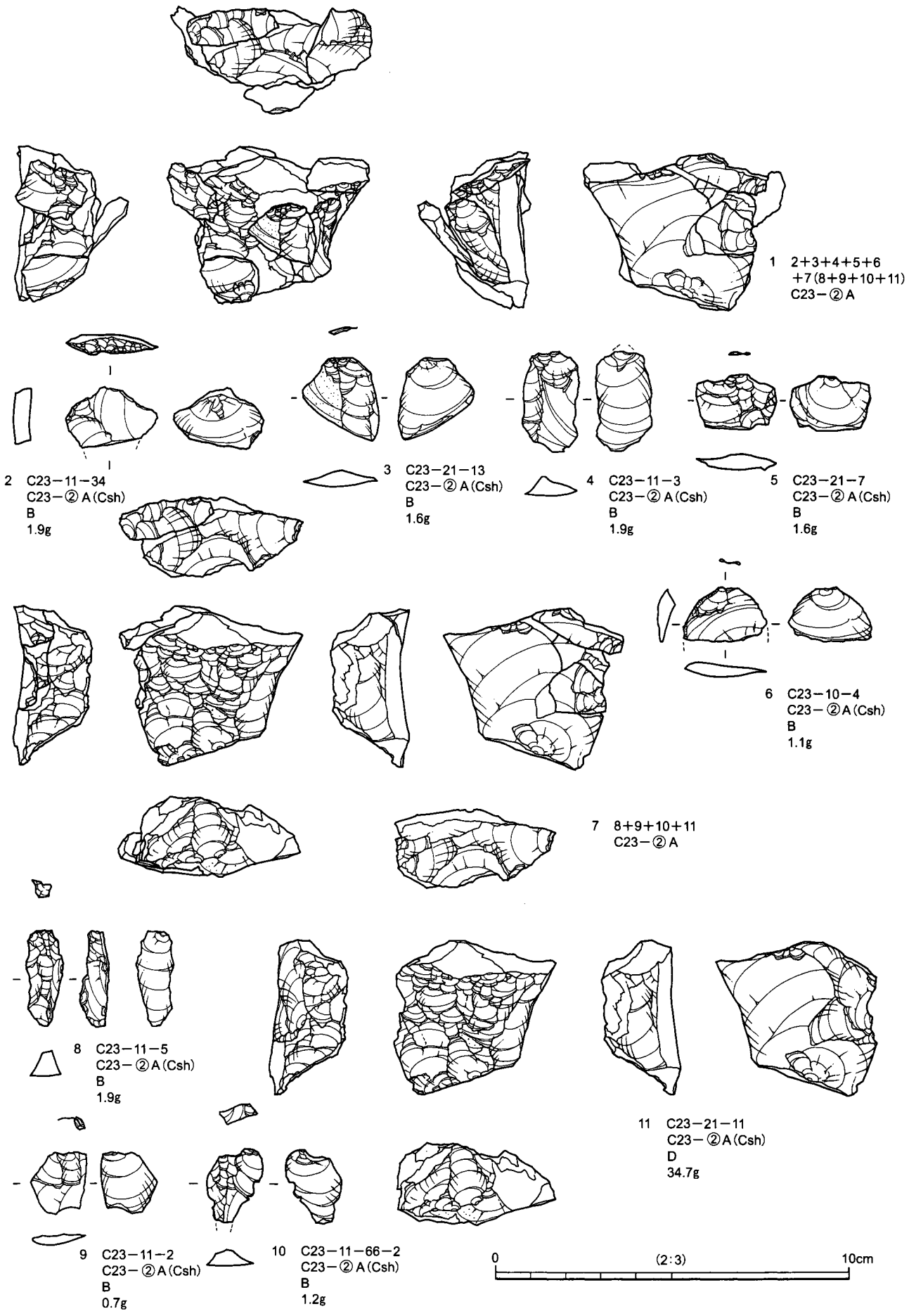
36は，珪質頁岩の石刃，37～40・42は珪質頁岩の各種剥片である。41は，チャートによる石核で，分割礫を用いて不定型の剥片を生産している。

４）接合資料とその関連資料（第88～91・93～95図）

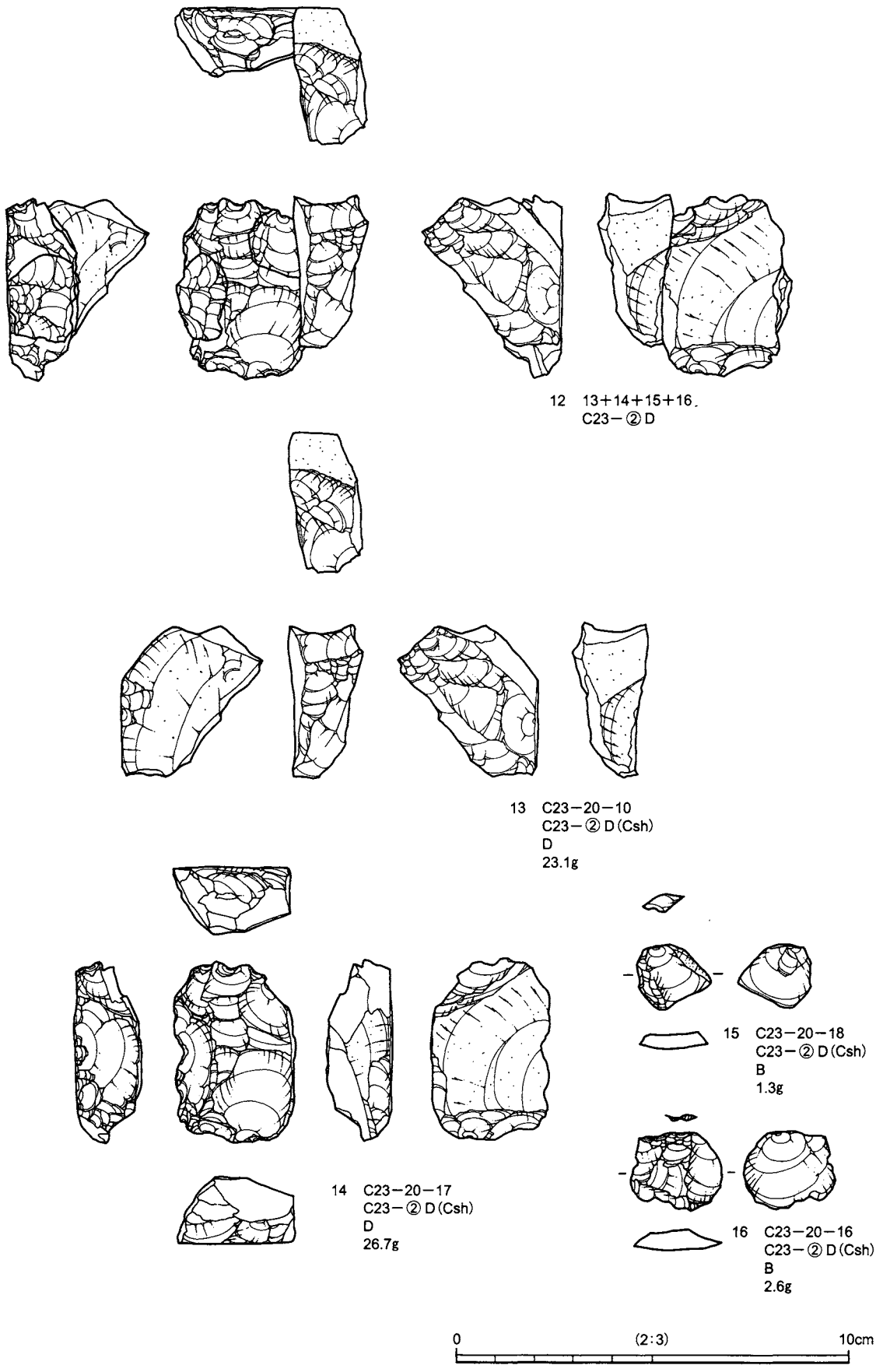
・C23-②（第88図１～11，第89図12～16，第90図17～26） 橙褐色から灰緑色にまで漸位的に変化する嶺岡産珪質頁岩で，ナイフ形石器１点，使用痕ある剥片１点，剥片51点（49個体），砕片８点，石核３点の合計64点（62個体）で構成される。

１は，剥片８点（２～６・８～10）と石核１点（11）の接合資料である（接合資料Ａ）。これは，通常の剥片生産の後，そこから得られた剥片を石核として，さらに剥片生産を継続する工程を示す接合資料である。

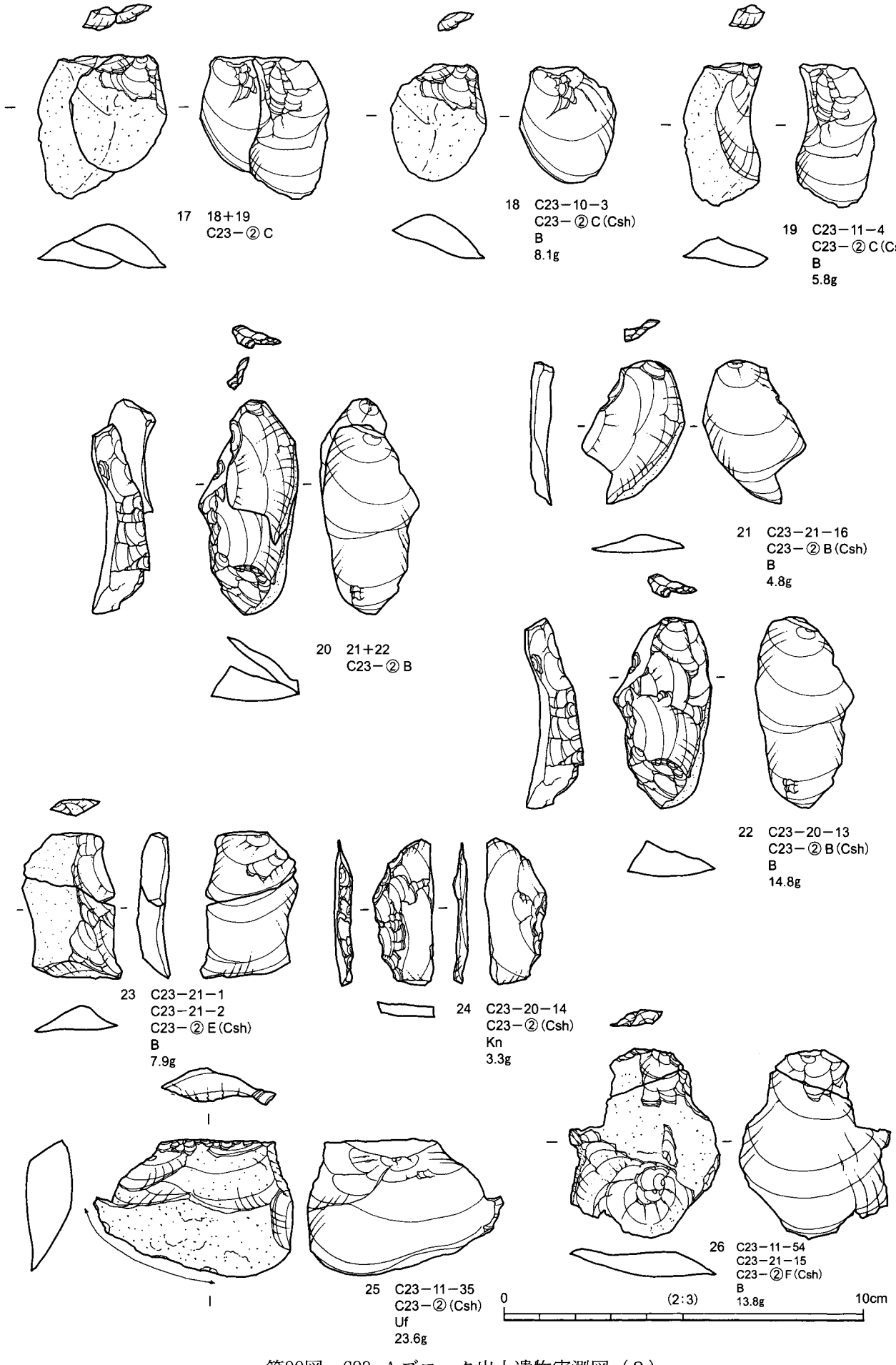
作業の手順は，①：２→３→４→５→６の順に小型不定型の剥片を剥離する。この段階では，１の表面を作業面として，上下両端に設けた打面から剥片を剥離している。②：８～11を含むやや大型厚手の剥片



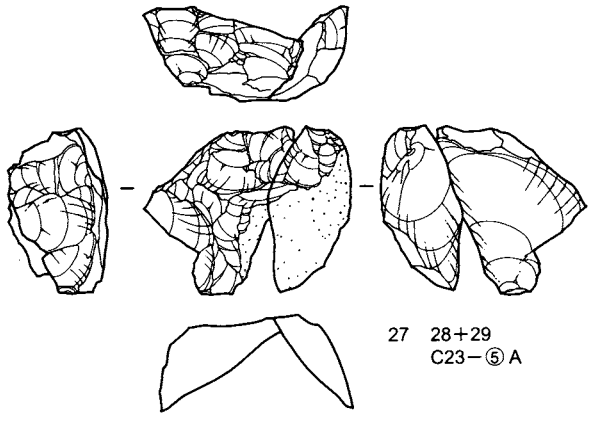
第88図　C23-Aブロック出土遺物実測図（1）



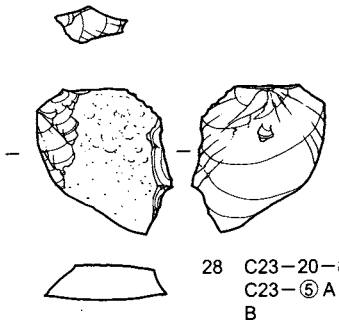
第89図　C23-Aブロック出土遺物実測図（2）



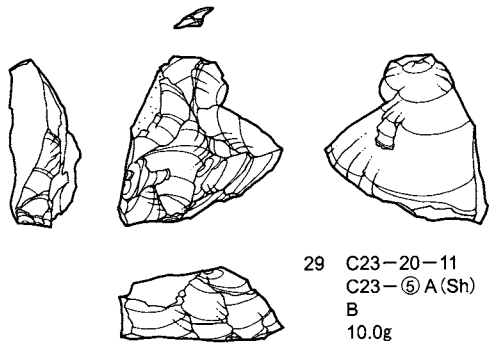
第90図　C23-Aブロック出土遺物実測図（3）



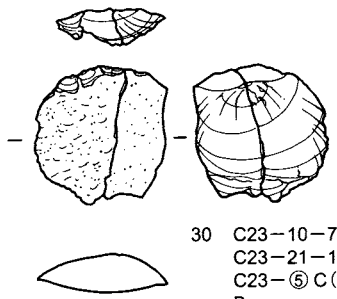
27　28+29
C23−⑤A



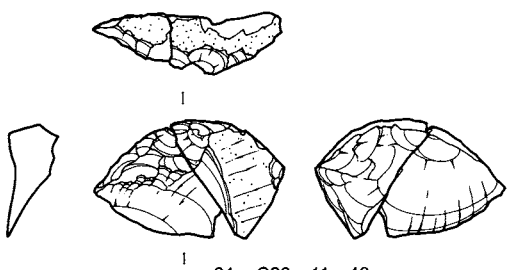
28　C23−20−8
C23−⑤A(Sh)
B
6.0g



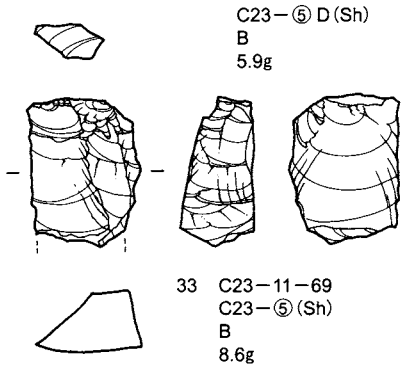
29　C23−20−11
C23−⑤A(Sh)
B
10.0g



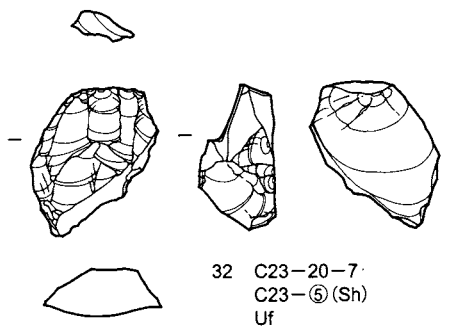
30　C23−10−7−1
C23−21−10
C23−⑤C(Sh)
B
5.2g



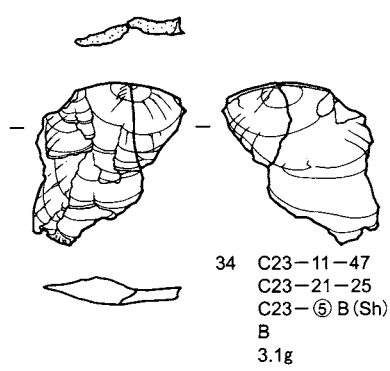
31　C23−11−40
C23−20−2
C23−⑤D(Sh)
B
5.9g



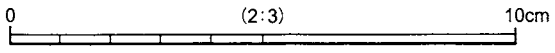
33　C23−11−69
C23−⑤(Sh)
B
8.6g



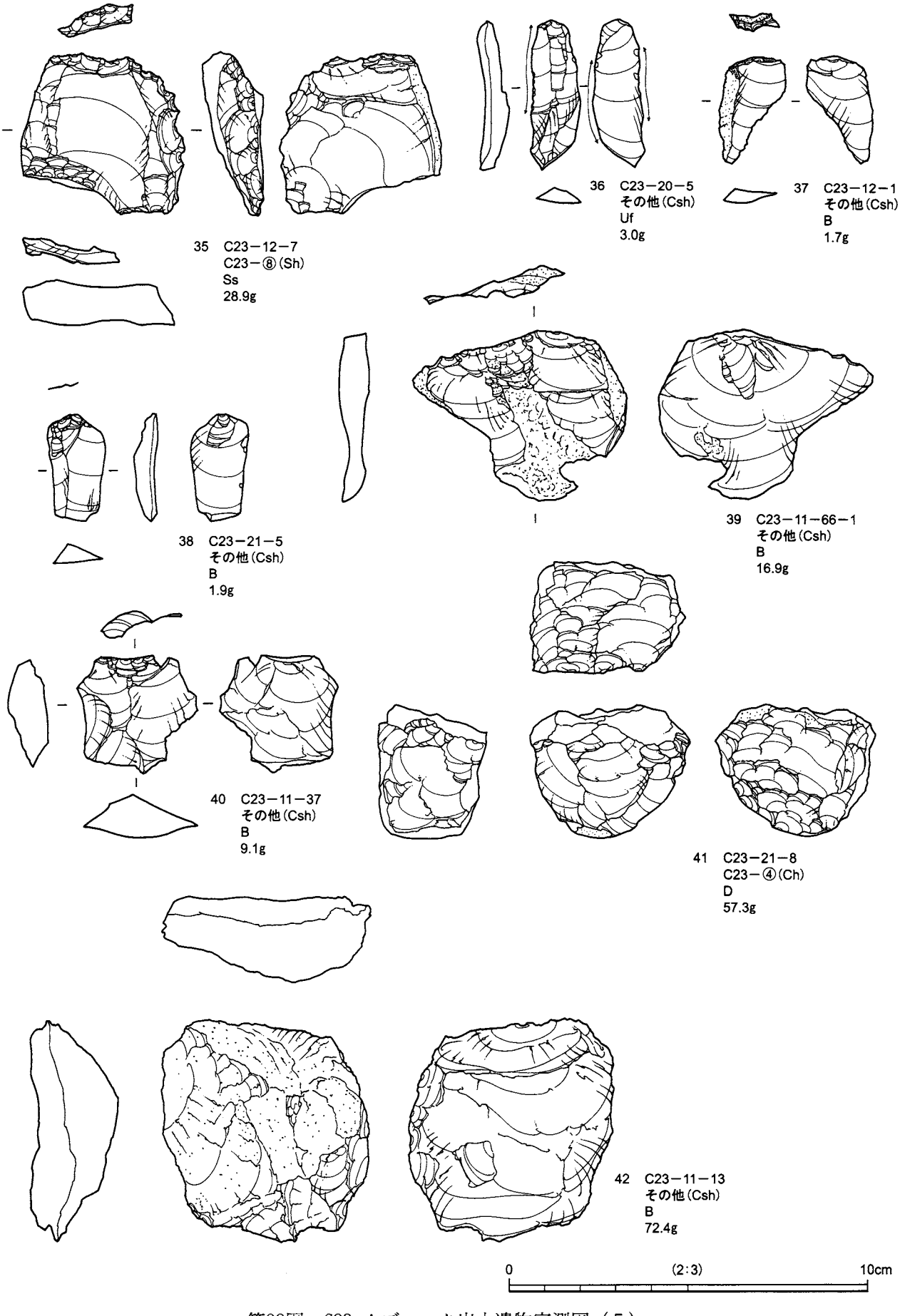
32　C23−20−7
C23−⑤(Sh)
Uf
7.9g



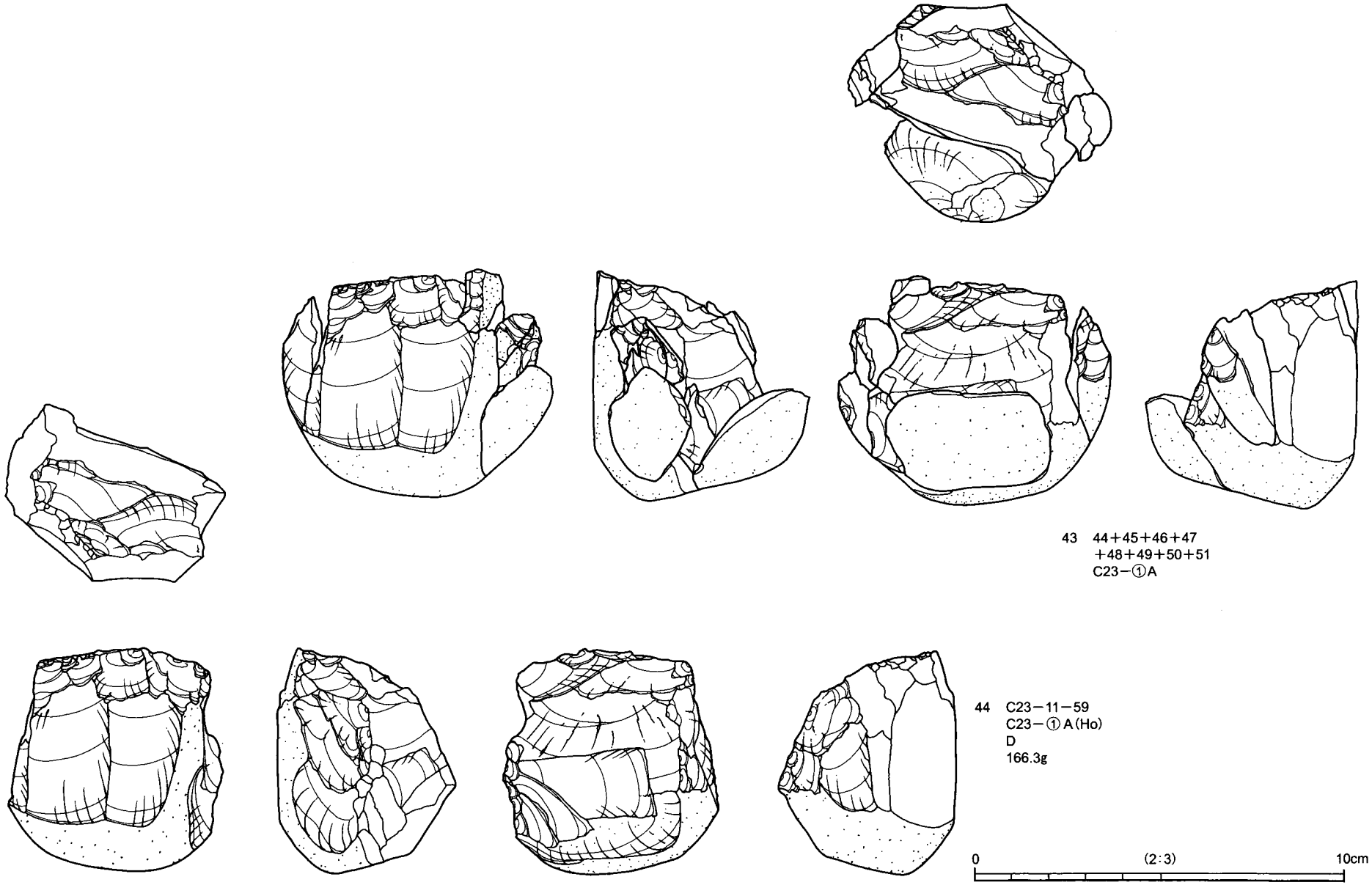
34　C23−11−47
C23−21−25
C23−⑤B(Sh)
B
3.1g



第91図　C23-Aブロック出土遺物実測図（4）



第92図　C23-Aブロック出土遺物実測図（5）



第93図　C23-Aブロック出土遺物実測図（6）

（7）を剥離し，これを石核の素材とする。③：剥片素材の石核を用い，裏面（素材の主要剥離面側）を作業面，右側縁を打面として，上端から8→9→10の順に小型の剥片を剥離し，作業は終了する。

12は，剥片2点（15・16）と石核2点（13・14）の接合資料である（接合資料D）。この資料も2種類の工程を含んでいる。

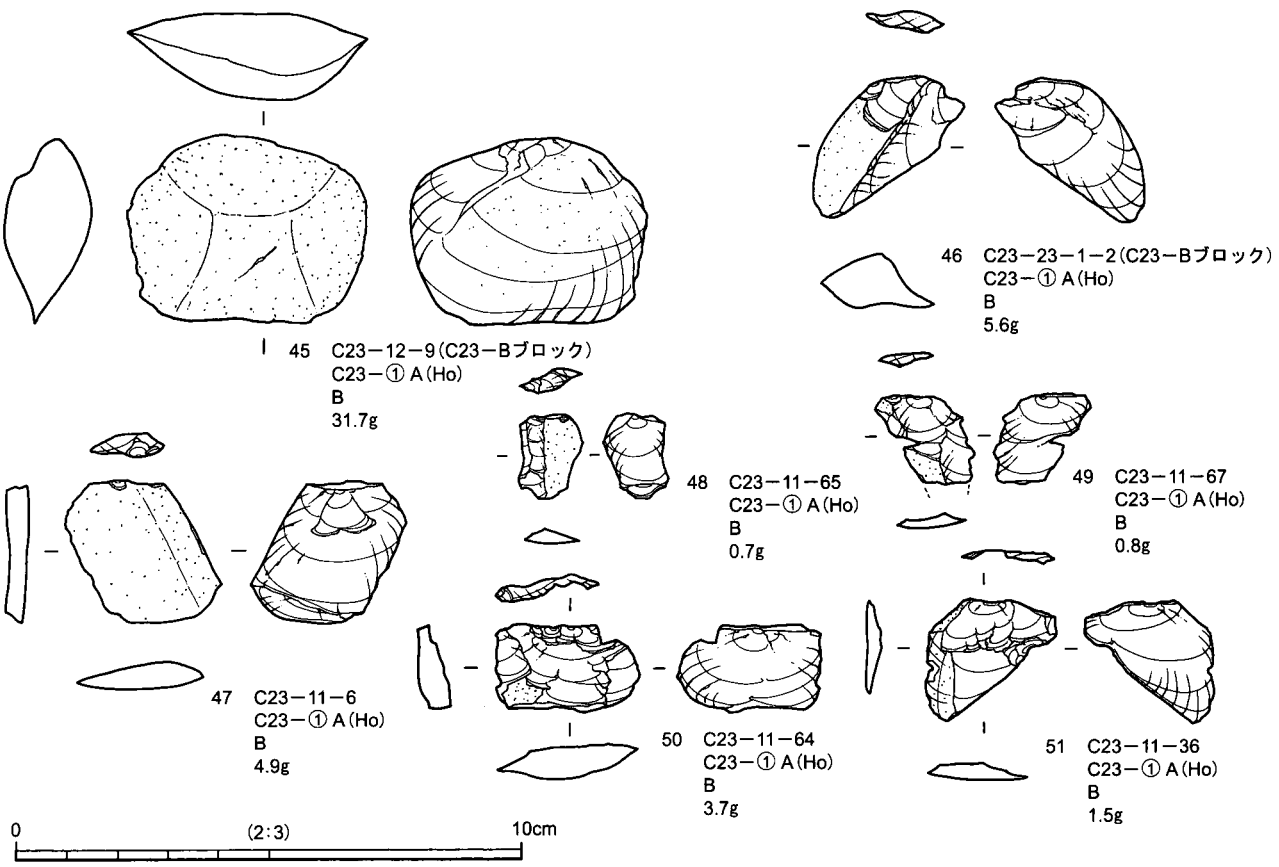
作業の手順は，①：はじめに，厚手の剥片を剥離し，石核の素材を得る。この段階で，13と14～16の2グループに分離される。両者は節理面に沿って分かれている。②：それぞれで小型不定型の剥片が生産される。ひとつは，接合資料をもたないが，素材剥片の一端に打面を設け，素材の表面側から一部側縁にかけて小型の剥片を剥離しており，13の石核（残核）が残される。もう一つは，平坦な素材面を打面とし，求心的な打点移動によって，15・16の剥片を剥離している。

17は，剥片2点（18・19）の接合資料である（接合資料C）。18→19の順で自然面を広く残す不定型の剥片を剥離している。打面が節理面であることをも含めて，剥片剥離作業初期の資料と考えられる。

20も剥片2点（21・22）の接合資料である（接合資料B）。21→22の順で縦長の剥片を剥離している。20の右側面には表面と直行する古い作業面があり，本資料は打面の再生，あるいは打面と作業面の転移のいずれかを示す。本母岩は，石刃もしくは縦長剥片を含まないことから，後者の可能性が高い。

23と26は，折れた剥片同士が接合し，それぞれ1個体の完形品となった例である（接合資料E・F）。いずれも表面に自然面が広く残されていることから，剥片剥離作業初期の資料と考えられる。なお，図化しなかったが，23の表面には剥片1点（欠損して小型）が接合する。

24は，本母岩のナイフ形石器である。素材の打面部に表裏から調整加工を行っている。右側縁は蝶番剥



第94図　C23-Aブロック出土遺物実測図（7）

離か折損か，不明である。25は，使用痕ある剥片である。横長の剥片を利用しており，鋭利な末端部に刃こぼれが見られる。

このほかに，接合しない同一母岩として小型の剥片32点と砕片８点がある。

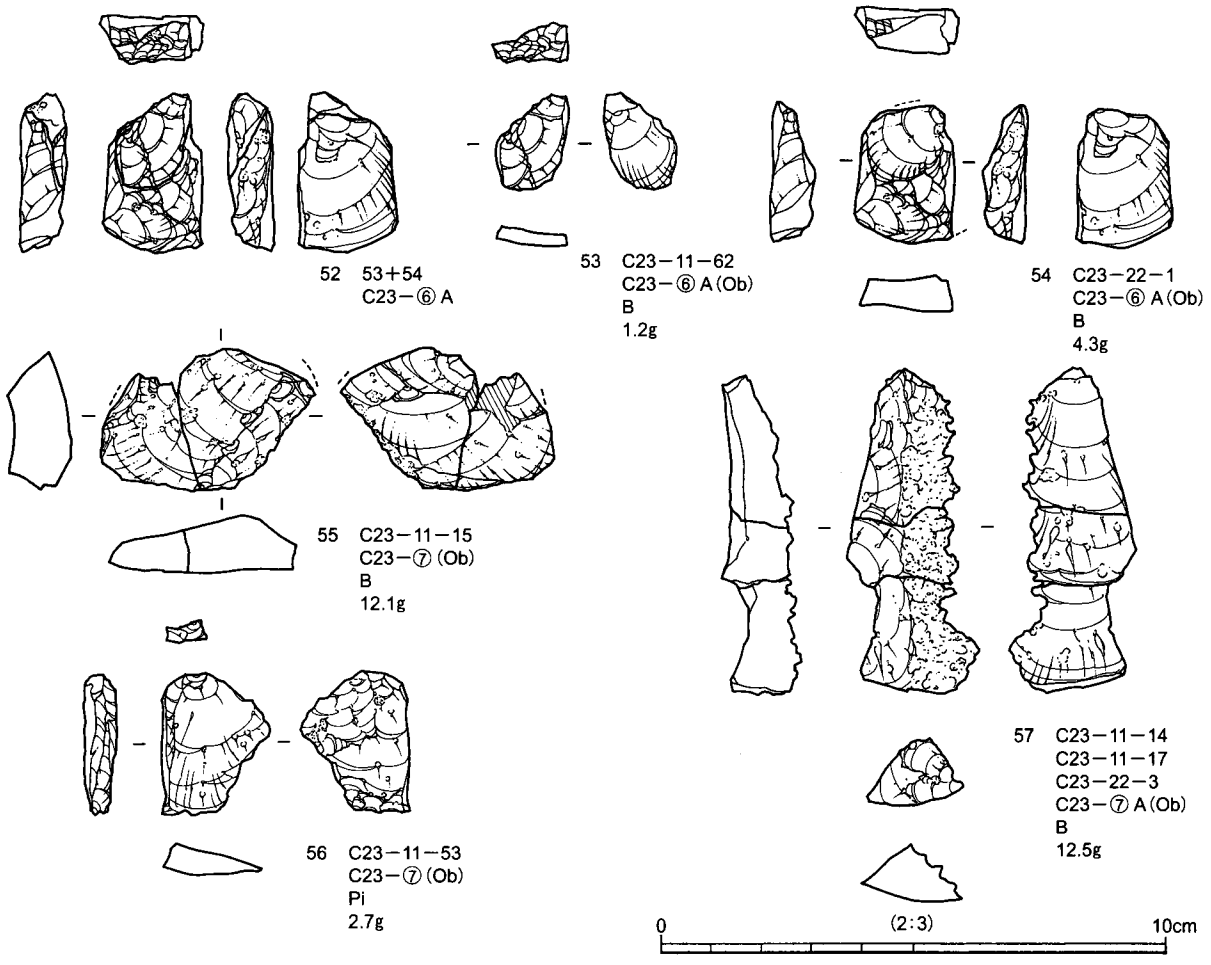
以上から，本資料は，剥片生産初期の段階から半ばまでの作業内容を示している。原石から剥片を多数剥離し，その中で大型厚手の剥片は，さらに石核素材として小型不定型の剥片生産に関与している。剥片素材の石核は３点あるものの，最も中心的な石核は残されていない。したがって，剥片剥離作業の後半部分については，遺跡外に搬出された後に行われたと考えられる。

・C23-⑤（第91図27～34）　明灰緑色の頁岩（凝灰岩）で，使用痕ある剥片１点，剥片14点（11個体）で構成される。

27は，剥片２点（28・29）の接合資料である（接合資料Ａ）。28→29の順で不定型の剥片を剥離している。29の表面を見ると，打面と作業面が頻繁に移動していることがわかる。

30・31・34は，折れた剥片同士が接合して，それぞれ１個体になった接合資料である（接合資料Ｂ～Ｄ）。表面の剥離面や打面の状況は異なるが，いずれも不定型の剥片である。なお，図化しなかったが，34の表面には小型の剥片１点が接合する。

このほかに，接合しない同一母岩として32・33を含む剥片類が６点ある。



第95図　C23-Ａブロック出土遺物実測図（８）

第25表　C23-Aブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C23-①(Ho)																			8		1	9		9
C23-②(Csh)	1										1								51(49)	8	3	64(62)		64(62)
C23-④(Ch)																					1	1		1
C23-⑤(Sh)											1								14(11)			15(12)		15(12)
C23-⑥(Ob)																			2			2		2
C23-⑦(Ob)									1										4(2)			5(3)		5(3)
C23-⑧(Sh)						1																1		1
C23-㉒(Csh)																			2(1)			2(1)		2(1)
その他(Ob)																			4	1		5		5
その他(Csh)											1								18	3		22		22
その他(Ho)																			1			1		1
その他(Ch)																							1	1
合　計	1					1			1		3								104(96)	12	5	127(119)	1	128(120)

第26表　C23-Aブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)									1										10(8)	1		12(10)		12(10)
頁岩(Sh)						1					1								14(11)			16(13)		16(13)
珪質頁岩(Csh)	1										2								71(68)	11	3	88(85)		88(85)
チャート(Ch)																					1	1	1	2
ホルンフェルス(Ho)																			9		1	10		10
合　計	1					1			1		3								104(96)	12	5	127(119)	1	128(120)

以上，本母岩は中・小型の不定型な剥片類で構成されており，打面と作業面を頻繁に転移する剥片剥離手順が想定される。また，自然面に広く覆われた剥片を含むこと，石核が残されていないことから，母岩消費前半の資料と考えられる。

・C23-①（第93図43・44，第94図45～51）　淡い黒灰色のホルンフェルスで，剥片８点，石核1点で構成される。

43は，剥片７点（45～51）と石核１点（44）の接合資料である。このうち，剥片２点（45・46）はC23-Bブロックに分布する。原石は，拳よりも一回りほど小振りの円礫である。

剥片剥離の手順は，①：原石の自然面を除去する。この時に45を剥離する。②：裏面の大きな剥離面を打面として，表面左側面で46を含む剥片を，右側面で47→49→50の順に剥片を剥離する。左右の剥離順序は不明である。③：表面右側面を打面，裏面を作業面として剥片を剥離する。この時に51も剥離する。④：上位の打面を用い，表面を作業面として縦長の剥片を剥離する。48もこの時剥離される。

以上から，まずC23-Bブロックで原石から作業が開始される。一定量の剥片剥離作業を行った後，本ブロックに石核を持ち込み，作業を継続，終了している。

・C23-⑥（第95図52～54）　黒色不透明の黒曜石で，剥片２点で構成される。53→54の順で剥離されている。

・C23-⑦（第95図55～57）　漆黒色不透明の黒曜石で，楔形石器１点，剥片４点（２個体）で構成される。接合資料は，欠損品同士によるもの（57）だけで，本ブロックで製作された形跡はない。55は剥片，56は楔形石器である。

12　C23-Bブロック（第96～102図，第27・28表）

1）ブロックの概要

C23-Bブロックは，調査範囲南側のC23-02・04・12・13・14・22・23グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の南西に開く谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点までの距離は18mほどである。

ブロックの規模と形状は，長軸９m，短軸６mの範囲に58点の石器・礫が満遍なく分布する。出土層位はⅦ層からⅨ層上部までの範囲を中心としており，各石器は40cmほどの高低差をもって水平に包含されて

いる（第96～98図）。

ブロックは，ナイフ形石器１点，楔形石器１点，使用痕ある剥片２点，石刃２点，剥片41点（38個体），砕片２点，石核２点，礫７点の合計58点（55個体）で構成され，石器石材は，黒曜石１点，安山岩１点，頁岩４点，珪質頁岩26点（24個体），チャート４点，砂岩１点，ホルンフェルス11点，メノウ３点（２個体），礫石材は，チャート３点，砂岩４点である。礫は，母岩分類のできたものが２点（２母岩），母岩不明なものが５点ある。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは９母岩を識別した。内訳は，頁岩２母岩（C23-⑧・⑨），珪質頁岩３母岩（C23-③・⑩・㉓），チャート１母岩（C23-⑪），砂岩１母岩（C23-⑫），ホルンフェルス１母岩（C23-①），メノウ１母岩（C23-⑬）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は55％（28/51点）である。

・C23-①：黒灰色のホルンフェルスで，母岩の特徴は，C23-Ａブロックで記したとおりである。剥片６点（合計41.9ｇ）で構成される。接合資料は剥片２点（合計37.3ｇ）が，C23-Ａブロックの剥片５点，石核１点と接合する。このほか同一母岩は，C23-Ａブロックに３点ある。

・C23-③：自然面は灰褐色，内部は灰色の地に白色と紫色の縞が入る珪質頁岩（あるいはオパール）である。剥片10点（８個体；27.7ｇ）で構成され，接合資料は折れた剥片同士が接合して１個体になるものが２グループある（8.3ｇ，5.2ｇ）。このほかの同一母岩は，C23-Ｆブロックに１点ある。

・C23-⑧：紫がかった暗褐色の硬質な頁岩である。石器群の内訳は石刃２点（合計27.0ｇ）で，搬入品である。同一母岩は，C23-Ａブロックに１点ある。

・C23-⑨：灰色がかった暗褐色と黄灰色の混在する頁岩で，母岩の特徴は，C17-Ｂブロックで記したとおりである。使用痕ある剥片１点と剥片１点の合計２点（8.5ｇ）で構成される。接合資料は，本ブロックの使用痕ある剥片１点（7.6ｇ）が，C23-Ｃブロックの剥片２点と接合する。このほかに同一母岩が，C17-Ｂブロックに３点，C17-Ｆブロックに１点，C23-Ｃブロックに２点，C23-Ｄブロックに１点ある。

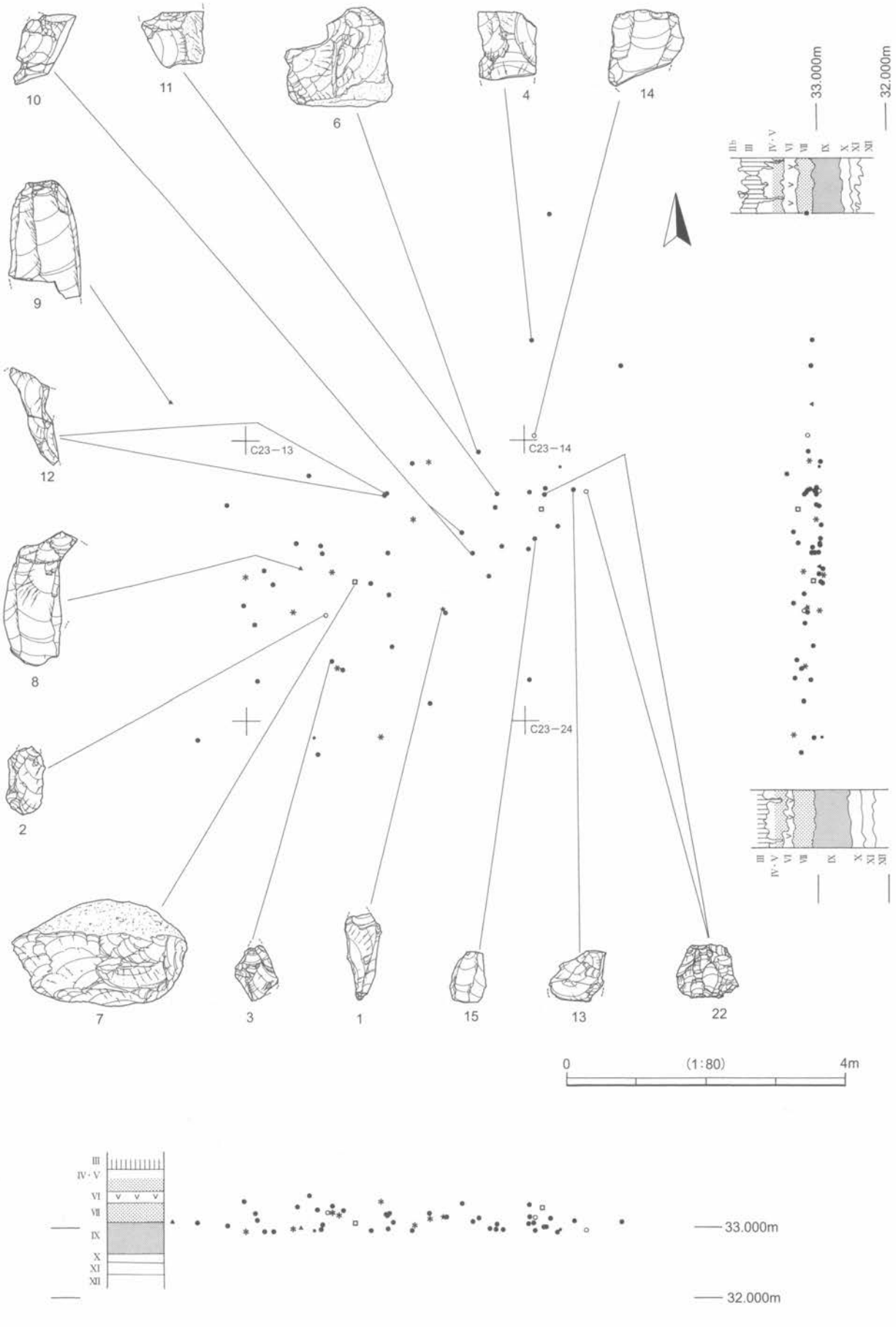
・C23-⑩：自然面は淡褐色，内部は灰緑色の地に白色や暗紫色の斑が入る珪質頁岩である。節理面は橙褐色である。本ブロックでは剥片１点（2.3ｇ）の単独資料であるが，C23-Ｃブロックの石核と接合する。このほかに同一母岩が，Ｃ17-Ａブロックに１点，Ｃ23-Ｃブロックに１点ある。

・C23-⑪：灰緑色の地に黒褐色や赤褐色の縞が多方向に入るチャートである。C23-ＡブロックのC23-④母岩によく似ており，銚子産の可能性がある。原石は，拳大の円礫である。石核１点（224.4ｇ）の単独資料である。

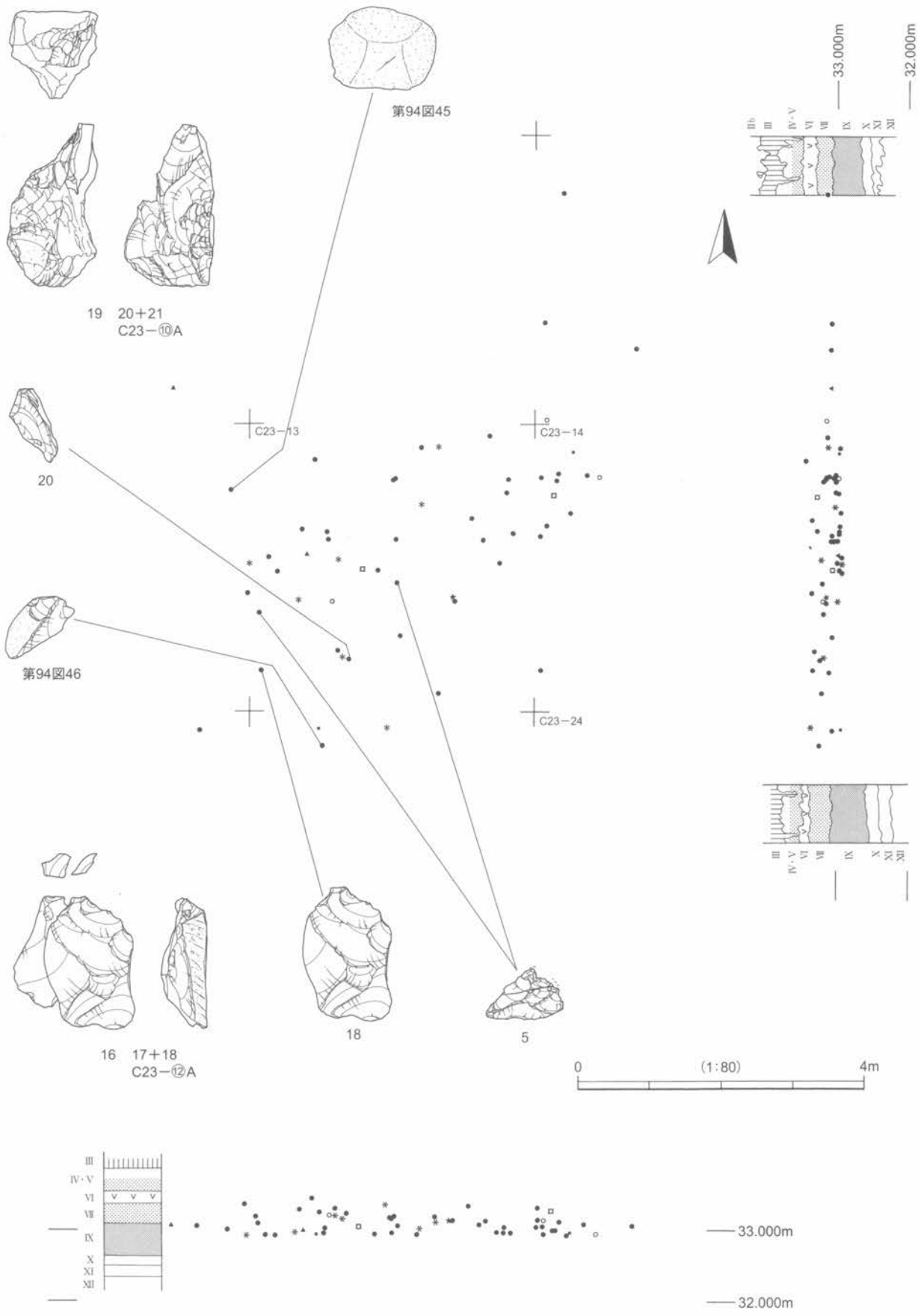
・C23-⑫：黄色みがかった黒灰色の砂岩（あるいはホルンフェルス）である。本ブロックでは剥片１点（39.0ｇ）の単独資料であるが，C23-Ｆブロックに同一母岩があり，この剥片１点と接合する。

・C23-⑬：黄灰色と紫がかった黒灰色の混在する半透明のメノウで，母岩の特徴は，C17-Ａブロックで記したとおりである。石器群の内訳は剥片３点（２個体；3.6ｇ）で，そのうち２点（１個体；3.5ｇ）が接合する。同一母岩は，C17-Ａブロックに２点，C17-Ｂブロックに１点，C23-Ｃブロックに48点がある。

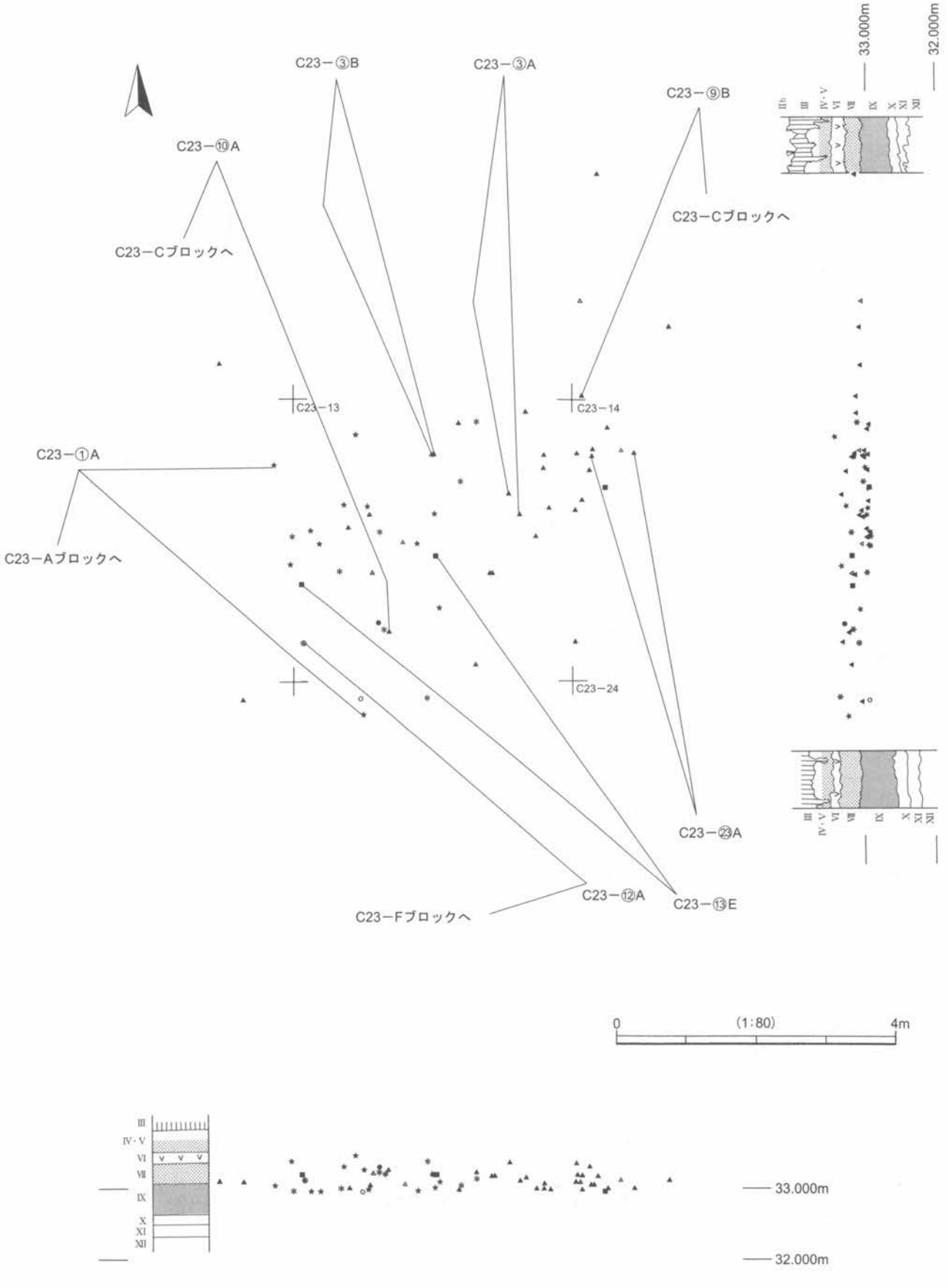
・C23-㉓：暗灰紫色の均質緻密な珪質頁岩である。石器群の内訳は，楔形石器１点，剥片１点の合計２点（合計4.5ｇ）で，互いに接合する。



第96図　C23-Bブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図（1）－



第97図　C23-Bブロック出土遺物分布図（2）　－石器別分布図（2）－



第98図　C23-Bブロック出土遺物分布図（3）　－石材別分布図－

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石の剥片１点（2.2ｇ），安山岩の砕片１点（0.1ｇ），珪質頁岩のナイフ形石器１点，剥片10点，砕片１点，石核１点（合計60.2ｇ），チャートの使用痕ある剥片１点，剥片２点（合計20.4ｇ），ホルンフェルスの剥片５点（合計3.3ｇ）がある。

３）出土遺物（第99図）

１は，珪質頁岩によるナイフ形石器である。縦長剥片を素材とし，左側縁の基部に表裏から調整加工を行っている。調整により打面は除去されている。２は，チャートによる不定型な剥片を利用した使用痕ある剥片である。鋭利な右側縁に刃こぼれが見られる。

３～６は，いずれも不定型の剥片である。３は黒色不透明の黒曜石，４は明灰緑色のチャート，５は黄灰色のメノウ，６は灰緑色の珪質頁岩を用いている。

７は，チャートによる石核である。分割礫を素材とし，分割面を作業面にあてて多方向から不定型の剥片を剥離している。ただし，節理がきついため，良好な剥片はほとんど得られていないようである。

８・９は，頁岩による同一母岩の石刃である。いずれも表面は主要剥離面と同一方向の剥離面だけで構成されている。縁辺部には刃こぼれが見られる。

４）接合資料とその関連資料（第100～102図）

・C23-③（第100図10～13）　灰色の地に白色と紫色の縞が入る珪質頁岩で，本ブロックでは剥片10点（８個体）で構成される。剥片生産に関連するまとまった接合資料は得られていない。

10～13は，不定型の剥片である。10・12は，折れた剥片同士が接合して，それぞれ１個体になったものである。実測図に掲載した以外に小型の剥片が４点あり，小規模な剥片生産が実施されたようであるが，詳細は不明である。

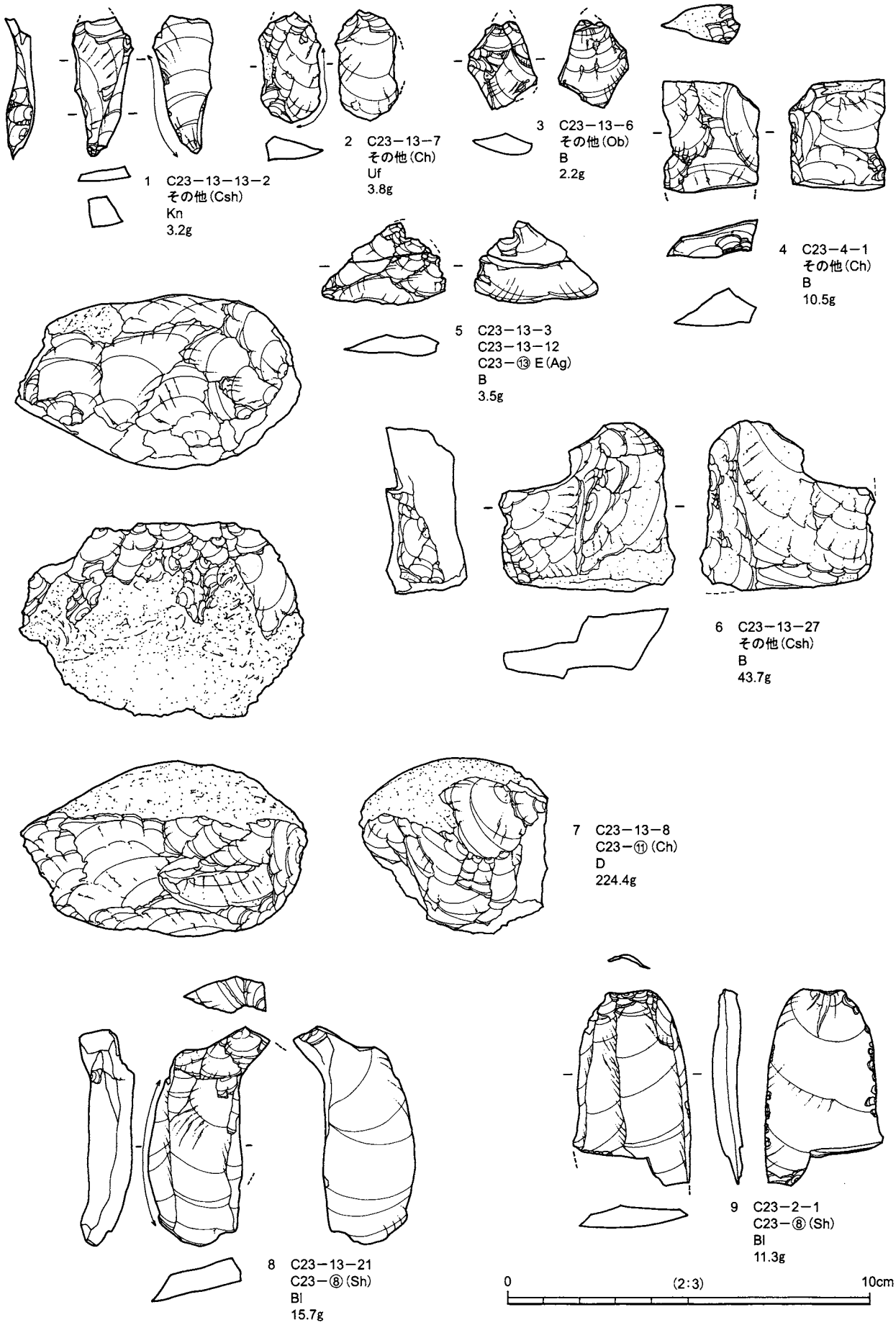
・C23-⑨（第100図14・15）　灰色がかった暗褐色と黄灰色の混在する頁岩で，本ブロックでは使用痕ある剥片１点と剥片１点で構成される。14は，幅広不整形の縦長剥片の剥片を利用した使用痕ある剥片で，左

第27表　C23-Ｂブロック母岩別石器組成表

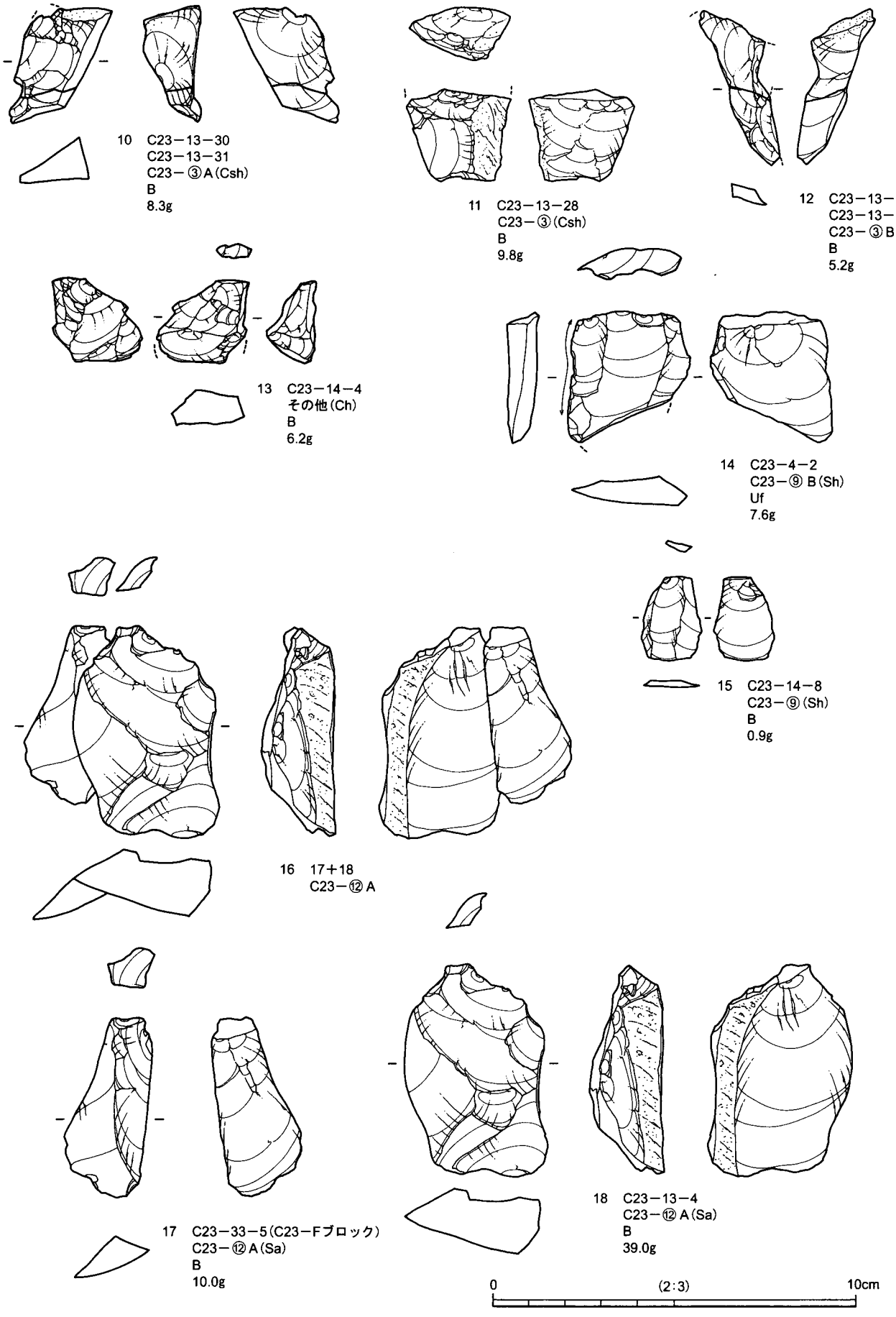
母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C23-①(Ho)																			6			6		6
C23-③(Csh)																			10(8)			10(8)		10(8)
C23-⑧(Sh)												2										2		2
C23-⑨(Sh)											1								1			2		2
C23-⑩(Csh)																			1			1		1
C23-⑪(Ch)																					1	1		1
C23-⑫(Sa)																			1			1		1
C23-⑬(Ag)																			3(2)			3(2)		3(2)
C23-㉓(Csh)									1										1			2		2
その他(Ob)																			1			1		1
その他(An)																				1		1		1
その他(Csh)	1																		10	1	1	13		13
その他(Ch)											1								2			3		3
その他(Ho)																			5			5		5
C23R-①(Sa)																							1	1
C23R-②(Ch)																							1	1
その他(Ch)																							2	2
その他(Sa)																							3	3
合　計	1								1		2	2							41(38)	2	2	51(48)	7	58(55)

第28表　C23-Ｂブロック石材別石器組成表

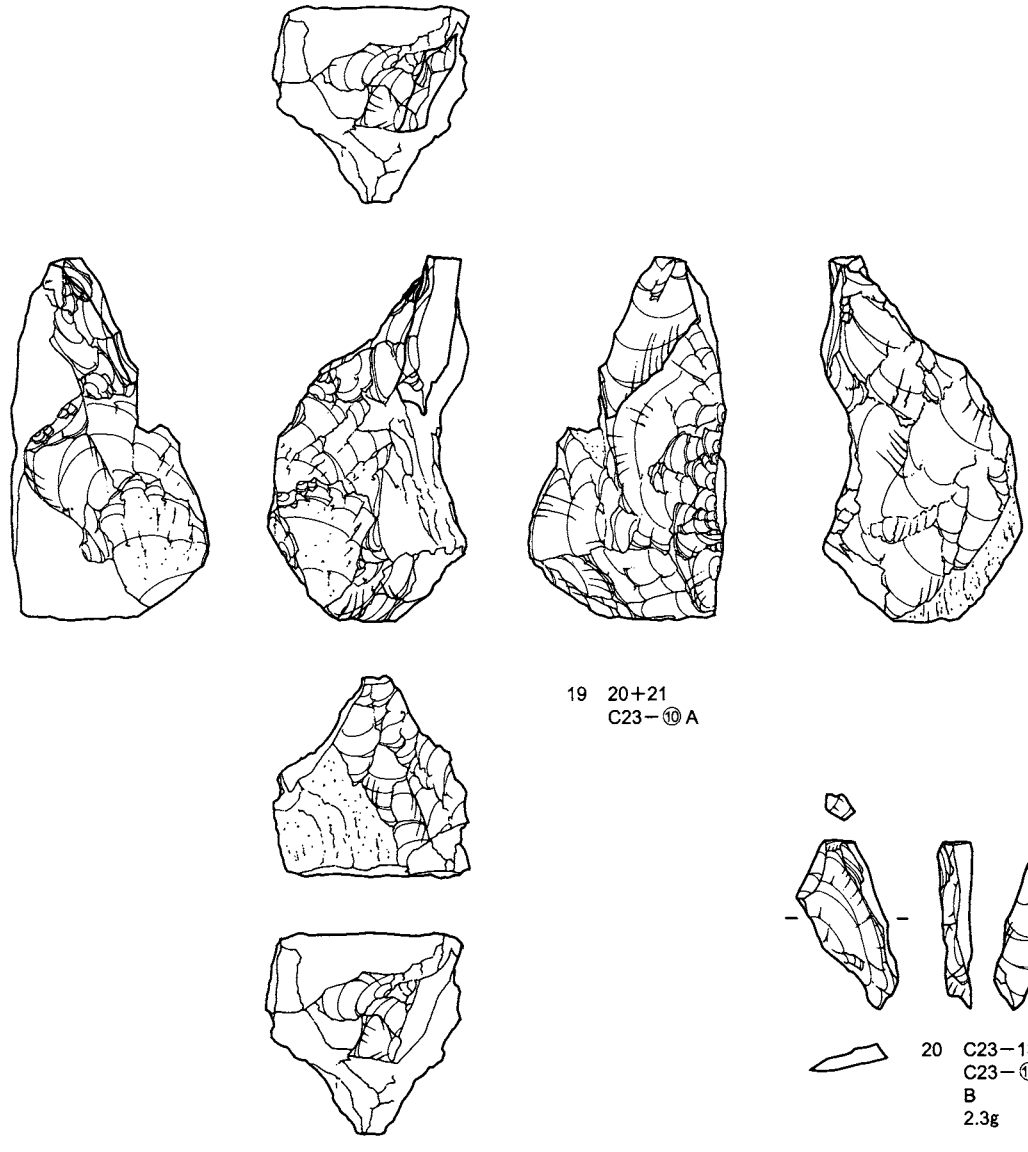
石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)																			1			1		1
安山岩(An)																				1		1		1
頁岩(Sh)											1	2							1			4		4
珪質頁岩(Csh)	1								1										22(20)	1	1	26(24)		26(24)
チャート(Ch)											1								2		1	4	3	7
砂岩(Sa)																			1			1	4	5
ホルンフェルス(Ho)																			11			11		11
メノウ(Ag)																			3(2)			3(2)		3(2)
合　計	1								1		2	2							41(38)	2	2	51(48)	7	58(55)



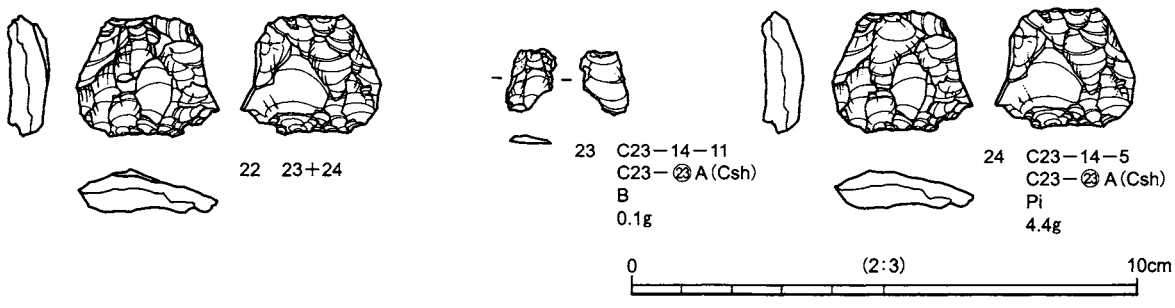
第99図　C23-Bブロック出土遺物実測図（1）



第100図　C23-Bブロック出土遺物実測図（2）



第101図　C23-Bブロック出土遺物実測図（3）



第102図　C23-Bブロック出土遺物実測図（4）

側縁に刃こぼれが見られる。15は小型の縦長剥片である。

・C23-⑫（第100図16～18）　黄色みがかった黒灰色の砂岩で，本ブロックでは剥片1点の単独資料であるが，C23-Fブロックの剥片1点と接合する。

16は，不定型の剥片2点（17・18）の接合資料である。18→17の順に剥離している。表面は多方向からの剥離面で構成される。

・C23-⑩（第101図19～21）　灰緑色の地に白色，暗紫色の斑が入る珪質頁岩で，本ブロックでは剥片1点の単独資料であるが，C23-Cブロックの石核1点と接合する。

19は，剥片1点（20）と石核1点（21）の接合資料であるが，剥片と石核による通常の接合資料とは異なる。19の右側面図に見られるとおり，20の表面が21と接合しており，剥片20は21とは別個体の石核から剥離されたことがわかる。本母岩は，原石を複数の石核素材に分割したと考えられるものであり，21も分割面を打面と作業面にあてて不定型の剥片を剥離している。

ところで，20を剥離した石核や21から剥離された剥片類が見られないことについては，①：本ブロックで生産された後，ブロック外に搬出されたか，あるいは②：20や21がブロック外（遺跡外）で生産され，搬入されたかのいずれかであろう。このほかの同一母岩が，C17-AブロックとC23-Cブロックで各1点しか分布しないことから，後者の可能性が高い。

・C23-㉓（第102図22～24）　暗灰紫色珪質頁岩で，楔形石器1点と剥片1点で構成される。

22は，楔形石器（24）とその調整剥片（23）の接合資料である。24は，素材面を残さずに調整されており，上下端が細かく潰れている。概ね完成された状態で搬入され，部分的に調整されたのであろう。

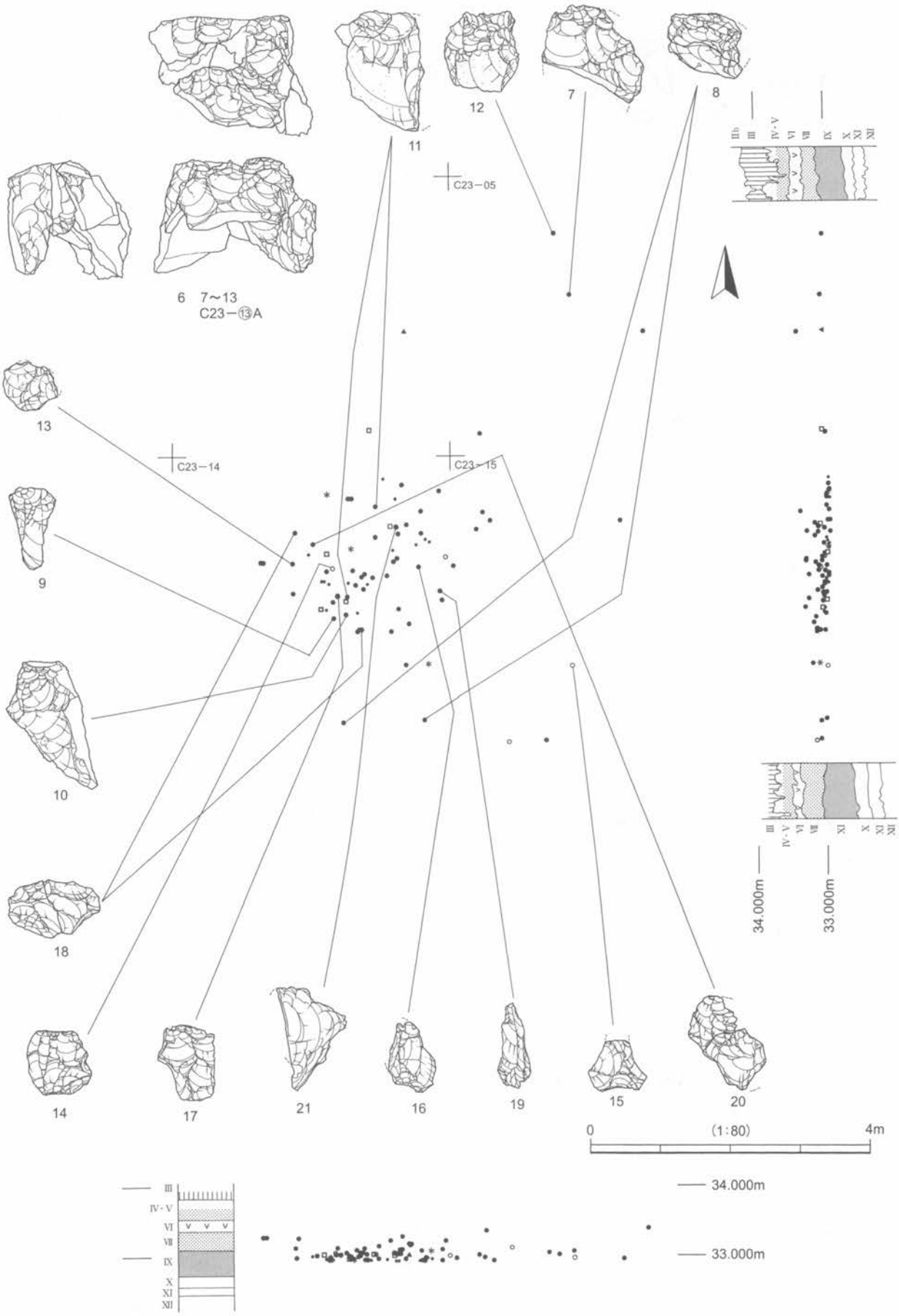
13　C23-Cブロック（第103～110図，第29・30表）

1）ブロックの概要

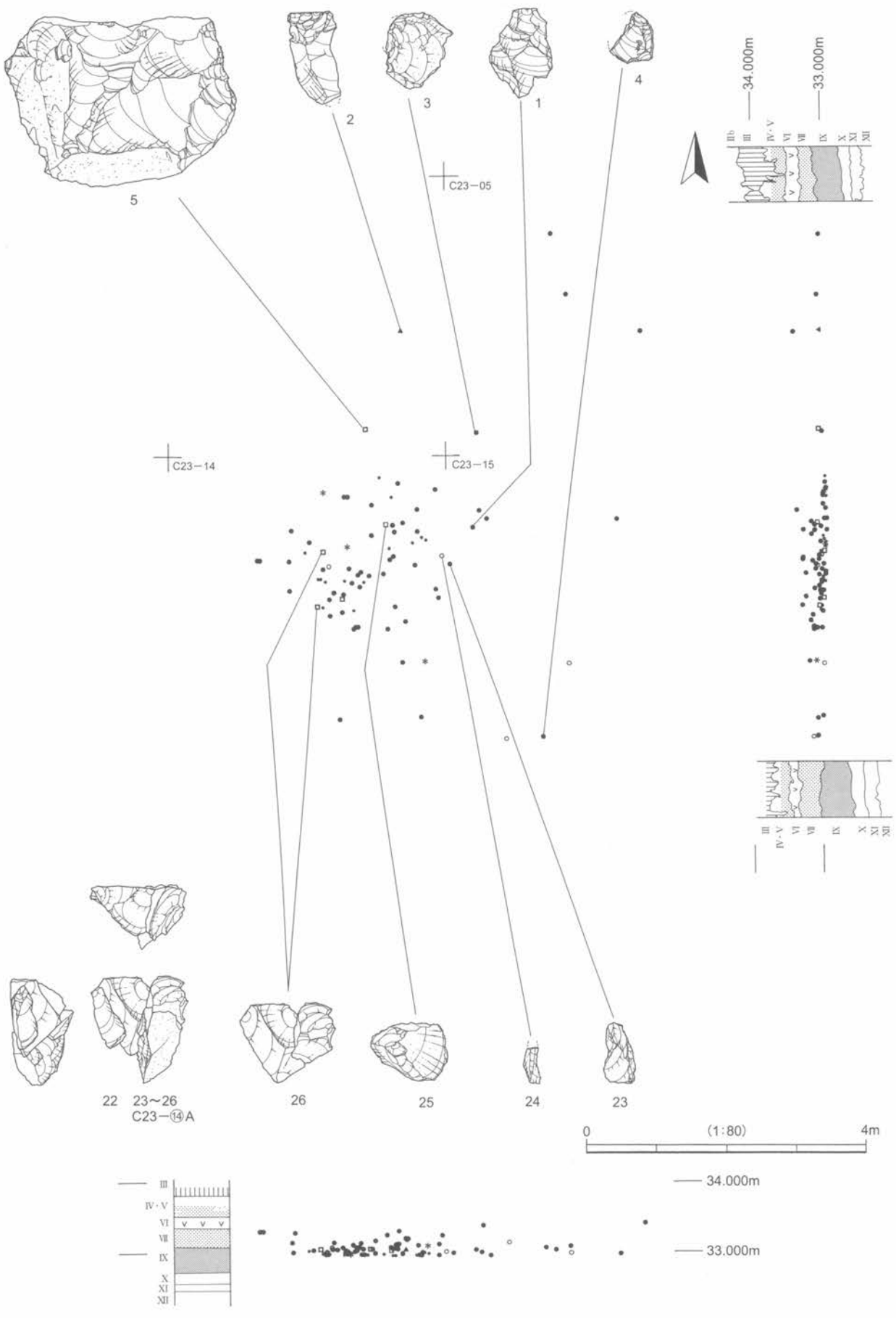
C23-Cブロックは，調査範囲南側のC23-04・05・14・15グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の南西に向かって開く谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点までの距離は12mである。

ブロックの規模と形状は，長軸7m，短軸5mの楕円形の範囲に81点の石器・礫が分布する。ただし，C23-14グリッドの直径3mほどの範囲に，ほとんどの石器が集まっている。出土層位はⅦ層下部からⅨ層上部にかけてで，各石器は40cmほどの高低差をもって水平に包含されている（第103～105図）。

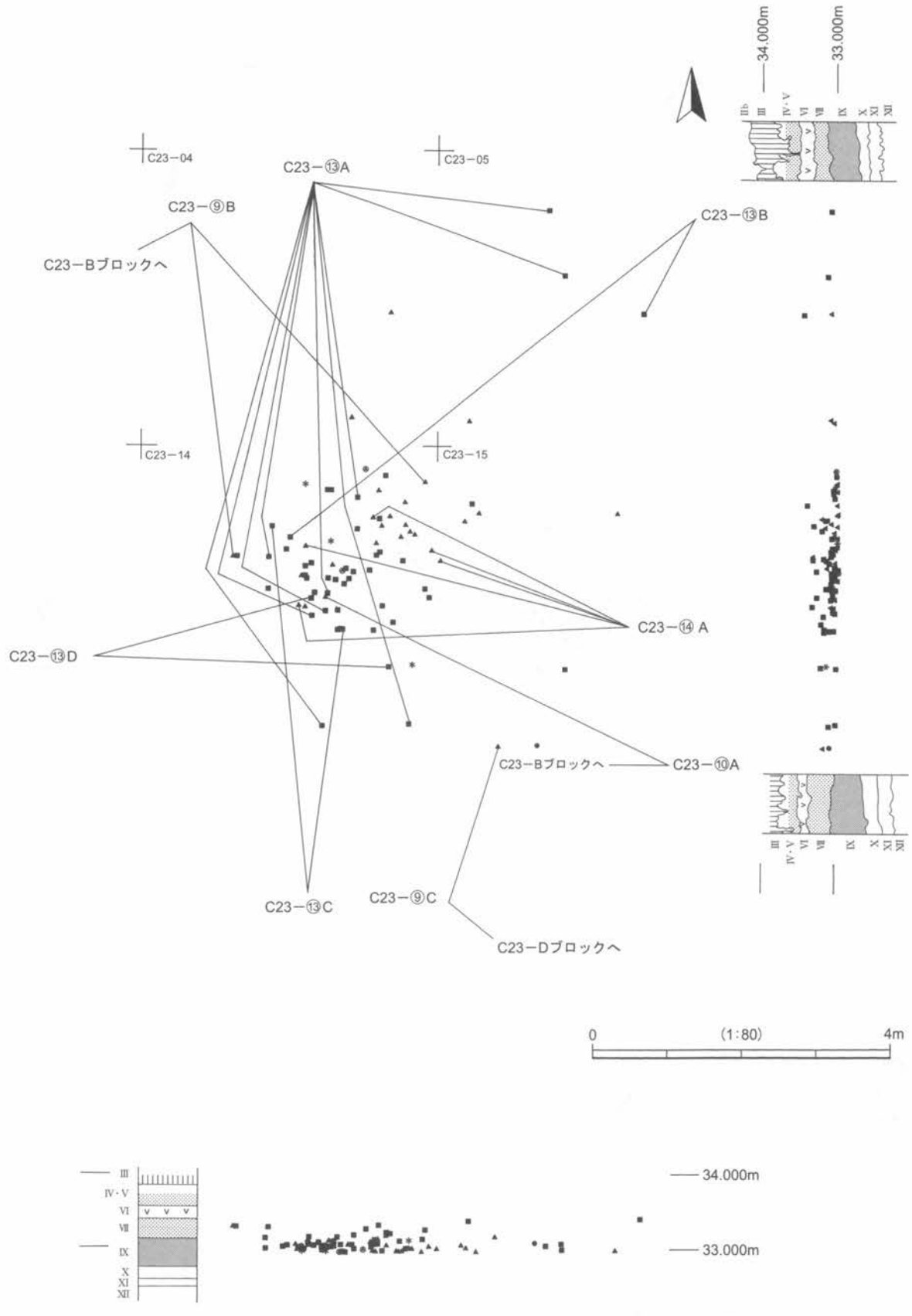
ブロックは，楔形石器1点，加工痕ある剥片2点，使用痕ある剥片1点，石刃1点，剥片54点（50個体），



第103図　C23-Cブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図（1）－



第104図　C23-Cブロック出土遺物分布図（2）　−石器別分布図（2）−



第105図　C23-Cブロック出土遺物分布図（3）　－石材別分布図－

砕片14点，石核５点（４個体），礫３点の合計81点（76個体）で構成される。石器石材は，黒曜石１点，頁岩７点，珪質頁岩20点，砂岩２点，メノウ48点，礫石材は，チャート１点，砂岩２点である。礫３点は，母岩不明である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは５母岩を識別した。内訳は，頁岩１母岩（C23-⑨），珪質頁岩３母岩（C23-②・⑩・⑭），メノウ１母岩（C23-⑬）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は78%（61/78点）である。

・C23-②：灰緑色の嶺岡産珪質頁岩で，母岩の特徴は，C17-Bブロックで記したとおりである。剥片１点，砕片１点（合計7.8ｇ）で構成される。同一母岩は，C17-Bブロックに１点，C17-Gブロックに５点，C23-Aブロックに64点ある。

・C23-⑨：灰褐色と黄灰色の混在する頁岩で，母岩の特徴は，C17-Bブロックで記したとおりである。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片２点，石核１点の合計４点（583.6ｇ）である。接合資料は，本ブロックの剥片２点（合計0.8ｇ）がC23-Bブロックの使用痕ある剥片１点と接合するもの，加工痕ある剥片がC23-Dブロックの加工痕ある剥片と接合して１個体になるものがある。このほかに同一母岩は，C17-Bブロックに３点，C17-Fブロックに１点，C23-Bブロックに１点ある。

・C23-⑩：灰緑色の嶺岡産珪質頁岩で，母岩の特徴は，C17-Aブロックで記したとおりである。剥片１点，石核１点（合計88.7ｇ）で構成され，石核１点（84.3ｇ）が，C23-Bブロックの剥片１点と接合する。このほかに同一母岩は，C17-Aブロックに１点がある。

・C23-⑬：黄灰色と紫がかった黒灰色の混在する半透明のメノウで，母岩の特徴は，C17-Aブロックで記したとおりである。石器群の内訳は，楔形石器１点，加工痕ある剥片１点，剥片40点（36個体），砕片６点の合計48点（44個体；221.7ｇ）である。接合資料は４グループに分けられる。

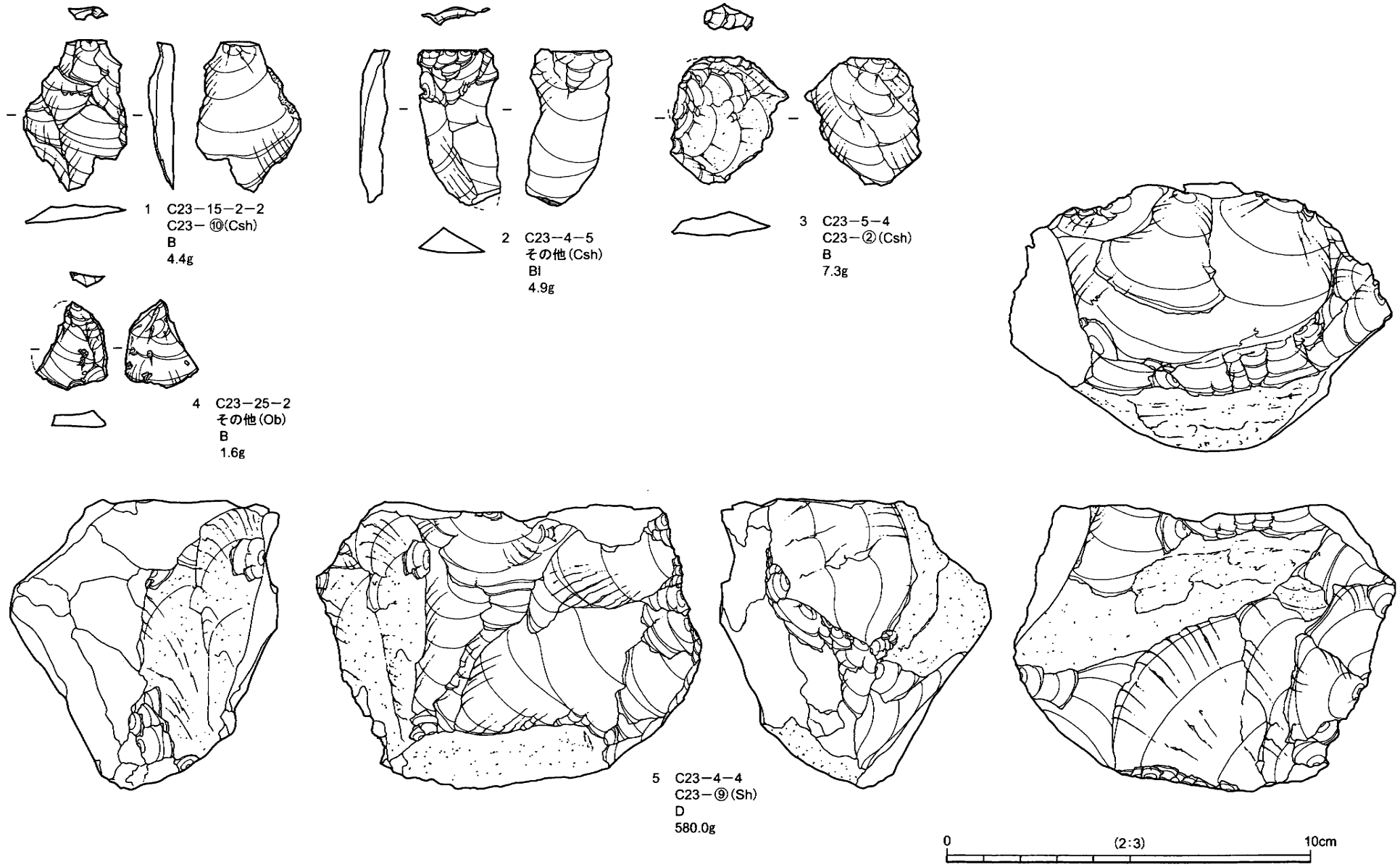
Aグループは，剥片９点（７個体；135.4ｇ）による接合資料である。このほかに，欠損した剥片同士が接合して１個体になったものが２グループ（接合資料Ｂ；11.5ｇ，接合資料Ｃ；8.7ｇ），剥片２点が表裏面で接合したもの（接合資料Ｄ；16.5ｇ）がある。同一母岩は，C17-Aブ

第29表　C23-Cブロック母岩別石器組成表

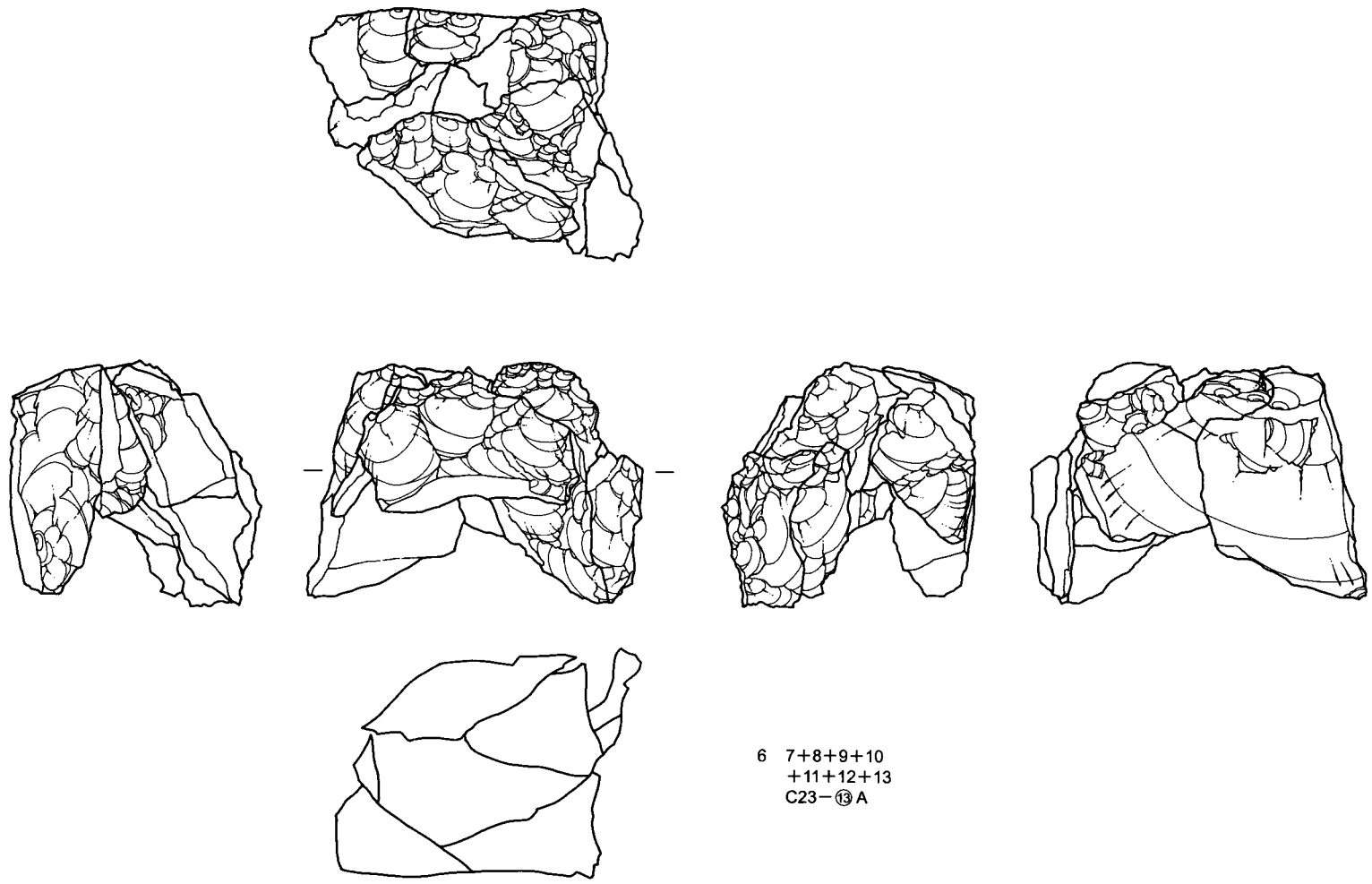
母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C23-②(Csh)												1							1	1		2		2
C23-⑨(Sh)										1									2		1	4		4
C23-⑩(Csh)																			1		1	2		2
C23-⑬(Ag)									1	1									40(36)	6		48(44)		48(44)
C23-⑭(Csh)											1								1		3(2)	5(4)		5(4)
その他(Ob)																			1			1		1
その他(Sh)																			2	1		3		3
その他(Csh)												1							5	5		11		11
その他(Sa)																			1	1		2		2
その他(Ch)																							1	1
その他(Sa)																							2	2
合　計									1	2	1	1							54(50)	14	5(4)	78(73)	3	81(76)

第30表　C23-Cブロック石材別石器組成表

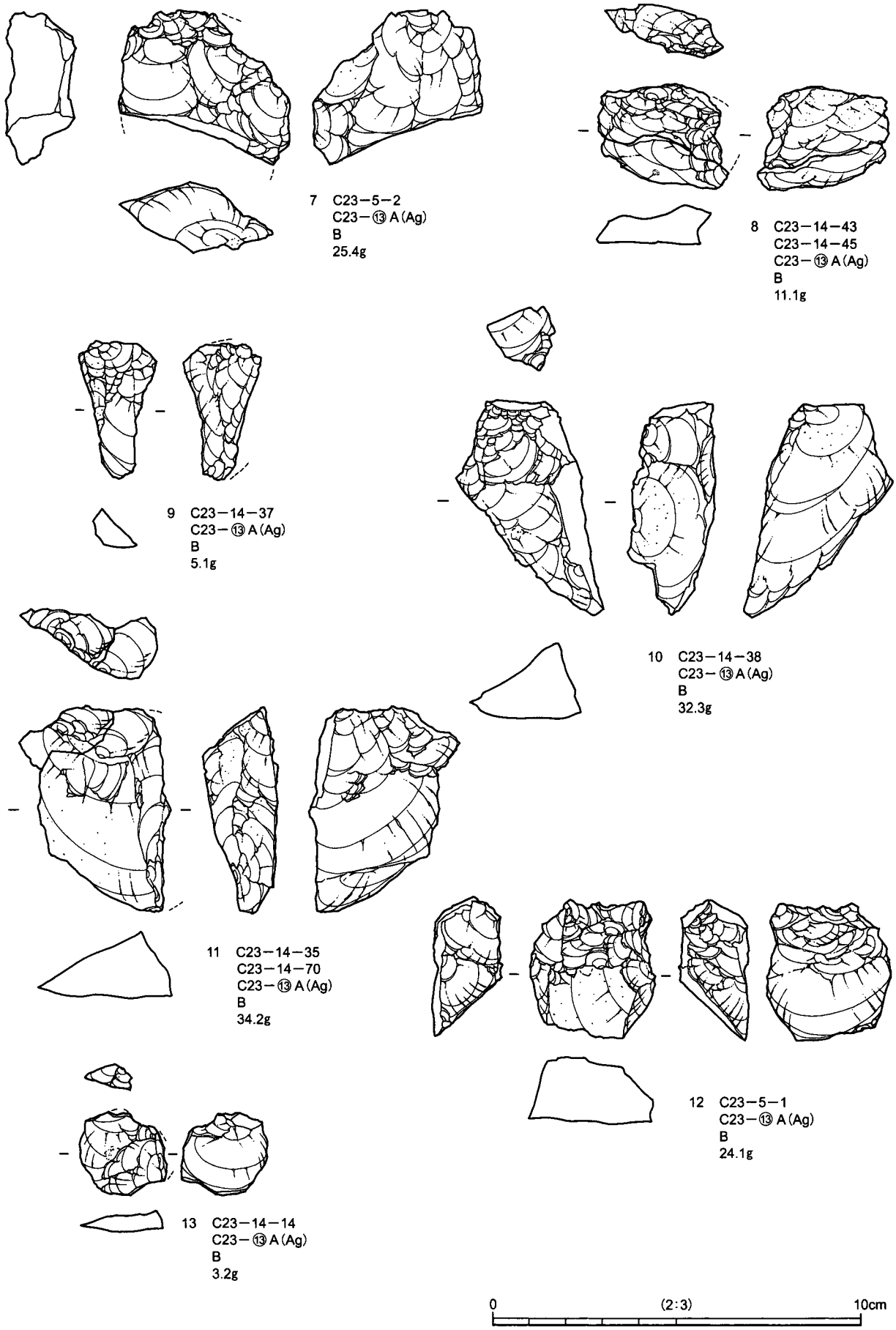
石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)																			1			1		1
頁岩(Sh)										1									4	1	1	7		7
珪質頁岩(Csh)											1	1							8	6	4(3)	20(19)		20(19)
チャート(Ch)																							1	1
砂岩(Sa)																			1	1		2	2	4
メノウ(Ag)									1	1									40(36)	6		48(44)		48(44)
合　計									1	2	1	1							54(50)	14	5(4)	78(73)	3	81(76)



第106図　C23-Cブロック出土遺物実測図（1）



第107図　C23-Cブロック出土遺物実測図（2）



第108図　C23-Cブロック出土遺物実測図（3）

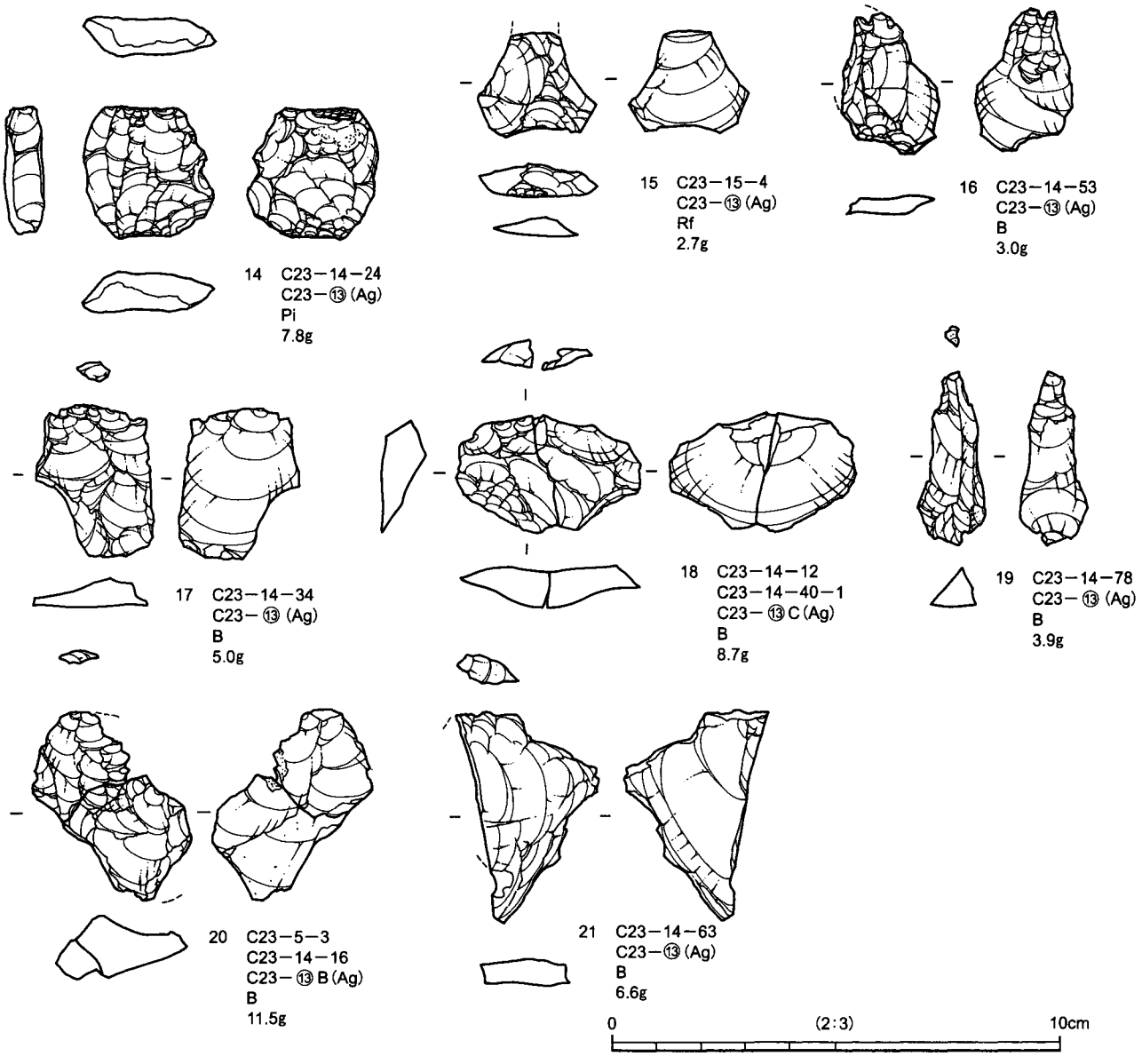
ロックに２点，C17-Bブロックに１点，C23-Bブロックに３点ある。

・C23-⑭：自然面と節理は淡褐色，内部は灰紫色で，部分的に珪化度の高い嶺岡産珪質頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片１点，石核３点（２個体）の合計５点（４個体；37.2ｇ）で，すべてが接合する。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石の剥片１点（1.6ｇ），頁岩の剥片２点，砕片１点（合計1.1ｇ），珪質頁岩の石刃１点，剥片５点，砕片５点（合計9.1ｇ），砂岩の剥片１点，砕片１点（合計0.4ｇ）がある。黒曜石は栃木県高原山産，珪質頁岩は嶺岡産と考えられる。

3）出土遺物（第106図）

２は，嶺岡産珪質頁岩による中型の石刃である。平坦で幅広の打面をもち，表面は裏面と同一方向の剥離面で構成される。



第109図　C23-Cブロック出土遺物実測図（４）

1・3は嶺岡産珪質頁岩，4は高原山産黒曜石による不定型な剥片である。5は，頁岩の石核である。円礫を素材とし，各所から不定型の剥片を生産している。

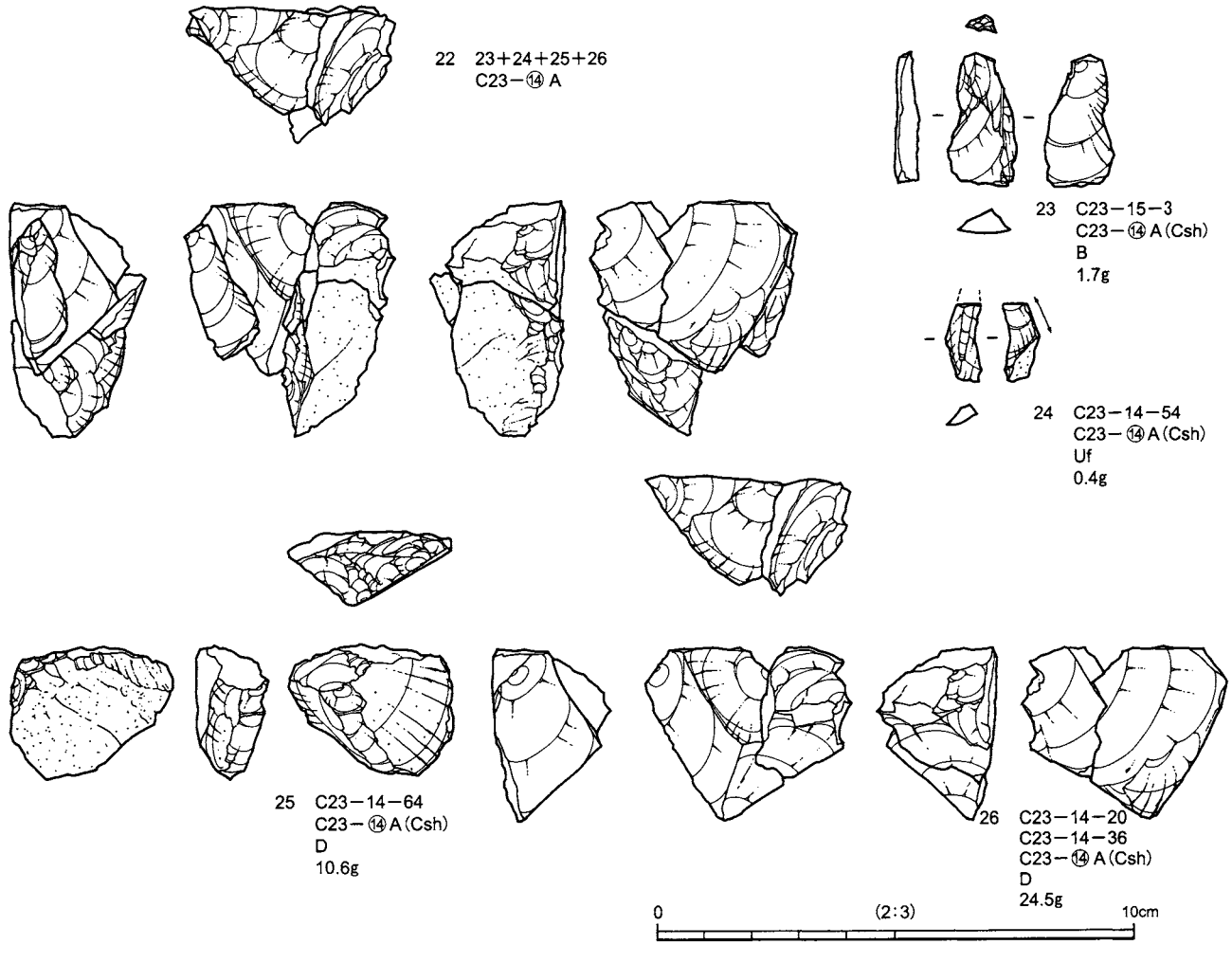
4）接合資料とその関連資料（第107～110図）

・C23-⑬（第107図6，第108図7～12，第109図13～21） 黄灰色と紫がかった黒灰色の混在する半透明のメノウで，楔形石器1点，加工痕ある剥片1点，剥片40点（36個体），砕片6点の合計48点（44個体）で構成される。

6は，剥片9点（7個体；7～13）の接合資料である。はじめに原石を分割した後，①：実測図6の上位（E面）を打面，正面（A面）を作業面として剥片を剥離する。②：打面と作業面を転移する。正面を打面，右側面（C面）を作業面として剥片数枚を剥離し，その過程で8を剥離する。③：再び上位を打面，正面を作業面として7→10の順で剥片を剥離する。④：上位の打面が低くなった段階（打面再生か）で，13を剥離する。

一方，裏面（B面）には分割面（節理面）が広く残されているが，この面を作業面として，上位の打面から11→12→9の順に剥片を剥離している。

14～21は，同一母岩であるが接合しなかった資料である。14は楔形石器である。表裏両面が上下両方向



第110図　C23-Cブロック出土遺物実測図（5）

からの剥離面に覆われており，素材の面は見られない。上下両端が潰れている。15は加工痕ある剥片である。不定型の剥片を素材として，その末端部に調整加工が見られる。16～21は，不定型の剥片である。不純物層が多く石質が良くないため，17を除いて，剥離時に割れている。また，16・17は，縦断面が緩やかに湾曲し，上下に損傷が見られることから，楔形石器から剥離された可能性がある。

・C23-⑭（第110図22～26）　灰紫色の嶺岡産珪質頁岩で，使用痕ある剥片１点，剥片１点，石核３点（２個体）の合計５点で構成される。

22は，使用痕ある剥片１点（24），剥片１点（23），石核３点（２個体；25・26）の接合資料である。①：はじめに，原石を分割し，複数の石核の素材を得る。この段階で，23を含む個体，24・25を含む個体，26を含む個体などに分けられる。②：23は不整形の縦長剥片であるが，その表面が26と接合しており，26とは別々の石核から剥離されたと考えられる。③：25の石核からは，24が剥離される。④：26は，表面左側と右側下半分，裏面の３面が節理面である。剥片生産の開始直後に中央で割れ，作業を終了している。

14　C23-Dブロック（第111～113図，第31・32表）

１）ブロックの概要

C23-Dブロックは，調査範囲南側のC23-25グリッドの一角に石器３点が分布する。ブロックの立地は，台地の南西に向かって開く谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点までの距離は10mほどである。

ブロックの規模と形状は，長さ２mほどの範囲に３点の石器が並んで分布する。出土層位はⅦ層からⅨ層上部にかけてである（第111・112図）。

ブロックは，加工痕ある剥片１点，剥片２点の合計３点で構成され，石材は，頁岩１点（78.4g），珪質頁岩１点（1.9g），チャート１点（15.6g）である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは頁岩１母岩（C23-⑨）を識別したにすぎない。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は33%（１/３点）である。

・C23-⑨：灰色がかった暗褐色と黄灰色の混在する頁岩で，母岩の特徴は，C17-Bブロックで記したとおりである。本ブロックでは加工痕ある剥片１点（78.4g）の単独資料であるが，C23-Cブロックの加工痕ある剥片と接合して１個体となる。

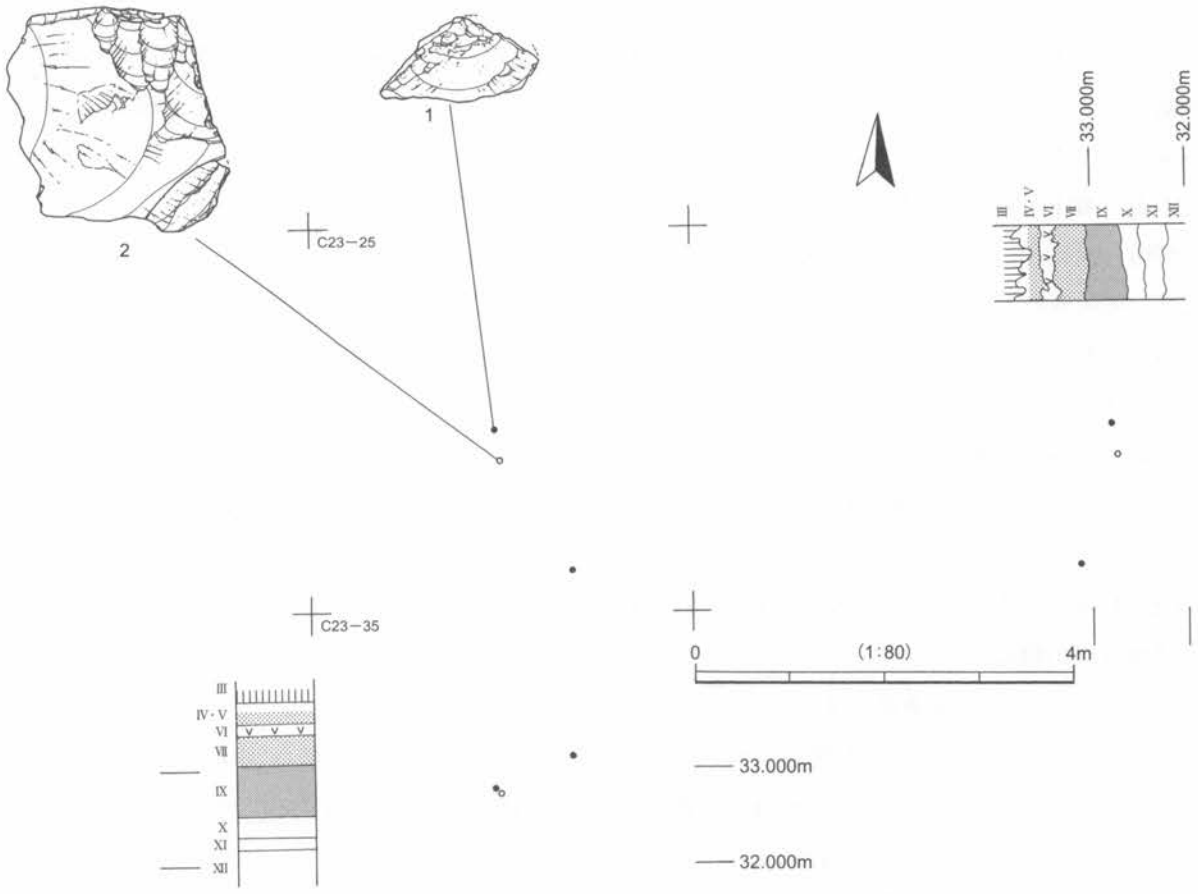
なお，母岩分類できなかった資料に，嶺岡産珪質頁岩の剥片１点（1.9g），チャートの剥片１点（15.6g）がある。

第31表　C23-Dブロック母岩別石器組成表

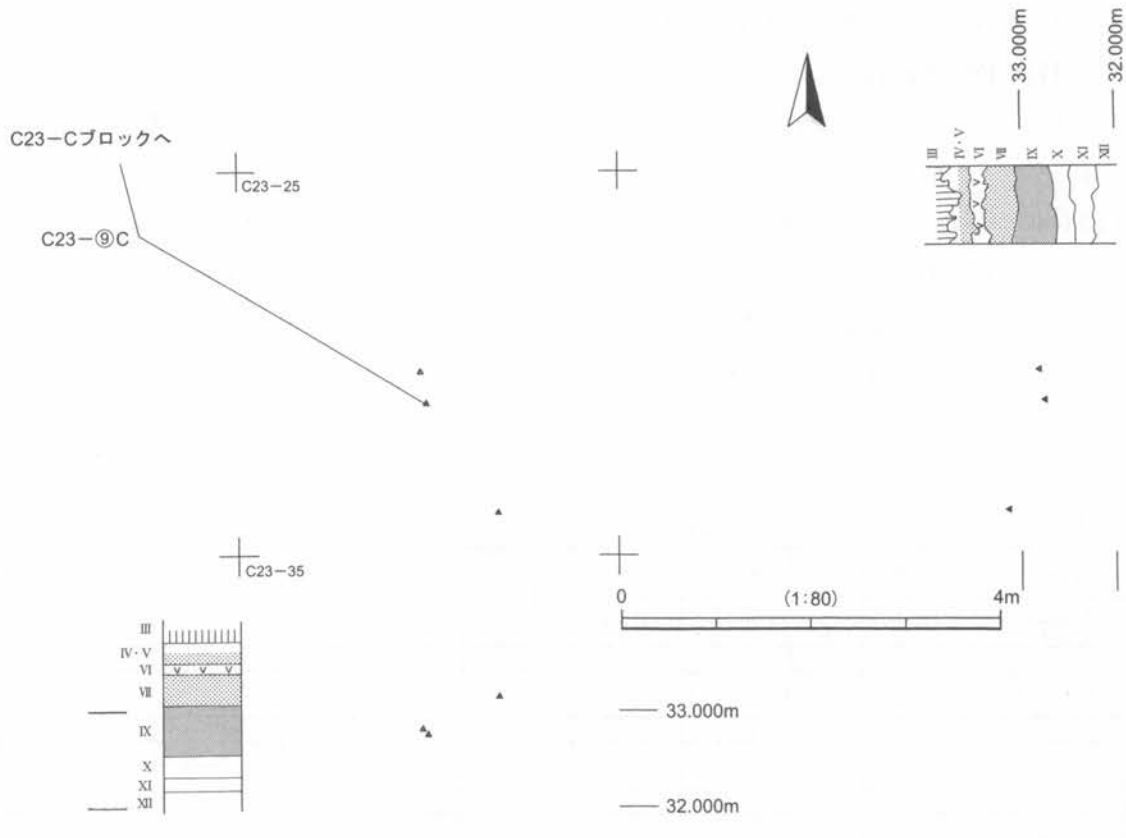
母岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C23-⑨(Sh)										1												1		1
その他(Csh)																			1			1		1
その他(Ch)																			1			1		1
合　計										1									2			3		3

第32表　C23-Dブロック石材別石器組成表

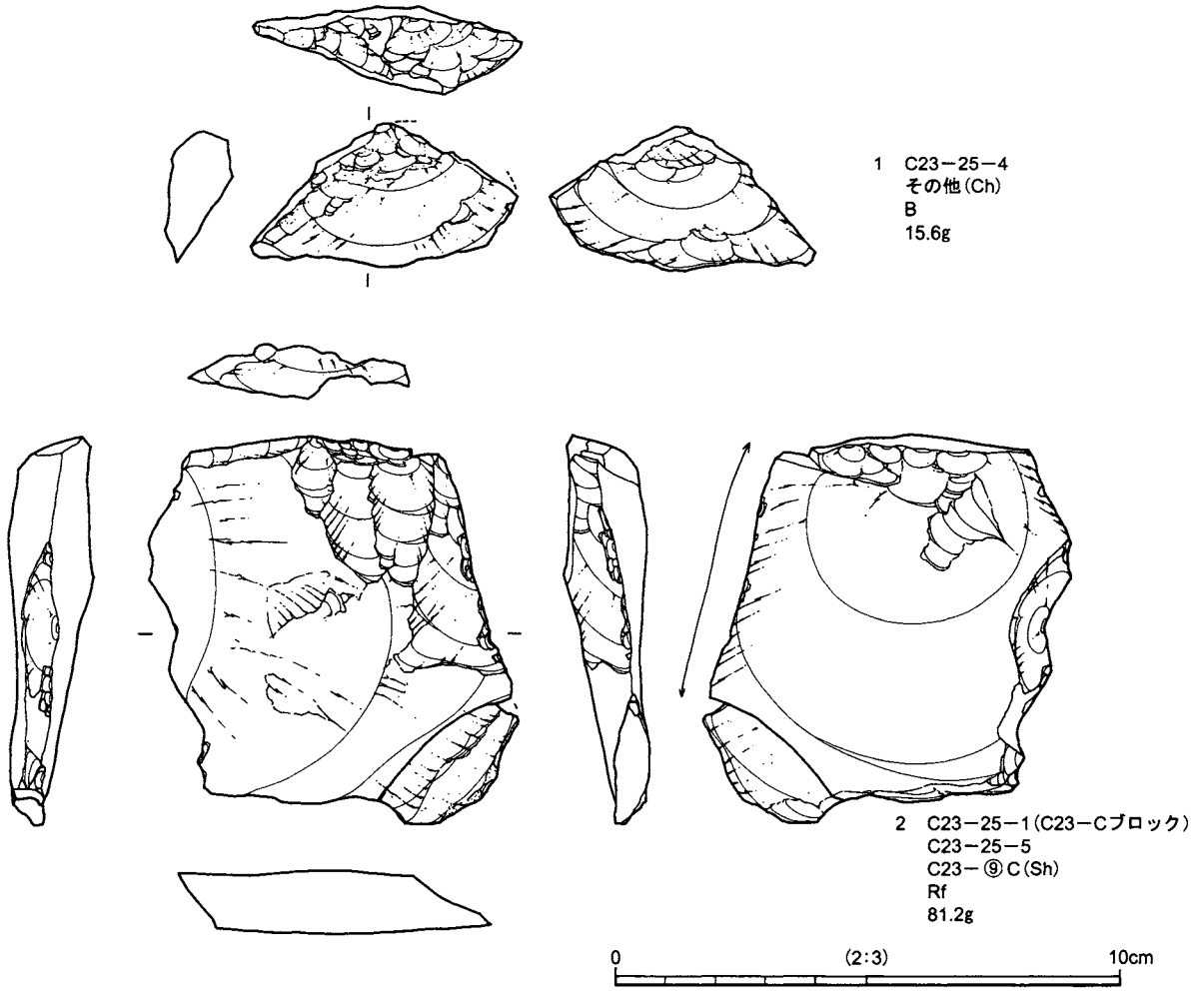
石材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
頁岩(Sh)										1												1		1
珪質頁岩(Csh)																			1			1		1
チャート(Ch)																			1			1		1
合　計										1									2			3		3



第111図　C23-Dブロック出土遺物分布図（1）　−石器別分布図−



第112図　C23-Dブロック出土遺物分布図（2）　−石材別分布図−



第113図　C23-Dブロック出土遺物実測図

3）出土遺物（第113図）

1は，青灰色の地に黒色の縞が入るチャートを用いた横長剥片である。打面の左側は欠損する。裏表ともにポジティブな剥離面で，剥片素材の石核から剥離されたと考えられる。2は，暗褐色の頁岩による大型不定型の剥片を用いた加工痕ある剥片である。裏面の右側縁に粗い剥離痕が連続し，裏面の左側縁には刃こぼれが見られる。なお，末端部はC23-Cブロックに分布する資料と接合した。

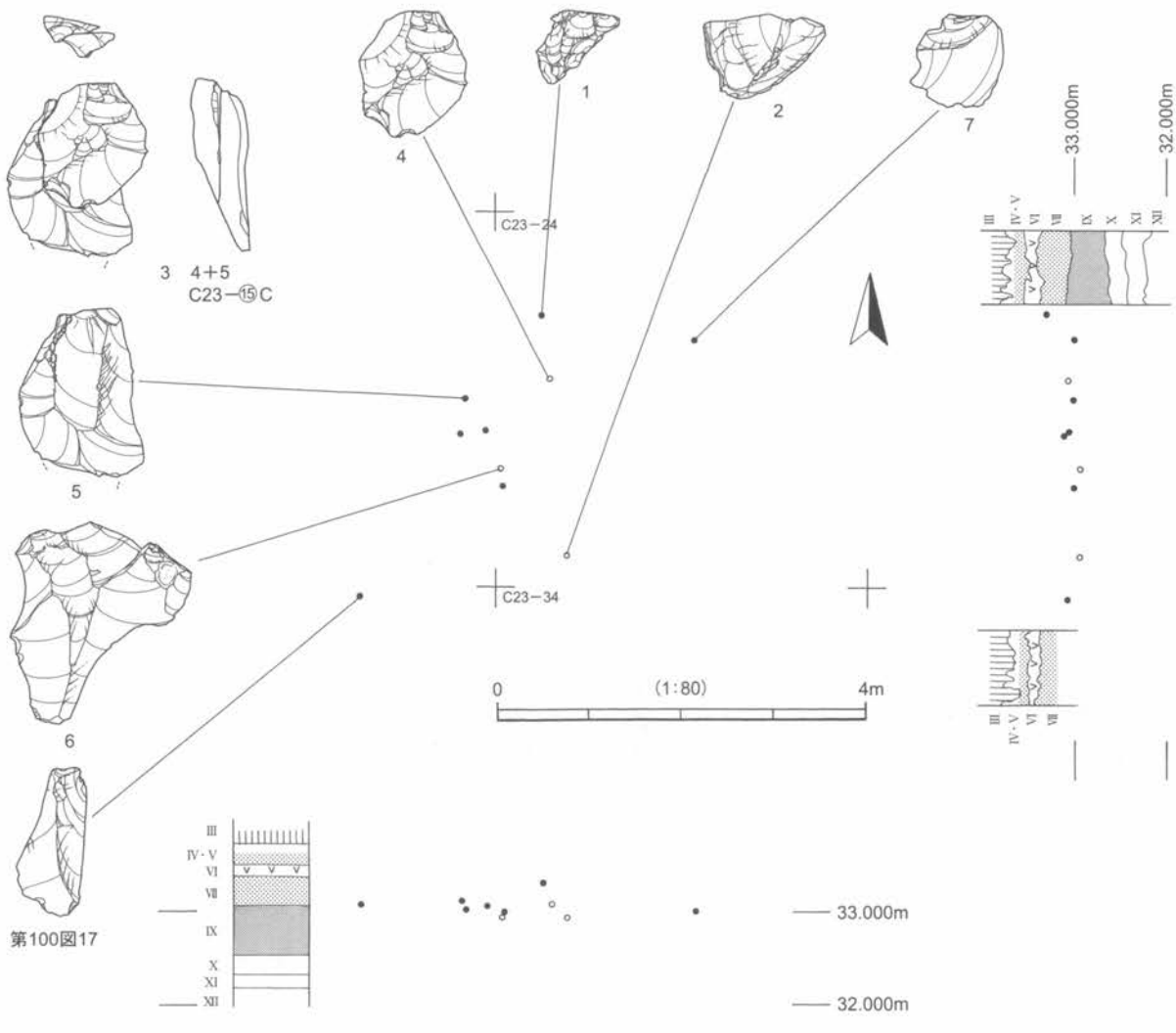
15　C23-Fブロック（第114〜116図，第33・34表）

1）ブロックの概要

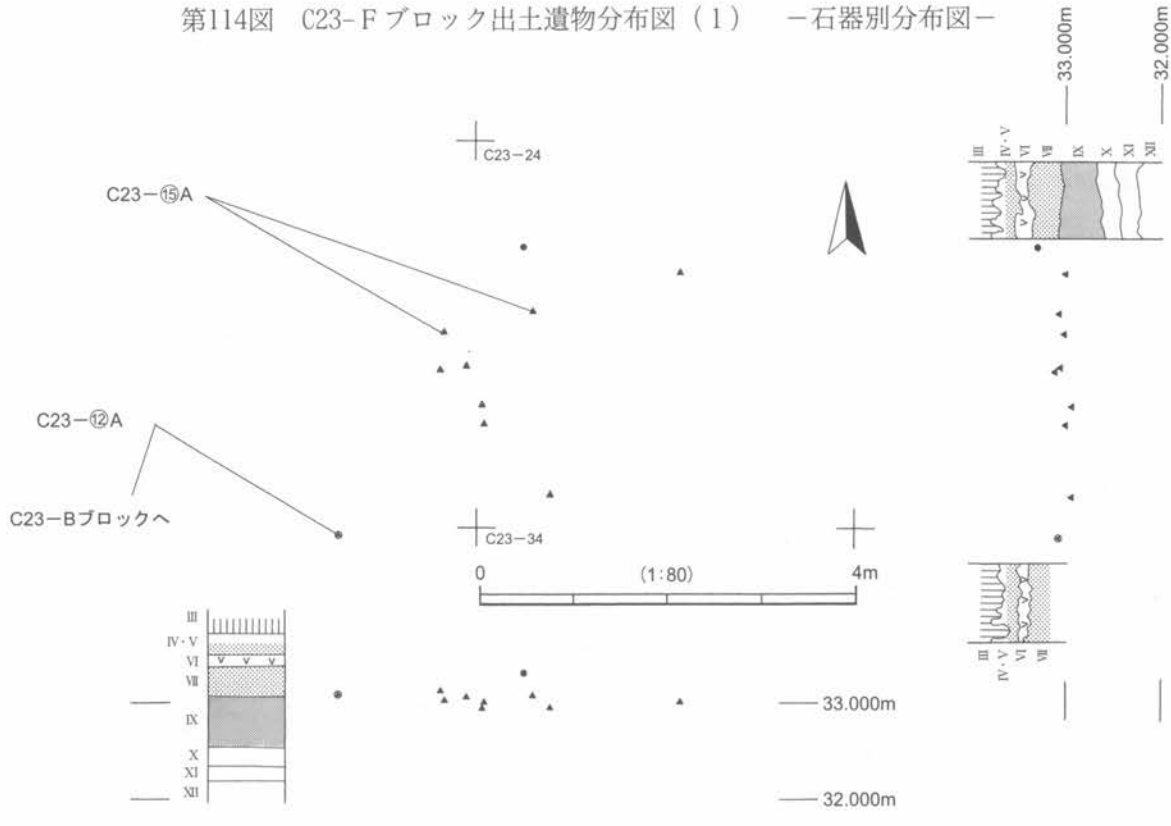
C23-Fブロックは，調査範囲南側のC23-23・24・33グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の南西に向かって開く谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点までの距離は10mほどである。

ブロックの規模と形状は，長軸4m，短軸2mの範囲に10点の石器が散漫に分布する。出土層位はIX層上部を中心としており，各石器は30cmほどの高低差をもって水平に包含されている（第114・115図）。

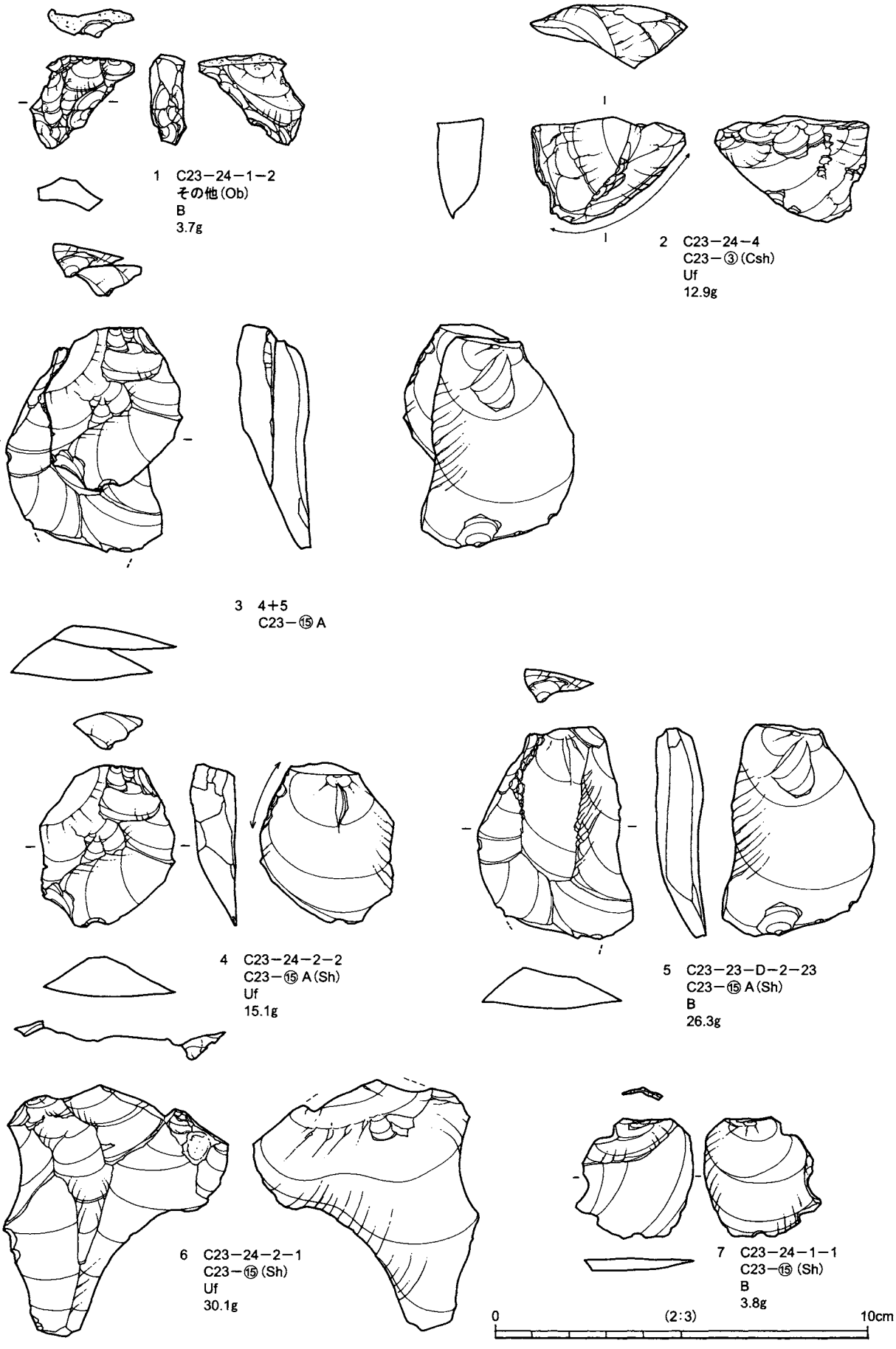
ブロックは，使用痕ある剥片3点，剥片7点の合計10点で構成され，石材は，黒曜石1点，頁岩6点，



第114図　C23-Fブロック出土遺物分布図（1）　−石器別分布図−



第115図　C23-Fブロック出土遺物分布図（2）　−石材別分布図−



第116図　C23-Fブロック出土遺物実測図

珪質頁岩２点，砂岩１点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは３母岩を識別した。内訳は，頁岩１母岩（C23-⑮），珪質頁岩１母岩（C23-③），砂岩１母岩（C23-⑫）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は80％（８/10点）である。

・C23-③：灰色の地に白色と紫色の縞が入る珪質頁岩（あるいはオパール）で，母岩の特徴は，C23-Ｂブロックで記したとおりである。使用痕ある剥片１点（12.9ｇ）の単独資料である。同一母岩は，C23-Ｂブロックに11点がある。

・C23-⑫：黄色みがかった黒灰色の砂岩で，母岩の特徴は，C23-Ｂブロックで記したとおりである。本ブロックでは剥片１点（10.0ｇ）の単独資料であるが，C23-Ｂブロックの剥片１点と接合する。

・C23-⑮：黒褐色に風化した軟質の頁岩（ノジュール）である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片２点，剥片４点の合計６点（77.7ｇ）で，使用痕ある剥片１点と剥片１点（合計41.4ｇ）が接合する。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石の剥片１点（3.7ｇ），珪質頁岩の剥片１点（0.3ｇ）がある。黒曜石は黒灰色不透明で夾雑物を含み，自然面は平坦で紙やすりのようにザラザラしている。栃木県高原山産であろうか。

３）出土遺物（第116図）

１は，黒曜石の不定型な剥片である。打面は自然面で，表と右側面に多方向からの剥離面が見られる。打面と作業面を頻繁に移動する剥離手順が想定される。２は，珪質頁岩の不定型な剥片を利用した使用痕ある剥片である。表面の上下が折れており，剥片本来の形状は不明である。折れによって形成された下端部の鋭利な部分に刃こぼれがある。素材の打面は裏面左端に残る。

４）接合資料とその関連資料（第116図）

・C23-⑮（第116図３～７）　黒褐色に風化した軟質の頁岩（ノジュール）で，使用痕ある剥片２点，剥片４点で構成される。

３は，使用痕ある剥片（４）と剥片（５）の接合資料である。４→５の順で剥離している。表面は，裏面と同一方向の剥離面のほかに，90度ほど左からの剥離面もあり，打点の移動が認められる。４は，裏面の右側縁に刃こぼれがある。

６・７は，接合しない同一母岩の資料である。４・５と同様，不定型の剥片である。

第33表　C23-Ｆブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C23-③(Csh)											1											1		1
C23-⑫(Sa)																			1			1		1
C23-⑮(Sh)											2								4			6		6
その他(Ob)																			1			1		1
その他(Csh)																			1			1		1
合　計											3								7			10		10

第34表　C23-Ｆブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)																			1			1		1
頁岩(Sh)											2								4			6		6
珪質頁岩(Csh)											1								1			2		2
砂岩(Sa)																			1			1		1
合　計											3								7			10		10

16　C17-⑭母岩（第117～130図）

C17-⑭母岩は，C13-Cブロックに石核２点，C17-Aブロックにナイフ形石器１点，剥片101点，砕片５点，石核１点の合計108点，C17-Bブロックに剥片６点，石核１点の合計７点，C17-Gブロックに剥片11点，石核６点の合計17点が分布する（第117図～121図）。

接合資料は７グループに分かれるが，本遺跡で原石から最終段階までの作業を実施しており，製品の搬出等の欠落により，必ずしもすべてが一つに接合しない。

接合資料A（第122～128図）　剥片32点，石核９点で構成される。ブロックごとでは，C13-Cブロックに石核１点，C17-Aブロックに剥片24点，石核１点，C17-Bブロックに剥片１点，石核１点，C17-Gブロックに剥片７点，石核６点が分布する。

作業の概要は，原石を複数の石核素材に分割した後，それぞれの石核（個体）から剥片生産を行っている。

①：実測図１の左側面（自然面）を打面として，大型の分割片を剥離する。これが個体４（実測図27；28＋29）及び実測図９～13を含む塊である。残った本体（石核側）は，個体１（実測図２；３＋４），個体２（実測図５；６＋７＋８），個体３（実測図19；20＋21＋22＋23＋24＋25＋26），個体５（実測図31；32＋33＋34＋35＋36＋37）及び14～18，30である。

②：①で得た分割礫を石核素材として，９（C17-A）→10（C17-A）→11（C17-A）→12（C17-G）→13（C17-A・G）→27（C17-G）の順に，大小さまざまな剥片を剥離する。この工程の石核は遺跡内に見られない。なお，11・13などで明らかなように，打点で二つに割れる例が多い。

③：個体４による剥片剥離作業である。27は中央で割れているが，これが素材剥片を得た時点で割れたか，小型の剥片を生産している過程で割れたかは不明である。いずれにせよ，主要剥離面側（実測図27の裏面）を作業面として，28に代表される小型不定型の剥片を剥離している。なお，本個体は，すべてC17-Gブロックに分布する。

④：①の工程で得た石核側について，この時形成された平坦面を打面として，はじめに実測図１の左端から大型厚手の分割片（２；個体１）（C13-A・C17-A）が剥離され，さらに14（C17-A）→18（C17-A）→17（C17-G）→15（C17-A）→16（C17-A）と剥離する。

⑤：個体１による剥片剥離作業である。

⑥：引き続き①の工程で形成された平坦面を打面として，19（個体３；C17-A・B），５（個体２；C17-A），31（個体５；C17-A・G）を含む塊が，それぞれ得られる。

⑦：個体３による剥片剥離作業である。

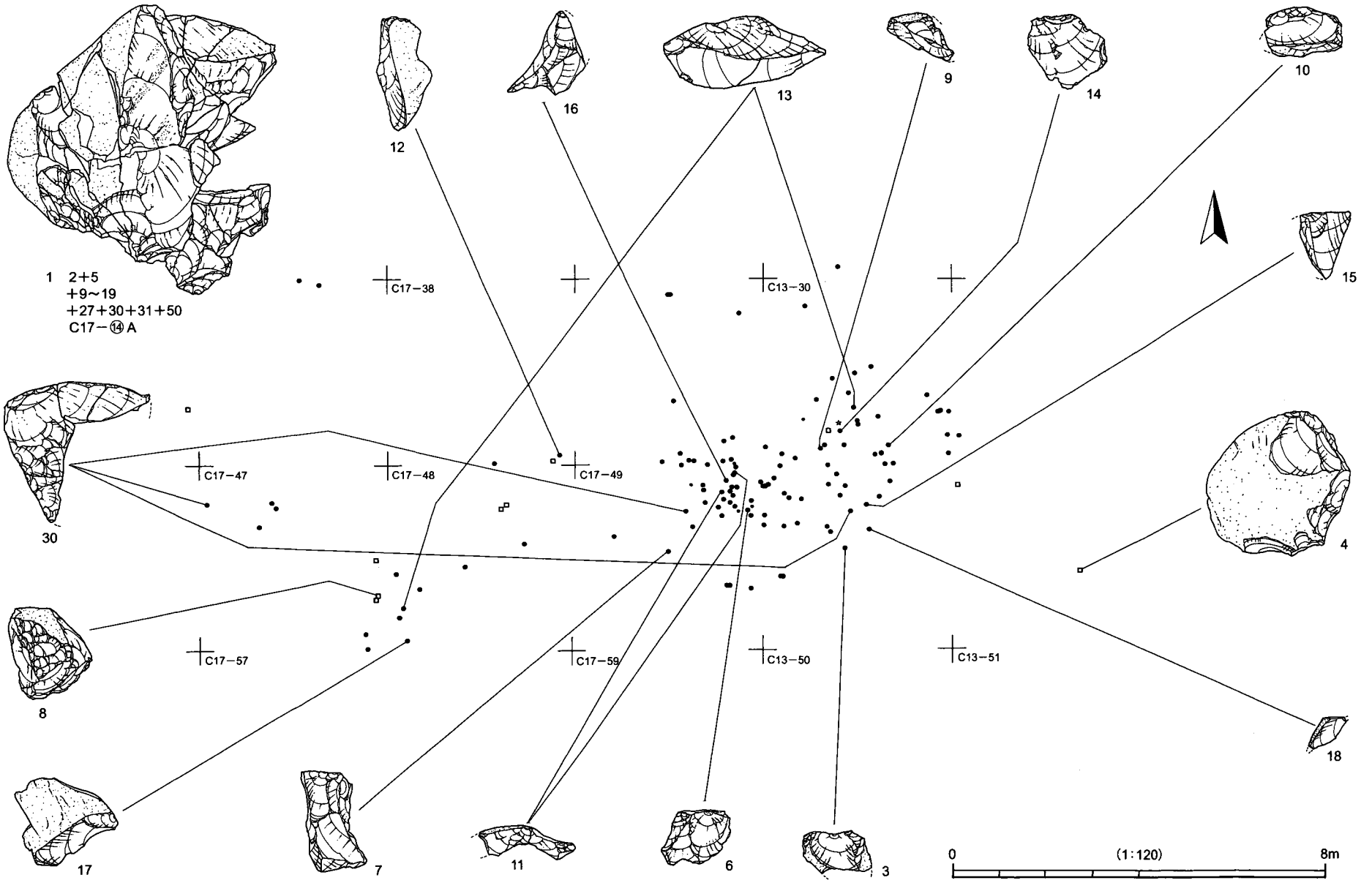
⑧：個体２による剥片剥離作業である。

⑨：個体５による剥片剥離作業である。

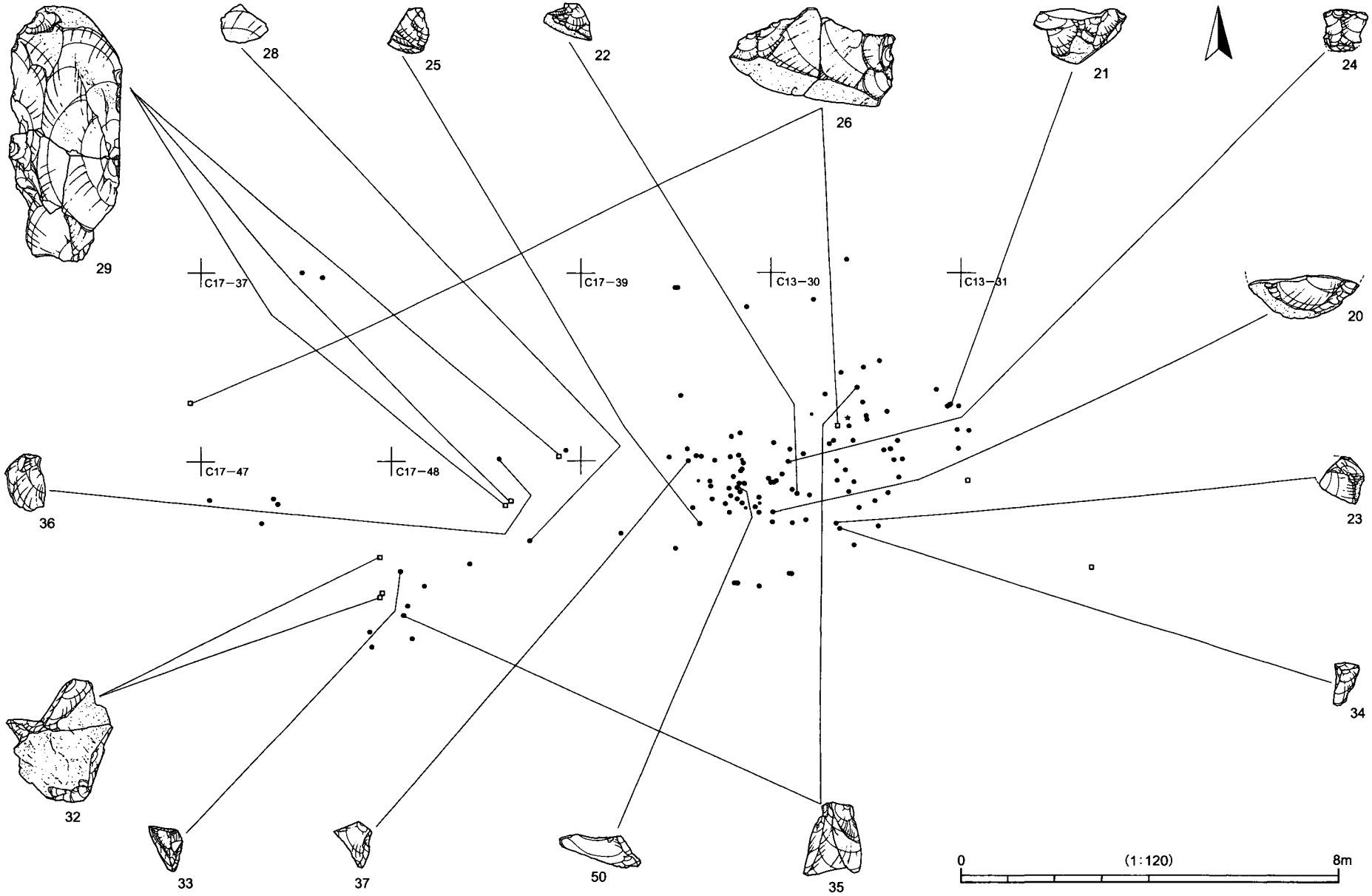
各個体ごとの作業手順は，以下のとおりである。

個体１（実測図２）は，剥片１点（３）と石核１点（４）の接合資料である。石核の素材は，表面が自然面，裏面が分割面の半球形の分割礫である。実測図２の裏面中央部に，分割面が残る。①：分割面を打面，上下右側面を作業面として，剥片を剥離する。その過程で３が剥離される。②：周囲の剥離面（①の作業面）を打面，分割面を作業面として，求心的な打点移動によって剥片を剥離し，作業を終了している。

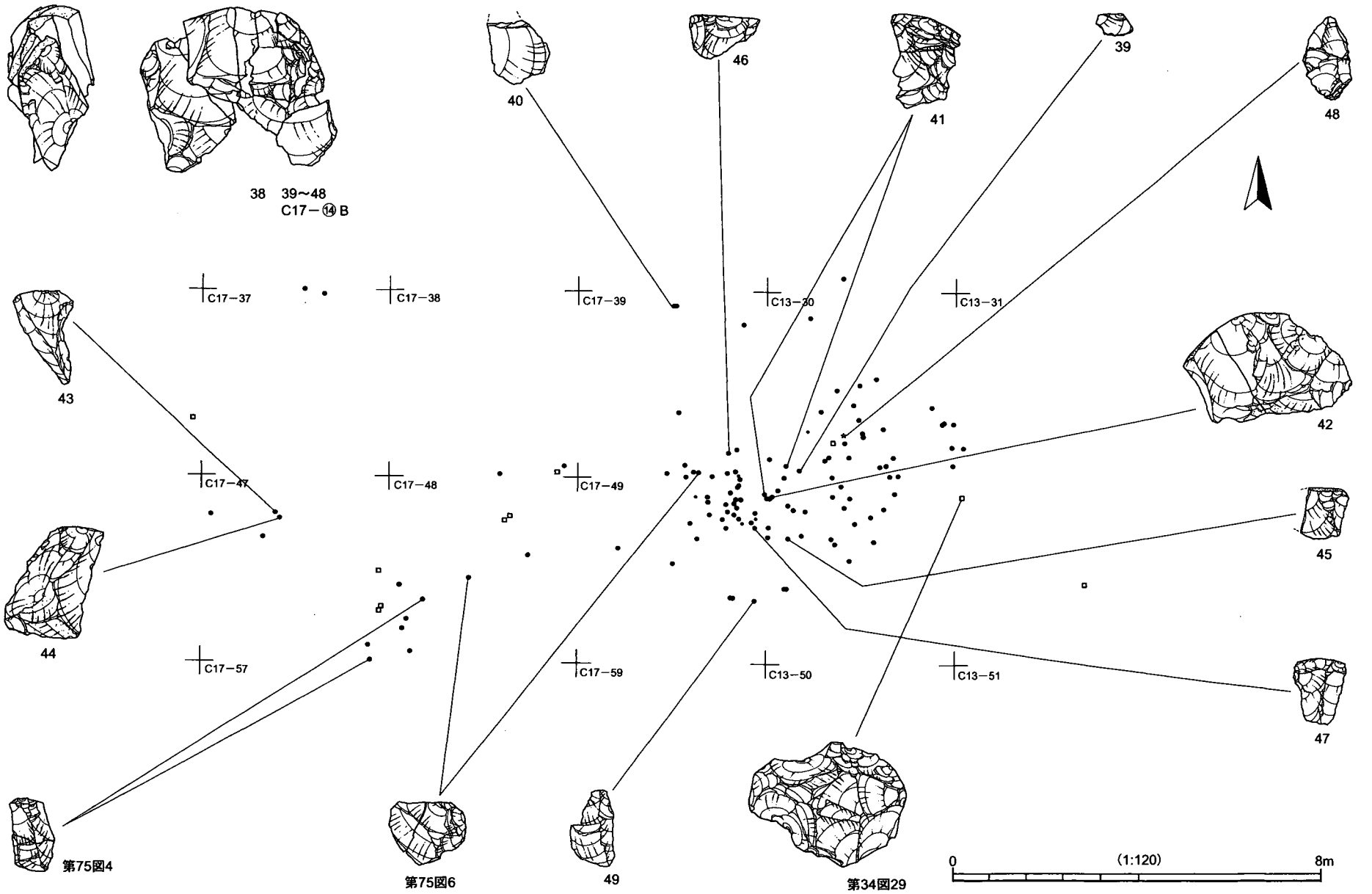
なお，剥片はC17-Aブロックに，石核はC13-Cブロックに分布する。後者のブロックはC17-⑭母岩が石核２点しか分布していないため，石核が持ち込まれたと考えられる。



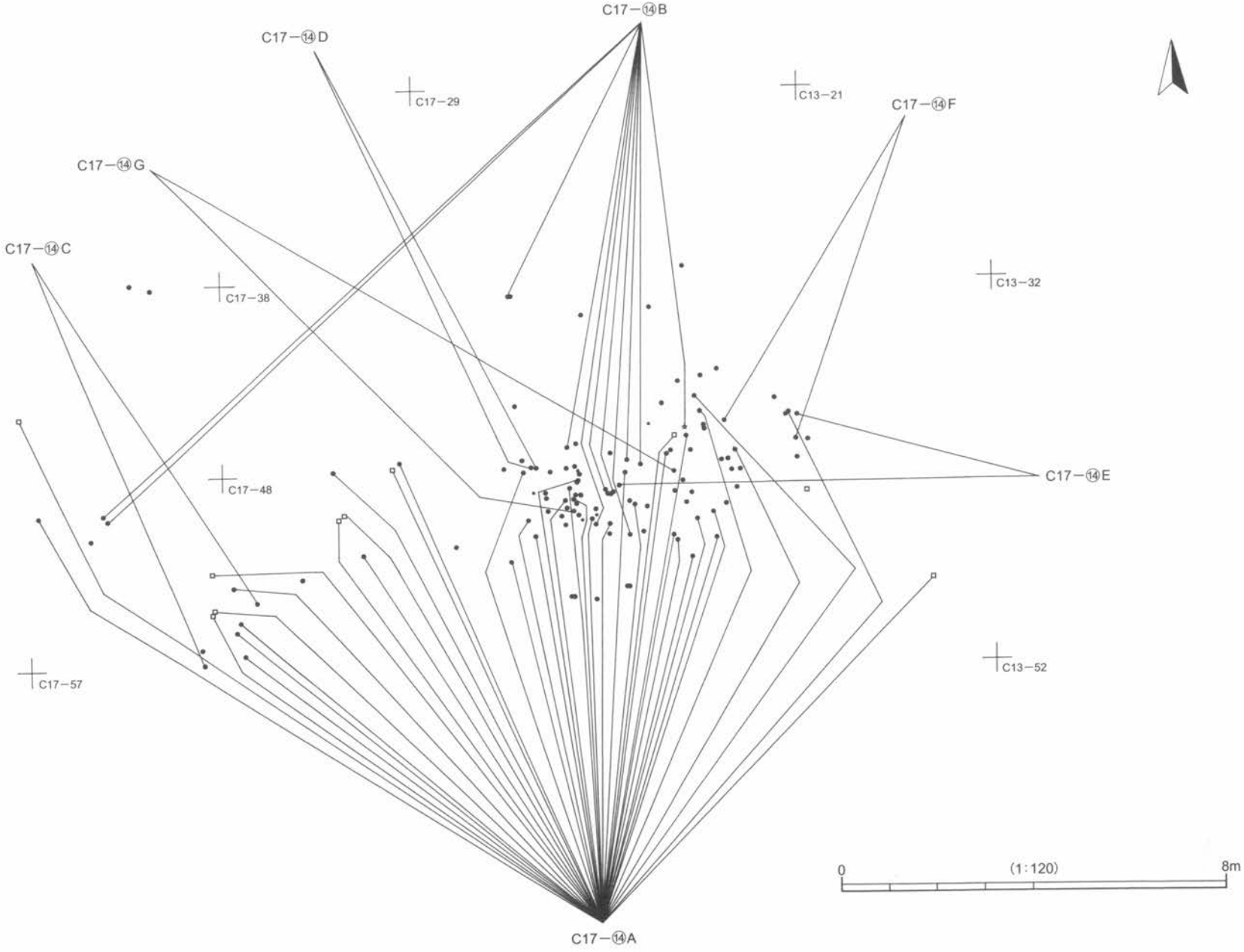
第117図　C17-⑭母岩分布図（1）



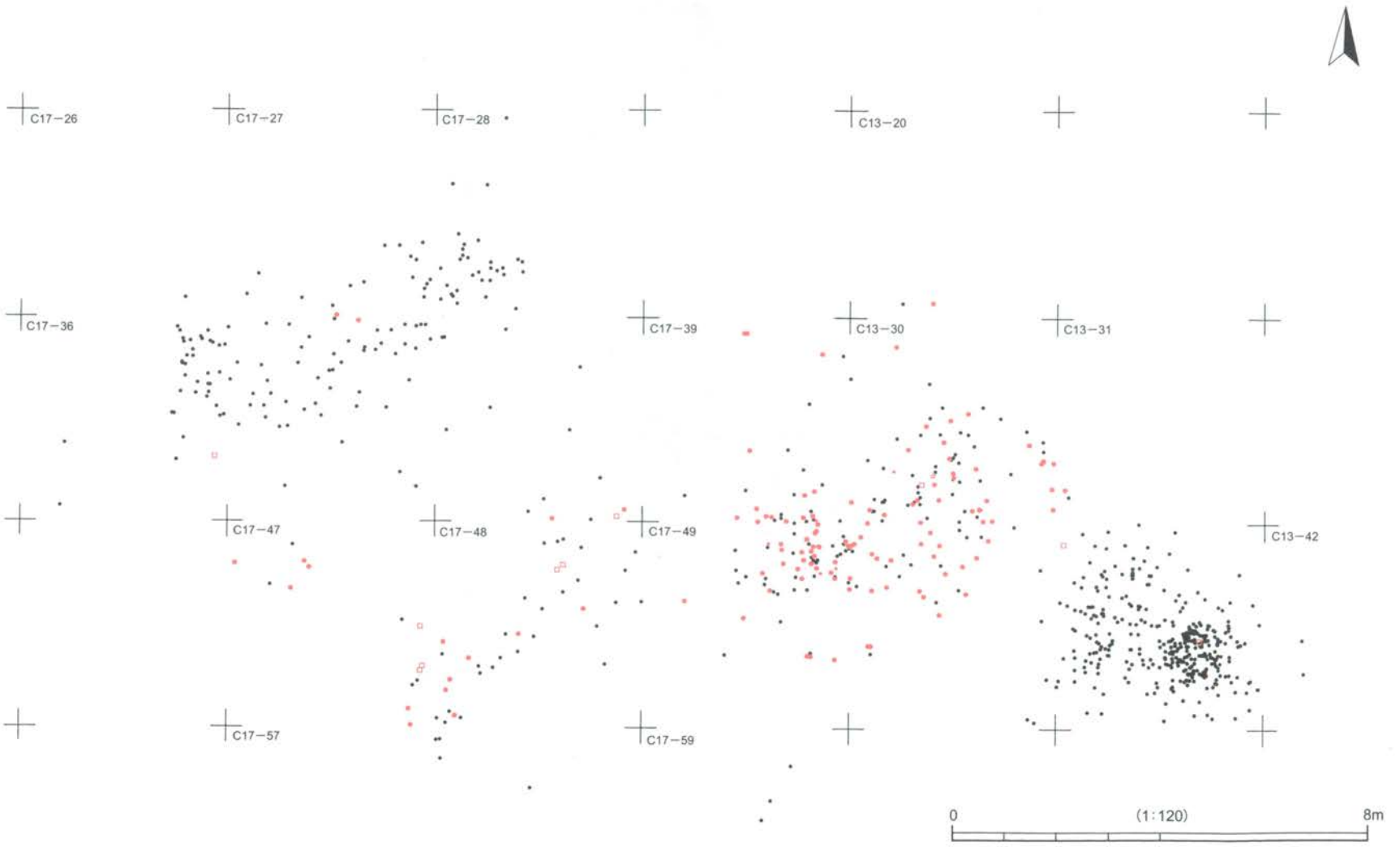
第118図　C17-⑭母岩分布図（2）



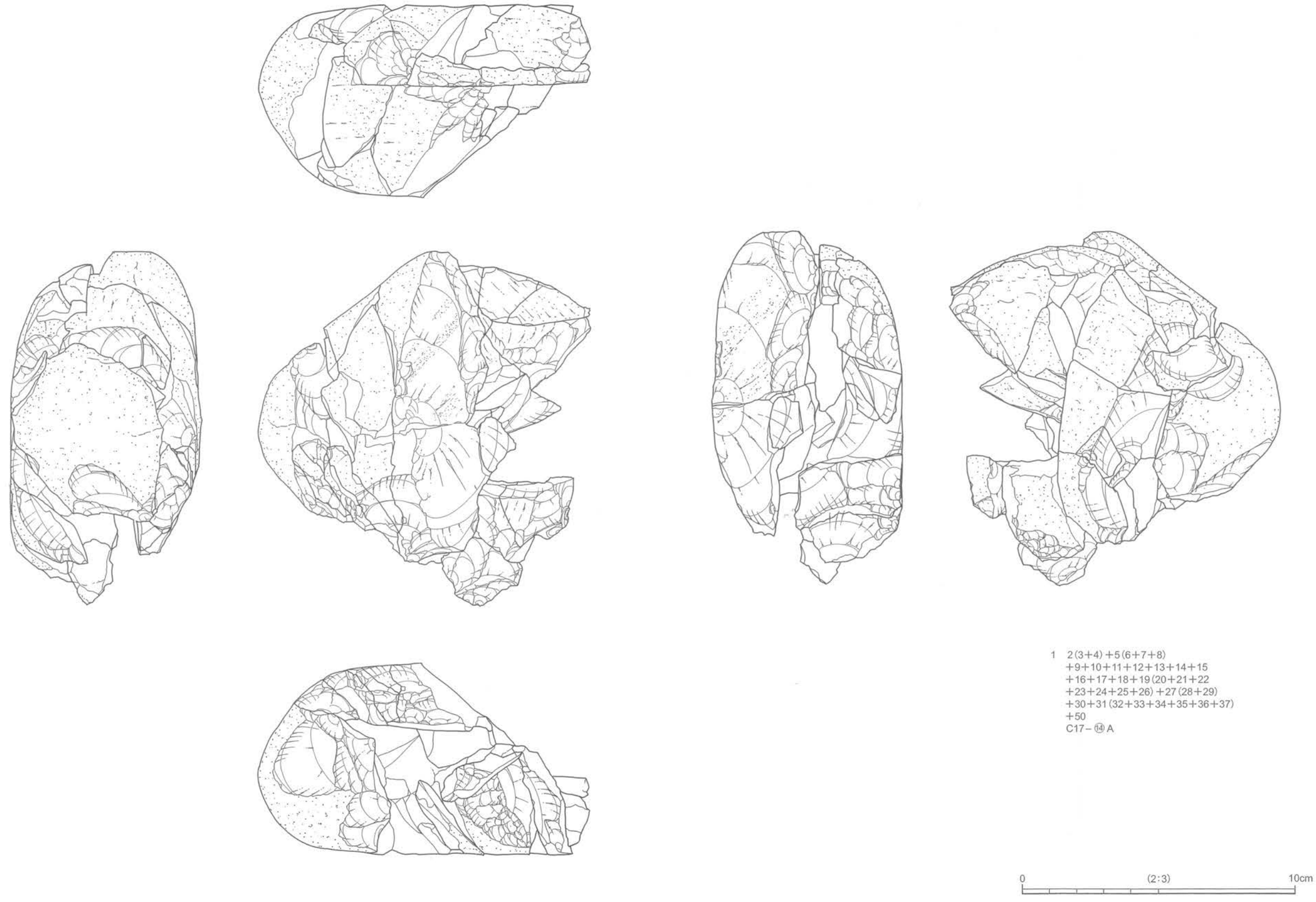
第119図　C17-⑭母岩分布図（3）



第120図　C17-⑭母岩分布図（4）



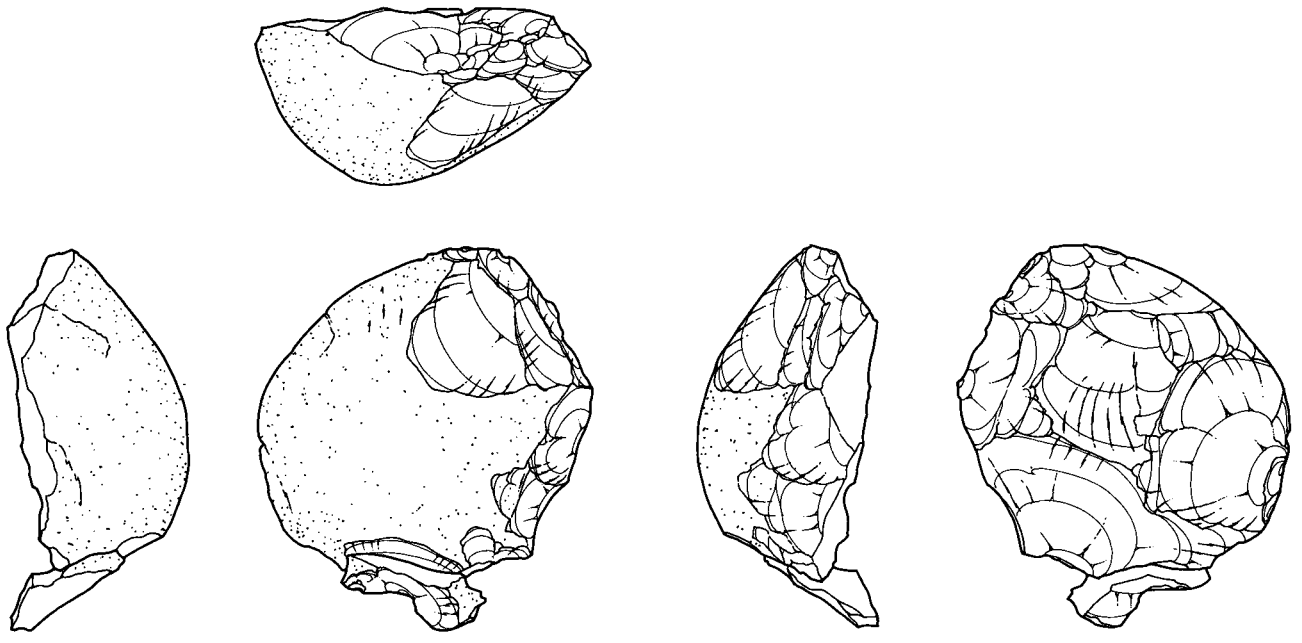
第121図　C17-⑭母岩分布図（5）



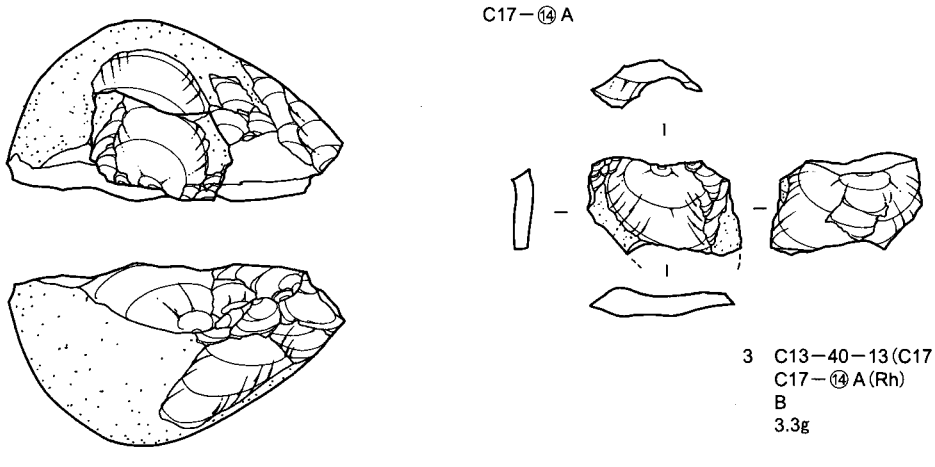
1　2(3+4)+5(6+7+8)
+9+10+11+12+13+14+15
+16+17+18+19(20+21+22
+23+24+25+26)+27(28+29)
+30+31(32+33+34+35+36+37)
+50
C17－⑭A

0　(2:3)　10cm

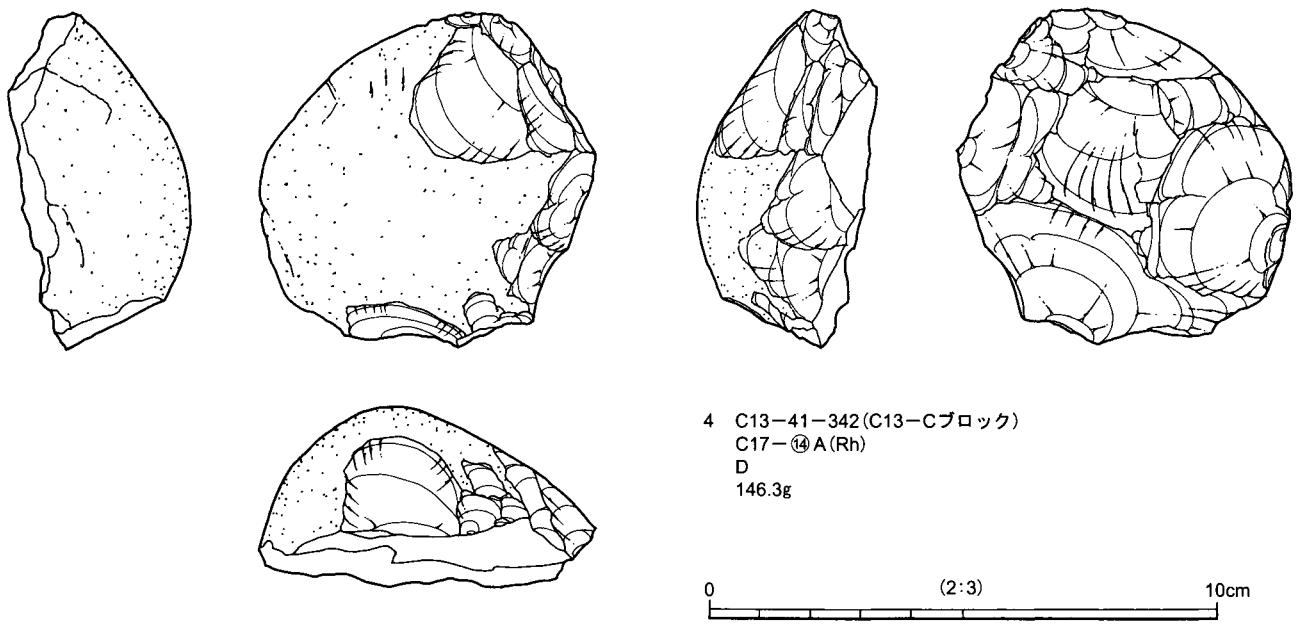
第122図　C17-⑭母岩実測図（1）



2 （個体1）3＋4
C17－⑭A



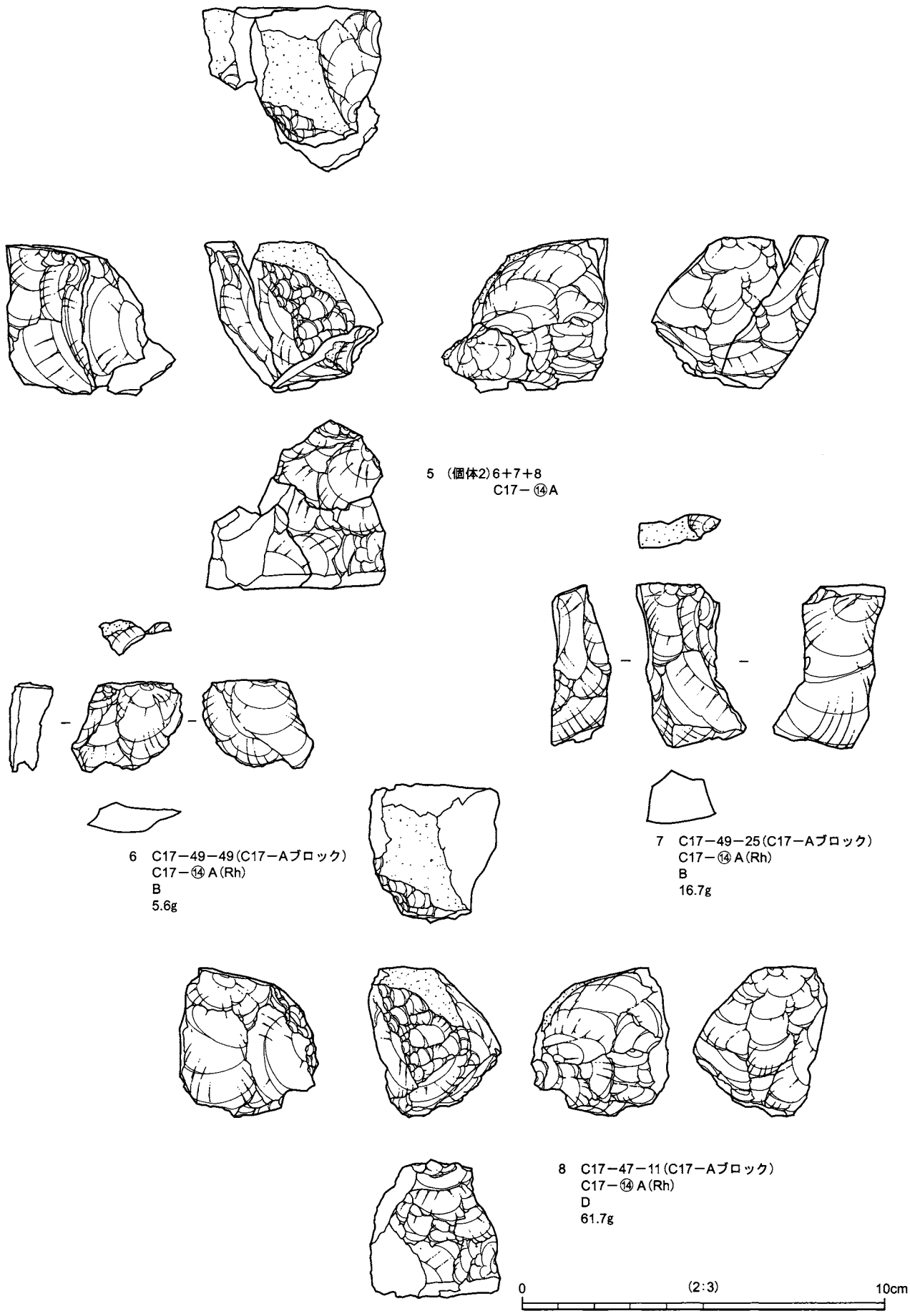
3 C13－40－13（C17－Aブロック）
C17－⑭A（Rh）
B
3.3g



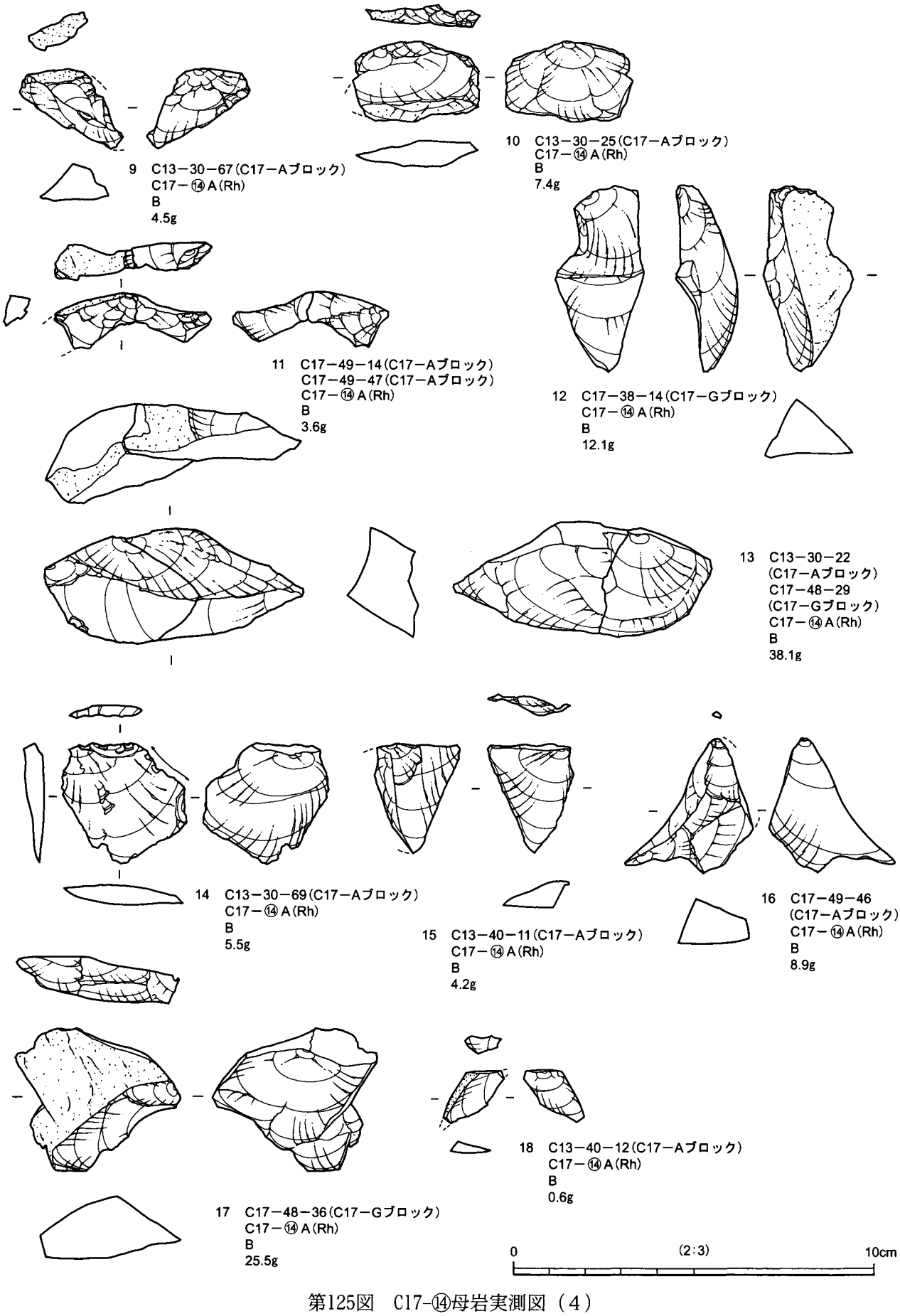
4 C13－41－342（C13－Cブロック）
C17－⑭A（Rh）
D
146.3g

0 (2:3) 10cm

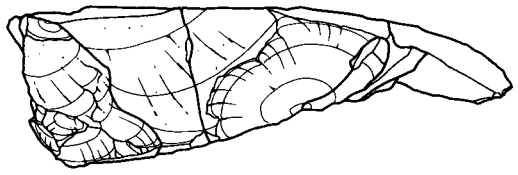
第123図　C17-⑭母岩実測図（２）

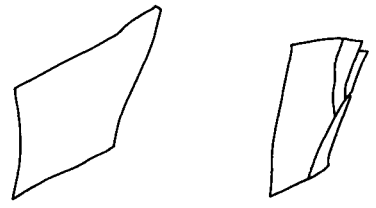


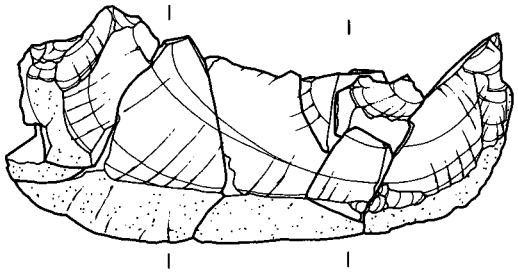
第124図　C17-⑭母岩実測図（３）

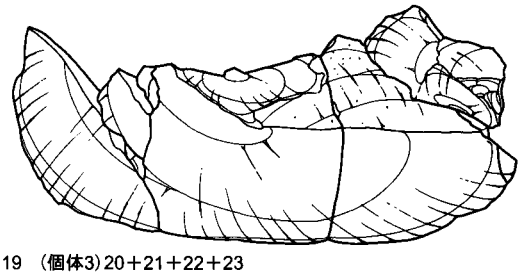


第125図　C17-⑭母岩実測図（4）

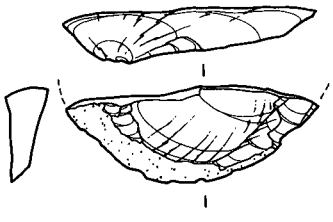


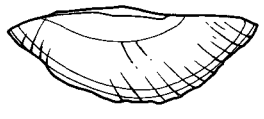




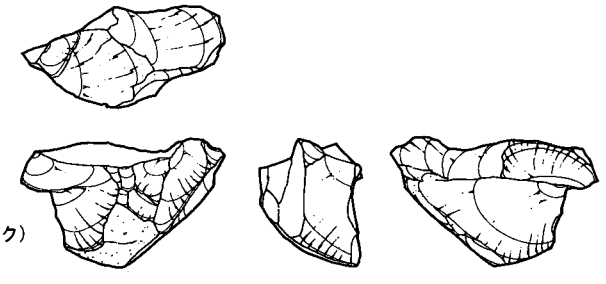


19 (個体3)20+21+22+23
+24+25+26
C17－⑭A

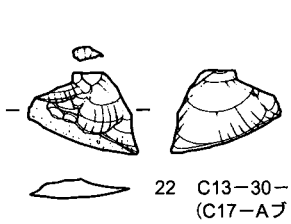




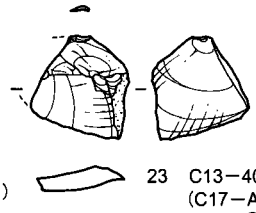
20 C13－40－20(C17－Aブロック)
C17－⑭A(Rh)
B
7.2g



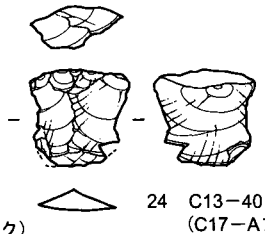
21 C13－40－23(C17－Aブロック)
C17－⑭A(Rh)
B
14.7g



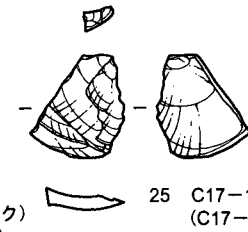
22 C13－30－59
(C17－Aブロック)
C17－⑭A(Rh)
B
1.2g



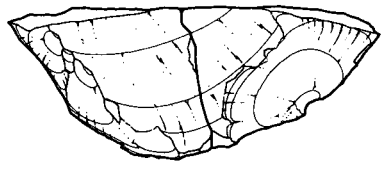
23 C13－40－30
(C17－Aブロック)
C17－⑭A(Rh)
B
1.7g

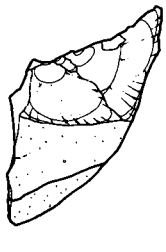


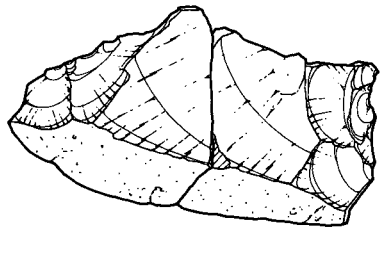
24 C13－40－40
(C17－Aブロック)
C17－⑭A(Rh)
B
1.9g

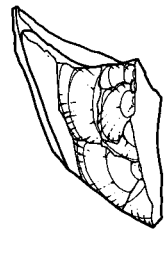


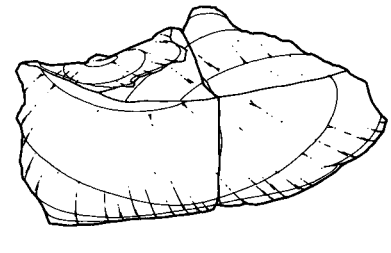
25 C17－14－23
(C17－Aブロック)
C17－⑭A(Rh)
B
1.2g



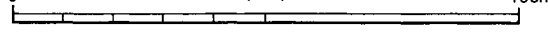




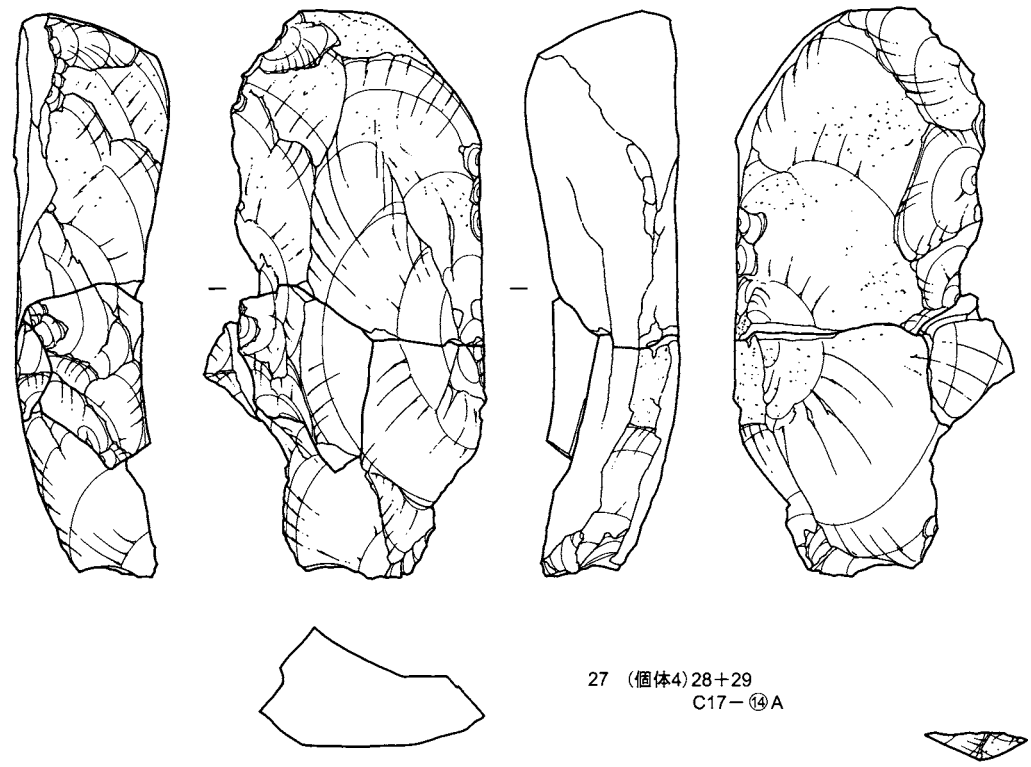




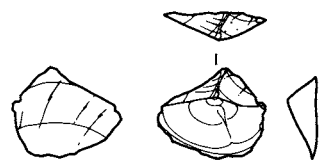
26 C13－30－36(C17－Aブロック)
C17－36－34(C17－Bブロック)
C17－⑭A(Rh)
D
66.1g



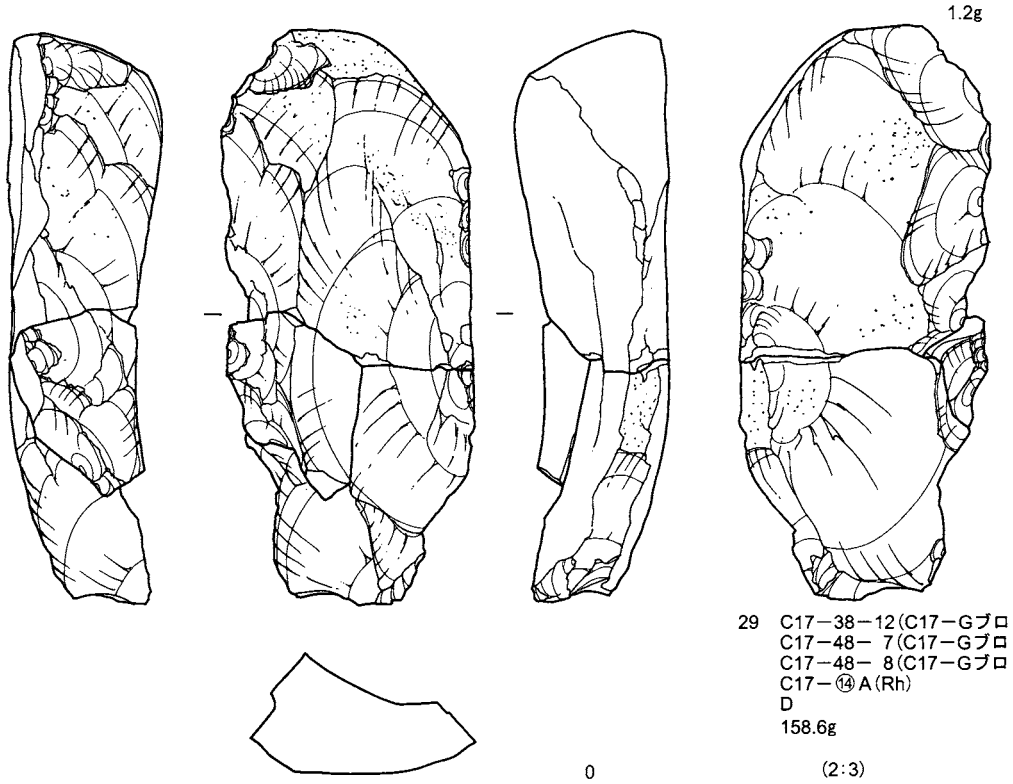
第126図　C17-⑭母岩実測図（５）



27 (個体4)28+29
C17－⑭A



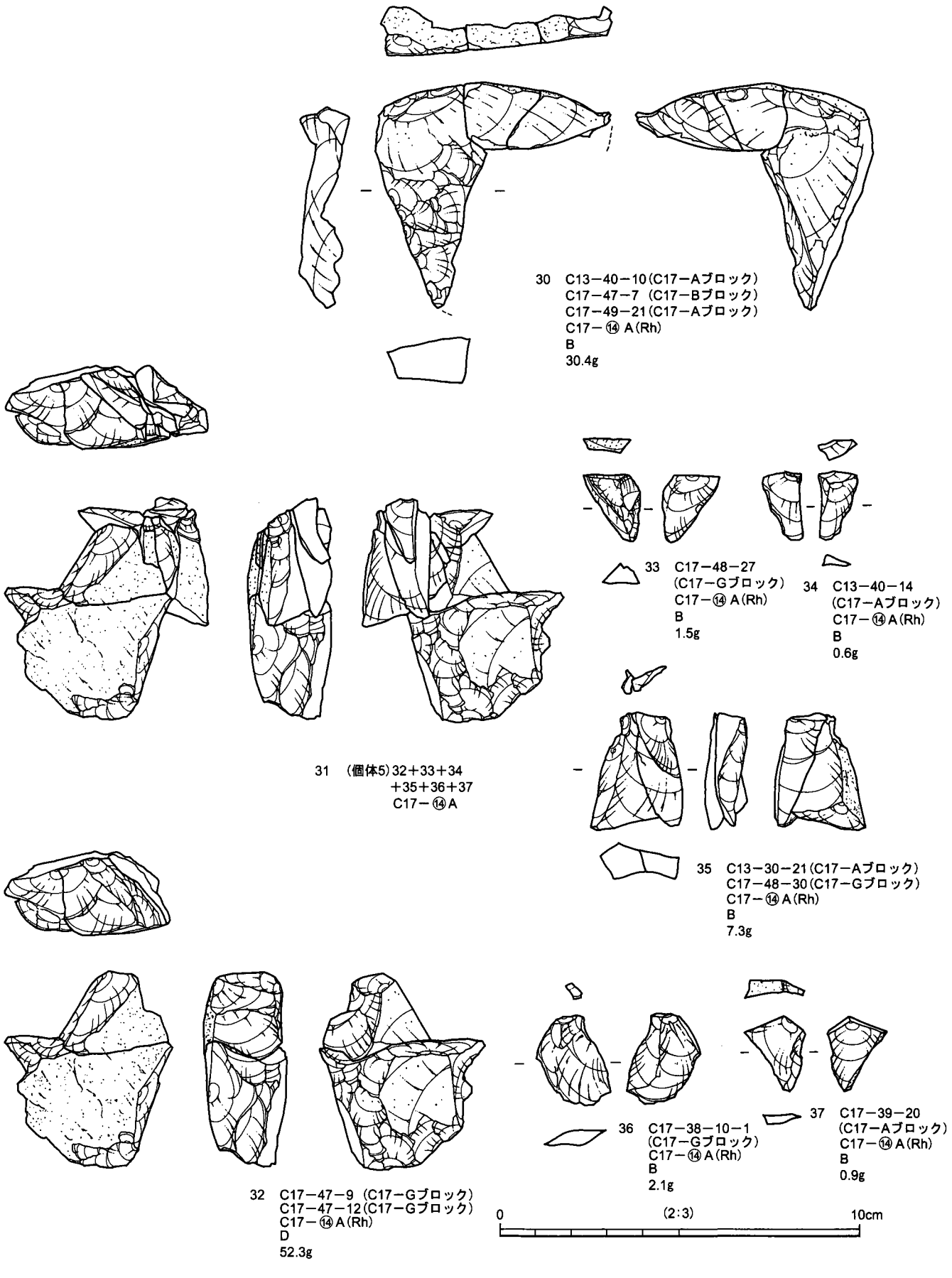
28 C17－48－13(C17－Gブロック)
C17－⑭A(Rh)
B
1.2g



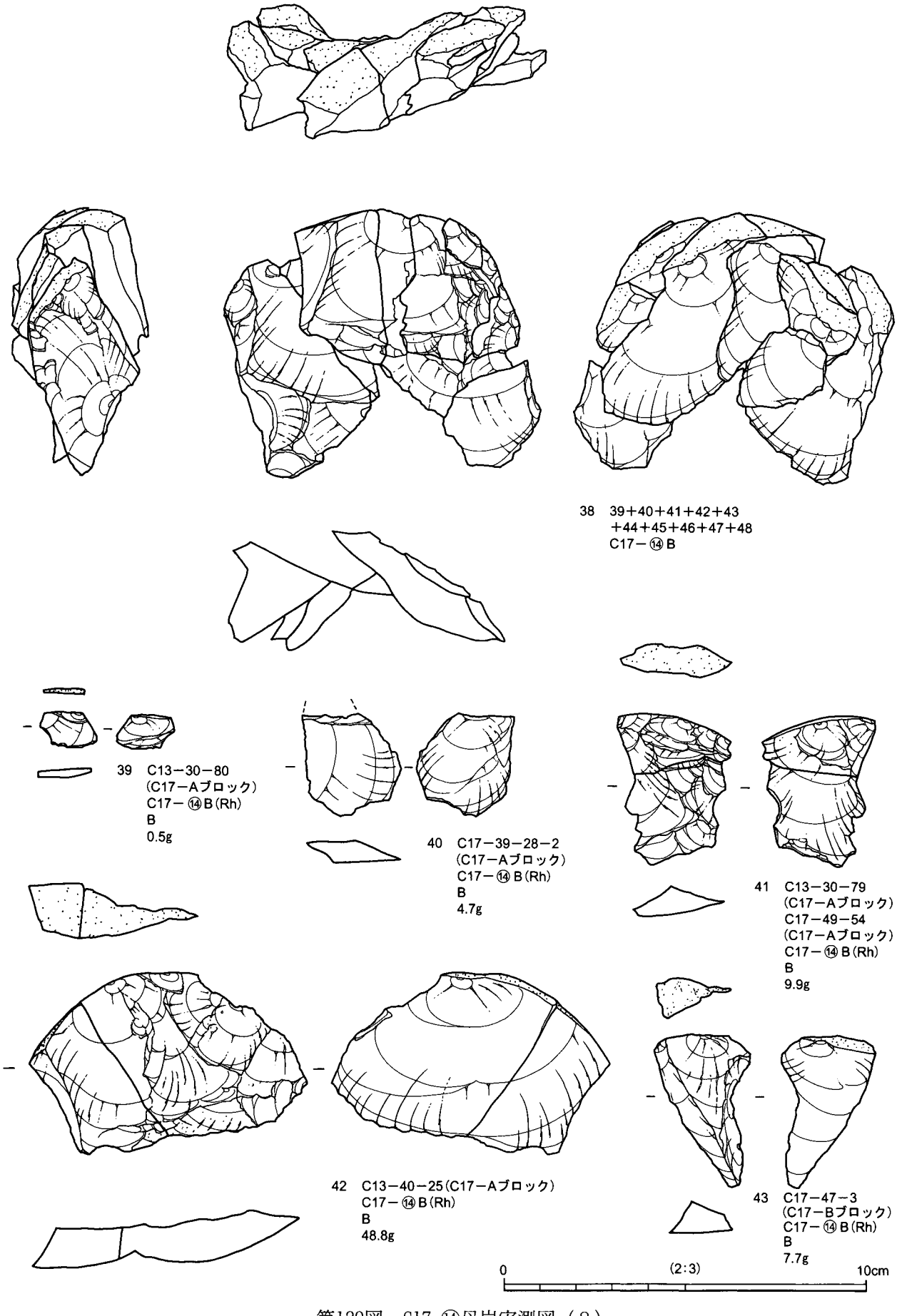
29 C17－38－12(C17－Gブロック)
C17－48－ 7(C17－Gブロック)
C17－48－ 8(C17－Gブロック)
C17－⑭A(Rh)
D
158.6g

0 (2:3) 10cm

第127図 C17-⑭母岩実測図（6）



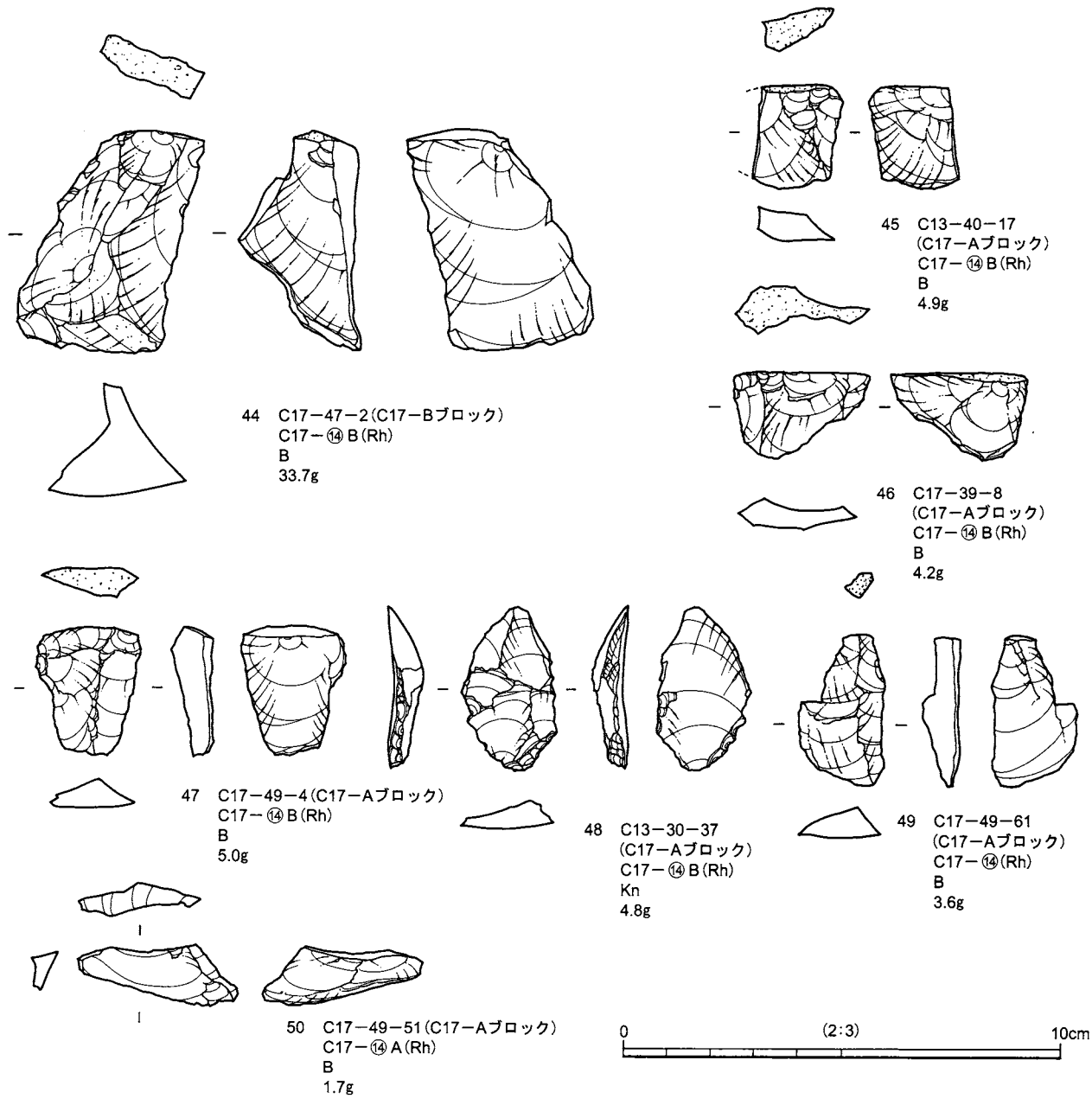
第128図　C17-⑭母岩実測図（7）



第129図　C17-⑭母岩実測図（8）

個体２（実測図５）は，剥片２点（６・７）と石核１点（８）の接合資料である。拳の半分ほどの分割礫を本体から分離した後（分割面は下面に小さく残る），①：実測図５の正面下部から上面まで緩やかに続く自然面を打面，下面及び左側面を作業面として，不定型の剥片を剥離する（その過程で，６→７の順に接合資料が剥離される）。②：前作業面の下面及び左側面を打面，正面から右側面にかけてを作業面として剥片を剥離し，作業を終了している。なお，本個体はすべてC17-Ａブロックに分布している。

個体３（実測図19）は，剥片６点（20～25）と石核２点（１個体；26）の接合資料である。石核の素材は厚手の剥片で，①：実測図19の表面右端を折り取り，打面を作る。折り取られた破片が20である。②：19の表面右端で23→24→25の順に，小型の剥片を剥離する。③：19の左端で剥片を剥離する（21→22）。④：石核が割れ，作業を終了している。なお，本個体は剥片５点，石核１点がC17-Ａブロックに，剥片１点と石核１点がC17-Ｂブロックに分布する。



第130図　C17-⑭母岩実測図（９）

個体４（実測図27）は，剥片１点（28），石核３点（接合して１個体；29）の接合資料である。大型厚手の剥片を石核の素材とし，裏面の末端で小型不定型の剥片を生産している（実測図29の裏面右側縁）。石核は三つに割れているが，このうち中央に接合する最も小型の破片は，被熱により赤化している。なお，本個体はすべてC17-Gブロックに分布する。

個体５（実測図31）は，剥片６点（５個体33～37）と石核２点（１個体；32）の接合資料である。中型の分割礫を石核の素材とする。作業面は，自然面と節理面に挟まれた小口部分をあてている。①：実測図31の裏面で，上位から34→35と小型不定型の剥片を剥離する。②：石核が上下二つに割れる。③：上位から36→37と剥離し，打点を大きく変えて33を剥離する。なお，本個体は剥片４点がC17-Aブロックに，剥片２点と石核２点がC17-Gブロックに分布する。

接合資料B（第129・130図）　38は，ナイフ形石器１点（48）と剥片10点（９個体；39～47）の接合資料である。ブロックごとでは，C17-Aブロックにナイフ形石器１点，剥片８点，C17-Bブロックに剥片２点が分布する。

剥離手順は，緩やかに湾曲する自然面を打面として，打点を左右に移動させながら，39→40→41→42→43→44→45→46→47→48の順に剥離している。なお，43と44はC17-Bブロックに，それ以外はC17-Aブロックに分布する。

第５節　第５文化層

第５文化層は，立川ローム層Ⅵ層を中心に包含される石器群で，C９-A，C16-A，C58A-A，C61-D・Eブロックの合計５か所のブロックが該当する。

１　C９-Aブロック（第131～133図，第35・36表）

１）ブロックの概要

C９-Aブロックは，調査範囲東南端のC９-67・76・77グリッドに位置する。ブロックの立地は，南西に向かって開く谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点までの距離は５ｍである。

ブロックの規模と形状は，直径３ｍの範囲に４点の石器が散漫に分布する。出土層位はⅥ層及びⅦ層で，北に下って包含されている（第131・132図）。

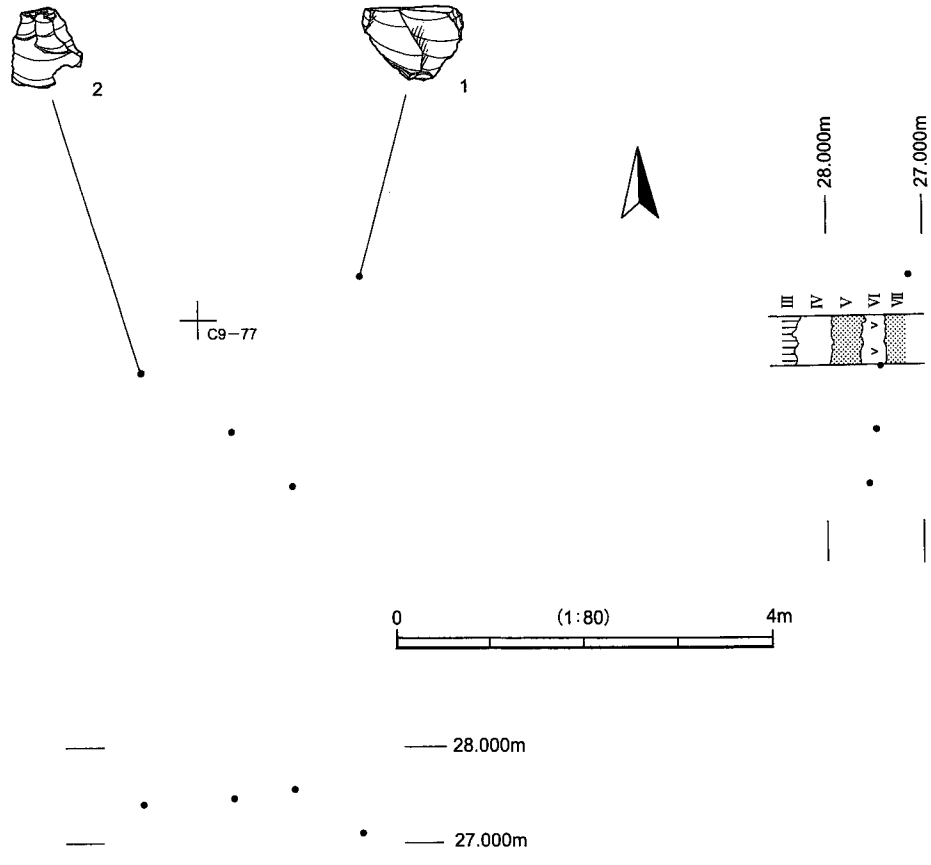
ブロックは剥片４点で構成され，石材は頁岩１点，チャート２点，玉髄１点である。

第35表　C９-Aブロック母岩別石器組成表

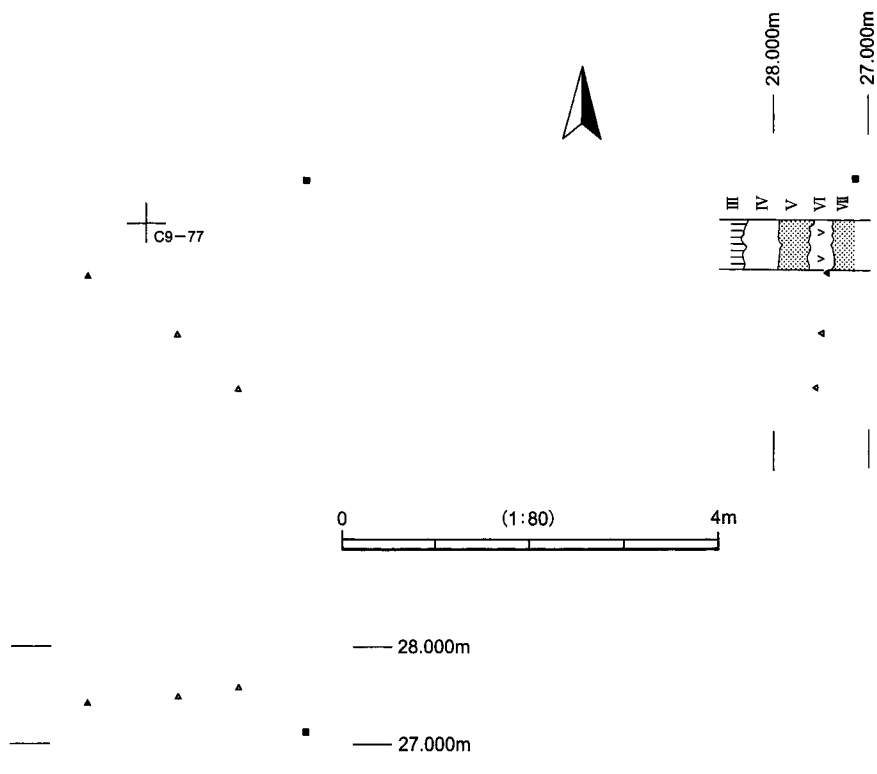
母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C9-①(Ag)																			1					1
C9-②(Sh)																			1					1
C9-③(Ch)																			2					2
合　計																			4					4

第36表　C９-Aブロック石材別石器組成表

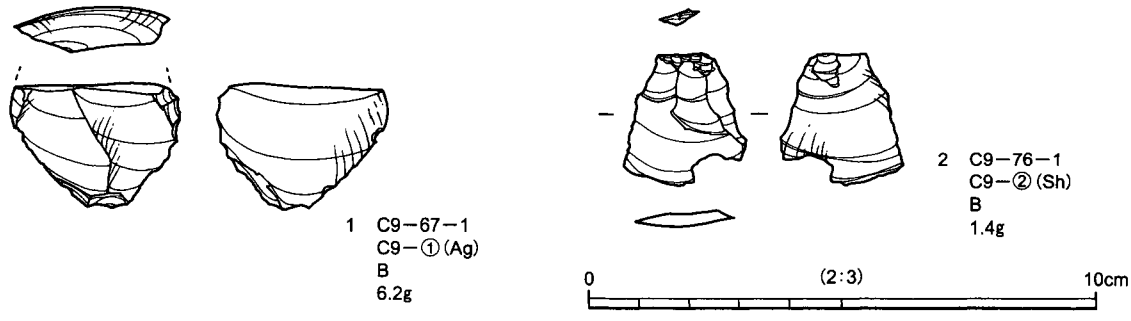
石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
頁岩(Sh)																			1					1
チャート(Ch)																			2					2
メノウ(Ag)																			1					1
合　計																			4					4



第131図　C9-Aブロック出土遺物分布図（1）　−石器別分布図−



第132図　C9-Aブロック出土遺物分布図（2）　−石材別分布図−



第133図　C9-Aブロック出土遺物実測図

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは3母岩を識別した。内訳は，頁岩1母岩（C9-②），チャート1母岩（C9-③），玉髄1母岩（C9-①）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（4/4点）である。

・C9-①：黄色みがかった灰色の地に暗褐色の縞が平行して入る玉髄である。剥片1点（6.2g）の単独資料である。

・C9-②：暗褐色で硬質緻密な東北産の頁岩である。剥片1点（1.4g）の単独資料である。

・C9-③：自然面と節理面は黄褐色，内部は青灰色の良質なチャートである。石器群の内訳は，小型の剥片2点（合計3.7g）である。

3）出土遺物（第133図）

1・2とも不定型の剥片である。表面は，いずれも裏面と同一方向の剥離面で構成されている。

2　C16-Aブロック（第134〜144図，第37・38表）

1）ブロックの概要

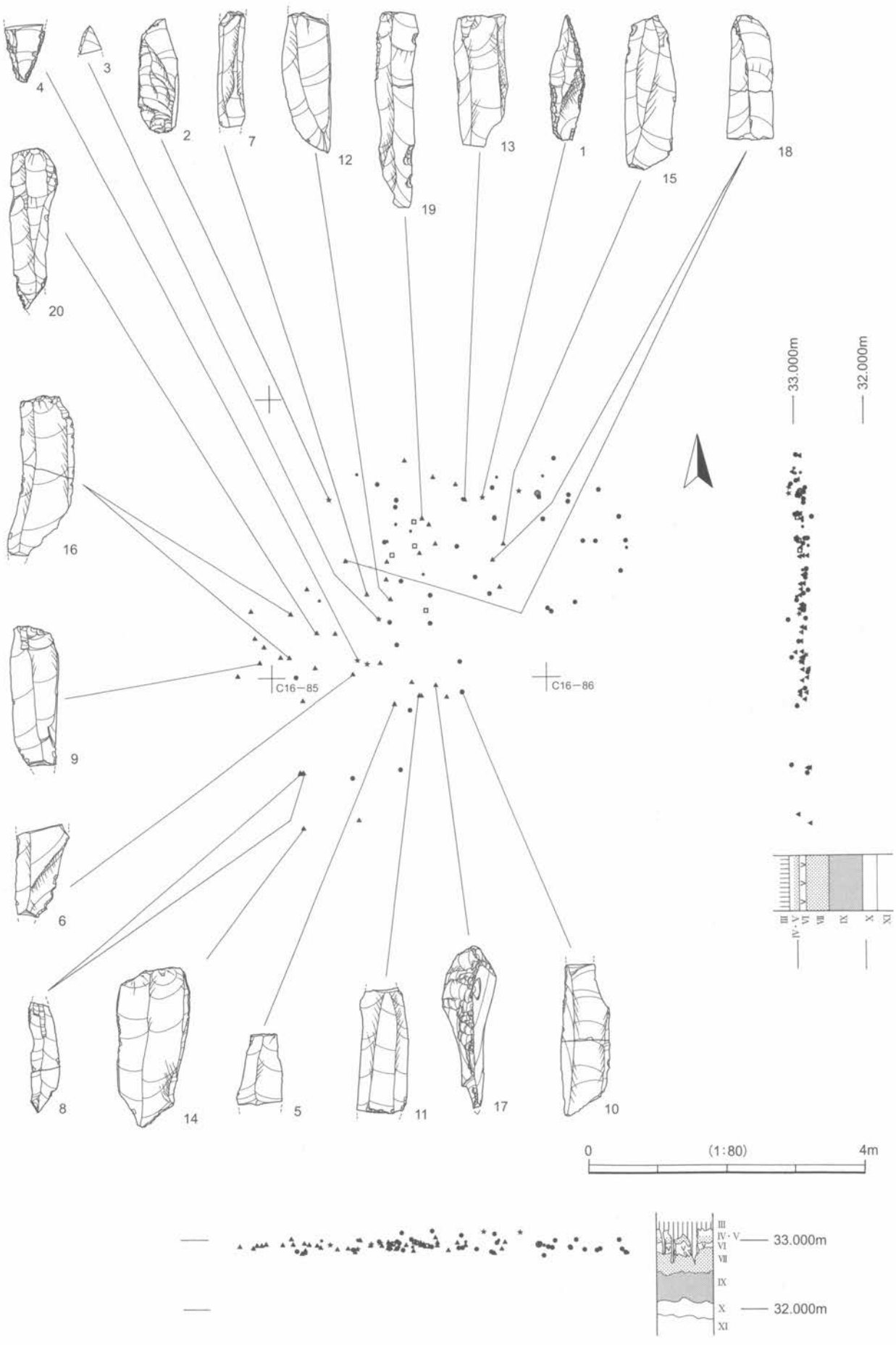
C16-Aブロックは，調査範囲東側のC16-74・75・76・85グリッドに位置する。ブロックの立地は，南西に開く谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点までの距離は26mほどである。

ブロックの規模と形状は，長軸7m，短軸4mの範囲に96点の石器が分布するが，二つの中規模なブロックが接しているようにも見える。出土層位はVI層を中心としており，各石器は40cmほどの高低差をもって，水平に包含されている（第134〜137図）。

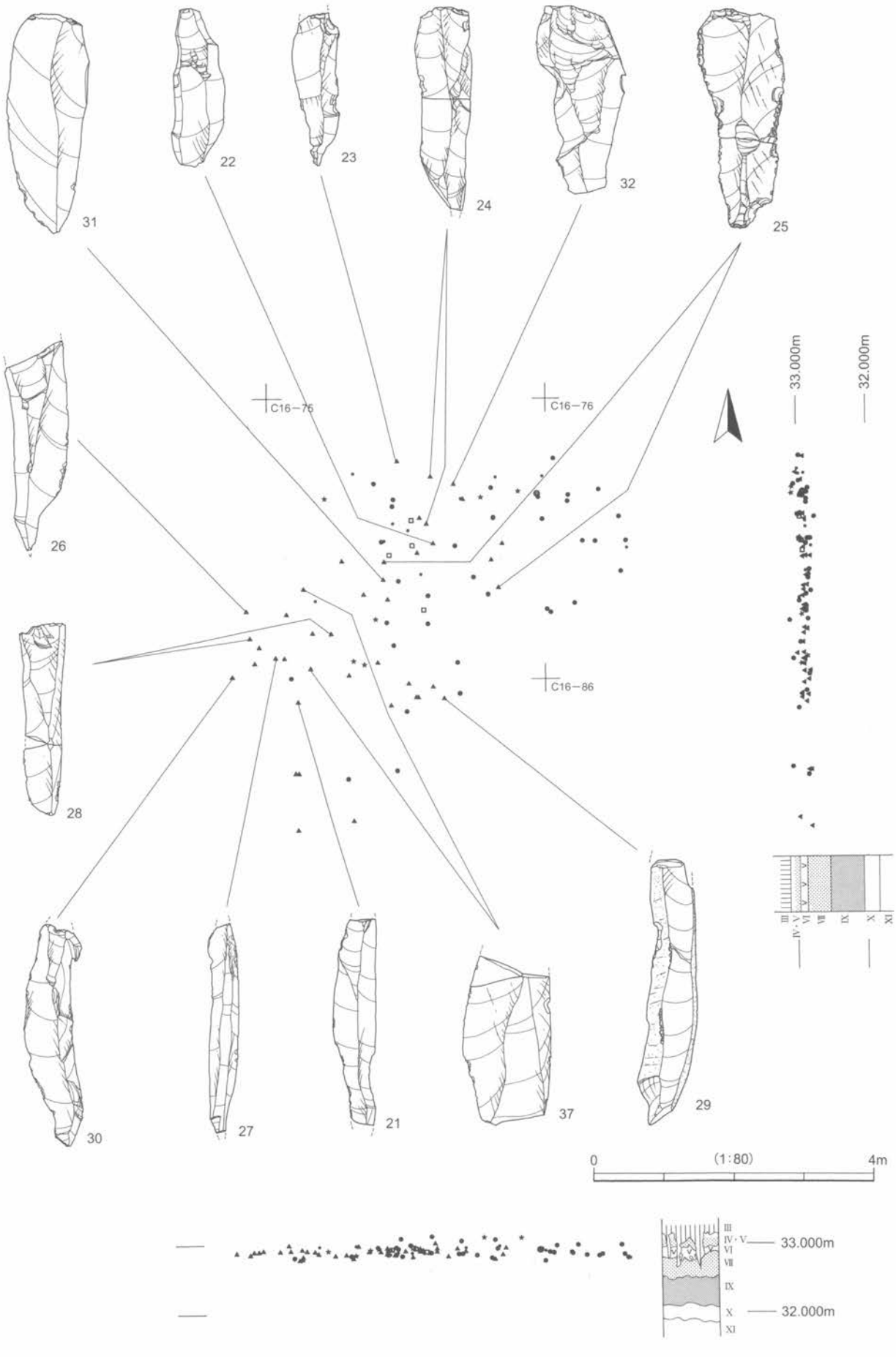
ブロックは，ナイフ形石器6点，掻器1点，石刃41点（33個体），剥片34点，砕片10点，石核4点（3個体）の合計96点（87個体）で構成される。石材は，黒曜石27点，頁岩69点である。

石材別の分布状況を見ると，黒曜石はブロックの北半に偏って，長軸4m，短軸2.5mの範囲に分布する。いっぽう，頁岩は長軸6m，短軸4mの範囲に分布し，黒曜石の分布域とは部分的に重なる（第137図）。この点から，形成時期の異なる黒曜石のブロックと頁岩のブロックが，たまたま同一空間に営まれたと見ることができるかも知れない。

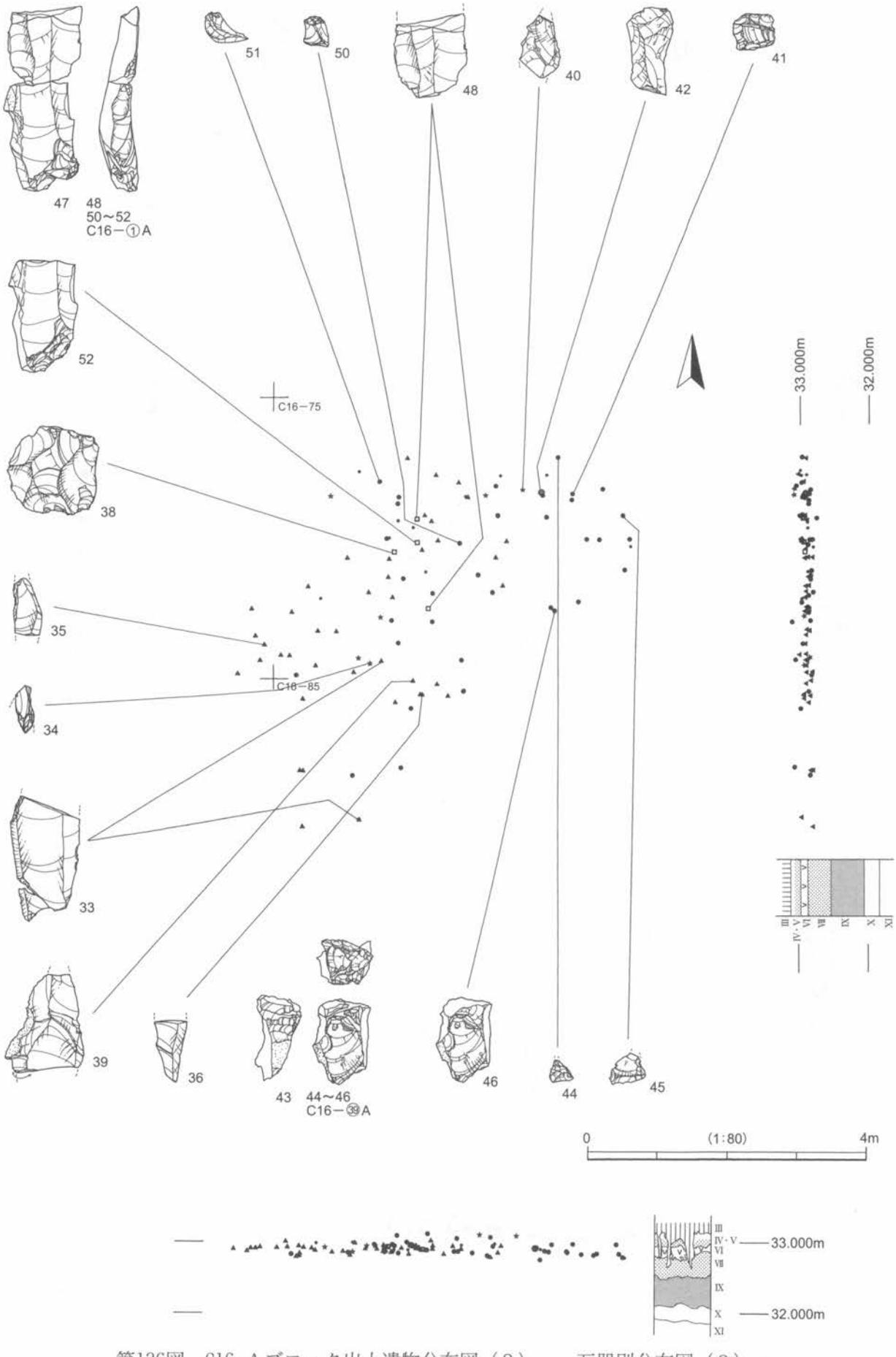
つぎに，石器別分布では，ブロック北半に剥片や砕片が多い傾向がある（第134図）。これは，おもに黒曜石が石器製作作業に関わる石器群で，頁岩は石刃の搬入品が大半を占めることに関連する。しかし，ブ



第134図　C16-Aブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図（1）－



第135図　C16-Aブロック出土遺物分布図（2）　－石器別分布図（2）－



第136図　C16-Aブロック出土遺物分布図（3）　－石器別分布図（3）－

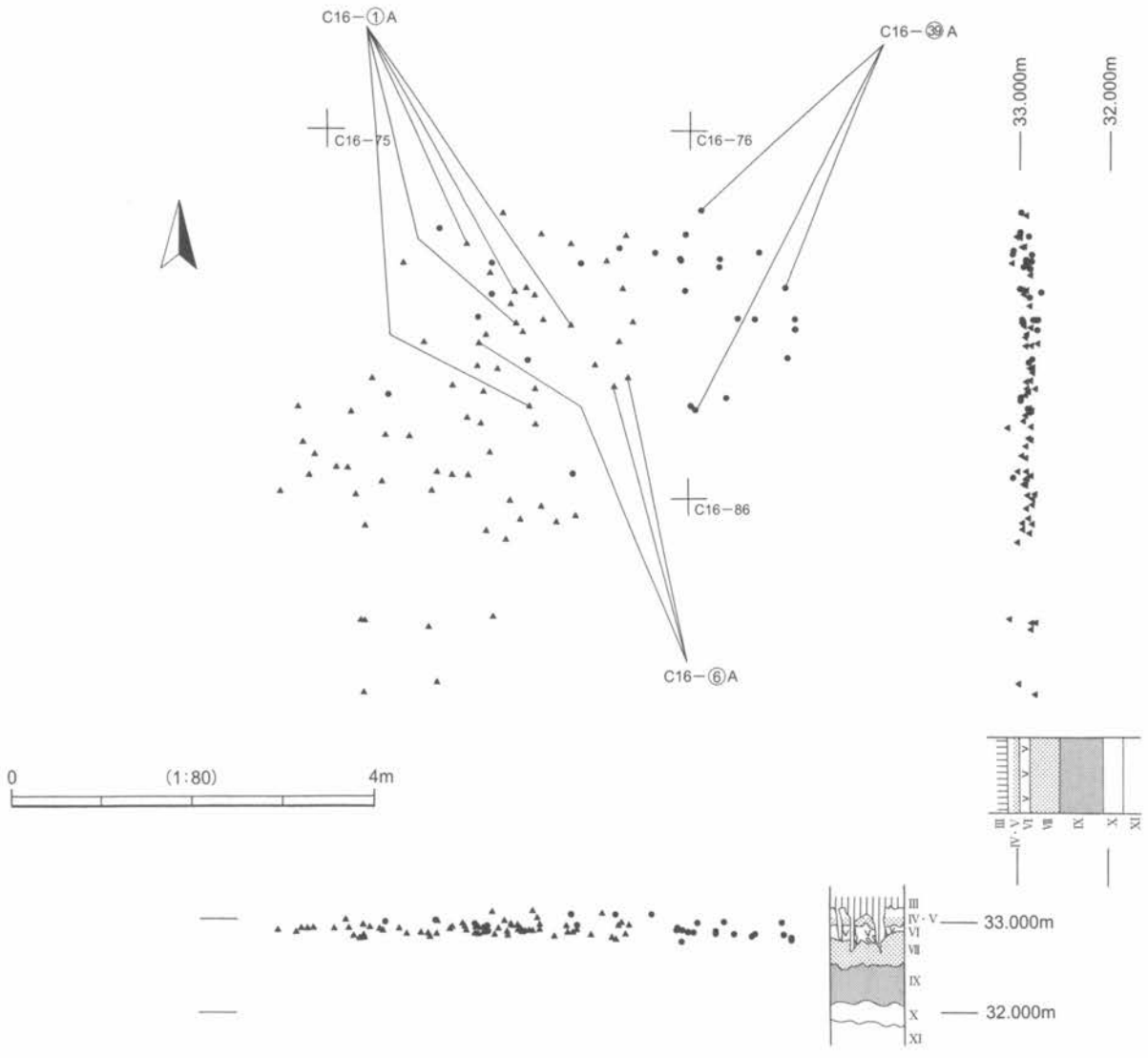
ロック内では，搬入された石刃から小型の剥片を生産する作業もわずかながら行われており，これに関連する資料はブロック北半に偏って分布する。両石材とも，石器製作作業を行った空間がブロック北半に偏っており，石器の垂直分布についても両石材に上下の偏りが見られないことから，本ブロックを単独のブロックとして扱うこととした。

2）母岩の特徴と内容

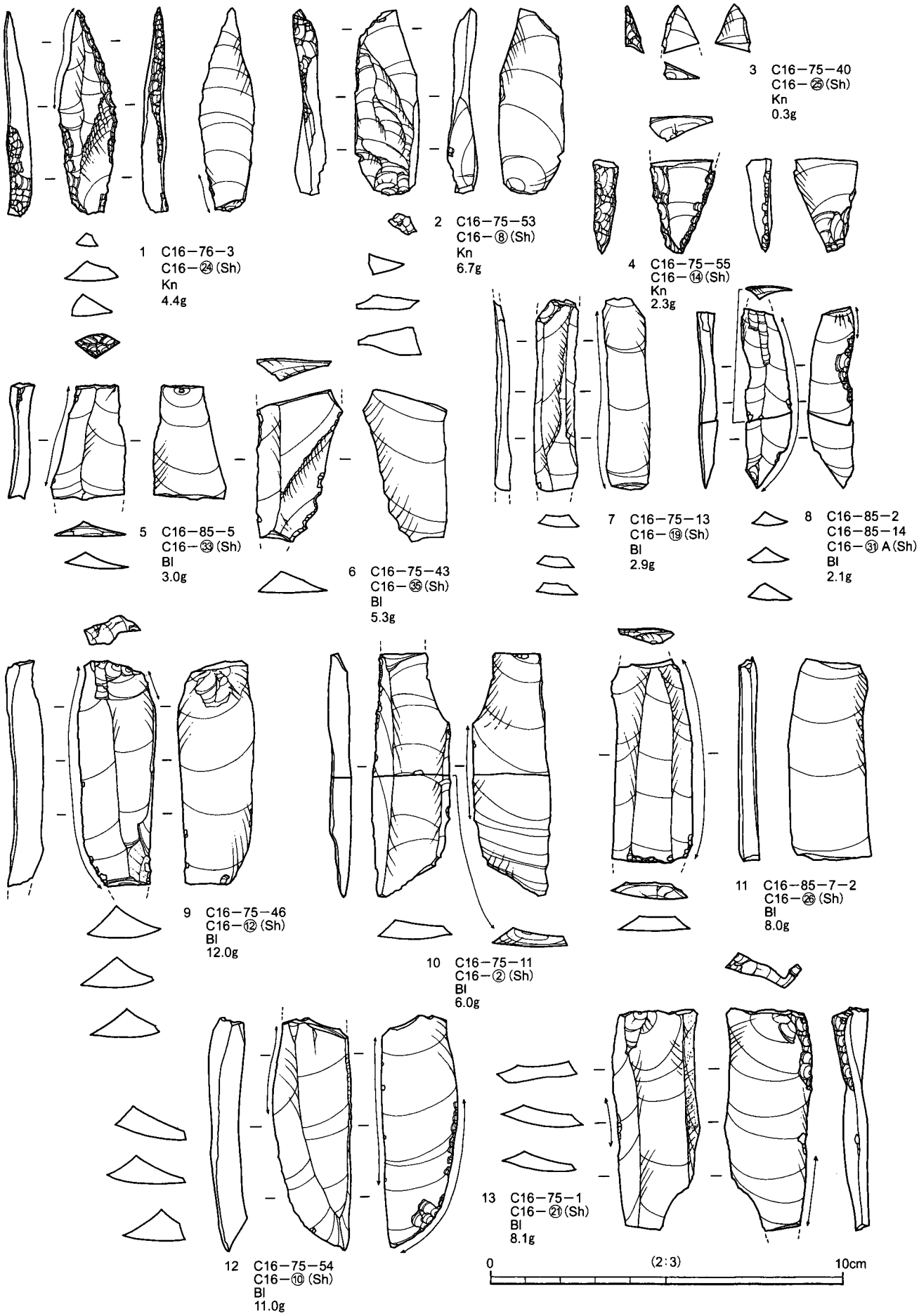
本ブロックでは40母岩を識別した。内訳は，黒曜石１母岩（C16-㊴），頁岩39母岩（C16-①～㊳・㊵）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は66％（63/96点）である。

・C16-①：黄褐色の地に暗褐色の斑が入った硬質緻密な東北産頁岩である。光沢に富み，かなり珪化している。石器群の内訳は，剥片６点，砕片１点，石核３点（２個体）の合計10点（42.1ｇ）である。接合資料は，剥片２点（１個体），石核３点(２個体）で構成される（合計40.3ｇ)。もともとは，大型の石刃状態で搬入され，それが石核に転化されたものである。ブロックの中心に分布する。

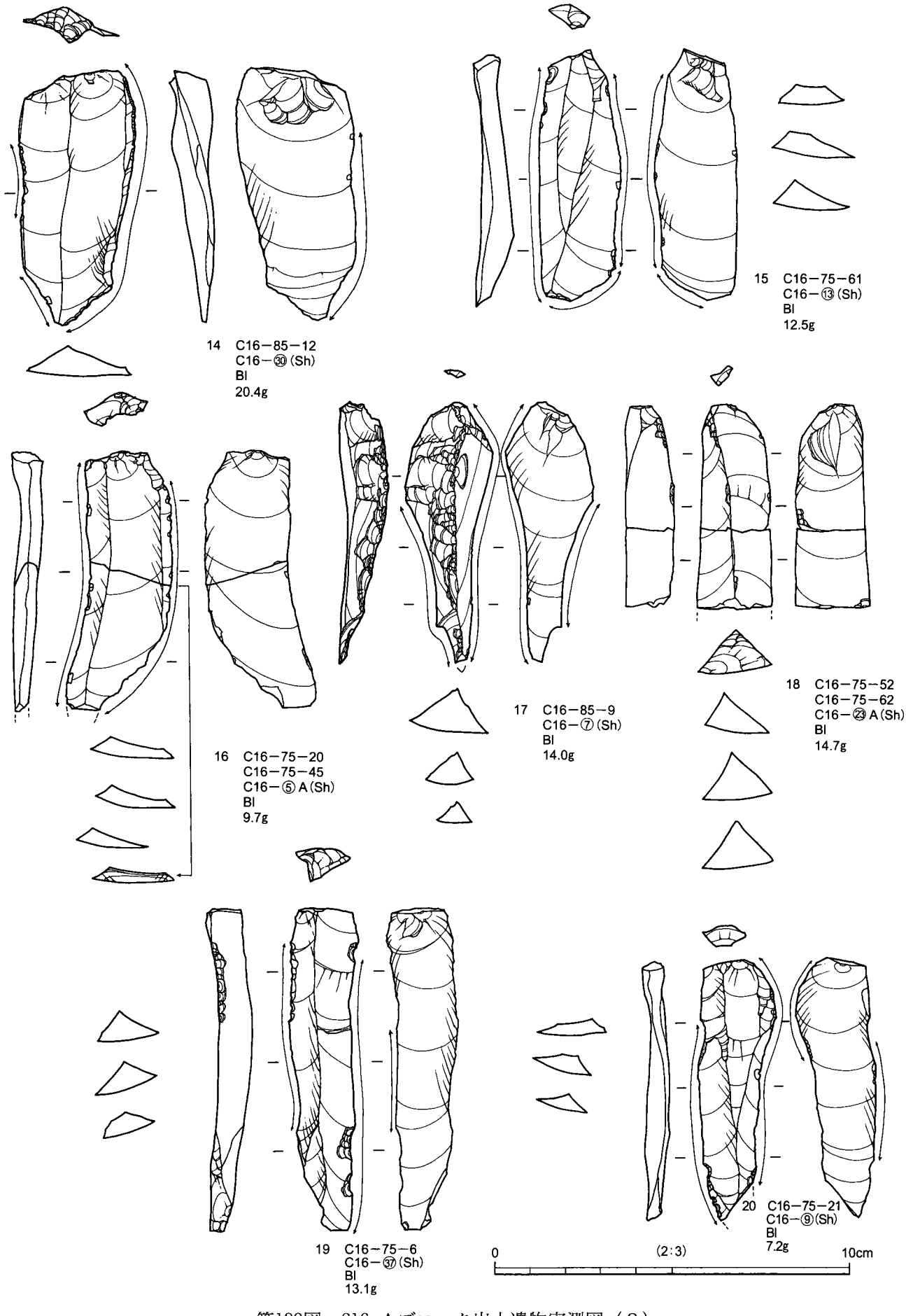
・C16-②：灰白色で硬質緻密な東北産頁岩である。石刃１点（6.0ｇ）の単独資料である。



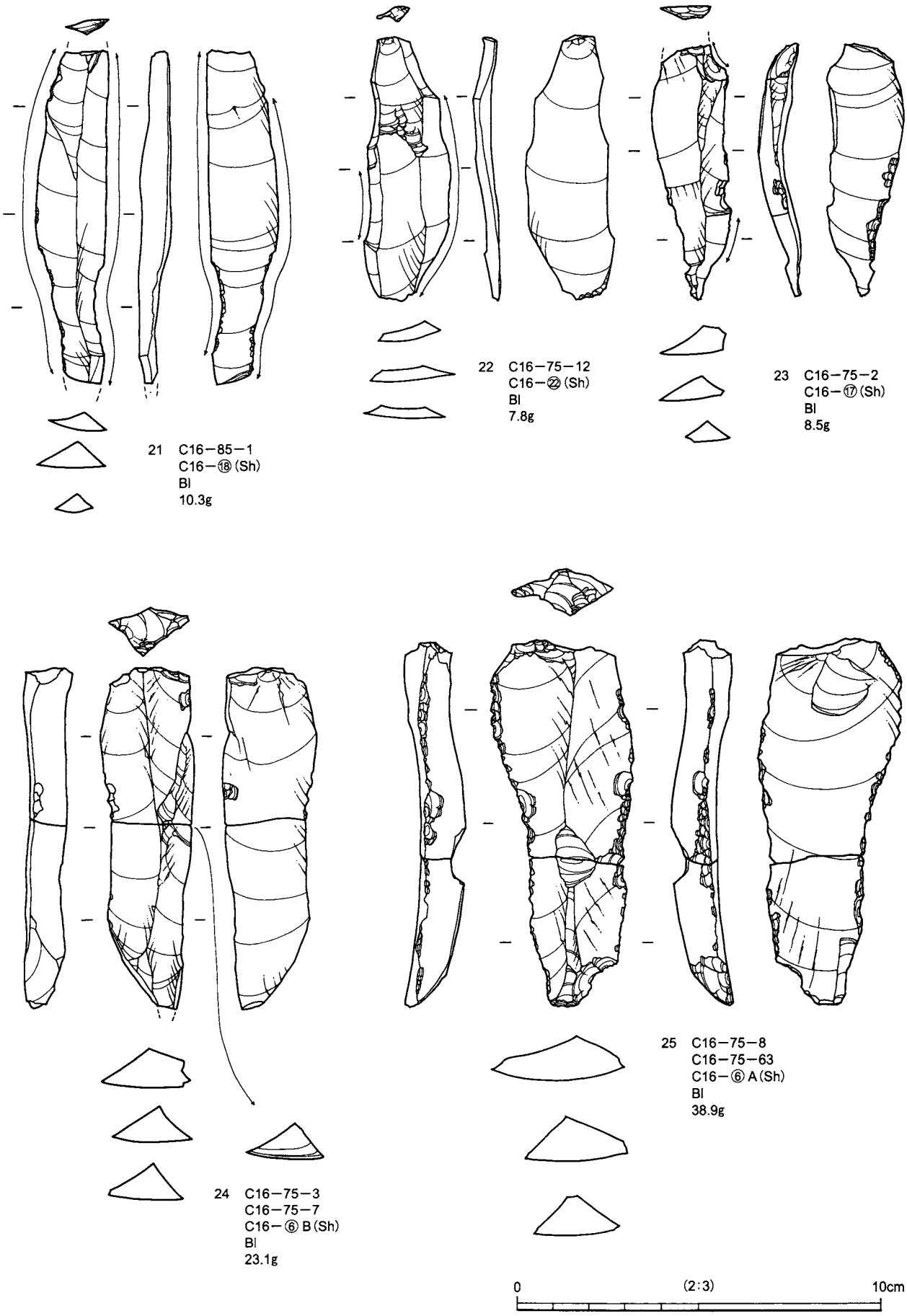
第137図　C16-Ａブロック出土遺物分布図（４）　－石材別分布図－



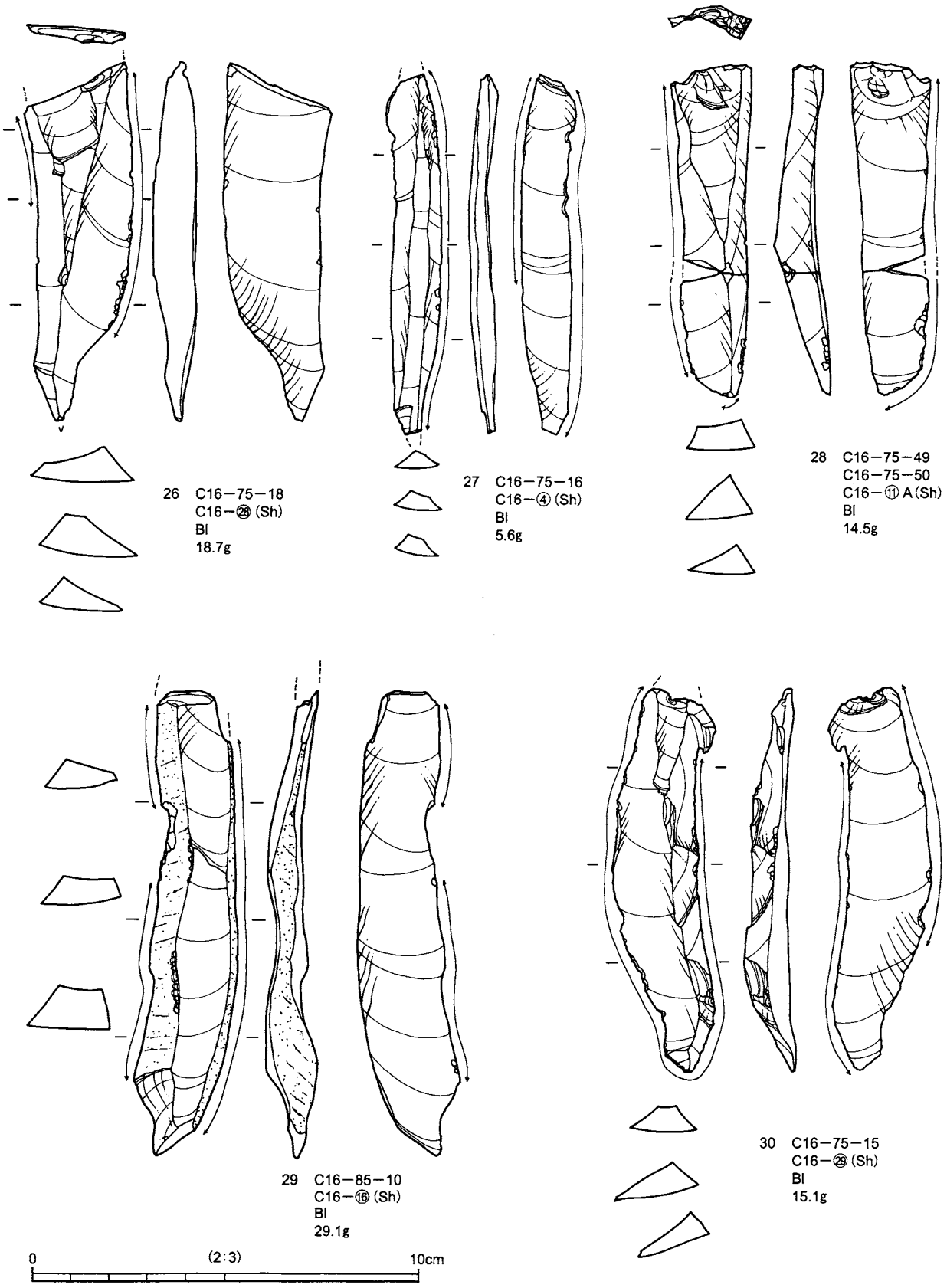
第138図　C16-Aブロック出土遺物実測図（1）



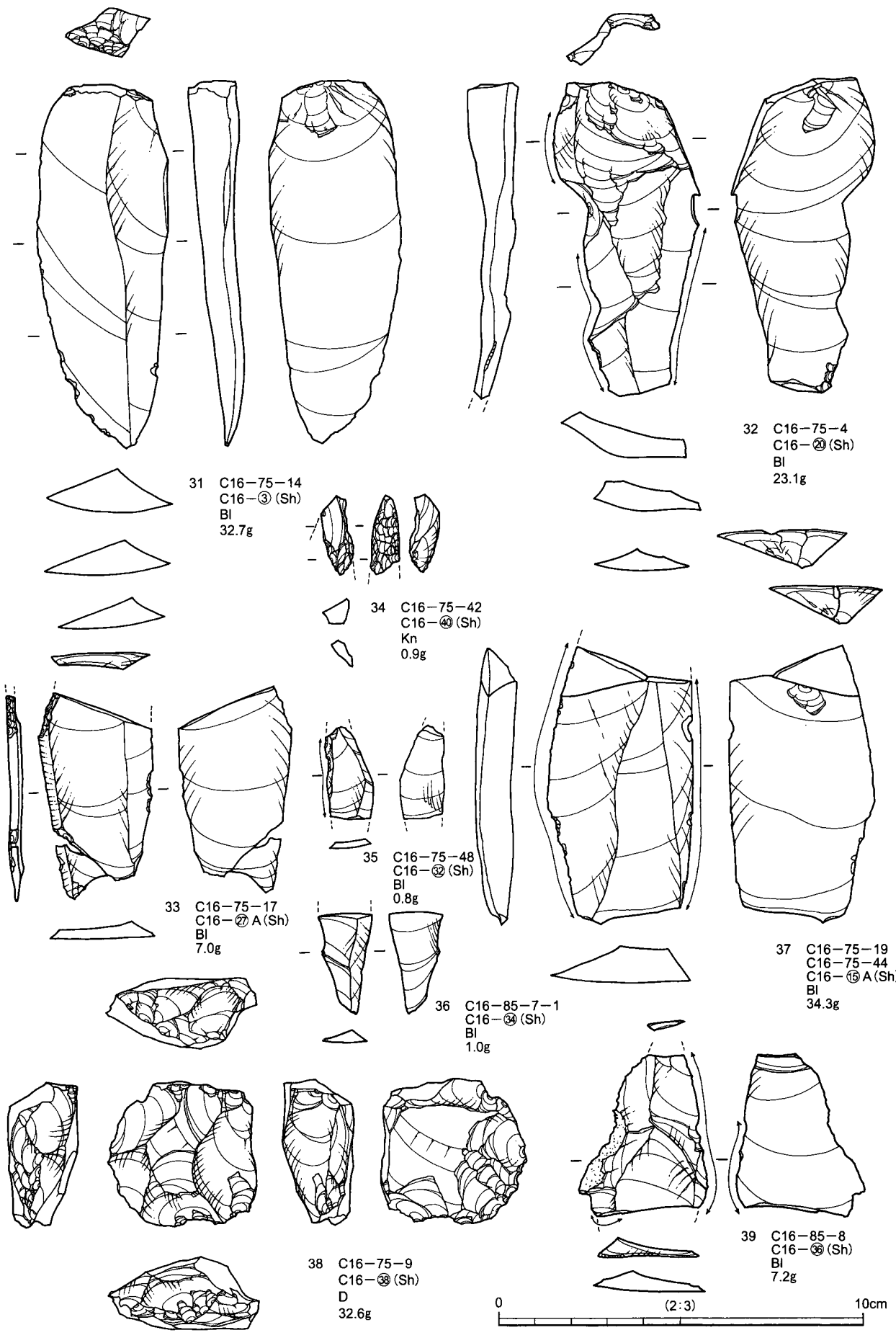
第139図　C16-Aブロック出土遺物実測図（2）



第140図　C16-Aブロック出土遺物実測図（3）



第141図　C16-Aブロック出土遺物実測図（4）



第142図　C16-Aブロック出土遺物実測図（5）

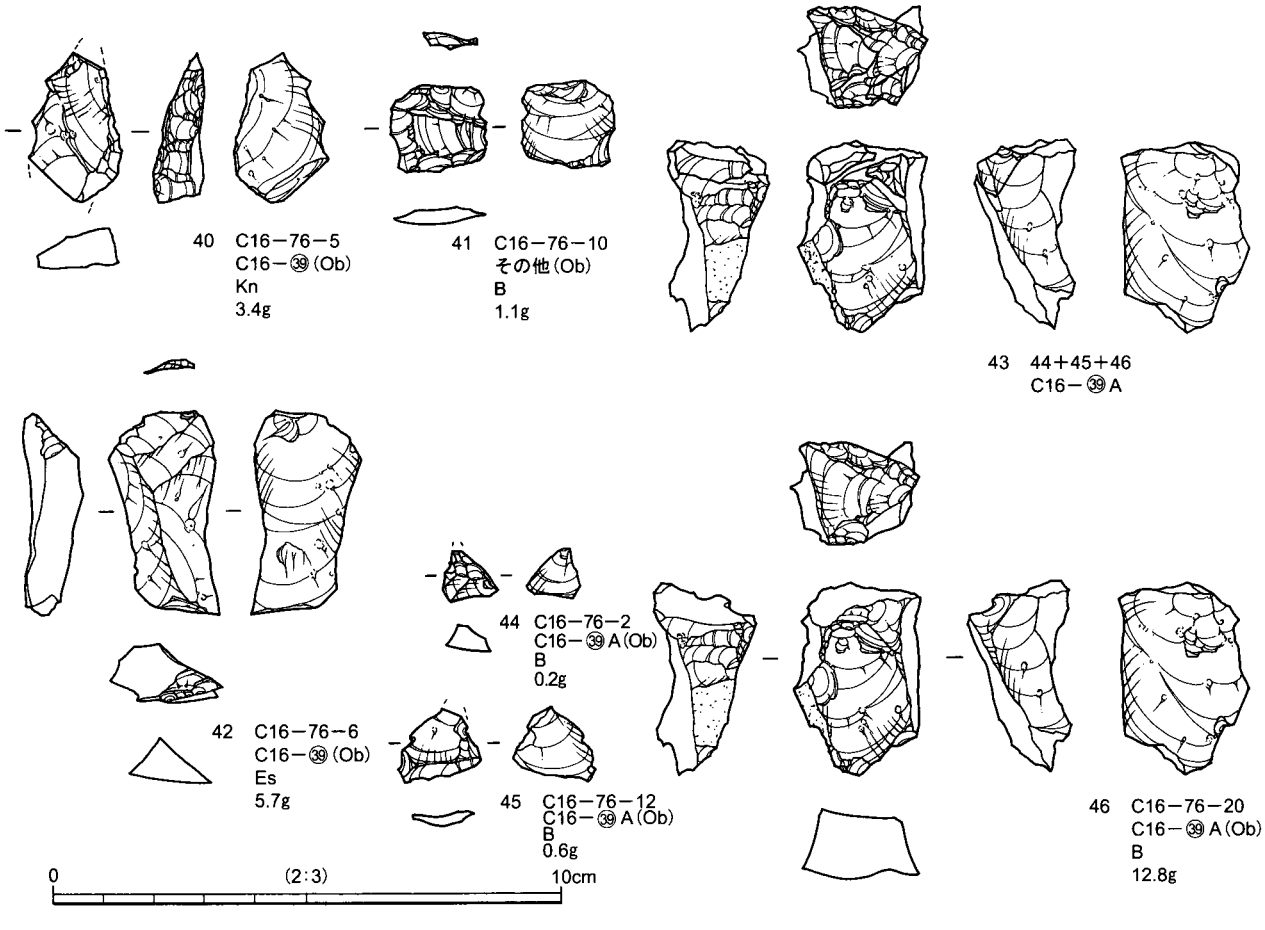
・C16-③・⑤・⑦・⑧・⑯：褐色を帯びた灰色で硬質緻密な東北産頁岩である。C16-⑧はナイフ形石器，それ以外は石刃の単独資料である。C16-③は１点（32.7ｇ），C16-⑤は２点（１個体；9.7ｇ），C16-⑦は１点（14.0ｇ），C16-⑧は１点（6.7ｇ），C16-⑯は１点（29.1ｇ）である。

・C16-④・⑨～⑬：灰色を帯びた褐色で硬質緻密な東北産頁岩である。いずれも石刃の単独資料である。C16-④は１点（5.6ｇ），C16-⑨は１点（7.2ｇ），C16-⑩は１点（11.0ｇ），C16-⑪は２点（1個体；14.5ｇ），C16-⑫は１点（12.0ｇ），C16-⑬は１点（12.5ｇ）である。

・C16-⑥：灰褐色と灰白色の混在する東北産頁岩である。石器群の内訳は，石刃４点（それぞれ折れ面で接合したものが２個体），剥片１点の合計５点（62.1ｇ）である。接合資料は，石刃２点（１個体）と剥片１点（合計39.0ｇ）の接合と石刃２点（１個体；23.1ｇ）の接合がある。

・C16-⑭・⑮・㉓～㉕・㊵：褐色で硬質緻密な東北産頁岩である。C16-⑭・㉕・㊵はナイフ形石器の小破片，C16-㉔はナイフ形石器の完形品，それ以外は石刃で，すべて単独資料である。C16-⑭は１点（2.3ｇ），C16-⑮は２点（１個体；34.3ｇ），C16-㉓は２点（1個体；14.7ｇ），C16-㉔は１点（23.1ｇ），C16-㉕は１点（0.3ｇ），C16-㊵は１点（0.9ｇ）である。

・C16-⑰～㉒・㉖・㉗・㊳：暗褐色で硬質緻密な東北産頁岩である。C16-㊳は石核，それ以外は石刃で，すべて単独資料である。C16-⑰は１点（8.5ｇ），C16-⑱は１点（10.3ｇ），C16-⑲は１点（2.9ｇ），C16-⑳は１点（23.1ｇ），C16-㉑は１点（8.1ｇ），C16-㉒は１点（7.8ｇ），C16-㉖は１点（8.0ｇ），

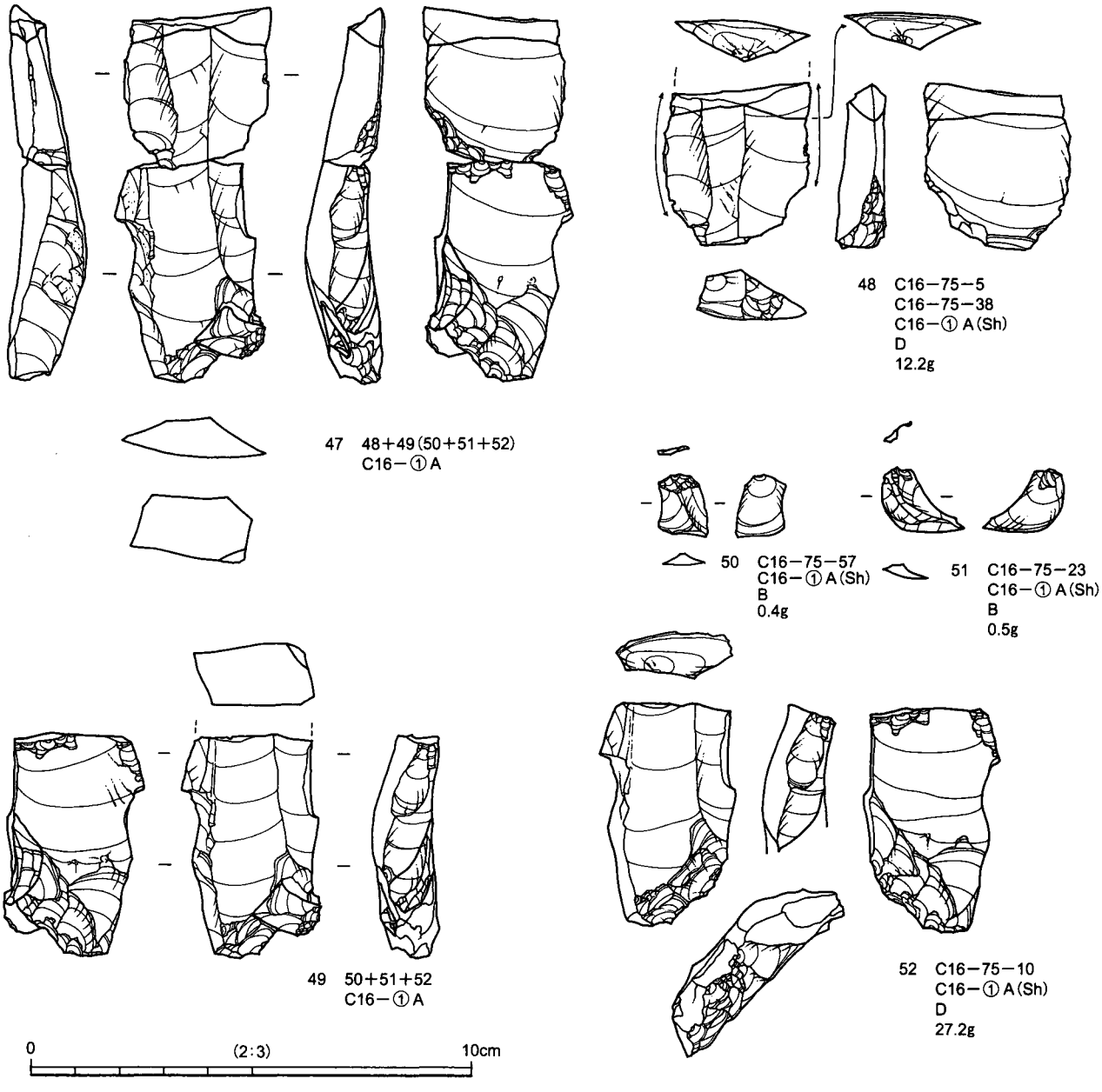


第143図　C16-Ａブロック出土遺物実測図（６）

C16-㉗は２点（1個体；7.0ｇ），C16-㊳は１点（32.6ｇ）である。

・C16-㉘～㊲：紫がかった黒褐色で硬質緻密な東北産頁岩である。すべて石刃の単独資料であるが，ほかのグループと異なり小型の石刃を含んでいる。C16-㉘は１点（18.7ｇ），C16-㉙は１点（15.1ｇ），C16-㉚は１点（20.4ｇ），C16-㉛は２点（1個体；2.1ｇ），C16-㉜は１点（0.8ｇ），C16-㉝は１点（3.0ｇ），C16-㉞は１点（1.0ｇ），C16-㉟は１点（5.3ｇ），C16-㊱は１点（7.2ｇ），C16-㊲は１点（13.1ｇ）である。

・C16-㊴：黒灰色不透明の黒曜石である。φ２㎜ほどの薄黄色の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，掻器１点，剥片３点の合計５点（22.7ｇ）である。剥片３点(合計13.6ｇ)が接合している。



第144図　C16-Aブロック出土遺物実測図（７）

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石の剥片14点，砕片８点（合計6.6ｇ）と頁岩の剥片10点，砕片１点（合計2.8ｇ）がある。黒曜石は栃木県高原山産，頁岩は東北産と考えられる。

３）出土遺物（第138～142図）

１～39は，東北産頁岩による石刃石器群，40～46は，栃木県高原山産と考えられる黒曜石の一群である。

東北産頁岩による石器群は，一部の再生作業を別にすると，本遺跡では石器製作作業に関わりのない搬入品で，しかもそれぞれは単独母岩である。比較的狭い範囲にまとまりをもつ分布状況から見て，数度にわたって繰り返し持ち込まれ累積したというよりも，一時期に持ち込まれ廃棄された可能性が高い。反面，石刃がどこで製作され，どのくらいの時間が経過したか，また製作から廃棄に至るまでにどの程度の人が関わったのか，疑問も多い。

黒曜石による石器群は，小型品が多く特徴が捉えにくかったために母岩不明とした資料も多いが，概ね同一母岩ではないかと考えられる。一定量の剥片を剥離した後の石核を持ち込み，継続して剥片剥離作業を実施したと判断される。石核は，再び持ち出されている。

以上のように，石器形態，製作技術，石材などの点で対照的な２群の石器群が見られる。

１～４・34は，頁岩のナイフ形石器である。１は，細身の石刃を素材として，打面を表面側から除去し，右側縁の大半と左側縁の基部よりを裏面から調整加工している。２は，横断面形が扁平な長方形を呈する中型の石刃を素材に用いている。左右両側面に石核の素材時の剥離面が見られることから，大型の剥片（石刃か）を素材とした石核の小口部分から剥離された石刃と考えられる。先端部と左側縁の一部に調整加工がある。３・34は，ナイフ形石器の先端部片である。形状から判断して，３は完製品の先端部，34は未製品の先端部と考えられる。４は，２側縁調整のナイフ形石器の基部である。素材の打面側を基部にしているが，打面は除去している。左側縁は裏面から急角度に調整しているが，右側縁は微細で浅い剥離痕が連続する。

５～33・35～37・39は石刃である。以下のような特徴がある。

①：長さは，大（10㎝以上）・中（７㎝程度）・小（５㎝程度）の三者がある。

②：６・10・18・25・39では，表面に上下両方向からの剥離面が見られるが，それ以外の石刃は表面が裏面と同一方向の剥離面だけで構成されており，単設打面が主流である。また，25では，下位からの剥離面は石刃の剥離痕ではなく，それ以前の石核調整，あるいは石核の素材段階の剥離面の可能性がある。

③：17には，石核の側面調整痕が見られるが，それ以外は，頭部調整，側面調整の痕跡は見られない。反面，打面には細かな調整がある。

④：９・14～17・20・24・25・28・32などは，打面が石刃本体の長軸とは直交せず，斜交している。

なお，25の裏面下端部には，彫器の樋状剥離に似た剥離面があり，これに小片（削片）が接合する。彫器とすべきかも知れない。また，24と25は，本石刃石器群の中では数少ない同一母岩の組合せである。

38は，剥片（あるいは大型の石刃）素材の石核である。表裏両面を作業面として，交互剥離と求心的な打点の移動により，小型不定型の剥片を剥離している。

このほかの頁岩製石器としては，小型の剥片が11点ある。その大半は被熱により黒変し，はじけた部分がある。

40は，黒曜石のナイフ形石器である。横長剥片を素材として，打面側１側縁に表裏両側から調整加工を行っている。全体にラフな印象があり，未製品かも知れない。41は不定型の剥片，42は不整形の縦長剥片

第37表　C16-Aブロック母岩別石器組成表

母岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C16-①(Sh)																			6	1	3(2)	10(9)		10(9)
C16-②(Sh)												1										1		1
C16-③(Sh)												1										1		1
C16-④(Sh)												1										1		1
C16-⑤(Sh)												2(1)										2(1)		2(1)
C16-⑥(Sh)												4(2)							1			5(3)		5(3)
C16-⑦(Sh)												1										1		1
C16-⑧(Sh)	1																					1		1
C16-⑨(Sh)												1										1		1
C16-⑩(Sh)												1										1		1
C16-⑪(Sh)												2(1)										2(1)		2(1)
C16-⑫(Sh)												1										1		1
C16-⑬(Sh)												1										1		1
C16-⑭(Sh)	1																					1		1
C16-⑮(Sh)												2(1)										2(1)		2(1)
C16-⑯(Sh)												1										1		1
C16-⑰(Sh)												1										1		1
C16-⑱(Sh)												1										1		1
C16-⑲(Sh)												1										1		1
C16-⑳(Sh)												1										1		1
C16-㉑(Sh)												1										1		1
C16-㉒(Sh)												1										1		1
C16-㉓(Sh)												2(1)										2(1)		2(1)
C16-㉔(Sh)	1																					1		1
C16-㉕(Sh)	1																					1		1
C16-㉖(Sh)												1										1		1
C16-㉗(Sh)												2(1)										2(1)		2(1)
C16-㉘(Sh)												1										1		1
C16-㉙(Sh)												1										1		1
C16-㉚(Sh)												1										1		1
C16-㉛(Sh)												2(1)										2(1)		2(1)
C16-㉜(Sh)												1										1		1
C16-㉝(Sh)												1										1		1
C16-㉞(Sh)												1										1		1
C16-㉟(Sh)												1										1		1
C16-㊱(Sh)												1										1		1
C16-㊲(Sh)												1										1		1
C16-㊳(Sh)																					1	1		1
C16-㊴(Ob)	1				1														3			5		5
C16-㊵(Sh)	1																					1		1
その他(Ob)																			14	8		22		22
その他(Sh)																			10	1		11		11
合　計	6				1							41(33)							34	10	4(3)	96(87)		96(87)

第38表　C16-Aブロック石材別石器組成表

石材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)	1				1														17	8		27		27
頁岩(Sh)	5											41(33)							17	2	4(3)	69(60)		69(60)
合　計	6				1							41(33)							34	10	4(3)	96(87)		96(87)

である。

4）接合資料とその関連資料（第143～144図）

・C16-㊴（第143図40～46）　黒灰色不透明の黒曜石で，ナイフ形石器1点，掻器1点，剥片3点の合計5点（22.7g）で構成される。

43は，剥片3点（44～46）の接合資料である。44→45の順で小型の剥片を剥離した後，その剥離面を打面として46を剥離している。打面と作業面を入れ替えながら剥片を剥離する手順を示す資料である。

・C16-①（第144図47～52）　黄褐色の地に暗褐色の斑が入った硬質緻密な東北産頁岩で，石核3点（2個体），剥片6点，砕片1点の合計10点で構成される。

47は，剥片2点（50・51）と石核3点（2個体；48・52）の接合資料で，もとは大型の石刃で，48と52はそれぞれ別々の石核として機能していることがわかる。はじめに，石刃が3個体ほどに分離される。意図的な分割なのか，偶発的な欠損なのかは不明である。頭部は本ブロックに見られないが，中間部（48）と末端部（52）は本ブロックに残される。次に，中間部では，末端部に接する折れ面を打面として，表面左側で縦長の剥片を剥離している。いっぽう，末端部については，中間部に接する折れ面を打面とし，右側縁で縦長の剥片を剥離している。さらに，下端で小型の剥片を多数剥離している。接合資料では，50→

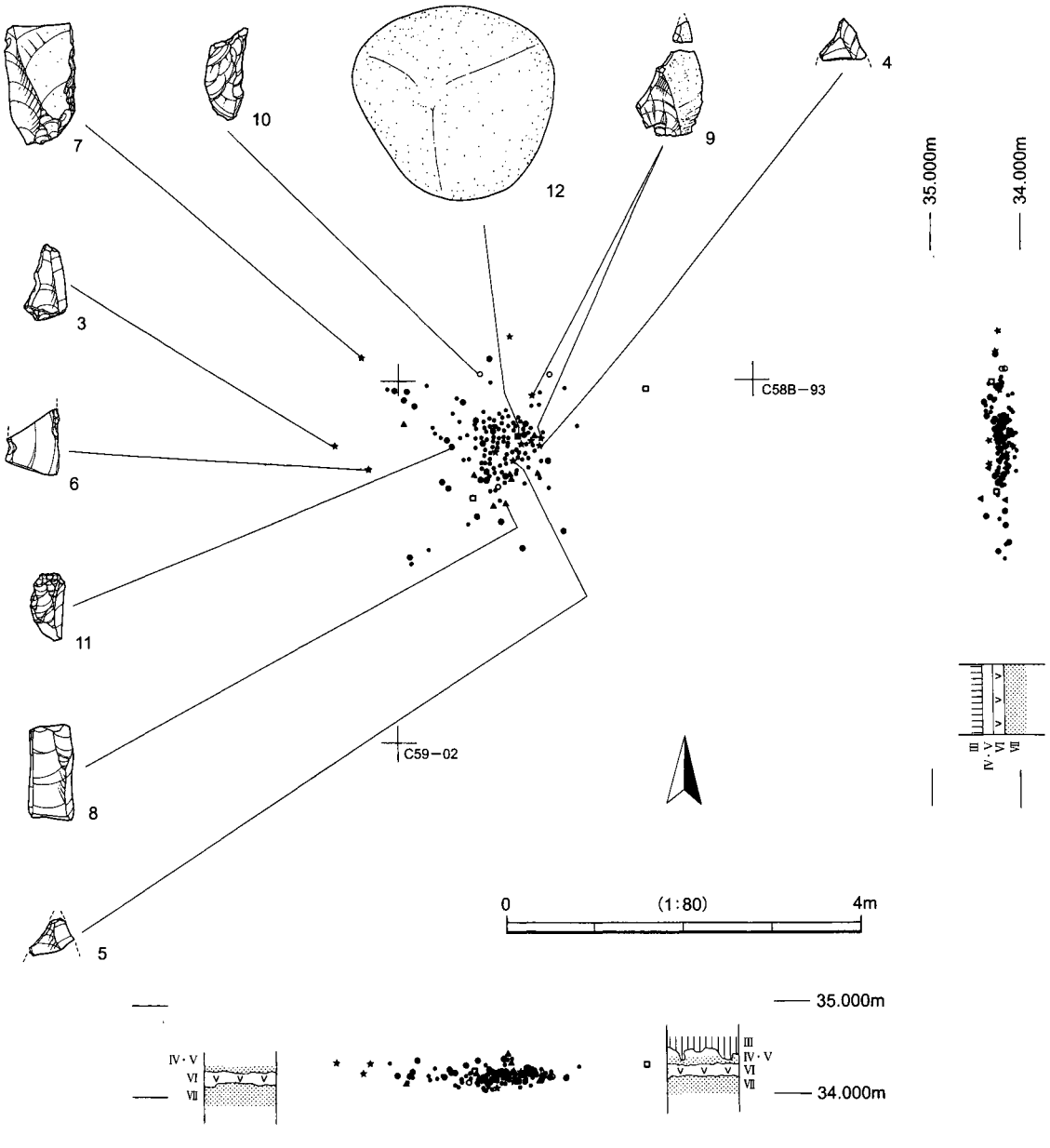
51の順で小型の剥片を剥離しているが，表裏両面を作業面として交互剥離を行っている。48と52は，彫器として機能した可能性も残るが，ここでは石核と考えた。

3　C58B-Aブロック（第145～151図，第39・40表）

1）ブロックの概要

C58B-Aブロックは，調査範囲北東側のC58B-81・82・91・92グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地中央の平坦面で，台地南側の傾斜変換点までの距離は100mである。

ブロックの規模と形状は，直径３mの範囲に156点の石器が分布するが，特に，直径１mの範囲に大半の石器が密集する「核」をもつ。出土層位はVI層を中心としており，各石器は30cmほどの高低差をもって，水平に包含されている（第145～148図）。



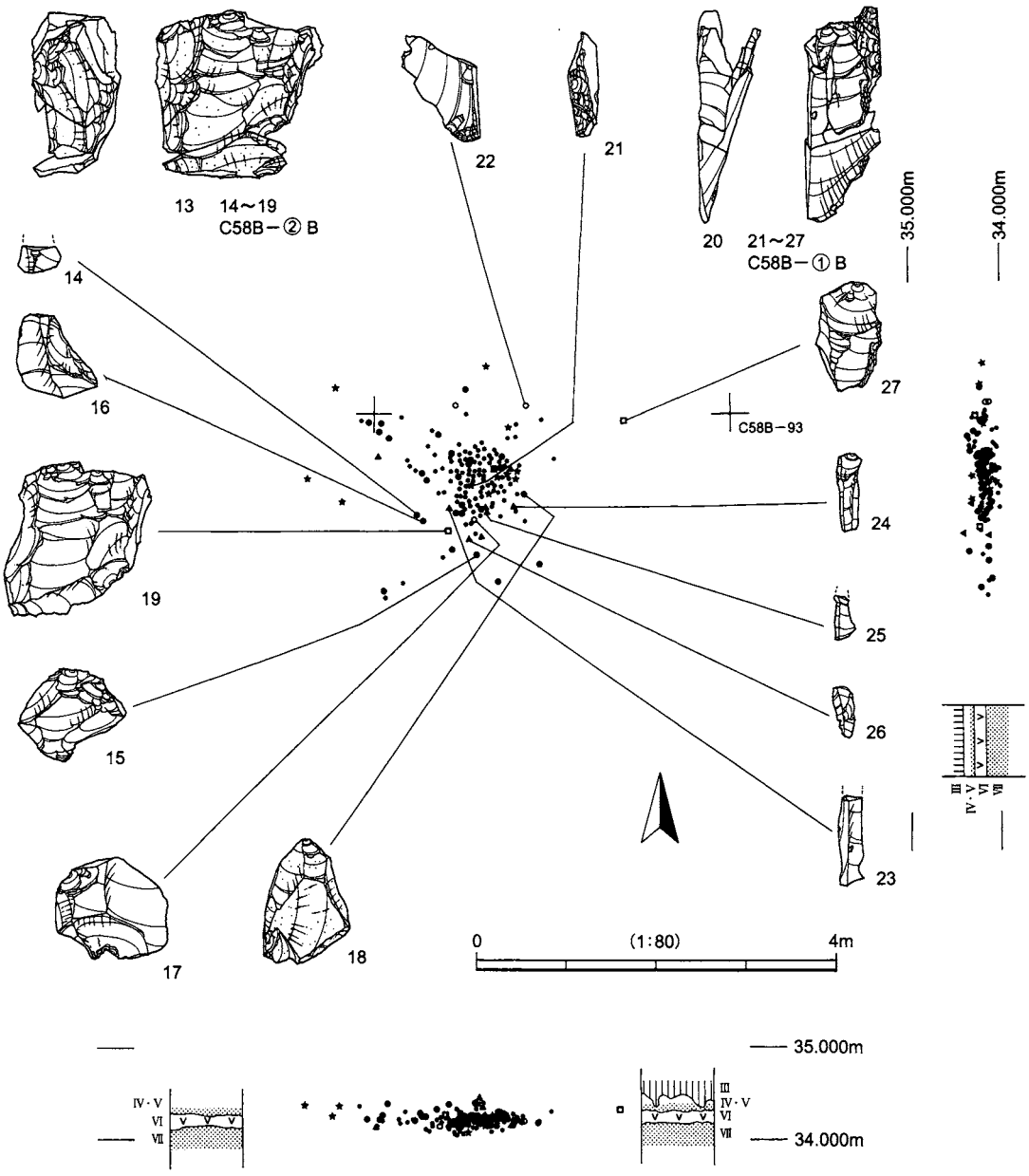
第145図　C58B-Aブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図（１）－

ブロックは，ナイフ形石器11点（9個体），加工痕ある剥片２点，使用痕ある剥片１点，石刃１点，小型の石刃７点，敲石１点，剥片24点，砕片107点，石核２点の合計156点（154個体）で構成される。石材は，黒曜石116点，頁岩39点，砂岩１点である。石材別の分布状況を見ると，中心部から東側に黒曜石，西側に頁岩が多い傾向にあり，両者の分布域はわずかにズレている。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは３母岩を識別した。内訳は，黒曜石１母岩（C58B-①），頁岩１母岩（C58B-②），砂岩１母岩（C58B-③）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は42%（66/156点）である。

・C58B-①：無色透明の地に黒い縞の入る良質な黒曜石で，信州産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器５点（３個体），加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片１点，小型の石刃６点，剥片10点，砕片２点，石核１点の合計26点（24個体；20.6ｇ）である。



第146図　C58B-Aブロック出土遺物分布図（２）　－石器別分布図（２）－

接合資料は３グループあり，接合資料Ｂは，ナイフ形石器２点（１個体），加工痕ある剥片１点，小型の石刃４点，石核１点の合計８点（７個体；11.1ｇ）が接合している。ほかにナイフ形石器１点と調整剥片（ブランティング・チップ）１点の接合（接合資料Ａ）と，欠損したナイフ形石器が接合して１個体になったもの（接合資料Ｃ）がある。

なお，同一母岩が，C58Ｂ-83グリッド（ブロック外）に１点ある。

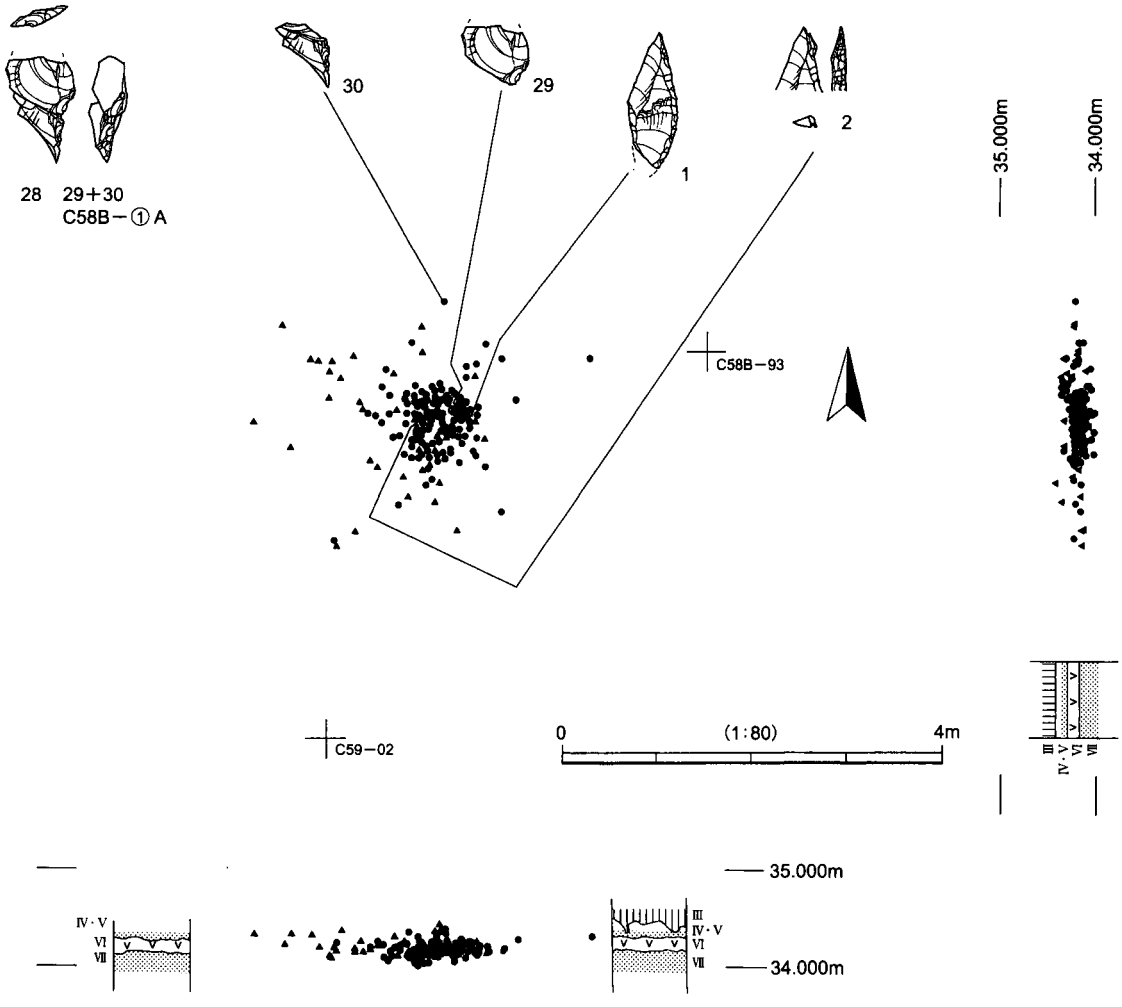
・C58Ｂ-②：黒褐色で硬質緻密な部分と，黄褐色で軟質な部分とが漸移的に変化している頁岩である。前者は東北産頁岩と同質であるが，後者は極めて粗悪である。

石器群の内訳は，ナイフ形石器６点，加工痕ある剥片１点，石刃１点，小型の石刃１点，剥片13点，砕片16点，石核１点の合計39点（56.4ｇ）である。

接合資料は３グループあり，剥片５点，石核１点（合計36.5ｇ）によるもの，ナイフ形石器１点と砕片１点（合計1.4ｇ）によるもの，剥片２点（合計3.3ｇ）によるものがある。

・C58Ｂ-③：淡褐色で硬質な砂岩である。小型で完形の円礫で，敲石１点（141.2ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石の剥片１点，砕片89点（合計3.0ｇ）がある。いずれも信州産と考えられ，概ねC58Ｂ-①母岩に帰属する可能性が高いものの，小型で特徴が乏しいため同一母岩とはしなかった。

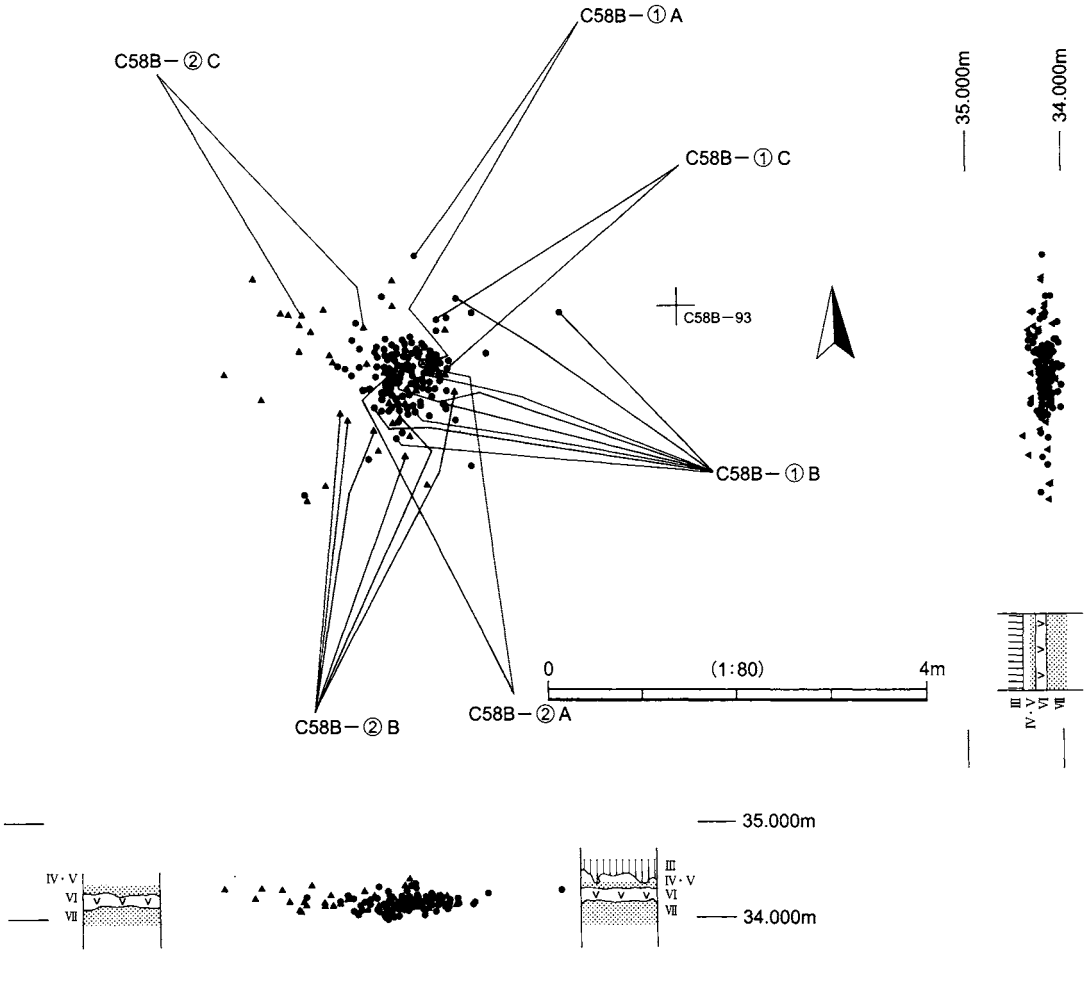


第147図　C58Ｂ-Ａブロック出土遺物分布図（３）　－石材別分布図（１）－

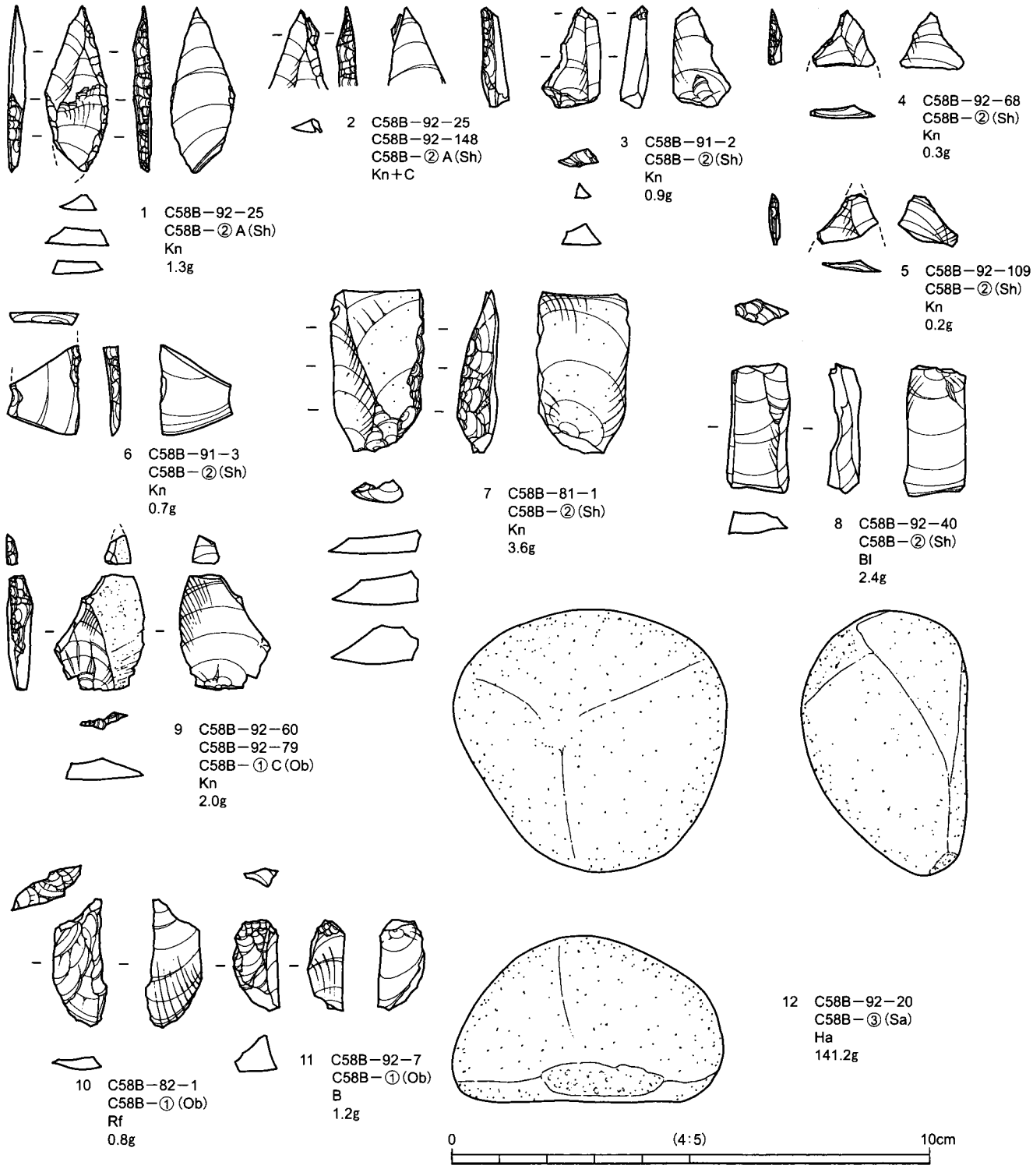
3）出土遺物（第149図）

1～8は，頁岩の同一母岩（C58B－②）による石器群である。1は，小型の石刃を素材とし，右側縁全体と左側縁の基部寄りに調整加工を行った2側縁のナイフ形石器である。素材の打面を基部側にあてている。2は，1の先端に調整剥片（ブランティング・チップ）が接合したものである。3は，小型の石刃を用い，素材の打面を基部に残して左側縁全体と右側縁の先端に調整加工を行ったナイフ形石器である。錐状石器かも知れない。4・5はナイフ形石器の先端部，6は中間部の破片である。いずれも鋭利な先端部とは言えないことから，製作途上に欠損した未製品の破片と考えられる。7は，縦長剥片を素材とし，右側縁全体を表から調整した1側縁調整のナイフ形石器である。素材の打面は基部に残している。本例も完成品とは言えない不整形なものである。8は，小型の石刃である。左側面にはポジティブな剥離面があり，本石刃を剥離した石核が大型の剥片ないしは石刃を素材としていたことがわかる。

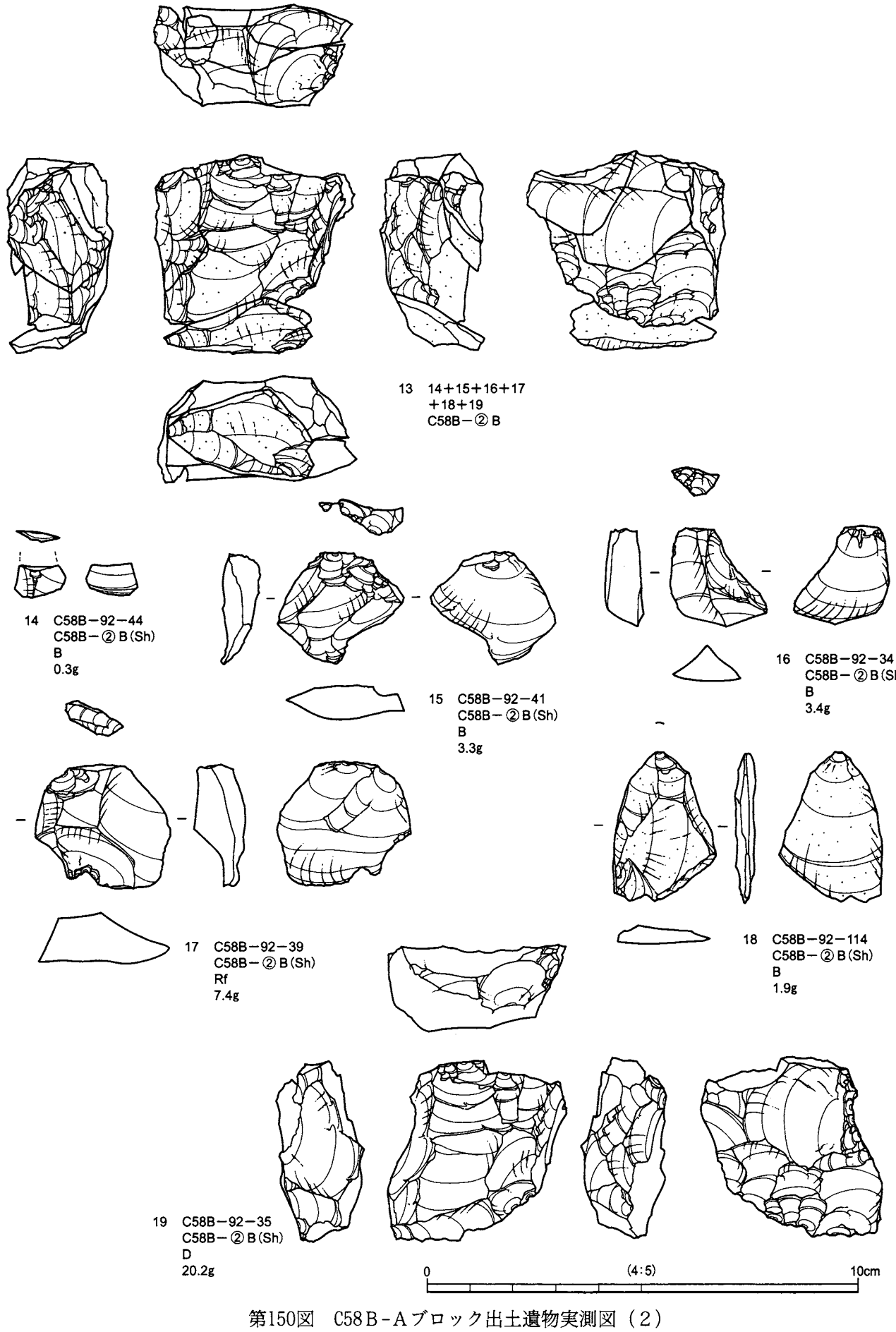
9～11は，黒曜石の同一母岩（C58B－①）による石器群である。9は，縦長剥片を素材とするナイフ形石器である。素材の打面を基部に残し，左側縁に調整加工を行っている。先端部を欠損するが，同一個体と考えられる先端部片がある。10は，薄手の縦長剥片を素材とし，打面部を斜めに除去した加工痕ある剥片である。11は，小型の縦長剥片である。両側面に古い剥離面があり，横断面が方形であることから，剥片素材の石核の小口部分から剥離されたことがわかる。



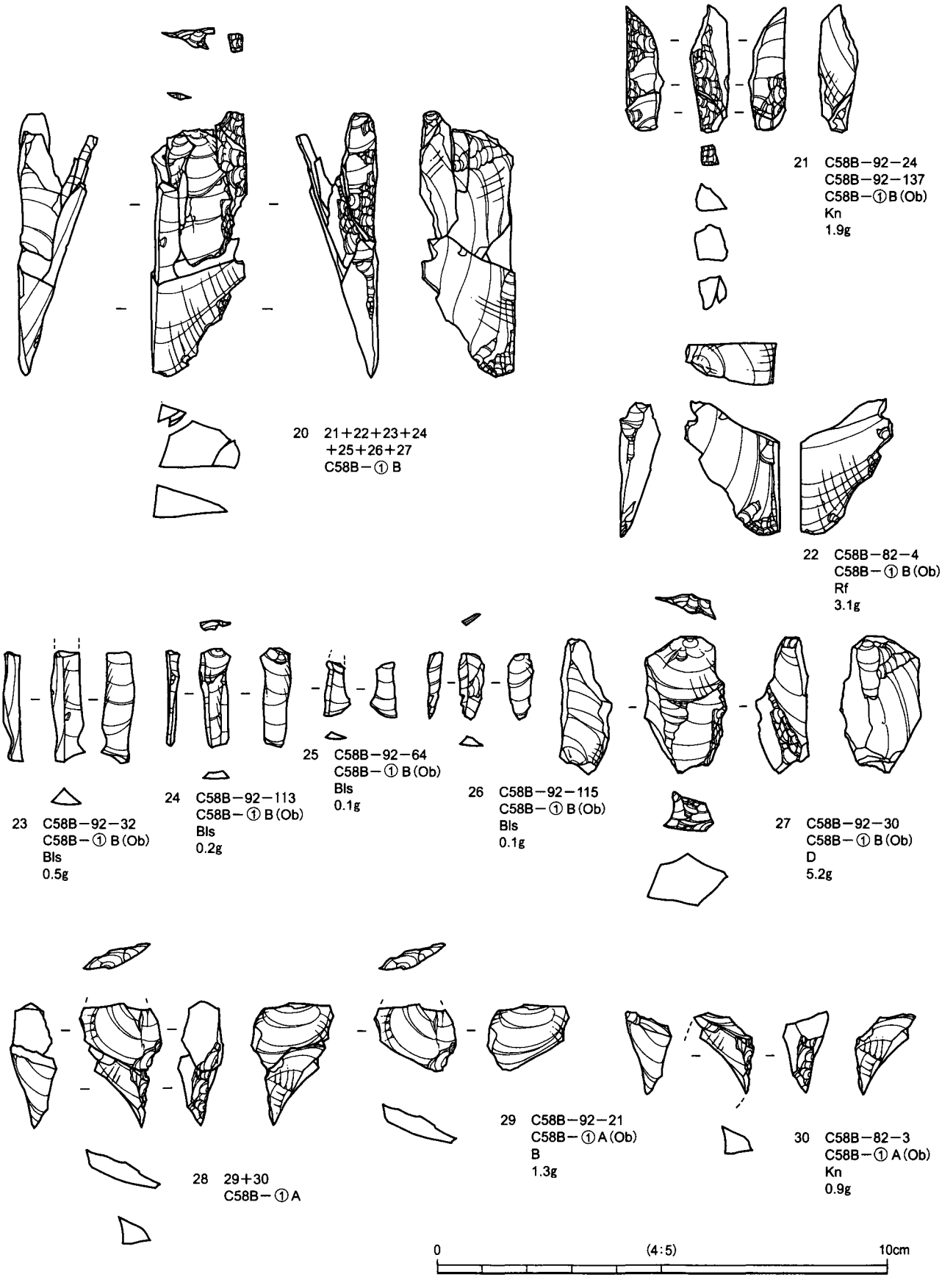
第148図　C58B-Aブロック出土遺物分布図（4）　－石材別分布図（2）－



第149図　C58B－Aブロック出土遺物実測図（1）



第150図　C58B-Aブロック出土遺物実測図（2）



第151図　C58B－Aブロック出土遺物実測図（3）

第39表　C58B-Aブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C58B-①(Ob)	5(3)									1	1		6						10	2	1	26(24)		26(24)
C58B-②(Sh)	6									1		1	1						13	16	1	39		39
C58B-③(Sa)															1							1		1
その他(Ob)																			1	89		90		90
合　計	11(9)									2	1	1	7		1				24	107	2	156(154)		156(154)

第40表　C58B-Aブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)	5(3)									1	1		6						11	91	1	116(114)		116(114)
頁岩(Sh)	6									1		1	1						13	16	1	39		39
砂岩(Sa)															1							1		1
合　計	11(9)									2	1	1	7		1				24	107	2	156(154)		156(154)

12は，砂岩の敲石である。小型の円礫を用いており，端部が潰れている。

4）接合資料とその関連資料（第150・151図）

・C58B-②（第150図13～19）　黒褐色で硬質緻密な部分と，黄褐色で軟質な部分とが漸移的に変化する頁岩で，ナイフ形石器6点，加工痕ある剥片1点，石刃1点，小型の石刃1点，剥片13点，砕片16点，石核1点の合計39点で構成される。

13は，剥片5点（14～18）と石核1点（19）の接合資料である。打面と作業面を頻繁に入れ替えながら不定型もしくは縦長の剥片を生産するものである。接合資料から見た剥片剥離作業は，①：ほかの遺跡で，原石からはじまる剥片剥離作業の初期工程から本格的な剥片生産に至るまでの作業を行っており，本遺跡では，後半から終末段階の作業を実施している。②：実測図13の上面で，左側面を打面として14を剥離する。下面にある18も14と同じ左側面を打面に用いて剥離しており，14と一連の流れの中で剥離したかも知れない。③：②の作業面（実測図上面）を打面，左側面から表面にかけてを作業面として，15をはじめとする不定型の剥片を剥離する。④：実測図13の表面右側から右側面にかけてを打面，裏面を作業面として，16を含む剥片を剥離する。⑤：実測図13の左側面を打面，裏面を作業面として，17を剥離する。⑥：下面（18の剥離面）を打面，裏面を作業面として剥片を剥離し，本石核の作業を終了している。本母岩は，先述したとおり，黒褐色で硬質緻密な部分と，黄褐色で軟質な部分があるが，残った石核は軟質な部分だけとなっており，硬質な部分は見られない。このことが，作業を終了した主たる原因なのかも知れない。

・C58B-①（第151図20～30）　無色透明の地に黒い縞の入る黒曜石で，ナイフ形石器5点（3個体），加工痕ある剥片1点，使用痕ある剥片1点，小型の石刃6点，剥片10点，砕片2点，石核1点の合計26点で構成される。

20は，ナイフ形石器2点（21；1個体），加工痕ある剥片1点（22），小型の石刃4点（23～26），石核1点（27）の接合資料である（接合資料B）。接合資料から見た剥片剥離作業は，①：本遺跡外で不定型の剥片を剥離し，石核の素材とする。実測図20の表面に広く残る剥離面が，素材の主要剥離面である。②：下半部を折り取る。折り取られた22は，末端部に微細な調整加工が行われている。③：上端に打面を設け，左右両側で剥片生産を行う。右側面では，やや厚手の剥片が剥離され，ナイフ形石器（21）に加工される。次に小型の石刃（26）が剥離される。左側面では，23→24→25の順に小型の石刃が得られている。

28は，ナイフ形石器1点（30）と剥片1点（29）の接合資料である。上位から29を剥離した後，下位から30を剥離しており，後者は石器に加工されている。

なお，接合しない資料について，おもなものは先述したとおりである。実測図に掲載していないものに，小型の石刃2点，ナイフ形石器の調整剥片（ブランティング・チップ）4点などがある。

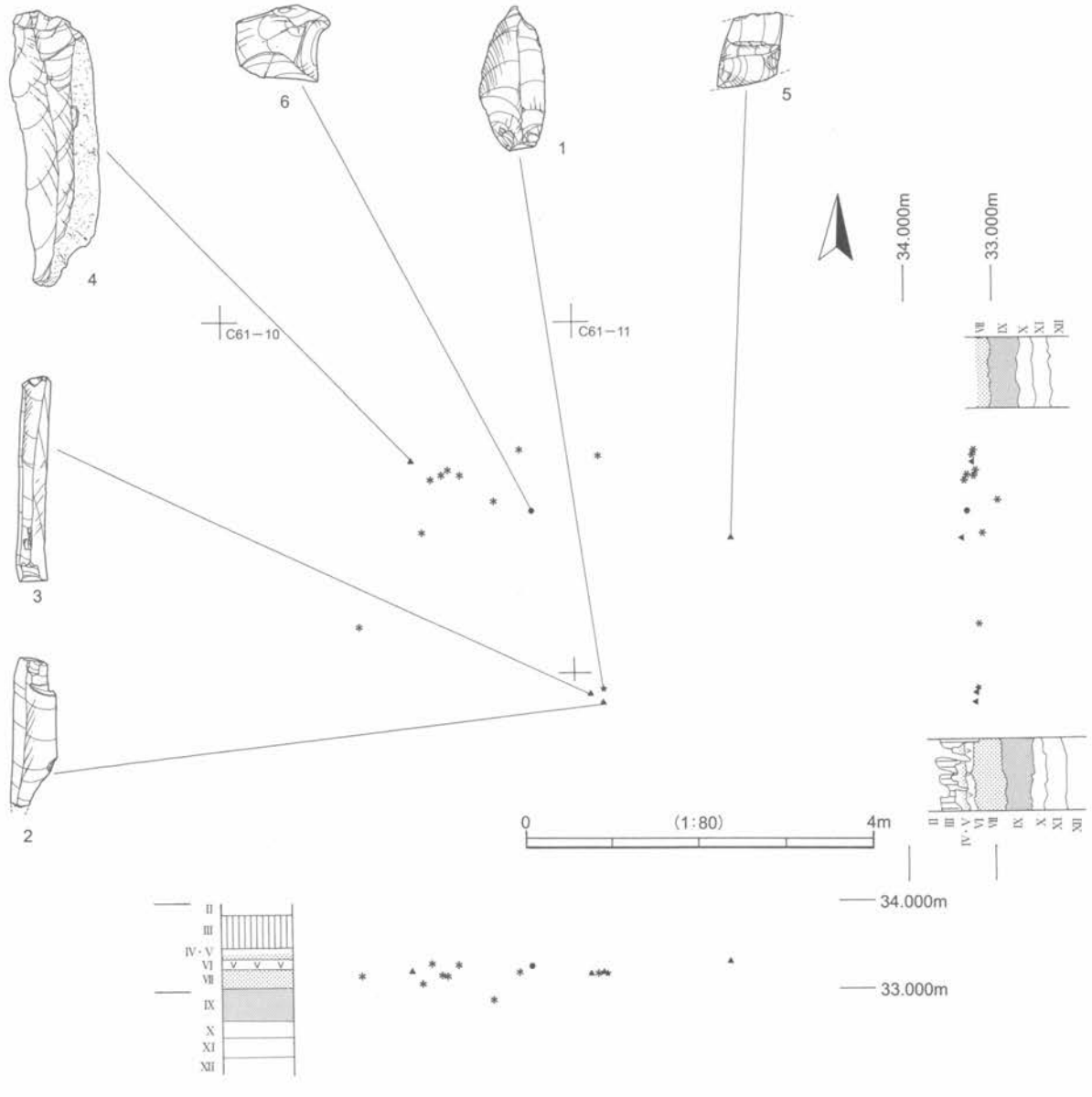
4　C61-Dブロック（第152～154図，第41・42表）

1）ブロックの概要

C61-Dブロックは，調査範囲西南のC61-10・11・21グリッドに位置する。ブロックの立地は，南に向かって開く谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点までの距離は５ｍの位置にある。

C61グリッド北部では，直径15ｍほどの範囲に石器群がまとまっているが，垂直分布を検討した結果，Ⅶ層を中心とする石器群とⅣ・Ⅴ層を中心とする石器群の両者が見られた。そこで，当該区域の石器群を垂直分布によって上下２群に分離し，上位の３ブロック（C61-A～Cブロック）を第６文化層，下位の２ブロック（C61-D・Eブロック）を第５文化層とした。本ブロックは，C61-Cブロックと平面的に一部重なっている。

ブロックの規模と形状は，直径４ｍの範囲に15点の石器・礫が散漫に分布する。出土層位はⅥ層からⅦ



第152図　C61-Dブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－

層にかけてで，各石器は40cmほどの高低差をもって水平に包含されている（第152・153図）。

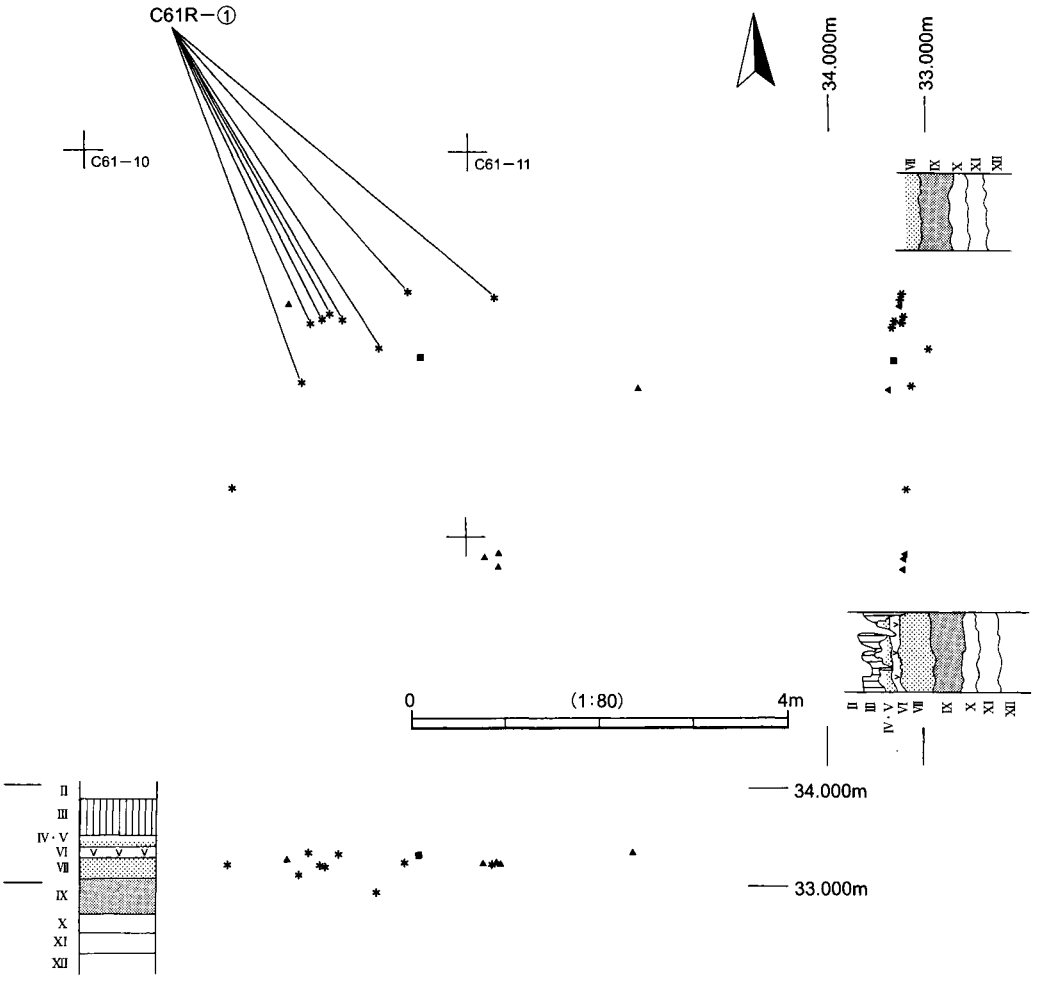
ブロックは，ナイフ形石器１点，石刃４点，剥片１点，礫９点の合計15点で構成される。石器石材は，頁岩５点，メノウ１点，礫石材は，チャート１点，砂岩８点である。礫は，母岩分類できたものが８点（１母岩），母岩の不明なものが１点ある。

第41表　C61-Dブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C61-①(Sh)												1										1		1
C61-②(Sh)												1										1		1
C61-③(Sh)	1																					1		1
C61-④(Sh)												1										1		1
C61-⑤(Sh)												1										1		1
C61-⑥(Ag)																			1			1		1
C61R-①(Sa)																							8	8
その他(Ch)																							1	1
合　計	1											4							1			6	9	15

第42表　C61-Dブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
頁岩(Sh)	1											4										5		5
チャート(Ch)																							1	1
砂岩(Sa)																							8	8
メノウ(Ag)																			1			1		1
合　計	1											4							1			6	9	15



第153図　C61-Dブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－

2）母岩の特徴と内容

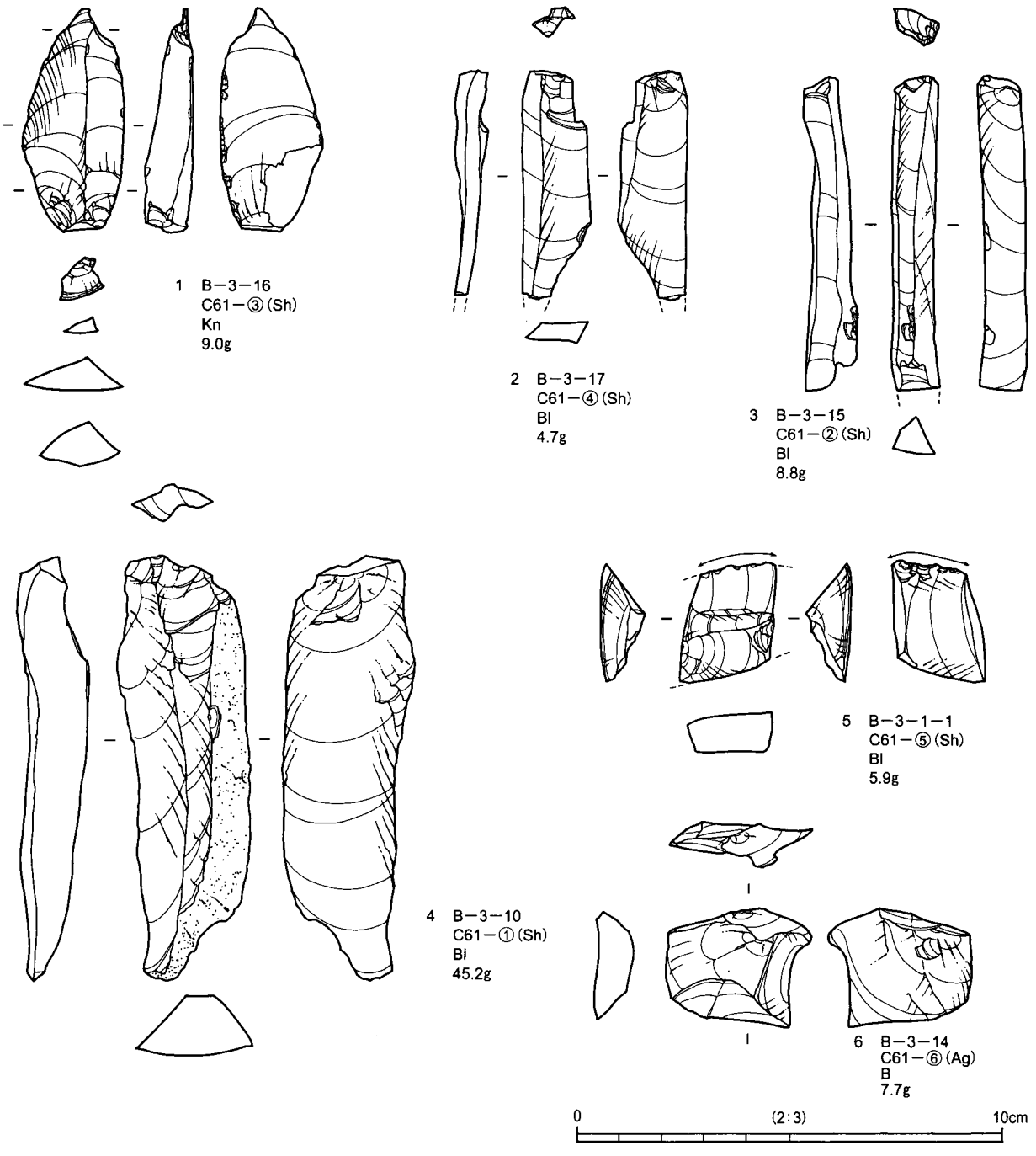
本ブロックでは６母岩を識別した。内訳は，頁岩５母岩（C61-①～⑤），メノウ１母岩（C61-⑥）で，すべて単独資料である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（６/６点）である。

・C61-①：黄色みを帯びた灰色の頁岩（黒色頁岩）である。石刃１点（45.2ｇ）の単独資料である。

・C61-②：淡褐色で硬質緻密な東北産の頁岩である。石刃１点（8.8ｇ）の単独資料である。

・C61-③：淡褐色で硬質緻密な東北産の頁岩である。ナイフ形石器１点（9.0ｇ）の単独資料である。

・C61-④：淡褐色で硬質緻密な東北産の頁岩である。石刃１点（4.7ｇ）の単独資料である。



第154図　C61-Dブロック出土遺物実測図

・C61-⑤：黄色みを帯びた灰白色できめの粗い頁岩である。石刃１点（5.9ｇ）の単独資料である。
・C61-⑥：黄灰色半透明のメノウである。剥片１点（7.7ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第154図）

１は，東北産頁岩による石刃を素材としたナイフ形石器である。先端部右側に微細な調整加工を行っているほか，素材の打面を表面側から折りとっている。

２・３は，東北産頁岩による石刃である。２の両側面には，先行する石刃剥離とは異なる平坦な剥離面があり，互いに平行することから，この石刃は剥片ないしは大型の石刃を素材とする石核の小口部分から剥離されたことがわかる。３の右側面にも，石核の素材時の剥離面がある。両石刃とも打面調整は見られるが，頭部調整はない。４は，黒色頁岩による大型の石刃である。本石器の大きさ，右側面に広く残る自然面の形状から見て，原石は大型の円礫と考えられる。５は，頁岩による石刃である。もともとは比較的大型の石刃であったと考えられるが，上下ともに折れている。意図的な切断なのか，偶発的な欠損なのかは不明である。ただし，上下の折れ面を打面として表面側で剥片剥離をしており，欠損した石刃を石核として再利用したか，あるいは刃部の再生を行っている。なお，実測図上位の縁辺には細かな刃こぼれが見られる。

６は，メノウの不定型な剥片である。表面中央にはポジティブな剥離面とその打面があり，本剥片が剥片素材の石核から剥離されたことを示している。

５　C61－Ｅブロック（第155～157図，第43・44表）

１）ブロックの概要

C61-Ｅブロックは，調査範囲西南のC61-01・02・11・12グリッドに位置する。ブロックの立地は，南に向かって開く谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点までの距離は10ｍである。

ブロックの規模と形状は，直径３ｍの範囲に７点の石器が散漫に分布する。出土層位はⅦ層上部を中心としており，各石器は40㎝ほどの高低差をもって南に下って包含されている（第155・156図）。

ブロックは，ナイフ形石器１点，剥片６点の合計７点で構成される。石材は，安山岩１点，安山岩（トロトロ石）２点，頁岩２点，チャート１点，ホルンフェルス１点である。

２）母岩の特徴と内容

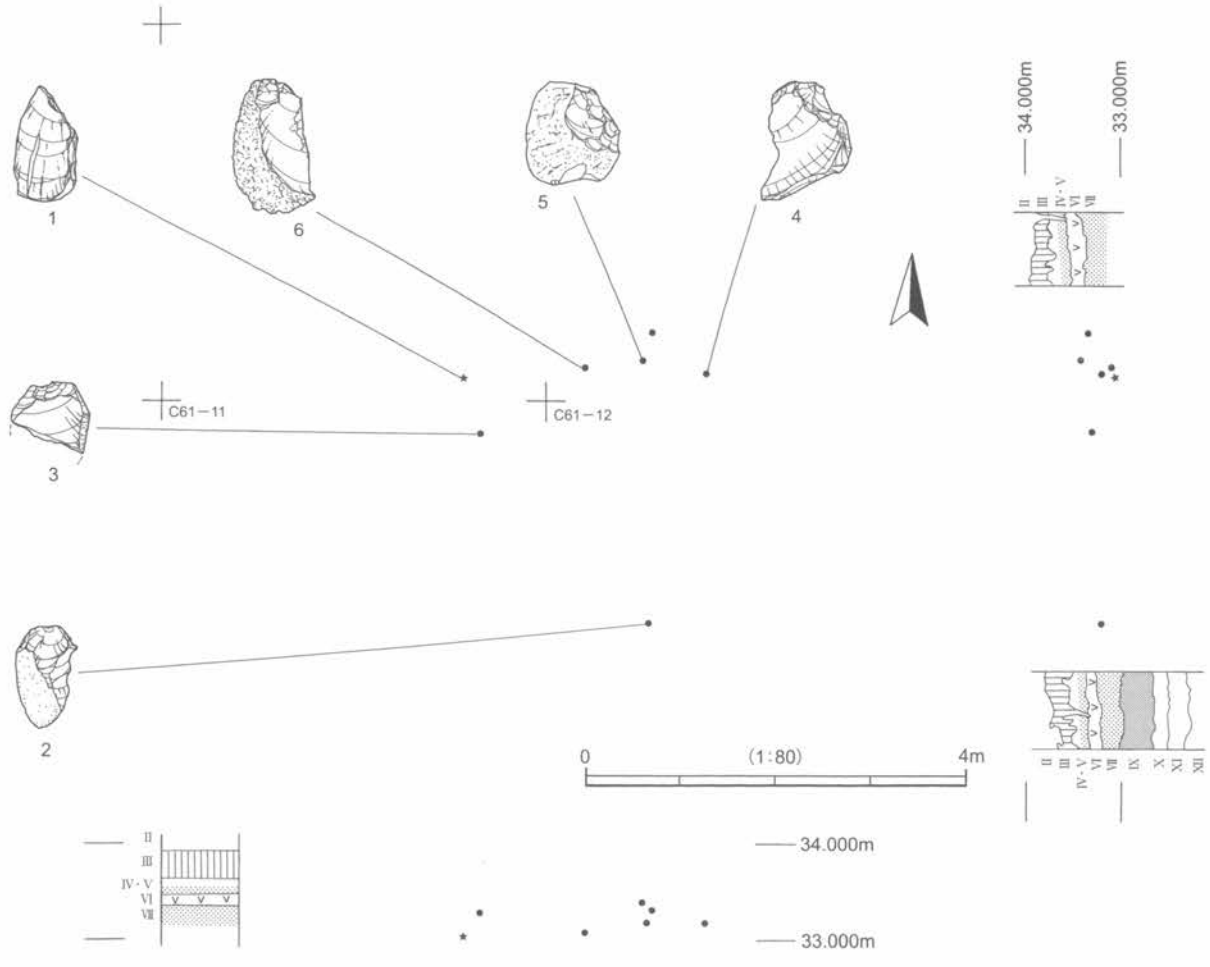
本ブロックでは３母岩を識別した。内訳は，安山岩２母岩（C61-⑧・⑨），チャート１母岩（C61-⑦）で，いずれも単独資料，ないしはそれに類する剥片生産の痕跡をもたないものである。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は57％（４/７点）である。

・C61-⑦：自然面と節理は褐色，内部は青灰色のチャートである。ナイフ形石器１点（6.5ｇ）の単独資料である。
・C61-⑧：灰白色に風化した軟質の安山岩である。剥片２点（合計22.7ｇ）で構成される。
・C61-⑨：青みを帯びた黒灰色の安山岩である。剥片１点（13.2ｇ）の単独資料である。

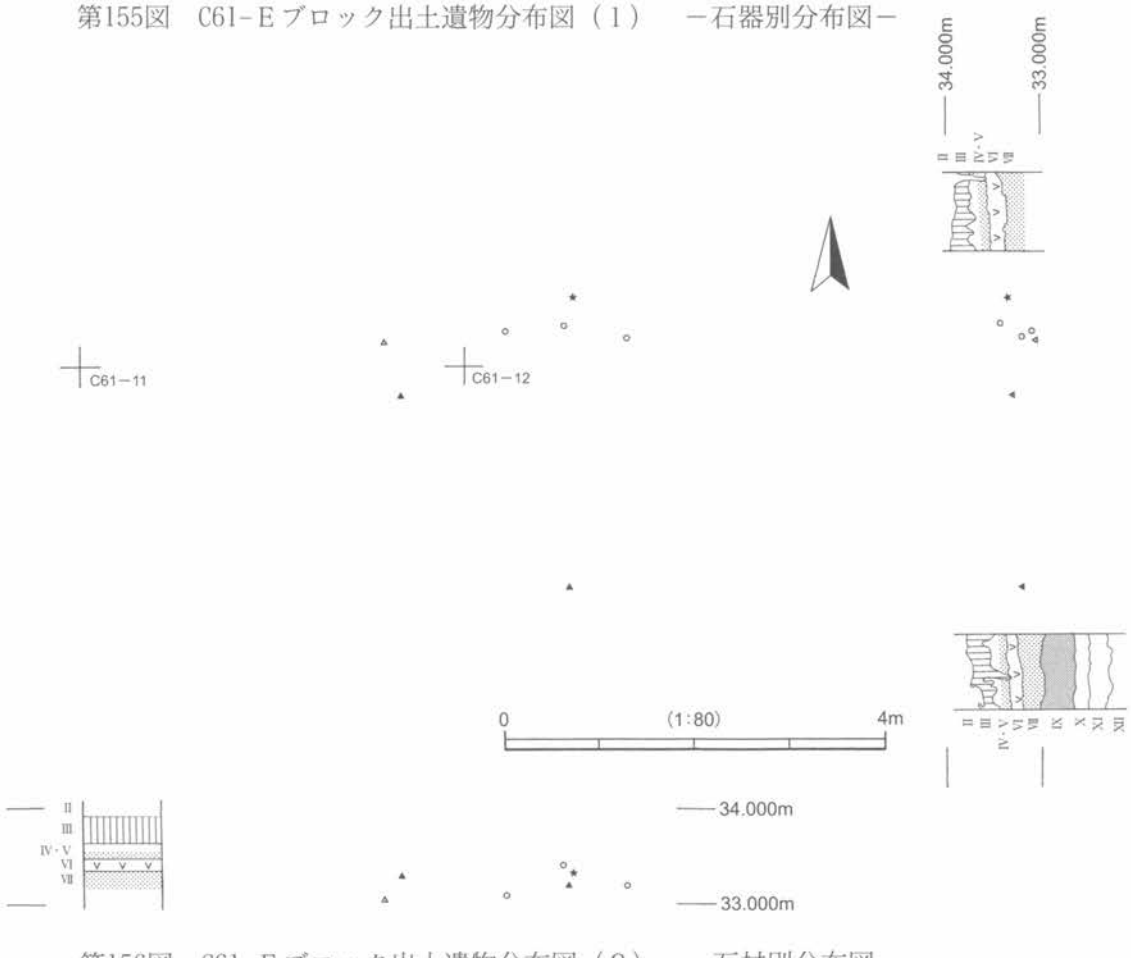
なお，母岩分類できなかった資料に頁岩の剥片２点（合計8.3ｇ），ホルンフェルス１点（1.3ｇ）がある。

３）出土遺物（第157図）

１は，チャートの不定型な剥片を素材としたナイフ形石器である。右側縁に急角度の調整加工を行って



第155図　C61-Eブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



第156図　C61-Eブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－

いる。素材剥片の打面は，調整加工により除去されている。

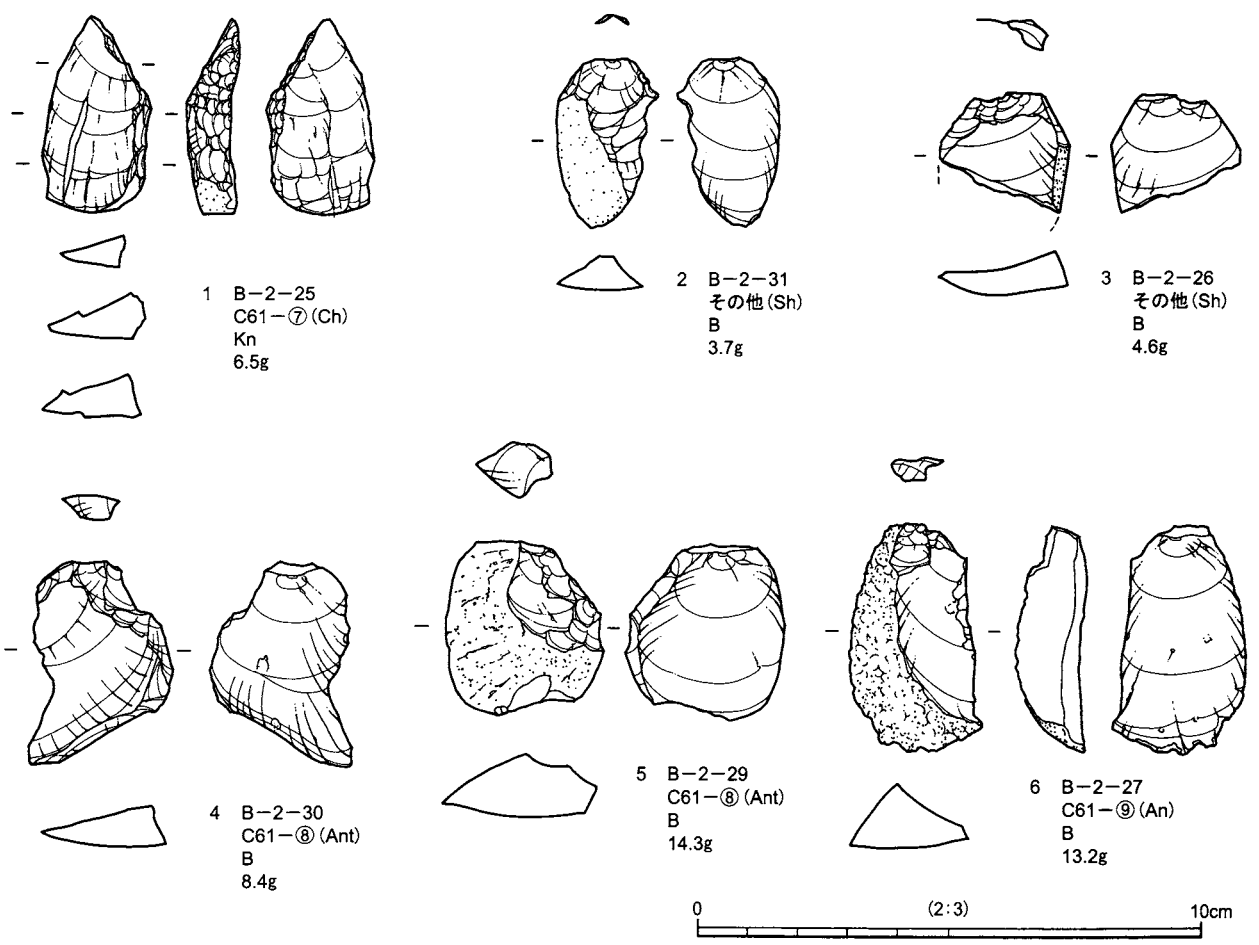
２～６は，安山岩及び頁岩の不定型な剥片である。

第43表　C61-Eブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C61-⑦(Ch)	1																					1		1
C61-⑧(Ant)																			2			2		2
C61-⑨(An)																			1			1		1
その他(Sh)																			2			2		2
その他(Ho)																			1			1		1
合　計	1																		6			7		7

第44表　C61-Eブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
安山岩(An)																			1			1		1
安山岩(Ant)																			2			2		2
頁岩(Sh)																			2			2		2
チャート(Ch)	1																					1		1
ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ(Ho)																			1			1		1
合　計	1																		6			7		7



第157図　C61-Eブロック出土遺物実測図

第６節　第６文化層

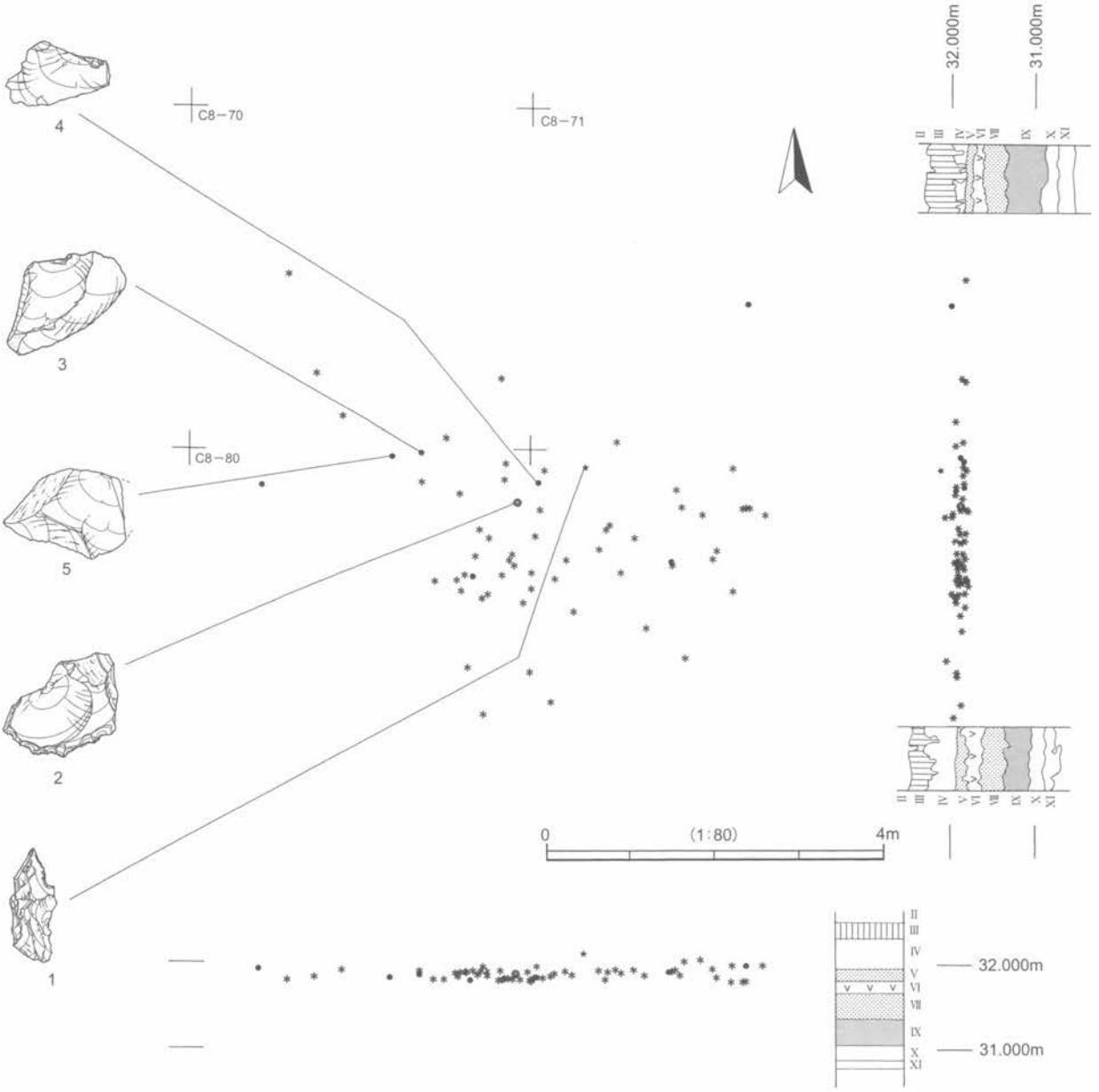
第６文化層は，立川ローム層のハードローム層上部（Ⅴ～Ⅳ層）からソフトローム層下部（Ⅲ層下部）にかけて包含される石器群である。C8-A，C17-C・D，C21-A，C23-E・G・H・I，C58A-A，C61-A・B・Cブロックの12か所が該当する。

1　C8-Aブロック（第158～161図，第45～47表）

1）ブロックの概要

C8-Aブロックは，調査範囲東南のC８－70・71・80・81グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の南西に向かって開く谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点までの距離は12mである。

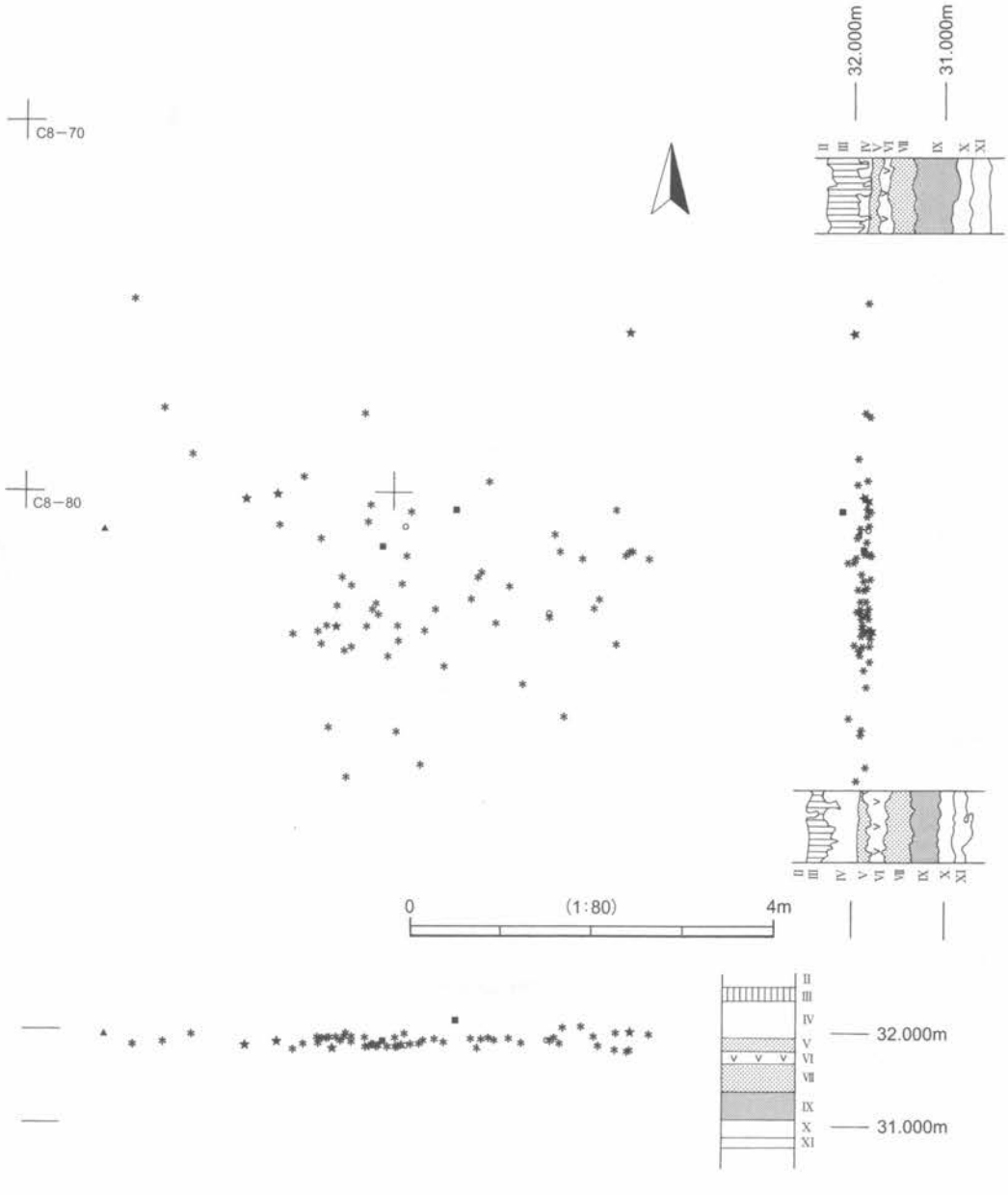
ブロックの規模と形状は，長軸６m，短軸４mの範囲に石器・礫65点が満遍なく分布する。これは，小



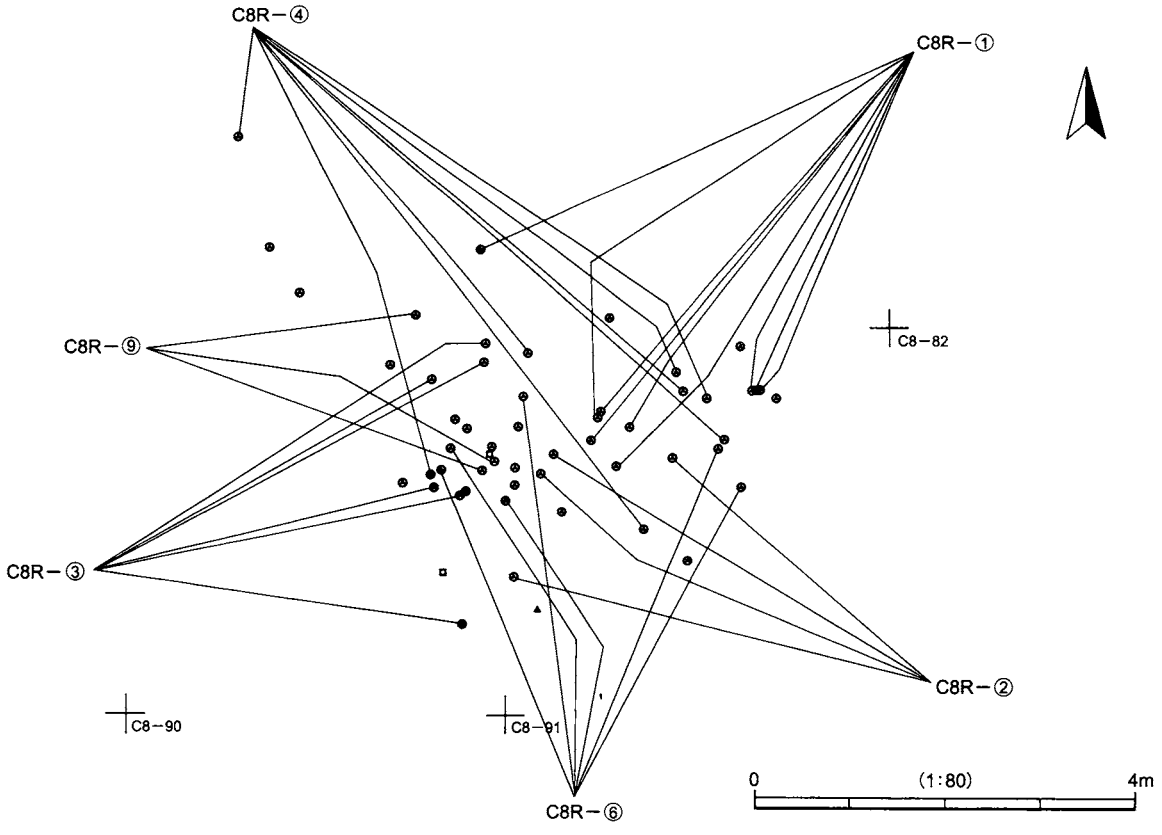
第158図　C8-Aブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－

規模で散漫な石器ブロックと礫群とが平面的に重なり合った状況である。石器と礫の分布に偏りは見られない。出土層位はⅣ層下部を中心としており，各石器は20㎝ほどの高低差をもって，水平に包含されている（第158～160図）。

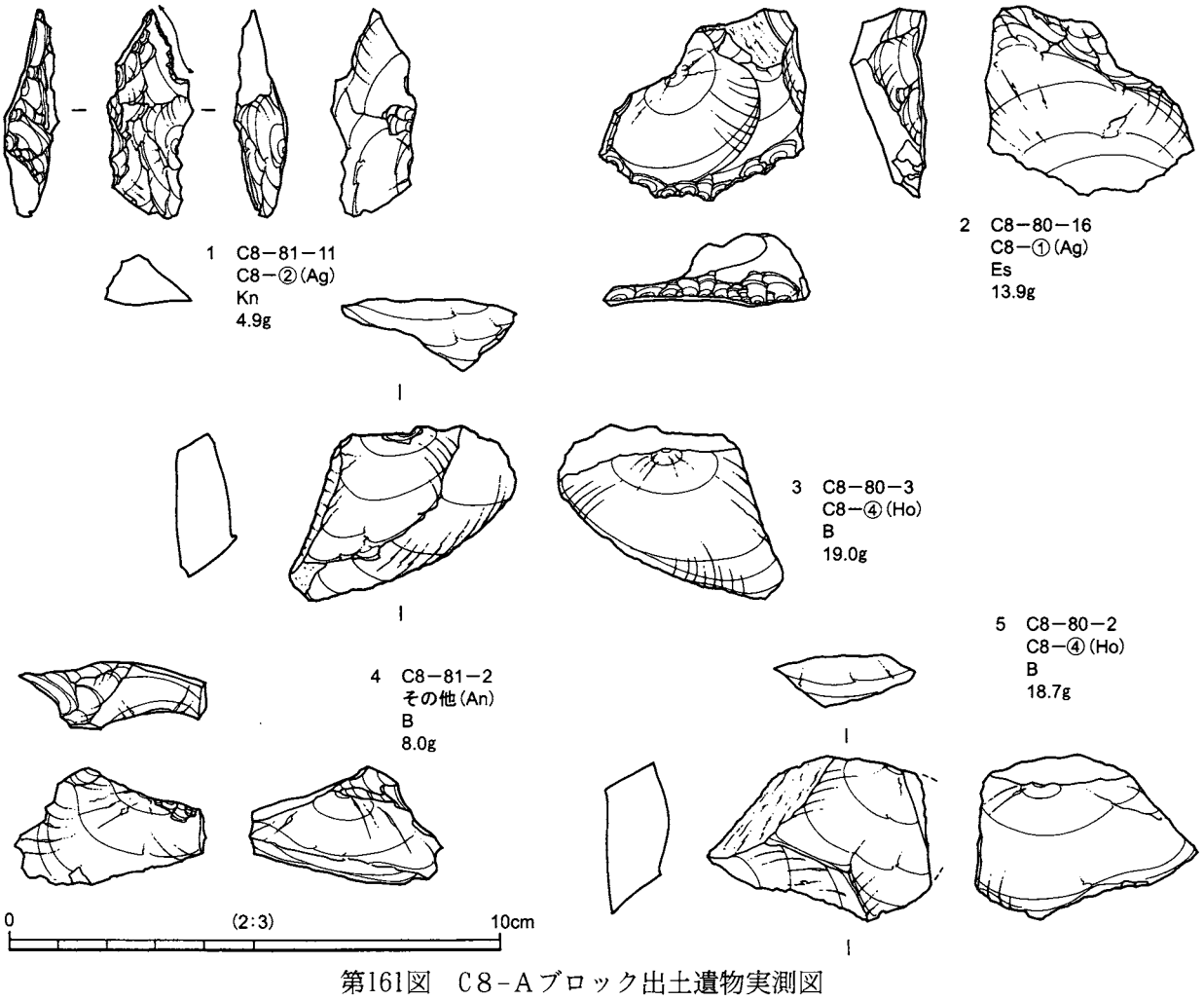
ブロックは，ナイフ形石器１点，掻器１点，剥片７点，礫56点の合計65点で構成される。石器石材は，安山岩２点，頁岩１点，ホルンフェルス４点，メノウ２点，礫石材は，頁岩１点，砂岩53点，不明の火成岩２点である。石器は単独資料ないしはこれに類するもので構成され，本ブロックでは，石器の製作作業を行った形跡はない。礫は，母岩分類のできたものが40点（９母岩），母岩の不明なものが16点である。母岩分類のできた礫を見ると，①：原石は，概ね拳ほどの大きさが中心であること，②：遺存度合いは，完形に近いものが２個，2/3以上が２個，2/3～1/3が３個，1/3以下が２個であること，③：多くの個体が割れ面も被熱している可能性が高いこと，④：平均40ｇほどの大きさに破砕されていることが挙げられる。



第159図　C８-Aブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図（１）－



第160図　C8-Aブロック出土遺物分布図（3）　－石材別分布図（2）－



第161図　C8-Aブロック出土遺物実測図

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは４母岩を識別した。内訳は，頁岩１母岩（C8-③），メノウ２母岩（C8-①・②），ホルンフェルス１母岩（C8-④）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は56%（5/9点）である。

・C8-①：淡黄灰色半透明の地に白濁した斑のあるメノウである。掻器１点（13.9g）の単独資料である。

・C8-②：淡黄色半透明の地に白濁した斑があるメノウである。C8-①よりもやや黄色みが強く，透明観がある。ナイフ形石器１点（4.9g）の単独資料である。

・C8-③：褐色で硬質緻密な東北産頁岩である。剥片１点（0.6g）の単独資料である。

・C8-④：淡黒灰色のホルンフェルスである。石質は粗く黒色の線が入っている。剥片２点（合計37.7g）で構成される。

なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩の剥片２点（合計9.3g），ホルンフェルスの剥片２点（合計1.3g）がある。

3）出土遺物（第161図）

１は，メノウの横長剥片を素材とするナイフ形石器である。素材の打面部と末端部に粗い調整加工を行い，縦長の切出形に仕上げている。先端部右側に刃こぼれが見られる。

２は，メノウの不定型な剥片を素材とする掻器である。刃部は，素材の主要剥離面側に付けられている。

３～５は，ホルンフェルス及び安山岩の横長剥片である。

第45表　C8-Aブロック母岩別石器組成表

母岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C8-①(Ag)					1																	1		1
C8-②(Ag)	1																					1		1
C8-③(Sh)																			1			1		1
C8-④(Ho)																			2			2		2
その他(An)																			2			2		2
その他(Ho)																			2			2		2
合　計	1				1														7			9		9

第46表　C8-Aブロック母岩別礫一覧表

母　岩	点数	重量	母　岩	点数	重量	母　岩	点数	重量
C8R-①(Sa)	9	187.8	C8R-⑥(Sa)	6	61.5	その他(Sa)	15	64.1
C8R-②(Sa)	5	122.5	C8R-⑦(不明)	1	146.1	合　計	56	1694.4
C8R-③(Sa)	6	192.4	C8R-⑧(不明)	1	52.3			
C8R-④(Sa)	8	216.8	C8R-⑨(不明)	3	279.2			
C8R-⑤(Sa)	1	371.5	その他(Sh)	1	0.2			

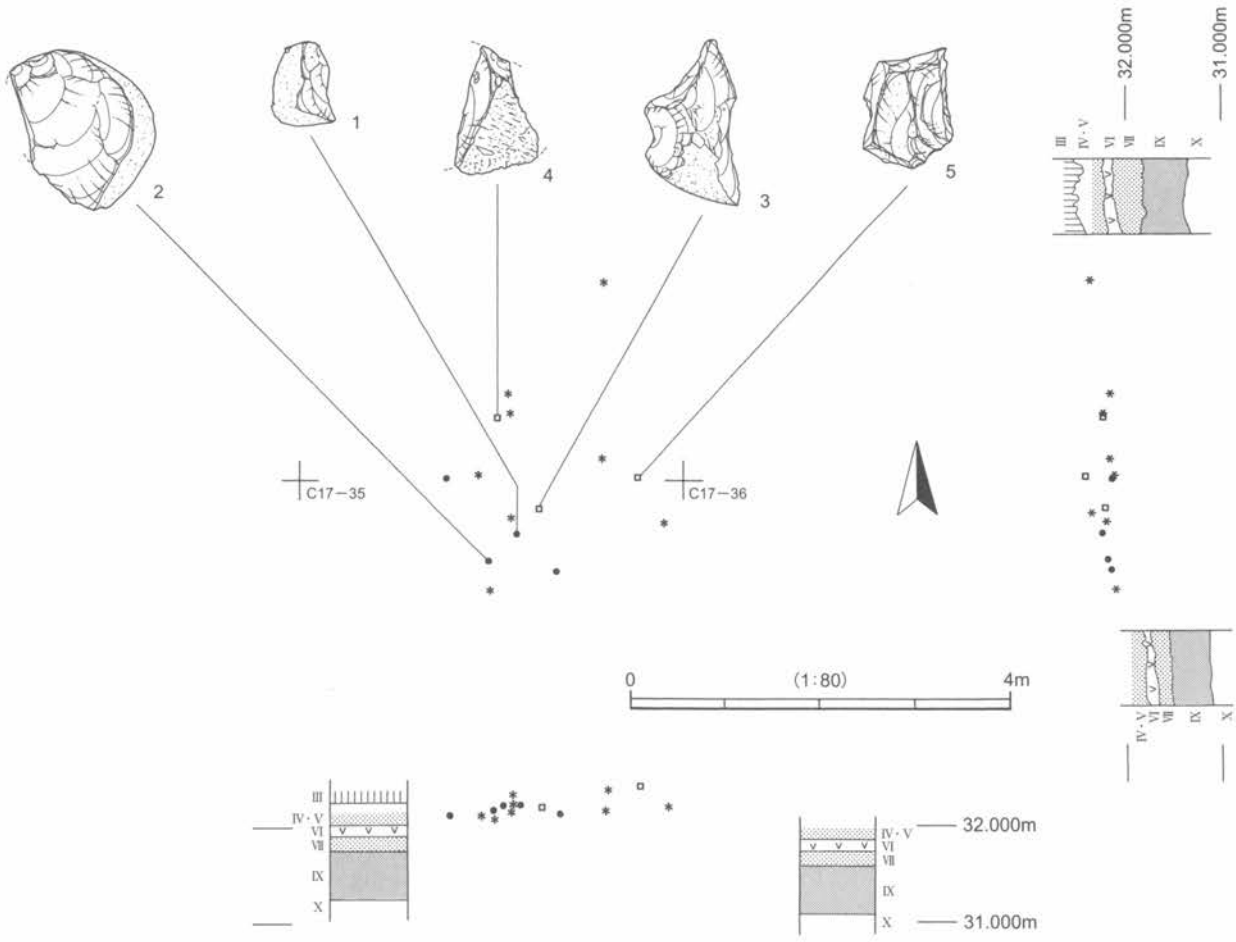
第47表　C8-Aブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
安山岩(An)																			2			2		2
頁岩(Sh)																			1			1	1	2
砂岩(Sa)																							53	53
ホルンフェルス(Ho)																			4			4		4
メノウ(Ag)	1				1																	2		2
不明																							2	2
合　計	1				1														7			9	56	65

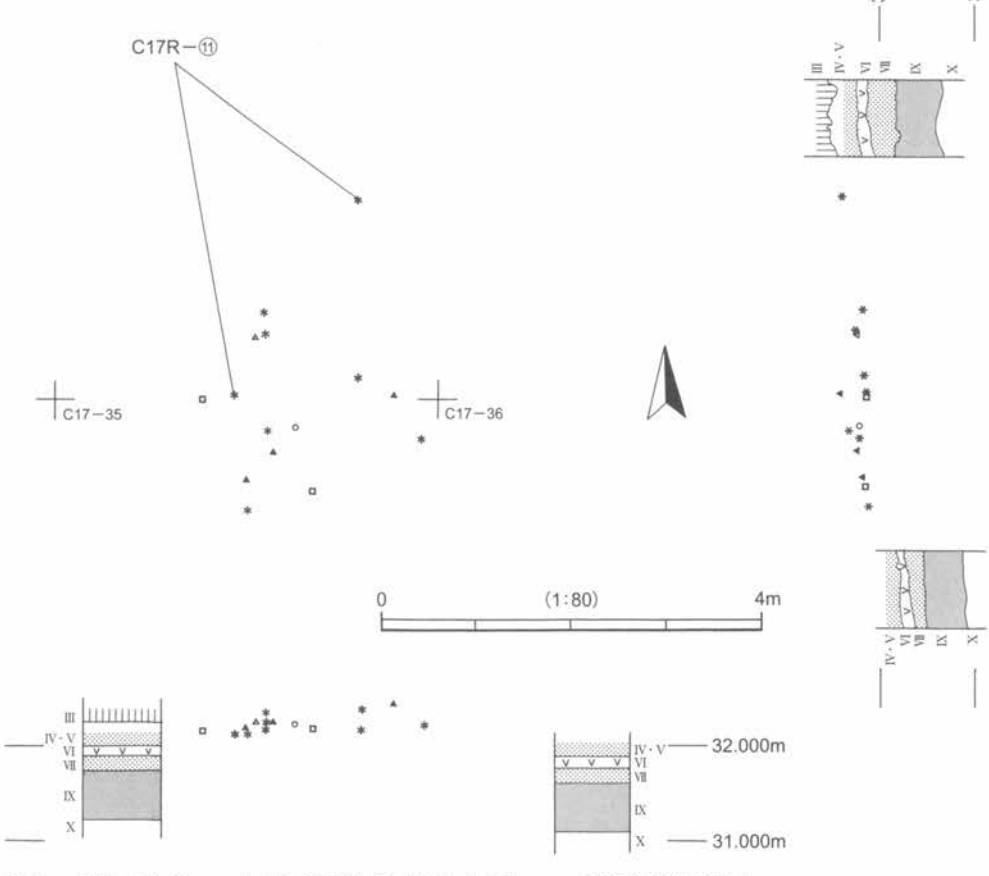
2　C17-Cブロック（第162～164図，第48・49表）

1）ブロックの概要

C17-Cブロックは，調査範囲東側のC17-25・35グリッドに位置する。ブロックの立地は，南西に向かって開く谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点までの距離は10mである。



第162図　C17-Cブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



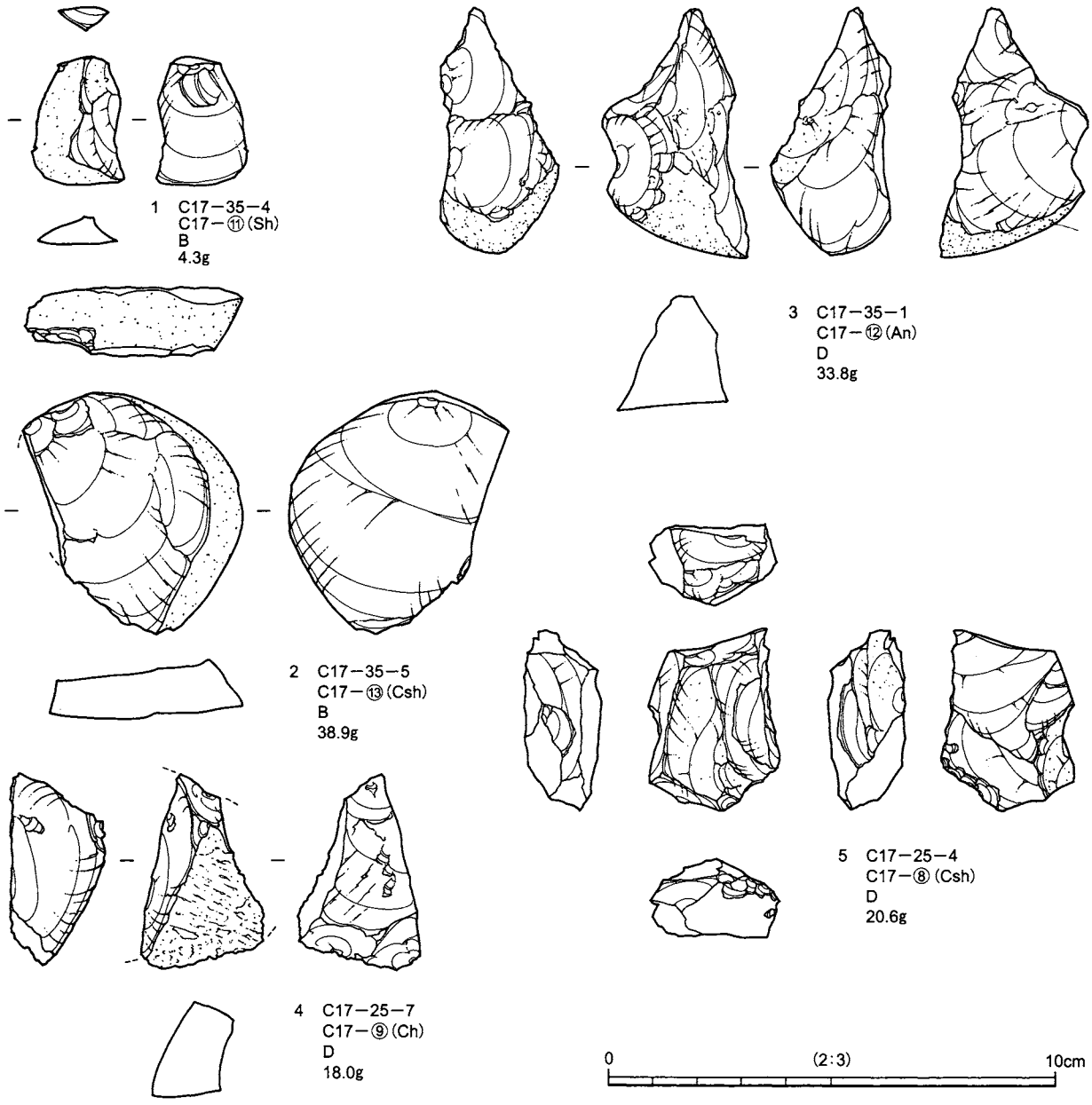
第163図　C17-Cブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－

ブロックの規模と形状は，直径2.5mの範囲に14点の石器・礫が散漫に分布し，さらに礫１点が２mほど離れて見られる。出土層位はⅣ・Ⅴ層を中心としており，各石器は30cmほどの高低差をもって，南に下って包含されている（第162・163図）。

ブロックは，剥片４点，石核３点，礫８点の合計15点で構成される。石器石材は，安山岩１点，流紋岩２点，頁岩１点，珪質頁岩２点，チャート１点，礫石材は，安山岩１点，流紋岩２点，珪質頁岩１点，チャート１点，砂岩３点である。礫は，母岩分類できたものが５点（４母岩），母岩の不明なものが３点ある。このうち３母岩は拳よりも一回りほど小振りの円礫で，完形品である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは６母岩を識別した。内訳は，安山岩１母岩（C17-⑫），流紋岩１母岩（C17-⑩），頁岩



第164図　C17-Cブロック出土遺物実測図

第48表　C17-Cブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C17-⑧(Csh)																					1	1		1
C17-⑨(Ch)																					1	1		1
C17-⑩(Rh)																			2			2		2
C17-⑪(Sh)																			1			1		1
C17-⑫(An)																					1	1		1
C17-⑬(Csh)																			1			1		1
C17R-⑩(Csh)																							1	1
C17R-⑪(Sa)																							2	2
C17R-⑫(An)																							1	1
C17R-⑬(Rh)																							1	1
その他(Rh)																							1	1
その他(Ch)																							1	1
その他(Sa)																							1	1
合　計																			4		3	7	8	15

第49表　C17-Cブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
安山岩(An)																					1	1	1	2
流紋岩(Rh)																			2			2	2	4
頁岩(Sh)																			1			1		1
珪質頁岩(Csh)																			1		1	2	1	3
チャート(Ch)																					1	1	1	2
砂岩(Sa)																							3	3
合　計																			4		3	7	8	15

1母岩（C17-⑪），珪質頁岩2母岩（C17-⑧・⑬），チャート1母岩（C17-⑨）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（7/7点）である。

・C17-⑧：節理面が橙褐色，内部は灰緑色の嶺岡産珪質頁岩である。石核1点（20.6g）の単独資料である。

・C17-⑨：自然面は褐色を帯びた灰色で，内部は青灰色のチャートである。石核1点（18.0g）の単独資料である。

・C17-⑩：自然面は灰色，内部は黒灰色で斑晶の多い流紋岩である。剥片2点（合計40.4g）で構成される。

・C17-⑪：淡灰緑色の頁岩である。剥片1点（4.3g）の単独資料である。

・C17-⑫：黄色みを帯びた黒灰色の安山岩である。石核1点（33.8g）の単独資料である。

・C17-⑬：自然面，内部ともに黄褐色の珪質頁岩である。剥片1点（38.9g）の単独資料である。

3）出土遺物（第164図）

1・2は，頁岩及び珪質頁岩の不定型な剥片である。3～5は，いずれも剥片を素材とし，小型不定型の剥片を生産する石核である。

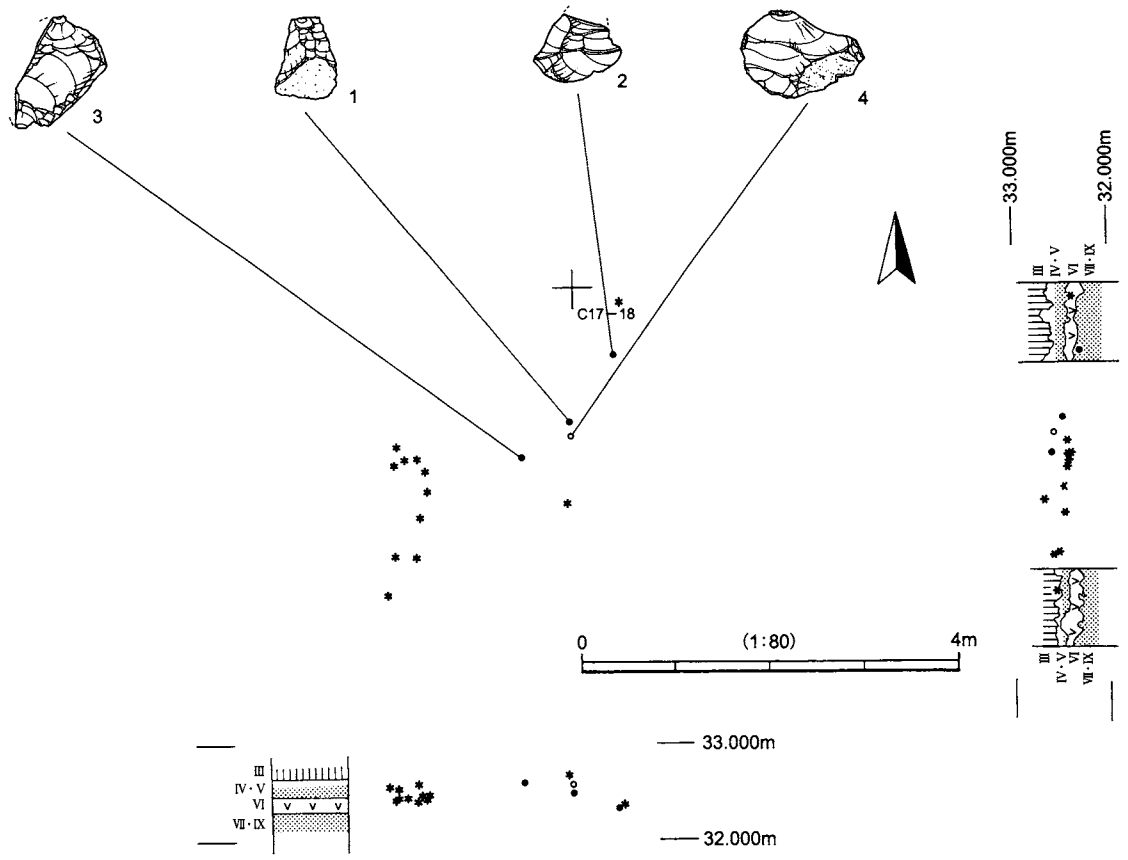
3　C17-Dブロック（第165～167図，第50・51表）

1）ブロックの概要

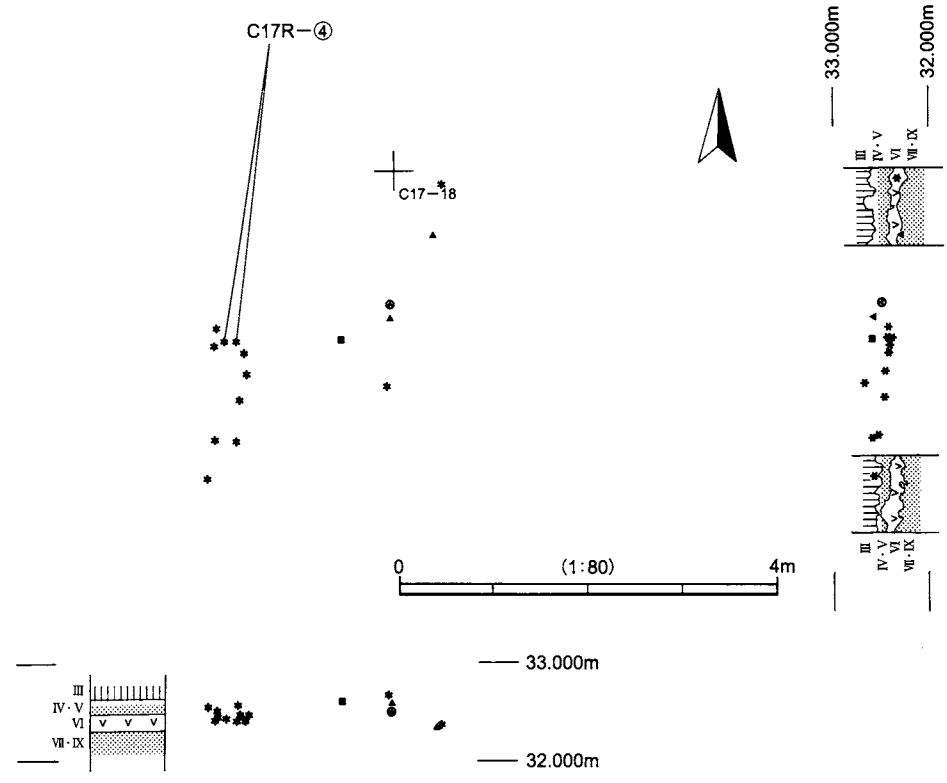
C17-Dブロックは，調査範囲東側のC17-17・18グリッドに位置する。ブロックの立地は，南西に向かって開く谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点までの距離は14mである。

ブロックの規模と形状は，長軸4m，短軸2mの範囲に石器・礫16点が散漫に分布する。出土層位はⅣ・Ⅴ層を中心としており，各石器は40cmほどの高低差をもって，北に緩やかに下って包含されている（第165・166図）。

ブロックは，使用痕ある剥片1点，剥片3点，礫12点の合計16点で構成されている。石器石材は，頁岩



第165図　C17-Dブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



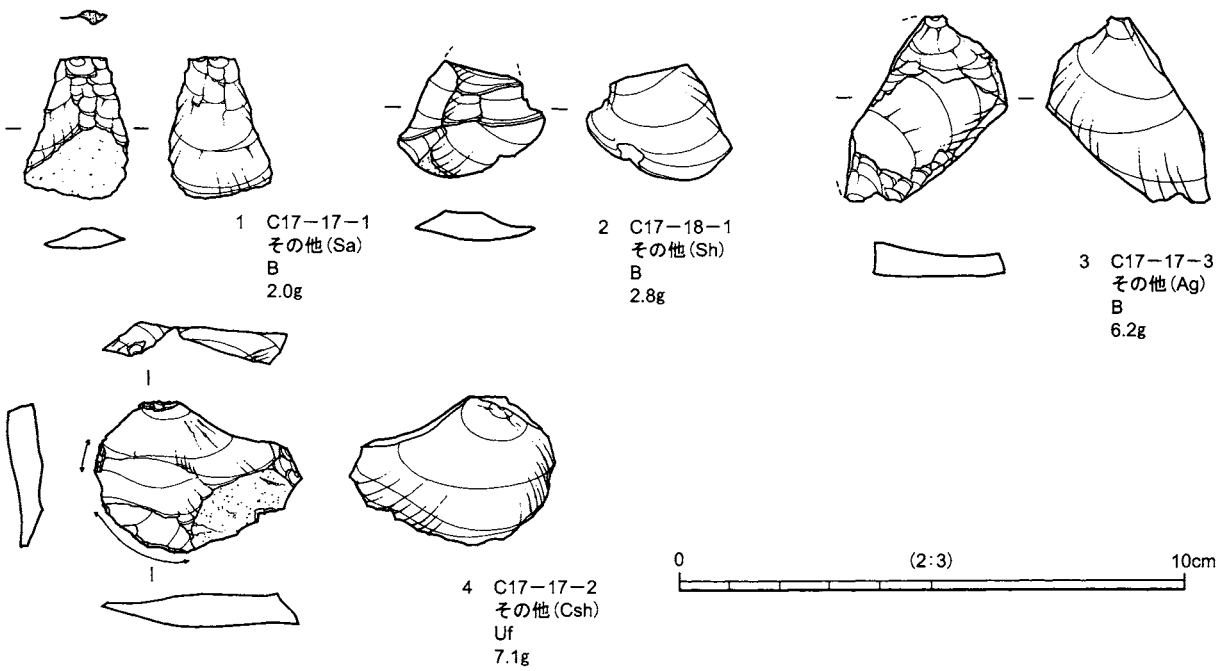
第166図　C17-Dブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－

第50表　C17-Dブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
その他(Sh)																			1			1		1
その他(Csh)											1											1		1
その他(Sa)																			1			1		1
その他(Ag)																			1			1		1
C17R-①(Ch)																							1	1
C17R-②(Ch)																							1	1
C17R-③(Sa)																							1	1
C17R-④(Rh)																							2	2
C17R-⑤(不明)																							1	1
C17R-⑥(Ch)																							1	1
C17R-⑦(Ch)																							1	1
C17R-⑧(Ch)																							1	1
C17R-⑨(Sa)																							1	1
その他(Ch)																							1	1
その他(Sa)																							1	1
合　計											1								3			4	12	16

第51表　C17-Dブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
流紋岩(Rh)																							2	2
不明																							1	1
頁岩(Sh)																			1			1		1
珪質頁岩(Csh)											1											1		1
チャート(Ch)																							6	6
砂岩(Sa)																			1			1	3	4
メノウ(Ag)																			1			1		1
合　計											1								3			4	12	16



第167図　C17-Dブロック出土遺物実測図

1点（2.8g），珪質頁岩1点（7.1g），砂岩1点（2.0g），メノウ1点（6.2g），礫石材は，流紋岩2点，不明の火成岩1点，チャート6点，砂岩3点である。石器は，いずれも母岩分類できなかった。礫は，母岩分類できたものが10点（9母岩），母岩の不明なものが2点ある。このうち8母岩が完形のままで，長軸が3cm～5cmほどの小型の円礫である。

2）出土遺物（第167図）

4は，横長剥片を用いた使用痕ある剥片である。左側縁に刃こぼれがある。石材は，自然面が橙褐色，内部が灰緑色の嶺岡産珪質頁岩である。

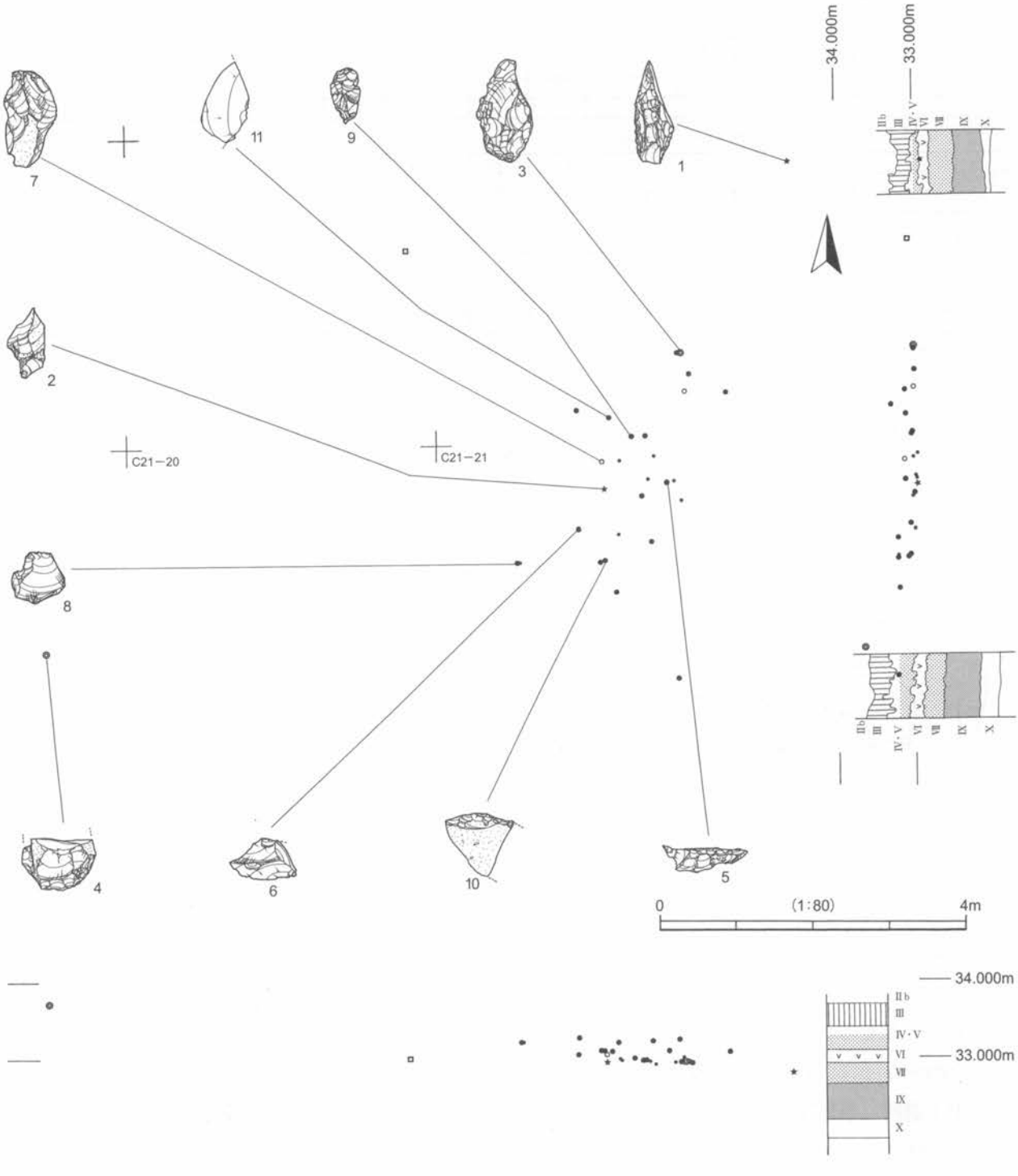
1～3は，不定型の剥片である。石材は，1は淡灰緑色で質の粗い砂岩，2は灰緑色できめの細かな頁

岩，３は明橙褐色の地に黒い縞が入るメノウである。

4　C21-Aブロック（第168～171図，第52・53表）

1）ブロックの概要

C21-Aブロックは，調査範囲北側のC21-10～12・21，C28-29グリッドに位置する。ブロックの立地は，北東へ向かって下る緩斜面である。



第168図　C21-Aブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－

ブロックの規模と形状は，長軸４ｍ，短軸２ｍの範囲に26点の石器がまとまり，数m離れてナイフ形石器，掻器，剥片，石核各１点が分布する。出土層位はⅣ・Ｖ層を中心にしており，各石器は40cmほどの高低差をもって，わずかに東に下って包含されている（第168・169図）。

ブロックは，ナイフ形石器２点，掻器２点，使用痕ある剥片１点，加工痕ある剥片１点，剥片16点，砕片７点，石核１点の合計30点で構成される。石材は，黒曜石25点，安山岩１点，珪質頁岩１点，ホルンフェルス３点である。黒曜石の中には草刈遺跡Ｇ区C26-Ａブロック（A3・A4ブロック）と接合する資料があり，また同一母岩も見られることから，両ブロック相互の密接な関係が窺える。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは４母岩を識別した。内訳は，黒曜石２母岩（C21-①・④），珪質頁岩１母岩（C21-③），ホルンフェルス１母岩（C21-②）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は50％（15/30点）である。

・C21-①：無色透明の地に，青みを帯びた黒色を呈する幅広の縞が入る良質な黒曜石である。肉眼的には，信州産と推定される。石器群の内訳は，掻器１点，使用痕ある剥片１点，剥片８点の合計10点（21.2ｇ）である。中・小型で不定型の剥片が多いことから，本ブロック内で剥片生産を実施したと考えられるが，自然面を残す剥片はわずかであること，石核が見られないことから，剥片生産の半ばの資料であろう。接合資料は，剥片１点（1.6ｇ）が，草刈遺跡Ｇ区のC26-Ａブロックの資料２点と接合する。

・C21-②：淡黄褐色のホルンフェルスである。石質は粗く，褐色の縞がヒビのように入っている。接合資料から見て，原石は拳大の円礫と推定できる。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片１点，石核１点の合計３点（283.6ｇ）で，相互に接合する。

・C21-③：灰色の地に黒色の細い縞が入る珪質頁岩で，嶺岡産と推定される。ナイフ形石器１点（5.7ｇ）の単独資料である。

・C21-④：透明の地に淡い黒色の縞があり，白い夾雑物が少量入る黒曜石である。光沢があり，良質である。本ブロックではナイフ形石器１点（2.3ｇ）の単独資料であるが，草刈遺跡Ｇ区C26-Ａブロックの資料と接合する。

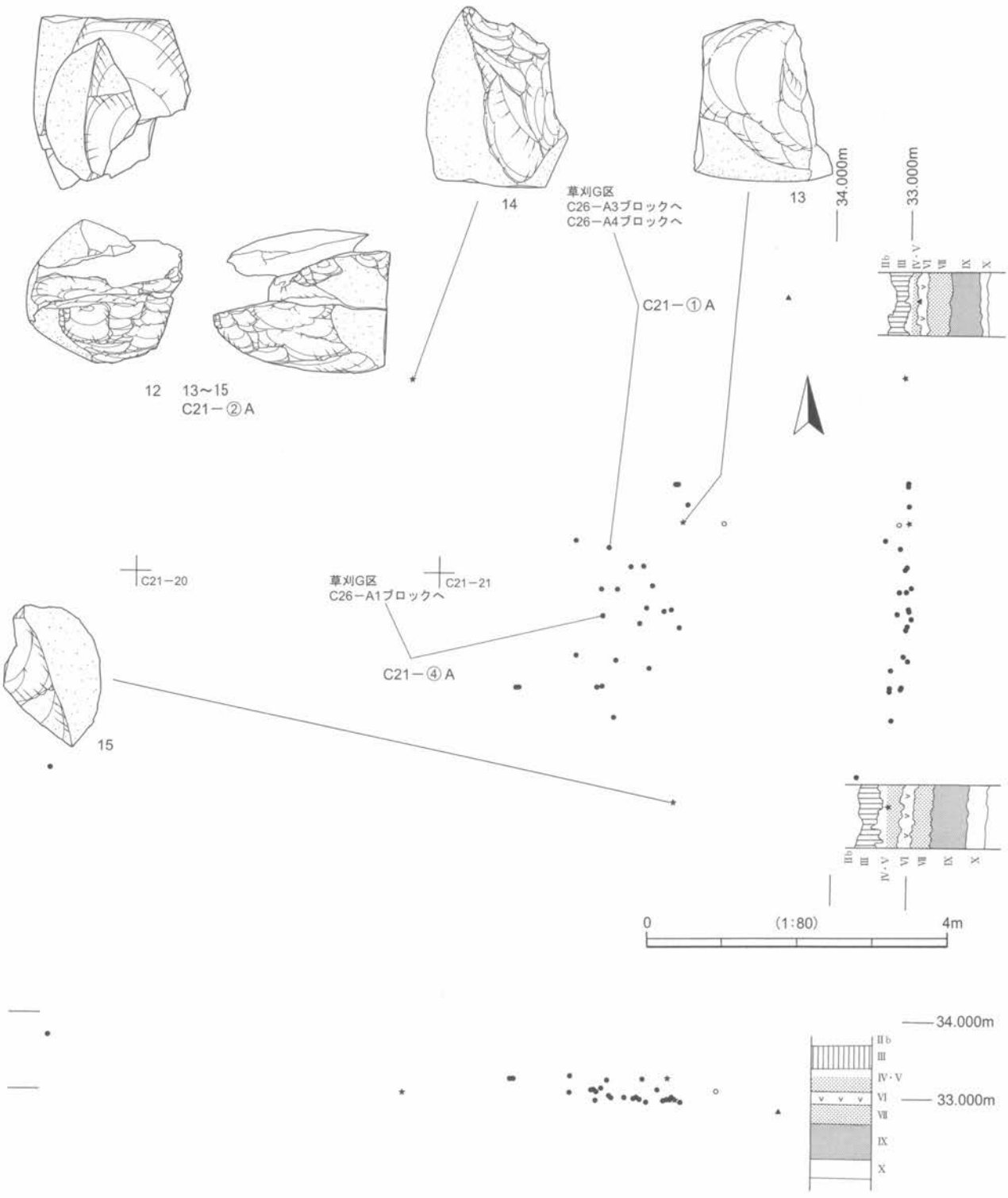
なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石の掻器１点，剥片６点，砕片７点（合計13.7ｇ），安山岩の剥片１点（0.2ｇ）がある。黒曜石は，総じて，青みを帯びた黒色の良質なもので，C21-①と同一母岩が含まれている可能性がある。少なくとも同一原産地であろう。

３）出土遺物（第170図）

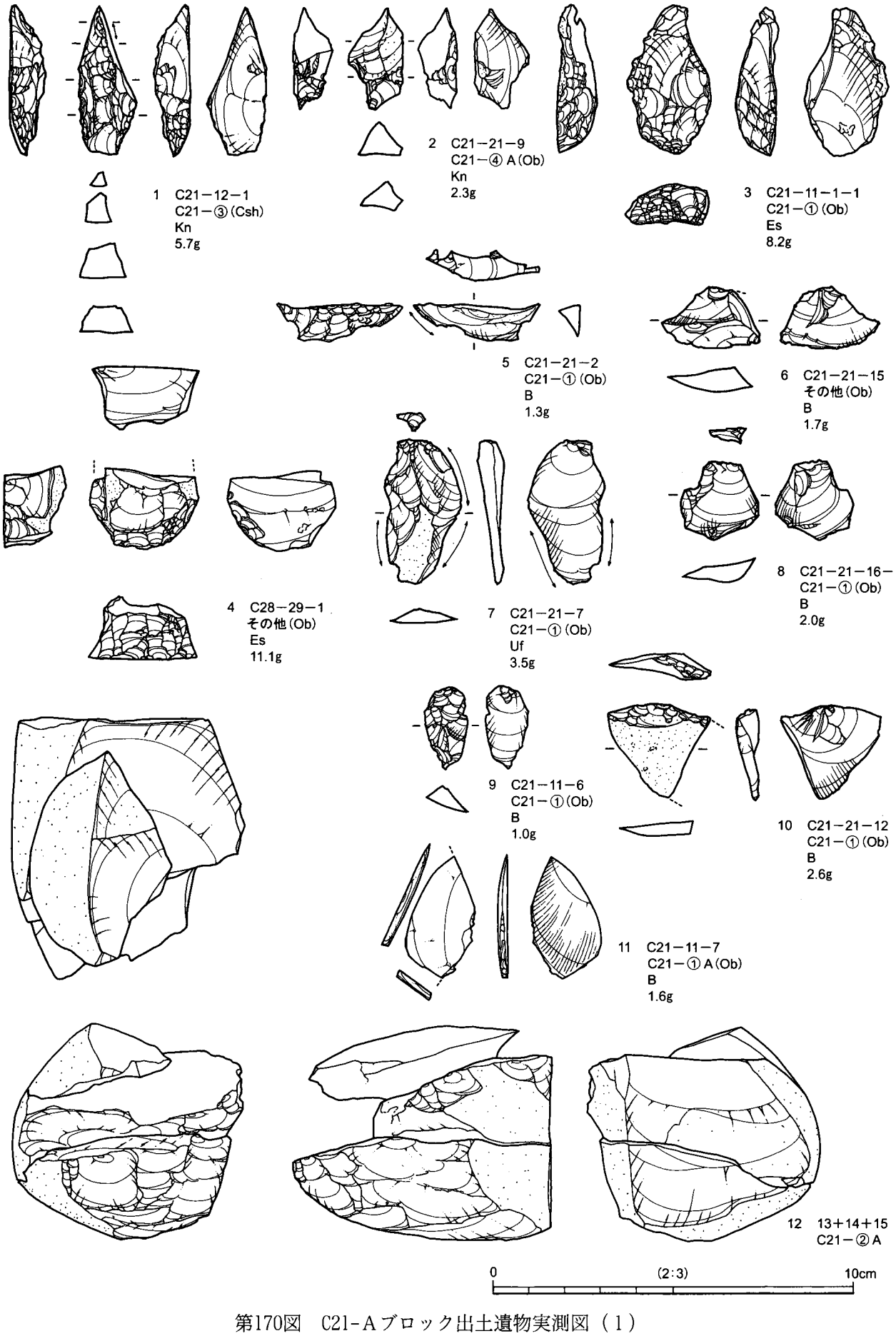
１は，珪質頁岩の横長剥片を素材とする厚手のナイフ形石器である。打面部と末端部を裏面から調整して基部を作り出すいっぽう，上半部は右側面を打面として平坦に調整している。刃部は表裏両面と直交し，横断面形は背の高い三角形である。２は，黒曜石の不定型の剥片を切断し，末端側を素材としたナイフ形石器である。切断面とそれに対向する端部に調整加工を行い，切出形に類する形態に仕上げている。本石器は，草刈遺跡Ｇ区の石核と接合する。

３は，黒曜石の不定型な剥片を素材とする掻器である。素材の打面部周辺を切断した後，主要剥離面側に急角度の調整加工を行い，刃部を作り出している。４も黒曜石の掻器である。主要剥離面を打面として，急角度の刃部を作り出している。上半部は欠損する。

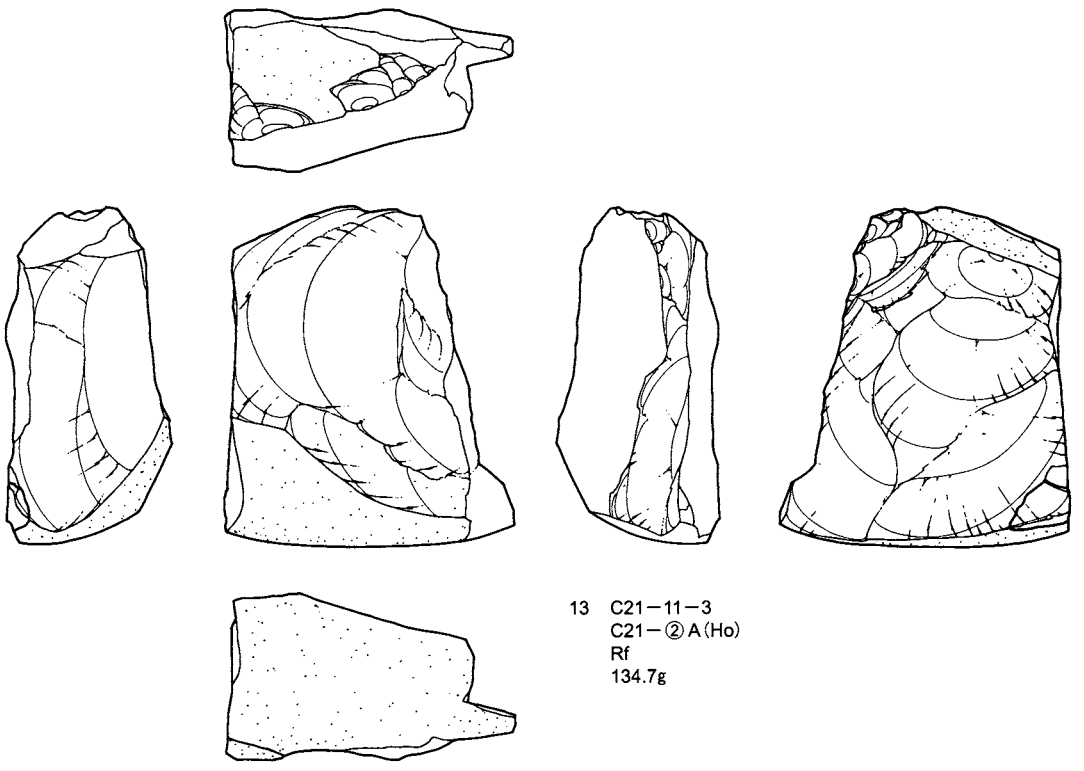
7は，縦長剥片を利用した使用痕ある剥片，５・６・８～11は，不定型の剥片である。石材は，すべて黒曜石である。なお，11は剥片の断片であるが，草刈遺跡Ｇ区の加工痕ある剥片，剥片と接合して，やや大型の剥片（１個体）になる。



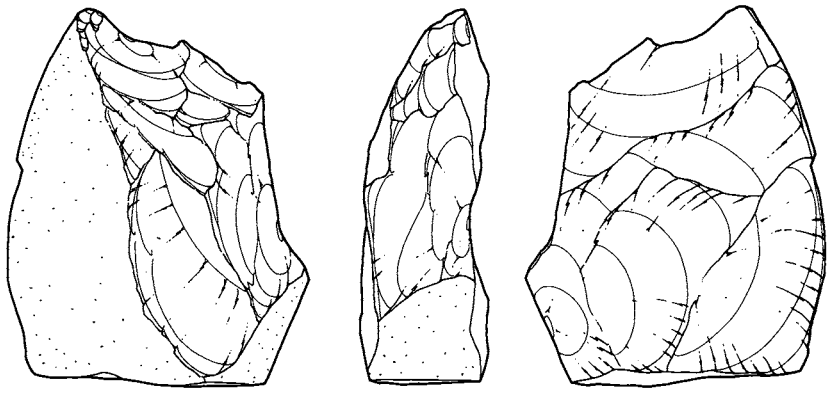
第169図　C21-Aブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－



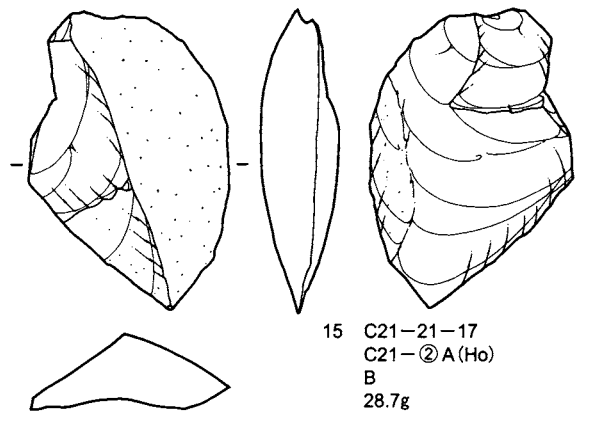
第170図　C21-Aブロック出土遺物実測図（1）



13 C21−11−3
C21−②A(Ho)
Rf
134.7g



14 C21−10−1
C21−②A(Ho)
D
120.2g



15 C21−21−17
C21−②A(Ho)
B
28.7g

0 (2:3) 10cm

第171図　C21-Aブロック出土遺物実測図（2）

第52表　C21-Aブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C21-①(Ob)					1						1								8			10		10
C21-②(Ho)										1									1		1	3		3
C21-③(Csh)	1																					1		1
C21-④(Ob)	1																					1		1
その他(Ob)					1														6	7		14		14
その他(An)																			1			1		1
合　計	2				2					1	1								16	7	1	30		30

第53表　C21-Aブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)	1				2						1								14	7		25		25
安山岩(An)																			1			1		1
珪質頁岩(Csh)	1																					1		1
ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ(Ho)										1									1		1	3		3
合　計	2				2					1	1								16	7	1	30		30

4）接合資料とその関連資料（第170・171図）

・C21-②（第170図12，第171図13～15）　淡黄褐色のホルンフェルスで，加工痕ある剥片１点，剥片１点，石核１点の合計３点で構成される。

12は，加工痕ある剥片１点，剥片１点，石核１点の接合資料である。接合資料から見た剥片剥離作業は，①：実測図12の正面を打面，上面を作業面として剥片数枚を剥離する。その過程で15を剥離する。②：打面を右側面に移動し，13を剥離する。③：実測図14の上面を打面，正面から右側面にかけてを作業面として，小型の剥片を剥離する。

5　C23-Eブロック（第172～180図，第54～56表）

1）ブロックの概要

C23-Eブロックは，調査範囲南側のC23-03・04・12～14グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の南に向かって開く谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点までの距離は20mである。

ブロックの規模と形状は長軸10m，短軸６mの範囲に362点の石器・礫がある。石器は特に集中せず散漫に分布し，礫はC23-13グリッドを中心に，直径４mの範囲に集中する。出土層位は，Ⅳ・Ⅴ層を中心としており，各石器は40cmほどの高低差をもって水平に包含されている（第172・173図）。

ブロックは，尖頭器１点，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片３点，剥片16点，石核２点，礫339点の合計362点で構成される。石器石材は，黒曜石１点，安山岩７点，頁岩10点，珪質頁岩１点，ホルンフェルス４点，礫石材は，流紋岩15点，不明の火成岩１点，頁岩81点，チャート67点，砂岩170点，メノウ５点である。礫は，母岩分類できたものが246点（97母岩），母岩分類できなかったものが93点で，総重量は6,566.6ｇある。また，C23-Gブロックと４母岩（C23R-③・⑤～⑦），C23-Hブロックとは22母岩（C23R-⑪・⑬・⑰・㉓・㉕・㉖・㉘・㊳・㊸・㊾・㊼～㊿・(83)・(84)・(86)・(91)・(92)・(97)・(99)・(100)）が共有関係にある。C23-EブロックとC23-Hブロックで共有するそれぞれの母岩（礫）について，いずれのブロックに多いかを重量によって比べると，22母岩のうち15母岩はC23-Hブロックを主体に分布する。両ブロックにおける礫の総重量がほぼ同じであることから，共有関係にある母岩が一方のブロックに偏ることには意味があると思われる。おそらく，C23-Hブロックの礫群が形成されて以後，同一母岩の一部がC23-Eブロックに持ち出されたのであろう。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは４母岩を識別した。内訳は，黒曜石２母岩（C21-①・④），珪質頁岩１母岩（C21-③），ホルンフェルス１母岩（C21-②）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は50％（15/30点）である。

・C23-⑰：灰色がかった緑色で硬質緻密な頁岩（凝灰岩）である。使用痕ある剥片２点，剥片４点の合計６点（9.8ｇ）で構成され，自然面をもたない小型の剥片群である。同一母岩は，C23-Hブロックに８点がある。

・C23-⑱：灰褐色に風化した安山岩である。原石は，自然面の状態から円礫と考えられるが，大きさは不明である。剥片３点，石核１点の合計４点（36.9ｇ）で構成され，このうち剥片３点（合計28.6ｇ）が表裏で接合する。同一母岩は，C23-Hブロックに３点ある。

・C23-⑲：灰褐色に風化した安山岩で，黒色の細い縞が平行している。C23-⑱に似るが，本母岩の方が自然面の傷が細かく，黒色の縞があることから分離した。原石は小振りの円礫と考えられる。剥片１点，石核１点の合計２点（19.3ｇ）で構成され，相互に接合する。

・C23-㉑：淡灰緑色の地に流れるような灰緑色の縞が入った珪質頁岩である。剥片１点（0.7ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石の尖頭器１点（0.8ｇ），安山岩の剥片１点（0.4ｇ），頁岩の加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片１点，剥片２点（合計17.2ｇ），ホルンフェルスの剥片４点（合計4.2ｇ）がある。黒曜石は，黒灰色不透明で夾雑物を含むもので，栃木県高原山産と考えられる。細かく見ると，黒色と灰色の細い縞が交互に入って構成されている。頁岩は，①：褐色で硬質緻密な東北産（１点），②：黄灰色で比較的硬質なもの（１点），③：被熱によって細かな空洞ができ，本来の性状が不明なもの（２点）がある。

3）出土遺物（第180図）

１は，黒曜石の尖頭器である。縦長剥片を素材として，周囲全体を裏面からの急角度な調整加工（ナイフ形石器のブランティングと同じ）によって，小型の木葉形に仕上げている。素材の打面は除去されている。

３は，頁岩の不定型な剥片を用いた加工痕ある剥片である。右側縁に粗い調整が見られる。２・４・７は，頁岩による不定型の剥片を利用した使用痕ある剥片，５・６は不定型の剥片である。８は，安山岩の石核である。不定型の剥片を石核の素材とし，表裏両面を作業面として，交互剥離によって小型不定型の剥片を生産している。実測図最上段の中央に素材の主要剥離面がある。

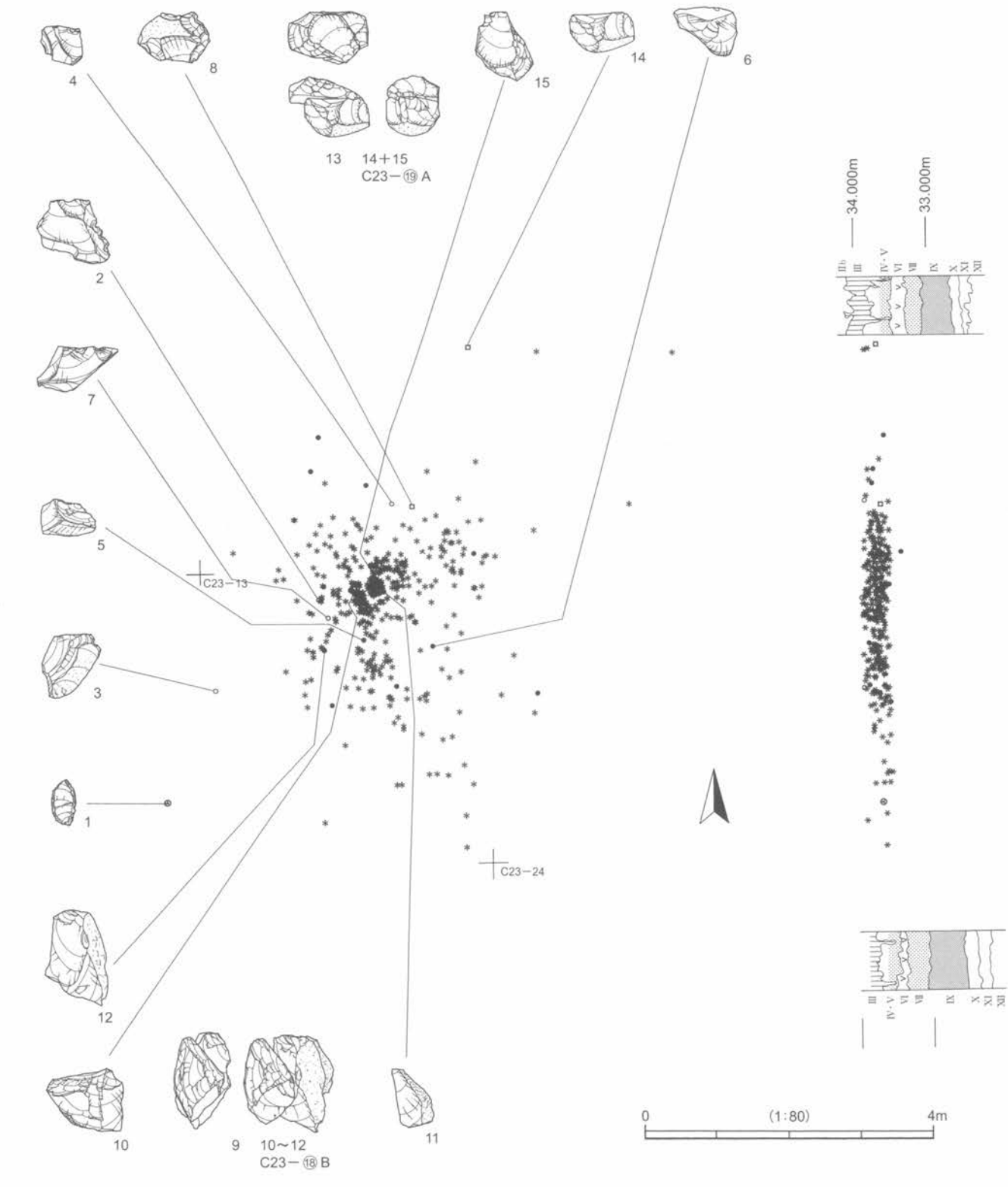
4）接合資料とその関連資料（第180図）

・C23-⑱（第180図９～12）　灰褐色に風化した安山岩で，剥片３点，石核１点の合計４点で構成される。

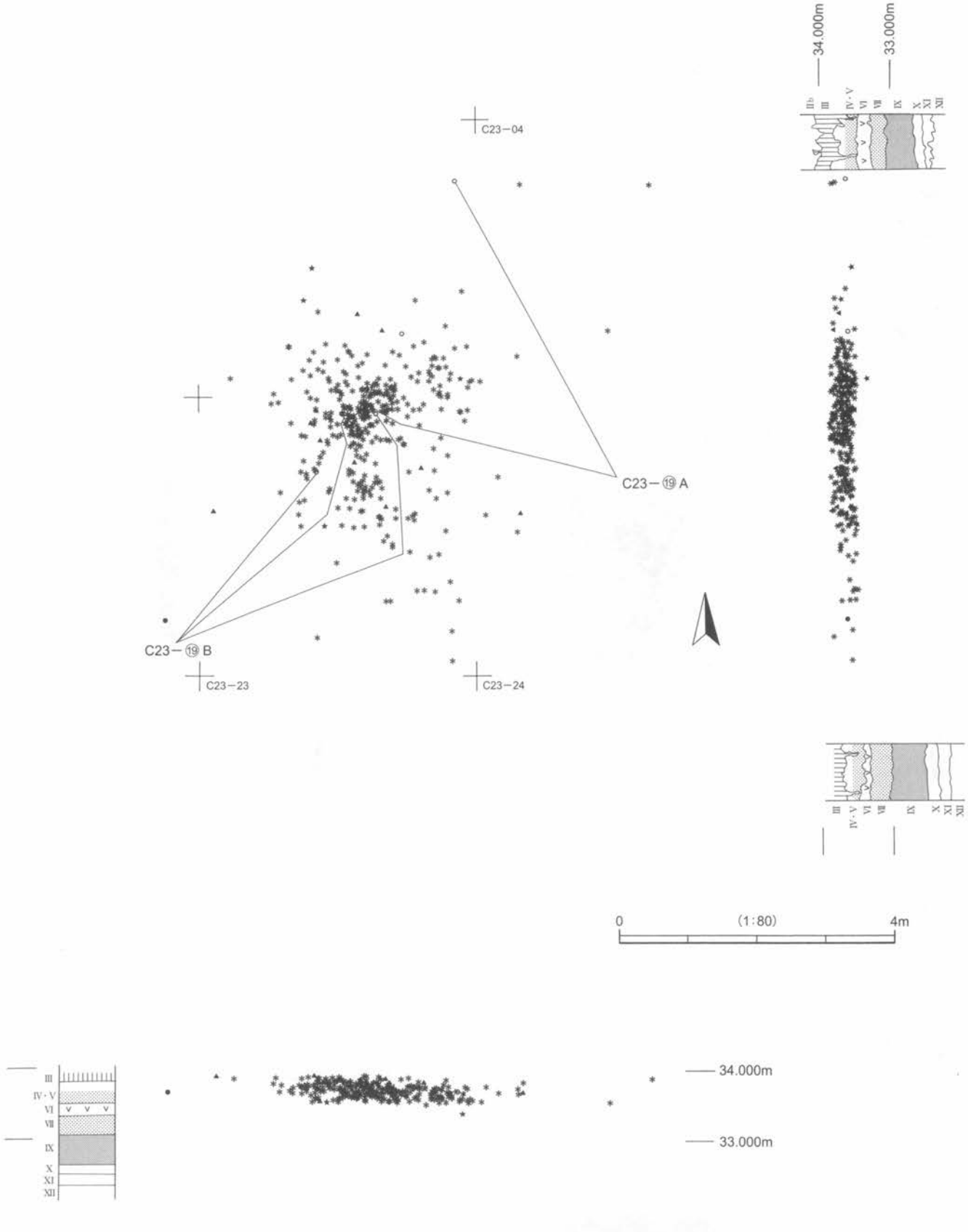
９は，剥片３点（10～12）の接合資料である。上端の打面を用いて，10→12→11の順に不定型の剥片を剥離している。11は，剥離時に打点で二つに割れている。

・C23-⑲（第180図13～15）　灰褐色に風化した安山岩で，剥片１点，石核１点の合計２点（19.3ｇ）で構成される。

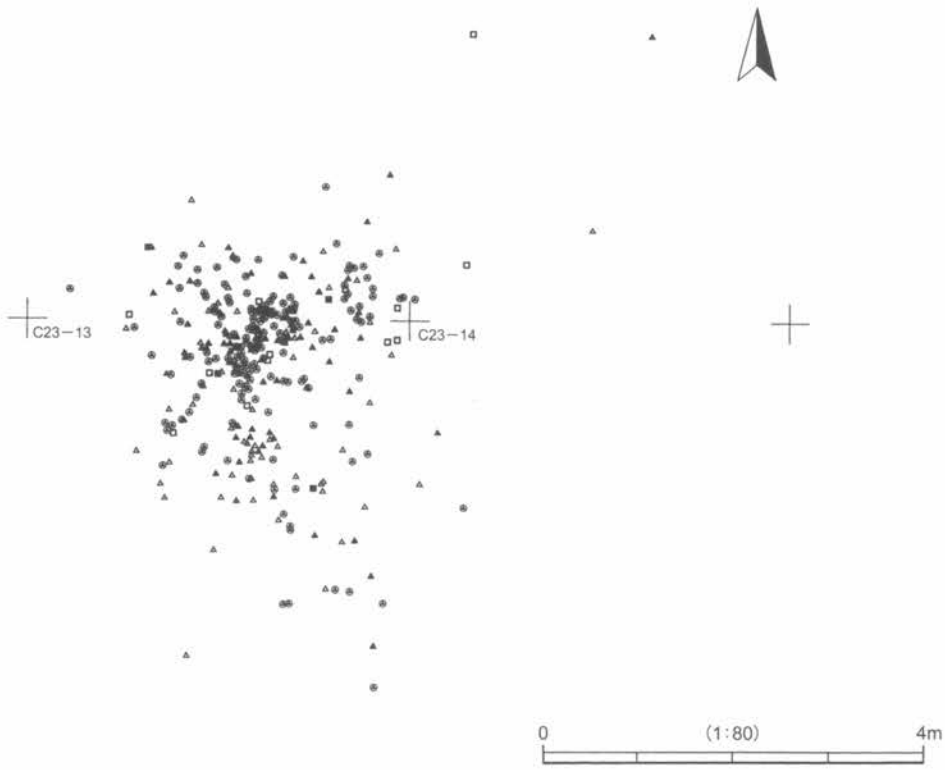
13は，剥片１点（15）と石核１点（14）の接合資料である。接合資料から見た剥片剥離作業は，①：原石から厚手の剥片を剥離し，石核の素材とする。ただし，素材の主要剥離面は残されていない。②：実測



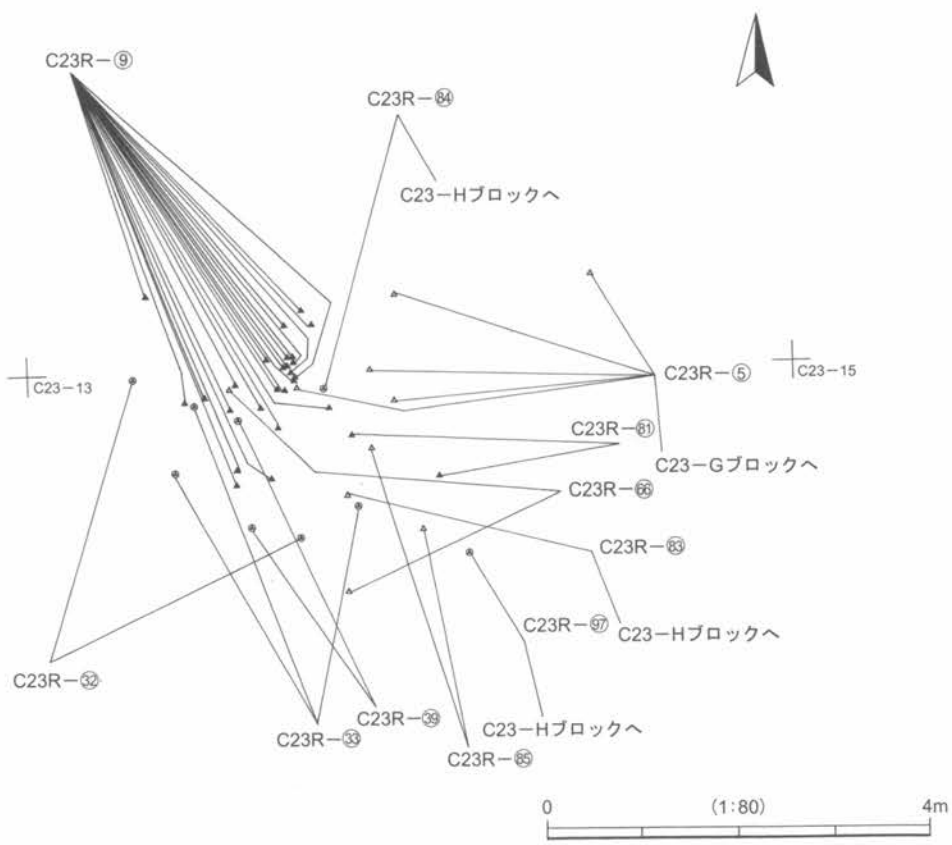
第172図　C23-Eブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



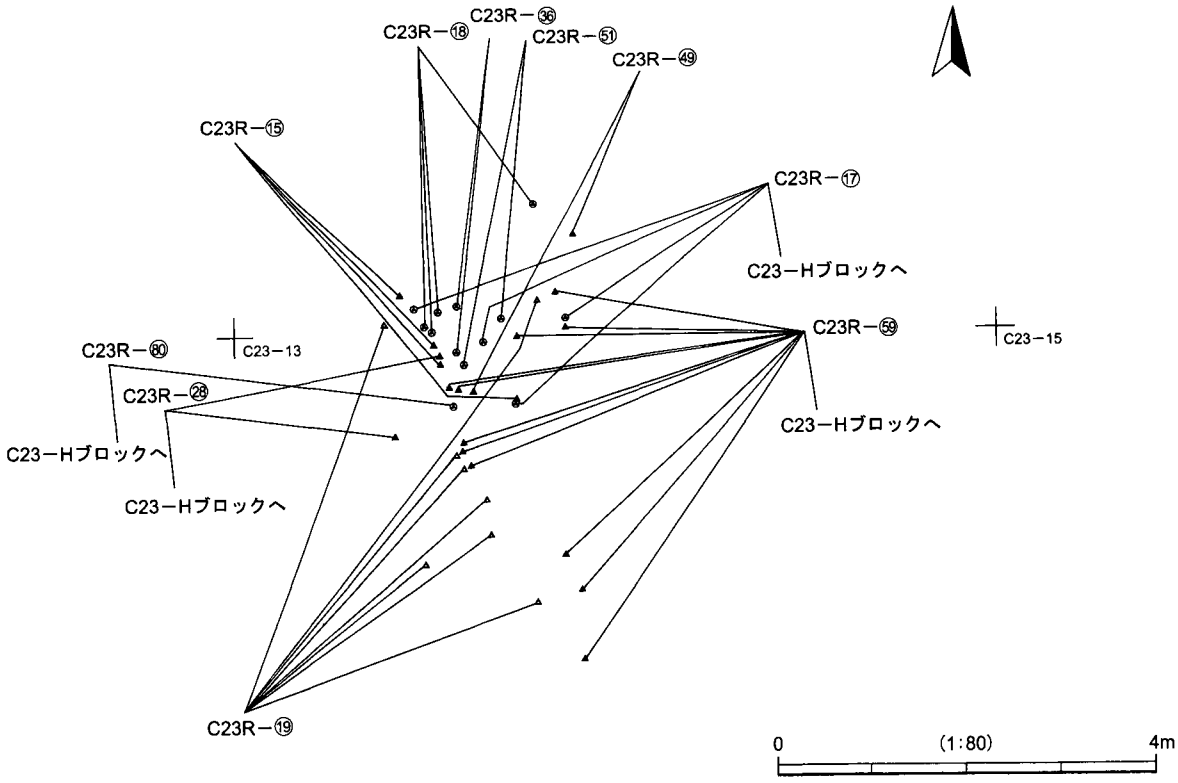
第173図　C23-Eブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－



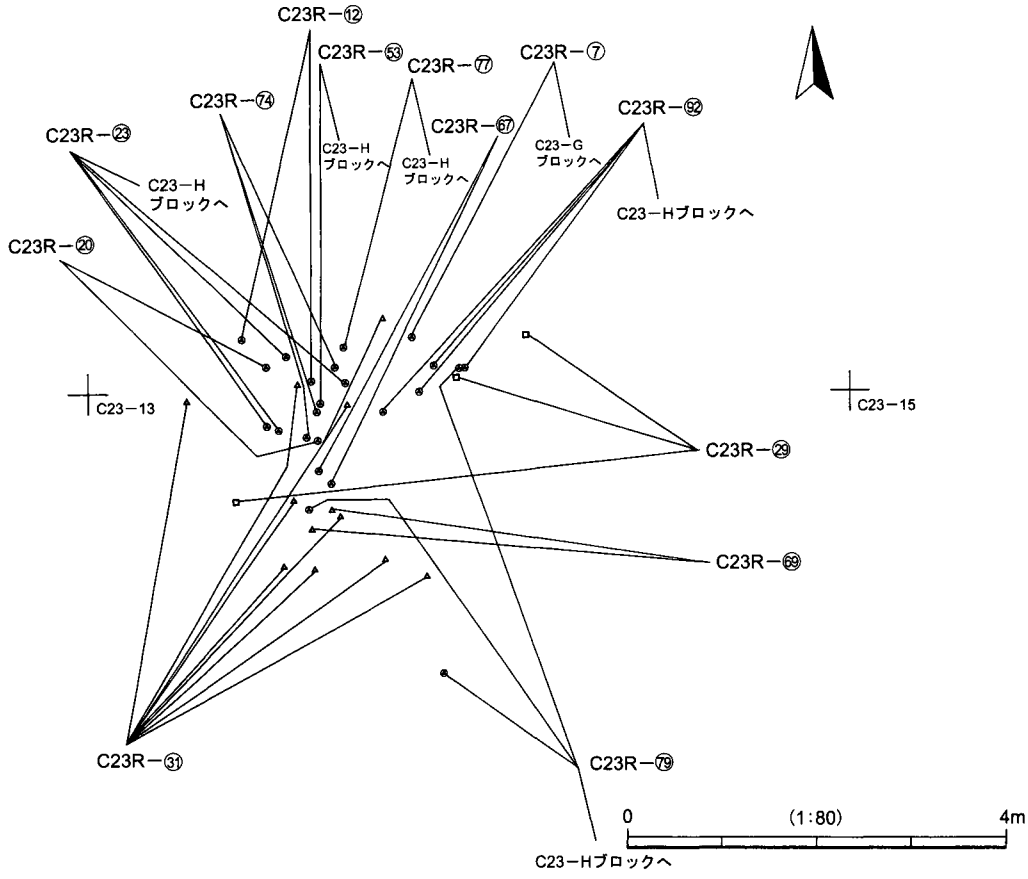
第174図　C23-Eブロック出土遺物分布図（3）　−礫石材別分布図（1）−



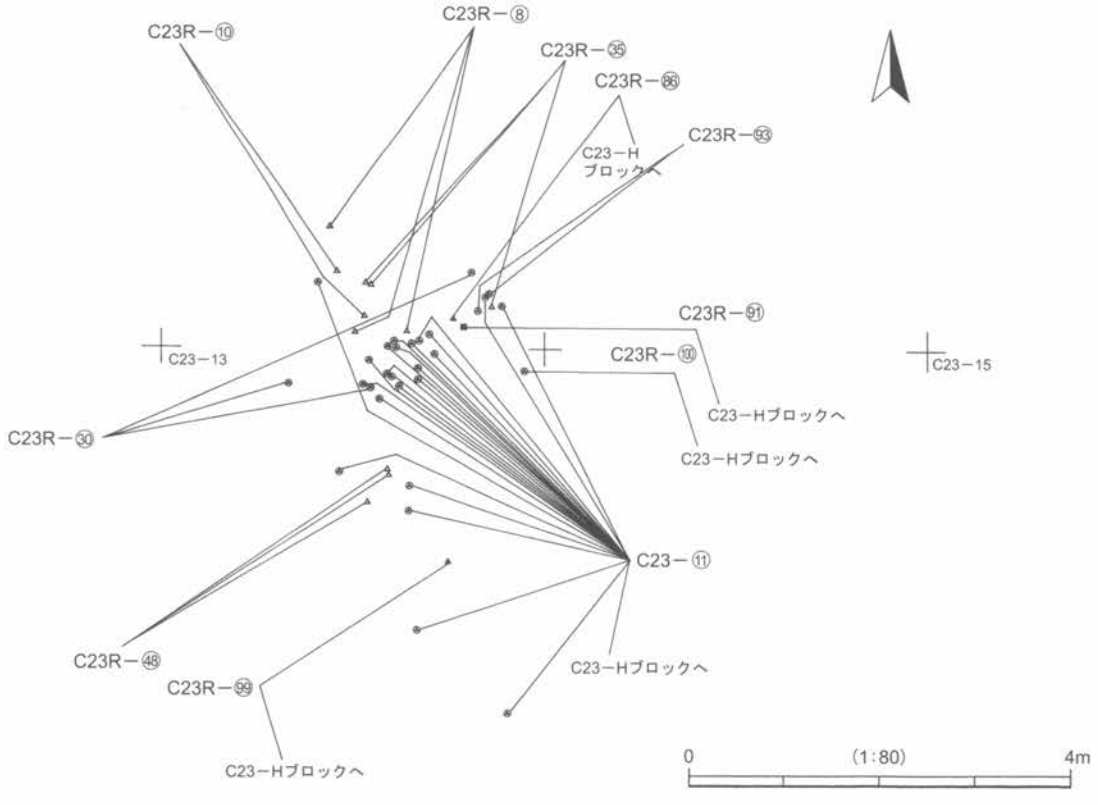
第175図　C23-Eブロック出土遺物分布図（4）　−礫石材別分布図（2）−



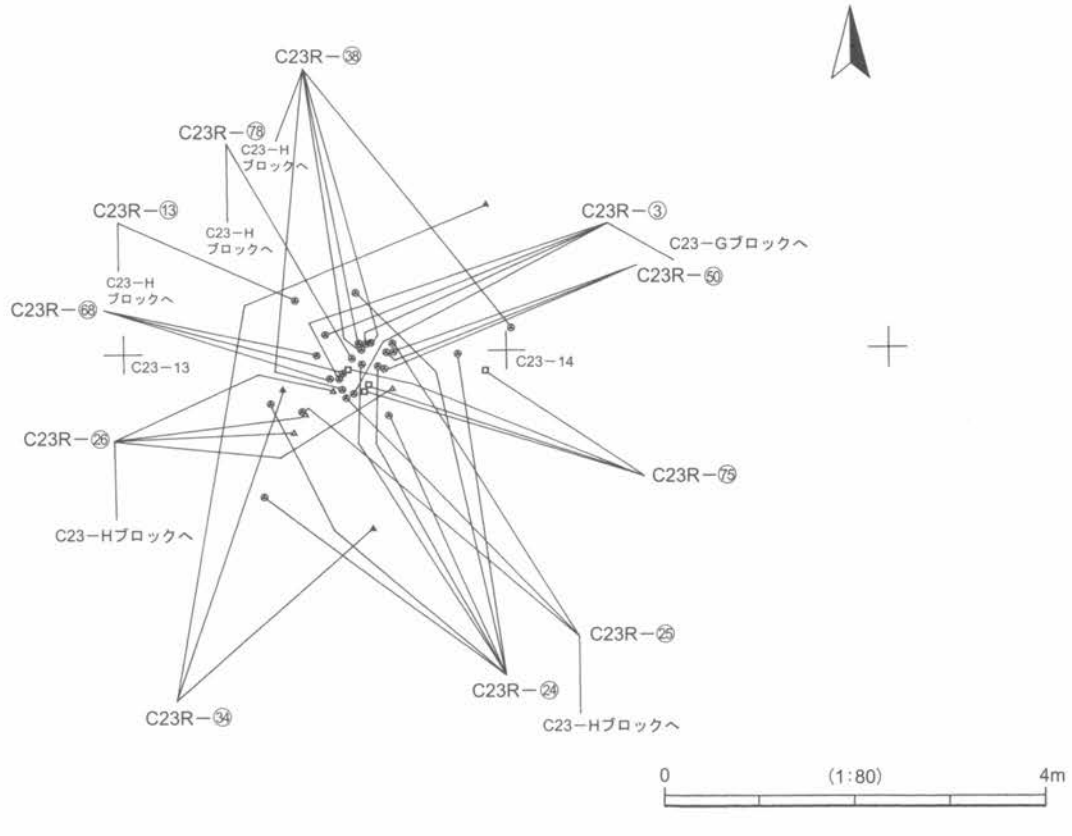
第176図　C23-Eブロック出土遺物分布図（5）　－礫石材別分布図（3）－



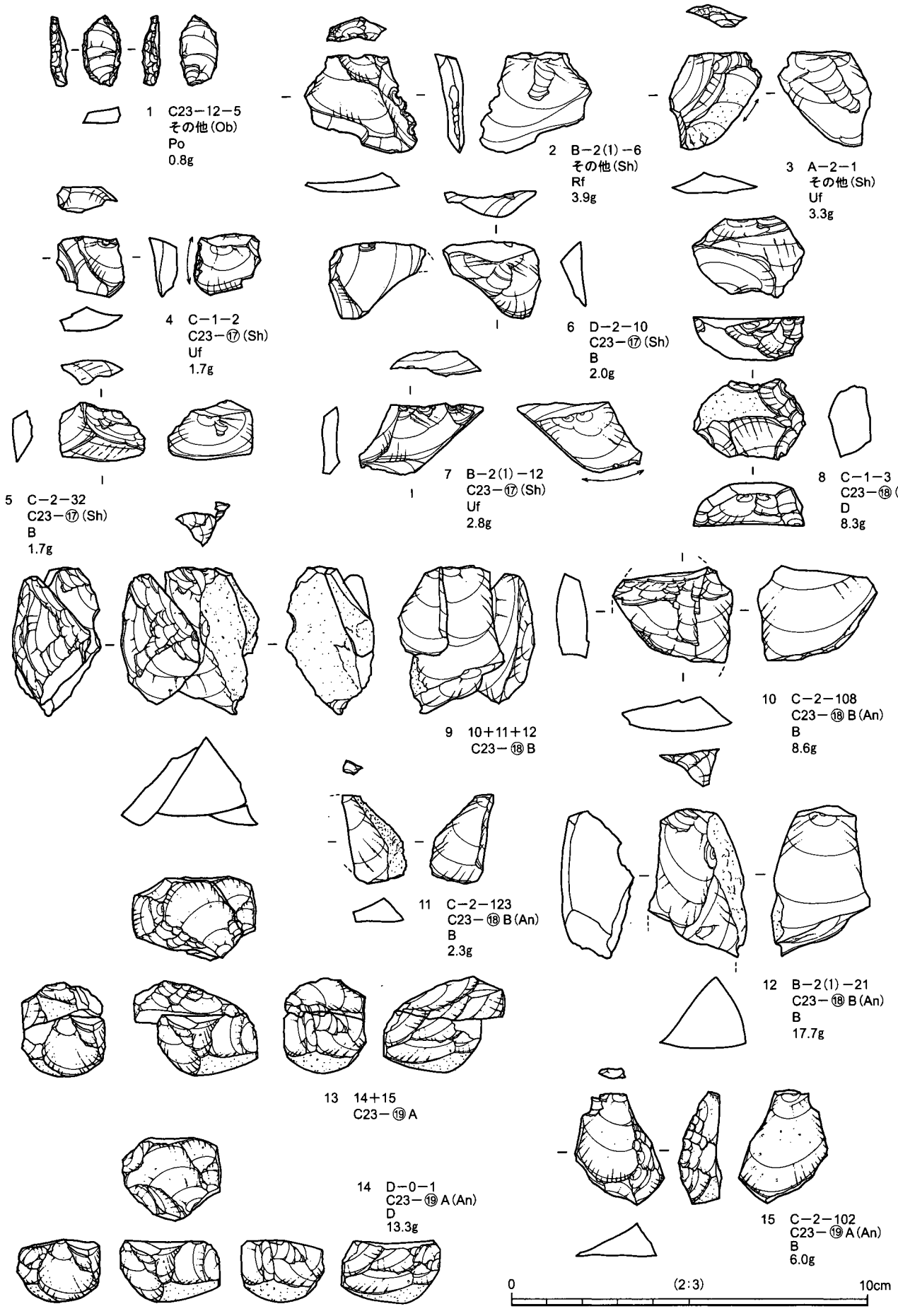
第177図　C23-Eブロック出土遺物分布図（6）　－礫石材別分布図（4）－



第178図　C23-Eブロック出土遺物分布図（7）　－礫石材別分布図（5）－



第179図　C23-Eブロック出土遺物分布図（8）　－礫石材別分布図（6）－



第180図　C23-Eブロック出土遺物実測図

図13の上面を打面，裏面を作業面として，剥片を剥離する。③：右側面を打面，上面及び正面を作業面として，剥片を剥離する。④：上面を打面，正面及び左側面を作業面として，剥片を剥離する。⑤：右側面を打面，上面を作業面として，14を剥離する。⑥：14の剥離面（上面）を打面，左側面を作業面として，剥片を剥離する。以上のように，打面と作業面を交互に入れ替えながら，小型で不定型の剥片を剥離している。

第54表　C23-Eブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C23-⑰(Sh)											2								4			6		6
C23-⑱(An)																			3		1	4		4
C23-⑲(An)																			1		1	2		2
C23-㉑(Csh)																			1			1		1
その他(Ob)				1																		1		1
その他(An)																			1			1		1
その他(Sh)										1	1								2			4		4
その他(Ho)																			4			4		4
合　計				1						1	3								16		2	23		23

第55表　C23-Eブロック母岩別礫一覧表

母　岩	点数	重量	母　岩	点数	重量	母　岩	点数	重量	母　岩	点数	重量	母　岩	点数	重量	母　岩	点数	重量
C23R-③(Sa)	4	32.2	C23R-㉕(Sa)	3	52.7	C23R-㊻(Sa)	1	20.0	C23R-㊼(Sa)	2	42.7	C23R-㊽(Rh)	1	93.4			
C23R-⑤(Ch)	5	26.3	C23R-㉖(Ch)	4	50.8	C23R-㊼(不明)	1	26.8	C23R-㊾(Sa)	3	93.0	C23R-㊾(Sa)	1	100.1			
C23R-⑥(Sa)	1	9.3	C23R-㉗(Sa)	1	4.7	C23R-㊽(Ch)	3	20.8	C23R-㊾(Ch)	2	1.9	C23R-㊿(Sa)	1	399.4			
C23R-⑦(Sa)	1	35.7	C23R-㉘(Sh)	2	73.2	C23R-㊾(Sh)	2	21.7	C23R-㋀(Sa)	1	33.8	C23R-㋁(Ag)	1	34.7			
C23R-⑧(Ch)	3	30.9	C23R-㉙(Rh)	3	10.8	C23R-㊿(Sa)	3	80.7	C23R-㋁(Sh)	1	38.3	C23R-㋂(Sa)	4	37.0			
C23R-⑨(Sh)	25	767.1	C23R-㉚(Sa)	3	61.1	C23R-㋀(Sa)	2	14.7	C23R-㋂(Sa)	1	20.9	C23R-㋃(Sa)	2	10.1			
C23R-⑩(Ch)	2	20.1	C23R-㉛(Ch)	10	64.6	C23R-㋁(Ch)	1	29.7	C23R-㋃(Sa)	1	26.1	C23R-㋄(Sa)	1	20.7			
C23R-⑪(Sa)	23	450.1	C23R-㉜(Sa)	2	30.6	C23R-㋂(Sa)	1	13.9	C23R-㋄(Sa)	3	69.7	C23R-㋅(Sh)	1	35.1			
C23R-⑫(Sa)	2	18.1	C23R-㉝(Sa)	3	11.1	C23R-㋃(Sh)	1	22.7	C23R-㋅(Rh)	4	59.8	C23R-㋆(Rh)	1	56.1			
C23R-⑬(Sa)	1	3.8	C23R-㉞(Sh)	3	22.9	C23R-㋄(Sh)	1	24.3	C23R-㋆(Sa)	1	39.4	C23R-㋇(Sa)	1	7.5			
C23R-⑭(Sh)	1	29.5	C23R-㉟(Ch)	3	31.7	C23R-㋅(Sh)	1	44.0	C23R-㋇(Sa)	1	18.6	C23R-㋈(Sa)	1	53.1			
C23R-⑮(Sh)	4	52.0	C23R-㊱(Sa)	2	21.2	C23R-㋆(Sa)	1	30.3	C23R-㋈(Sa)	1	12.6	C23R-㋉(Sh)	1	10.0			
C23R-⑯(Sh)	1	17.4	C23R-㊲(Sa)	1	363.2	C23R-㋇(Sa)	1	27.1	C23R-㋉(Sa)	3	236.2	C23R-㋊(Sa)	1	1.3			
C23R-⑰(Sa)	4	45.8	C23R-㊳(Sa)	5	240.5	C23R-㋈(Sh)	11	281.7	C23R-㋊(Sa)	1	6.4	その他（Rh）	5	56.0			
C23R-⑱(Sa)	4	39.3	C23R-㊴(Sa)	2	40.5	C23R-㋉(Sh)	1	23.6	C23R-㋋(Sh)	2	45.3	その他（Sh）	16	122.9			
C23R-⑲(Ch)	8	49.5	C23R-㊵(Sa)	1	67.4	C23R-㋊(Sa)	1	17.4	C23R-㋌(Sh)	1	24.5	その他(Ch)	20	100.7			
C23R-⑳(Sa)	2	43.2	C23R-㊶(Sa)	1	85.0	C23R-㋋(Sa)	1	18.0	C23R-㋍(Ch)	1	4.3	その他(Sa)	48	323.0			
C23R-㉑(Sh)	1	79.4	C23R-㊷(Rh)	1	60.4	C23R-㋌(Sa)	1	33.2	C23R-㋎(Sa)	1	16.4	その他(Ag)	4	13.3			
C23R-㉒(Ch)	1	44.0	C23R-㊸(Sh)	1	107.1	C23R-㋍(Sh)	1	18.3	C23R-㋏(Ch)	2	6.0	合　計	339	6566.6			
C23R-㉓(Sa)	4	27.6	C23R-㊹(Sh)	1	37.9	C23R-㋎(Sh)	1	34.0	C23R-㋐(Sh)	1	37.5						
C23R-㉔(Sa)	7	82.9	C23R-㊺(Sa)	1	60.1	C23R-㋏(Ch)	2	23.7	C23R-㋑(Sa)	1	30.5						

第56表　C23-Eブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)				1																		1		1
安山岩(An)																			5		2	7		7
流紋岩(Rh)																							15	15
不明																							1	1
頁岩(Sh)										1	3								6			10	81	91
珪質頁岩(Csh)																			1			1		1
チャート(Ch)																							67	67
砂岩(Sa)																							170	170
ホルンフェルス(Ho)																			4			4		4
メノウ(Ag)																							5	5
合　計				1						1	3								16		2	23	339	362

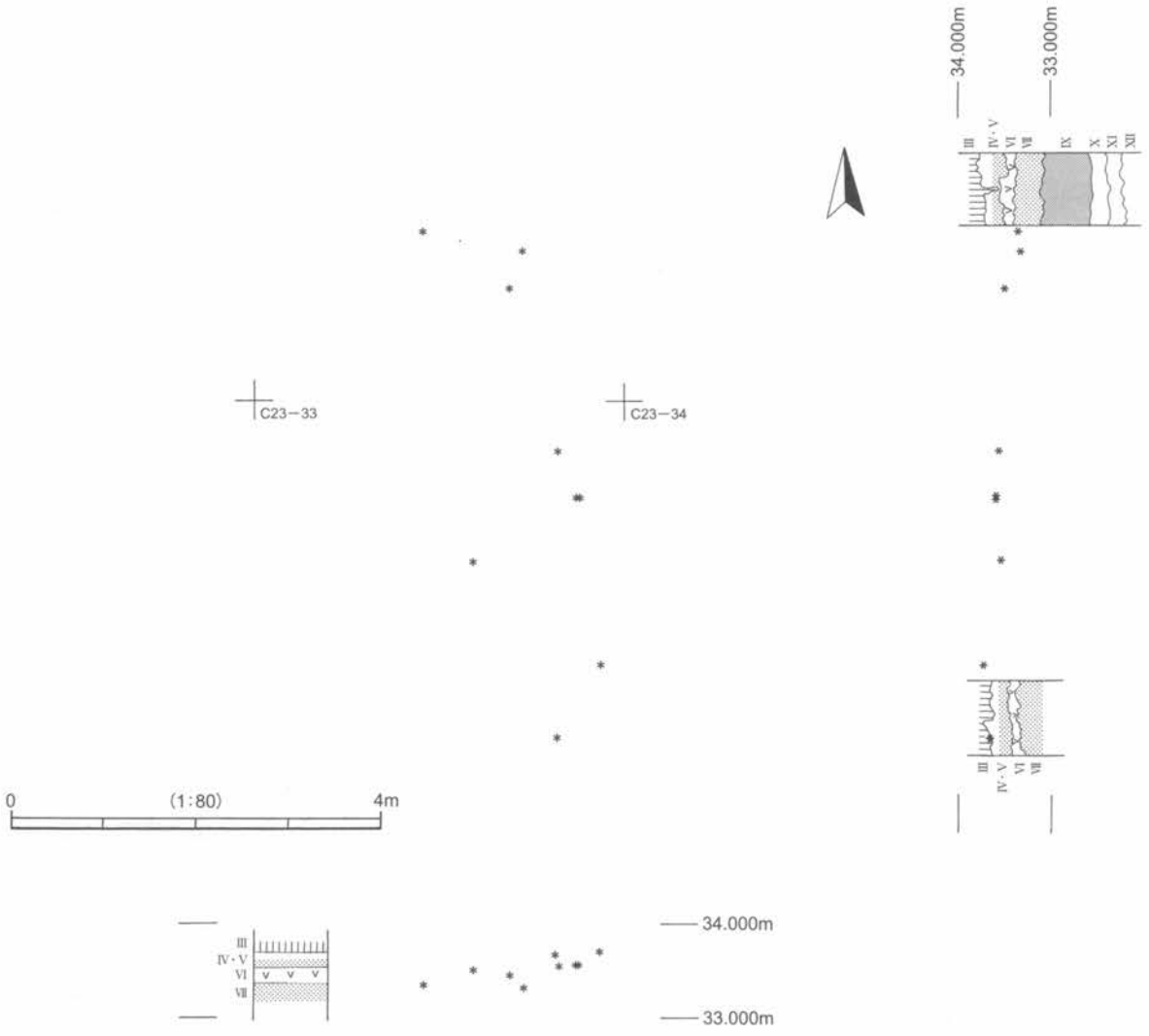
6　C23-Gブロック（第181・182図，第57・58表）

1）ブロックの概要

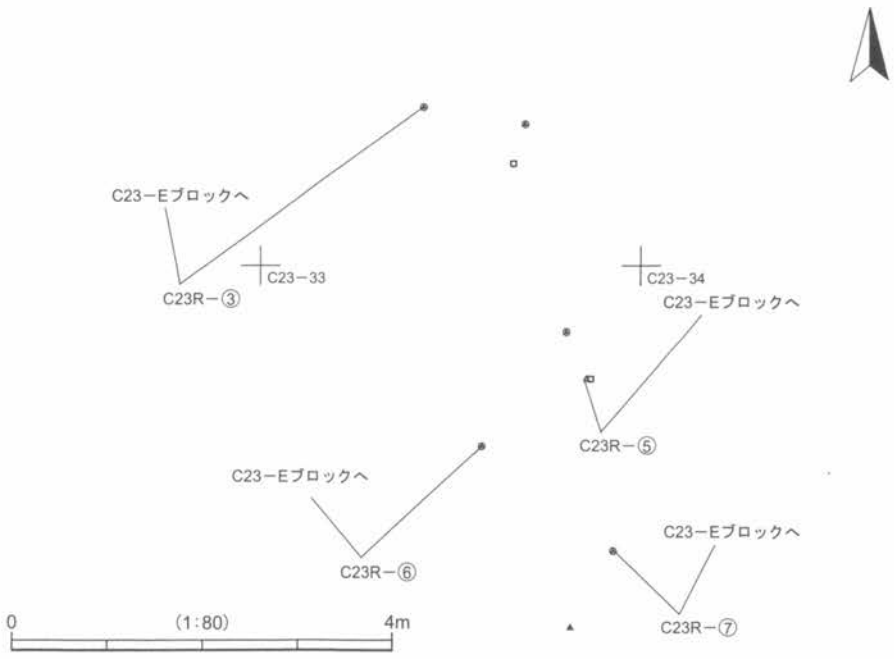
C23-Gブロックは，調査範囲南側のC23-23・33グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の南に向かって開く谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点からは６ｍの位置にある。同じ文化層で礫が多数出土しているC23-EブロックとC23-Hブロックの間にある。

ブロックの規模と形状は，長軸６ｍ，短軸２ｍの範囲に９点の礫が散漫に分布する。出土層位はⅣ・Ⅴ層を中心として，北西方向に下って包含されている（第181・182図）。

ブロックは礫９点で構成され，礫石材は，流紋岩２点，頁岩１点，チャート１点，砂岩５点である。そのうち母岩分類できたものが６点（５母岩），母岩の不明なものが３点ある。長軸５㎝～３㎝ほどの小型



第181図　C23-Gブロック出土遺物分布図（1）　−石器別分布図−



第182図　C23-Gブロック出土遺物分布図（2）　−礫石材別分布図−

第57表　C23-Gブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C23R-③(Sa)																							1	1
C23R-④(Rh)																							2	2
C23R-⑤(Ch)																							1	1
C23R-⑥(Sa)																							1	1
C23R-⑦(Sa)																							1	1
その他(Sh)																							1	1
その他(Sa)																							2	2
合　計																							9	9

第58表　C23-Gブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
流紋岩(Rh)																							2	2
頁岩(Sh)																							1	1
チャート(Ch)																							1	1
砂岩(Sa)																							5	5
合　計																							9	9

の円礫が多く，概ね完形に近い。なお，北側に隣接するC23-Eブロックと４母岩の共有関係があるが，南側に隣接するC23-Hブロックとは母岩の共有関係はない。

7　C23-Hブロック（第183～192図，第59～61表）

1）ブロックの概要

C23-Hブロックは，調査範囲南側のC23-34・35・44～46グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の南に向かって開く谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点までの距離は５mである。

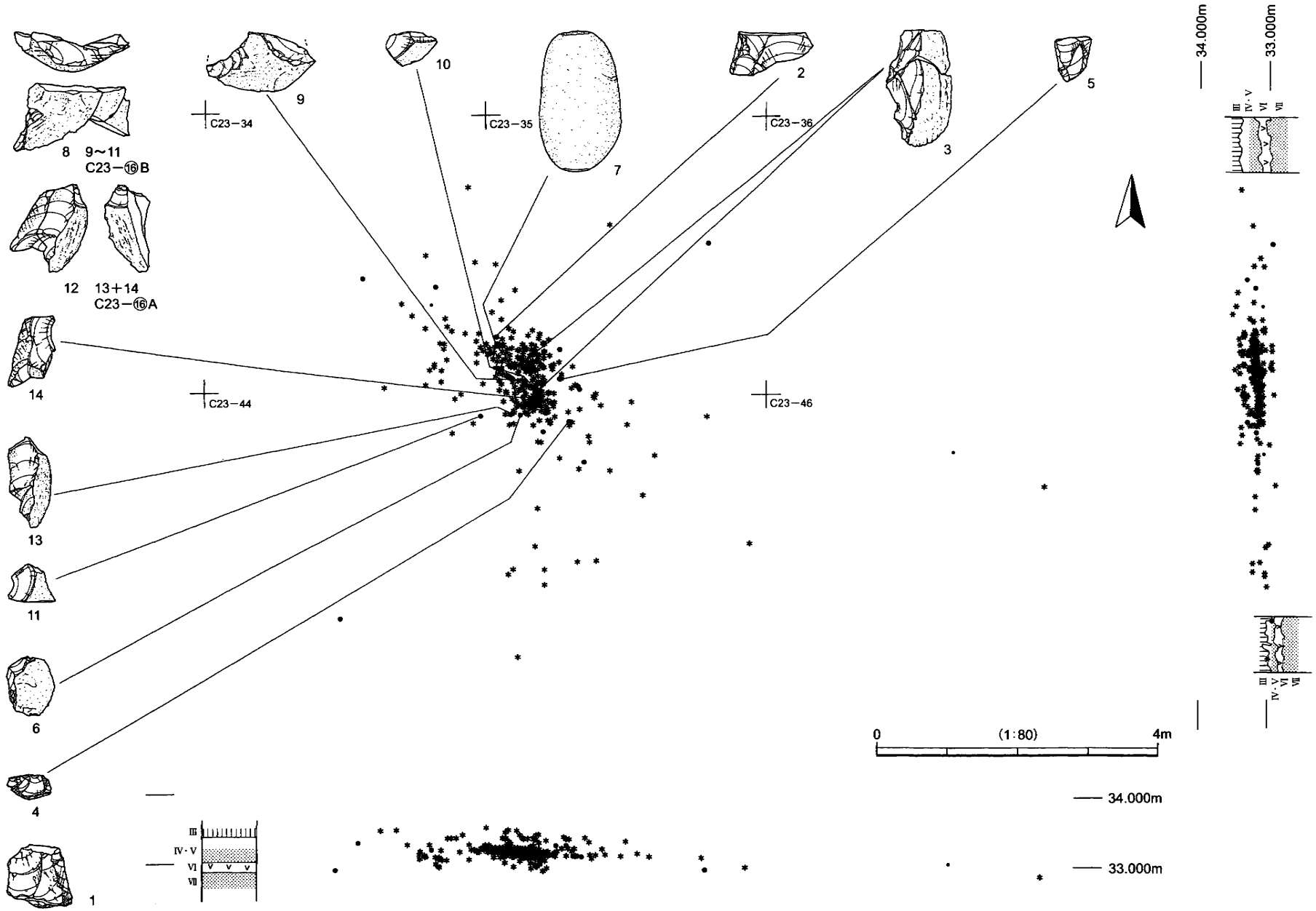
ブロックの規模と形状は，長軸10m，短軸７mの範囲に311点の石器・礫が分布するが，その90%が礫で，C23-45グリッドの北西端を中心に直径2.5mの範囲に集中する。出土層位はⅣ・Ⅴ層を中心としており，各石器は50ほどの高低差をもって包含されている（第183・184図）。

ブロックは，加工痕ある剥片２点（１個体），使用痕ある剥片１点，敲石１点，剥片18点，砕片２点，礫287点の合計311点（310個体）で構成され，石器石材は，黒曜石２点，安山岩３点，頁岩14点，珪質頁岩１点，砂岩１点，ホルンフェルス１点，メノウ２点，礫石材は，流紋岩８点，頁岩39点，チャート42点，砂岩193点，メノウ５点である。礫は，母岩分類できたものが194点（83母岩），母岩の不明なものが93点で，総重量は6,731.8ｇある。

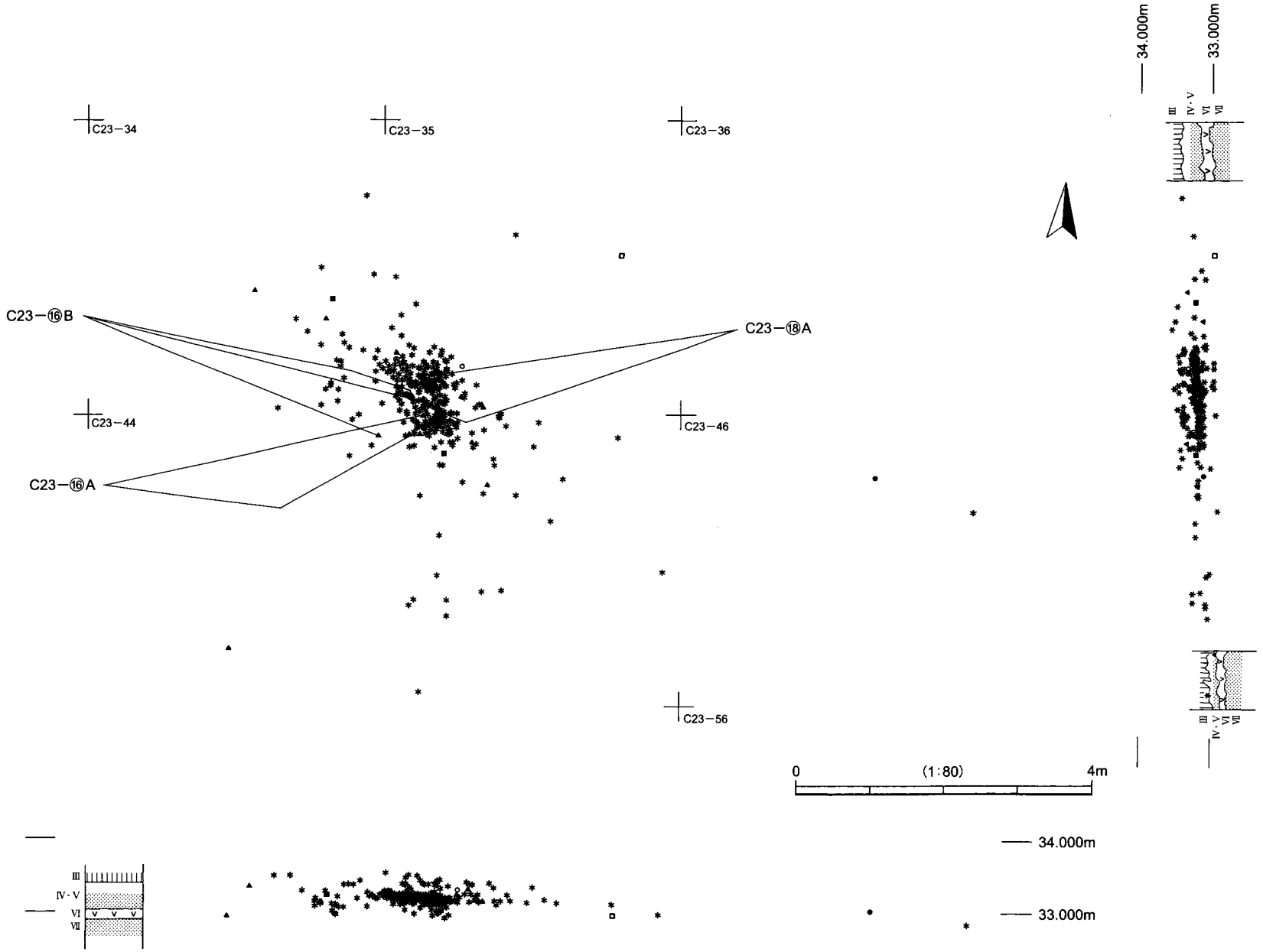
2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは４母岩を識別した。内訳は，安山岩１母岩（C23-⑱），頁岩２母岩（C23-⑯・⑰），砂岩１母岩（C23-⑳）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は50%（18/24点）である。

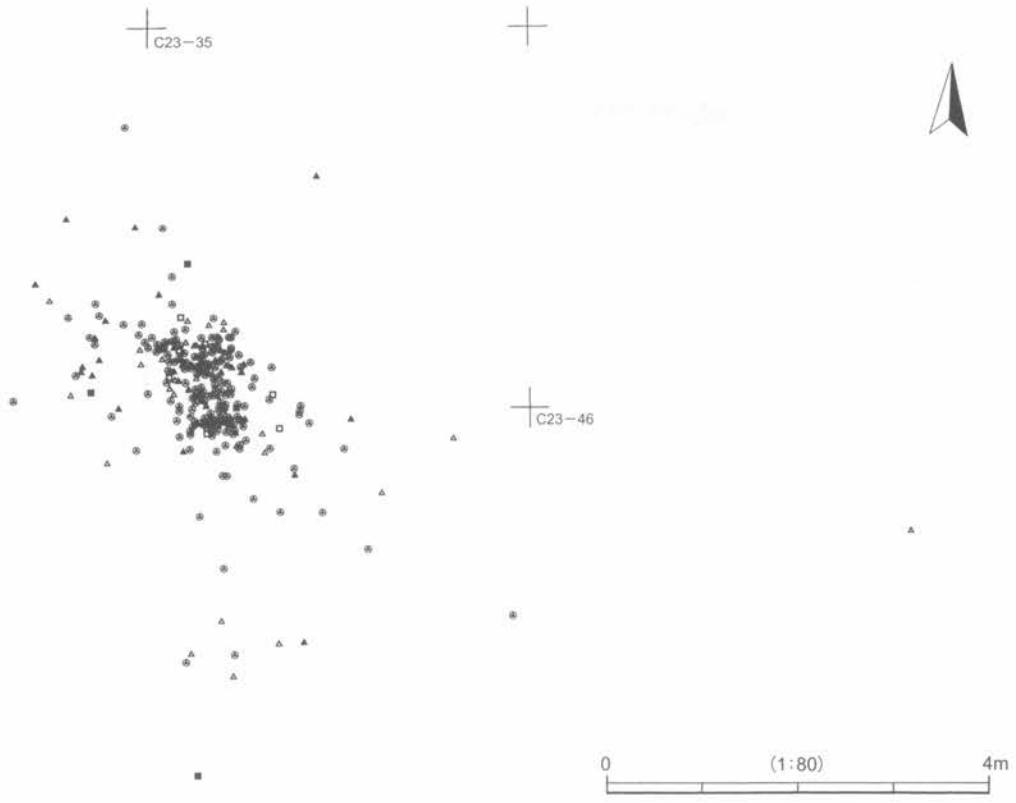
- C23-⑯：緑がかった黄灰色の頁岩である。灰白色の節理が入る。石器群の内訳は，剥片６点（合計36.4ｇ）である。接合資料は，剥片３点（合計19.2ｇ）の接合と剥片２点（合計14.1ｇ）の接合がある。
- C23-⑰：灰色がかった緑色で硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，剥片７点，砕片１点の合計８点（7.5ｇ）である。同一母岩は，C23-Eブロックに６点ある。
- C23-⑱：灰褐色に風化した安山岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片２点（１個体），剥片１点の合計３点（２個体；20.1ｇ）で，剥片２点（１個体；19.0ｇ）が接合する。同一母岩は，C23-Eブロックに４点ある。
- C23-⑳：自然面は被熱により赤褐色化している砂岩である。小型で扁平の円礫である。敲石１点（67.0



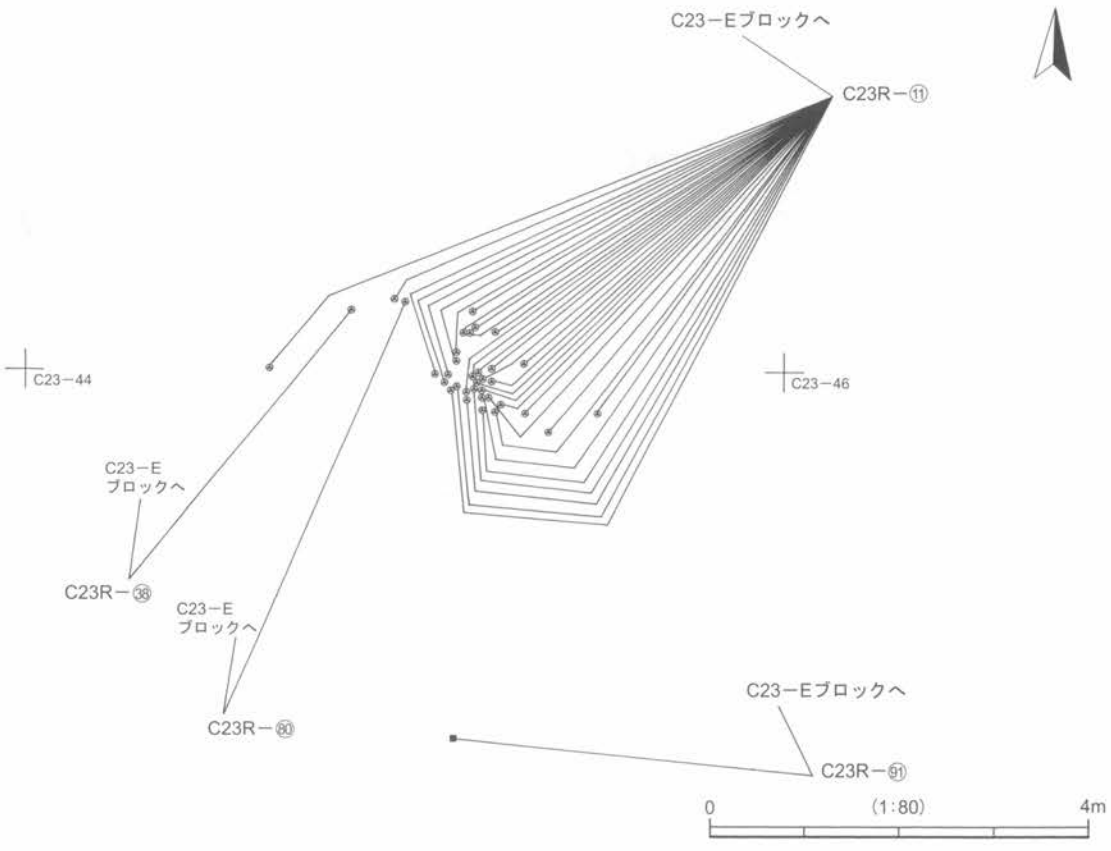
第183図　C23-Hブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



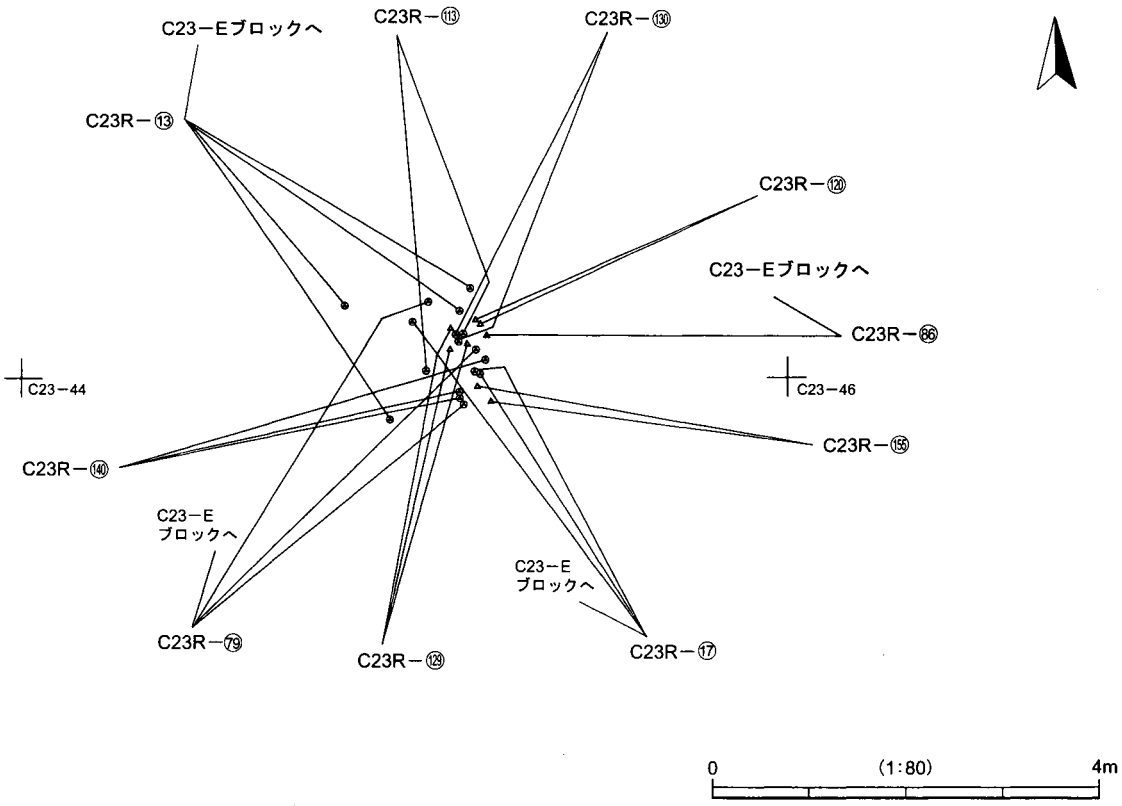
第184図　C23-Hブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－



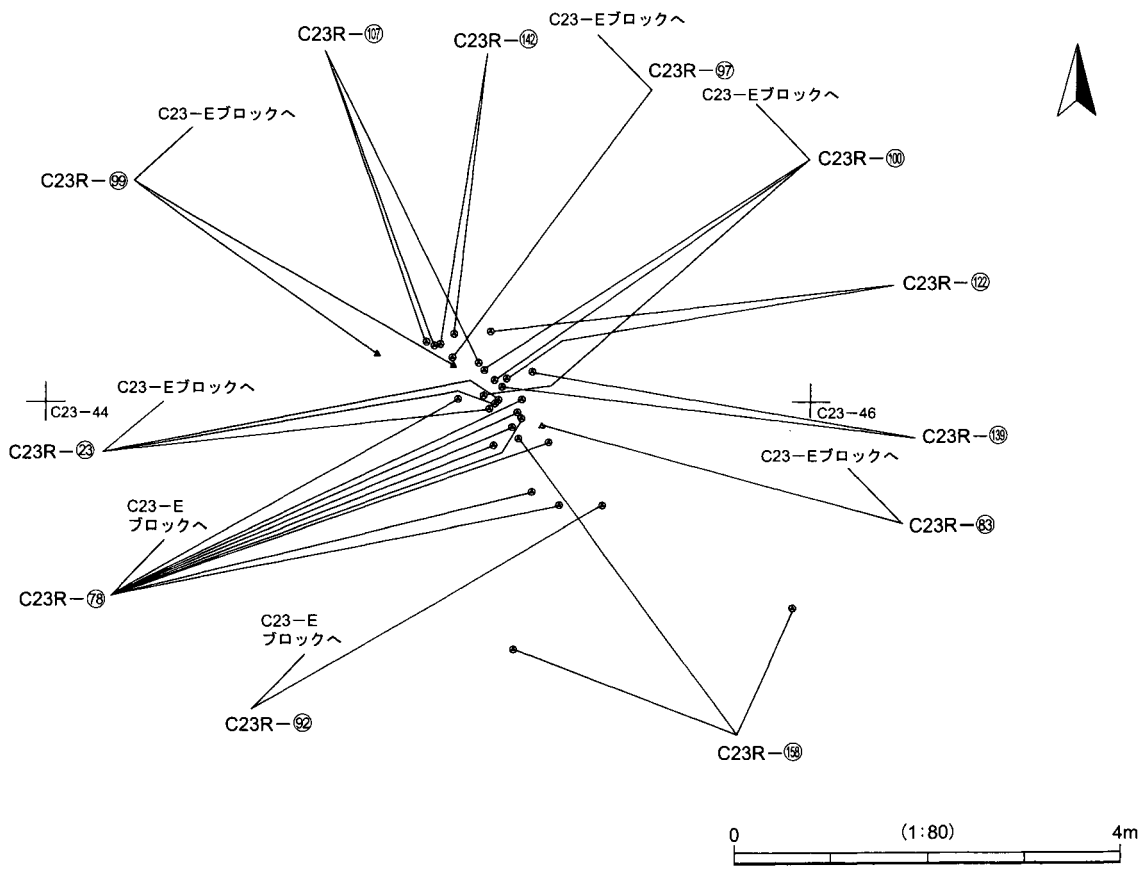
第185図　C23-Hブロック出土遺物分布図（3）　−礫石材別分布図（1）−



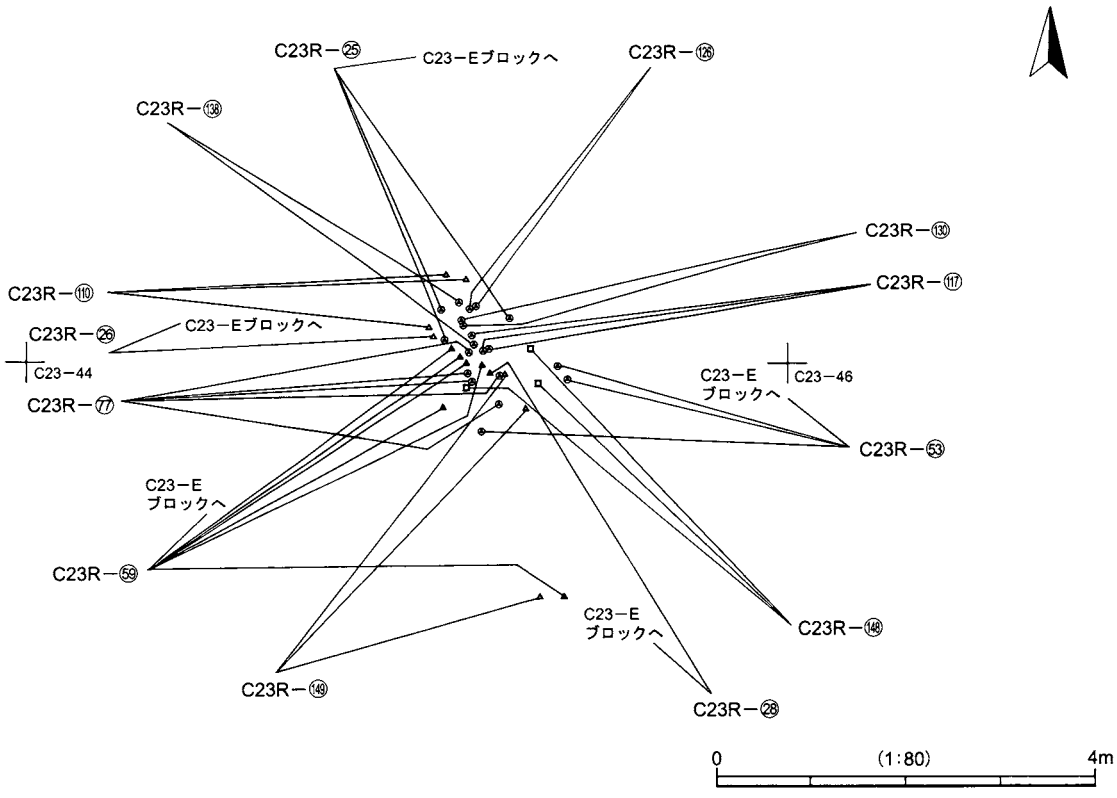
第186図　C23-Hブロック出土遺物分布図（4）　−礫石材別分布図（2）−



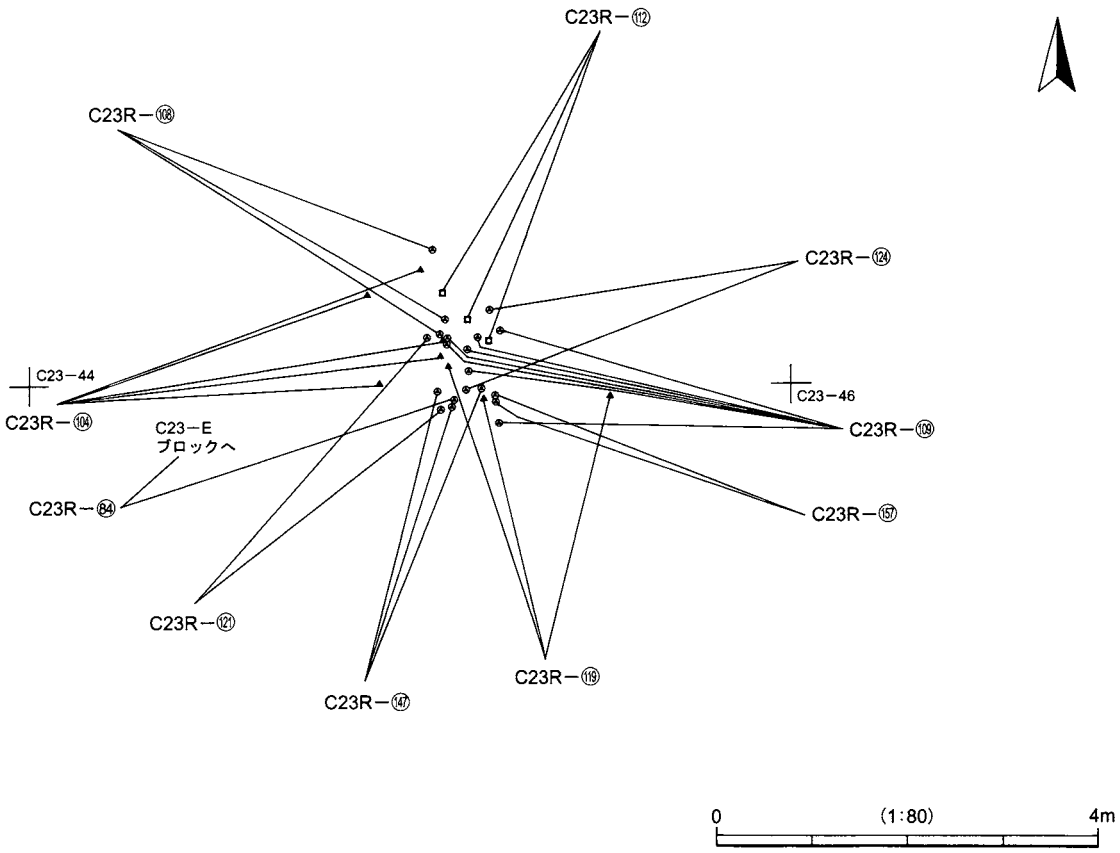
第187図　C23-Hブロック出土遺物分布図（５）　－礫石材別分布図（３）－



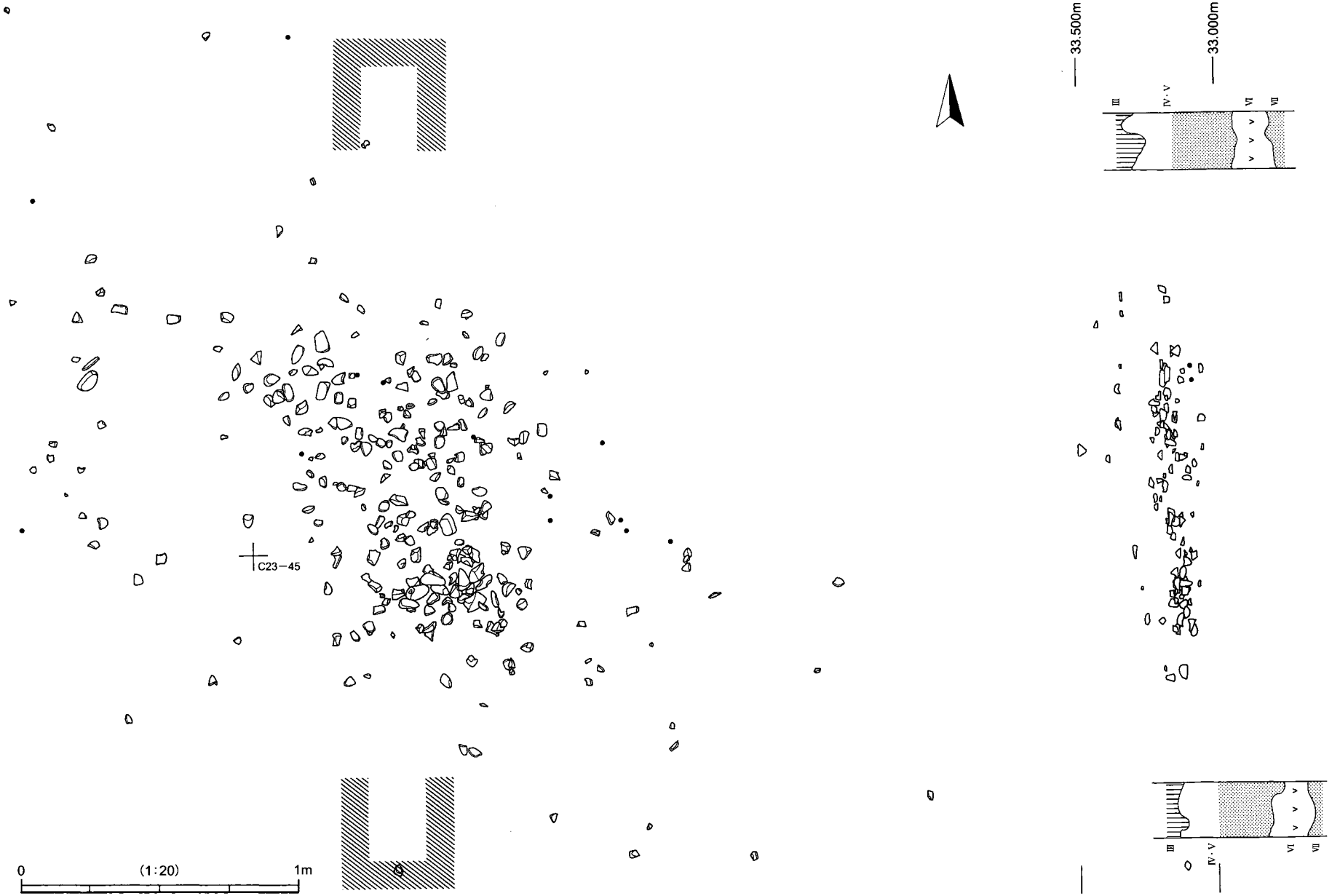
第188図　C23-Hブロック出土遺物分布図（６）　－礫石材別分布図（４）－



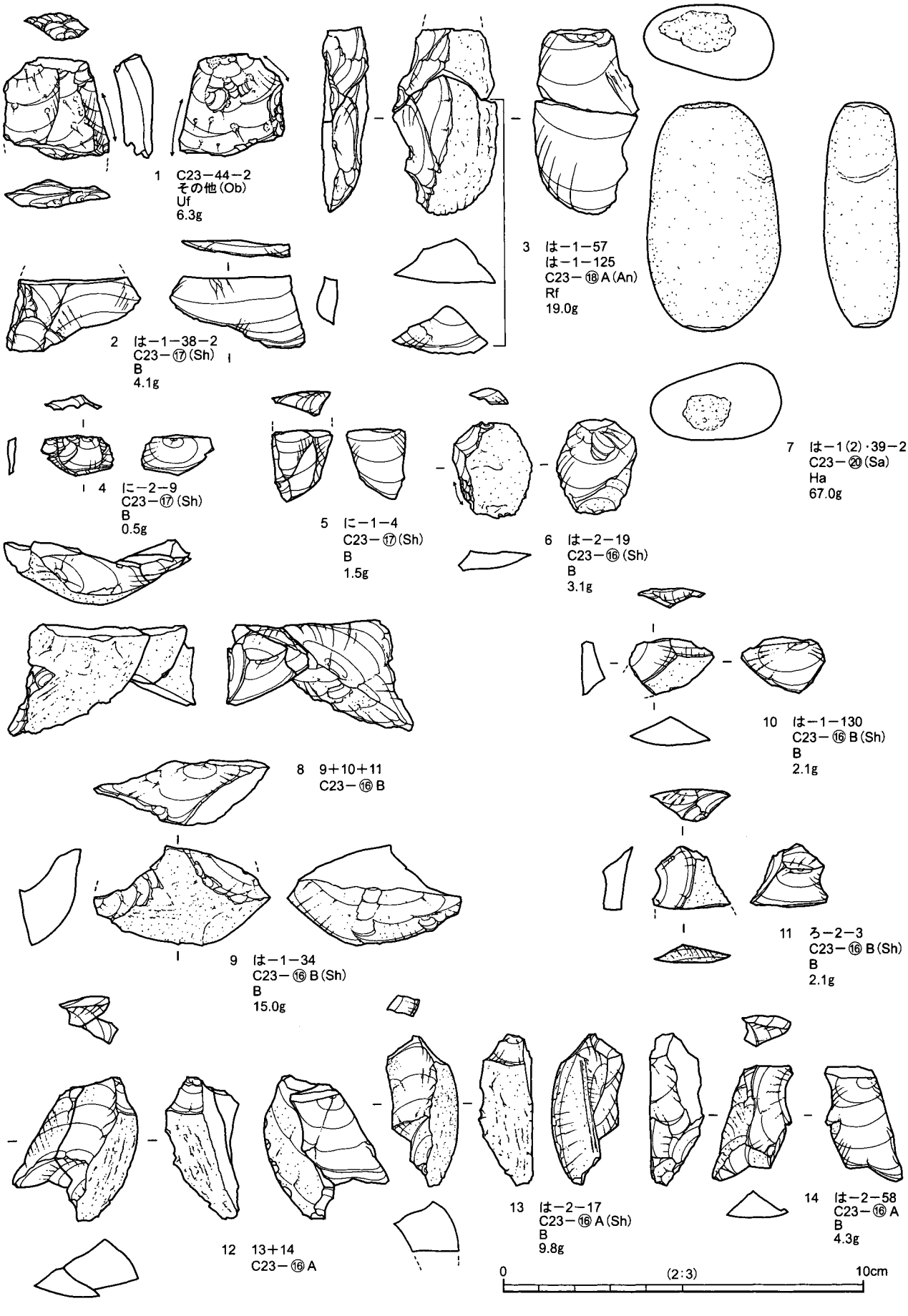
第189図　C23-Hブロック出土遺物分布図（７）　－礫石材別分布図（５）－



第190図　C23-Hブロック出土遺物分布図（８）　－礫石材別分布図（６）－



第191図　C23-Hブロック出土遺物分布図（9）　－礫詳細分布図－



第192図　C23-Hブロック出土遺物実測図

第59表　C23-Hブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C23-⑯(Sh)																			6			6		6
C23-⑰(Sh)																			7	1		8		8
C23-⑱(An)										2(1)									1			3(2)		3(2)
C23-⑳(Sa)															1							1		1
その他(Ob)											1									1		2		2
その他(Csh)																			1			1		1
その他(Ho)																			1			1		1
その他(Ag)																			2			2		2
合　計										2(1)	1				1				18	2		24(23)		24(23)

第60表　C23-Hブロック母岩別礫一覧表

母　岩	点数	重量	母　岩	点数	重量	母　岩	点数	重量	母　岩	点数	重量	母　岩	点数	重量
C23R-⑪(Sa)	33	1036.1	C23R-⑫(Sa)	1	5.9	C23R-⑰(Sa)	3	53.2	C23R-⑱(Sa)	1	27.0	C23R-⑬(Sa)	1	104.5
C23R-⑬(Sa)	4	32.0	C23R-⑰(Sa)	1	9.6	C23R-⑱(Sa)	1	24.8	C23R-⑲(Sa)	1	37.4	C23R-⑭(Sa)	1	58.5
C23R-⑰(Sa)	3	156.6	C23R-⑲(Sh)	2	28.0	C23R-⑱(Sh)	3	78.1	C23R-⑰(Sh)	1	171.3	C23R-⑮(Ch)	2	53.6
C23R-㉓(Sa)	3	57.7	C23R-⑩(Sa)	3	65.6	C23R-⑬(Ch)	2	11.3	C23R-⑱(Sa)	2	33.9	C23R-⑯(Sa)	1	58.4
C23R-㉕(Sa)	3	55.5	C23R-⑩(Sa)	1	26.1	C23R-⑫(Sa)	2	48.3	C23R-⑲(Sa)	2	84.7	C23R-⑰(Sa)	2	67.2
C23R-㉖(Ch)	1	21.2	C23R-⑭(Sh)	5	61.0	C23R-⑫(Sa)	2	88.7	C23R-⑭(Sa)	3	23.6	C23R-⑱(Sa)	3	26.1
C23R-㉘(Sh)	1	55.0	C23R-⑮(Ch)	1	32.4	C23R-⑫(Sa)	1	80.3	C23R-⑭(Sa)	1	37.0	C23R-⑲(Sh)	1	72.7
C23R-㉘(Sa)	1	28.8	C23R-⑯(Sa)	1	56.8	C23R-⑭(Sa)	2	85.0	C23R-⑭(Sa)	2	110.5	C23R-⑭(Sa)	1	40.1
C23R-㉝(Sa)	3	42.4	C23R-⑩(Sa)	3	101.6	C23R-⑮(Sa)	1	56.6	C23R-⑭(Sa)	1	35.7	C23R-⑭(Sh)	1	39.7
C23R-㉙(Sh)	6	189.5	C23R-⑱(Sa)	3	16.7	C23R-⑯(Sa)	2	29.4	C23R-⑭(Sa)	1	24.8	C23R-⑭(Sa)	1	22.5
C23R-㉗(Sa)	5	149.0	C23R-⑲(Sa)	7	122.6	C23R-⑫(Sa)	1	40.6	C23R-⑭(Ch)	1	20.5	C23R-⑭(Ch)	1	15.3
C23R-㉘(Sa)	9	207.0	C23R-⑩(Ch)	3	22.7	C23R-⑫(Sh)	1	37.1	C23R-⑭(Sh)	1	6.6	その他(Rh)	2	24.1
C23R-㉙(Sa)	3	235.4	C23R-⑪(Ch)	1	4.9	C23R-⑬(Ch)	3	61.4	C23R-⑭(Sa)	3	52.6	その他(Sh)	13	334.5
C23R-㉚(Sa)	1	40.4	C23R-⑫(Rh)	3	41.6	C23R-⑬(Sa)	2	172.1	C23R-⑭(Rh)	3	40.3	その他(Ch)	22	127.9
C23R-㉝(Ch)	1	5.4	C23R-⑬(Sa)	2	10.2	C23R-⑬(Sa)	1	39.2	C23R-⑭(Ch)	3	15.1	その他(Sa)	52	617.2
C23R-㉞(Sa)	1	38.2	C23R-⑭(Ch)	1	21.2	C23R-⑬(Sa)	1	43.8	C23R-⑮(Sa)	1	24.0	その他(Ag)	4	10.3
C23R-㉟(Sh)	1	17.7	C23R-⑮(Sa)	1	35.0	C23R-⑬(Sh)	1	28.9	C23R-⑮(Sh)	1	75.6	合　計	287	6731.8
C23R-㉛(Ag)	1	2.8	C23R-⑯(Sa)	1	23.1	C23R-⑬(Sa)	1	60.8	C23R-⑮(Sh)	1	143.3			

第61表　C23-Hブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)											1									1		2		2
安山岩(An)										2(1)									1			3(2)		3(2)
流紋岩(Rh)																							8	8
頁岩(Sh)																			13	1		14	39	53
珪質頁岩(Csh)																			1			1		1
チャート(Ch)																							42	42
砂岩(Sa)															1							1	193	194
ホルンフェルス(Ho)																			1			1		1
メノウ(Ag)																			2			2	5	7
合　計										2(1)	1				1				18	2		24(23)	287	311(310)

g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石の使用痕ある剥片１点，砕片１点（合計6.4g）と珪質頁岩の剥片１点（1.9g）とホルンフェルスの剥片１点（1.2g）とメノウの剥片２点（合計0.9g）がある。

３）出土遺物（第192図）

１は，漆黒色不透明で夾雑物を多く含む黒曜石による使用痕ある剥片である。不定型の剥片を利用しており，右側縁を中心に刃こぼれがある。３は，安山岩の加工痕ある剥片である。不整形の縦長剥片を素材とし，左側縁に粗い調整加工を施している。上端が欠損する。

７は，砂岩の敲石である。上下両端に敲打痕がある。被熱により全体に赤化し，部分的に黒変する。

２・４・５は，頁岩（C23-⑰）の不定型な剥片である。２の表面には，裏面と逆方向の剥離面が見られる。

４）接合資料とその関連資料（第192図）

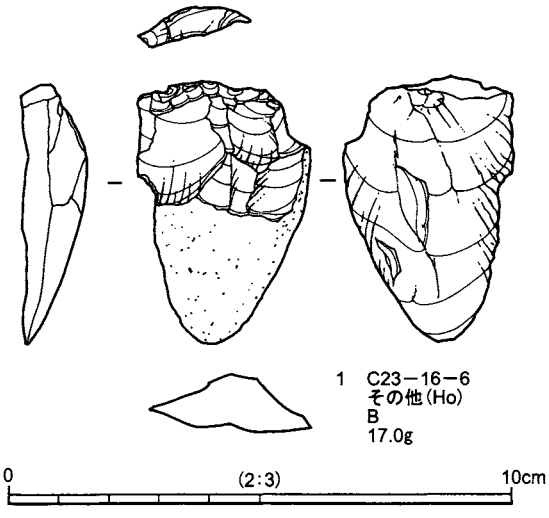
・C23-⑯（第192図６～14）　黄灰色の頁岩で，剥片６点で構成される。

８は，剥片３点（９～11）の接合資料である。節理面に沿って９を剥離した後，10→11の順に小型不定型の剥片を剥離している。なお，９の上半部は欠損している。

12は，不定型の剥片２点（13・14）の接合資料である。13→14の順に剥離している。

６は接合しないが同一母岩の剥片である。

以上，いずれの剥片も自然面が広く残り反対に石核が見られないことから，母岩消費初期の資料と考えられる。



第193図　C23-Ⅰブロック出土遺物実測図

8　C23-Ⅰブロック（第193～195図，第62・63表）

1）ブロックの概要

C23-Ⅰブロックは，調査範囲南側のC23-06・07・16グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地の南に向かって開く谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点までの距離は10mである。

ブロックの規模と形状は長軸４m，短軸１mの長楕円形の範囲に８点の石器・礫が散漫に分布する。出土層位はⅣ～Ⅵ層を中心としており，30cmほどの高低差をもって水平に包含されている（第194・195図）。

ブロックは剥片５点，礫３点で構成され，石器石材はホルンフェルス５点，礫石材は，流紋岩１点，砂岩２点である。礫は母岩分類のできたものが２点（２母岩），母岩の不明なものが１点ある。

なお，本ブロックの資料は母岩分類していない。

2）出土遺物（第193図）

１は，灰褐色に風化したホルンフェルスによる剥片である。

第62表　C23-Ⅰブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
その他(Ho)																			5			5		5
C23R-㉑(Sa)																							1	1
C23R-㉒(Sa)																							1	1
その他(Rh)																							1	1
合　計																			5			5	3	8

第63表　C23-Ⅰブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
流紋岩(Rh)																							1	1
砂岩(Sa)																							2	2
ホルンフェルス(Ho)																			5			5		5
合　計																			5			5	3	8

9　C58A-Aブロック（第196～198図，第64・65表）

1）ブロックの概要

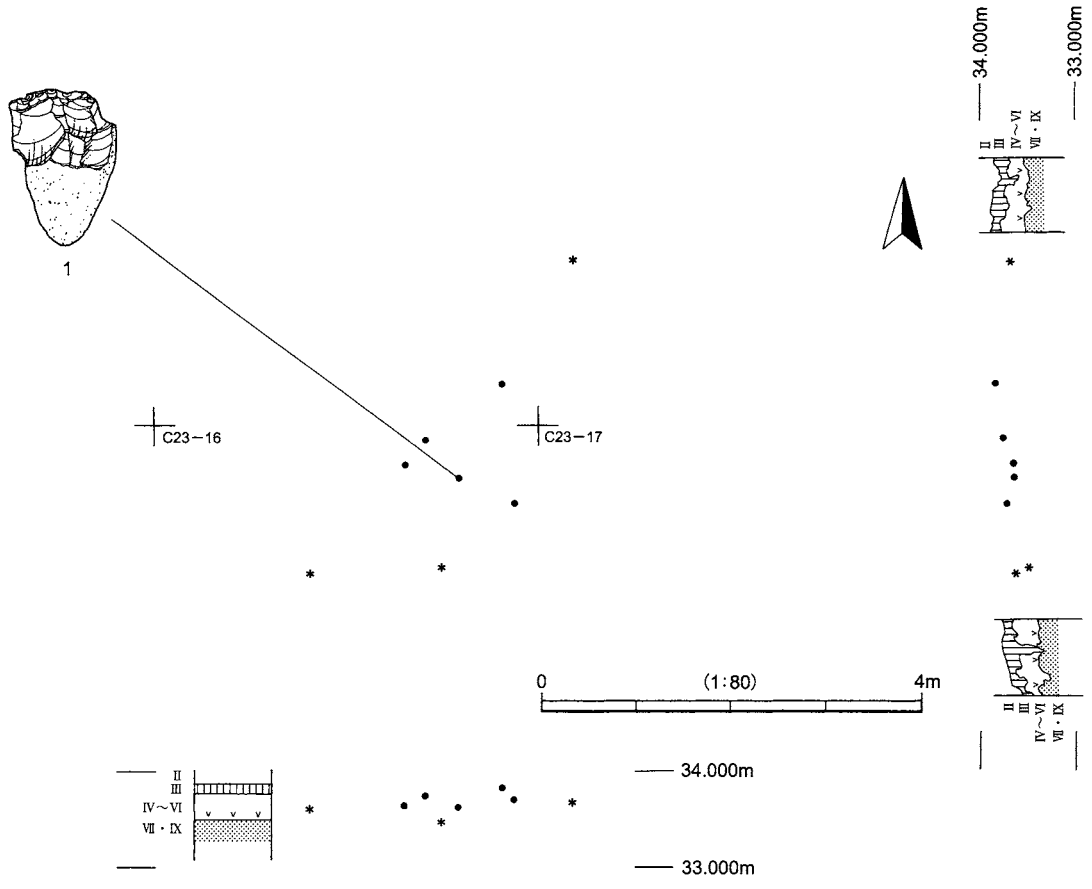
C58A-Aブロックは，調査範囲北西のC58A-87・98グリッドに位置する。ブロックの立地は台地中央の平坦面で，南側の傾斜変換点までの距離は140mである。

ブロックの規模と形状は，長軸３m，短軸２mの範囲に６点の石器群が散漫に分布する。出土層位はⅣ・Ⅴ層で，ほぼ水平に包含されている（第196・197図）。

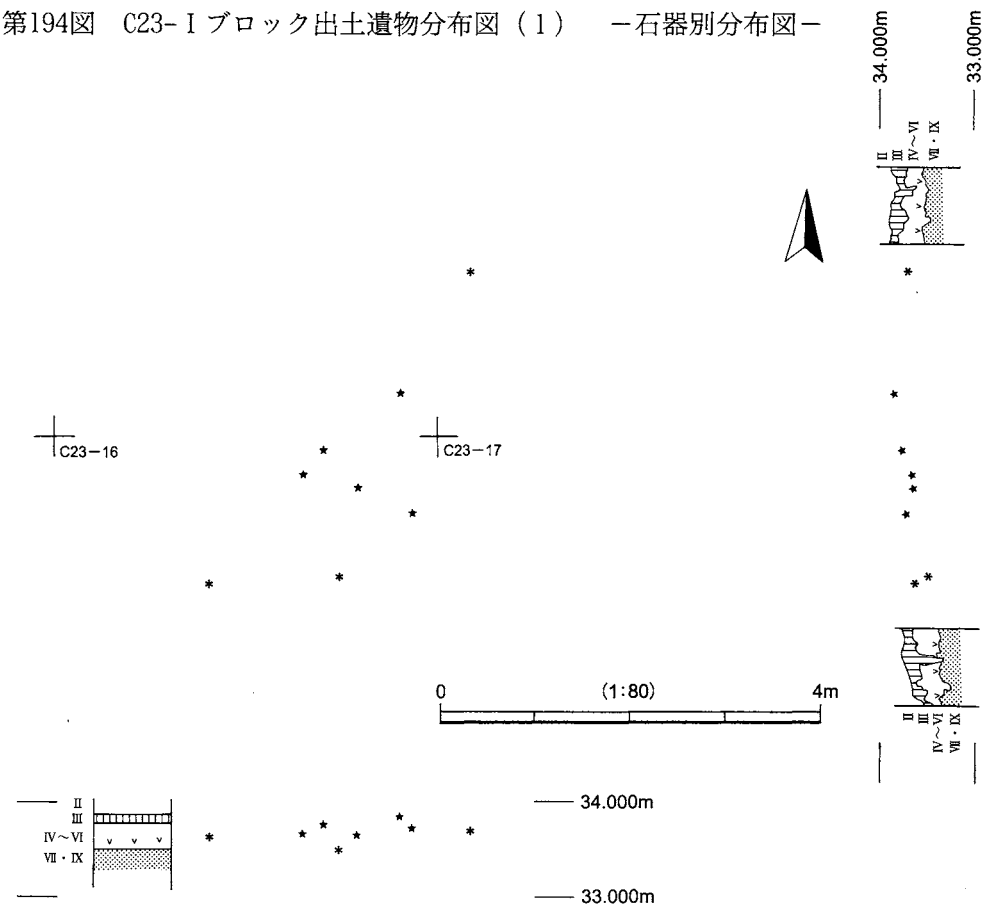
ブロックは剥片６点で構成され，石材はすべて同一母岩の黒曜石である。

2）母岩の特徴と内容

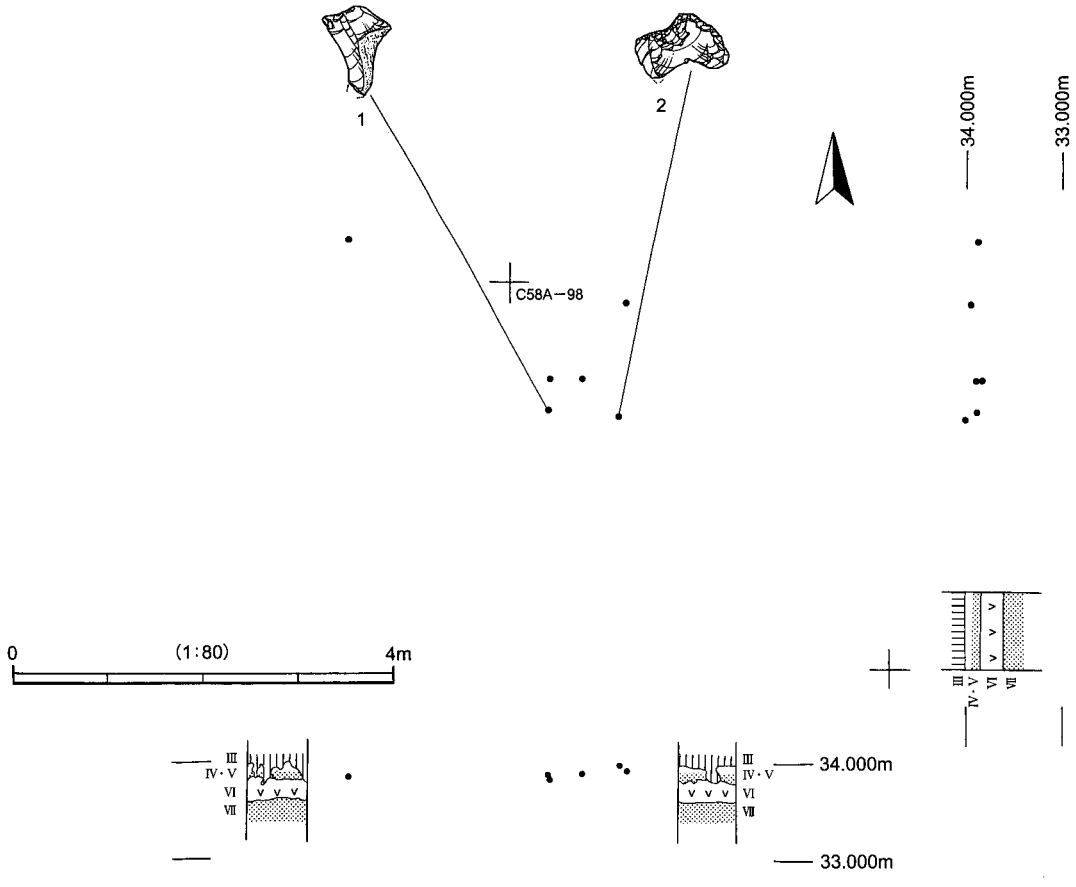
・C58A-①：透明の地に淡黒色の細かな縞が多数入る黒曜石で，信州産と考えられる。母岩の構成は，剥



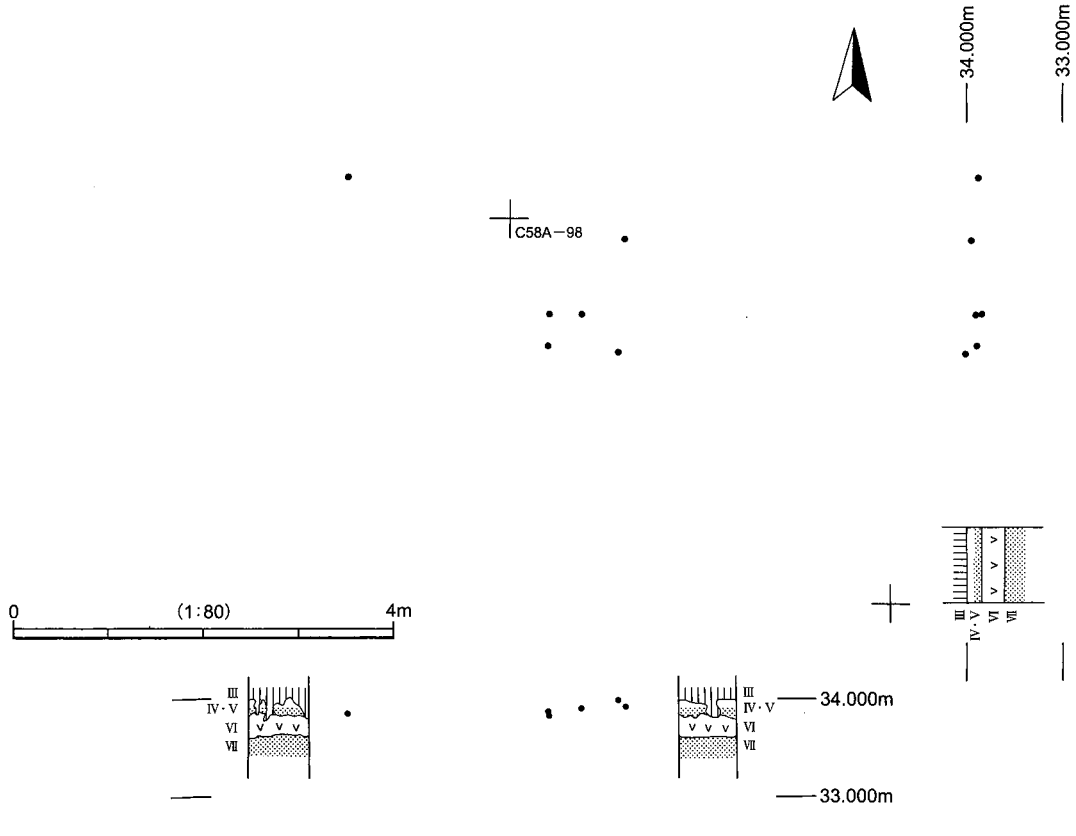
第194図　C23-Ⅰブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



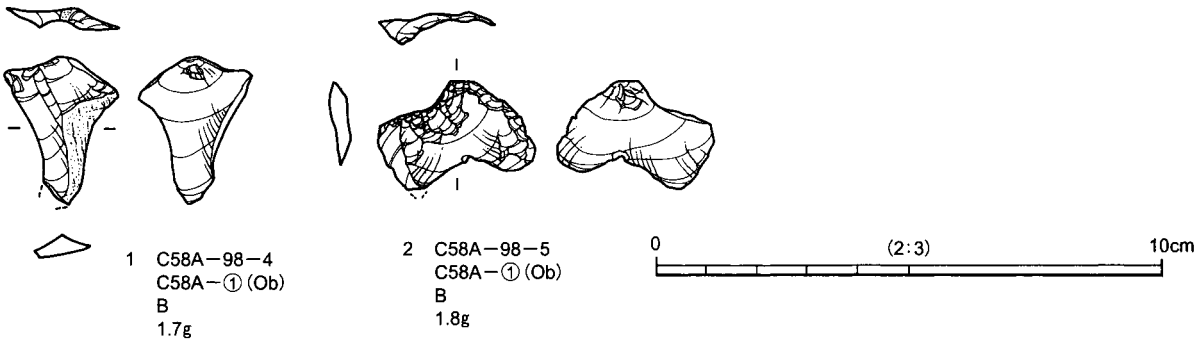
第195図　C23-Ⅰブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－



第196図　C58A−Aブロック出土遺物分布図（1）　−石器別分布図−



第197図　C58A−Aブロック出土遺物分布図（2）　−石材別分布図−



第198図　C58A-Aブロック出土遺物実測図

片６点（合計4.3ｇ）である。

3）出土遺物（第198図）

１・２は，不定型の剥片である。いずれも，表面は裏面と同一方向の剥離面を中心に構成されている。２の左端にはポジティブな剥離面が見られ，剥片素材の石核から剥離された可能性がある。

なお，図示した以外には，ナイフ形石器の先端部片や小型不定型の剥片がある。

第64表　C58A-Aブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C58A-①(Ob)																			6			6		6
合　計																			6			6		6

第65表　C58A-Aブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)																			6			6		6
合　計																			6			6		6

10　C61-Aブロック（第199～202図，第66・67表）

1）ブロックの概要

C61-Aブロックは，調査範囲西南のC60-91，C61-00・01グリッドに位置する。ブロックの立地は，南に向かって開く谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点までの距離は15ｍである。

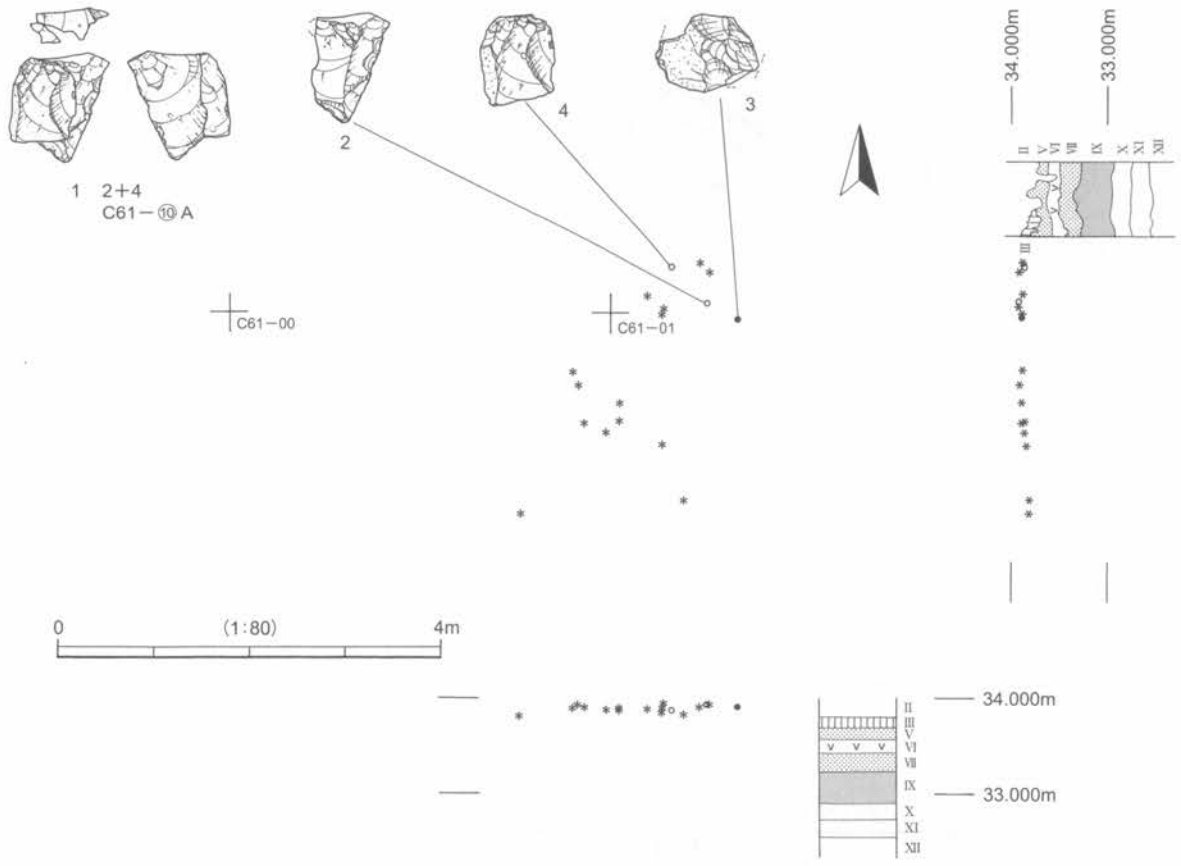
ブロックの規模と形状は，長軸３ｍ，短軸２ｍの範囲に17点の石器・礫が散漫に分布する。出土層位はⅢ層で，ほぼ水平に包含されている（第199・200図）。

ブロックは，使用痕ある剥片２点，剥片１点，礫14点の合計17点で構成され，石器石材は，流紋岩２点，珪質頁岩１点，礫石材は，流紋岩１点，花崗岩１点，不明の火成岩１点，チャート１点，砂岩10点である。礫は母岩分類できたものが６点（４母岩），母岩不明なものが８点ある。

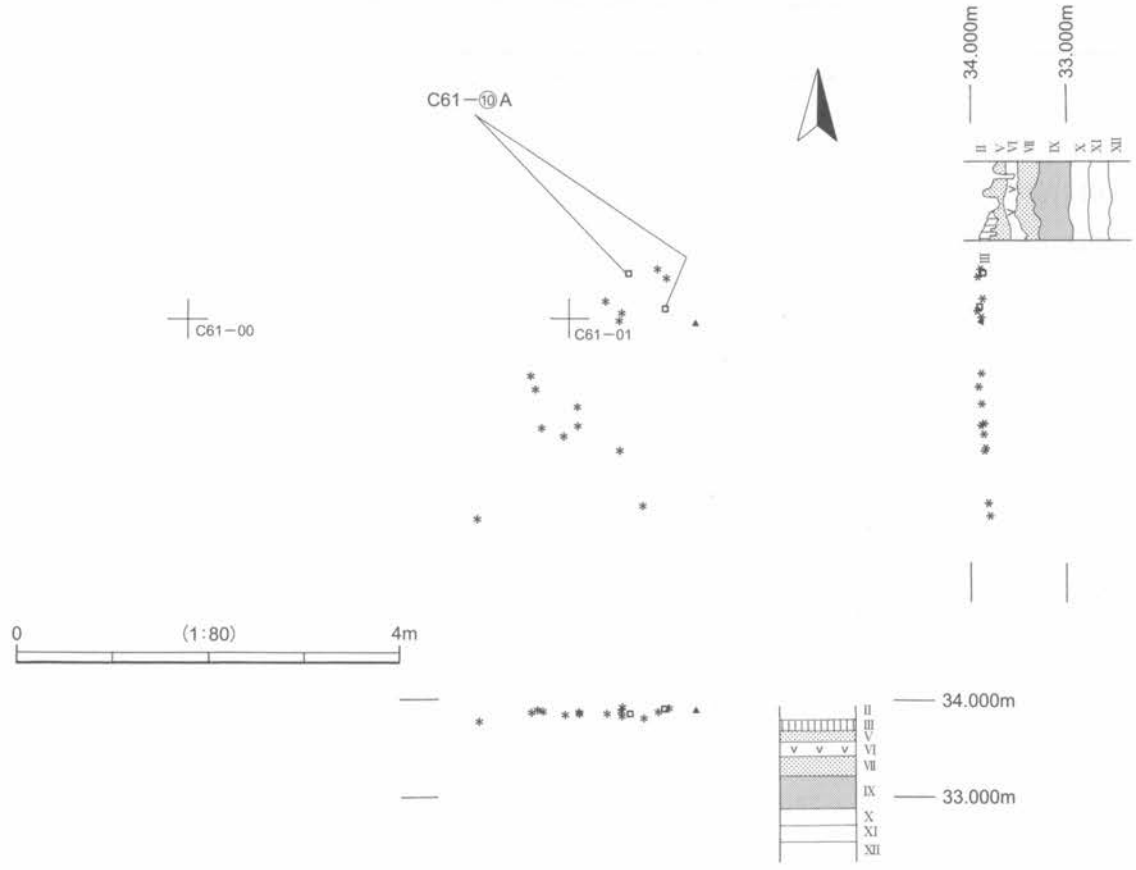
2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは，流紋岩１母岩を識別した。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は67％（２/３点）である。

・C61-⑩：灰白色の地にφ２㎜ほどの夾雑物を含む流紋岩である。使用痕ある剥片２点（合計11.5ｇ）で構成され，互いに接合する。このうち１点は，被熱してわずかに赤化している。



第199図　C61-Aブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



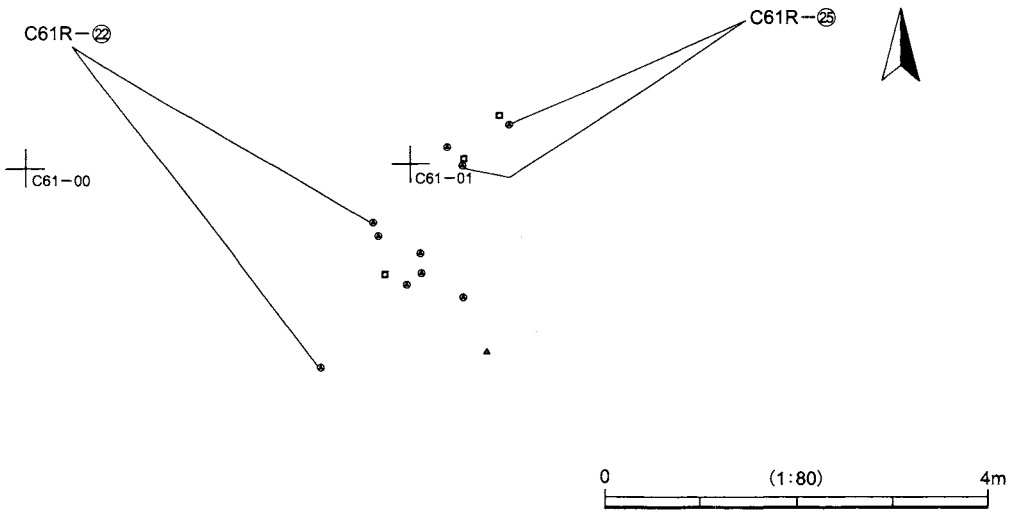
第200図　C61-Aブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－

第66表　C61-Aブロック母岩別石器組成表

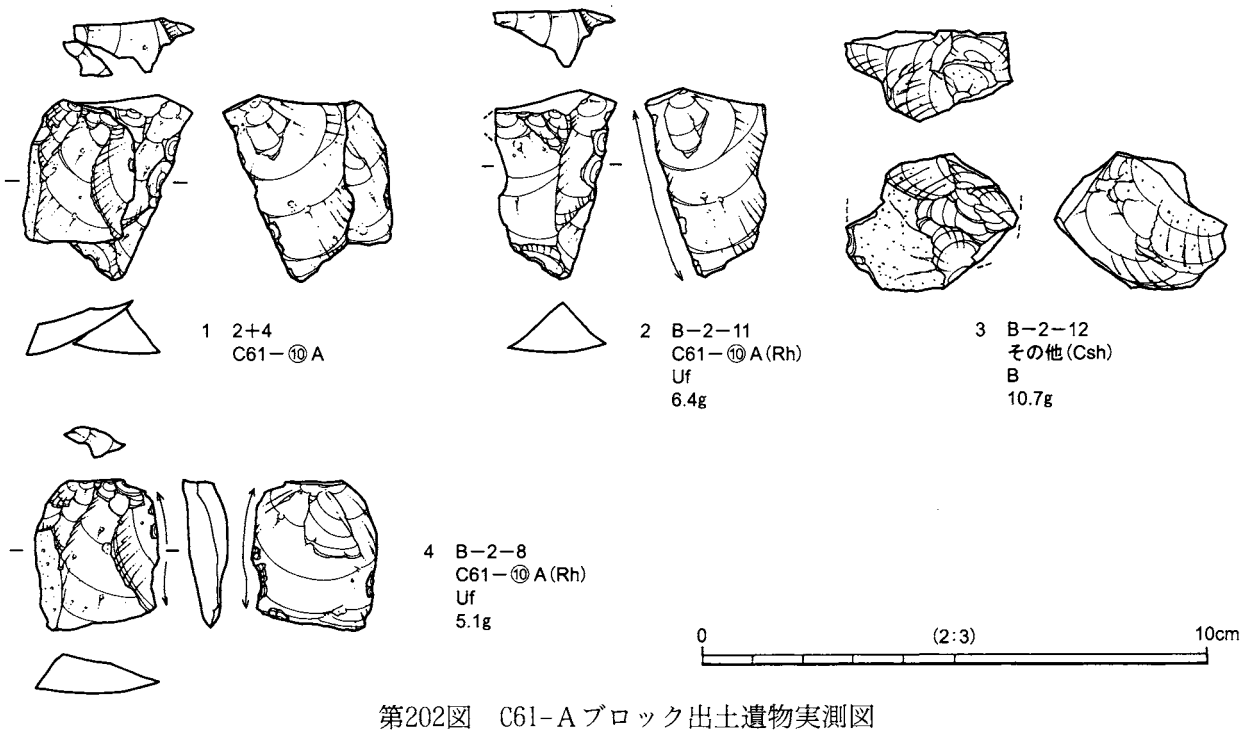
母岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C61-⑩(Rh)											2											2		2
その他(Csh)																			1			1		1
C61R-㉒(Sa)																							2	2
C61R-㉓(Sa)																							1	1
C61R-㉔(Gi)																							1	1
C61R-㉕(Sa)																							2	2
その他(Rh)																							1	1
その他(Ch)																							1	1
その他(Sa)																							5	5
その他(不明)																							1	1
合　計											2								1			3	14	17

第67表　C61-Aブロック石材別石器組成表

石材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
流紋岩(Rh)											2											2	1	3
花崗岩(Gi)																							1	1
不明																							1	1
珪質頁岩(Csh)																			1			1		1
チャート(Ch)																							1	1
砂岩(Sa)																							10	10
合　計											2								1			3	14	17



第201図　C61-Aブロック出土遺物分布図（3）　－礫石材別分布図－



第202図　C61-Aブロック出土遺物実測図

なお，母岩分類できなかった資料に，珪質頁岩の剥片１点（10.7ｇ）がある。

３）出土遺物（第202図）

２と４は，流紋岩による縦長剥片を利用した使用痕ある剥片である。いずれも，鋭利な縁辺に刃こぼれがある。なお，両者は接合しており（１），２→４の順に剥離している。

３は，自然面は橙褐色，内部は紫がかった灰色の嶺岡産珪質頁岩による不定型の剥片である。打面付近は折れている。

11　C61-Bブロック（第203～205図，第68・69表）

１）ブロックの概要

C61-Bブロックは，調査範囲西南のC61-01・02グリッドに位置する。ブロックの立地は，南に向かって開く谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点までの距離は14mである。

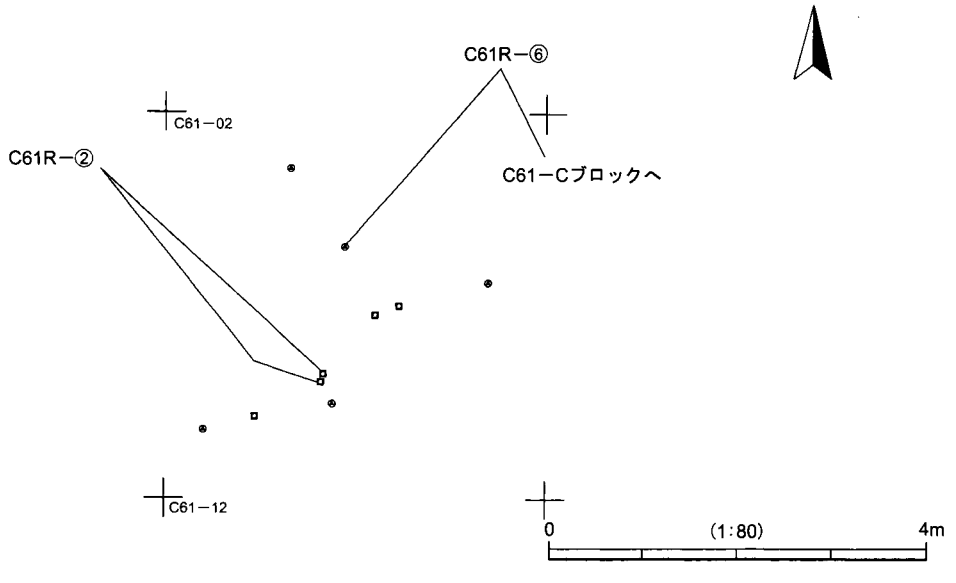
ブロックの規模と形状は，長軸４m，短軸３mの範囲に12点の石器・礫が散漫に分布する。出土層位はⅢ層で，20cmほどの高低差をもって，西に向かって緩やかに下りながら包含されている（第204・205図）。

第68表　C61-Bブロック母岩別石器組成表

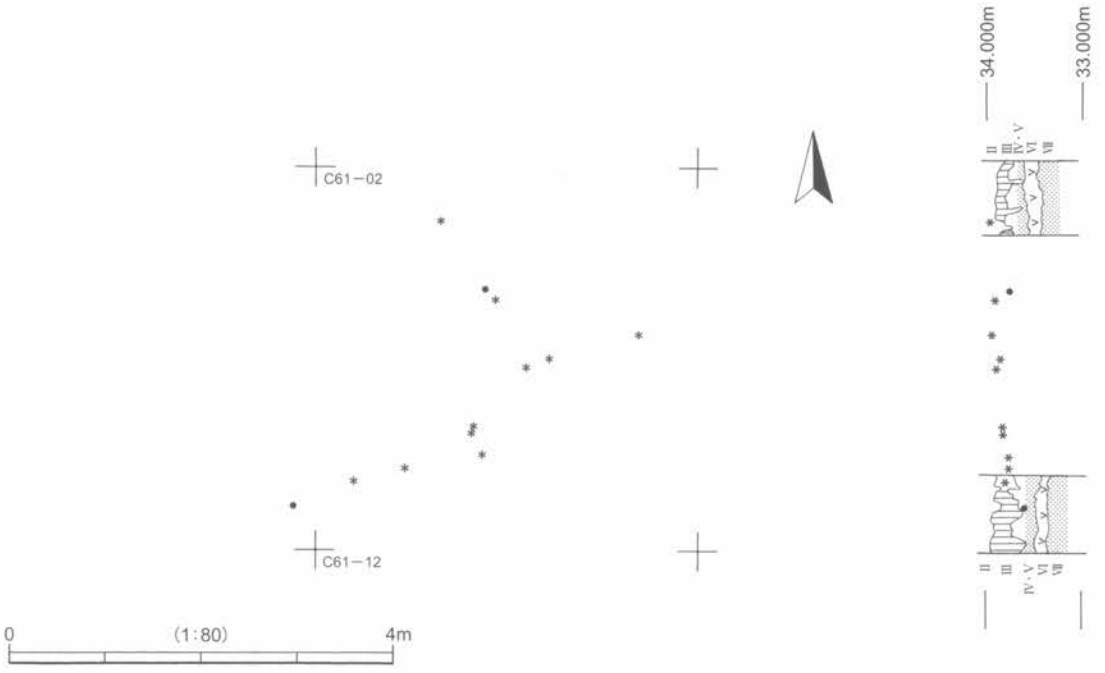
母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
その他(Sh)																			2			2		2
C61R-②(Rh)																							2	2
C61R-③(Sa)																							1	1
C61R-④(Rh)																							1	1
C61R-⑤(Sa)																							1	1
C61R-⑥(Sa)																							1	1
その他(Rh)																							2	2
その他(Sa)																							2	2
合　計																			2			2	10	12

第69表　C61-Bブロック石材別石器組成表

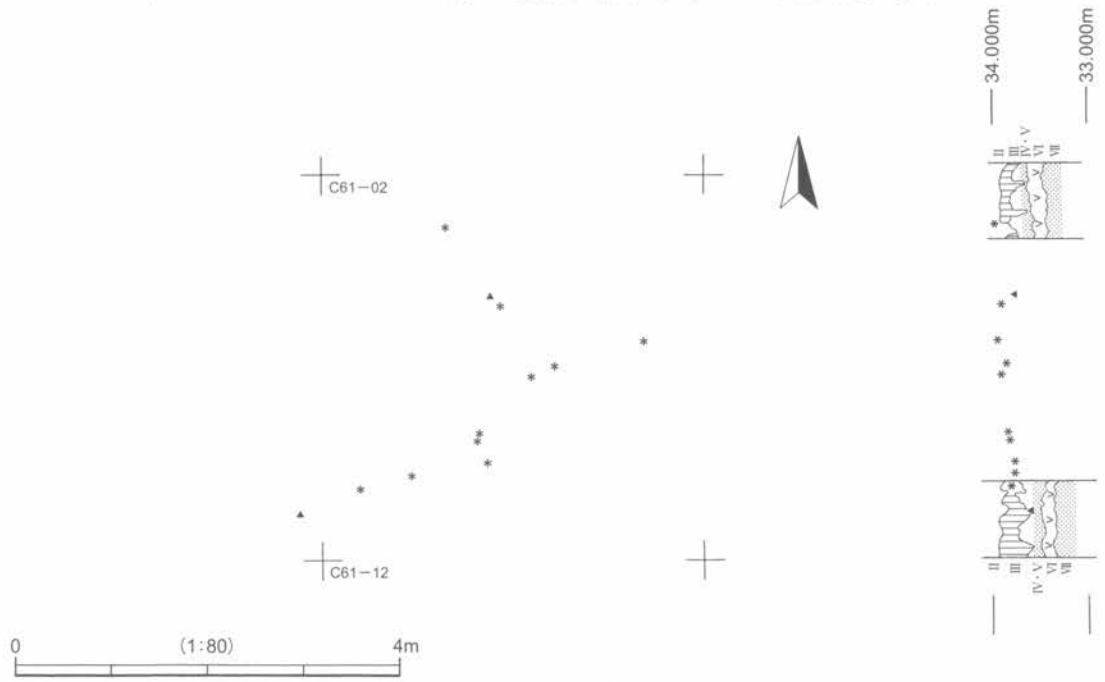
石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
流紋岩(Rh)																							5	5
頁岩(Sh)																			2			2		2
砂岩(Sa)																							5	5
合　計																			2			2	10	12



第203図　C61-Bブロック出土遺物分布図（１）　－礫石材別分布図－



第204図　C61-Bブロック出土遺物分布図（2）　－石器別分布図－



第205図　C61-Bブロック出土遺物分布図（3）　－石材別分布図－

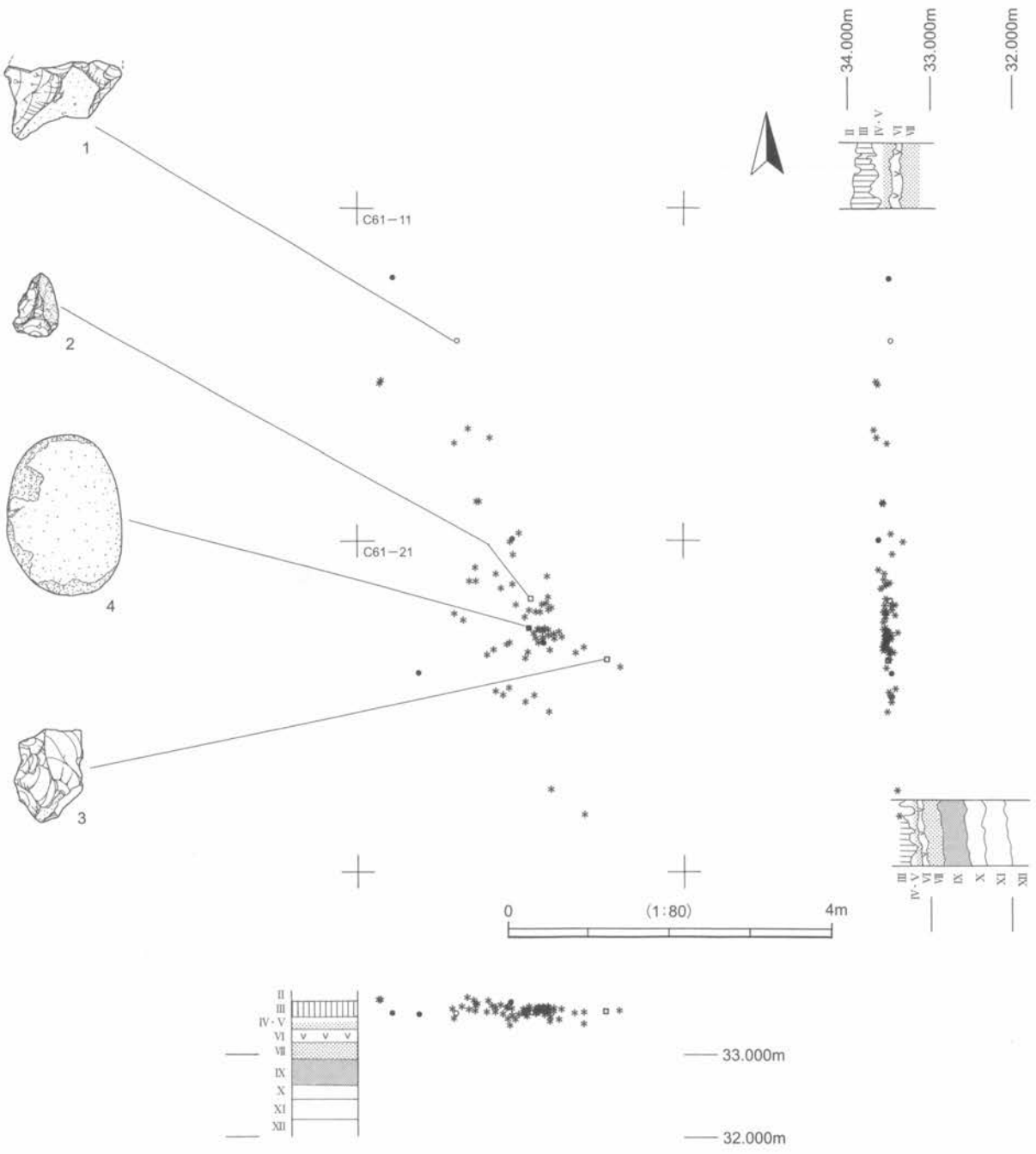
ブロックは剥片２点，礫10点で構成され，石器石材は頁岩２点，礫石材は流紋岩５点，砂岩５点である。礫は，母岩分類できたものが６点（５母岩），母岩の不明なものが４点ある。

なお，本ブロックの資料は母岩分類はできなかった。対象資料は頁岩の剥片２点（合計15.6ｇ）である。

12　C61-Cブロック（第206～210図，第70～72表）

１）ブロックの概要

C61-Cブロックは，調査範囲西南のC61-11・21グリッドに位置する。ブロックの立地は，南に向かって開く谷頭に臨む台地の縁辺部で，傾斜変換点までの距離は５ｍである。



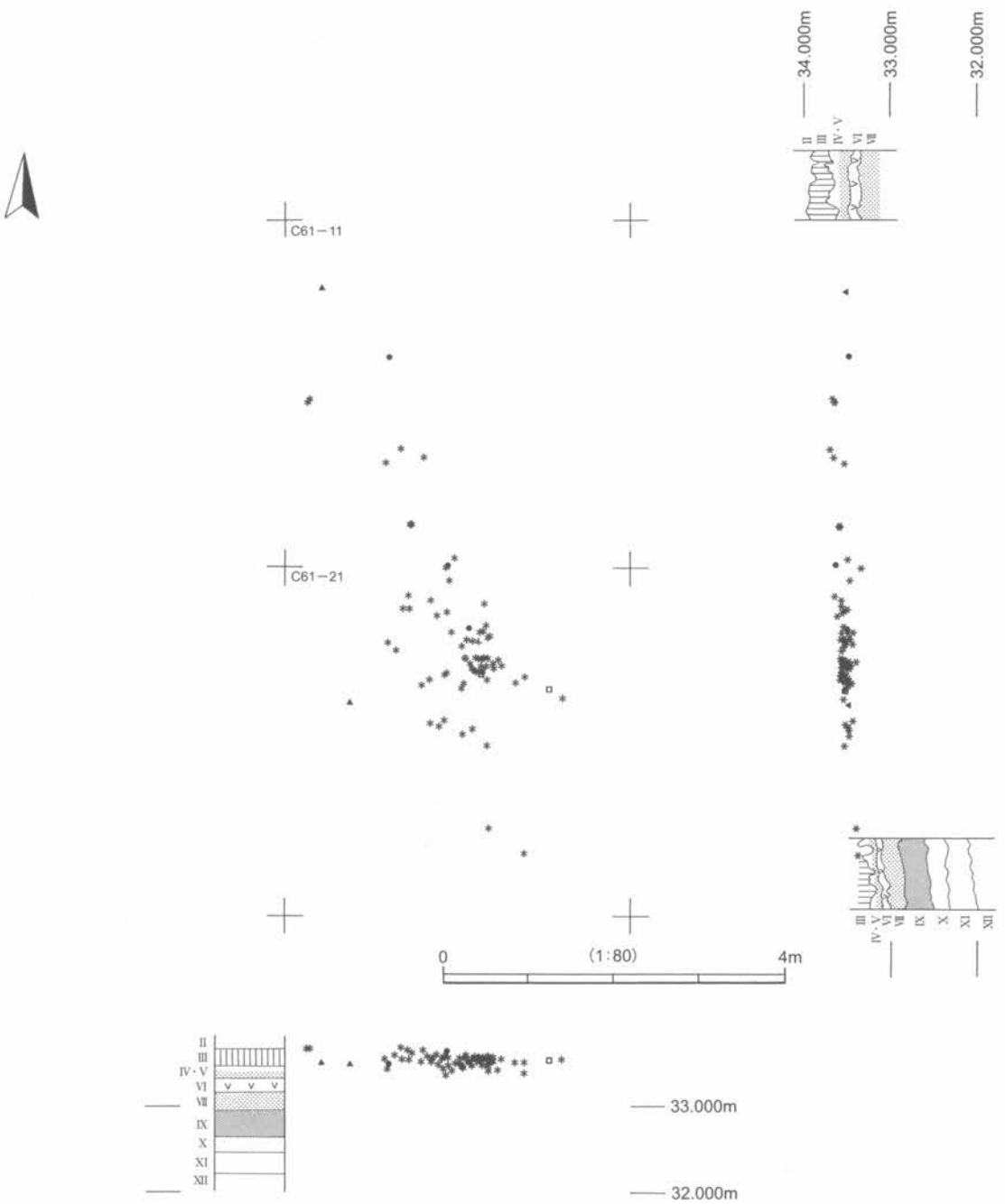
第206図　C61-Cブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－

ブロックの規模と形状は，長軸７ｍ，短軸２ｍの範囲に69点の石器・礫が分布する。特に，南側の直径２ｍの範囲に大半の石器・礫が集中するが，周辺ブロックと同様，本ブロックも大半が礫で構成される。出土層位はⅢ層で，40㎝ほどの高低差をもって水平に包含されている（第206・207図）。

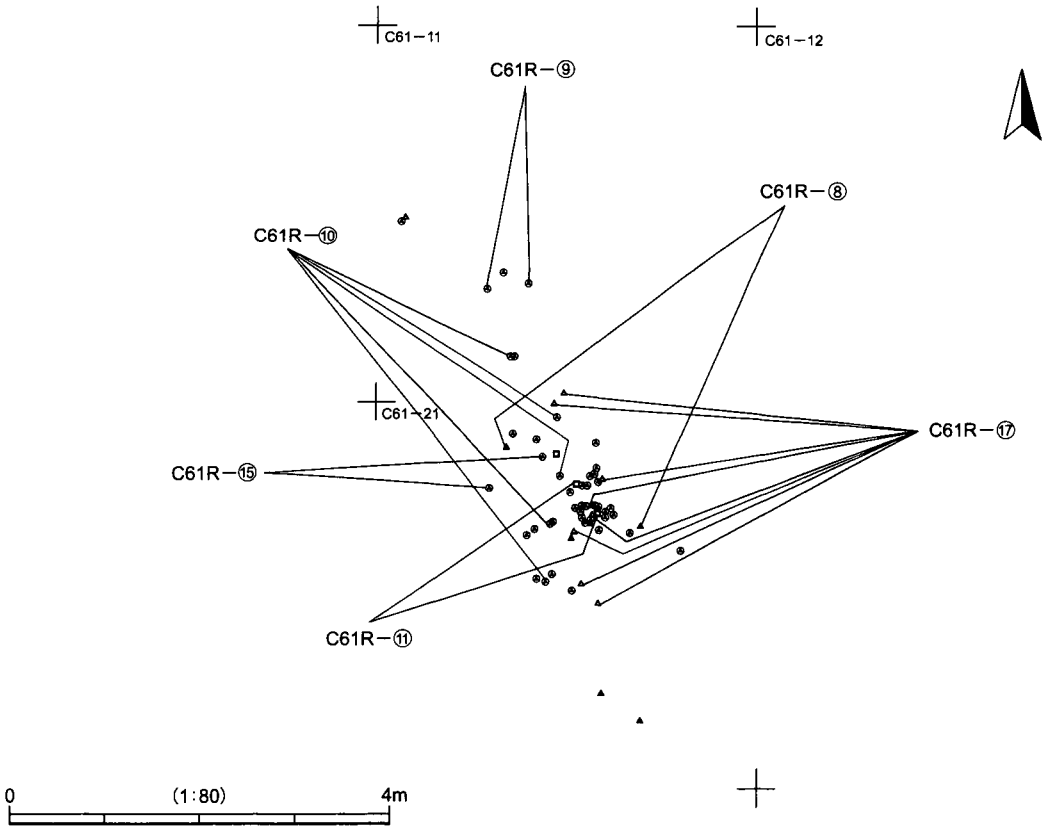
ブロックは，使用痕ある剥片１点，敲石１点，剥片４点，石核２点，礫61点の合計69点で構成され，石器石材は，黒曜石２点，流紋岩１点，砂岩１点，ホルンフェルス４点，礫石材は，流紋岩２点，不明の火成岩１点，頁岩５点，チャート９点，砂岩44点である。礫は，母岩分類できたものが43点（16母岩），母岩の不明なものが18点である。

２）母岩の特徴と内容

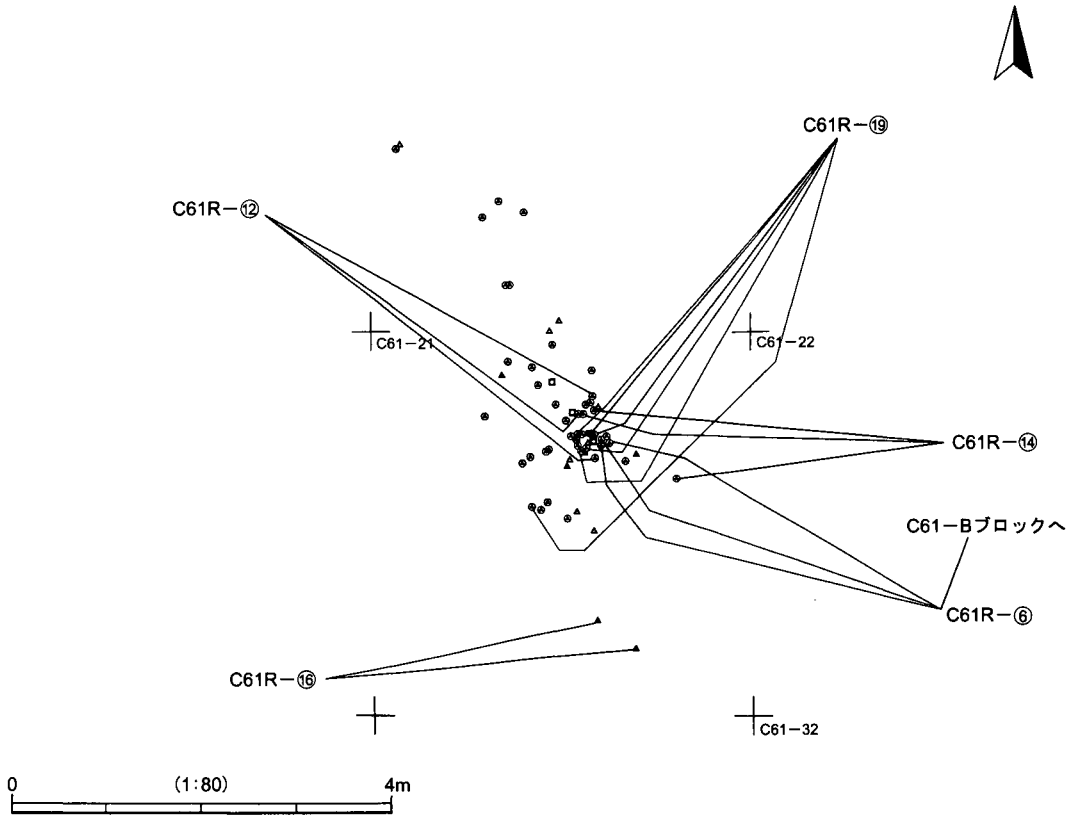
本ブロックでは，黒曜石１母岩を識別した。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は25％（２/８



第207図　C61-Cブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－



第208図　C61-Cブロック出土遺物分布図（3）　－礫石材別分布図（1）－



第209図　C61-Cブロック出土遺物分布図（4）　－礫石材別分布図（2）－

点）である。

・C61-⑪：黒色不透明で灰白色の夾雑物を含む黒曜石である。栃木県高原山産の可能性があるが，判然としない。原石は，自然面のようすから見て，ほかの黒曜石と異なり小型の亜角礫ないしは亜円礫である。小型の剥片１点と小型の石核１点（4.2ｇ）で構成される。

第70表　C61-Cブロック母岩別石器組成表

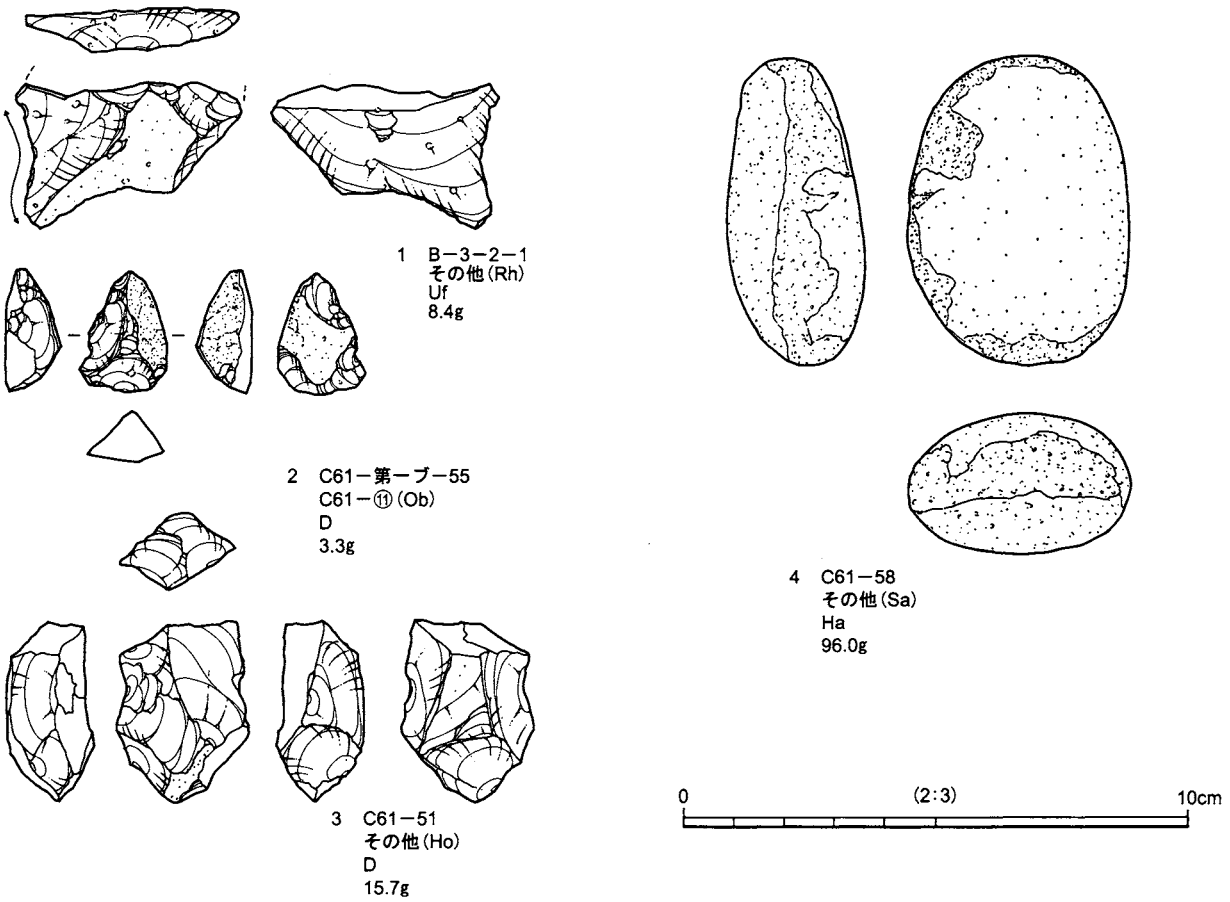
母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C61-⑪(Ob)																			1		1	2		2
その他(Rh)											1											1		1
その他(Sh)																			2			2		2
その他(Sa)															1							1		1
その他(Ho)																			1		1	2		2
合　計											1				1				4		2	8		8

第71表　C61-Cブロック母岩別礫一覧表

母　岩	点数	重量	母　岩	点数	重量	母　岩	点数	重量	母　岩	点数	重量
C61R-⑥(Sa)	3	215.1	C61R-⑪(Rh)	2	24.5	C61R-⑯(Sh)	2	82.7	C61R-㉑(不明)	1	47.5
C61R-⑦(Sa)	1	90.0	C61R-⑫(Sa)	3	64.4	C61R-⑰(Ch)	8	45.1	その他(Ch)	1	4.8
C61R-⑧(Sh)	2	17.2	C61R-⑬(Sa)	1	181.0	C61R-⑱(Sh)	1	50.1	その他(Sa)	17	437.9
C61R-⑨(Sa)	2	57.5	C61R-⑭(Sa)	3	80.8	C61R-⑲(Sa)	6	191.3	合　計	61	1812.4
C61R-⑩(Sa)	5	110.9	C61R-⑮(Sa)	2	24.9	C61R-⑳(Sa)	1	86.7			

第72表　C61-Cブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)																			1		1	2		2
流紋岩(Rh)											1											1	2	3
不明																							1	1
頁岩(Sh)																			2			2	5	7
チャート(Ch)																							9	9
砂岩(Sa)															1							1	44	45
ホルンフェルス(Ho)																			1		1	2		2
合　計											1				1				4		2	8	61	69



第210図　C61-Cブロック出土遺物実測図

なお，母岩分類できなかった資料に流紋岩の使用痕ある剥片１点（8.4ｇ），ホルンフェルスの剥片３点，石核１点（合計45.6ｇ），砂岩の敲石１点（96.0ｇ）がある。

３）出土遺物（第210図）

１は，流紋岩による不定型の剥片を利用した使用痕ある剥片である。C61-Ａブロックに分布するC61-⑩母岩に似る。左側縁に刃こぼれがある。

２は，黒曜石による小型の石核である。表裏に礫面を残すことから，石核の素材は礫片と考えられる。左側縁で，交互剥離によって小型不定型の剥片を剥離している。３は，淡い灰色に風化したホルンフェルスによる石核である。素材は厚手の剥片と考えられるが，素材の面は残っていない。表裏面ともに作業面とし，交互剥離によって小型不定型の剥片を剥離している。

４は，砂岩による小型の敲石である。下端から左側面にかけて，敲打痕がある。

第７節　ブロック外出土遺物

本節では，ブロックを形成していない単独出土資料や上層遺構の覆土から出土した資料を記述する。

１　C12グリッド（第211・213図）

１は，黒曜石の縦長剥片を利用した使用痕ある剥片である。右半には平滑な自然面が残り，下端には石核時の稜形成痕が見られる。打面部は欠損する。両側縁に大小さまざまな剥離痕が見られるが，いずれも使用痕と考えられる。石材は，透明の地に青みがかった黒灰色と黒色の帯が平行して多数入り，白色の夾雑物を若干含む黒曜石である。信州産と考えられる。C12-64グリッドのⅥ層から出土した。なお，図示していないが，C12-54グリッドのⅥ層から信州産黒曜石による剥片１点が出土している。２は，黄灰色に風化した頁岩による不定型の剥片である。C12-94グリッドのⅦ層から出土した。

２　C13・17グリッド（第211・214図）

１は，黒灰色のホルンフェルスを用いた石斧である。実測図の上部と右側面は折れ面，下端と左側面は粗い剥離面で構成される。表裏面はあばた状に風化しており，素材の性状は不明であるが，部分的に研磨痕が見られる。なお，下端の剥離面は右側面の折れ面を，左側面の剥離面は上端の折れ面を切っていることから，破損した石斧片をほかの石器，あるいは石核として再利用したかも知れない。２は，黄緑色の蛇紋岩による石斧の刃部再生剥片である。表面に研磨痕が見られる。１・２とも，草刈遺跡Ｄ区で設定した第２文化層に帰属する可能性があるが，単独出土のため，詳細は明らかにできない。３は，灰白色に風化した軟質の安山岩（トロトロ石）による不定型の剥片である。表面にある剥離面は，裏面と逆方向の剥離面で構成される。４は，砂岩による敲石である。卵形で下端に敲打痕がある。１はC13-36グリッドのＸ層，２はC13-35グリッドのＸ層，３はC13-21グリッドのⅨ層下部，４はC17-13グリッドのⅣ層から出土した。

３　C16グリッド（第211・215図）

１は，灰白色から褐色にまで変異のある珪質頁岩の剥片（３）と石核（２）の接合資料である。礫片を素材とする石核を用い，打面と作業面を繰り返し移動しながら，小型不定型の剥片を剥離している。C16-42・43グリッドのⅦ層から出土した。

４　C23グリッド（第211・216図）

１は，暗褐色で硬質緻密な東北産頁岩によるナイフ形石器である。素材剥片の打面を基部側に置き，左側縁の全体と右側縁の基部寄りに調整加工を行い，切出形に仕上げている。右側縁は裏面から，左側縁は

表裏両面から調整している。右側縁上部には刃こぼれがある。２は，自然面が橙褐色，内部が黄褐色の嶺岡産珪質頁岩による使用痕ある剥片である。鋭利な縁辺に細かな剥離痕が見られる。３は，灰緑色の珪質頁岩による縦長剥片である。打面は槍先形石器や楔形石器の調整剥片のように潰れている。１はC23-10グリッドのⅣ層，２・３は，ともにC23-01グリッドのⅦ層から出土した。

5　C58Aグリッド（第212・217図）

１は，暗褐色で硬質緻密な東北産頁岩によるナイフ形石器である。中型の石刃を素材とし，素材の打面の両側に裏面から調整加工を行っている。上半部は欠損する。C58A-41グリッドのⅥ層から出土した。

6　C58Bグリッド（第212・218図）

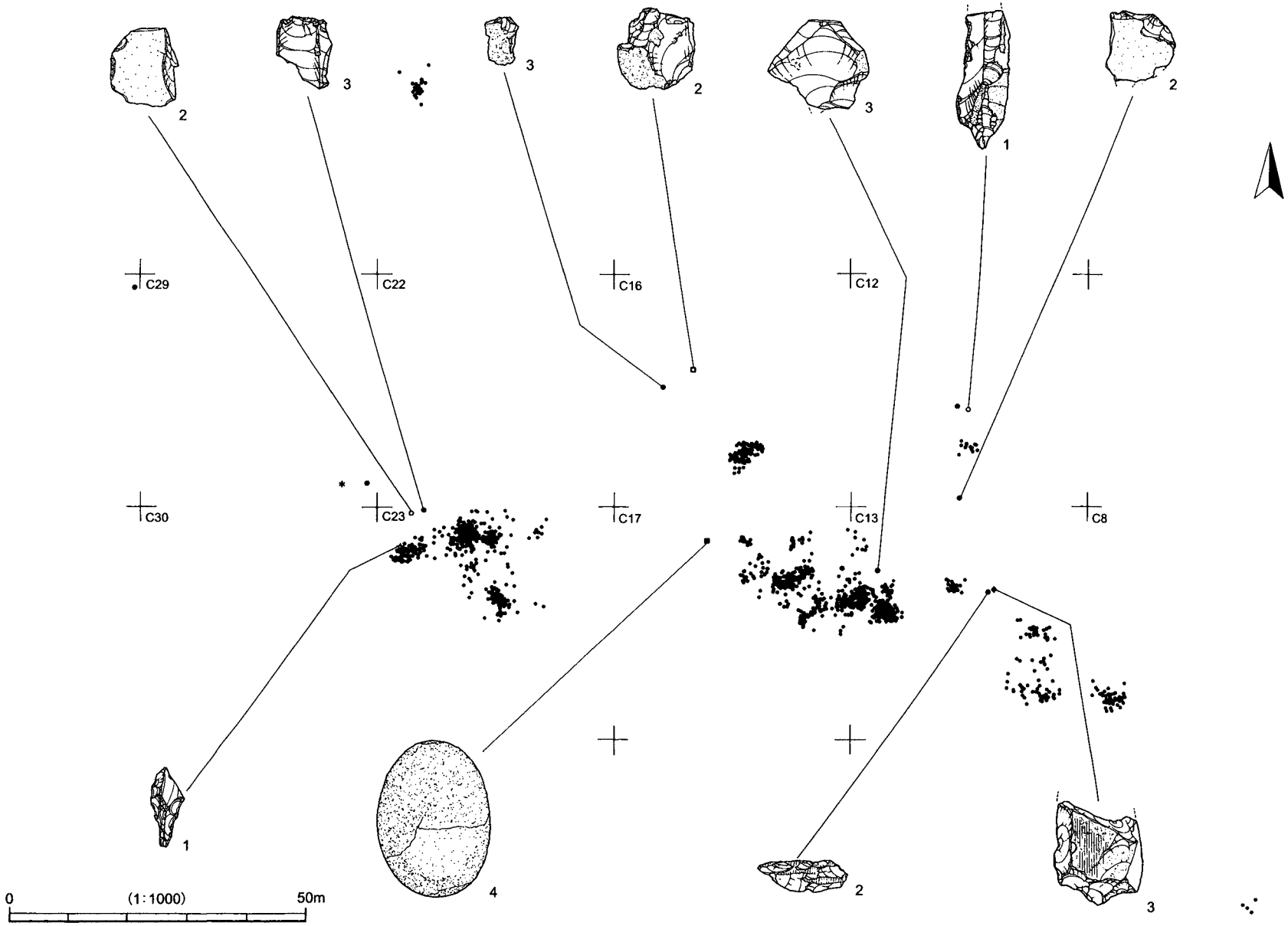
１は，淡黒色透明の地に黒色の縞が入る良質な黒曜石による石刃である。信州産と考えられる。打面は細かく調整されている。２は，暗青灰色の珪質頁岩による剥片である。下端に下設打面が付いており，表面にも裏面と逆方向の剥離面がある。１はC58B-83グリッドのⅥ層，２はC58B-27グリッドのⅦ層から出土した。

7　C区一括（第219図）

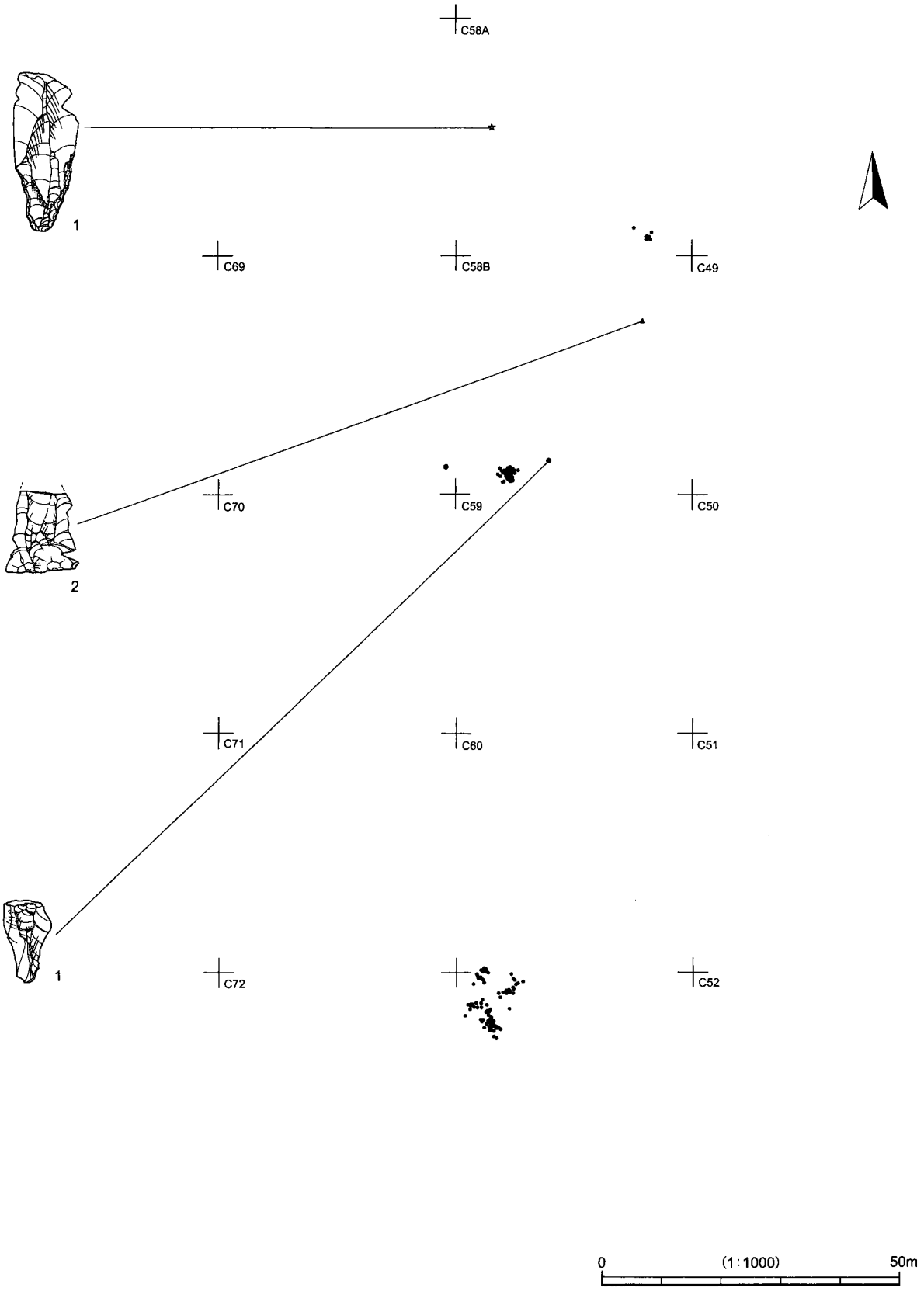
１～９は上層遺構内や表土層等，本来の位置を留めていないと考えられる資料である。形態から旧石器と判断した資料に限って報告する。

１～４はナイフ形石器である。１は，淡黒灰色の良質な黒曜石による横長剥片を素材とし，素材の打面側を中心に調整している。２は，漆黒色不透明で夾雑物を含む黒曜石による寸詰まりの縦長剥片を素材とする。左側縁の先端部に急角度の調整加工を行っている。３は，明灰緑色の凝灰岩による横長剥片を素材とする。素材の打面側１側縁を調整している。上半部を欠損する。４は，赤みを帯びた褐色の黒曜石による縦長剥片を素材とする。右側縁に表裏両面から急角度の調整加工を行っている。上半部を欠損する。

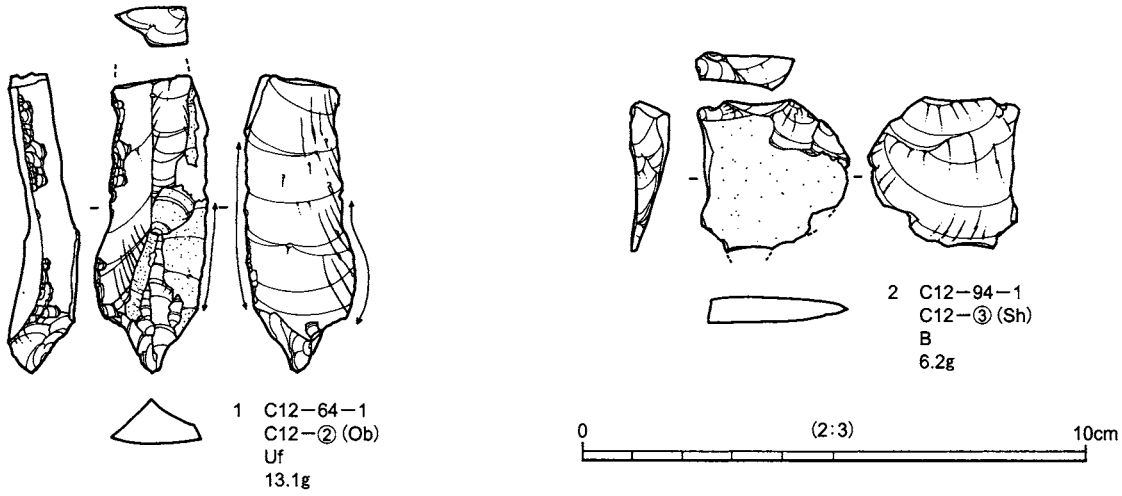
５は，灰緑色の嶺岡産珪質頁岩による台形石器である。横長剥片を素材とし，打面部と末端部に表裏から調整している。６は，青みがかった黒色不透明で，白色の夾雑物を含む黒曜石による掻器である。素材は不定型の剥片であるが，広く平坦な打面から頭部調整のような細かな剥離が行われた後に素材剥片が剥離された可能性がある。したがって，通常の石核からではなく，掻器から剥離された刃部再生剥片を利用した可能性がある。７は，灰色に風化した安山岩による削器である。不定型な剥片を素材とし，主要剥離面側に細かな調整加工を行っている。素材の打面は欠損する。８は，透明の地に黒色の縞が多数入る良質な黒曜石による石刃である。表面には裏面と同一方向の剥離面とともに逆方向の剥離面も見られる。鋭利な両側縁には刃こぼれがある。９は，灰白色に風化した軟質の安山岩（トロトロ石）による縦長剥片である。



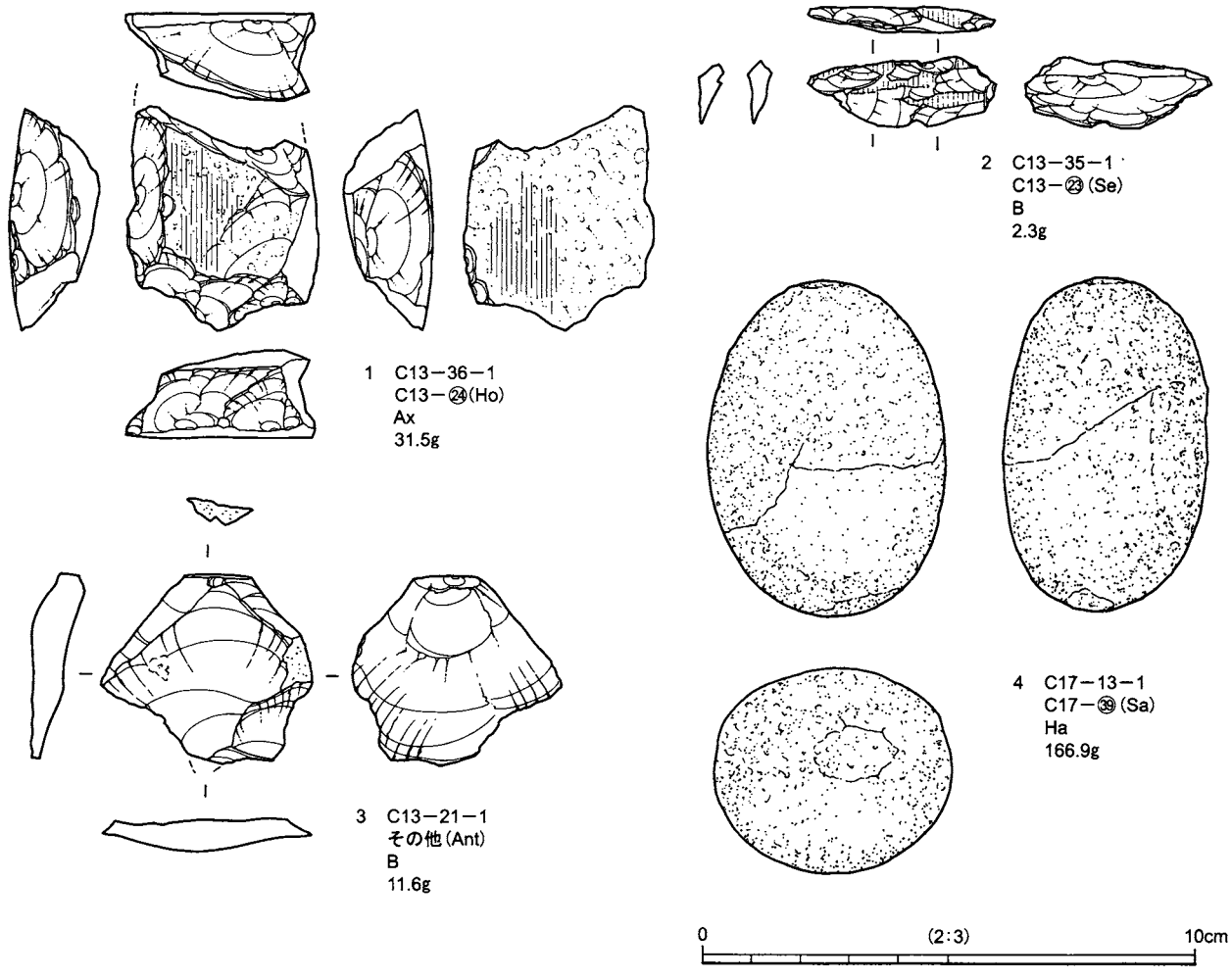
第211図　草刈遺跡Ｃ区ブロック外出土遺物分布図（１）



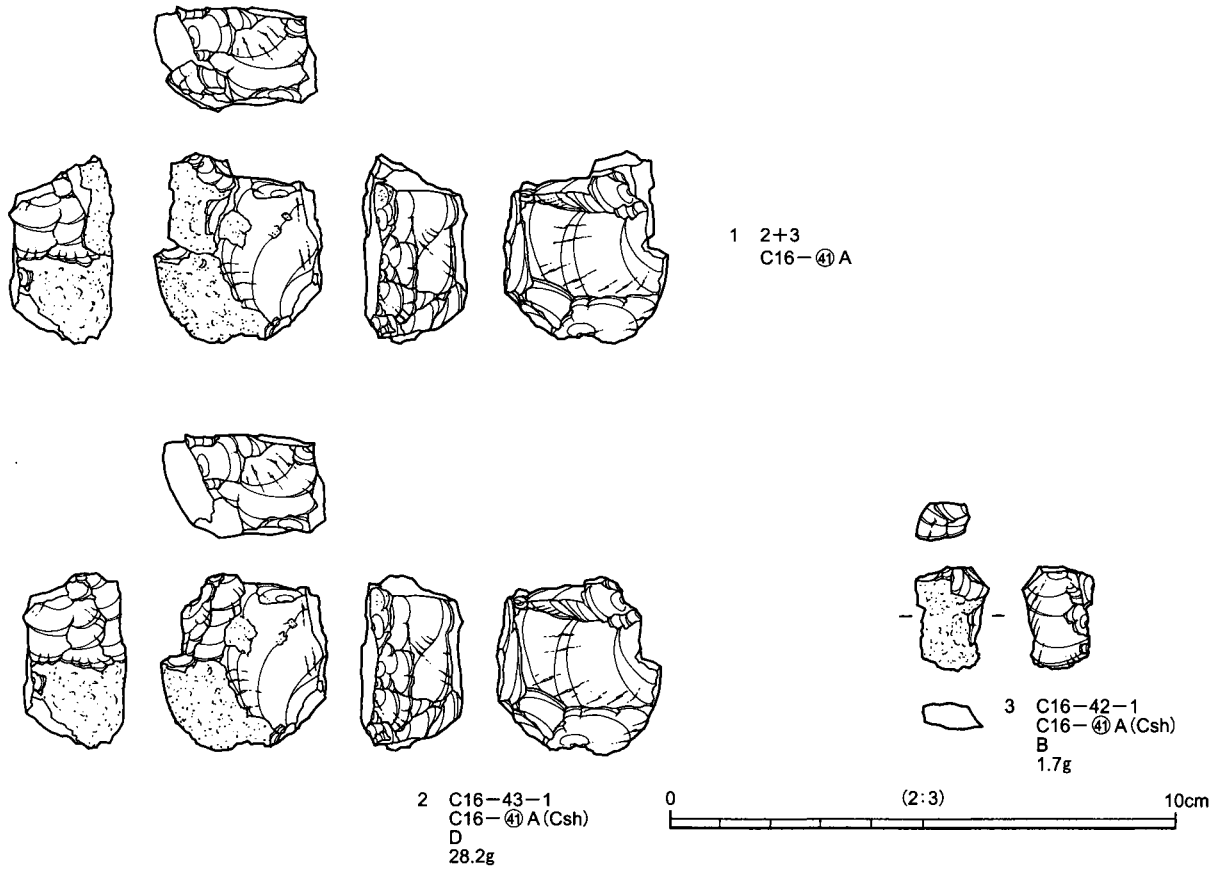
第212図　草刈遺跡Ｃ区ブロック外出土遺物分布図（２）



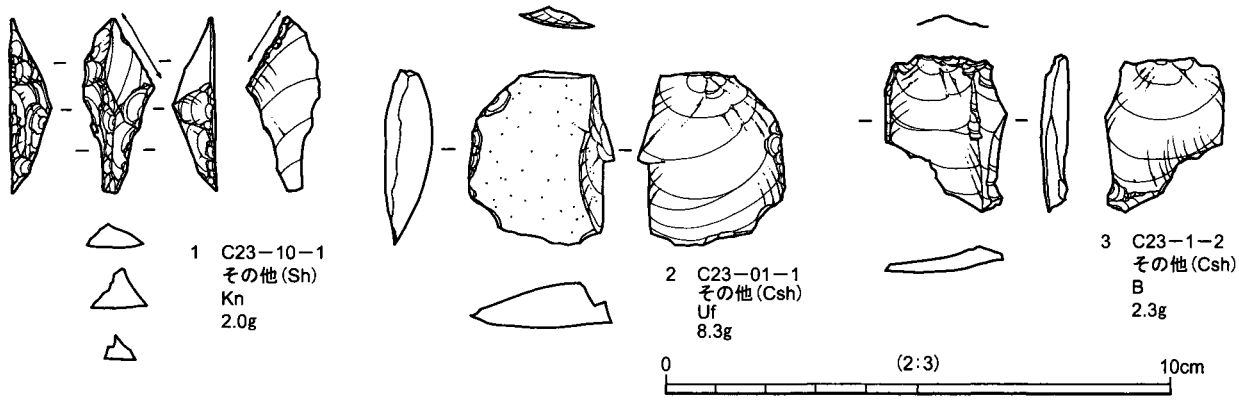
第213図　C12グリッド単独出土遺物実測図



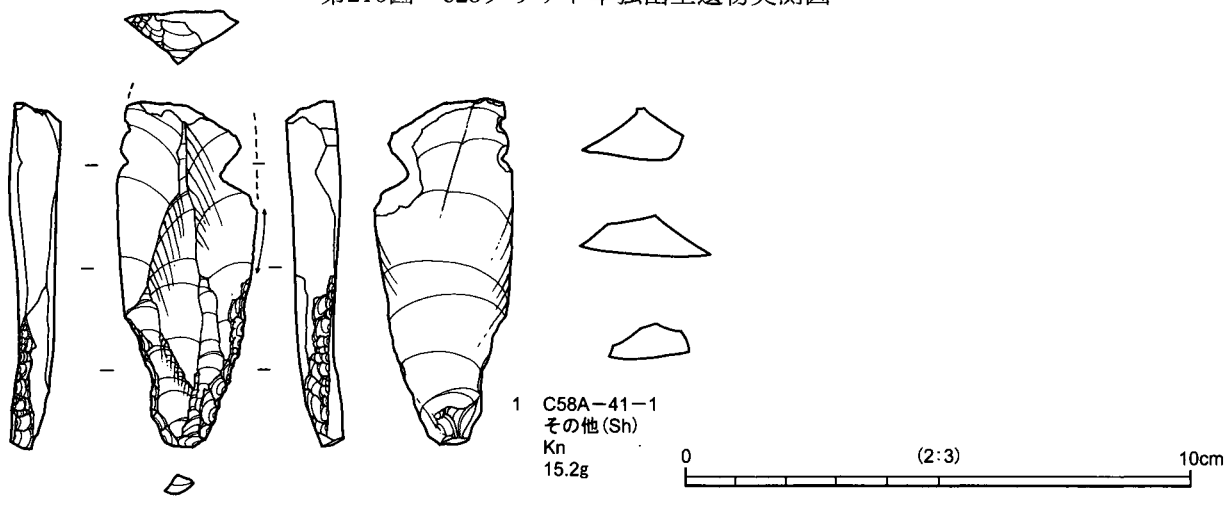
第214図　C13・C17グリッド単独出土遺物実測図



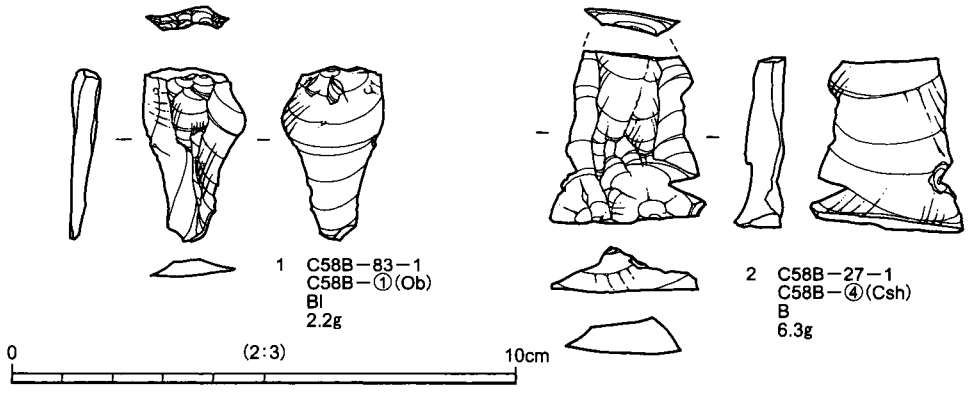
第215図　C16グリッド単独出土遺物実測図



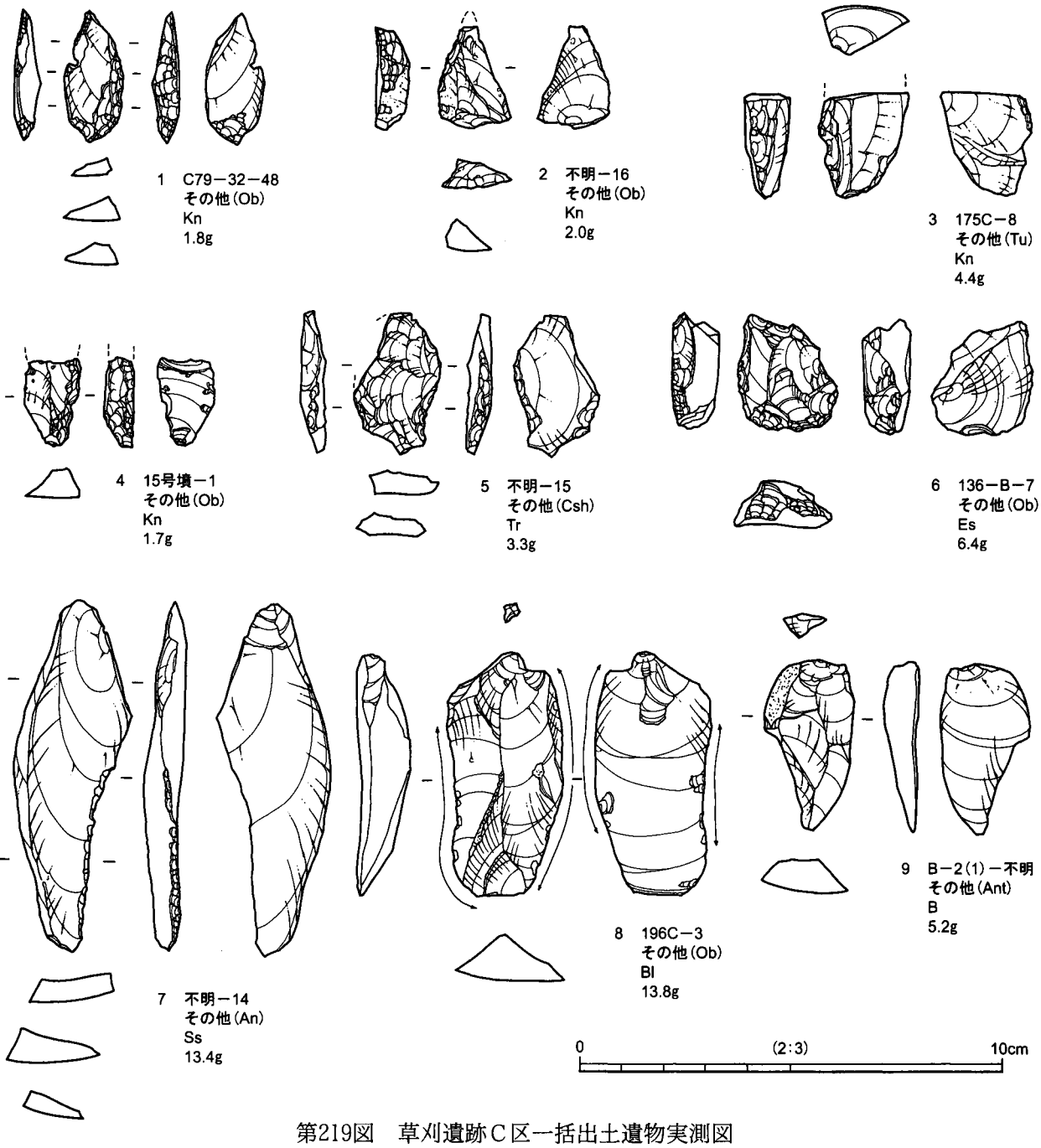
第216図　C23グリッド単独出土遺物実測図



第217図　C58Aグリッド単独出土遺物実測図



第218図　C58Bグリッド単独出土遺物実測図



第219図　草刈遺跡C区一括出土遺物実測図

第３章　草刈遺跡Ｄ区（219-013）

第１節　調査の概要

草刈遺跡Ｄ区（草刈遺跡駅前部分）では，旧石器時代（下層）調査を昭和58・59年度に実施した。調査区の位置は草刈遺跡のほぼ中央にあたり，台地中央の平坦面から千葉市と市原市とを画する茂呂谷津に面した北側緩斜面にかけてである。

昭和58年度は32,000㎡を調査対象として確認調査を行い，引き続き本調査を行った。また，昭和59年度は2,000㎡を調査対象として確認調査を行い，調査を終了した。調査の結果，15か所のブロックと７か所の単独出土地点を検出した（第220図）。

15か所のブロックは，以下のとおり４枚の文化層に区分できる。なお，草刈遺跡東部地区では７枚の文化層を設定しているが，Ｄ区では第１・３・７文化層の石器群は出土していない。

第２文化層は，立川ローム層最下部（Ｘ層）を中心に包含される石器群で，石器196点，礫４点が１か所のブロック（C77-Ｄブロック）から出土した。房総半島における後期旧石器時代出現期の良好な資料として重要である。また，ブロックの一角には同時期と判断される炉跡が伴っており，遺構の少ない当該期にあって，貴重な出土例である。

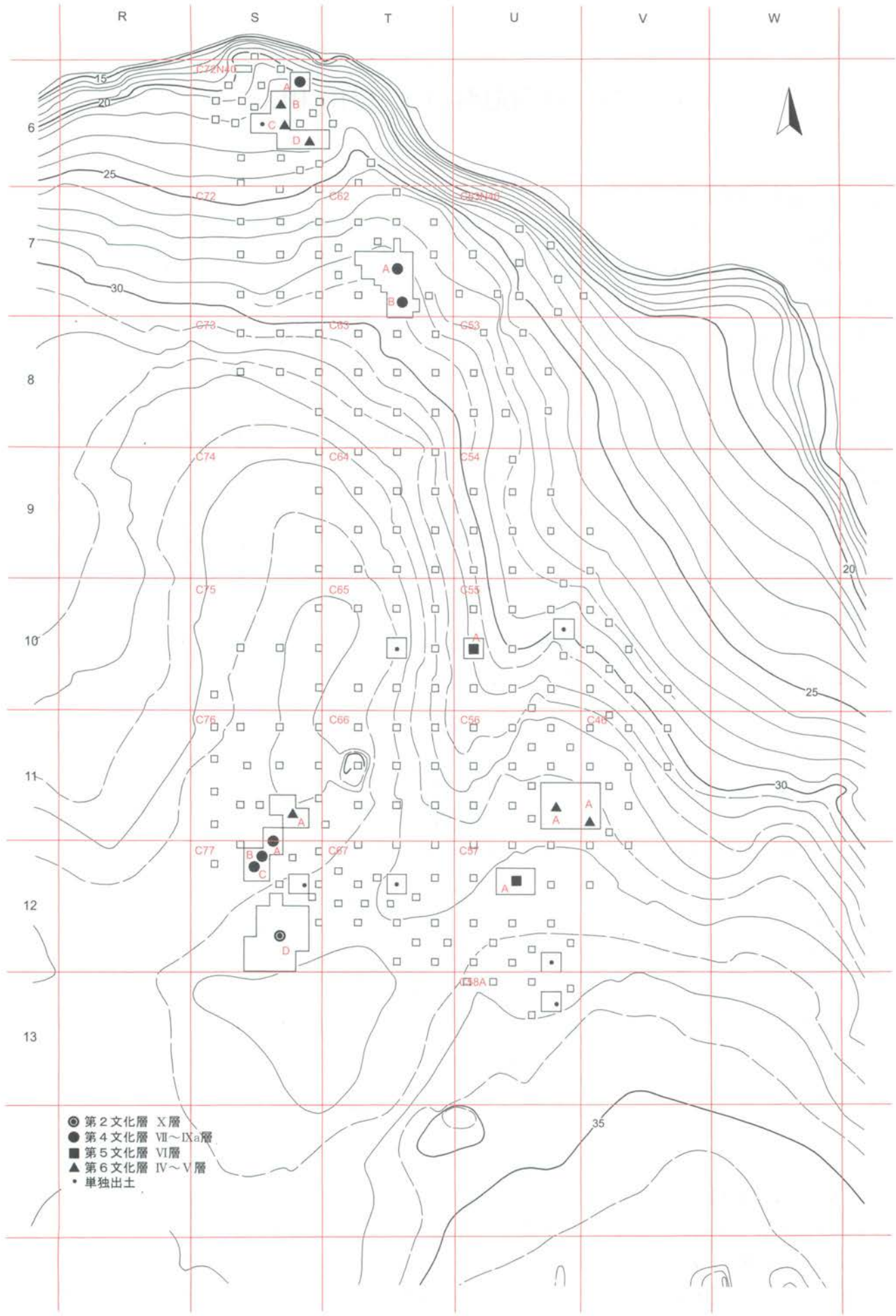
第４文化層は，立川ローム層第２黒色帯上半部（Ⅶ～Ⅸ層上部）に包含される石器群で，石器110点，礫１点が６か所のブロック（C62-Ａ・Ｂ，C72N40-Ａ，C77-Ａ～Ｃブロック）から出土した。C62ブロックとC77-Ｂブロックとは直線距離で160ｍほど離れているが，二つの母岩で接合関係が見られ，広範囲にわたる空間利用が想定される。

第５文化層は，立川ローム層のⅥ層を中心に包含される石器群で，石器40点が２か所のブロック（C55-Ａ，C57-Ａブロック）から出土した。草刈遺跡Ｃ区における同時期の石器群では，石材構成が東北産頁岩や信州産黒曜石に代表されるとおり，遠隔地石材が多いが，本地区では県南産の可能性のある石材が中心で，様相が異なる。

第６文化層は，立川ローム層のハードローム層最上部（Ⅳ層）からソフトローム層下部（Ⅲ層）にかけて包含される石器群で，石器177点，礫435点が６か所のブロック（C46-Ａ，C56-Ａ，C72N40-Ｂ～Ｄ，C76-Ａブロック）から出土した。このうち，C56-Ａブロックは，少量の石器と多量の礫で構成されているが，礫は長軸が２㎝～３㎝ほどの完形小円礫が大多数を占めており，本遺跡の中では特異な存在である。それ以外のブロックも総じて石器が少ないが，角錐状石器を伴っていることから，武蔵野台地のⅣ層下部の石器群に概ね相当すると考えられる。

第２節　第２文化層

第２文化層は，立川ローム層最下部のＸ層を中心に包含されている石器群で，C77-Ｄブロック１か所が該当する。草刈遺跡東部地区でも当該期の石器ブロックは１か所であるが，隣接する草刈六之台遺跡第１文化層に同時期の良好な石器ブロックが２か所ある（Ｊ・Ｎブロック）。特にＪブロックは，石器の形態



第220図　草刈遺跡Ｄ区旧石器時代調査概要図（1:1, 600）

的特徴のみならず，石器石材の構成が嶺岡産珪質頁岩を主体とし，チャート，安山岩などが加わる点も含めてよく類似しており，両者の密接な関連が想定される。

1　C77-Dブロック（第221～240図，第73・74表）

1）ブロックの概要

C77-Dブロックは，調査範囲南端のC77-56・65～68・75～78・85～87グリッドに位置する。ブロックの立地は台地中央の平坦面で，南北の傾斜変換点までの距離は，いずれも200mほどである。

ブロックの規模と形状は，直径12mの範囲に200点（188個体）の石器・礫が分布するが，その範囲内に粗密があり，直径４mほどの小規模なブロック５か所が互いに隣接しているように見える。出土層位はIX層下部からX層下部にかけてで，80cm程の高低差をもって包含されている（第221・227図）。なお，ブロック南端には直径80cmほどの不整円形の炉がある。

ブロックは，ナイフ形石器２点，台形石器６点，楔形石器９点，加工痕ある剥片６点，使用痕ある剥片43点（42個体），石斧１点，剥片115点（109個体），砕片4点，石核10点（９個体），礫４点の合計200点（192個体）である。ナイフ形石器については，調整加工の粗い不安定なもの１点と出土層位の点で，本ブロックに伴うか問題を残すもの１点で，基本的にはナイフ形石器出現以前の石器群と考えた方がよい内容である。石器石材は，黒曜石９点，安山岩６点，安山岩（トロトロ石）２点，頁岩１点，珪質頁岩123点，チャート30点，凝灰岩５点，砂岩３点，ホルンフェルス６点，メノウ11点，礫石材は，チャート２点，砂岩２点である。

石器石材は，県南嶺岡産と考えられる珪質頁岩が半数以上を占めるが，そのほかの石材も概ね県南の上総丘陵砂礫層に由来する可能性がある。唯一県内産とは考えられない黒曜石については，信州産を含む一方で，周辺遺跡を含めて黒曜石が僅少のX層に特徴的な栃木県高原山産と考えられるものは見当たらない。なお，珪質頁岩の中には自然面や節理面が赤褐色で内部が灰色から黒灰色を呈する例が20点ほど見られるが，この多くは被熱による変色の可能性がある。ただし，その分布はブロック全域に広がっており，火処を限定することはできない。

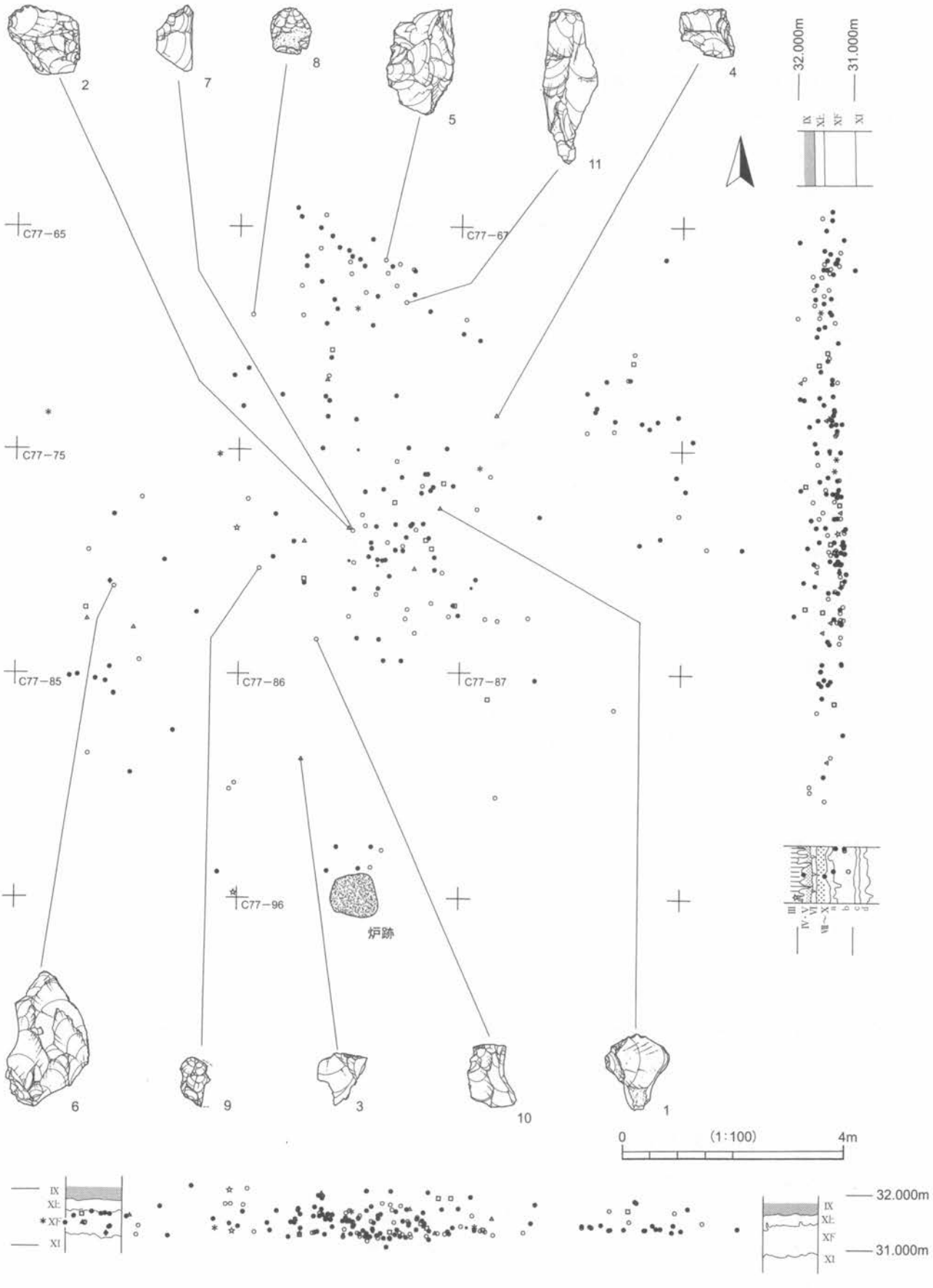
2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは31母岩を識別した。内訳は，黒曜石１母岩（C77-㉘），安山岩３母岩（C77-㉙～㉛），頁岩１母岩（C77-㊴），珪質頁岩13母岩（C77-⑩～㉒），チャート３母岩（C77-⑨・㉓・㉔），凝灰岩１母岩（C77-㉜），メノウ・玉髄３母岩（C77-㉕～㉗），砂岩１母岩（C77-㊳），ホルンフェルス５母岩（C77-㉝～㊲）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は61％（120/196点）である。

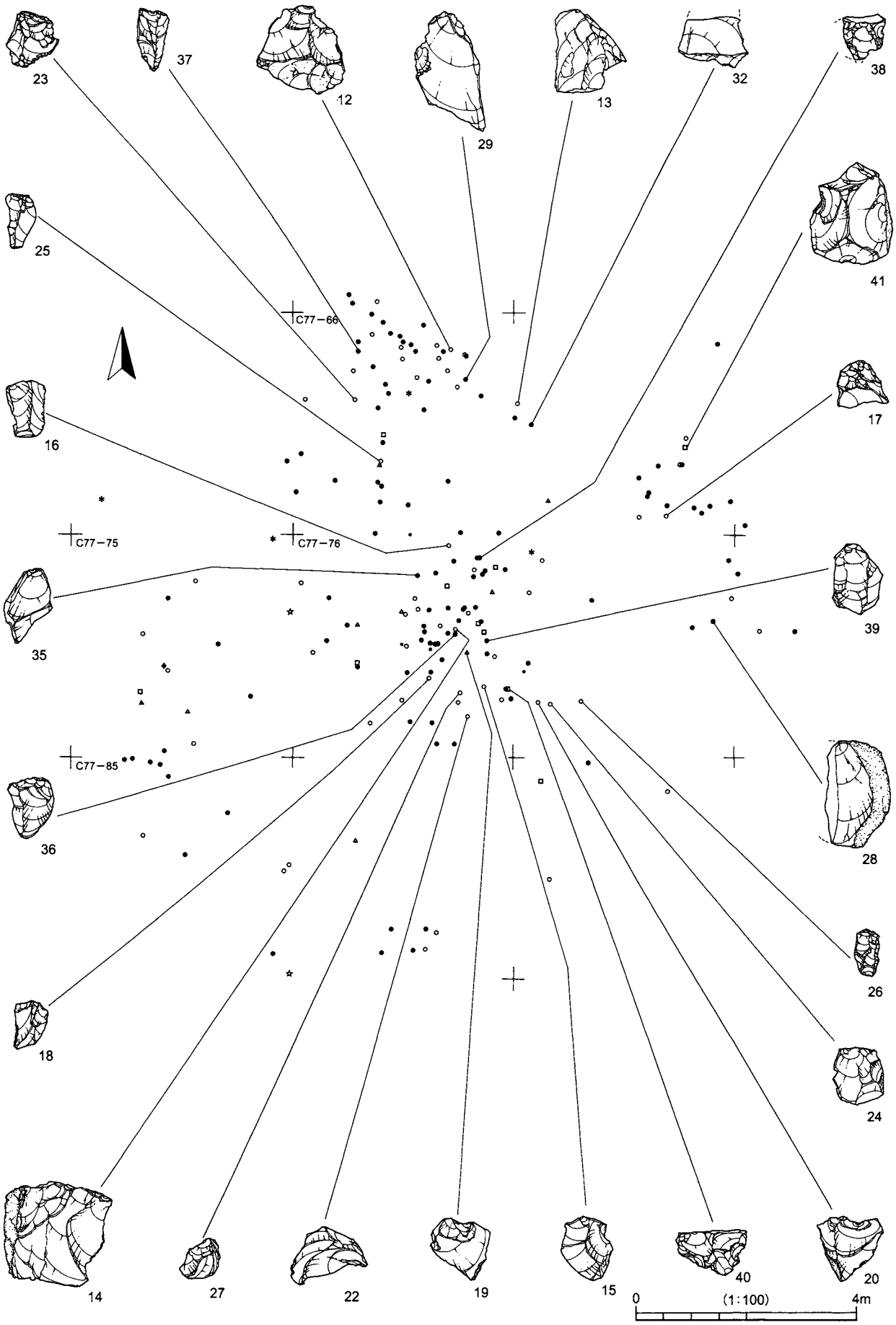
・C77-⑨：青灰色の地に，明橙色や褐色，黒紫色の縞が入る半透明の良質なチャートである。自然面は細かな凹凸のある部分と平滑な部分があることから，原石は中型の円礫と考えられる。

石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，台形石器１点，楔形石器１点，使用痕ある剥片６点，剥片10点，剥片素材の石核３点（２個体）の合計22点（21個体；38.8ｇ）である。接合資料は，使用痕ある剥片２点（合計8.2ｇ）によるもの，剥片１点と石核２点（１個体）によるもの（合計6.4ｇ）によるもの，剥片２点（合計2.8ｇ）によるものの３グループがある。

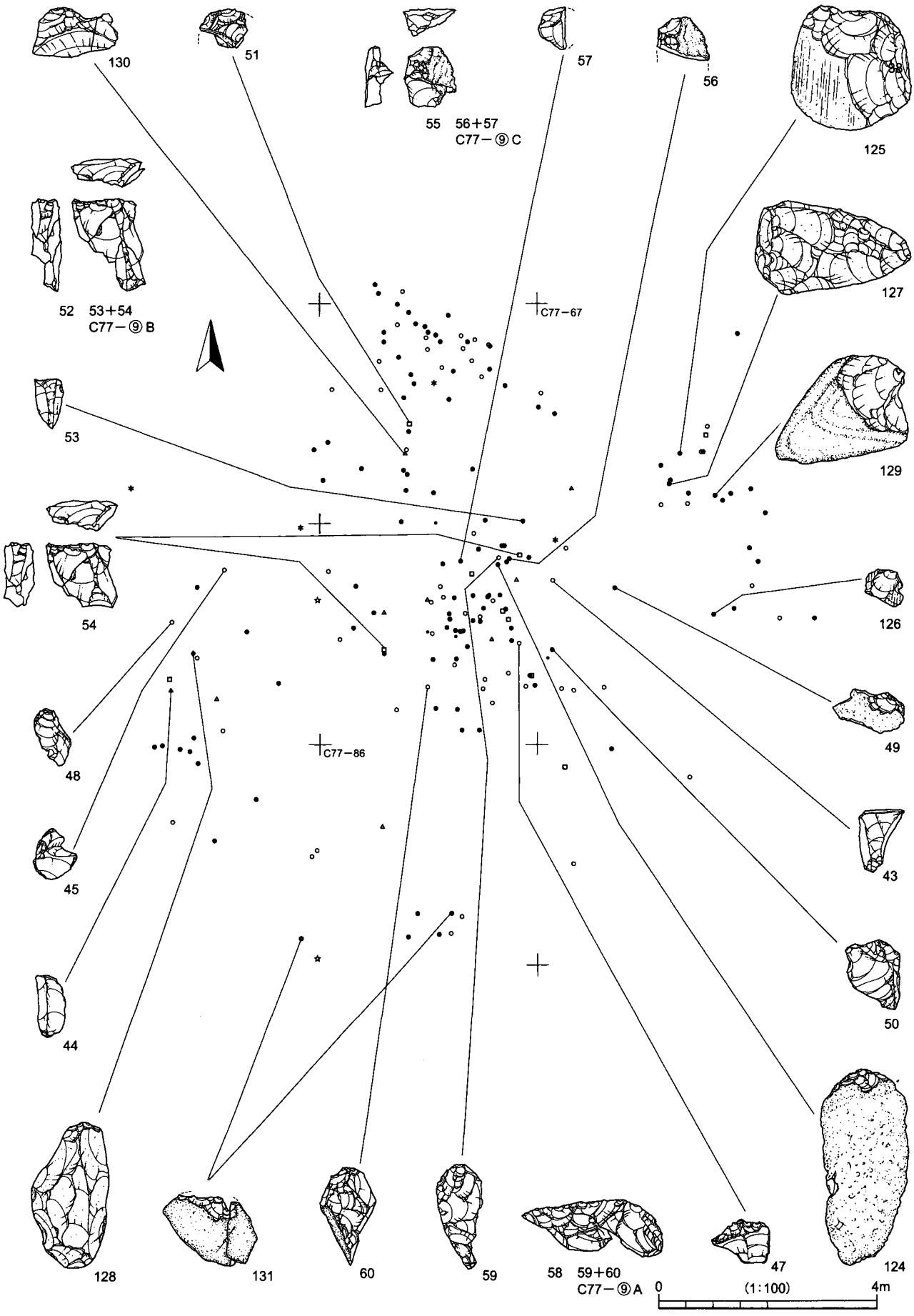
本ブロックの中でも数量的にまとまっている母岩であるが，剥片の表面に自然面が少ないこと，中心的な石核本体もないことから，原石の1/3程度の消費量であろう。



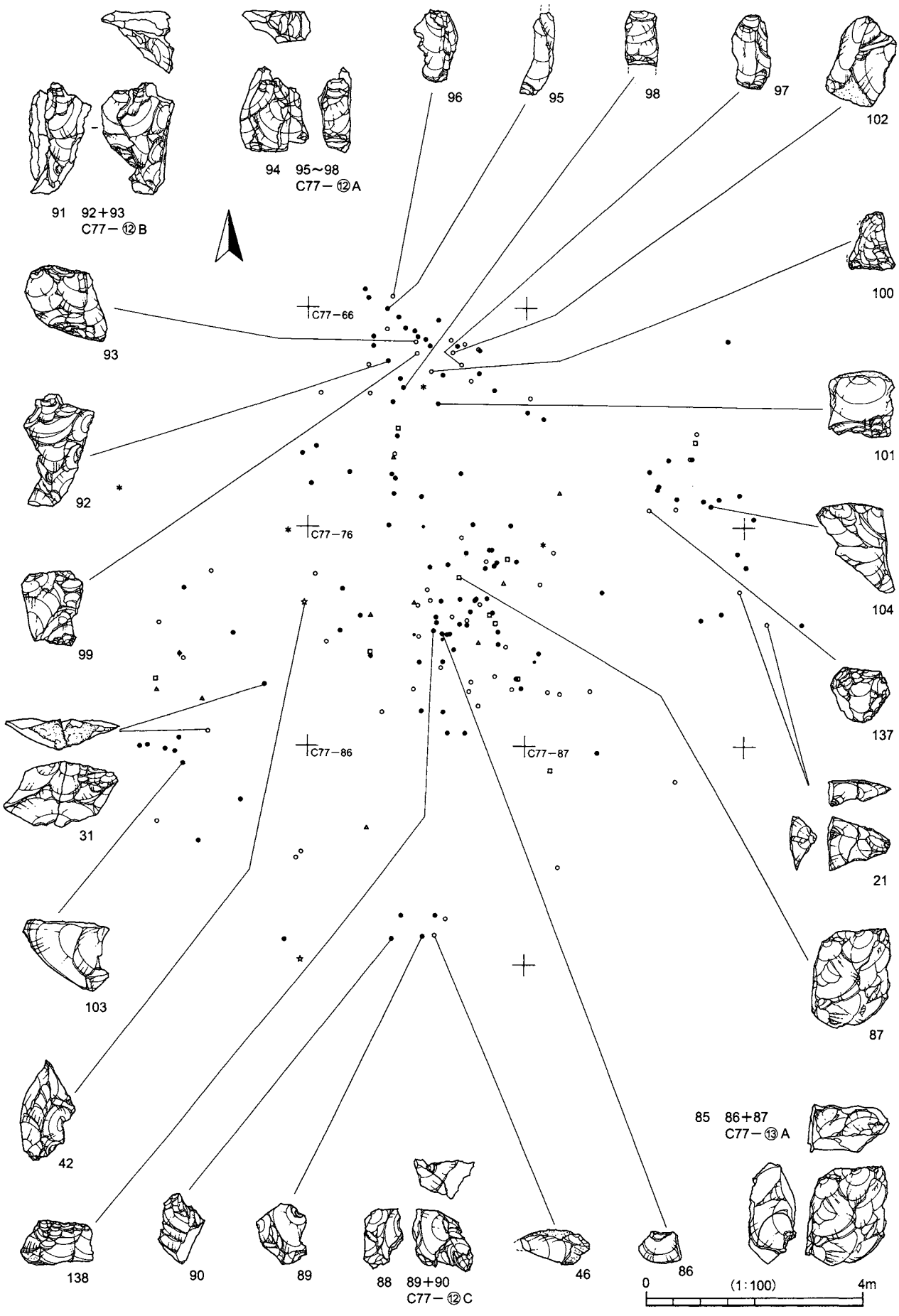
第221図　C77－Dブロック出土遺物分布図　（1）　－石器別分布図（1）－



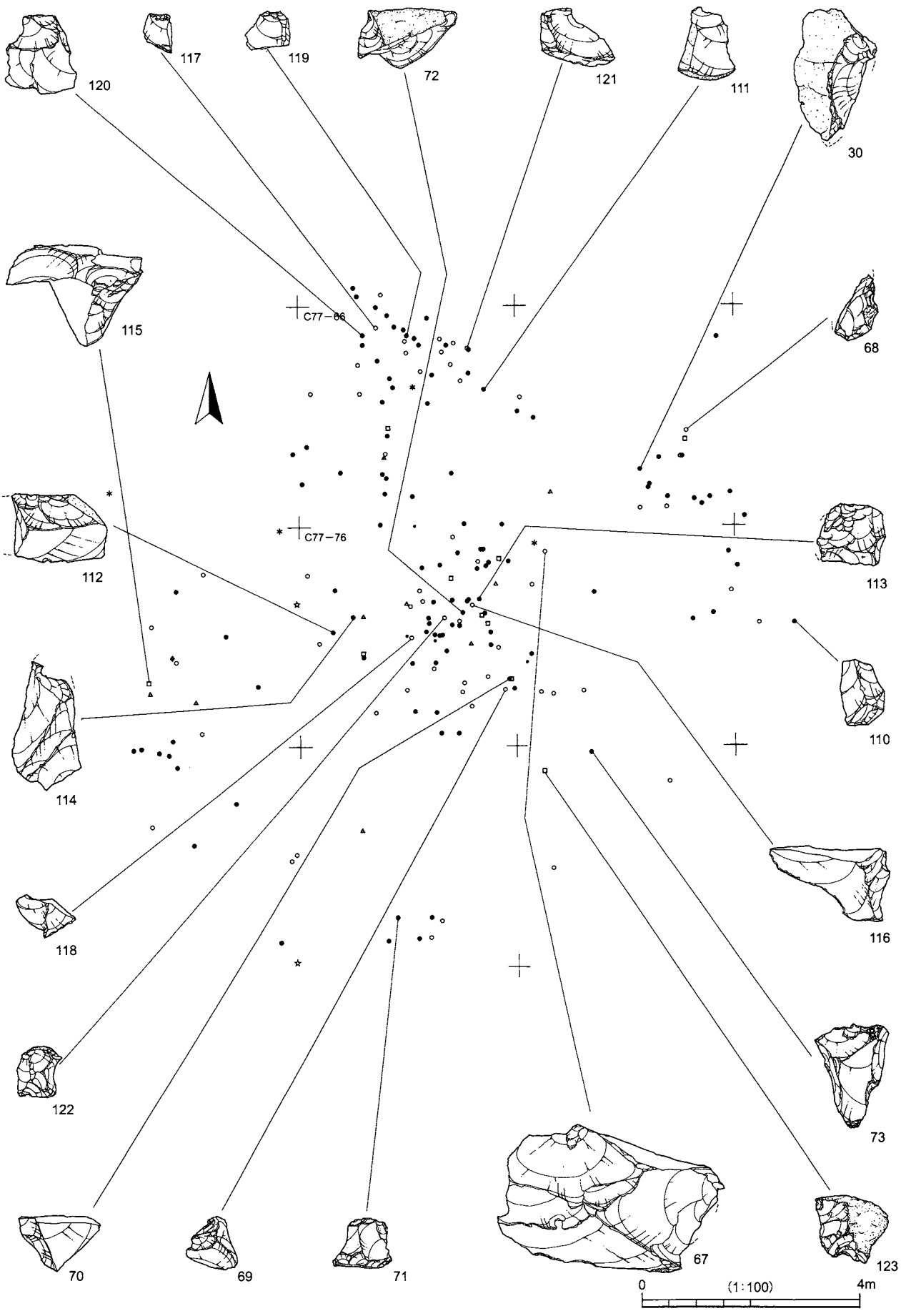
第222図　C77－Dブロック出土遺物分布図（2）　－石器別分布図（2）－



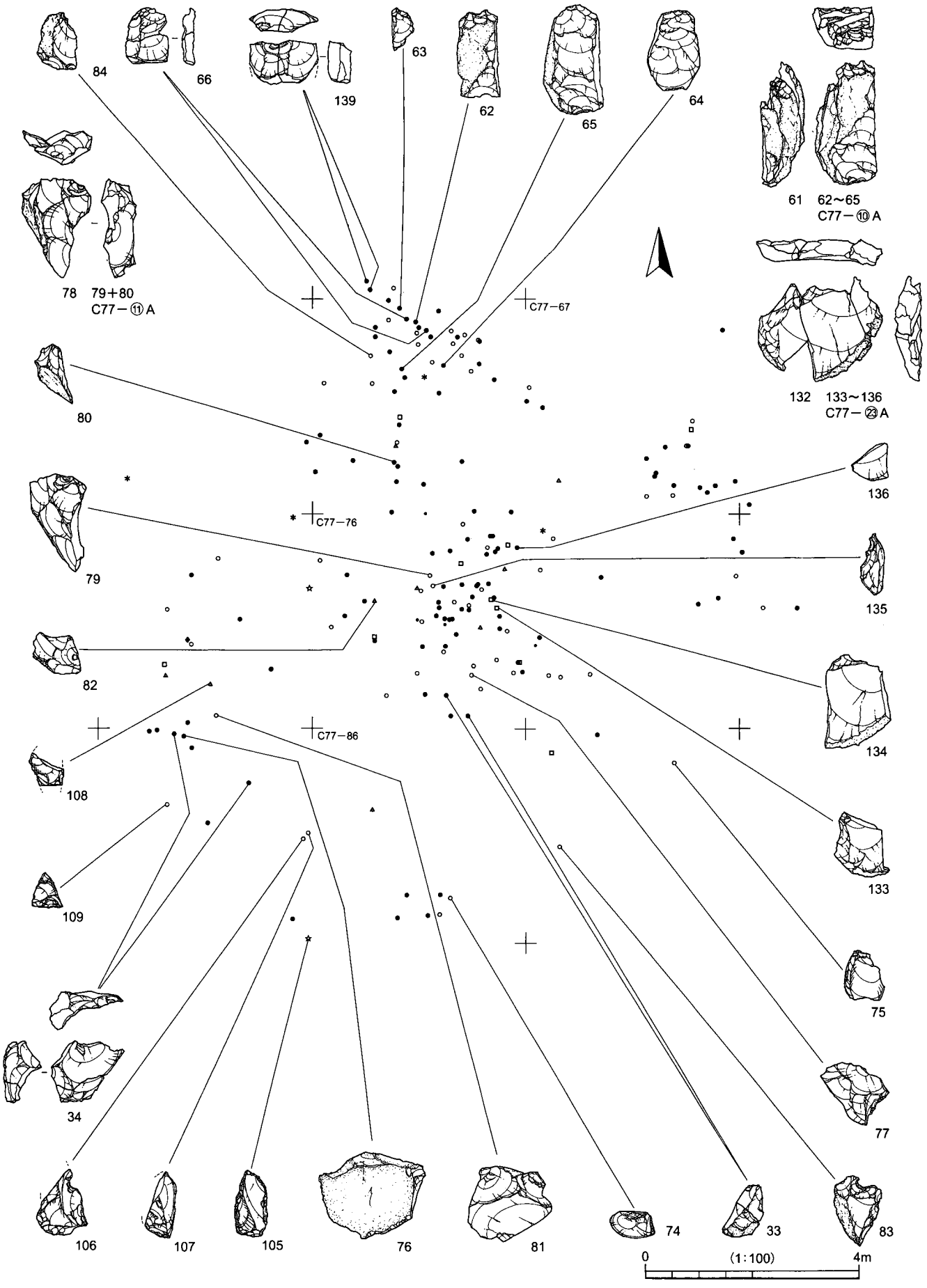
第223図　C77－Dブロック出土遺物分布図（3）　－石器別分布図（3）－



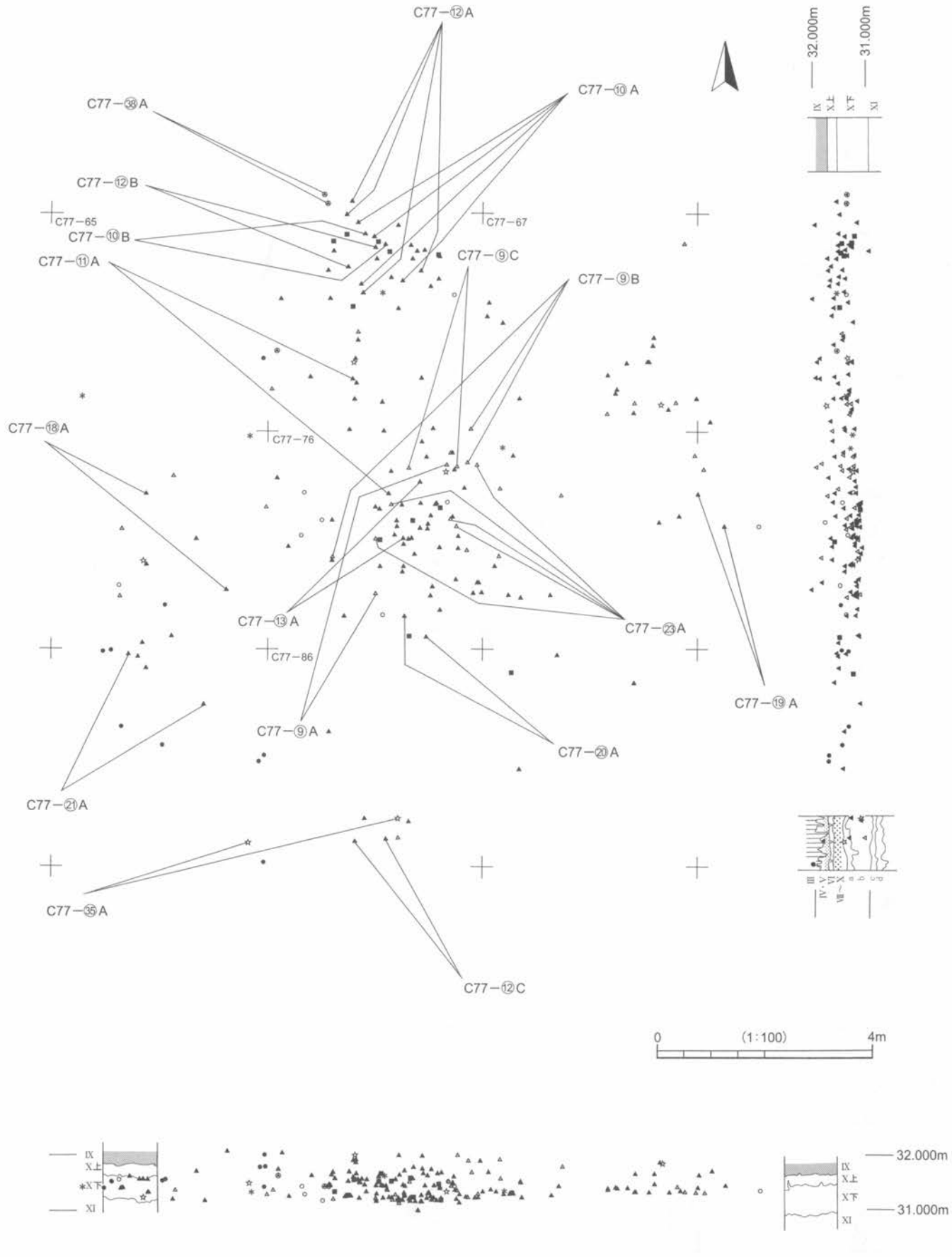
第224図　C77－Dブロック出土遺物分布図（4）　－石器別分布図（4）－



第225図　C77－Dブロック出土遺物分布図（5）　－石器別分布図（5）－



第226図　C77－Dブロック出土遺物分布図（6）　－石器別分布図（6）－



第227図　C77－Dブロック出土遺物分布図（7）　－石材別分布図－

・C77-⑩：自然面と節理面は褐色，内部は紫がかった黒灰色の嶺岡産珪質頁岩である。節理が多く，珪化度も低いことから粗い質感であり，あまり良質な石材ではない。石器群の内訳は，剥片７点（６個体；21.3ｇ）である。接合資料は，剥片４点（合計18.9ｇ）によるものと，剥片２点（１個体；1.5ｇ）によるものの２グループがある。

・C77-⑪：自然面と節理面は橙褐色，内部は灰色の地に黒色の縞が部分的に入り，きめ細かく良質な嶺岡産珪質頁岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片３点，剥片２点の合計５点（15.2ｇ）で，このうち，使用痕ある剥片１点と剥片１点（合計7.4ｇ）が接合する。

・C77-⑫：自然面と節理面は黄褐色から橙褐色，内部は青みがかった灰色の地に白色の珪化した部分が入る嶺岡産珪質頁岩である。内部は均質ではないが，全体に粗い質感の部分が多い。

石器群の内訳は，楔形石器４点，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片２点，剥片９点の合計16点（49.3ｇ）である。接合資料は，楔形石器２点と剥片２点によるもの（接合資料Ａ；7.6ｇ），楔形石器１点と剥片１点によるもの（接合資料Ｂ；14.0ｇ），剥片２点によるもの（接合資料Ｃ；4.3ｇ）の３グループがある。自然面を広く残す剥片はなく，また石核も見られないことから，母岩消費の半ばの資料と考えられる。

・C77-⑬：自然面は赤褐色，内部は黒灰色の珪質頁岩である。剥片１点，石核１点の合計２点（21.3ｇ）で構成され，相互に接合する。被熱によって変色している可能性がある。

・C77-⑭：黄灰色の珪質頁岩で，小型の使用痕ある剥片２点（合計1.1ｇ）で構成される。

・C77-⑮：自然面は橙褐色で，内部は灰緑色の嶺岡産珪質頁岩である。使用痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（6.8ｇ）である。

・C77-⑯：自然面は橙褐色で，内部は淡灰緑色できめ細かな嶺岡産珪質頁岩である。自然面は凹凸のない緩やかな曲面である。色調は，C77-⑮母岩よりもやや淡い。加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片１点，剥片６点の合計８点（88.3ｇ）である。

・C77-⑰：自然面と節理面は橙褐色，内部は黄灰色の地に紫色の縞が入る珪質頁岩である。珪化度は高く，チャートに近い質感である。自然面は細かな凹凸がある。石器群の内訳は，楔形石器１点，加工痕ある剥片１点，剥片３点の合計５点（7.4ｇ）である。母岩識別が比較的容易な資料であるが，数量はわずかである。

・C77-⑱：黄褐色の珪質頁岩である。剥離時に二つに割れているが，正面左側は被熱により赤化している。剥片２点（１個体；7.3ｇ）である。

・C77-⑲：灰褐色と紫色が混在する珪質頁岩で，使用痕ある剥片２点（１個体；2.9ｇ）がある。

・C77-⑳：淡い黄灰色の珪質頁岩である。剥片２点（１個体；0.7ｇ）である。

・C77-㉑：灰色と橙褐色が混ざった珪質頁岩で，剥片３点（２個体；4.4ｇ）で構成される。このうち剥片２点（１個体；3.8ｇ）が接合する。

・C77-㉒：黄灰色の地に灰色の斑が入る珪質頁岩である。中型の剥片１点（13.2ｇ）の単独資料である。

・C77-㉓：青灰色に黒色の筋が入るチャートである。石器群の内訳は，剥片２点，砕片１点，石核２点の合計５点（13.6ｇ）である。中型不定型の剥片１点を搬入し，これを分割したものである。

・C77-㉔：暗紫色のチャートで，楔形石器１点（2.1ｇ）の単独資料である。

・C77-㉕：暗紫の地に白色の縞が入る玉髄である。使用痕ある剥片１点，剥片２点の合計３点（3.0ｇ）

で構成される。

・C77-㉖：黄白色で白い筋の入るメノウである。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片２点，剥片３点の合計６点（12.9ｇ）である。

・C77-㉗：明橙色半透明のメノウである。使用痕ある剥片１点，石核１点の合計２点（6.9ｇ）で構成される。

・C77-㉘：青みがかった黒色不透明で，白色の夾雑物をわずかに含む黒曜石である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片２点，剥片１点の合計４点（4.4ｇ）である。

・C77-㉙：灰白色に風化した軟質の安山岩（トロトロ石）で，剥片１点（1.6ｇ）の単独資料である。

・C77-㉚：褐色の安山岩で，剥片２点，石核１点の合計３点（52.7ｇ）で構成される。

・C77-㉛：黒灰色で硬質な安山岩で，剥片１点（3.1ｇ）の単独資料である。

・C77-㉜：灰緑色できめの粗い凝灰岩で，石斧の製作ないしは再生に関連する資料と考えられる。剥片５点（合計60.9ｇ）である。

・C77-㉝：灰緑色のホルンフェルスで，大型の剥片１点（21.9ｇ）の単独資料である。

・C77-㉞：黒灰色のホルンフェルスである。剥片１点（22.6ｇ）の単独資料である。

・C77-㉟：暗灰色できめの細かいホルンフェルスである。剥片２点（１個体；5.4ｇ）である。

・C77-㊱：C77-㉟母岩よりきめの粗い，黒灰色のホルンフェルスである。剥片１点（2.1ｇ）の単独資料である。

・C77-㊲：灰白色に風化したホルンフェルスである。石斧１点（22.1ｇ）の単独資料である。

・C77-㊳：灰黒色の砂岩で，剥片３点（２個体；5.6ｇ）で構成される。このうち，剥片２点（合計4.4ｇ）が接合して１個体となる。

・C77-㊴：黄褐色に風化した頁岩で，剥片１点（1.0ｇ）の単独資料である。

以上のとおり，設定した母岩数は多いものの，１母岩あたりの数量は少なく，原石の初期段階から最終段階に至るまでの剥片剥離作業全体を行った母岩は見られない。多少まとまった量をもつ母岩についても，作業途中の石核を持ち込み，小型の剥片を一定量生産した後，再び石核を持ち出しているようすが見て取れる。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石のナイフ形石器１点，台形石器１点，剥片３点（合計2.1ｇ），安山岩の剥片２点（合計15.0ｇ），安山岩（トロトロ石）の剥片１点（0.3ｇ），珪質頁岩の台形石器４点，楔形石器２点，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片20点，剥片34点，砕片３点，石核２点（合計153.8ｇ），チャートの剥片２点（1.3ｇ）である。珪質頁岩は概ね嶺岡産と考えられるが，同一母岩の可能性は少なく，本ブロックでの剥片生産の形跡は乏しい。

３）出土遺物（第229～231・238～240図）

１～41は，各種珪質頁岩による石器類である。概ね，県南嶺岡産と考えられる。

１～４は，台形石器に分類した資料である。Ⅸ層下部の出土例と比べて小型で，調整加工の量も少ない。１は，自然面及び節理面が橙褐色，内部が灰褐色できめの細かい珪質頁岩による不定型の剥片を利用している。左右両側を表面側から切断し，切断面の一部に調整を加えて形状を整えている。上端（素材剥片の末端部）には刃こぼれがある。２は，節理面は赤褐色，内部は灰褐色の地に黒色の縞が入る，珪化度の高い珪質頁岩である。不定型の剥片を横位置に用いた石器で，素材の打面と末端を切断した後，両極打撃に

より調整している。上下両辺には刃こぼれがある。３は，赤褐色の珪質頁岩で，小型不定型の剥片の打面を切断し，その周辺に細かな調整を行っている。４は，自然面は赤褐色，内部は灰色で，珪化度の高い珪質頁岩である。自然面を打面とする小型不定型の剥片を素材とし，末端を切断している。実測図表面の下半（上半の広い剥離面は素材剥片の主要剥離面）の剥離面は意図的な切断か，偶発的な折れなのか不明である。

５・６，10～27は，使用痕ある剥片に分類した資料である。５は，灰緑色の珪質頁岩による中型の横長剥片を利用しており，鋭利な右側縁（素材剥片の末端部）に微細な剥離痕が連続する。裏面には，打面と主要剥離面の一部を切る剥離面が１枚見られるが，不要部分を除去したものか否か，不明である。６は，節理面が赤褐色，内部が灰色の地に白色と黒色の縞が入る珪質頁岩で，中型不定型の剥片を利用している。裏面下端は，素材剥片を剥離した際に打点から割れたものである。右側縁（素材剥片の末端）の鋭利な縁辺には刃こぼれがある。10は，黄褐色の珪質頁岩による小型寸詰まりの縦長剥片，11は，自然面が赤褐色，内部が灰色の地に黒色の縞が網目状に入り，白色の斑がある珪質頁岩による不整形の縦長剥片を利用している。素材剥片剥離時に打点から折れており，裏面右側面が欠損している。右側縁にわずかに刃こぼれがある。12・13は暗灰色の珪質頁岩による不定型の剥片で，縁辺に刃こぼれがある。14は，黄褐色の珪質頁岩による中型矩形の剥片を利用している。左側面には自然面があり，打面は節理面である。右側縁及び下端が鋭利になっており，刃こぼれがある。

15・18・19・24・26は黄褐色，17・20・22・23は灰色，16・21・25・27は黒灰色を呈する各種珪質頁岩を用いた小型の剥片で，縁辺の一部に微細な剥離痕が見られる例である。使用による刃こぼれか，偶発的な要因，自然の営力等により付着したものか不明瞭であるが，ここでは「使用痕ある剥片」として分類した。剥片の形状は，総じて不定型であるが，寸詰まりの縦長剥片や横長剥片をも含む。また，26は両極打撃により剥離された可能性の高いものである。

７・８は楔形石器に関連した資料である。７は，灰褐色の珪質頁岩で，楔形石器製作時に剥離された剥片である。右側面には楔形石器通有の樋状の剥離面があり，打面は潰れている。８は，灰白色の珪質頁岩による小型不定型な剥片を用いている。上下端は潰れている。

25は，石器の破片と判断した資料で，表面下端には裏面から急角度の調整加工が見られる。右側面は折れており，全体の形状は不明である。

28～39は，中・小型の各種剥片，40・41は石核である。31は，剥離時に二つに割れた剥片であるが，左側が赤みを帯びた黒灰色，右側が黄褐色と色調が全く異なっており，左側が被熱したことがわかる。40は，自然面が赤褐色，内部が灰色の珪質頁岩による分割礫片を素材とする。分割面は実測図上面で，正面を作業面の中心として，上下から小型不定型の剥片を剥離している。41は，中型厚手の剥片を素材とする。素材剥片は，実測図右側面の自然面を打面，表面右側の剥離面が主要剥離面である。表面左側で小型の剥片若干を剥離している。

105以下は，各種石材で単独母岩ないしはそれに類する資料について記述する。概ね搬入品と考えられる。

105は，２側縁を調整した小型のナイフ形石器である。素材は不整形の縦長剥片と考えられる。素材の打面を先端側に置いて，左側面全体と右側面の基部寄りに裏面から調整加工を行っている。石材は，透明の地に黒色のモヤがかかったような黒曜石で，円形の夾雑物をわずかに含む良質なものである。信州産と考えられる。ブロック南端のIX層下部から出土しており，本ブロックの石器の中では出土位置が高い方で

ある。一般的に千葉県のX層出土の石器群は資料数が少ないものの，典型的なナイフ形石器は見られないことから，この資料が本ブロックに伴うか否か問題を残す。

108は，台形石器である。透明の地に黒色の縞が入る良質な黒曜石で，信州産と考えられる。小型不定型の剥片を素材として，両側縁に微細な調整加工を行っている。上下両端ともに欠損するため，全体の形状は不明である。

110は，灰白色に風化した軟質の安山岩による剥片である。111は，灰色の安山岩による剥片で，下端には小型の円礫に由来する自然面が見られる。112も111に似た安山岩による横長剥片で，剥離時に打点で二つに折れている。113は，黒灰色の安山岩による不定型の剥片である。

121・122は，玉髄による不定型の剥片を利用した使用痕ある剥片である。搬入品の可能性が高い。123は明橙色のメノウによる石核である。小型の剥片を素材として，小型不定型の剥片を生産している。

124は，灰緑色のホルンフェルスによる剥片である。表面には自然面が広く残るが，あばた状の凹凸が顕著であり，敲打によって整えられた石斧の一部である可能性が高い。刃部再生に伴う器体の修正のために剥離されたのであろうか。

128は，灰白色に風化した，軟質のホルンフェルスによる小型の石斧である。横長不整形の剥片を素材とし，表面側を中心に粗く調整している。129～131は，ホルンフェルスの不定型の剥片である。

137はチャートの楔形石器，138は頁岩，139は砂岩による小型の剥片である。

4）接合資料とその関連資料（第232～240図）

・C77-⑨（第232図42～57，第233図58～60）　青灰色のチャートで，ナイフ形石器1点，台形石器1点，楔形石器1点，使用痕ある剥片6点，剥片10点，石核3点の合計22点で構成される。接合資料は3グループに分かれている。

42は，ナイフ形石器と分類した資料で，不定型の剥片を素材とし，右側面下半部に裏面から粗い調整加工を行ったものである。素材の打面は残っていないが，偶発的な欠損か意図的な切断かは不明である。左側縁には刃こぼれがある。43は楔形石器である。上面は素材の打面にあたり，裏面上端に素材の打点，主要剥離面が残る。44は台形石器に分類した。小型の縦長剥片を素材とし，素材の打面を除去するように細かく調整している。45～48は，小型不定型の剥片を利用した使用痕ある剥片である。

52は，剥片1点（53）と石核2点（54；接合して1個体）の接合資料である（接合資料B）。54の石核は，中型不定型の剥片を素材とし，裏面の下半部（ここでは主要剥離面の打瘤付近）から小型不定型の剥片を剥離しており，裏面上部には，素材時の主要剥離面が残る。剥片剥離作業中に石核が二つに割れ，作業を中止している。表面の剥離面は石核として機能する以前の一次面で，上下両方向からの剥離面があり，53もその段階で剥離された可能性が高い。

55は，剥片2点（56・57）の接合資料である（接合資料C）。はじめに小型の剥片が上下二つに割れる（あるいは切断される）。一方は56であるが，もう一方の本体は不明である。その不明の資料から57が剥離されている。

58は，本母岩の中では最も大型の資料2点の接合で，使用痕ある剥片2点（59・60）が表裏で接合したものである（接合資料A）。58を見ると，はじめに自然面を打面として不定型の剥片を剥離し，その後打面を右方向に移し，59，60を剥離している。59と60との間には打面に段差があることから，打面と作業面を交互に入れ替える剥離手順が想定される。

・C77-⑩（第233図61～66）　紫がかった黒灰色の嶺岡産珪質頁岩で，剥片７点（６個体；21.3ｇ）で構成される。接合資料は，剥片４点が表裏で接合したもの（接合資料Ａ）と，剥片２点が折れ面で接合したもの（接合資料Ｂ）がある。

61は，剥片４点（62～65）の接合資料である。表面から左側面にかけてが自然面，右側面が平坦な節理面の，幅の狭い石核を用い，打面を順次下げながら，62→65→63→64の順に縦長不整形の剥片を剥離している。打面直下の打瘤は発達せず平坦であること，フィッシャーが長くのびること，65の表面には下方向からの剥離面があり，下端が損傷していることなどから，剥片剥離作業に両極打撃が用いられた可能性が高い。

66は，小型寸詰まりの縦長剥片である。上下に折れていたものが接合した。なお，下端部には自然面があり，64の接合資料にそのまま連続しない。

・C77-⑯（第234図67～73）　淡灰色の嶺岡産珪質頁岩で，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片１点，剥片６点で構成される。接合資料はない。

67は，交互剥離による大型の横長剥片である。石核の素材であろうか。68は，加工痕ある剥片である。右側縁上部に裏面からの粗い剥離痕が見られる。69は，小型不定型の剥片を利用した使用痕ある剥片，70～73は剥片である。各資料の表面は方向の一定しない剥離面で構成されている。

・C77-⑭（第234図74・75）　黄灰色の珪質頁岩で，小型不定型の剥片を利用した使用痕ある剥片２点（74・75）で構成される。

・C77-⑮（第235図76・77）　灰緑色の嶺岡産珪質頁岩で，小型不定型の剥片を用いた使用痕ある剥片１点（77）と，表面が自然面に覆われた不定型の剥片１点（76）がある。

・C77-⑪（第235図78～82）　灰色の嶺岡産珪質頁岩で，使用痕ある剥片３点，剥片２点で構成される。

78は，使用痕ある剥片１点（79）と剥片１点（80）の接合資料である。79→80の順に，同一打面から連続して剥離しているが，78の表面には多方向からの剥離面があり，打点を頻繁に移動していることがわかる。

81・82は不定型の剥片を利用した使用痕ある剥片である。

・C77-⑰（第235図83・84）　黄灰色の地に紫色の縞が入る珪質頁岩で，楔形石器１点，加工痕ある剥片１点，剥片３点で構成される。接合資料はない。

83は，加工痕ある剥片とした。小型で厚手の不定型な剥片を素材とし，上端及び右側縁に裏面から急角度の調整加工を行っている。素材の打面は左側面の自然面である。84は，楔形石器である。上下両端に損傷があるが，表裏の二次剥離面は少ない。右側面は楔形石器通有の上下方向の折れ面である。

・C77-⑬（第236図85～87）　黒灰色の珪質頁岩で，剥片１点と石核１点で構成される。

85は剥片１点（86）と石核１点（87）の接合資料である。厚手の分割礫を石核の素材とし，交互剥離によって表裏から小型不定型の剥片を剥離している。なお，両資料とも同系統の色調であるが，被熱によって変色している可能性がある。

・C77-⑫（第236図88～93，第237図94～104）　青みがかった灰色の嶺岡産珪質頁岩で，楔形石器４点，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片２点，剥片９点で構成される。接合資料は，３グループがある。

88は，小型不定型の剥片２点（89・90）が表裏で接合したものである（接合資料Ｃ）。89→90の順に剥離しているが，表面には多方向からの剥離面があり，小型で打点移動の頻繁な石核から剥離されたことが

わかる。

91は，楔形石器１点（93）と剥片１点（92）が接合している（接合資料Ｂ）。楔形石器の製作に関連した資料であるが，できあがった石器は，素材からかなり小振りなものになっている。

94は，楔形石器２点（96・97）と剥片２点（95・98）の接合資料である。楔形石器同士が中心で接合し，その表裏に剥片２点が接合している。剥片は幅の狭い縦長の削片である。

99～102は，楔形石器（99）とその製作に関与したと考えられる資料（100～102）である。100・101は，打面と下端部が潰れており，打瘤が平坦であること，102も打面が潰れていることから両極打撃に由来する剥片と考えられる。なお，実測図を掲載しなかった同一母岩の資料の中にも，楔形石器から剥離されたと考えられる削片がある。

103・104は一般的な不定型の剥片である。

・C77-㉘（第238図106・107・109）　青みがかった黒色不透明の黒曜石で，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片２点，剥片１点で構成される。接合資料はない。

106は，加工痕ある剥片である。不定型の剥片を素材とし，右側縁に細かな調整を行っている。素材の打

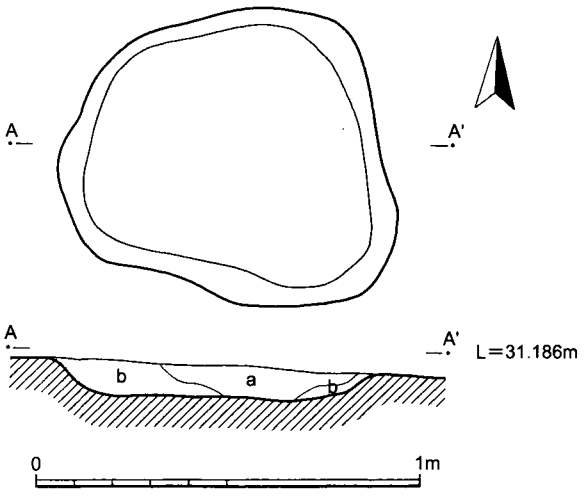
第73表　C77-Dブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C77-⑨(Ch)	1	1							1		6								10		3(2)	22(21)		22(21)
C77-⑩(Csh)																			7(6)			7(6)		7(6)
C77-⑪(Csh)											3								2			5		5
C77-⑫(Csh)									4	1	2								9			16		16
C77-⑬(Csh)																			1		1	2		2
C77-⑭(Csh)											2											2		2
C77-⑮(Csh)											1								1			2		2
C77-⑯(Csh)										1	1								6			8		8
C77-⑰(Csh)									1	1									3			5		5
C77-⑱(Csh)																			2(1)			2(1)		2(1)
C77-⑲(Csh)											2(1)											2(1)		2(1)
C77-⑳(Csh)																			2(1)			2(1)		2(1)
C77-㉑(Csh)																			3(2)			3(2)		3(2)
C77-㉒(Csh)																			1			1		1
C77-㉓(Ch)																			2	1	2	5		5
C77-㉔(Ch)									1													1		1
C77-㉕(Ag)											1								2			3		3
C77-㉖(Ag)										1	2								3			6		6
C77-㉗(Ag)											1										1	2		2
C77-㉘(Ob)										1	2								1			4		4
C77-㉙(Ant)																			1			1		1
C77-㉚(An)																			2		1	3		3
C77-㉛(An)																			1			1		1
C77-㉜(Tu)																			5			5		5
C77-㉝(Ho)																			1			1		1
C77-㉞(Ho)																			1			1		1
C77-㉟(Ho)																			2(1)			2(1)		2(1)
C77-㊱(Ho)																			1			1		1
C77-㊲(Ho)																	1					1		1
C77-㊳(Sa)																			3(2)			3(2)		3(2)
C77-㊴(Sh)																			1			1		1
その他(Ob)	1	1																	3			5		5
その他(An)																			2			2		2
その他(Ant)																			1			1		1
その他(Csh)		4							2	1	20								34	3	2	66		66
その他(Ch)																			2			2		2
C77R-①(Sa)																							1	1
C77R-②(Ch)																							1	1
C77R-③(Ch)																							1	1
C77R-④(Sa)																							1	1
合　計	2	6							9	6	43(42)						1		115(109)	4	10(9)	196(188)	4	200(192)

第74表　C77-Dブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)	1	1								1	2								4			9		9
安山岩(An)																			5		1	6		6
安山岩(Ant)																			2			2		2
頁岩(Sh)																			1			1		1
珪質頁岩(Csh)		4							7	4	31(30)								71(67)	3	3	123(118)		123(118)
チャート(Ch)	1	1							2		6								14	1	5(4)	30(29)	2	32(31)
凝灰岩(Tu)																			5			5		5
砂岩(Sa)																			3(2)			3(2)	2	5(4)
ホルンフェルス(Ho)																	1		5(4)			6(5)		6(5)
メノウ(Ag)										1	4								5		1	11		11
合　計	2	6							9	6	43(42)						1		115(109)	4	10(9)	196(188)	4	200(192)

面は除去されていない。なお，主要剥離面の打瘤は平坦であることから，両極打撃によって得られた剥片かも知れない。107は，小型不定型の剥片を利用した使用痕ある剥片である。106と同様，打瘤が発達せず，打面が潰れていること，末端部に損傷があることから，両極打撃による可能性がある。109は小型の剥片を利用した使用痕ある剥片である。末端部に刃こぼれが見られる。



a；赤化した暗褐色粘質土である。下面は部分的に熱を受け硬化している。少量の炭化物片が含まれる。中には大粒のものもある。
b；赤化した粘質土を多く混入したチョコレート色の粘質土である。少量であるが，炭化物粒を含む。

第228図　C77-Dブロック内出土炉跡

・C77-㉚（第238図114・115）　褐色の安山岩で，剥片２点，石核１点で構成される。接合資料はない。

114は不定型の剥片，115は石核である。石核は円礫の分割片を素材とし，打面と作業面を入れ替えながら寸詰まりの縦長剥片を剥離したものである。

・C77-㉖（第239図116～120）　黄白色のメノウで加痕ある剥片１点，使用痕ある剥片２点，剥片３点で構成される。接合資料はない。自然面を大きく残す剥片や石核はなく，母岩消費半ばの資料と考えられる。遺跡内で剥片生産を行っていたのであろう。

116は，中型の横長剥片を用いた加工痕ある剥片である。裏面左側縁に細かな調整加工が見られる。表面左側縁には刃こぼれがある。打面は折れてなくなっているが，意図的な切断の可能性もある。117・118は不定型の剥片を利用した使用痕ある剥片，119・120は剥片である。

・C77-㉜（第239図125～127）　灰緑色の凝灰岩で，石斧の製作ないしは刃部の再生に関連すると考えられる剥片５点で構成される。石斧本体は出土していない。また，接合資料はない。

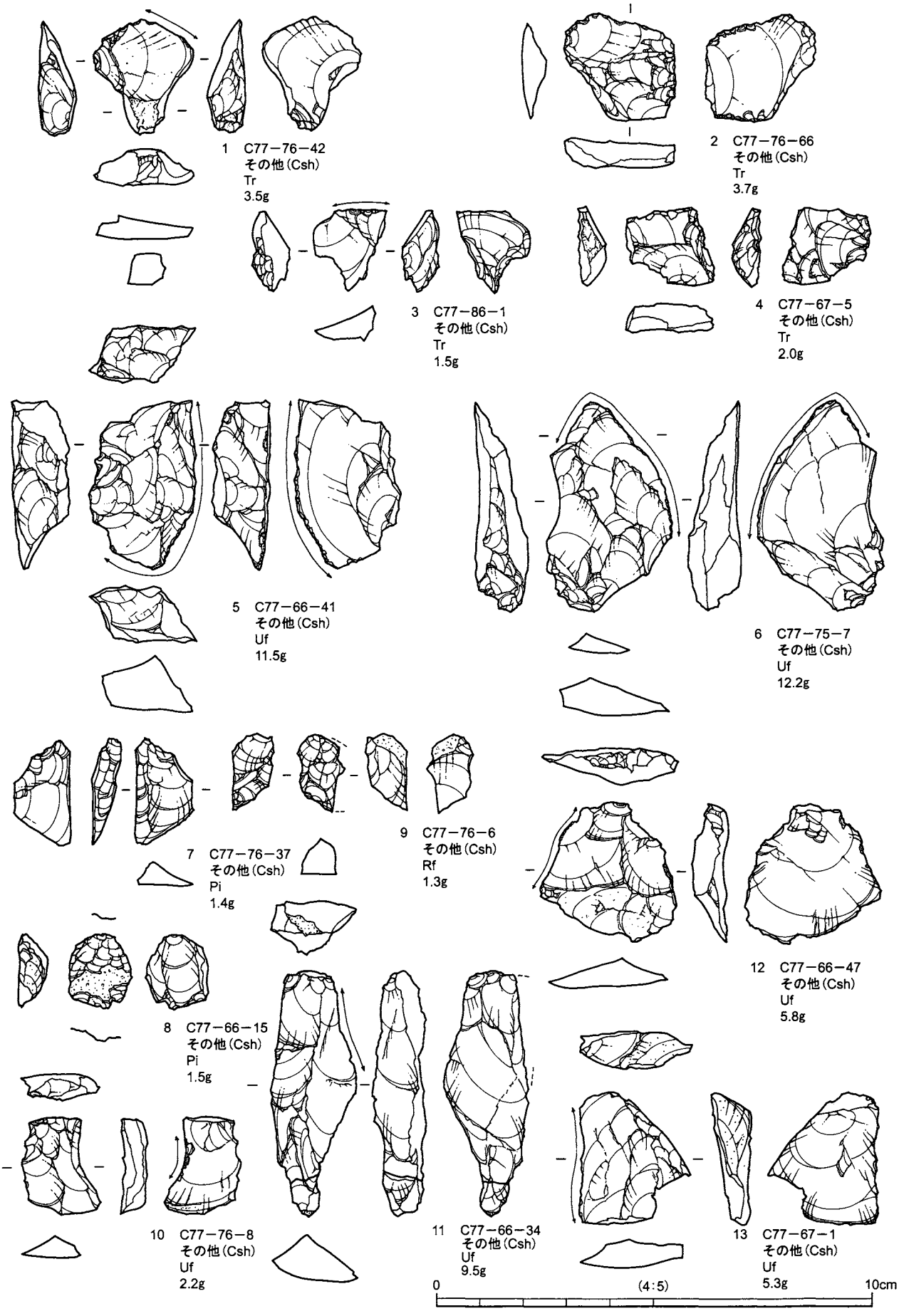
125は，厚手の不定型な剥片である。打面は線状に潰れており，打瘤は発達していない。左半は自然面であるが，研磨された形跡がある。126は，小型不定型の剥片である。表面に研磨された痕跡がある。127は，中型の横長剥片である。表面は多方向からの剥離面で覆われている。

・C77-㉓（第240図132～135）　青灰色のチャートで，剥片２点，砕片１点，石核２点で構成される。

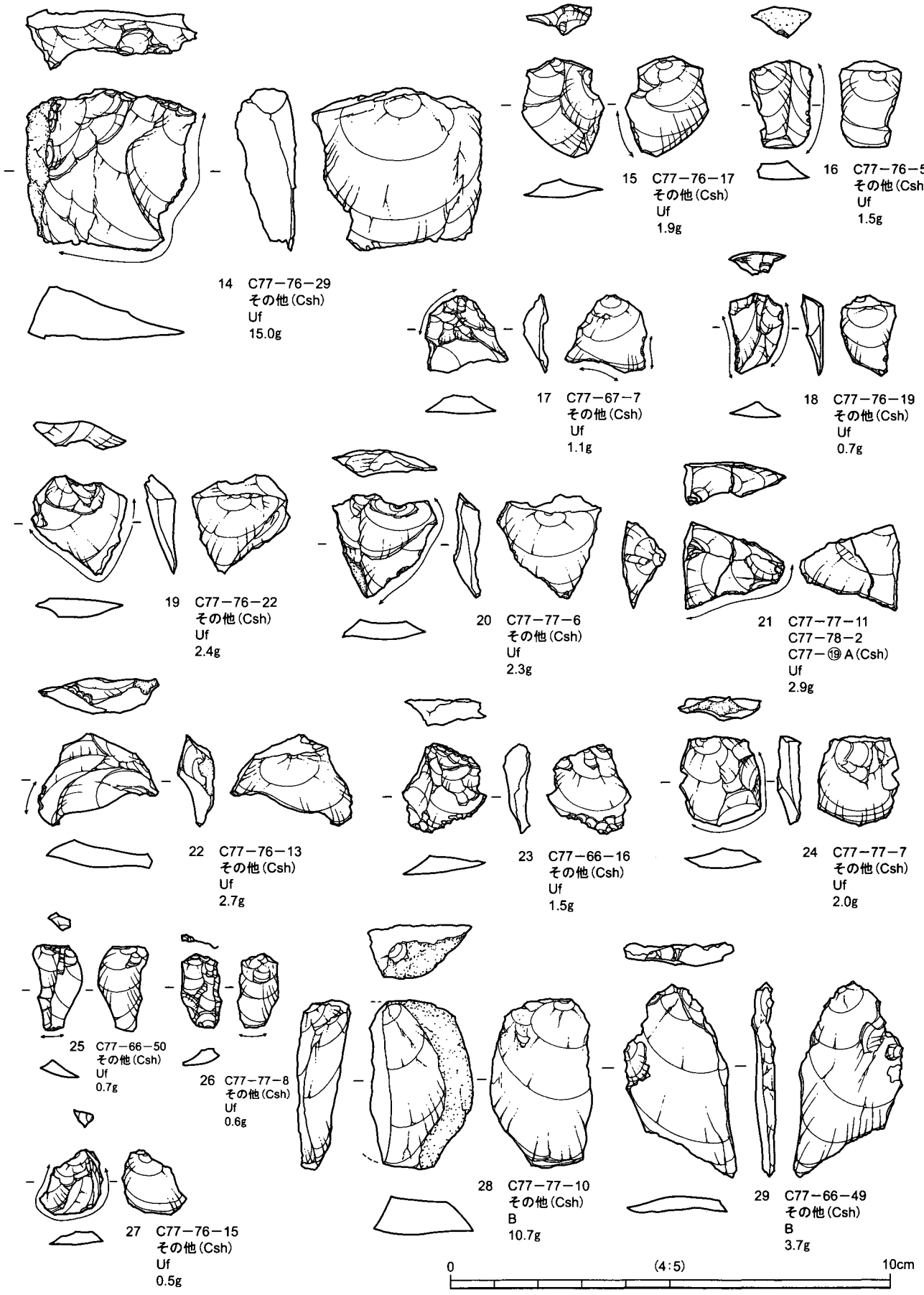
132は，剥片１点（135・136），石核２点（133・134）の接合資料である。①：中型不定型で厚さが均質な剥片を素材とする。②：素材の打面部を中心に，表裏で小型の剥片を剥離する。その過程で，135が節理面で剥離される。③：石核が二つに割れるが（133・134），そのまま若干の剥片生産を継続している。136は石核が二つに割れた後に，133から剥離したものである。

５）炉跡（第228図）

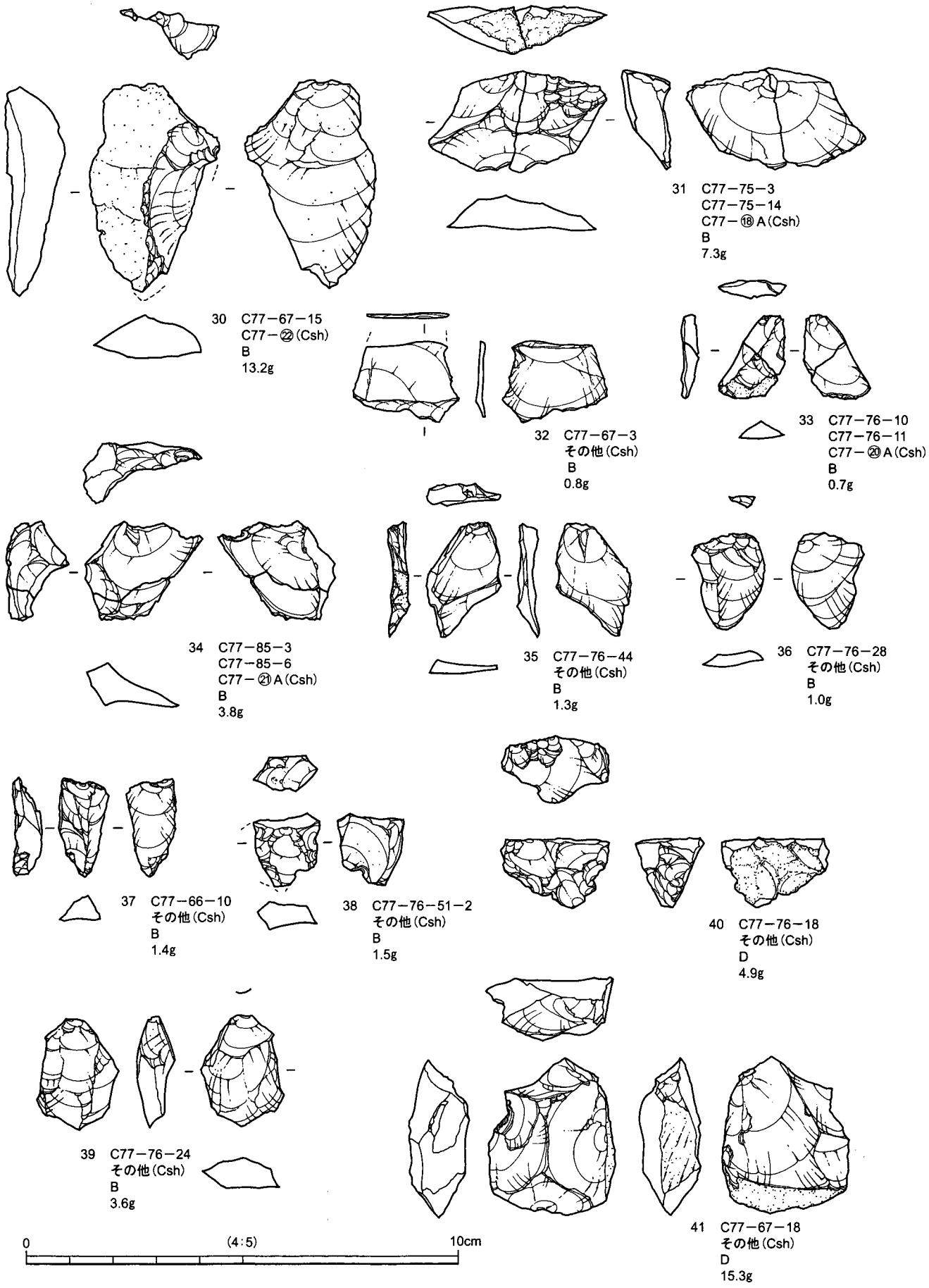
本ブロック南端のC77-86・96グリッドのＸ層中で，炉跡を検出した。直径80cmほどの不整円形で，中央部の深さは20cmほどの皿状を呈している。覆土は赤化した粘質土で，少量ではあるが炭化物片も含まれていた。また，下底は被熱のため硬化している。



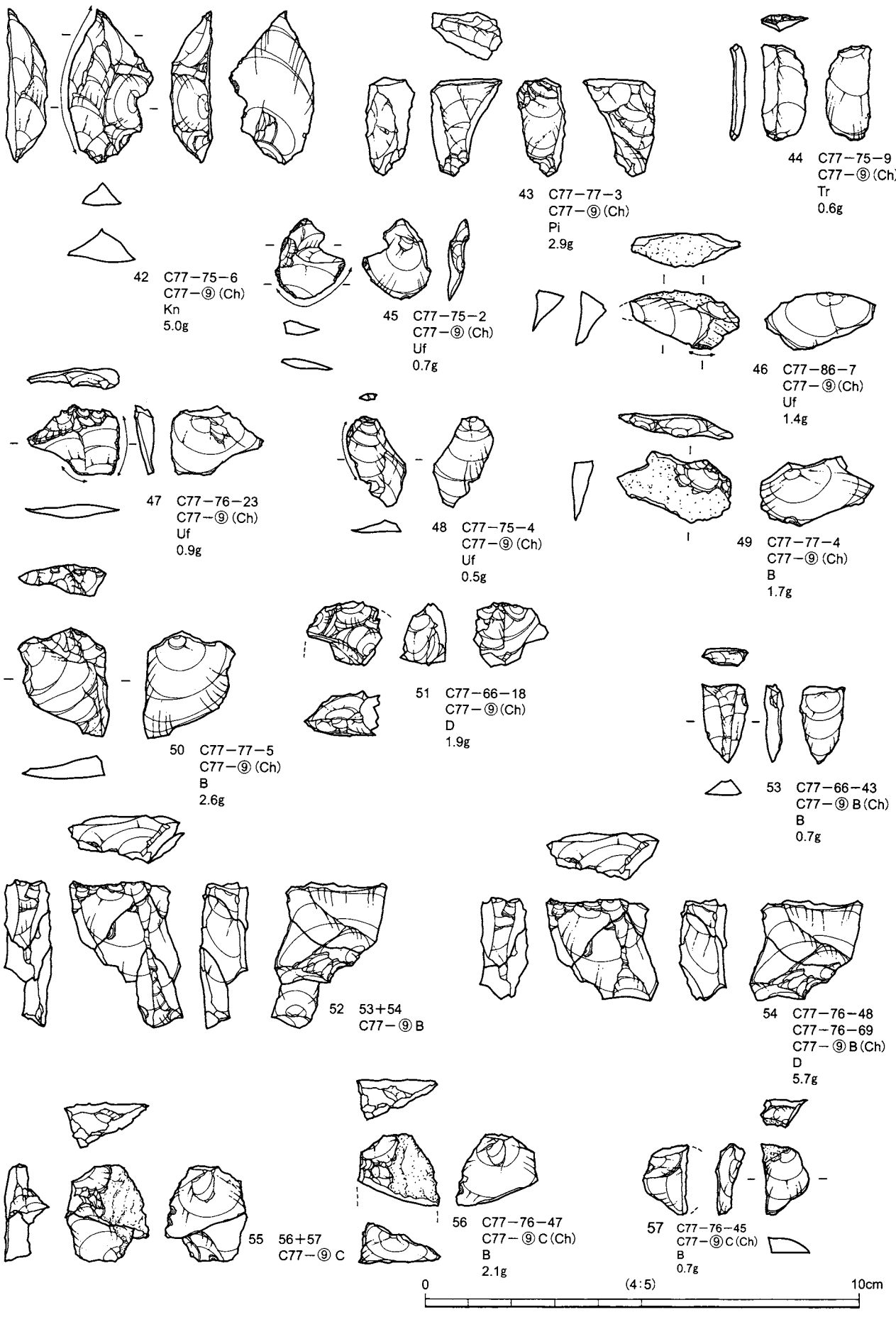
第229図　C77－Dブロック出土遺物実測図（1）



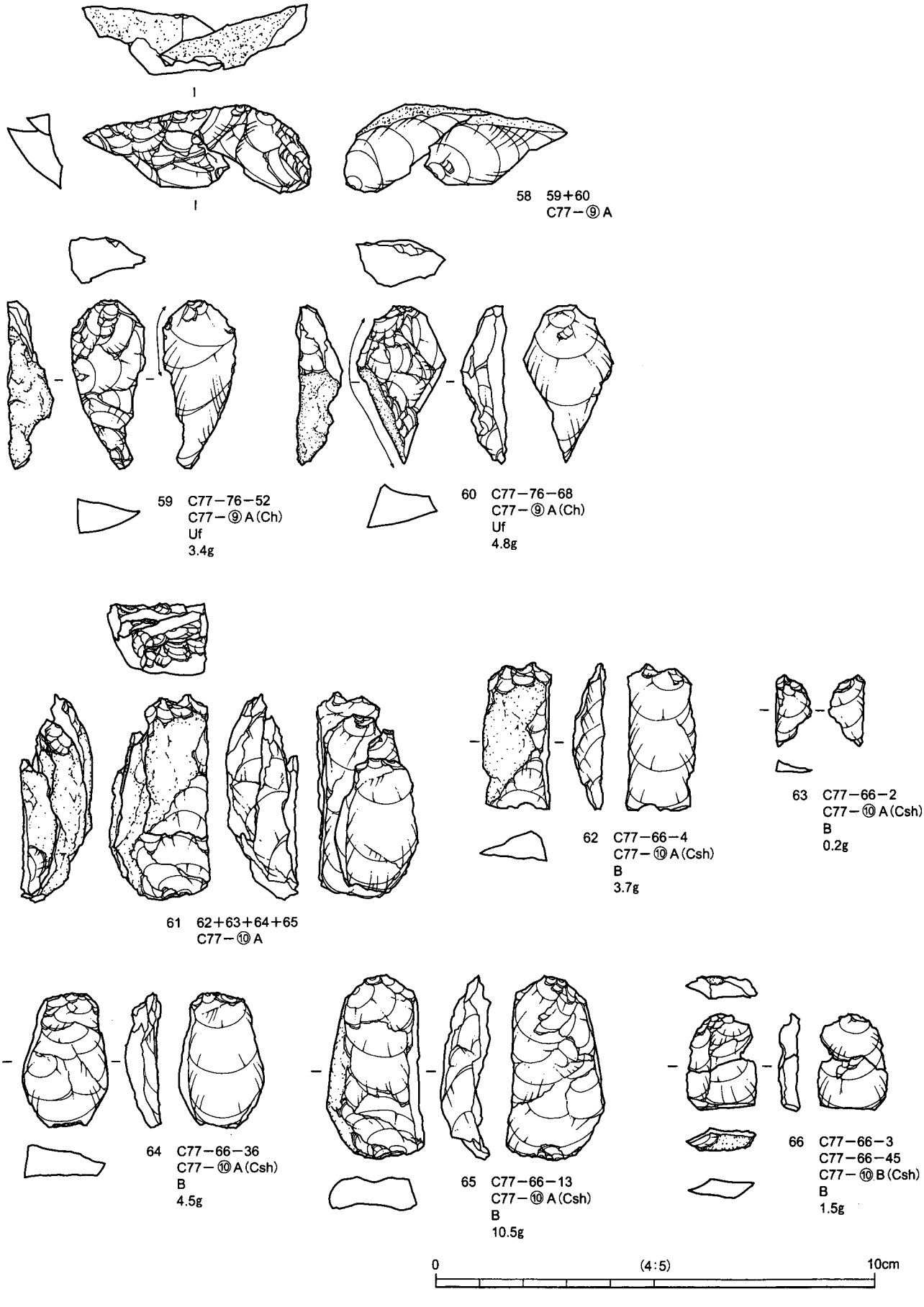
第230図　C77－Dブロック出土遺物実測図（2）



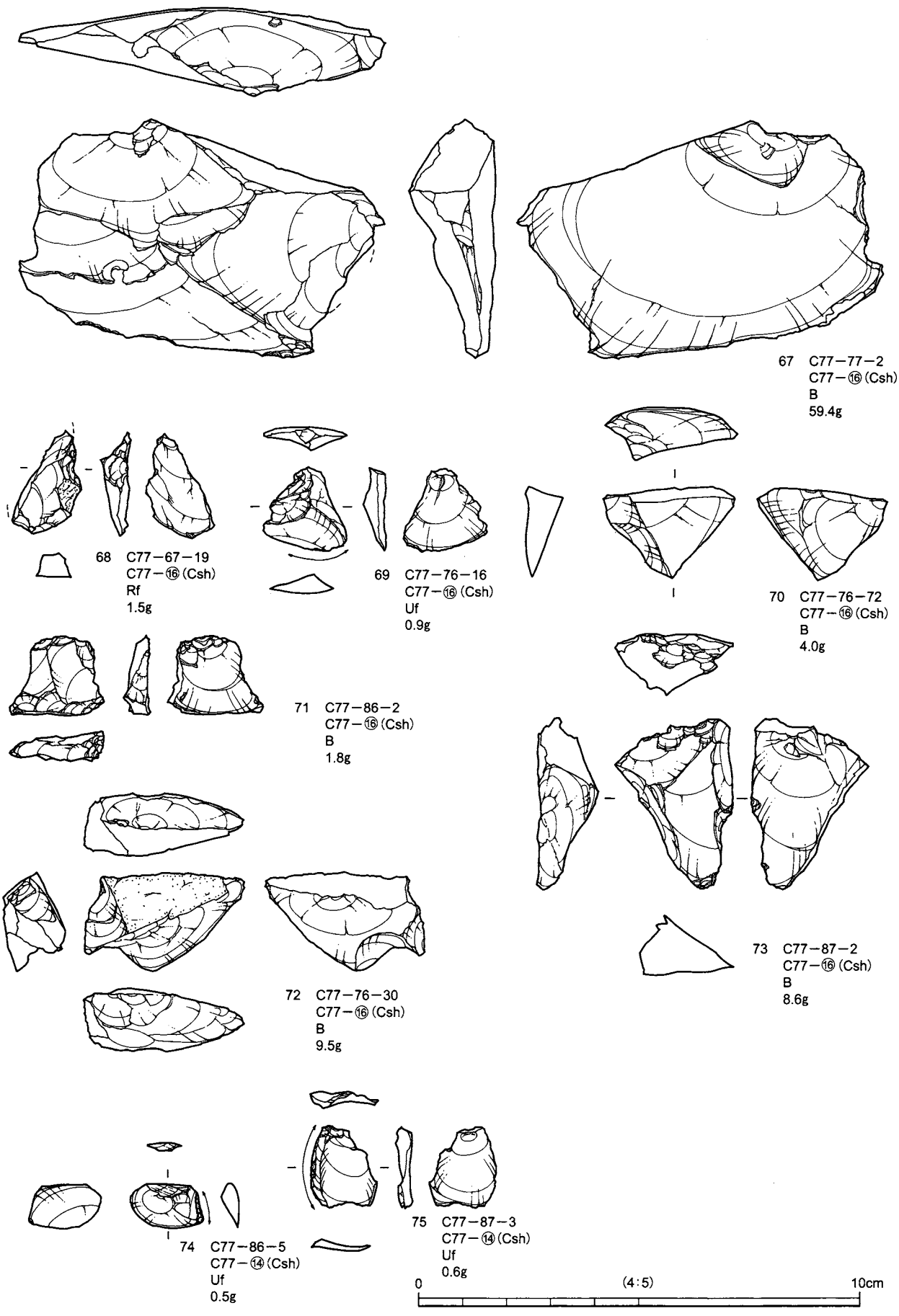
第231図　C77－Dブロック出土遺物実測図（3）



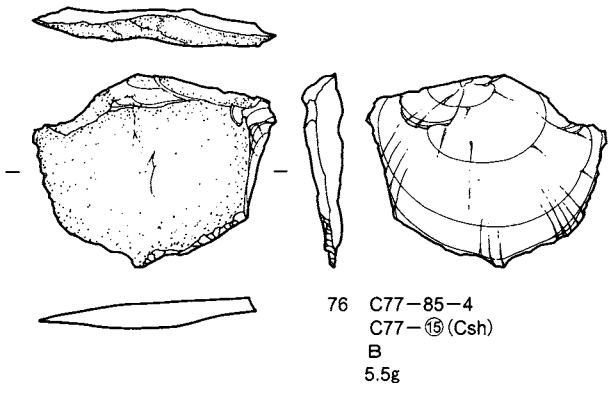
第232図　C77－Dブロック出土遺物実測図（4）



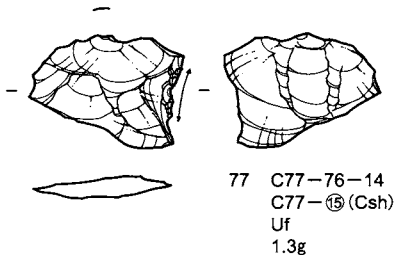
第233図　C77－Dブロック出土遺物実測図（5）



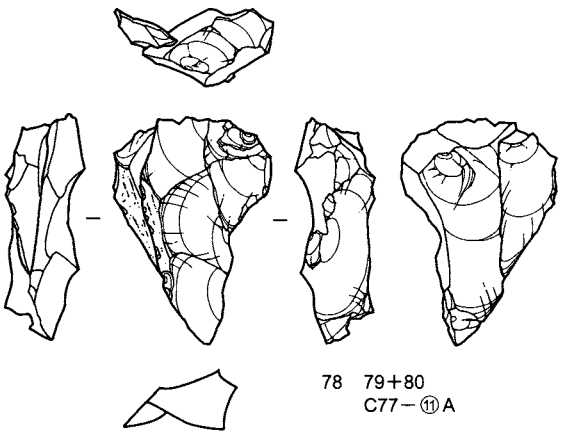
第234図　C77－Dブロック出土遺物実測図（6）



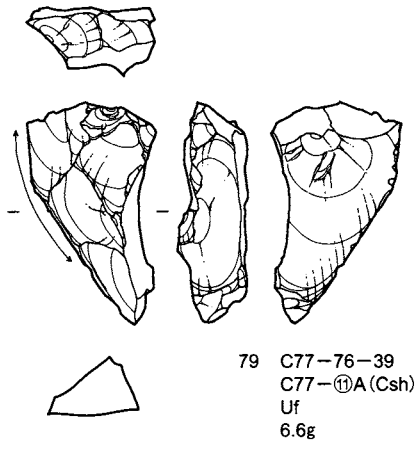
76 C77－85－4
C77－⑮(Csh)
B
5.5g



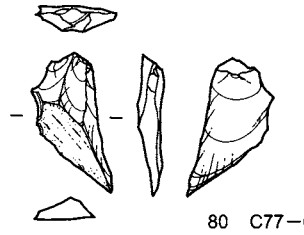
77 C77－76－14
C77－⑮(Csh)
Uf
1.3g



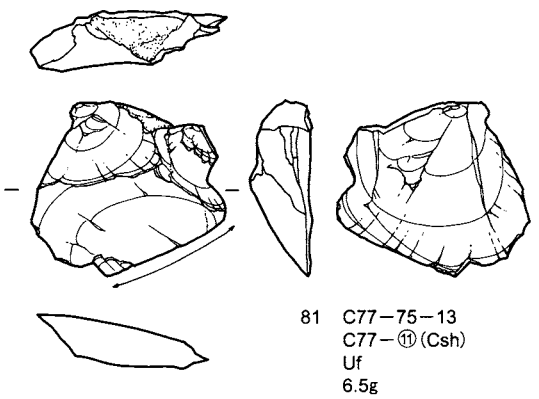
78 79＋80
C77－⑪A



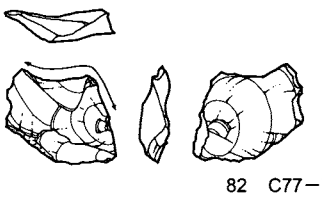
79 C77－76－39
C77－⑪A(Csh)
Uf
6.6g



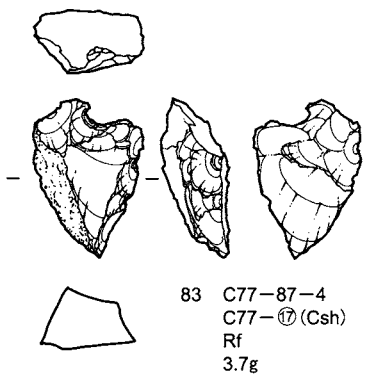
80 C77－66－23
C77－⑪A(Csh)
B
0.8g



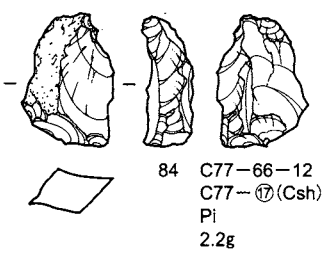
81 C77－75－13
C77－⑪(Csh)
Uf
6.5g



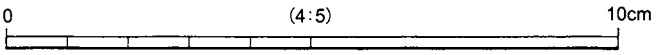
82 C77－76－3
C77－⑪(Csh)
Uf
1.0g



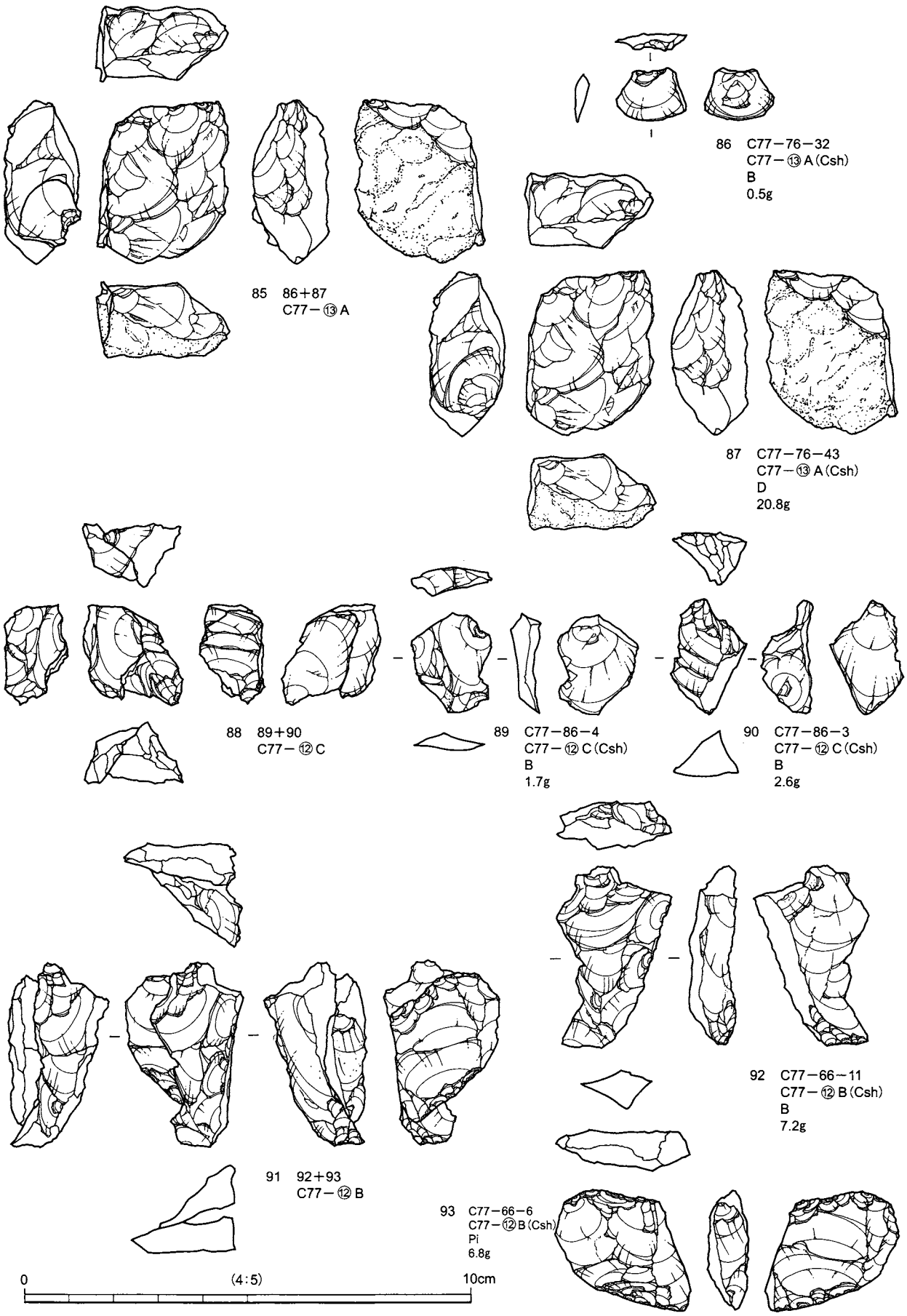
83 C77－87－4
C77－⑰(Csh)
Rf
3.7g



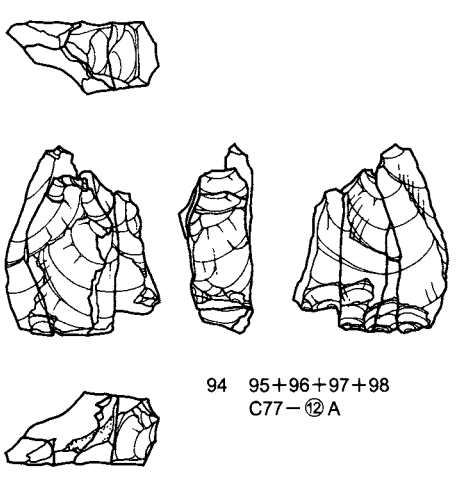
84 C77－66－12
C77－⑰(Csh)
Pi
2.2g



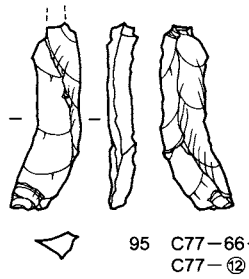
第235図　C77－Dブロック出土遺物実測図（7）



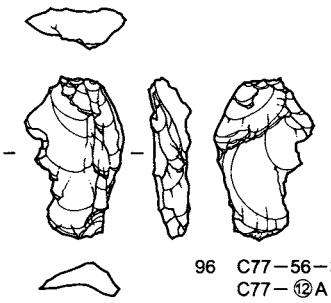
第236図　C77－Dブロック出土遺物実測図（8）



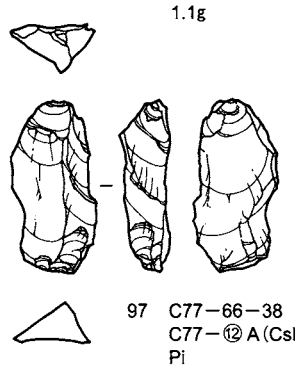
94　95+96+97+98
C77－⑫A



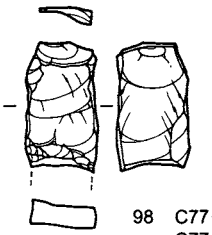
95　C77－66－1
C77－⑫A(Csh)
B
1.1g



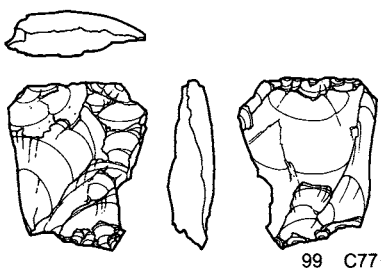
96　C77－56－3
C77－⑫A(Csh)
Pi
1.9g



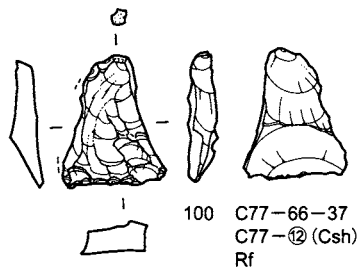
97　C77－66－38
C77－⑫A(Csh)
Pi
2.5g



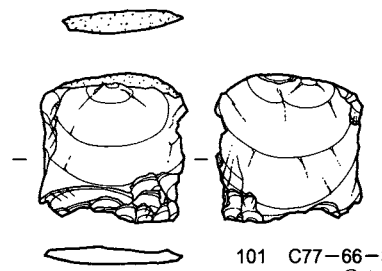
98　C77－66－14
C77－⑫A(Csh)
B
2.1g



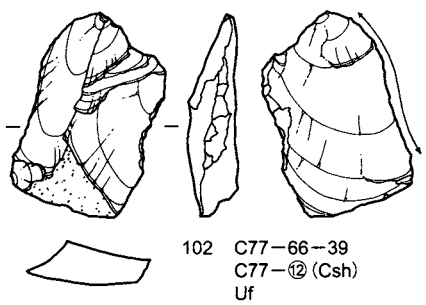
99　C77－66－8
C77－⑫(Csh)
Pi
4.4g



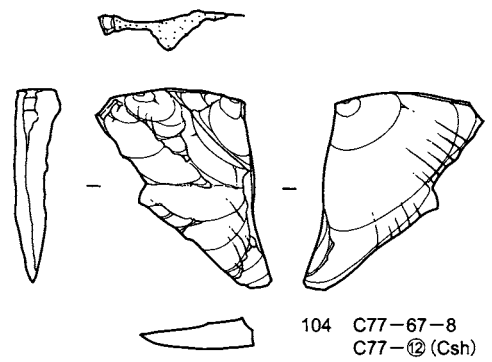
100　C77－66－37
C77－⑫(Csh)
Rf
1.4g



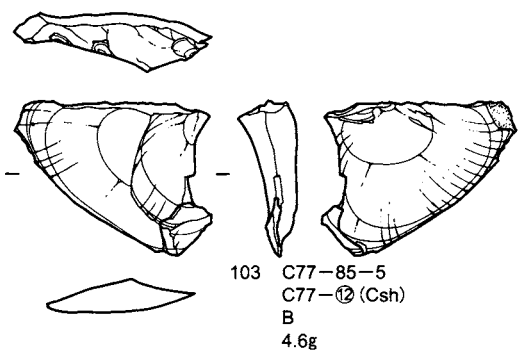
101　C77－66－31
C77－⑫(Csh)
B
2.6g



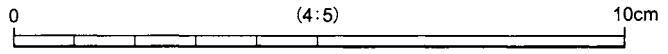
102　C77－66－39
C77－⑫(Csh)
Uf
4.9g



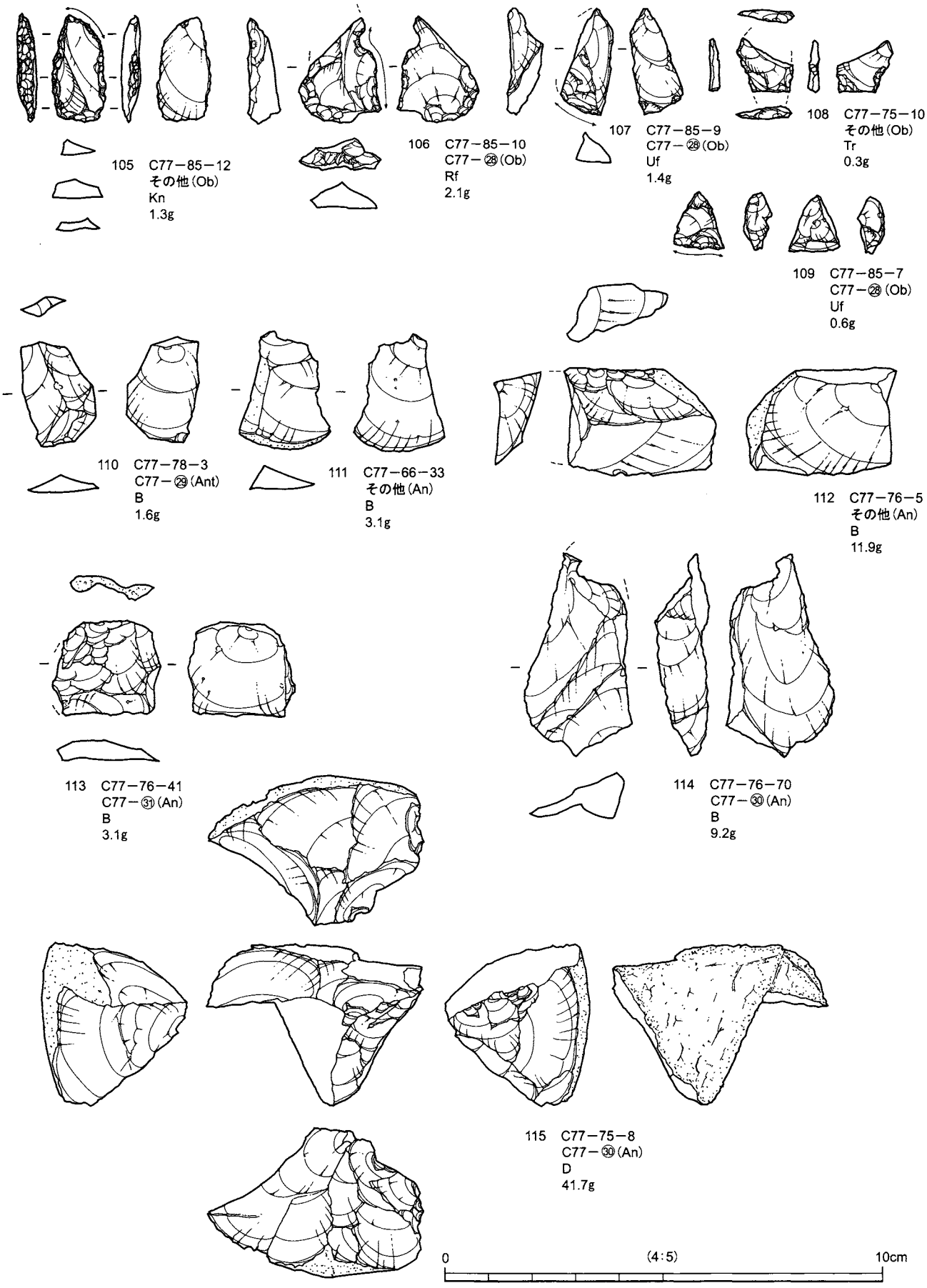
104　C77－67－8
C77－⑫(Csh)
B
4.0g



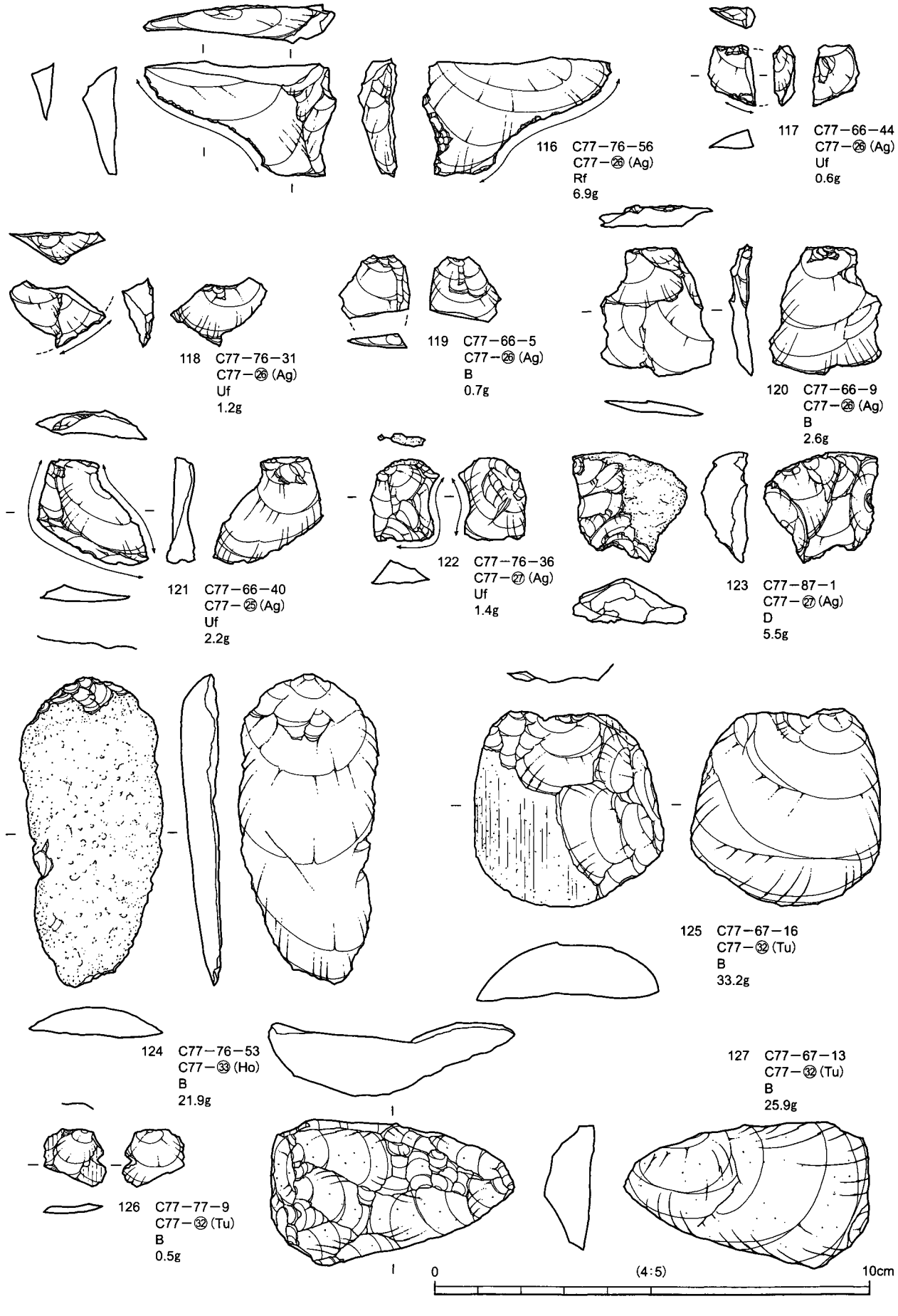
103　C77－85－5
C77－⑫(Csh)
B
4.6g



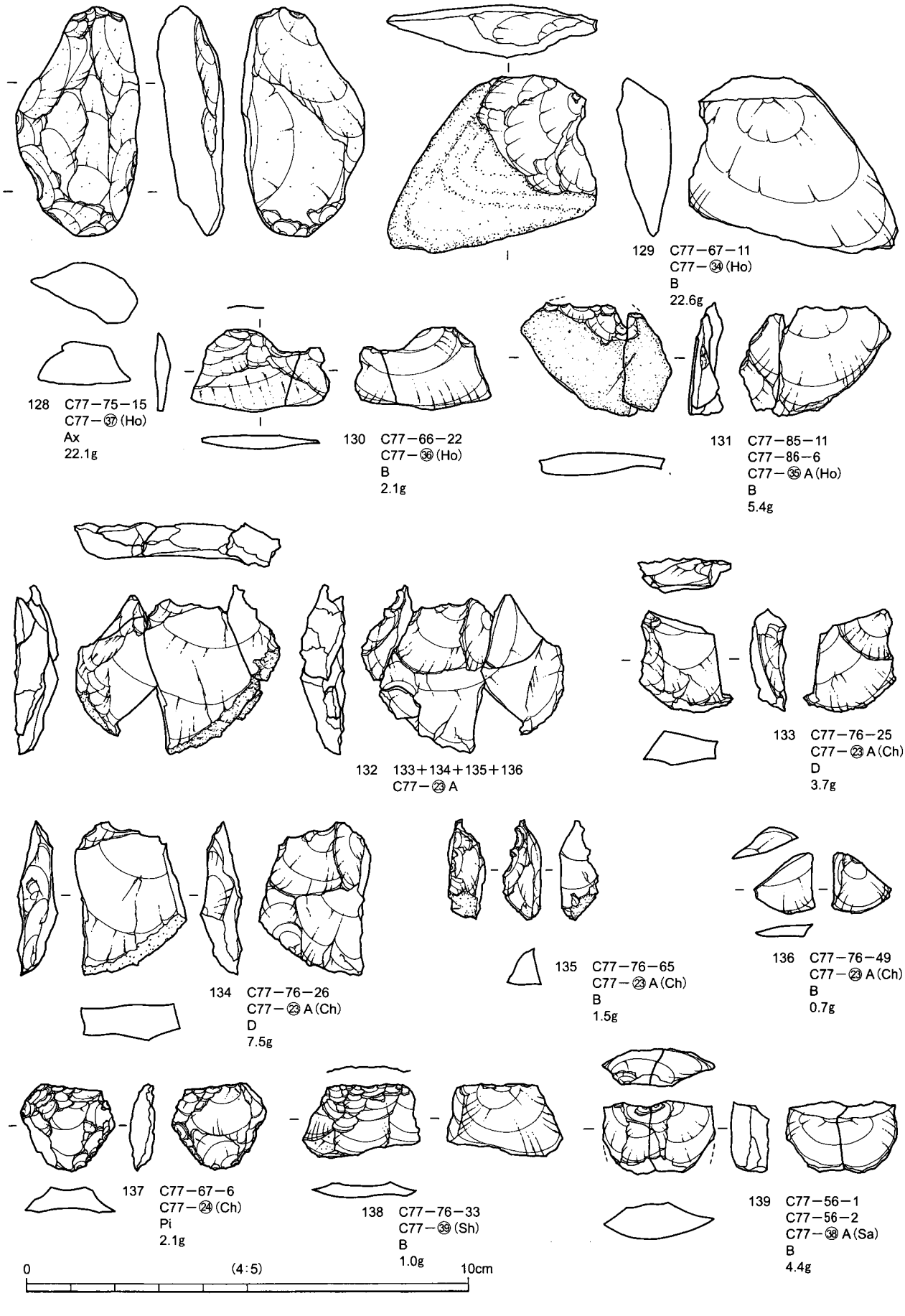
第237図　C77－Dブロック出土遺物実測図（9）



第238図　C77－Dブロック出土遺物実測図（10）



第239図　C77－Dブロック出土遺物実測図（11）



第240図　C77－Dブロック出土遺物実測図（12）

第３節　第４文化層

第４文化層は，立川ローム層第２黒色帯上部（Ⅶ～Ⅸ層上部）を中心に包含されている石器群である。C62-Ａ・Ｂ，C72N40-Ａ，C77-Ａ～Ｃブロックの６か所が該当する。

１　C62-Ａブロック（第241～244図，第75・76表）

１）ブロックの概要

C62-Ａブロックは，調査範囲北側のC62-55・56・64～66・75グリッドに位置する。ブロックの立地は台地北側縁辺部で，北へ向かって下る緩斜面である。傾斜変換点までの距離は25ｍである。

ブロックの規模と形状は，直径10ｍの範囲に50点の石器が分布するが，21点が所在不明であることから，29点について検討する。出土層位はⅦ・Ⅸａ層を中心としており，40㎝ほどの高低差をもって地形に沿って包含されている（第241・242図）。

ブロックは，ナイフ形石器１点，剥片25点（24個体），砕片２点，石核１点の合計29点（28個体）で構成される。石材は，安山岩25点，安山岩（トロトロ石）２点，珪質頁岩１点，ホルンフェルス１点である。

なお，本ブロックのホルンフェルス，安山岩の中には，160ｍほど南に位置するC77-Ｂブロックと接合するものがある。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは３母岩を識別した。内訳は，安山岩１母岩（C62-①），珪質頁岩１母岩（C62-②），ホルンフェルス１母岩（C77-④）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は86％（25/29点）である。

・C62-①：黒灰色で白い夾雑物を含む安山岩である。自然面は凹凸のない曲面で，原石は拳ほどの円礫と推定される。石器群の内訳は，剥片22点（21個体），石核１点の合計23点（22個体；97.5ｇ）である。接合資料は，剥片３点，石核１点によるもの（接合資料Ａ；61.9ｇ）と剥片２点によるもの（接合資料Ｂ；１個体；3.9ｇ）の２グループがある。前者は，C77-Ｂブロック出土の剥片１点と接合する。

・C62-②：灰緑色の嶺岡産珪質頁岩である。石刃素材のナイフ形石器１点（3.2ｇ）の単独資料である。

・C77-④：淡黒灰色で灰白色の縞が入るホルンフェルスである。本ブロックでは剥片１点（9.3ｇ）の単独資料であるが，C77-Ｂブロックに同一母岩18点があり，このうちの10点と接合する。

なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩の剥片２点（合計17.8ｇ），安山岩（トロトロ石）の砕片２点（合計0.2ｇ）がある。

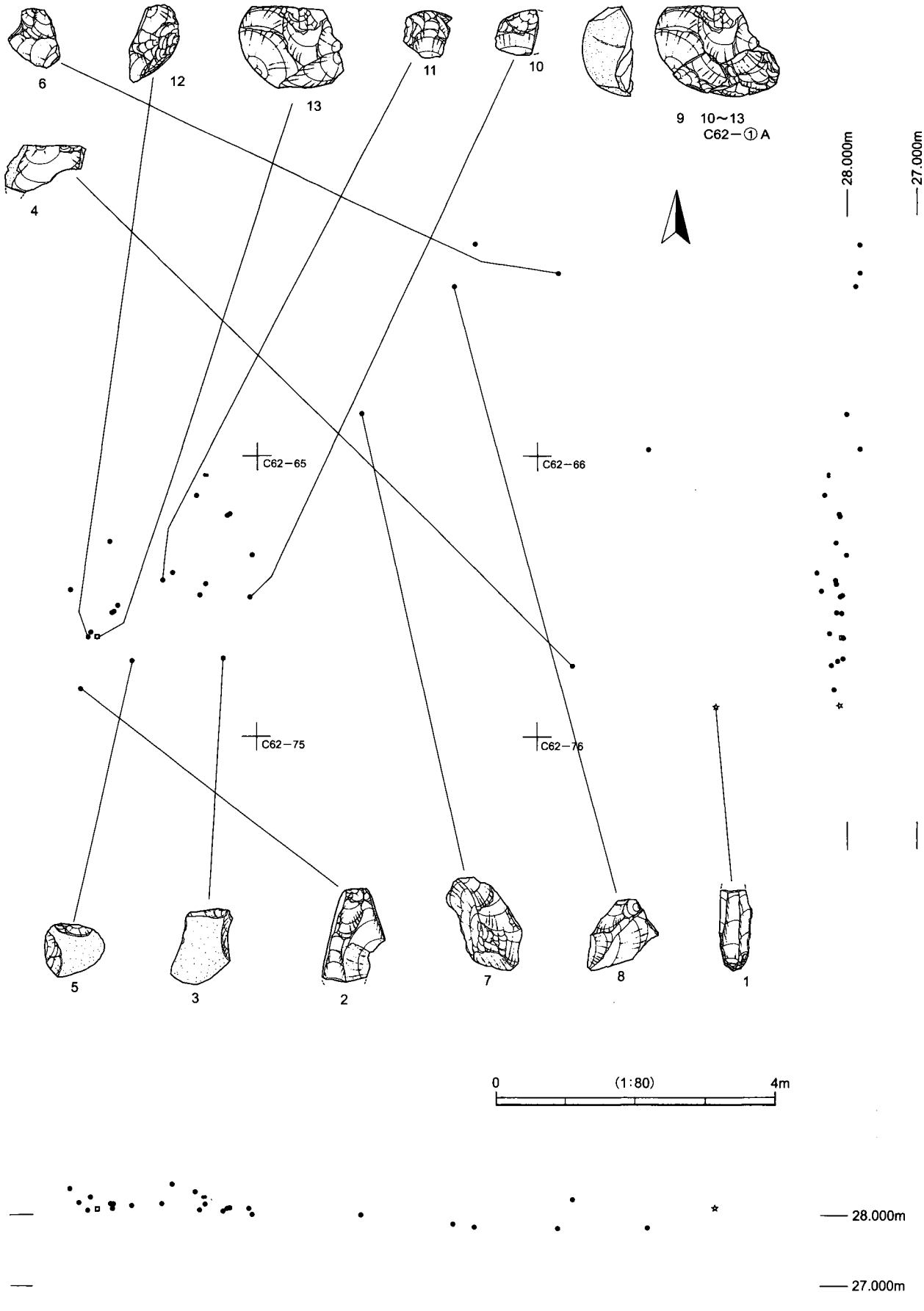
３）出土遺物（第243図）

１は，珪質頁岩による基部調整のナイフ形石器である。中型の石刃を用い，素材の打面部を基部として，両側縁に細かな調整を行っている。打面はすべて除去されている。素材の長軸と石器の主軸は一致する。

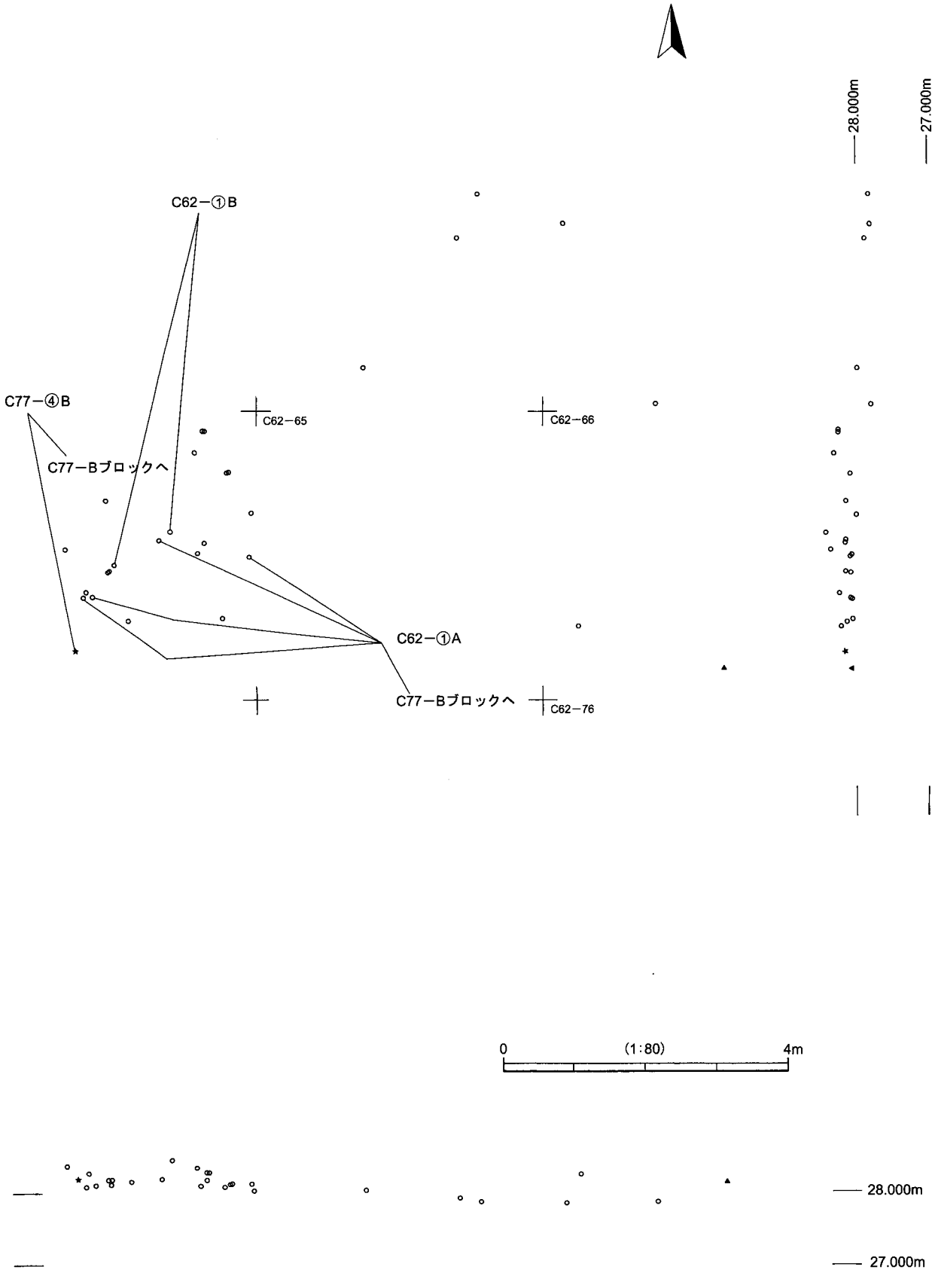
２は，ホルンフェルスによる縦長剥片である。C77-Ｂブロックに同一母岩がまとまっており，その一部と接合する。３～８は，安山岩による不定型の剥片である。表面を覆う剥離面の剥離方向は裏面と一致しないものが多く，求心的な打点移動による剥離手順が想定される。

４）接合資料とその関連資料（第244図）

・C62-①（第244図９～13）　黒灰色の安山岩で，剥片22点（21個体），石核１点の合計23点（22個体）で



第241図　C62-Aブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



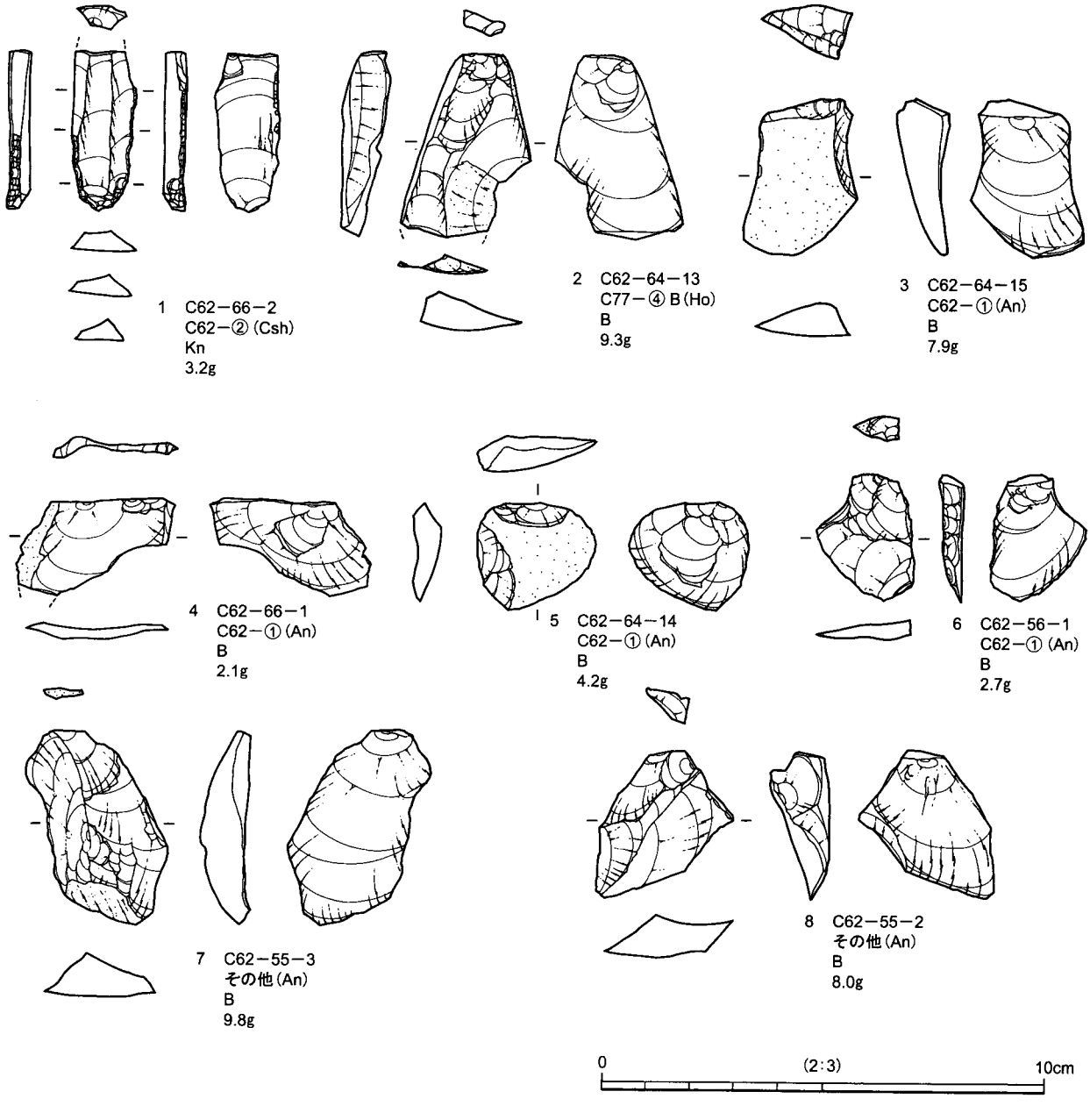
第242図　C62-Aブロック出土遺物分布図（2）　−石材別分布図−

第75表　C62-Aブロック母岩別石器組成表

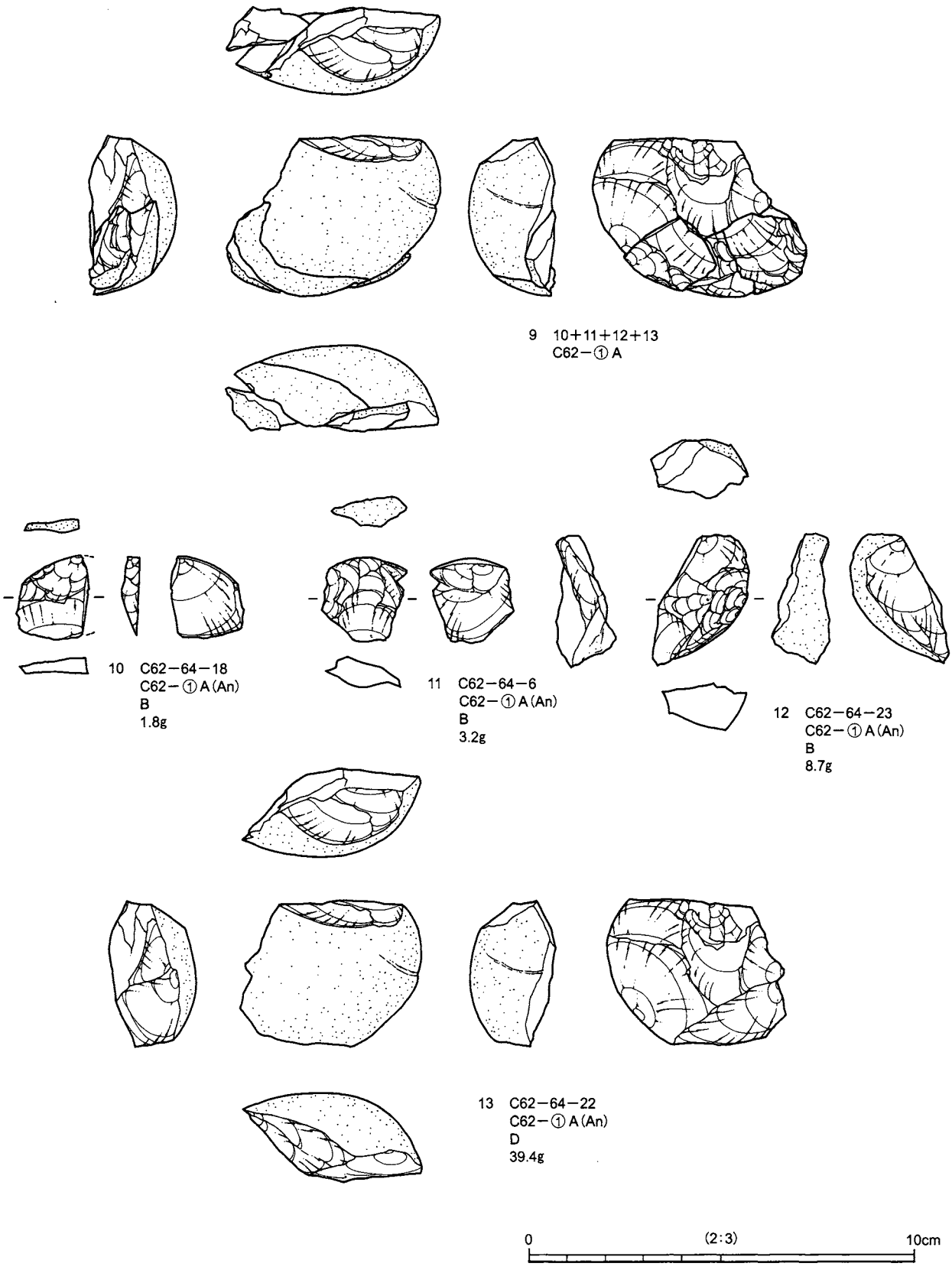
母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C62-①(An)																			22(21)		1	23(22)		23(22)
C62-②(Csh)	1																					1		1
C77-④(Ho)																			1			1		1
その他(An)																			2			2		2
その他(Ant)																				2		2		2
合　計	1																		25(24)	2	1	29(28)		29(28)

第76表　C62-Aブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
安山岩(An)																			24(23)		1	25(24)		25(24)
安山岩(Ant)																				2		2		2
珪質頁岩(Csh)	1																					1		1
ホルンフェルス(Ho)																			1			1		1
合　計	1																		25(24)	2	1	29(28)		29(28)



第243図　C62-Aブロック出土遺物実測図（1）



第244図　C62-Aブロック出土遺物実測図（2）

構成される。

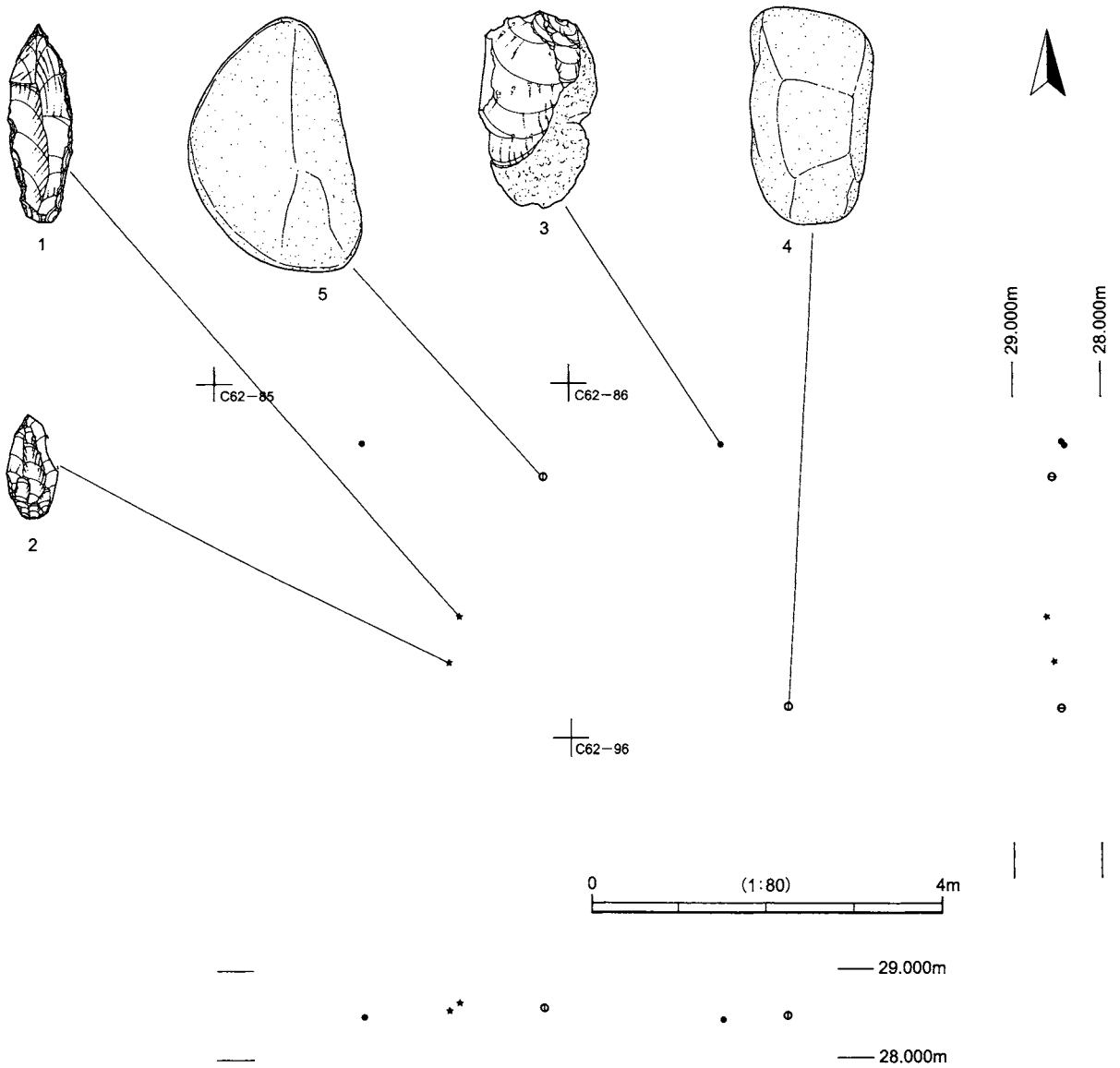
9は，剥片3点（10～12），石核1点（13）の接合資料である。はじめに，安山岩の円礫を分割して石核の素材とする。分割面を作業面として，周回的な打点移動によって小型不定型の剥片を剥離している。この過程で10～12が剥離されている。なお，図示していないが，C77-Bブロックの剥片1点が11に先行して接合する。

2　C62-Bブロック（第245～247図，第77・78表）

1）ブロックの概要

C62-Bブロックは，調査範囲北側のC62-85・86・96グリッドに位置する。ブロックの立地は台地北側縁辺部で，北へ向かって下る緩斜面である。傾斜変換点までの距離は30mである。

ブロックの規模と形状は，直径6mの範囲に14点の石器群が散漫に分布するが，8点が所在不明である



第245図　C62-Bブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－

ことから，６点について検討する。出土層位はⅦ・Ⅸａ層を中心としており，地形に沿って包含されている（第245・246図）。

ブロックは，ナイフ形石器２点，剥片２点，原石２点の合計６点である。石材は，安山岩２点，流紋岩１点，粘板岩１点，頁岩１点，珪質頁岩１点である。

２）母岩の特徴と内容

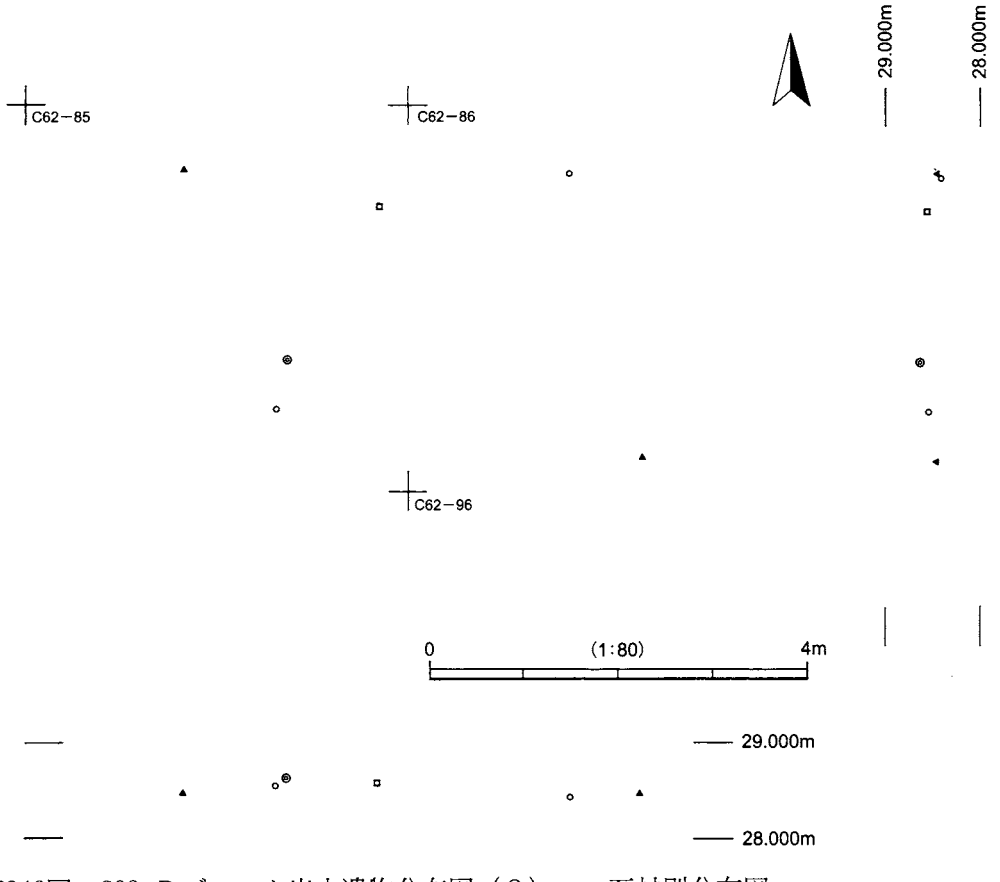
本ブロックでは５母岩を識別した。内訳は，安山岩１母岩（C62-⑧），流紋岩１母岩（C62-⑤），頁岩１母岩（C62-⑦），珪質頁岩１母岩（C62-④），粘板岩１母岩（C62-⑥）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は83％（５/６点）である。

第77表　C62-Ｂブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C62-④(Csh)																		1				1		1
C62-⑤(Rh)																		1				1		1
C62-⑥(Sl)	1																					1		1
C62-⑦(Sh)																			1			1		1
C62-⑧(An)																			1			1		1
その他(An)	1																					1		1
合　計	2																	2	2			6		6

第78表　C62-Ｂブロック石材別石器組成表

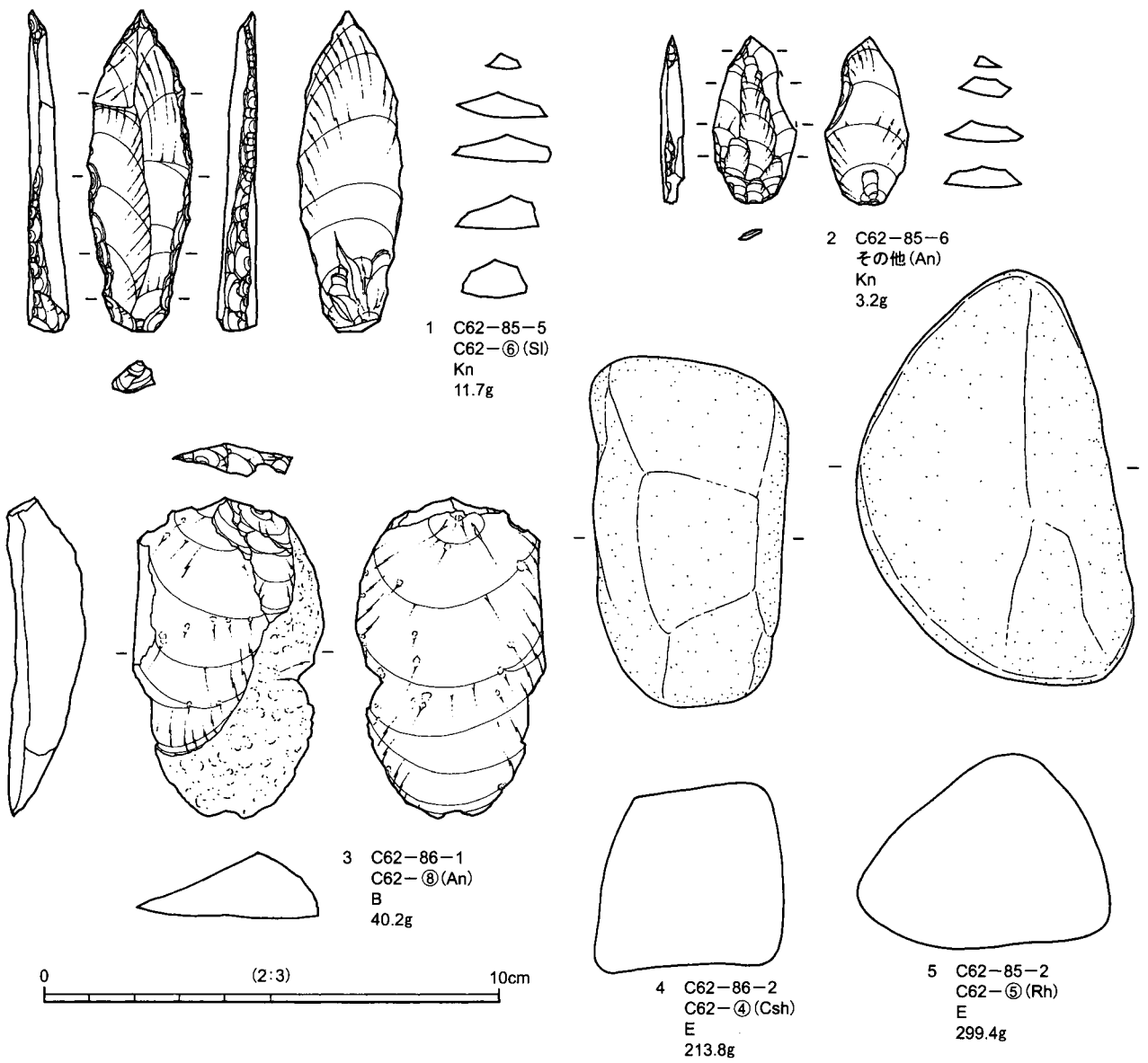
石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
安山岩(An)	1																		1			2		2
流紋岩(Rh)																		1				1		1
粘板岩(Sl)	1																					1		1
頁岩(Sh)																			1			1		1
珪質頁岩(Csh)																		1				1		1
合　計	2																	2	2			6		6



第246図　C62-Ｂブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－

・C62-④：暗褐色の珪質頁岩で，石器石材用の原石と判断した資料である。拳より小さめの円礫で，石質は比較的良好のようであるが，剥離痕，被熱痕などは見られない（213.8ｇ）。
・C62-⑤：灰褐色の流紋岩である。拳大の円礫で，部分的に赤化している。石器用石材か否か問題があるが，原石と判断した（299.4ｇ）。
・C62-⑥：黒色の粘板岩である。ナイフ形石器１点（11.7ｇ）の単独資料である。
・C62-⑦：淡褐色で硬質緻密な東北産頁岩である。剥片１点（0.5ｇ）の単独資料である。
・C62-⑧：自然面は細かい凹凸がある黒灰色の安山岩である。白い夾雑物が少し含まれている。剥片１点（40.2ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩のナイフ形石器１点（3.2ｇ）がある。隣接するC62-Ａブロックにまとまって分布するC62-①母岩に類似する。



第247図　C62-Ｂブロック出土遺物実測図

3）出土遺物（第247図）

1は，粘板岩による石刃を用いたナイフ形石器である。素材の打面を基部に置き，右側縁全体と左側縁の基部寄りに調整加工を行っている。打面は除去されずに残っている。素材の長軸と石器の主軸は一致する。2は，安山岩による石刃素材のナイフ形石器である。素材の打面を基部に置き，左側縁の基部寄りと先端に調整加工を行っている。

3は，安山岩による縦長剥片，4・5は珪質頁岩，流紋岩による原石である。

3　C72N40-Aブロック（第248～250図，第79・80表）

1）ブロックの概要

C72N40-Aブロックは，調査範囲北側のC72N40-18・28グリッドに位置する。ブロックの立地は，北東方向に向かって緩やかに下る台地の北側縁辺部で，傾斜変換点に位置する。

ブロックの規模と形状は，直径3mほどの範囲に6点の石器・礫が分布する。出土層位はIXa層を中心に，ほぼ水平に包含されている（第248・249図）。

ブロックは，使用痕ある剥片3点，剥片2点，礫1点の合計6点で構成される。石器石材は，安山岩1点，流紋岩2点，珪質頁岩1点，ホルンフェルス1点，礫石材は，ホルンフェルス1点である。石器はすべて搬入品である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは5母岩を識別した。内訳は，安山岩1母岩（C72N40-④），流紋岩2母岩（C72N40-②・③），珪質頁岩1母岩（C72N40-①），ホルンフェルス1母岩（C72N40-⑤）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（5/5点）である。

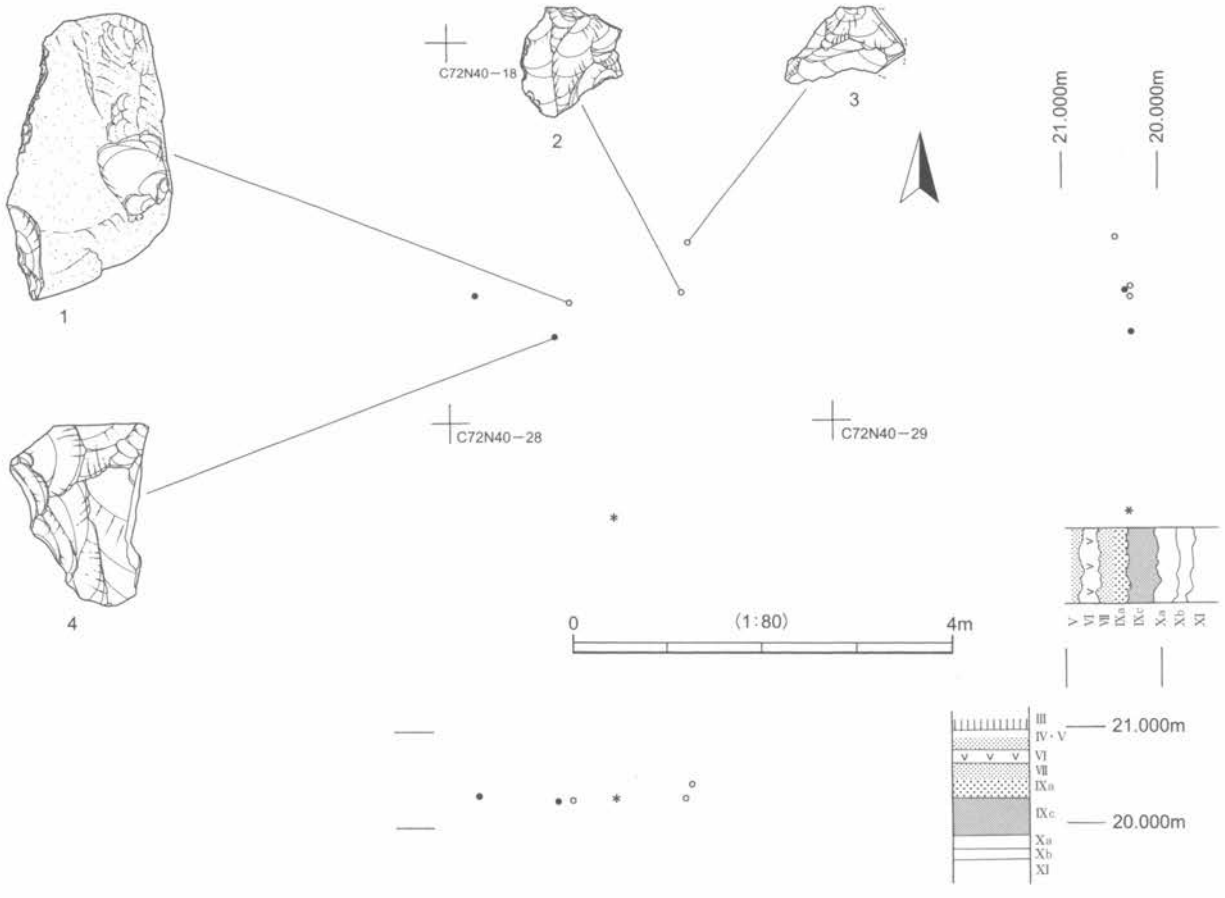
- C72N40-①：青みを帯びた黒灰色で，緻密な珪質頁岩である。使用痕のある剥片1点（6.5g）の単独資料である。
- C72N40-②：黄色みを帯びた灰緑色の地に暗褐色の縞が多方向に入る，珪化した流紋岩である。使用痕のある剥片1点（2.9g）の単独資料である。
- C72N40-③：黄褐色の地に褐色の縞が入る硬質な流紋岩である。自然面のようすから，大型の円礫の一部と考えられる。使用痕のある剥片1点（93.9g）の単独資料である。
- C72N40-④：灰色に風化した，やや軟質の安山岩である。剥片1点（50.4g）の単独資料である。
- C72N40-⑤：紫がかった黒灰色の硬質なホルンフェルスである。剥片1点（2.7g）の単独資料である。

第79表　C72N40-Aブロック母岩別石器組成表

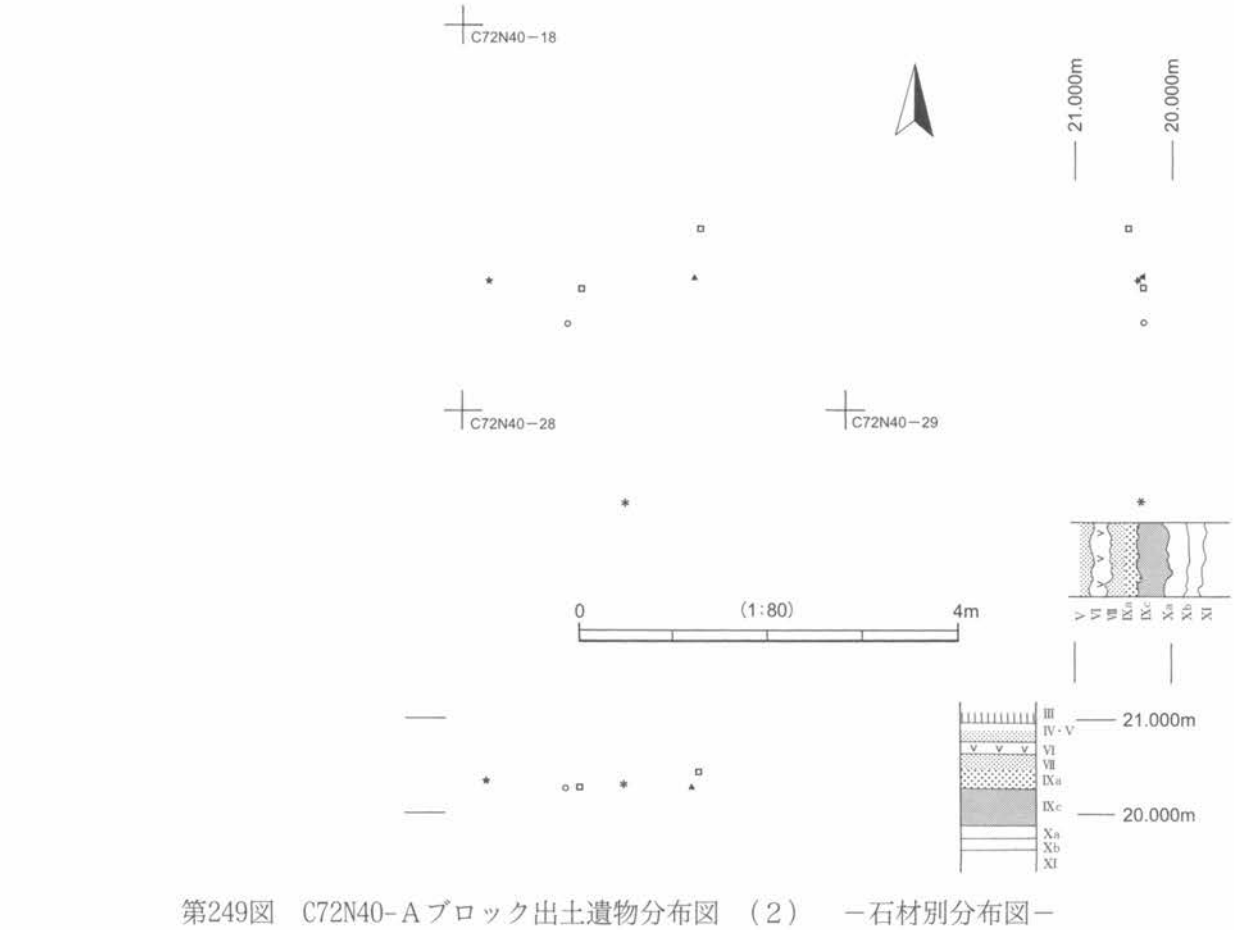
母岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C72N40-①(Csh)											1											1		1
C72N40-②(Rh)											1											1		1
C72N40-③(Rh)											1											1		1
C72N40-④(An)																			1			1		1
C72N40-⑤(Ho)																			1			1		1
C72N40R-①(Ho)																							1	1
合　計											3								2			5	1	6

第80表　C72N40-Aブロック石材別石器組成表

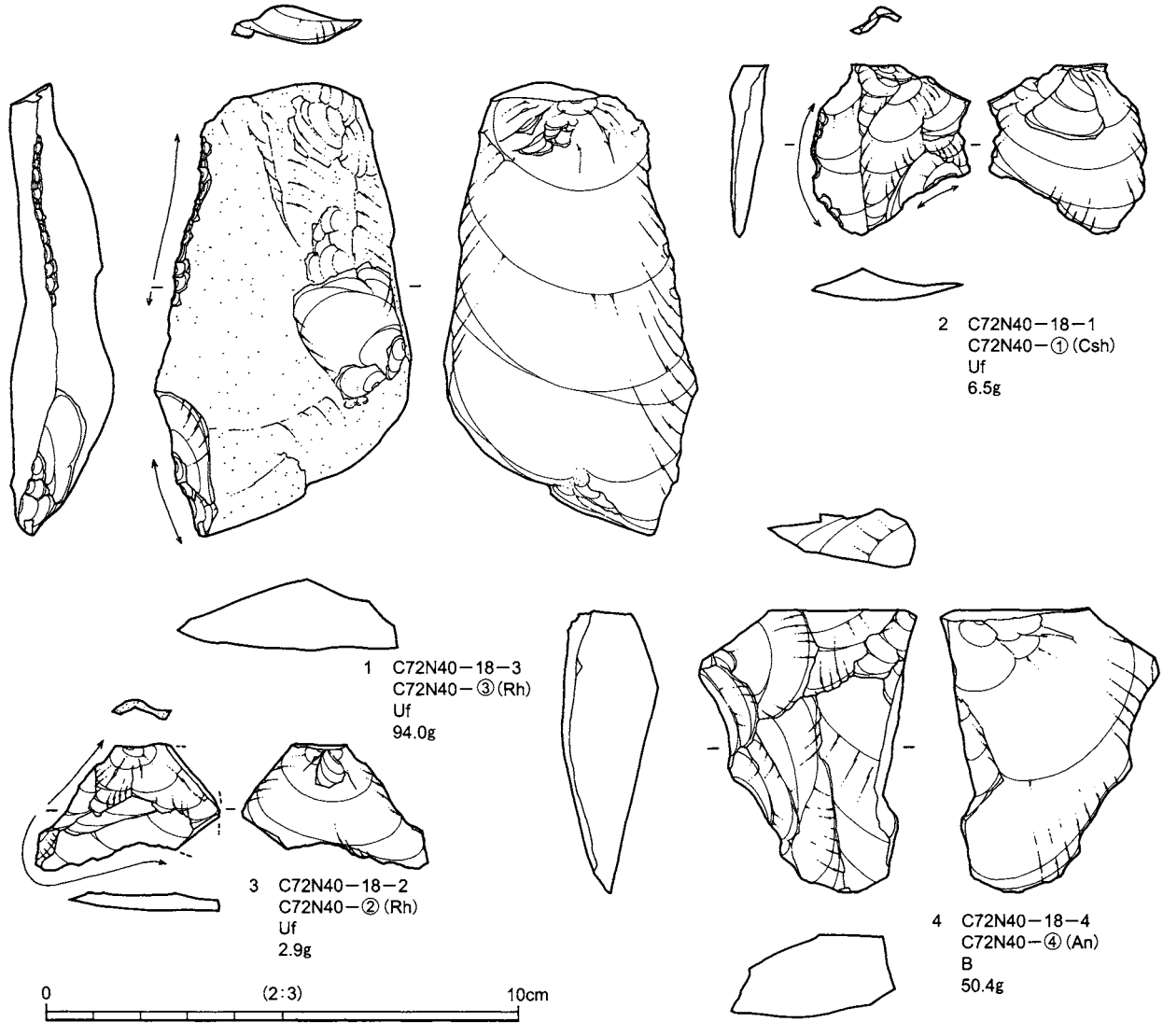
石材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
安山岩(An)																			1			1		1
流紋岩(Rh)											2											2		2
珪質頁岩(Csh)											1											1		1
ホルンフェルス(Ho)																			1			1	1	2
合　計											3								2			5	1	6



第248図　C72N40-Aブロック出土遺物分布図　（1）　－石器別分布図－



第249図　C72N40-Aブロック出土遺物分布図　（2）　－石材別分布図－



第250図　C72N40-Aブロック出土遺物実測図

3）出土遺物（第250図）

1は，流紋岩による大型不整形の縦長剥片を利用した使用痕ある剥片である。表面は全面にわたって自然面に覆われ，左側縁には粗い刃こぼれが見られる。2は珪質頁岩による不定型な剥片を，3は流紋岩による横長剥片を利用した使用痕ある剥片である。それぞれ鋭利な縁辺に刃こぼれがある。

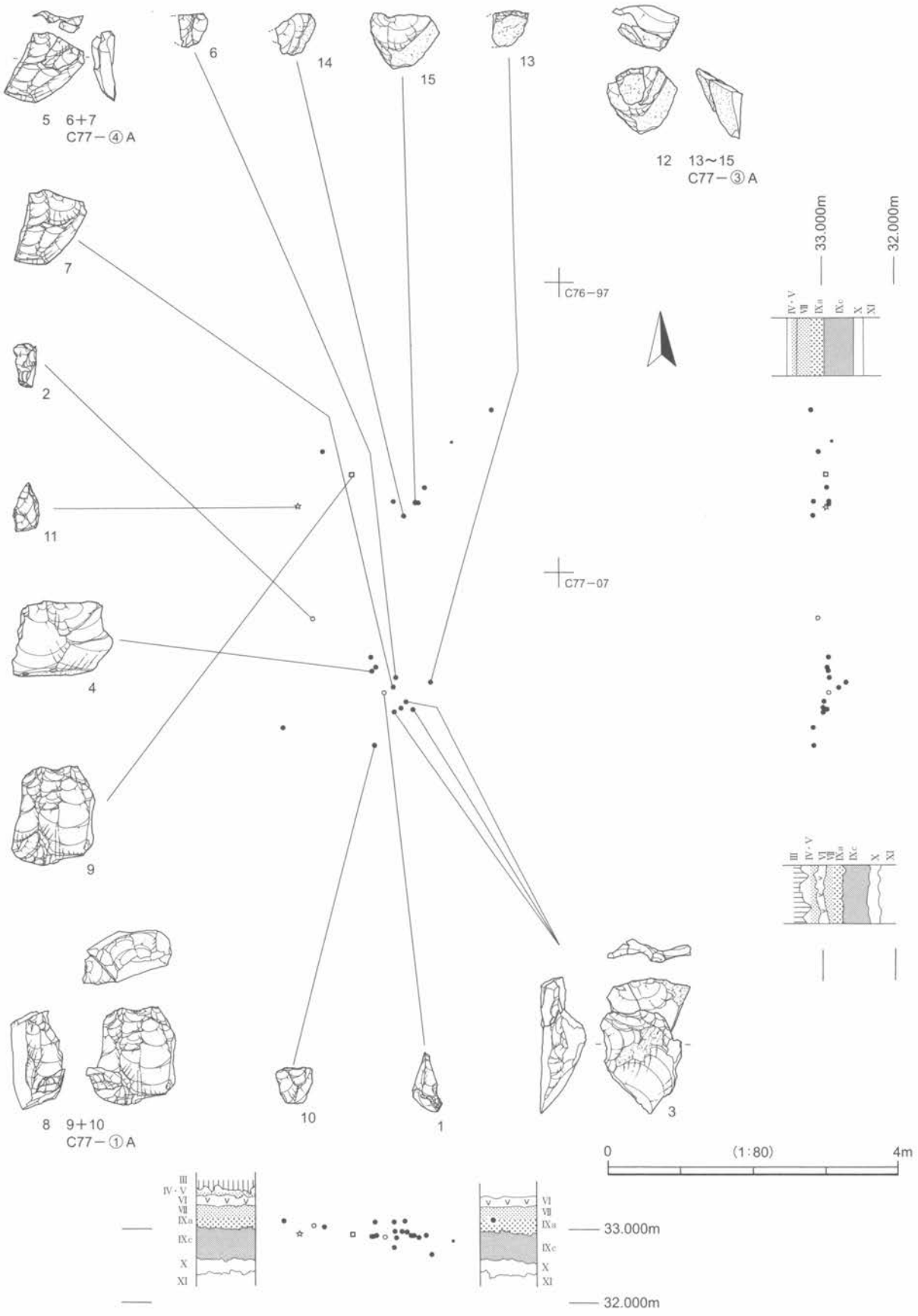
4は，安山岩による大型厚手の剥片である。石核の素材であろうか。

4　C77-Aブロック（第251～254図，第81・82表）

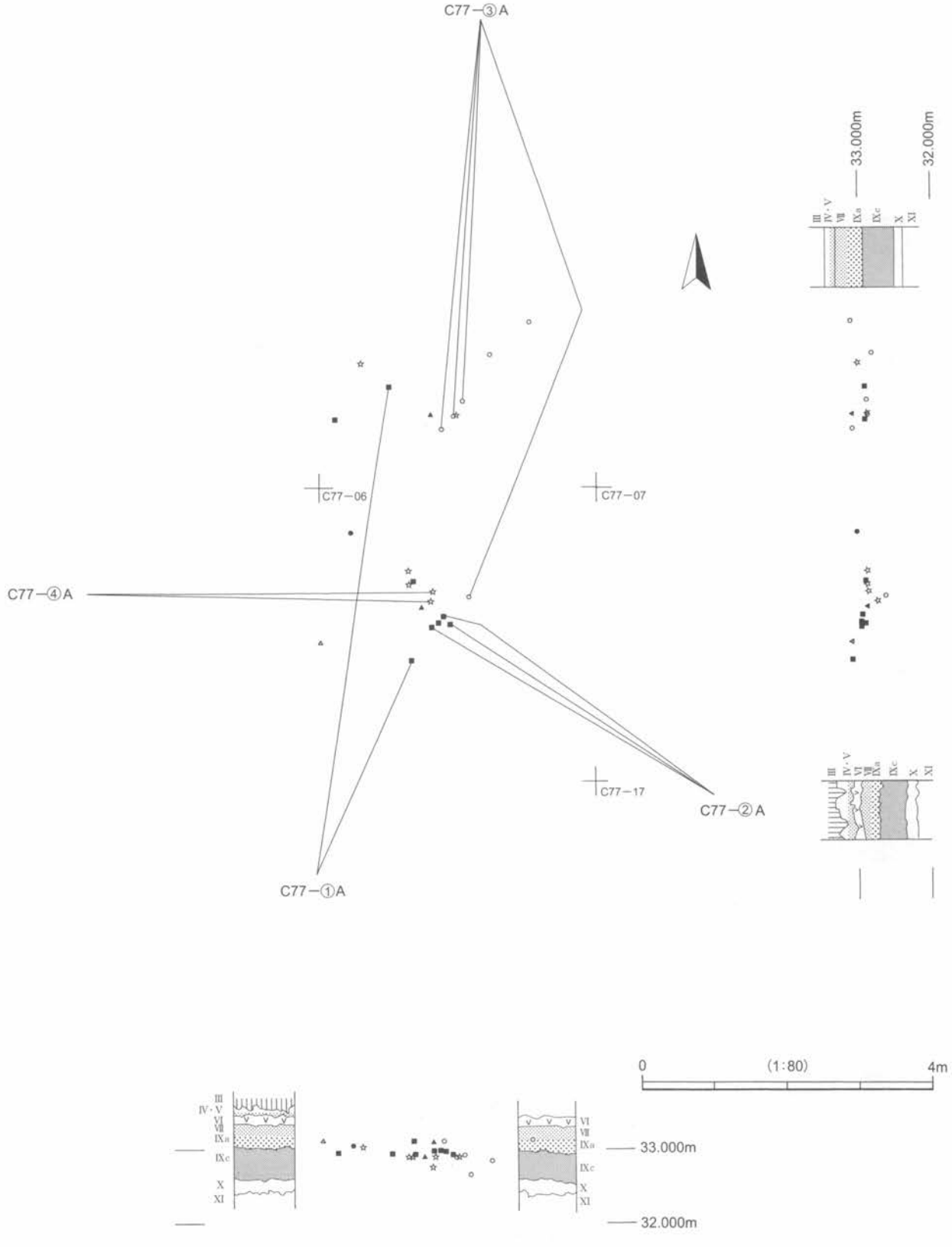
1）ブロックの概要

C77-Aブロックは，調査範囲南側のC76-96，C77－06グリッドに位置する。ブロックの立地は台地中央の平坦面で，南北それぞれの傾斜変換点までの距離は200mである。

ブロックの規模と形状は，長軸6m，短軸4mの楕円形の範囲に24点の石器が分布するが，石器のまと



第251図　C77-Aブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



第252図　C77-Aブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－

まりは南北２か所にある。出土層位はIXa層下部を中心としており，30cmほどの高低差をもって水平に包含されている（第251・252図）。

ブロックは，ナイフ形石器１点，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片１点，剥片19点（17個体），砕片１点，石核１点の合計24点（22個体）で構成される。石材は，黒曜石１点，安山岩６点，頁岩２点，チャート１点，ホルンフェルス６点，メノウ８点である。

なお，本ブロックの南側には同一文化層のブロック２か所（C77-Ｂ・Ｃブロック）が隣接する。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは５母岩を識別した。内訳は，安山岩１母岩（C77-③），頁岩１母岩（C77-⑤），ホルンフェルス１母岩（C77-④），メノウ２母岩（C77-①・②）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は88％（21/24点）である。

・C77-①：黒紫色半透明で，硬質緻密なメノウである。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，剥片１点，石核１点の合計３点（40.1ｇ）である。このうち，剥片１点と石核１点（合計39.0ｇ）が接合する。

・C77-②：黄灰色半透明の地に黄白色の不純物が層をなすメノウである。石器群の内訳は，剥片５点（３個体；29.4ｇ）である。このうち，剥片３点（1個体；28.4ｇ）が接合する。

・C77-③：黒灰色で灰白色の夾雑物を含む安山岩で，剥片５点，砕片１点の合計６点（11.2ｇ）で構成される。剥片４点（合計10.2ｇ）が接合する。

・C77-④：淡黒灰色で灰白色の縞が入るホルンフェルスで，剥片５点（合計19.8ｇ）で構成される。このうち，剥片２点（合計7.7ｇ）が接合する。同一母岩が，C62-Ａブロックに１点，C77-Ｂブロックに18点ある。

・C77-⑤：暗褐色で硬質緻密な東北産頁岩である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（2.1ｇ）である。同一母岩が，C77-Ｂブロックに４点ある。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石の使用痕ある剥片１点（0.7ｇ），チャートの剥片１点（0.3ｇ），ホルンフェルスの剥片１点（0.5ｇ）がある。黒曜石は，信州産の可能性のある良質なものである。

３）出土遺物（第253図）

１は，頁岩による不定型の剥片を用いた加工痕ある剥片である。右側縁下部に細かな調整加工が見られる。２は，黒曜石による不定型の剥片を利用した使用痕ある剥片である。素材剥片の打面，末端部の双方が折れた剥片を用いており，鋭利な縁辺に刃こぼれがある。切断による台形石器の一種であろうか。

３は，メノウによる不定型の剥片である。表面は多方向からの剥離面で構成される。３点に割れて出土した。

４）接合資料とその関連資料（第253～254図）

・C77-④（第253図４～７）　淡黒灰色のホルンフェルスで，剥片５点で構成される。

５は，剥片２点（６・７）の接合資料である。同一の打面を用いて，６→７の順で不定型の剥片を剥離している。４も同一母岩の剥片であるが，接合しない。いずれの表面も，概ね同一方向の剥離面で構成される。

・C77-①（第254図８～11）　黒紫色半透明のメノウで，ナイフ形石器１点，剥片１点，石核１点で構成される。

8は，剥片1点（10）と石核1点（9）の接合資料である。10は石核（9）の左側面で剥離されているが，石核正面（作業面）の主たる剥離面の剥離方向とは90度異なっており，また幅広寸詰まりであることから，石核の側面調整に伴う剥片の可能性がある。

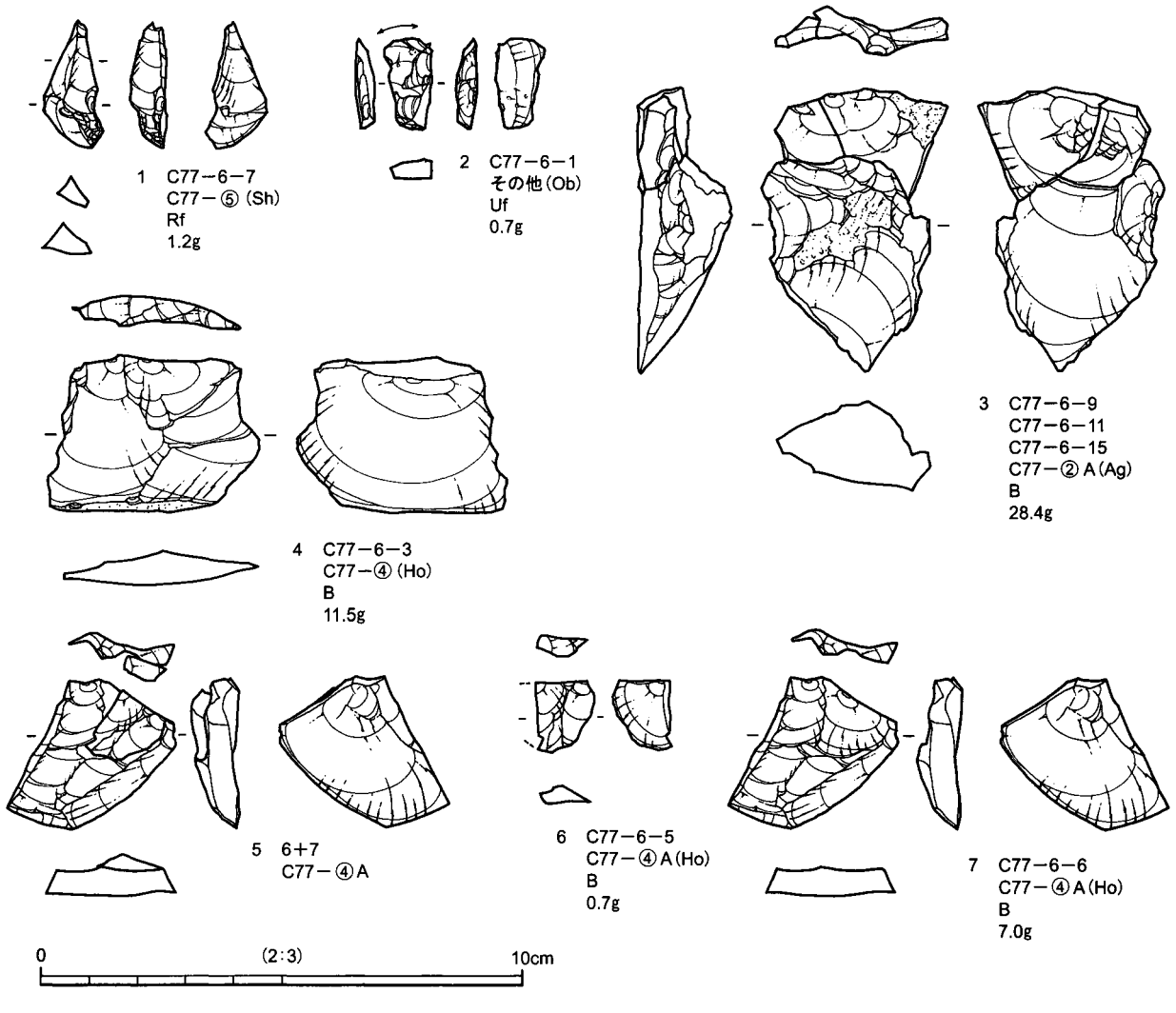
11は，小型の2側縁調整のナイフ形石器である。小型不定型の剥片を素材として，左側縁全体と右側縁

第81表　C77-Aブロック母岩別石器組成表

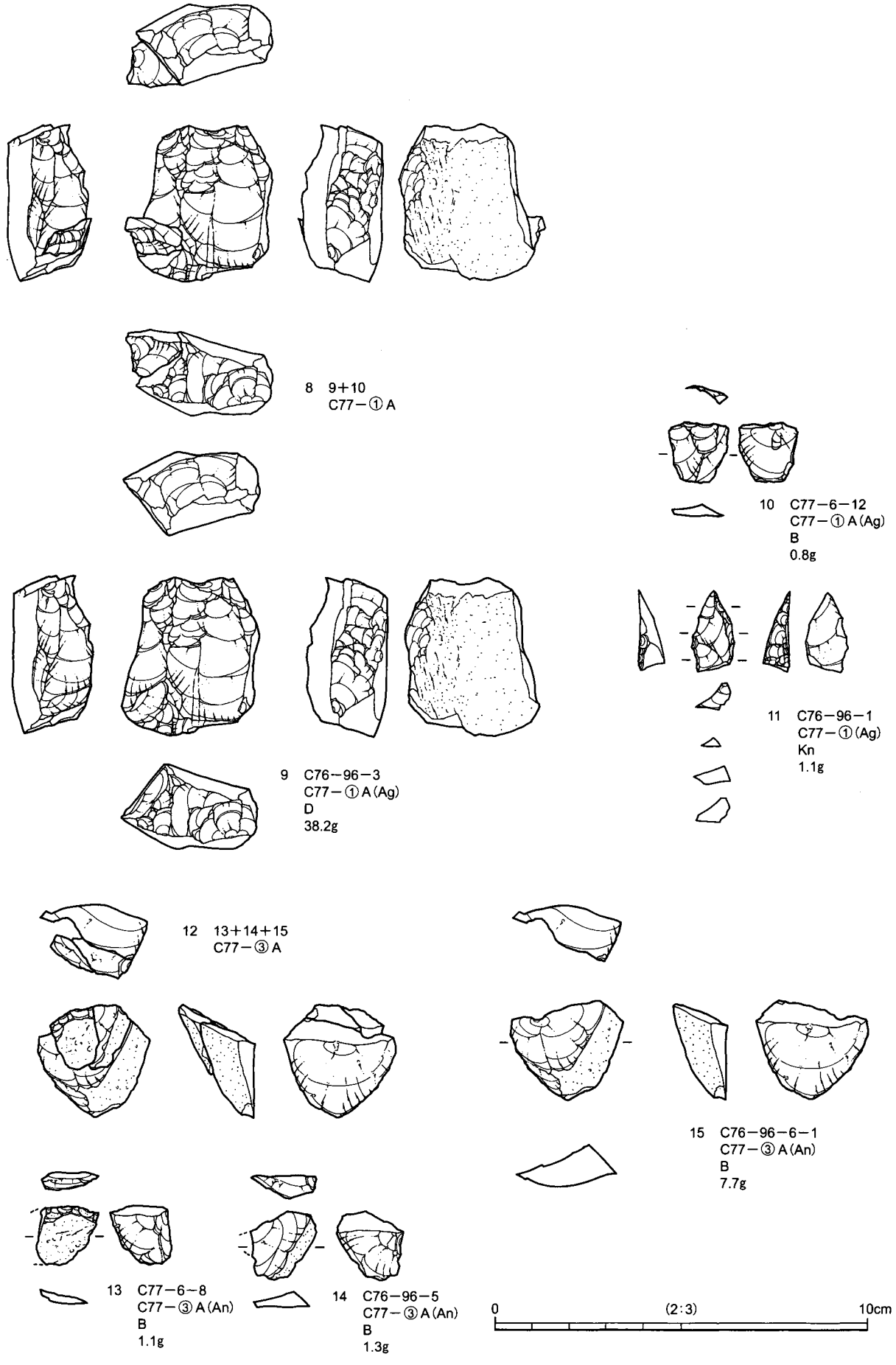
母岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C77-①(Ag)	1																		1		1	3		3
C77-②(Ag)																			5(3)			5(3)		5(3)
C77-③(An)																			5	1		6		6
C77-④(Ho)																			5			5		5
C77-⑤(Sh)										1									1			2		2
その他(Ob)											1											1		1
その他(Ch)																			1			1		1
その他(Ho)																			1			1		1
合計	1									1	1								19(17)	1	1	24(22)		24(22)

第82表　C77-Aブロック石材別石器組成表

石材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)											1											1		1
安山岩(An)																			5	1		6		6
頁岩(Sh)										1									1			2		2
チャート(Ch)																			1			1		1
ホルンフェルス(Ho)																			6			6		6
メノウ(Ag)	1																		6(4)		1	8(6)		8(6)
合計	1									1	1								19(17)	1	1	24(22)		24(22)



第253図　C77-Aブロック出土遺物実測図（1）



第254図　C77-Aブロック出土遺物実測図（2）

の基部寄りに調整加工を行っている。基端部は表面からの１枚の剥離面であるが，周囲の調整加工が切っていることから，一度折れた後に再度調整しているのかも知れない。

・C77-③（第254図12～15）　黒灰色の安山岩で，剥片５点，砕片１点で構成される。

12は，剥片３点（13～15）の接合資料である。同一の打面を用いて，13→14→15の順に幅広不定型の剥片を剥離している。

5　C77-Bブロック（第255～258図，第83・84表）

1）ブロックの概要

C77-Bブロックは，調査範囲南側のC77-04・05・14・15グリッドに位置する。ブロックの立地は台地中央の平坦面で，南北それぞれの傾斜変換点までの距離は200mである。

ブロックの規模と形状は，長軸４m，短軸３mほどの楕円形の範囲に24点の石器が満遍なく分布している。出土層位はⅦ・Ⅸa層を中心としており，40cm程の高低差をもって水平に包含されている（第255・256図）。

ブロックは，ナイフ形石器１点，石刃１点，敲石１点，剥片19点（17個体），砕片１点，石核１点の合計24点（22個体）で構成される。石材は，安山岩１点，頁岩５点，ホルンフェルス18点である。

本ブロックとは160m離れたC62-Aブロックと２母岩について接合関係がある。また，北側に隣接するC77-Aブロックとは２母岩について共有関係をもつが，南側に隣接するC77-Cブロックとは，母岩の共有関係は不明である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは４母岩を識別した。内訳は，安山岩１母岩（C62-①），頁岩１母岩（C77-⑤・⑥），ホルンフェルス１母岩（C77-④）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（24/24点）である。

・C62-①：黒灰色で白い夾雑物を含む安山岩である。本ブロックでは剥片１点の単独資料（2.9g）であるが，同一母岩はC62-Aブロックに23点あり，このうちの４点が本ブロックの資料と接合する。なお，本ブロックの南側に隣接するC77-Cブロックには，C62-①母岩に類似した石材がまとまっており，本ブロックの資料はC62-Aブロックではなく，C77-Cブロックに由来するかも知れない。

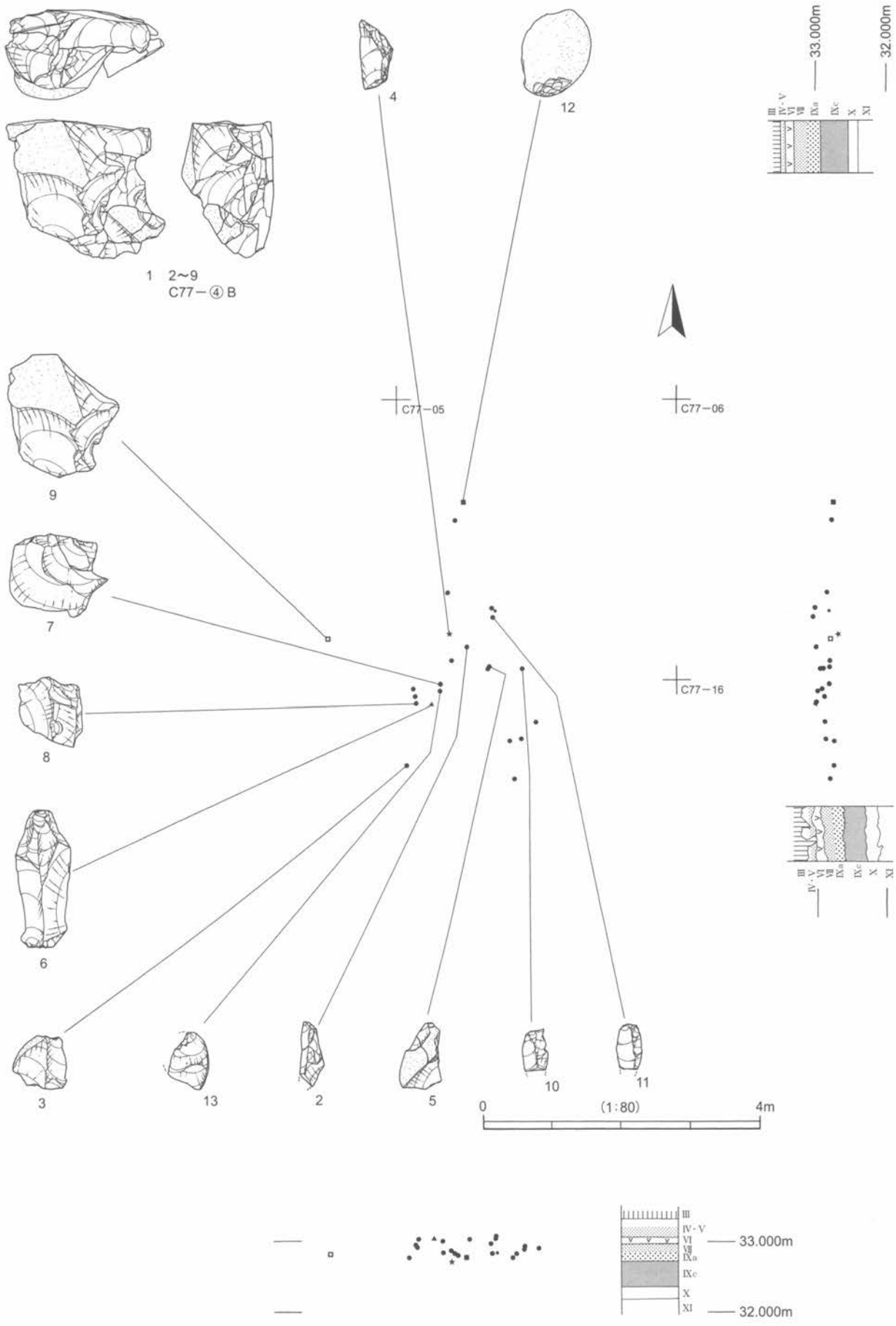
・C77-④：淡黒灰色で灰白色の縞が入るホルンフェルスである。自然面は凹凸がなく滑らかな曲面である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，石刃１点，剥片14点（12個体），砕片１点，石核１点の合計18点（16個体；162.2g）である。このうち，ナイフ形石器１点，石刃１点，剥片７点（５個体），石核１点（合計158.0g）が接合する。また，C62-Aブロックの剥片１点が，この接合資料に加わる。このほか，同一母岩がC77-Aブロックに５点ある。

・C77-⑤：暗褐色で硬質緻密な東北産頁岩である。石器の内訳は，剥片４点（合計1.6g）である。このほかに，同一母岩がC77-Aブロックに２点ある。

・C77-⑥：自然面は灰白色，節理面は褐色の頁岩である。敲石１点（16.8g）の単独資料である。

3）出土遺物（第258図）

12は，頁岩の敲石の破片である。実測図下端に敲打痕が見られる。節理面に沿って破損している。13は，安山岩による小型不定型の剥片である。C62-Aブロックの石核と接合する。



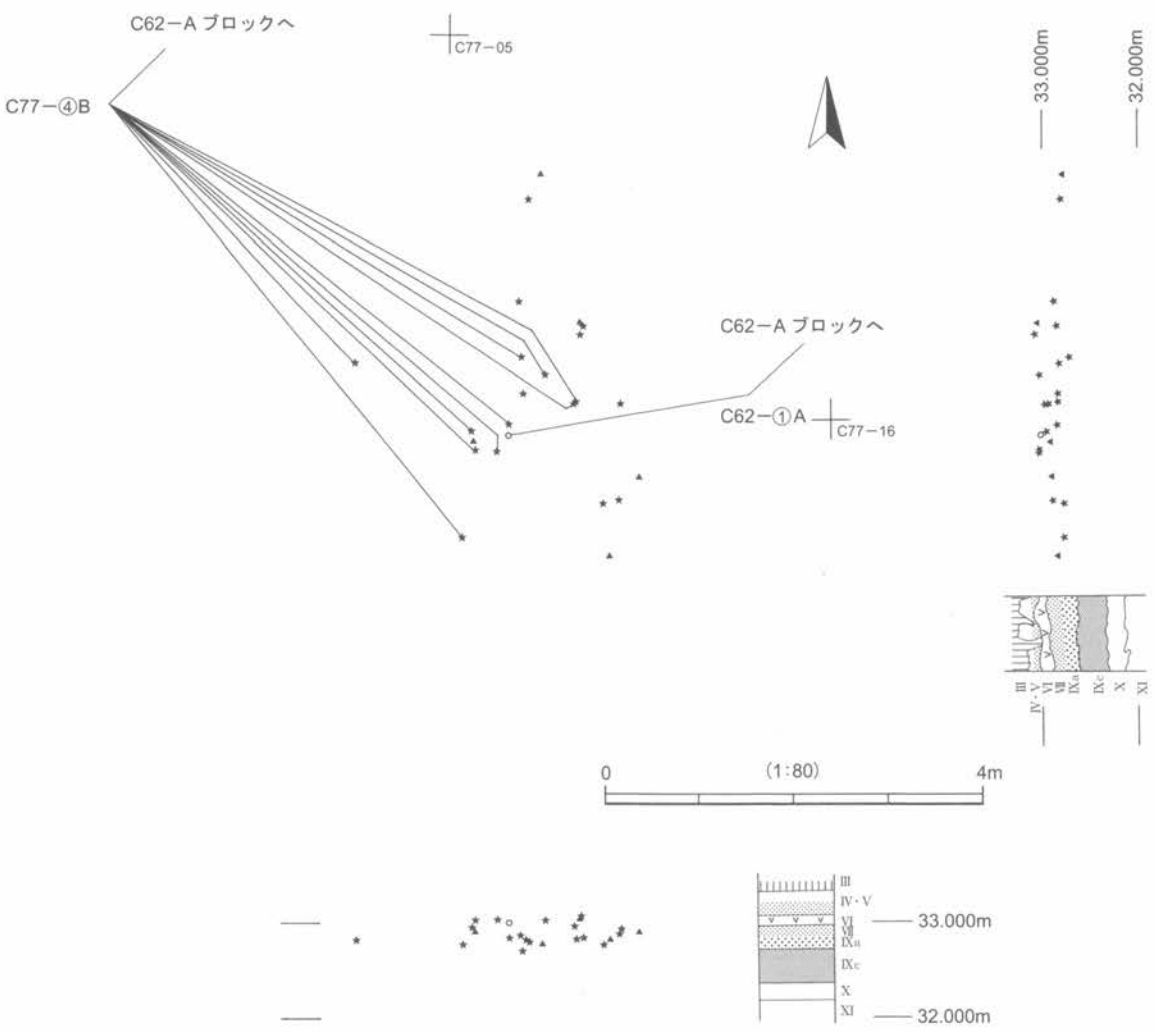
第255図　C77-Bブロック出土遺物分布図　（1）　－石器別分布図－

4）接合資料とその関連資料（第257・258図）

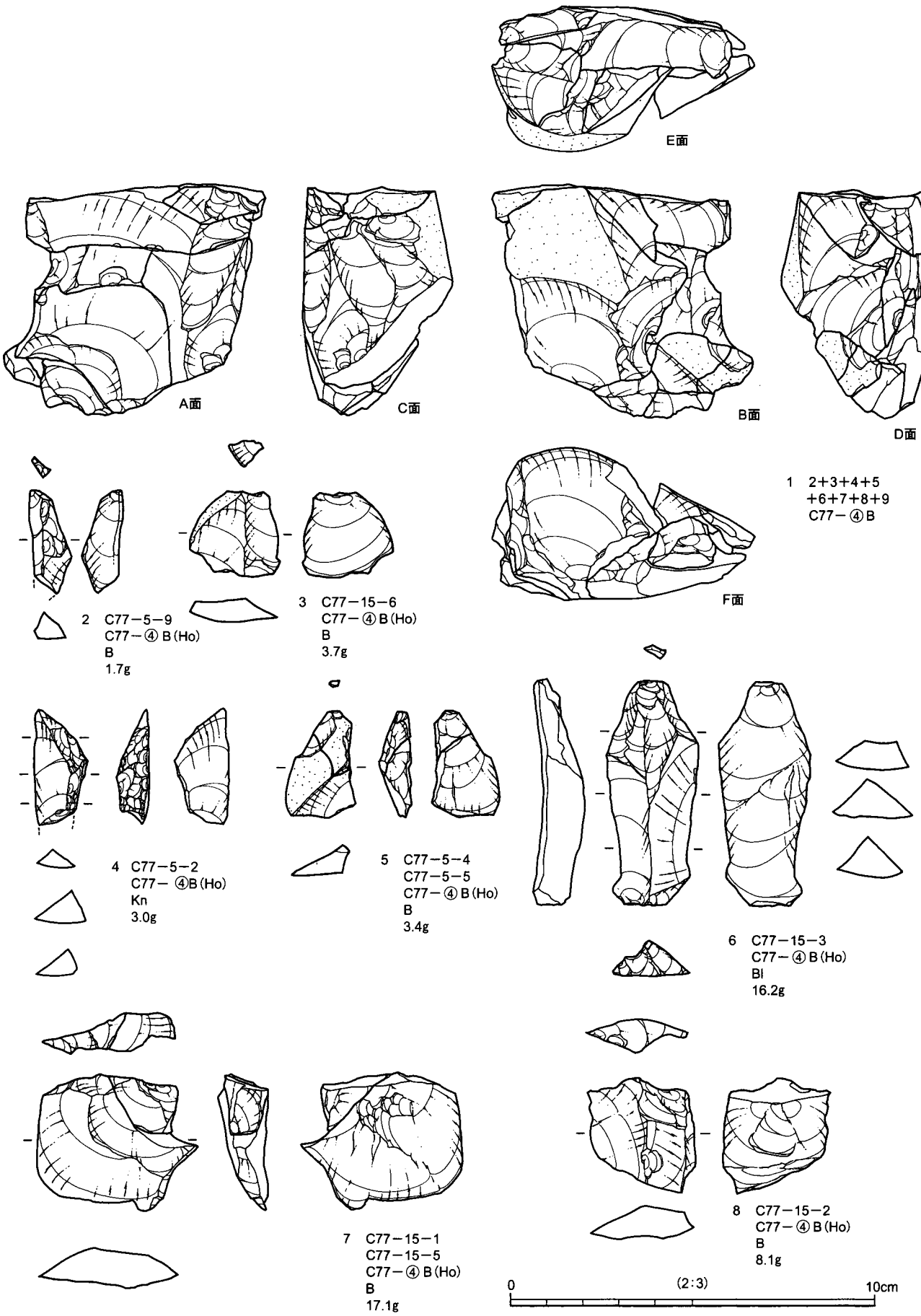
・C77-④（第257図１～８，第258図９～11）　淡黒灰色の地に灰白色の縞が入るホルンフェルスで，ナイフ形石器１点，石刃１点，剥片14点（12個体），砕片１点，石核１点で構成される。

１は，ナイフ形石器１点（４），石刃１点（６），剥片７点（５個体；２・３・５・７・８），石核１点（９）の接合資料である。接合資料から見た剥片剥離作業の手順は以下のとおりである。

①：遺跡外における作業であるが，円礫を分割し，石核の素材を得る。次に，自然面の除去から剥片剥離作業初期に至る段階の石核を本遺跡に搬入する。本遺跡に持ち込まれた石核は，拳大程度の大きさと考えられる。分割面はＡ面に広く残る剥離面（ポジティブな面）である。また，Ｅ面の一部，あるいはＦ面の広い剥離面（ネガティブな面）も比較的古い段階に形成されたようで，原石の分割に関連した可能性がある。②：Ｆ面を打面，Ｃ面を作業面として剥片を剥離する。③：Ｅ面を打面，Ｃ面を作業面として縦長剥片数枚を剥離する。④：打面と作業面を入れ替え，Ｃ面を打面，Ｅ面を作業面として縦長剥片を剥離する。⑤：Ｄ面を打面，Ｅ面を作業面として縦長剥片数枚を剥離する。図示していないが，この段階で剥離した剥片１点は，C62-Ａブロックに持ち出されている。⑥：再びＣ面を打面，Ｅ面を作業面として，２→



第256図　C77-Ｂブロック出土遺物分布図　（２）　－石材別分布図－



第257図　C77-Bブロック出土遺物実測図（1）

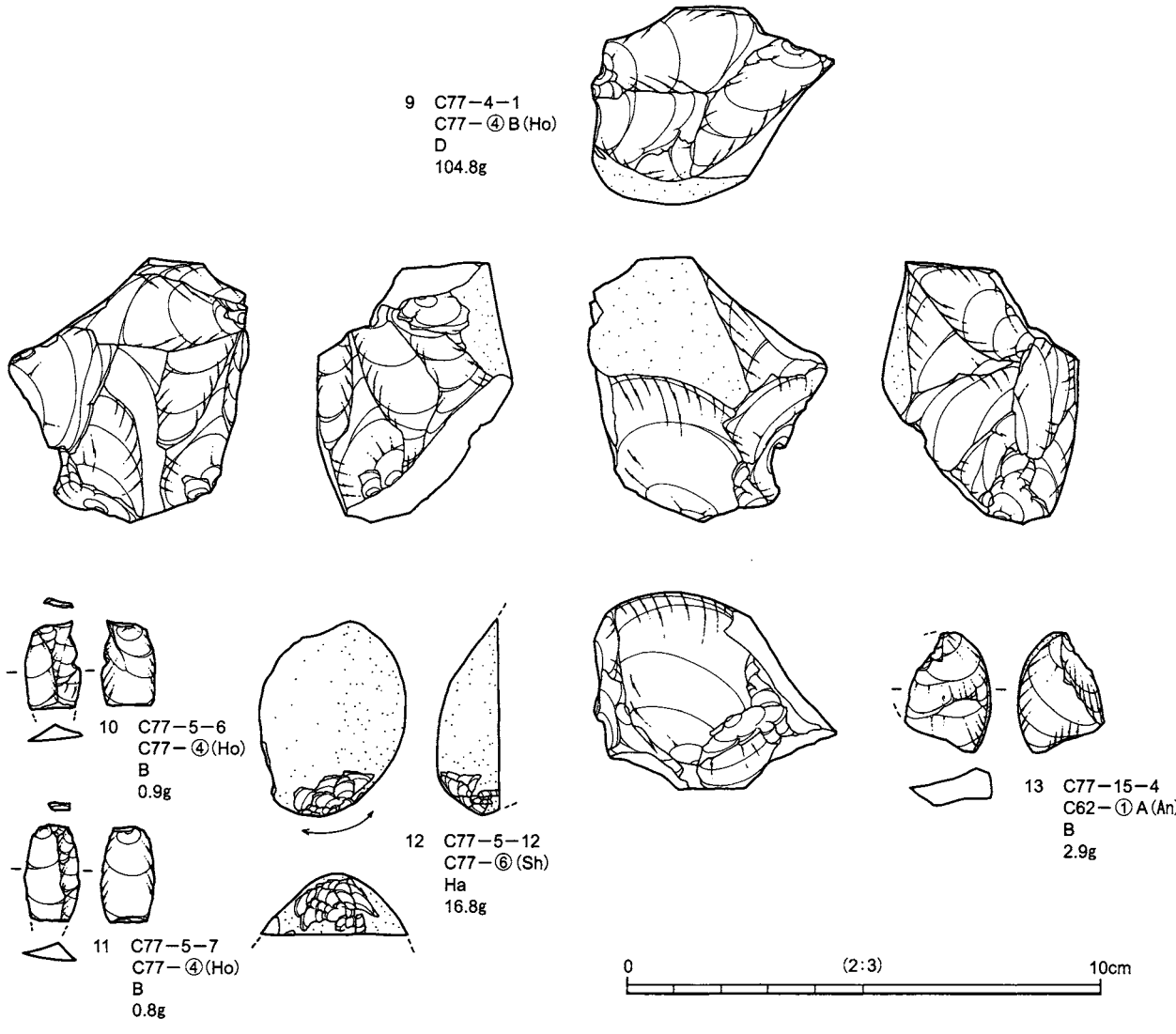
3→6の順に剥片，石刃を剥離する。⑦：E面を打面，D面を打面として，縦長剥片数枚を剥離する。⑧：A面を打面，B面を作業面として，5を含む剥片数枚を剥離する。⑨：F面を打面，A面を作業面として，7を含む剥片数枚を剥離する。⑩：B面を打面，D面を作業面として，8を剥離する。⑪：D面を打面，B面を作業面として4を含む剥片数枚を剥離し，4はナイフ形石器に調整加工される。⑫：最後に石核（9）が残る。

第83表　C77-Bブロック母岩別石器組成表

母岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C62-①(An)																			1			1		1
C77-④(Ho)	1											1							14(12)	1	1	18(16)		18(16)
C77-⑤(Sh)																			4			4		4
C77-⑥(Sh)															1							1		1
合計	1											1			1				19(17)	1	1	24(22)		24(22)

第84表　C77-Bブロック石材別石器組成表

石材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
安山岩(An)																			1			1		1
頁岩(Sh)															1				4			5		5
ホルンフェルス(Ho)	1											1							14(12)	1	1	18(16)		18(16)
合計	1											1			1				19(17)	1	1	24(22)		24(22)



第258図　C77-Bブロック出土遺物実測図（2）

以上のように，分割礫を素材とした石核を用い，石核調整を行わずに打面と作業面を頻繁に入れ替えながら，縦長剥片や不定型の剥片などを剥離している。このほか，接合しないが同一母岩に帰属する小型の縦長剥片２点（10・11）を図示した。

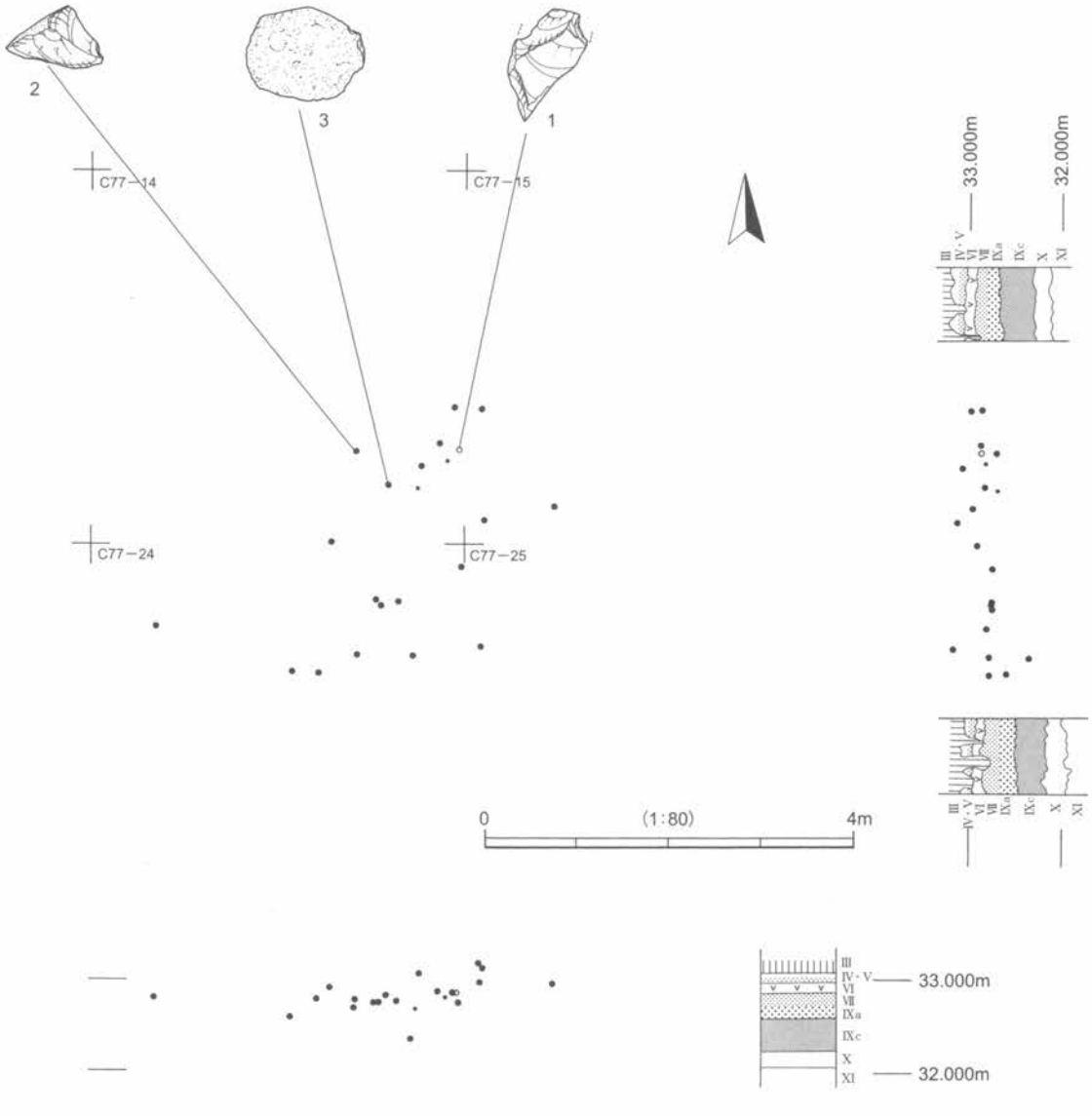
6　C77-Cブロック（第259～261図，第85・86表）

1）ブロックの概要

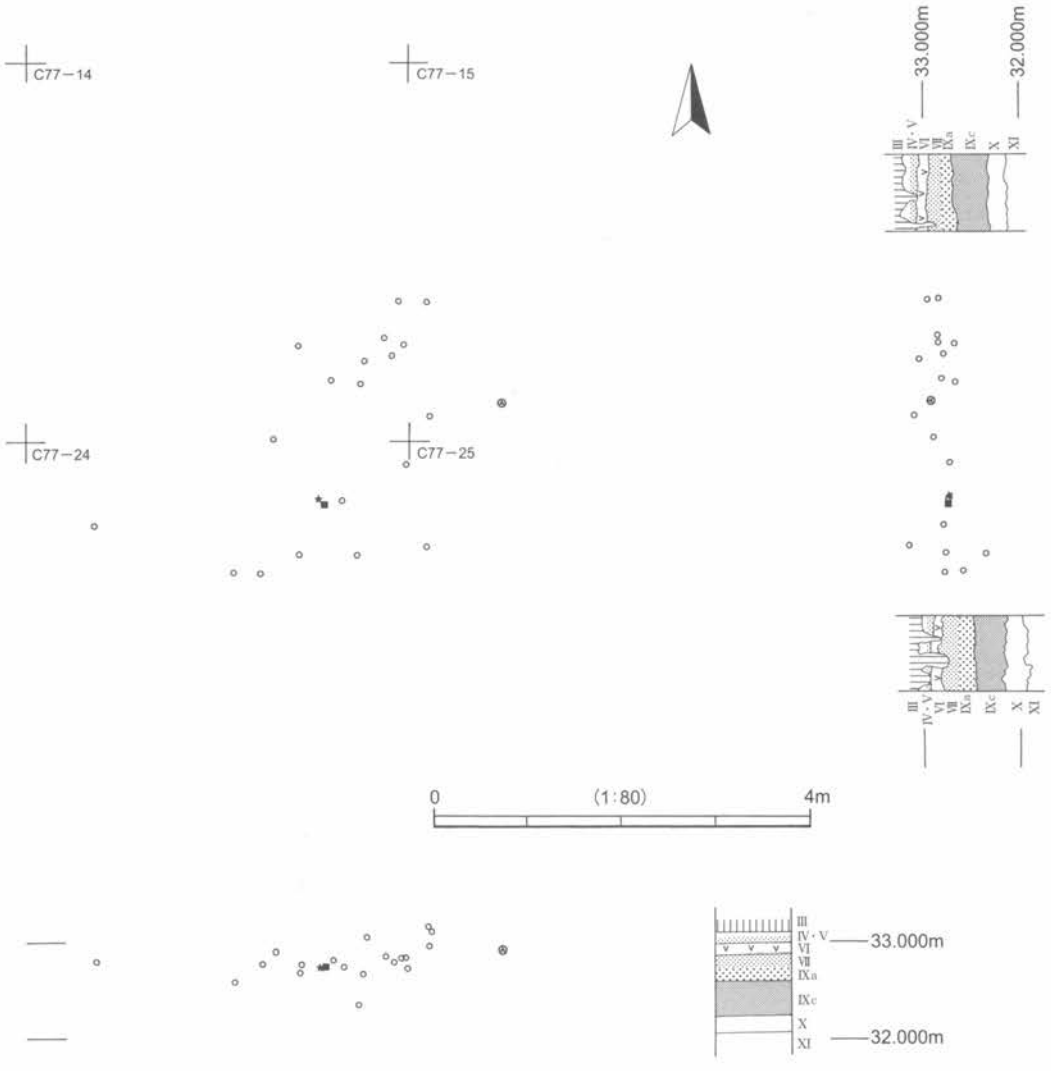
C77-Cブロックは，調査範囲南側のC77-14・15・24・25グリッドに位置する。ブロックの立地は台地中央の平坦面で，南北それぞれの傾斜変換点までの距離は200mである。

ブロックの規模と形状は，長軸５m，短軸４mの範囲に22点の石器が満遍なく分布する。出土層位はⅦ・IXa層を中心に，概ね50cmほどの高低差をもって水平に包含されている（第259・260図）。

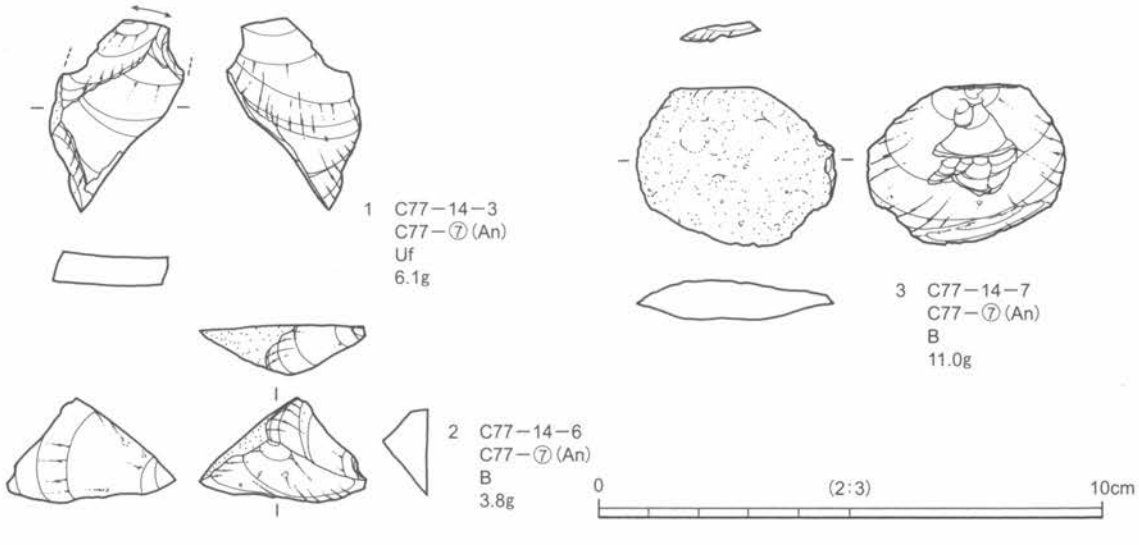
ブロックは，使用痕ある剥片１点，剥片19点，砕片２点の合計22点で構成される。石材は，安山岩19点，砂岩１点，ホルンフェルス１点，メノウ１点である。



第259図　C77-Cブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－



第260図　C77-Cブロック出土遺物分布図　（2）　－石材別分布図－



第261図　C77-Cブロック出土遺物実測図

第85表　C77-Cブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C77-⑦(An)											1								5			6		6
C77-⑧(Ag)																			1			1		1
その他(An)																			11	2		13		13
その他(Sa)																			1			1		1
その他(Ho)																			1			1		1
合　計											1								19	2		22		22

第86表　C77-Cブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
安山岩(An)											1								16	2		19		19
砂岩(Sa)																			1			1		1
ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ(Ho)																			1			1		1
メノウ(Ag)																			1			1		1
合　計											1								19	2		22		22

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは2母岩を識別した。内訳は，安山岩1母岩（C77-⑦），メノウ1母岩（C77-⑧）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は32%（7/22点）である。なお，接合資料はない。

・C77-⑦：灰褐色の安山岩で，使用痕ある剥片1点，剥片5点の合計6点（24.8g）で構成される。

・C77-⑧：橙褐色のメノウである。剥片1点（1.5g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩の剥片11点，砕片2点（合計8.4g），砂岩の剥片1点（0.3g），ホルンフェルス剥片1点（0.5g）がある。

3）出土遺物（第261図）

1は，安山岩の不定型の剥片を利用した使用痕ある剥片である。本剥片を剥離した際に上半部が割れたと考えられるが，その割れ面に刃こぼれが見られる。2・3は1と同一母岩の不定型の剥片である。

第4節　第5文化層

第5文化層は，立川ローム層Ⅵ層を中心に包含されている石器群である。C55-A，C57-Aブロックの2か所が該当する。

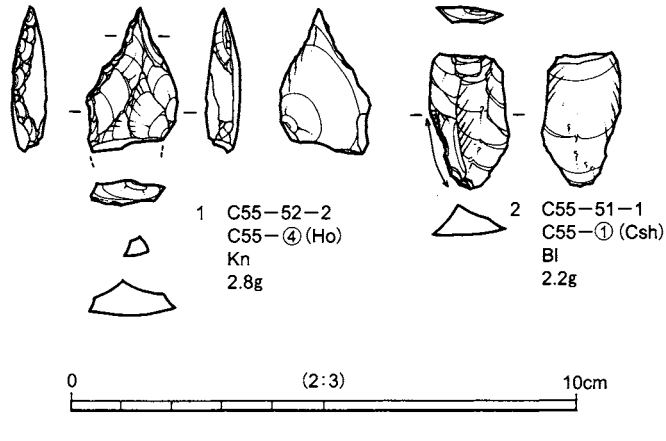
1　C55-Aブロック（第262～264図，第87・88表）

1）ブロックの概要

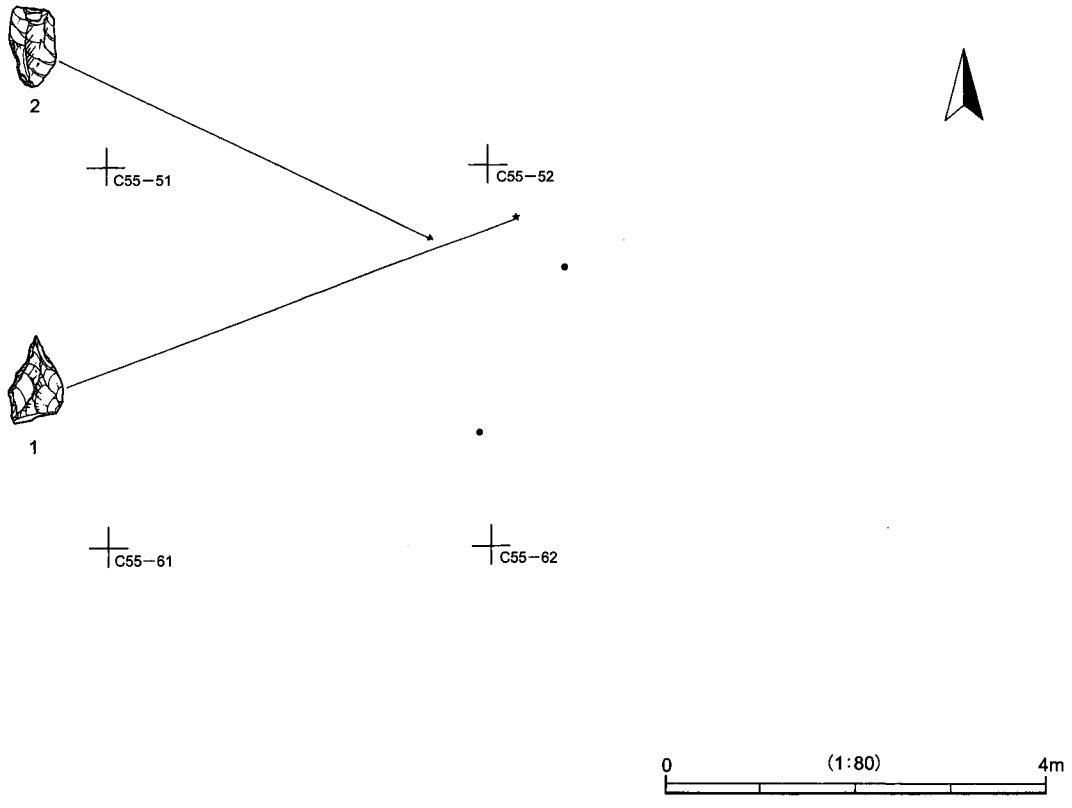
C55-Aブロックは，調査範囲の中央より南側のC55-51・52グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地上ではあるが北へ向かって下る緩斜面で，さらに細かく見ると幅40mほどの浅い谷の中に位置する。また，北に110mほど向かうと，草刈遺跡の北辺を東西に走る茂呂谷津に下りる傾斜変換点に達する。

ブロックの規模と形状は，C55-51・52グリッドの境を中心に直径2.5mの範囲に4点の石器が分布する。出土層位はⅦ層を中心に包含されている（第263・264図）。

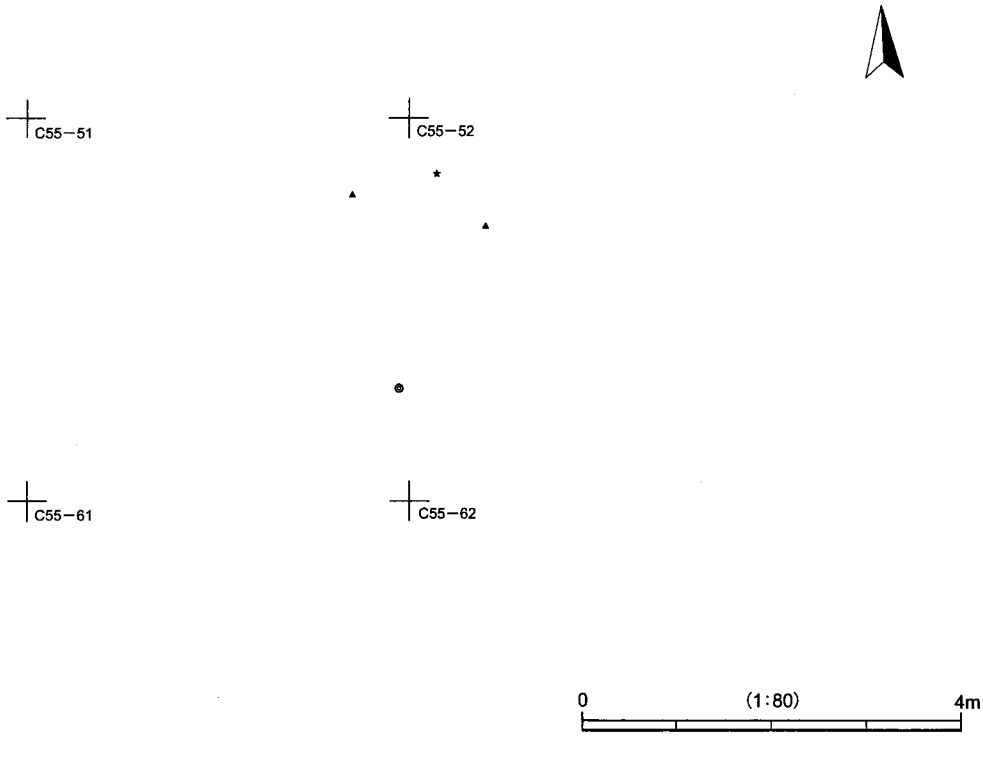
ブロックは，ナイフ形石器1点，石刃1点，剥片2点の合計4点で構成され，石材は，粘板岩1点，珪質頁岩1点，チャート1点，ホルンフェルス1点



第262図　C55-Aブロック出土遺物実測図



第263図　C55-Aブロック出土遺物分布図　（1）　－石器別分布図－



第264図　C55-Aブロック出土遺物分布図　（2）　－石材別分布図－

第87表　C55-Aブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C55-①(Csh)												1										1		1
C55-②(Sl)																			1			1		1
C55-③(Ch)																			1			1		1
C55-④(Ho)	1																					1		1
合　計	1											1							2			4		4

第88表　C55-Aブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
粘板岩(Sl)																			1			1		1
珪質頁岩(Csh)												1										1		1
チャート(Ch)																			1			1		1
ホルンフェルス(Ho)	1																					1		1
合　計	1											1							2			4		4

である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは4母岩を識別した。内訳は，珪質頁岩1母岩（C55-①），チャート1母岩（C55-③），粘板岩1母岩（C55-②），ホルンフェルス1母岩（C55-④）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（4/4点）である。なお，接合資料はない。

・C55-①：灰緑色と橙褐色の部分がある，緻密な珪質頁岩である。小型の石刃1点（2.2g）の単独資料である。

・C55-②：黒灰色の粘板岩である。剥片1点（0.3g）の単独資料である。

・C55-③：節理面は橙褐色，内部は青灰色のチャートである。剥片1点（0.6g）の単独資料である。

・C55-④：淡黒灰色のホルンフェルスである。ナイフ形石器1点（2.8g）の単独資料である。

3）出土遺物（第262図）

1は，ホルンフェルスの横長剥片を素材とするナイフ形石器である。素材の打面は残して，末端側に裏面から調整加工を行っている。下半部が欠損するため形態は不明である。切出形に近い形態であろうか。

2は，珪質頁岩による小型の石刃である。左側縁下部に刃こぼれが見られる。

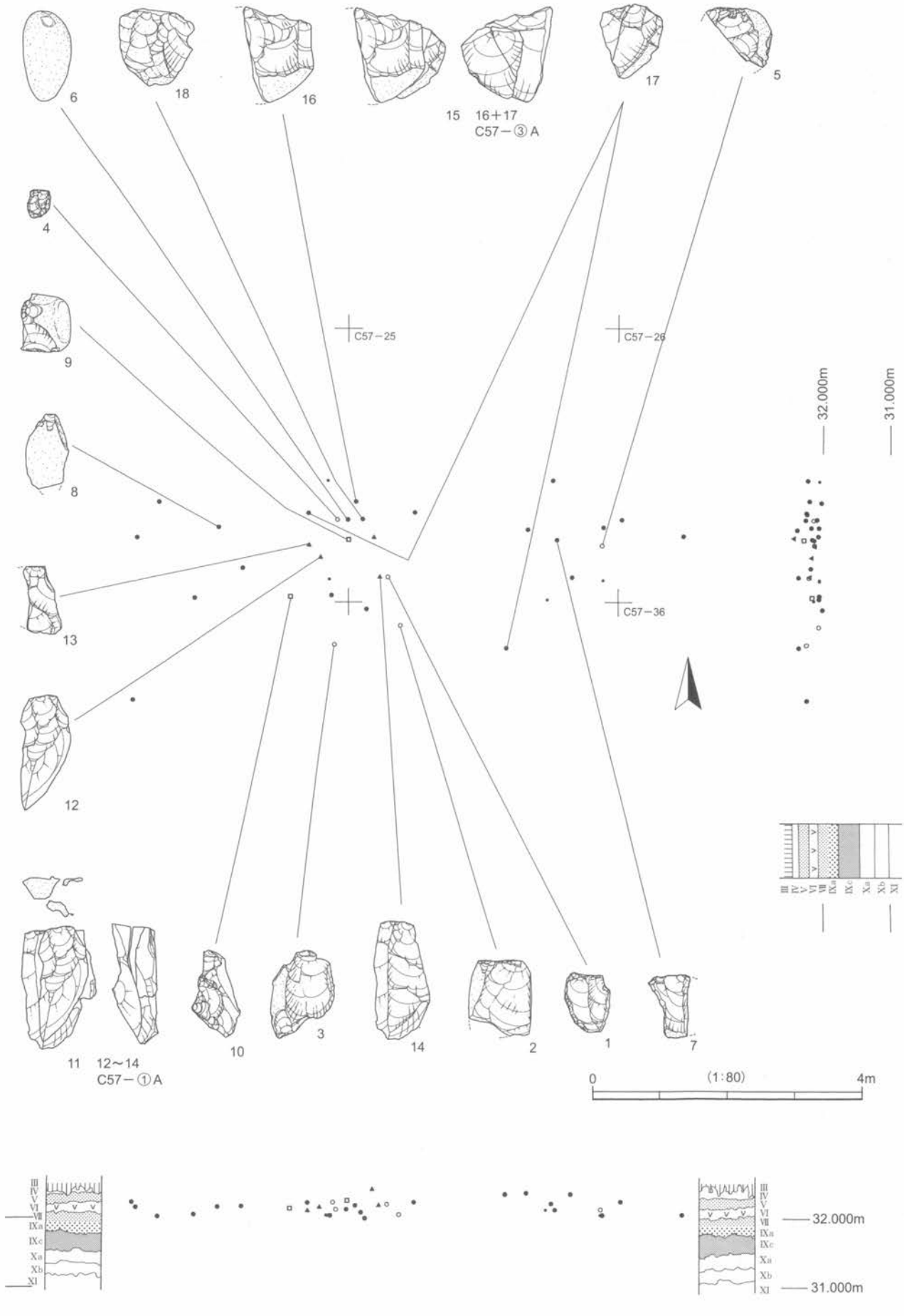
2　C57-Aブロック（第265～268図，第89・90表）

1）ブロックの概要

C57-Aブロックは，調査範囲南側のC57-24～26・34・35グリッドに位置する。ブロックの立地は台地中央部で，南北の台地の縁（傾斜変換点）までの距離は，それぞれ200mである。細かく見ると，北に向かって開く浅い谷の谷頭部分にあたる。

ブロックの規模と形状は，西側に長軸4m，短軸2.5mのまとまり，東側に直径3mのまとまりがあり，それぞれの間には1mほどの空白がある。したがって，本来は2か所のブロックとすべきかも知れない。この2か所のまとまりから36点の石器が出土した。出土層位はVI層を中心としており，40cm程の高低差をもって水平に包含されている（第265・266図）。

ブロックは，削器1点，楔形石器4点，石刃4点，剥片21点（20個体），砕片4点，石核2点の合計36点（35個体）で構成される。石材は，黒曜石4点，頁岩4点，珪質頁岩1点，チャート2点，凝灰岩7点，砂岩16点，ホルンフェルス2点である。



第265図　C57-Aブロック出土遺物分布図　（1）　－石器別分布図－

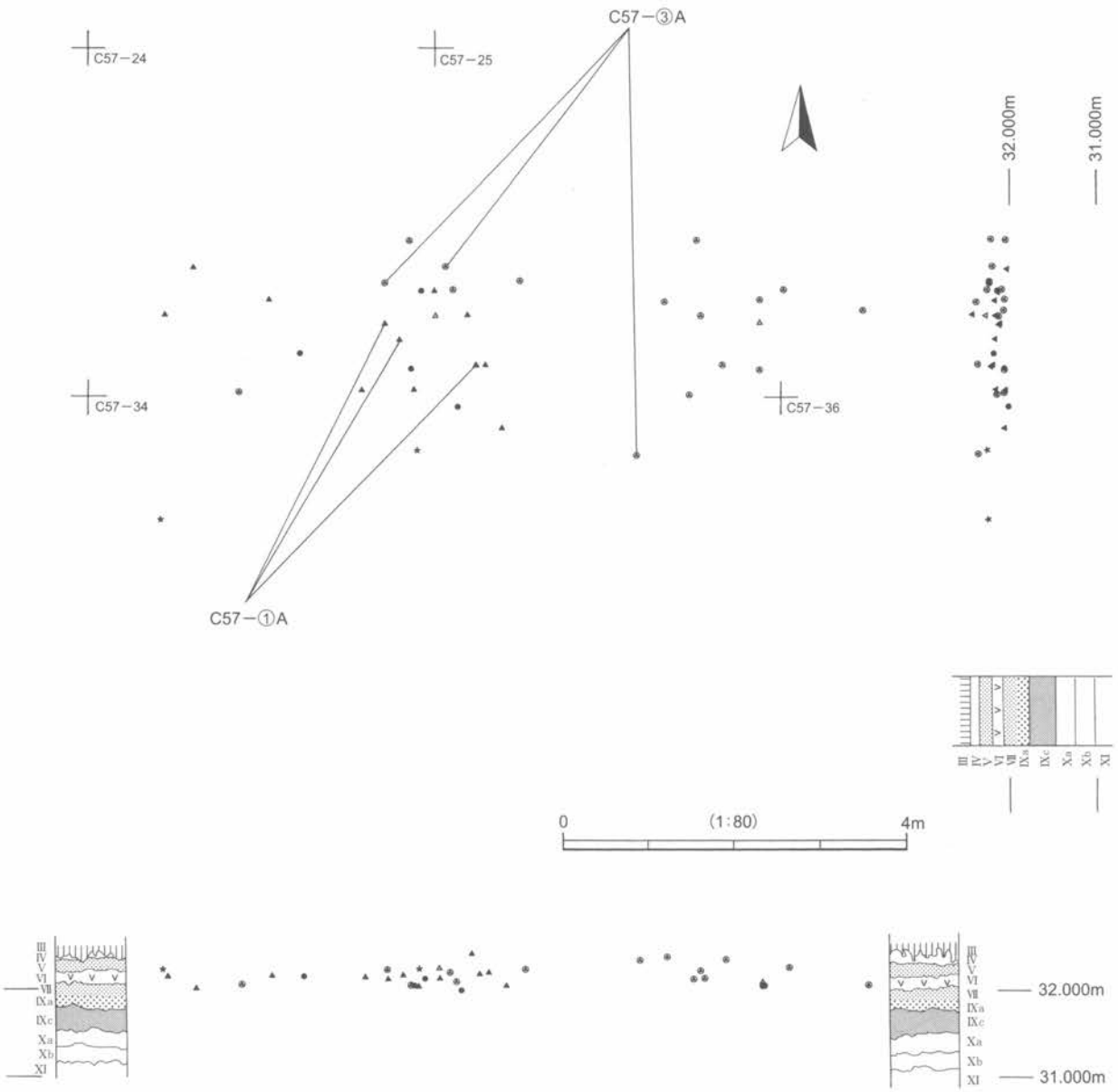
2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは11母岩を識別した。内訳は，頁岩２母岩（C57-②・⑤），珪質頁岩１母岩（C57-⑥），チャート２母岩（C57-⑧・⑨），凝灰岩３母岩（C57-①・⑦・⑪），砂岩２母岩（C57-③・④），ホルンフェルス１母岩（C57-⑩）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は81％（29/36点）である。

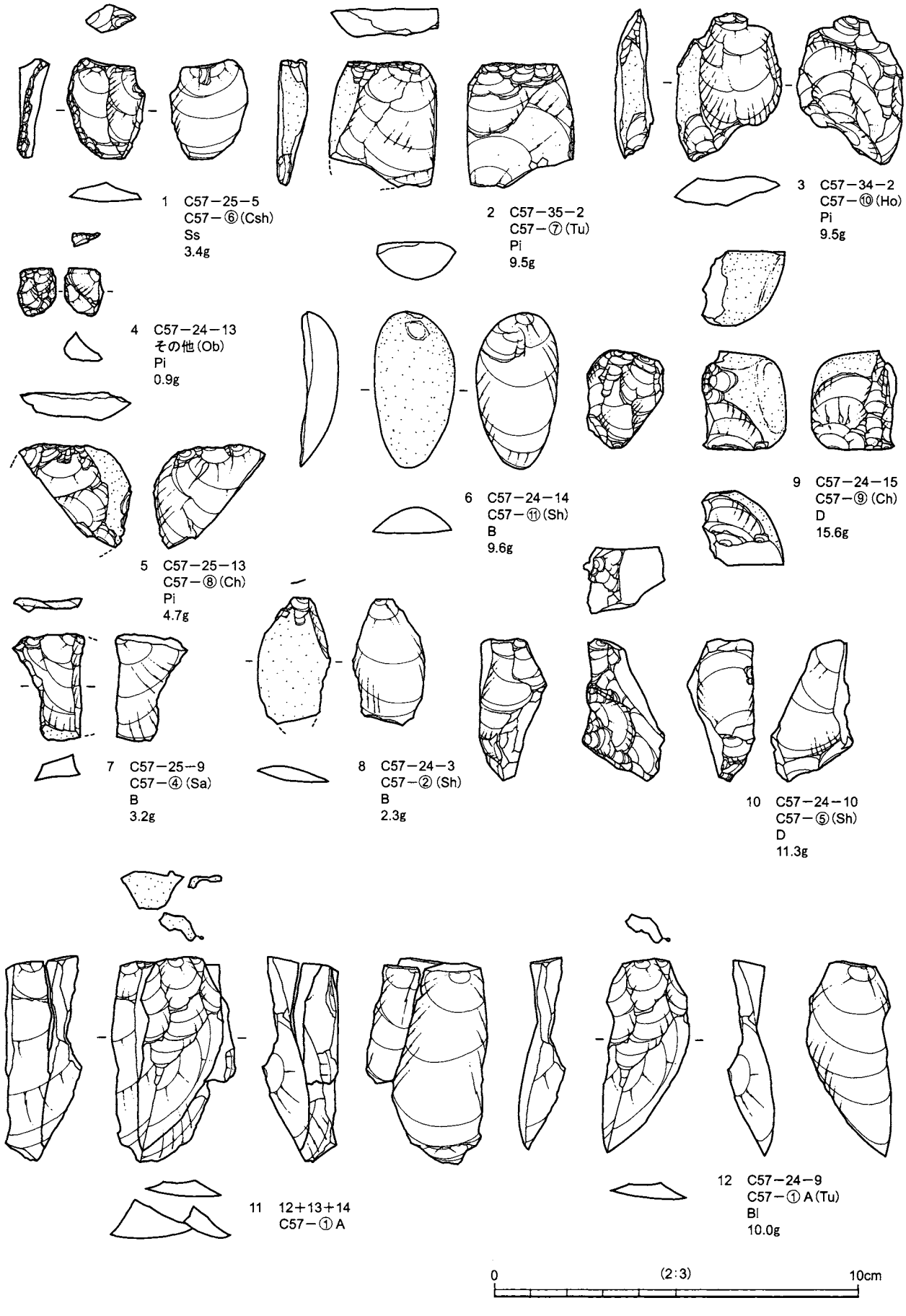
・C57-①：灰緑色できめの粗い凝灰岩である。石器群の内訳は，石刃４点，剥片１点の合計５点（33.8ｇ）である。このうち石刃３点（合計30.7ｇ）が接合する。

・C57-②：自然面は褐色，内部は灰白色の頁岩である。石器群の内訳は，剥片３点（合計3.3ｇ）である。

・C57-③：自然面は淡褐色，内部は緑色を帯びた灰色できめの粗い砂岩である。石器群の内訳は，剥片７点（６個体），砕片１点の合計８点（７個体；43.8ｇ）である。このうち剥片３点（２個体；26.1ｇ）が接合する。



第266図　C57-Ａブロック出土遺物分布図　（２）　－石材別分布図－

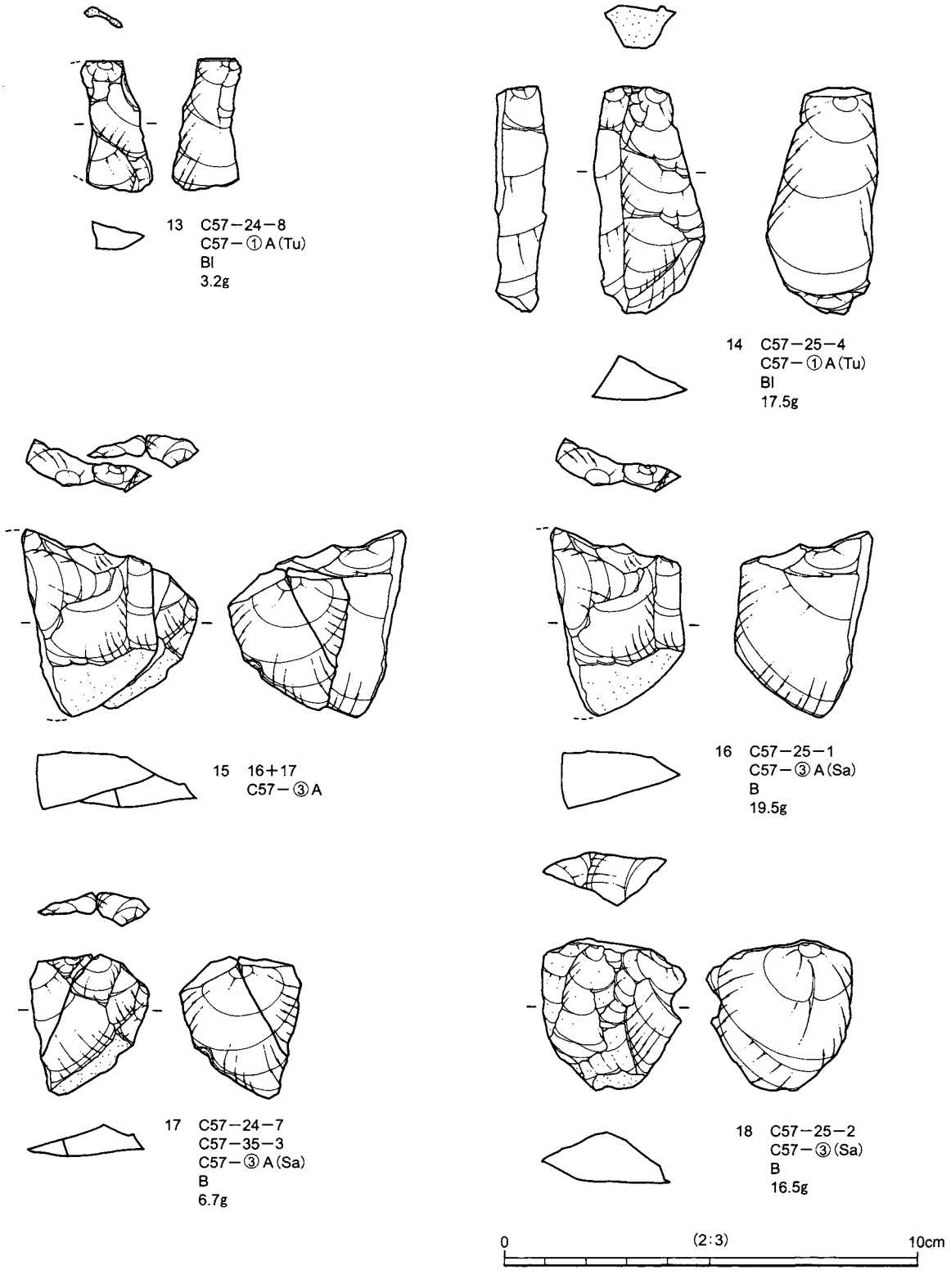


第267図　C57-Aブロック出土遺物実測図（1）

・C57-④：自然面は褐色，内部は青みがかった淡黒灰色の砂岩である。石器群の内訳は，剥片５点，砕片１点の合計６点（9.7ｇ）である。

・C57-⑤：淡褐色で硬質緻密な東北産頁岩である。石核１点（11.3ｇ）の単独資料である。

・C57-⑥：暗褐色で珪化度の高い硬質の珪質頁岩である。削器１点（3.4ｇ）の単独資料である。



第268図　C57-Aブロック出土遺物実測図（２）

・C57-⑦：自然面は暗褐色，内部は淡い灰緑色で，きめの細かい凝灰岩である。楔形石器１点（9.5ｇ）の単独資料である。

・C57-⑧：青みがかった黒灰色のチャートである。節理が多数見られる。また，自然面は滑らかで強く湾曲することから，小型の円礫と推定される。楔形石器１点（4.7ｇ）の単独資料である。

・C57-⑨：青みがかった黒灰色のチャートである。C57-⑧母岩よりもきめ細かく節理が少ない。石核１点（15.6ｇ）の単独資料である。

・C57-⑩：淡黒灰色のホルンフェルスである。楔形石器１点（9.5ｇ）の単独資料である。

・C57-⑪：緑がかった黄灰色の頁岩である。剥片１点（9.6ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石の楔形石器１点，剥片２点，砕片１点（合計1.6ｇ），砂岩の剥片１点，砕片１点（合計2.2ｇ），ホルンフェルスの剥片１点（0.6ｇ）がある。黒曜石は，①：透明の地に黒色の縞の入る良質なものと，②：青みがかった黒色不透明で白色の夾雑物を含むものの２種類がある。いずれも信州産と考えられる。

３）出土遺物（第267図）

１は，珪質頁岩の削器である。不定型の剥片を素材とし，左側縁に細かな調整加工を行っている。２～５は，各種石材による楔形石器である。このなかで，２は両側面に自然面があり，５は強く湾曲した自然面をもつことから，小型の円礫を素材とする石核から剥離されたことがわかる。

７・８は砂岩，頁岩による不定型の剥片である。９はチャートの小円礫を用いた石核で，上下両方向からの剥離面が見られることから，両極打撃によって剥片を剥離した可能性が高い。10は，東北産頁岩による石核である。大型の石刃ないしは剥片を素材としたと考えられるが，小型の剥片を各所から剥離しているため，素材の主要剥離面（ポジティブな面）は見当たらない。

４）接合資料とその関連資料（第267～268図）

・C57-①（第267図11・12，第268図13・14）　灰緑色の凝灰岩で，石刃４点，剥片１点で構成される。

11は，石刃３点（12～14）の接合資料である。同一の打面（平滑な自然面）から12→13→14の順に石刃を剥離している。なお，11の左側面にある大きな剥離面は，12～14と同一打面による剥離面ではあるが，

第89表　C57-Ａブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C57-①(Tu)												4							1			5		5
C57-②(Sh)																			3			3		3
C57-③(Sa)																			7(6)	1		8(7)		8(7)
C57-④(Sa)																			5	1		6		6
C57-⑤(Sh)																					1	1		1
C57-⑥(Csh)						1																1		1
C57-⑦(Tu)									1													1		1
C57-⑧(Ch)									1													1		1
C57-⑨(Ch)																					1	1		1
C57-⑩(Ho)									1													1		1
C57-⑪(Sh)																			1			1		1
その他(Ob)									1										2	1		4		4
その他(Sa)																			1	1		2		2
その他(Ho)																			1			1		1
合　計						1			4			4							21(20)	4	2	36(35)		36(35)

第90表　C57-Ａブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)									1										2	1		4		4
頁岩(Sh)																			4		1	5		5
珪質頁岩(Csh)						1																1		1
チャート(Ch)									1												1	2		2
凝灰岩(Tu)									1			4							1			6		6
砂岩(Sa)																			13(12)	3		16(15)		16(15)
ホルンフェルス(Ho)									1										1			2		2
合　計						1			4			4							21(20)	4	2	36(35)		36(35)

剥離面のようすから大型の剥離面の一部と考えられること，右側面にある横方向の剥離面に切られていることから，石刃生産による剥離面ではないと考えられる。また，右側面の剥離面はポジティブな剥離面の可能性が高い。したがって，両側面の剥離面は，母岩の分割に関連した剥離面と考えられる。

・C57-③（第268図15～18）　緑色を帯びた灰色の砂岩で，剥片７点（６個体），砕片１点で構成される。15は，剥片３点（２個体；16・17）の接合資料である。16→17の順に不定型の剥片を剥離している。なお，16と17の打面には段差があることから，交互剥離を行っていたと考えられる。

第５節　第６文化層

第６文化層は，立川ローム層第１黒色帯とその周辺（Ⅴ～Ⅳ層下部）を中心に包含されている石器群である。C46-A，C56-A，C72N40-B～D，C76-Aブロックの６か所が該当する。

1　C46-Aブロック（第269～271図，第91・92表）

1）ブロックの概要

C46-Aブロックは，調査範囲南側のC46-70・80・81グリッドに位置する。ブロックの立地は台地中央の平坦面であり，北側の傾斜変換点までの距離は100mである。

ブロックの規模と形状は，長軸４m，短軸２mの範囲に７点の石器が分布する。ブロックの北端に３点，南端に４点と，両端に分かれている。製品は見られず，小型不定型の剥片が主体的で母岩も２母岩に限られていることから，石器製作作業を行ったと考えられる。出土層位はⅣ・Ⅴ層を中心としており，ほぼ水平に包含されている（第269・270図）。

ブロックは剥片７点で構成されており，石材はチャート４点，砂岩３点である。同一文化層のC56-Aブロックが西に隣接しており，本ブロックに分布する７点の石器は，すべてC56-Aブロックに同一母岩がある。

2）母岩の特徴と内容

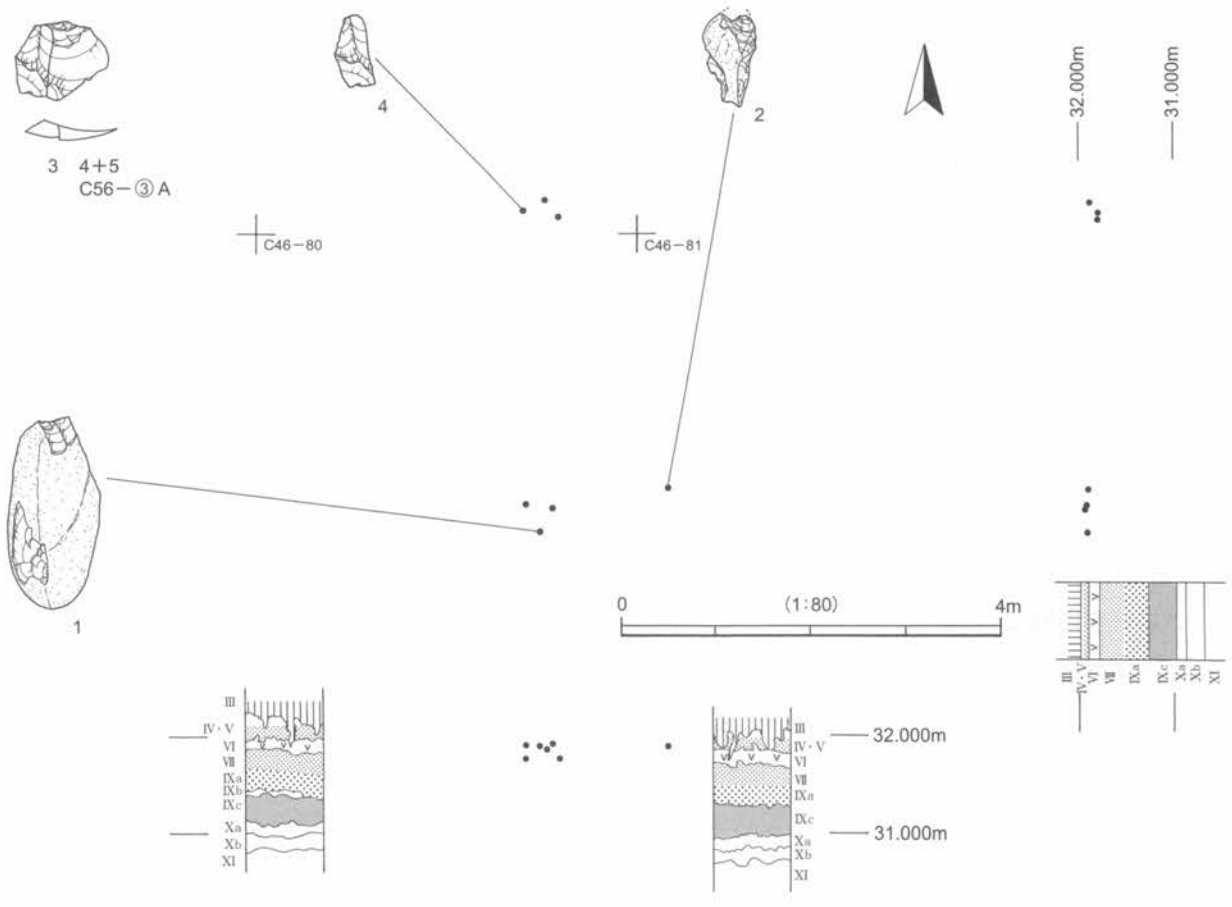
本ブロックでは２母岩を識別した。内訳は，チャート１母岩（C56-①），砂岩１母岩（C56-③）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（7/7点）である。

・C56-①：自然面と節理面は暗い赤紫色，内部が灰緑色の地に白色の線が多方向に入るチャートである。自然面は滑らかな曲面で，原石は拳の半分程度の円礫と考えられる。石器群の内訳は，剥片４点（合計9.7ｇ）である。このほか同一母岩が，C56-Aブロックに８点ある。

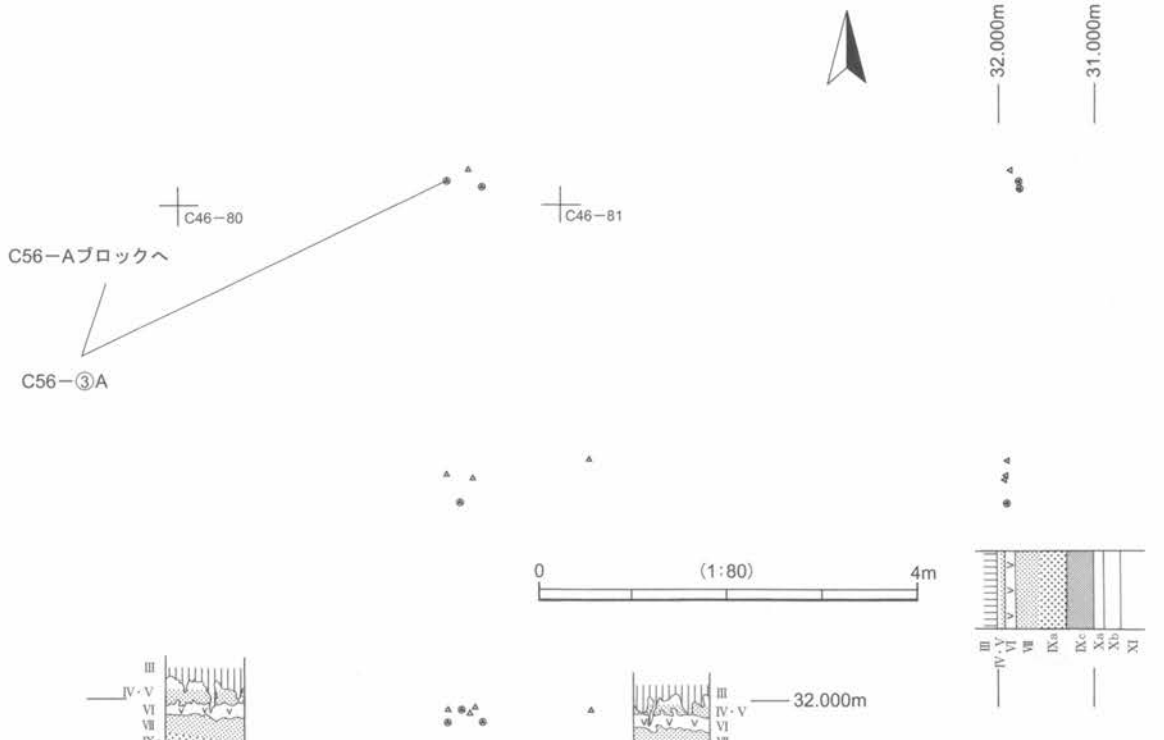
・C56-③：青みがかった淡い黒灰色の砂岩である。きめは粗いが比較的硬質である。自然面の一部は赤褐色であるが，被熱した形跡はない。原石は，厚さが２cm～３cmの円礫と考えられる。石器群の内訳は，剥片３点（合計54.8ｇ）で，この中の剥片１点（1.8ｇ）がC56-Aブロックの剥片１点と接合する。剥片の表面に損傷のあるものがあり，敲石を石核に再利用したのかも知れない。

3）出土遺物（第271図）

１は，砂岩の剥片である。表面は自然面に覆われており，比較的薄手の円礫の一端を剥離したものであることがわかる。表面の中央やや下側に潰れたような損傷があることから，もともと敲石として利用されていたものが破損後に石核となり，本剥片が剥離された可能性がある。２は，チャートによる不定型の剥



第269図　C46-Aブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



第270図　C46-Aブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－

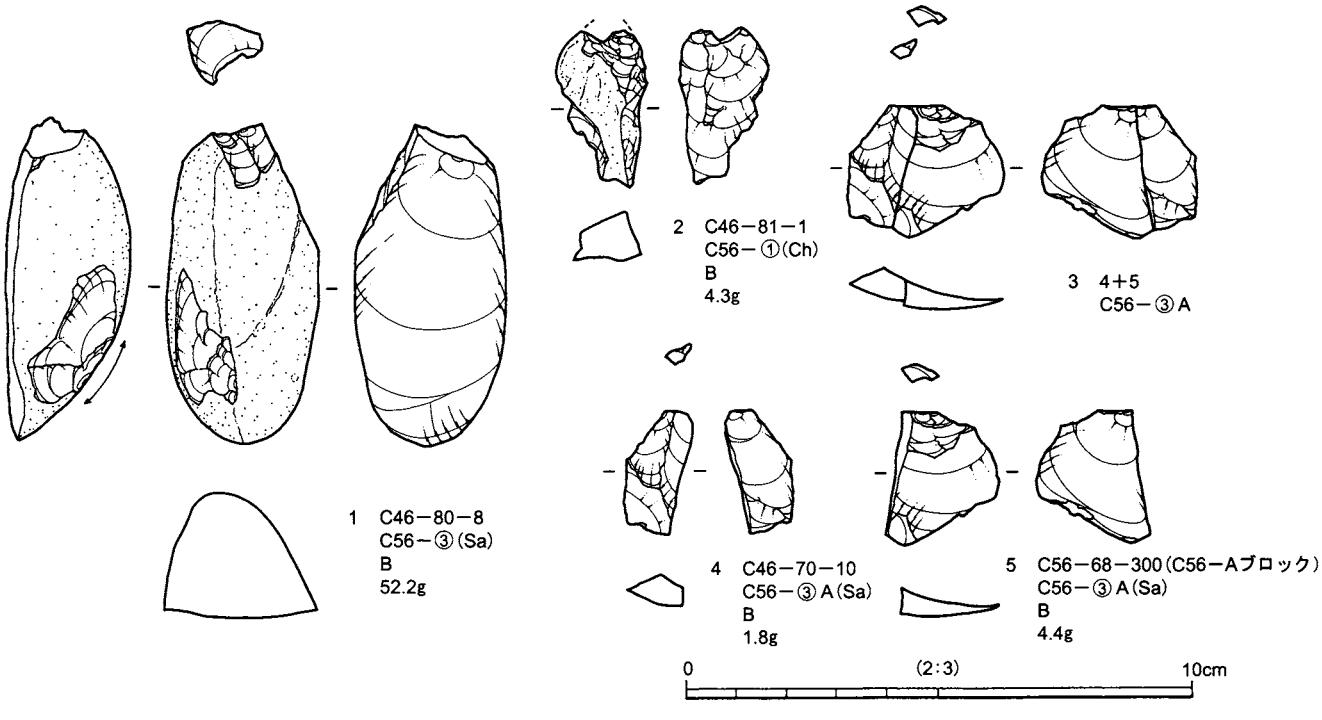
片である。打面が潰れて線状になっていることから，C56-Aブロックにある同一母岩の楔形石器に関連する可能性がある。3は，1と同一母岩の不定型の剥片で剥離時に打点で二つに割れたものである（4・5）。4は本ブロックから，5はC56-Aブロックから出土した。

第91表　C46-Aブロック母岩別石器組成表

母岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C56-①(Ch)																			4			4		4
C56-③(Sa)																			3			3		3
合計																			7			7		7

第92表　C46-Aブロック石材別石器組成表

石材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
チャート(Ch)																			4			4		4
砂岩(Sa)																			3			3		3
合計																			7			7		7



第271図　C46-Aブロック出土遺物実測図

2 C56-Aブロック（第272～278図，第93・94表）

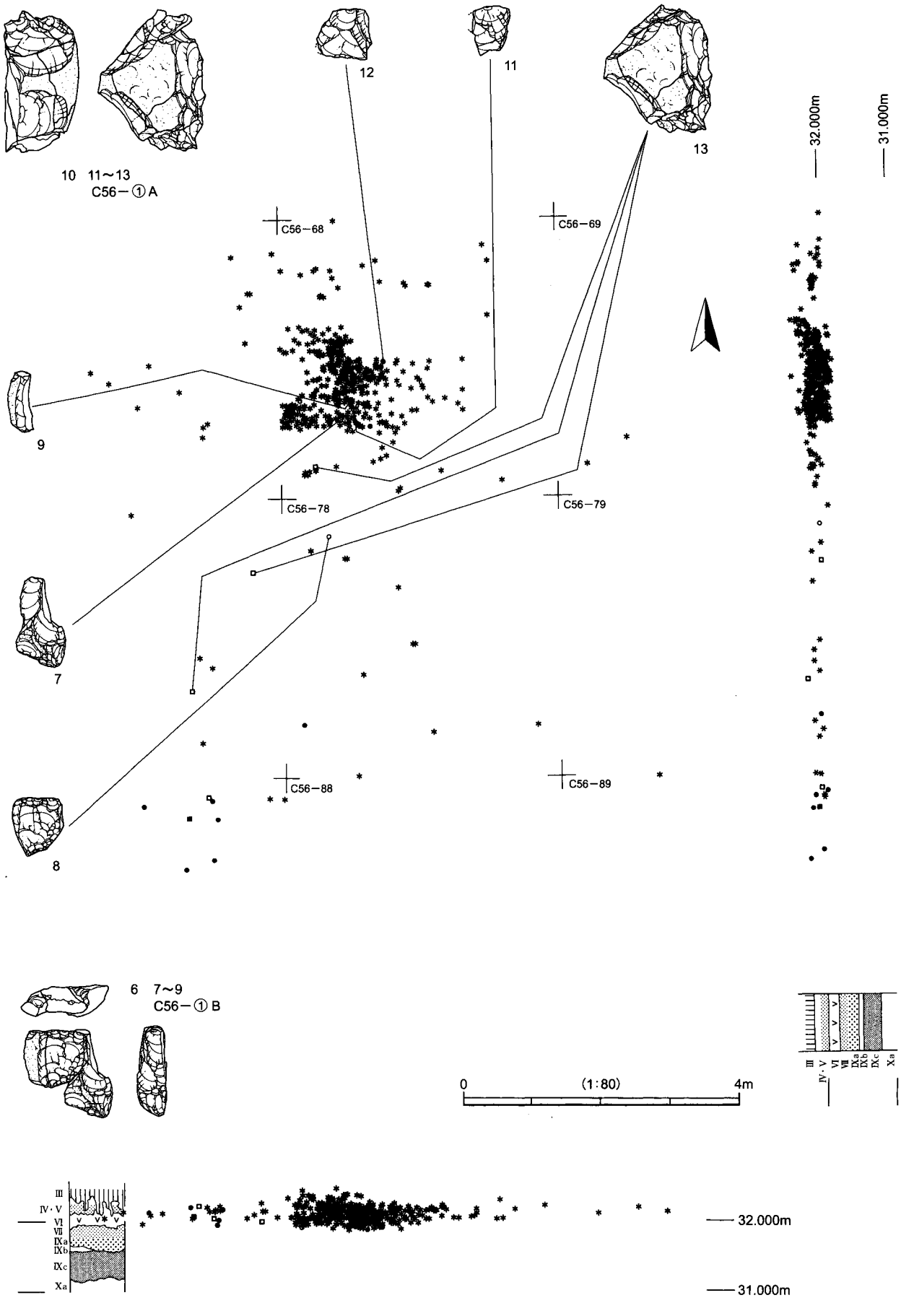
1）ブロックの概要

C56-Aブロックは，調査範囲の南側のC56-67～69・77・78・87～89グリッドに位置する。ブロックの立地は台地中央の平坦面で，北側の傾斜変換点までの距離は100mである。

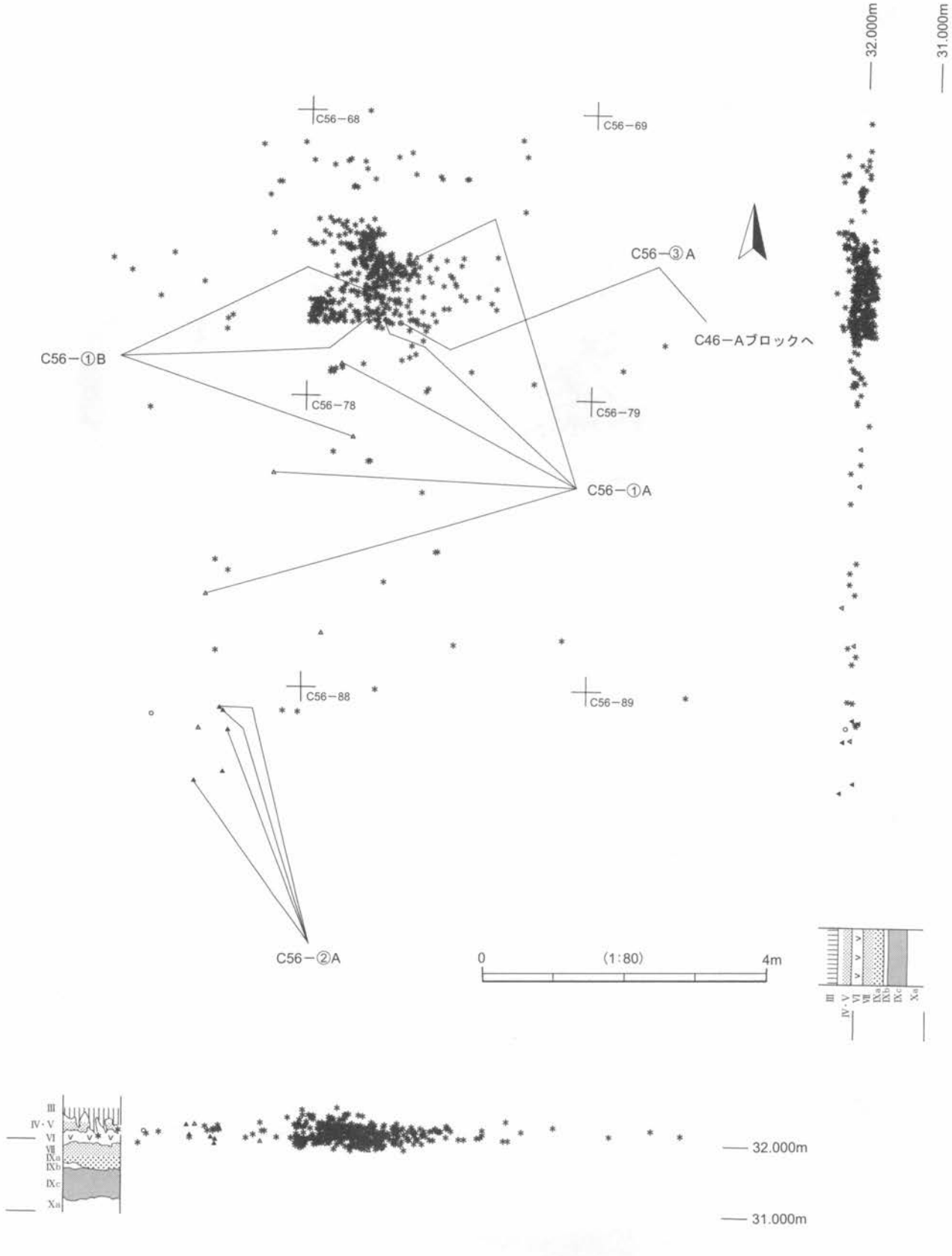
ブロックの規模と形状は，長軸9m，短軸8mの楕円形の範囲に456点の石器・礫が分布する。全体の95%が礫で，C56-68グリッドに集中している。出土層位は，Ⅳ・Ⅴ層を中心としており，40cm程の高低差をもって包含されている（第272～274図）。

ブロックは，掻器1点，楔形石器2点，使用痕ある剥片1点，敲石1点，加工痕ある礫1点，剥片11点，石核4点（2個体），礫435点の合計456点（454個体）で構成される。石器石材は，安山岩2点，チャート

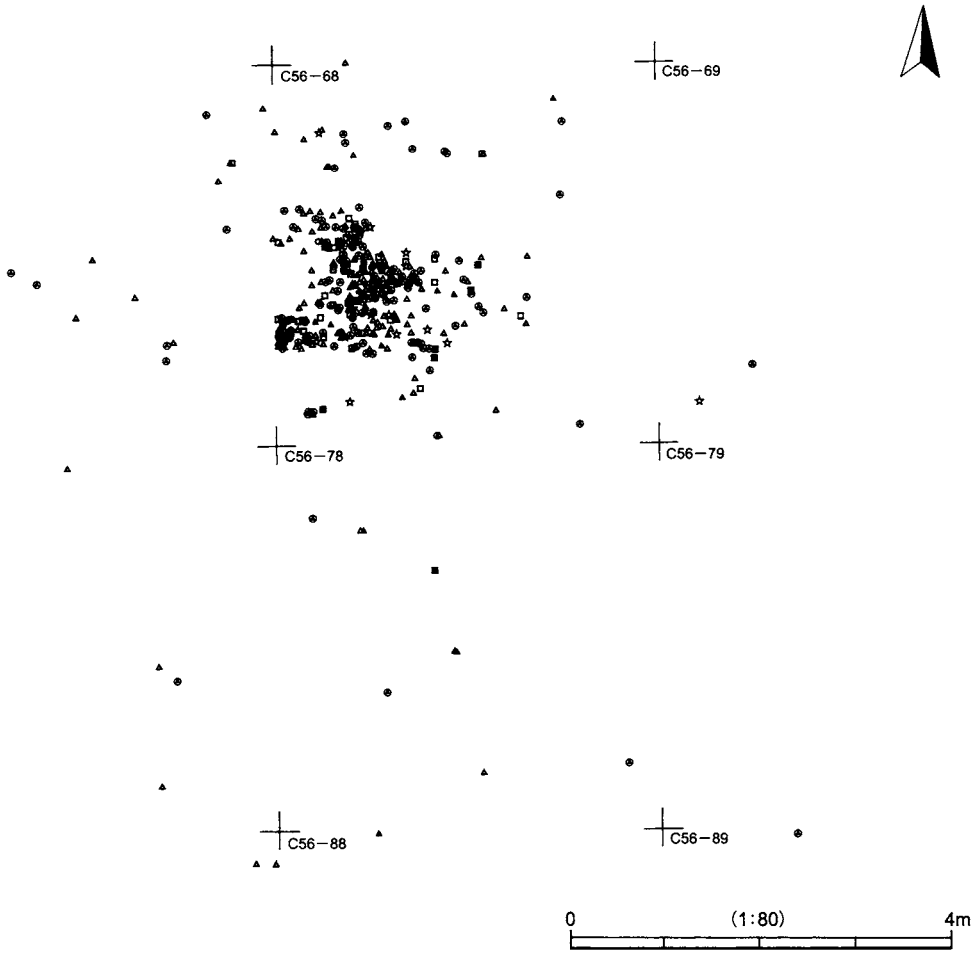
第272図　C56-Aブロック出土遺物分布図　（1）　－石器別分布図（1）－



第273図　C56-Aブロック出土遺物分布図（2）　－石器別分布図（2）－



第274図　C56-Aブロック出土遺物分布図（3）　－石材別分布図（1）－



第275図　C56-Aブロック出土遺物分布図（4）　－石材別分布図（2）－

10点，凝灰岩６点，砂岩２点，ホルンフェルス１点，礫石材は，安山岩２点，流紋岩31点，蛇紋岩２点，頁岩26点，チャート171点，凝灰岩１点，砂岩170点，礫岩１点，ホルンフェルス16点，メノウ12点，不明礫３点である。礫は，長軸２㎝～３㎝の小円礫が多量に含まれており，被熱の痕跡はあるものの，完形礫が多い。上総丘陵周辺の礫層に由来すると考えられる。

具体的な数値を示すと，436点の礫のうち完形，あるいはこれに近いもの（概ね90％以上残っていると考えられるもの）は369点（84.6％）である。これを10ｇごとに集計すると，10.0ｇ以下が230点（62.3％），10.1ｇ～20.0ｇが77点（20.9％），20.1ｇ～30.0ｇが27点（7.3％），30.1ｇ～40.0ｇが15点（4.1％），40.1ｇ～50.0ｇが７点（1.9％），50.1ｇ以上が13点（3.6％）であった。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは８母岩を識別した。内訳は，安山岩１母岩（C56-⑥），チャート２母岩（C56-①・⑦），凝灰岩２母岩（C56-②・⑤），砂岩２母岩（C56-③・⑧），ホルンフェルス１母岩（C56-④）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は90％（19/21点）である。

・C56-①：灰緑色のチャートで，詳細はC46-Aブロックで記したとおりである。石器群の内訳は，削器１点，楔形石器２点，剥片２点，石核３点（１個体）の合計８点（６個体；120.8ｇ）である。

接合資料は２グループある。Ａグループは，剥片２点，石核３点（１個体；96.0ｇ）の合計５点（３個体；101.6ｇ），Ｂグループは，掻器１点，楔形石器２点の合計３点（19.2ｇ）である。このほかに，同一母岩がC46-Ａブロックに４点ある。

・C56-②：自然面は黄褐色，内部は淡い灰緑色の凝灰岩である。自然面は滑らかな曲面である。石器群の内訳は，剥片４点，石核１点の合計５点（68.9ｇ）で，剥片３点，石核１点が接合する（合計68.5ｇ）。ブロックの南側にまとまって分布する。

・C56-③：青みがかった淡い黒灰色の砂岩で，母岩の特徴は，C46-Ａブロックに記した通りである。剥片１点（2.7ｇ）があり，C46-Ａブロックの剥片１点と接合する。このほかに同一母岩が，C46-Ａブロックに２点ある。

・C56-④：自然面は黄褐色で，内部は淡黒灰色のホルンフェルスである。剥片１点（14.8ｇ）の単独資料である。

・C56-⑤：明黄褐色の地に暗灰緑色の縞が入る凝灰岩である。使用痕ある剥片１点（4.0ｇ）の単独資料である。

・C56-⑥：褐色に風化した安山岩である。剥片１点（20.7ｇ）の単独資料である。

・C56-⑦：黒灰色のチャートである。７㎝×６㎝×３㎝の完形の円礫である。敲石１点（173.9ｇ）の単独資料である。

・C56-⑧：黄褐色の砂岩で，長軸３㎝の小円礫である。敲石のように端部が潰れているが，小型のため加工痕ある礫とした。重量は17.9ｇである。

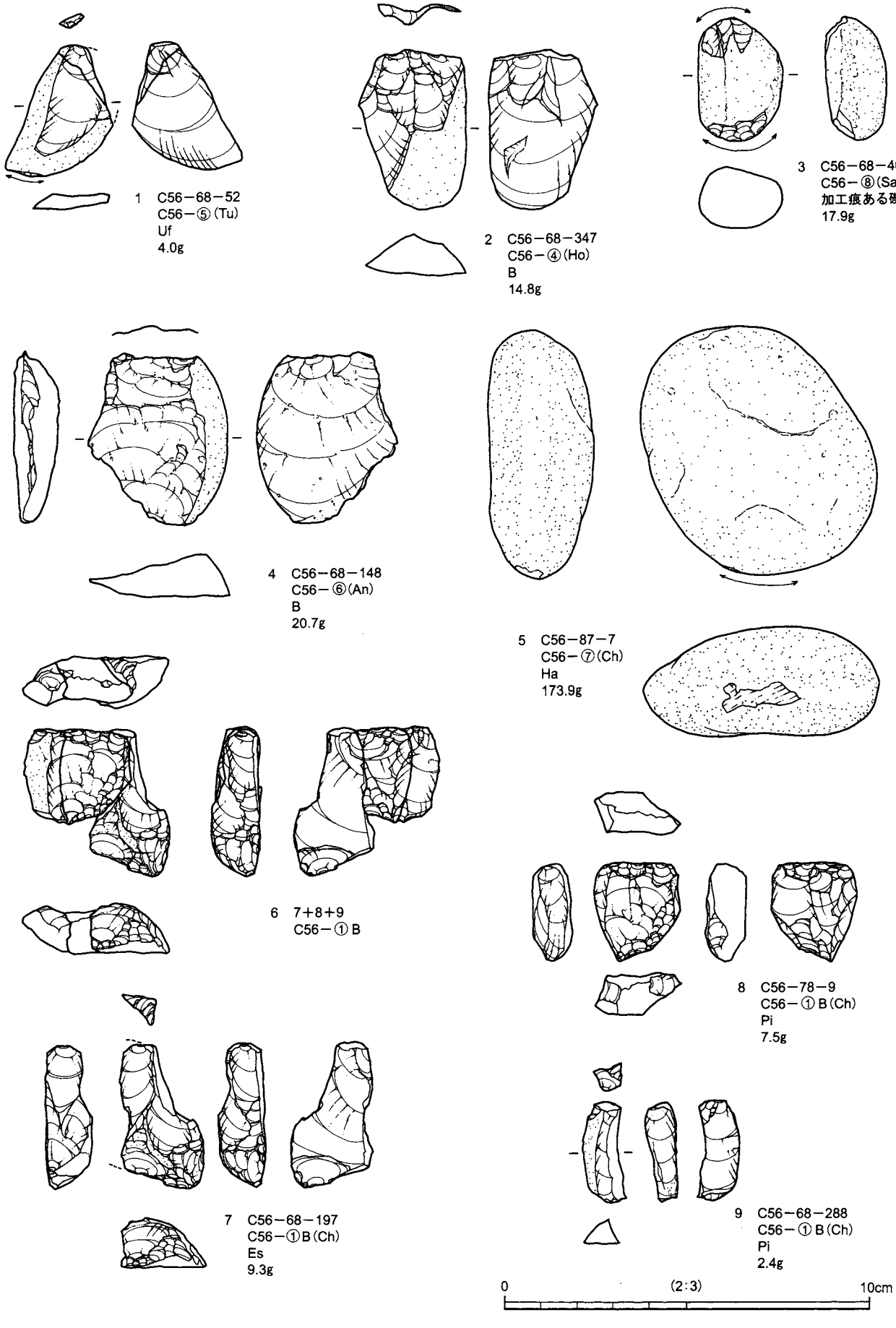
なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩の剥片１点（0.1ｇ），チャートの剥片１点（0.3ｇ）がある。

第93表　C56-Ａブロック母岩別石器組成表

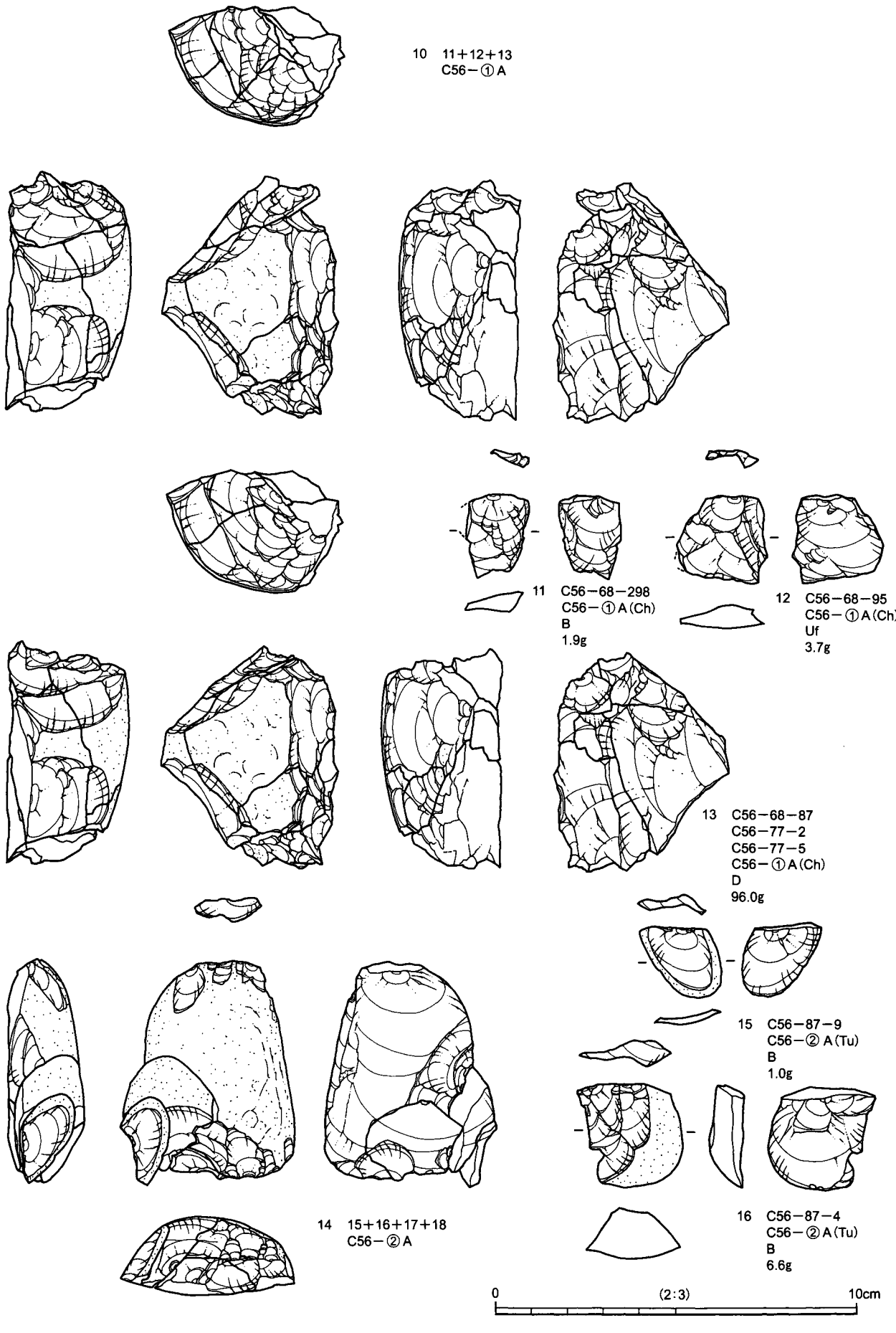
母岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C56-①(Ch)					1				2										2		3(1)	8(6)		8(6)
C56-②(Tu)																			4		1	5		5
C56-③(Sa)																			1			1		1
C56-④(Ho)																			1			1		1
C56-⑤(Tu)											1											1		1
C56-⑥(An)																			1			1		1
C56-⑦(Ch)															1							1		1
C56-⑧(Sa)																		1				1		1
その他(An)																			1			1		1
その他(Ch)																			1			1		1
その他(An)																							2	2
その他(Rh)																							31	31
その他(Se)																							2	2
その他(Sh)																							26	26
その他(Ch)																							171	171
その他(Tu)																							1	1
その他(Sa)																							170	170
その他(Pe)																							1	1
その他(Ho)																							16	16
その他(Ag)																							12	12
その他(不明)																							3	3
合計					1				2		1				1			1	11		4(2)	21(19)	435	456(454)

第94表　C56-Ａブロック石材別石器組成表

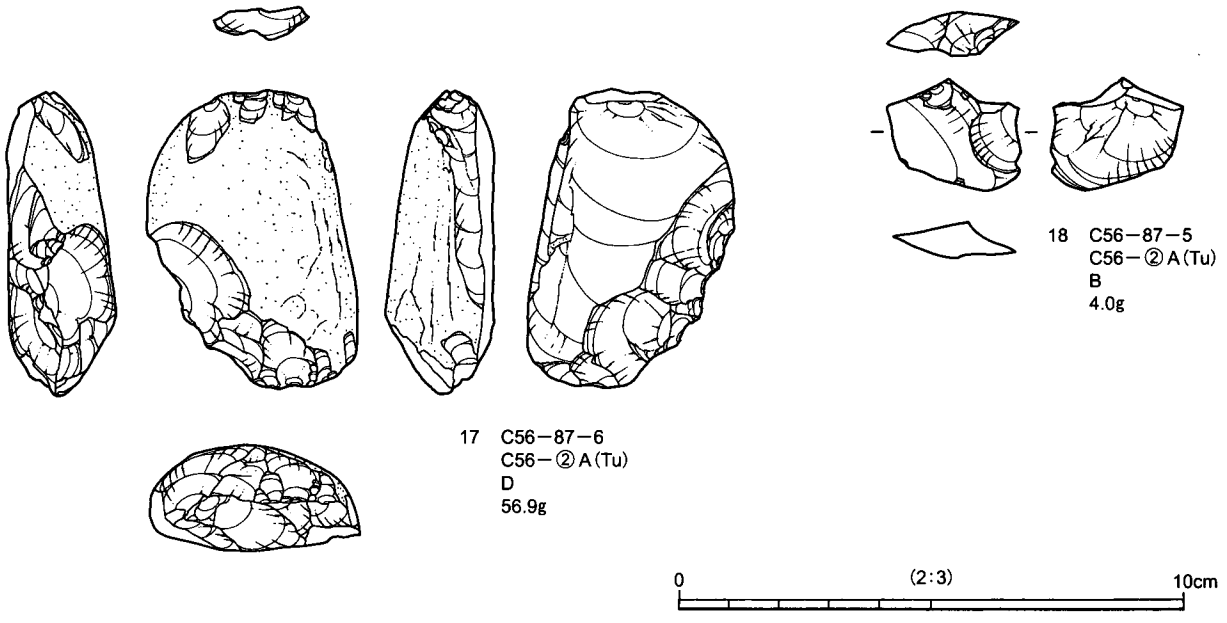
石材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
安山岩(An)																			2			2	2	4
流紋岩(Rh)																							31	31
蛇紋岩(Se)																							2	2
頁岩(Sh)																							26	26
チャート(Ch)					1				2						1				3		3(1)	10(8)	171	181(179)
凝灰岩(Tu)											1								4		1	6	1	7
砂岩(Sa)																		1	1			2	170	172
礫岩(Pe)																							1	1
ホルンフェルス(Ho)																			1			1	16	17
メノウ(Ag)																							12	12
不明																							3	3
合計					1				2		1				1			1	11		4(2)	21(19)	435	456(454)



第276図　C56-Aブロック出土遺物実測図（1）



第277図　C56-Aブロック出土遺物実測図（2）



第278図　C56-Aブロック出土遺物実測図（3）

3）出土遺物（第276図）

1は，凝灰岩の使用痕ある剥片である。表面の多くは自然面で，薄手の不定型な剥片を利用している。2・4はホルンフェルス，安山岩の不定型な剥片である。いずれも単独資料で，製作痕跡をもたない。

3は，砂岩の加工痕ある礫としたものである。上下両端が衝撃により潰れている。5は，チャートの敲石で，薄手の円礫の端部に使用痕がある。

4）接合資料とその関連資料（第276～278図）

・C56-①（第276図6～9，第277図10～13）　灰緑色のチャートで，掻器1点，楔形石器2点，剥片2点，石核3点（1個体）で構成される。接合資料は2組ある。

6は，掻器1点（7），楔形石器2点（8・9）の接合資料である。表面に広く自然面がある中型厚手の剥片を素材とし，当初は掻器の製作を行っていたが，途中で縦に割れ，右側はそのまま放置され，左側は楔形石器に作り変えられたと考えられる。7は，左側縁の下部から末端部にかけて，裏面からの急な角度による調整加工がある。楔形石器の端部のように潰れてはいない。右側面は縦方向の折れ面である。8・9は楔形石器である。9は，8の製作（あるいは使用）過程で剥離された削片と見るべきかも知れない。

10は，剥片2点（11・12），石核3点（13；接合して1個体）の接合資料である。円礫を分割して石核の素材とし，分割面から周囲に向けて不定型の剥片を剥離している（分割面は，実測図10の裏面の左下に残る）。上端で11→12の順で小型不定型の剥片を剥離している。石核は3点に割れ，作業が終了している。

・C56-②（第277図14～16，第278図17・18）　淡い灰緑色の凝灰岩で，剥片4点，石核1点で構成される。

14は，剥片3点（15・16・18），石核1点（17）の接合資料である。表面が自然面に覆われた厚手の剥片を石核の素材とし，表裏両面で交互剥離によって不定型の剥片を剥離している。

3　C72N40-Bブロック（第279～282図，第95・96表）

1）ブロックの概要

C72N40-Bブロックは，調査範囲北側のC72N40-36・37・46グリッドに位置する。ブロックの立地は台地の縁辺部で，北西方向へ下る緩斜面である。傾斜変換点までの距離は５ｍである。

ブロックの規模と形状は，長軸４ｍ，短軸2.5ｍの範囲に17点（16個体）の石器が分布する。出土層位はⅣ～Ⅴ層を中心としており，30㎝～40㎝の高低差をもって，ほぼ水平に包含されている（第279・280図）。

ブロックは，ナイフ形石器１点，剥片16点（15個体）の合計17点（16個体）で構成される。石材は，安山岩14点，チャート１点，砂岩１点，メノウ１点である。焼け礫は伴っていない。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは５母岩を識別した。内訳は，安山岩２母岩（C72N40-⑥・⑦），チャート１母岩（C72N40-⑨），砂岩１母岩（C72N40-⑧），メノウ１母岩（C72N40-⑩）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（17/17点）である。

・C72N40-⑥：自然面は灰褐色，内部は白色の不純物を含む黒灰色の安山岩である。原石の大きさは，接合状況と自然面の残り方から見て，直径５㎝ほどの比較的小型の円礫と思われる。石器群の内訳は，剥片11点（10個体；50.5ｇ）である。接合資料は，本ブロックでは剥片５点（４個体；39.4ｇ）で構成されるが，これにC72N40-Dブロックの剥片２点が接合している。

・C72N40-⑦：灰褐色の安山岩である。石器群の内訳は剥片３点（合計25.4ｇ）で，すべて表裏で接合している。原石は，上記C72N40-⑥母岩と共通する内容と考えられる。

・C72N40-⑧：黒灰色の砂岩である。剥片１点（1.8ｇ）の単独資料である。

・C72N40-⑨：青灰色で節理の多いチャートである。ナイフ形石器１点（1.5ｇ）の単独資料である。

・C72N40-⑩：橙褐色不透明のメノウである。原石の大きさは拳ほどと思われる。中型不定型の剥片１点（54.9ｇ）の単独資料である。

3）出土遺物（第281図）

１は，チャートによるナイフ形石器の基部と考えた資料である。裏面を打面として両側縁に細かな調整加工を行っている。角錐状石器の基部の可能性もある。

２～４は安山岩，メノウによる不定型の剥片である。

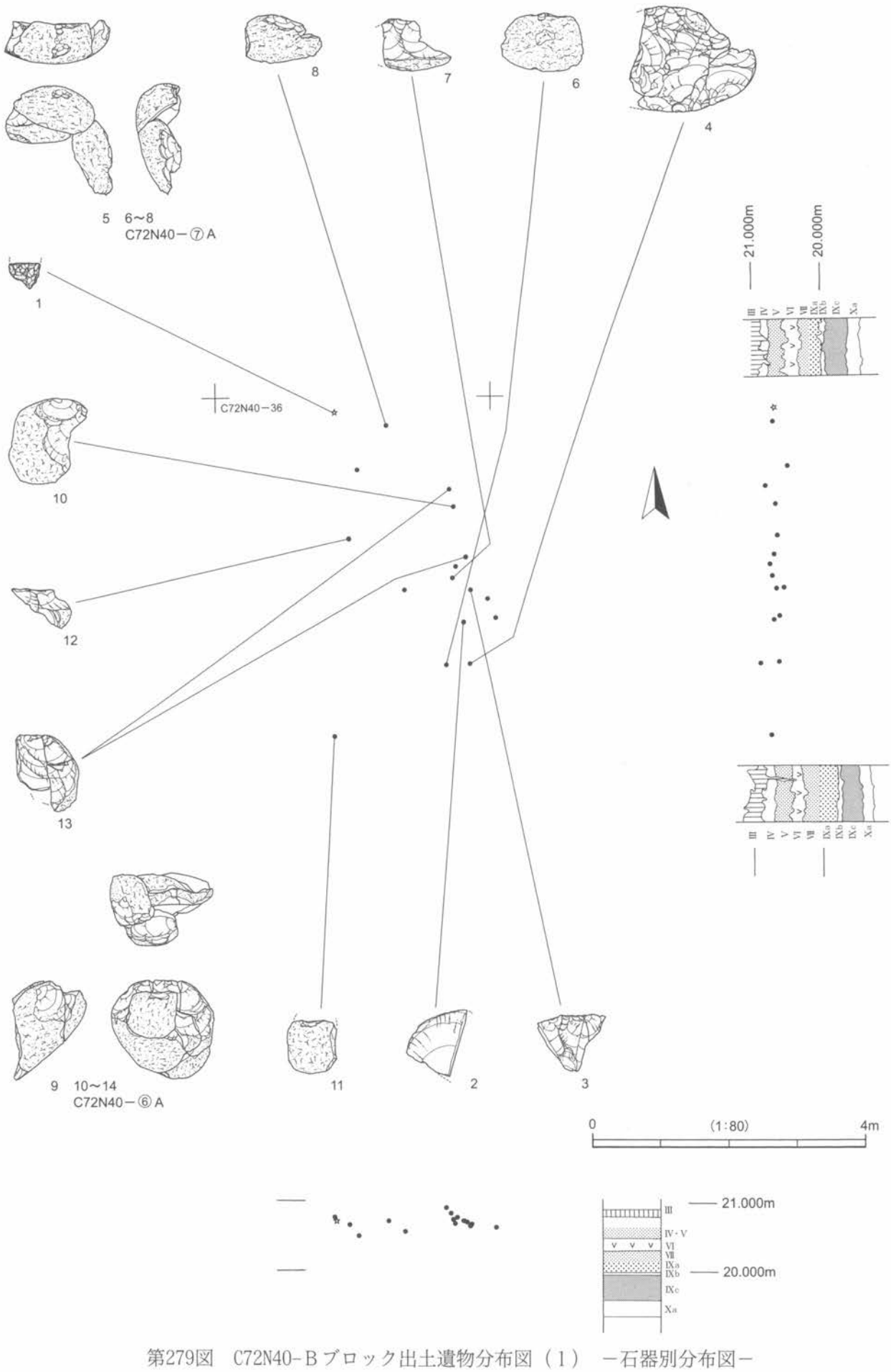
4）接合資料とその関連資料（第281・282図）

・C72N40-⑦（第281図５～８）　灰褐色の安山岩で，剥片３点の接合資料で構成される。

５は，剥片３点（６～８）の接合資料である。小型の円礫を石核の素材とし，その一端から順次剥片生産を行っている状況を示すものである。同一打面から６→７・８（７・８の剥離順は不明）と不定型の剥片を剥離している。打面は平坦な広い剥離面で，打点も遠いことから，原石を分割した際にできた剥離面を利用したものと考えられる。

・C72N40-⑥（第282図９～14）　黒灰色の安山岩で，剥片11点で構成される。

９は，剥片７点（５個体；10～14）の接合資料である。C72N40-⑦母岩の接合資料５と同様，小型の円礫を石核の素材とし，礫の一端から剥片を剥離する状況を示す接合資料である。ただし，５と異なる点は自然面の打面に用いている点で，原石を分割した形跡は見られない。同一打面を用いて，11→10→12→13→14の順に，不定型の剥片を剥離している。なお，13の一部と14は，C72N40-Dブロックに分布する。



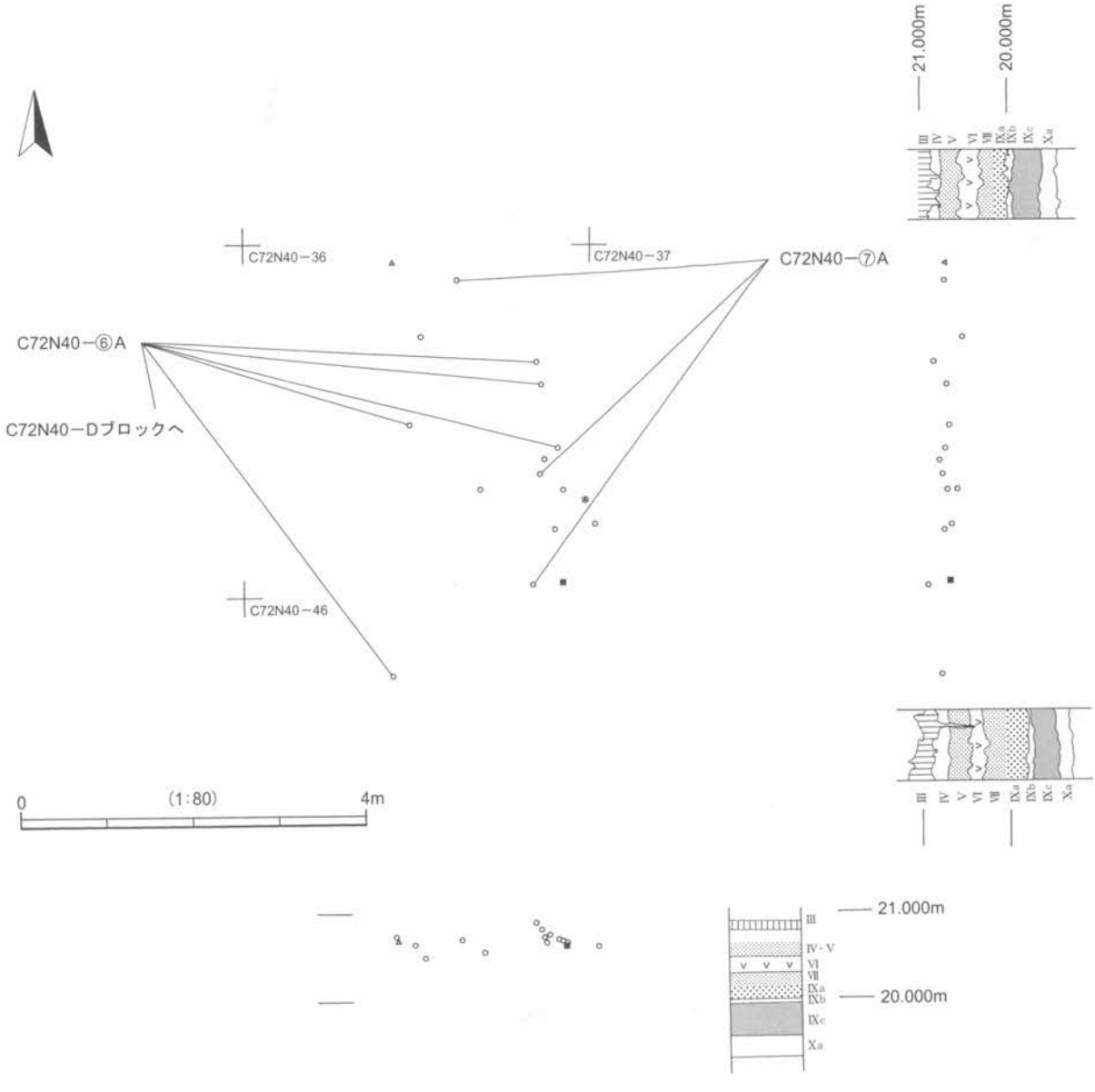
第279図　C72N40-Bブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－

第95表　C72N40-Bブロック母岩別石器組成表

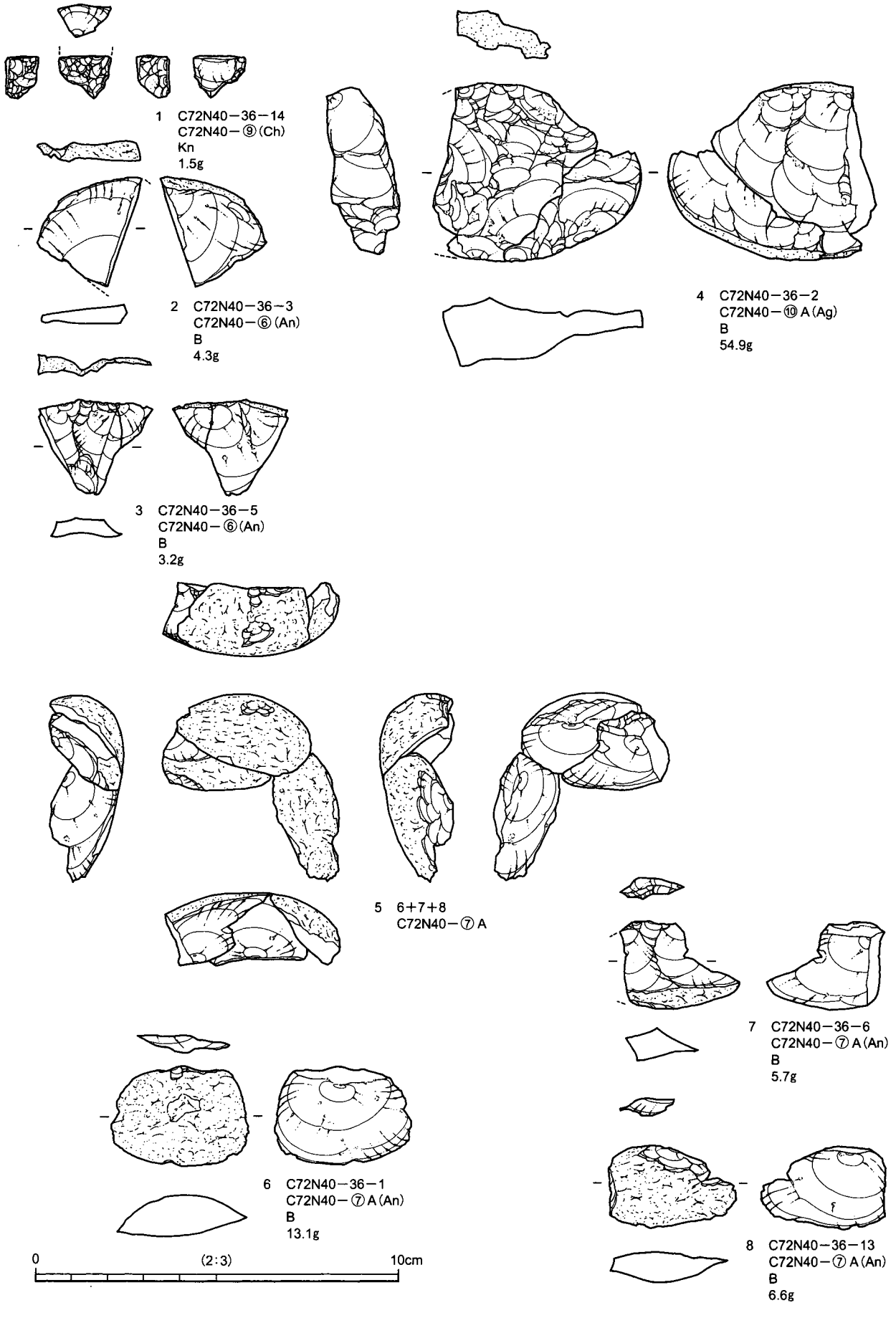
母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C72N40-⑥(An)																			11 (10)			11 (10)		11 (10)
C72N40-⑦(An)																			3			3		3
C72N40-⑧(Sa)																			1			1		1
C72N40-⑨(Ch)	1																					1		1
C72N40-⑩(Ag)																			1			1		1
合　計	1																		16 (15)			17 (16)		17 (16)

第96表　C72N40-Bブロック石材別石器組成表

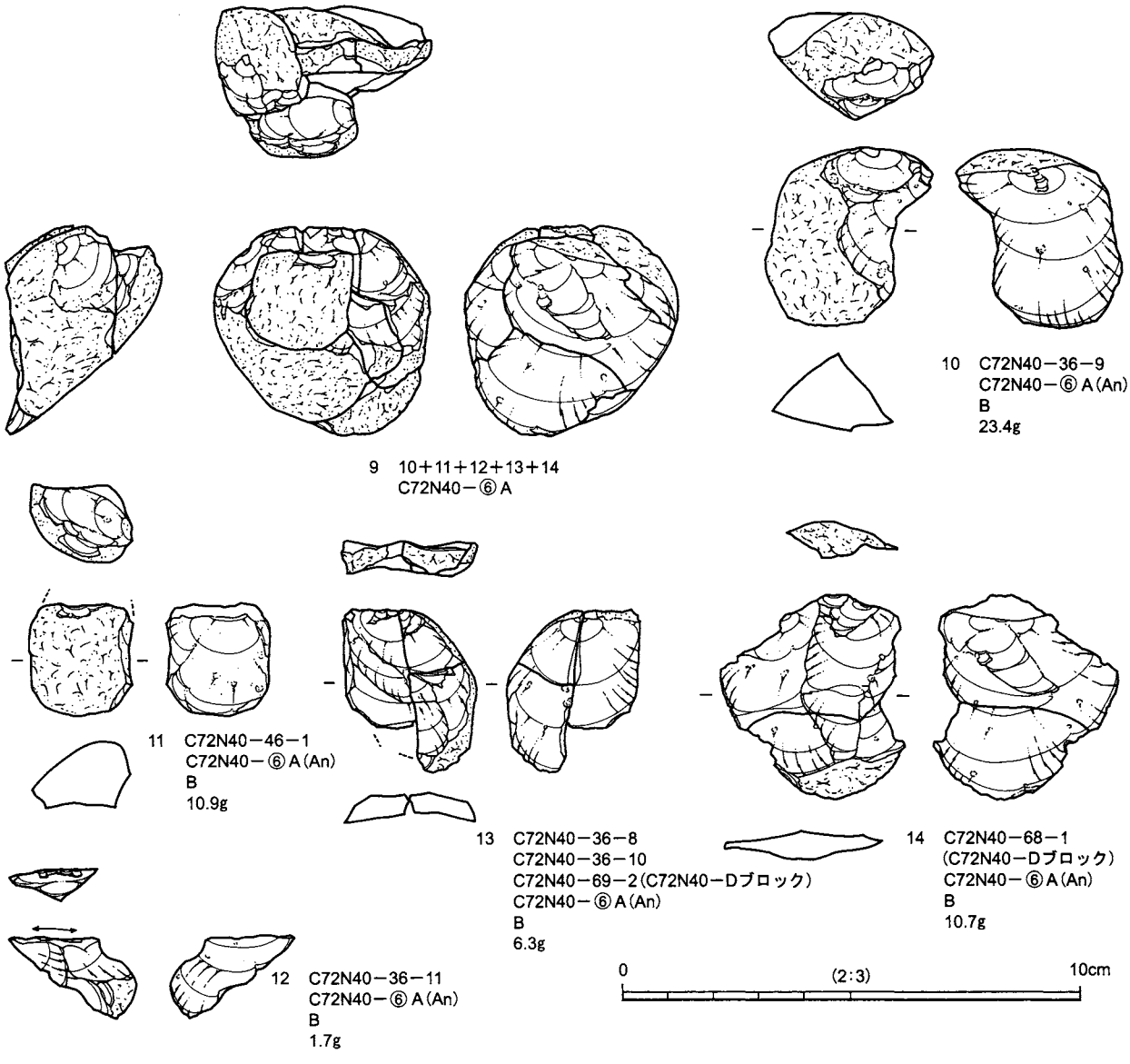
石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
安山岩(An)																			14 (13)			14 (13)		14 (13)
チャート(Ch)	1																					1		1
砂岩(Sa)																			1			1		1
メノウ(Ag)																			1			1		1
合　計	1																		16 (15)			17 (16)		17 (16)



第280図　C72N40-Bブロック出土遺物分布図（2）　−石材別分布図−



第281図　C72N40-Bブロック出土遺物実測図（1）



第282図　C72N40-Bブロック出土遺物実測図（2）

4　C72N40-Cブロック（第283～286図，第97・98表）

1）ブロックの概要

C72N40-Cブロックは，調査範囲北側のC72N40-46・47・56・57グリッドに位置する。ブロックの立地は台地の縁辺部で，北西方向へ下る緩斜面である。傾斜変換点までの距離は10mである。

ブロックの規模と形状は，直径３mの範囲に石器が集中する。出土層位はV層を中心に，50cmほどの高低差をもって包含されている（第283・284図）。

ブロックは，ナイフ形石器１点，使用痕ある剥片１点，剥片57点，砕片17点，石核１点の合計77点で，石材は，黒曜石２点，安山岩62点，珪質頁岩８点，チャート１点，ホルンフェルス３点，メノウ１点である。焼け礫は伴っていない。

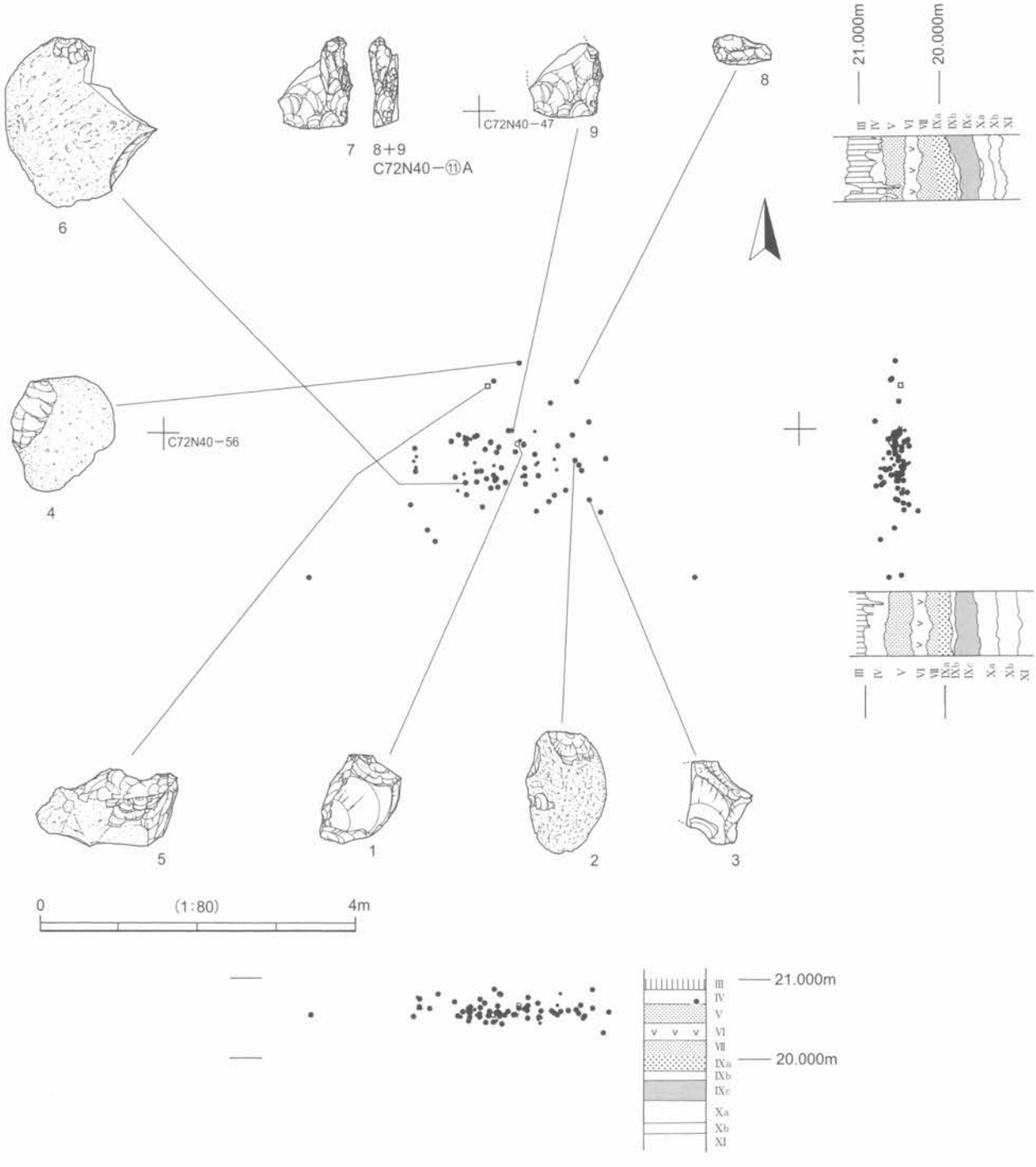
2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは７母岩を識別した。内訳は，安山岩４母岩（C72N40-⑪・⑬～⑮），珪質頁岩１母岩（C

72N40-⑫），チャート１母岩（C72N40-⑰），メノウ１母岩（C72N40-⑯）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は32%（25/77点）である。

・C72N40-⑪：淡青灰色の安山岩である。自然面の湾曲から見て，拳よりもやや大きめの原石と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，剥片２点の合計３点（76.4ｇ）である。ナイフ形石器１点と剥片１点が接合している（合計9.3ｇ）。

・C72N40-⑫：自然面と節理面は明橙褐色，内部は灰緑色の嶺岡産珪質頁岩である。剥片１点，石核１点（合計43.0ｇ）で構成される。



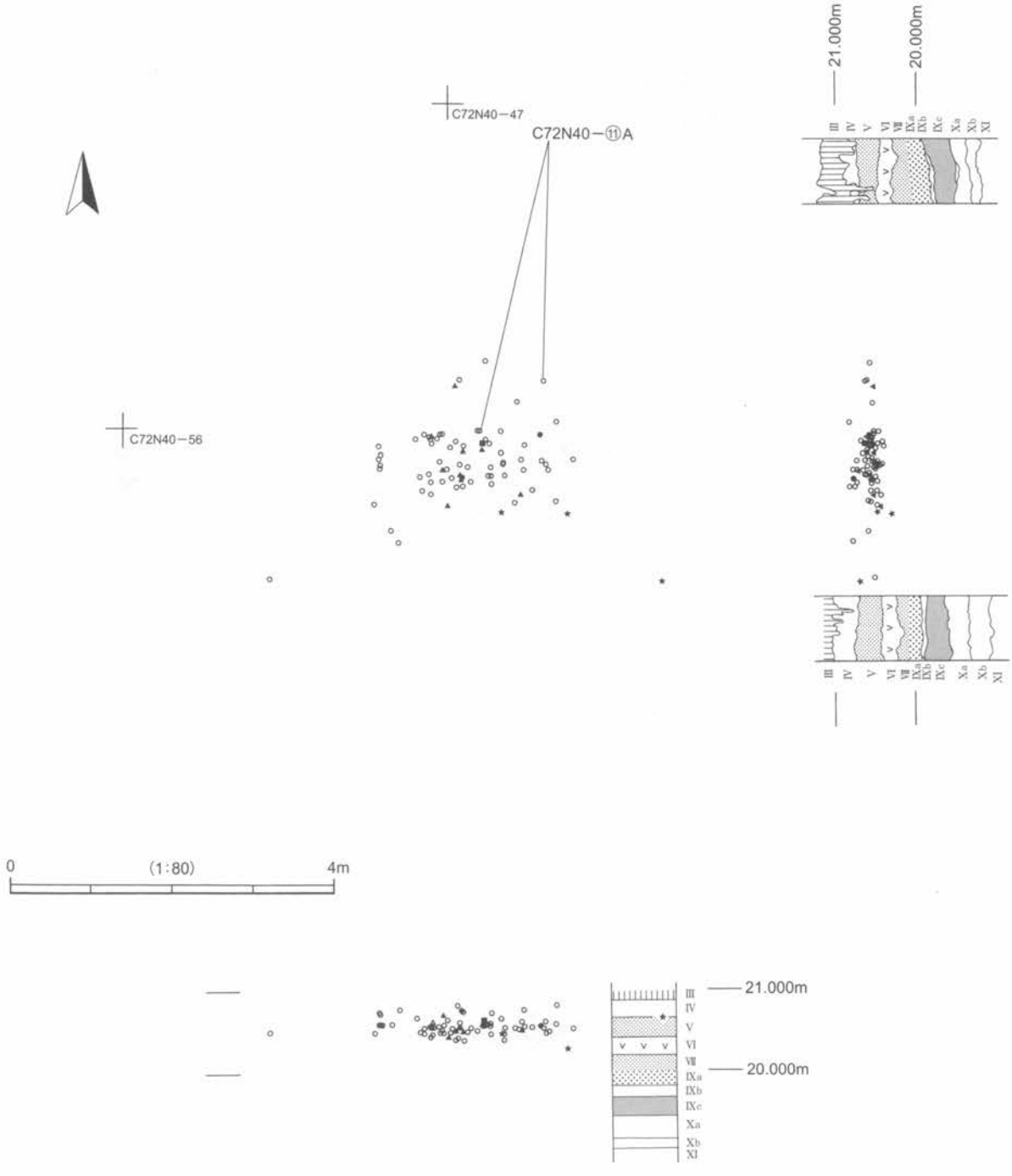
第283図　C72N40-Ｃブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－

・C72N40-⑬：黒灰色の安山岩で，剥片６点（合計23.３ｇ）で構成される。同一母岩は，C72N40-Ｄブロックに３点ある。

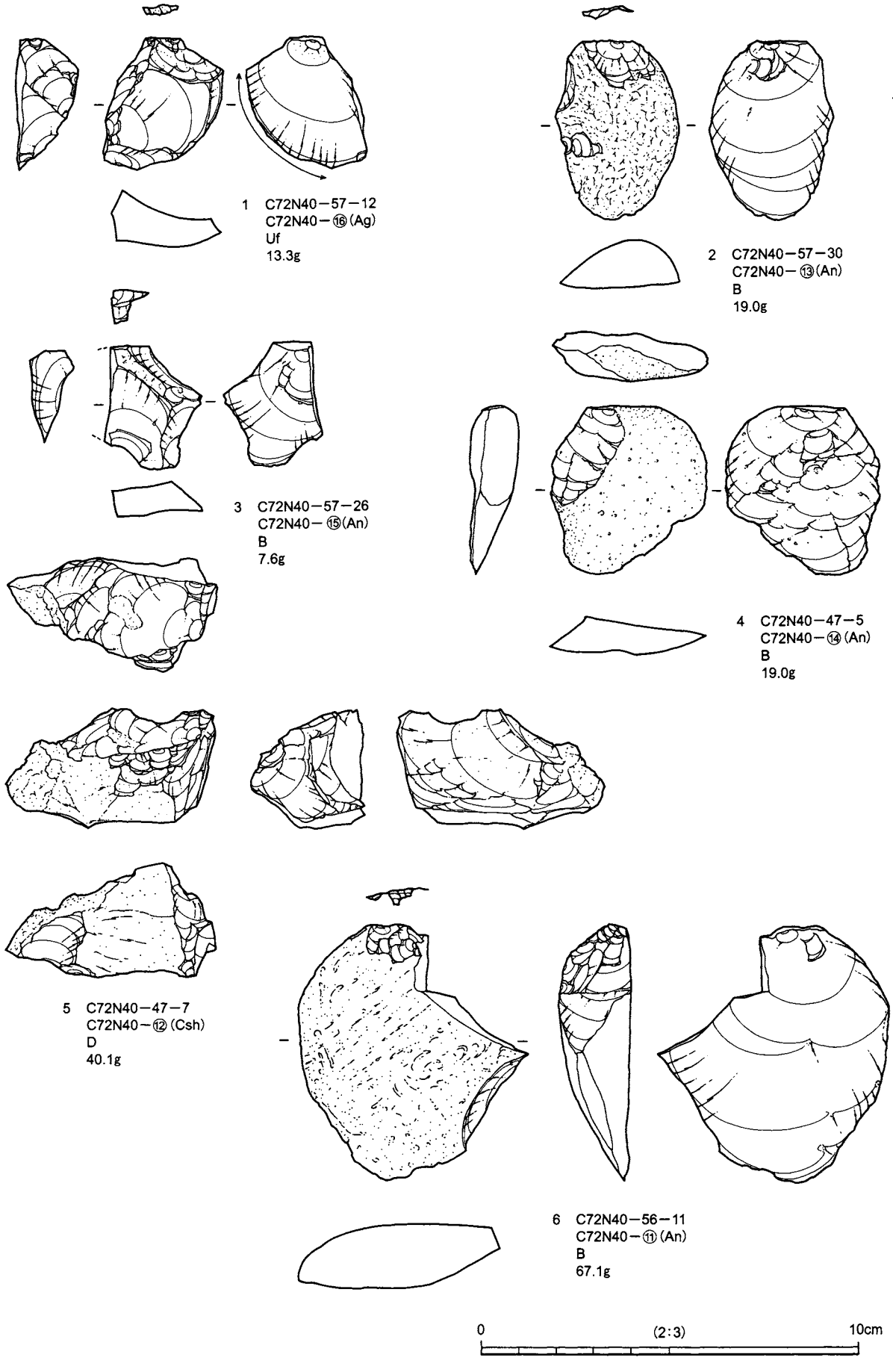
・C72N40-⑭：自然面は灰褐色，内部は風化しているにも関わらず黒色の安山岩である。白い夾雑物が少量含まれている。剥片１点（19.０ｇ）の単独資料である。

・C72N40-⑮：淡灰色の安山岩で，剥片11点（合計15.３ｇ）で構成される。剥片は，いずれも小型であるが，半数以上に自然面が見られる。同一母岩は，C72N40-Ｄブロックに５点ある。

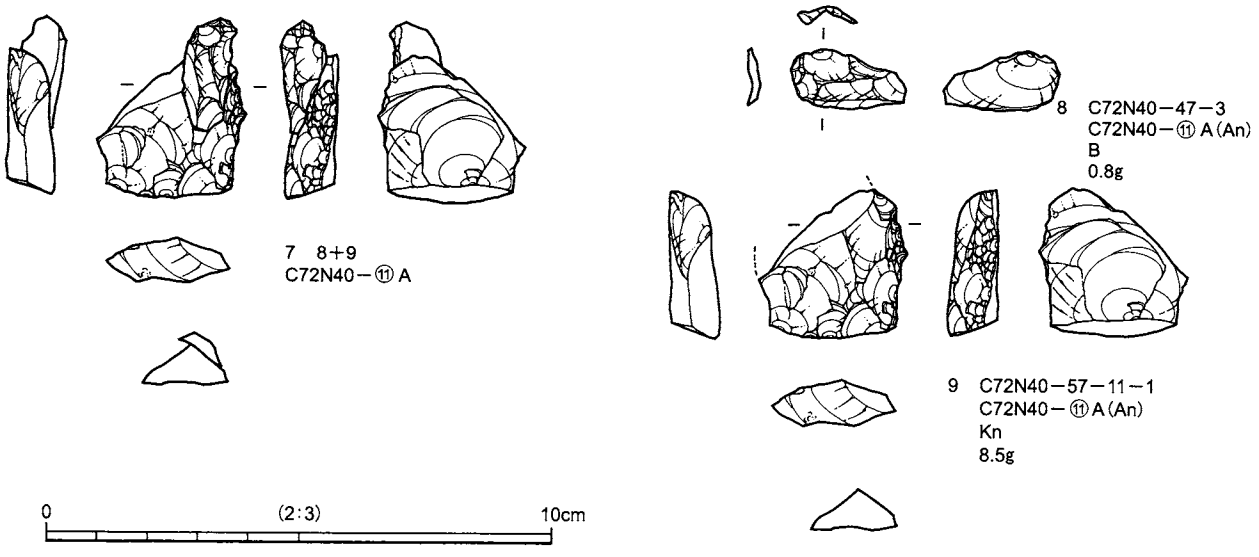
・C72N40-⑯：黄白色に濁ったメノウである。使用痕ある剥片１点（13.３ｇ）の単独資料である。



第284図　C72N40-Ｃブロック出土遺物分布図（２）　－石器別分布図－



第285図　C72N40-Cブロック出土遺物実測図（1）



第286図　C72N40-Cブロック出土遺物実測図（2）

第97表　C72N40-Cブロック母岩別石器組成表

母岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C72N40-⑪(An)	1																		2			3		3
C72N40-⑫(Csh)																			1		1	2		2
C72N40-⑬(An)																			6			6		6
C72N40-⑭(An)																			1			1		1
C72N40-⑮(An)																			11			11		11
C72N40-⑯(Ag)											1											1		1
C72N40-⑰(Ch)																			1			1		1
その他(Ob)																			2			2		2
その他(An)																			24	17		41		41
その他(Csh)																			6			6		6
その他(Ho)																			3			3		3
合計	1										1								57	17	1	77		77

第98表　C72N40-Cブロック石材別石器組成表

石材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)																			2			2		2
安山岩(An)	1																		44	17		62		62
珪質頁岩(Csh)																			7		1	8		8
チャート(Ch)																			1			1		1
ホルンフェルス(Ho)																			3			3		3
メノウ(Ag)											1											1		1
合計	1										1								57	17	1	77		77

・C72N40-⑰：青みがかった黒灰色のチャートである。剥片１点（1.9ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石の剥片２点（合計0.8ｇ），安山岩の剥片24点，砕片17点（合計11.2ｇ），珪質頁岩の剥片６点（合計2.9ｇ），ホルンフェルスの剥片３点（合計3.3ｇ）がある。黒曜石は細かな資料のため原産地を想定することは困難であるが，肉眼的に信州産よりは栃木県高原山産の可能性の方が高いと考えられる。安山岩は，C72N40-⑬・⑮に帰属する可能性のあるものも含まれているが，ほとんどが0.5ｇ以下の小型品であるため，分類できなかった。

3）出土遺物（第285図）

１は，メノウによる厚手不定型の剥片を利用した使用痕ある剥片である。表面は多方向からの剥離面で構成されており，求心的な打点移動と交互剥離の手順が想定される。２～４は，安山岩各母岩による不定型の剥片である。

５は，嶺岡産珪質頁岩による石核である。角礫を粗く分割したものを石核の素材とし，若干の剥片剥離作業が試みられたようである（表面）。ただし，節理面によって大きく割れており（裏面），剥片剥離作業

はほとんど進行していないまま放棄されている。

4）接合資料とその関連資料（第285・286図）

・C72N40-⑪（第285図6，第286図7～9） 淡青灰色の安山岩で，ナイフ形石器1点，剥片2点で構成される。

6は，大型厚手の剥片である。表面は，ほぼ全面にわたって自然面に覆われている。石核の素材として搬入されたものであろうか。

7は，ナイフ形石器（9）に調整剥片（8；ブランティング・チップ）が接合したものである。9は，素材の打面を基部に置き，素材の長軸と石器の主軸が概ね一致するナイフ形石器である。上半部が欠損するため形態は不明である。ただし，一般的に基部調整のナイフ形石器の調整加工は浅いが，本例は調整加工が深く入っているため，1側縁調整のナイフ形石器の可能性がある。打面が幅広く残されていることから，未製品の可能性もある。

5 C72N40-Dブロック（第287～292図，第99・100表）

1）ブロックの概要

C72N40-Dブロックは，調査範囲北側のC72N40-57・58・67・68・69グリッドに位置する。ブロックの立地は台地の縁辺部で，北西方向へ下る緩斜面である。傾斜変換点までの距離は15mである。

ブロックの規模と形状は，長軸8m，短軸4mの楕円形の範囲に31点（30個体）が満遍なく分布する。出土層位はIVc層を中心としており，40cmほどの高低差をもって地形に沿って包含されている（第287～289図）。なお，本ブロックの調査区では，IV層の中ほどに黒色帯が見られたため，IVa層；黒色帯よりも上位，IVb層；黒色帯，IVc層黒色帯よりも下位の3層に細分した。

ブロックは，掻器2点，楔形石器1点，使用痕ある剥片3点，原石1点，剥片18点，砕片1点，石核5点（4個体）の合計31点（30個体）で，石材は，安山岩20点，頁岩1点，珪質頁岩5点，チャート2点，メノウ3点である。焼け礫は伴っていない。

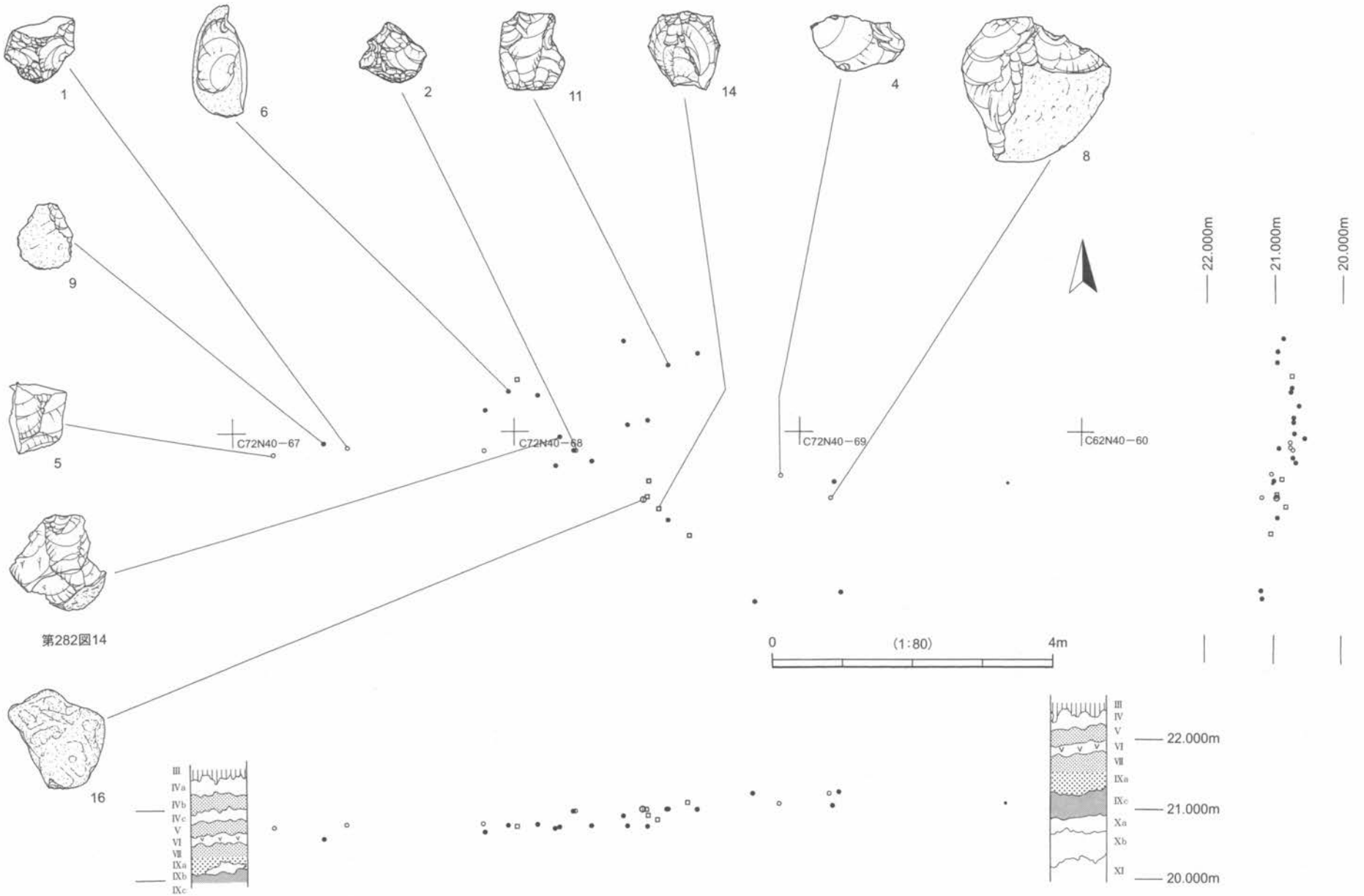
2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは15母岩を識別した。内訳は，安山岩7母岩（C72N40-⑥・⑬・⑮・⑱～⑳・㉙），頁岩1母岩（C72N40-㉘），珪質頁岩2母岩（C72N40-㉑・㉒），チャート2母岩（C72N40-㉓・㉔），メノウ3母岩（C72N40-㉕～㉗）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は71％（22/31点）である。

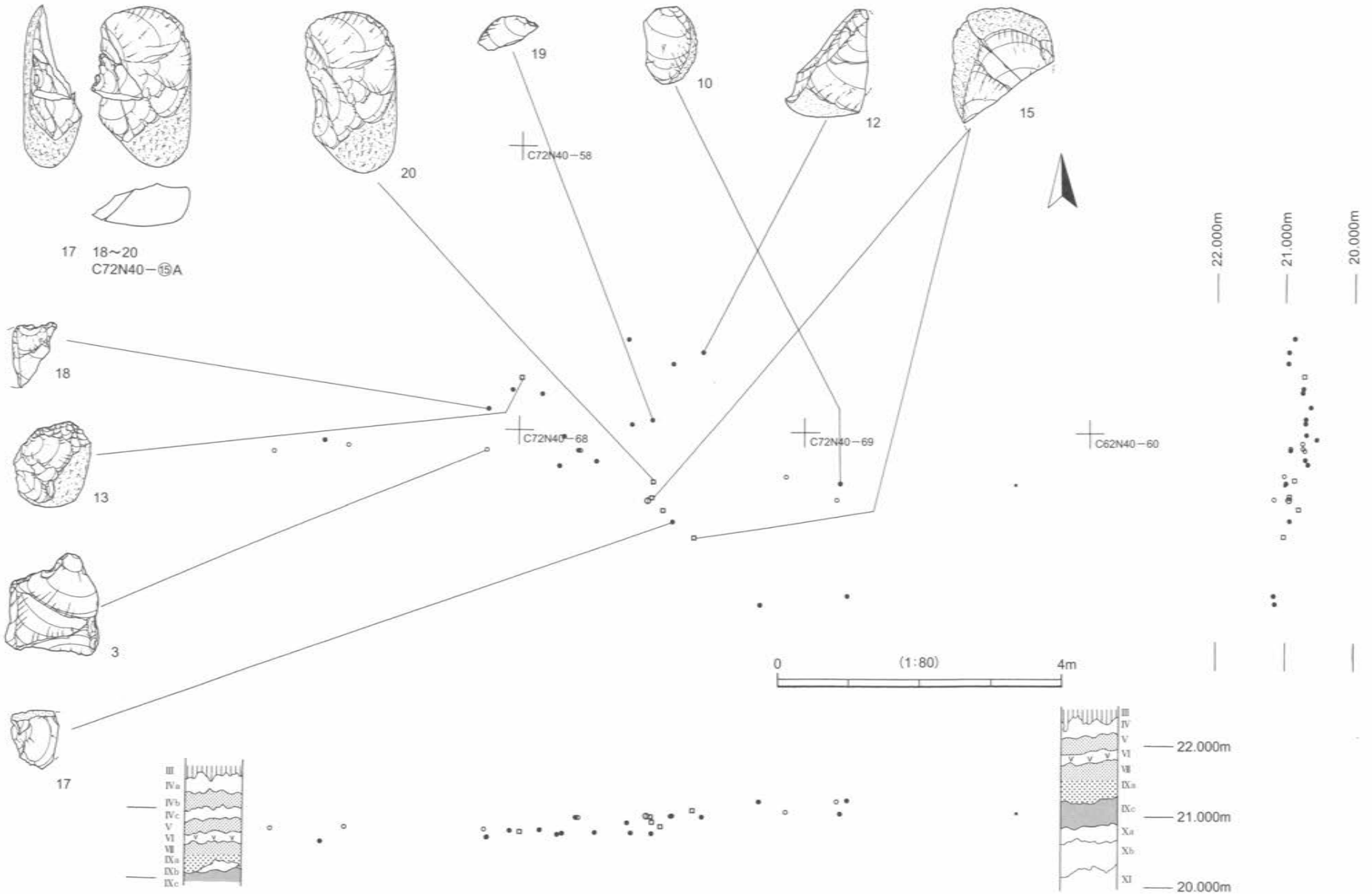
・C72N40-⑥：黒灰色の安山岩で，母岩の特徴はC72N40-Bブロックで記したとおりである。石器群の内訳は剥片2点（合計13.6g）で，いずれもC72N40-Bブロックの剥片5点と接合する。このほかに，同一母岩がC72N40-Bブロックに6点ある。

・C72N40-⑬：黒灰色の安山岩で，自然面は爪を押し当てたような傷が無数にある（C72N40-⑮・⑱母岩にも同様の特徴がある）。石器群の内訳は，剥片1点，石核2点（1個体）の合計3点（2個体；32.4g）である。このうち，石核2点（1個体；31.6g）が接合する。同一母岩は，C72N40-Cブロックに6点ある。

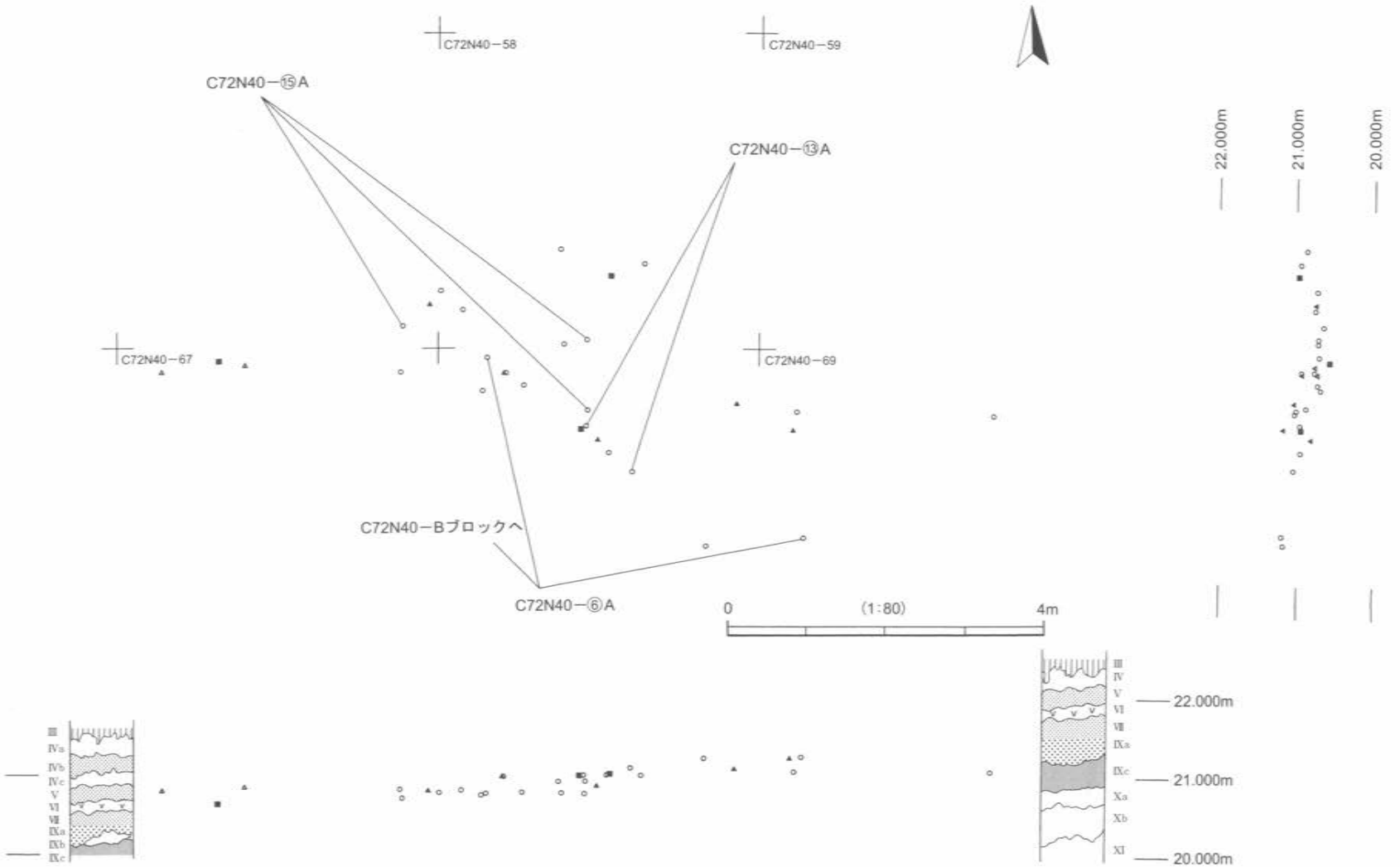
・C72N40-⑮：淡灰色の安山岩で，長軸7cmほどの中型の円礫と推定される。石器群の内訳は，剥片4点，石核1点の合計5点（80.9g）である。このうち，剥片2点，石核1点（合計74.6g）が接合する。このほか，同一母岩はC72N40-Cブロックに11点ある。



第287図　C72N40-Dブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図　（1）－



第288図　C72N40-Dブロック出土遺物分布図（2）　－石器別分布図（2）－



第289図　C72N40-Dブロック出土遺物分布図（3）　－石材別分布図－

・C72N40-⑱：淡灰色の安山岩で，C72N40-⑮母岩よりもやや暗い色調であるが，自然面の状況を含めてよく類似する。ただし，C72N40-⑮母岩の原石の状態が概ね判明し，両者の間に接合する余地がないことから別母岩とした。同一の原産地なのであろう。石核１点（32.6ｇ）の単独資料である。

・C72N40-⑲：黒灰色の安山岩で，自然面は紙やすり状で細かな傷はない。大きさは不明であるが，原石は円礫と考えられる。剥片１点（15.6ｇ）の単独資料である。

・C72N40-⑳：黒灰色の安山岩である。本ブロックの安山岩の中では，最も暗い色調である。使用痕ある剥片１点（11.3ｇ）の単独資料である。

・C72N40-㉑：自然面と自然面に近い部分は橙褐色，内部は灰緑色の嶺岡産珪質頁岩である。自然面は滑らかな曲面である。大型不定型の剥片を利用した使用痕ある剥片1点（53.1ｇ）の単独資料である。

・C72N40-㉒：自然面と節理面は明橙褐色，内部は灰色の嶺岡産珪質頁岩である。原石の性状は不明である。石核１点（26.4ｇ）の単独資料である。

・C72N40-㉓：暗青灰色で，黒灰色の筋が不定方向に入るチャートである。掻器１点（11.1ｇ）の単独資料である。

・C72N40-㉔：赤茶色と緑灰色が縞状に混ざったチャートである。楔形石器１点（15.6ｇ）の単独資料である。

・C72N40-㉕：赤みがかった橙色不透明のメノウで，原石１点（40.7ｇ）の単独資料である。4.5㎝×４㎝×２㎝の円礫である。

・C72N40-㉖：黄褐色不透明のメノウである。剥片１点（10.9ｇ）の単独資料である。

・C72N40-㉗：自然面は黄褐色で，内部は黄白色に濁ったメノウで，C72N40-Ｃブロックの C72N40-⑯母岩によく似た質感である。剥片１点（6.2ｇ）の単独資料である。

・C72N40-㉘：自然面灰色，内部は淡褐色できめの細かな頁岩である。剥片１点（19.3ｇ）の単独資料である。

・C72N40-㉙：灰白色に風化した安山岩（トロトロ石）である。剥片１点（0.2ｇ）の単独資料である。

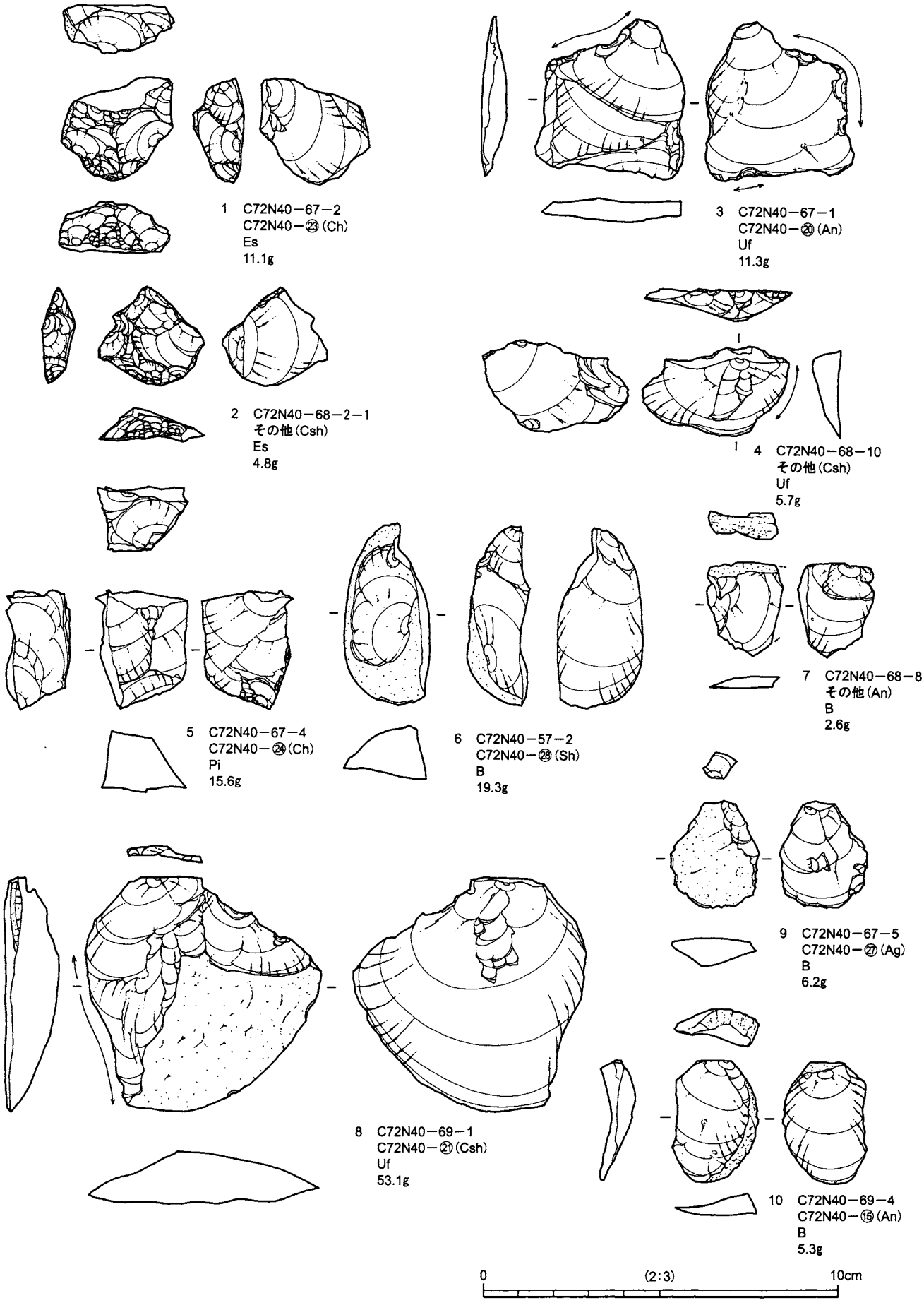
なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩の剥片５点，砕片１点（5.6ｇ），珪質頁岩の掻器１点，使

第99表　C72N40-Ｄブロック母岩別石器組成表

母岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C72N40-⑥(An)																			2			2		2
C72N40-⑬(An)																			1		2(1)	3(2)		3(2)
C72N40-⑮(An)																			4		1	5		5
C72N40-⑱(An)																					1	1		1
C72N40-⑲(An)																			1			1		1
C72N40-⑳(An)											1											1		1
C72N40-㉑(Csh)											1											1		1
C72N40-㉒(Csh)																					1	1		1
C72N40-㉓(Ch)					1																	1		1
C72N40-㉔(Ch)									1													1		1
C72N40-㉕(Ag)																		1				1		1
C72N40-㉖(Ag)																			1			1		1
C72N40-㉗(Ag)																			1			1		1
C72N40-㉘(Sh)																			1			1		1
C72N40-㉙(Ant)																			1			1		1
その他(An)																			5	1		6		6
その他(Csh)					1						1								1			3		3
合　計					2				1		3							1	18	1	5(4)	31(30)		31(30)

第100表　C72N40-Ｄブロック石材別石器組成表

石材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
安山岩(An)											1								14	1	4(3)	20(19)		20(19)
頁岩(Sh)																			1			1		1
珪質頁岩(Csh)					1						2								1		1	5		5
チャート(Ch)					1				1													2		2
メノウ(Ag)																		1	2			3		3
合　計					2				1		3							1	18	1	5(4)	31(30)		31(30)

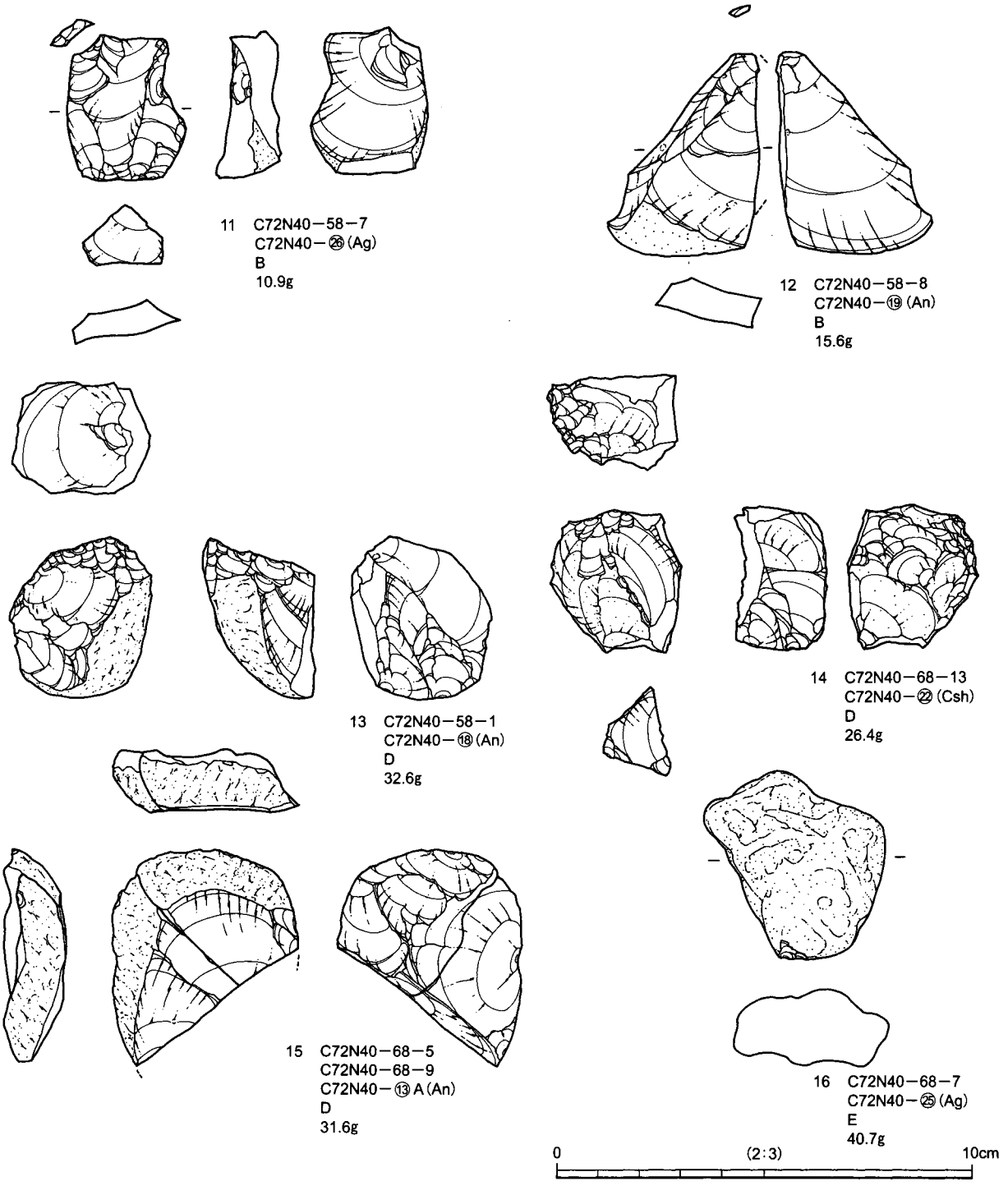


第290図　C72N40-Dブロック出土遺物実測図（1）

用痕ある剥片１点，剥片１点（14.6ｇ）がある。安山岩は小型の剥片類で，上記諸母岩のいずれかに帰属する可能性が高い。珪質頁岩は，いずれも嶺岡産と考えられるものである。

３）出土遺物（第290・291図）

１は，チャートによる不定型の剥片を用いた掻器である。刃部中央は調整加工が細かいが，その両側は，粗い大き目の剥離で調整されている。２は，珪質頁岩の掻器である。刃部は細かな調整加工によって緩やかな弧を描くが，左側縁は粗い剥離が見られる。素材の打面は折り取られたようである。



第291図　C72N40-Dブロック出土遺物実測図（２）

5は，チャートによる厚手の剥片を用いた楔形石器である。素材剥片の打点は，上面の剥離面によって失われている。裏面下端部に潰れたような損傷があることから，両極打撃が介在すると判断した。

3・4・8は，安山岩，珪質頁岩の不定型な剥片を利用した使用痕ある剥片，6・7・9・11・12は，安山岩，メノウ，頁岩による不定型の剥片である。

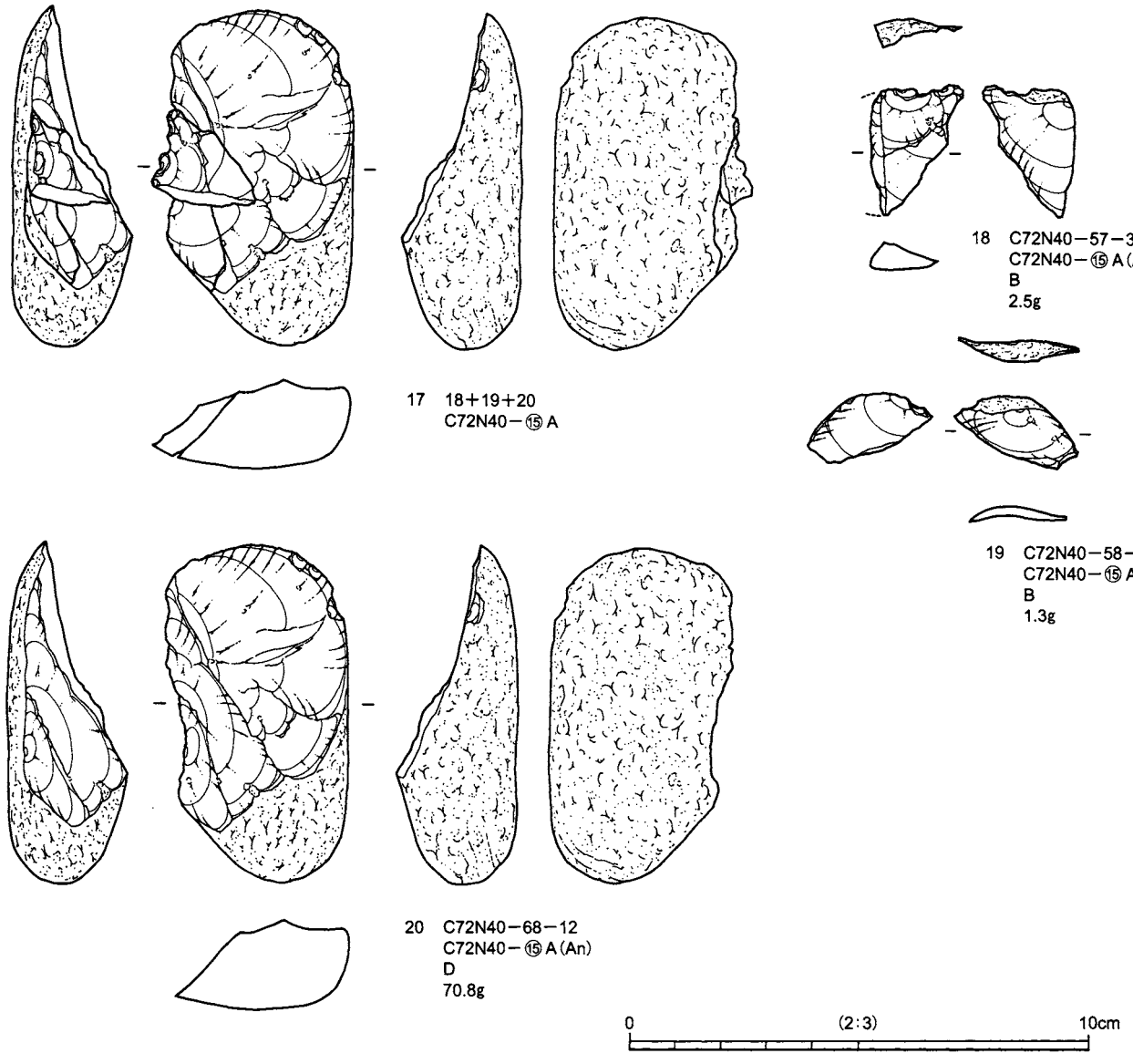
13～15は，安山岩，珪質頁岩による石核である。剥片ないしは分割礫を素材として，小型不定型の剥片を剥離したものである。13・14は，打面と作業面を頻繁に移動する手順で作業を行っている。

16は，メノウの原石である。

4）接合資料とその関連資料（第290・292図）

・C72N40-⑮（第290図10，第292図17～20） 淡灰色の安山岩で，剥片4点，石核1点で構成される。

17は，剥片2点（18・19）と石核1点（20）の接合資料である。楕円形の中型の円礫を石核素材に用い，側面から不定型の剥片を剥離している。18→19の順に剥離している。



第292図　C72N40-Dブロック出土遺物実測図（3）

6　C76-Aブロック（第293～295図，第101・102表）

1）ブロックの概要

C76-Aブロックは，調査範囲南側のC76-67・77・78・87・88グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地中央の平坦面で，南北の傾斜変換点までの距離は，それぞれ200mほどである。

ブロックの規模と形状は，長軸８m，短軸５mの範囲に24点の石器が分布するが，大半の石器はブロック南端に偏っている。出土層位はⅣ・Ⅴ層からⅢ層下部にかけてで，40cm程の高低差をもって水平に包含されている（第293・294図）。

ブロックは，角錐状石器１点，削器１点，使用痕ある剥片２点，剥片17点，砕片１点，石核２点の合計24点で構成される。石材は，黒曜石４点，安山岩１点，チャート４点，ホルンフェルス15点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは３母岩を識別した。内訳は，黒曜石１母岩（C76-②），チャート１母岩（C76-①），ホルンフェルス１母岩（C76-③）である。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は79%（19/24点）である。

・C76-①：自然面と節理面は橙褐色，内部は青灰色のチャートである。剥片３点（合計11.3g）で構成される。

・C76-②：青みを帯びた黒色不透明の黒曜石で，白色の夾雑物を含む。細かく見ると，透明の地に墨を流したような縞が密に入っている。使用痕ある剥片２点（合計6.4g）で構成される。

・C76-③：青みがかった灰色のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片13点，石核１点の合計14点（44.5g）で，このうち剥片２点（合計7.7g）が接合する。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石の角錐状石器１点，剥片１点（合計4.8g），安山岩の石核１点（18.9g），チャートの削器１点（7.1g），ホルンフェルスの砕片１点（0.1g）がある。

3）出土遺物（第295図）

１は，黒曜石の角錐状石器である。横長剥片を素材とし，両側縁と裏面の先端部に調整加工を行っている。両側縁の調整加工は，素材の主要剥離面を打面として，急角度の剥離によってなされている。裏面の調整加工は，左側縁を打面とする平坦剥離によって行っている。石材は，灰色と黒色の縞が平行に走り，夾雑物をわずかに含む黒曜石である。

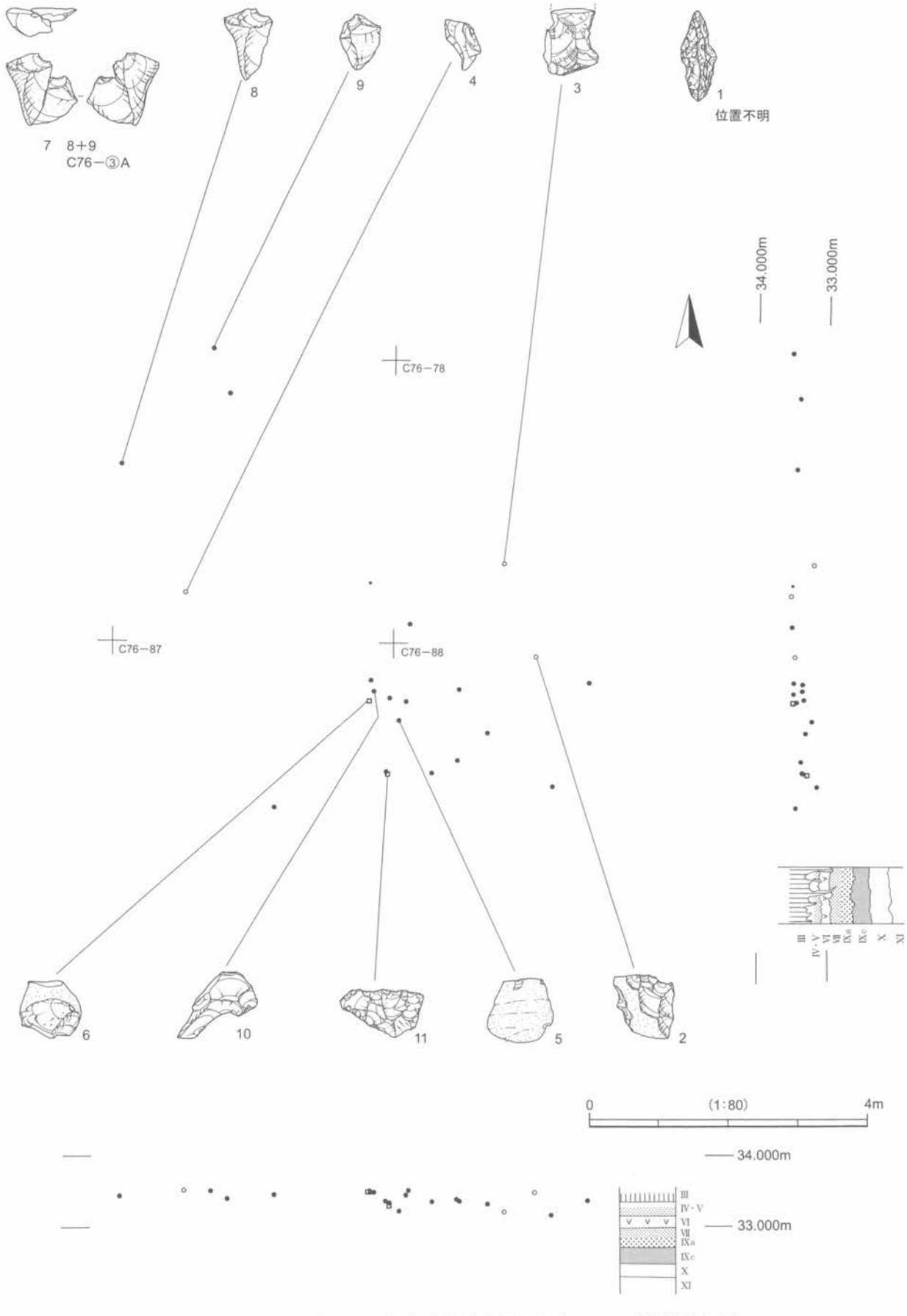
２は，チャートの削器である。不定型の剥片を素材とし，左側縁に粗い調整加工が見られる。３・４は，黒曜石の使用痕ある剥片である。不定型の剥片を利用している。

５はチャートによる不定型の剥片である。このほかに同一母岩による剥片が２点あるが，いずれも不定型である。６は安山岩による小型の石核である。打面と作業面を頻繁に移動して，小型不定型の剥片を生産している。自然面のようすから，原石は小型の円礫と想定される。

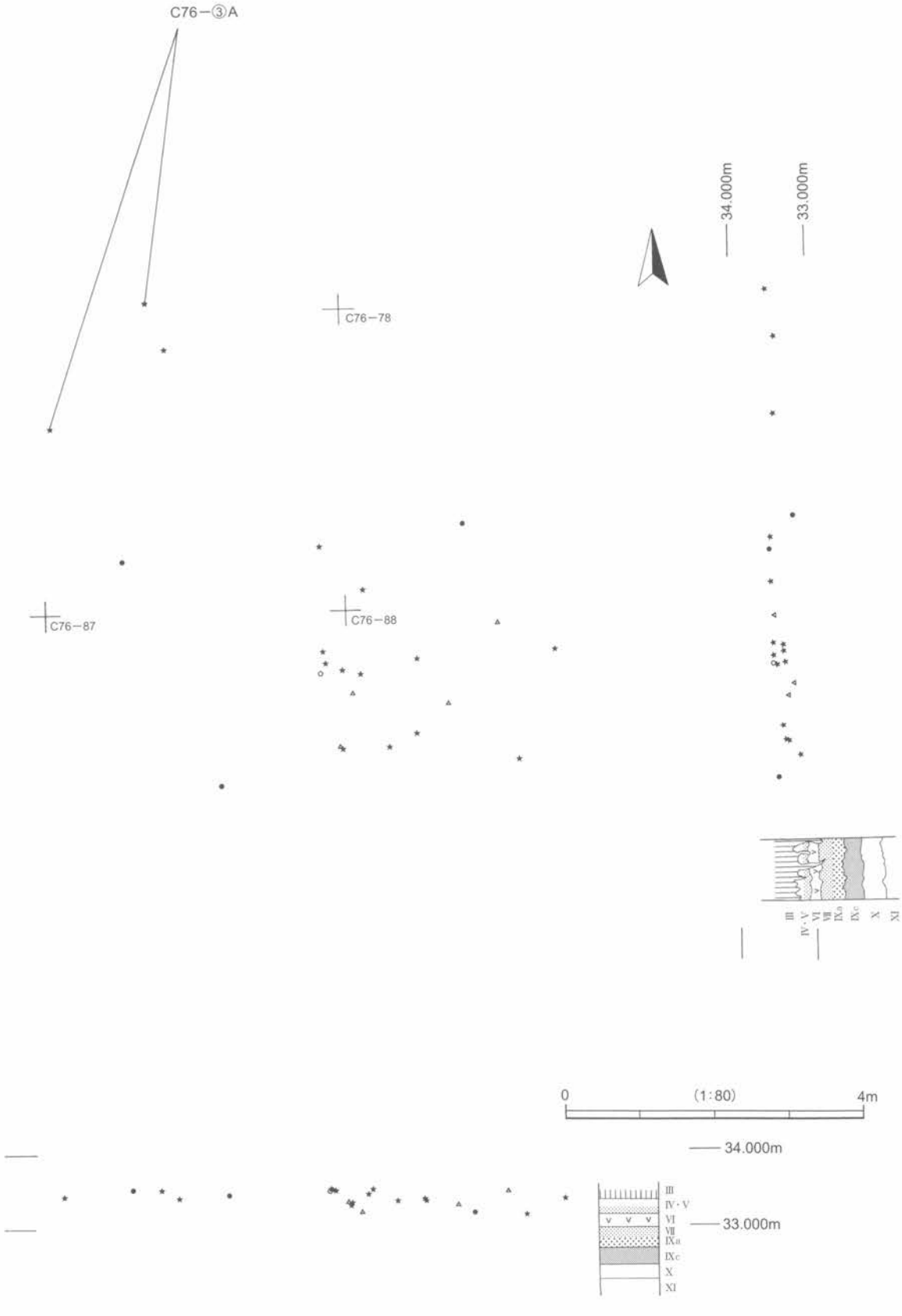
4）接合資料とその関連資料（第295図）

・C76-③（第295図７～11）　青みがかった灰色のホルンフェルスで，剥片13点，石核１点で構成される。石核は，やや厚手の剥片素材と考えられ，多くの剥片を生産した形跡はない。石核の素材を含めて，本ブロックに分布する大半の剥片は別の石核から剥離されたものであり，その石核は搬出されたと考えられる。なお，本ブロックでは，原石の半分以下の消費しか行っていないようである。

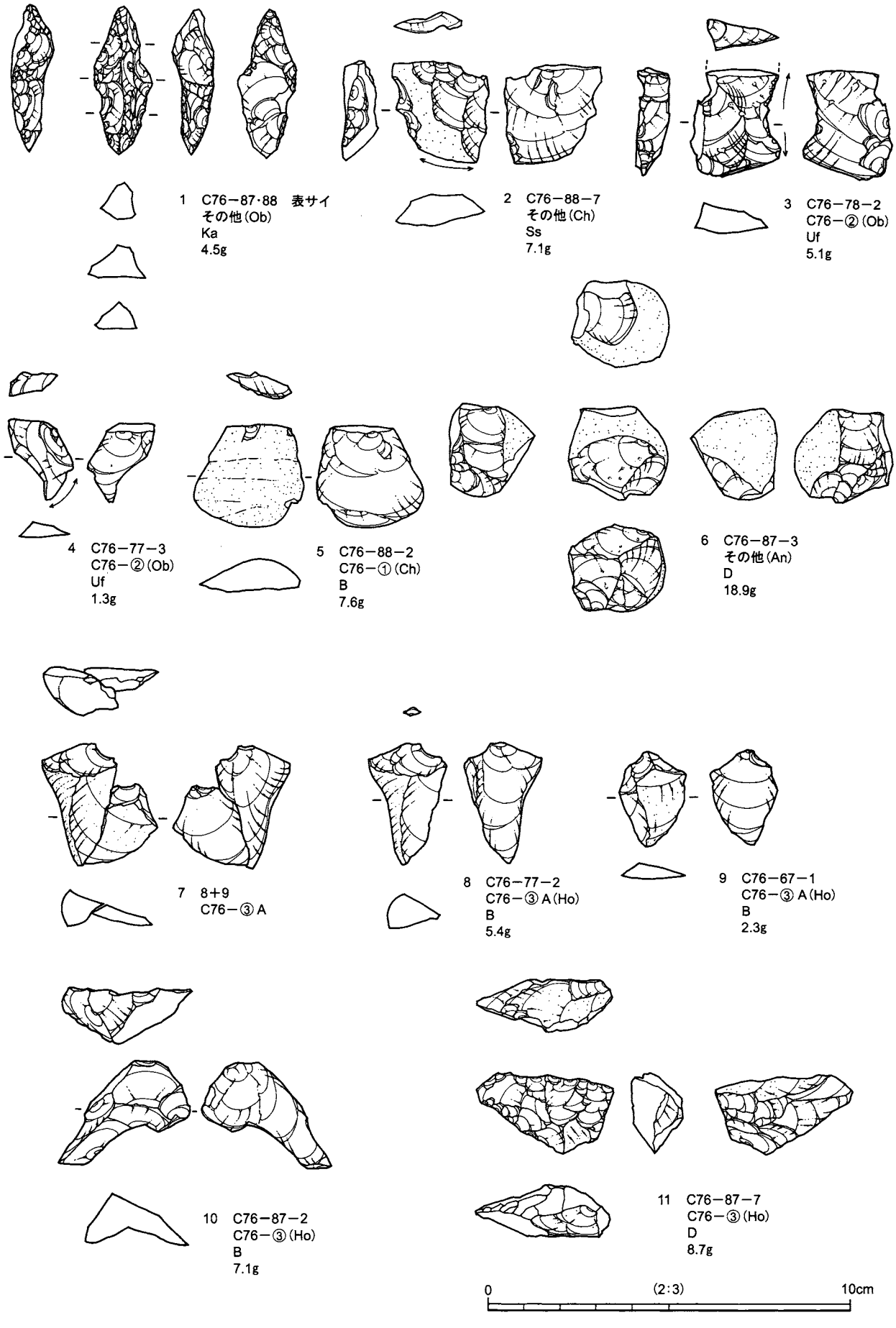
７は，剥片２点（８・９）の接合資料である。８→９の順に不定型の剥片を剥離している。



第293図　C76-Aブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



第294図　C76-Aブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－



第295図　C76-Aブロック出土遺物実測図

10・11は非接合資料である。前者は不定型の剥片，後者は剥片素材の石核である。

第101表　C76-Aブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C76-①(Ch)																			3			3		3
C76-②(Ob)											2											2		2
C76-③(Ho)																			13		1	14		14
その他(Ob)			1																1			2		2
その他(An)																					1	1		1
その他(Ch)						1																1		1
その他(Ho)																				1		1		1
合　計			1			1					2								17	1	2	24		24

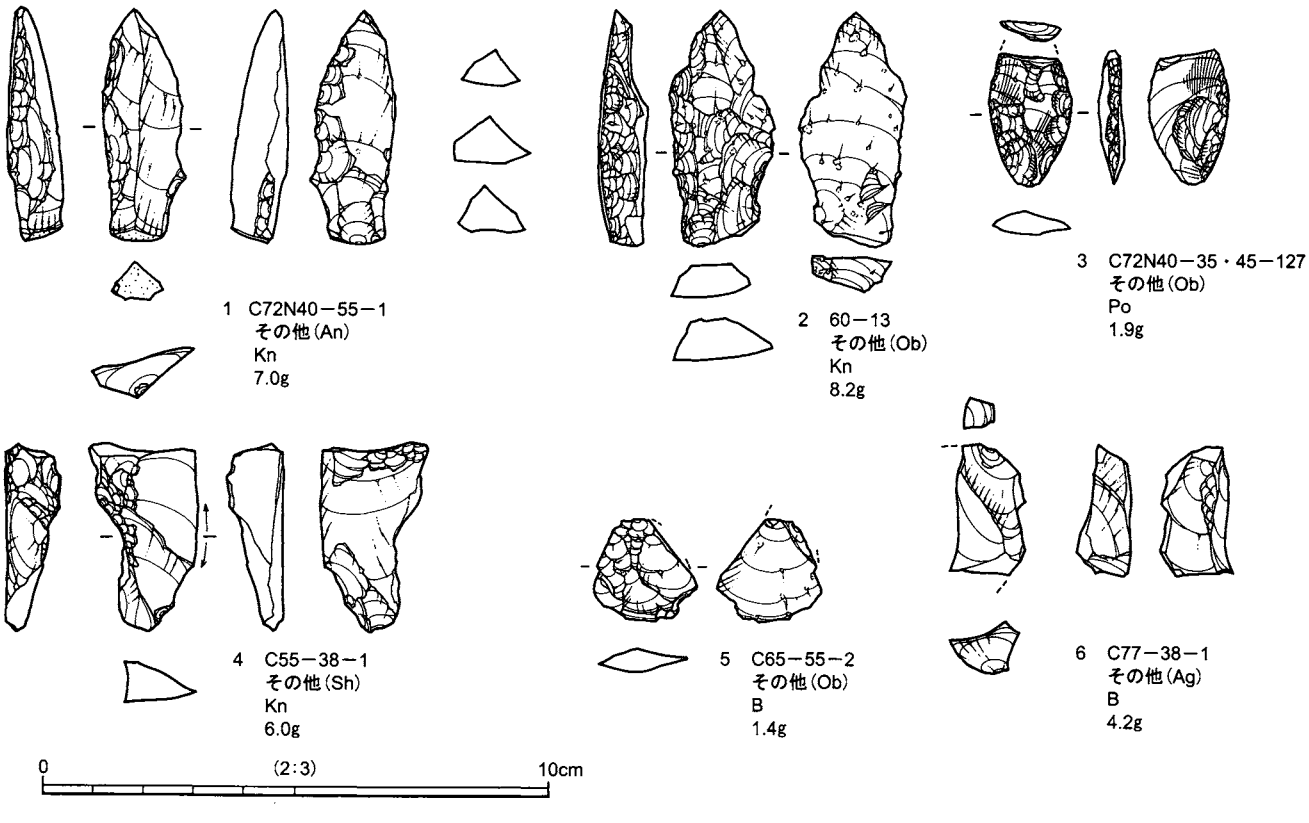
第102表　C76-Aブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)			1								2								1			4		4
安山岩(An)																					1	1		1
チャート(Ch)						1													3			4		4
ホルンフェルス(Ho)																			13	1	1	15		15
合　計			1			1					2								17	1	2	24		24

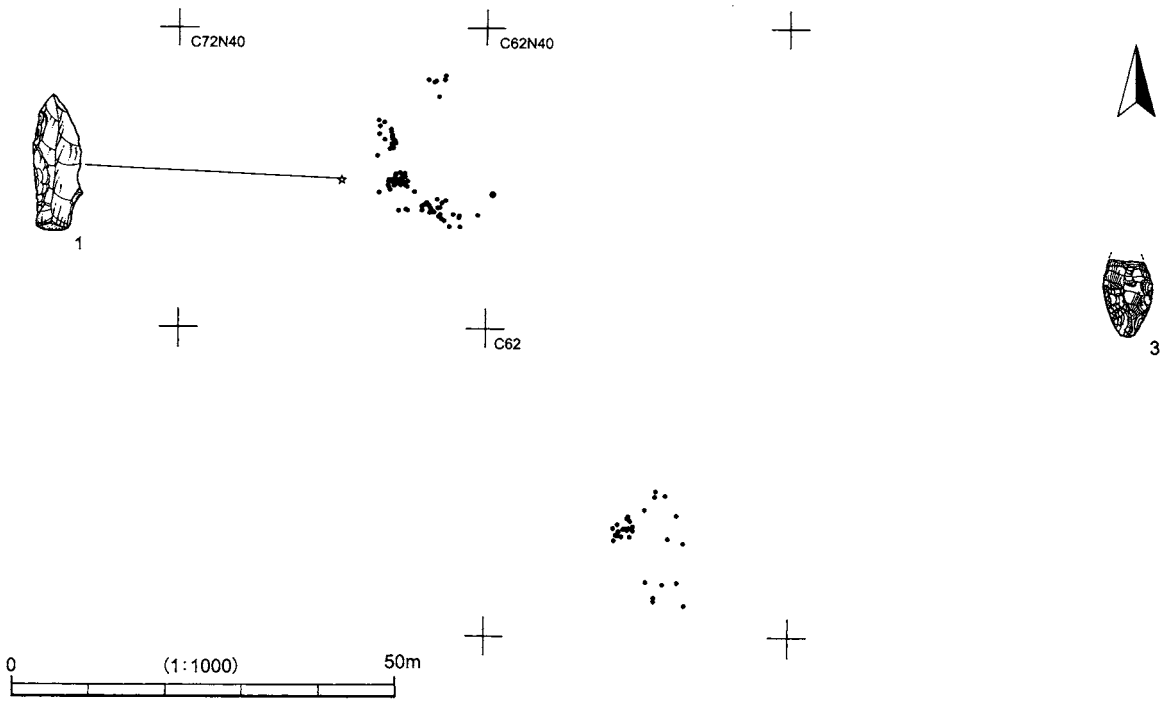
第6節　ブロック外出土遺物

ここでは，ブロックを形成していない遺物と上層遺構等に混在していた遺物について記述する（第296～298図）。

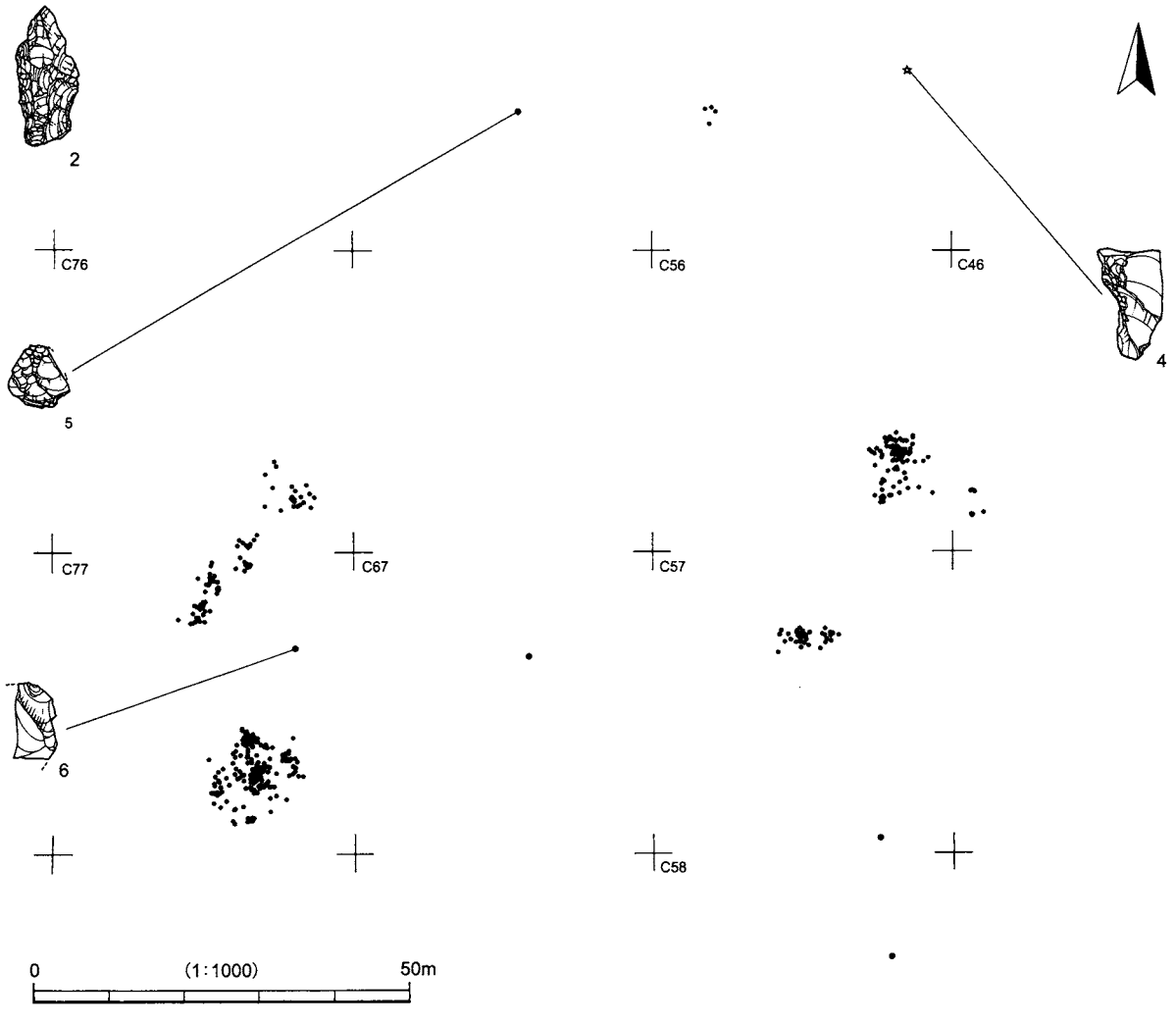
1は，黒灰色の安山岩によるナイフ形石器である。自然面を打面とする縦長剥片を素材とし，打面を基



第296図　草刈遺跡D区ブロック外出土遺物実測図



第297図　草刈遺跡Ｄ区ブロック外出土遺物分布図（１）



第298図　草刈遺跡Ｄ区ブロック外出土遺物分布図（２）

部端に残して左側縁に急角度の調整加工を行っている。また，裏面左側縁には大きさが不ぞろいで平坦な剥離面が見られる。C72N40-55-1グリッドのV層から出土した。C72N40-Cブロックから西に10mほどの位置で，このブロックに関連する可能性がある。2は，漆黒色不透明で夾雑物を多く含む黒曜石によるナイフ形石器である。栃木県高原山産と考えられる。縦長剥片を素材とし，左側縁全体と右側縁の基部寄りに調整加工を行っている。素材剥片の長軸と石器の主軸は概ね一致し，打面は基部端に残されている。上層遺構（060号）の覆土中から出土した。3は，黒色不透明の黒曜石による槍先形石器である。分析の結果，信州星ヶ塔産と推定された。剥片の打面側を基部に置き，周辺調整により全体を整えている。C72N40-35・45グリッドの黒褐色土層中から縄文時代の遺物に混在して出土した。4は，淡褐色で硬質緻密な東北産頁岩によるナイフ形石器である。石刃を素材とし，左側縁に表裏から調整加工を行っている。右側縁には刃こぼれがある。上半部は欠損するが，折れ面から裏面に細かな剥離痕が見られる。C55-38グリッドのVI層から出土した。5は，透明の地に青みがかった黒色の縞が入る黒曜石を用いた不定型の剥片である。C65-55グリッドのIII層から出土した。6は，暗紫色の玉髄による剥片である。C77-38グリッドのVI層から出土した。

第４章　草刈遺跡Ｅ区（219-029）

第１節　調査の概要

草刈遺跡Ｅ区では，旧石器時代の調査を昭和59年度に実施した。調査区は遺跡の北東部にあたり，千葉市と市原市とを画する茂呂谷津に面した，台地北側の緩斜面が中心である（第299図）。調査対象面積は20,000㎡で，はじめに４％の確認調査を行い，その結果に基づいて本調査を行った。調査の結果，18か所のブロックと７か所の単独出土地点を検出した。石器ブロックの数は多いものの，石器の出土総数は357点とあまり多くはなく，石器数が20点前後の小規模なブロックが台地北側縁辺部に集中する。

本調査区における18か所のブロックは，以下のとおり３枚の文化層に区分できる。文化層の設定は草刈遺跡東部全域で行ったため，本調査区では第４～６文化層ということになる。

第４文化層は，立川ローム層第２黒色帯上半部（Ⅶ～Ⅸ層上部）に包含される石器群で，122点の石器と６点の礫が４か所のブロック（C32-Ｃ・Ｄ，C33-Ｂ，C34-Ａブロック）から出土した。

第５文化層は，立川ローム層のⅥ層を中心に包含される石器群で，19点の石器と６点の礫が２か所のブロック（C32-Ｂ，C33-Ａブロック）から出土した。

第６文化層は，立川ローム層のソフトローム層下部（Ⅲ層）からハードローム層最上部（Ⅳ層）にかけて包含される石器群である。本調査区で資料的に最もまとまっている文化層で，179点の石器と25点の礫が12か所のブロック（C32-Ａ，C33-Ｃ，C34-Ｂ～Ｆ，C34E40-Ａ，C37-Ａ，C38-Ａ，C43-Ａ，C45-Ａブロック）から出土した。このうち，C32～C34グリッドを中心とする台地北側縁辺部に群在するブロックは，石器石材に上総丘陵砂礫層に由来すると考えられるホルンフェルスを主体的に利用している。いっぽう，C37・C38グリッドに位置する台地中央部のブロックは，信州産と考えられる黒曜石を多く利用している。後者のブロックは，やはり台地中央部の草刈遺跡Ｃ区C21-Ａブロックや Ｇ区C26-Ａブロックと石材構成のうえで共通点が多く，相互に関連する可能性が高い。編年的な時間差の有無については不明な点が多いが，いずれにしても両種のブロックを残した集団に活動領域や移動範囲に違いがあったと考えられる。

なお，本調査区の斜面地に限って，立川ローム層Ⅳ層中に黒色帯を確認しており，その上下を含めてⅣａ・Ⅳｂ・Ⅳｃ層と３区分した。斜面地であることから，ブロックとの詳細な対応関係は難しいが，編年の細別に関わる可能性が高い。

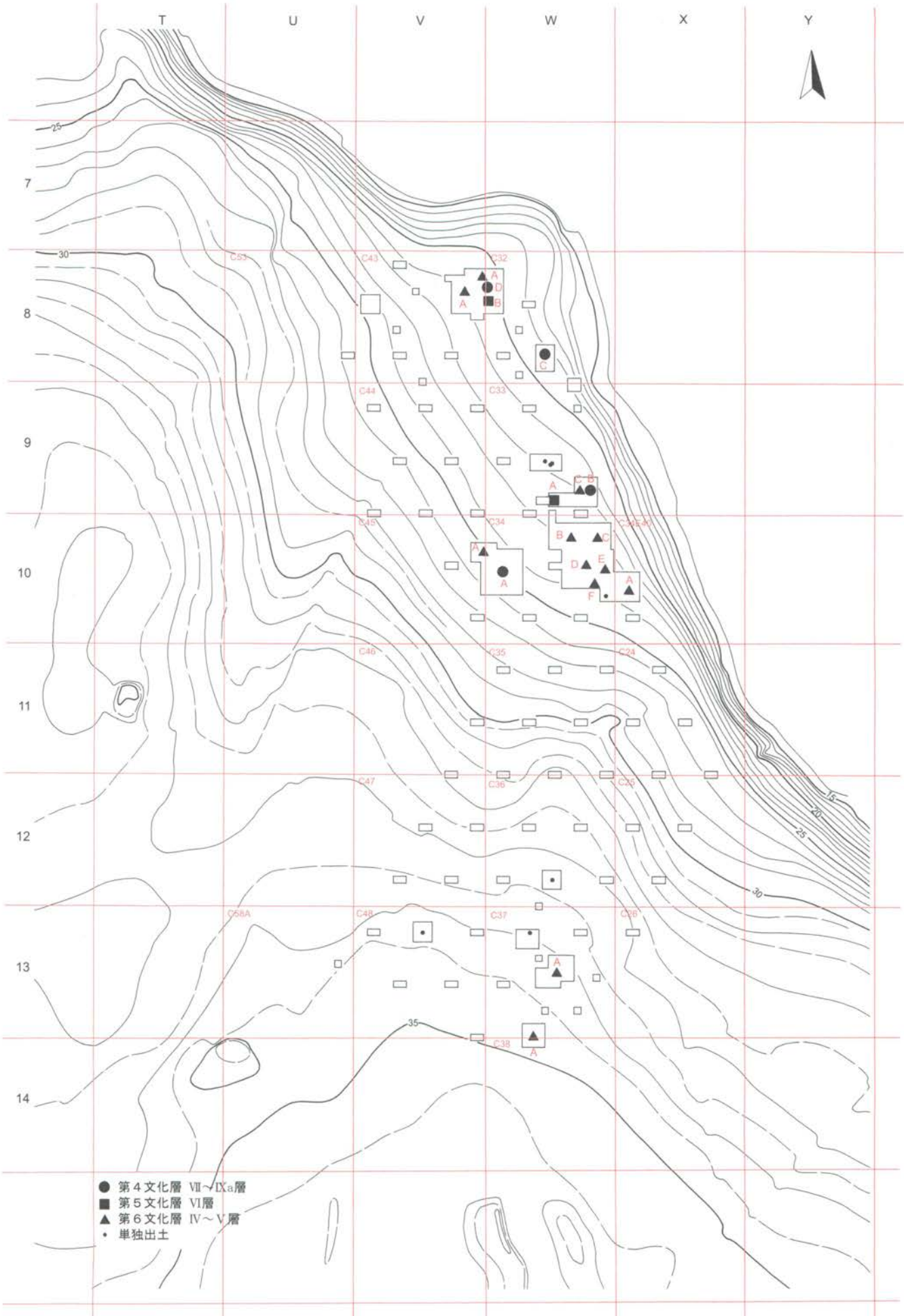
第２節　第４文化層

第４文化層は，立川ローム層第２黒色帯上半部（Ⅶ～Ⅸ層上部）に包含される石器群で，C32-Ｃ・Ｄ，C33-Ｂ，C34-Ａブロックの４か所が該当する。

１　C32-Ｃブロック（第300～302図，第103・104表）

１）ブロックの概要

C32-Ｃブロックは，調査範囲北端のC32-74・84グリッドに位置する。ブロックの立地は台地の北側縁辺部で，傾斜変換点からの距離は５ｍである。また，当該地は北東に向かって下る緩斜面である。



第299図　草刈遺跡Ｅ区旧石器時代調査概要図（1:1,600）

ブロックの規模と形状は，長軸４ｍ，短軸３ｍの楕円形の範囲に８点の石器が散漫に分布する。出土層位はⅦ・Ⅸａ層を中心としており，地形に沿って包含されている（第301・302図）。

ブロックは，使用痕ある剥片１点，剥片６点，石核１点の合計８点で構成され，石材は，黒曜石１点，安山岩３点，頁岩３点，珪質頁岩１点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは４母岩を識別した。内訳は，安山岩２母岩（C32-⑯・⑱），頁岩２母岩（C32-⑮・⑰）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は75％（６/８点）である。

・C32-⑮：黄白色で緻密な頁岩である。自然面と節理面の一部は褐色であるが，被熱による影響かも知れない。石器群の内訳は，剥片１点，石核１点の合計２点（57.8ｇ）である。分割礫を用いた石核を持ち込み，わずかながら剥片生産を行ったと考えられる。

・C32-⑯：灰白色に風化した安山岩で，白色の粒子が目立つ。剥片２点（合計8.2ｇ）で構成される。

・C32-⑰：暗褐色で硬質緻密な東北産頁岩である。使用痕ある剥片１点（3.4ｇ）の単独資料である。

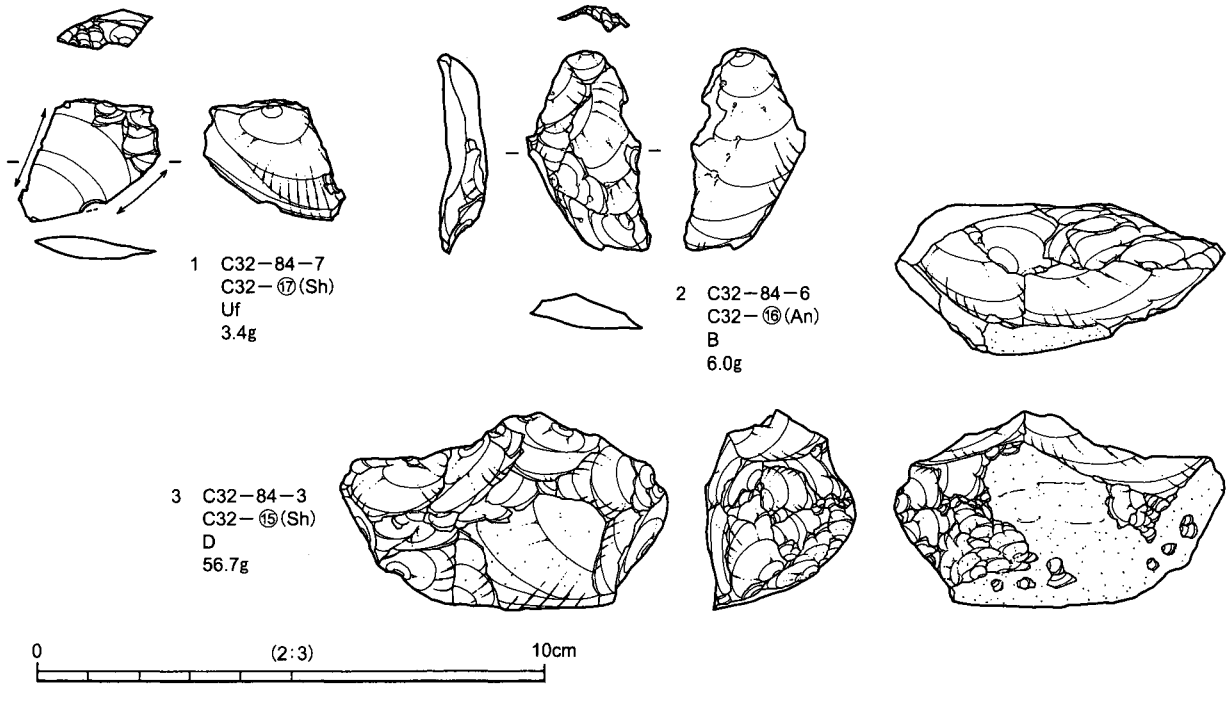
・C32-⑱：灰色に風化した，やや軟質の安山岩である。剥片１点（2.5ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石の剥片１点（0.5ｇ），珪質頁岩の剥片１点（0.2ｇ）がある。

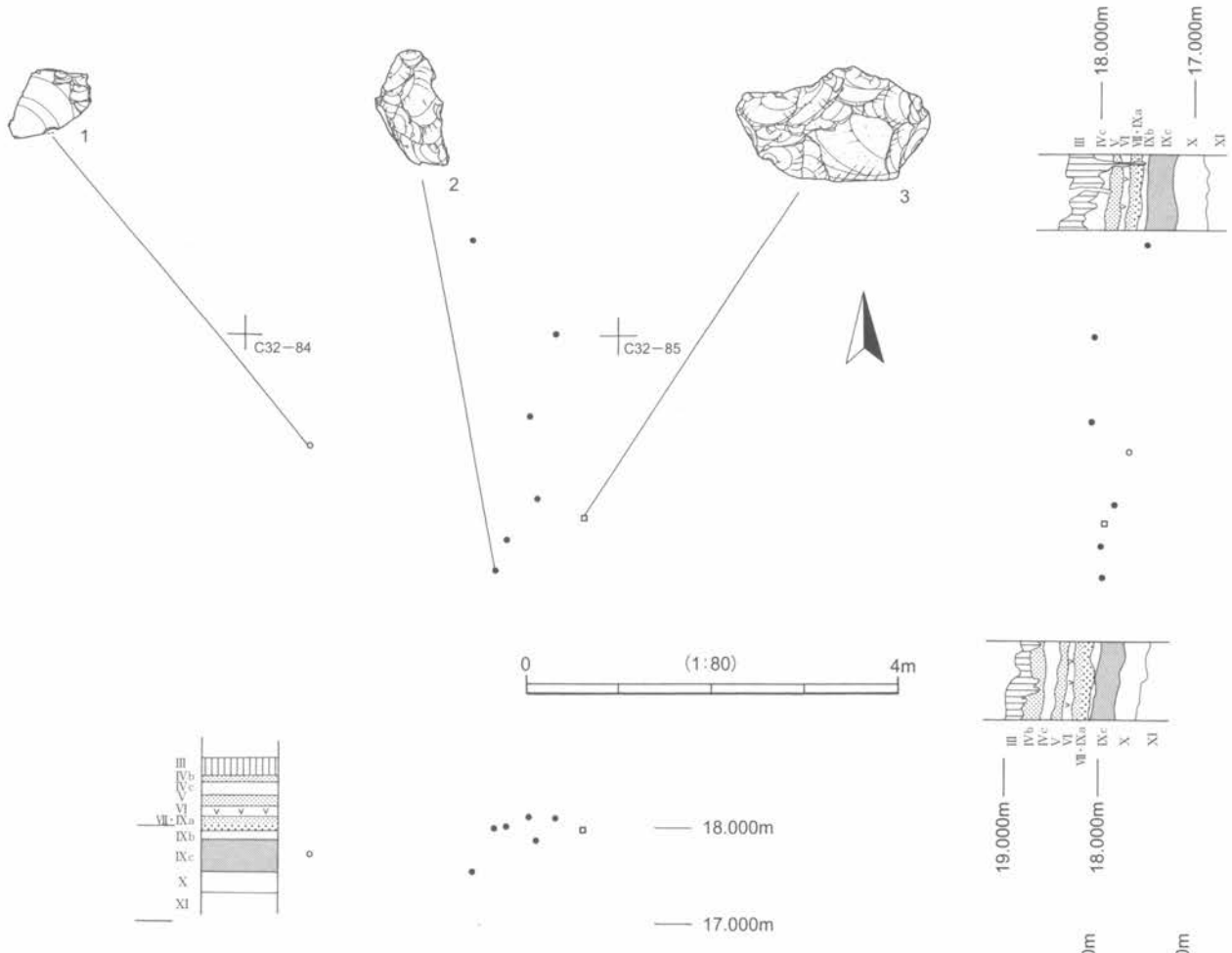
３）出土遺物（第300図）

１は，頁岩による不定型の剥片を利用した使用痕ある剥片である。表面の大きな剥離面はポジティブな剥離面であり，剥片素材の石核から剥離されたと考えられる。下総台地の東北産頁岩にしばしば見受けられる，石刃や剥片の再生に関与するものであろうか。

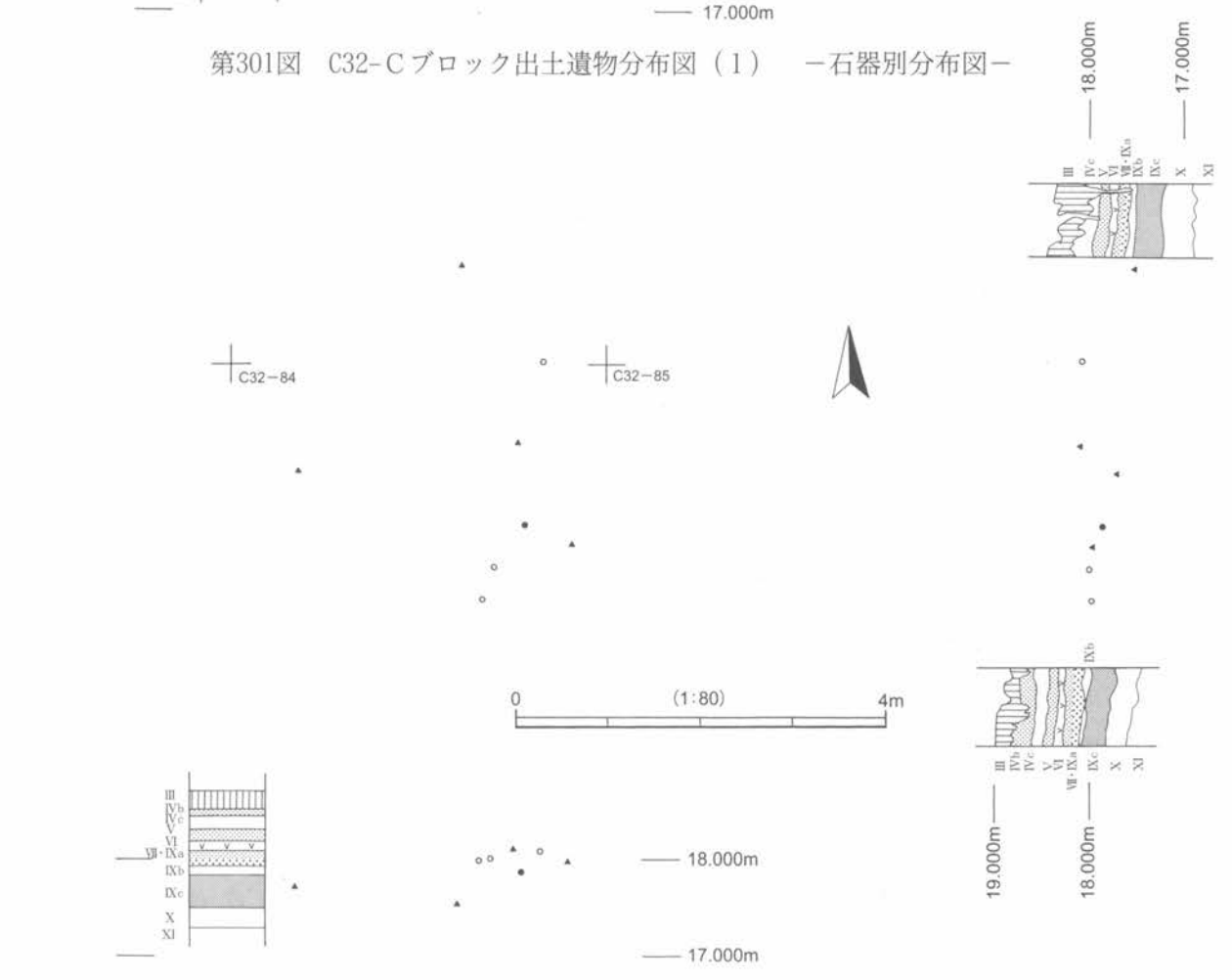
２は，安山岩による不定型の剥片である。表面は多方向からの剥離面によって構成されており，求心的



第300図　C32-Ｃブロック出土遺物実測図



第301図　C32-Cブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



第302図　C32-Cブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－

な剥離手順が想起される。

3は，頁岩の石核である。分割礫を素材としたもので，表面中央下部の大きな剥離面（節理面）が分割時の剥離面である。分割面側を中心にして，求心的な打点移動によって小型不定型の剥片を生産している。

第103表　C32-Cブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C32-⑮(Sh)																			1		1	2		2
C32-⑯(An)																			2			2		2
C32-⑰(Sh)											1											1		1
C32-⑱(An)																			1			1		1
その他(Ob)																			1			1		1
その他(Csh)																			1			1		1
合　計											1								6		1	8		8

第104表　C32-Cブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)																			1			1		1
安山岩(An)																			3			3		3
頁岩(Sh)											1								1		1	3		3
珪質頁岩(Csh)																			1			1		1
合　計											1								6		1	8		8

2　C32-Dブロック（第303～305図，第105・106表）

1）ブロックの概要

C32-Dブロックは，調査範囲北端のC43-19・29，C32-10・20・30グリッドに位置する。ブロックの立地は台地の北側縁辺部で，傾斜変換点付近である。また，当該地は北東に向かって下る緩斜面である。

ブロックの規模と形状は，長軸8m，短軸6mの範囲に12点の石器・礫が散漫に分布する。出土層位はIX層を中心としており，40cmほどの高低差をもって，地形に沿って包含されている（第303・304図）。

ブロックは，楔形石器1点，使用痕ある剥片2点，石刃1点，剥片3点，石核3点，礫2点の合計12点で構成される。石器石材は，安山岩3点，流紋岩1点，珪質頁岩5点，砂岩1点，礫石材は，安山岩1点，不明の火成岩1点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは9母岩を識別した。内訳は，安山岩3母岩（C32-②・⑲・㉑），流紋岩1母岩（C32-⑳），珪質頁岩4母岩（C32-㉒～㉕），砂岩1母岩（C32-㉖）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は83%（10/12点）である。

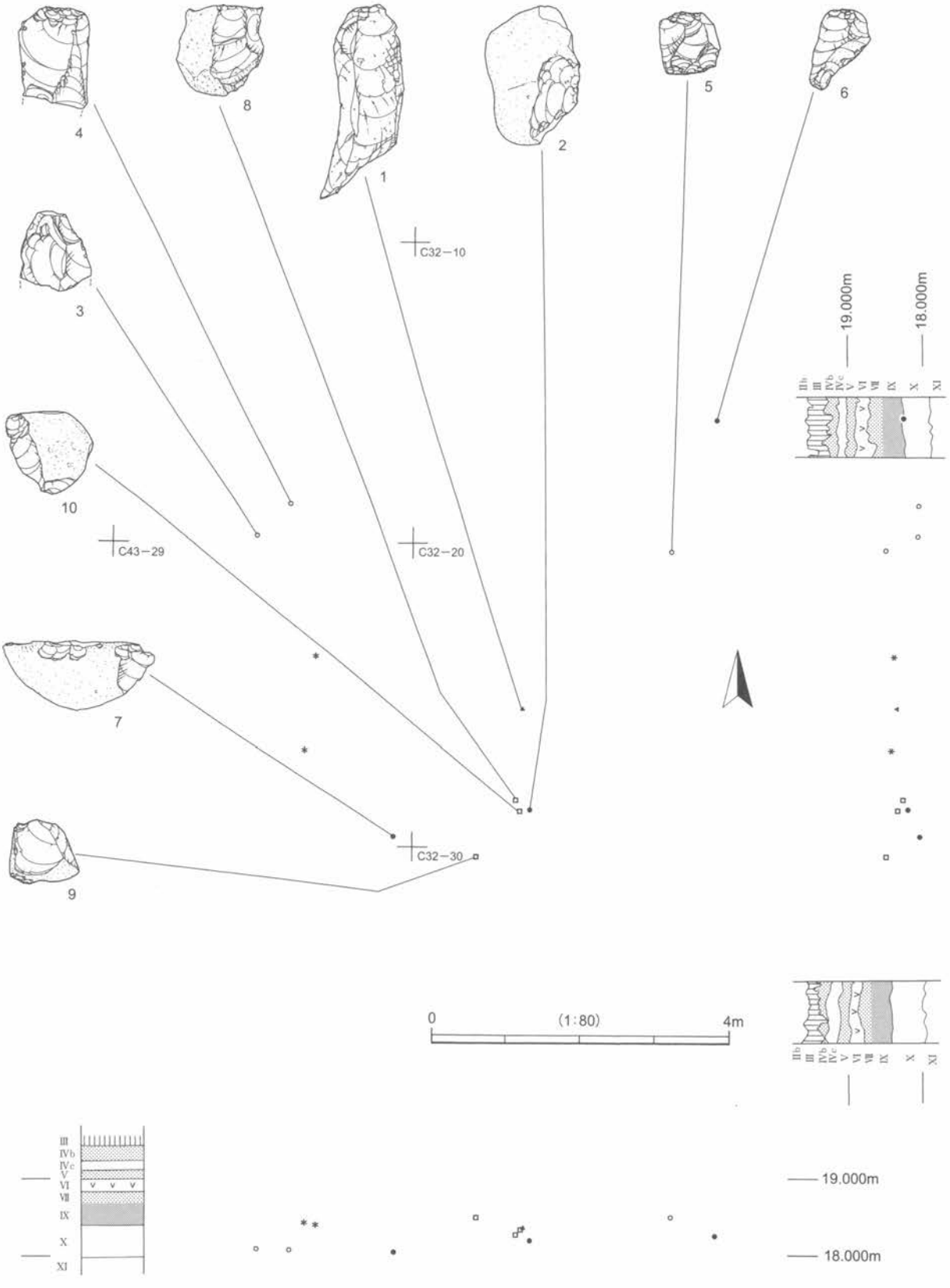
・C32-②：灰白色に風化した安山岩（トロトロ石）である。剥片1点（3.3g）の単独資料である。

・C32-⑲：黒みの強い黒灰色で硬質の安山岩である。白色の夾雑物が目立つ。石刃1点（26.1g）の単独資料である。

・C32-⑳：灰緑色で硬質な流紋岩である。部分的に黄白色できめの粗いところがある。石核1点（26.4g）の単独資料である。

・C32-㉑：黒みを帯びた灰色で質感の粗い安山岩である。白色の粒子が目立つ。自然面は緩やな曲面で，細かな凹凸は少ない。原石の大きさは，拳ほどの円礫と思われる。剥片1点（84.5g）の単独資料である。

・C32-㉒：自然面は橙褐色，内部は暗灰緑色の嶺岡産珪質頁岩である。楔形石器1点（8.7g）の単独資料である。



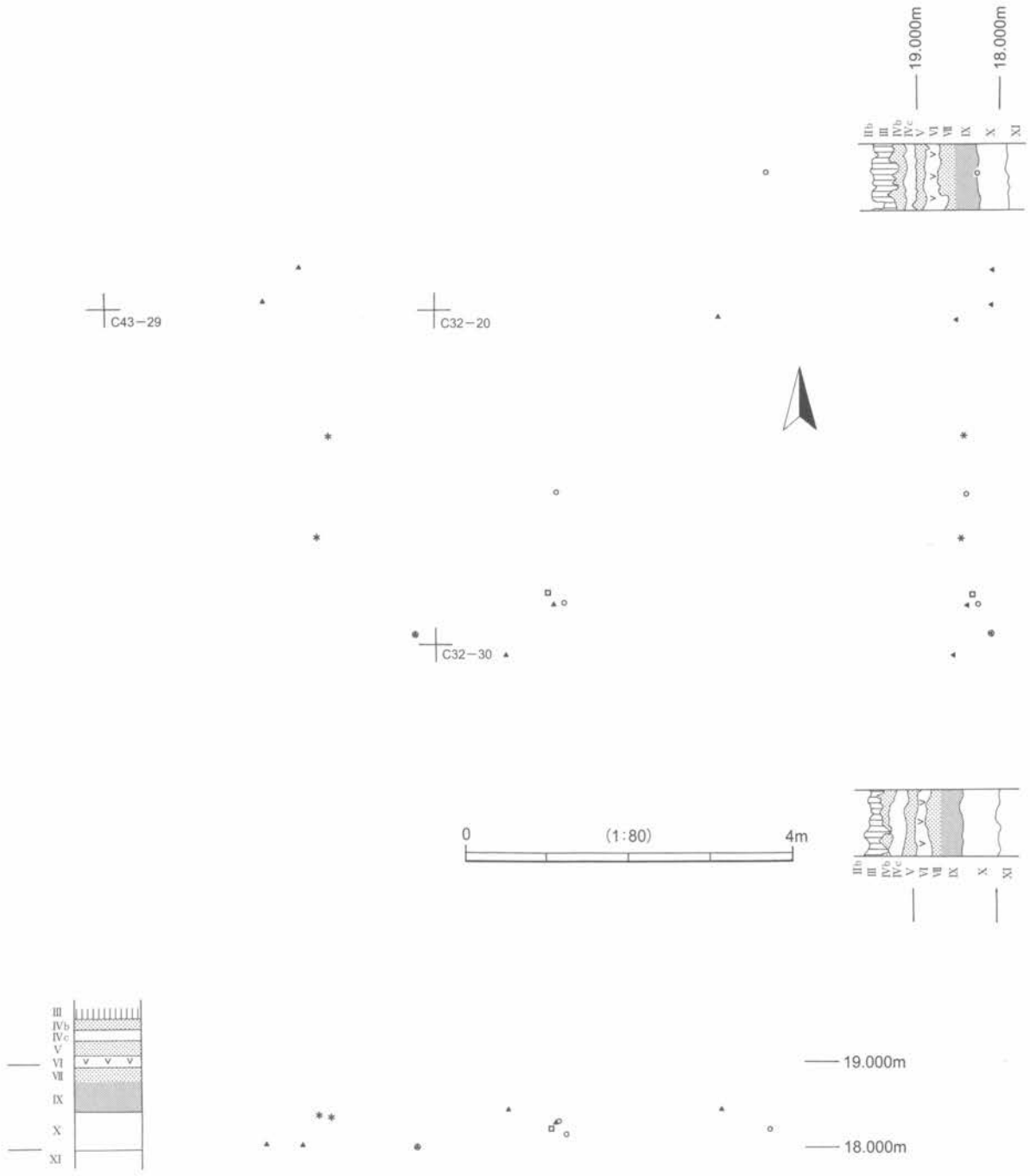
第303図　C32-Dブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－

・C32-㉓：自然面は淡褐色，内部は灰緑色で円形の斑が入る嶺岡産珪質頁岩である。自然面は滑らかな曲面で，原石は円礫である。石核２点（合計46.0ｇ）で構成される。

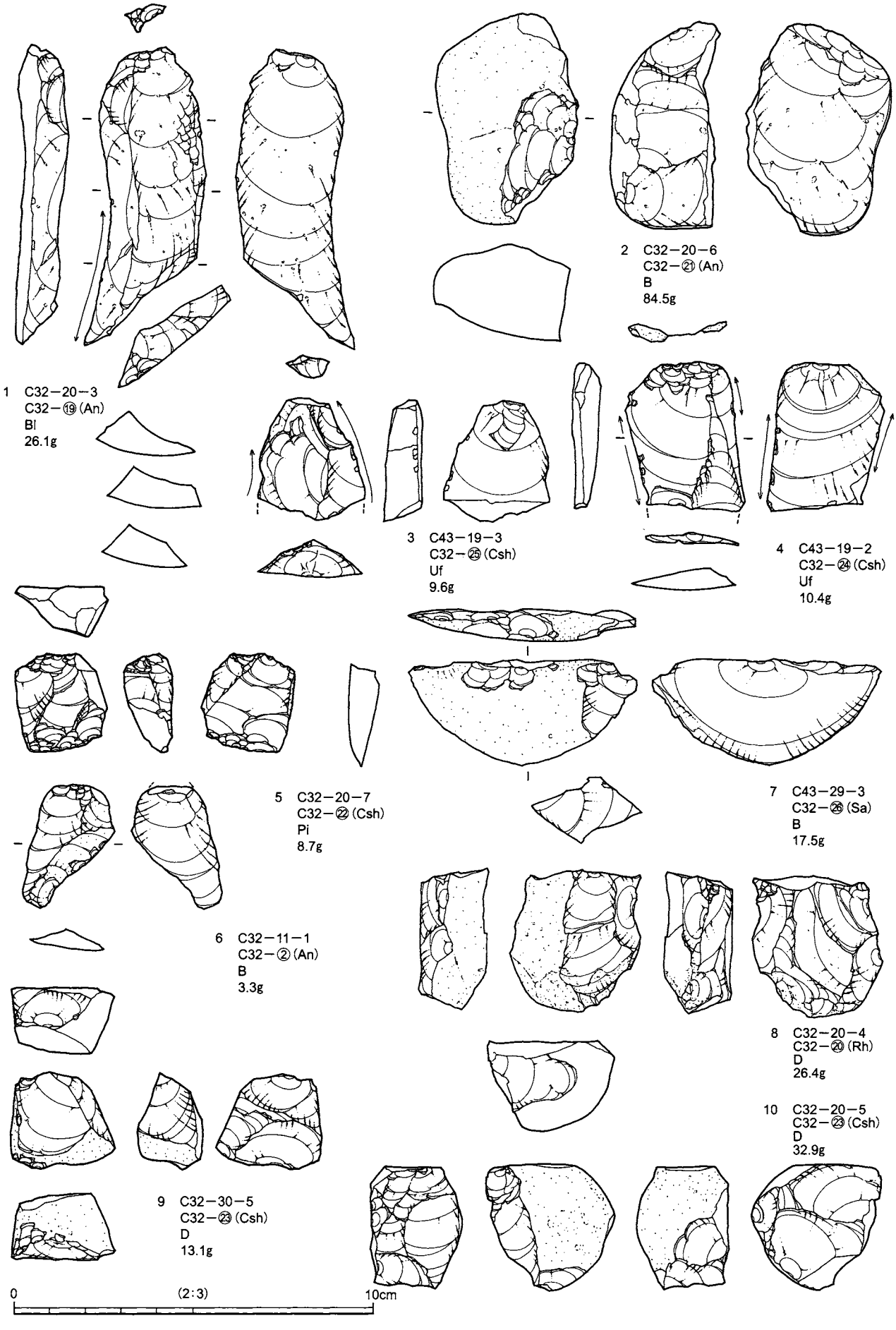
・C32-㉔：黄褐色の嶺岡産珪質頁岩である。褐色の縞が木目のように入っている。使用痕ある剥片１点（10.4ｇ）の単独資料である。

・C32-㉕：節理面は橙褐色，内部は淡灰緑色の嶺岡産珪質頁岩である。使用痕ある剥片１点（9.6ｇ）の単独資料である。

・C32-㉖：淡灰緑色を呈する硬質の砂岩である。剥片１点（17.5ｇ）の単独資料である。



第304図　C32-Dブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－



第305図　C32-Dブロック出土遺物実測図

3）出土遺物（第305図）

1は，安山岩による石刃である。左側面の全体及び右側面下半部は本石刃の剥離方向と直交する剥離面があり，石核整形の段階の剥離面と考えられる。左側縁の一部に刃こぼれが見られる。5は，珪質頁岩による楔形石器である。表裏の中央には素材時の剥離面が残る。上下端は細かく潰れており，右側面には楔形石器通有の，樋状の割れ口が見られる。

3・4は，珪質頁岩の縦長剥片を利用した使用痕ある剥片である。いずれも両側縁の鋭利な部分に刃こぼれがある。2・6・7は，各種石材による剥片である。2は，安山岩による厚手の剥片であるが，剥片というよりは礫の分割片というべきものである。石核の素材として持ち込まれたのであろうか。7は，砂岩円礫の一端を落とした横長剥片である。末端部は鋭利であるが，石器に加工されていない。8～10は，中・小型不定型の剥片を生産した石核である。円礫を分割して石核の素材とし，打面と作業面を入れ替えながら作業を行っている。

第105表　C32-Dブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C32-②(An)																			1			1		1
C32-⑲(An)												1										1		1
C32-⑳(Rh)																					1	1		1
C32-㉑(An)																			1			1		1
C32-㉒(Csh)									1													1		1
C32-㉓(Csh)																					2	2		2
C32-㉔(Csh)											1											1		1
C32-㉕(Csh)											1											1		1
C32-㉖(Sa)																			1			1		1
その他(An)																							1	1
その他(不明)																							1	1
合　計									1		2	1							3		3	10	2	12

第106表　C32-Dブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
安山岩(An)												1							2			3	1	4
流紋岩(Rh)																					1	1		1
不明																							1	1
珪質頁岩(Csh)									1		2										2	5		5
砂岩(Sa)																			1			1		1
合　計									1		2	1							3		3	10	2	12

3　C33-Bブロック（第306～308図，第107・108表）

1）ブロックの概要

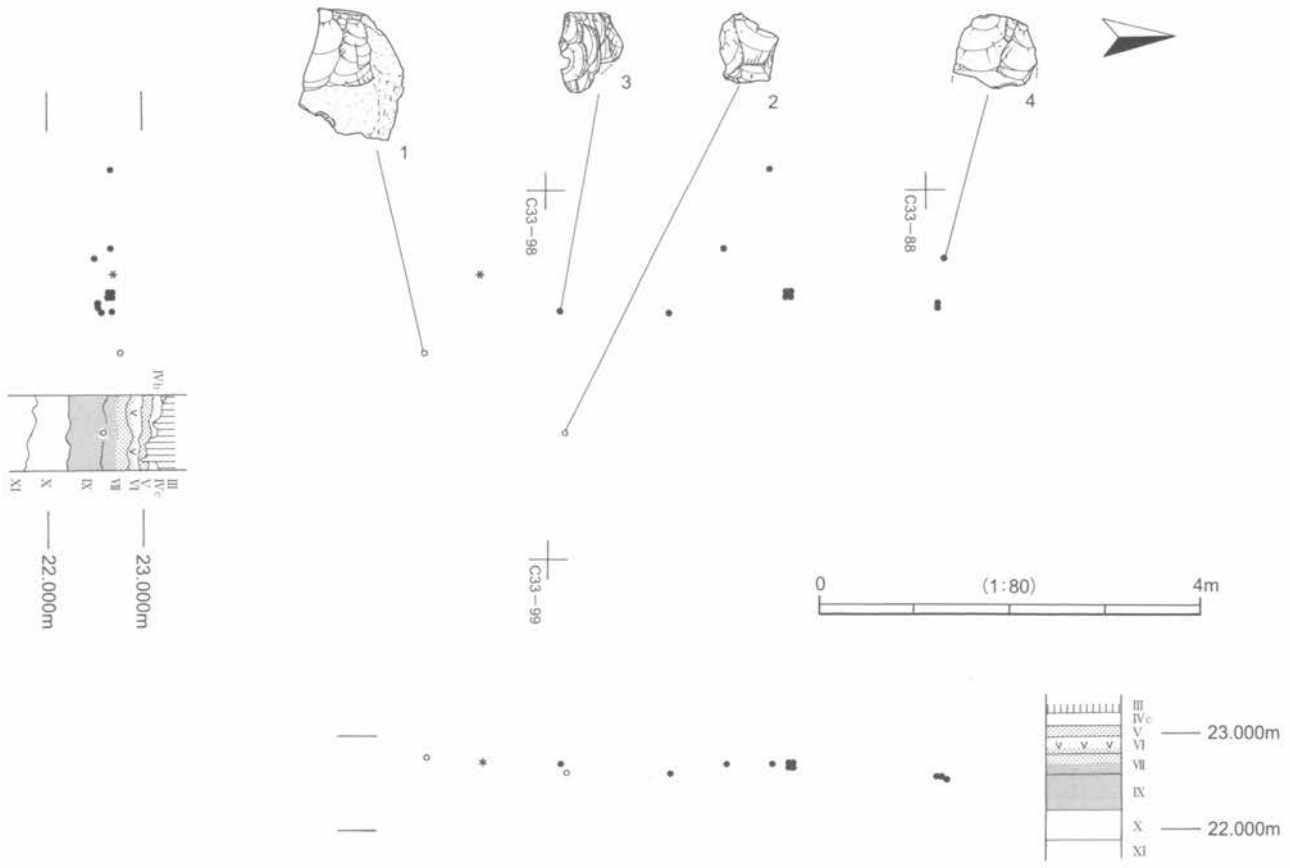
C33-Bブロックは，調査範囲北側のC33-78・87・88・98グリッドに位置する。ブロックの立地は台地の北側縁辺部で，傾斜変換点からの距離は15mほどである。また，当該地は北東に向かって下る緩斜面である。なお，本ブロックの上層（第6文化層）にC33-Cブロックがある。

ブロックの規模と形状は，長軸5m，短軸2mの範囲に14点の石器・礫が散漫に分布する。出土層位はⅦ層下部からⅨ層上部にかけてで，ほぼ水平に包含されている（第306・307図）。

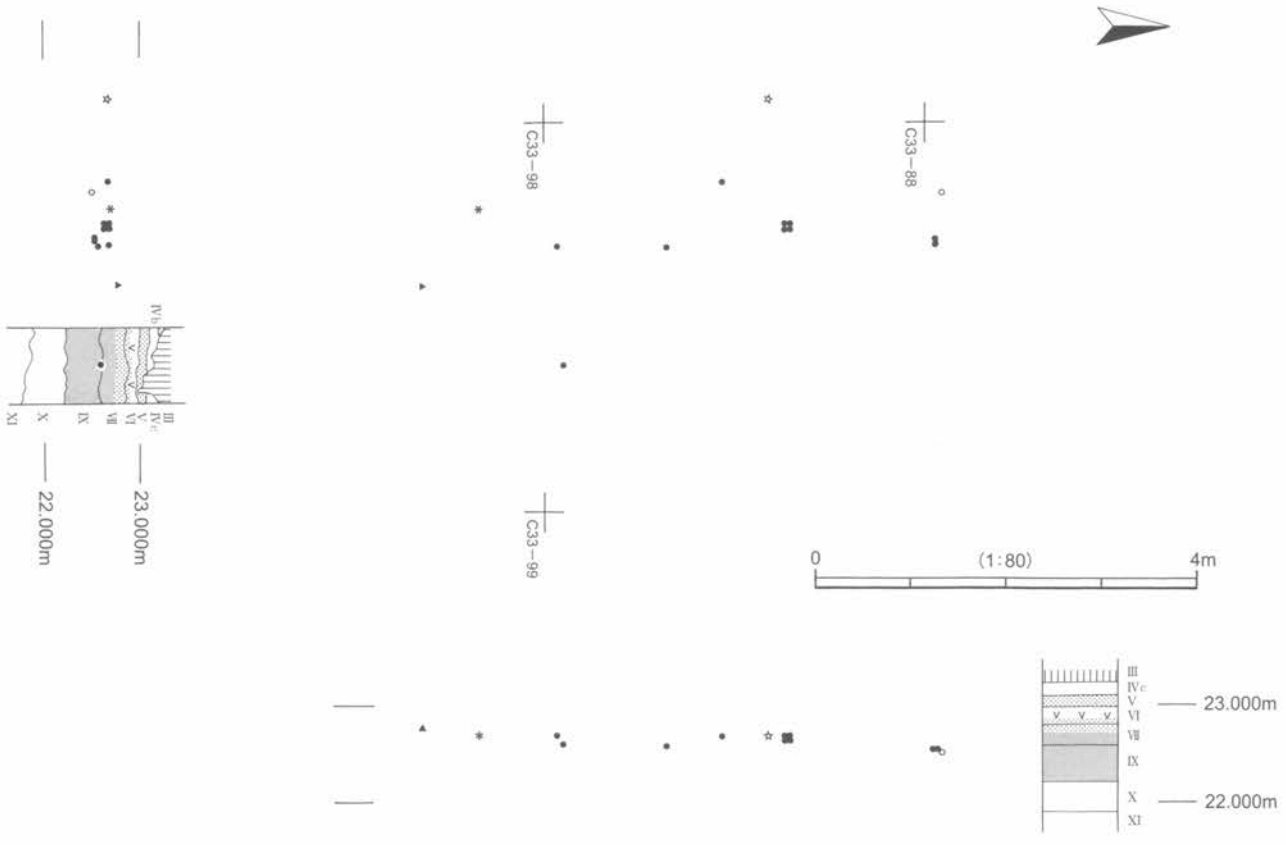
ブロックは，加工痕ある剥片1点，使用痕ある剥片1点，剥片11点，礫1点の合計14点で構成される。石器石材は，黒曜石10点，安山岩1点，頁岩1点，ホルンフェルス1点である。礫は流紋岩1点であるが，10cm×7cm×2cmの扁平な円礫で，被熱により赤化している。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは6母岩を識別した。内訳は，黒曜石3母岩（C33-⑦・⑨・⑩），安山岩1母岩（C33-⑧），頁岩1母岩（C33-⑫），ホルンフェルス1母岩（C33-⑤）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合



第306図　C33-Bブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



第307図　C33-Bブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－

は46％（6/13点）である。

・C33-⑤：黒灰色のホルンフェルスである。剥片１点（2.6ｇ）の単独資料である。

・C33-⑦：漆黒色不透明でφ２㎜ほどの夾雑物を含む黒曜石である。栃木県高原山産と考えられる。剥片１点（0.9ｇ）の単独資料である。

・C33-⑧：C32-⑲母岩に類似した質感であるが，やや淡い黒灰色の安山岩である。剥片１点（4.6ｇ）の単独資料である。

・C33-⑨：黒灰色半透明でφ１㎜ほどの夾雑物を含む黒曜石である。栃木県高原山産と考えられる。使用痕ある剥片１点（2.3ｇ）の単独資料である。

・C33-⑩：黒灰色に濁った黒曜石で，栃木県高原山産と考えられる。剥片１点（2.5ｇ）の単独資料である。

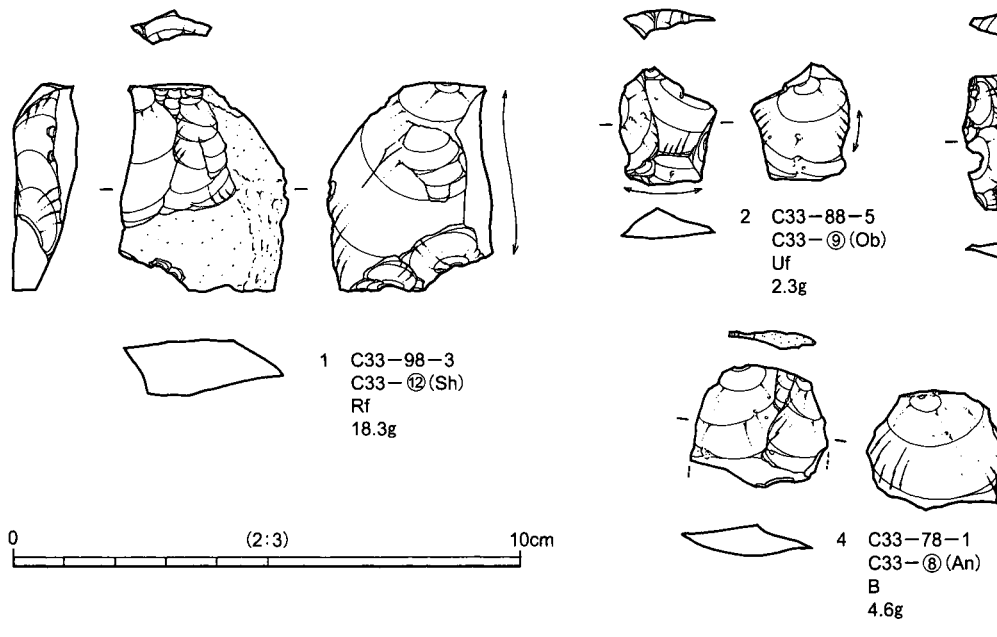
・C33-⑫：自然面と自然面に近い部分は褐色，内部は灰緑色の硬質緻密な頁岩である。加工痕ある剥片１点（18.3ｇ）の単独資料である。

第107表　C33-Ｂブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C33-⑤(Ho)																			1			1		1
C33-⑦(Ob)																			1			1		1
C33-⑧(An)																			1			1		1
C33-⑨(Ob)											1											1		1
C33-⑩(Ob)																			1			1		1
C33-⑫(Sh)										1												1		1
その他(Ob)																			7			7		7
C33R-③(Rh)																							1	1
合　計										1	1								11			13	1	14

第108表　C33-Ｂブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)											1								9			10		10
安山岩(An)																			1			1		1
流紋岩(Rh)																							1	1
頁岩(Sh)										1												1		1
ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ(Ho)																			1			1		1
合　計										1	1								11			13	1	14



第308図　C33-Ｂブロック出土遺物実測図

なお，母岩分類できなかった資料に黒曜石の剥片７点（合計2.1ｇ）がある。小型品であるが，概ね栃木県高原山産と考えられる。

３）出土遺物（第308図）

１は，頁岩による加工痕ある剥片である。打面で二つに割れた不定型の剥片を素材として，裏面の末端部に粗い調整加工を行っている。裏面右側の折れ面は鋭利な縁辺で，刃こぼれがある。

２は，黒曜石による不定型な剥片を利用した使用痕ある剥片，３・４は黒曜石，安山岩による不定型の剥片である。

４　C34-Aブロック（第309～311図，第109・110表）

１）ブロックの概要

C34-Aブロックは，調査範囲北側のC34-31・32・40～42・50～52，C45-59グリッドに位置する。ブロックの立地は台地の北側で，傾斜変換点からの距離は40mである。また，当該地は北東に向かって下る緩斜面である。

ブロックの規模と形状は，直径４mの範囲に石器・礫が密集し，その北側数mにわたって少量の石器が散在する。出土層位はⅨb層を中心としており，40㎝ほどの高低差をもって，地形に沿って包含されている（第309・310図）。

ブロックは，楔形石器１点，加工痕ある剥片１点，剥片47点（46個体），砕片40点，石核２点，礫３点の合計94点（93個体）で構成される。石器石材は，黒曜石79点，安山岩１点，頁岩10点，砂岩１点，礫石材は，安山岩１点，チャート１点，砂岩１点である。礫は，母岩分類できたものが１点（１母岩），母岩不明なものが２点ある。

石器は，その大半が２種類の母岩に帰属しており，剥片生産の形跡が窺える。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは２母岩を識別した。内訳は，黒曜石１母岩（C34-⑫），頁岩１母岩（C34-⑬）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は98％（89/91点）である。

・C34-⑫：漆黒色不透明で大小の夾雑物を多量に含む黒曜石である。自然面は平滑で，角礫と考えられる。栃木県高原山産の可能性が高い。石器群の内訳は，楔形石器１点，加工痕ある剥片１点，剥片37点（36個体），砕片40点の合計79点（78個体；69.6ｇ）である。接合資料は，剥片３点（２個体；合計24.6ｇ）によるものと，楔形石器１点，剥片１点（合計8.4ｇ）によるものの２グループがある。

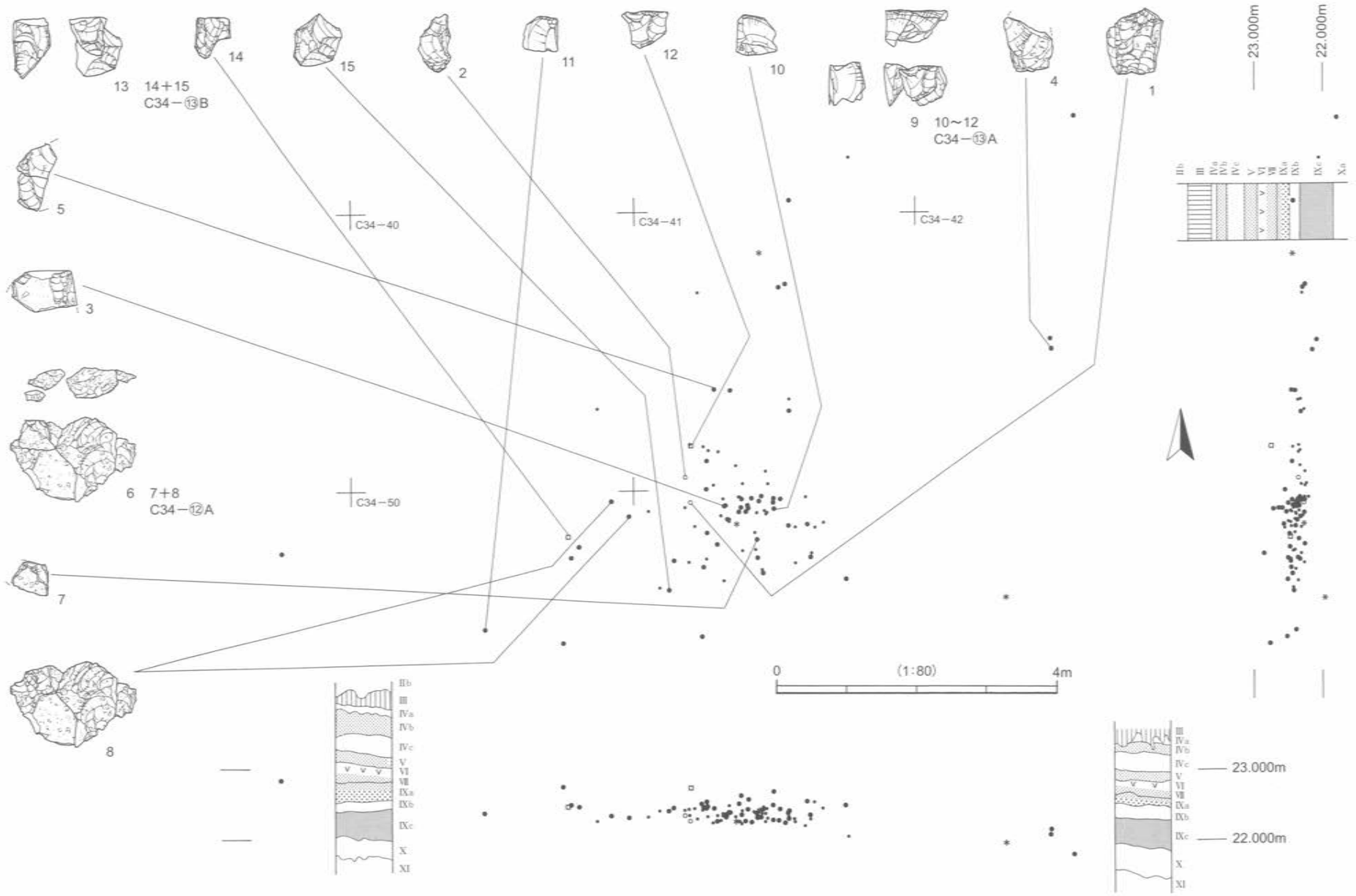
・C34-⑬：自然面は淡褐色，内部は淡い灰緑色で硬質緻密な頁岩である。よく珪化している。石器群の内訳は，剥片８点，石核２点の合計10点（15.9ｇ）である。接合資料は，剥片２点，石核１点（合計6.6ｇ）によるものと，剥片１点，石核１点（合計7.3ｇ）によるものの２グループがある。

なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩の剥片１点（0.8ｇ），砂岩の剥片１点（0.4ｇ）がある。

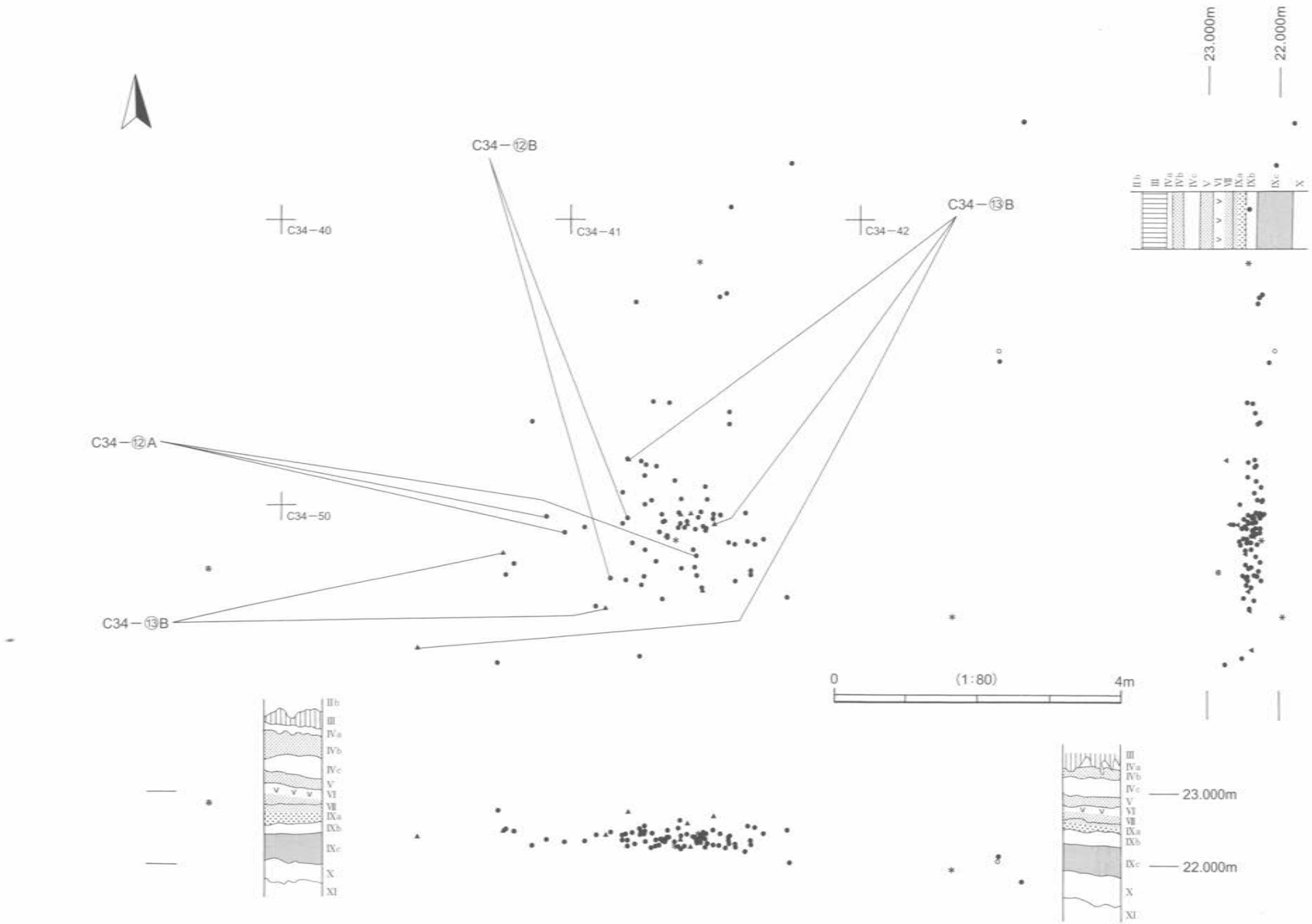
３）接合資料とその関連資料（第311図）

・C34-⑫（第311図１～８）　漆黒色不透明の黒曜石で，楔形石器１点，加工痕ある剥片１点，剥片37点（36個体），砕片40点で構成される。

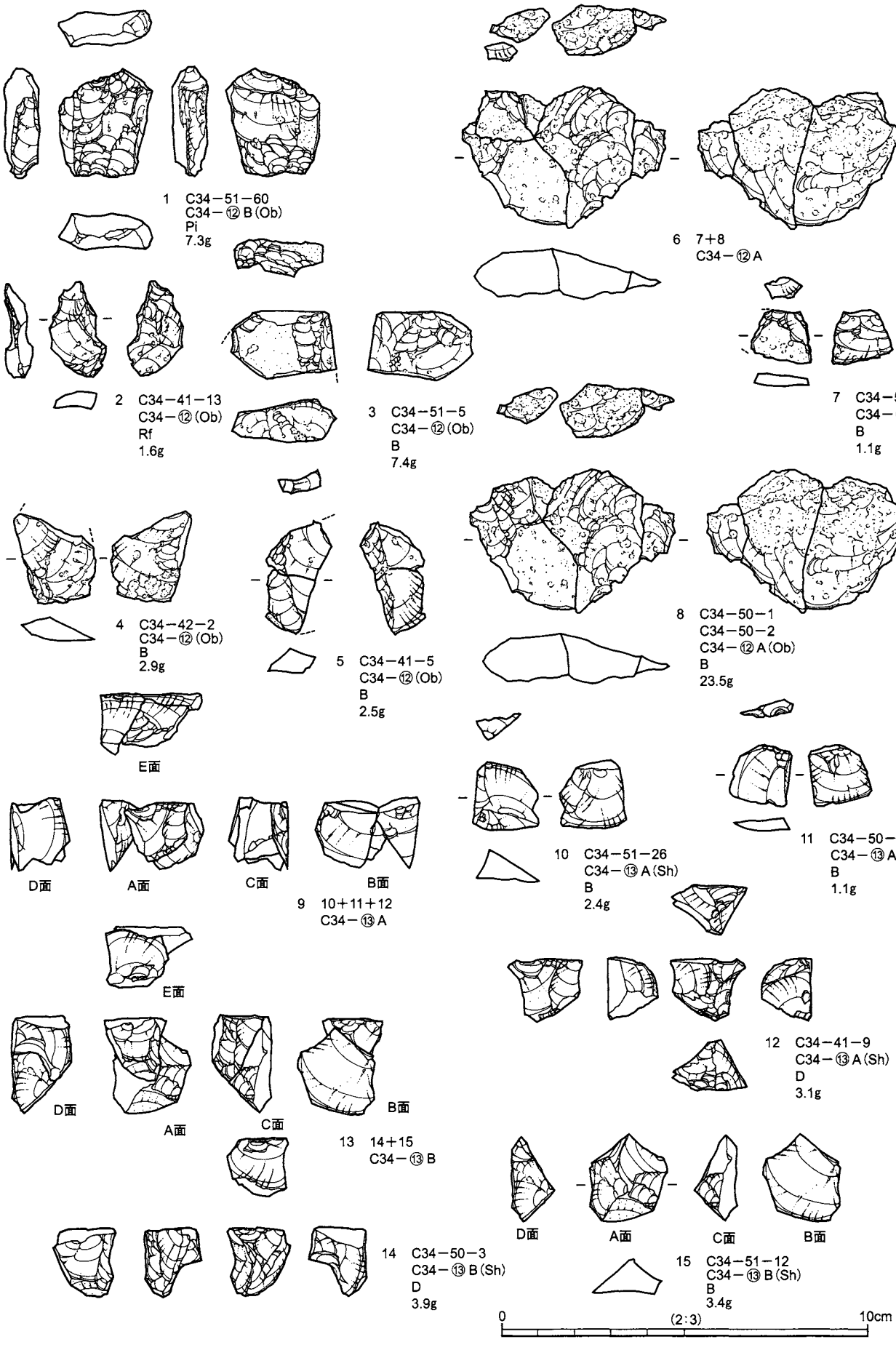
１は楔形石器である。上下両端が潰れ，左側面には楔形石器通有の上下方向の折れ面が見られる。素材



第309図　C34-Aブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



第310図　C34-Aブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－



第311図　C34-Aブロック出土遺物実測図

の主要剥離面は，表面中央に残っている。なお，図示していないが小型の剥片１点が裏面に接合する。２は，加工痕ある剥片である。薄手の不定型な剥片を素材として，左側縁に細かな調整加工を行っている。右側縁や下半部（素材剥片の打面側）は欠損しているが，不純物などの影響で欠損した剥片類が多いことから，剥離時に欠損した剥片を利用した可能性が高い。３～５は，不定型の剥片である。不純物の影響によって折れたものが多い。

６は，剥片３点（２個体；７・８）の接合資料である。７→８の順に不定型の剥片を剥離している。８は，剥離時に打点で二つに割れている。

以上のほかに，小型の剥片，砕片が多数あり，ブロック内で分割礫を素材とする石核を用いた剥片生産が行われたと考えられる。なお，先述したとおり，石質不良のためか折れた剥片が目立つが，接合資料が少ないことから，多少なりとも良好な剥片は搬出されたようである。

・C34-⑬（第311図９～15）　灰緑色の珪化した頁岩で，剥片８点，石核２点で構成される。

９は，剥片２点（10・11），石核１点（12）の接合資料である。中型厚手の剥片を石核の素材として，10はＡ面を打面，Ｄ面を作業面，11はＣ面を打面，Ｂ面を作業面として剥離している。両者の剥離順は不明であるが，打面と作業面を頻繁に換えながら，小型不定型の剥片を剥離する手順が窺える。石核は，最終的にサイコロ状になる。なお，12は褐色に変色しており，被熱した可能性がある。

13は，剥片１点（15），石核１点（14）の接合資料である。９と同様，中型厚手の剥片を石核として作業を進めているが，13のＢ面は石核素材時の主要剥離面である。したがって，13から剥離された15の主要剥離面は，Ｄ面ということなる。残った石核（14）は多方向からの剥離痕に覆われており，打面と作業面を転移する手順が想定される。

第109表　C34-Ａブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C34-⑫(Ob)									1	1									37(36)	40		79(78)		79(78)
C34-⑬(Sh)																			8		2	10		10
その他(An)																			1			1		1
その他(Sa)																			1			1		1
C34R-①(An)																							1	1
その他(Ch)																							1	1
その他(Sa)																							1	1
合　計									1	1									47(46)	40	2	91(90)	3	94(93)

第110表　C34-Ａブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)									1	1									37(36)	40		79(78)		79(78)
安山岩(An)																			1			1	1	2
頁岩(Sh)																			8		2	10		10
チャート(Ch)																							1	1
砂岩(Sa)																			1			1	1	2
合　計									1	1									47(46)	40	2	91(90)	3	94(93)

第３節　第５文化層

第５文化層は，立川ローム層のⅥ層を中心に包含される石器群で，C32-B，C33-Ａブロックが該当する。

１　C32-Ｂブロック（第312～314図，第111・112表）

１）ブロックの概要

C32-Ｂブロックは，調査範囲北端のC32-30・40，C43-39グリッドに位置する。ブロックの立地は台地の北側縁辺部で，傾斜変換点からの距離は20ｍである。また，当該地は北東に向かって下る緩斜面である。

ブロックの規模と形状は，直径７ｍの範囲に16点の石器・礫が散漫に分布する。出土層位はⅥ層を中心とするが，高低差が大きい（第312・313図）。

ブロックは，ナイフ形石器２点，楔形石器１点，使用痕ある剥片３点，石刃２点，剥片４点，礫４点の合計16点で，石器石材は，頁岩３点，珪質頁岩５点，チャート２点，メノウ２点，礫石材は，流紋岩２点，チャート１点，砂岩１点である。

礫は，母岩分類できたものが４点（４母岩）であるが，遺存状態は，いずれも1/2以下である。

石器製作作業の形跡がなく，搬入品で構成されるブロックである。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは11母岩を識別した。内訳は，頁岩３母岩（C32-⑧・⑨・⑪），珪質頁岩５母岩（C32-⑩・⑫～⑭・㉘），チャート１母岩（C32-㉗），メノウ２母岩（C32-⑥・⑦）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（12/12点）である。

・C32-⑥：明橙褐色で透明感のないメノウである。石質は比較的均質である。楔形石器１点（6.5ｇ）の単独資料である。

・C32-⑦：青みがかる灰色の地に青灰色の縞が入るメノウ（玉髄）である。剥片１点（3.1ｇ）の単独資料である。

・C32-⑧：暗褐色で硬質緻密な東北産頁岩である。ナイフ形石器１点（9.7ｇ）の単独資料である。

・C32-⑨：淡褐色で硬質緻密な東北産頁岩である。ナイフ形石器１点（1.0ｇ）の単独資料である。

・C32-⑩：節理面は橙褐色，内部は灰緑色を呈する嶺岡産珪質頁岩である。使用痕ある剥片１点（3.4ｇ）の単独資料である。

・C32-⑪：自然面は褐色，内部は灰白色の頁岩である。石刃１点（13.4ｇ）の単独資料である。

・C32-⑫：濃淡のある灰緑色を呈する嶺岡産珪質頁岩である。石刃１点（23.3ｇ）の単独資料である。

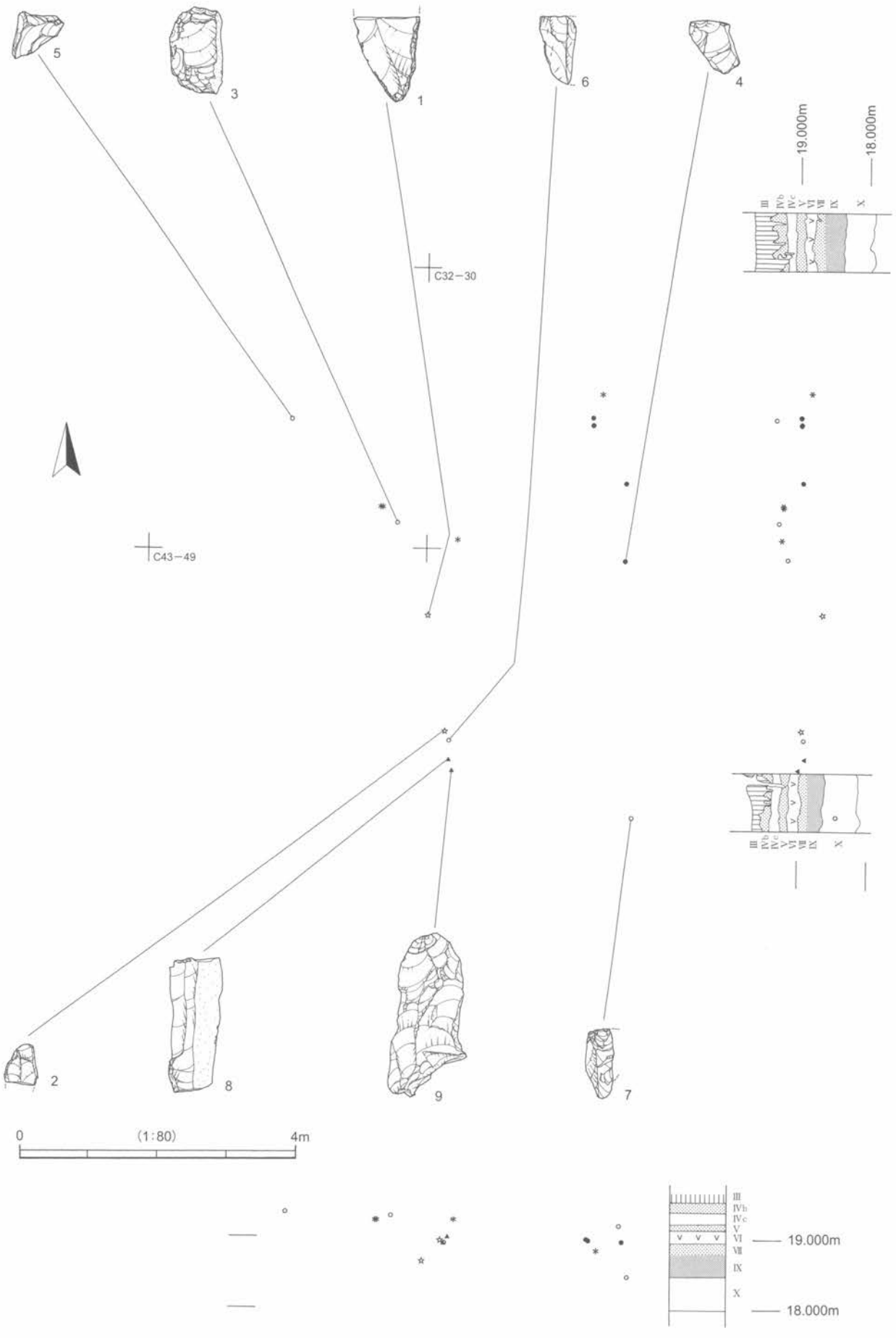
・C32-⑬：灰褐色の地に黒紫色の斑がある嶺岡産珪質頁岩である。使用痕ある剥片１点（2.6ｇ）の単独資料である。

第111表　C32-Ｂブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C32-⑥(Ag)									1													1		1
C32-⑦(Ag)																			1			1		1
C32-⑧(Sh)	1																					1		1
C32-⑨(Sh)	1																					1		1
C32-⑩(Csh)											1											1		1
C32-⑪(Sh)												1										1		1
C32-⑫(Csh)												1										1		1
C32-⑬(Csh)											1											1		1
C32-⑭(Csh)											1											1		1
C32-㉗(Ch)																			2			2		2
C32-㉘(Csh)																			1			1		1
C32R-⑦(Rh)																							1	1
C32R-⑧(Sa)																							1	1
C32R-⑩(Ch)																							1	1
C32R-⑪(Rh)																							1	1
合　計	2								1		3	2							4			12	4	16

第112表　C32-Ｂブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
流紋岩(Rh)																							2	2
頁岩(Sh)	2											1										3		3
珪質頁岩(Csh)											3	1							1			5		5
チャート(Ch)																			2			2	1	3
砂岩(Sa)																							1	1
メノウ(Ag)									1										1			2		2
合　計	2								1		3	2							4			12	4	16

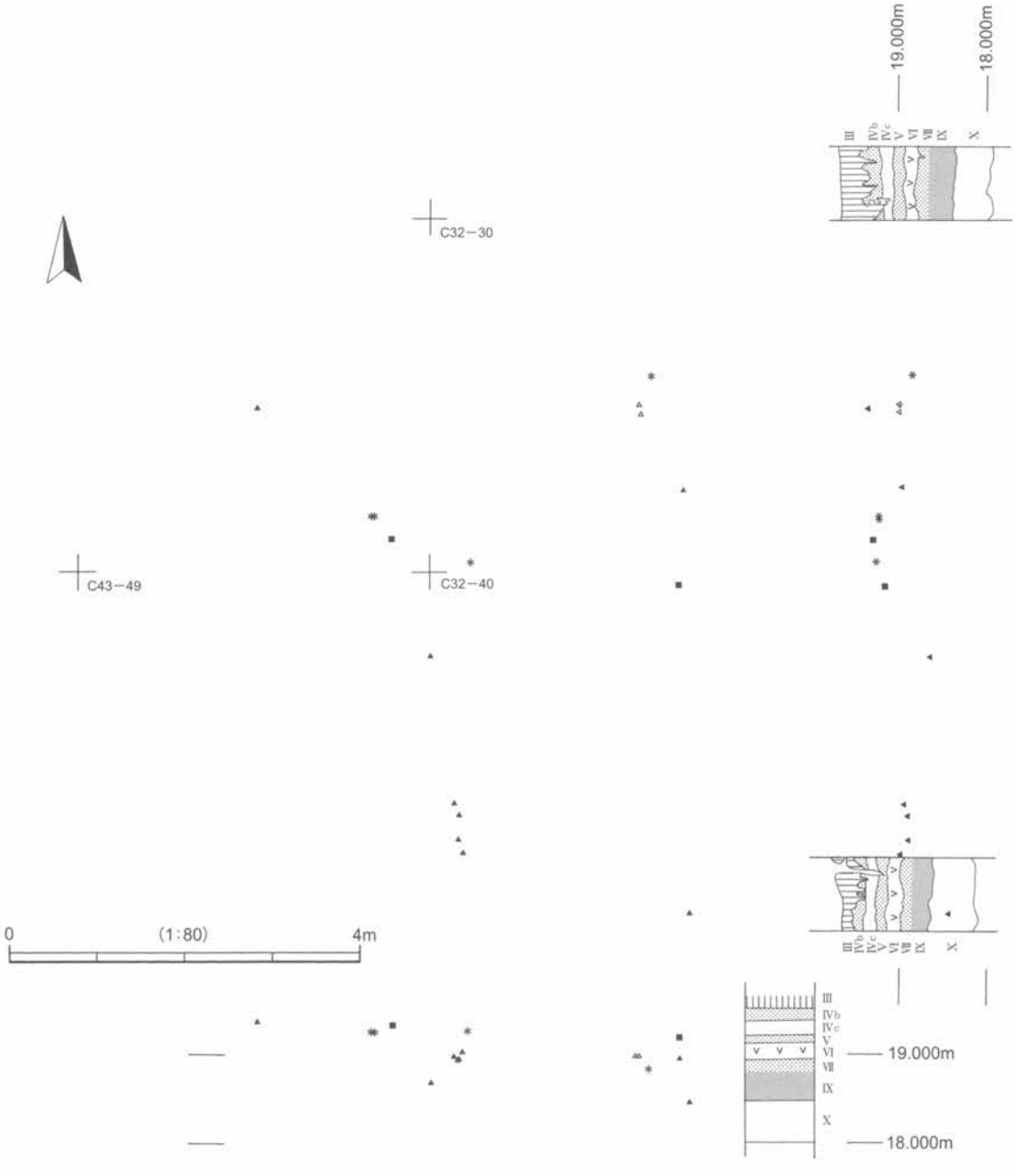


第312図　C32-Bブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－

・C32-⑭：自然面に近いところは明橙褐色，内部は黄色みを帯びた灰色の嶺岡産珪質頁岩である。使用痕ある剥片１点（1.９g）の単独資料である。
・C32-㉗：自然面は褐色，内部は暗い青灰色のチャートである。剥片２点（合計2.８g）で構成される。
・C32-㉘：灰色の地に，黒紫色の斑が入る嶺岡産珪質頁岩である。剥片１点（0.８g）の単独資料である。

3）出土遺物（第314図）

１は，頁岩の石刃を用いたナイフ形石器である。欠損するため形態は不明であるが，右側縁の全体と左側縁の一部に調整加工が見られることから，２側縁調整のナイフ形石器の基部側と考えられる。左側縁には刃こぼれがある。２も頁岩の石刃によるナイフ形石器である。左側縁に調整加工が見られるが，大きく欠損するため形態は不明である。ナイフ形石器の先端部として実測図を表現したが，端部が鋭利でないこ

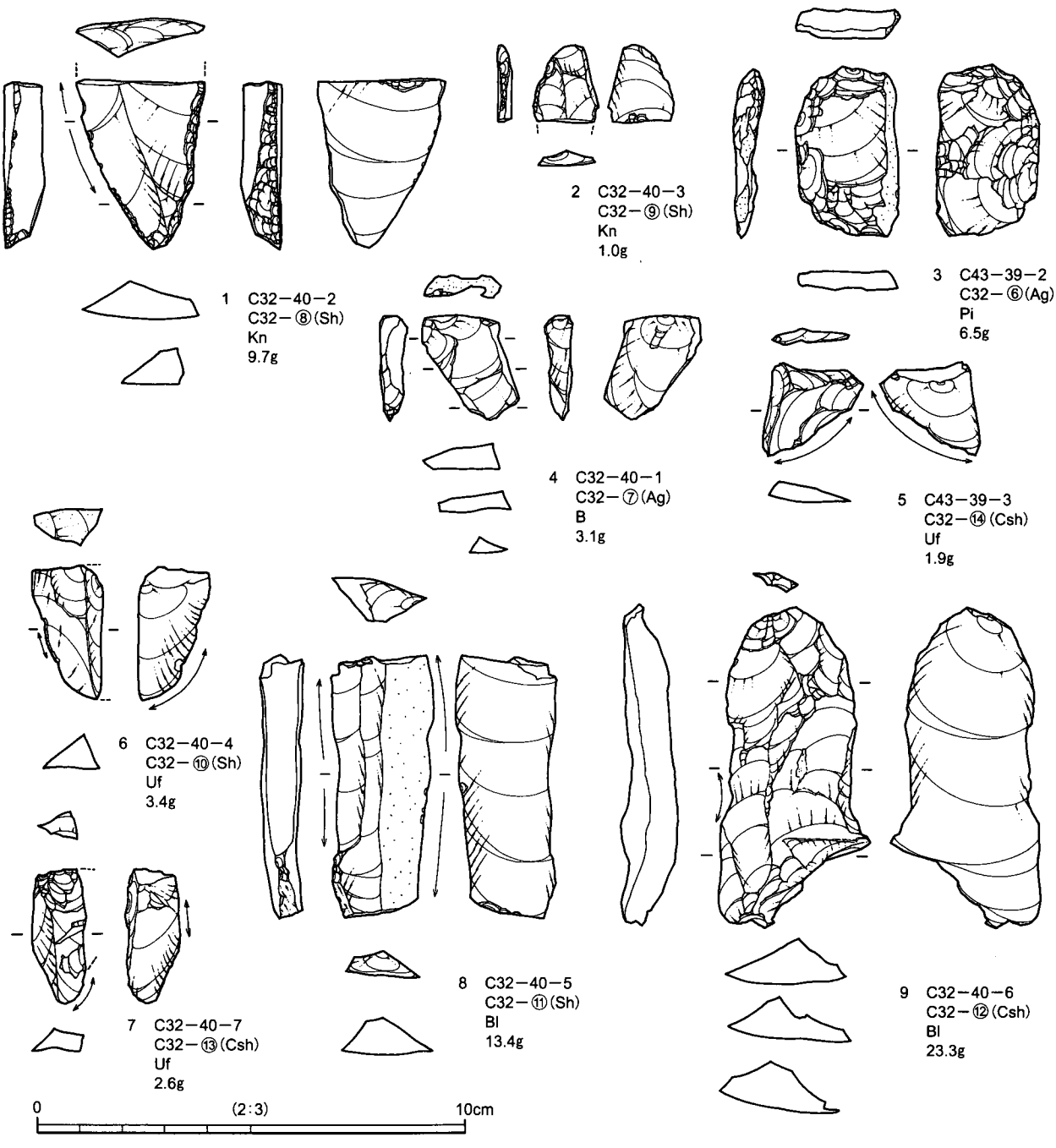


第313図　C32-Ｂブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－

とから，未製品あるいは基部側の可能性もある。

３はメノウによる楔形石器である。薄手の不定型な剥片を素材としており，素材の主要剥離面が裏面上部に残る。左右両側面に自然面が見られることから，扁平な円礫を用いた石核から剥離された可能性が高い。石の目がきつく，表裏面は平坦な反面，周囲の調整加工は階段状になっている。

８は頁岩による石刃である。１・２のナイフ形石器は東北産頁岩によるものと考えられるが，本例は北関東方面に由来する頁岩かも知れない。打面及び末端部を欠失するが，石器として利用するために行った切断の可能性がある。両側縁に刃こぼれがある。９は，珪質頁岩による石刃である。県南嶺岡産と考えら



第314図　C32-Bブロック出土遺物実測図

れる。表面は上下両方向からの剥離面で構成されており，両設打面の石核から剥離されたと考えられる。５～７は，珪質頁岩による不定型の剥片を利用した使用痕ある剥片である。

２　C33-Aブロック（第315～317図，第113・114表）

１）ブロックの概要

C33-Aブロックは，調査範囲北側のC33-86・95・96グリッドに位置する。ブロックの立地は台地の北側縁辺部で，傾斜変換点からの距離は20mである。また，当該地は北東に向かって下る緩斜面である。

ブロックの規模と形状は，直径４mの範囲に９点の石器・礫が散漫に分布する。出土層位はⅥ層を中心としており，40cmほどの高低差で地形に沿って包含されている（第316・317図）。

ブロックは，尖頭器１点，剥片６点，礫２点の合計９点で構成される。石器石材は，黒曜石１点，頁岩３点，凝灰岩３点，礫石材は，流紋岩１点，砂岩１点である。礫は，２点とも母岩分類できた（２母岩）。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは４母岩を識別した。内訳は，頁岩３母岩（C33-②～④），凝灰岩１母岩（C33-①）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は86%（６/７点）である。

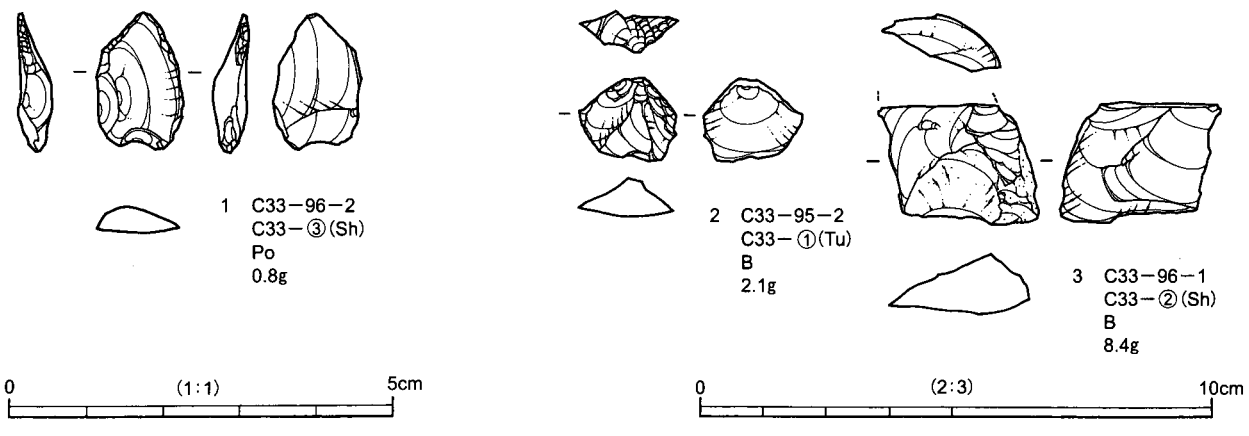
・C33-①：灰緑色の珪化した凝灰岩である。剥片３点（合計3.5ｇ）で構成される。
・C33-②：自然面は黄灰色，内部は褐色を呈する硬質の東北産頁岩である。剥片１点（8.4ｇ）の単独資料である。
・C33-③：暗褐色を呈する硬質緻密な東北産頁岩である。尖頭器１点（0.8ｇ）の単独資料である。
・C33-④：淡褐色で硬質緻密な東北産頁岩である。剥片１点（1.3ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料には黒曜石の剥片１点（0.4ｇ）がある。黒色不透明で夾雑物を含んでおり，栃木県高原山産と考えられる。

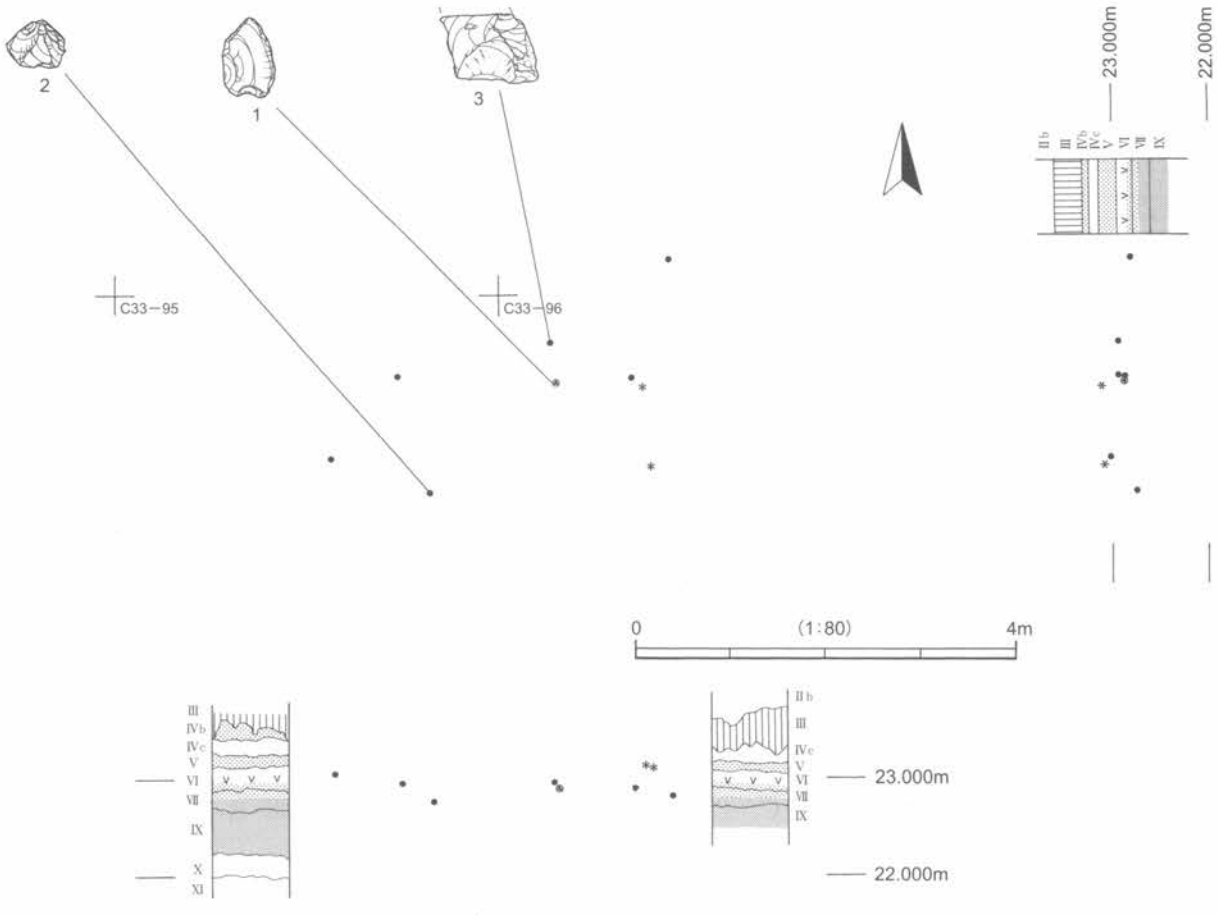
３）出土遺物（第315図）

１は東北産頁岩による「尖頭器」とした資料で，素材は小型不定型の剥片を用いている。素材を横位に用い，素材の打面を残して，主要剥離面側の先端と基部に細かな調整加工を行っている。あたかも不出来な石鏃といった面もちである。

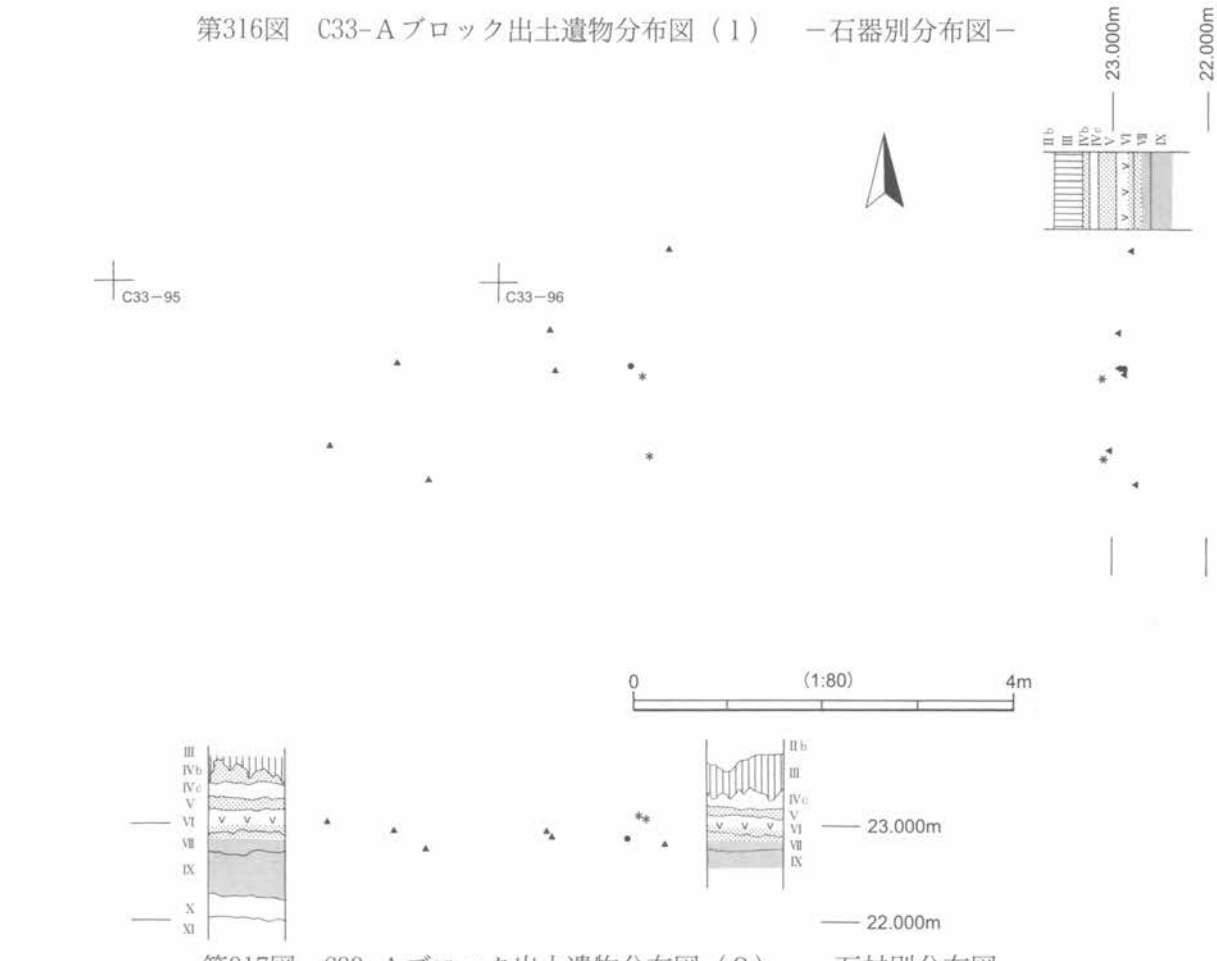
２は凝灰岩による小型不定型の剥片，３は頁岩による剥片の下半部である。表面は多方向からの剥離面



第315図　C33-Aブロック出土遺物実測図



第316図　C33-Aブロック出土遺物分布図（1）　−石器別分布図−



第317図　C33-Aブロック出土遺物分布図（2）　−石材別分布図−

で覆われている。

第113表　C33-Aブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C33-①(Tu)																			3			3		3
C33-②(Sh)																			1			1		1
C33-③(Sh)				1																		1		1
C33-④(Sh)																			1			1		1
その他(Ob)																			1			1		1
C33R-①(Rh)																							1	1
C33R-②(Sa)																							1	1
合　計				1															6			7	2	9

第114表　C33-Aブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)																			1			1		1
流紋岩(Rh)																							1	1
頁岩(Sh)				1															2			3		3
凝灰岩(Tu)																			3			3		3
砂岩(Sa)																							1	1
合　計				1															6			7	2	9

第４節　第６文化層

第６文化層は，立川ローム層のソフトローム層下部（Ⅲ層）からハードローム層最上部（Ⅳ層）にかけて包含される石器群で，C32-A，C33-C，C34-B～F，C34E40-A，C37-A，C38-A，C43-A，C45-Aブロックが該当する。

１　C32-Aブロック（第318～320図，第115・116表）

１）ブロックの概要

C32-Aブロックは，調査範囲北端のC32-10・20，C43-19グリッドに位置する。ブロックの立地は台地の北側縁辺部で，傾斜変換点に近接する。また，当該地は北東に向かって下る緩斜面である。

ブロックの規模と形状は，直径３ｍの範囲に石器・礫が散漫に分布する。出土層位はⅣ層を中心とするが，高低差は大きい（第318・319図）。

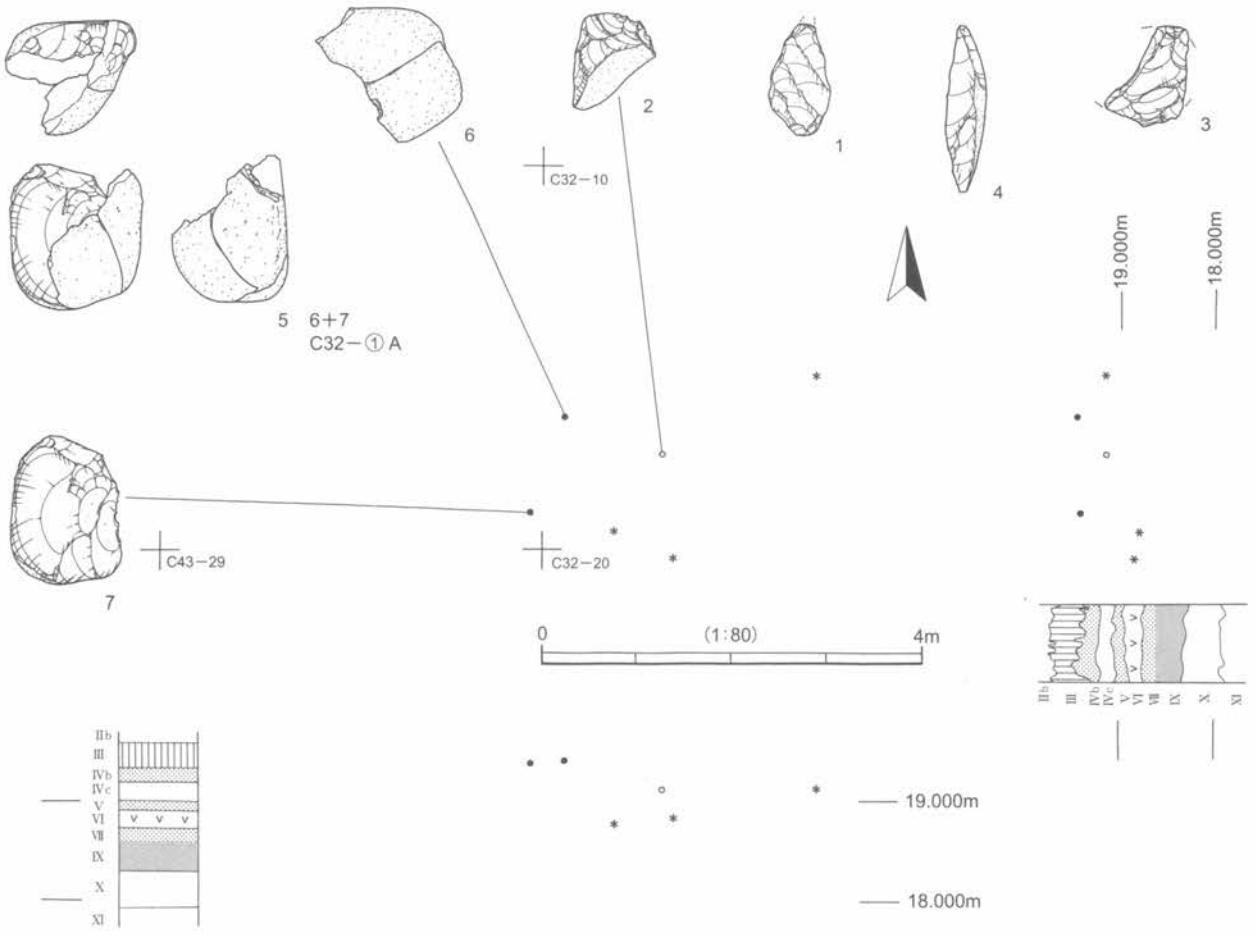
ブロックは，ナイフ形石器１点，使用痕ある剥片１点，剥片４点，礫８点の合計14点で構成される。石器石材は，珪質頁岩３点，チャート１点，ホルンフェルス２点，礫石材は，流紋岩３点，不明の火成岩１点，チャート１点，砂岩３点である。礫は，母岩分類できたものが７点（７母岩），母岩を決定できなかったものが１点ある。

２）母岩の特徴と内容

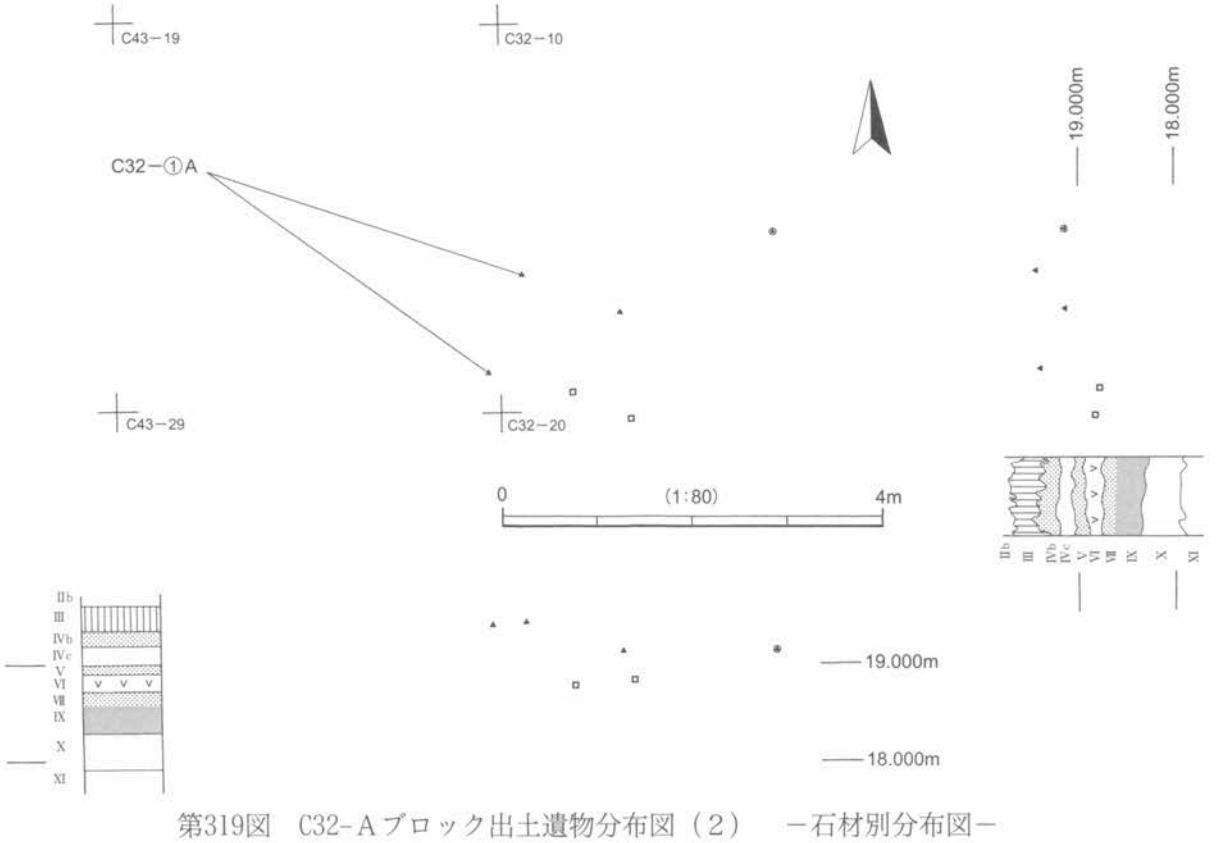
本ブロックでは４母岩を識別した。内訳は，珪質頁岩１母岩（C32-①），チャート１母岩（C32-③），ホルンフェルス２母岩（C32-④・⑤）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（６/６点）である。

・C32-①：自然面は暗い橙褐色，内部はやや明るい橙褐色の珪質頁岩である。原石を復元すると，長軸５cmほどの小円礫になる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片２点の合計３点（72.8ｇ）で，このうち剥片２点（合計68.8ｇ）が接合する。本ブロック内で原石から剥片剥離作業を開始し，終了している。

・C32-③：灰緑色で多方向に節理のあるチャートである。銚子産の可能性がある。剥片１点（6.3ｇ）の単独資料である。



第318図　C32-Aブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



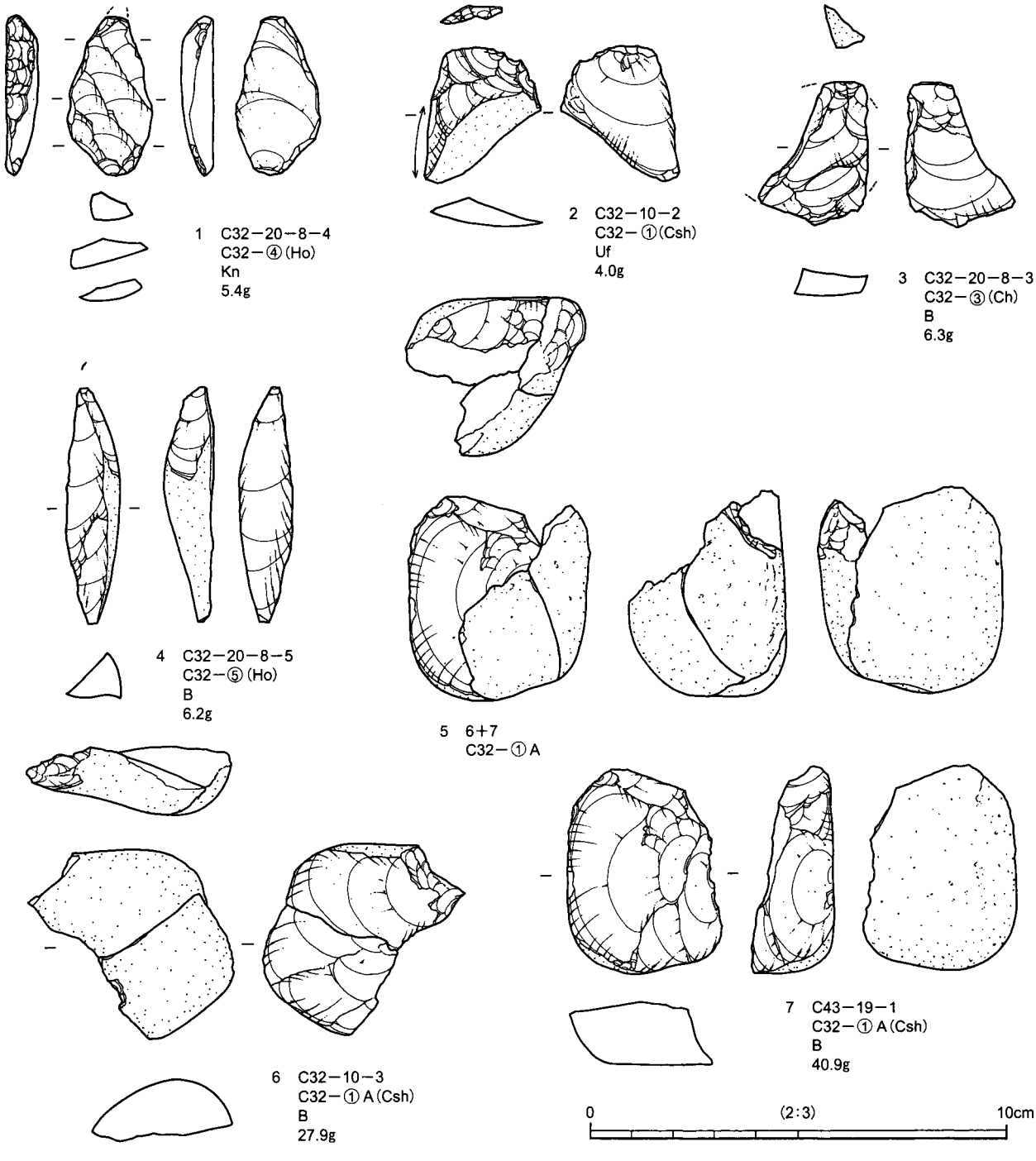
第319図　C32-Aブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－

・C32-④：淡黒灰色の地に灰白色の縞が入るホルンフェルスである。風化が著しく軟質である。ナイフ形石器１点（5.4ｇ）の単独資料である。

・C32-⑤：黒灰色で硬質なホルンフェルスである。剥片１点（6.2ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第320図）

１はホルンフェルスによるナイフ形石器である。縦長剥片を素材とし，素材の打面側を基部に置いて，左側縁に調整加工を行っている。調整加工は，一部表面からも行われている。３・４はチャート，ホルン



第320図　C32-Ａブロック出土遺物実測図

フェルスによる剥片である。

4）接合資料とその関連資料（第320図）

・C32-①（第320図2・5～7）　橙褐色の珪質頁岩で，使用痕ある剥片1点，剥片2点で構成される。

2は，不定型の剥片を利用した使用痕ある剥片である。右側縁に刃こぼれが見られる。

5は，不定型厚手の剥片2点（6・7）の接合資料である。小型の円礫を石核の素材とし，はじめに上面を剥離した後，自然面を打面として6を剥離する。次に，6の剥離面を打面として7を剥離している。接合資料で判断する限りは，一般的な剥片剥離というよりも，原石の分割と見たほうが実情に近い。

第115表　C32-Aブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C32-①(Csh)											1								2			3		3
C32-③(Ch)																			1			1		1
C32-④(Ho)	1																					1		1
C32-⑤(Ho)																			1			1		1
C32R-①(不明)																							1	1
C32R-②(Rh)																							1	1
C32R-③(Sa)																							1	1
C32R-④(Ch)																							1	1
C32R-⑤(Rh)																							1	1
C32R-⑥(Sa)																							1	1
C32R-⑨(Rh)																							1	1
その他(Sa)																							1	1
合　計	1										1								4			6	8	14

第116表　C32-Aブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
流紋岩(Rh)																							3	3
不明																							1	1
珪質頁岩(Csh)											1								2			3		3
チャート(Ch)																			1			1	1	2
砂岩(Sa)																							3	3
ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ(Ho)	1																		1			2		2
合　計	1										1								4			6	8	14

2　C33-Cブロック（第321～323図，第117・118表）

1）ブロックの概要

C33-Cブロックは，調査範囲北側のC33-87・98グリッドに位置する。ブロックの立地は台地の北側縁辺部で，傾斜変換点からの距離は15mほどである。また，当該地は北東に向かって下る緩斜面である。なお，本ブロックはC33-Bブロック（第4文化層）の上層にあたる。

ブロックの規模と形状は，3点の石器が互いに2m，4m離れて分布する。出土層位はⅢ層で，ほぼ水平に包含されている（第321・322図）。

ブロックは，ナイフ形石器1点，使用痕ある剥片1点，石刃1点の合計3点で構成される。石材は，黒曜石1点，頁岩2点である。

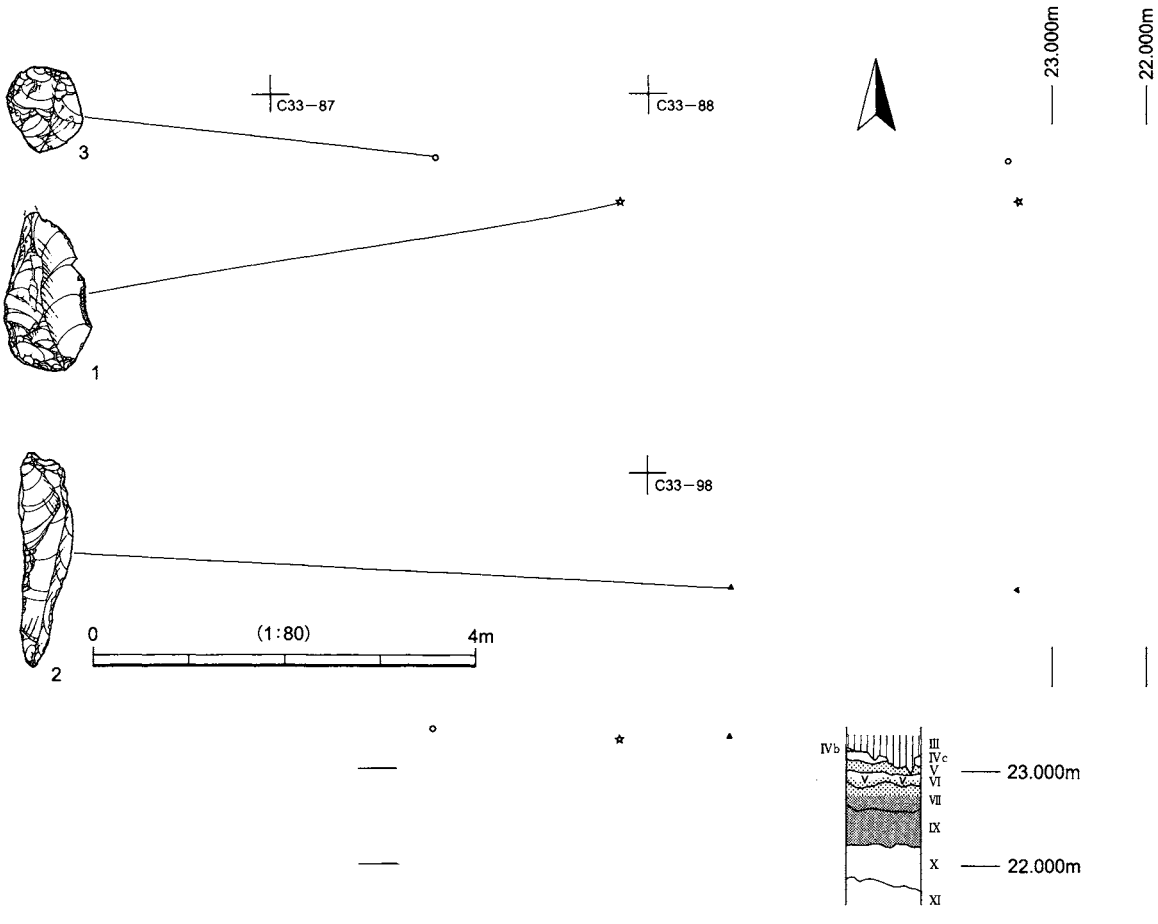
2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは3母岩を識別した。内訳は，黒曜石1母岩（C33-⑬），頁岩2母岩（C33-⑥・⑪）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（3/3点）である。

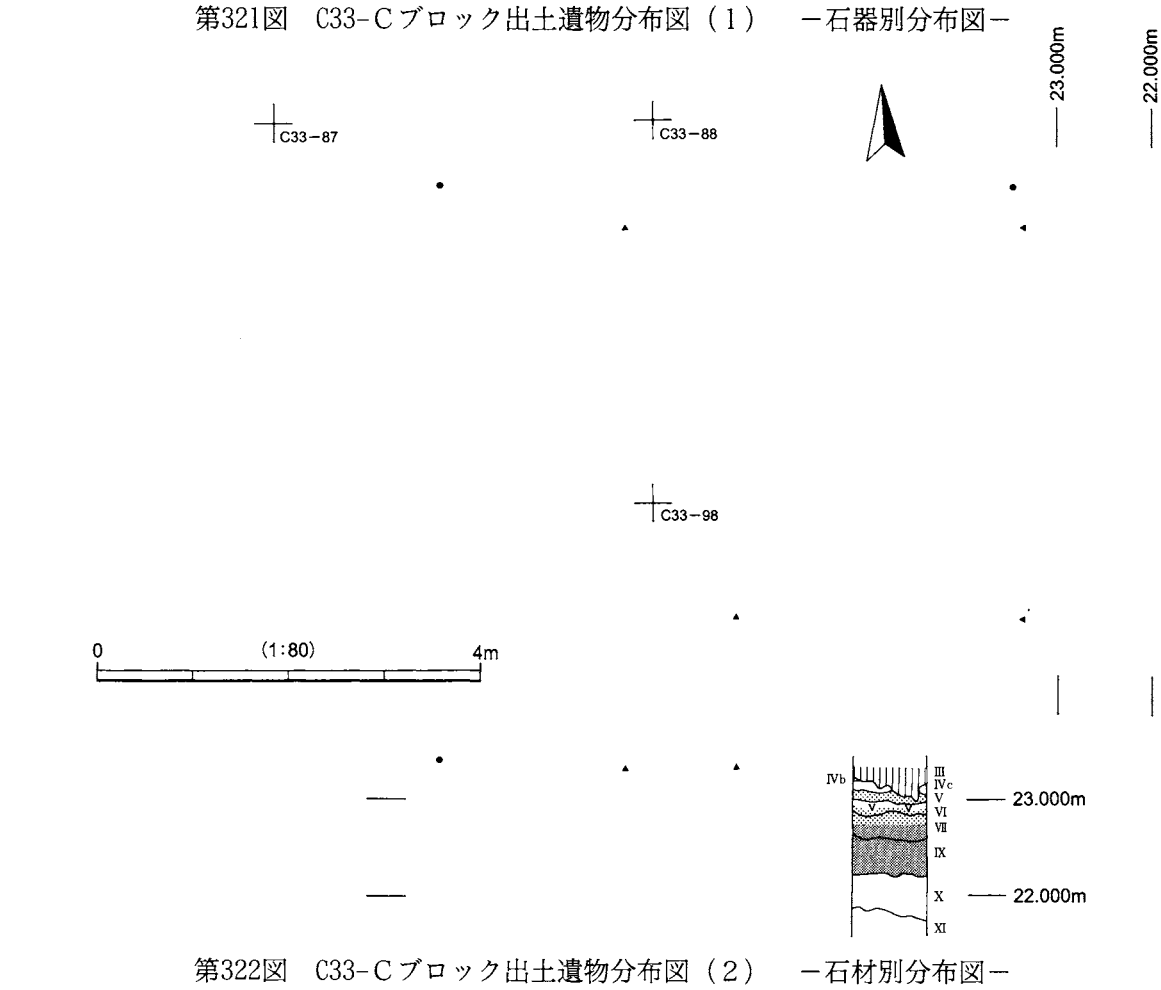
・C33-⑥：暗褐色の硬質緻密な東北産頁岩である。ナイフ形石器1点（8.8g）の単独資料である。

・C33-⑪：褐色を呈する硬質緻密な東北産頁岩である。石刃1点（7.6g）の単独資料である。

・C33-⑬：黒色不透明で夾雑物を含む黒曜石である。栃木県高原山産と考えられる。使用痕ある剥片1点（4.4g）の単独資料である。



第321図　C33-Cブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



第322図　C33-Cブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－

3）出土遺物（第323図）

1は，頁岩による基部調整のナイフ形石器である。石刃を素材とし，素材の打面を基部に置いて左側縁の基部寄りと右側縁の一部に調整加工を行っている。石器の主軸と素材の主軸は一致する。なお，調整加工の及ばない縁辺に刃こぼれがある。

2は，頁岩による石刃である。両側縁の中ほどに細かな剥離痕が連続するが，調整加工か使用痕か不明である。裏面上部に打瘤は見られず，剥離時に抉られたようになっている。

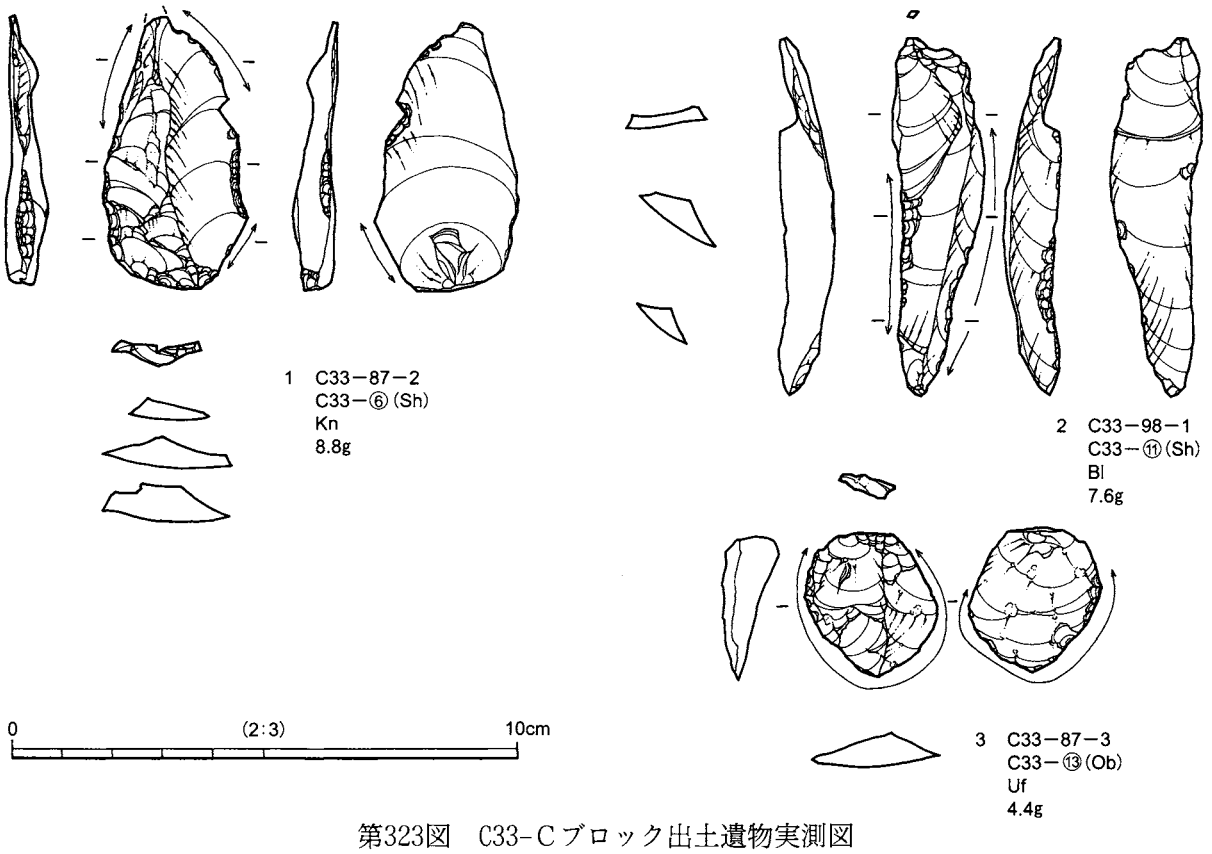
3は，黒曜石の使用痕ある剥片である。不定型の剥片を利用している。

第117表　C33-Cブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C33-⑥(Sh)	1																					1		1
C33-⑪(Sh)												1										1		1
C33-⑬(Ob)											1											1		1
合　計	1										1	1										3		3

第118表　C33-Cブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)											1											1		1
頁岩(Sh)	1											1										2		2
合　計	1										1	1										3		3



第323図　C33-Cブロック出土遺物実測図

3　C34-Bブロック（第324～327図，第119・120表）

1）ブロックの概要

C34-Bブロックは，調査範囲北側のC34-16・26・27グリッドに位置する。ブロックの立地は台地北側の縁辺部で，傾斜変換点からの距離は20mである。また，当該地は北東に向かって下る緩斜面である。

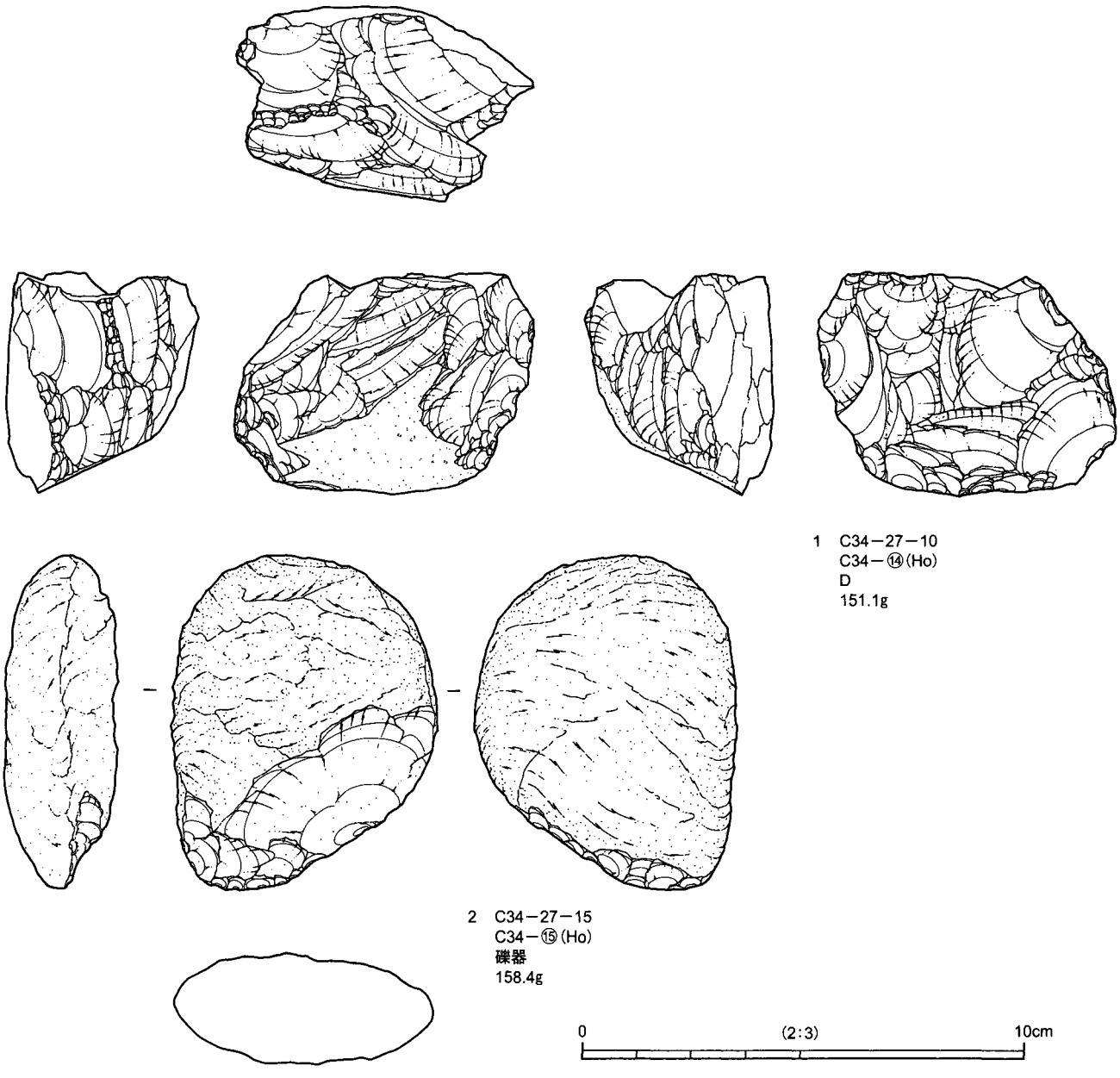
ブロックの規模と形状は，直径３ｍの範囲に11点の石器群がまとまり，４ｍ離れて３点が分布する。出土層位はⅢ層を中心としており，30㎝の高低差をもって，ほぼ水平に包含されている（第325～327図）。

ブロックは，礫器１点，剥片３点，石核１点，礫14点の合計19点で構成される。石器石材は，珪質頁岩１点，ホルンフェルス４点，礫石材は，安山岩１点，凝灰岩３点，砂岩10点である。礫は，母岩分類できたものが，12点（５母岩），母岩の不明なものが２点ある。

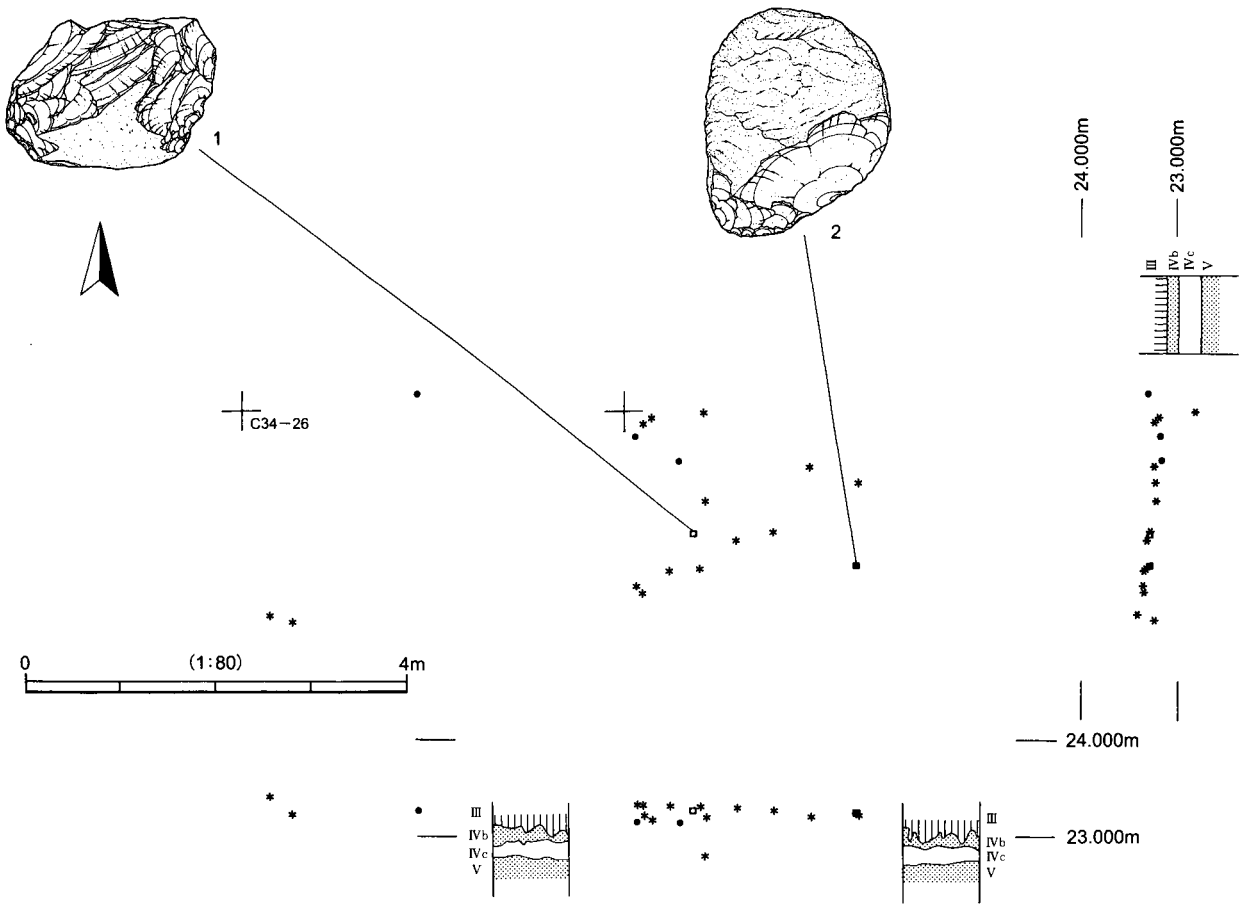
２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは２母岩を識別した。内訳は，ホルンフェルス２母岩（C33-⑭・⑮）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は40％（２/５点）である。

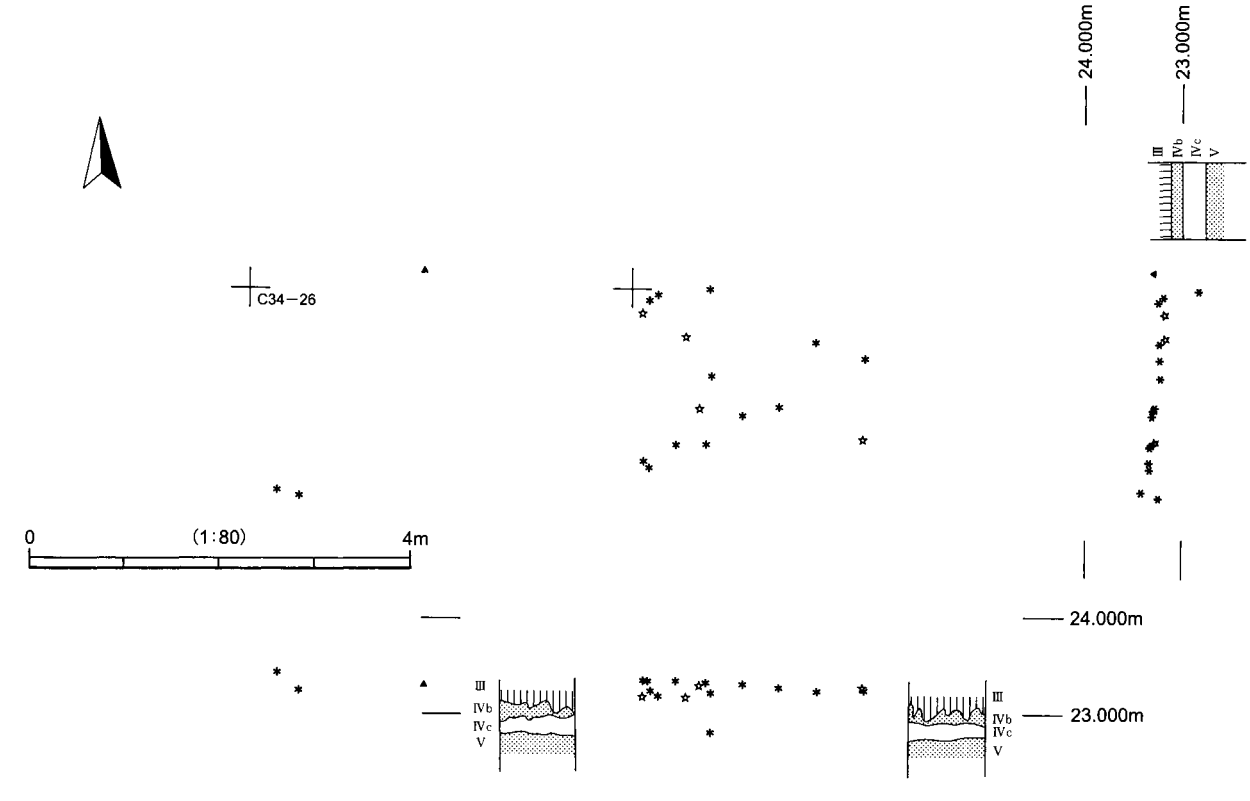
・C34-⑭：節理面は褐色，内部は青みがかった黒灰色の地に灰色の縞が入るホルンフェルスである。比較



第324図　C34-Ｂブロック出土遺物実測図



第325図　C34-Bブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



第326図　C34-Bブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－

的緻密で硬い。石核１点（151.１g）の単独資料である。

・C34-⑮：淡黒灰色のホルンフェルスである。礫器１点（158.４g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，珪質頁岩の剥片１点（0.４g），ホルンフェルスの剥片２点（合計１.１g）がある。

３）出土遺物（第324図）

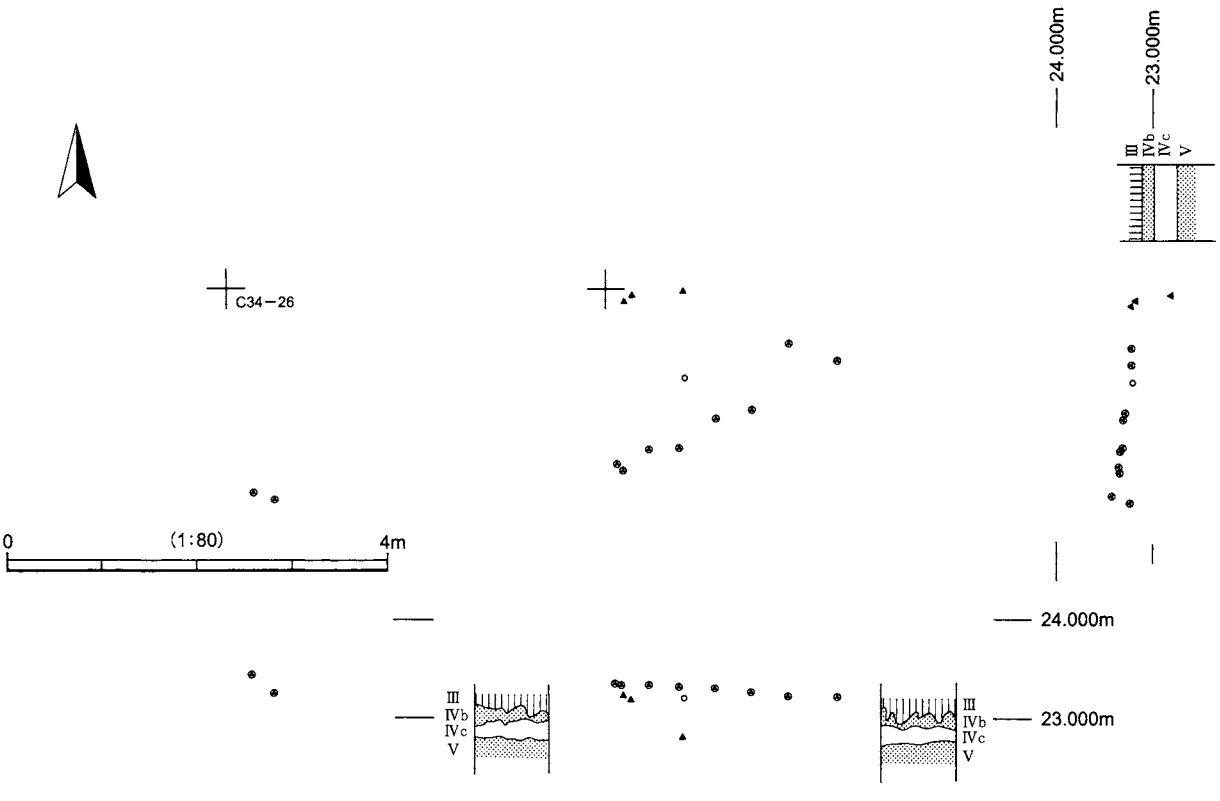
２は，ホルンフェルスの礫器である。扁平な円礫を素材として，表面に大きな剥離を入れ，その周辺及び裏面側に小剥離痕が見られる。

第119表　C34-Bブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C34-⑭(Ho)																					1	1		1
C34-⑮(Ho)																		1				1		1
その他(Csh)																			1			1		1
その他(Ho)																			2			2		2
C34R-②(Tu)																							2	2
C34R-③(Sa)																							2	2
C34R-④(Sa)																							2	2
C34R-⑤(Sa)																							4	4
C34R-⑥(Sa)																							2	2
その他(An)																							1	1
その他(Tu)																							1	1
合　計																		1	3		1	5	14	19

第120表　C34-Bブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
安山岩(An)																							1	1
珪質頁岩(Csh)																			1			1		1
凝灰岩(Tu)																							3	3
砂岩(Sa)																							10	10
ホルンフェルス(Ho)																		1	2		1	4		4
合　計																		1	3		1	5	14	19



第327図　C34-Bブロック出土遺物分布図（３）　－礫石材別分布図－

1は，ホルンフェルスの石核である。分割礫を用いたと考えられるが，分割面が残っていないため詳細は不明である。打面と作業面を繰り返し入れ替えながら，中・小型の剥片を生産している。

4　C34-Cブロック（第328～330図，第121・122表）

1）ブロックの概要

C34-Cブロックは，調査範囲北側のC34-28・29グリッドに位置する。ブロックの立地は台地北側の縁辺部で，傾斜変換点からの距離は10mである。また，当該地は北東に向かって下る緩斜面である。

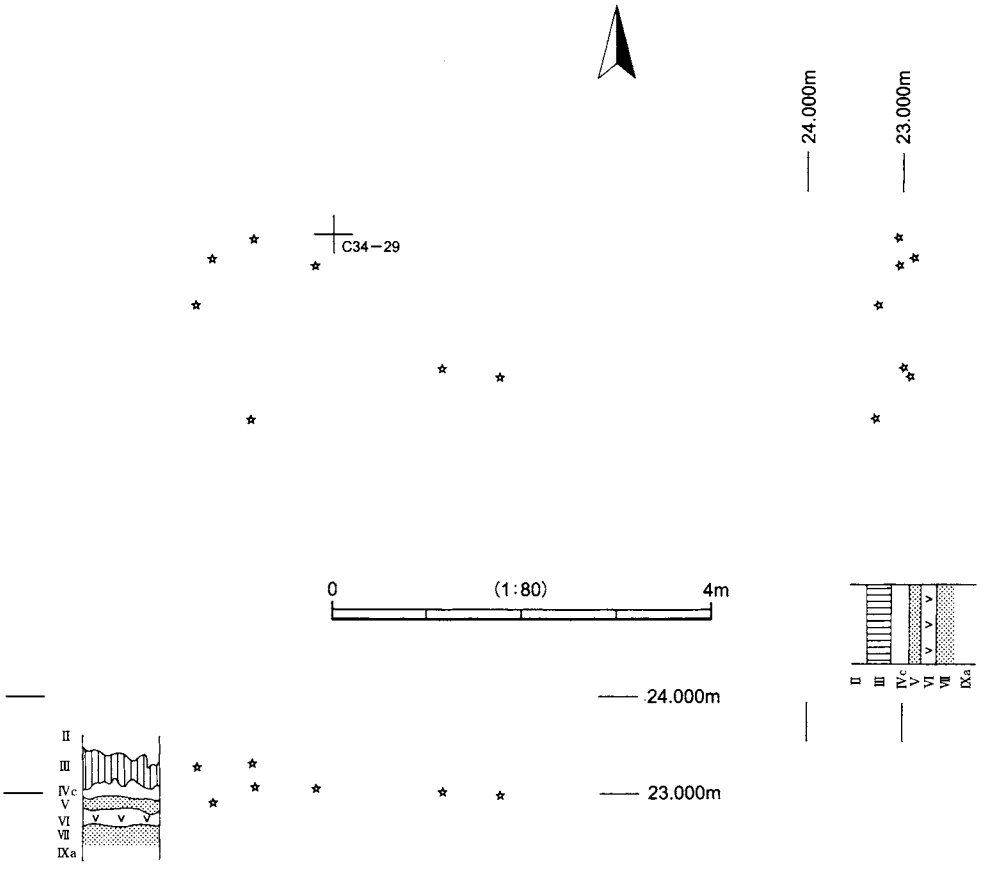
ブロックの規模と形状は，直径3mの範囲に7点の石器が散満に分布する。出土層位はⅢ層を中心としており，50cmの高低差をもって包含されている（第328・329図）。

ブロックは，ナイフ形石器1点，加工痕ある剥片1点，剥片5点の合計7点で構成される。石材は，すべてホルンフェルスである。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは5母岩を識別した。内訳は，ホルンフェルス5母岩（C34-①～⑤）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（7/7点）である。

・C34-①：淡灰色できめ細かな粘土質の部分と黄灰色できめの粗い砂質の部分とが混在し，黒灰色の縞が入るホルンフェルスである。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点，剥片2点の合計3点（37.4g）である。



第328図　C34-Cブロック出土遺物分布図（1）　－石材別分布図－

・C34-②：淡灰色の粘土質の部分と黄灰色の砂質の部分が混在するホルンフェルスである。C34-①母岩に類似するが，本母岩の方が全体に粗い質感である。本ブロックではナイフ形石器１点（6.7ｇ）の単独資料であるが，同一母岩がC34-Ｄブロックに１点ある。

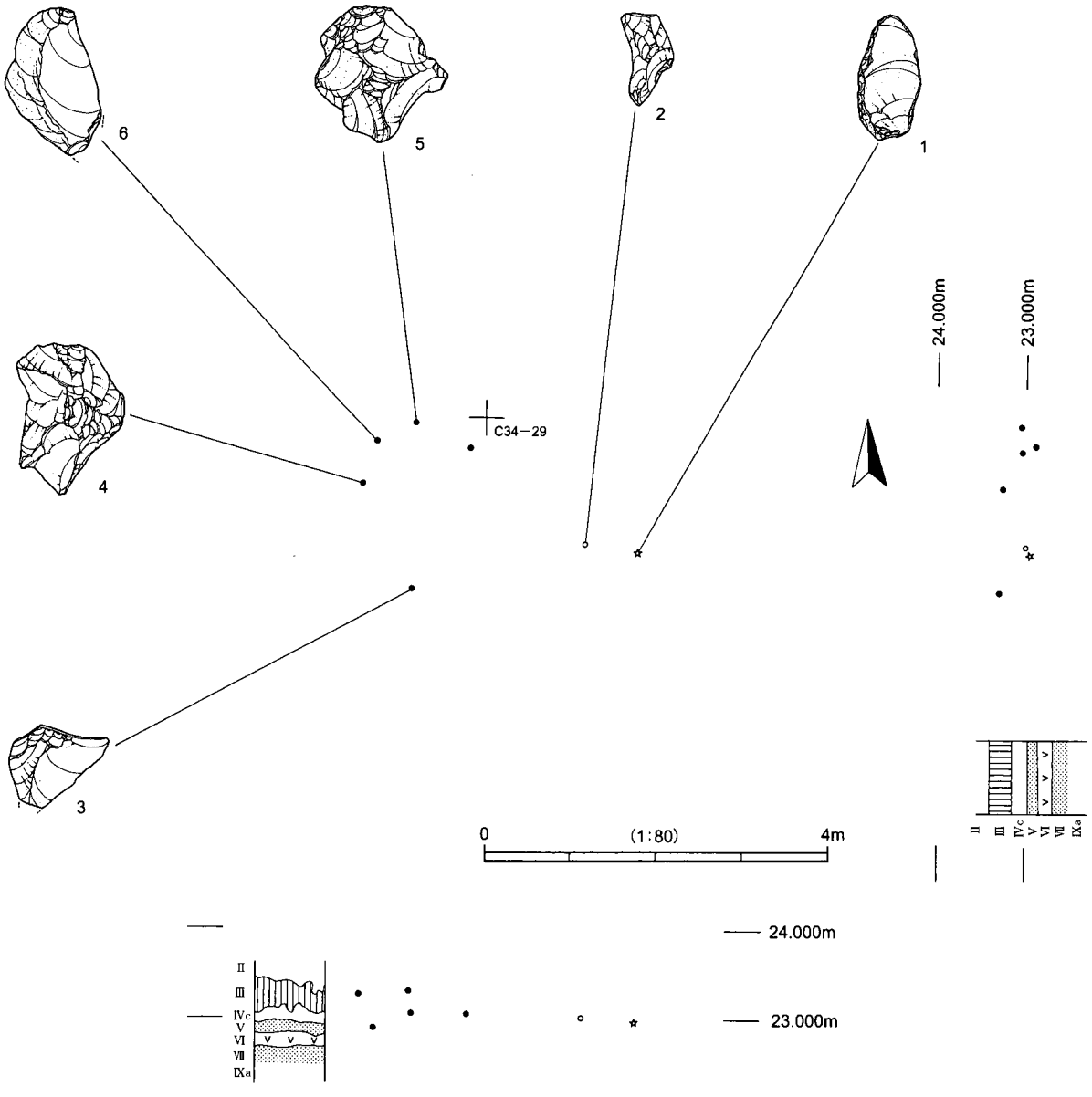
・C34-③：淡黒灰色の粘土質部分と灰白色の砂質部分の混在するホルンフェルスである。全体にザラついた質感である。剥片１点（15.0ｇ）の単独資料である。

・C34-④：灰黒色の地に不定方向の白い縞が入るホルンフェルスである。剥片１点（23.4ｇ）の単独資料である。

・C34-⑤：黒灰色で砂質のホルンフェルスである。剥片１点（1.6ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第330図）

１は，１側縁調整のナイフ形石器である。不定型の剥片を素材とし打面を基部に置いて，左側縁全体に



第329図　C34-Ｃブロック出土遺物分布図（２）　－石器別分布図－

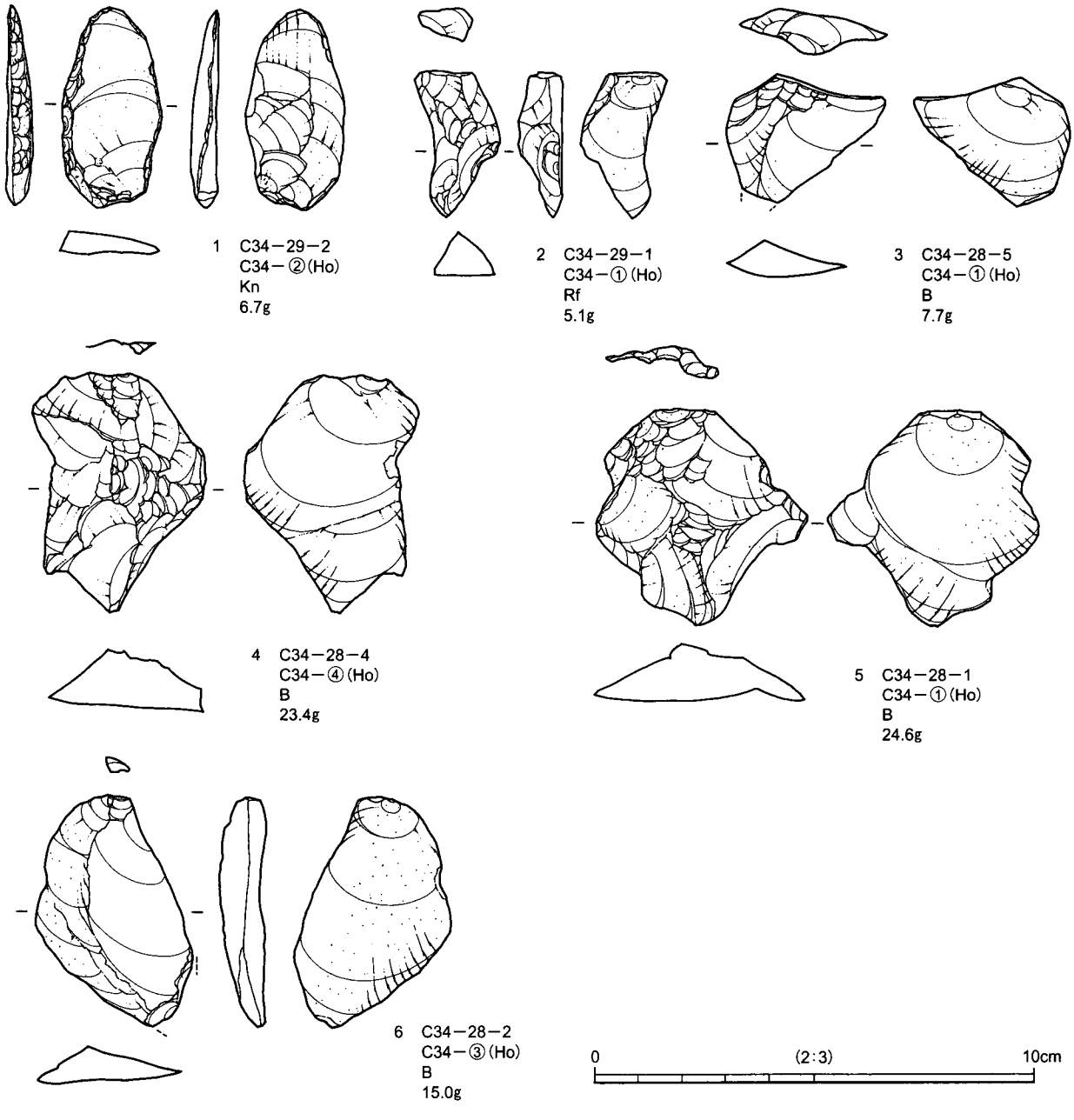
裏面から調整加工を行っている。表面の剥離面もポジティブな剥離面のようである。２は，不定型の剥片

第121表　C34-Cブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C34-①(Ho)										1									2			3		3
C34-②(Ho)	1																					1		1
C34-③(Ho)																			1			1		1
C34-④(Ho)																			1			1		1
C34-⑤(Ho)																			1			1		1
合　計	1									1									5			7		7

第122表　C34-Cブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ(Ho)	1									1									5			7		7
合　計	1									1									5			7		7



第330図　C34-Cブロック出土遺物実測図

を用いた加工痕ある剥片である。右側縁に粗い剥離痕が見られる。

３～６は，不定型の剥片である。４・５は表面の剥離方向が多方向に及んでおり，求心的な打点移動が想定される。

5　C34-Dブロック（第331～333図，第123・124表）

1）ブロックの概要

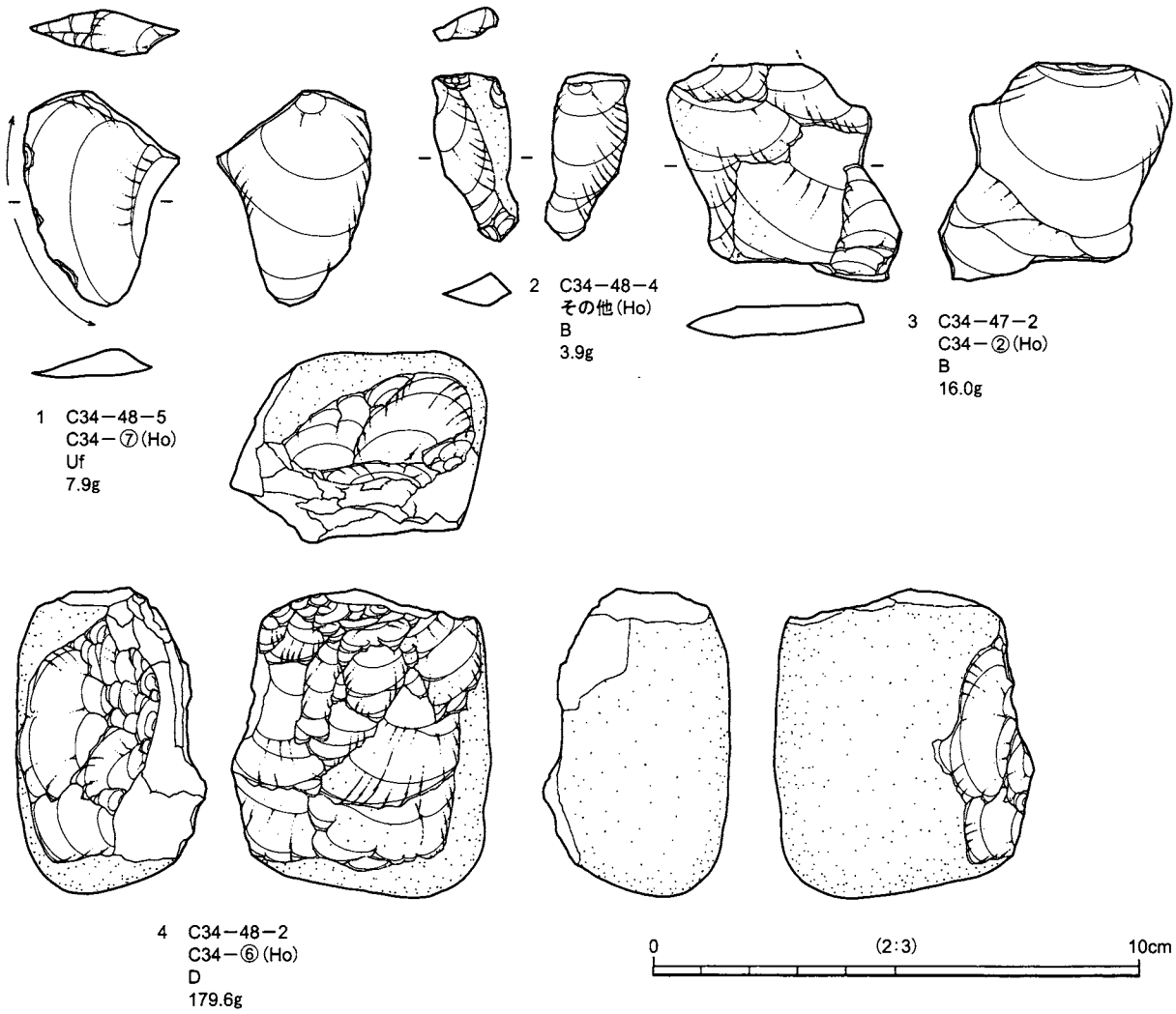
C34-Dブロックは，調査範囲北側のC34-38・47・48グリッドに位置する。ブロックの立地は台地北側の縁辺部で，傾斜変換点からの距離は20mである。また，当該地は北東に向かって下る緩斜面である。

ブロックの規模と形状は，直径３mの円形の範囲に12点の石器群が散満に分布する。出土層位はⅢ層を中心としており，30cmほどの高低差をもって，地形に沿って包含されている（第332・333図）。

ブロックは，使用痕ある剥片１点，剥片９点，石核１点，礫１点の合計12点で構成される。石器石材，礫石材ともに，すべてホルンフェルスである。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは３母岩を識別した。内訳は，ホルンフェルス３母岩（C34-②・⑥・⑦）で，母岩識別し



第331図　C34-Dブロック出土遺物実測図

た石器の石器総数に対する割合は27%（3/11点）である。

・C34-②：淡灰色の粘土質の部分と黄灰色の砂質の部分が混在するホルンフェルスである。本ブロックでは剥片１点（16.0ｇ）の単独資料である。同一母岩が，C34-Ｃブロックに１点ある。

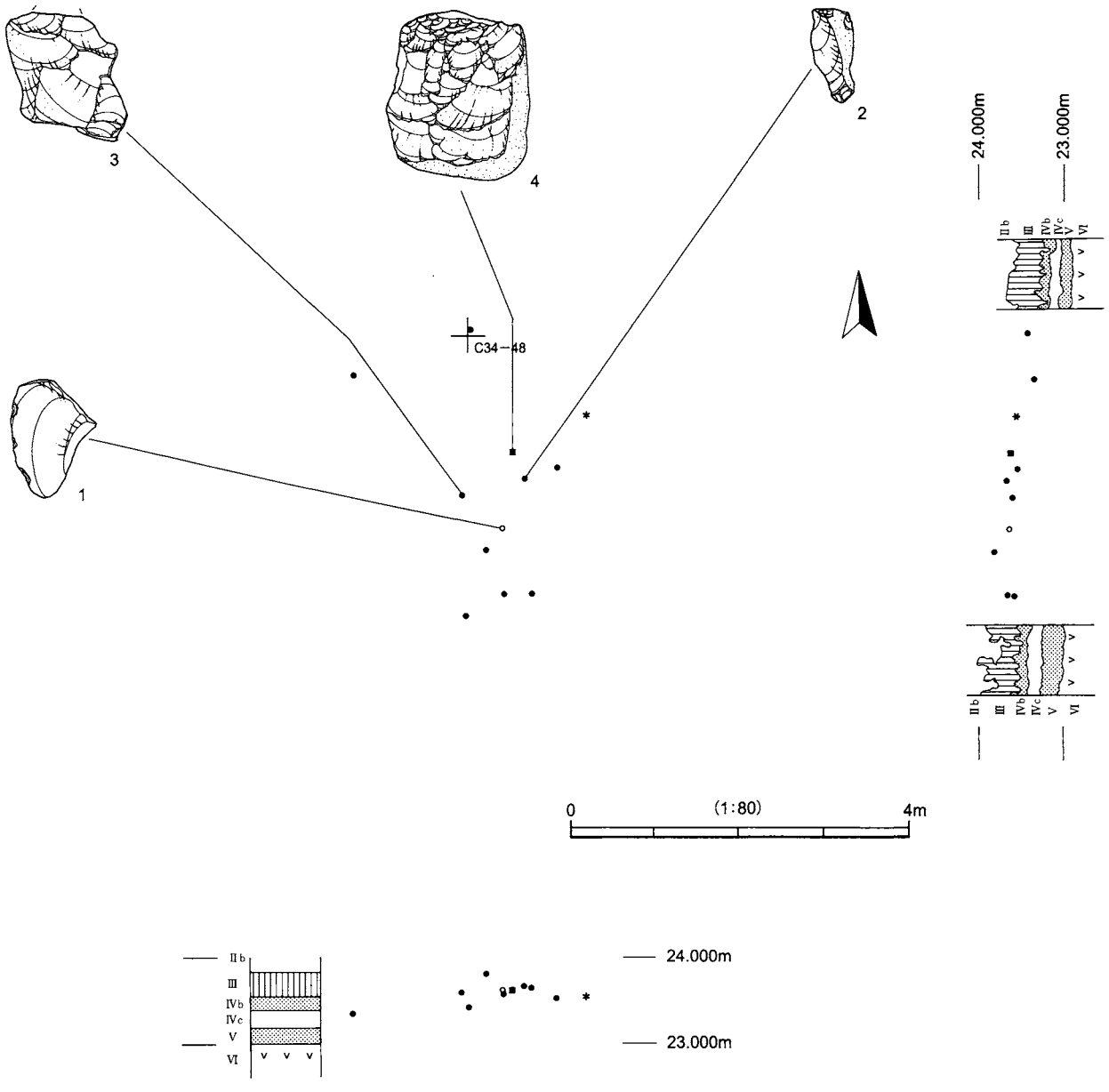
・C34-⑥：黒灰色の粘土質の部分と黄灰色の砂質の部分が混在し，白色の細い縞が入るホルンフェルスである。石核１点（179.6ｇ）の単独資料である。同一母岩が，C34-Ｆブロックに１点ある。

・C34-⑦：黒灰色で比較的均質なホルンフェルスである。使用痕ある剥片１点（7.9ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，ホルンフェルスの剥片８点（合計10.6ｇ）がある。

３）出土遺物（第331図）

１は，ホルンフェルスによる使用痕ある剥片である。幅広不定型で縦断面が湾曲する剥片を利用してい



第332図　C34-Ｄブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－

る。２・３は，ホルンフェルスによる剥片である。１・３は厚手の両面体のような石核から剥離されたのであろうか。

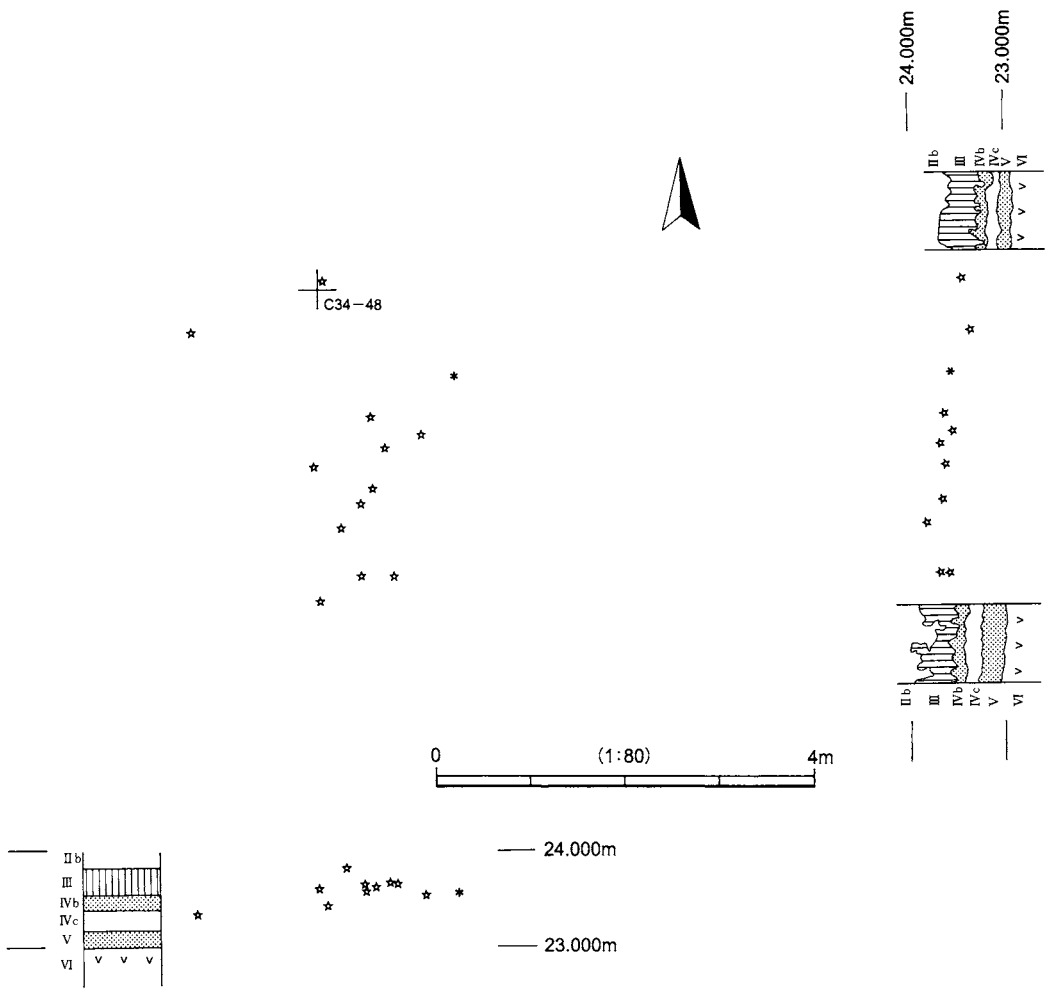
４はホルンフェルスの石核である。拳よりやや小振りの円礫を用い，上端に打面を設けて幅広の縦長剥片を剥離している。左側面にある剥離面は，石核の側面調整の可能性がある。同一母岩は見られないが，２の剥片は類似した形状の石核から剥離されたと考えられる。

第123表　C34-Dブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C34-②(Ho)																			1			1		1
C34-⑥(Ho)																					1	1		1
C34-⑦(Ho)											1											1		1
その他(Ho)																			8			8		8
その他(Ho)																							1	1
合　計											1								9		1	11	1	12

第124表　C34-Dブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
ホルンフェルス(Ho)											1								9		1	11	1	12
合　計											1								9		1	11	1	12



第333図　C34-Dブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－

6　C34-Eブロック（第334～336図，第125・126表）

1）ブロックの概要

C34-Eブロックは，調査範囲北側のC34-49グリッドに位置する。ブロックの立地は台地北側の縁辺部で，傾斜変換点からの距離は10mである。また，当該地は北東に向かって下る緩斜面である。

ブロックの規模と形状は，直径1mの円形の範囲に4点の石器が分布する。出土層位はIVb層で，高低差は小さい（第335・336図）。

ブロックは，掻器1点，剥片3点の合計4点で構成され，石材は，頁岩1点，メノウ3点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは2母岩を識別した。内訳は，頁岩1母岩（C34-⑧），メノウ（玉髄）1母岩（C34-⑨）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（4/4点）である。

・C34-⑧：暗褐色で硬質緻密な東北産頁岩である。掻器1点（16.9g）の単独資料である。

・C34-⑨：自然面は細かな凹凸があり，内部は黒灰色のメノウ（玉髄）である。部分的に黄褐色の不純物塊が入る。石器群の内訳は，剥片3点（合計11.9g）である。数量は少ないが，不定型の剥片や小型の剥片で構成されており，搬入品ではなく剥片剥離作業に関与した資料と考えられる。

3）出土遺物（第334図）

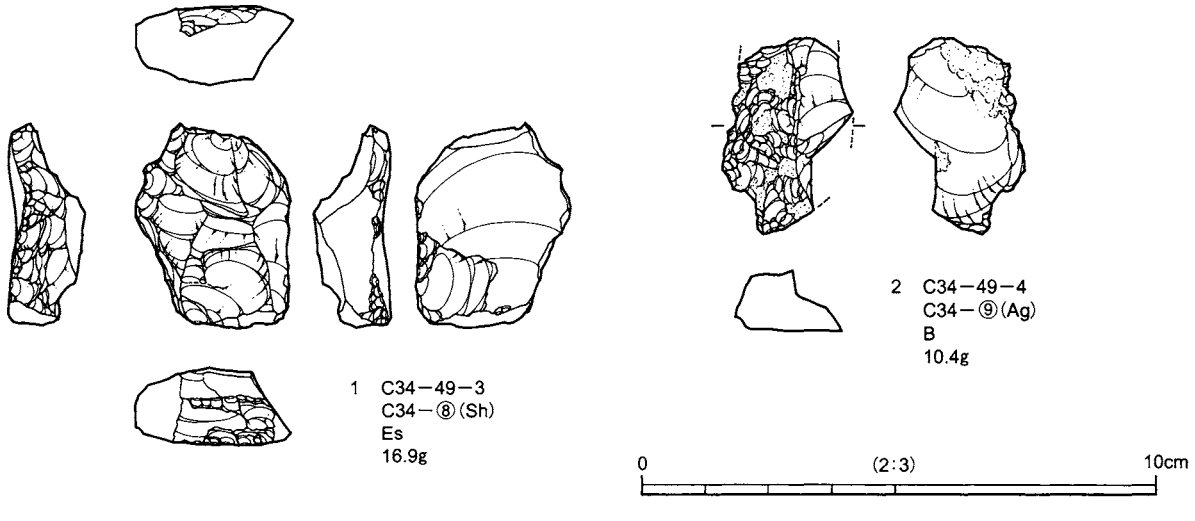
1は，頁岩の掻器である。大型の剥片ないしは石刃を素材とするが，縁辺のみならず表面の上下両端からの剥離面も一次面ではなく，素材に対する変形の度合いが大きい。下端にオーバーハングした刃部があ

第125表　C34-Eブロック母岩別石器組成表

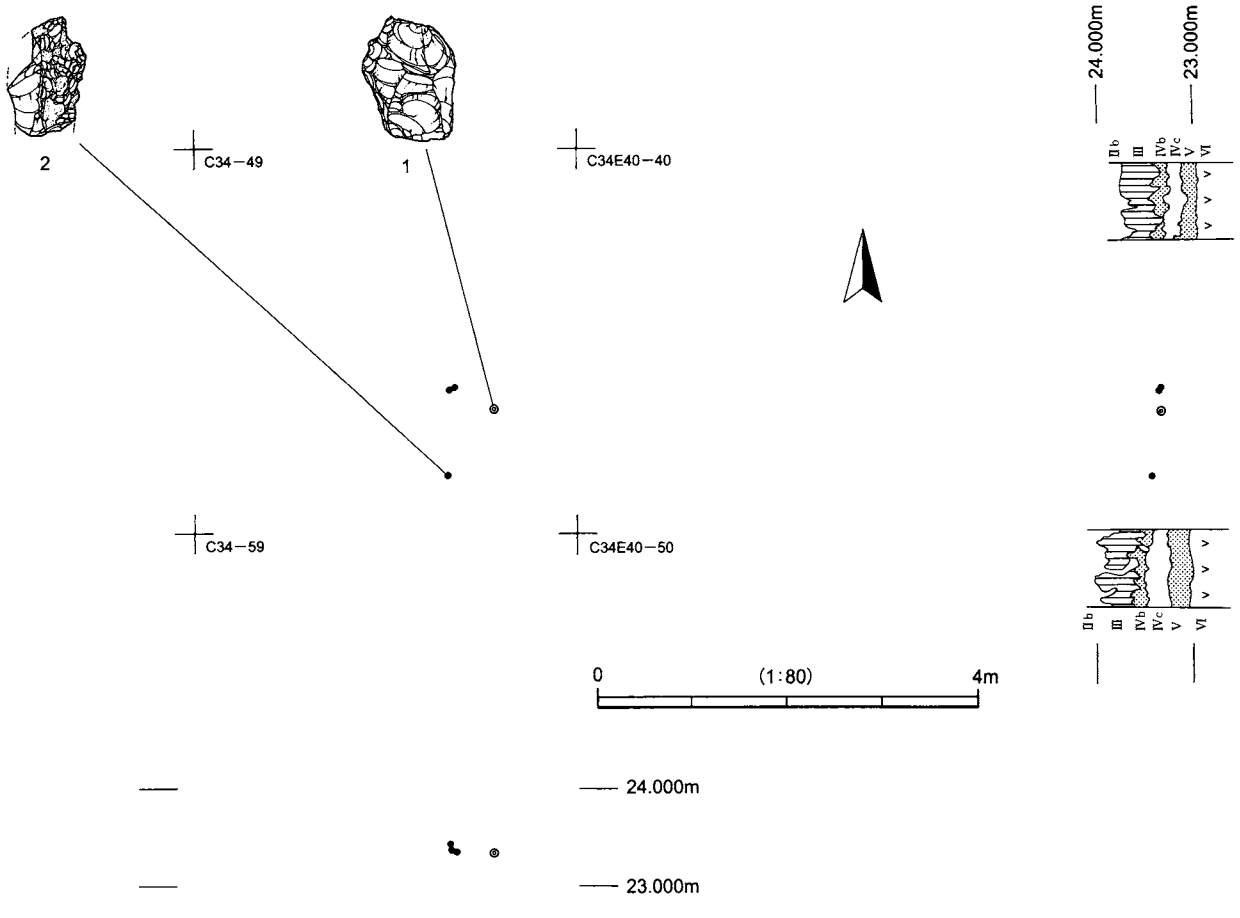
母岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C34-⑧(Sh)					1																	1		1
C34-⑨(Ag)																			3			3		3
合計					1														3			4		4

第126表　C34-Eブロック石材別石器組成表

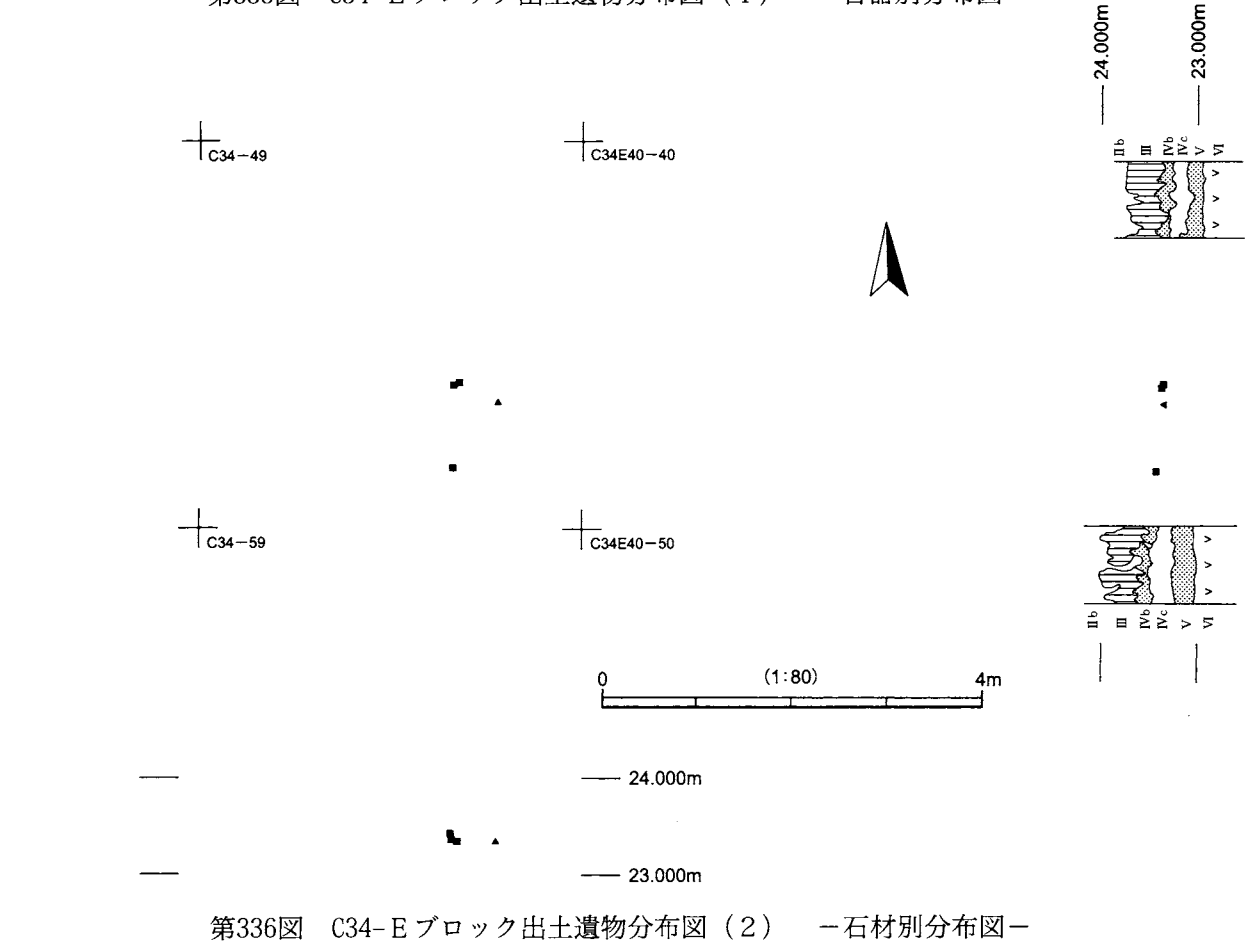
石材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
頁岩(Sh)					1																	1		1
メノウ(Ag)																			3			3		3
合計					1														3			4		4



第334図　C34-Eブロック出土遺物実測図



第335図　C34-Eブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



第336図　C34-Eブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－

る。折れ面に細かな調整加工が行われており，当初の形ではなく刃部再生の結果と考えられる。

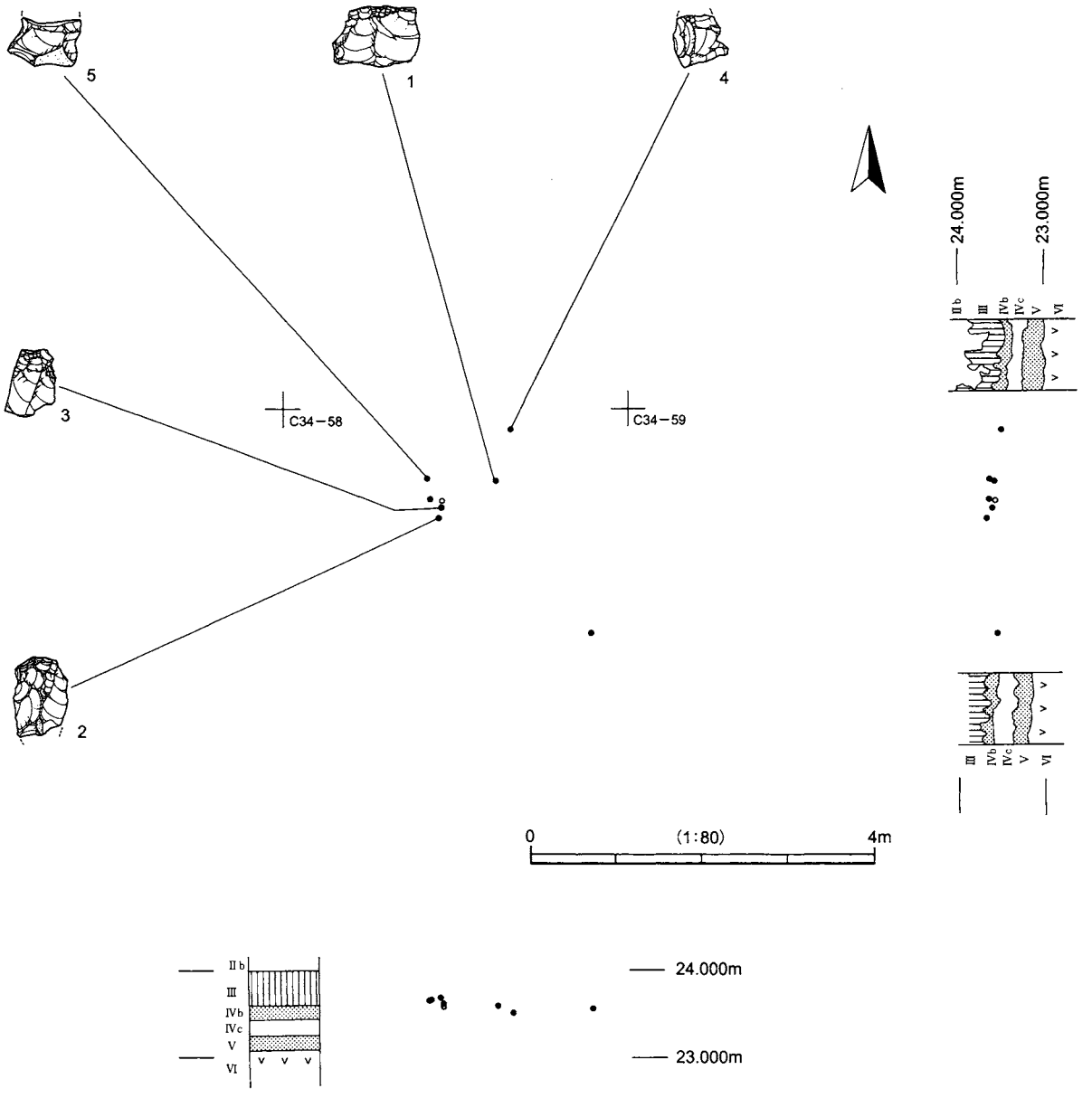
２は，メノウ（玉髄）による不定型厚手の剥片である。打面側及び右側縁の一部が折れ，表面左側には自然面が残る。

7　C34-Fブロック（第337～339図，第127・128表）

1）ブロックの概要

C34-Fブロックは，調査範囲北側のC34-58グリッドに位置する。ブロックの立地は台地北側の縁辺部で，傾斜変換点からの距離は15mである。また，当該地は北東に向かって下る緩斜面である。

ブロックの規模と形状は，直径２mの円形の範囲に７点，２m離れて１点が分布する。出土層位はⅣb層を中心としており，20cmほどの高低差をもって，地形に沿って包含されている（第337・338図）。



第337図　C34-Fブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－

ブロックは，掻器１点，剥片７点の合計８点で構成される。石材は，頁岩６点，ホルンフェルス２点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは３母岩を識別した。内訳は，頁岩２母岩（C34-⑩・⑪），ホルンフェルス１母岩（C34-⑥）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は88％（7/8点）である。

・C34-⑥：黒灰色の粘土質の部分と黄灰色の砂質の部分が混在し，白色の細い縞が入るホルンフェルスである。剥片１点（3.6ｇ）の単独資料である。同一母岩がC34-Ｄブロックに１点ある。

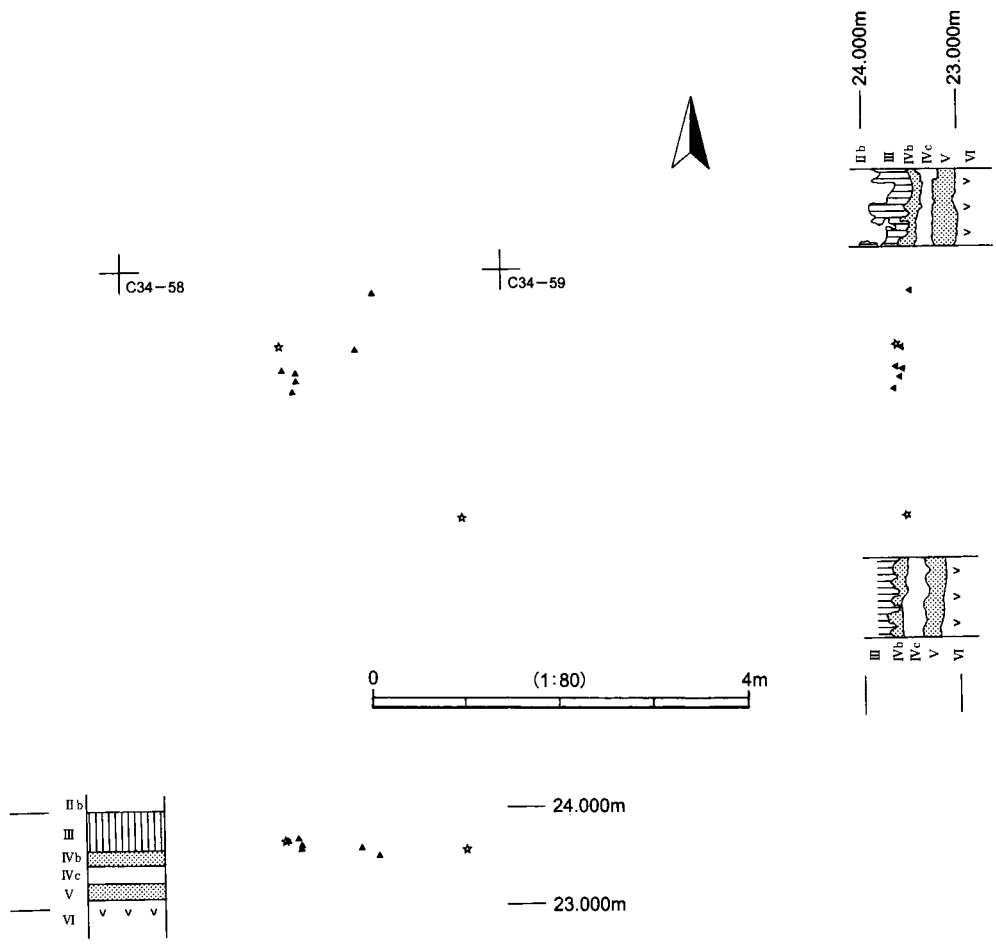
・C34-⑩：淡褐色と黄褐色の混在する頁岩である。石器群の内訳は，削器１点，剥片４点の合計５点

第127表　C34-Ｆブロック母岩別石器組成表

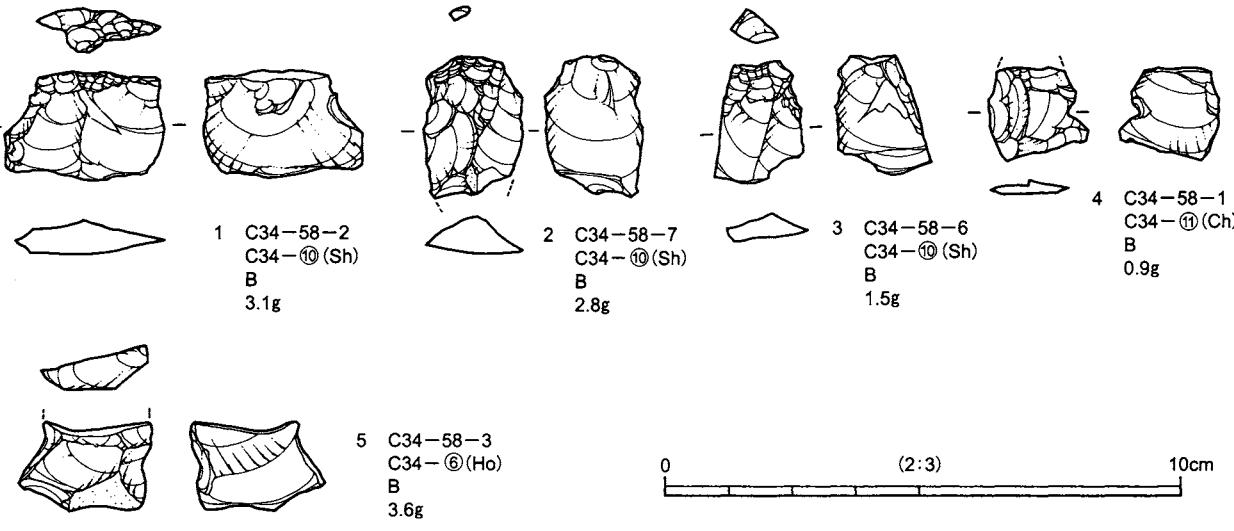
母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C34-⑥(Ho)																			1			1		1
C34-⑩(Sh)						1													4			5		5
C34-⑪(Sh)																			1			1		1
その他(Ho)																			1			1		1
合　計						1													7			8		8

第128表　C34-Ｆブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
頁岩(Sh)						1													5			6		6
ホルンフェルス(Ho)																			2			2		2
合　計						1													7			8		8



第338図　C34-Ｆブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－



第339図　C34-Fブロック出土遺物実測図

（7.8g）である。

・C34-⑪：暗褐色で硬質緻密な頁岩である。剥片1点（0.9g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなっかた資料に，ホルンフェルスの剥片1点（0.1g）がある。

3）出土遺物（第339図）

1～4は，頁岩の剥片である。いずれも表面の打面直下に細かな剥離面が連続する。頭部調整の一種であろうか。また，寸詰まりの縦長剥片が多く，表面の剥離方向は裏面と概ね同じことから，サイコロ状の石核から剥離されたと考えられる。5は，ホルンフェルスの剥片である。

8　C34E40-Aブロック（第340～343図，第129・130表）

C34E40-Aブロックは，調査範囲北側のC34E40-51・60・61グリッドに位置する。ブロックの立地は台地北側の縁辺部で，傾斜変換点からの距離は5mである。また，当該地は北東に向かって下る緩斜面である。

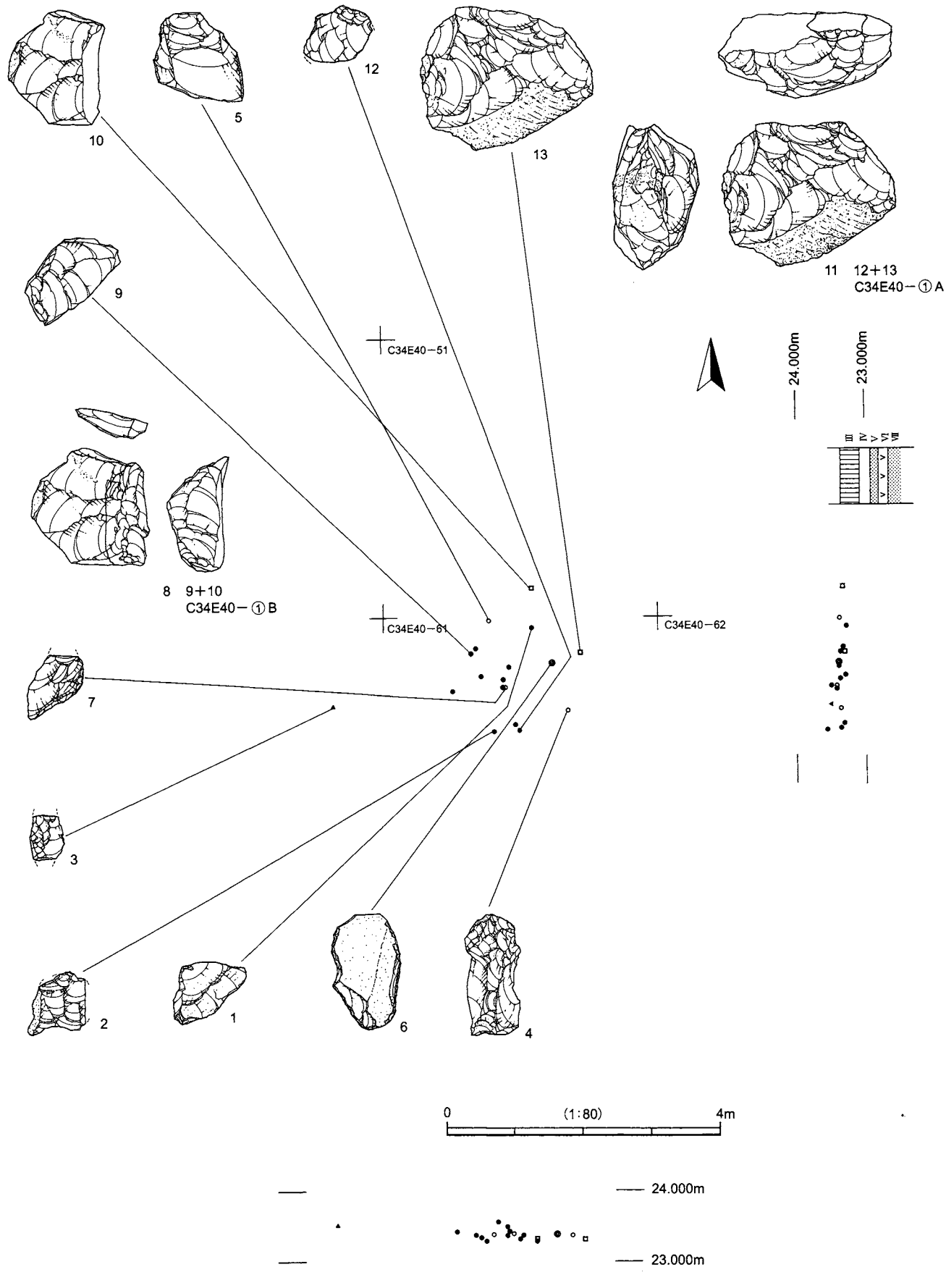
ブロックの規模と形状は，長軸4m，短軸2mの範囲に18点の石器が満遍なく分布する。出土層位はⅢ層で，30cmほどの高低差をもって，地形に沿って包含されている（第340・341図）。

ブロックは，掻器1点，加工痕ある剥片1点，使用痕ある剥片2点，石刃1点，剥片11点，石核2点の合計18点で構成される。石材は，頁岩6点，珪質頁岩1点，ホルンフェルス11点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは4母岩を識別した。内訳は，頁岩1母岩（C34E40-④），珪質頁岩1母岩（C34E40-③），ホルンフェルス2母岩（C34E40-①・②）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は83%（15/18点）である。

・C34E40-①：黒灰色の粘質部分に黄灰色の砂質部分が帯状に入るホルンフェルスである。石器群の内訳は，使用痕ある剥片1点，剥片4点，石核2点の合計7点（294.5g）である。接合資料は，剥片1点と石核1点による接合が2組あり，それぞれの重量は212.5gと65.3gである。



第340図　C34E40-Aブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－

・C34E40-②：C34E40-①母岩より淡い色調のホルンフェルスである。掻器１点（20.5ｇ）の単独資料である。

・C34E40-③：節理面は橙褐色，内部は濃淡のある灰緑色を呈した嶺岡産珪質頁岩である。使用痕ある剥片１点（22.2ｇ）の単独資料である。

・C34E40-④：灰白色の地に暗緑色の縞が入る頁岩である。やや粗い質感である。石器群の内訳は，石刃１点，剥片５点の合計６点（21.0ｇ）で，剥片剥離作業半ばの資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，ホルンフェルスの加工痕ある剥片１点，剥片２点（合計10.3ｇ）がある。

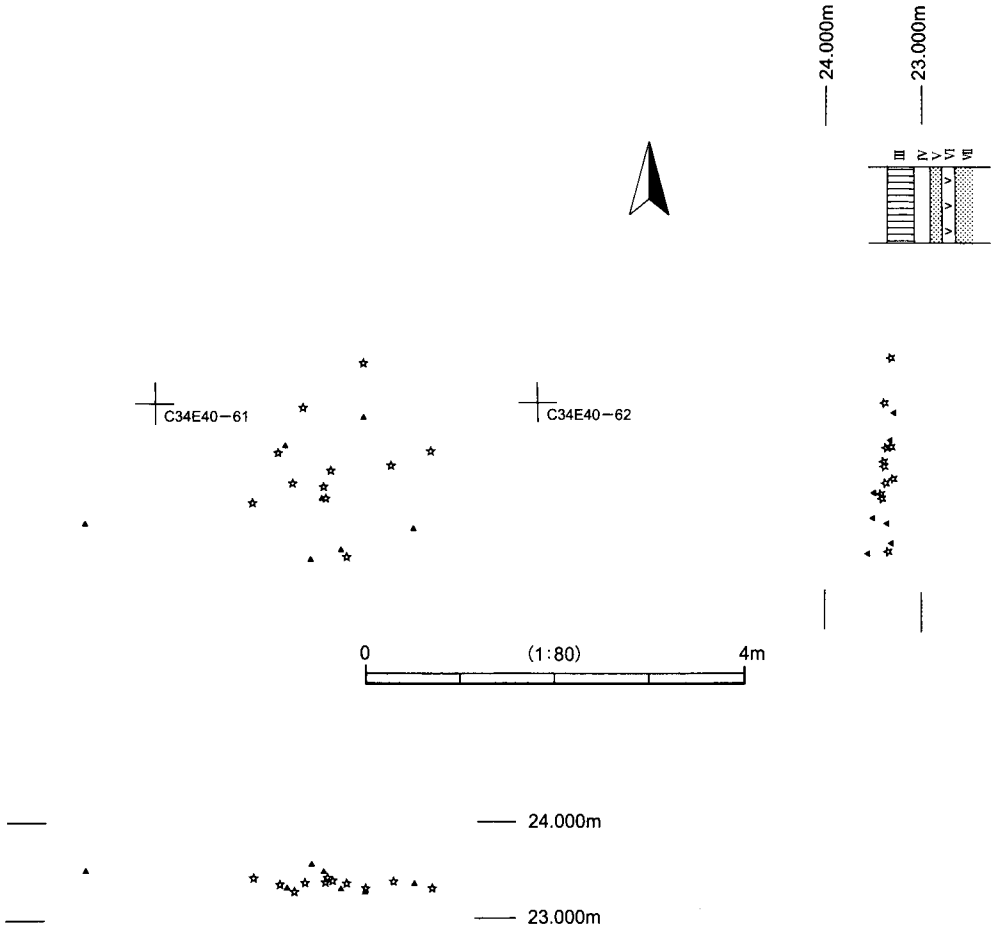
３）出土遺物（第342図）

６は，ホルンフェルスによる縦長不定型の剥片を素材とする掻器である。素材の打面をそのまま残して，両側縁及び末端に調整加工を行っている。７は，ホルンフェルスの加工痕ある剥片である。右側縁の打面よりに裏面から調整加工が行われている。打面は欠損する。ナイフ形石器の未製品であろうか。

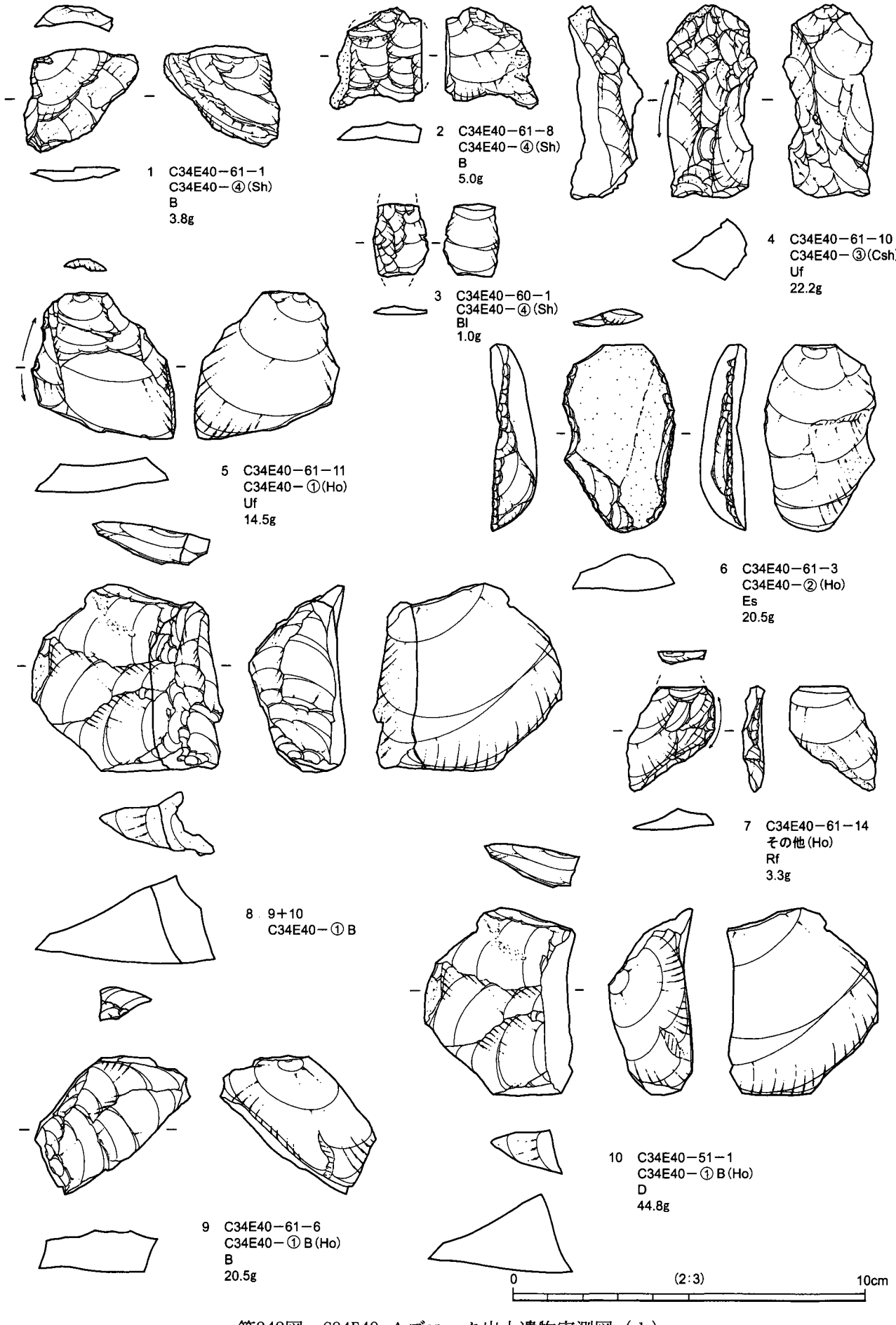
４は珪質頁岩，５はホルンフェルスによる使用痕ある剥片である。いずれも不定型の剥片を利用している。

４）接合資料とその関連資料（第342・343図）

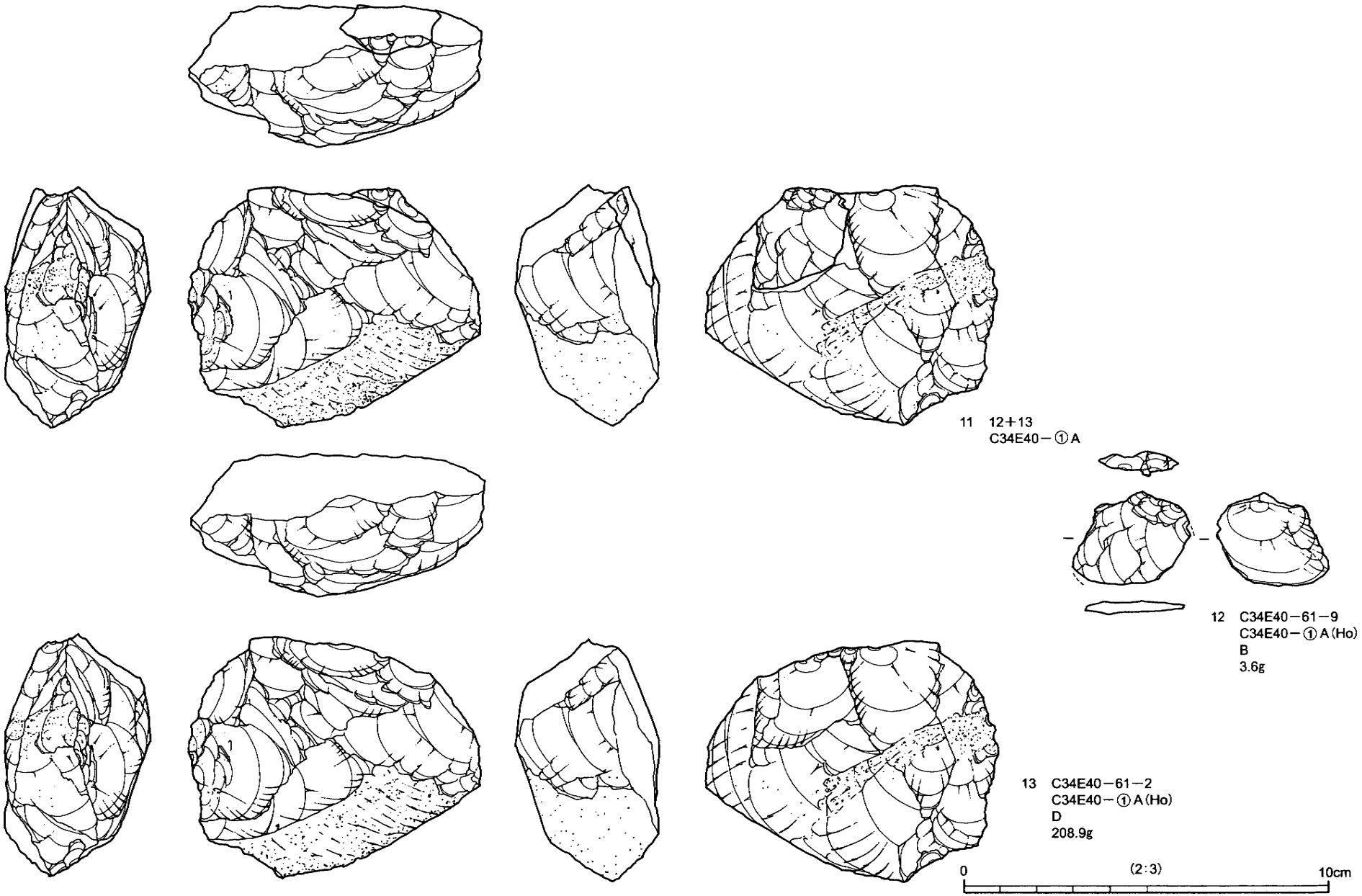
・C34E40-①（第342図８～10，第343図11～13）　黒灰色の粘質部分に黄灰色の砂質部分が帯状に入るホ



第341図　C34E40-Ａブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－



第342図　C34E40-Aブロック出土遺物実測図（1）



第343図　C34E40-Aブロック出土遺物実測図（2）

ルンフェルスで，使用痕ある剥片１点，剥片４点，石核２点で構成される。

８は，剥片１点（９）と石核１点（10）の接合資料である。打面が欠損する不定型厚手の剥片を石核の素材として，表面の一端から剥片（９）を剥離している。なお，石核の素材は打面と作業面を各所に移動させながら不定型の剥片を剥離する手順によって得られており，８の下端に見られる打面も石核の素材剥片が剥離される以前から打面として機能していたものである。

11は，剥片１点（12）と石核１点（13）の接合資料である。拳ほどの円礫を分割して石核の素材とし，交互剥離によって表裏両面から不定型の剥片を剥離している。12もその過程で裏面から剥離されている。

なお，裏面下半部には分割面が広く残っている。

・C34E40-④（第342図１～３）　灰白色の地に暗緑色の縞が入る頁岩で，石刃１点，剥片５点で構成される。

１，２は不定型の剥片，３は小型の石刃である。いずれも，表面は同一方向の剥離面に覆われている。

第129表　C34E40-Aブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C34E40-①(Ho)											1								4		2	7		7
C34E40-②(Ho)					1																	1		1
C34E40-③(Csh)											1											1		1
C34E40-④(Sh)												1							5			6		6
その他(Ho)										1									2			3		3
合　計					1					1	2	1							11		2	18		18

第130表　C34E40-Aブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
頁岩(Sh)												1							5			6		6
珪質頁岩(Csh)											1											1		1
ホルンフェルス(Ho)					1					1	1								6		2	11		11
合　計					1					1	2	1							11		2	18		18

9　C37-Aブロック（第344～347図，第131・132表）

1）ブロックの概要

C37-Aブロックは，調査範囲南側のC37-45・46・54～56・64・65グリッドに位置する。ブロックの立地は台地中央の平坦面であるが，北側緩斜面との境界付近である。谷に下りる傾斜変換点からの距離は80mほどある。

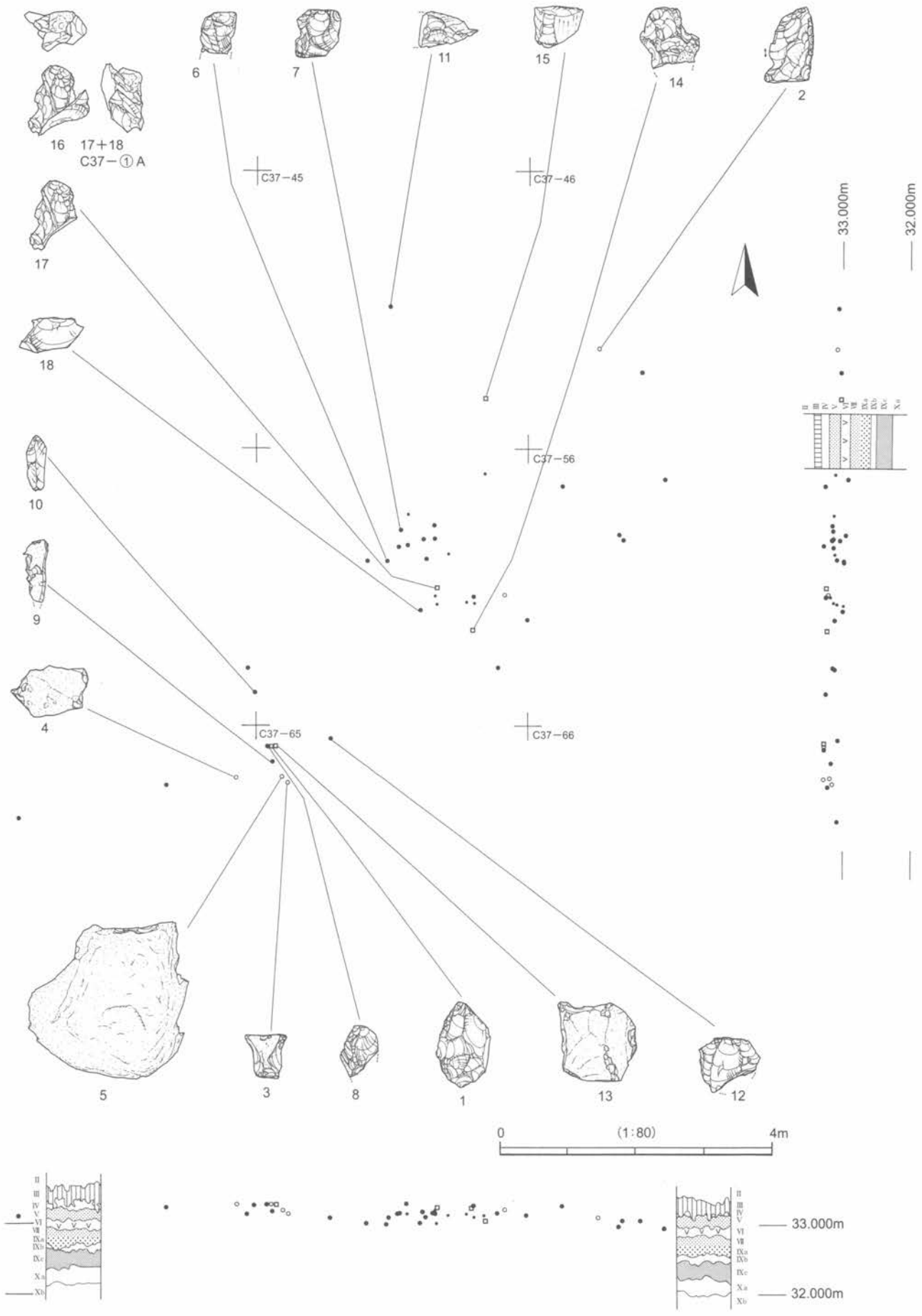
ブロックの規模と形状は，長軸11m，短軸５mの範囲に43点が分布する。ブロックの中心部は直径２mほどの範囲に20点の石器が集中する。出土層位はⅣ層を中心としており，40cm程の高低差をもって，ほぼ水平に包含されている（第344・345図）。

ブロックは，削器２点，彫器１点，加工痕ある剥片２点，使用痕ある剥片１点，剥片26点，砕片７点，石核４点の合計43点で構成される。石材は，黒曜石40点，珪質頁岩２点，ホルンフェルス１点である。本ブロックの石材は，主体となる黒曜石の石質が草刈遺跡Ｇ区C26-Aブロックの一群に類似していること，珪質頁岩のうちの１点はC26-Aブロックに同一母岩と考えられる資料があることから，両者の関連が想定される。なお，黒曜石はいずれも信州産と考えられる。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは５母岩を識別した。内訳は，黒曜石３母岩（C37-①～③），珪質頁岩２母岩（C37-⑤・⑥）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は65％（28/43点）である。

・C37-①：淡黒色透明の地に黒い直線的な縞が平行して入る良質な黒曜石である。灰色で丸い夾雑物が入



第344図　C37-Aブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－

っている。また，自然面の周辺には青みがかった黒灰色で不透明の部分がある。信州産と考えられる。

石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片１点，剥片19点，石核３点の合計24点（55.6ｇ）である。自然面は少ないが，剥片剥離作業を行った資料と考えられる。接合資料は，剥片１点と石核１点によるもの（合計8.9ｇ）がある。

なお，本母岩は草刈遺跡Ｇ区C26-Ａブロックの C26-⑱母岩に類似する。

第345図　C37-Ａブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－

・C37-②：黒褐色不透明で白色の夾雑物を少量含む黒曜石である。自然面は紙やすり状の面で，直角の角をもつ。石核１点（26.8ｇ）の単独資料である。

・C37-③：黒褐色で半透明の黒曜石である。灰色の球果を含む。彫器１点（8.7ｇ）の単独資料である。

・C37-④：節理面は橙褐色，内部は青みがかった灰色の地に青黒色と褐色の縞が入る珪質頁岩である。よく珪化しており，チャートに近い石質である。削器１点（4.5ｇ）の単独資料である。

・C37-⑤：灰緑色の地に青黒色の筋が入り，節理面は褐色を帯びた嶺岡産珪質頁岩である。大型の削器１点（113.0ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石の加工痕ある剥片１点，剥片６点，砕片７点（合計4.4ｇ），ホルンフェルスの剥片１点（0.3ｇ）である。黒曜石は信州産と考えられる。

３）出土遺物（第346図）

１は黒曜石による彫器である。不定型の剥片による粗めの片面調整品を母型（Blank）として，左上端に急角度で細かな調整加工によって彫刻刀面を作り出すための打面を設けている。彫刻刀面は，表裏面に対して直角からやや裏面側に回りこむように作られており，その後に周辺調整は見られない。素材の打面は除去されている。なお，長期間の使用によるためか，裏面は傷だらけである。また，彫刻刀面と裏面との境界の稜に，微細な刃こぼれがある。２は珪質頁岩による削器である。不定型な剥片の右側縁に細かな調整加工を連続して行っている。下半部は，左方向から節理面で折れている。５も珪質頁岩による削器とした資料であるが，石核の素材かも知れない。上端に，裏面を打面とする急角度の剥離痕が連続する。裏面は節理面が階段状になっているが，主要剥離面１枚である。円礫の自然面を加撃しているため，打点は不明瞭である。なお，同一母岩の可能性が高い資料が草刈遺跡Ｇ区C26-Ａブロックから出土している。

３は，黒曜石による不定型の剥片を用いた加工痕ある剥片である。裏面の左側縁に，折れ面を切る細かな剥離痕がある。

13は，黒曜石の石核である。厚手の剥片を素材として，左側面や裏面の下端から小型の剥片を剥離しているが，その数量は極めて少なく，石核としてほとんど機能してはいない。なお，上端の剥離面はポジティブな面である。折れ面にも見えるが，本石核の素材剥片を剥離する以前に，加撃によって内部に生じたヒビ割れであろう。

４）接合資料とその関連資料（第346・347図）

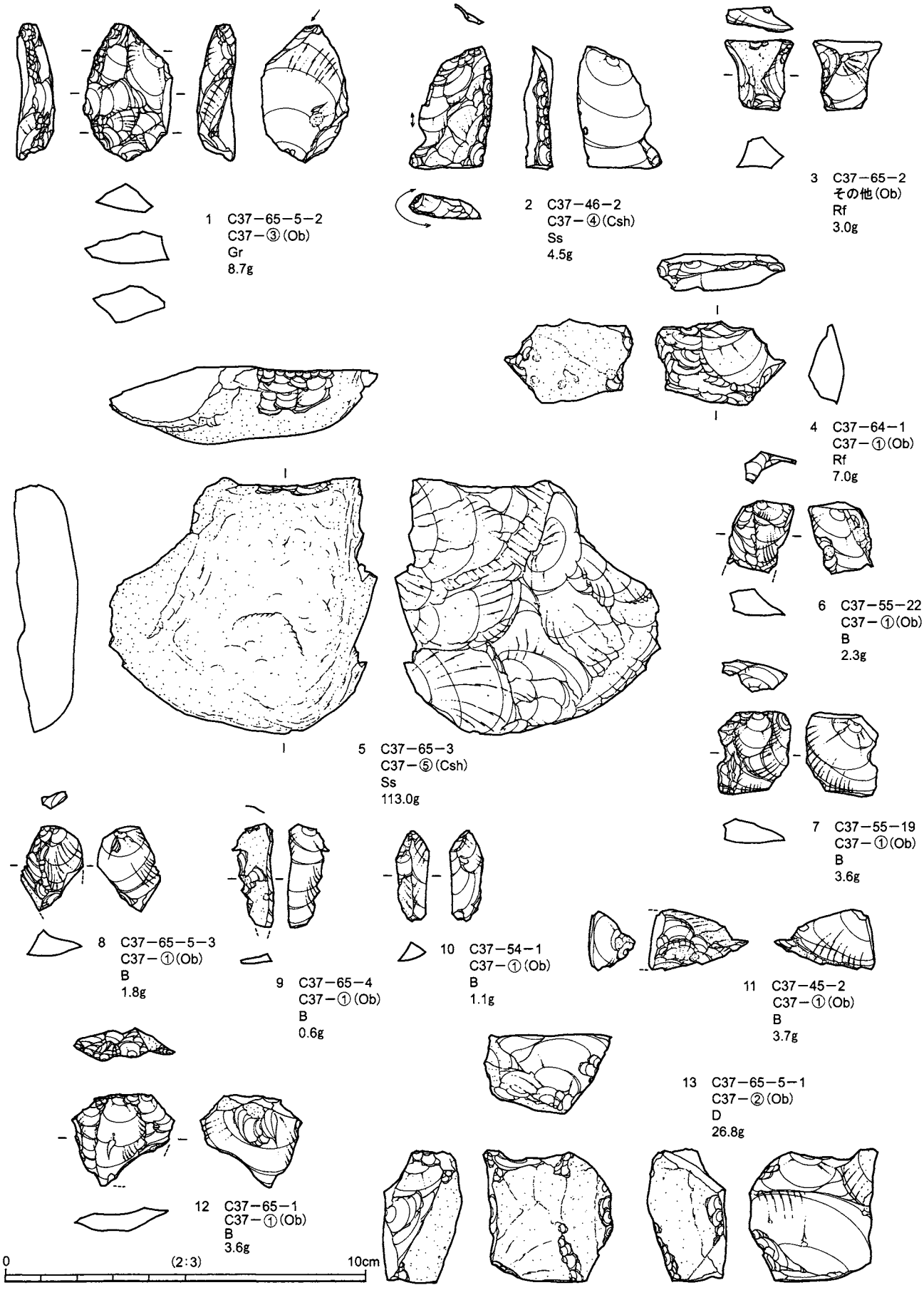
・C37-①（第346図４・６～12，第347図14～18）　淡黒色透明の黒曜石で，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片１点，剥片19点，石核３点で構成される。

第131表　C37-Ａブロック母岩別石器組成表

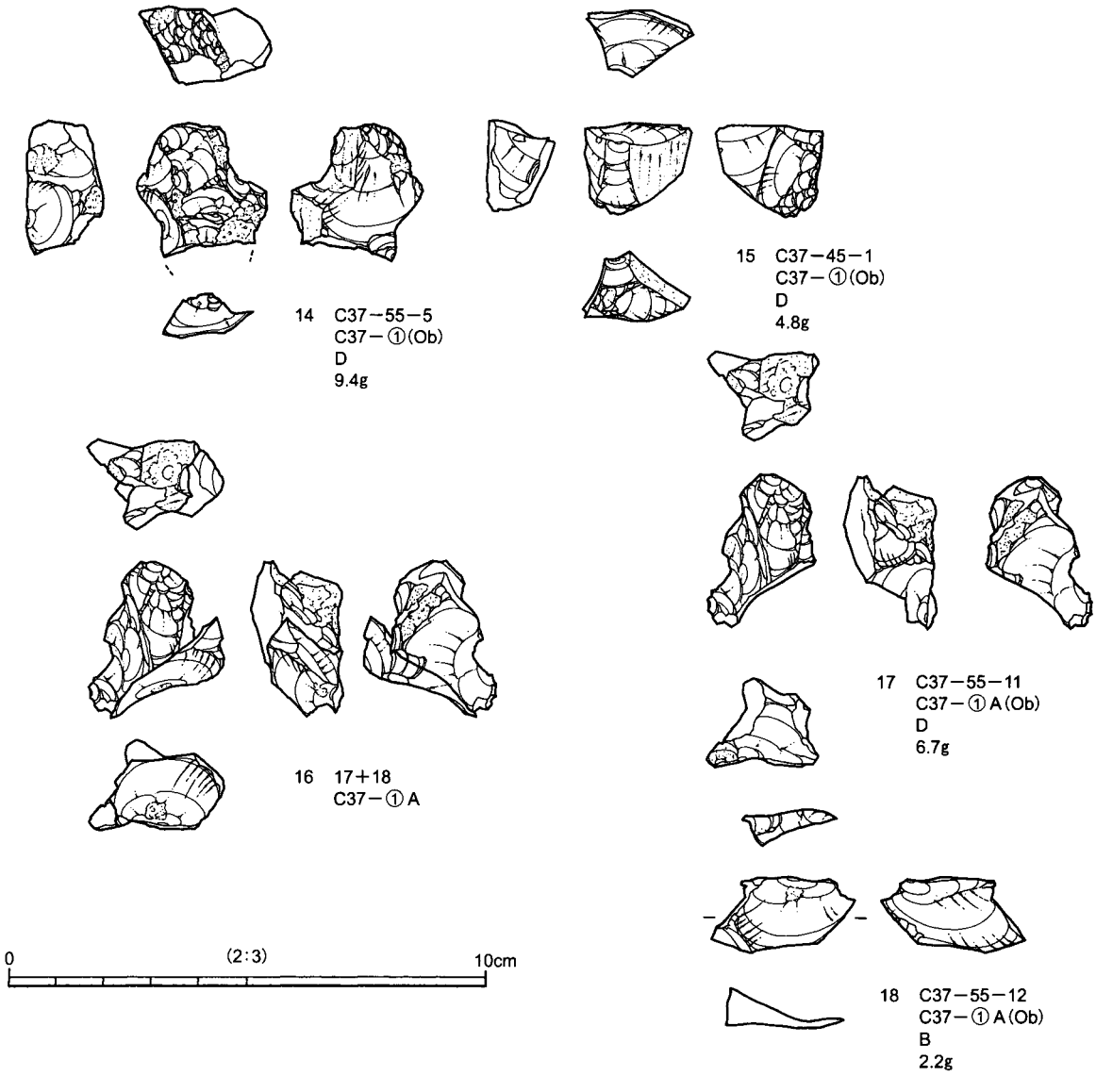
母岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C37-①(Ob)										1	1								19		3	24		24
C37-②(Ob)																					1	1		1
C37-③(Ob)							1															1		1
C37-④(Csh)						1																1		1
C37-⑤(Csh)						1																1		1
その他(Ob)										1									6	7		14		14
その他(Ho)																			1			1		1
合　計						2	1			2	1								26	7	4	43		43

第132表　C37-Ａブロック石材別石器組成表

石材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)							1			2	1								25	7	4	40		40
珪質頁岩(Csh)						2																2		2
ホルンフェルス(Ho)																			1			1		1
合　計						2	1			2	1								26	7	4	43		43



第346図　C37-Aブロック出土遺物実測図（1）



第347図　C37-Aブロック出土遺物実測図（2）

4は，加工痕ある剥片である。打面周辺に粗い剥離痕がある。6～12は不定型の剥片である。表面の剥離方向は，概ね一定している。14，15は，厚手の剥片を素材として，各所から小型不定型の剥片を剥離した石核である。

16は，剥片1点（18）と石核1点（17）の接合資料である。厚手の剥片を石核の素材としていた可能性が高いが，素材の主要剥離面は残っていない。石核を回転させ，各所から剥片を剥離しており，18もその過程で剥離されたものである。

10　C38-Aブロック（第348～350図，第133・134表）

1）ブロックの概要

C38-Aブロックは，調査範囲南側のC37-93・94，C38-03・04グリッドに位置する。ブロックの立地は台地中央の平坦面である。北側の谷に下りる傾斜変換点からの距離は100mほどある。

ブロックの規模と形状は，長軸６ｍ，短軸４ｍの範囲に35点の石器・礫が分布する。出土層位はＶ層を中心としており，30cmほどの高低差をもって，ほぼ水平に包含されている（第349・350図）。

ブロックは，ナイフ形石器２点，使用痕ある剥片１点，剥片20点，砕片11点，礫１点の合計35点で構成される。石器石材は34点すべてが黒曜石で，礫石材は，石英１点である。礫は小型の破片で，被熱しているか否かも不明である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは２母岩を識別した。内訳は，黒曜石２母岩（C38-①・②）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は21％（7/34点）である。

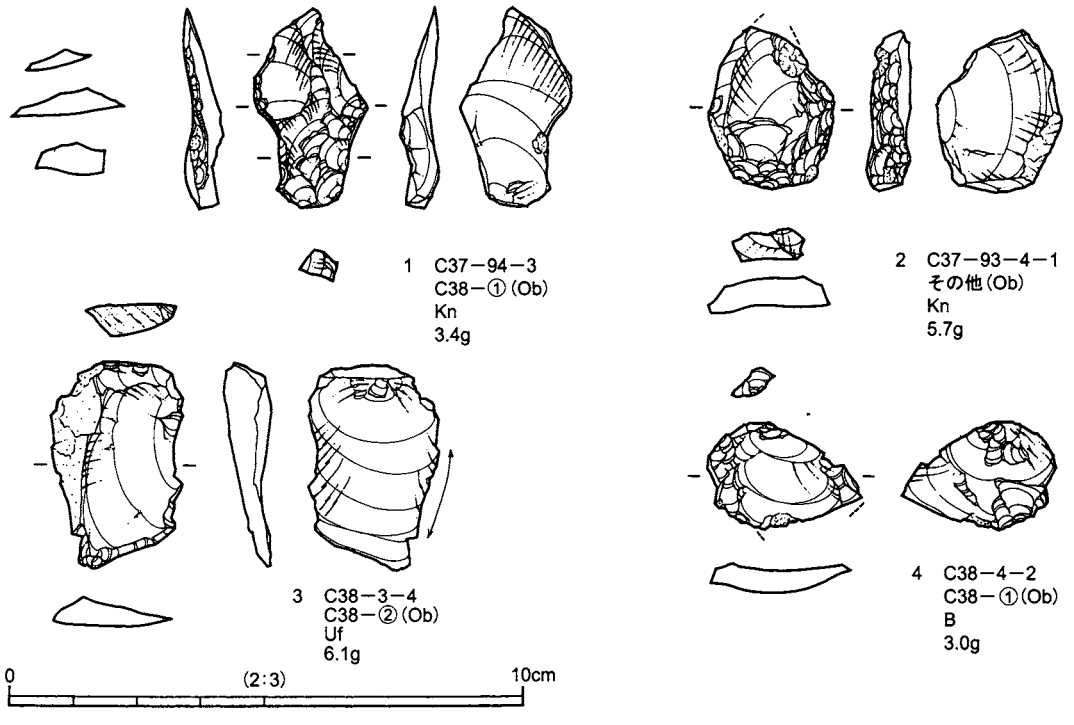
・C38-①：透明の地に黒い縞が入り，φ３㎜ほどの夾雑物を少量含む黒曜石である。信州産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，剥片４点の合計５点（7.7ｇ）である。

・C38-②：透明の地に青みがかった黒色の縞が入る黒曜石である。信州産と考えられる。使用痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（6.6ｇ）である。

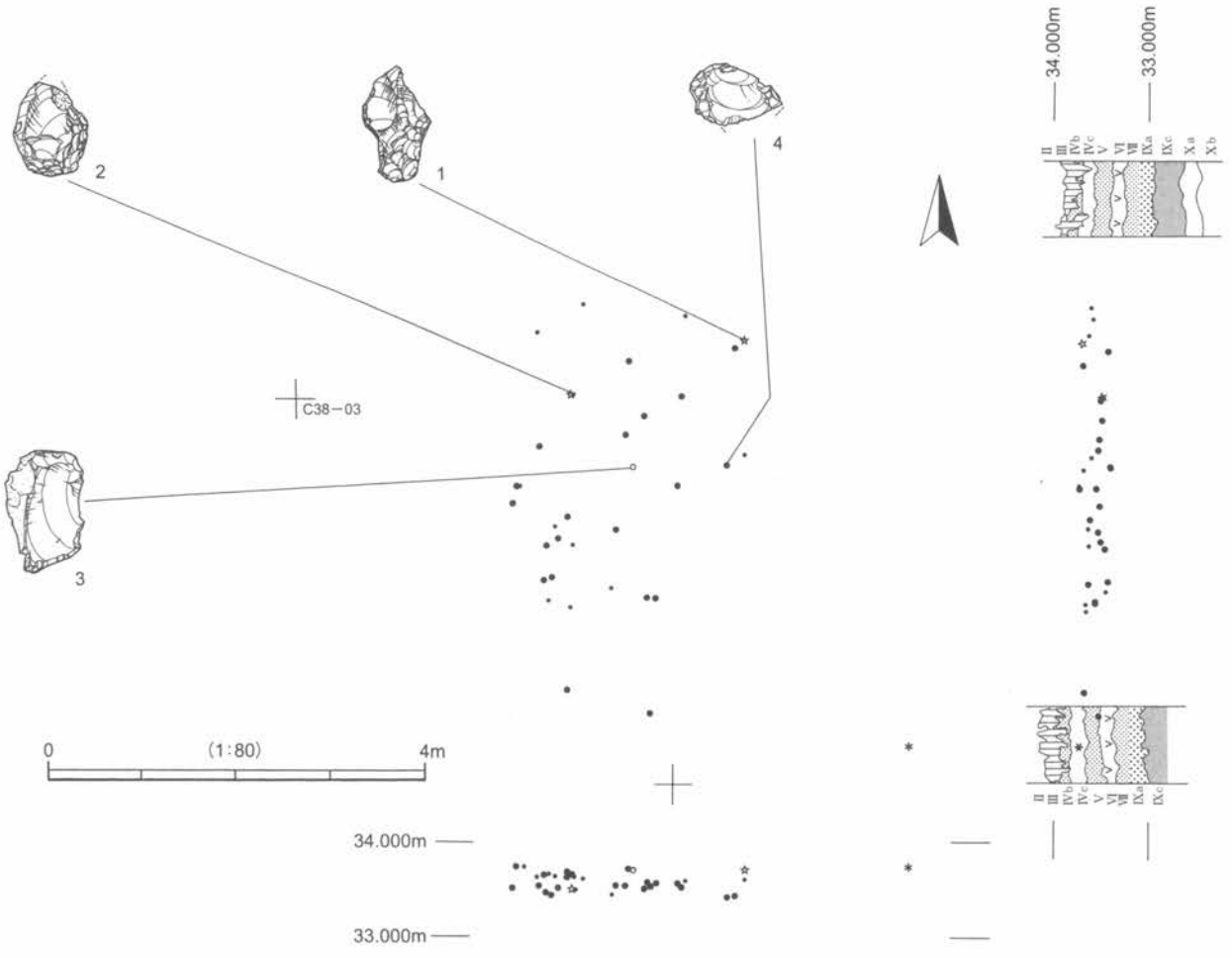
なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石のナイフ形石器１点，剥片15点，砕片11点（合計11.3ｇ）がある。概ね信州産と考えられる。

３）出土遺物（第348図）

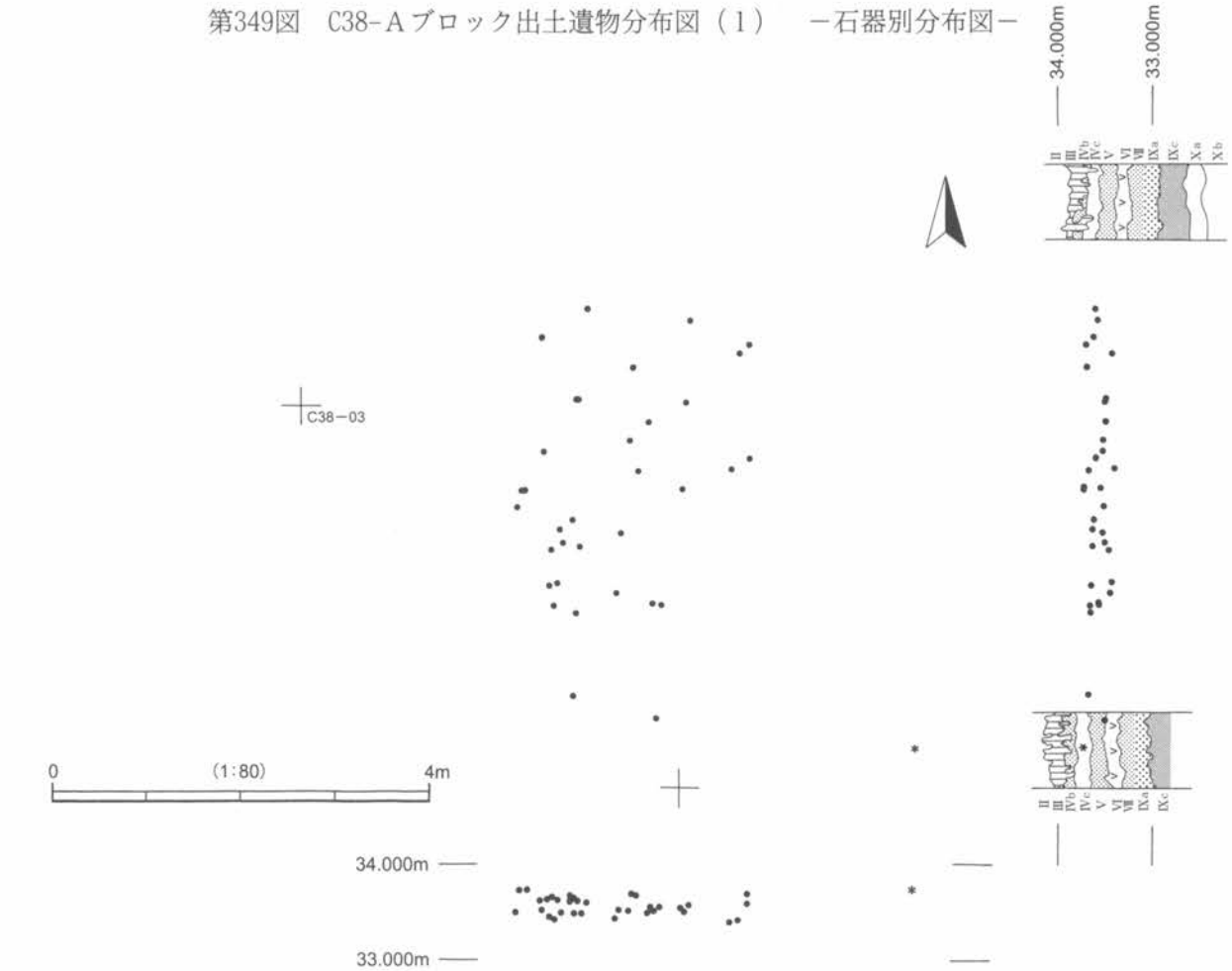
１は，黒曜石による基部調整のナイフ形石器である。幅広不整形の縦長剥片を素材とし，素材の打面を基部に置いて，左側縁については基部寄りの2/3を裏面から細かく調整している。右側縁は，基部寄りに素材の打面が残るが，その表面側に小型で平坦な剥離面が連続する。裏面（主要剥離面）との切り合い関係はなく，調整加工か否かの判断がしずらいが，幅広の縦長剥片に頭部調整などは一般的でないことから，打面部を薄くするための調整加工と考えられる。２も黒曜石による１側縁調整のナイフ形石器である。不



第348図　C38-Ａブロック出土遺物実測図



第349図　C38-Aブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



第350図　C38-Aブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－

定型の剥片を素材とし，打面を切るように，右側面に対して裏面から調整加工を行っている。

３は，幅広の縦長剥片を利用した使用痕ある剥片で，裏面左側縁に刃こぼれがある。４は，幅広不定型の剥片である。

第133表　C38-Aブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C38-①(Ob)	1																		4			5		5
C38-②(Ob)											1								1			2		2
その他(Ob)	1																		15	11		27		27
その他(Qu)																							1	1
合　計	2										1								20	11		34	1	35

第134表　C38-Aブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)	2										1								20	11		34		34
石英(Qu)																							1	1
合　計	2										1								20	11		34	1	35

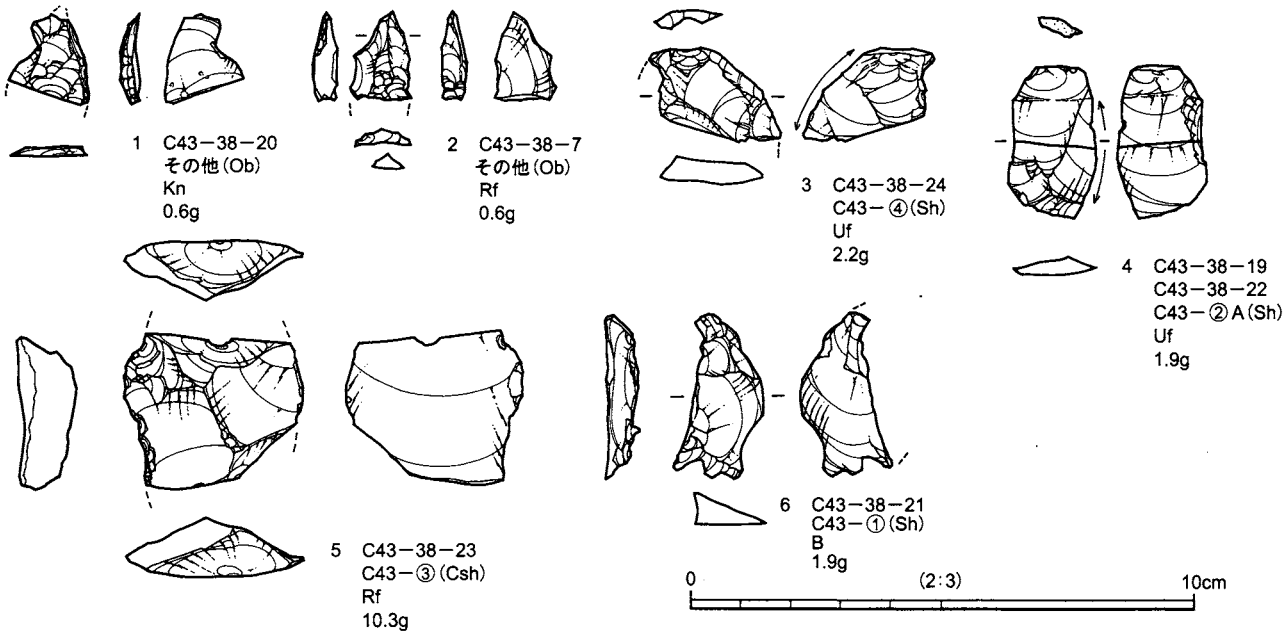
11　C43-Aブロック（第351～352図，第135・136表）

1）ブロックの概要

C43-Aブロックは，調査範囲北端のC43-28・38・39・48グリッドに位置する。ブロックの立地は台地北側の縁辺部で，北側の谷に下りる傾斜変換点からの距離は20mである。また，当該地は北東に向かって下る緩斜面である。

ブロックの規模と形状は，長軸６m，短軸３mの範囲に27点の石器・礫が分布する。出土層位はⅤ層を中心としており，概ね50cmの高低差をもって包含されている。ただし，２割ほどはさらに高低差が大きい(第352・353図)。

ブロックは，ナイフ形石器１点，加工痕ある剥片２点，使用痕ある剥片３点（２個体），原石１点，剥片17点，砕片２点，礫１点の合計27点（26個体）で構成される。石器石材は，黒曜石18点，安山岩２点，



第351図　C43-Aブロック出土遺物実測図

頁岩４点，珪質頁岩１点，ホルンフェルス１点，礫石材は，砂岩１点である。礫は被熱した小破片である。

２）母岩の特徴と内容

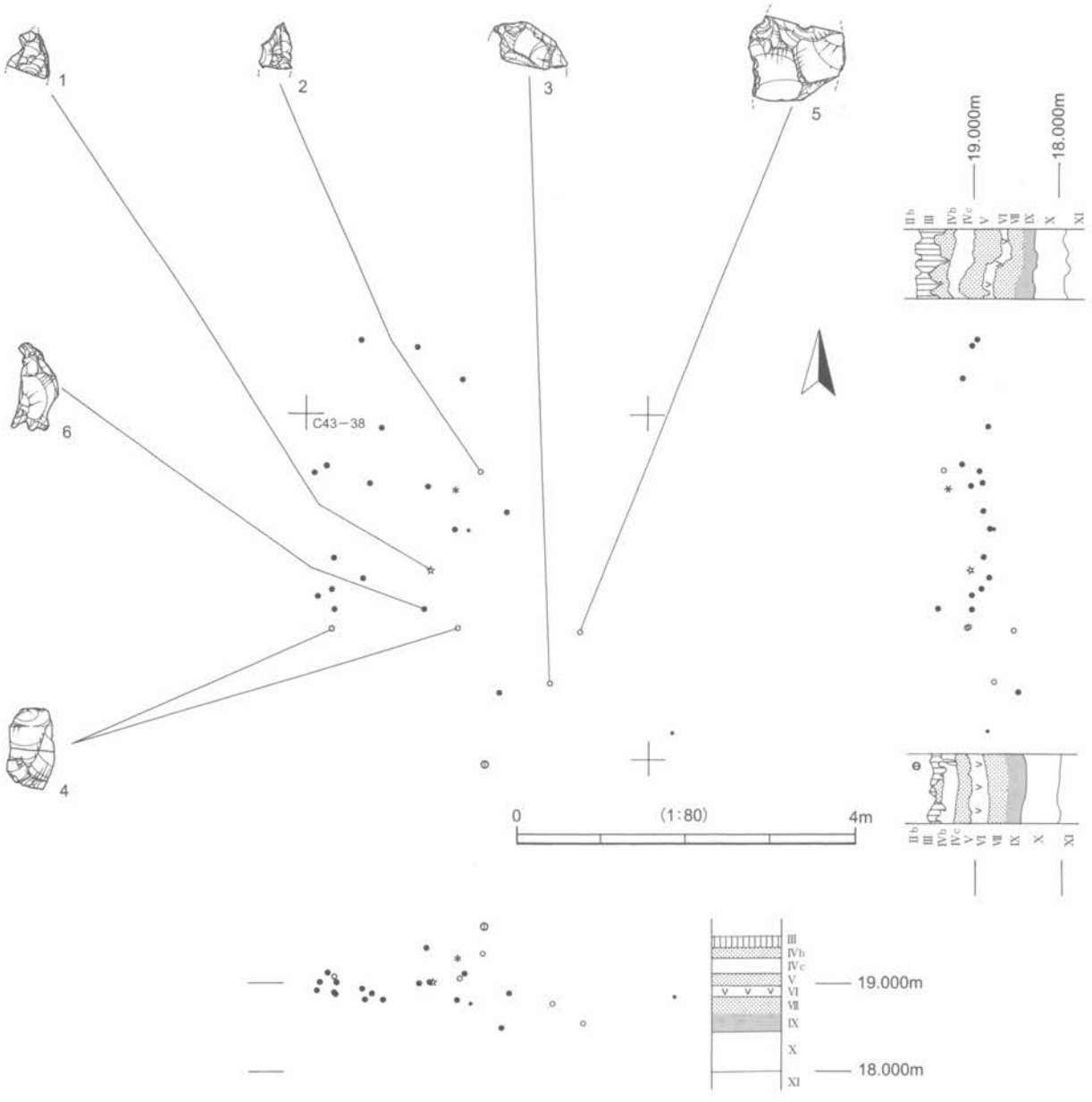
本ブロックでは５母岩を識別した。内訳は，頁岩３母岩（C43-①・②・④），珪質頁岩１母岩（C43-③），ホルンフェルス１母岩（C43-⑤）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は23%（6/26点）である。

・C43-①：褐色で硬質緻密，均質な東北産頁岩である。剥片１点（1.9ｇ）の単独資料である。

・C43-②：黒灰色のきめ細かな頁岩である。「黒色頁岩」に相当する。使用痕ある剥片２点（１個体；1.9ｇ）の単独資料である。

・C43-③：淡い灰緑色の地に青灰色の小さな斑が入る嶺岡産珪質頁岩である。加工痕ある剥片１点（10.3ｇ）の単独資料である。

・C43-④：緑がかった黄灰色の地に褐色の節理が入る頁岩である。きめ細かく，比較的硬質である。使用



第352図　C43-Ａブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－

痕ある剥片１点（2.2ｇ）の単独資料である。

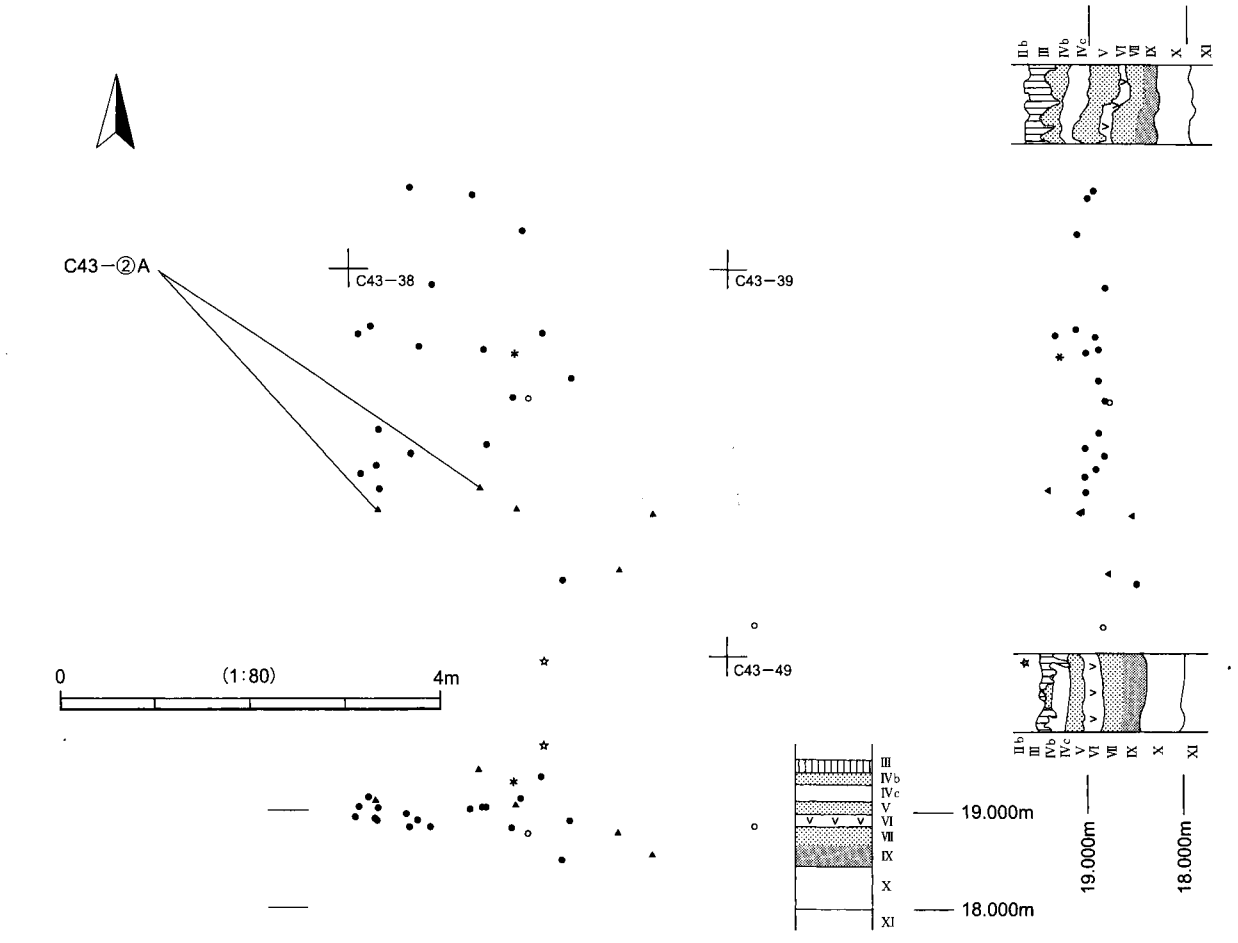
・C43-⑤：粘土質で灰色の部分を主体として，砂質で黄灰色の部分がわずかに見られるホルンフェルスである。拳よりひとまわり小さい円礫で，剥離痕はない。原石１点（198.1ｇ）の単独資料である。

第135表　C43-Aブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C43-①(Sh)																			1			1		1
C43-②(Sh)											2(1)											2(1)		2(1)
C43-③(Csh)										1												1		1
C43-④(Sh)											1											1		1
C43-⑤(Ho)																		1				1		1
その他(Ob)	1									1									16			18		18
その他(An)																				2		2		2
その他(Sa)																							1	1
合　計	1									2	3(2)							1	17	2		26(25)	1	27(26)

第136表　C43-Aブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)	1									1									16			18		18
安山岩(An)																				2		2		2
頁岩(Sh)											3(2)								1			4(3)		4(3)
珪質頁岩(Csh)										1												1		1
砂岩(Sa)																							1	1
ﾎﾙﾝﾌｪﾙｽ(Ho)																		1				1		1
合　計	1									2	3(2)							1	17	2		26(25)	1	27(26)



第353図　C43-Aブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石のナイフ形石器１点，加工痕ある剥片１点，剥片16点（合計6.5ｇ），安山岩の砕片２点（合計0.2ｇ）がある。黒曜石は黒色，あるいは黒灰色不透明でφ１～２㎜の夾雑物を含むもので，栃木県高原山産の可能性がある。小型品ばかりのため母岩分類できなかったが，石器製作作業に関連したものと考えられる。

３）出土遺物（第351図）

１は黒曜石によるナイフ形石器の破片である。縦長剥片ないしは石刃を素材とした２側縁調整のナイフ形石器と考えられるが，小破片であるため，詳細は不明である。

２は，黒曜石による加工痕ある剥片である。小型の横長剥片を素材としており，左側縁の先端に細かな調整加工がある。下半部は欠損している。なお，素材の打面は，折れ面からの剥離（偶発的な折れかも知れない）によってなくなっている。５は，珪質頁岩による加工痕ある剥片である。幅広の縦長剥片を用い，粗く断続的な調整加工が左側縁に見られる。上下は欠損するが，意図的な切断の可能性もある。

３・４は，頁岩による使用痕ある剥片，６は頁岩の不定型剥片である。なお，３～６は，いずれも単独母岩で搬入品と考えられる。

12　C45-Aブロック（第354～357図，第137・138表）

１）ブロックの概要

C45-Aブロックは，調査範囲北側のC45-29・39，C34-20・30グリッドに位置する。ブロックの立地は台地の北側で，傾斜変換点からの距離は50ｍである。また，当該地は北東に向かって下る緩斜面である。

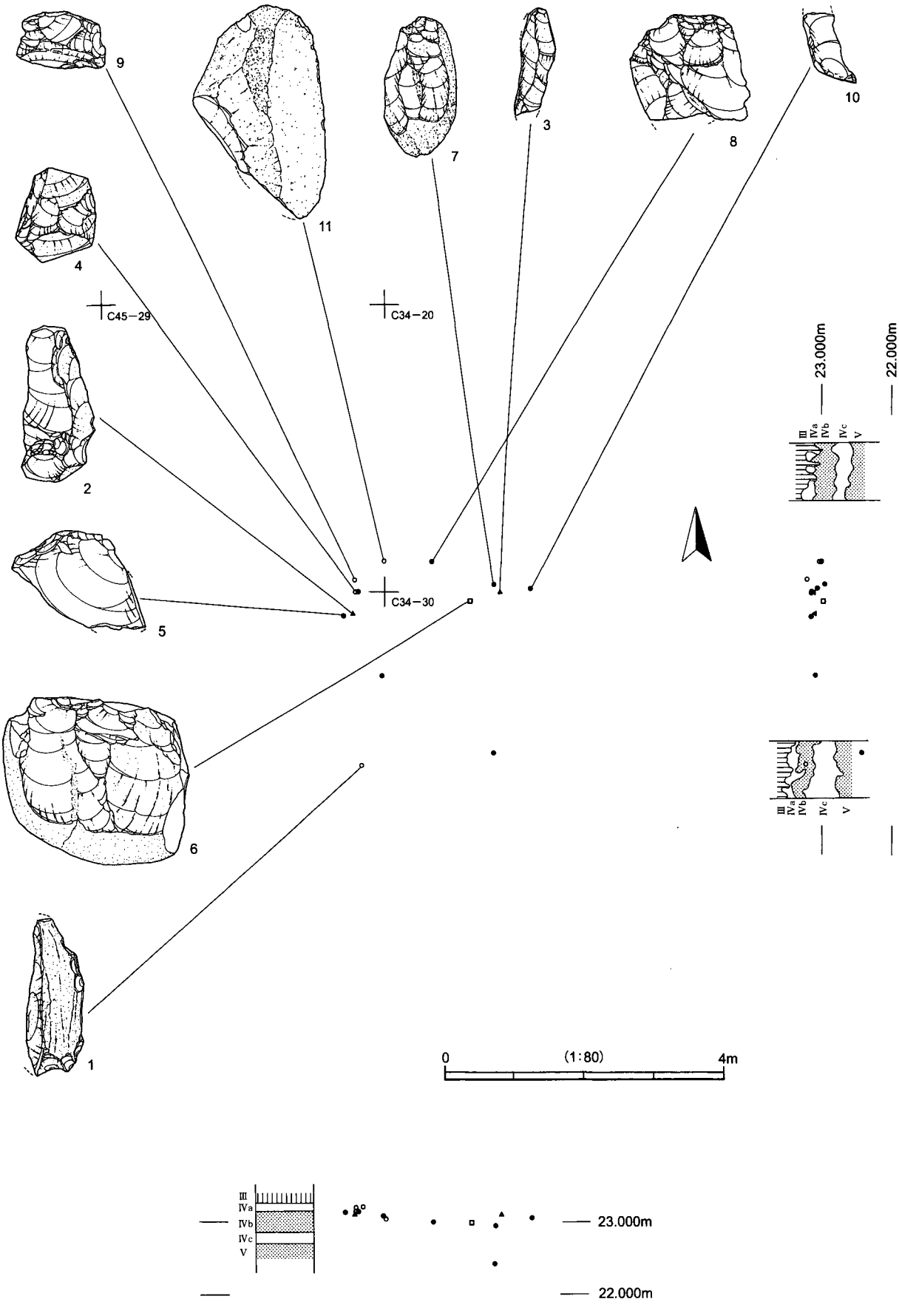
ブロックの規模と形状は，直径４ｍの範囲に14点の石器が分布する。出土層位はⅣb層を中心としており，30㎝ほどの高低差をもって，地形に沿って包含されている（第354・355図）。

ブロックは，加工痕ある剥片２点，使用痕ある剥片２点，石刃２点，剥片７点，石核１点の合計14点で構成される。石材は，砂岩２点，ホルンフェルス12点である。大半の石材は単独母岩で，本ブロック内では剥片生産を行っていない。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは８母岩を識別した。内訳は，砂岩２母岩（C45-①・⑧），ホルンフェルス６母岩（C45-②～⑦）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は93％（13/14点）である。

- C45-①：節理は黄白色，内部は青みがかった灰色の砂岩である。粒子が細かく硬質である。使用痕ある剥片１点（19.3ｇ）の単独資料である。
- C45-②：黒灰色で粘土質のホルンフェルスである。石刃１点（24.7ｇ）の単独資料である。
- C45-③：黒灰色と灰色が斑で砂質のホルンフェルスである。剥片１点（21.6ｇ）の単独資料である。
- C45-④：青灰色で粘土質のホルンフェルスである。加工痕ある剥片１点（23.6ｇ）の単独資料である。
- C45-⑤：黄灰色の部分と青みがかった黒灰色の部分が層状になったホルンフェルスである。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，石刃１点，剥片３点の合計５点（61.6ｇ）である。
- C45-⑥：淡灰緑色できめ細かな粘土質のホルンフェルスである。風化により軟化している。原石は，拳大ほどの円礫と考えられる。石核１点（479.2ｇ）の単独資料である。
- C45-⑦：黄灰色の部分と青みがかった黒灰色の部分が層状になったホルンフェルスである。C45-⑤母岩に類似するが，本母岩の方が硬質である。剥片２点（合計39.6ｇ）で構成される。



第354図　C45-Aブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－

・C45-⑧：灰色で硬質の砂岩である。C45-①母岩よりも粒子は粗い。使用痕ある剥片１点（160.5ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，ホルンフェルスの剥片１点（0.9ｇ）がある。

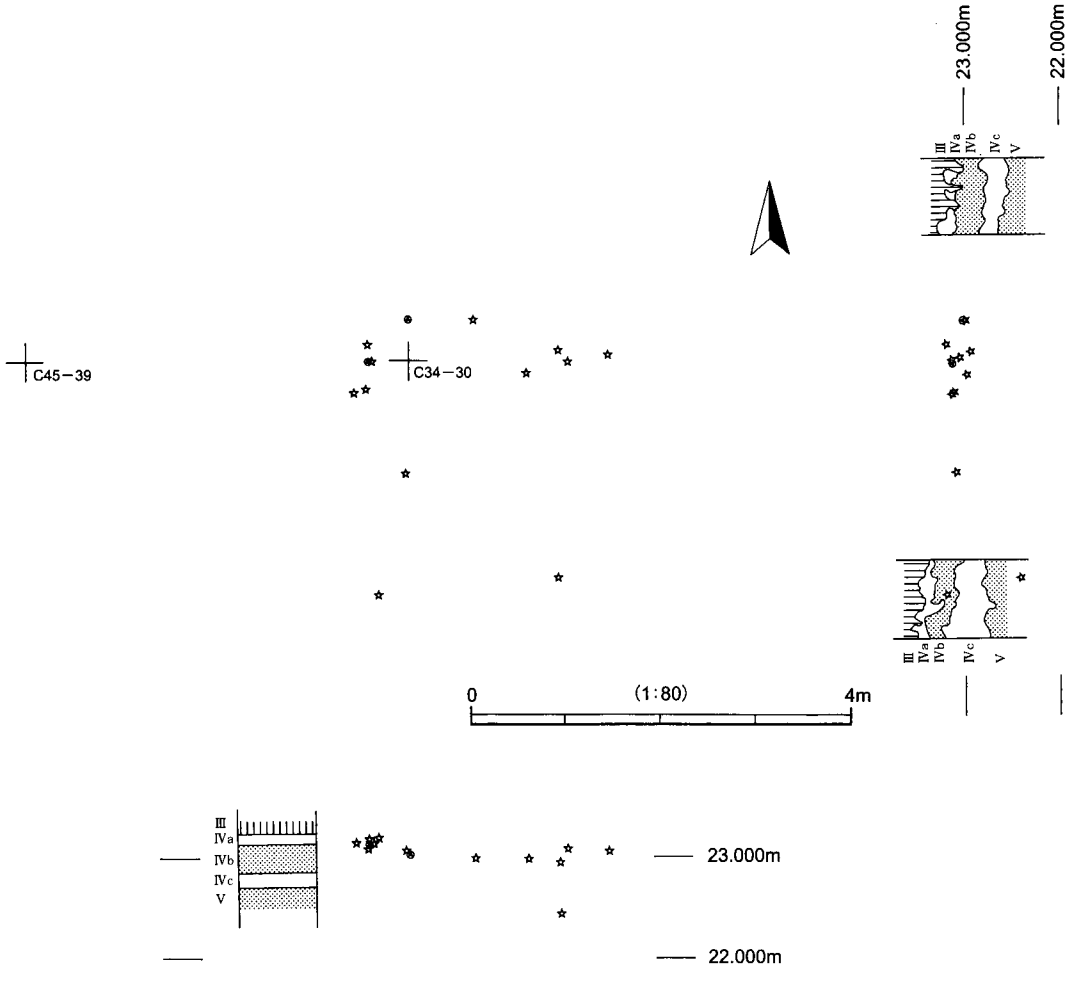
３）出土遺物（第356・357図）

１は，ホルンフェルスによる加工痕ある剥片である。横長剥片を素材として，素材の打面側（実測図右側縁）に粗い調整加工を行っている。右側は大きく欠損しており，全体の形状は不明である。９もホルンフェルスによる加工痕ある剥片である。不定型の剥片を用い，打面部を除去するように調整加工している。

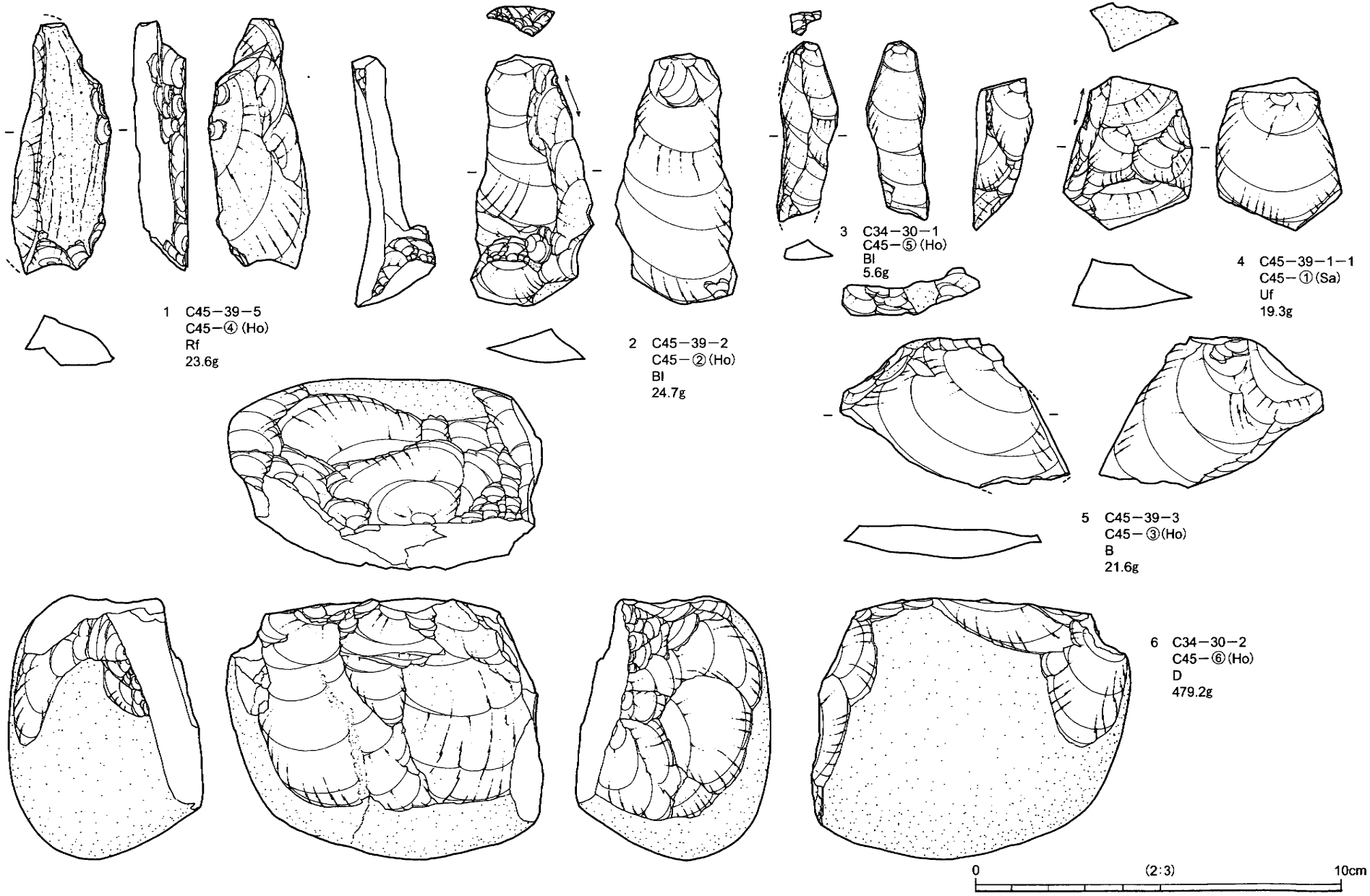
４は砂岩による不定型の剥片を利用した使用痕ある剥片である。11も砂岩による使用痕ある剥片である。大型厚手の剥片を用いており，右側縁に刃こぼれがある。なお，表面中央に敲打痕が見られることから，本剥片を剥離した石核が以前は敲石として機能していた可能性がある。

２・３は石刃，５は横長剥片，７・10は縦長剥片，８は不定型の剥片である。石材はすべてホルンフェルスである。

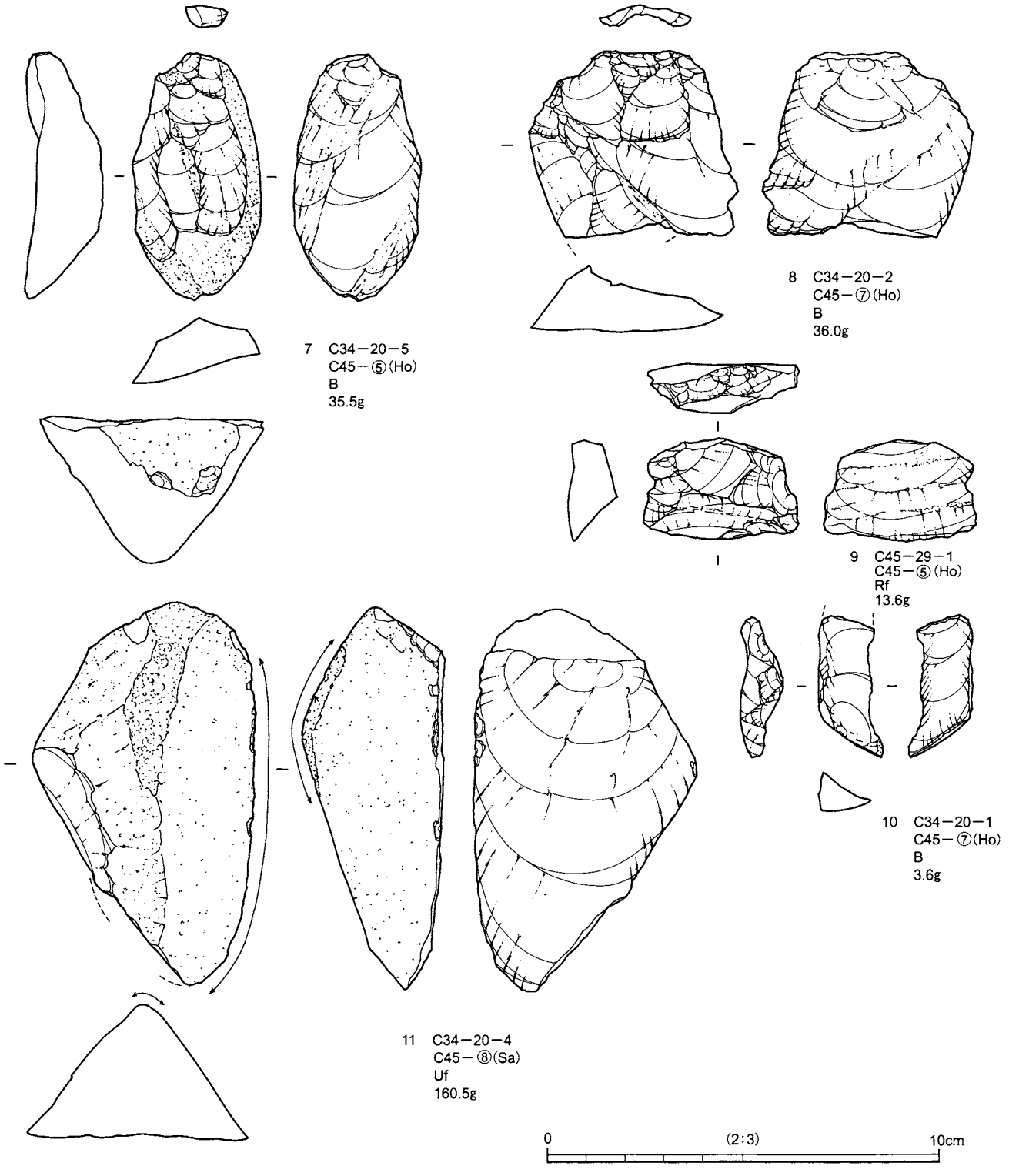
６はホルンフェルスによる拳大の円礫を用いた石核である。上面に打面を設け，幅広の縦長剥片を剥離している。左右の側面には，表面側からの不定型の剥離痕が見られる。表面の作業面を切る新しい剥離面の一群であるが，次の剥片剥離に備えた側面調整かも知れない。



第355図　C45-Ａブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－



第356図　C45-Aブロック出土遺物実測図（1）



第357図　C45-Aブロック出土遺物実測図（2）

第137表　C45-Aブロック母岩別石器組成表

母岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C45-①(Sa)											1											1		1
C45-②(Ho)												1										1		1
C45-③(Ho)																			1			1		1
C45-④(Ho)										1												1		1
C45-⑤(Ho)										1		1							3			5		5
C45-⑥(Ho)																					1	1		1
C45-⑦(Ho)																			2			2		2
C45-⑧(Sa)											1											1		1
その他(Ho)																			1			1		1
合　計										2	2	2							7		1	14		14

第138表　C45-Aブロック石材別石器組成表

石材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
砂岩(Sa)											2											2		2
ホルンフェルス(Ho)										2		2							7		1	12		12
合　計										2	2	2							7		1	14		14

第5節　ブロック外出土遺物

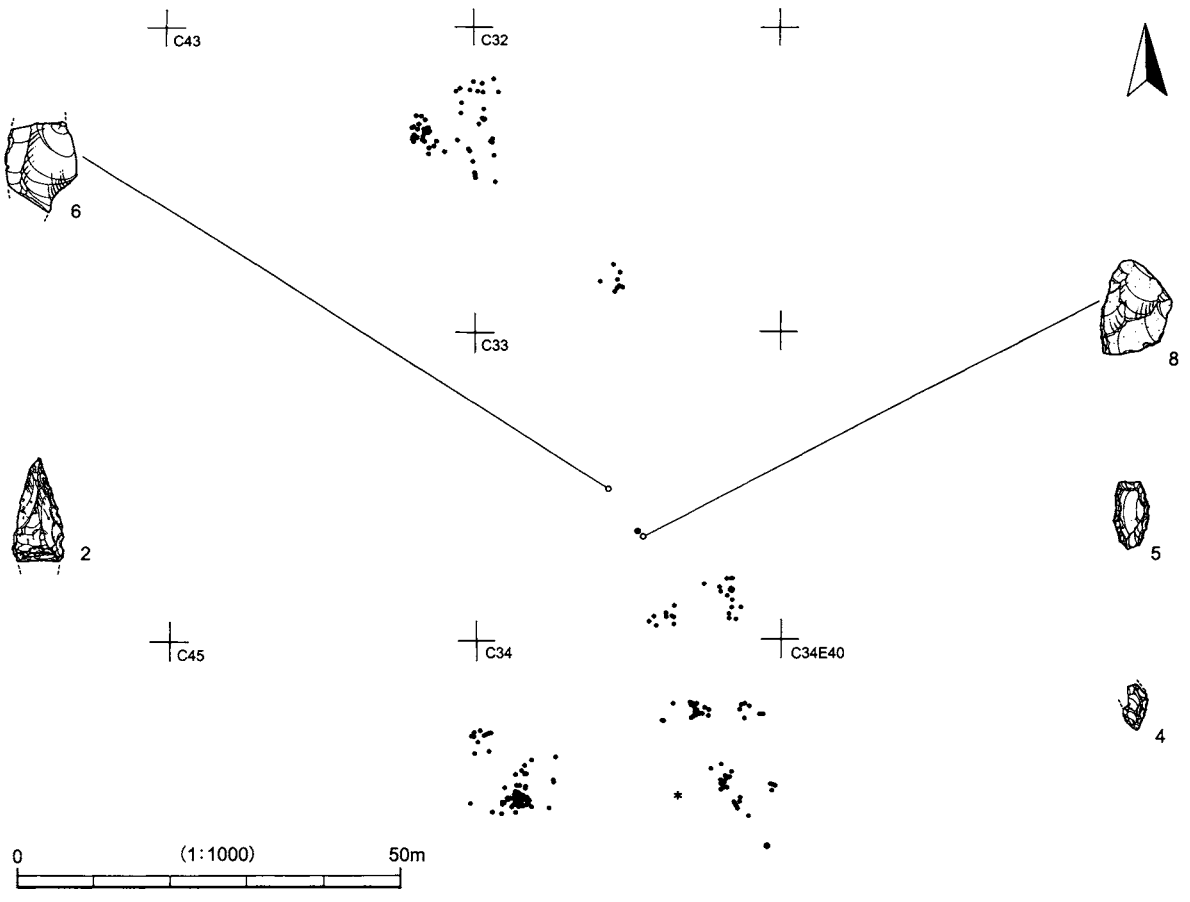
ここでは，ブロックを形成していない遺物と上層遺構等に混在していた遺物について記述する（第358～360図）。

1は，褐色で硬質緻密な東北産頁岩による2側縁調整のナイフ形石器である。中型の石刃を用い，素材の打面側を基部として，右側縁の基部寄りと左側縁の先端側に急角度の調整加工を行い，柳葉形に仕上げている。先端は欠損する。なお，素材の打面は除去されている。C48-25グリッドのⅥ層から出土した。2は，黒曜石のナイフ形石器である。横長剥片を素材とし，素材の打面側（右側縁）に調整加工を行っている。下半部は欠損しているため全体の形状は不明であるが，右側縁を中心に調整した1側縁調整のナイフ形石器の可能性が高い。黒曜石は黒色不透明で夾雑物を含んでおり，栃木県高原山産と考えられる。上層遺構（207号）の覆度から出土した。4は，黒曜石によるナイフ形石器の破片である。端部の両側縁が調整加工されており，2側縁調整のナイフ形石器の基部破片と考えられる。黒曜石は淡黒色半透明の良質なもので，信州産と考えられる。C32グリッド周辺で表土層を除去した段階で出土した。5も黒曜石のナイフ形石器である。横長剥片を素材として，素材の打面側と端部側の2側縁に調整加工を行い，刃部を水平とする台形に仕上げている。黒曜石の特徴は4と共通する。出土状況も4と同様である。

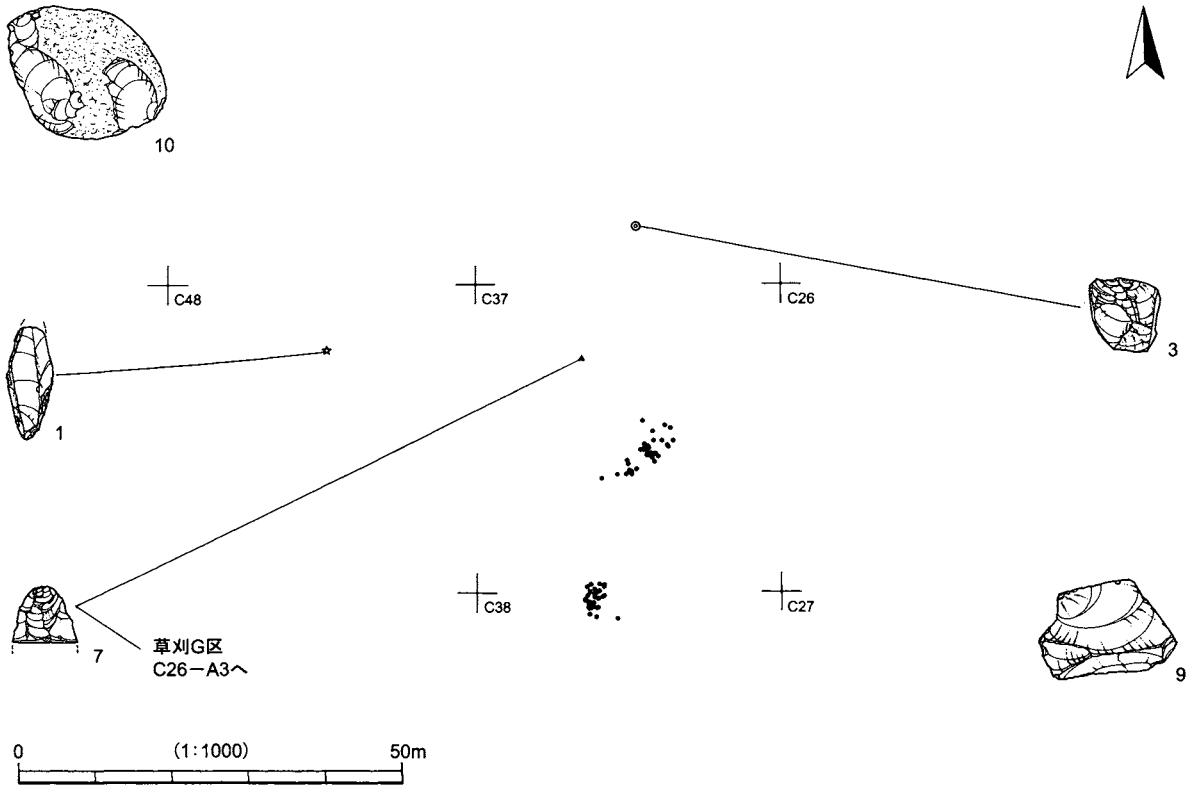
3は，灰色の地に黒灰色の帯が入る珪質頁岩を用いた掻器である。石材は嶺岡産の可能性がある。不定型の剥片を素材として，端部に細かな調整加工を行っている。C36-85グリッドのⅦ～Ⅸa層から出土した。6は，黒色頁岩による加工痕ある剥片である。不定型の剥片を素材として，左側縁の一部に調整加工が見られる。なお，本石器の素材時の主要剥離面は裏面であるが，表面右側には上半部の折れ面直下に打点をもつポジティブな剥離面があり，これは裏面よりも新しい剥離面である。ただ，左側縁の調整加工は上半部の折れ面によって切られていることから，石器として機能していた段階で表裏が割れたと判断した。

7は黒曜石の石刃である。透明の地に黒色の縞が平行する良質なもので，草刈遺跡G区C26-Aブロック出土の石刃と接合する。C37-23グリッドのⅣ層から出土した。8は淡黒灰色のホルンフェルスによる剥片である。C33-65グリッドから出土した。

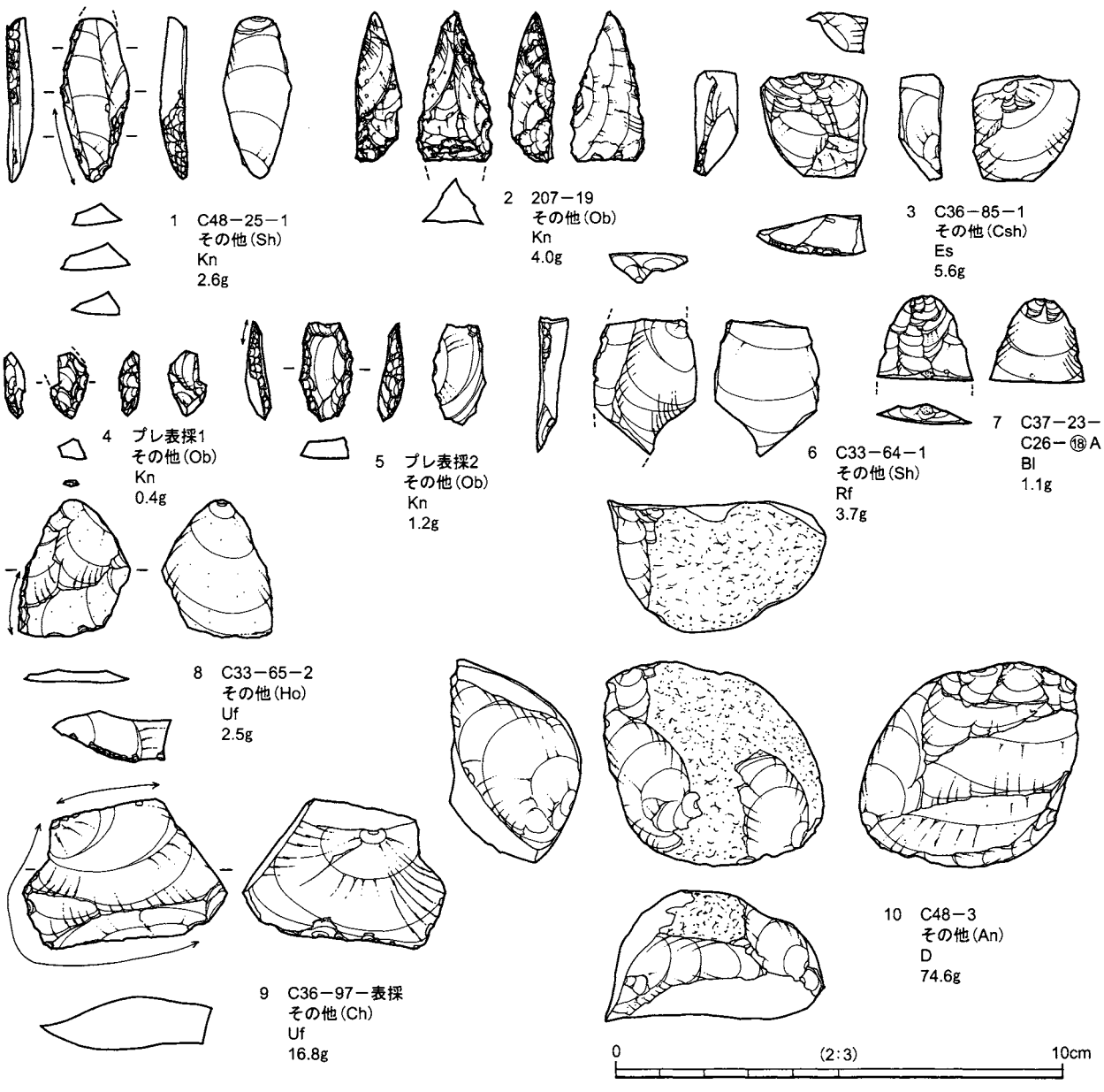
9は，青灰色のチャートによる使用痕ある剥片，10は褐色に風化した安山岩による石核である。円礫を分割して石核の素材とし，分割面を作業面として不定型の剥片を生産している。



第358図　草刈遺跡Ｅ区ブロック外出土遺物分布図（１）



第359図　草刈遺跡Ｅ区ブロック外出土遺物分布図（２）



第360図　草刈遺跡Ｅ区ブロック外出土遺物実測図

第５章　草刈遺跡Ｇ区（219-034）

第１節　調査の概要

草刈遺跡Ｇ区では，旧石器時代の調査を昭和61・62年度に実施した。調査区は遺跡の北東端にあたり，千葉市と市原市とを画する茂呂谷津に面した台地北側の緩斜面が中心である。調査対象面積は，昭和61年度が18,000㎡，昭和62年度が10,000㎡で，はじめに４％の確認調査を行い，その結果に基づいて本調査を行った。調査の結果，12か所のブロックと８か所の単独出土地点を検出した（第361図）。

本調査区における12か所のブロックは，以下のとおり４枚の文化層に区分できる。なお，文化層の設定は草刈遺跡東部全域で行っているため，本調査区の石器群は第３・４・６・７文化層にあたる。

第３文化層は，立川ローム層第２黒色帯下部（IX層下部）に包含される石器群で，石器20点と礫１点が１か所のブロック（C20-Aブロック）から出土した。

第４文化層は，立川ローム層第２黒色帯上半部（VII～IX層上部）に包含される石器群で，18点の石器が２か所のブロック（C14N40-A，C15-Aブロック）から出土した。

第６文化層は，立川ローム層のソフトローム層下部（III層）から第１黒色帯（V層）にかけて包含される石器群で，石器1,459点と礫２点が５か所のブロック（C21-B，C26-A1～A4ブロック）から出土した。

第７文化層は，立川ローム層のソフトローム層下部（III層）からハードローム層最上部（IV層）にかけて包含される石器群で，石器115点と礫1,042点が４か所のブロック（C12-B，C14-A～Cブロック）から出土した。第６文化層と層位的に分離することは難しいが，石器組成と石材構成により，本調査区で設定した文化層である。

第２節　第３文化層

第３文化層は，立川ローム層第２黒色帯下部（IX層下部）に包含される石器群で，C20-Aブロック（調査時のＧ地点）１か所が該当する。

１　C20-Aブロック（第362～365図，第139・140表）

１）ブロックの概要

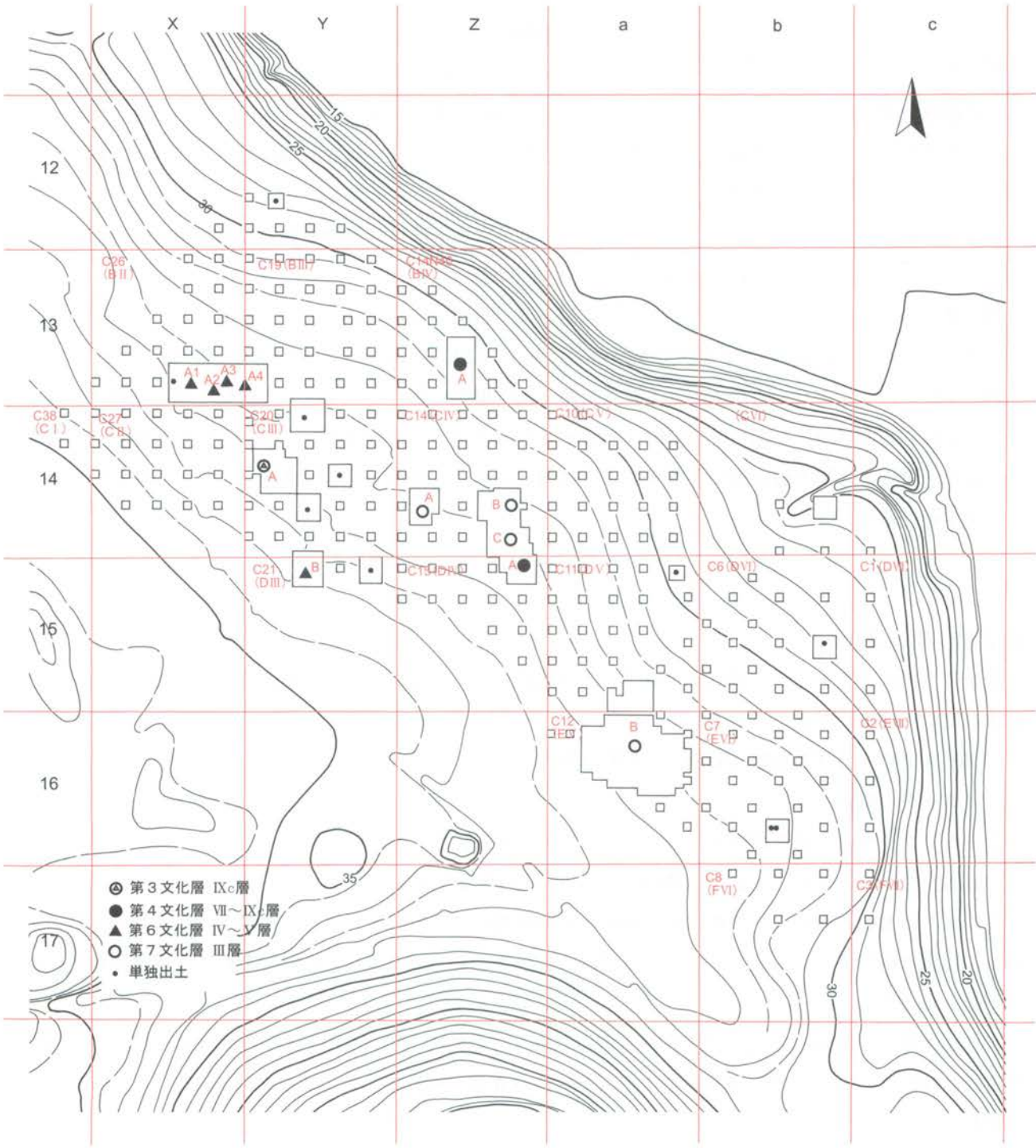
C20-Aブロックは，調査範囲北端のC20-31・32・41・42グリッドに位置する。ブロックの立地は台地北側の緩斜面で，傾斜変換点（台地の縁辺）までの距離は60mである。

ブロックの規模と形状は，長軸５m，短軸４mの範囲に21点の石器・礫が分布する。出土層位はIX層下部からX層にかけてであるが，垂直方向のばらつきが大きく，１mほどの高低差をもって包含されている（第362・363図）。

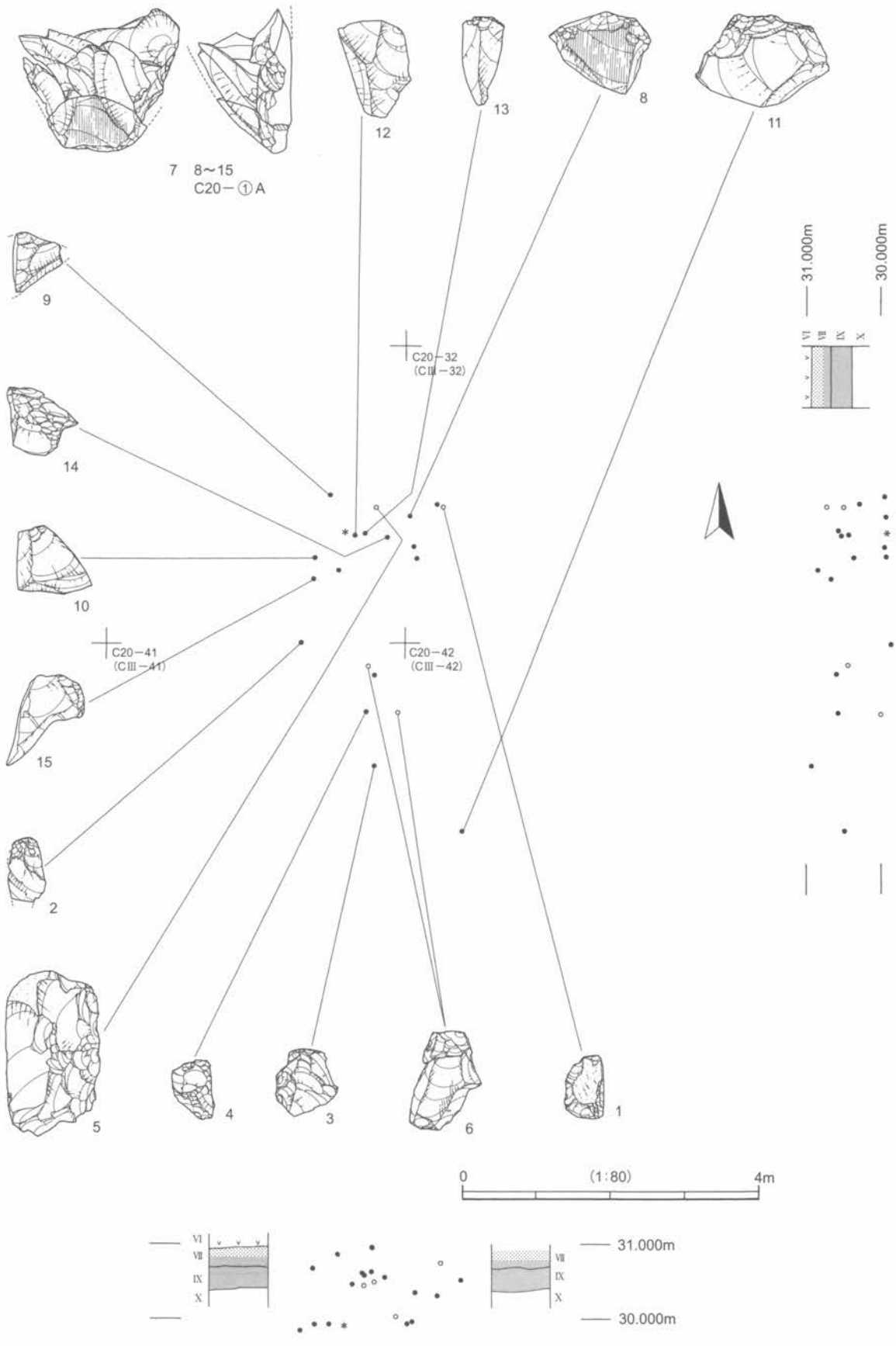
ブロックは，楔形石器１点，使用痕ある剥片３点（２個体），剥片16点，礫１点の合計21点（20個体）で構成される。石器石材は，珪質頁岩１点，チャート４点，凝灰岩３点（２個体），砂岩12点，礫石材は砂岩１点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは７母岩を識別した。内訳は，珪質頁岩１母岩（C20-⑥），チャート３母岩（C20-④・⑤・⑦），凝灰岩１母岩（C20-③），砂岩２母岩（C20-①・②）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（20/20点）である。なお，C20-①母岩は石斧の刃部再生作業に関連する資料で，まとまった数量が出土しており，接合もすることから，本ブロック内で作業が行われたと考えられるが，それ以外の資料は単独母岩かそれに近い状況で，搬入品と判断される。



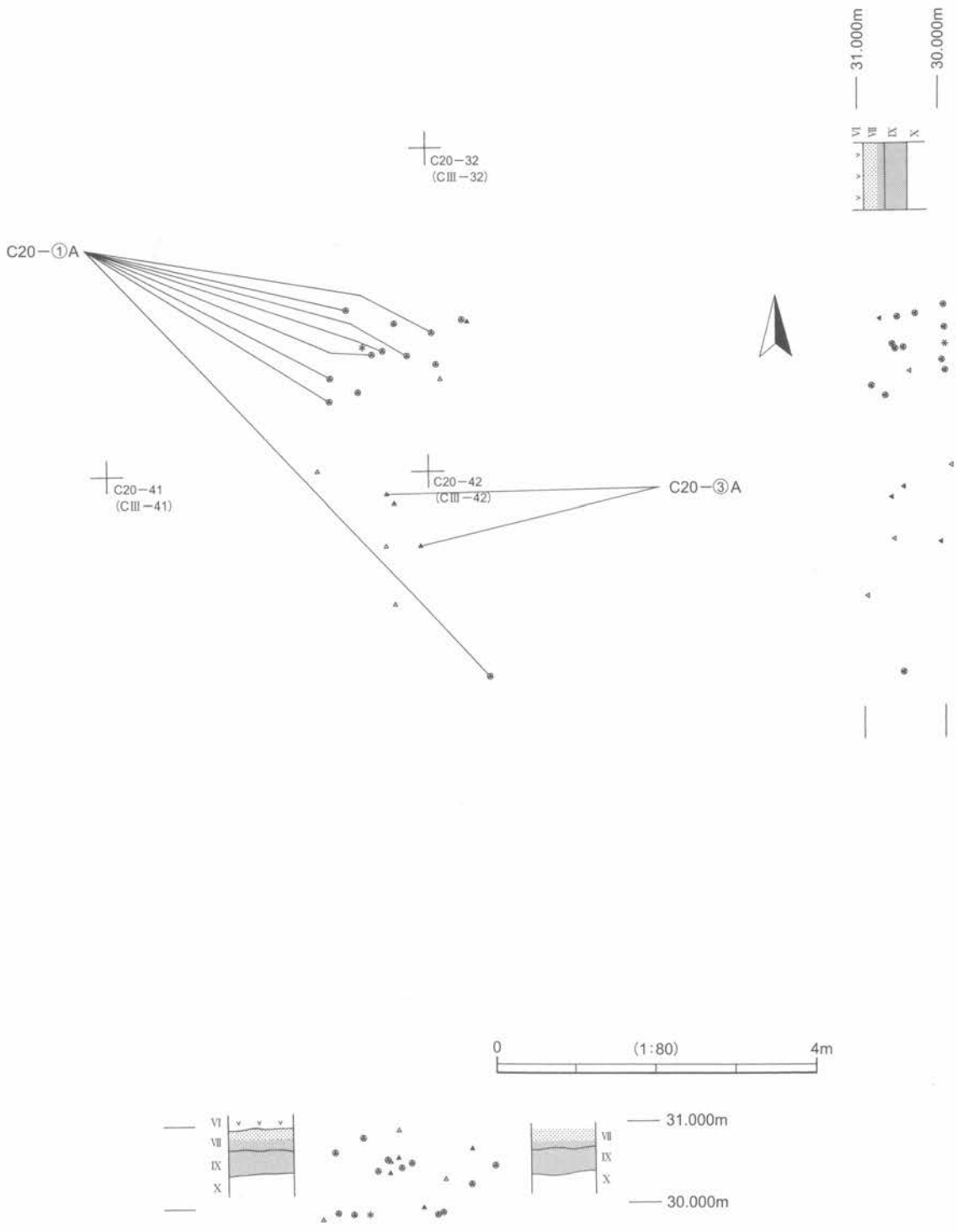
第361図　草刈遺跡Ｇ区旧石器時代調査概要図（1:1,600）



第362図　C20-Aブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－

・C20-①：青緑色を帯びた灰色の地に黒色の細い縞がわずかに入る，硬質できめの細かな砂岩である。表面に研磨痕の見られる剥片が含まれることから，刃部磨製石斧の刃部再生作業に関連したものと考えられる。石器群の内訳は剥片10点（合計98.5ｇ）で，このうち８点（合計96.0ｇ）が接合する。

・C20-②：C20-①母岩に類似するが，やや暗い色調の砂岩である。自然面は黄色みを帯びている。使用痕ある剥片１点と剥片１点（合計45.6ｇ）で構成される。



第363図　C20-Ａブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－

・C20-③：灰緑色で濃淡のある凝灰岩である。珪化して硬質緻密である。使用痕ある剥片２点（１個体），剥片１点（合計8.5ｇ）で構成される。

・C20-④：青灰色の地に褐色の縞が平行して多数入るチャートである。剥片２点（合計5.4ｇ）で構成される。

・C20-⑤：青みがかった黒灰色の地に黒色の縞が入るチャートである。剥片１点（1.1ｇ）の単独資料である。

・C20-⑥：自然面，内部ともに褐色の珪質頁岩である。楔形石器１点（3.7ｇ）の単独資料である。

・C20-⑦：青灰色の地に黒色の縞が入るチャートである。剥片１点（2.8ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第364図）

１は，珪質頁岩による楔形石器である。表面に自然面，裏面に素材剥片の主要剥離面を広く残す。主要剥離面の打瘤は平坦で発達していないことから，素材剥片も両極打撃によると考えられる。上下両端は潰れて線状になっており，楔形石器通有の特徴を備えている。

５は，砂岩による横長剥片を利用した使用痕ある剥片である。剥片末端部の鋭利な縁辺に刃こぼれが見られる。なお，打面周辺（表裏）に細かな剥離痕があり，また表面中央の稜を加撃した形跡もあることから，石斧の製作ないしは再生の過程で剥離された可能性がある。６は，凝灰岩による縦長剥片を利用した使用痕ある剥片である。左右両側縁に刃こぼれがある。なお，表裏下端に損傷があることから，楔形石器の未製品と見るべきなのかも知れない。

２～４はチャートによる不定型の剥片である。いずれも単独母岩，ないしはそれに近い状態である。

４）接合資料とその関連資料（第364・365図）

・C20-①（第364図７～10，第365図11～15） 青緑色を帯びた灰色の砂岩で，剥片10点で構成される。

７は，剥片８点（８～15）の接合資料である。接合した状況を見ると，側面観が楔形を呈していること，表裏両面の下端部に研磨痕が見られることから，もともとは大型で片刃の刃部磨製石斧と考えられる。なお，石斧本体は出土しなかった。

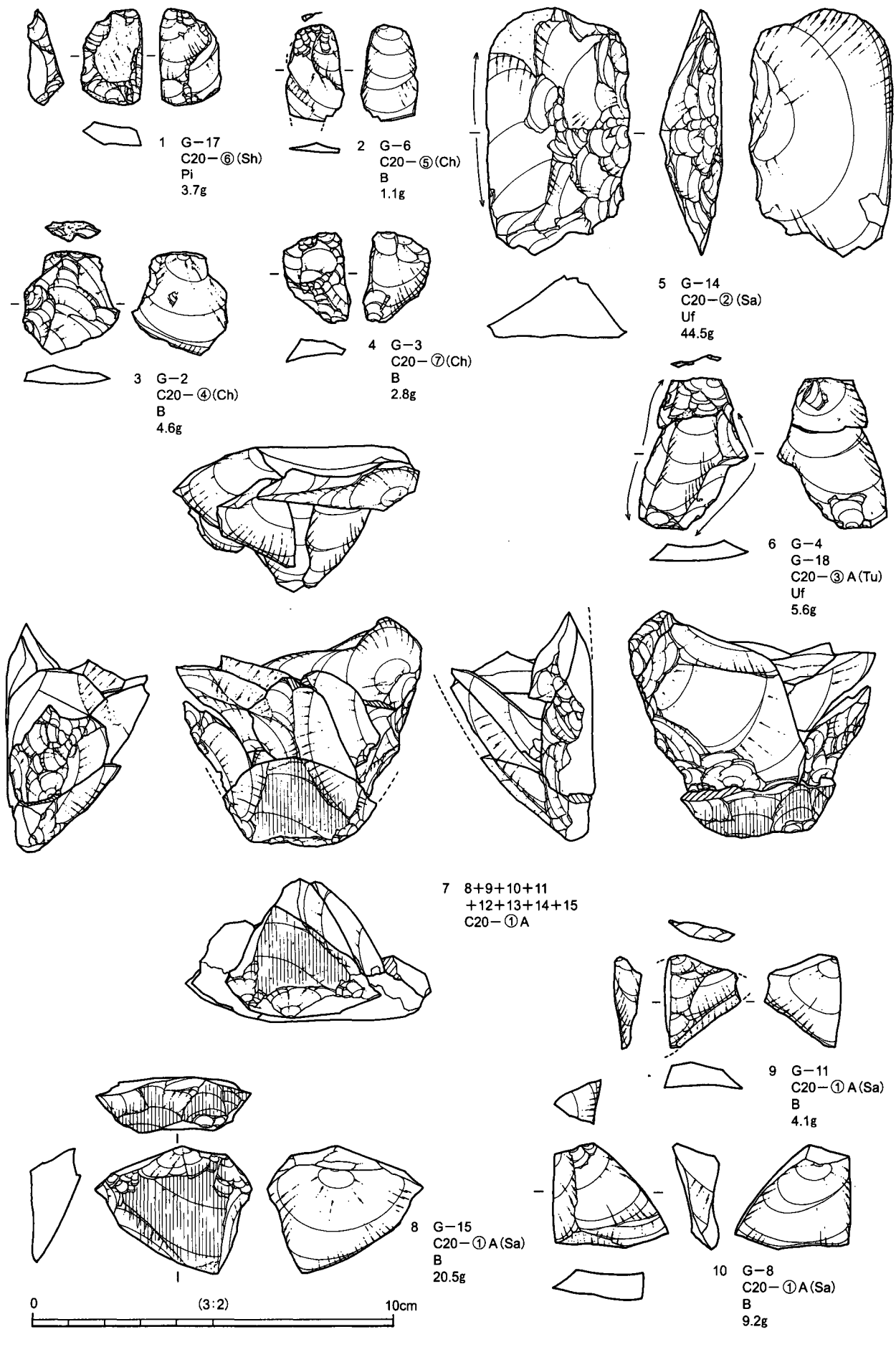
接合資料による石斧の刃部再生の手順は，次のとおりである。①：はじめに，裏面の刃部中央を打面として８を剥離する。②：表面右側面を打面として11を剥離する。③：８の剥離面を打面として，左側縁の14を剥離する。④：11の剥離面を打面として12，10，13を順次剥離する。これによって，刃部は後退する。⑤：右側面を打面として15を，中央部から９を剥離する。以上の剥離作業によって，石斧は長さ，幅とも

第139表　C20-Ａブロック母岩別石器組成表

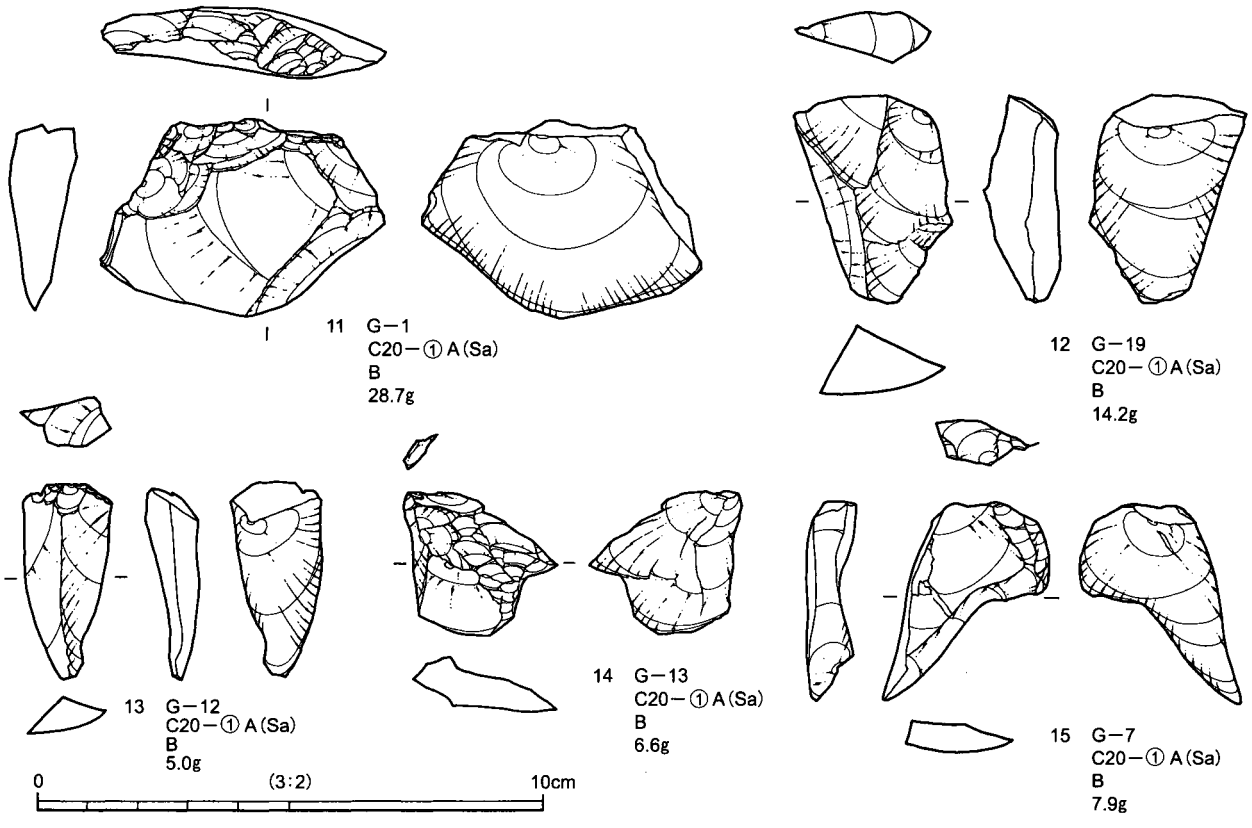
母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C20-①(Sa)																			10			10		10
C20-②(Sa)											1								1			2		2
C20-③(Tu)											2(1)								1			3(2)		3(2)
C20-④(Ch)																			2			2		2
C20-⑤(Ch)																			1			1		1
C20-⑥(Csh)									1													1		1
C20-⑦(Ch)																			1			1		1
その他(Sa)																							1	1
合　計									1		3(2)								16			20(19)	1	21(20)

第140表　C20-Ａブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
珪質頁岩(Csh)									1													1		1
チャート(Ch)																			4			4		4
凝灰岩(Tu)											2(1)								1			3(2)		3(2)
砂岩(Sa)											1								11			12	1	13
合　計									1		3(2)								16			20(19)	1	21(20)



第364図　C20-Aブロック出土遺物実測図（1）



第365図　C20-Aブロック出土遺物実測図（2）

に小さくなる。

第3節　第4文化層

第4文化層は，立川ローム層第2黒色帯上部（Ⅶ～Ⅸ層上部）に包含される石器群で，C14N40-Aブロック（調査時のE地点），C15-Aブロック（調査時のM地点）の2か所が該当する。

1　C14N40-Aブロック（第366～368図，第141・142表）

1）ブロックの概要

C14N40-Aブロックは，調査範囲北端のC14N40-64・73・74グリッドに位置する。ブロックの立地は台地北側の縁辺部で，傾斜変換点までの距離は5mである。また，当該地は北東に向かって下る緩斜面である。

ブロックの規模と形状は，直径4mの範囲に13点の石器が分布する。出土層位はⅦ～Ⅸ層上部を中心としており，40cmほどの高低差をもって，地形に沿って包含されている（第367・368図）。

ブロックは，使用痕ある剥片1点，剥片11点，砕片1点の合計13点で構成される。石材は，黒曜石9点，安山岩3点，チャート1点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは3母岩を識別した。内訳は，黒曜石1母岩（C14N40-①），安山岩1母岩（C14N40-③），チャート1母岩（C14N40-②）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は92%（12/13点）である。

・C14N40-①：黒色不透明でφ2㎜～4㎜の夾雑物を多く含む黒曜石である。栃木県高原山産と考えられ

第141表　C14N40-Aブロック母岩別石器組成表

母岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C14N40-①(Ob)											1								7	1		9		9
C14N40-②(Ch)																			1			1		1
C14N40-③(Ant)																			2			2		2
その他(Ant)																			1			1		1
合　計											1								11	1		13		13

第142表　C14N40-Aブロック石材別石器組成表

石材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)											1								7	1		9		9
安山岩(Ant)																			3			3		3
チャート(Ch)																			1			1		1
合　計											1								11	1		13		13

る。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片７点，砕片１点の合計９点（8.3ｇ）である。本ブロックで唯一のまとまりある母岩で，石器製作作業に関連したものと考えられる。

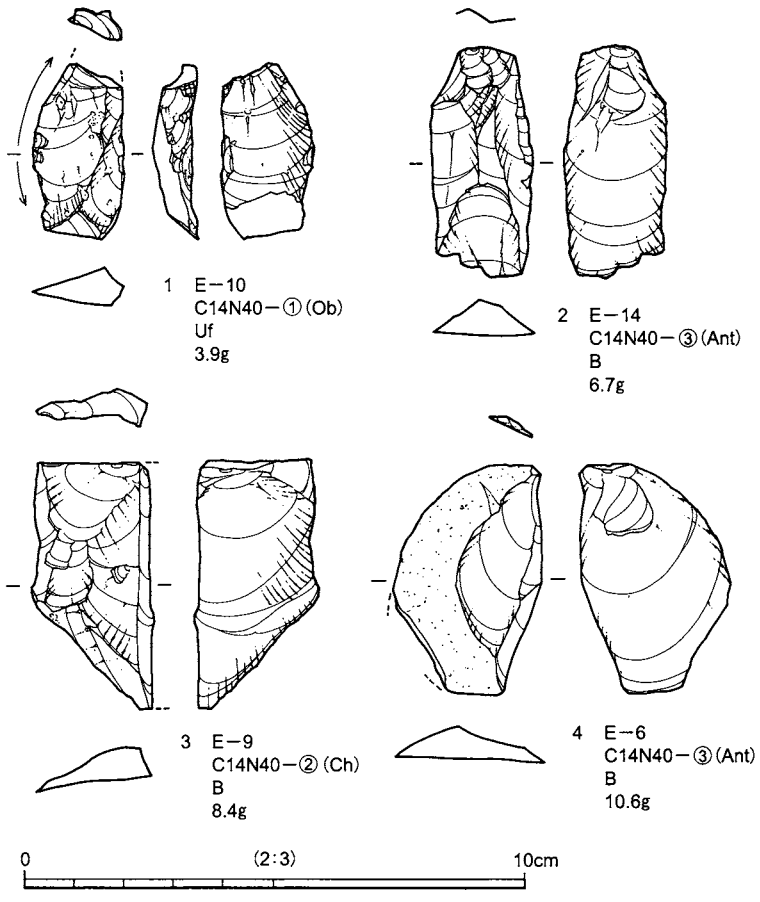
・C14N40-②：灰緑色の地に黒紫色の縞が不定方向に入るチャートである。剥片１点（8.4ｇ）の単独資料である。

・C14N40-③：灰白色に風化した軟質の安山岩（トロトロ石）である。剥片２点（合計17.0ｇ）で構成される。

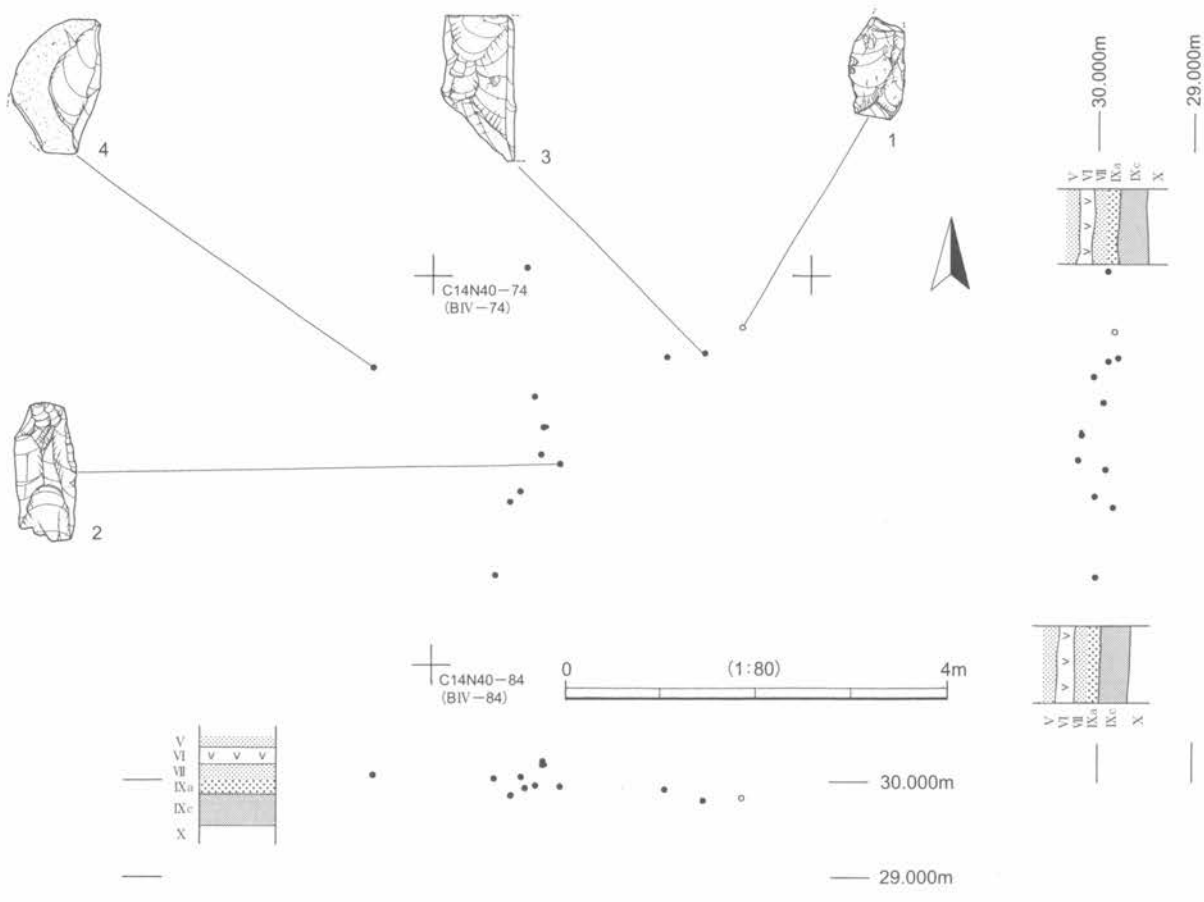
なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩（トロトロ石）の剥片１点（0.1ｇ）がある。

３）出土遺物（第366図）

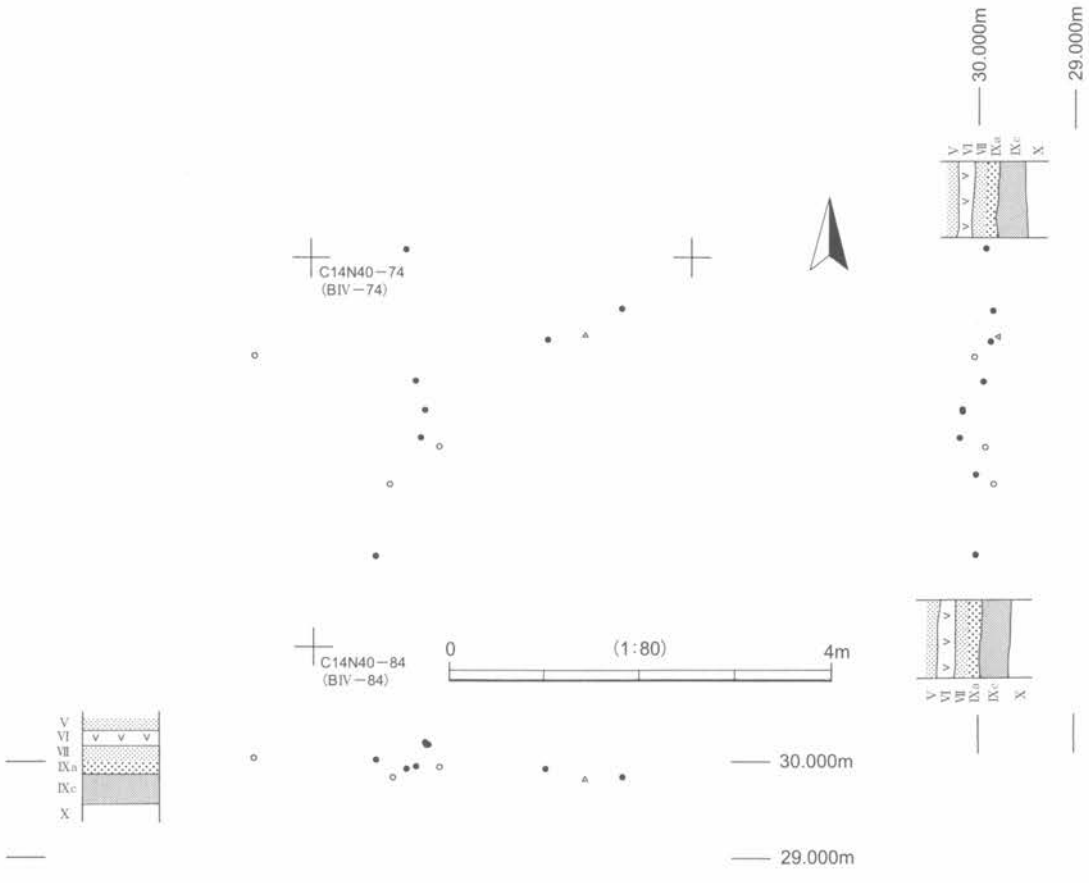
１は，黒曜石による縦長剥片を利用した使用痕ある剥片である。左側縁に刃こぼれがある。２は，安山岩による縦長剥片である。表面は，概ね裏面と同一方向の剥離面で構成されているが，下半部に１枚だけ逆方向の剥離面がある。打面は線状になっているが，打瘤は特に平坦でもなく，両極打撃による剥片とは思われない。両設打面の石核から剥離されたものであろう。３はチャートの縦長剥片である。剥離時に打点で二つに割れている。４は安山岩の不定型な剥片である。表面左側は自然面（円礫面）に覆われており，剥片剥離作業の初期のものかも知れない。２と同一母岩であるが，これ以外に関連資料はなく，搬入品と考えられる。



第366図　C14N40-Aブロック出土遺物実測図



第367図　C14N40-Aブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



第368図　C14N40-Aブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－

2　C15-Aブロック（第369～371図，第143・144表）

1）ブロックの概要

C15-Aブロックは，調査範囲北東部のC15-07・08グリッドに位置する。ブロックの立地は台地北側の緩斜面で，傾斜変換点からの距離は45mである。

ブロックの規模と形状は，長軸５m，短軸２mの範囲に５点の石器が分布する。出土層位はⅦ～Ⅸ層上部で，ほぼ水平に包含されている（第370・371図）。

ブロックは剥片５点（３個体）で構成され，石材はすべて珪質頁岩である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックから出土した珪質頁岩による石器は，すべて同一母岩である。

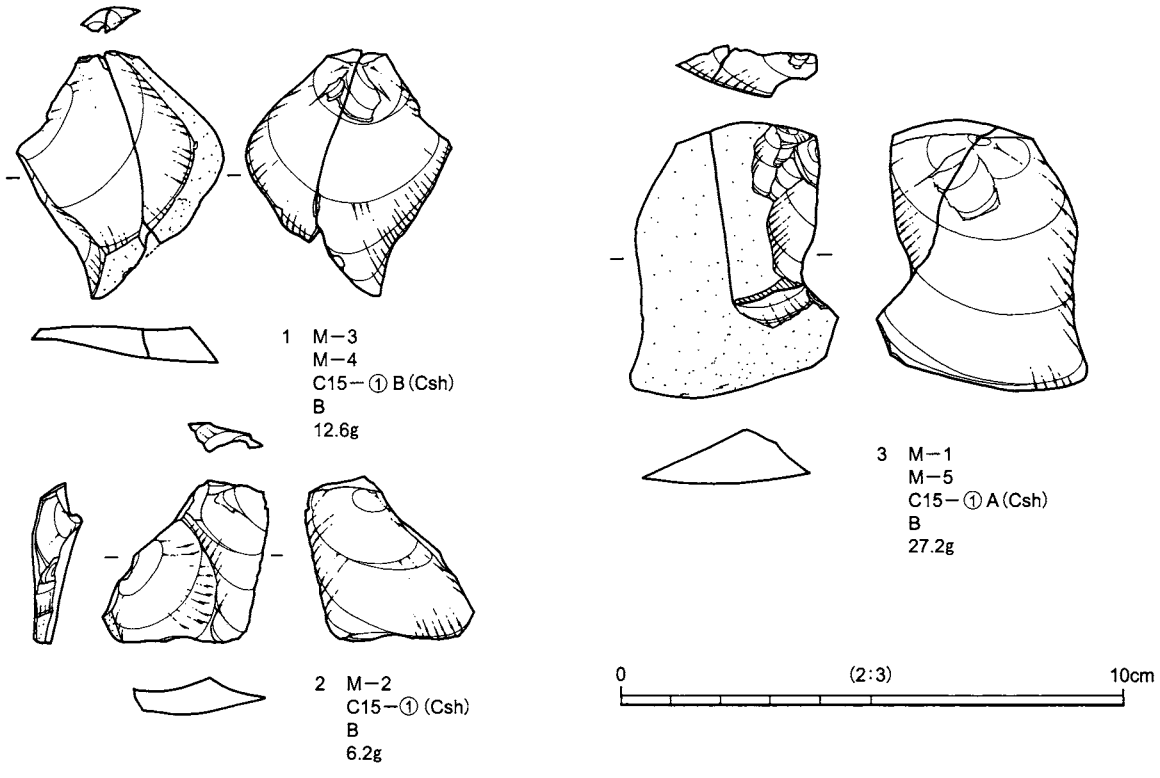
・C15-①：自然面は赤みがかった褐色，内部は灰緑色の珪質頁岩である。珪化度合いは低い。自然面は緩やかな曲面をなしており，比較的大型の円礫と推定される。石器群の内訳は，剥片５点（３個体；45.9ｇ）である。

第143表　C15-Aブロック母岩別石器組成表

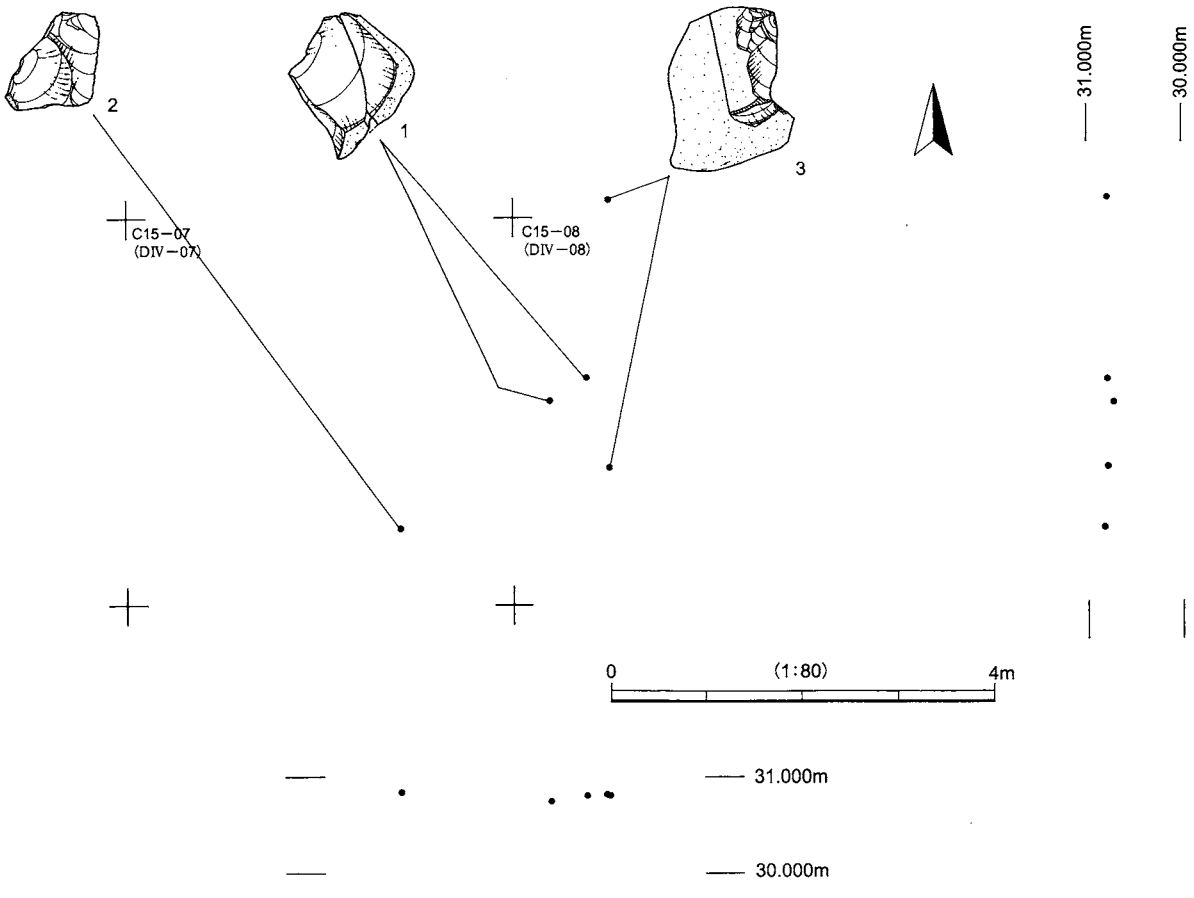
母岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C15-①(Csh)																			5(3)			5(3)		5(3)
合　計																			5(3)			5(3)		5(3)

第144表　C15-Aブロック石材別石器組成表

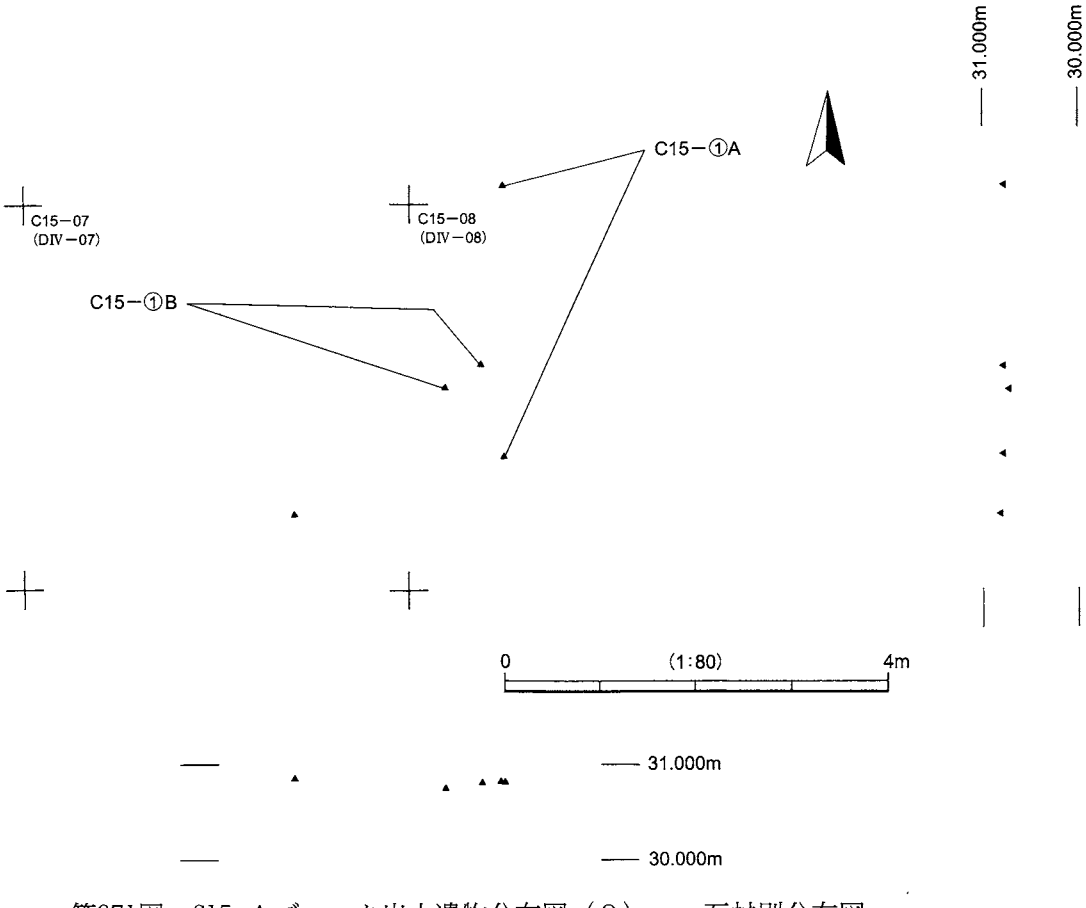
石材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
珪質頁岩(Csh)																			5(3)			5(3)		5(3)
合　計																			5(3)			5(3)		5(3)



第369図　C15-Aブロック出土遺物実測図



第370図　C15-Aブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



第371図　C15-Aブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－

3）出土遺物（第369図）

1～3は，珪質頁岩による同一母岩の不定型の剥片である。表面の剥離方向は一定しないことから，打点を大きく移動しながら剥片を剥離していたことがわかる。1・3とも，剥離時に打点で二つに割れたものが接合しており，資料数は少ないものの，本ブロックで剥片生産を行った可能性が高い。

第4節　第6文化層

第6文化層は，立川ローム層Ⅳ～Ⅴ層に包含される石器群で，幅広の剥片を用いた切出形のナイフ形石器や角錐状石器が指標的な石器である。C21-Bブロック（調査時のL地点），C26-A1～A4ブロック（調査時のB－D地点）の5か所が該当する。

1　C21-Bブロック（第372～374図，第145・146表）

1）ブロックの概要

C21-Bブロックは，調査範囲東部のC21-03・04・13・14グリッドに位置する。ブロックの立地は台地北側の緩斜面で，傾斜変換点からの距離は70mである。

ブロックの規模と形状は，直径2mの範囲に19点の石器が分布する。出土層位はⅤ層を中心としており，40cmほどの高低差をもって包含されている（第372・373図）。

ブロックは，剥片13点，砕片4点，石核2点（1個体）で構成される。石材は，すべて黒曜石である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは黒曜石1母岩（C21-⑤）を識別した。母岩識別した石器の石器総数に対する割合は，89％（17/19）である。

・C21-⑤：ガラス質の度合いが高い黒色の部分と低い青灰色の部分とが互層になった，不透明の黒曜石である。φ2㎜ほどの夾雑物を含む。栃木県高原山産であろうか。石器群の内訳は，剥片13点，砕片2点，石核2点（1個体；25.8g）である。接合資料は，剥片3点と石核2点（1個体）が接合するもの（接合資料A；20.0g），剥片2点が表裏で接合するもの（接合資料B；2.0g，接合資料C；1.7g）がある。

なお，母岩分類できなかった資料に黒曜石の砕片2点（合計0.1g）がある。

3）接合資料とその関連資料（第374図）

・C21-⑤：黒色と灰色の縞になった不透明の黒曜石で，剥片13点，砕片2点，石核2点（1個体）で構成される。

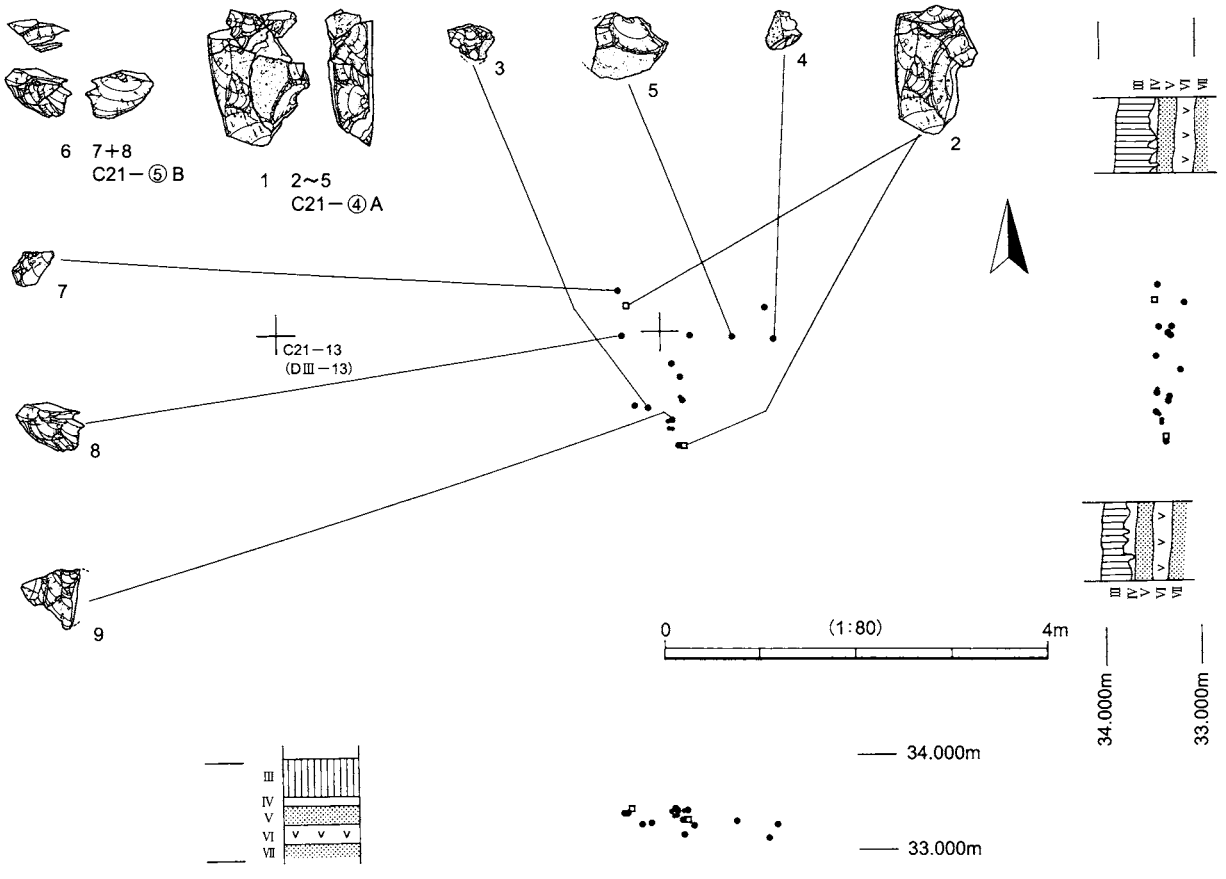
1は，剥片3点（3～5），石核2点（2；1個体）の接合資料である。中型厚手の不定型な剥片を石

第145表　C21-Bブロック母岩別石器組成表

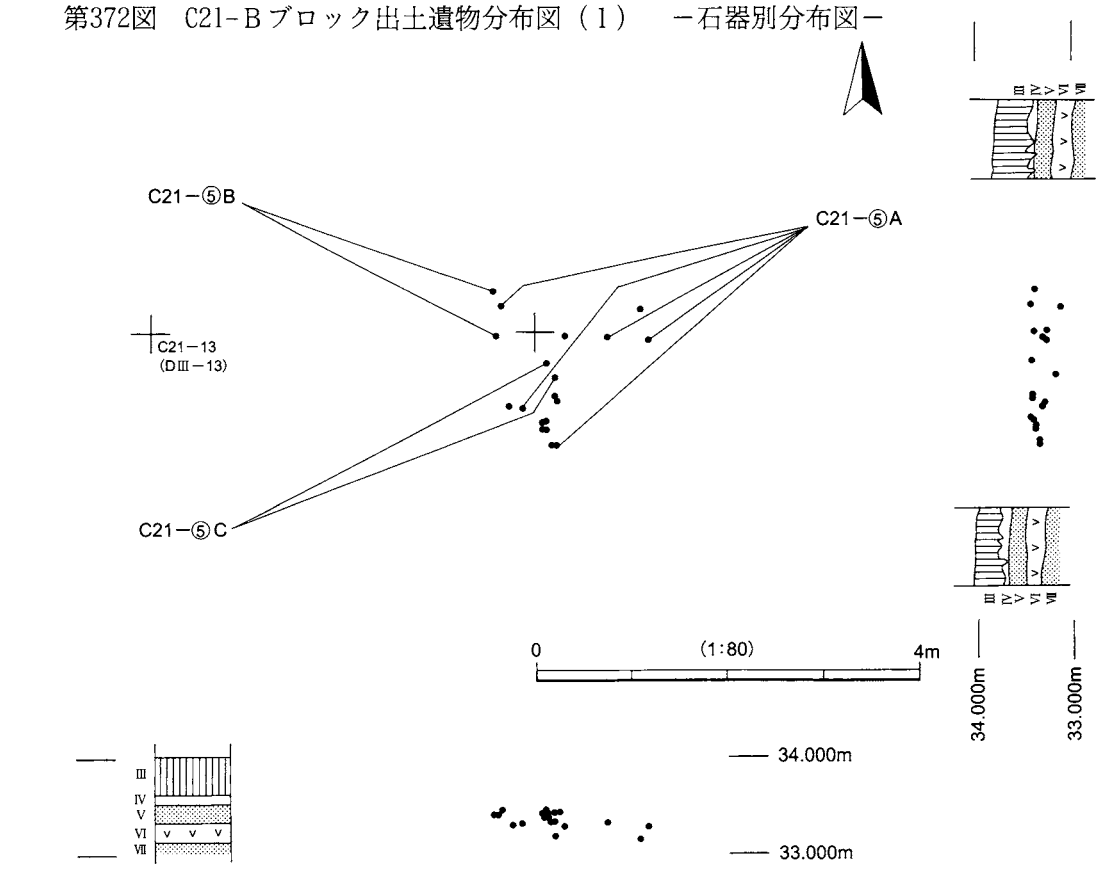
母岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C21-⑤(Ob)																			13	2	2(1)	17(16)		17(16)
その他(Ob)																				2		2		2
合　計																			13	4	2(1)	19(18)		19(18)

第146表　C21-Bブロック石材別石器組成表

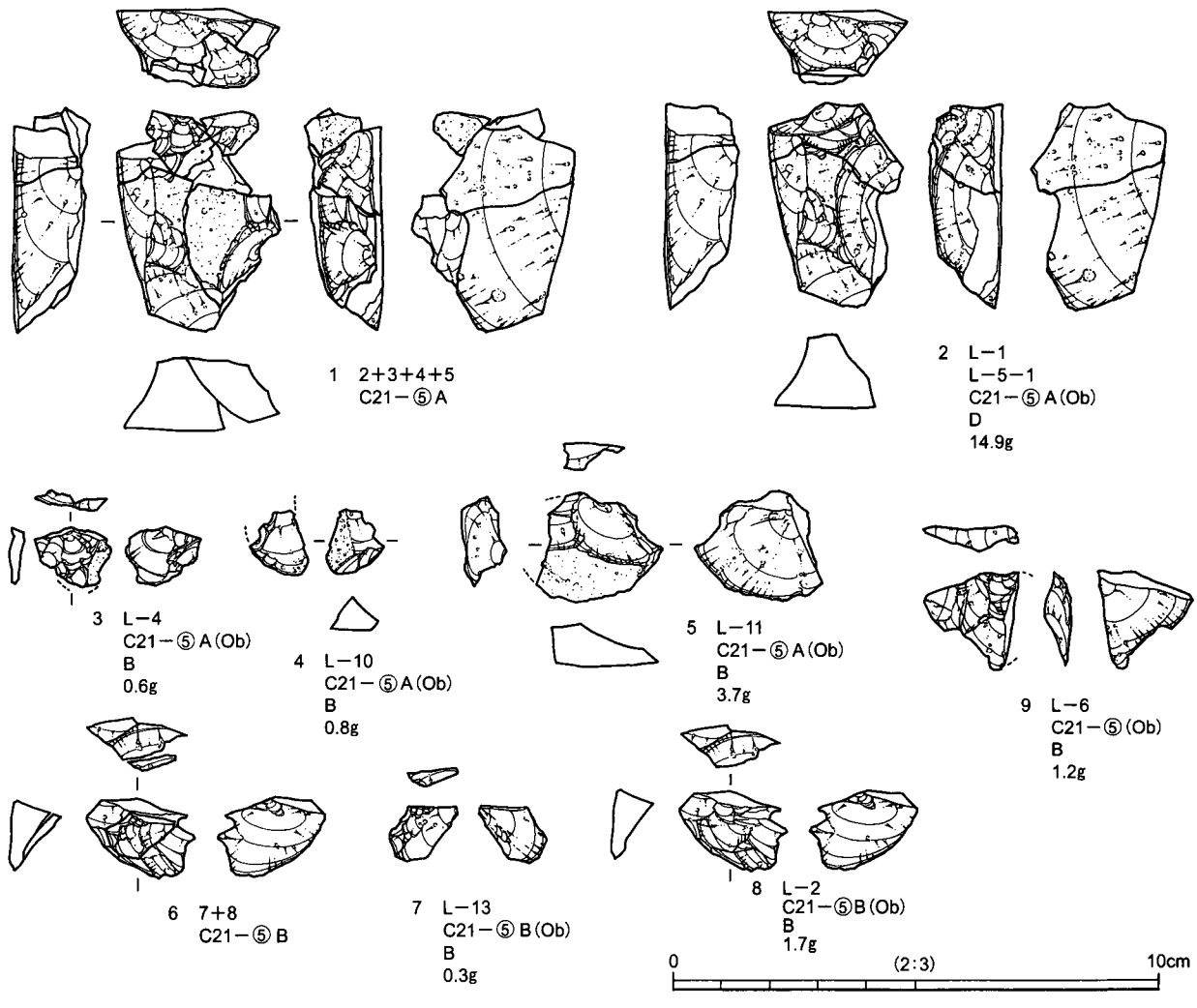
石材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)																			13	4	2(1)	19(18)		19(18)
合　計																			13	4	2(1)	19(18)		19(18)



第372図　C21-Bブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



第373図　C21-Bブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－



第374図　C21-Bブロック出土遺物実測図

核の素材とする。表面中央には平滑な自然面が残る。剥片の剥離手順は，素材剥片の主要剥離面を打面にして，周囲を削ぎ落とすように小型不定型の剥片を剥離している。

6は，小型不定型の剥片2点（7・8）の接合資料，9は同一母岩の非接合資料である。いずれも幅広の平坦な打面をもち，表面は裏面と同一方向の剥離面で構成される。

2　C26-Aブロック群（第375～398図，第147～154表）

1）ブロックの概要

C26-Aブロックは，調査範囲東部のC19-80・90，C26-85～89・96～99グリッドに位置する。ブロックの立地は台地北側の緩斜面で，傾斜変換点からの距離は55mである。

ブロックの規模と形状は，長軸20m，短軸7mの範囲に1,442点の石器・礫が分布する。出土層位はⅢ層からⅤ層にかけてを中心としており，1mほどの高低差をもって包含されている（第375～378，384～386，389～391，395・396図）。

ブロックは，ナイフ形石器15点，角錐状石器2点，削器2点，錐状石器1点，加工痕ある剥片4点，使

用痕ある剥片10点（９個体），石刃４点（２個体），剥片836点（817個体），砕片564点，石核２点，礫２点の合計1,442点（1,420個体）で構成される。石器石材は，黒曜石1,432点（1,413個体），安山岩１点，安山岩（トロトロ石）２点，頁岩２点，珪質頁岩１点，チャート２点，礫石材は砂岩１点，ホルンフェルス１点である。黒曜石は淡黒色半透明で，白色の夾雑物が散在する良質なものが主体を占めており，概ね信州産と考えられる。剥片，砕片は密集するものの，自然面の広く残る大型の剥片や石核は極めて乏しいことから，作業途中の石核が搬入され，剥片生産と石器の製作の後，石核は再び搬出されたと考えられる。

なお，本ブロックを細かく見ると，相互に近接した複数のまとまりに分けることができることから，以下ではA1～A4ブロックに分けて記述する。ただ，各ブロックは接合資料と同一母岩の共有関係によって結び付いており，相互に緊密な関係のあったことが想定される。

2-1　C26-A1ブロック（第375～383図，第147・148表）

１）ブロックの概要

C26-A1ブロックは，本ブロック群の中では最も西側にあり，C26-85・86・87・96・97グリッドに位置する。ブロックの規模と形状は，直径６ｍの範囲に688点の石器が密集する。出土層位はⅤ層を中心としており，１ｍほどの高低差をもって，凸レンズ形に包含される（第375～378図）。

ブロックは，ナイフ形石器６点，角錐状石器１点，加工痕ある剥片２点，使用痕ある剥片７点（６個体），剥片407点（398個体），砕片264点，石核１点の合計688点（678個体）で構成される。石材は，黒曜石685点（675個体），安山岩１点，安山岩（トロトロ石）１点，頁岩１点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは13母岩を識別した。内訳は，黒曜石11母岩（C21-④，C26-①～⑩），安山岩１母岩（C26-⑪），頁岩１母岩（C26-⑫）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は44％（301/688点）である。

なお，資料の大半が黒曜石であったため同一母岩の識別は困難で，接合資料を中心に集合体を拡大していく方法をとった。したがって，特徴の乏しい母岩については接合資料に限定されたものとなり，接合しなかった小型のもの，薄手のものは母岩の識別を行えなかった。

・C21-④：淡黒色透明の地に黒色のモヤがかかったように見える黒曜石である。φ１㎜の白色の夾雑物が散在する。表面は光沢に富み良質なものである。信州産と考えられる。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片１点，石核１点（合計18.1ｇ）である。石核は剥片素材であるが，草刈遺跡Ｃ区C21-Ａブロックに分布するナイフ形石器１点と接合する。このほか，同一母岩がC26-A2ブロックに４点，ブロック外に１点分布する。

・C26-①：淡黒色半透明の地に青みがかった黒色の帯状が入る黒曜石である。自然面は平坦であるが，表面が紙やすり状にザラついている。白色小型の夾雑物がわずかに含まれるが，このほか，φ５㎜ほどで灰色球形のものも若干見られる。

石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，使用痕ある剥片３点（２個体），剥片167点（161個体），砕片69点の合計240点（233個体；88.7ｇ）である。石器総数は多いものの石核はなく，また，自然面を残す剥片も少ないことから，剥片剥離作業の進行した石核をブロック内に持ち込み，母岩の消費が完了する前に石核を持ち出したと考えられる。

接合資料は，本ブロックを中心に見ると，以下のとおりＡ～Ｇの７組がある。

接合資料Aは，ナイフ形石器1点，使用痕ある剥片1点，剥片1点（合計14.0g）で構成される。このうち剥片1点（9.0g）は，C26-A3ブロックに分布する。この接合資料に限っては，表面に自然面を残すものが多い。ナイフ形石器1点と剥片1点は，石刃に近い形状の整った資料である。

接合資料Bは，小型の縦長剥片2点（合計1.3g）で構成される。

接合資料Cは，使用痕ある剥片2点（1個体），剥片2点（1個体）で構成される（合計15.9g）。このうち剥片1点（7.2g）は，C26-A2ブロックに分布する。2個体の資料は，ともに幅広の剥片で，表面が多方向からの剥離面で構成される。

接合資料Dは，剥片2点（合計9.1g）で構成される。

接合資料Eは，剥片6点（3個体；13.3g）で構成される。このうち剥片1点（0.6g）は，C26-A3ブロックに分布するものである。接合資料Cと同様，各剥片の形状は不定型で，表面の剥離方向は一定しない。

接合資料Fは，剥片2点が接合して1個体（2.3g）になるものである。

接合資料Gは，剥片3点が接合して1個体（2.2g）になるものである。

このほか，同一母岩がC26-A2ブロックに74点（69個体），C26-A3ブロックに49点，C26-A4ブロックに9点（8個体）が分布する。

・C26-②：青みがかった黒色不透明で，白色の夾雑物を含む黒曜石である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点，剥片22点の合計23点（23.7g）で構成される。

接合資料は，加工痕ある剥片1点と剥片3点の合計4点が接合して，中型の横長剥片1個体（8.8g）になるものである。

・C26-③：黒色不透明で，夾雑物をほとんど含まない良質の黒曜石である。半透明の地の中に，墨を流したようにも見え，C26-①母岩に似た質感である。石器群は，角錐状石器1点，剥片2点（合計14.2g）で構成される。

接合資料は，角錐状石器に調整剥片2点が接合する（合計14.2g）。

・C26-④：淡黒色透明で，夾雑物をほとんど含まない黒曜石である。剥片2点（合計1.3g）で構成され，相互に接合する。資料は2点とも薄手であり，接合資料以外に同一母岩の認定は困難である。

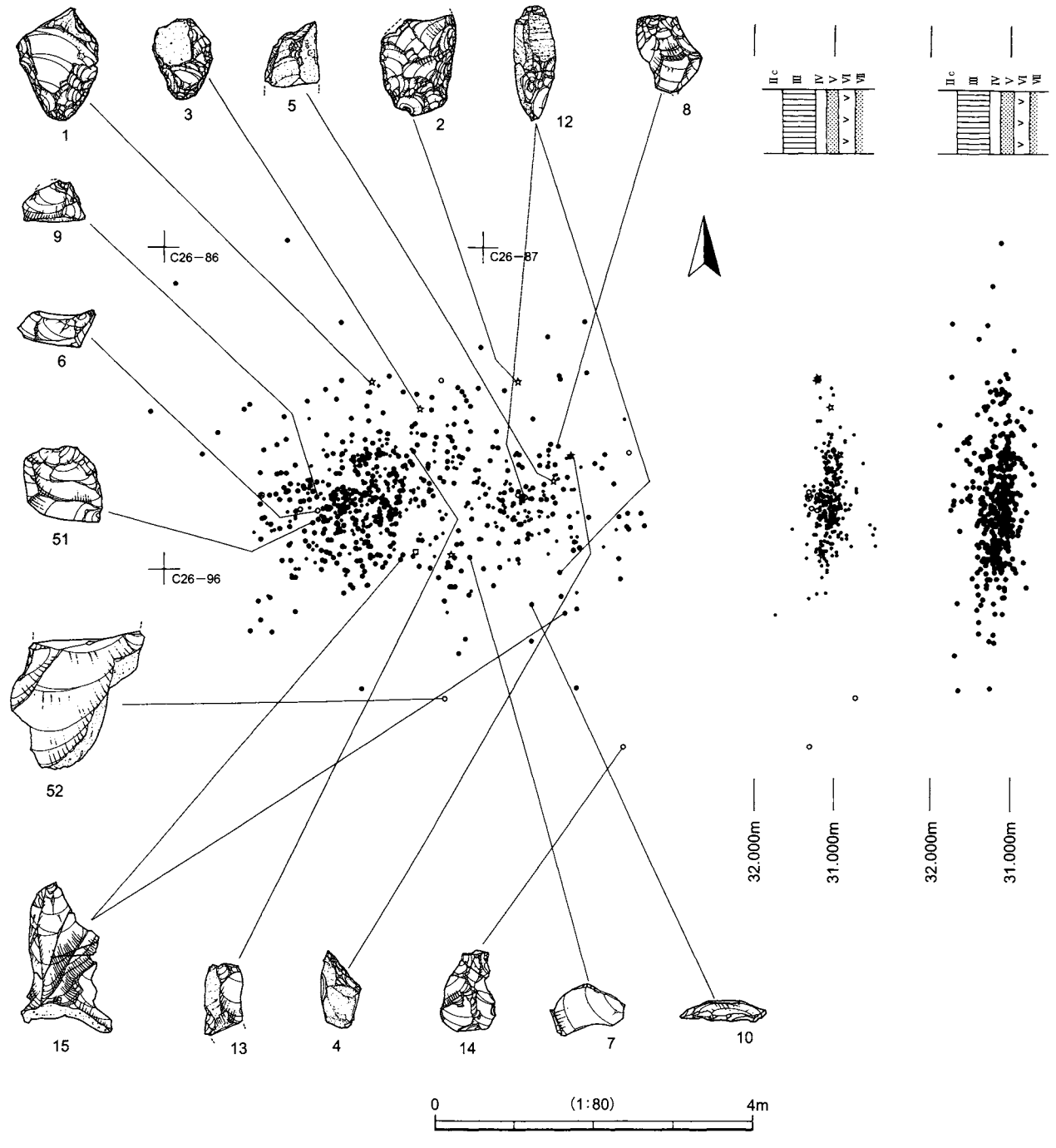
・C26-⑤：淡黒色半透明の地に，帯状の黒色のモヤが多数入る黒曜石である。表面の光沢は少ない。白色の夾雑物を少量含む。石器群の内訳は，ナイフ形石器1点，使用痕ある剥片1点，剥片16点（14個体）の合計18点（16個体；24.0g）である。

接合資料は，剥片2点が接合するもの（接合資料A；1.1g），剥片2点が接合して1個体になるもの（接合資料B；7.4g），剥片2点が接合して1個体になるもの（接合資料C；1.8g）がある。

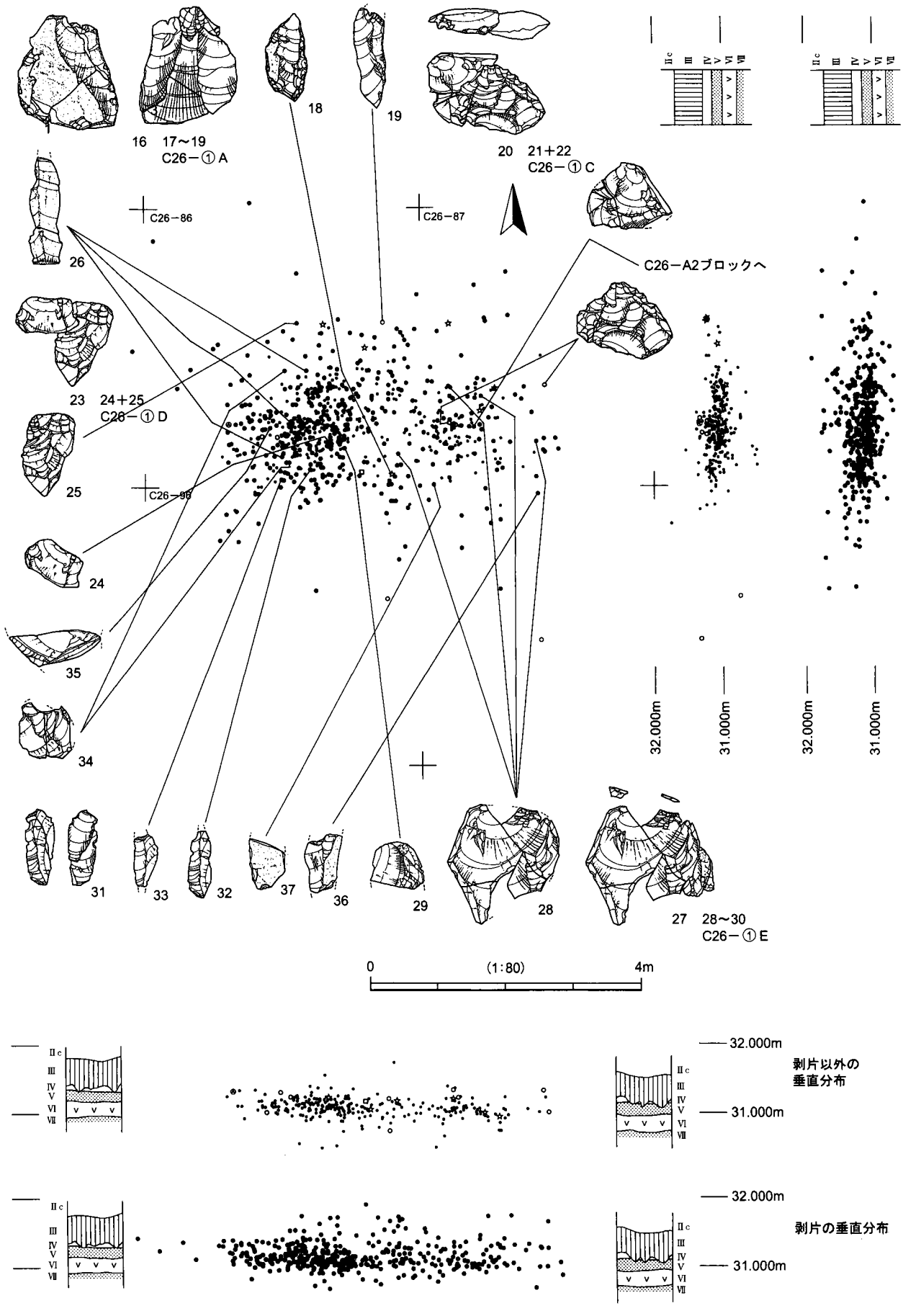
このほか，C26-A2ブロックに12点（11個体），C26-A3ブロックに5点，C26-A4ブロックに1点が分布する。

・C26-⑥：淡黒色透明の地に，黒色の縞が平行する黒曜石である。白色の夾雑物をわずかに含む。ナイフ形石器1点，剥片2点（合計7.0g）で構成される。

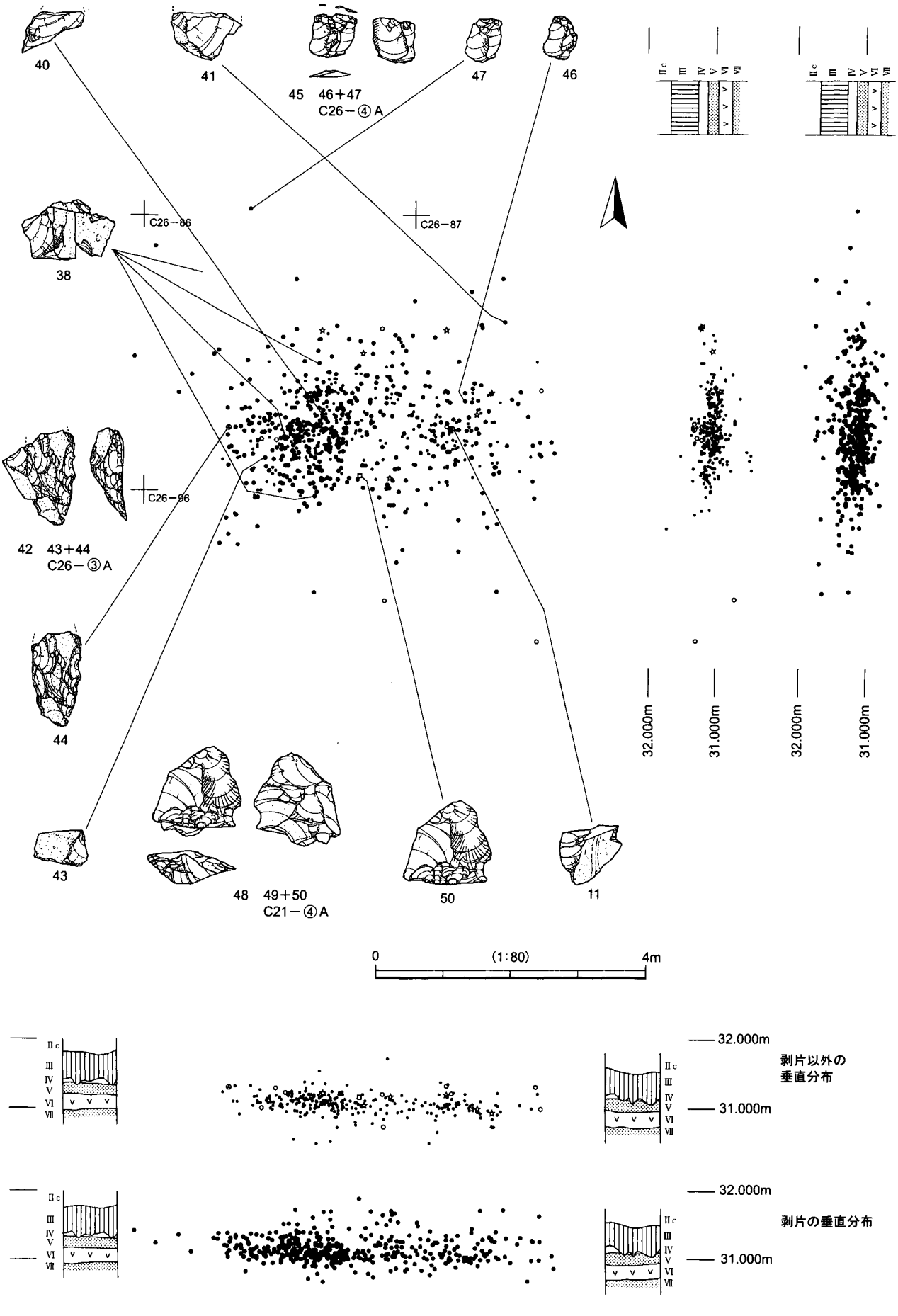
・C26-⑦：淡黒色透明の地に，やや色調の濃い縞が平行する黒曜石である。表面は光沢に富み，夾雑物は



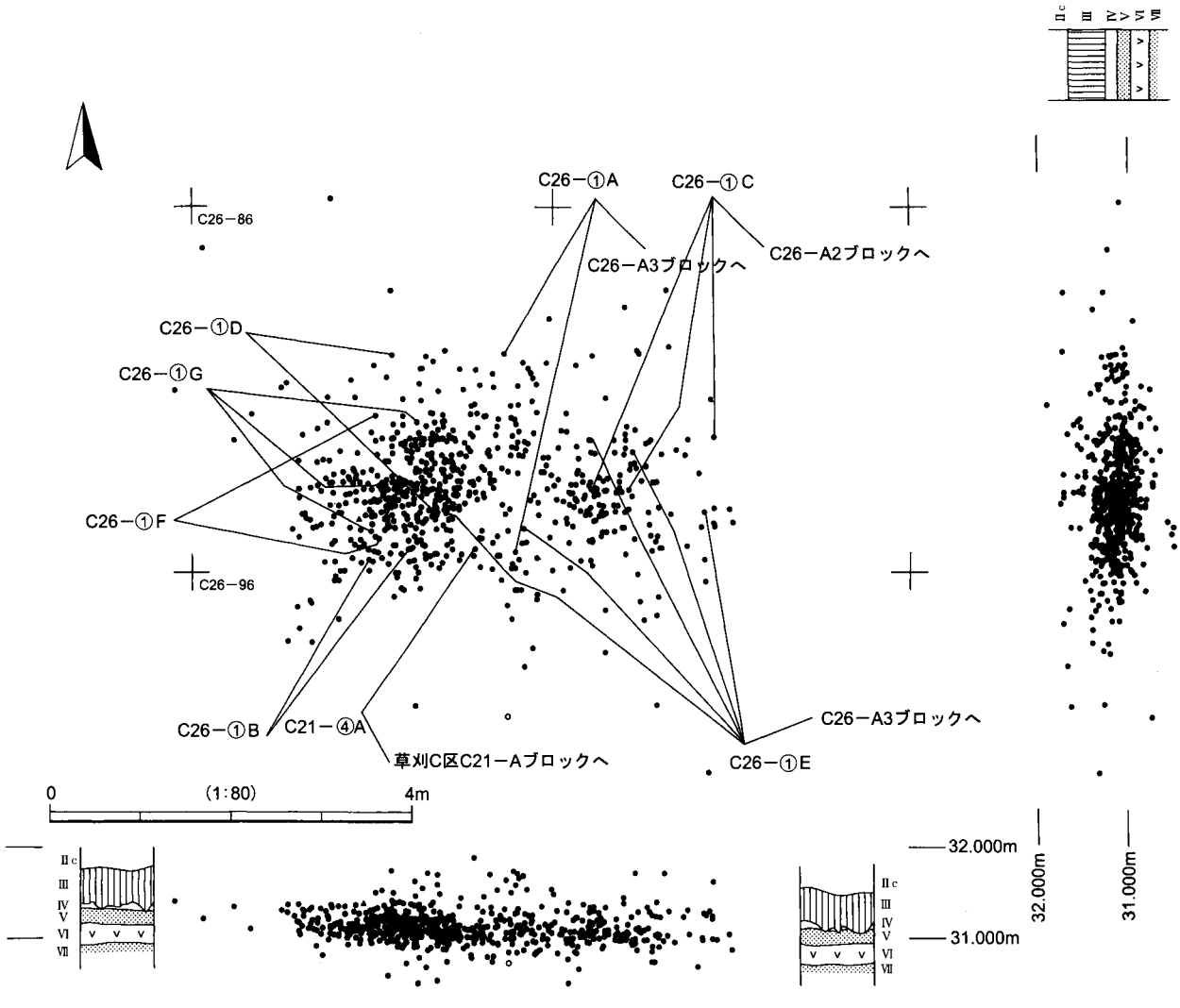
第375図　C26-A1ブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図（1）－



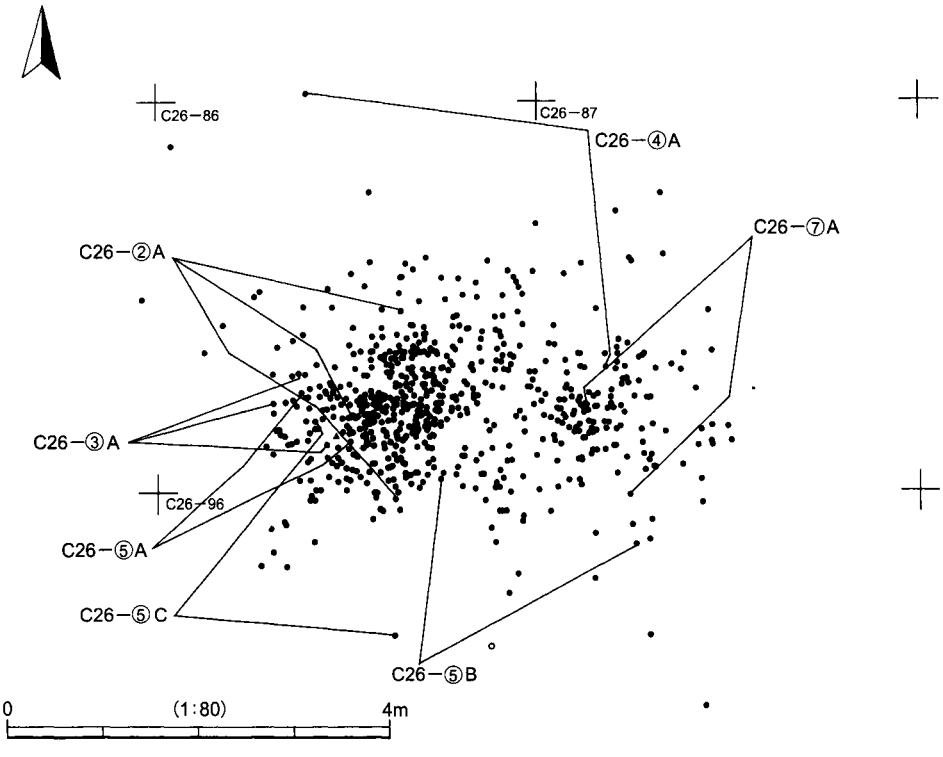
第376図　C26-A1ブロック出土遺物分布図（2）　－石器別分布図（2）－



第377図　C26-A1ブロック出土遺物分布図（3）　－石器別分布図（3）－



第378図　C26-A1ブロック出土遺物分布図（4）　−石材別分布図（1）−



第379図　C26-A1ブロック出土遺物分布図（5）　−石材別分布図（2）−

見られない。自然面は平坦であるが，紙やすり状にザラつく。剥片２点で構成されるが，接合して１個体（3.9ｇ）となる。

このほか，C26-A3ブロックに３点（２個体）分布する。

・C26-⑧：淡黒色半透明の地に，黒色の縞がモヤのように入る黒曜石である。夾雑物は少ない。ナイフ形石器１点（11.0ｇ）の単独資料である。

・C26-⑨：黒色不透明の地に，青みがかった灰色と黒色の縞が入る黒曜石である。ナイフ形石器１点（14.4ｇ）の単独資料である。

・C26-⑩：青みがかった淡黒色半透明の黒曜石である。白色の夾雑物を含む。ナイフ形石器１点（5.8ｇ）の単独資料である。

・C26-⑪：灰褐色に風化した安山岩である。自然面は曲面で，石核は円礫素材と考えられるが，大きさは不明である。比較的大型のようである。使用痕ある剥片１点（31.4ｇ）の単独資料である。

・C26-⑫：灰緑色の地に青みがかった黒色の線が多方向に入る頁岩である。剥片１点（12.0ｇ）の単独資料である。同一母岩がC26-A3ブロックに石核１点が分布する。また，草刈遺跡Ｅ区C37-Ａブロックの C37-⑤母岩に似る。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石の使用痕ある剥片１点，剥片192点，砕片195点（合計66.7ｇ），安山岩（トロトロ石）の剥片１点（0.5ｇ）がある。黒曜石は上記各母岩に類似するものが大半であるが，小型，あるいは薄手で特徴が捉えられないため，分類できなかったものである。

３）出土遺物（第380・383図）

１～３は，黒曜石による切出形のナイフ形石器である。１は，厚手の横長剥片を素材とした，やや大振りの切出形のナイフ形石器で，素材の打面（右側縁）と末端（左側縁）の２側縁に調整加工を行っている。右側縁下半部の調整は平坦剥離で，素材の打面を大きく残しているが，右側縁上半部と左側縁の調整は裏面からの急角度な剥離である。先端は欠損する。２も切出形のナイフ形石器としては比較的大振りなものである。厚手の不定型な剥片を素材とし，素材の打面を基部に置いて，その両側縁に調整加工を行っている。右側縁の調整加工は大小の剥離面で構成され，分厚い「背」となっているが，左側縁の調整加工は細かな剥離面が連続しており，左右は大きく異なっている。素材の打面は残されている。３は，横長剥片を素材とし，打面側と末端側に急角度の調整加工を行っている。打面は除去されている。

４は，黒曜石によるナイフ形石器の破片である。表面が自然面で覆われている横長剥片を素材とする。右側縁上半部は，通常のナイフ形石器に比べてやや緩やかな剥離角によって調整されている。素材の末端を折り取った後，裏面から細かく剥離している。左側は大きく欠損する。５は，黒曜石による縦長剥片を用いたナイフ形石器で，素材の末端を斜めに切断した形態である。下半部は欠損する。なお，１～３は単独資料であり，５もそれに準じた資料である。

６・11・14は，黒曜石による使用痕ある剥片，７～10・12・13・15は剥片である。石刃や形状の整った縦長剥片はなく，不定型の剥片を中心とする。表面は，概ね裏面と同一方向の剥離面で構成される。

51は，珪質頁岩による不定型の剥片である。表面は，裏面と同一方向及び直交する方向の剥離面によって構成される。右側面には平滑な自然面が残る。C26-A3ブロックに同一母岩の石核が分布するが，接合しない。52は，安山岩による不定型の剥片を利用した使用痕ある剥片である。左側縁に刃こぼれがある。

４）接合資料とその関連資料（第381～383図）

・C26-①（第381図16～26，第382図27～37）　淡黒色半透明の地に青みがかった黒色の帯状が入る黒曜石で，ナイフ形石器１点，使用痕ある剥片３点（２個体），剥片167点（161個体），砕片69点の合計240点（233個体）で構成される。

16は，ナイフ形石器１点（18），使用痕ある剥片１点（19），剥片１点（17）の接合資料である（接合資料Ａ）。上位の打面から17，18，19を順次剥離している（17が最初であるが，18と19の先後関係は不明である）。17は，表面に広く自然面を残す幅広の縦長剥片で，もともと平坦な自然面であった右側面には，石核の側面調整痕と考えられる小剥離痕が連続する。いっぽう，18・19は，比較的形状の整った縦長剥片を素材とする石器である。石刃素材にも見えるが，後述するとおり，定型的な石刃を安定して生産した状況にないため，縦長剥片素材と表現した。18は，左側縁全体と右側縁の2/3に調整加工を施した２側縁調整のナイフ形石器である。左側面の中ほどは調整加工が途切れている。素材の打面は先端側であるが，先端部を形成する際に除去されている。19は，縦長剥片を利用した使用痕ある剥片である。鋭利な左側縁に刃こぼれが見られる。右側面には，表面からの細かな石核側面調整痕がある。

20は，使用痕ある剥片２点（１個体；21）と幅広不定型な剥片２点（１個体；22）の接合資料である（接合資料Ｃ）。22→21の順に剥離している。なお，22の右側はC26-A2ブロックに分布する。

ところで，16が縦長剥片を基調とする接合資料なのに対し，本接合資料は不定型な剥片の接合資料である。21と22の表面を見ても，不定方向からの幅広の剥離面で構成されており，この傾向は変わらない。両者は同一母岩であることから，原石を分割して別々の石核から剥片剥離作業が実施されたか，あるいは前者が作業面，後者が打面側の資料であるか，後者が主体的な内容であるかのいずれかである。剥片類全体の傾向を見ると，不定型の剥片を主体に生産していた母岩のように思われる。

23は，剥片２点（24・25）の接合資料である（接合資料Ｄ）。24→25の順に剥離している。幅広の打面から連続して形状の整っていない縦長の剥片，不定型の剥片を剥離している。

26は，剥片３点が接合して縦長剥片１個体になったものである（接合資料Ｇ）。打面部は欠損している。

27は，剥片６点（３個体；28～30）の接合資料である（接合資料Ｅ）。上位の打面から28を剥離した後，打面を右側面に移動して，29，30を剥離している。27の左側面には表裏面と直交する剥離面が連続しており，作業面の移動が大きな石核から剥離されたと考えられる。

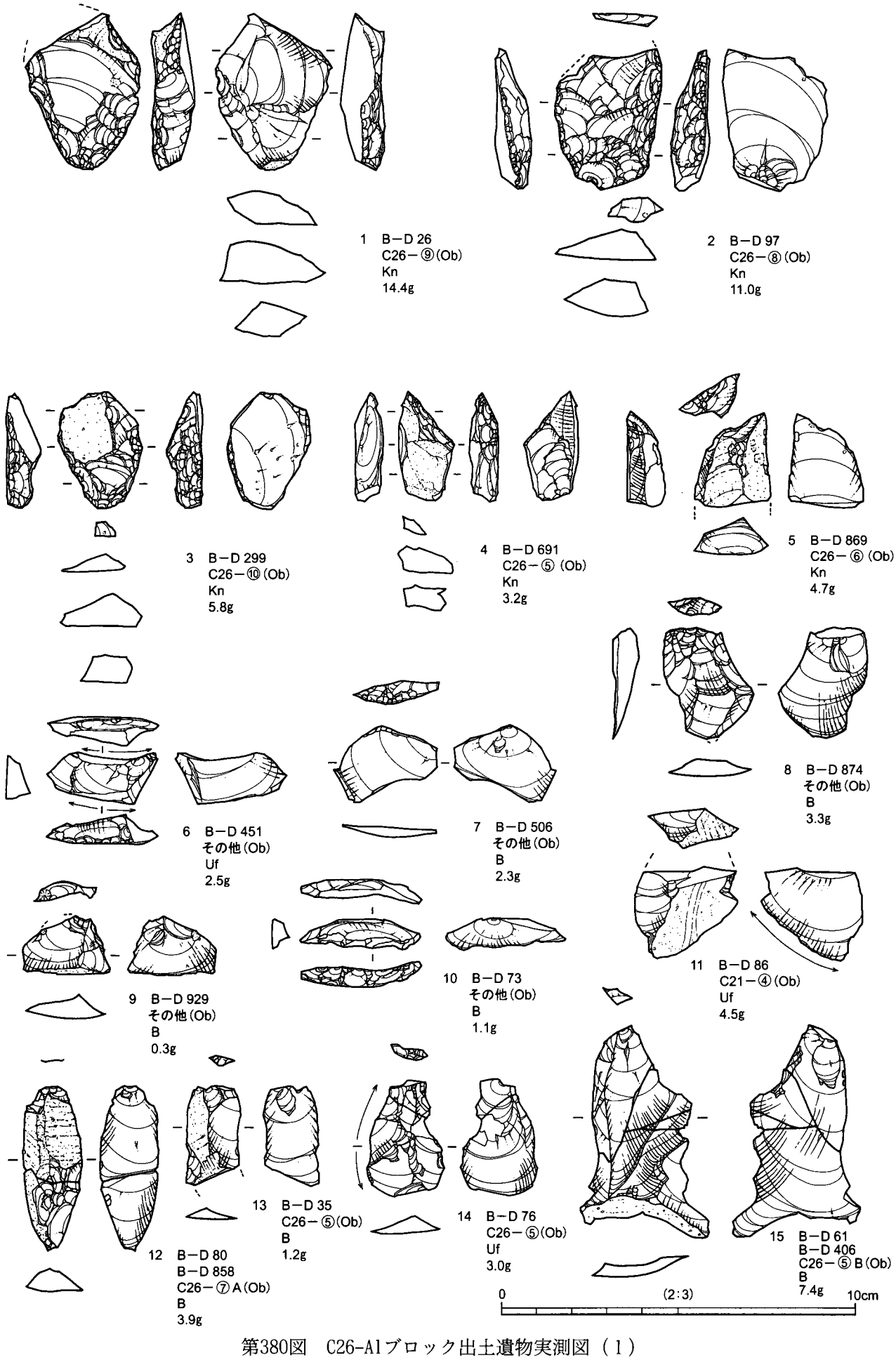
31は，剥片２点（32・33）の接合資料である（接合資料Ｂ）。両者とも小型の縦長剥片で，32→33の順に剥離している。

34は，剥片２点が接合して１個体になったもの（接合資料Ｆ），35～37は同一母岩の非接合資料である。37は表面が自然面に覆われているが，左側面に石核の側面調整痕があり，接合資料Ａと共通する。剥片剥離の初期の段階に，部分的に細かな石核調整を行ったようである。

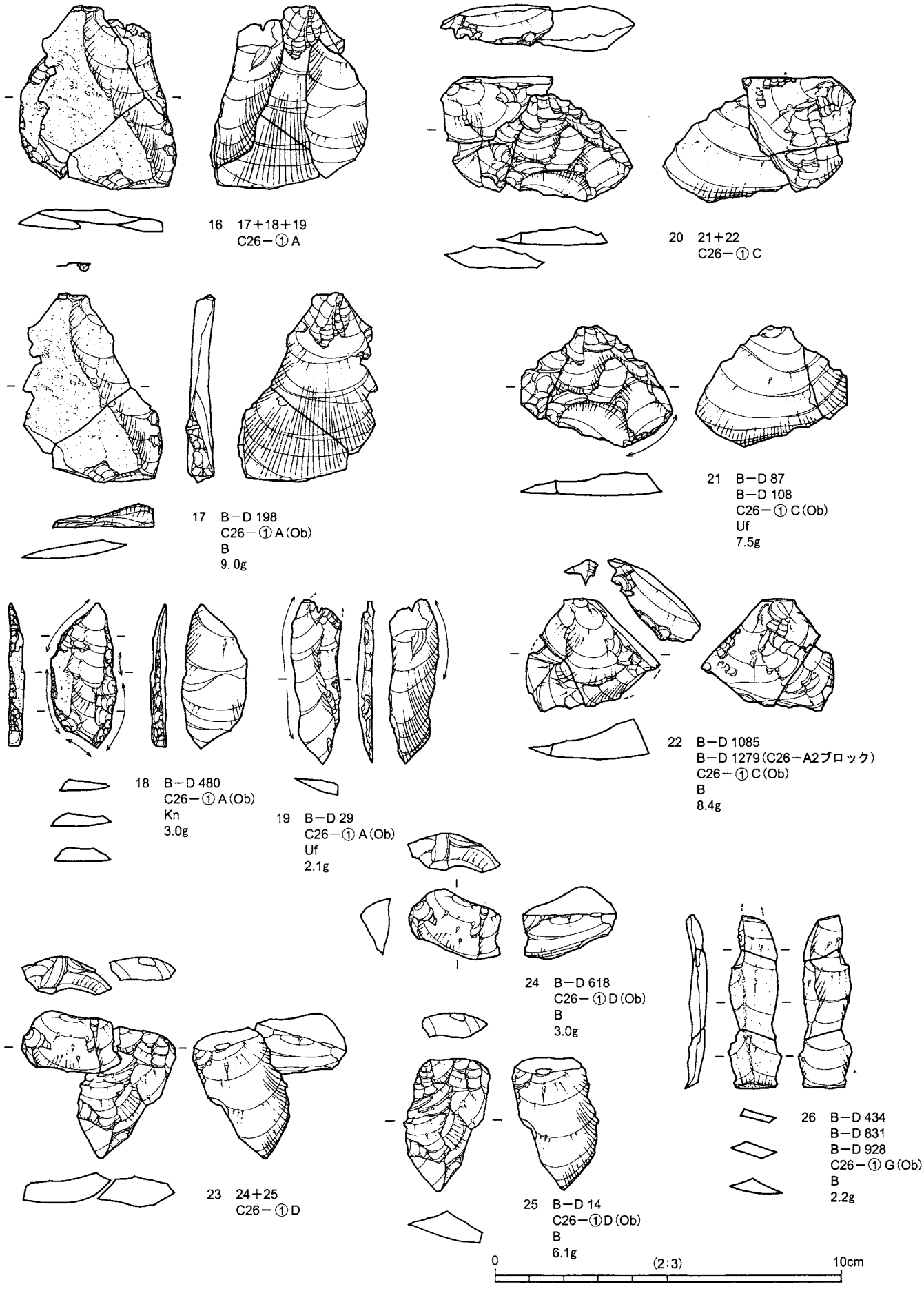
・C26-②（第382図38～41）　青みがかった黒色不透明の黒曜石で，加工痕ある剥片１点，剥片22点の合計23点で構成される。

38は，加工痕ある剥片１点（39），剥片３点が接合して剥片１個体になったものである。これは，中型の横長剥片が複数片に割れ，そのうちの１点を調整して石器にしたものである。

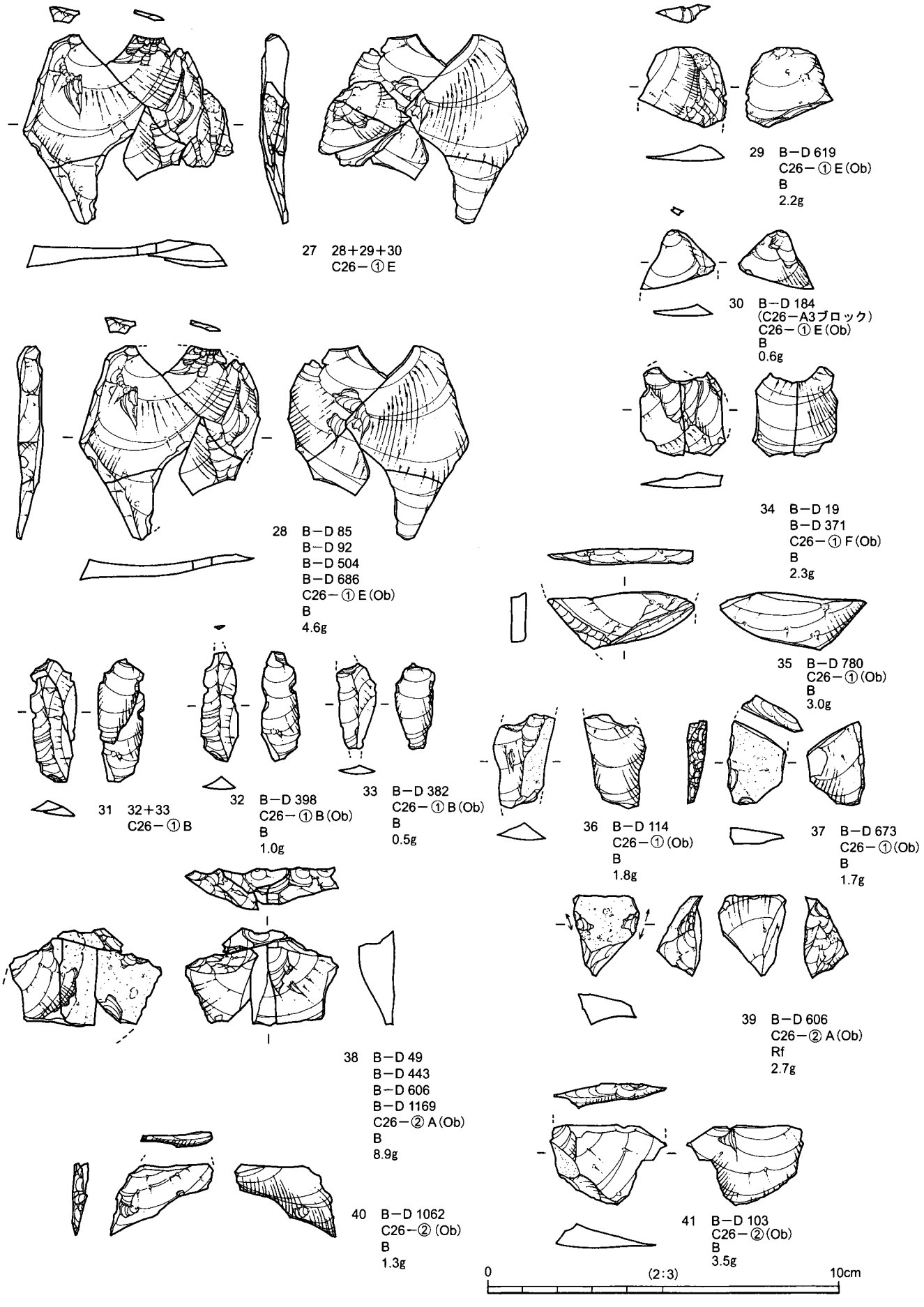
40・41は，同一母岩の非接合資料である。いずれも不定型の剥片で，また上半部が欠損するため剥片剥離作業の詳細は不明である。ただ，40の左側縁には表面からの細かな剥離面があり，石核調整の痕跡と考えられる。



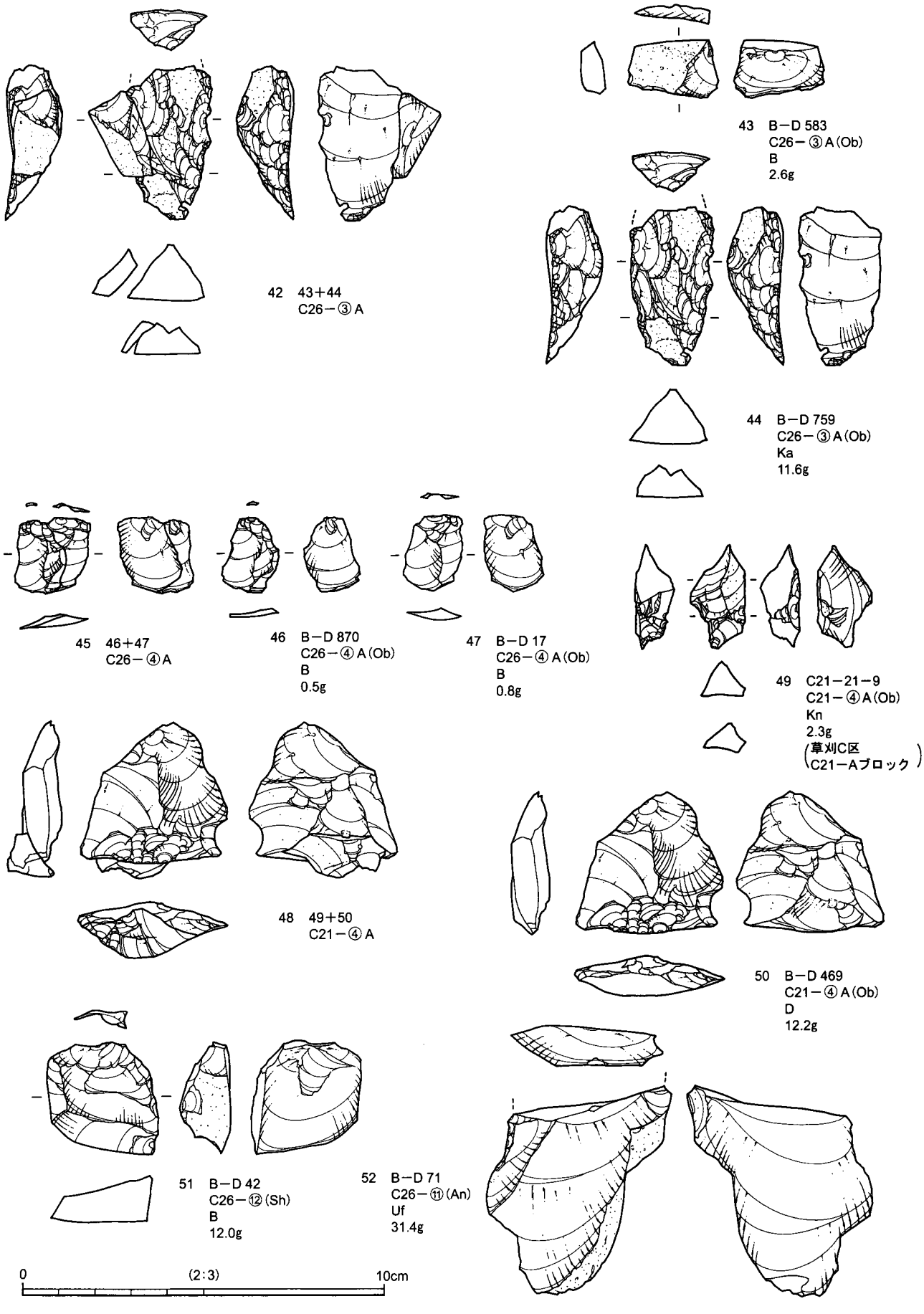
第380図　C26-A1ブロック出土遺物実測図（1）



第381図　C26-A1ブロック出土遺物実測図（2）



第382図　C26-A1ブロック出土遺物実測図（3）



第383図　C26-A1ブロック出土遺物実測図（4）

第147表　C26-A1ブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C21-④(Ob)										1	1										1	3		3
C26-①(Ob)	1										3(2)								167(161)	69		240(233)		240(233)
C26-②(Ob)										1									22			23		23
C26-③(Ob)			1																2			3		3
C26-④(Ob)																			2			2		2
C26-⑤(Ob)	1										1								16(14)			18(16)		18(16)
C26-⑥(Ob)	1																		2			3		3
C26-⑦(Ob)																			2(1)			2(1)		2(1)
C26-⑧(Ob)	1																					1		1
C26-⑨(Ob)	1																					1		1
C26-⑩(Ob)	1																					1		1
C26-⑪(An)											1											1		1
C26-⑫(Sh)																			1			1		1
その他(Ob)											1								192	195		388		388
その他(Ant)																			1			1		1
合　計	6		1							2	7(6)								407(398)	264	1	688(678)		688(678)

第148表　C26-A1ブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)	6		1							2	6(5)								405(396)	264	1	685(675)		685(675)
安山岩(An)											1											1		1
安山岩(Ant)																			1			1		1
頁岩(Sh)																			1			1		1
合　計	6		1							2	7(6)								407(398)	264	1	688(678)		688(678)

・C26-③（第383図42～44）　黒色不透明の黒曜石で，角錐状石器１点，剥片２点で構成される。

42は，角錐状石器（44）とその調整剥片（43）の接合資料である。表面に自然面が残る幅広で厚手の剥片を縦位に用い，素材の主要剥離面を打面として周囲に調整加工を行っている。その初期の段階で43を剥離している。また，図示していないが，小型の剥片１点が接合する。

なお，本ブロックからは石器の調整剥片（ブランティング・チップ）が12点出土しており，ナイフ形石器や角錐状石器を製作したと考えられる。ただし，小型品が中心のため母岩分類が困難であり，石器本体と調整剥片の対応関係は明らかにできなかった。本母岩に帰属する資料も含まれている可能性が高い。

・C26-④（第383図45～47）　淡黒色透明な黒曜石で，剥片２点で構成される。

45は，小型の縦長剥片２点（46・47）の接合資料である。46→47の順に剥離している。両者の縦断面が緩やかに湾曲すること，同じ長さであることから，石核の作業面は低かったようである。あるいは，背の高い角錐状石器の調整剥片であろうか。

・C21-④（第383図48～50）　淡黒色透明の地に黒色のモヤがかかる黒曜石で，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片１点，石核１点で構成される。

48は，草刈遺跡Ｃ区C21-Ａブロックに分布するナイフ形石器（49）と石核（50）の接合資料である。中型不定型の剥片を石核素材とし，表裏両面を作業面にあてて剥片を剥離している。裏面の左端に素材の主要剥離面が残る。49は，48の裏面中央から剥離された縦長剥片の下半部を素材に用いたナイフ形石器である。右側面は切断面をそのまま残し，左側縁の下半部に調整加工を行っている。

2-2　C26-A2ブロック（第384～388図，第149・150表）

1）ブロックの概要

C26-A2ブロックは，本ブロック群の中では中央西側にあり，C26-87・88・97・98グリッドに位置する。ブロックの規模と形状は，長軸６ｍ，短軸４ｍの範囲に516点の石器が密集する。出土層位はＶ層を中心としており，80㎝ほどの高低差をもって凸レンズ形に包含される（第384～386図）。

ブロックは，ナイフ形石器２点，削器１点，錐状石器１点，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片１点，

石刃１点，剥片290点（283個体），砕片220点の合計517点（510個体）で構成される。石材は，黒曜石516点（509個体），チャート１点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは８母岩を識別した。内訳は，黒曜石７母岩（C21-④，C26-①・⑤・⑬～⑯），チャート１母岩（C26-⑰）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は21％（106/516点）である。

・C21-④：C26-A1ブロックで記したとおり，淡黒色透明の地に黒色のモヤがかかったように見える黒曜石である。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片３点（合計6.8ｇ）である。同一母岩は，草刈遺跡Ｃ区C21-Ａブロック１点，C26-A1ブロックに３点，ブロック外に１点分布する。

・C26-①：C26-A1ブロックで記したとおり，淡黒色半透明の地に青みがかった黒色の帯状が入る黒曜石である。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，削器１点，使用痕ある剥片１点，石刃１点，剥片66点（61個体），砕片４点の合計74点（69個体；82.0ｇ）である。

接合資料は，本ブロックを中心に見ると，以下のとおりＨ～Ｌの５組がある。

接合資料Ｈは，剥片５点（３個体；13.5ｇ）で構成される。このうち剥片１点（4.2g）は，C26-A4ブロックに分布する。

接合資料Ｉは，剥片３点が接合して１個体（1.6ｇ）になるものである。

接合資料Ｊは，剥片２点が接合して１個体（0.8ｇ）になるものである。

接合資料Ｋは，剥片２点が接合して１個体（2.2ｇ）になるものである。

接合資料Ｌは，剥片２点（合計2.0ｇ）で構成される。

このほか，C26-A1ブロックの接合資料Ｃに含まれる剥片１点（7.2g），C26-A3ブロックの接合資料Ｍに含まれる剥片１点（0.2g）がある。

また，同一母岩は，C26-A1ブロックに240点（233個体），C26-A3ブロックに49点，C26-A4ブロックに９点（８個体）が分布する。

・C26-⑤：C26-A1ブロックで記したとおり，淡黒色半透明の地に，帯状の黒色のモヤが多数入る黒曜石で，剥片12点（11個体；13.3ｇ）で構成される。

接合資料は，本ブロックを中心に見ると，以下のとおり３組がある。

接合資料Ｄは，剥片３点（２個体；9.5ｇ）で構成される。接合して１個体になる剥片のいっぽう（5.4g）は，C26-A3ブロックに分布する。

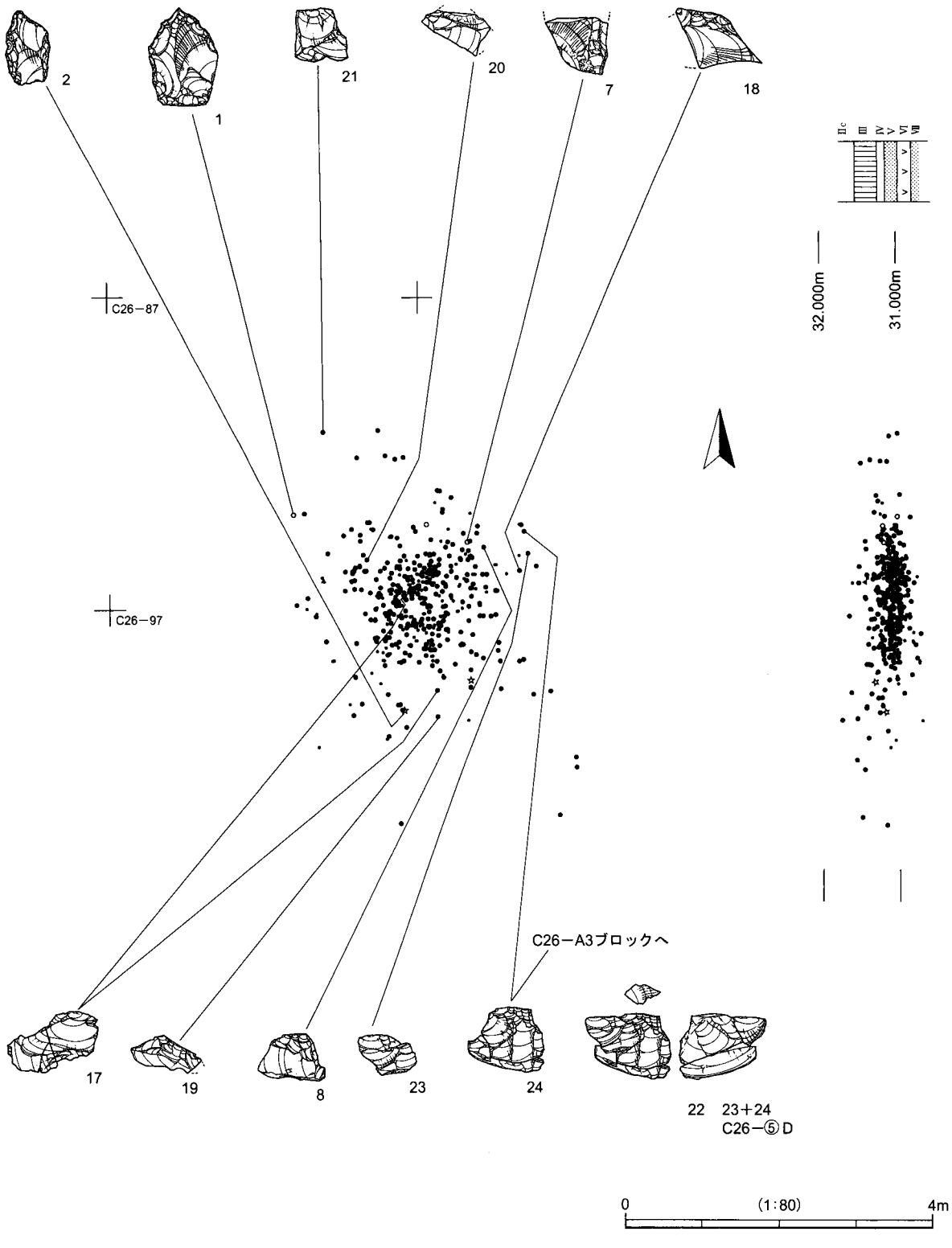
接合資料Ｅは，剥片２点が接合して１個体（1.9ｇ）になるものである。

接合資料Ｆは，剥片２点が接合して１個体（5.2ｇ）になるものである。このうちいっぽうの剥片（3.7g）は，C26-A3ブロックに分布する。

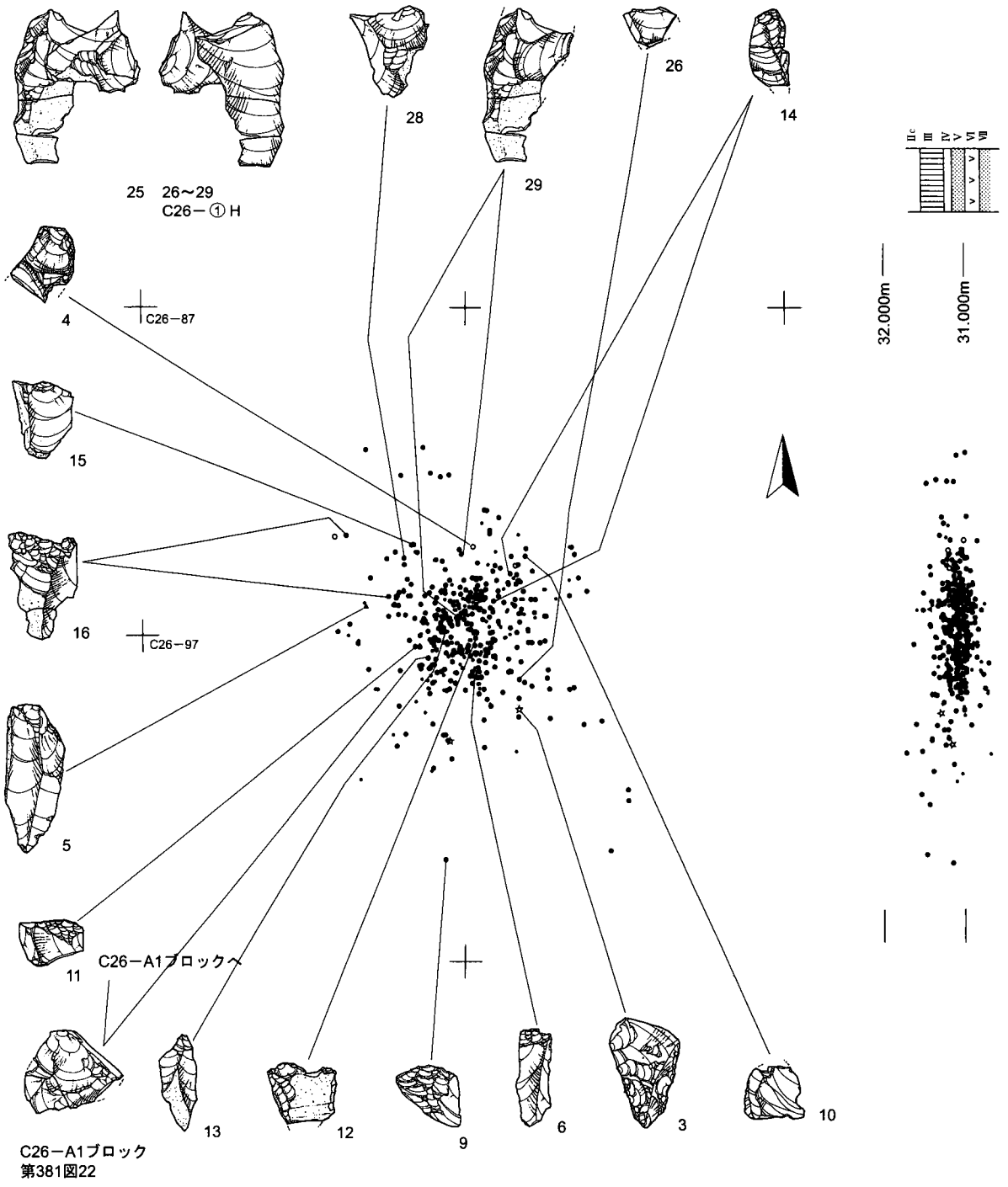
このほか，同一母岩は，C26-A1ブロックに18点（16個体），C26-A3ブロックに５点，C26-A4ブロックに１点が分布する。

・C26-⑬：淡黒色半透明の地に，黒色のモヤが薄く入る良質の黒曜石である。夾雑物はほとんど含まず，表面は光沢がある。剥片13点（12個体；10.7ｇ）で構成される。接合資料は剥片２点が接合して１個体（0.8ｇ）になるものがある。

・C26-⑭：淡黒色半透明の地に，黒色の平行する縞が数条入る良質の黒曜石である。ナイフ形石器１点（完形；4.3ｇ）の単独資料である。



第384図　C26-A2ブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図（1）－



第385図　C26-A2ブロック出土遺物分布図（２）　－石器別分布図（２）－

・C26-⑮：淡黒色半透明の良質の黒曜石である。夾雑物はわずかで，表面に光沢がある。錐状石器１点（完形；11.9ｇ）の単独資料である。

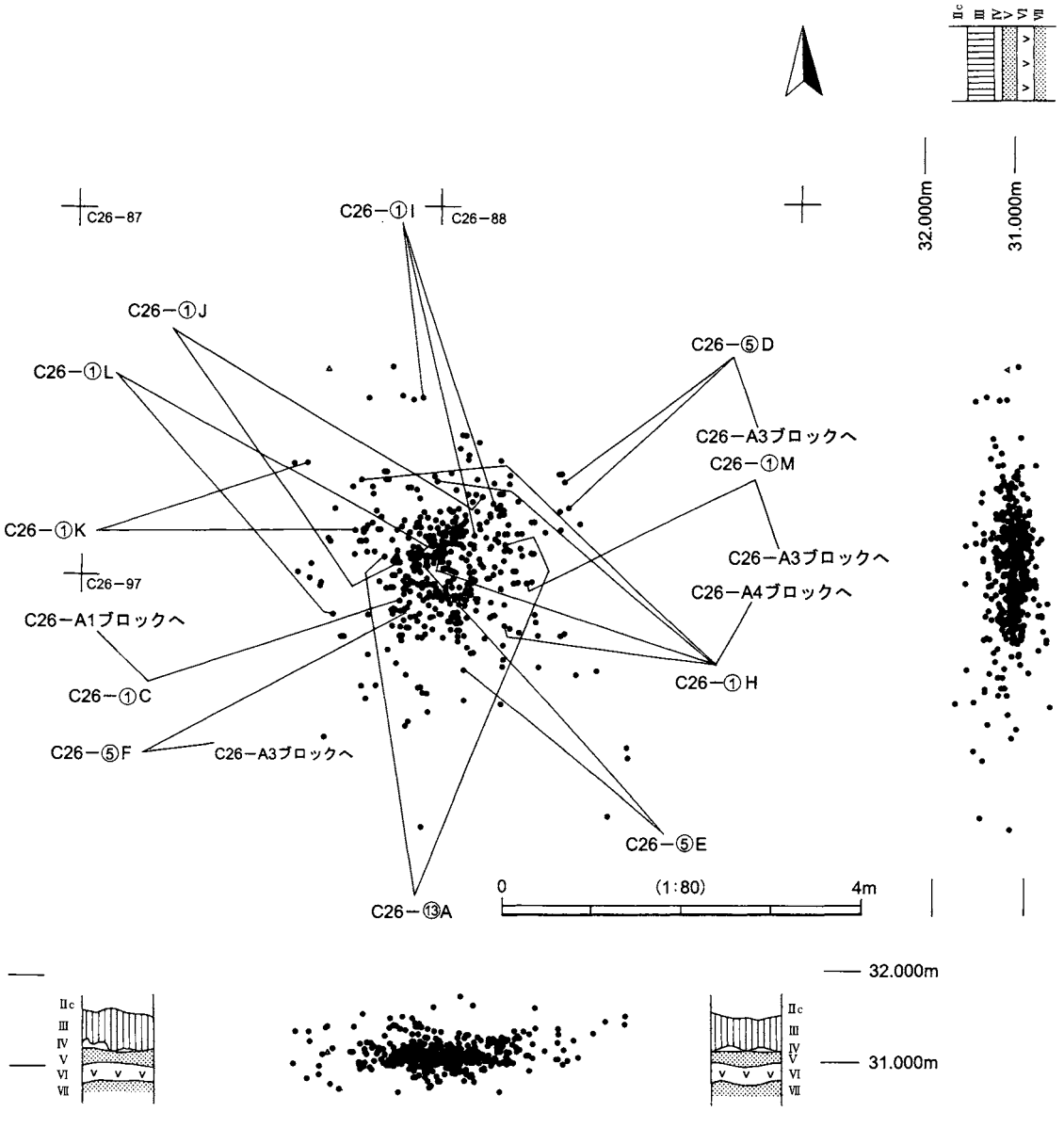
・C26-⑯：淡黒色半透明の地に，黒色のモヤがかかったように見える良質の黒曜石である。夾雑物はわずかである。良好な横長剥片の半分が欠損したもの１点（6.4ｇ）の単独資料である。

・C26-⑰：青灰色の地に淡橙褐色の縞が入るチャートである。小型不定型の剥片１点（4.3ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石の剥片194点，砕片216点（合計52.4ｇ）がある。

３）出土遺物（第387・388図）

１は，黒曜石による不定型厚手の剥片を用いた錐状石器である。左側縁全体と右側縁の先端を裏面から急角度の剥離角による調整加工（ブランティング）を行い，先端を鋭利に仕上げている。左側縁は中ほど



第386図　C26-A2ブロック出土遺物分布図（３）　－石材別分布図－

で屈曲しているが，これによって全体に左右対称形になっている。素材の打面は平坦で紙やすり状の自然面であるが，薄くされることなく残されている。

2は，不定型厚手の剥片を横位に用いた切出形のナイフ形石器である。素材剥片の打面部と末端部を切り取ったような形状である。

3は，不定型の剥片を縦位に用いた切出形のナイフ形石器である。右側縁は，縦位方向に折り取った後，中間部を中心に裏面から急角度の剥離による調整加工をしている。左側縁は，表面側から横位に折り取った後，折れ面を打面として平坦に調整を行っている。

4は，不定型の剥片を素材とする削器である。左側縁に大きさの揃った細かな調整剥離が連続していることから，この部分を刃部と考えた。素材剥片の形状を各所に残すが，下半部は欠損する。

5は，黒曜石の石刃である。両側縁の下部に刃こぼれがある。6は，縦長剥片を用いた使用痕ある剥片，7は，不定型の剥片を用いた加工痕ある剥片である。

8～20は，黒曜石の各種剥片である。横長傾向のものから縦長傾向のものまで見られるが，それぞれが母岩ごとに分かれるわけでもないことから，概ね同じような形状の石核から剥離されたと考えられる。21は，チャートによる不定型の剥片である。本ブロックで唯一の黒曜石以外の石材である。

4）接合資料とその関連資料（第387・388図）

・C26-①（第387図4～6，9～16，第388図25～29） 淡黒色半透明の地に青みがかった黒色の帯状が入る黒曜石で，ナイフ形石器1点，削器1点，使用痕ある剥片1点，石刃1点，剥片66点（61個体），砕片4点の合計74点（69個体）で構成される。

25は，剥片5点（3個体）の接合資料である。右側の打面から26→28の順に剥離した後，上位の打面から29を剥離している。接合資料の表面を見ると，剥片剥離の打点が石核の周囲を廻るように移動していることがわかる。また，26と28を剥離した際の打面は表面側からの剥離面で，打面と作業面が入れ替わる剥離手順である。表面下半部に自然面が広く残ることから，母岩消費の中では比較的早い段階の資料なのかも知れない。なお，29は剥離後に5点以上に割れており（打面部と末端部は不明），中間のひとつには折れ面周辺に細かな剥離が見られる（27）。

このほか，接合しない剥片類が多数あるが，先述したとおり，多様な形状を示している。打面と作業面を頻繁に入れ替えながら，幅広の縦長剥片，不定型の剥片，横長剥片を生産したのであろう。

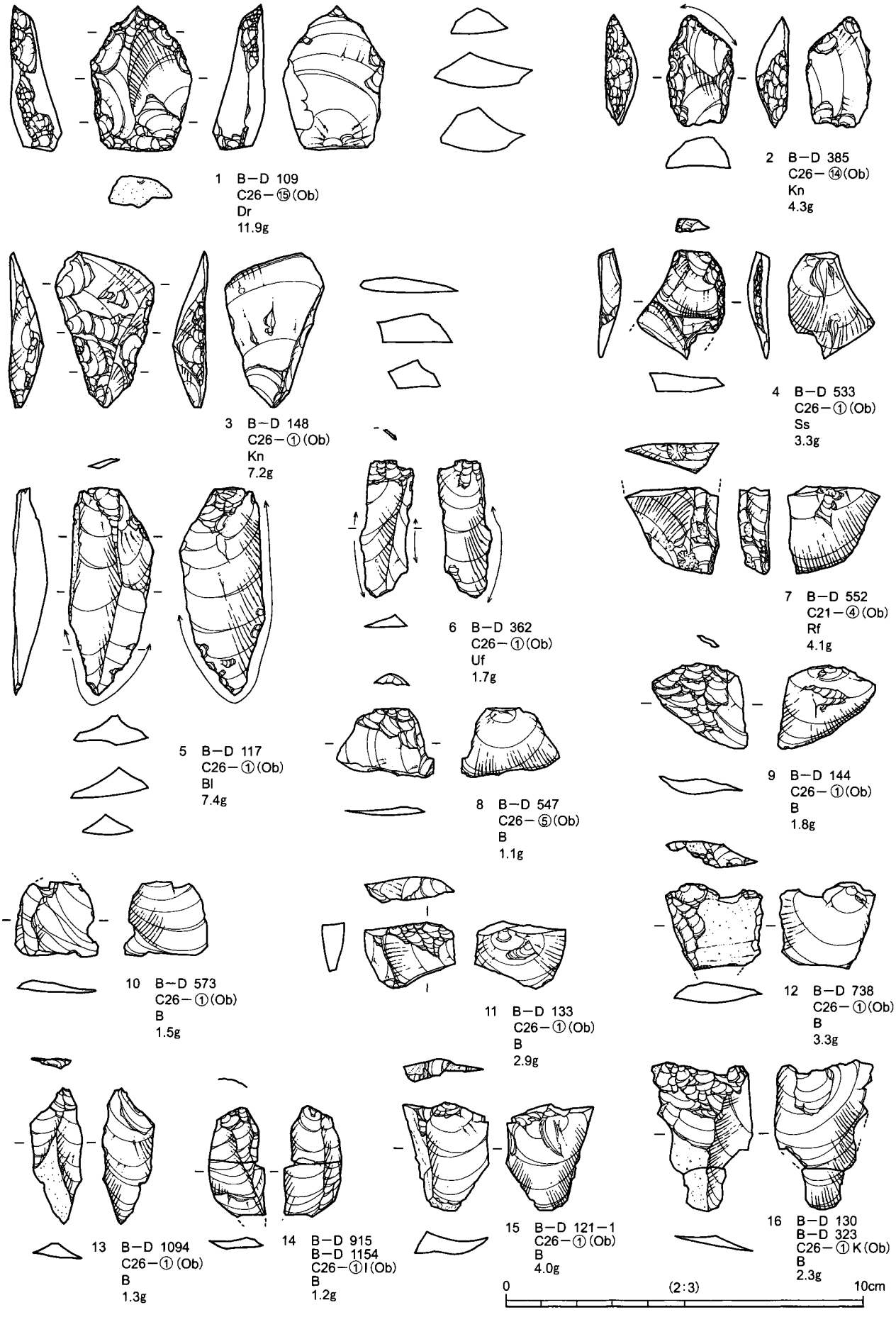
・C26-⑤（第388図22～24） 淡黒色半透明の地に帯状の黒色のモヤが多数入る黒曜石で，剥片12点（11

第149表　C26-A2ブロック母岩別石器組成表

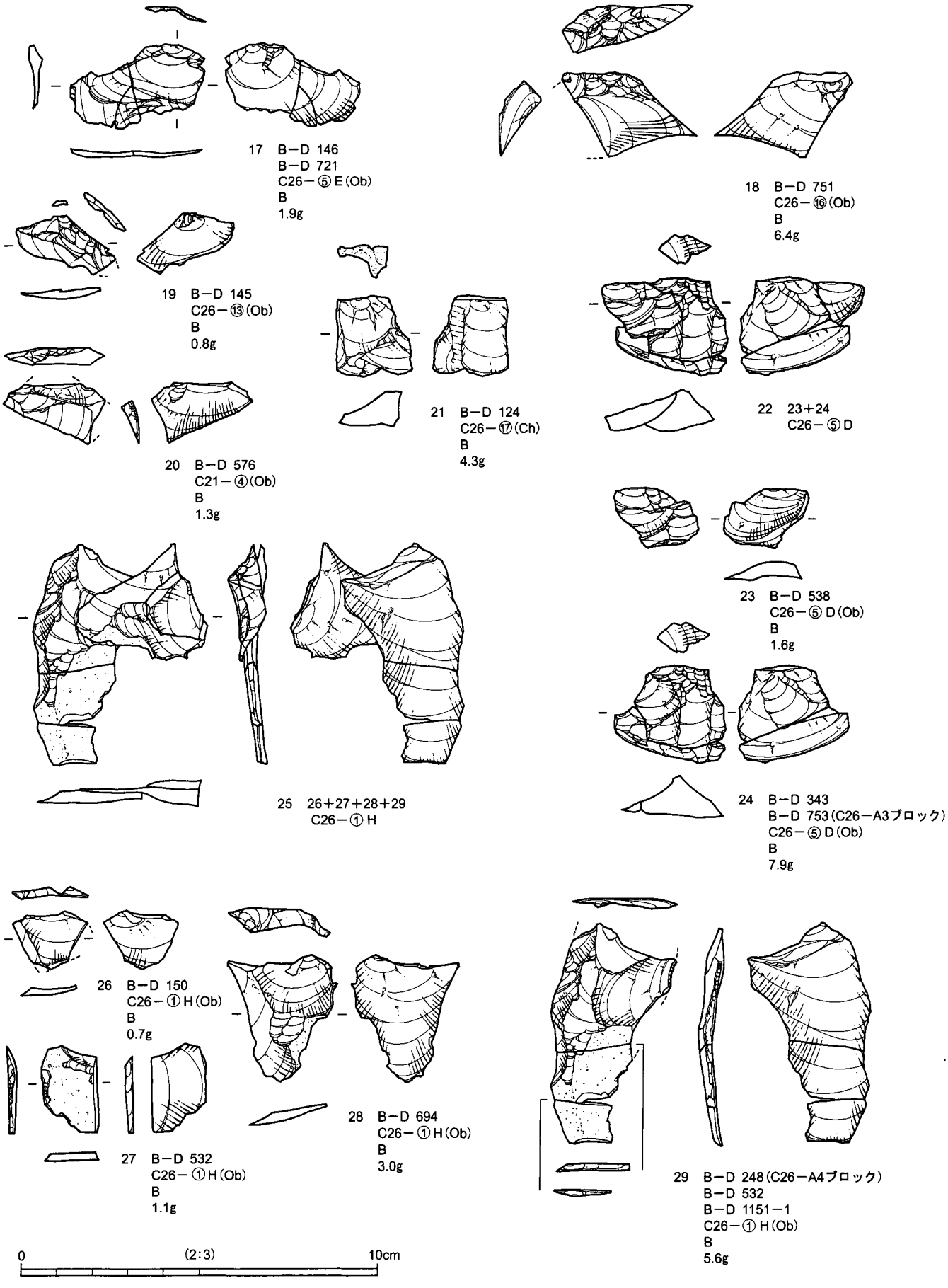
母岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C21-④(Ob)										1									3			4		4
C26-①(Ob)	1					1					1	1							66(61)	4		74(69)		74(69)
C26-⑤(Ob)																			12(11)			12(11)		12(11)
C26-⑬(Ob)																			13(12)			13(12)		13(12)
C26-⑭(Ob)	1																					1		1
C26-⑮(Ob)								1														1		1
C26-⑯(Ob)																			1			1		1
C26-⑰(Ch)																			1			1		1
その他(Ob)																			194	216		410		410
合　計	2					1		1		1	1	1							290(283)	220		517(510)		517(510)

第150表　C26-A2ブロック石材別石器組成表

石材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)	2					1		1		1	1	1							289(282)	220		516(509)		516(509)
チャート(Ch)																			1			1		1
合　計	2					1		1		1	1	1							290(283)	220		517(510)		517(510)



第387図　C26-A2ブロック出土遺物実測図（1）



第388図　C26-A2ブロック出土遺物実測図（2）

個体）で構成される。

22は，剥片３点（２個体）の接合資料である。23→24の順に不定型の剥片を剥離している。なお，24の上半部はC26-A3ブロックに分布している。

2-3　C26-A3ブロック（第389～394図，第151・152表）

1）ブロックの概要

C26-A3ブロックは，本ブロック群の中では中央東側にあり，C26-88・89・98・99グリッドに位置する。ブロックの規模と形状は，長軸６m，短軸５mの範囲に180点の石器が密集する。出土層位はV層を中心としており，１mほどの高低差をもって包含される（第389～391図）。

ブロックは，ナイフ形石器６点，角錐状石器１点，削器１点，加工痕ある剥片１点，石刃３点（１個体），剥片110点（109個体），砕片57点，石核１点の合計180点（177個体）で構成される。石材は，黒曜石177点（174個体），頁岩１点，珪質頁岩１点，チャート１点である。黒曜石は隣接ブロックと同様，概ね信州産と考えられる。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは10母岩を識別した。内訳は，黒曜石７母岩（C21-①，C26-①・⑤・⑦・⑱～⑳），頁岩１母岩（C26-⑫），珪質頁岩１母岩（C26-㉒），チャート１母岩（C26-㉑）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は42%（76/180点）である。

・C21-①：草刈遺跡Ｃ区C21-Ａブロックで記したとおり，無色透明の地に，青みを帯びた黒色を呈する幅広の帯が入る良質な黒曜石である。ただし，黒曜石の中にある黒色の帯は角度によって見え方が異なり，本ブロックの資料では，黒色のモヤがかかったように見える。本ブロックでは，加工痕ある剥片１点（2.3ｇ）の単独資料であるが，これに草刈遺跡Ｃ区C21-Ａブロックの１点（同一母岩全体は10点）とC26-A4ブロックの１点が接合する。

・C26-①：C26-A1ブロックで記したとおり，淡黒色半透明の地に青みがかった黒色の帯状が入る黒曜石である。石器群の内訳は，ナイフ形石器２点，角錐状石器１点，削器１点，剥片32点，砕片13点の合計49点（54.8ｇ）である。

接合資料は，本ブロックを中心に見ると，以下のとおりM～Qの５組がある。

接合資料Mは，剥片２点（１個体；0.4ｇ）で構成される。このうち剥片１点（0.2ｇ）は，C26-A2ブロックに分布する。

接合資料Nは，角錐状石器１点とその調整剥片１点で構成される（合計0.9ｇ）。

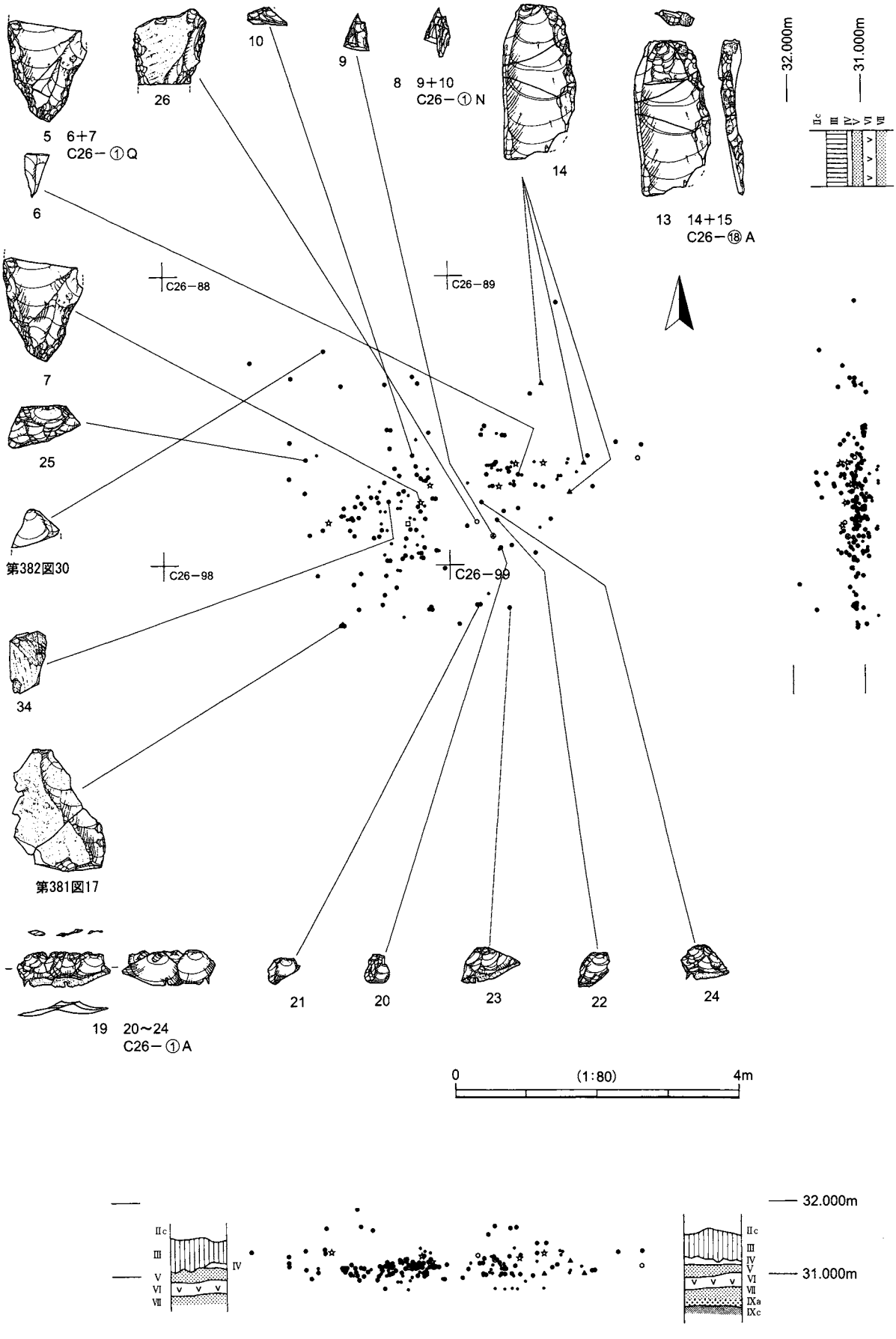
接合資料Oは，剥片２点（１個体；0.8ｇ）で構成される。これは，ナイフ形石器，あるいは角錐状石器の調整剥片と考えられる。

接合資料Pは，剥片５点（合計2.4ｇ）で構成される。ナイフ形石器，あるいは角錐状石器の調整剥片相互の接合資料と考えられる。

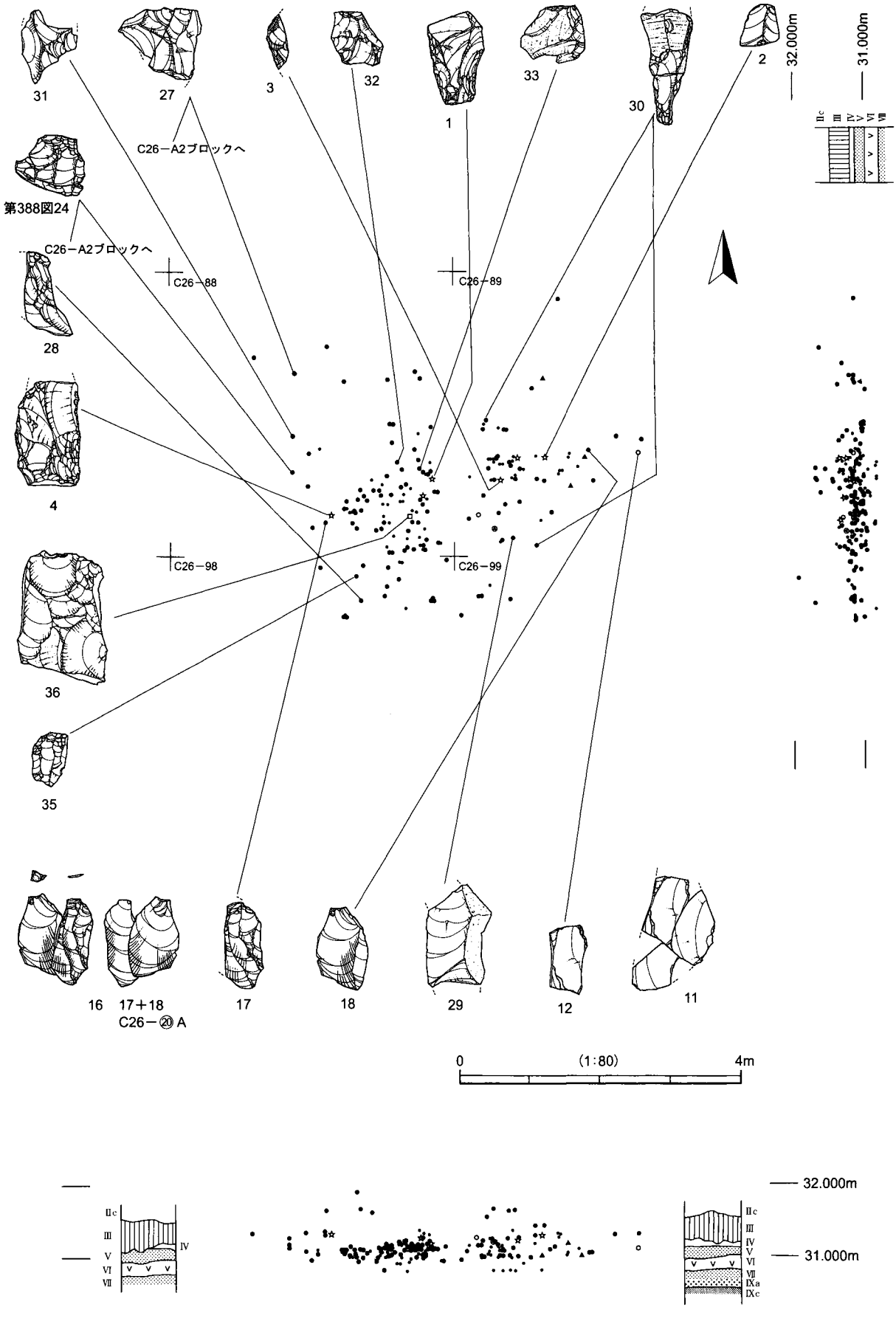
接合資料Qは，ナイフ形石器１点，剥片１点（合計16.0ｇ）で構成される。

また，同一母岩は，C26-A1ブロックに240点（233個体），C26-A2ブロックに74点（69個体），C26-A4ブロックに９点（８個体）が分布する。

・C26-⑤：C26-A1ブロックで記したとおり，淡黒色半透明の地に，帯状の黒色のモヤが多数入る黒曜石で，



第389図　C26-A3ブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図（1）－



第390図　C26-A3ブロック出土遺物分布図（２）　－石器別分布図（２）－

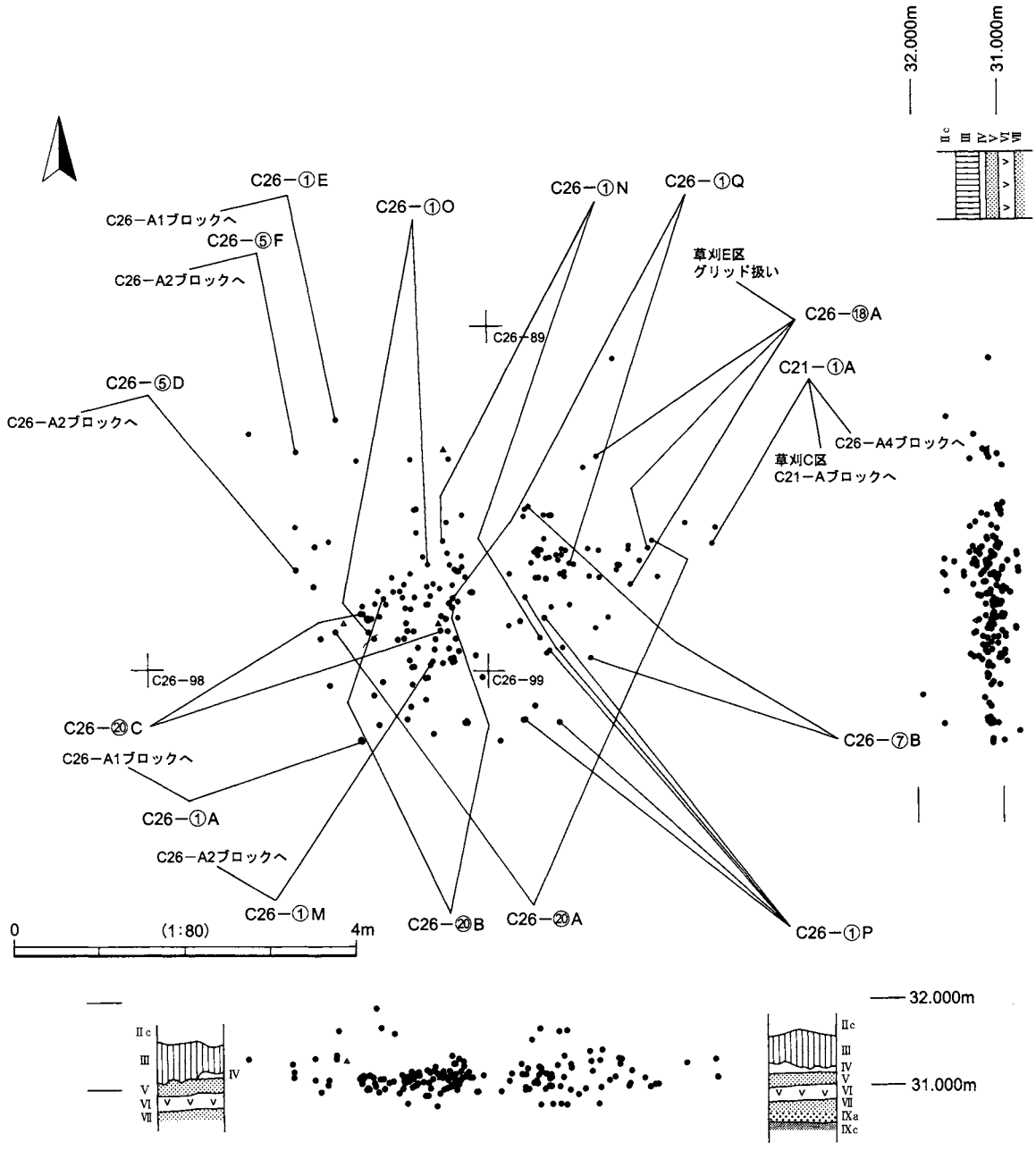
ナイフ形石器１点，剥片４点（合計16.4ｇ）で構成される。接合資料は，剥片２点が接合して１個体になるもの（接合資料Ｆ；5.2ｇ）がある。なお，このうち剥片１点（1.5g）は，C26-A2ブロックに分布する。

このほか，同一母岩は，C26-A1ブロックに18点（16個体），C26-A2ブロックに12点（11個体），C26-A4ブロックに１点が分布する。

・C26-⑦：C26-A1ブロックで記したとおり，淡黒色透明の地に，やや色調の濃い縞が平行する黒曜石である。剥片３点（２個体；8.5ｇ）で構成されるが，うち２点が接合して１個体（5.3ｇ）となる。

このほか，C26-A1ブロックに２点（１個体）が分布する。

・C26-⑫：C26-A1ブロックで記したとおり，灰緑色の地に青みがかった黒色の線が多方向に入る頁岩であ



第391図　C26-A3ブロック出土遺物分布図（３）　－石材別分布図－

る。本ブロックでは石核１点（68.3ｇ）の単独資料であるが，同一母岩がC26-Alブロックに剥片１点分布する。また，草刈遺跡Ｅ区C37-Ａブロックの C37-⑤母岩に似る。

・C26-⑱：淡黒色透明の地に，黒色の縞が平行する良質の黒曜石である。φ５㎜ほどの球形の夾雑物を含む。石刃３点（１個体；12.9ｇ）で構成される。また，草刈遺跡Ｅ区ブロック外の石刃１点と接合する。

・C26-⑲：全体に，青みを帯びた黒色のモヤがかかったような黒曜石である。φ１㎜～２㎜ほどの白色の夾雑物を含む。剥片１点（2.9ｇ）の単独資料である。

・C26-⑳：無色透明の地に，黒色の途切れ途切れの縞が入る黒曜石である。表面は光沢があり，φ0.5㎜～１㎜ほどの白色の夾雑物を含む。剥片11点（合計20.0ｇ）で構成される。接合資料は，剥片２点で構成されるものが３組（接合資料Ａ；6.3ｇ，接合資料Ｂ；0.2ｇ，接合資料Ｃ；1.6ｇ）ある。

・C26-㉑：青みがかった黒色と黄灰色の混在するチャートである。節理が他方向に入る。ナイフ形石器１点（16.8ｇ）の単独資料である。

・C26-㉒：淡橙褐色の嶺岡産珪質頁岩である。小型の剥片１点（0.4ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石のナイフ形石器２点，剥片58点，砕片44点（合計27.9ｇ）がある。

３）出土遺物（第392・394図）

１は，不定型の剥片を縦位に用いたナイフ形石器である。素材の打面を基部に残し，その両側縁を裏面から調整加工している。素材の用い方と調整加工部位は基部調整のナイフ形石器に近いが，調整加工のあり方と全体の形状は切出形に近く，後者に分類したい。２・３は，ナイフ形石器の欠損品と考えた資料であるが，小片であり細かな点は不明である。４は，チャートによる不定型の剥片を縦位に用いたナイフ形石器である。素材の打面を基部に残し，その両側縁を調整したもので，定型的な石刃を素材としたものではないが，基部調整のナイフ形石器と考えられる。

26は，厚手の不定型の剥片を用いた削器である。素材剥片の打面を上端に広く残し，両側縁に裏面から調整加工を行っている。下端は欠損する。

27～35は，不定型の剥片である。表面に残る剥離面の剥離方向は一定しない。

36は，頁岩による石核である。分割礫を石核の素材として，打面と作業面を固定せず，各所から不定型の剥片を剥離している。表裏の中央には節理面があり，これが原石の分割面と考えられる。

４）接合資料とその関連資料（第392～394図）

・C21-①（第392図11・12）　無色透明の地に，黒色のモヤがかかったように見える黒曜石で，本ブロックでは加工痕ある剥片１点の単独資料である。

11は，剥片類３点が接合して１個体の不定型な剥片になった資料である。ただし，打面部をはじめとして，各部位がなお不足している。また，３点はすべて異なったブロックに分布している。12は，11の中で本ブロックに分布していた破片である。上下両端と右側縁の多くは欠損面であるが，右側縁の上部に調整加工を行った形跡があり，石器に加工している途中で欠損したと考えられるが，その製作場所がどの地点なのかは不明である。

・C26-①（第392図５～10，第393図19～25，第394図26・34）　淡黒色半透明の地に青みがかった黒色の

帯状が入る黒曜石で，ナイフ形石器２点，角錐状石器１点，削器１点，剥片32点，砕片13点で構成される。

５は，ナイフ形石器（７）の表面に，先行して剥離された小型の剥片（６）が接合したものである（接合資料Q）。７は，厚手の横長剥片を素材とするナイフ形石器である。横長剥片を横位に用いて，２側縁を調整している。２側縁調整ないしは切出形であろう。

８は角錐状石器の先端部（９）にその調整剥片（10）が接合した資料である（接合資料N）。９は，裏面（素材の主要剥離面）を打面として左右両側縁を調整し，鋭利な先端部を作り出している。

19は，剥片５点（20～24）の接合資料である（接合資料P）。平坦な打面から20→21→22→23→24の順に，小型幅広の剥片を連続して剥離している。剥片の形状から，角錐状石器，あるいはナイフ形石器の調整剥片と考えられる。また，25は接合しないが同形態の剥片である。

・C26-⑱（第393図13～15）　淡黒色透明の地に，黒色の縞が平行する良質の黒曜石で，本ブロックでは石刃３点で構成される。

13は，３点の破片が接合して１個体となった石刃（14）の表面に，石刃の頭部（15）が接合したものである。14は，幅広の石刃で，３点の破片はすべて本ブロック東部にまとまって分布する。右側縁には帯状の不純物があり，その部分を除去するかのように不安定な調整加工がある。下端には刃こぼれがある。この石刃は，３点に分かれて以後の調整加工は見られないことから，破損したものか，意図的に分割されたものか，判断はできない。15は，草刈遺跡Ｅ区のブロック外に単独で分布する石刃の頭部である。14の表面に残る剥離痕から，もともと14と同規模の比較的大型の石刃であったことがわかる。なお，14の３点と15とは，相互に60mほど離れている。

・C26-⑳（第393図16～18）　無色透明の地に，黒色の途切れ途切れの縞が入る黒曜石で，剥片11点で構成される。

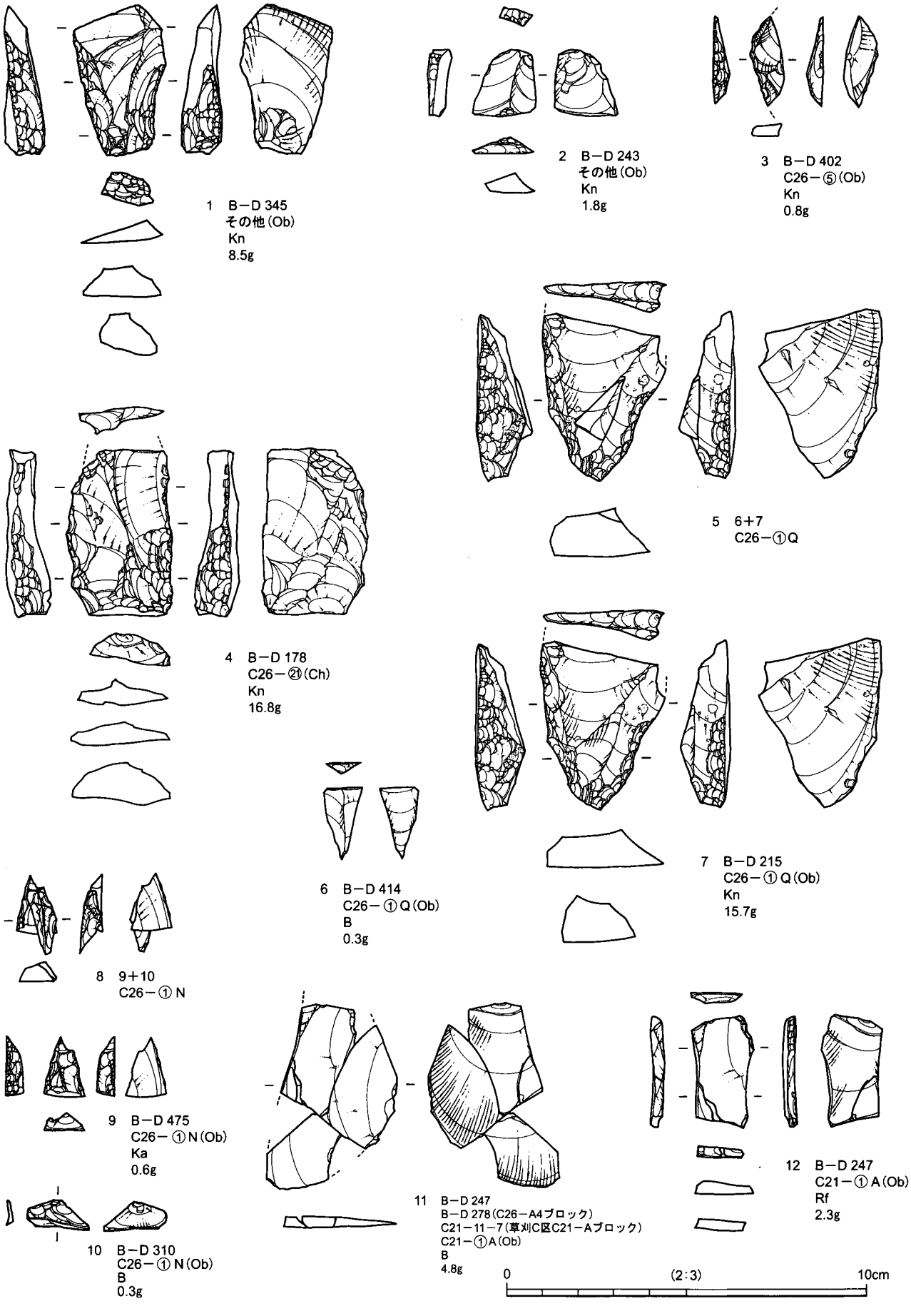
16は，不整型の縦長剥片２点（17・18）の接合資料である。17→18の順に剥片を剥離している。両剥片の表面は，同一方向の剥離面で構成されており，同一打面から連続して剥片剥離を行っていたことがわかる。

第151表　C26-A3ブロック母岩別石器組成表

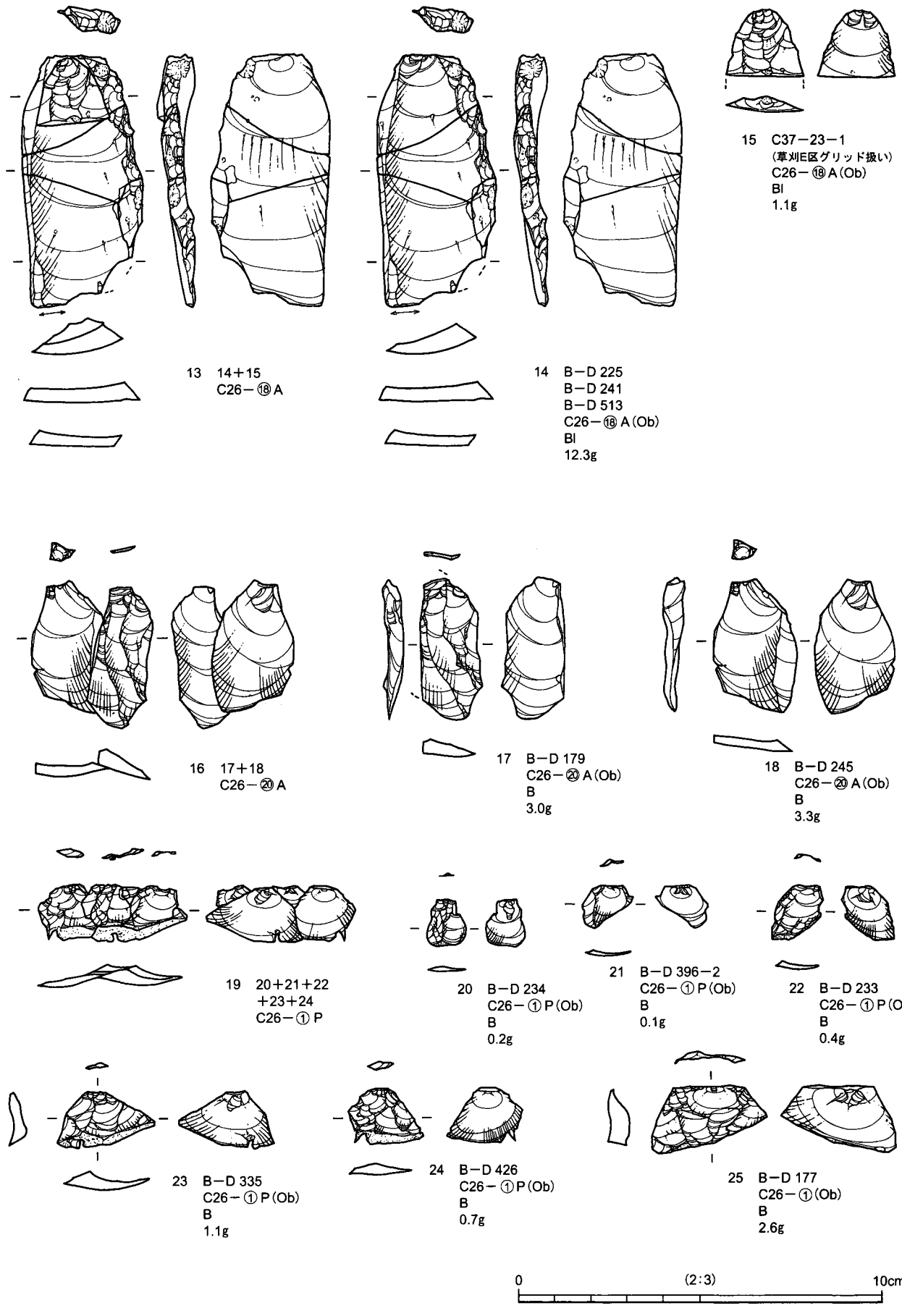
母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C21-①(Ob)										1												1		1
C26-①(Ob)	2		1			1													32	13		49		49
C26-⑤(Ob)	1																		4			5		5
C26-⑦(Ob)																			3(2)			3(2)		3(2)
C26-⑫(Sh)																					1	1		1
C26-⑱(Ob)												3(1)										3(1)		3(1)
C26-⑲(Ob)																			1			1		1
C26-⑳(Ob)																			11			11		11
C26-㉑(Ch)	1																					1		1
C26-㉒(Csh)																			1			1		1
その他(Ob)	2																		58	44		104		104
合　計	6		1			1				1		3(1)							110(109)	57	1	180(177)		180(177)

第152表　C26-A3ブロック石材別石器組成表

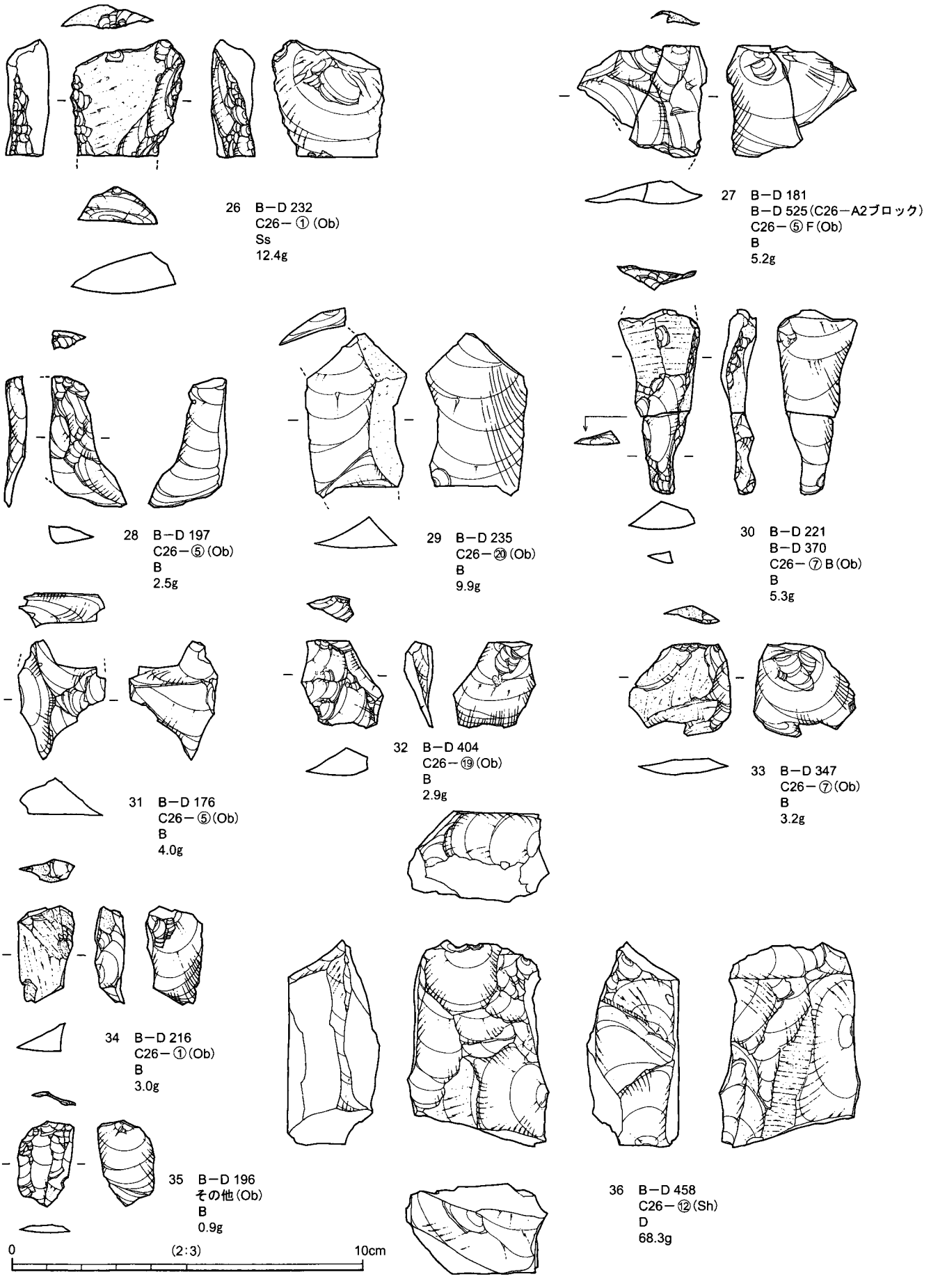
石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)	5		1			1				1		3(1)							109(108)	57		177(174)		177(174)
頁岩(Sh)																					1	1		1
珪質頁岩(Csh)																			1			1		1
チャート(Ch)	1																					1		1
合　計	6		1			1				1		3(1)							110(109)	57	1	180(177)		180(177)



第392図　C26-A3ブロック出土遺物実測図（1）



第393図　C26-A3ブロック出土遺物実測図（２）



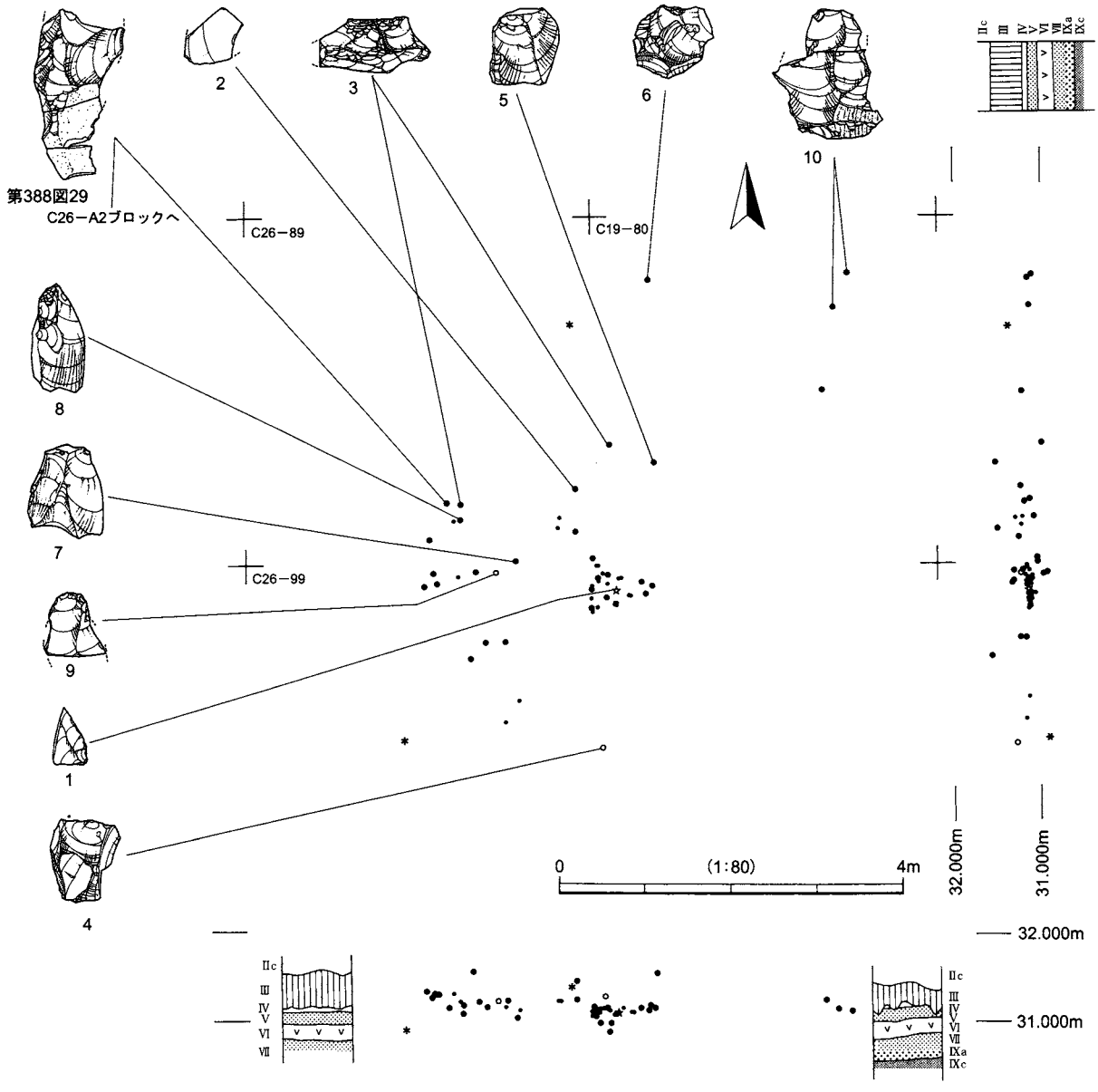
第394図　C26-A3ブロック出土遺物実測図（3）

2-4　C26-A4ブロック（第395～398図，第153・154表）

1）ブロックの概要

C26-A4ブロックは，本ブロック群の中では西端にあり，C19-80・90，C26-89・99グリッドに位置する。ブロックの規模と形状は，長軸８m，短軸３mの長楕円形の範囲に57点の石器・礫が分布する。ただ，大半の資料はブロック南部の直径３mほどの範囲にまとまっており，北側は散漫な分布状況である。出土層位はV層を中心としており，70cmほどの高低差をもって包含される（第395・396図）。

ブロックは，ナイフ形石器１点，使用痕ある剥片２点，剥片29点（27個体），砕片23点，礫２点の合計57点（55個体）で構成される。石器石材は，黒曜石54点（52個体），安山岩（トロトロ石）１点，礫石材は，砂岩１点，ホルンフェルス１点である。黒曜石は隣接ブロックと同様，概ね信州産と考えられる。



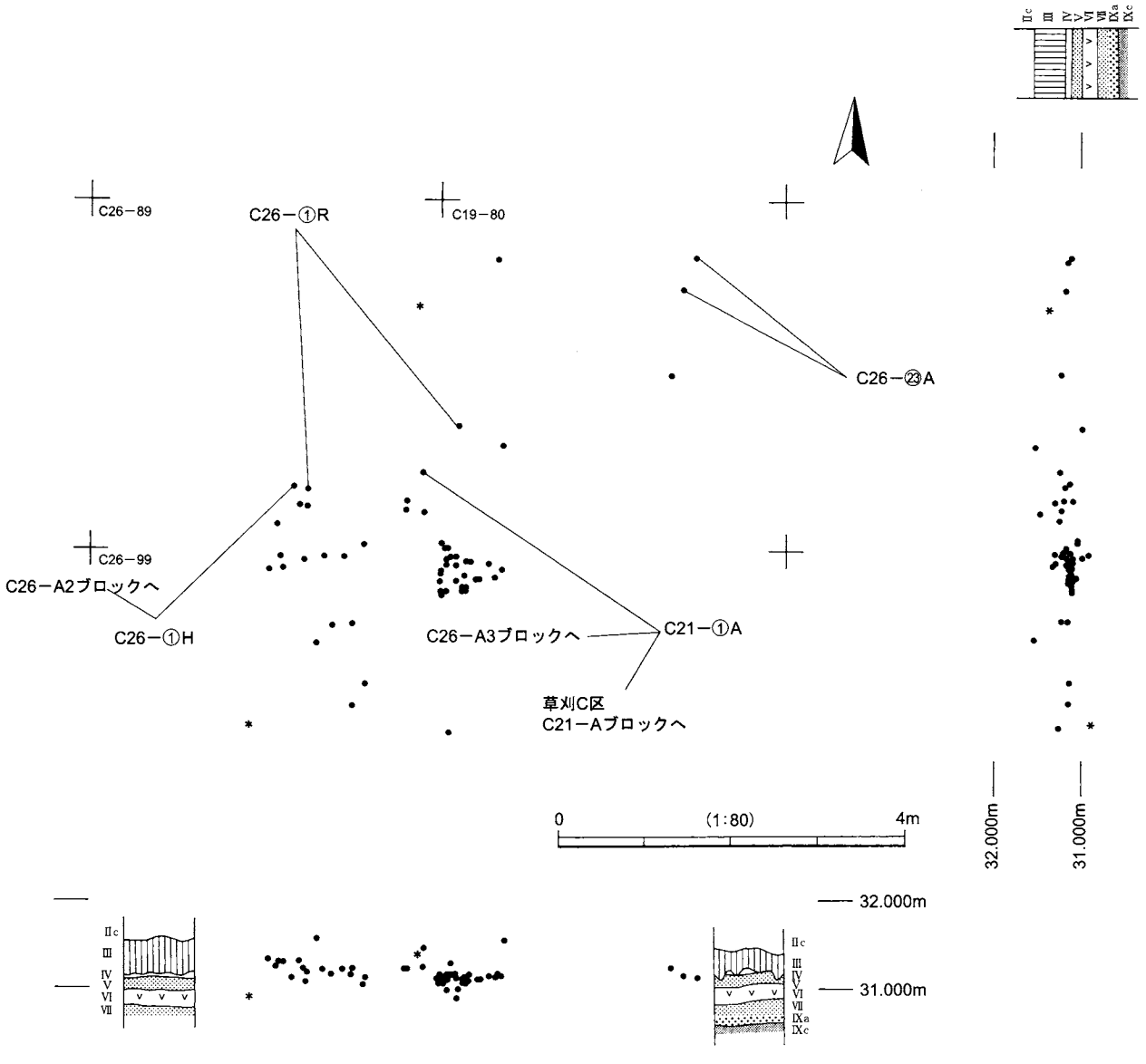
第395図　C26-A4ブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－

2）母岩の特徴と内容

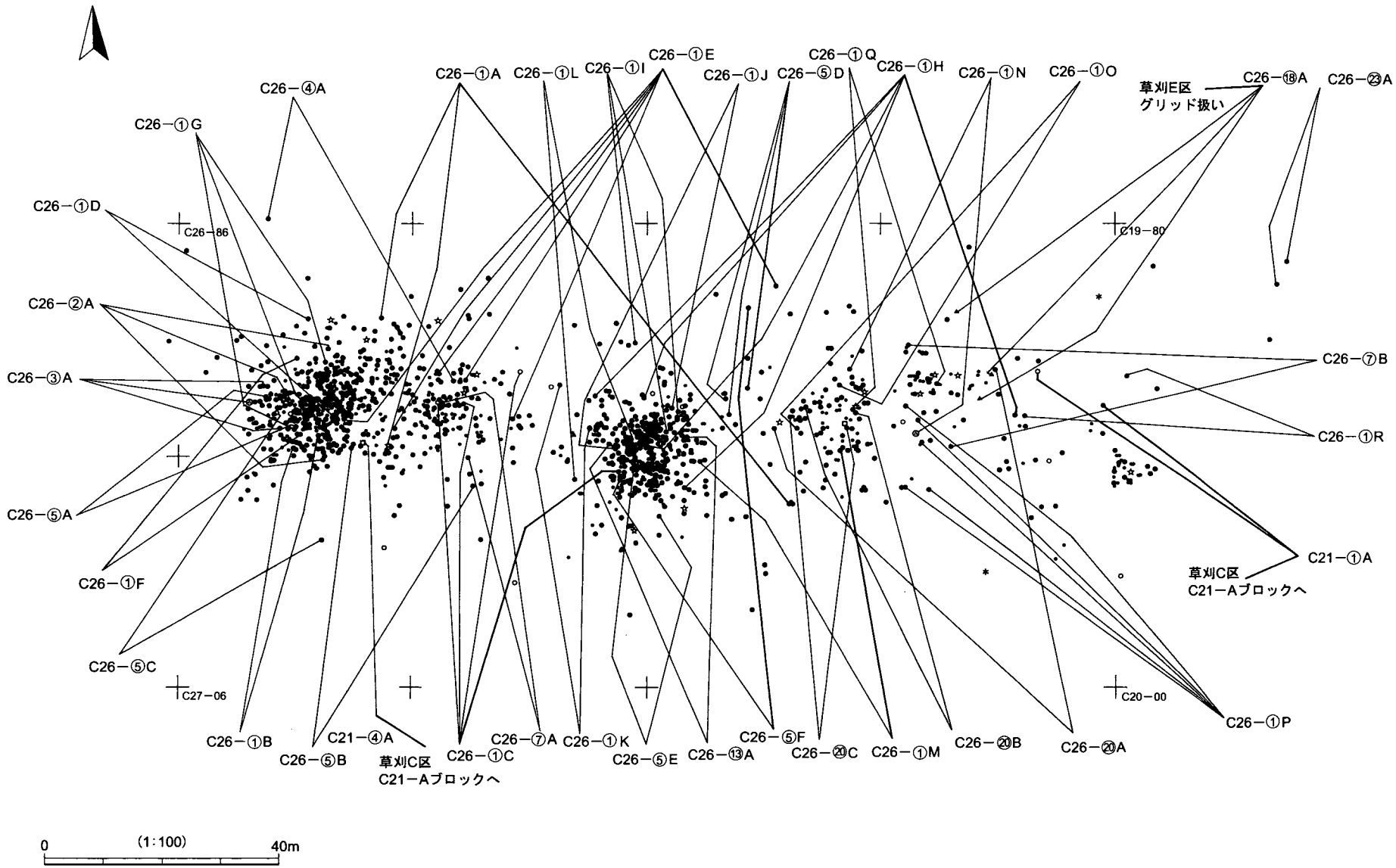
本ブロックでは５母岩を識別した。内訳は，黒曜石４母岩（C21-①，C26-①・⑤・㉓），安山岩１母岩（C26-㉔）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は25％（14/55点）である。

・C21-①：草刈遺跡Ｃ区C21-Ａブロックで記したとおり，無色透明の地に，青みを帯びた黒色を呈する幅広の帯が入る良質な黒曜石である。ただし，黒曜石の中にある黒色の帯は角度によって見え方が異なり，本ブロックの資料では，黒色のモヤがかかったように見える。本ブロックでは剥片１点（0.9ｇ）の単独資料であるが，これに草刈遺跡Ｃ区C21-Ａブロックの１点（同一母岩は10点）とC26-A3ブロックの１点が接合する。

・C26-①：C26-A1ブロックで記したとおり，淡黒色半透明の地に青みがかった黒色の帯状が入る黒曜石である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片８点（７個体）の合計９点（８個体；39.2g）である。接合資料は，剥片２点が接合して１個体になったもの（接合資料Ｒ；5.2g）がある。



第396図　C26-A4ブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－



第397図　C26-A1～A4ブロック出土遺物分布図　－接合関係図－

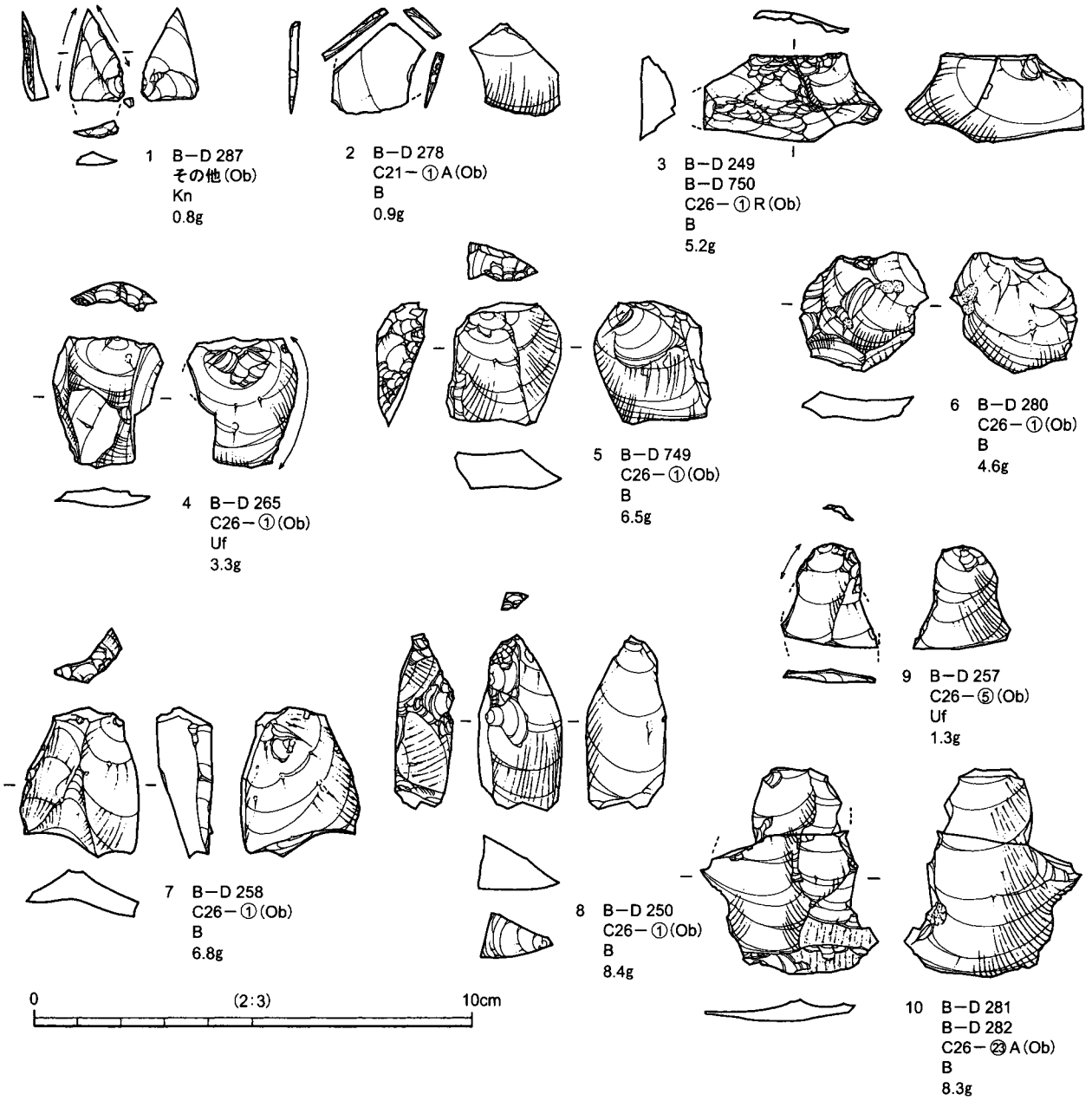
また，同一母岩は，C26-A1ブロックに240点（233個体），C26-A2ブロックに74点（69個体），C26-A3ブロックに49点が分布する。

・C26-⑤：C26-A1ブロックで記したとおり，淡黒色半透明の地に，帯状の黒色のモヤが多数入る黒曜石で，本ブロックでは使用痕ある剥片１点（1.3ｇ）の単独資料である。

このほか，同一母岩は，C26-A1ブロックに18点（16個体），C26-A2ブロックに12点（11個体），C26-A3ブロックに５点が分布する。

・C26-㉓：無色透明の地に，黒色の縞が入る黒曜石である。表面は光沢があり，φ５㎜の球形の夾雑物を含む。剥片２点（接合して１個体；8.3ｇ）の単独資料である。

・C26-㉔：灰色に風化した軟質の安山岩（トロトロ石）で，白色の夾雑物が目立つ。剥片１点（1.2ｇ）の単独資料である。



第398図　C26-A4ブロック出土遺物実測図

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石のナイフ形石器１点，剥片17点，砕片23点（合計5.4ｇ）がある。

３）出土遺物（第398図）

１は，小型の横長剥片を素材とするナイフ形石器である。素材剥片を横位に用い，末端部を切断した後，切断面に裏面から細かな調整加工を施している。下半部は欠損する。

２は，剥片の折れたものであるが，草刈遺跡Ｃ区C21-Ａブロック，隣接するC26-A3ブロックの資料と接合して１個体となる（C26-A3ブロック参照）。３・５～８・10は不定型の剥片，４・９はこれを利用した使用痕ある剥片である。剥片の形態は隣接するC26-A1～A3ブロックと共通する。

第153表　C26-A4ブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C21-①(Ob)																			1			1		1
C26-①(Ob)											1								8(7)			9(8)		9(8)
C26-⑤(Ob)											1											1		1
C26-㉓(Ob)																			2(1)			2(1)		2(1)
C26-㉔(Ant)																			1			1		1
その他(Ob)	1																		17	23		41		41
C26R-①(Sa)																							1	1
その他(Ho)																							1	1
合　計	1										2								29(27)	23		55(53)	2	57(55)

第154表　C26-A4ブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)	1										2								28(26)	23		54(52)		54(52)
安山岩(Ant)																			1			1		1
砂岩(Sa)																							1	1
ホルンフェルス(Ho)																							1	1
合　計	1										2								29(27)	23		55(53)	2	57(55)

第５節　第７文化層

第７文化層は，立川ローム層Ⅲ層下部からⅣ層上部にかけて包含される石器群で，C12-Ｂブロック（調査時のＥＶ地点），C14-Ａ～Ｃブロック（調査時のＪ・Ｋ地点）の４か所が該当する。

１　C12-Ｂブロック（第399～415図，第155・157表）

１）ブロックの概要

C12-Ｂブロックは，調査範囲東端のC11-85・95・96，C12-04・05・12～16・22～28・32～38・46・47・57グリッドに位置する。ブロックの立地は，台地北側の緩斜面にあたり，傾斜変換点からの距離は70ｍである。

ブロックの規模と形状は，直径24ｍほどの広範囲にわたって1,036点の石器・礫が分布する。特に，大多数を占める礫の分布は，ブロックの中心に直径３ｍほどの密集部が２か所あり，周囲に向かってじょじょに減少している。石器の分布は，礫が最も密集する部分と重なって，長軸４ｍ，短軸３ｍの範囲に小さくまとまっている。石器組成を見ると，槍先形石器をはじめ，ナイフ形石器，特殊な加工痕ある剥片など多様な石器で構成されているが，それぞれを平面的，あるいは垂直的な分布状況から複数のものに分けることはできない。また，各種石器石材も，特に偏ることなく分布する。したがって，多様な石器ではあるが，同一段階のものとして扱うこととする。

出土層位はⅢ層とⅣ層の境界付近を中心としており，40㎝ほどの高低差をもって，地形に沿って包含さ

れている（第399～403図）。

ブロックは，ナイフ形石器２点，槍先形石器１点，掻器２点，削器３点（２個体），加工痕ある剥片12点（11個体），使用痕ある剥片４点，石刃３点（１個体），敲石１点，剥片70点，砕片７点，石核７点（６個体）の石器類（合計112点；107個体）と礫924点の総計1,036点（1,031個体）で構成される。石器石材は，黒曜石22点（20個体），安山岩22点，安山岩（トロトロ石）７点，頁岩13点（12個体），珪質頁岩11点，チャート３点，砂岩４点（３個体），ホルンフェルス29点（28個体），メノウ１点，礫石材は，流紋岩82点，蛇紋岩１点，粘板岩５点，頁岩33点，チャート158点，砂岩590点，ホルンフェルス54点，石英１点である。石器石材について，黒曜石は信州麦草峠産と栃木県高原山産の両者が含まれていると考えられる。珪質頁岩は嶺岡産が少なく，概ね産出地は不明である。それ以外の安山岩やチャート，砂岩，ホルンフェルスなどは，礫と同様，上総丘陵砂礫層に由来するのではないだろうか。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは22母岩を識別した。内訳は，黒曜石１母岩（C12-④），安山岩２母岩（C12-⑤・⑥），頁岩５母岩（C12-⑧・⑨・⑮～⑰），珪質頁岩５母岩（C12-⑦・⑱～㉑），チャート２母岩（C12-⑬・⑭），砂岩３母岩（C12-⑩・㉓・㉕），ホルンフェルス３母岩（C12-⑪・⑫・㉔），メノウ１母岩（C12-㉒）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は51％（57/112点）である。

・C12-④：淡黒色透明の地に黒灰色と白色のモヤがかかる黒曜石である。φ１ｍｍの夾雑物が散在し，また内部に気泡が見られる。信州麦草峠産と考えられる。石器群の内訳は，掻器１点，石刃３点（接合して１個体；4.6ｇ）である。剥片生産の形跡はなく，搬入品と考えられる。

・C12-⑤：灰白色に風化しているが，トロトロ石のように軟質ではない安山岩である。自然面は滑らかな局面である。剥片石器に使われている安山岩の自然面は，細かな爪形の傷で覆われていたり，紙やすりのようにザラザラなものが多いが，本例は傷や凹凸のない滑らかな面である。黒色頁岩に似るが，鉱物が散在すること，堆積岩のようにきめ細かくなく，微細な空洞があることから火成岩と判断した。

石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片４点，砕片１点，石核１点の合計７点（19.4ｇ）で，このうち剥片１点と石核１点が接合する（合計16.6ｇ）。

・C12-⑥：灰白色に風化し，トロトロ石ほどではないものの，軟質な安山岩である。上記C12-⑤母岩に似た部分が多いが，本母岩の方が軟質である。石器群の内訳は，剥片４点，石核１点の合計５点（45.9ｇ）で，このうち剥片３点，石核１点が接合する（合計39.6ｇ）。

・C12-⑦：暗灰緑色と黄色みがかった灰緑色が混在する珪質頁岩である。掻器１点，加工痕ある剥片１点，剥片２点（合計7.0ｇ）で構成される。剥片生産の形跡はなく，搬入品と考えられる。

・C12-⑧：黄灰色でやや珪化した頁岩である。加工痕ある剥片３点（２個体），砕片１点（合計6.6ｇ）で構成される。接合している加工痕ある剥片は，一部は被熱により暗緑色に変色している。剥片生産の形跡はなく，搬入品と考えられる。

・C12-⑨：黄灰色に風化した軟質の頁岩である。風化による劣化が著しく，自然面の一部が剥落している。剥片３点，砕片１点，石核１点の合計５点（97.1ｇ）で構成され，剥片３点，石核１点が接合する（合計97.0ｇ）。原石は拳よりも一回りほど小振りの楕円形の円礫である。

・C12-⑩：淡黒灰色で粒子が細かく硬質な砂岩である。削器２点（１個体；34.1ｇ）の単独資料である。

・C12-⑪：淡黒灰色で砂岩質のホルンフェルスである。石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片７点，石核２点の合計10点（９個体；66.7ｇ）である。接合資料は，加工痕ある剥片１点と剥片１点によるもの（接合資料Ａ；16.5ｇ），剥片１点と石核２点（１個体）によるもの（接合資料Ｂ；17.3ｇ），剥片２点が接合して１個体となったもの（接合資料Ｃ；24.2ｇ）がある。原石の大きさは，欠落する部分が多いが，拳よりも一回りほど小振りの円礫と想定される。

・C12-⑫：青みがかった灰色で泥岩質のホルンフェルスである。剥片３点（合計23.4ｇ）で構成されるが，このうち２点が接合して中型の剥片１個体（22.4ｇ）となる。

・C12-⑬：明青灰色で節理の多いチャートである。剥片１点（2.9ｇ）の単独資料である。

・C12-⑭：暗青灰色の多いチャートである。剥片１点（2.4ｇ）の単独資料である。

・C12-⑮：淡褐色で硬質緻密な頁岩である。北関東産の可能性がある。削器１点（1.1ｇ）の単独資料である。

・C12-⑯：褐色で硬質緻密な頁岩である。北関東産の可能性がある。剥片１点（2.2ｇ）の単独資料である。

・C12-⑰：淡褐色の地に赤褐色の粘土が付着したように見える硬質緻密な頁岩である。北関東産の可能性がある。槍先形石器１点（3.0ｇ）の単独資料である。

・C12-⑱：節理面は黄褐色，内部は灰緑色の珪質頁岩（あるいは凝灰岩）である。使用痕ある剥片１点（13.6ｇ）の単独資料である。

・C12-⑲：黄色みがかった灰緑色の珪質頁岩（あるいは凝灰岩）である。剥片１点（1.0ｇ）の単独資料である。

・C12-⑳：自然面は橙褐色，内部は黄褐色の地に灰色と紫色の縞が入る嶺岡産珪質頁岩である。石核１点（15.1ｇ）の単独資料である。

・C12-㉑：節理面は橙褐色，内部は暗灰緑色の嶺岡産珪質頁岩である。剥片１点（8.1ｇ）の単独資料である。

・C12-㉒：灰白色の玉髄である。剥片１点（1.2ｇ）の単独資料である。

・C12-㉓：淡黒灰色で粗粒の砂岩である。剥片１点（6.2ｇ）の単独資料である。

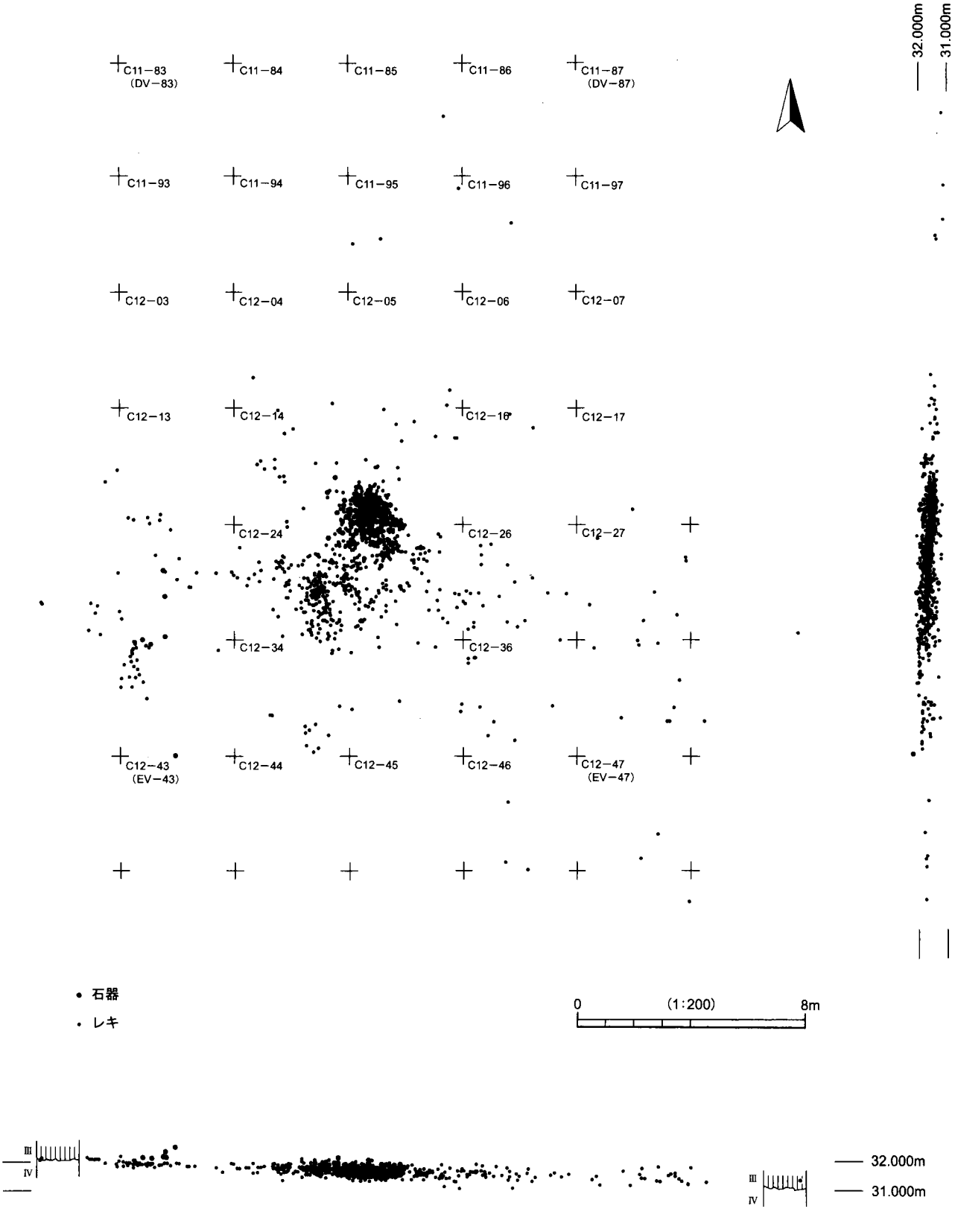
・C12-㉔：黄灰色に風化した泥岩質のホルンフェルスである。剥片１点（10.0ｇ）の単独資料である。

・C12-㉕：被熱により赤化している細粒硬質の砂岩である。敲石１点（71.5ｇ）の単独資料である。

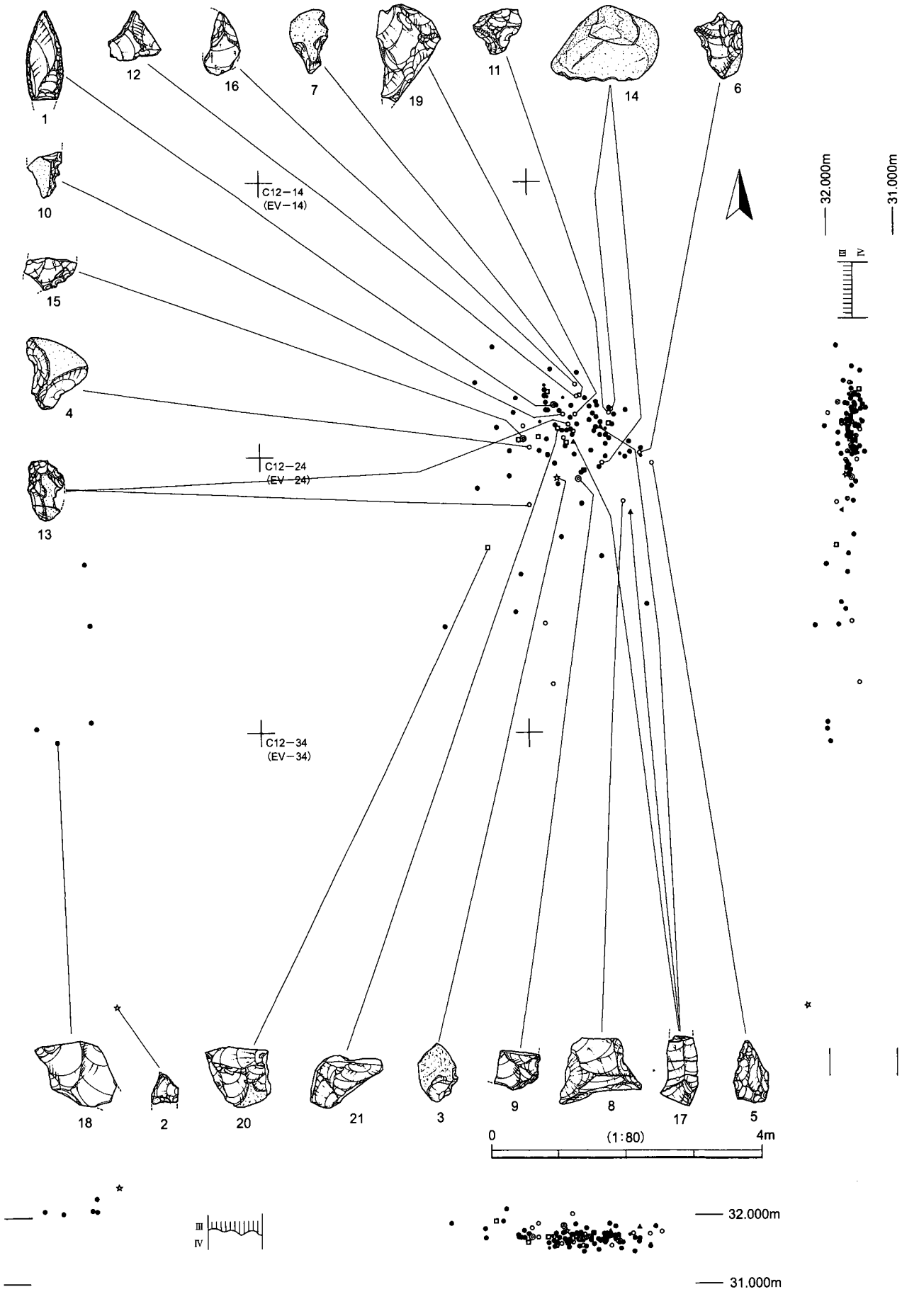
なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石のナイフ形石器１点，加工痕ある剥片２点，使用痕ある剥片２点，剥片10点，砕片３点（合計11.1ｇ），安山岩のナイフ形石器１点，加工痕ある剥片４点，剥片４点，石核１点（合計52.6ｇ），安山岩（トロトロ石）の剥片７点（合計27.5ｇ），頁岩の剥片１点（3.2g），珪質頁岩の剥片２点，砕片１点（合計0.6ｇ），チャートの剥片１点（3.9ｇ），ホルンフェルスの使用痕ある剥片１点，剥片14点（合計36.1ｇ）がある。黒曜石は，先述したとおり信州麦草峠産と栃木県高原山産の両者があると考えられる。前者は４点，後者は10点，小型品のため判定できなかったもの４点である。安山岩は，本地域に一般的な褐色に風化し，小型の円礫を用いたものである。

３）出土遺物（第411・412・414図）

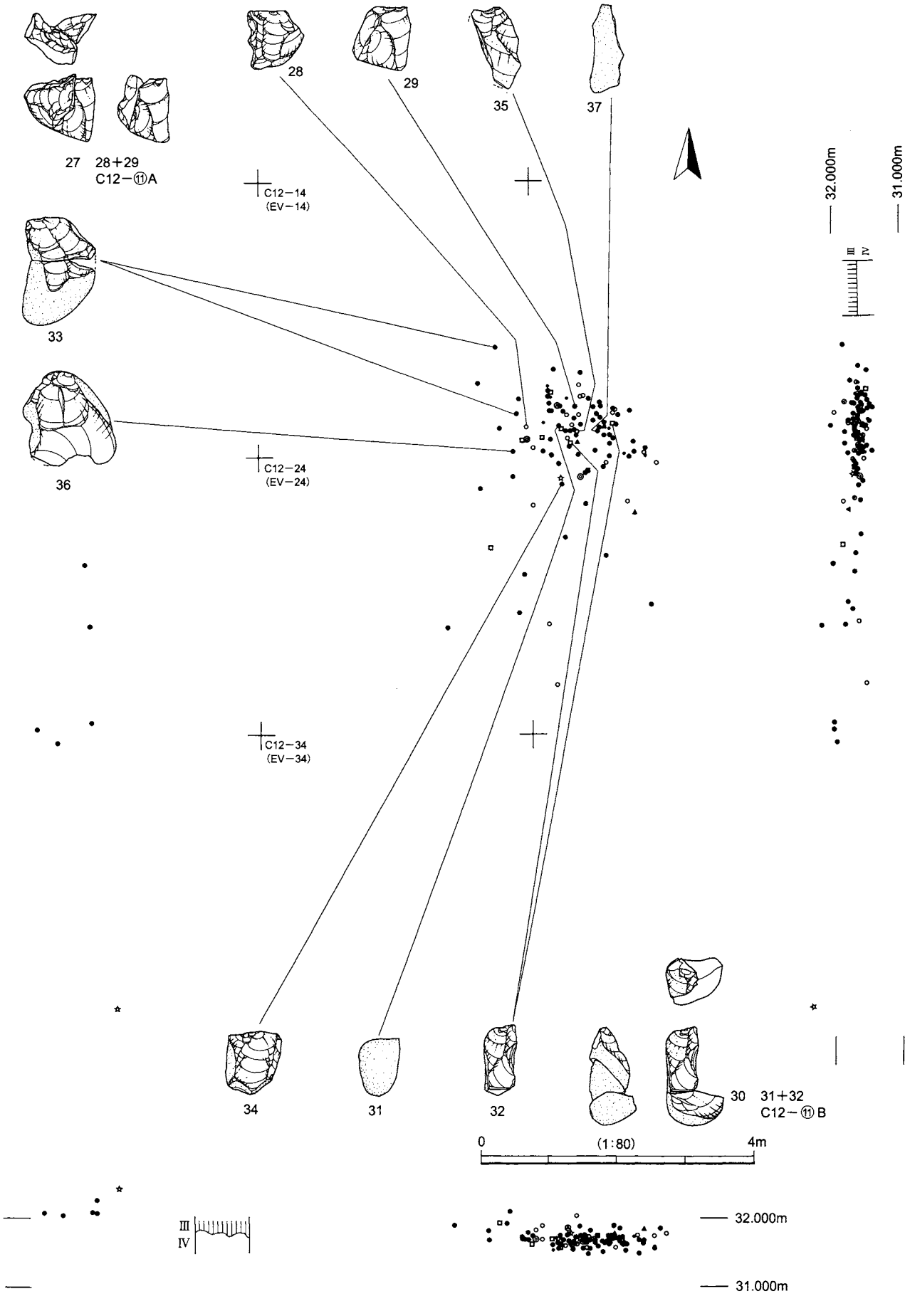
１は，頁岩による槍先形石器である。縦長剥片を素材とし，ナイフ形石器に通有のブランティングによる周辺調整で，細身の木葉形に仕上げている。２は，黒曜石による小型の切出形をしたナイフ形石器であ



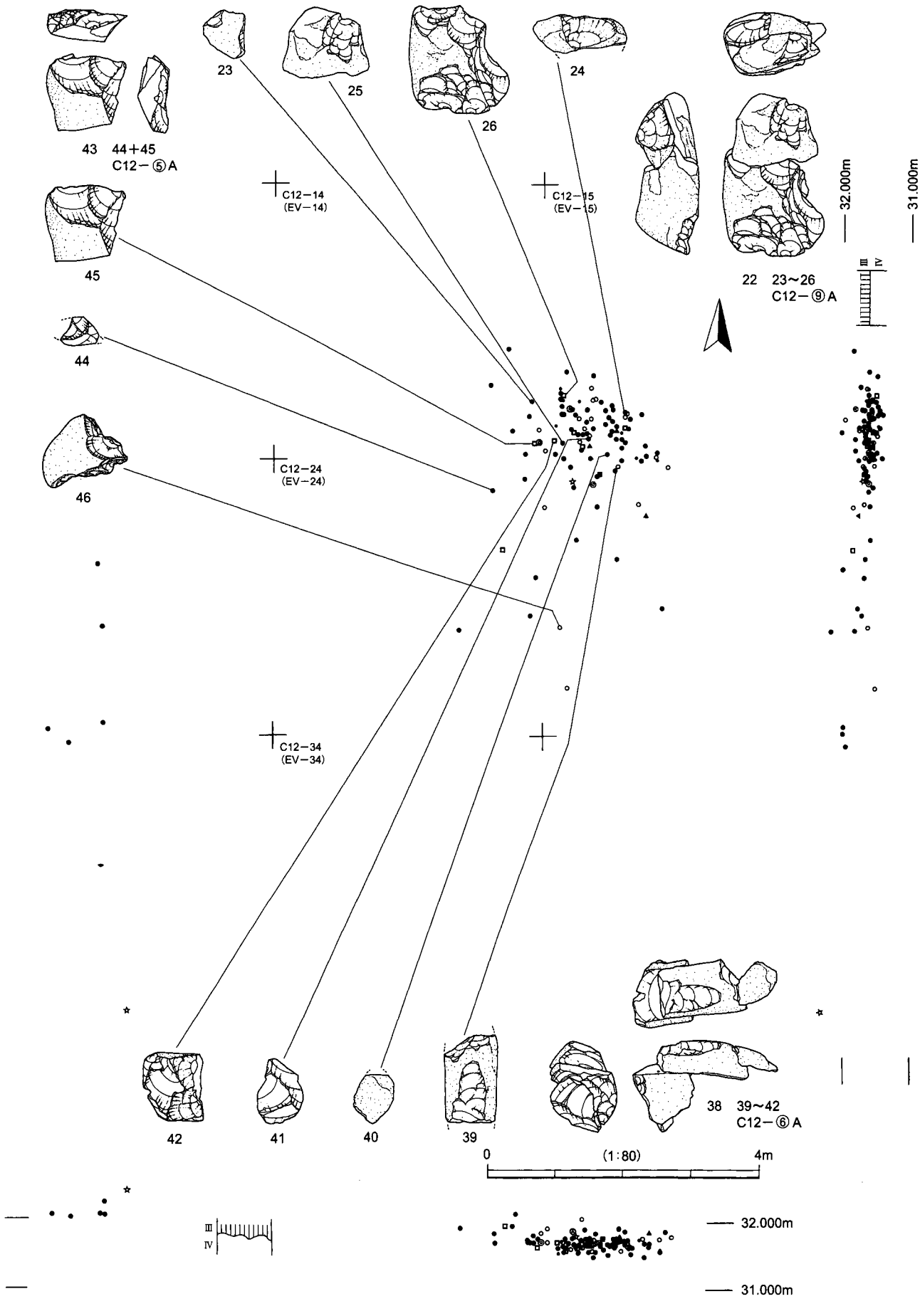
第399図　C12-Bブロック出土遺物分布図（1）　－石器・礫分布図－



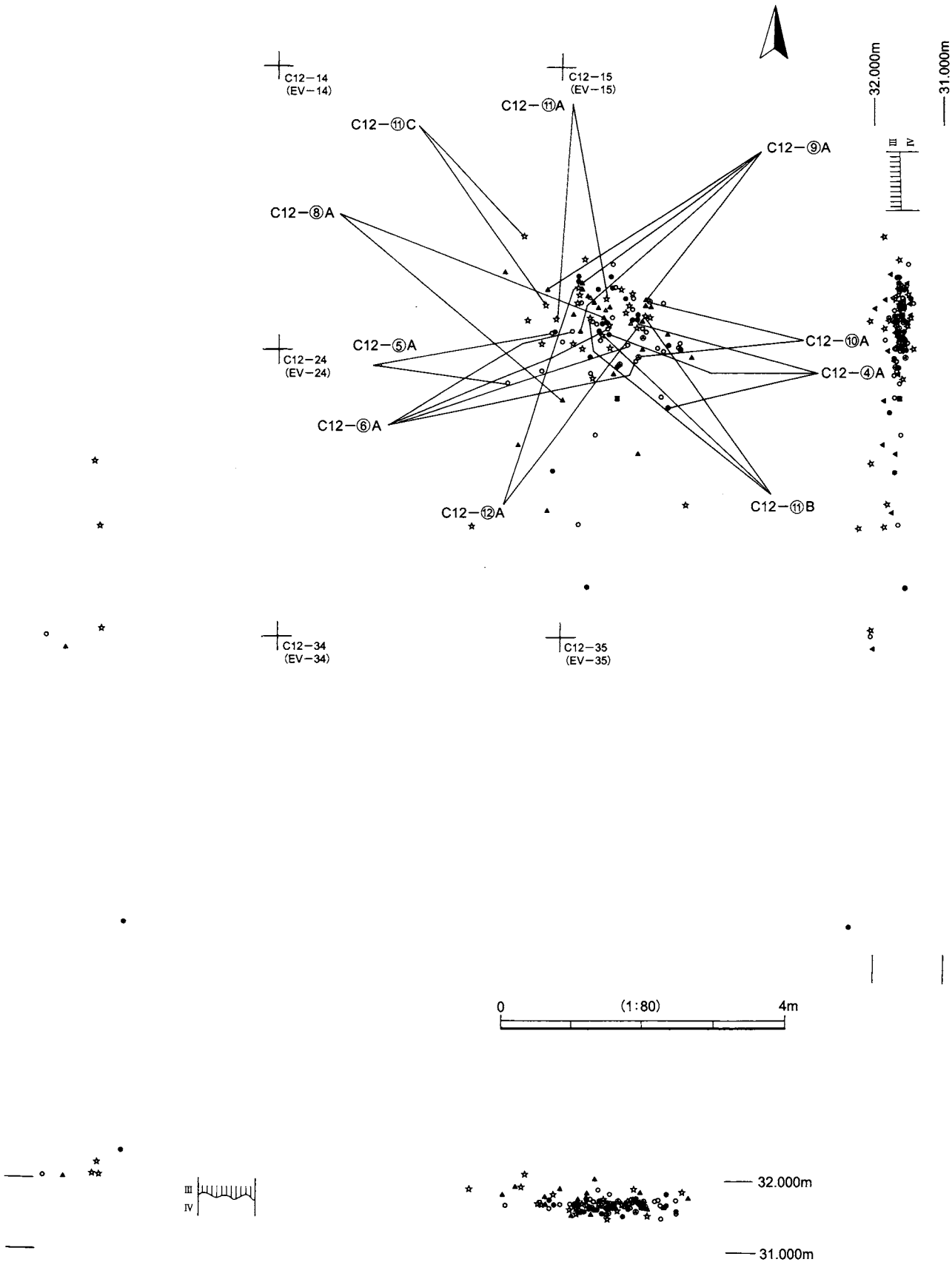
第400図　C12-Bブロック出土遺物分布図（2）　－石器別分布図（1）－



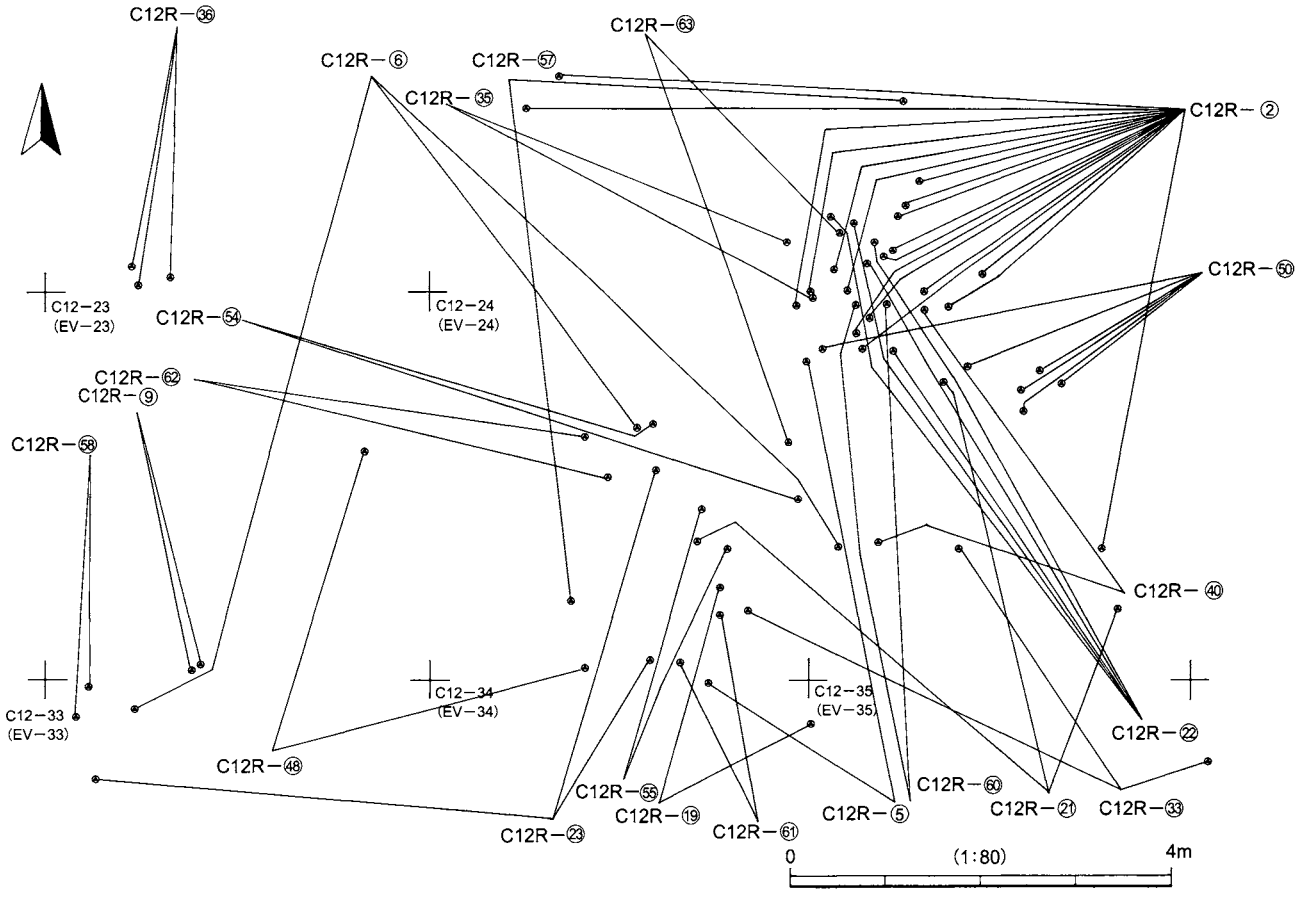
第401図　C12-Bブロック出土遺物分布図（3）　－石器別分布図（2）－



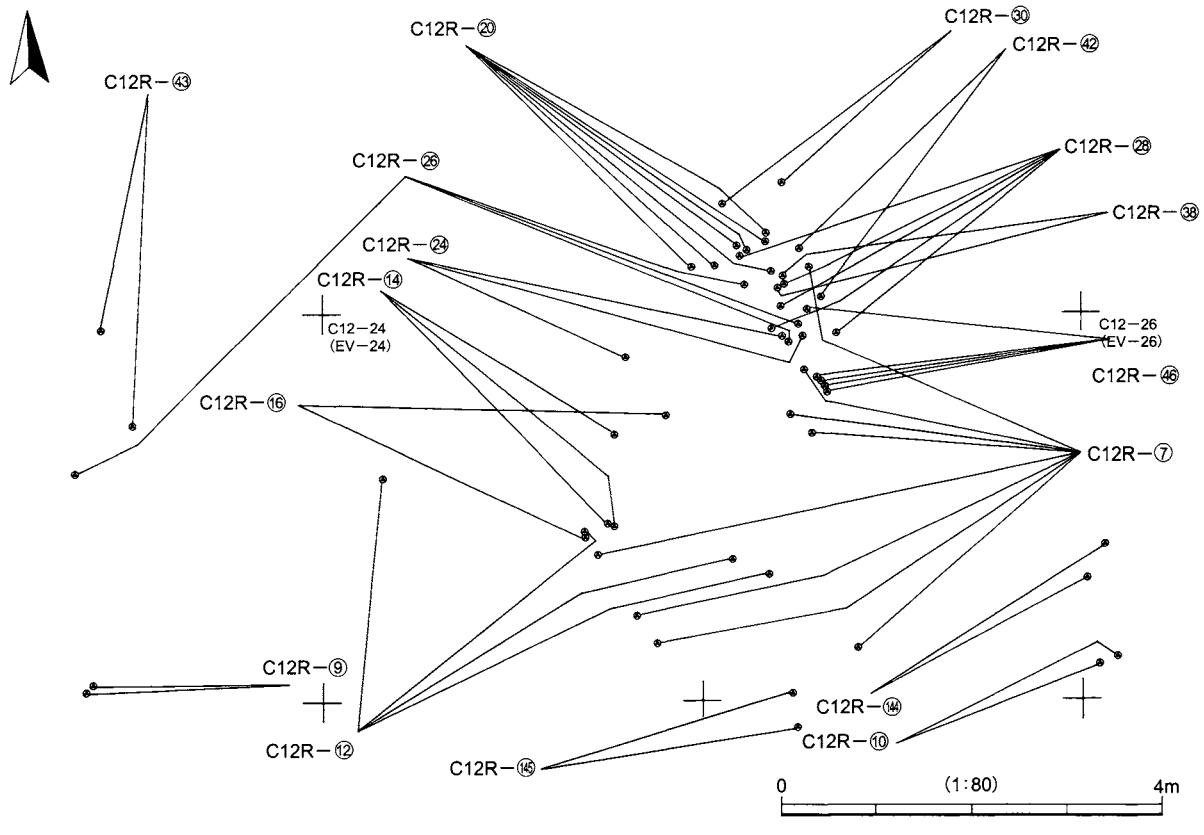
第402図　C12-Bブロック出土遺物分布図（4）　－石器別分布図（3）－



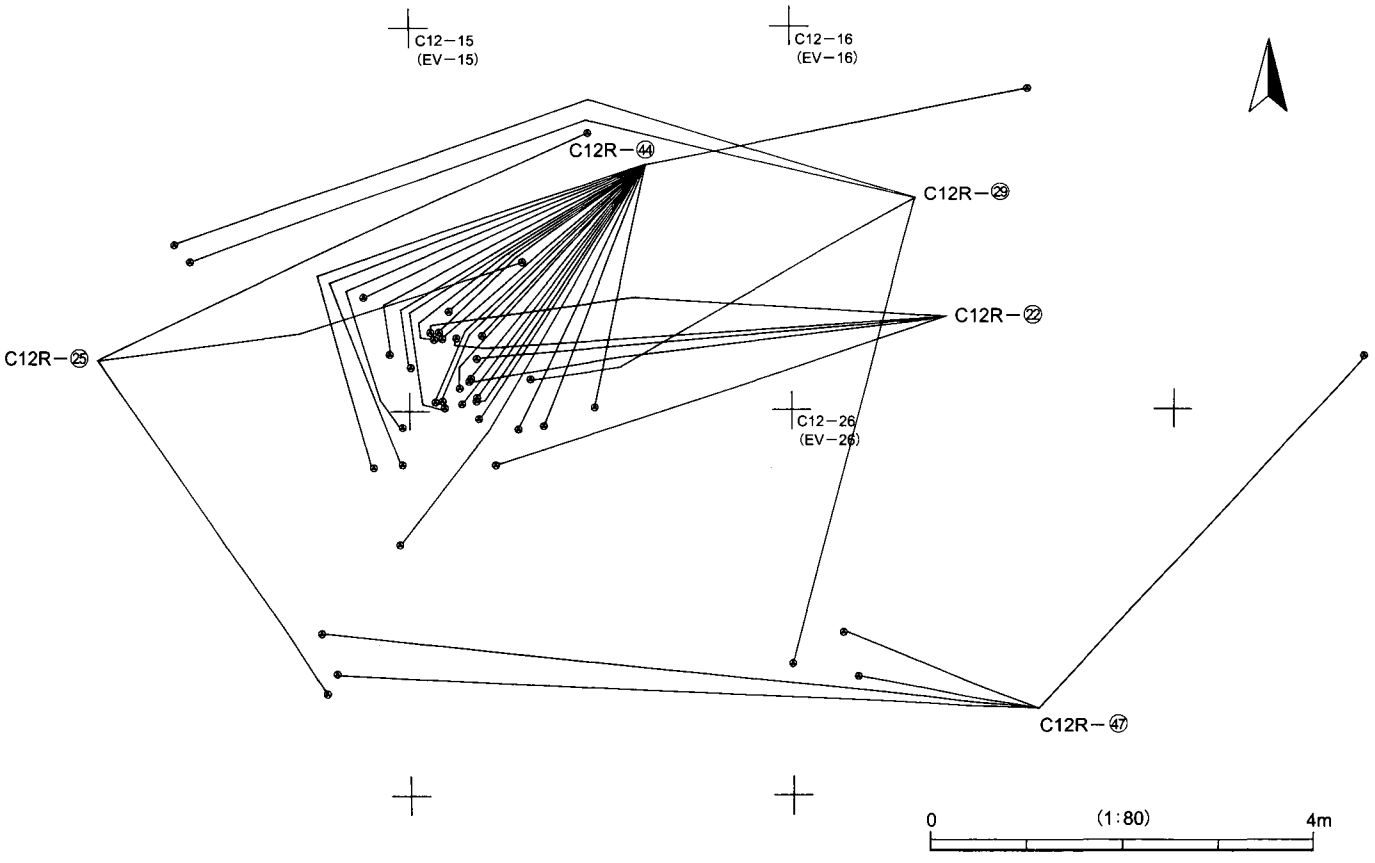
第403図　C12-Bブロック出土遺物分布図（5）　－石器石材別分布図－



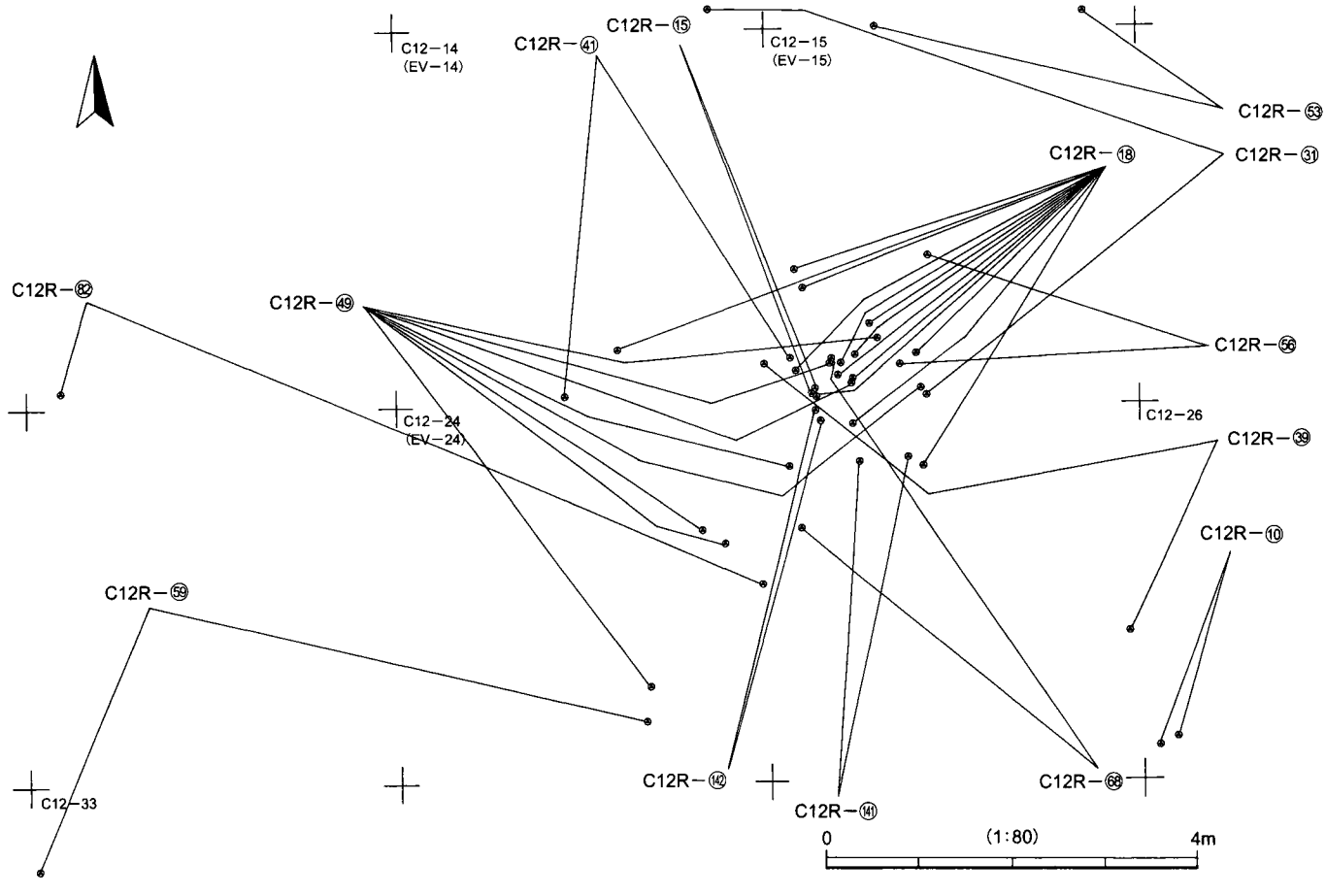
第404図　C12-Bブロック出土遺物分布図（6）　－礫石材別分布図（1）－



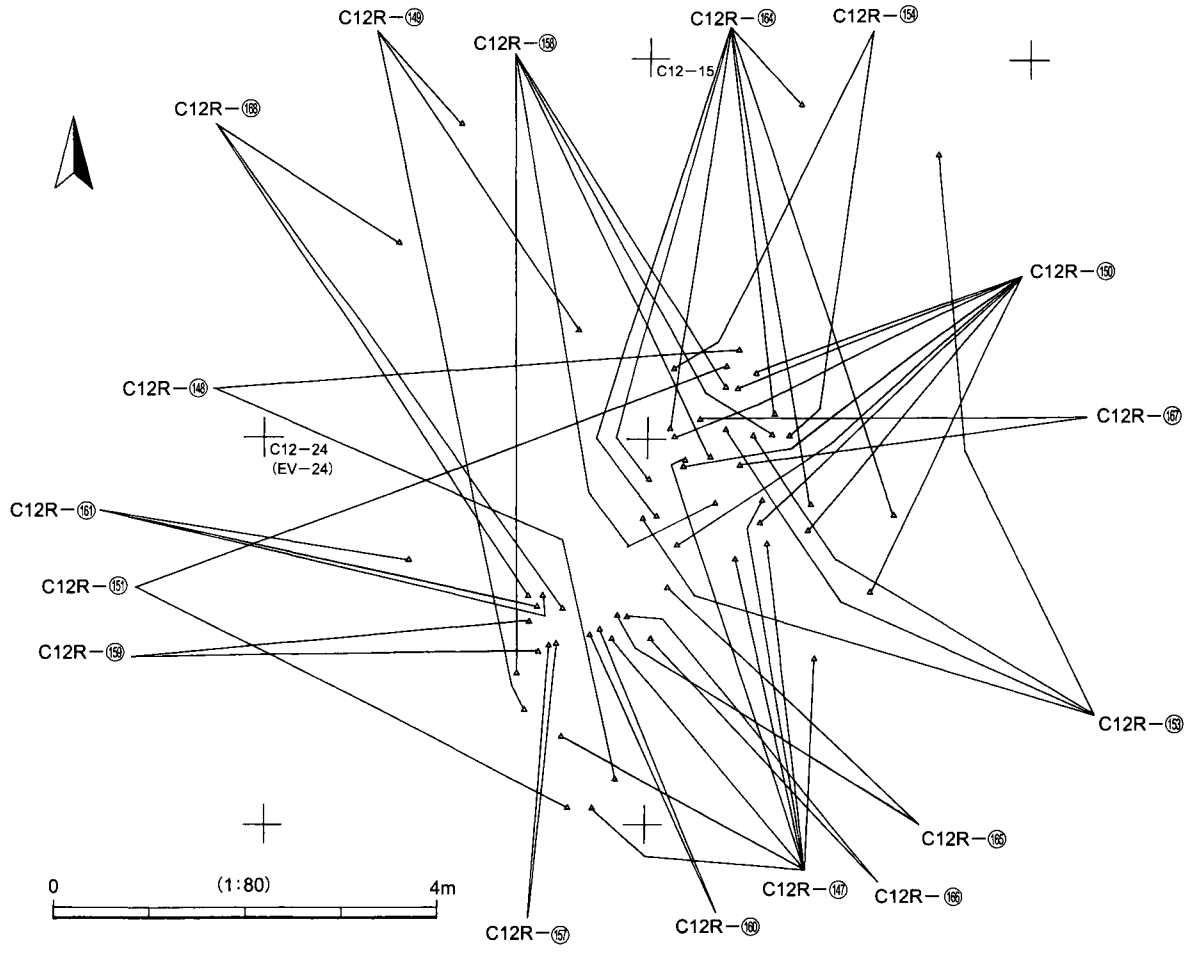
第405図　C12-Bブロック出土遺物分布図（7）　－礫石材別分布図（2）－



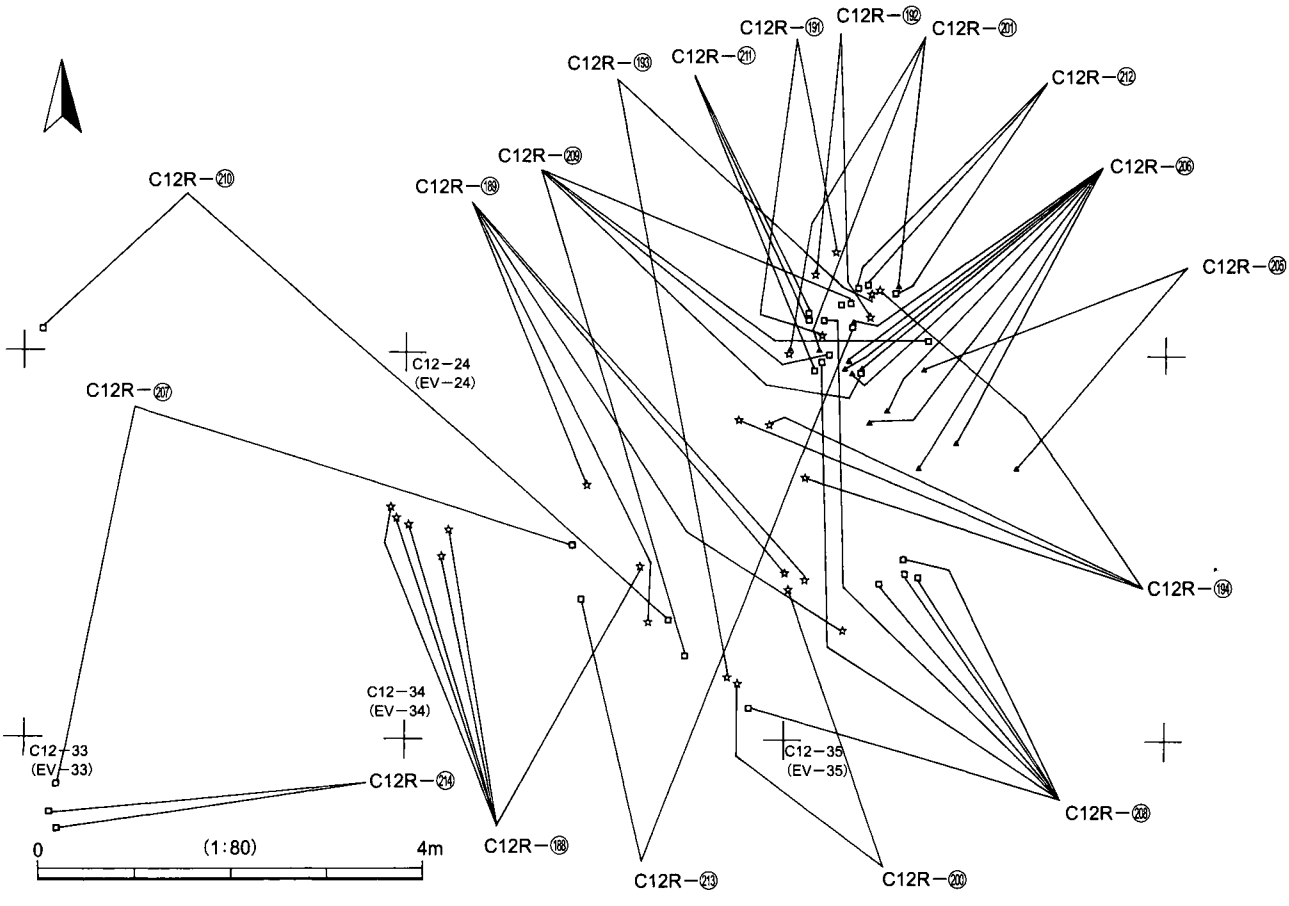
第406図　C12-Bブロック出土遺物分布図（8）　−礫石材別分布図（3）−



第407図　C12-Bブロック出土遺物分布図（9）　−礫石材別分布図（4）−



第408図　C12-Bブロック出土遺物分布図（10）　－礫石材別分布図（5）－



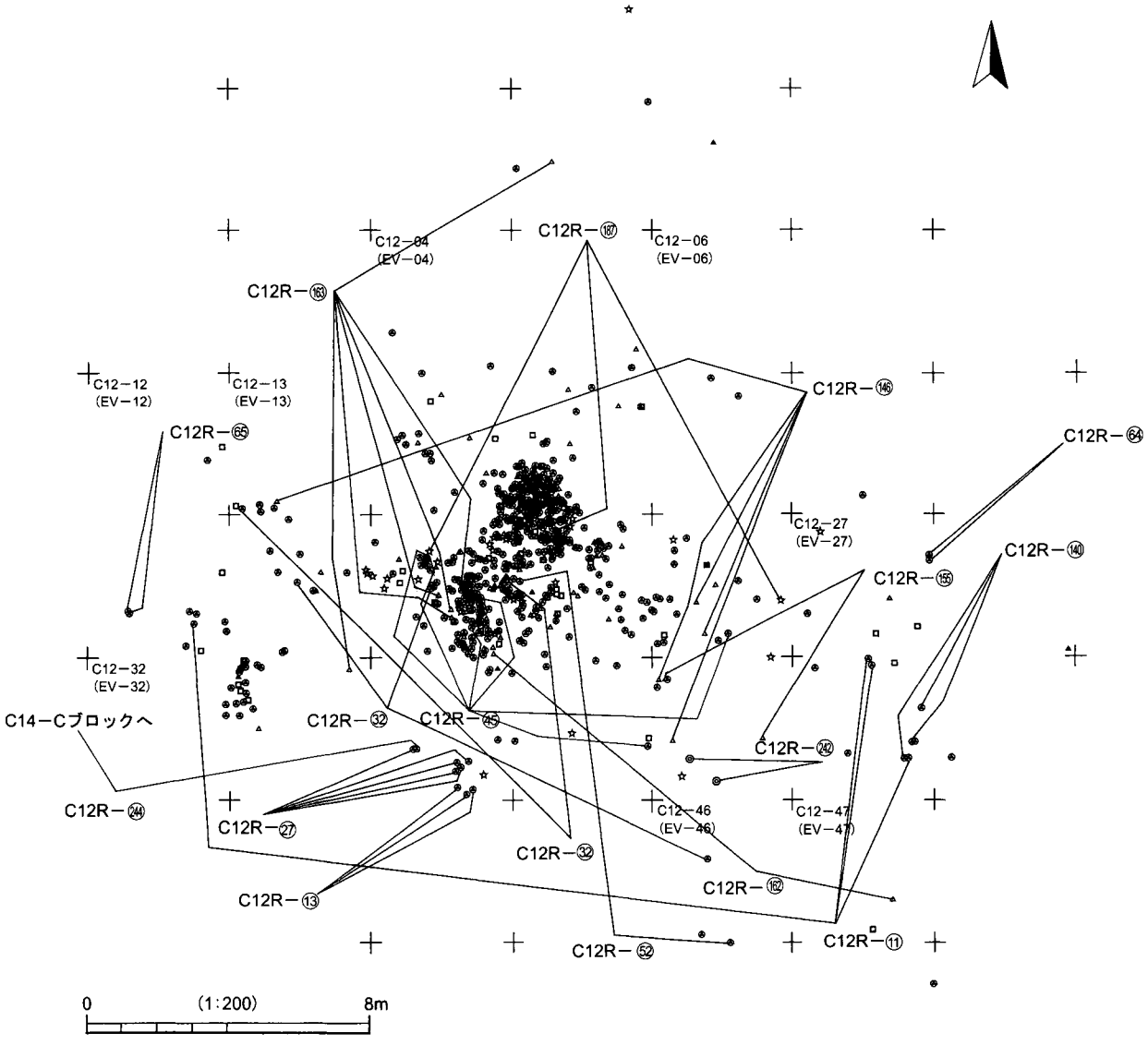
第409図　C12-Bブロック出土遺物分布図（11）　－礫石材別分布図（6）－

る。横長剥片を用い，素材の打面を残して末端に細かな調整加工を行っている。下半部は欠損する。なお，黒曜石は信州麦草峠産と考えられる。３は，安山岩による不定型の剥片を用いたナイフ形石器である。素材剥片の打面と末端の一部に調整加工を行っている。

９は，珪質頁岩による掻器である。素材剥片の末端に，裏面からの急角度の剥離によって刃部を作り出している。上半部及び左半部を欠損する。15は，黒曜石による掻器である。9と同様に欠損しており，刃部の一部が遺存する。黒曜石は信州麦草峠産と考えられる。

10は，頁岩による削器である。縦長剥片の左側縁に粗い鋸歯状の刃部がある。14は，砂岩による不定型の剥片を用いた削器である。下端部に粗い調整加工が見られる。

４～８，11～13は加工痕ある剥片とした資料である。４は，安山岩による不定型の剥片を素材とする。左右両側縁を裏側から粗く調整し，逆三角形状の石器にしている。５は，珪質頁岩による横長剥片を素材とする。素材の打面を残し，末端を裏面から調整している。切出形のナイフ形石器に似た素材の用い方，調整方法ではあるが，刃部に相当する鋭利な縁辺はない。削器の一種であろうか。６は安山岩による不定



第410図　C12-Bブロック出土遺物分布図（12）　－礫石材別分布図（７）－

型の剥片を用いている。素材の打面を下端に残し，左側縁には裏面からの粗い急角度の調整加工がある。右側縁は，表面側からの折り取った面を打面として，平坦な調整加工を行っている。７も安山岩の不定型な剥片を素材とする。素材剥片の末端側全体と打面側の一部に粗い調整加工を行い，逆三角形状の石器にしている。８は，安山岩の不定型な剥片を素材とする。素材の打面を残して，右側縁は表面側に，左側縁は裏面側に調整加工している。末端部は，調整加工との切り合いがないため，欠損なのか折り取ったか不明である。左右両側に端部をもつ錐状石器か，あるいは削器の可能性がある。11は，頁岩による小型不定型の剥片を素材とする。素材の打面を広く残し，左右両側面を粗く調整して，大きさは異なるものの，４・７と類似した石器にしている。12は，黒曜石による不定型の剥片を素材とする。左側縁は裏側から，右側縁と下辺は表面側から調整加工して，三角形の石器にしている。錐状石器の一種であろうか。13は，頁岩による小型の縦長剥片を素材とする。素材の打面を残し，左右両側縁の上半部に裏面から急角度の調整加工を行っている。ナイフ形石器の未製品であろうか。右側縁の中央は欠損している。また，末端部に接合した小片は被熱によって変色している。このほか，後述する第415図46も４・７に似た形状の石器である。

本ブロックから出土した「加工痕ある剥片」は，ナイフ形石器の未製品や削器，錐状石器などの可能性をもつものではあるが，従来の分類に照らした場合，いずれに帰属するものか不明の石器である。４は，左右の剥離面が粗いため，石核の可能性も考慮したが，形態の類似する７・11・46に見られる二次剥離は剥片生産とは考えがたいことから，石器あるいは石器未製品と判断した。

16は，黒曜石による不定型の剥片を利用した使用痕ある剥片である。左右両側縁に刃こぼれが見られ，素材の打面付近は大きく欠損する。栃木県高原山産の黒曜石と考えられる。17は，黒曜石による小型の石刃である。３点が接合しているが，打面付近は見当たらず，完形にはなっていない。右側縁に刃こぼれがある。信州麦草峠産の黒曜石と考えられる。18は，珪質頁岩の剥片を利用した使用痕ある剥片である。

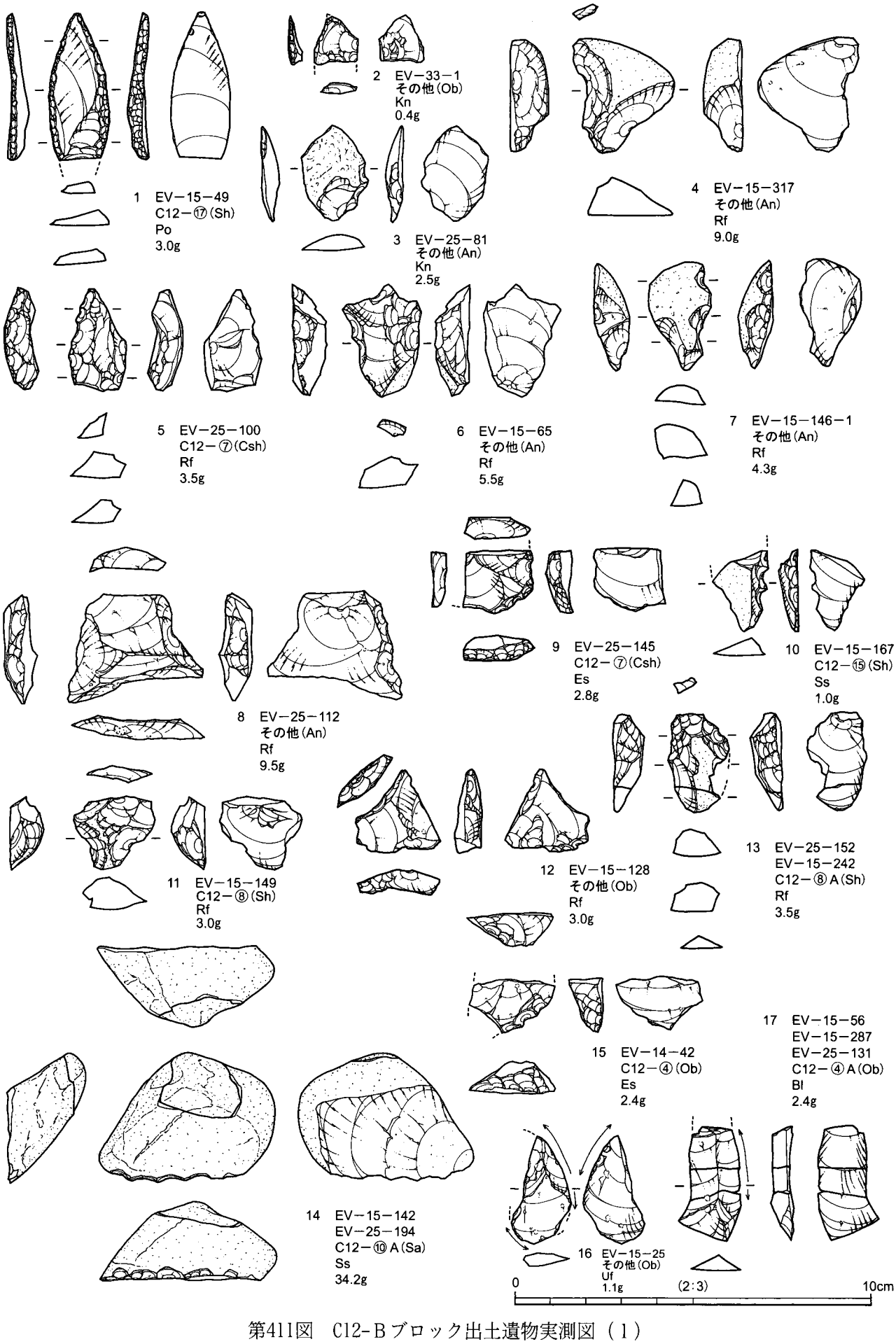
18は，嶺岡産珪質頁岩による不定型の剥片である。平坦な節理面を打面とし，表面は裏面と同一方向の剥離面で構成される。20は，嶺岡産珪質頁岩の石核である。平坦な打面（上面）から寸詰まりで小型の縦長剥片を剥離している。なお，節理面（裏面）で大きく割れている。21は，安山岩による石核である。打面と作業面を固定せず，各所から小型不定型の剥片を生産している。厚手の剥片ないしは分割礫を石核の素材としていると考えられるが，素材時の剥離面（ポジティブな剥離面）は残されていない。

35はホルンフェルスによる使用痕ある剥片である。不定型の剥片を利用しており，右側縁に刃こぼれがある。左側は欠損する。36はホルンフェルスによる不定型の剥片である。37は，チャートによる剥片である。表面は滑らかな自然面に覆われ，右側面にはこの自然面を打面として裏面と直交する方向の剥離面がある。.

４）接合資料とその関連資料（第413～415図）

・C12-⑨（第413図22～26）　黄灰色に風化した軟質の頁岩で，剥片３点，砕片１点，石核１点で構成される。

22は，剥片３点（23～25），石核１点（26）の接合資料である。楕円形の円礫を用い，はじめに22の上端で交互剥離を行い，24・25を含む不定型の剥片数枚を剥離する。次に右側面で交互剥離を行い，23をはじめとする剥片数枚を剥離する。最後に下端部を加撃して剥片剥離を行い，作業を終了している。残された石核は，表裏両面を作業面として，交互剥離によって不定型の剥片を剥離しており，チョッピングトゥール状を呈する。



第411図　C12-Bブロック出土遺物実測図（1）

・C12-⑪（第414図27～34）　淡黒灰色で砂岩質のホルンフェルスで，加工痕ある剥片１点，剥片７点，石核２点（１個体）で構成される。

27は，加工痕ある剥片１点（28），剥片１点（29）の接合資料である。27では，①：右側面を打面として剥片数枚を剥離した後，28を剥離する。次に，②：28の剥離面を打面として剥片を剥離する。③：打面を上位に変えて，29を剥離する。28は29の側面に接合している状態で，打面と作業面を頻繁に変えながら小型不定型の剥片や寸詰まりの縦長剥片を剥離している。なお，28は左側縁に粗い調整加工を行っている。

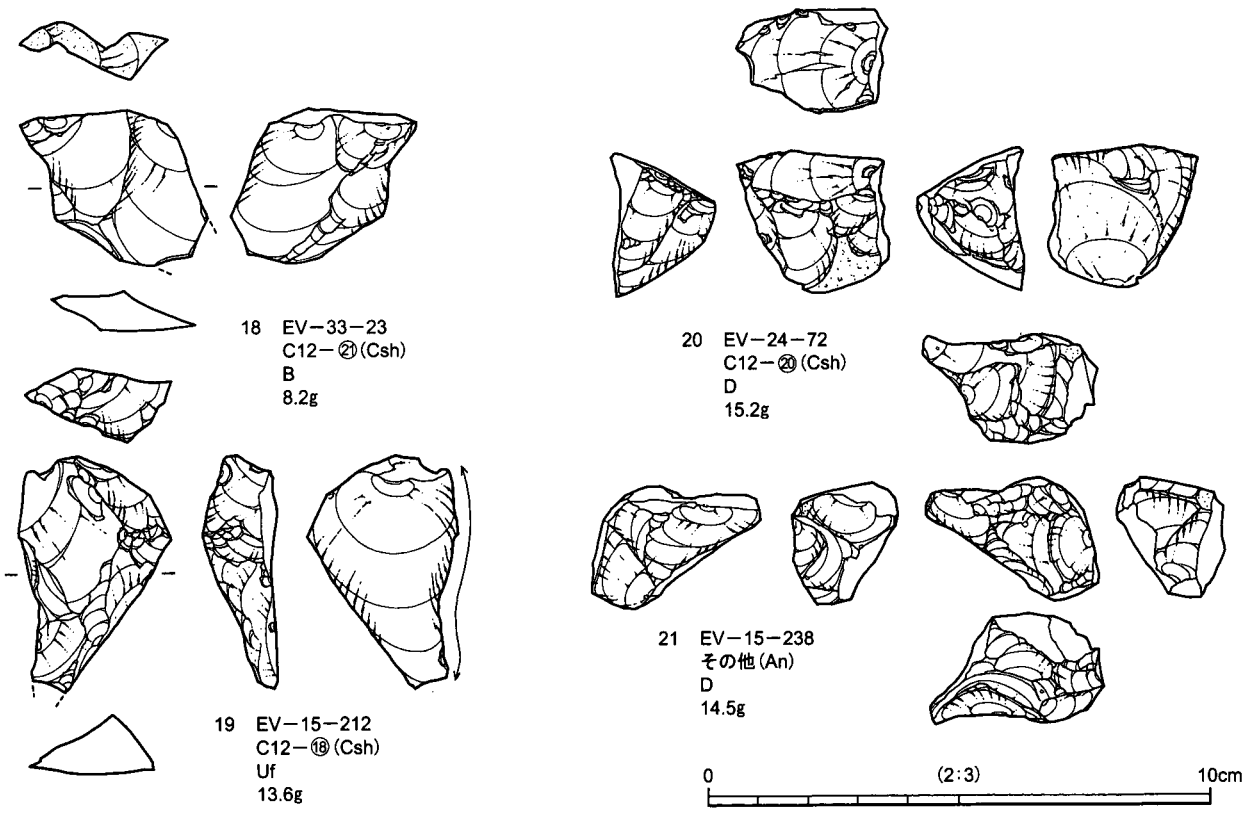
30は，剥片１点（31）と石核２点（接合して１個体；32）の接合資料である。円礫の一端（左側面）を加撃して，31を剥離する。その後，上端からの剥離を中心に小型不定型の剥片を生産し，石核は小型になっている。なお，32は31に比べて変色（赤化）しており，被熱したと考えられる。

33，34は，同一母岩による不定型な剥片である。

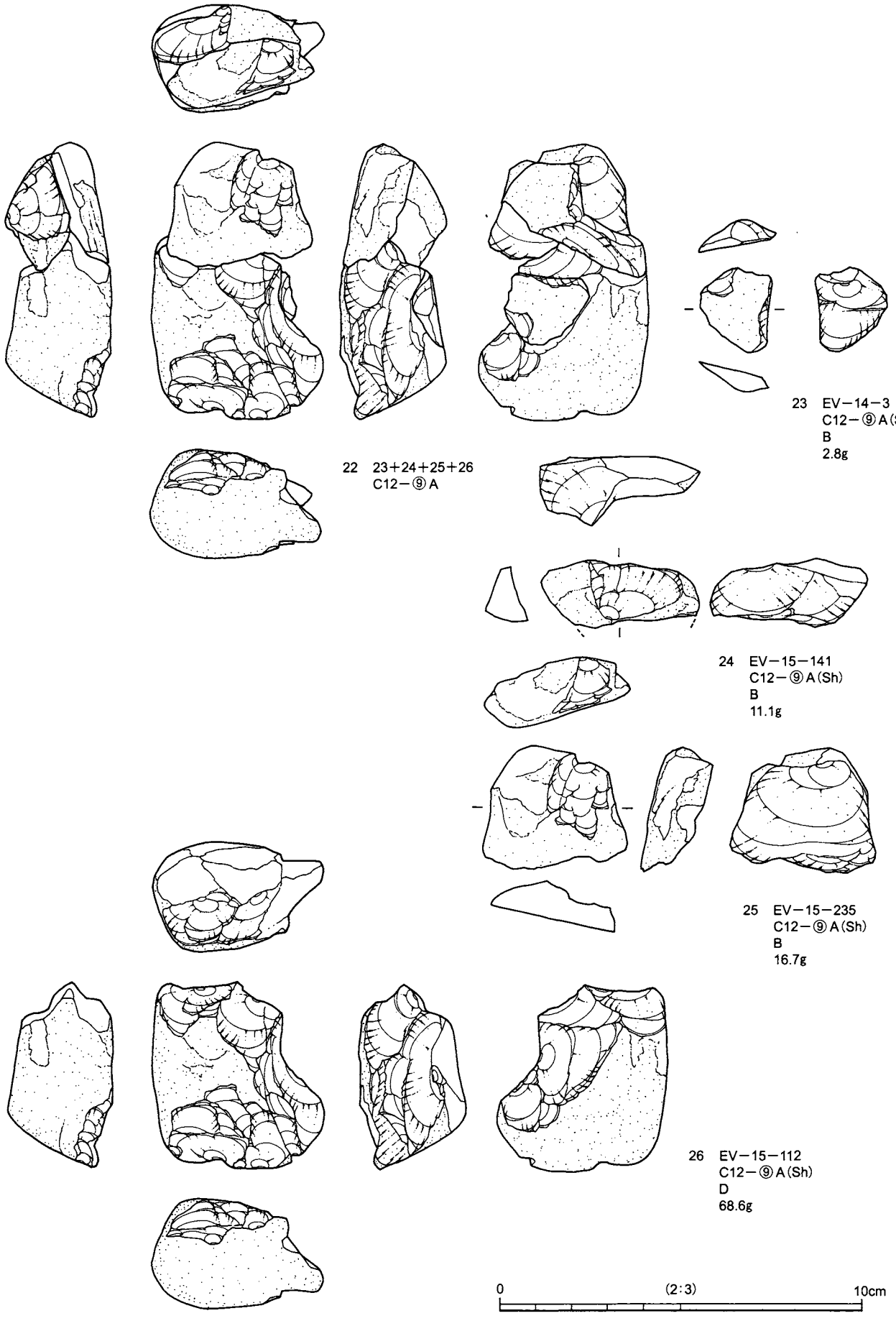
本母岩の原石は，おそらく拳よりも小振りの円礫と考えられる。資料数も決して少なくはないものの，まとまった接合はしなかった。

・C12-⑥（第415図38～42）　灰白色に風化した軟質の安山岩で，剥片４点，石核１点で構成される。

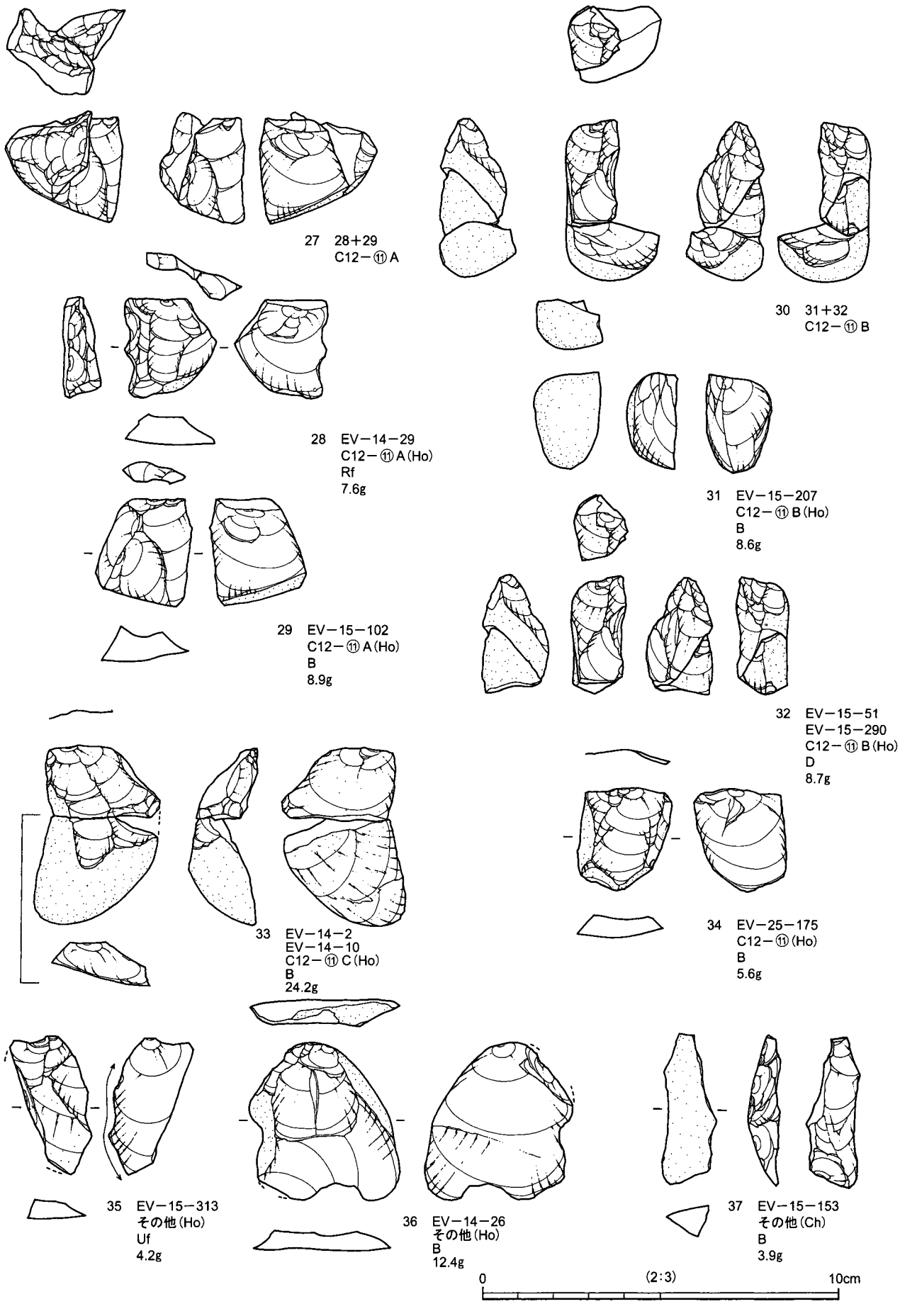
38は，剥片３点（39～41）と石核１点（42）の接合資料である。拳よりも一回りほど小振りで，扁平な円礫を石核の素材とする。はじめに，上面を作業面として40→39の順で，右方向から不定型の剥片を剥離する。その後，打面と作業面を頻繁に入れ替えながら，小型不定型の剥片を剥離しており，その過程で41を剥離している。



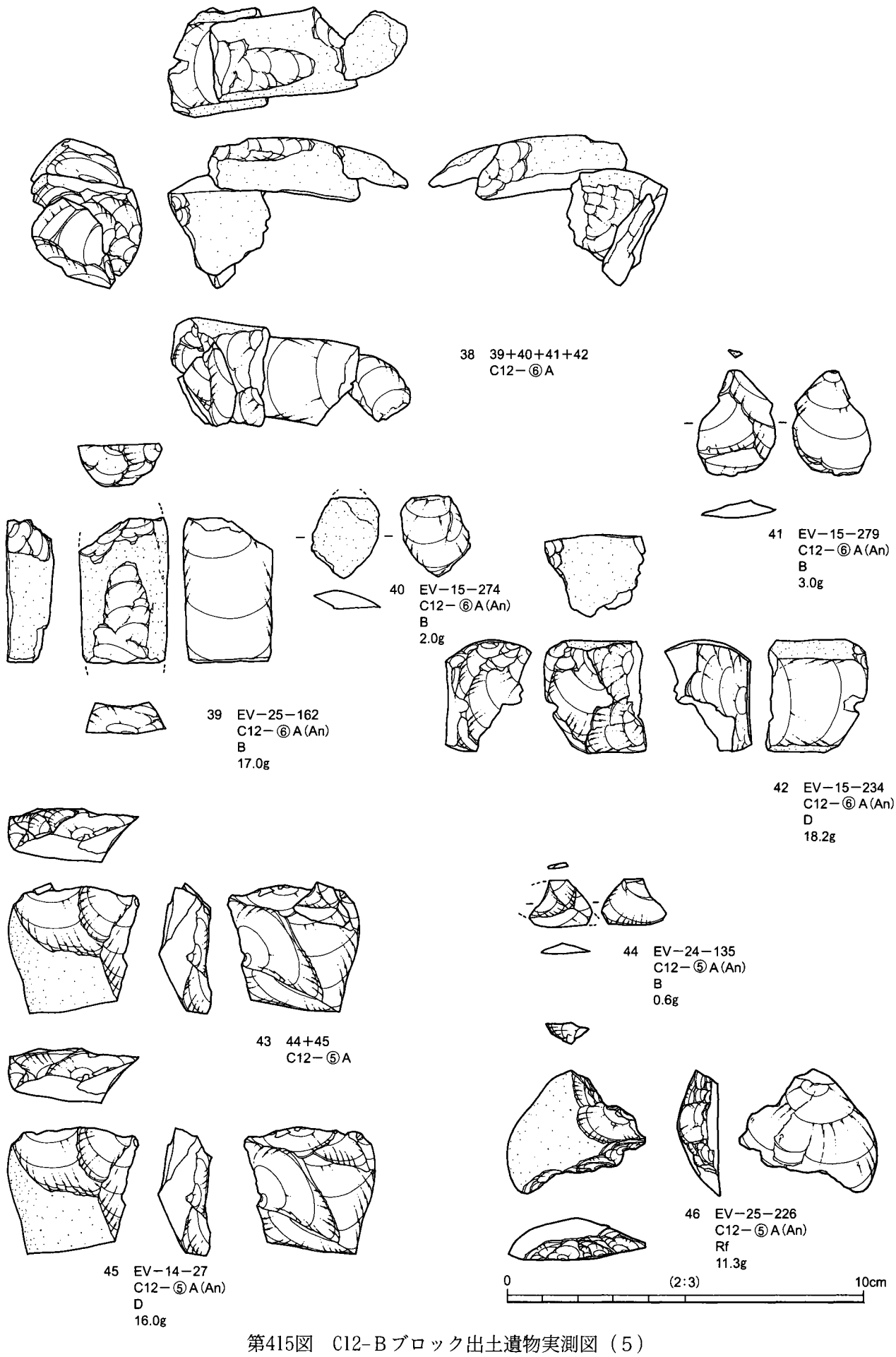
第412図　C12-Bブロック出土遺物実測図（２）



第413図　C12-Bブロック出土遺物実測図（3）



第414図　C12-Bブロック出土遺物実測図（4）



第415図　C12-Bブロック出土遺物実測図（5）

・C12-⑤（第415図43～46）　灰白色に風化した安山岩で，加工痕ある剥片１点，剥片４点，砕片１点，石核１点で構成される。

43は，剥片１点（44）と石核１点（45）の接合資料である。中型の不定型な剥片を石核素材とし，交互剥離によって表裏両面から横長，あるいは不定型の剥片を剥離している。45の裏面右端には，素材時の主要剥離面が残っている。

46は，接合はしないが同一母岩による加工痕ある剥片である。不定型の剥片を素材として，右側縁に裏

第155表　C12-Bブロック母岩別礫一覧表

母　岩	点数	重量	母岩	点数	重量	母岩	点数	重量	母岩	点数	重量	母岩	点数	重量
C12R-②(Sa)	18	334.0	C12R-㊷(Sa)	2	248.0	C12R-㊿(Sa)	1	52.0	C12R-(51)(Ch)	1	202.4	C12R-(99)(Sh)	1	23.2
C12R-③(Sa)	6	158.6	C12R-㊸(Sa)	2	116.2	C12R-(51)(Sa)	1	28.8	C12R-(52)(Ch)	4	79.8	C12R-(100)(Sh)	1	41.7
C12R-④(Sa)	15	225.0	C12R-㊹(Sa)	2	12.8	C12R-(52)(Sa)	1	51.1	C12R-(53)(Ch)	2	28.4	C12R-(101)(Sh)	1	40.1
C12R-⑤(Sa)	3	149.9	C12R-㊺(Sa)	2	48.1	C12R-(53)(Sa)	1	71.9	C12R-(54)(Ch)	2	54.3	C12R-(102)(Sh)	2	8.5
C12R-⑥(Sa)	3	50.7	C12R-㊻(Sa)	2	86.6	C12R-(54)(Sa)	1	102.2	C12R-(55)(Ch)	1	59.4	C12R-(103)(Sh)	9	117.6
C12R-⑦(Sa)	8	124.2	C12R-㊼(Sa)	3	43.5	C12R-(55)(Sa)	1	94.7	C12R-(56)(Ch)	2	33.5	C12R-(104)(Rh)	2	165.1
C12R-⑧(Sa)	1	74.3	C12R-㊽(Sa)	2	87.2	C12R-(56)(Sa)	1	19.7	C12R-(57)(Ch)	5	45.7	C12R-(105)(Rh)	7	54.0
C12R-⑨(Sa)	2	155.8	C12R-㊾(Sa)	2	54.2	C12R-(57)(Sa)	1	33.8	C12R-(58)(Ch)	2	30.4	C12R-(106)(Rh)	6	54.9
C12R-⑩(Sa)	2	40.4	C12R-㊿(Sa)	2	43.5	C12R-(58)(Sa)	1	69.1	C12R-(59)(Ch)	2	66.6	C12R-(107)(Rh)	2	62.1
C12R-⑪(Sa)	4	100.0	C12R-(51)(Sa)	2	56.5	C12R-(59)(Sa)	1	51.5	C12R-(60)(Ch)	3	88.0	C12R-(108)(Rh)	3	18.1
C12R-⑫(Sa)	4	88.8	C12R-(52)(Sa)	2	62.2	C12R-(60)(Sa)	1	91.3	C12R-(61)(Ch)	2	53.9	C12R-(109)(Rh)	3	49.9
C12R-⑬(Sa)	3	116.3	C12R-(53)(Sa)	2	39.6	C12R-(61)(Sa)	1	48.5	C12R-(62)(Ch)	7	156.6	C12R-(110)(Rh)	2	82.7
C12R-⑭(Sa)	3	51.1	C12R-(54)(Sa)	2	50.1	C12R-(62)(Sa)	1	42.2	C12R-(63)(Ch)	7	58.8	C12R-(111)(Rh)	2	28.7
C12R-⑮(Sa)	2	49.2	C12R-(55)(Sa)	2	42.1	C12R-(63)(Sa)	1	11.6	C12R-(64)(Ch)	2	51.6	C12R-(112)(Rh)	1	99.2
C12R-⑯(Sa)	2	31.5	C12R-(56)(Sa)	1	34.3	C12R-(64)(Sa)	1	48.2	C12R-(65)(Ch)	2	21.8	C12R-(113)(Rh)	1	100.2
C12R-⑰(Sa)	2	76.8	C12R-(57)(Sa)	1	17.9	C12R-(65)(Sa)	1	69.2	C12R-(66)(Ch)	2	12.2	C12R-(114)(Rh)	1	259.0
C12R-⑱(Sa)	13	74.2	C12R-(58)(Sa)	2	53.7	C12R-(66)(Sa)	1	22.5	C12R-(67)(Ch)	3	53.2	C12R-(115)(Rh)	1	107.8
C12R-⑲(Sa)	2	51.6	C12R-(59)(Sa)	1	275.0	C12R-(67)(Sa)	1	71.1	C12R-(68)(Ch)	1	13.6	C12R-(116)(Rh)	1	162.8
C12R-⑳(Sa)	7	52.7	C12R-(60)(Sa)	1	146.1	C12R-(68)(Sa)	1	23.9	C12R-(69)(Ch)	1	31.9	C12R-(117)(Rh)	1	113.8
C12R-㉑(Sa)	3	107.8	C12R-(61)(Sa)	1	148.7	C12R-(69)(Sa)	1	30.2	C12R-(70)(Ch)	1	22.1	C12R-(118)(Rh)	1	83.5
C12R-㉒(Sa)	5	48.2	C12R-(62)(Sa)	1	219.6	C12R-(70)(Sa)	1	63.3	C12R-(71)(Ch)	1	15.6	C12R-(119)(Rh)	1	92.9
C12R-㉓(Sa)	3	61.9	C12R-(63)(Sa)	1	149.4	C12R-(71)(Sa)	1	36.2	C12R-(72)(Ch)	1	56.1	C12R-(120)(Rh)	1	139.8
C12R-㉔(Sa)	3	30.8	C12R-(64)(Sa)	1	107.9	C12R-(72)(Sa)	2	20.9	C12R-(73)(Ch)	1	37.9	C12R-(121)(Rh)	1	48.5
C12R-㉕(Sa)	3	83.5	C12R-(65)(Sa)	1	132.2	C12R-(73)(Sa)	1	61.0	C12R-(74)(Ch)	1	43.0	C12R-(122)(Rh)	1	47.8
C12R-㉖(Sa)	4	81.3	C12R-(66)(Sa)	1	53.8	C12R-(74)(Sa)	1	56.4	C12R-(75)(Ch)	1	55.5	C12R-(123)(Rh)	1	52.9
C12R-㉗(Sa)	5	206.2	C12R-(67)(Sa)	1	45.2	C12R-(75)(Sa)	1	66.7	C12R-(76)(Ch)	1	33.3	C12R-(124)(Rh)	1	54.8
C12R-㉘(Sa)	5	73.6	C12R-(68)(Sa)	1	39.2	C12R-(76)(Sa)	1	36.7	C12R-(77)(Ch)	1	21.0	C12R-(125)(Rh)	1	62.4
C12R-㉙(Sa)	4	91.9	C12R-(69)(Sa)	1	99.5	C12R-(77)(Sa)	1	43.0	C12R-(78)(Ch)	1	44.1	C12R-(126)(Rh)	1	55.9
C12R-㉚(Sa)	2	33.8	C12R-(70)Sa)	1	93.6	C12R-(78)(Sa)	1	156.6	C12R-(79)(Ch)	1	45.5	C12R-(127)(Rh)	1	41.6
C12R-㉛(Sa)	2	79.0	C12R-(71)(Sa)	1	94.6	C12R-(79)(Sa)	1	72.7	C12R-(80)(Ch)	1	65.0	C12R-(128)(Rh)	1	31.2
C12R-㉜(Sa)	3	75.2	C12R-(72)(Sa)	2	66.6	C12R-(80)(Sa)	1	56.6	C12R-(81)(Ch)	1	65.5	C12R-(129)(Rh)	1	74.8
C12R-㉝(Sa)	3	43.6	C12R-(73)(Sa)	1	114.8	C12R-(81)(Sa)	1	45.0	C12R-(82)(Ch)	1	55.0	C12R-(130)(Rh)	1	41.8
C12R-㉞(Sa)	4	53.7	C12R-(74)(Sa)	1	108.6	C12R-(82)(Sa)	1	30.9	C12R-(83)(Ch)	1	46.9	C12R-(131)(Rh)	1	43.9
C12R-㉟(Sa)	2	44.1	C12R-(75)(Sa)	1	104.4	C12R-(83)(Sa)	1	65.8	C12R-(84)(Ch)	1	60.4	C12R-(132)(Rh)	1	13.1
C12R-㊱(Sa)	3	37.1	C12R-(76)(Sa)	1	42.8	C12R-(84)(Sa)	1	55.1	C12R-(85)(Ch)	1	90.8	C12R-(133)(Rh)	1	38.1
C12R-㊲(Sa)	3	42.8	C12R-(77)(Sa)	1	93.6	C12R-(85)(Sa)	1	55.5	C12R-(86)(Ho)	3	212.8	C12R-(134)(Rh)	1	28.5
C12R-㊳(Sa)	2	32.2	C12R-(78)(Sa)	1	38.3	C12R-(86)(Sa)	2	21.3	C12R-(87)(Ho)	6	88.5	C12R-(135)(Rh)	1	54.9
C12R-㊴(Sa)	2	41.6	C12R-(79)(Sa)	1	41.2	C12R-(87)(Sa)	2	11.5	C12R-(88)(Ho)	5	120.7	C12R-(136)(Rh)	1	38.4
C12R-㊵(Sa)	2	31.7	C12R-(80)(Sa)	1	62.3	C12R-(88)(Sa)	3	34.6	C12R-(89)(Ho)	1	236.0	C12R-(137)(Rh)	1	40.8
C12R-㊶(Sa)	2	9.1	C12R-(81)(Sa)	1	52.4	C12R-(89)(Sa)	2	13.4	C12R-(90)(Ho)	2	41.5	C12R-(138)(Qu)	1	49.5
C12R-㊷(Sa)	2	46.8	C12R-(82)(Sa)	1	52.0	C12R-(90)(Sa)	2	44.2	C12R-(91)(Ho)	2	74.1	C12R-(139)(Sl)	2	20.0
C12R-㊸(Sa)	2	26.8	C12R-(83)(Sa)	1	39.3	C12R-(91)(Sa)	2	22.4	C12R-(92)(Ho)	2	42.5	C12R-(140)(Se)	1	50.0
C12R-㊹(Sa)	29	398.8	C12R-(84)(Sa)	1	70.6	C12R-(92)(Sa)	2	16.1	C12R-(93)(Ho)	4	26.3	C12R-(141)(Sa)	1	6.9
C12R-㊺(Sa)	6	161.6	C12R-(85)(Sa)	1	31.5	C12R-(93)(Sa)	2	7.1	C12R-(94)(Ho)	1	53.3	その他(Rh)	29	125.3
C12R-㊻(Sa)	5	212.6	C12R-(86)(Sa)	1	26.0	C12R-(94)(Ch)	5	56.5	C12R-(95)(Ho)	1	50.3	その他(Sl)	3	9.7
C12R-㊼(Sa)	6	108.9	C12R-(87)(Sa)	1	50.5	C12R-(95)(Ch)	8	59.6	C12R-(96)(Ho)	1	48.6	その他(Sh)	16	100.6
C12R-㊽(Sa)	2	181.5	C12R-(88)(Sa)	1	28.9	C12R-(96)(Ch)	2	33.3	C12R-(97)(Ho)	1	36.9	その他(Ch)	62	202.0
C12R-㊾(Sa)	8	80.0	C12R-(89)(Sa)	1	65.8	C12R-(97)(Ch)	3	6.5	C12R-(98)(Ho)	1	50.0	その他(Sa)	235	1499.3
C12R-㊿(Sa)	6	72.7	C12R-(90)(Sa)	1	64.3	C12R-(98)(Ch)	9	91.5	C12R-(99)(Ho)	2	17.4	その他(Ho)	22	124.6
C12R-(51)(Sa)	2	48.0	C12R-(91)(Sa)	1	61.5	C12R-(99)(Ch)	2	26.8	C12R-(100)(Sh)	3	46.3	合　計	924	18877.2

第156表　C12-Bブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)	1				1					2	2	3(1)							10	3		22(20)		22(20)
安山岩(An)	1									5									12	1	3	22		22
安山岩(Ant)																			7			7		7
流紋岩(Rh)																							82	82
蛇紋岩(Se)																							1	1
粘板岩(Sl)																							5	5
頁岩(Sh)				1		1				3(2)									5	2	1	13(12)	33	46(45)
珪質頁岩(Csh)					1					1	1								6	1	1	11		11
チャート(Ch)																			3			3	158	161
砂岩(Sa)						2(1)									1				1			4(3)	590	594(593)
ホルンフェルス(Ho)										1	1								25		2(1)	29(28)	54	83(82)
石英(Qu)																							1	1
メノウ(Ag)																			1			1		1
合　計	2			1	2	3(2)				12(11)	4	3(1)			1				70	7	7(6)	112(107)	924	1036(1031)

第157表　C12-Bブロック母岩別石器組成表

母岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C12-④(Ob)					1							3(1)										4(2)		4(2)
C12-⑤(An)										1									4	1	1	7		7
C12-⑥(An)																			4		1	5		5
C12-⑦(Csh)					1					1									2			4		4
C12-⑧(Sh)										3(2)										1		4(3)		4(3)
C12-⑨(Sh)																			3	1	1	5		5
C12-⑩(Sa)						2(1)																2(1)		2(1)
C12-⑪(Ho)										1									7		2(1)	10(9)		10(9)
C12-⑫(Ho)																			3			3		3
C12-⑬(Ch)																			1			1		1
C12-⑭(Ch)																			1			1		1
C12-⑮(Sh)						1																1		1
C12-⑯(Sh)																			1			1		1
C12-⑰(Sh)				1																		1		1
C12-⑱(Csh)											1											1		1
C12-⑲(Csh)																			1			1		1
C12-⑳(Csh)																					1	1		1
C12-㉑(Csh)																			1			1		1
C12-㉒(Ag)																			1			1		1
C12-㉓(Sa)																			1			1		1
C12-㉔(Ho)																			1			1		1
C12-㉕(Sa)															1							1		1
その他(Ob)	1									2	2								10	3		18		18
その他(An)	1									4									4		1	10		10
その他(Ant)																			7			7		7
その他(Sh)																			1			1		1
その他(Csh)																			2	1		3		3
その他(Ch)																			1			1		1
その他(Ho)											1								14			15		15
合計	2			1	2	3(2)				12(11)	4	3(1)			1				70	7	7(6)	112(107)		112(107)

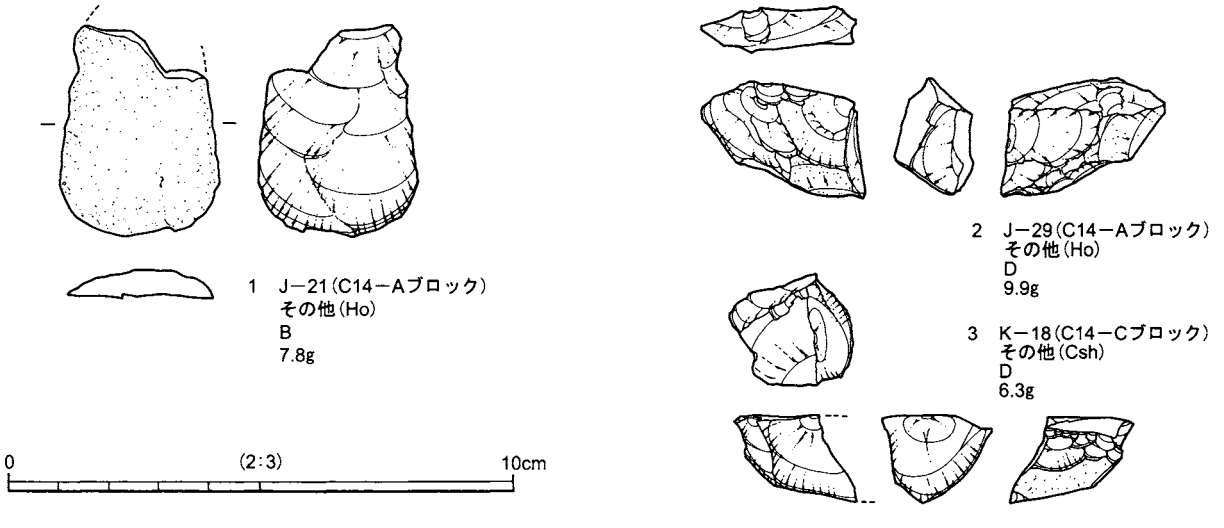
面から急角度の粗い調整加工を行っている。右端の狭くなった部分を意識した錐状石器か，削器であろうか。

2　C14-Aブロック（第416～418図，第158～160表）

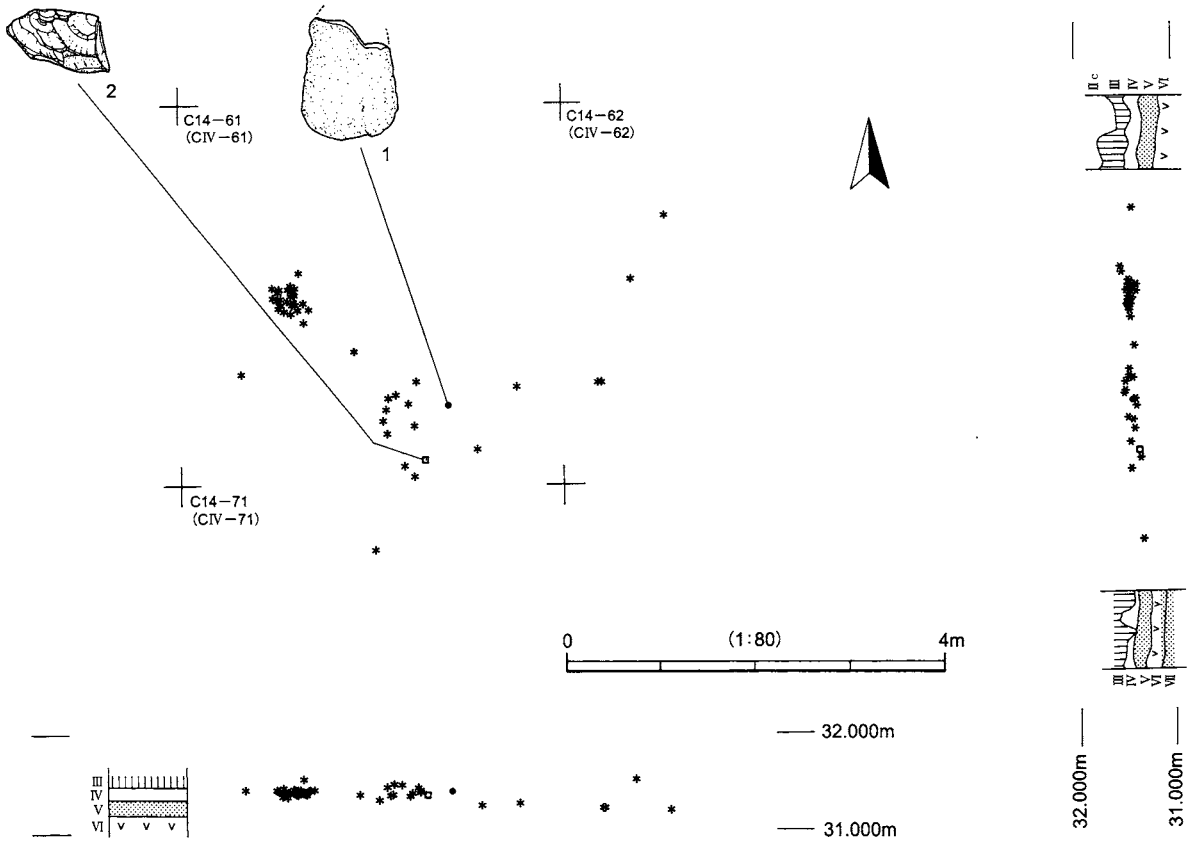
1）ブロックの概要

C14-Aブロックは，調査範囲東部のC14-61・62・71グリッドに位置する。ブロックの立地は台地北側の緩斜面で，傾斜変換点からの距離は45mである。

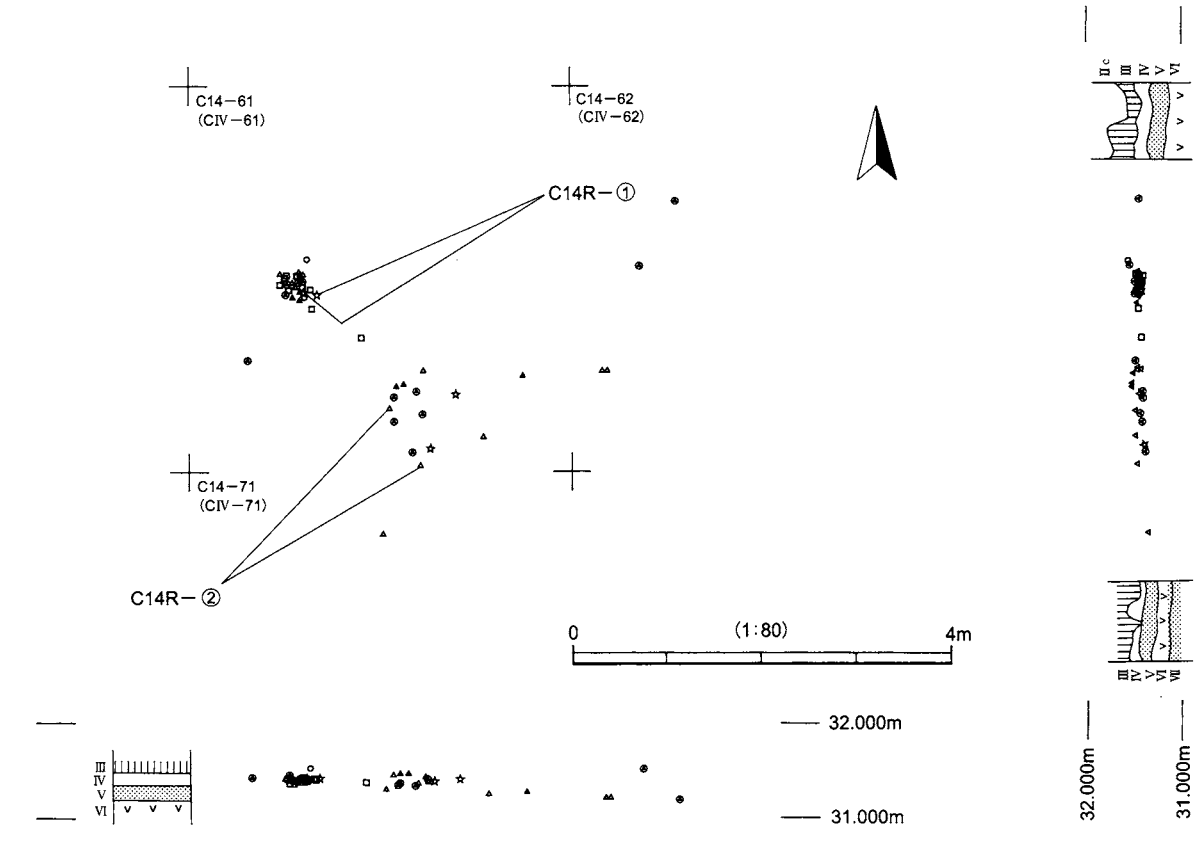
ブロックの規模と形状は，長軸５m，短軸３mの範囲に47点の石器・礫が分布する。ブロックの北西部に礫が密集する所があり，それ以外は散漫に分布している。出土層位はⅢ層からⅣ層にかけてで，30cmほ



第416図　C14-A・Cブロック出土遺物実測図



第417図　C14-Aブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



第418図　C14-Aブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－

どの高低差をもって水平に包含されている（第417・418図）。

ブロックは，剥片１点，石核１点，礫45点（2,583.5ｇ）で構成される。石器石材はホルンフェルス２点，礫石材は安山岩２点，流紋岩７点，頁岩６点，チャート14点，砂岩12点，ホルンフェルス２点，不明２点である。

礫は，拳の半分程度の円礫が主体を占める。被熱の度合いが小さいためか，大半が完形礫である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックで出土した石器は，ホルンフェルスによる剥片１点，石核１点（合計17.6ｇ）であるが，石器石材については特徴が乏しく周辺ブロックとの異同が不明瞭であったことから，母岩分類できなかった。

３）出土遺物（第416図）

１は，ホルンフェルスによる不定型の剥片である。表面は自然面に覆われ，打面周辺は欠損している。２は，ホルンフェルスによる石核である。厚手の剥片を石核の素材に用い，表裏の各所から小型不定型の剥片を生産している。両者とも淡黒灰色でやや軟質な石質である。

第158表　C14-Aブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
その他(Ho)																			1		1	2		2
合　計																			1		1	2		2

第159表　C14-Aブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
安山岩(An)																							2	2
流紋岩(Rh)																							7	7
頁岩(Sh)																							6	6
チャート(Ch)																							14	14
砂岩(Sa)																							12	12
ホルンフェルス(Ho)																			1		1	2	2	4
不明																							2	2
合　計																			1		1	2	45	47

第160表　C14-Aブロック母岩別礫一覧表

母　岩	点数	重量	母岩	点数	重量	母岩	点数	重量	母岩	点数	重量	母岩	点数	重量
C14R-①(Ho)	2	76.4	C14R-⑯(Rh)	1	26.0	C14R-㉔(Sa)	1	58.9	C14R-㉜(Sa)	1	63.6	C14R-㊸(不明)	1	125.8
C14R-②(Ch)	2	34.4	C14R-⑰(Rh)	1	88.7	C14R-㉕(Sa)	1	92.2	C14R-㉝(Sh)	1	53.2	その他(Ch)	6	127.6
C14R-⑩(Ch)	1	59.2	C14R-⑱(Rh)	1	71.3	C14R-㉖(Sa)	1	94.8	C14R-㉞(Sh)	1	91.0	その他(Sa)	1	17.3
C14R-⑪(Ch)	1	88.3	C14R-⑲(Rh)	1	178.1	C14R-㉗(Sa)	1	60.6	C14R-㉟(Sh)	1	62.2	その他(Rh)	1	64.9
C14R-⑫(Ch)	1	56.9	C14R-⑳(Rh)	1	113.0	C14R-㉘(Sa)	1	67.0	C14R-㊱(Sh)	3	33.3	合　計	45	2583.5
C14R-⑬(Ch)	1	93.4	C14R-㉑(Rh)	1	67.9	C14R-㉙(Sa)	1	51.7	C14R-㊲(An)	1	40.8			
C14R-⑭(Ch)	1	41.7	C14R-㉒(Sa)	1	86.1	C14R-㉚(Sa)	1	59.9	C14R-㊳(An)	1	76.2			
C14R-⑮(Ch)	1	44.6	C14R-㉓(Sa)	1	53.5	C14R-㉛(Sa)	1	70.8	C14R-㊷(不明)	1	92.2			

３　C14-Bブロック（第419・420図，第161～163表）

１）ブロックの概要

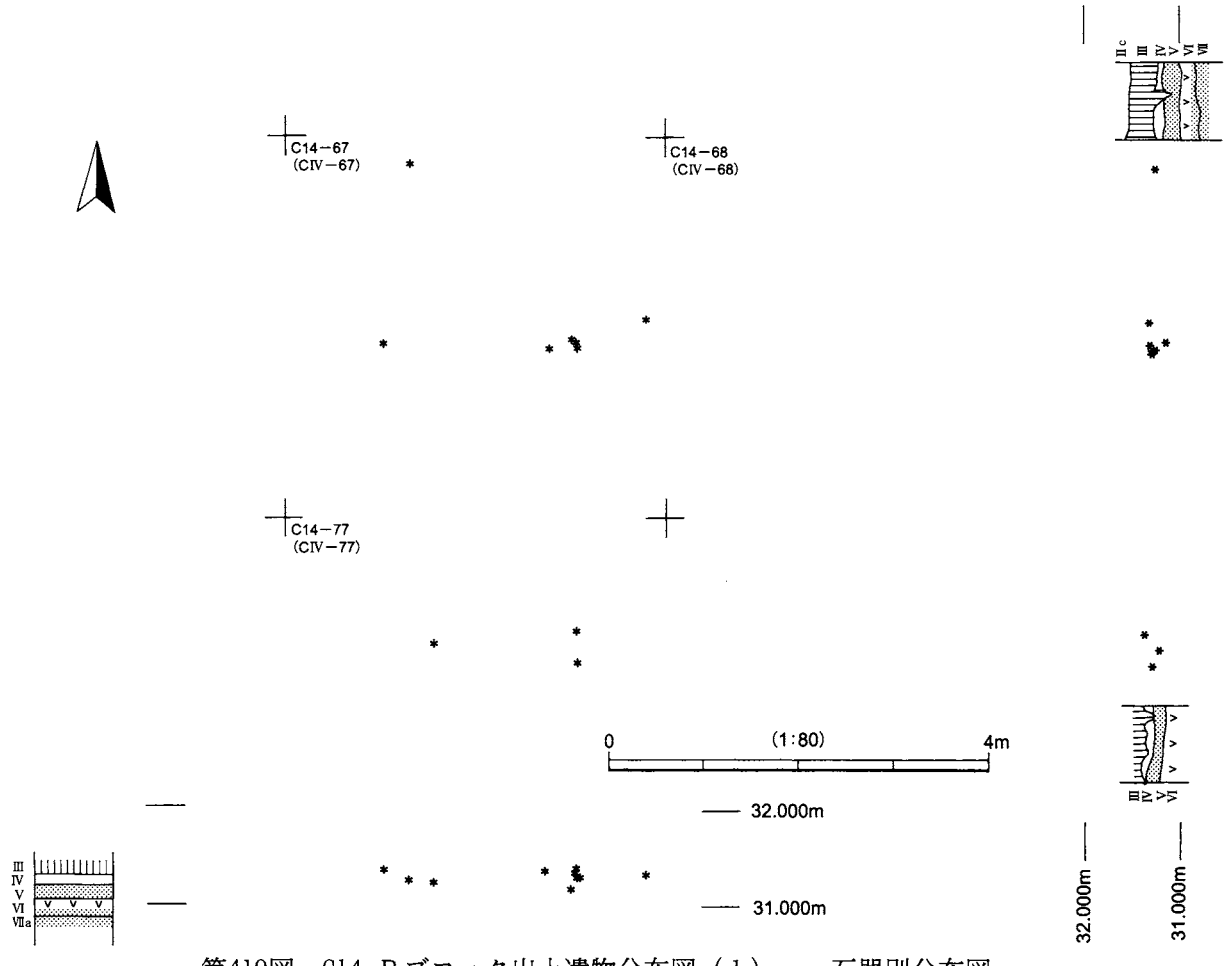
C14-Bブロックは，調査範囲東部のC14-67・77グリッドに位置する。ブロックの立地は台地北側の緩斜面で，傾斜変換点からの距離は30ｍである。

ブロックの規模と形状は，長軸６ｍ，短軸４ｍの範囲に10点の礫が散漫に分布する。出土層位はⅣ層を中心としており，30㎝ほどの高低差をもって，地形に沿って包含されている（第419・420図）。

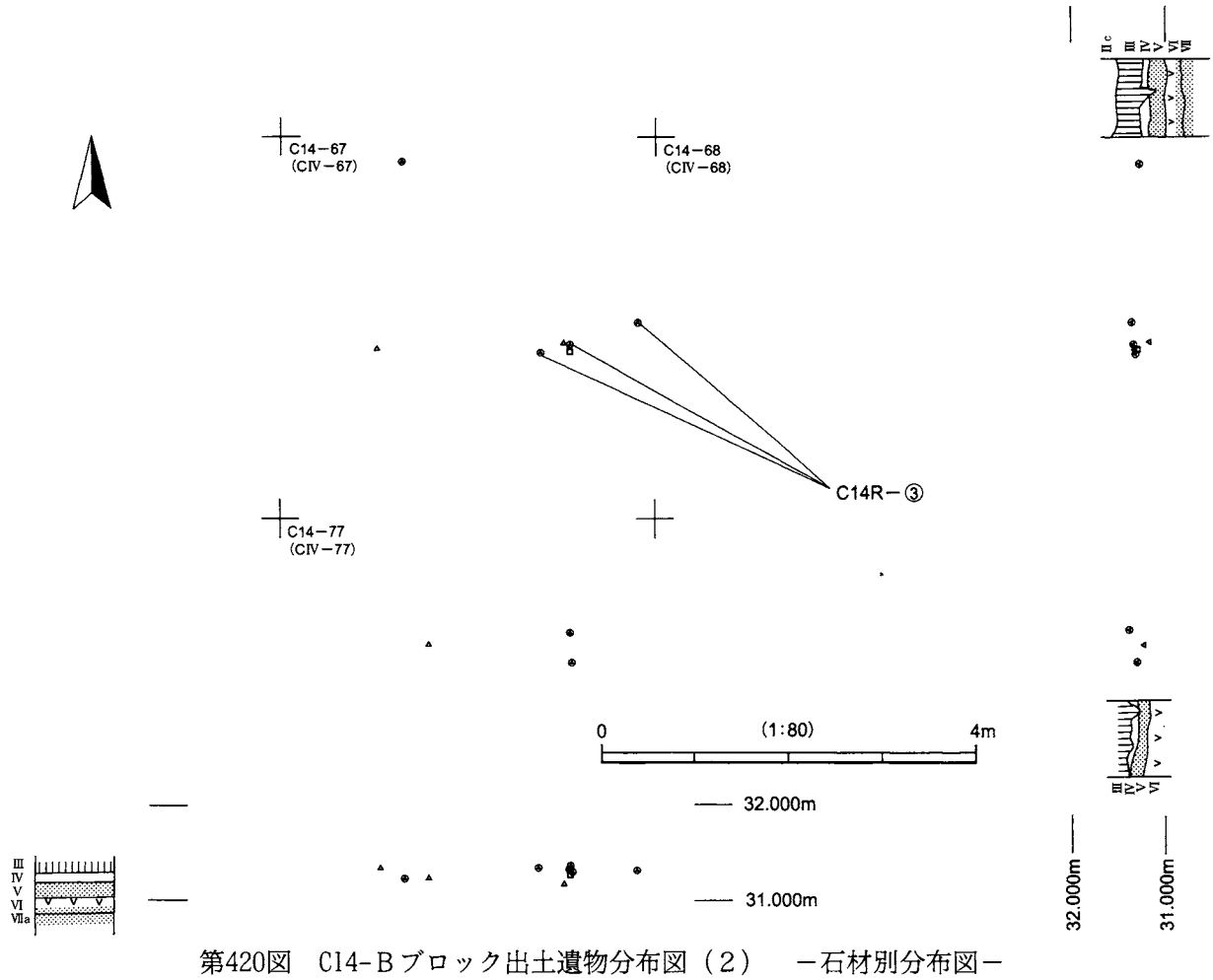
ブロックは礫10点（342.1ｇ）で構成される。石材は，流紋岩１点，チャート３点，砂岩６点である。

第161表　C14-Bブロック母岩別礫一覧表

母　岩	点数	重量
C14R-③(Sa)	3	31.4
C14R-㊹(Ch)	1	44.9
C14R-㊺(Ch)	1	51.6
C14R-㊻(Rh)	1	98.5
C14R-㊼(Sa)	1	73.6
その他(Ch)	1	20.9
その他(Sa)	2	21.2
合　計	10	342.1



第419図　C14-Bブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



第420図　C14-Bブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－

第162表　C14-Bブロック母岩別石器組成表

母岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
C14R-③(Sa)																							3	3
その他(Rh)																							1	1
その他(Ch)																							3	3
その他(Sa)																							3	3
合　計																							10	10

第163表　C14-Bブロック石材別石器組成表

石材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
流紋岩(Rh)																							1	1
チャート(Ch)																							3	3
砂岩(Sa)																							6	6
合　計																							10	10

4　C14-Cブロック（第416・421～423図，第164・166表）

1）ブロックの概要

C14-Cブロックは，調査範囲東部のC14-77・86・87・88・97グリッドに位置する。ブロックの立地は台地北側の緩斜面で，傾斜変換点までの距離は30mである。

ブロックの規模と形状は，長軸６m，短軸４mの範囲に64点の石器・礫が分布する。出土層位はⅣ層を中心としており，40cmほどの高低差をもって，地形に沿って包含されている（第421・422図）。

ブロックは，石核１点，礫63点で構成される。石器石材は珪質頁岩１点，礫石材は安山岩３点，流紋岩11点，頁岩３点，チャート５点，砂岩30点，ホルンフェルス７点，不明４点である。礫以外の唯一の資料である石核は，礫がまとまって分布する範囲から数m離れたブロック外縁部から出土しており，共伴関係には疑問を残す。

C14-87グリッド東南にある礫のまとまりを細かく見ると，直径50cmほどの小規模なまとまりが４か所ある（西北部，北部，中央部，南部）。礫の接合関係は，西北部と北部（C14R-④），北部と中央部（C14R-⑨），中央部の中だけ（C14R-⑦・⑧），中央部と南部（C14R-⑤・⑥）で，隣接するまとまり同士で接合する。このことだけで即断するわけにはいかないが，礫を使用した小規模な空間が４か所あると見るよりは，も

第164表　C14-Cブロック母岩別石器組成表

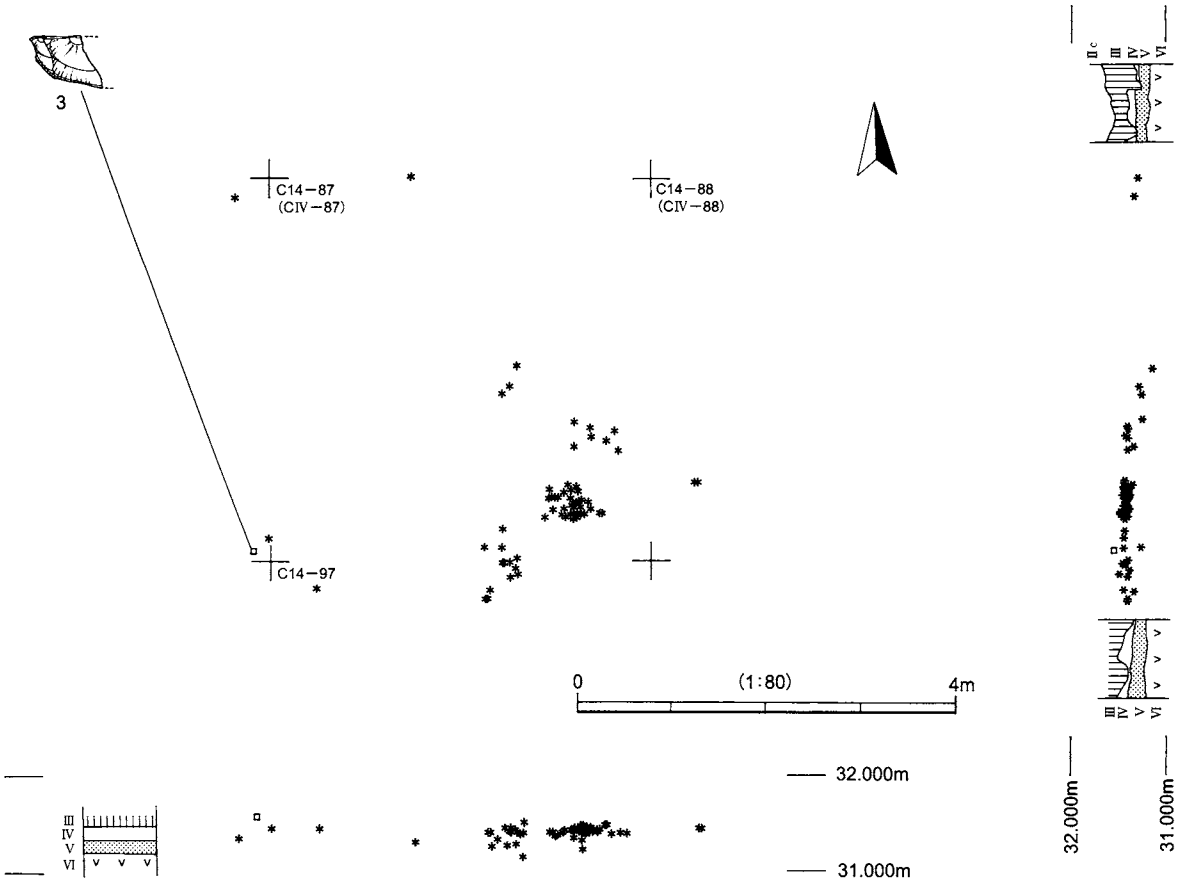
母岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
その他(Csh)																					1	1		1
合　計																					1	1		1

第165表　C14-Cブロック石材別石器組成表

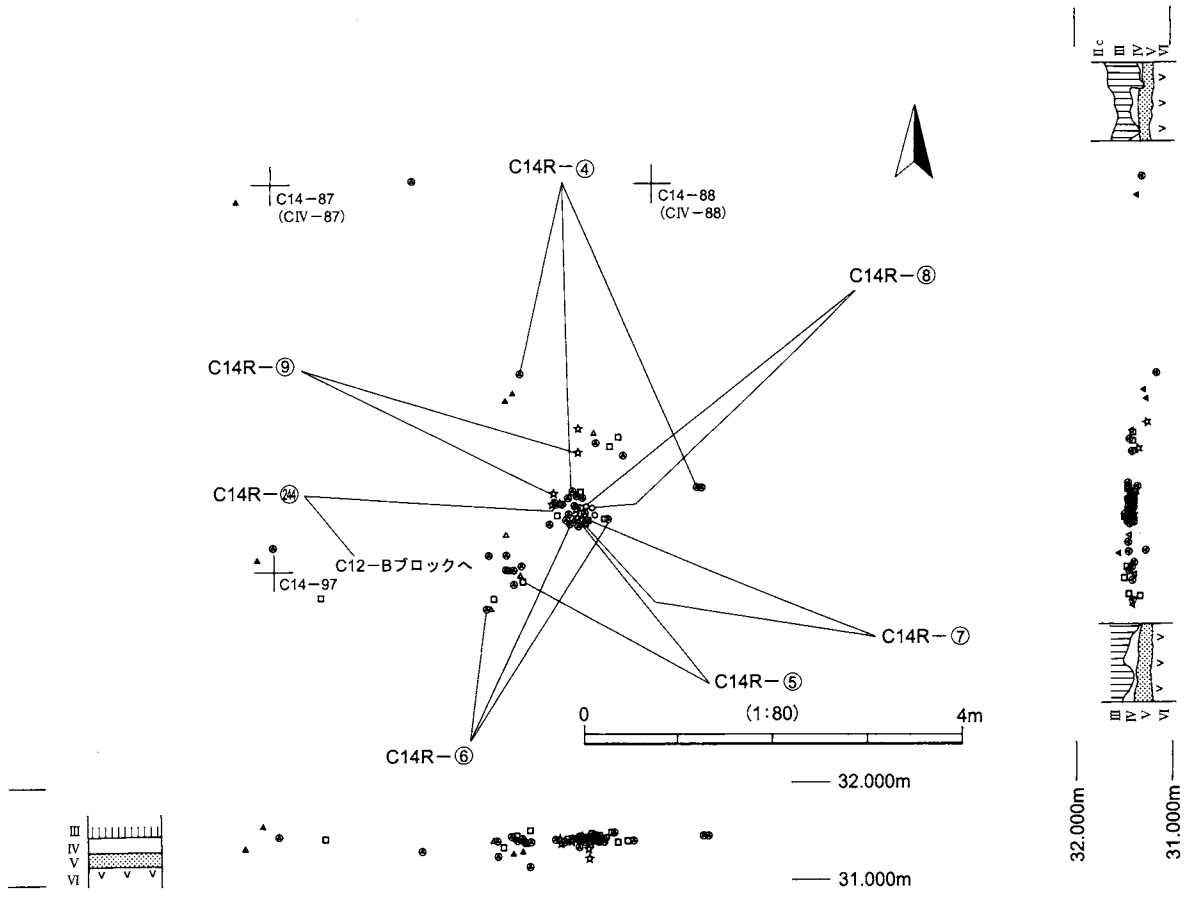
石材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
安山岩(An)																							3	3
流紋岩(Rh)																							11	11
頁岩(Sh)																							3	3
珪質頁岩(Csh)																					1	1		1
チャート(Ch)																							5	5
砂岩(Sa)																							30	30
ホルンフェルス(Ho)																							7	7
不明																							4	4
合　計																					1	1	63	64

第166表　C14-Cブロック母岩別礫一覧表

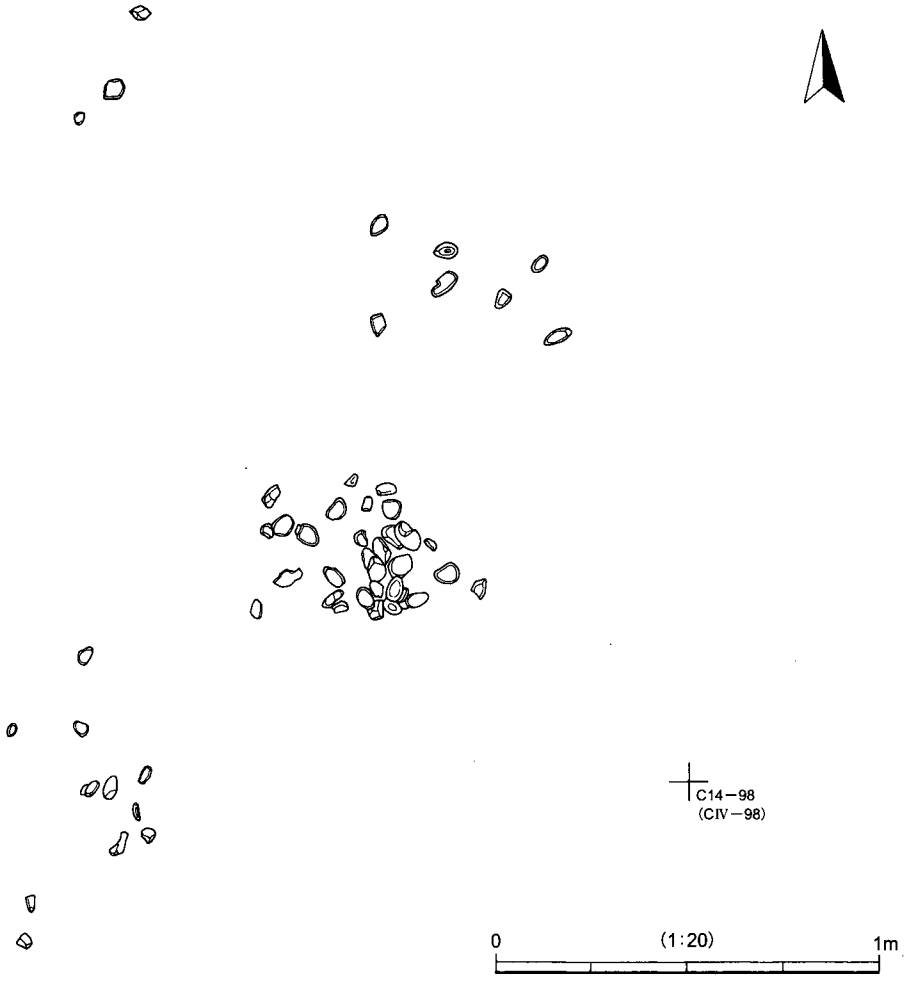
母岩	点数	重量	母岩	点数	重量	母岩	点数	重量	母岩	点数	重量	母岩	点数	重量
C14R-④(Sa)	3	102.2	C14R-㊽(Ch)	1	144.3	C14R-㊼(Rh)	1	51.7	C14R-㊻(Sa)	1	62.1	C14R-㊺(An)	1	68.4
C14R-⑤(Rh)	2	81.3	C14R-㊾(Ch)	1	35.3	C14R-㊽(Rh)	1	43.0	C14R-㊼(Sa)	1	96.4	C14R-㊻(不明)	1	36.0
C14R-⑥(Sa)	3	70.0	C14R-㊿(Ch)	1	81.3	C14R-㊾(Sa)	1	153.6	C14R-㊽(Sa)	1	111.8	C12R-㊹(Sa)	1	126.8
C14R-⑦(不明)	2	106.2	C14R-㊶(Ch)	1	30.7	C14R-㊿(Sa)	1	137.8	C14R-㊾(Sa)	1	82.0	その他(Ch)	1	37.7
C14R-⑧(An)	2	198.3	C14R-㊷(Rh)	1	87.4	C14R-㊶(Sa)	1	39.8	C14R-㊿(Sa)	1	54.0	その他(Rh)	2	154.9
C14R-⑨(Ho)	2	90.6	C14R-㊸(Rh)	1	99.0	C14R-㊷(Sa)	1	98.9	C14R-㊶(Sa)	1	50.9	その他(Sa)	8	675.1
C14R-㊴(Ho)	1	93.3	C14R-㊹(Rh)	1	87.1	C14R-㊸(Sa)	1	85.5	C14R-㊷(Sa)	1	34.1	その他(Sh)	1	140.4
C14R-㊵(Ho)	1	151.0	C14R-㊺(Rh)	1	70.2	C14R-㊹(Sa)	1	96.3	C14R-㊸(Sa)	1	128.4	その他(Ho)	2	139.4
C14R-㊶(Ho)	1	86.9	C14R-㊻(Rh)	1	119.5	C14R-㊺(Sa)	1	145.8	C14R-㊹(Sh)	2	140.8	その他(不明)	1	123.6
												合　計	63	4849.8



第421図　C14-Cブロック出土遺物分布図（1）　−石器別分布図−



第422図　C14-Cブロック出土遺物分布図（2）　−石材別分布図−



第423図　C14-Cブロック遺物分布図（3）　－礫詳細分布図－

ともと中央部にまとまっていた礫が，自然の営力等によってじょじょに拡散したと考えたい。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックで出土した石器は，嶺岡産珪質頁岩と考えられる石核1点（6.3g）であるが，石器石材については，特徴が乏しく周辺ブロックとの異同が不明瞭であったことから，母岩分類しなかった。

3）出土遺物（第416図）

3は，珪質頁岩による石核である。厚手の剥片を石核の素材に用いており，素材の主要剥離面を打面として周囲を削ぎ落とすように小型不定型の剥片を剥離している。石材は，内外ともに橙褐色の珪質頁岩で，嶺岡産と考えられる。

第6節　ブロック外出土遺物

本調査区では，8か所で単独に旧石器時代石器が出土した。また，上層遺構内からも若干の資料が得られた（第424・425図）。

1は，紫がかった黒灰色の頁岩による不定型厚手の剥片である。表面の剥離面は裏面と90度剥離方向が異なっており，打点が石核の周囲を廻りながら剥片剥離作業が行われたと想定される。なお，本資料は被熱によって変色，欠損した可能性がある。C20グリッド（調査時のＦ地点）のⅦ層～Ⅸａ層から出土した。２は，暗灰緑色の嶺岡産珪質頁岩による不定型の剥片を利用した使用痕ある剥片である。左側縁に不規則な剥離痕が見られる。C6-58グリッドのＶ層上面から出土した。３は，灰褐色に風化した安山岩による槍先形石器である。両面調整による細身の木葉形で，横断面形は凸レンズ状である。素材時の剥離面は残されていない。C21グリッドのⅣ層から出土した。

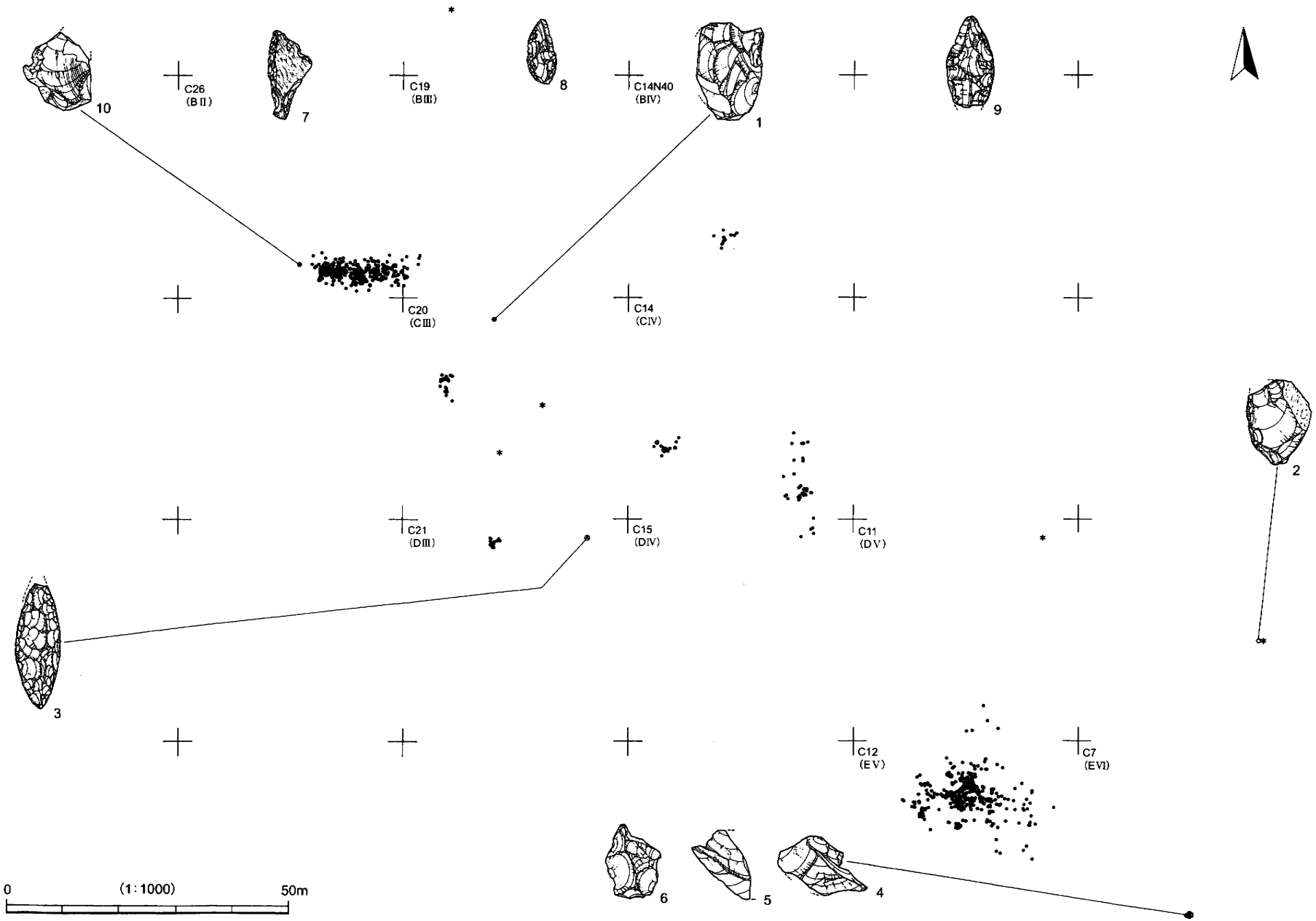
４・５は灰色に風化した安山岩による不定型の剥片，６は灰緑色の嶺岡産珪質頁岩による石核である。石核は厚手の剥片を素材とし，打面と作業面を固定しないで小型不定型の剥片を生産している。いずれもC7-75グリッドのＶ層から出土した。

10は，無色透明の地に黒色のモヤがかかる黒曜石を用いた不定型の剥片である。C26グリッドのＶ層から出土しているが，ここはC26-Aブロック群の西側外縁部にあたる。同一母岩は，C26-A1・A2ブロック及び草刈遺跡Ｃ区C21-Ａブロックに分布しており，第６文化層に関連する。

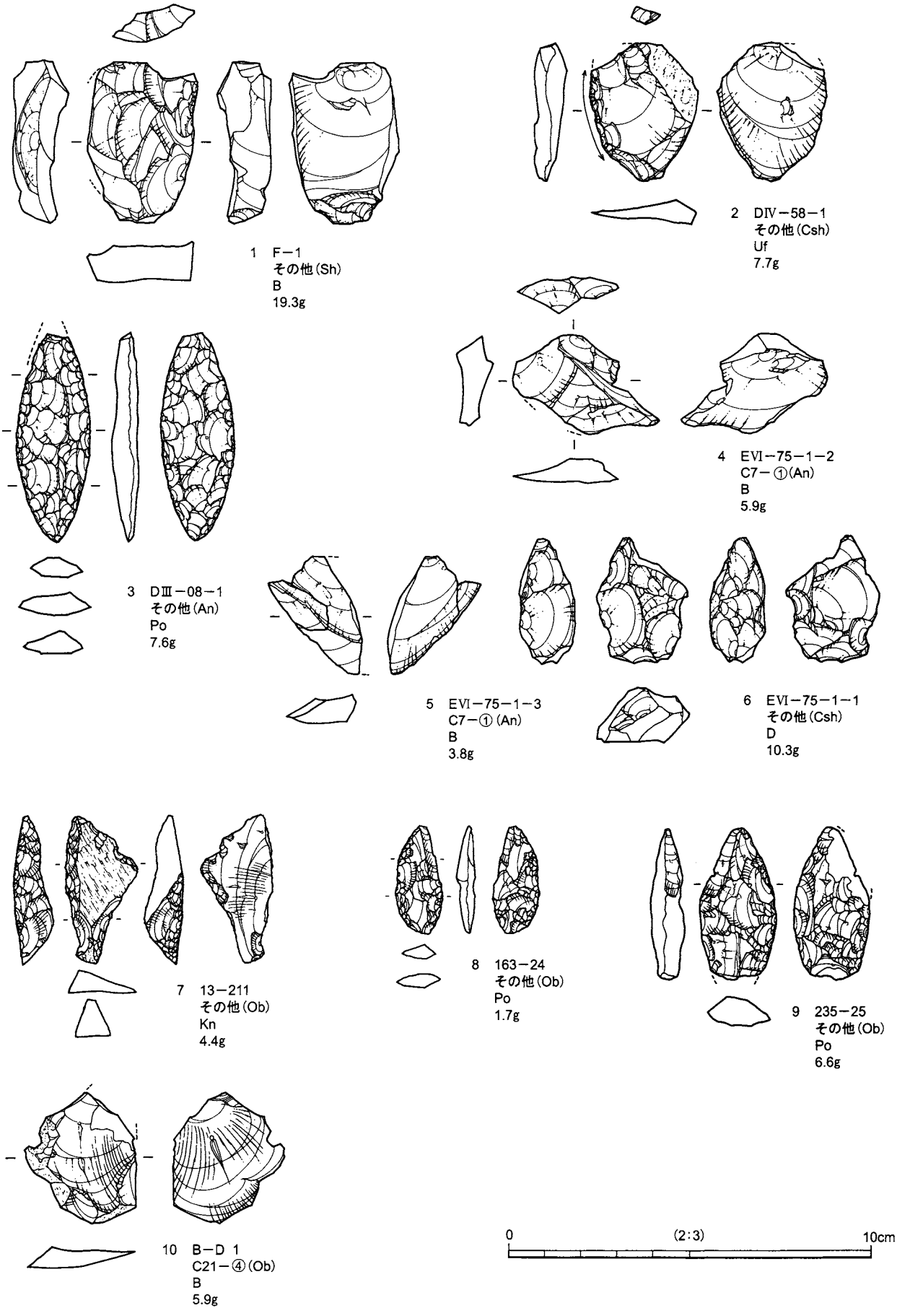
７～９は，上層遺構の覆土中から出土した旧石器時代資料である。

７は，無色透明の地に青みを帯びた黒色のモヤがかかった黒曜石によるナイフ形石器である。横長剥片を横位に用い，左側縁（打面側）全体と右側縁の基部寄りに裏面から調整加工を行い，切出形に仕上げている。本調査区第６文化層で主体を成す黒曜石に似る。

８は，無色透明の地に淡黒色の縞が多数入る黒曜石を用いた小型の槍先形石器である。横長剥片を横位に用い，表裏に細かな調整加工を行っている。表裏両面に素材時の剥離面が残っており，表面中央に素材の主要剥離面が見られる。右側縁には樋状剥離がある。石器石材に黒曜石を用い，左右対称形の両面調整であることから，男女倉型有樋尖頭器に分類できる。なお，本資料は蛍光Ｘ線による理化学的な分析により信州・星ヶ塔産と推定された。９も黒曜石による男女倉型有樋尖頭器である。８と同様，左右対称形で両面調整の木葉形である。本資料は，蛍光Ｘ線による分析で栃木県高原山産と推定されている。



第424図　草刈遺跡Ｇ区ブロック外遺物分布図



第425図　草刈遺跡G区ブロック外出土遺物実測図

第６章　草刈遺跡Ｐ区（219-014）

第１節　調査の概要

草刈遺跡Ｐ区（旧草刈古墳群）では，旧石器時代の調査を昭和61年度に実施した。調査区は，草刈遺跡の東端に位置しており，川焼台遺跡へと連なる細長いやせ尾根状の地形である。調査対象面積は15,500㎡で，はじめに４％の確認調査を行い，その結果に基づいて1,600㎡の本調査を行った。調査の結果，19か所のブロックと10か所の単独出土地点を検出した（第426図）。

本調査区における19か所のブロックは，以下のとおり３枚の文化層に区分できる。なお，文化層の設定は草刈遺跡東部地区全域で行っており，本調査区の石器群はその第４・６・７文化層にあたる。

第４文化層は，立川ローム層第２黒色帯上半部（Ⅶ～Ⅸ層上部）に包含される石器群で，石器141点と礫11点が13か所のブロック（4A-Ｂ，4B-Ａ・Ｂ・Ｄ～Ｈ，5B-Ａ～Ｃ，5C-Ａ・Ｂブロック）から出土した。

第６文化層は，立川ローム層のソフトローム層下部（Ⅲ層）から第１黒色帯（Ⅴ層）にかけて包含される石器群で，石器107点と礫473点が４か所のブロック（1B-Ａ，4A-Ａ，4B-Ｃ，6E-Ａブロック）から出土した。

第７文化層は，立川ローム層のハードローム層最上部（Ⅳ層）からソフトローム層下部（Ⅲ層）にかけて包含される石器群で，石器10点と礫15点が２か所のブロック（2B-Ａ・6C-Ａブロック）から出土した。第６文化層と層位的に分離することは難しいが，石器組成と石材構成を勘案して設定した。

第２節　第４文化層

第４文化層は，立川ローム層第２黒色帯上部（Ⅶ～Ⅸ層上部）に包含される石器群で，4A-Ｂ，4B-Ａ・Ｂ・Ｄ～Ｈ，5B-Ａ～Ｃ，5C-Ａ・Ｂブロックの13か所が該当する。

１　4A-Ｂブロック（第427～429図，第167・168表）

１）ブロックの概要

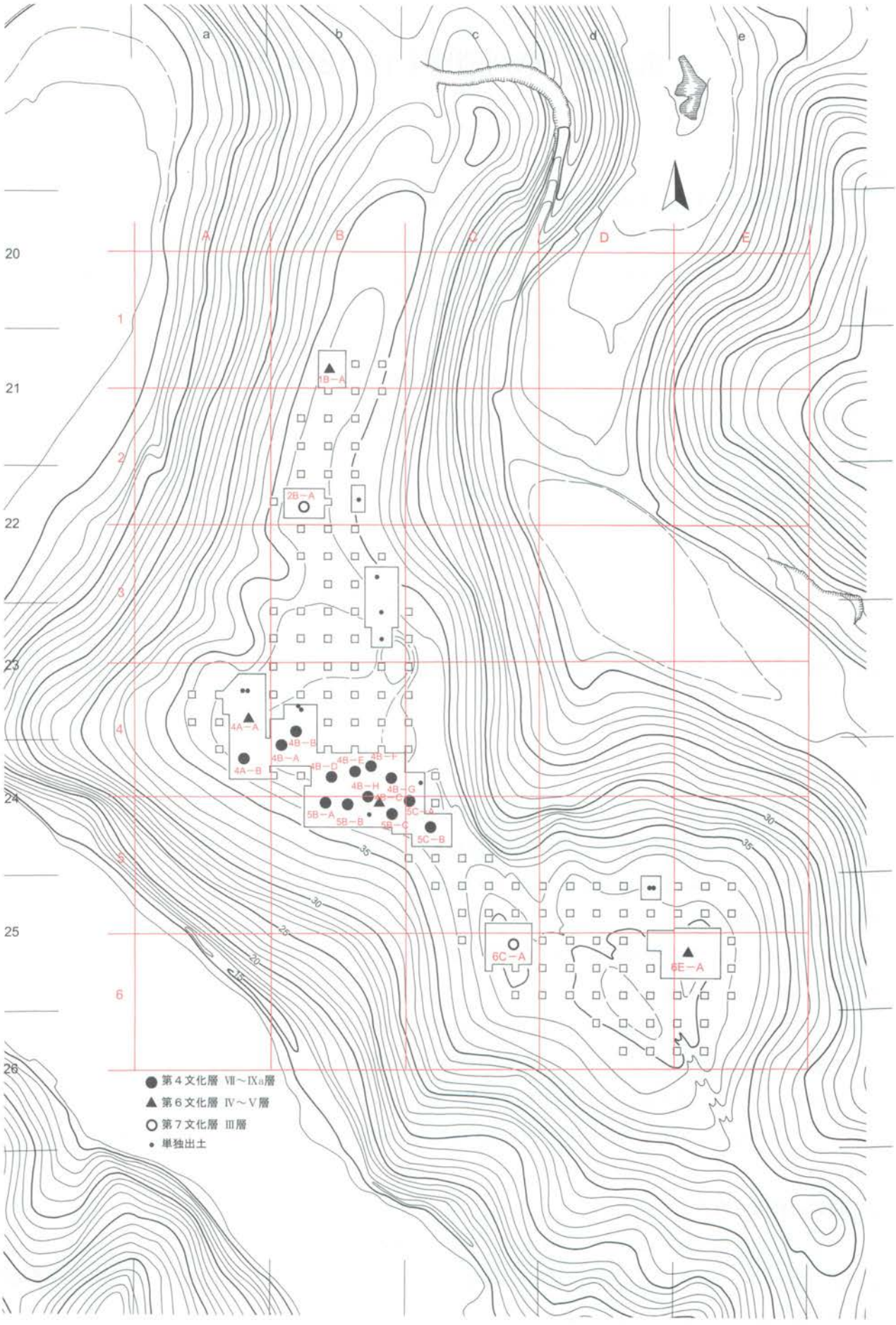
4A-Ｂブロックは，調査範囲中央の4A-67・68・77グリッドに位置する。ブロックの立地は，丘陵頂部にある70m四方ほどの平坦面上である。

ブロックの規模と形状は，長軸９ｍ，短軸４ｍの範囲に16点の石器・礫が散漫に分布する。出土層位はⅦ～Ⅸ層で，40㎝ほどの高低差をもって包含されている（第427・428図）。

ブロックは，ナイフ形石器３点（２個体），楔形石器１点，使用痕ある剥片２点，剥片６点，砕片２点，石核１点，礫１点の合計16点（15個体）で構成される。石器石材は，黒曜石４点，安山岩８点，頁岩１点，珪質頁岩１点，チャート１点，礫石材は，砂岩１点である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは６母岩を識別した。内訳は，黒曜石１母岩（4A-⑫），安山岩２母岩（4A-⑦・⑧），頁岩１母岩（4A-⑪），チャート１母岩（4A-⑨），珪質頁岩１母岩（4A-⑩）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は80％（12／15点）である。

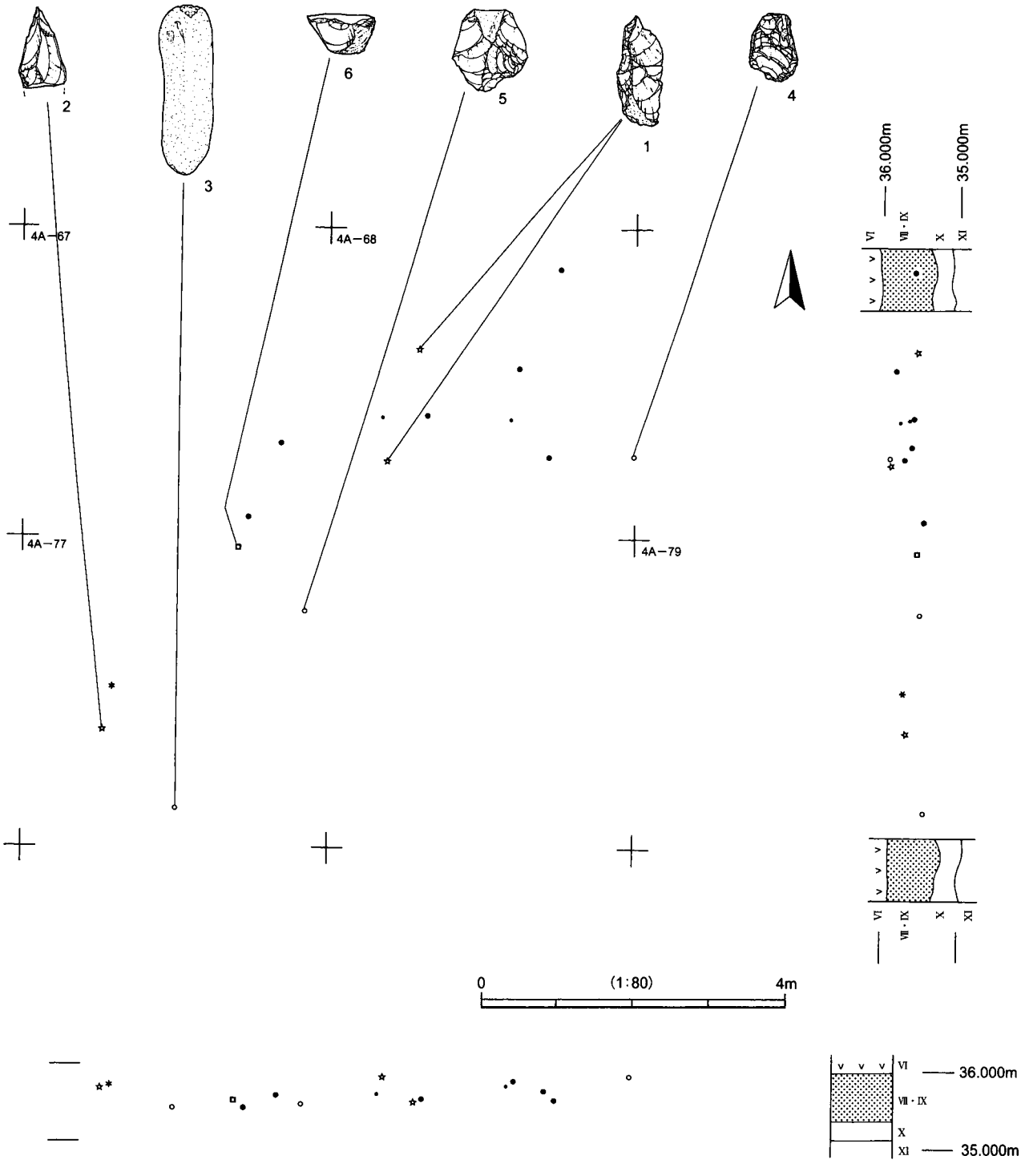


第426図　草刈遺跡Ｐ区旧石器時代調査概要図（1:1, 600）

・4A-⑦：黒色の安山岩で，白色の夾雑物を含む。石器群の内訳は，ナイフ形石器２点，剥片２点の合計４点（３個体；8.8ｇ）である。接合資料は，ナイフ形石器２点（１個体；7.1ｇ）がある。

・4A-⑧：青みがかった灰色の安山岩である。楔形石器１点（4.5ｇ）の単独資料である。

・4A-⑨：青灰色の地に黒灰色の筋が入ったチャートで，節理面は橙褐色である。剥片１点（1.7ｇ）の単独資料である。



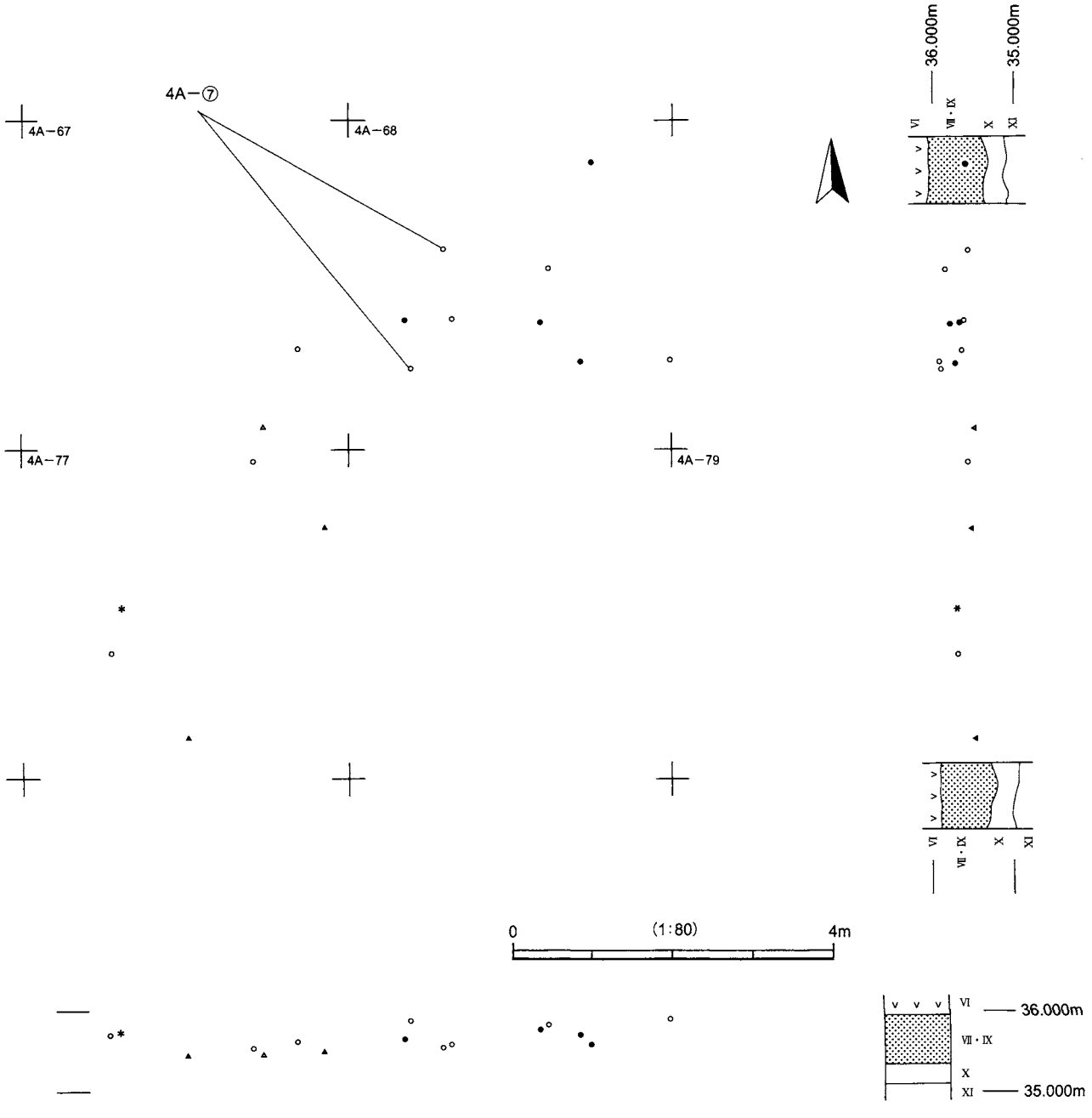
第427図　4A-Ｂブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－

・4A-⑩：灰色の地に灰白色の微細な粒子を多量に含み，珪質頁岩と考えられる。使用痕ある剥片１点（15.8ｇ）の単独資料である。

・4A-⑪：暗褐色の地に白緑色の不純物の塊を含む頁岩である。使用痕ある剥片１点（10.8ｇ）の単独資料である。

・4A-⑫：灰色不透明の黒曜石である。石器群の内訳は，剥片２点，砕片２点の合計４点（0.8ｇ）である。また，同一母岩が4B-Ｂブロックに15点分布する。

なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩のナイフ形石器１点，剥片１点，石核１点（合計16.5ｇ）がある。



第428図　4A-Ｂブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－

3）出土遺物（第429図）

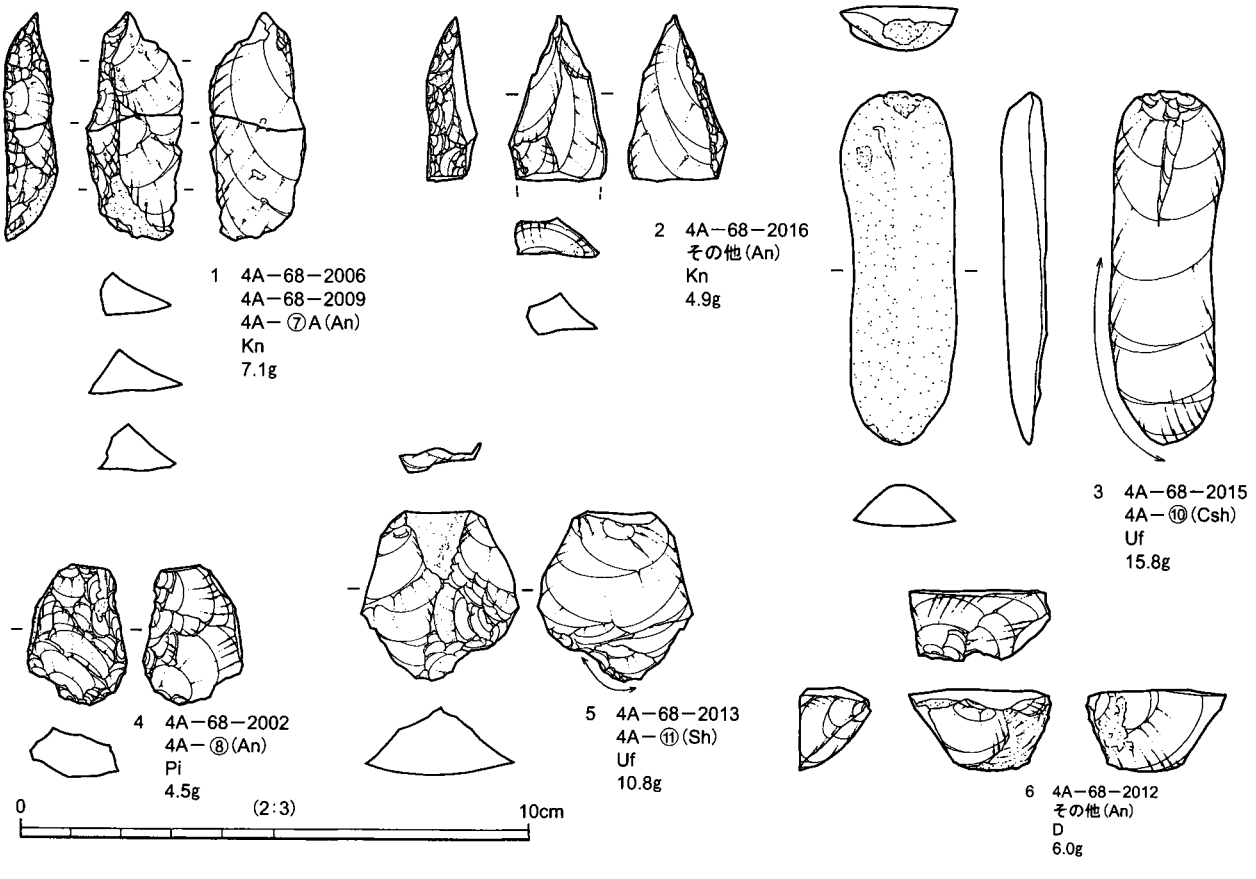
1は，安山岩による不定型の剥片を素材とするナイフ形石器である。左側1側縁に裏側から調整加工を行っている。中央で二つに割れていること，外形が整っていないことから，製作途中に欠損した未製品と考えられる。2は，安山岩による横長剥片を素材とするナイフ形石器である。素材剥片の打面側（左側）1側縁を表裏両面から調整しており，加工面は表裏面と直交する。基部を欠損するため形態は不明である

第167表　4A-Bブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
4A-⑦(An)	2(1)																		2			4(3)		4(3)
4A-⑧(An)									1													1		1
4A-⑨(Ch)																			1			1		1
4A-⑩(Csh)											1											1		1
4A-⑪(Sh)											1											1		1
4A-⑫(Ob)																			2	2		4		4
その他(An)	1																		1		1	3		3
その他(Sa)																							1	1
合　計	3(2)								1		2								6	2	1	15(14)	1	16(15)

第168表　4A-Bブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)																			2	2		4		4
安山岩(An)	3(2)								1										3		1	8(7)		8(7)
頁岩(Sh)											1											1		1
珪質頁岩(Csh)											1											1		1
チャート(Ch)																			1			1		1
砂岩(Sa)																							1	1
合　計	3(2)								1		2								6	2	1	15(14)	1	16(15)



第429図　4A-Bブロック出土遺物実測図

が，調整加工が細かく丁寧であり，完成品と考えられる。

3は，珪質頁岩による縦長剥片を利用した使用痕ある剥片である。表面はきわめて平滑な自然面に覆われており，両側縁は鋭利である。打面ははじけて線状になっているが，表面の打点周辺には敲打痕が見られる。4は，安山岩による楔形石器である。特に，右側縁の潰れが顕著である。素材時の剥離面は見られない。5は，頁岩による幅広厚手の不定型な剥片を利用した使用痕ある剥片である。裏面の末端部（ヒンジ・フラクチャー）に刃こぼれが見られる。

6は，安山岩による不定型の剥片を用いた石核である。不定型厚手の剥片を二つに割り（あるいは割れて），その割れ面を打面として小型の剥片を剥離している。実測図裏面が素材の主要剥離面である。

2　4B-Aブロック（第430～432図，第169・170表）

1）ブロックの概要

4B-Aブロックは，調査範囲中央の4B-50・51・60・61グリッドに位置する。ブロックの立地は，丘陵頂部にある70m四方ほどの平坦面上である。

ブロックの規模と形状は，長軸5m，短軸3mの範囲に16点の石器・礫が散漫に分布するが，ブロック南側の直径2mほどの範囲に大半の資料がまとまる。出土層位はⅦ～Ⅸ層で，50cm程の高低差をもって包含されている（第431・432図）。

ブロックは，ナイフ形石器1点，加工痕ある剥片2点，剥片12点，礫1点の合計16点で構成される。石器石材は，珪質頁岩13点，メノウ1点，ホルンフェルス1点，礫石材は，流紋岩1点である。

2）母岩の特徴と内容

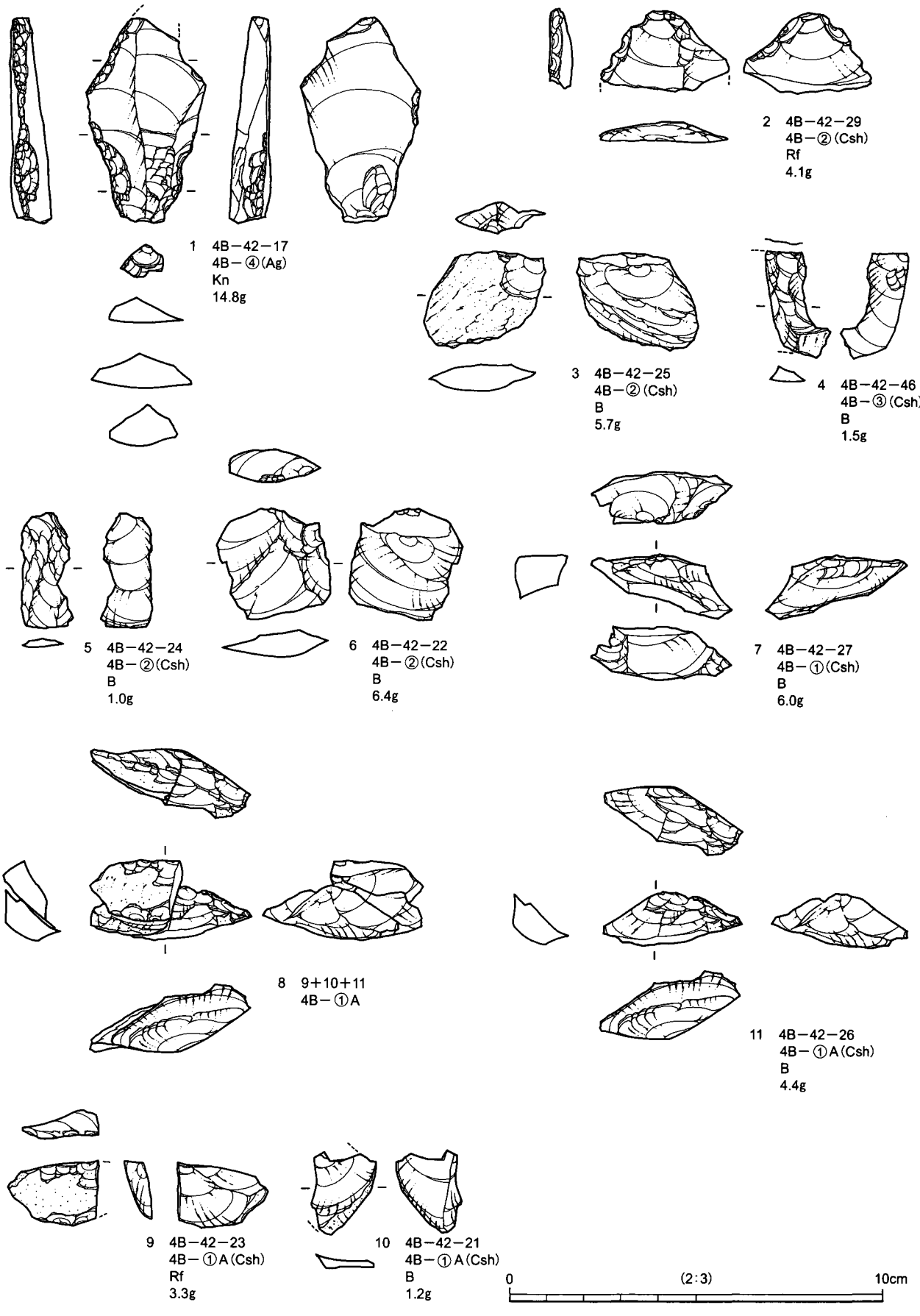
本ブロックでは4母岩を識別した。内訳は，珪質頁岩3母岩（4B-①～③），メノウ1母岩（4B-④）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は93%（14／15点）である。

- 4B-①：黒紫色で均質緻密な珪質頁岩（あるいは珪質粘板岩）である。県南嶺岡産の可能性がある。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点，剥片4点の合計5点（15.4g）である。接合資料は，加工痕ある剥片1点，剥片2点（合計8.9g）で構成される。自然面をもつ剥片も見られるが，原石の一部を消費した母岩である。
- 4B-②：黒灰色で，表面が荒れた感じのする珪質頁岩である。県南嶺岡産の可能性がある。石器群の内訳は，加工痕ある剥片1点，剥片6点の合計7点（19.8g）である。上記4B-①母岩と同様，原石の一部を消費した母岩である。
- 4B-③：黒灰色で均質緻密な珪質頁岩である。4B-②母岩より暗い色調である。県南嶺岡産の可能性がある。剥片1点（1.5g）の単独資料である。
- 4B-④：乳白色半透明の地に灰白色の斑が散在するメノウである。ナイフ形石器1点（14.8g）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，ホルンフェルスの剥片1点（1.4g）がある。

3）出土遺物（第430図）

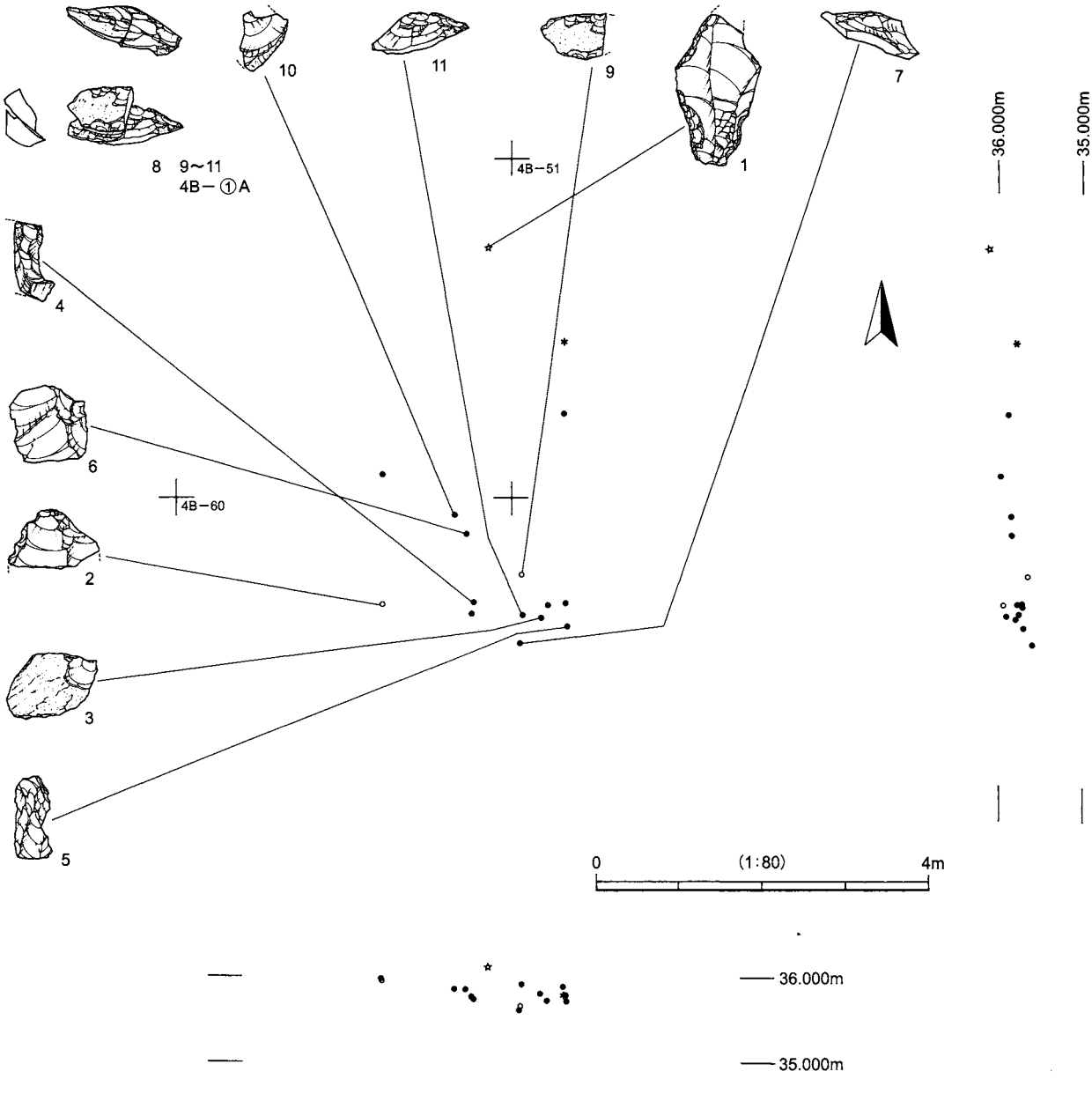
1は，メノウによるナイフ形石器である。大型の石刃ないしは縦長剥片を素材として，基部の両側と先端部の左側縁に調整加工を行っている。基部と先端の調整加工は，裏面側の細かな剥離面を介在して連続している。素材剥片の打面（複剥離打面）は残されている。



第430図　4B-Aブロック出土遺物実測図

2は，珪質頁岩による加工痕ある剥片である。不定型の剥片を素材として，左右両側縁に調整加工が行われており，素材の打面は調整加工によって切られている。また，下半部は欠損しており，全体の形状は不明である。

3～7は，珪質頁岩による不定型の剥片である。打面は幅広く，表面の剥離方向は概ね裏面と同一方向であることから，打面と作業面を入れ替える交互剥離の手順で，打点の左右へのブレは小さかったと考えられる。



第431図　4B-Aブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－

4）接合資料とその関連資料（第430図）

・4B-①（第430図８～11）　黒紫色の珪質頁岩で，加工痕ある剥片１点，剥片４点で構成される。

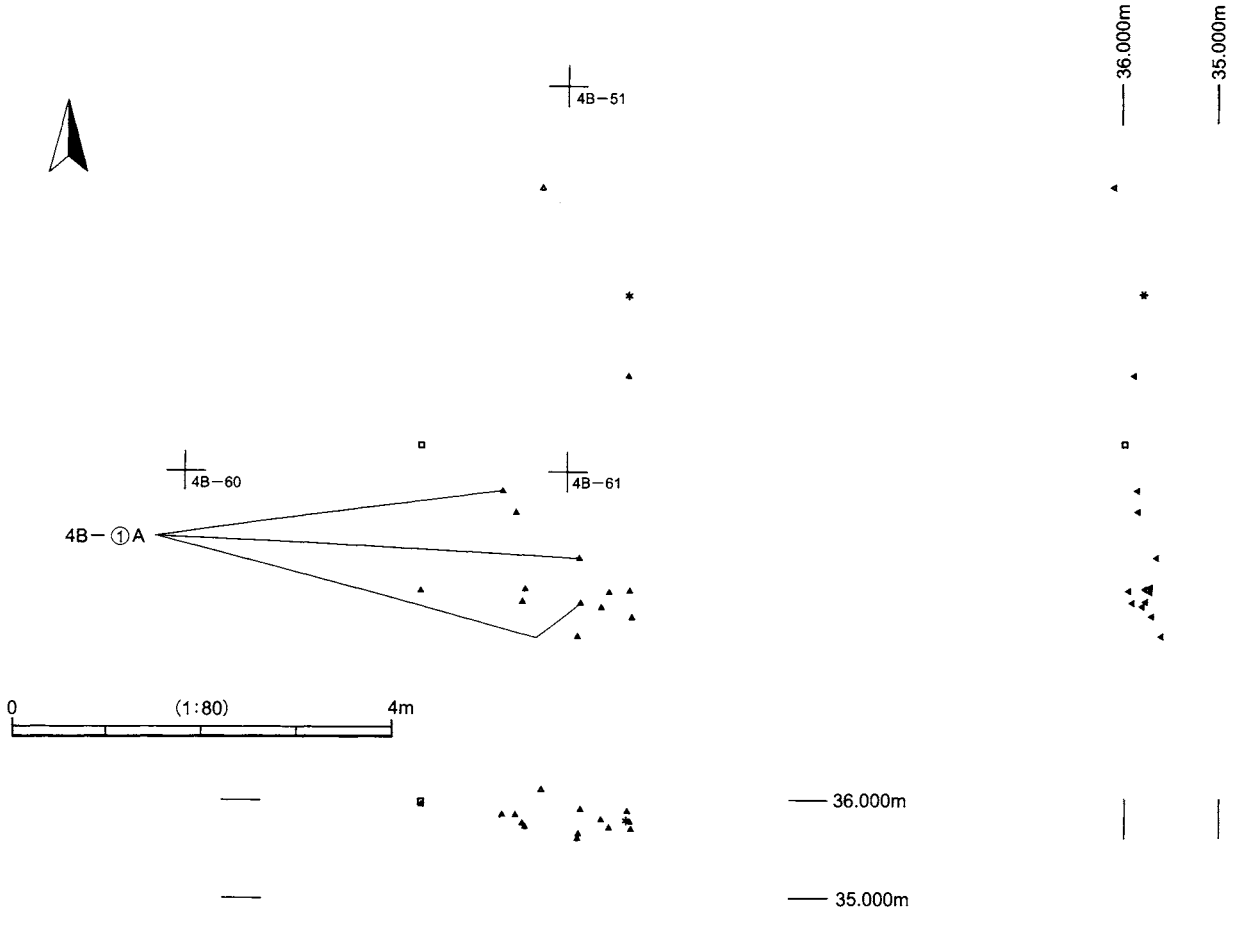
８は，剥片３点（９～11）の接合資料である。剥片を素材とする板状の石核を用いたと考えられるが，同一の打面から９→10→11の順に幅広不定型の剥片を剥離している。なお，９，10は剥離時に打点で二つに割れている。

第169表　4B-Aブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
4B-①(Csh)										1									4			5		5
4B-②(Csh)										1									6			7		7
4B-③(Csh)																			1			1		1
4B-④(Ag)	1																					1		1
その他(Ho)																			1			1		1
4BR-①(Rh)																							1	1
合　計	1									2									12			15	1	16

第170表　4B-Aブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
流紋岩(Rh)																							1	1
珪質頁岩(Csh)										2									11			13		13
メノウ(Ag)	1																					1		1
ホルンフェルス(Ho)																			1			1		1
合　計	1									2									12			15	1	16



第432図　4B-Aブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－

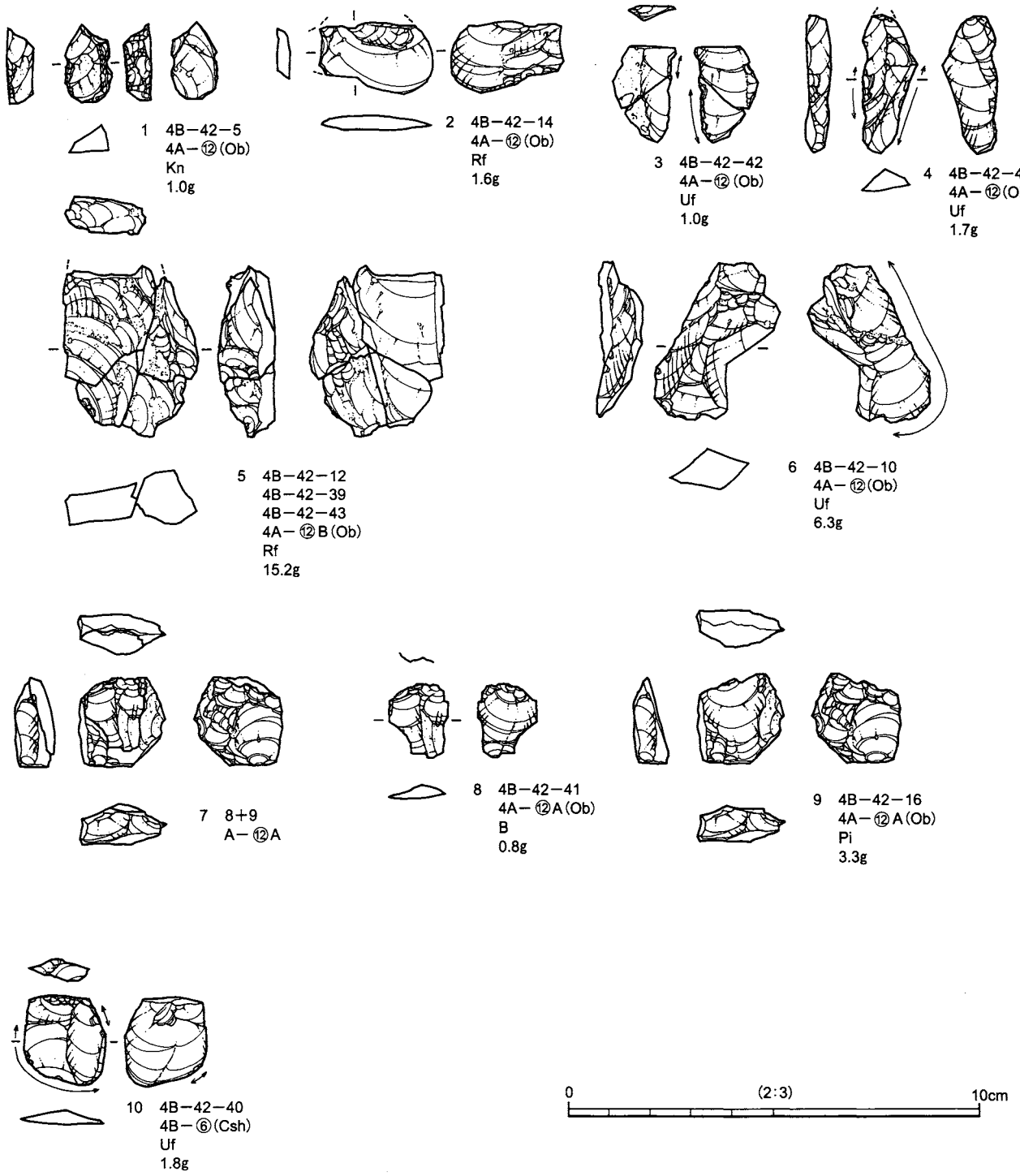
3　4B-Bブロック（第433～436図，第171・172表）

1）ブロックの概要

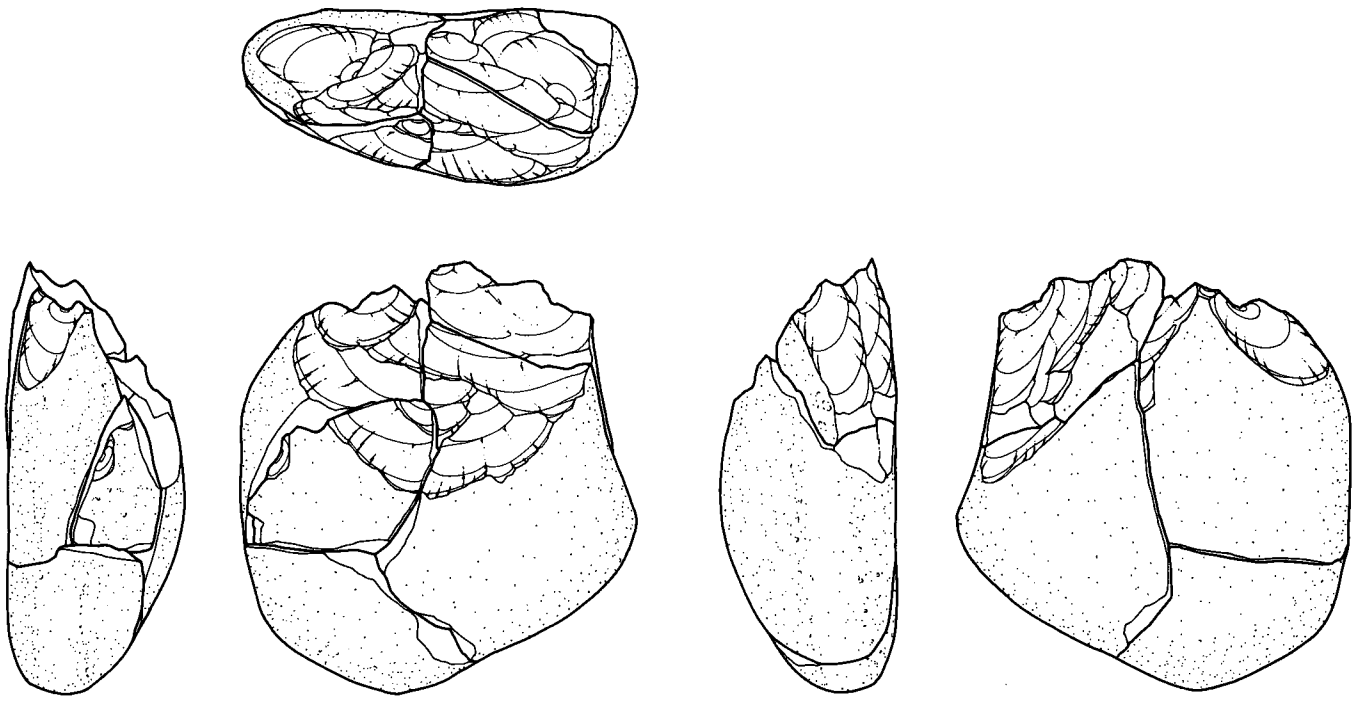
4B-Bブロックは，調査範囲中央の4B-41・42・51・52グリッドに位置する。ブロックの立地は，丘陵頂部にある70m四方ほどの平坦面上である。

ブロックの規模と形状は，直径の５ｍの範囲に24点の石器・礫が散漫に分布する。出土層位はⅦ～Ⅸ層で，50cmほどの高低差をもって水平に包含されている（第435・436図）。

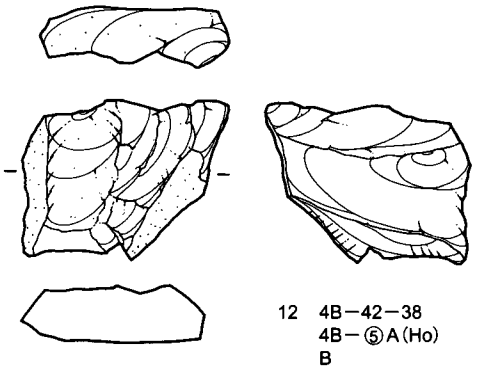
ブロックは，ナイフ形石器１点，楔形石器１点，加工痕ある剥片４点（２個体），使用痕ある剥片４点，剥片７点，砕片２点，石核４点（１個体），礫１点の合計24点（19個体）で構成される。石器石材は，黒



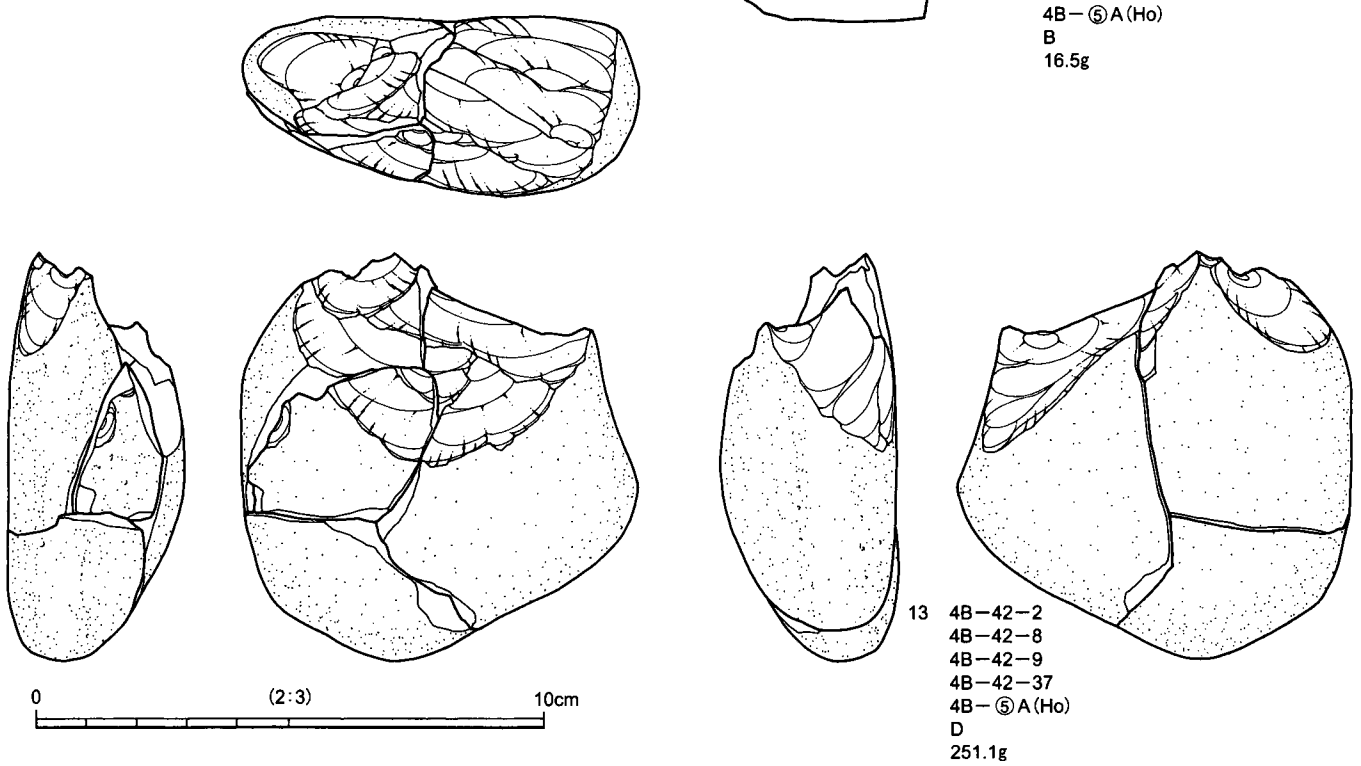
第433図　4B-Bブロック出土遺物実測図（１）



11　12＋13
4B－⑤A



12　4B－42－38
4B－⑤A(Ho)
B
16.5g



0　(2:3)　10cm

13　4B－42－2
4B－42－8
4B－42－9
4B－42－37
4B－⑤A(Ho)
D
251.1g

第434図　4B-Bブロック出土遺物実測図（2）

曜石15点，安山岩１点，安山岩トロトロ１点，珪質頁岩１点，ホルンフェルス５点，礫石材は，流紋岩１点である。

なお，本ブロックの外縁部から出土した礫は，16cm×12cm×８cmの大型の円礫１点で，被熱の痕跡は見られないものである。硬質ではあるが石の目が強く，剥片石器の素材には不向きである。また，肉眼観察では敲打痕，擦痕なども見られない。用途不明の礫である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは３母岩を識別した。内訳は，黒曜石１母岩（4A-⑫），珪質頁岩１母岩（4B-⑥），ホルンフェルス１母岩（4B-⑥）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は91％（21／23点）である。

・4A-⑫：母岩の特徴は4A-Ｂブロックで記したとおり，灰色不透明の黒曜石である。ただし，本ブロックの資料の中には灰色から褐色に漸移的に変化するものもある。また，黄灰色の不純物が層状に見られる。

石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，楔形石器１点，加工痕ある剥片４点（２個体），使用痕ある剥片３点，剥片４点，砕片２点の合計15点（13個体；32.2ｇ）である。接合資料は，楔形石器１点と剥片１点によるもの（接合資料Ａ；4.1ｇ），加工痕ある剥片３点が接合して１個体になるもの（接合資料Ｂ；15.2ｇ）の２グループがある。また，同一母岩は4A-Bブロックに４点分布する。

・4B-⑤：表面黄褐色に風化しているが，内部は黒灰色で比較的硬質の泥岩質のホルンフェルスである。石器群の内訳は，剥片１点，石核４点（１個体）の合計５点（２個体；267.6ｇ）で，すべてが接合する。原石は，やや扁平な拳ほどの大きさの円礫である。

・4B-⑥：灰緑色の嶺岡産珪質頁岩である。使用痕ある剥片１点（1.8ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，安山岩（トロトロ石）の剥片２点（合計1.3ｇ）がある。

３）出土遺物（第433図）

１～９は，黒曜石による同一母岩（4A-⑫母岩）の石器類である。

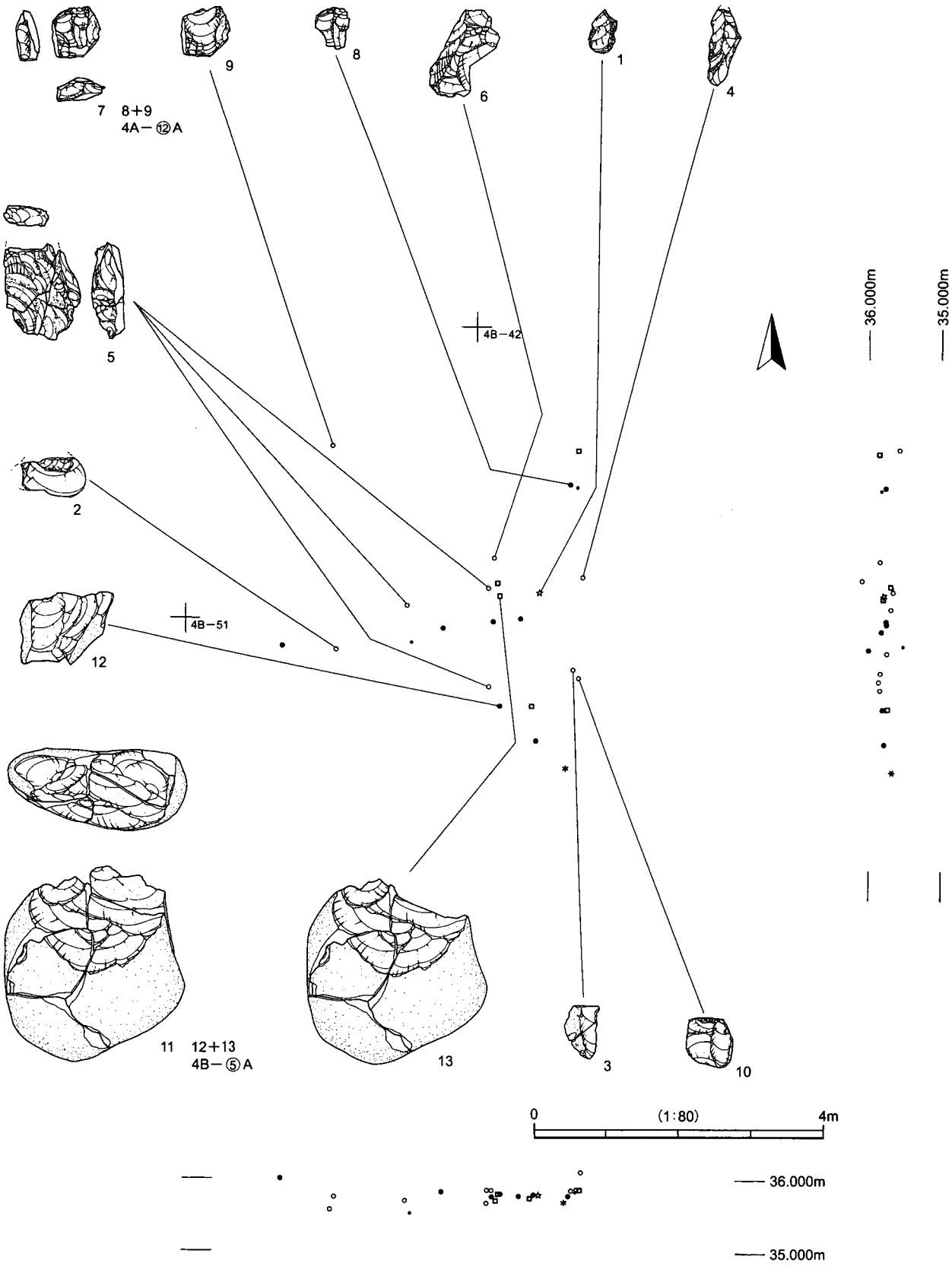
１は，不定型の剥片を用いた小型２側縁調整のナイフ形石器である。素材剥片を縦位に用い，右側縁全体と左側縁の基部側に調整加工を行っている。右側縁の調整は表裏両面から行っており，加工面は表裏と直交する。

第171表　4B-Ｂブロック母岩別石器組成表

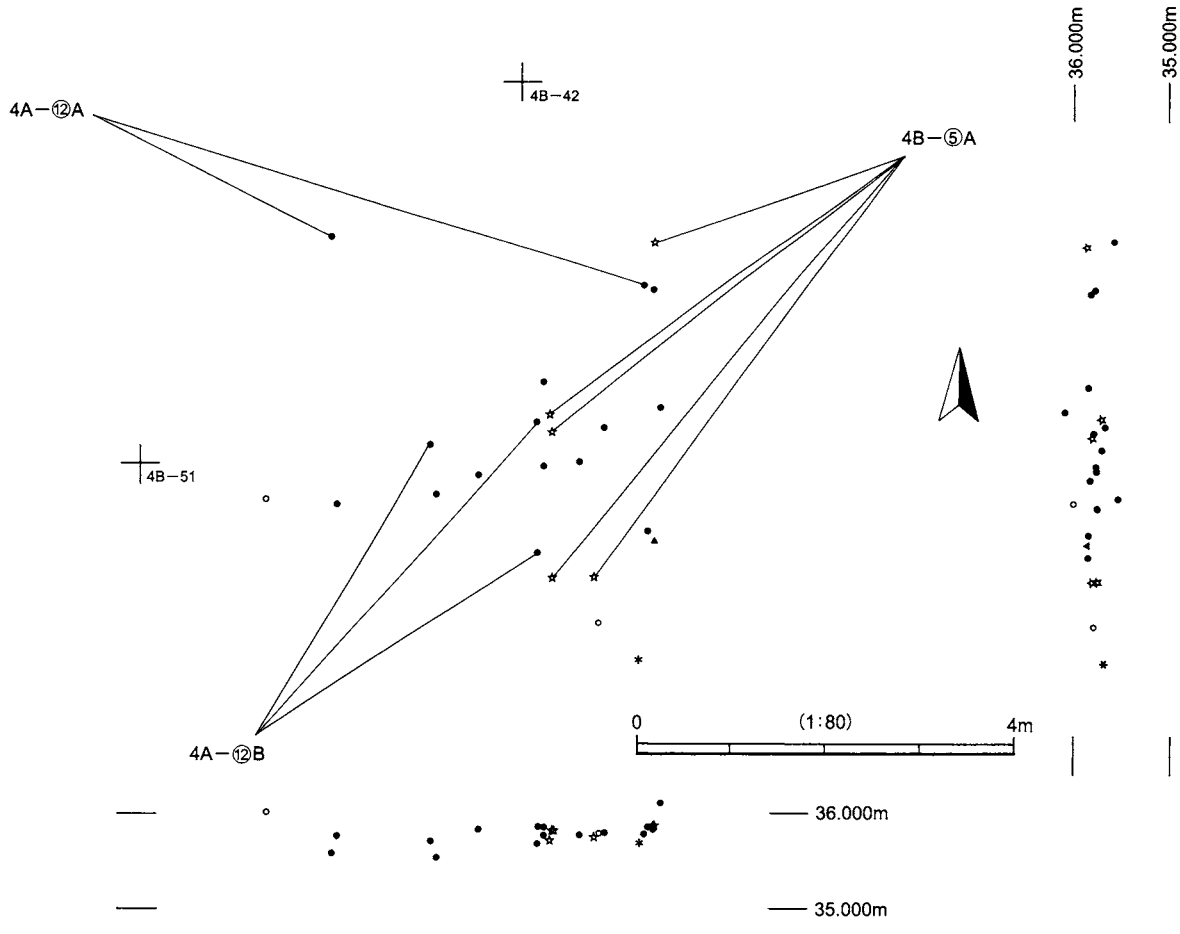
母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
4A-⑫(Ob)	1								1	4(2)	3								4	2		15(13)		15(13)
4B-⑤(Ho)																			1		4(1)	5(2)		5(2)
4B-⑥(Csh)											1											1		1
その他(An)																			1			1		1
その他(Ant)																			1			1		1
4BR-②(Rh)																							1	1
合　計	1								1	4(2)	4								7	2	4(1)	23(18)	1	24(19)

第172表　4B-Ｂブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)	1								1	4(2)	3								4	2		15(13)		15(13)
安山岩(An)																			1			1		1
安山岩(Ant)																			1			1		1
流紋岩(Rh)																							1	1
珪質頁岩(Csh)											1											1		1
ホルンフェルス(Ho)																			1		4(1)	5(2)		5(2)
合　計	1								1	4(2)	4								7	2	4(1)	23(18)	1	24(19)



第435図　4B-Bブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



第436図　4B-Bブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－

2は，横長剥片を素材とする加工痕ある剥片である。裏面の末端部に細かな調整加工が見られる。素材の打面部周辺は欠損する。5は，不定型厚手の剥片を用いた加工痕ある剥片である。裏面の左側に素材の主要剥離面を切る剥離面がある。なお，石材に含まれている不純物の層に沿って割れており，3点が接合して1個体となっているが，打面部は欠損する。

3・4・6は，各種剥片を利用した使用痕ある剥片である。

7は，楔形石器1点（9）とその調整剥片（8）の接合資料である。9の楔形石器は，表裏両面ともに上下方向からの剥離面に覆われており，左側面には楔形石器通有の縦方向の折れ面が見られる。ただし，上縁は比較的鋭利で潰れてはおらず，いっぽう下端は平坦な剥離面で，縦断面が紡錘形ないしは凸レンズ形になっていないなど，楔形石器の典型例とは異なる。

10は，珪質頁岩による不定型の剥片を用いた使用痕ある剥片である。末端部を中心に，刃こぼれが見られる。

4）接合資料とその関連資料（第434図）

・4B-⑤（第434図11～13）　表面黄褐色に風化したの泥岩質のホルンフェルスで，剥片1点，石核4点（1個体）で構成される。

11は，剥片1点（12）と石核4点（1個体；13）の接合資料である。拳ほどでやや扁平な円礫を石核の

素材とし，交互剥離によって上端から中型不定型の剥片を剥離している。12もその過程で剥離されたものである。その後，石核は４点に割れ，作業は終了している。

4　4B-Dブロック（第437～439図，第173・174表）

1）ブロックの概要

4B-Dブロックは，調査範囲中央の4B-73・74・83～85グリッドに位置する。ブロックの立地は，丘陵頂部にある70m四方ほどの平坦面上である。

ブロックの規模と形状は，長軸10m，短軸５mの楕円形の範囲に９点の石器・礫が散漫に分布する。出土層位はⅦ～Ⅸ層で，60cmほどの高低差をもって包含されている（第437・438図）。

ブロックは，楔形石器１点，使用痕ある剥片３点，剥片４点，礫１点の合計９点で構成される。石器石材は，黒曜石４点，流紋岩２点，珪質頁岩１点，チャート１点，礫石材は，チャート１点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは６母岩を識別した。内訳は，黒曜石３母岩（4B-⑦～⑨），流紋岩１母岩（4B-⑪），珪質頁岩１母岩（4B-⑩），チャート１母岩（4B-⑫）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（８／８点）である。

・4B-⑦：漆黒色不透明の地に青みがかった灰色の縞が平行して入る黒曜石である。φ0.5～１㎜の白色で細かい夾雑物を多量に含んでいる。本ブロックには剥片２点（53.6ｇ）が分布する。

なお，同一母岩が4B-Hブロックに１点，4B-Gブロックに１点，5B-Cブロックに１点ある。

・4B-⑧：黒色不透明で，薄黄色で不整形の夾雑物を含む黒曜石である。使用痕ある剥片１点（17.9ｇ）の単独資料である。

・4B-⑨：黒色不透明で，灰色でφ２㎜ほどの球形の夾雑物を含む黒曜石である。上記4B-⑦・⑧に比べて表面に光沢がある。栃木県高原山産と考えられる。楔形石器１点（4.7ｇ）の単独資料である。

・4B-⑩：節理は橙褐色，内部は緑がかった暗灰色の嶺岡産珪質頁岩である。使用痕ある剥片１点（12.4ｇ）の単独資料である。

・4B-⑪：自然面は淡褐色，内部は黄褐色の流紋岩である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（18.6ｇ）で，両者は接合する。

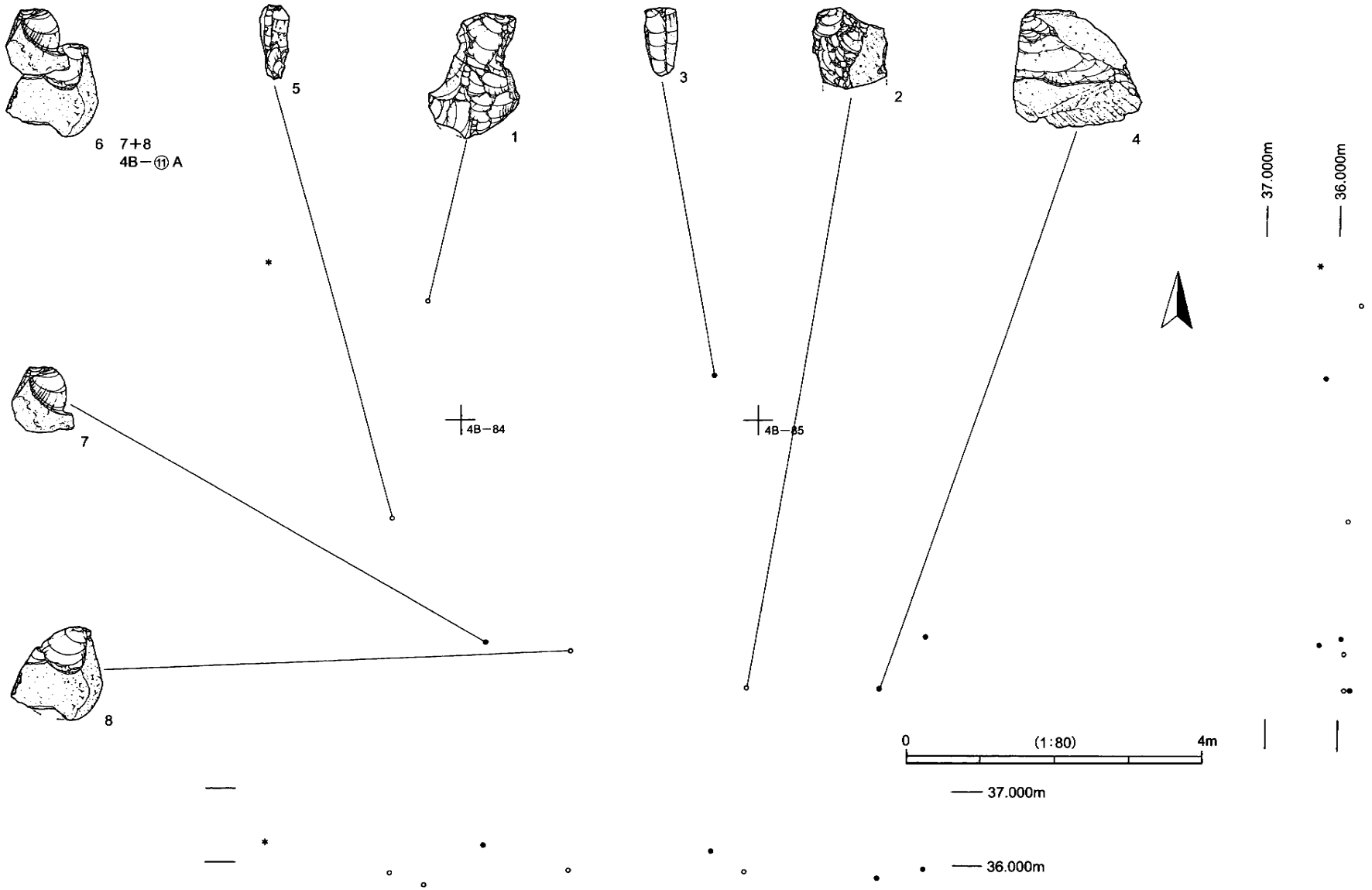
・4B-⑫：節理面は橙褐色，内部は青灰色のチャートである。剥片１点（2.5ｇ）の単独資料である。

第173表　4B-Dブロック母岩別石器組成表

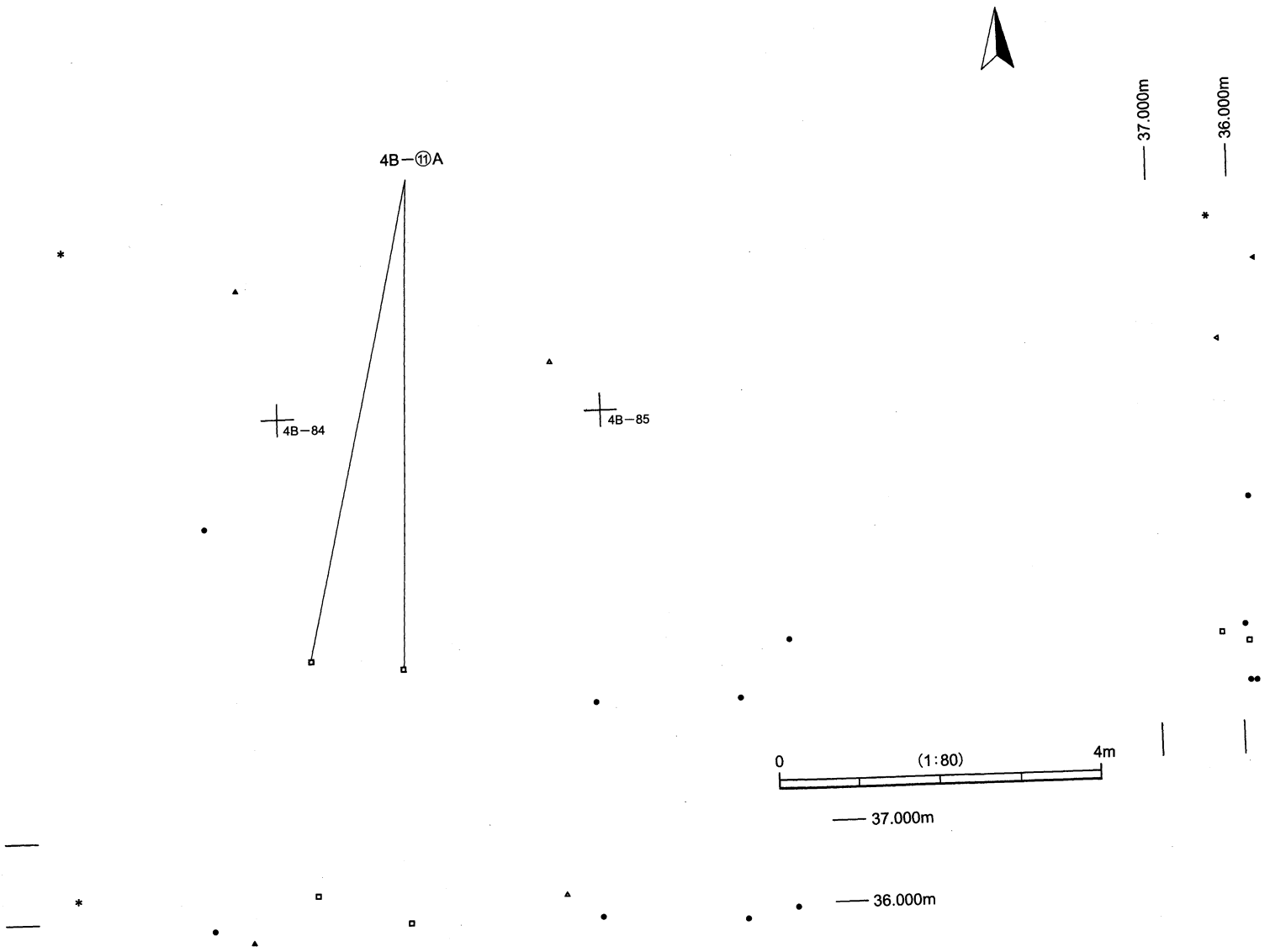
母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
4B-⑦(Ob)																			2			2		2
4B-⑧(Ob)											1											1		1
4B-⑨(Ob)									1													1		1
4B-⑩(Csh)											1											1		1
4B-⑪(Rh)											1								1			2		2
4B-⑫(Ch)																			1			1		1
その他(Ch)																							1	1
合　計									1		3								4			8	1	9

第174表　4B-Dブロック石材別石器組成表

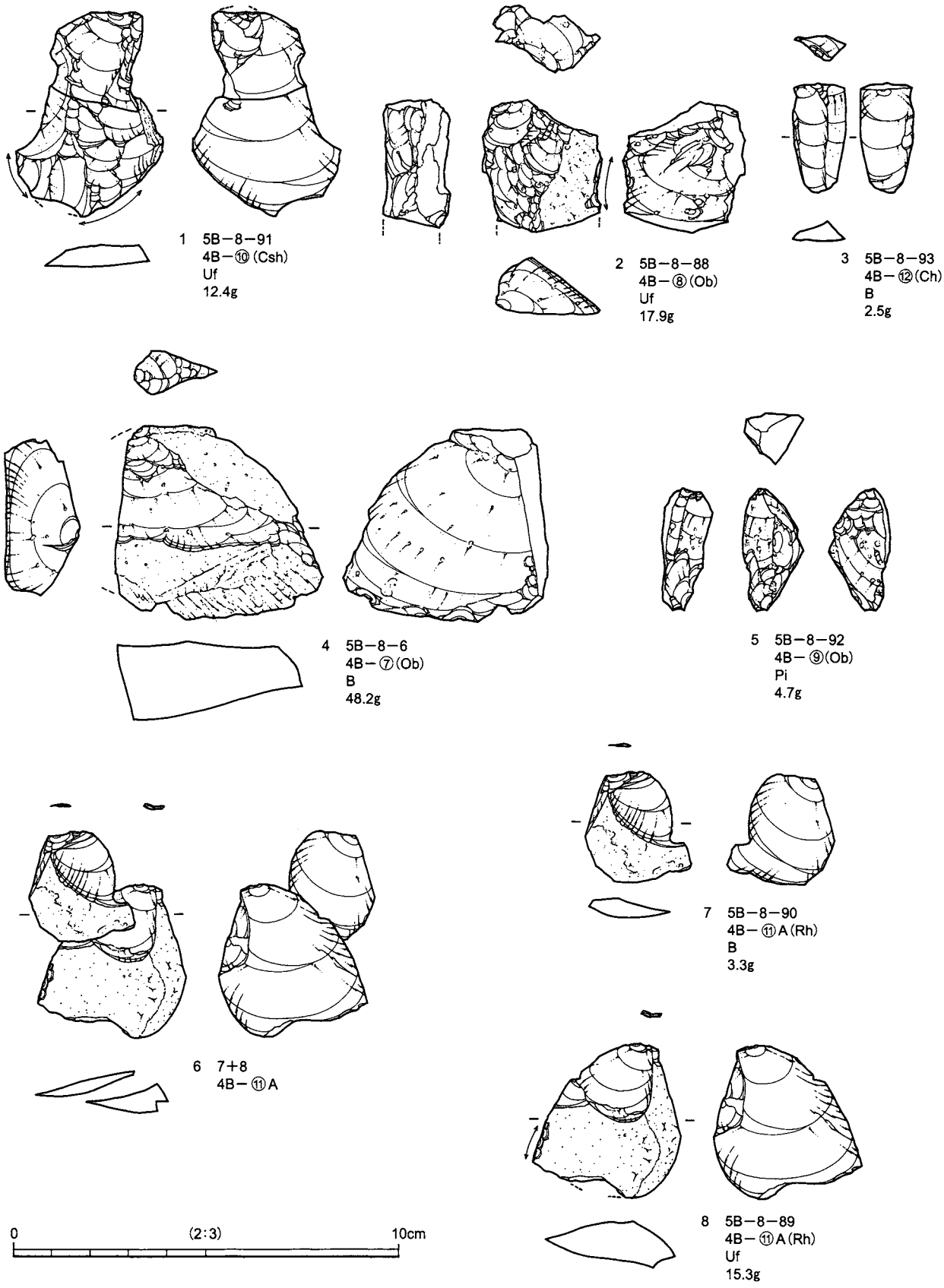
石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)									1		1								2			4		4
流紋岩(Rh)											1								1			2		2
珪質頁岩(Csh)											1											1		1
チャート(Ch)																			1			1	1	2
合　計									1		3								4			8	1	9



第437図　4B-Dブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



第438図　4B-Dブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－



第439図　4B-Dブロック出土遺物実測図

3）出土遺物（第439図）

1は，珪質頁岩による不定型の剥片を利用した使用痕ある剥片である。末端部に刃こぼれがある。表面の剥離面は，裏面と同一方向から左90度にかけての方向で構成されており，打点が石核の周囲を廻ることが推定される。2は，黒曜石による厚手の不定型な剥片を利用した使用痕ある剥片である。

5は，黒曜石による楔形石器である。裏面に素材の主要剥離面が広く残り，上下両端は潰れている。

3は，チャートによる縦長剥片である。4は，黒曜石による横長剥片で，左側は欠損する。表面には自然面（角礫面）が広く残る。

4）接合資料とその関連資料（第439図）

・4B-⑪（第439図6～8）　黄褐色の流紋岩で，使用痕ある剥片1点，剥片1点で構成される。

6は，使用痕ある剥片1点（8）と剥片1点（7）の接合資料である。7→8の順に剥離しているが，打面の高さが異なっていることから，交互剥離を行った可能性が高い。両者の表面には，湾曲が強く滑らかな円礫面が広く残っており，拳よりも小振りな円礫を用いた初期段階の剥片剥離作業によるものであろう。なお，同一母岩がほかに見られないことから，搬入品と考えられる。

5　4B-Eブロック（第440～441図，第175・176表）

1）ブロックの概要

4B-Eブロックは，調査範囲中央の4B-76・86グリッドに位置する。ブロックの立地は，丘陵頂部にある70m四方ほどの平坦面上である。

ブロックの規模と形状は，長軸7m，短軸2mの楕円形の範囲に6点の石器・礫が散漫に分布する。出土層位はⅦ～Ⅸ層で，ほぼ水平に包含されている（第440・441図）。

ブロックは，剥片2点，礫4点の合計6点で構成される。石器石材は，チャート1点（0.7g），凝灰岩1点（0.5g），礫石材は，チャート1点，砂岩2点，ホルンフェルス1点である。石器，礫ともに母岩分類できなかった。また，2点の石器は小型不定型の剥片であり，図示しなかった。

第175表　4B-Eブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bi	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
その他(Ch)																			1			1		1
その他(Tu)																			1			1		1
その他(Ch)																							1	1
その他(Sa)																							2	2
その他(Ho)																							1	1
合　計																			2			2	4	6

第176表　4B-Eブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bi	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
チャート(Ch)																			1			1	1	2
凝灰岩(Tu)																			1			1		1
砂岩(Sa)																							2	2
ホルンフェルス(Ho)																							1	1
合　計																			2			2	4	6

6　4B-Fブロック（第442～444図，第177・178表）

1）ブロックの概要

4B-Fブロックは，調査範囲中央の4B-67・77・87グリッドに位置する。ブロックの立地は，丘陵頂部にある70m四方ほどの平坦面上である。

ブロックの規模と形状は，4B-77グリッド北部の直径２ｍの範囲に４点，３ｍほど離れて4B-87グリッドに２点の石器が分布する。出土層位はⅦ～Ⅸ層で，40㎝ほどの高低差をもって包含されている（第442・443図）。

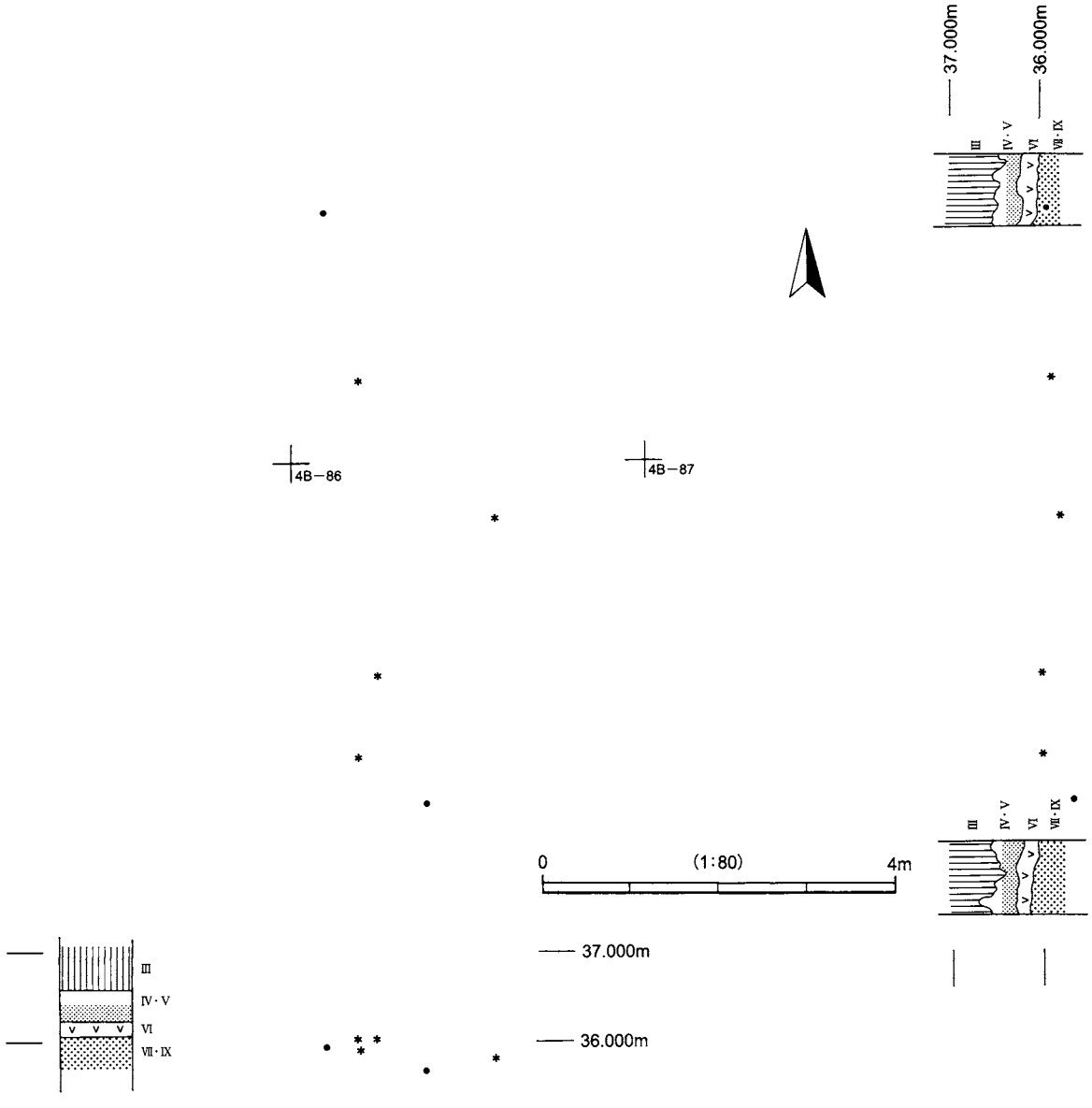
ブロックは，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片２点，剥片３点の合計６点で構成される。石材は，黒曜石４点，珪質頁岩２点である。

２）母岩の特徴と内容

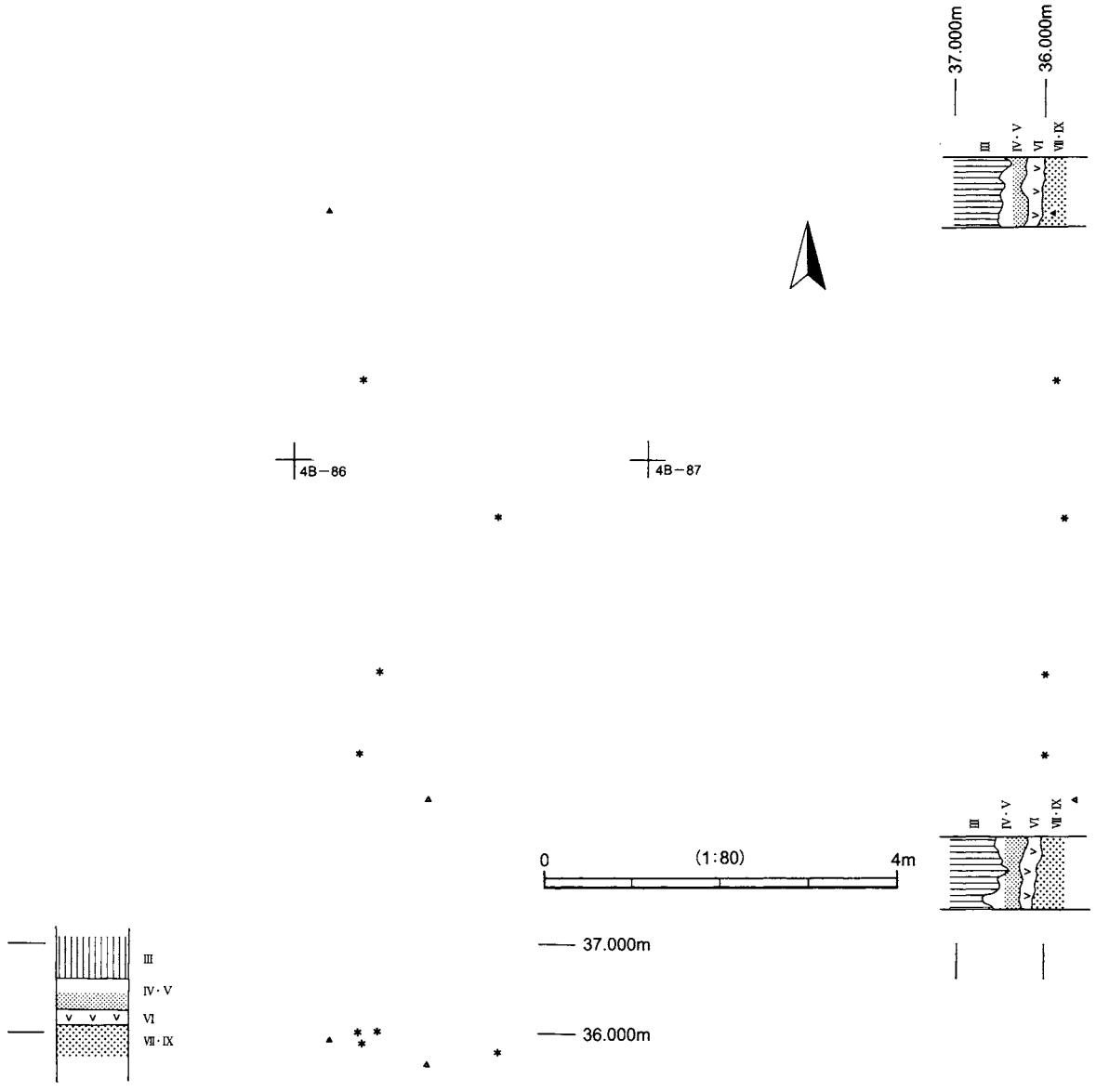
本ブロックでは４母岩を識別した。内訳は，黒曜石３母岩（4B-⑬～⑮），珪質頁岩１母岩（4B-⑯）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（６／６点）である。

・4B-⑬：黒色不透明で，φ0.5㎜～１㎜ほどの白色の夾雑物を含んだ黒曜石である。本ブロックでは剥片１点（4.3ｇ）の単独資料であるが，同一母岩が，4B-Ｈブロックに２点ある。

・4B-⑭：漆黒色不透明で，φ0.5㎜の夾雑物を多量に含む黒曜石である。本ブロックでは加工痕ある剥片



第440図　4B-Ｅブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－



第441図　4B-Ｅブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－

１点（6.9ｇ）の単独資料であるが，同一母岩が，4B-Ｈブロックに４点ある。

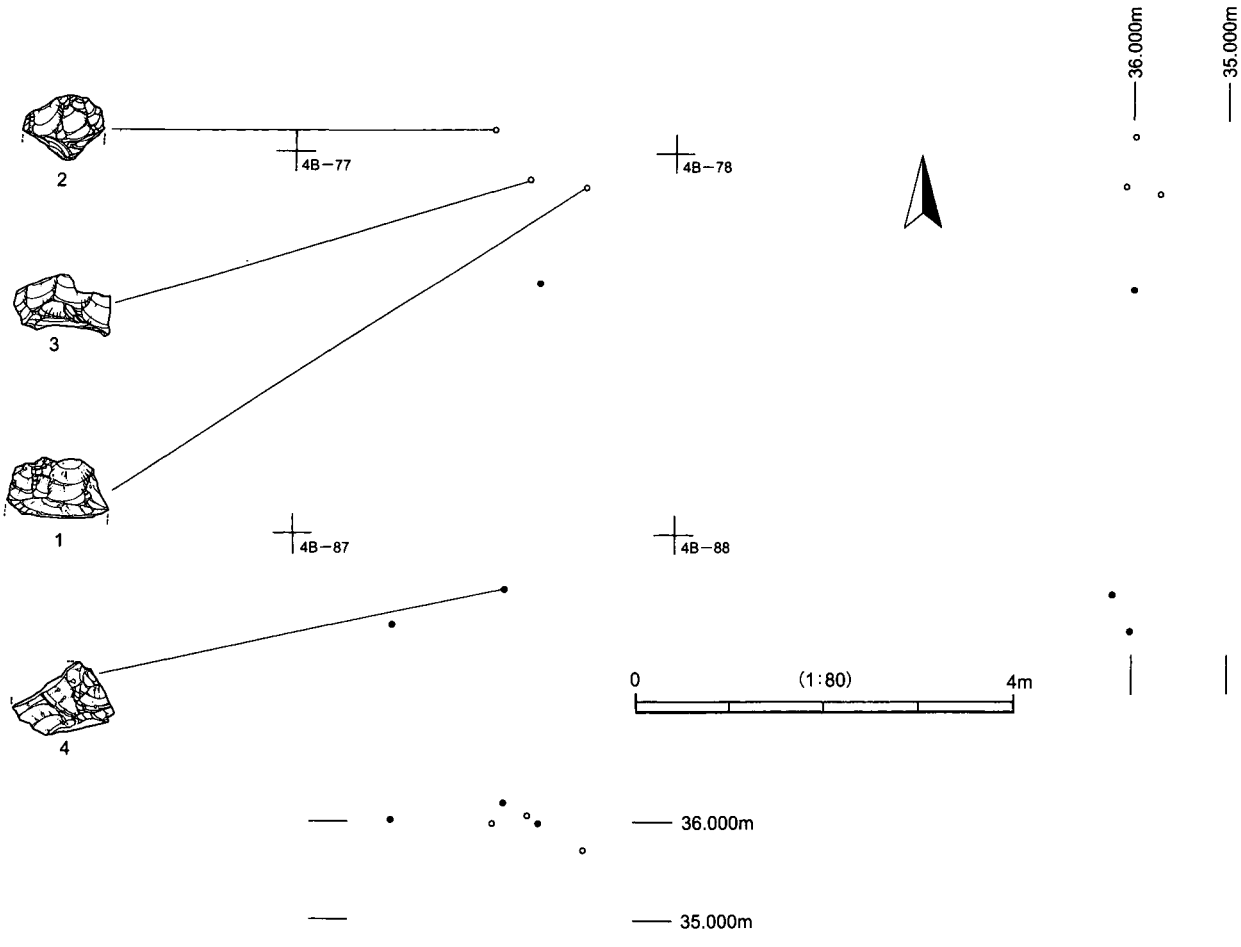
・4B-⑮：黒色不透明で灰色の縞がある黒曜石である。φ１㎜以下の夾雑物を含む。栃木県高原山産と考えられる。本ブロックでは剥片２点（4.5ｇ）で構成されるが，同一母岩が，4B-Ｈブロックに６点，5B-Ｂブロックに１点ある。

・4B-⑯：暗褐色の地に黒褐色の縞が入る珪質頁岩である。使用痕ある剥片２点（合計6.3ｇ）で構成される。

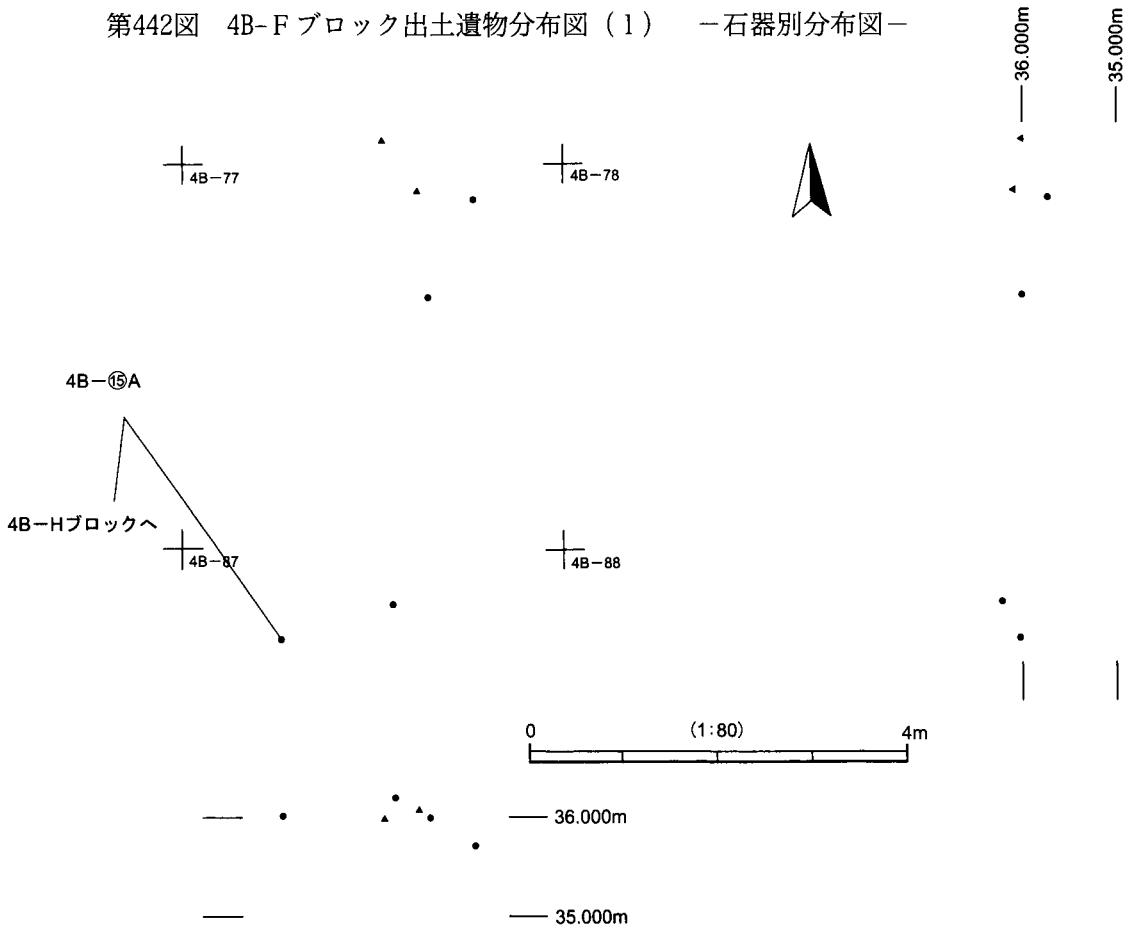
なお，本ブロックの剥片１点が，4B－Ｈブロックの剥片１点と接合して１個体（3.2ｇ）となる。

３）出土遺物（第444図）

１は，黒曜石による不定型の剥片を用いた加工痕ある剥片である。素材の打面は薄く除去され，その剥離面を表面左端の剥離面が切っている。その後，下半部は折れている。鋭利な右側縁を刃部に見立てたナ



第442図　4B-Ｆブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－



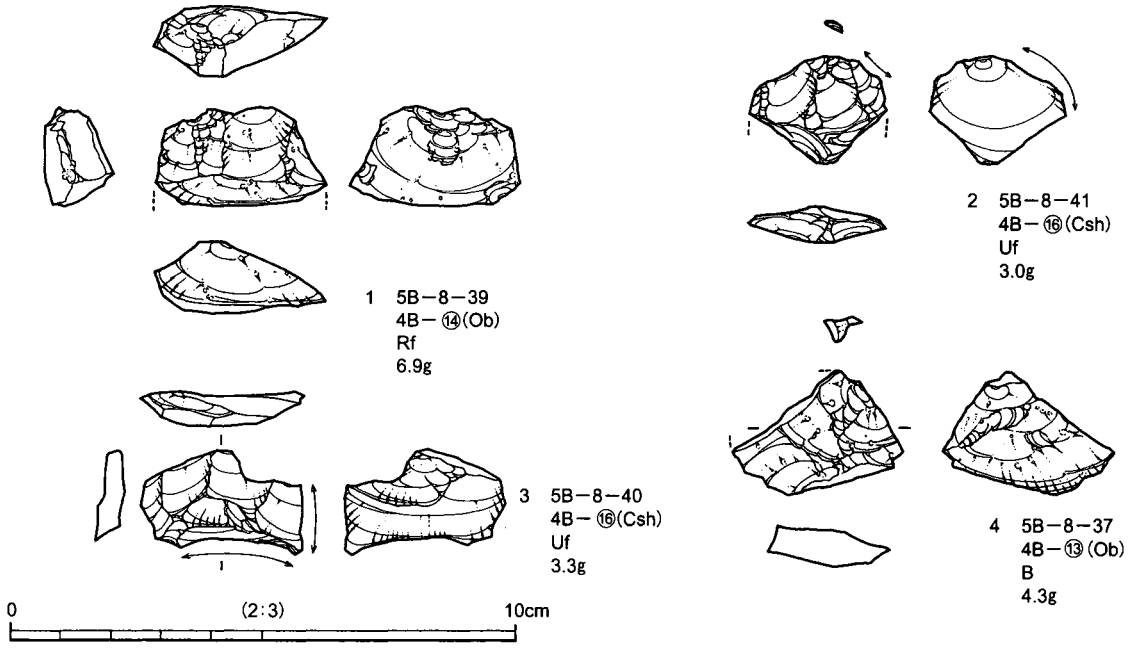
第443図　4B-Ｆブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－

第177表　4B-Fブロック母岩別石器組成表

母岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
4B-⑬(Ob)																			1			1		1
4B-⑭(Ob)										1												1		1
4B-⑮(Ob)																			2			2		2
4B-⑯(Csh)											2											2		2
合　計										1	2								3			6		6

第178表　4B-Fブロック石材別石器組成表

石材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)										1									3			4		4
珪質頁岩(Csh)											2											2		2
合　計										1	2								3			6		6



第444図　4B-Fブロック出土遺物実測図

イフ形石器等の未製品なのかも知れない。

2・3は，同一母岩の珪質頁岩による不定型な剥片を利用した使用痕ある剥片である。

4は，黒曜石による不定型の剥片で，右上半部が欠損する。表面の剥離面は上下両方向からのものであり，求心的な打点移動による石核が想定される。

7　4B-Gブロック（第445〜447図，第179・180表）

1）ブロックの概要

4B-Gブロックは，調査範囲中央の4B-78・88・89・99グリッドに位置する。ブロックの立地は，丘陵頂部にある70m四方ほどの平坦面上である。

ブロックの規模と形状は，直径5mの円形の範囲に4点の石器が散漫に分布している。出土層位はⅦ〜Ⅸ層である（第445・446図）。

ブロックは，加工痕ある剥片1点，使用痕ある剥片1点，剥片1点，石核1点の合計4点で構成される。石材は，黒曜石2点，珪質頁岩1点，チャート1点である。

2）母岩の特徴と内容

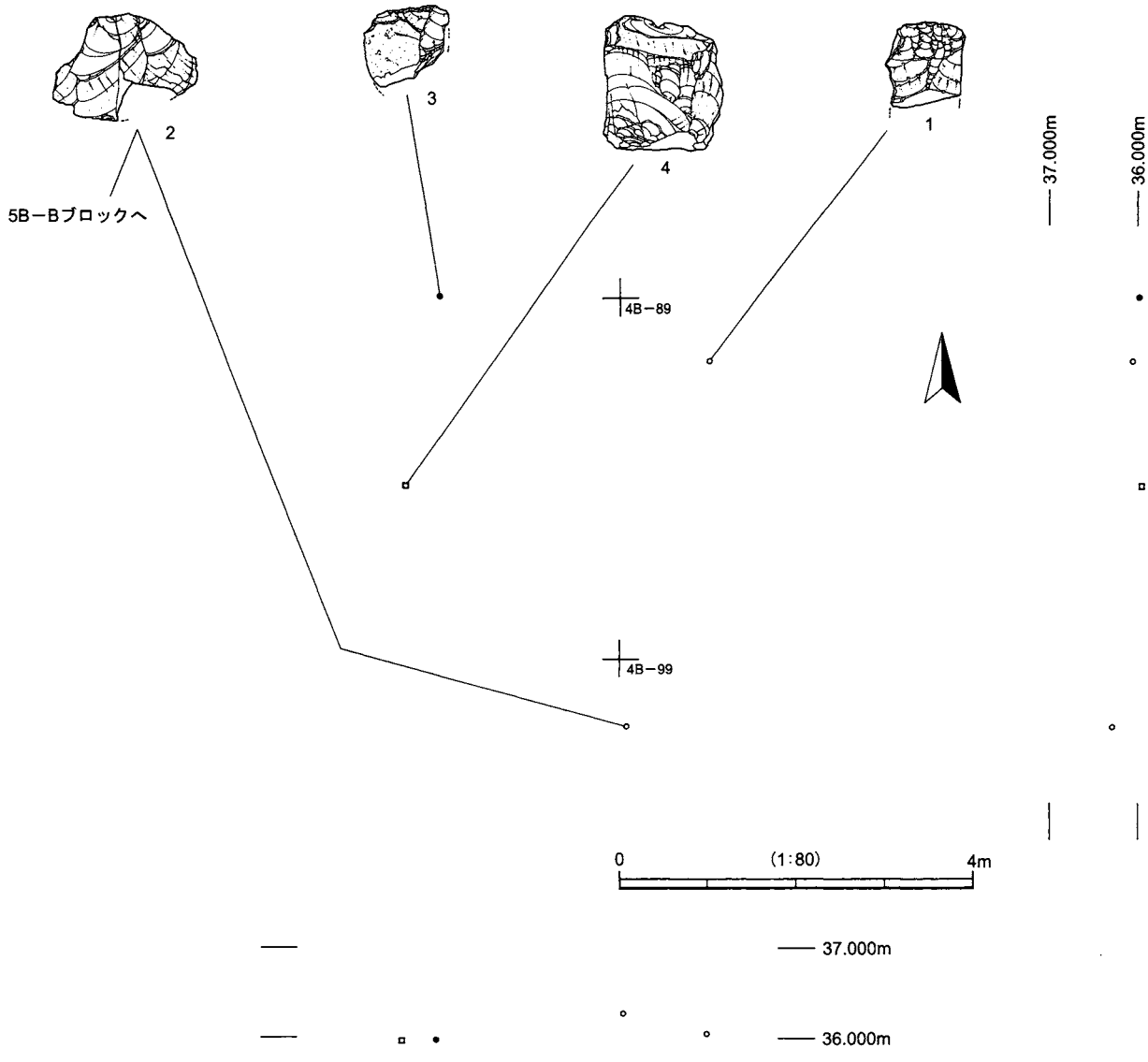
本ブロックでは４母岩を識別した。内訳は，黒曜石２母岩（4B-⑦・⑰），珪質頁岩１母岩（4B-⑱），チャート１母岩（4B-⑲）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（４／４点）である。

・4B-⑦：母岩の特徴は，4B-Dブロックで記したとおり，漆黒色不透明の地に青みがかった灰色の縞が平行して入る黒曜石である。本ブロックでは剥片１点（7.1ｇ）の単独資料であるが，同一母岩が4B-Dブロックに２点，4B-Hブロックに１点，5B-Cブロックに１点ある。

・4B-⑰：黒色不透明で，φ１㎜以下の細かい夾雑物を多量に含む黒曜石である。加工痕ある剥片１点（10.6ｇ）の単独資料である。

・4B-⑱：暗灰緑色の嶺岡産珪質頁岩である。使用痕ある剥片１点（6.1ｇ）の単独資料である。なお，同一母岩が5B-Bブロックに１点あり，接合して１個体（10.3ｇ）となっている。

・4B-⑲：節理面は淡褐色，内部は暗青灰色のチャートである。節理が多方向に入っており，剥離面もき



第445図　4B-Gブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－

わめて平滑で，資料は岩石標本のような立方体である。原石は大型のチャート礫か，あるいは岩体から割り出したものであろう。石核１点（74.9ｇ）の単独資料である。

3）出土遺物（第447図）

１は，黒曜石による不定型な剥片を用いた加工痕ある剥片である。裏面の右側に素材の主要剥離面を切る剥離面が連続する。また，反対の鋭利な側縁には刃こぼれがある。下半部は欠損する。

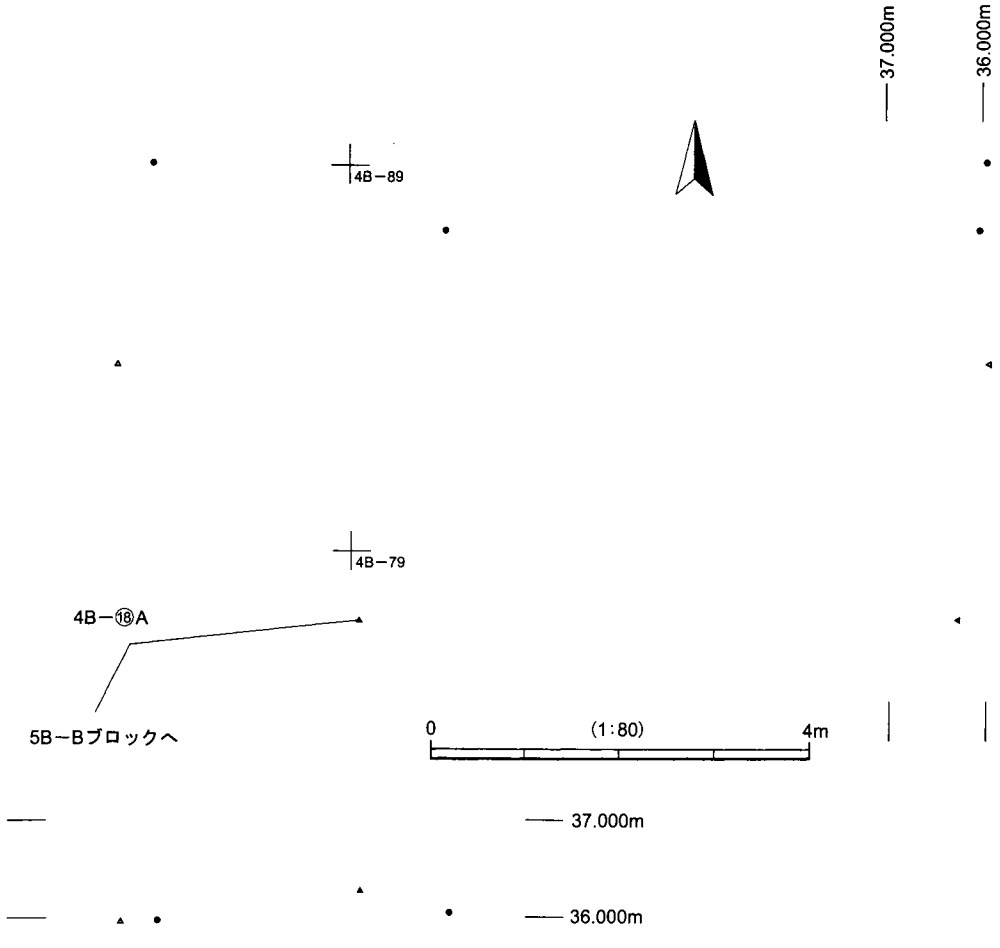
２は，珪質頁岩による横長剥片を利用した使用痕ある剥片である。右側縁と末端部に刃こぼれが見られる。なお，資料は剥片剥離時に打点で二つに割れたと考えられるもので，左半分は本ブロック，右半分は

第179表　4B-Gブロック母岩別石器組成表

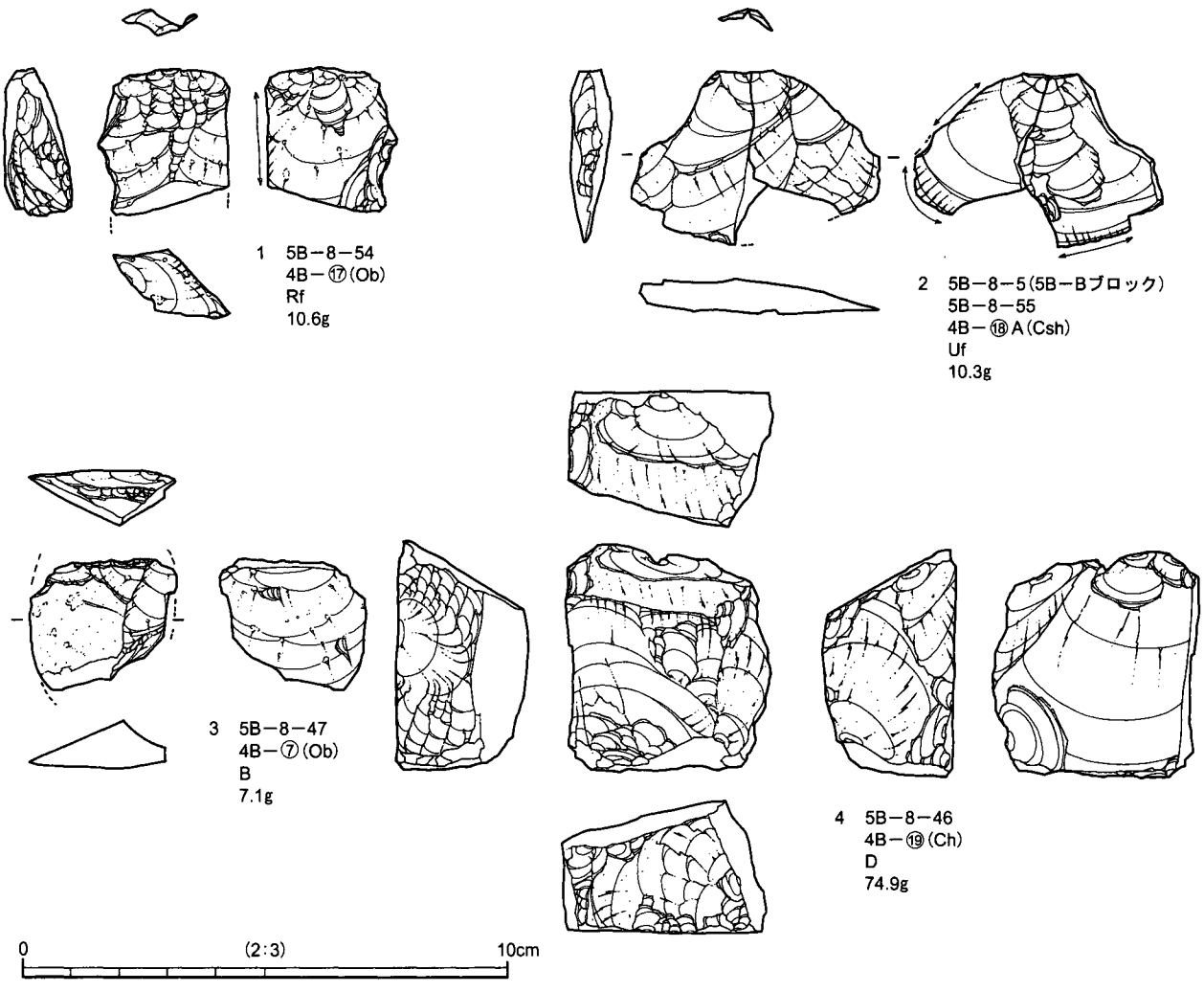
母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
4B-⑦(Ob)																			1			1		1
4B-⑰(Ob)										1												1		1
4B-⑱(Csh)											1											1		1
4B-⑲(Ch)																					1	1		1
合　計										1	1								1		1	4		4

第180表　4B-Gブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)										1									1			2		2
珪質頁岩(Csh)											1											1		1
チャート(Ch)																					1	1		1
合　計										1	1								1		1	4		4



第446図　4B-Gブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－



第447図　4B-Gブロック出土遺物実測図

5B-Bブロックに分布する。両者が割れた後に，別々に用いられたのであろう。

3は，黒曜石による不定型の剥片である。打面側及び末端部が欠損する。4は，チャートによる石核である。各所から不定型の剥片を剥離している。なお，裏面は節理に沿って割れた平滑な分割面である。

8　4B-Hブロック（第448〜450図，第181・182表）

1）ブロックの概要

4B-Hブロックは，調査範囲中央の4B-96・97，5B-06グリッドに位置する。ブロックの立地は，丘陵頂部にある70m四方ほどの平坦面上である。

ブロックの規模と形状は，長軸6m，短軸2mの範囲に15点の石器が散漫に分布する。出土層位はⅦ〜Ⅸ層で，50cmほどの高低差をもって包含されている（第448・449図）。

ブロックは，台形石器1点，使用痕ある剥片2点，剥片11点，石核1点の合計15点で構成される。石材は，黒曜石14点，珪質頁岩1点である。

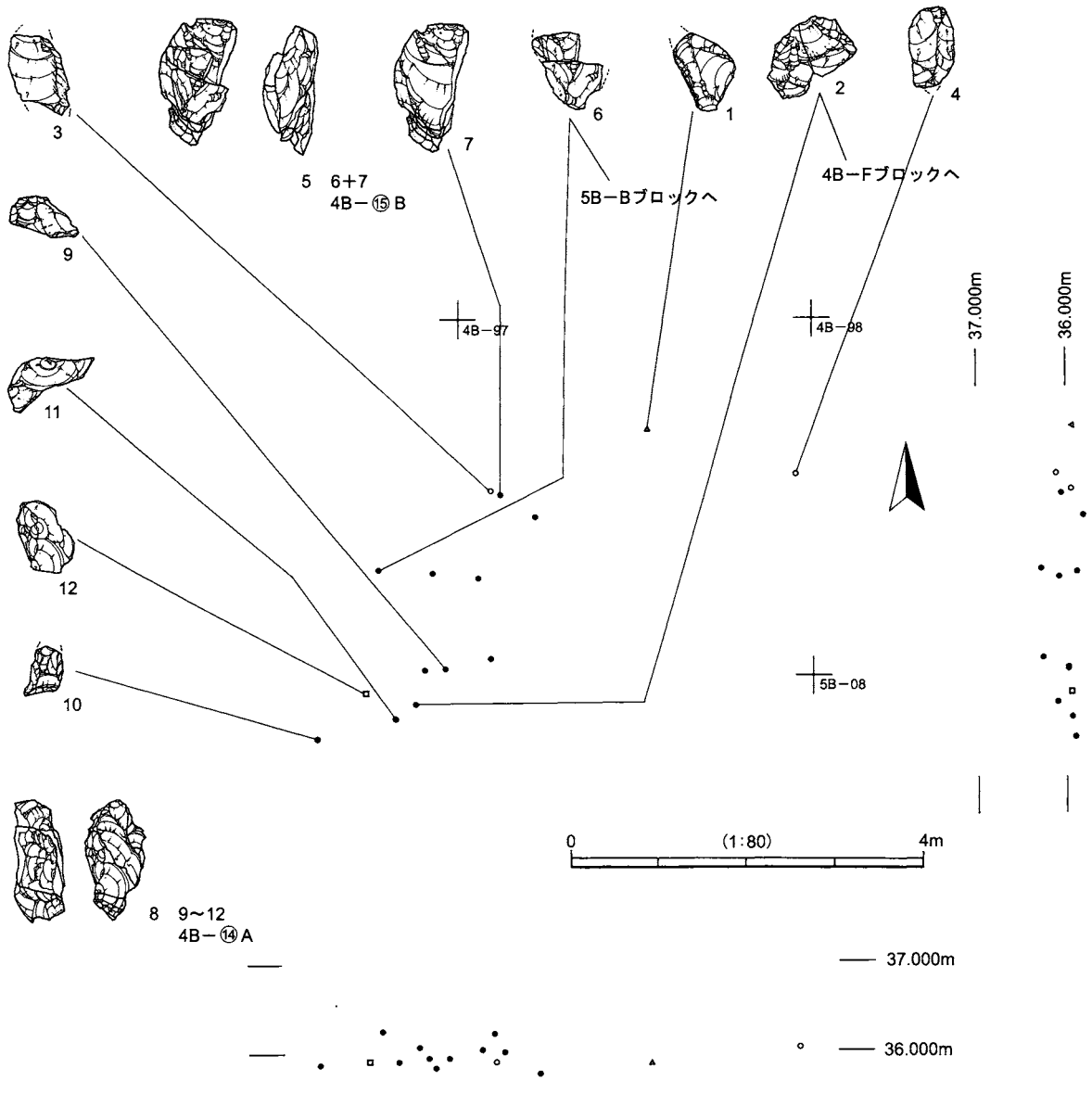
2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは５母岩を識別した。内訳は，黒曜石４母岩（4B-⑦・⑬～⑮），珪質頁岩１母岩（4B-㉒）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（15／15点）である。

・4B-⑦：母岩の特徴は，4B-Dブロックで記したとおり，漆黒色不透明の地に青みがかった灰色の縞が平行して入る黒曜石である。本ブロックでは使用痕ある剥片１点（4.1ｇ）の単独資料であるが，同一母岩が4B-Dブロックに２点，4B-Gブロックに１点，5B-Cブロックに１点ある。

・4B-⑬：母岩の特徴は，4B-Fブロックで記したとおり，黒色不透明で白色の夾雑物を含む黒曜石である。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（3.7ｇ）である。同一母岩は，4B-Fブロックに１点ある。

・4B-⑭：母岩の特徴は，4B-Fブロックで記したとおり，漆黒色不透明で，細かな夾雑物を多量に含む黒曜石である。石器群の内訳は，剥片３点，石核１点の合計４点（12.3ｇ）で，すべて接合する。同



第448図　4B-Hブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－

一母岩が，4B-Fブロックに1点ある。

・4B-⑮：母岩の特徴は，4B-Fブロックで記したとおり，黒色不透明で灰色の縞がある黒曜石である。剥片7点（合計19.0g）で構成される。接合資料は，本ブロックの剥片1点が4B-Fブロックの剥片1点と接合して1個体となるもの（接合資料A；3.2g），本ブロックの剥片2点（合計14.9g）が5B-Bブロックの剥片1点と接合するもの（接合資料B；15.9g）がある。このほかに，同一母岩が4B-Fブロックに2点ある。

・4B-㉒：淡灰緑色の嶺岡産珪質頁岩である。台形石器1点（2.9g）の単独資料である。

3）出土遺物（第450図）

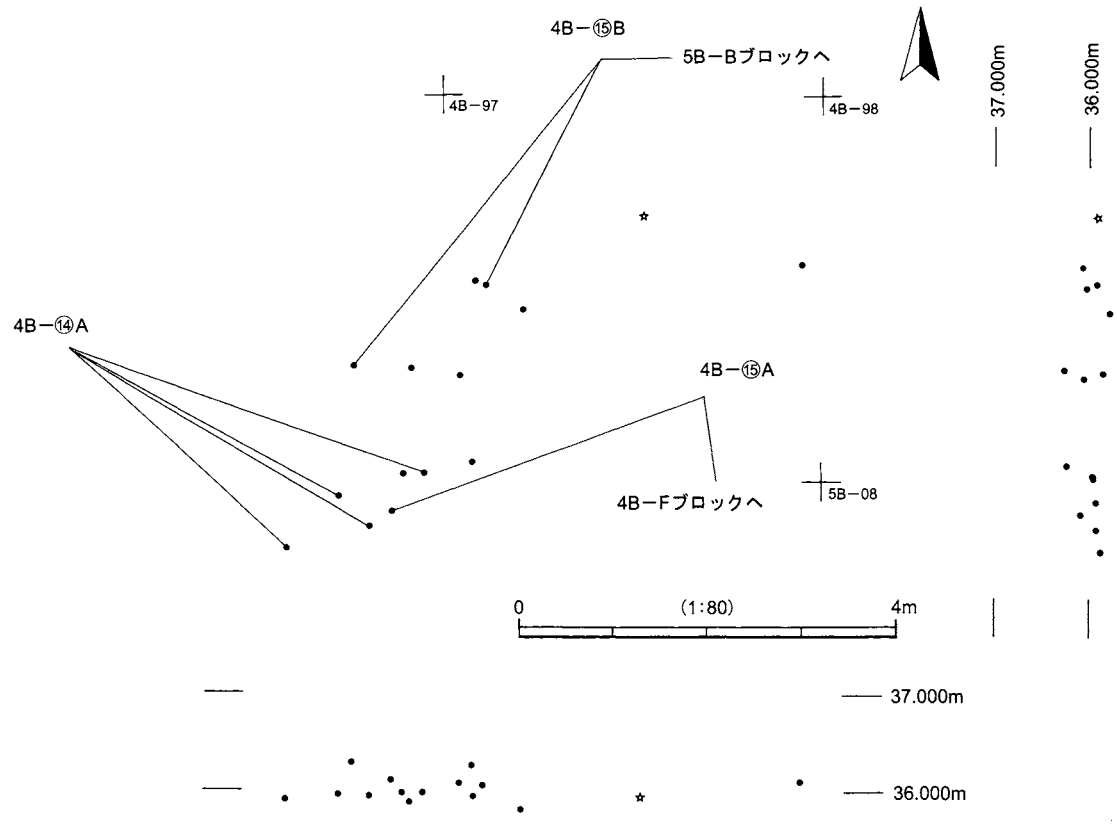
1は，珪質頁岩による台形石器である。細かく調整された打面をもつ横長剥片を素材とし，これを縦位

第181表　4B-Hブロック母岩別石器組成表

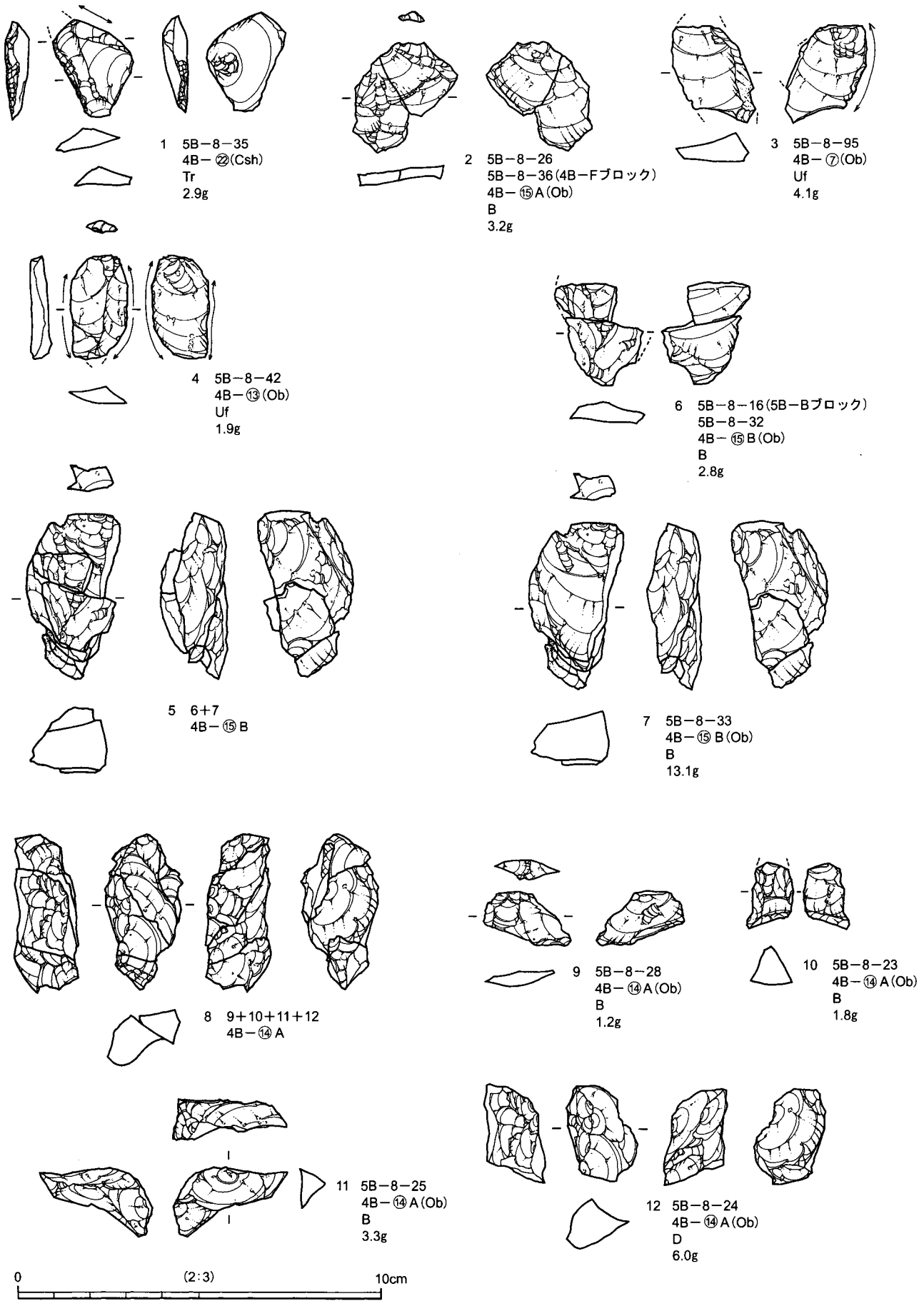
母岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
4B-⑦(Ob)											1											1		1
4B-⑬(Ob)											1								1			2		2
4B-⑭(Ob)																			3		1	4		4
4B-⑮(Ob)																			7			7		7
4B-㉒(Csh)		1																				1		1
合　計		1									2								11		1	15		15

第182表　4B-Hブロック石材別石器組成表

石材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)											2								11		1	14		14
珪質頁岩(Csh)		1																				1		1
合　計		1									2								11		1	15		15



第449図　4B-Hブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－



第450図　4B-Hブロック出土遺物実測図

に用いる。素材の打面（右側縁）をそのまま残し，末端側（左側縁）に裏面から平坦な調整加工を行って，基部としている。右側縁の先端側には刃こぼれがあり，先端は節理に沿って欠損する。

３・４は，黒曜石による縦長剥片を利用した使用痕ある剥片である。

４）接合資料とその関連資料（第450図）

・4B-⑮（第450図５～７）　黒色不透明の黒曜石で，剥片７点で構成される。

５は，不定型の剥片３点（２個体；６・７）の接合資料である。同一の打面を用いて，６→７の順に剥離している。なお，６の上部の破片は5B-Bブロックに分布する。

・4B-⑭（第450図８～12）　漆黒色不透明で，細かな夾雑物を多量に含む黒曜石で，剥片３点，石核１点で構成される。

８は，剥片２点（９・10），石核１点（11・12）の接合資料である。接合資料からは，①；分割礫を石核の素材とする。②；打面と作業面を固定せず，各所から小型不定型の剥片を剥離する。③；９と11が接合した状態で10・12から離れる。④；11から９が，12から10が剥離される。作業の内容は，母岩消費の後半段階と考えられる。

９　5B-Aブロック（第451～454図，第183・184表）

１）ブロックの概要

5B-Aブロックは，調査範囲中央の4B-93・94，5B-03・04・14グリッドに位置する。ブロックの立地は，丘陵頂部にある70m四方ほどの平坦面上である。

ブロックの規模と形状は，長軸９m，短軸６mの範囲に24点の石器が分布する。ブロック内では北側に石器群がまとまっている。出土層位はⅦ～Ⅸ層の上部を中心としており，概ね40cmほどの高低差をもって地形に沿って包含されている（第451・452図）。

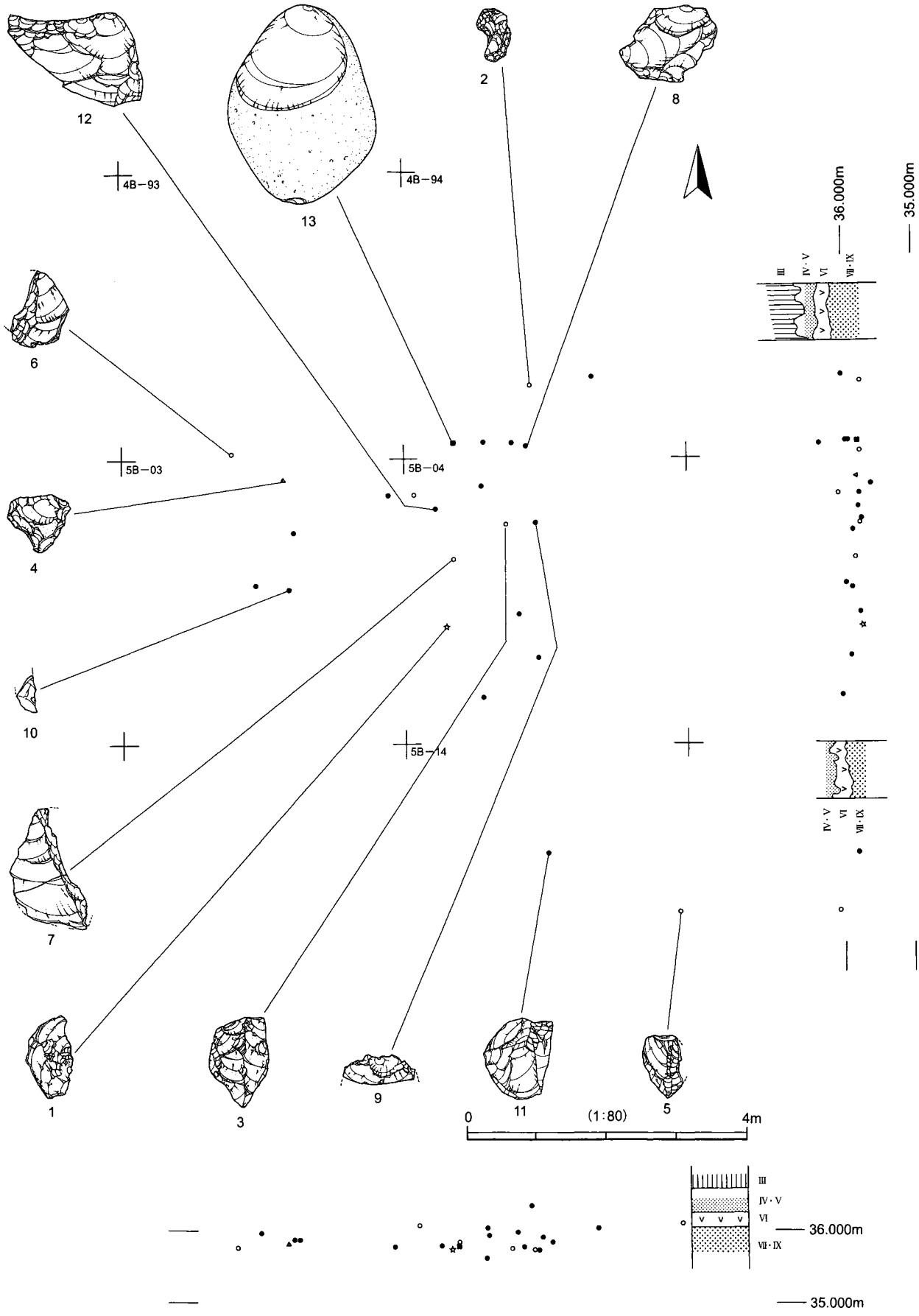
ブロックは，ナイフ形石器１点，台形石器１点，錐状石器１点，加工痕ある剥片１点，使用痕ある剥片

第183表　5B-Aブロック母岩別石器組成表

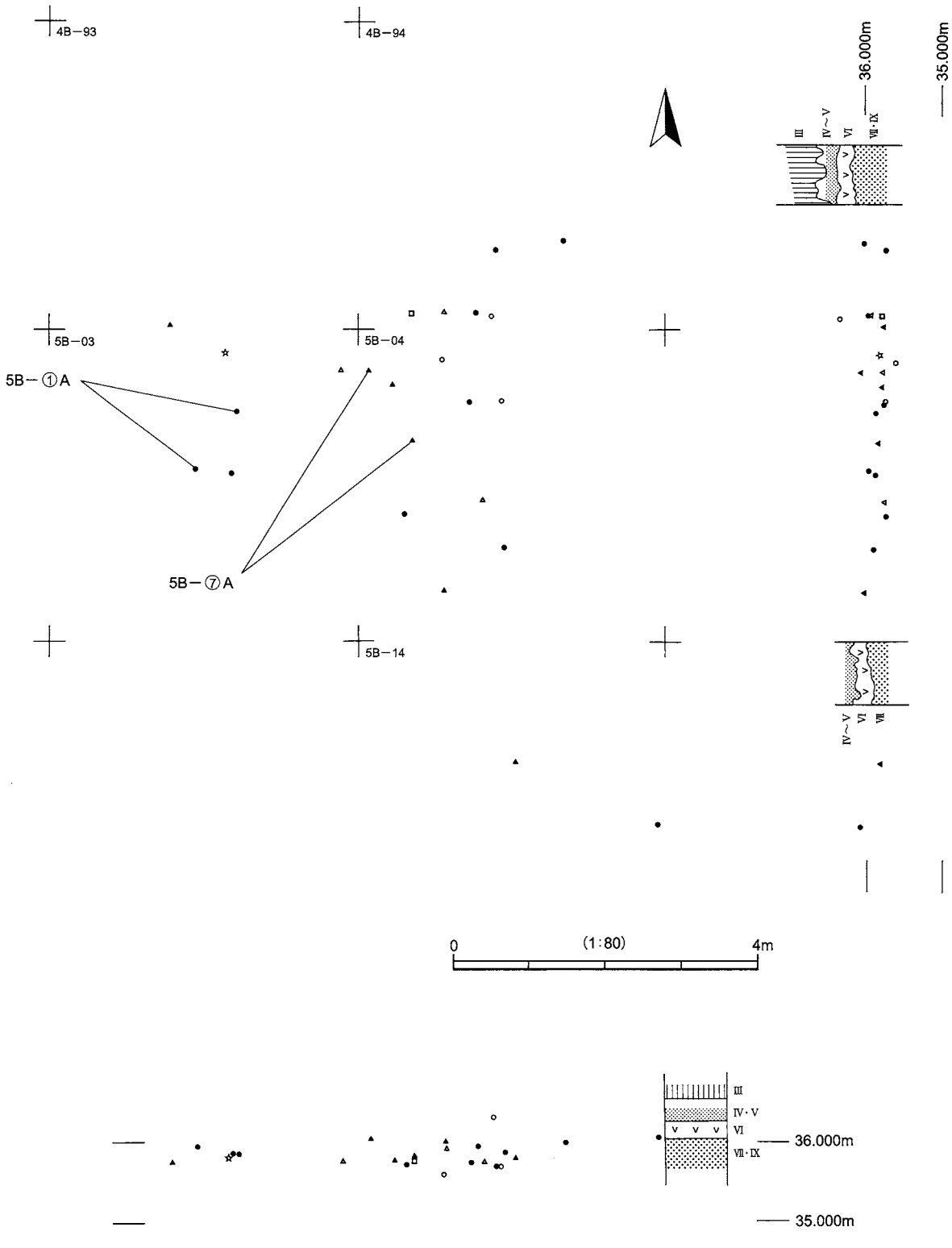
母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
5B-①(Ob)	1																		2			3		3
5B-②(Ob)											1											1		1
5B-③(Ob)								1														1		1
5B-④(An)																			2			2		2
5B-⑤(An)																			1			1		1
5B-⑥(Csh)											1											1		1
5B-⑦(Csh)											2											2		2
5B-⑧(Csh)																			1			1		1
5B-⑨(Csh)																			1			1		1
5B-⑩(Csh)																			1			1		1
5B-⑪(Ch)																			1			1		1
5B-⑫(Ch)																			1			1		1
5B-⑬(Ch)																			1			1		1
5B-⑭(Ho)		1																				1		1
5B-⑮(Rh)															1							1		1
その他(Ob)										1									4			5		5
合　計	1	1						1		1	4				1				15			24		24

第184表　5B-Aブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)	1							1		1	1								6			10		10
安山岩(An)																			3			3		3
流紋岩（Rh）															1							1		1
珪質頁岩(Csh)											3								3			6		6
チャート（Ch）																			3			3		3
ホルンフェルス(Ho)		1																				1		1
合　計	1	1						1		1	4				1				15			24		24



第451図　5B-Aブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



第452図　5B-Aブロック出土遺物分布図（2）　−石材別分布図−

４点，敲石１点，剥片15点の合計24点で構成される。石材は，黒曜石10点，安山岩３点，流紋岩１点，珪質頁岩６点，チャート３点，ホルンフェルス１点がある。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは15母岩を識別した。内訳は，黒曜石３母岩（5B-①～③），安山岩２母岩（5B-④・⑤），流紋岩１母岩（5B-⑮），珪質頁岩５母岩（5B-⑥～⑩），チャート３母岩（5B-⑪～⑬），ホルンフェルス１母岩（5B-⑭）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は83％（20／24点）である。

・5B-①：漆黒色でφ１㎜～２㎜ほどの淡褐色・灰色の夾雑物を含む黒曜石である。表面は滑らかで光沢がある。栃木県高原山産と考えられる。石器群の内訳は，ナイフ形石器１点，剥片２点の合計３点（5.7ｇ）である。接合資料は，剥片２点（合計2.1ｇ）で構成される。同一母岩が，5B-Ｂブロックに１点ある。

・5B-②：透明の地に黒色の縞が平行して多数入る黒曜石である。乳白色の夾雑物を含むが，総じて良質の黒曜石で，信州産と考えられる。使用痕ある剥片１点（2.6ｇ）の単独資料である。

・5B-③：漆黒色不透明で，φ0.5㎜～２㎜の乳白色の夾雑物を含む黒曜石である。箱根畑宿産であろうか。錐状石器１点（9.7ｇ）の単独資料である。

・5B-④：青みがかった黒灰色に風化した安山岩である。剥片２点(合計3.0ｇ)で構成される。

・5B-⑤：灰褐色に風化した安山岩である。剥片１点（13.9ｇ）の単独資料である。

・5B-⑥：紫がかった灰色の嶺岡産珪質頁岩である。使用痕ある剥片１点（6.2ｇ）の単独資料である。

・5B-⑦：灰緑色の地に黒灰色の縞が入った珪質頁岩である。使用痕ある剥片２点（１個体；7.7ｇ）の単独資料である。

・5B-⑧：灰緑色の嶺岡産珪質頁岩である。節理が多く，粗悪な石材である。剥片１点（13.0ｇ）の単独資料である。

・5B-⑨：暗い灰緑色の嶺岡産珪質頁岩である。剥片１点（9.9ｇ）の単独資料である。

・5B-⑩：黒褐色に風化した珪質頁岩（ノジュール）である。剥片１点（42.3ｇ）の単独資料である。

・5B-⑪：自然面は灰褐色，内部は青灰色のチャートである。4B-⑲母岩，5B-⑫母岩と酷似している。剥片１点（8.5ｇ）の単独資料である。

・5B-⑫：節理面は淡褐色，内部は青灰色のチャートである。剥片１点（1.4ｇ）の単独資料である。

・5B-⑬：青灰色と淡褐色の部分が混在するチャートである。剥片１点（1.0ｇ）の単独資料である。

・5B-⑭：青灰色で泥岩質のホルンフェルスである。台形石器１点（3.7ｇ）の単独資料である。

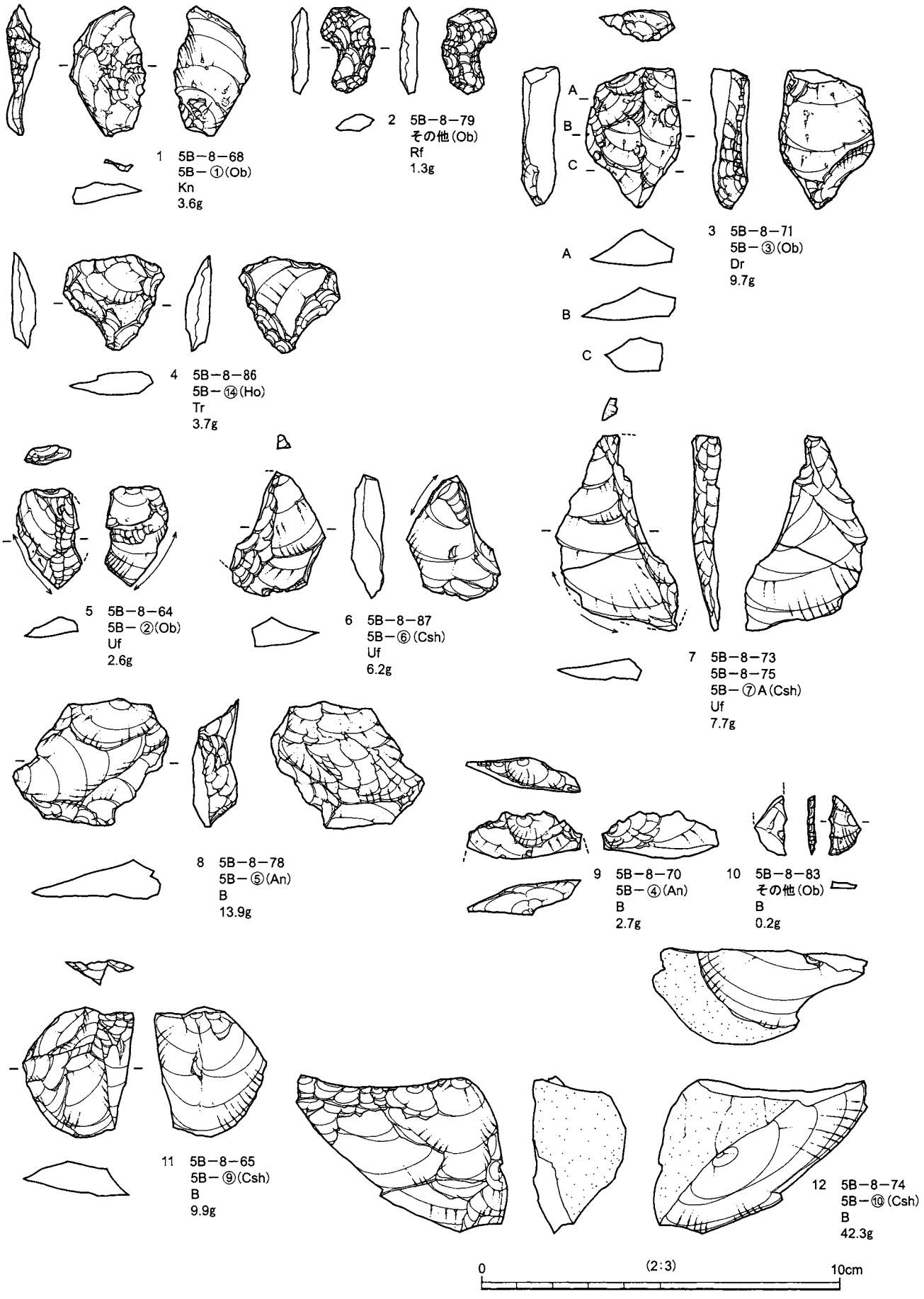
・5B-⑮：灰褐色の流紋岩である。敲石１点（239.3ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石の加工痕ある剥片１点，剥片４点（合計3.4ｇ）がある。5B-①母岩に類似しており，栃木県高原山産と考えられる。

３）出土遺物（第453・454図）

１は，黒曜石による縦長剥片を用いたナイフ形石器である。素材剥片の打面を基部に残し，左側縁の上半部に裏面から調整加工を行っている。

２は，黒曜石による加工痕ある剥片とした資料である。薄手の剥片を素材として，表裏両面を平坦な調整加工によって仕上げている。なお，本資料は，①；剥離面の様子は縄文時代の石鏃に近く，押圧剥離によると考えられること，②；形態が縄文時代の「異形石器」等に似ていること，③；石材が，青みがかっ



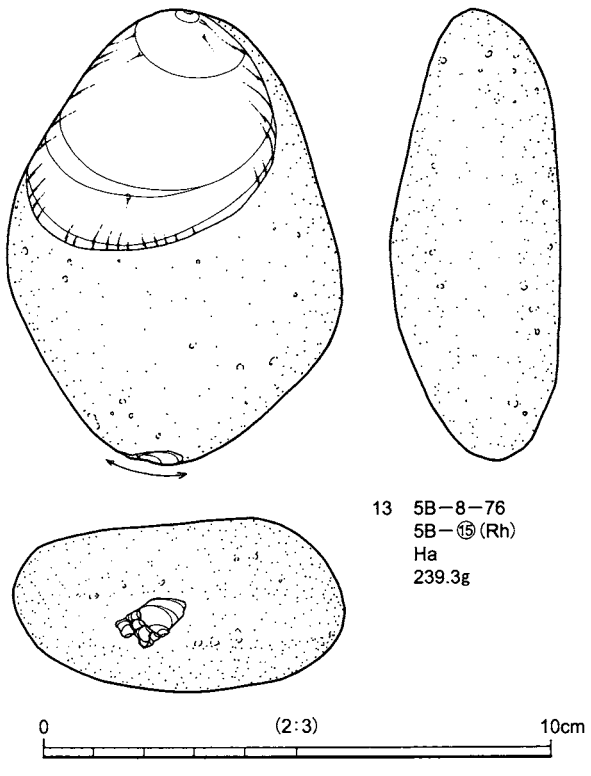
第453図　5B-Aブロック出土遺物実測図（1）

た黒色不透明で乳白色の夾雑物を含む黒曜石で，神津島産の可能性があることなどから，縄文時代に帰属する可能性もある。

3は，黒曜石による不定型の剥片を用いた錐状石器と考えられる。右側縁は裏面からナイフ形石器通有のブランティング加工，左側縁下半部は表面からの粗い調整加工によって，下端（素材剥片の末端）を鈍く尖らせている。素材の打面は表面からの剥離によって除去されている。

4は，ホルンフェルスによる台形石器である。不定型の剥片を横位に用い，上辺に素材の縁辺をそのまま残し，左右両側縁を表裏両面から調整加工して，三角形の石器に仕上げている。

5～7は，各種石材による不定型の剥片を用いた使用痕ある剥片，8～12は剥片である。多様な石材を用いているが，黒曜石以外は上総丘陵砂礫層に由来する可能性がある。いずれも不定型で，石刃のように整った形状のものは見られない。ブロック内で生産された形跡はなく，搬入品と考えられる。



第454図　5B-Aブロック出土遺物実測図（2）

13は，流紋岩による敲石である。拳より一回りほど小振りの円礫を用いており，下端部には敲打痕がある。表面上半部には大きな剥離面が1枚あるが，打点部がわずかではあるが潰れており，敲打による損傷の可能性がある。

10　5B-Bブロック（第455～458図，第185・186表）

1）ブロックの概要

5B-Bブロックは，調査範囲中央の4B-95，5B-05・06グリッドに位置する。ブロックの立地は，丘陵頂部にある70m四方ほどの平坦面上である。

ブロックの規模と形状は，長軸8m，短軸4mの範囲に16点の石器が散漫に分布する。出土層位はⅦ～Ⅸ層の上部を中心としており，50cm程の高低差をもって包含されている（第455・456図）。

ブロックは，ナイフ形石器2点，使用痕ある剥片7点，剥片7点の合計16点で構成される。石材は，黒曜石8点，安山岩3点，頁岩1点，珪質頁岩1点，チャート2点，ホルンフェルス1点である。

2）母岩の特徴と内容

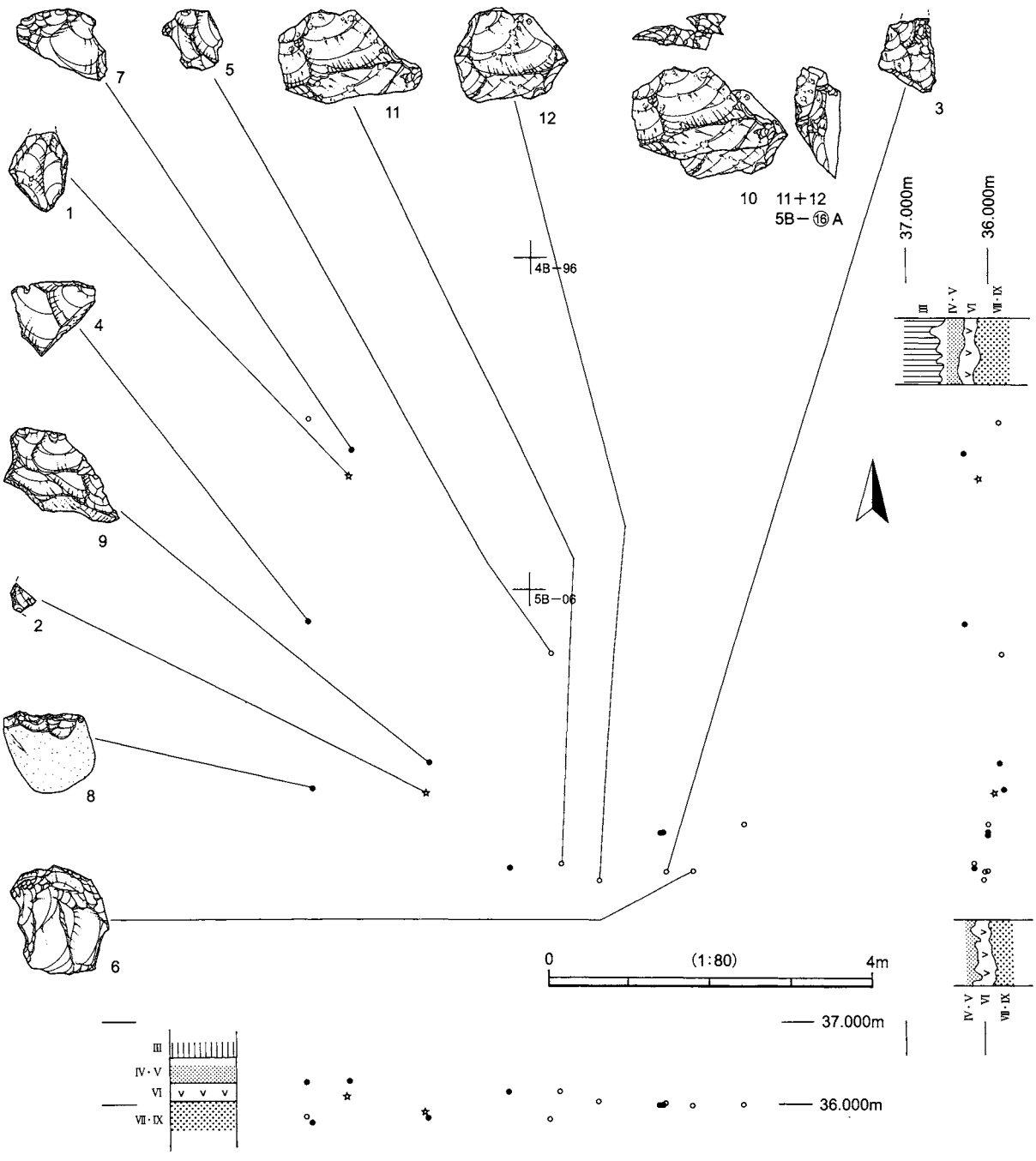
本ブロックでは9母岩を識別した。内訳は，黒曜石3母岩（4B-⑮，5B-①・⑯），安山岩1母岩（5B-⑰），頁岩1母岩（5B-⑳），珪質頁岩1母岩（4B-⑱），チャート2母岩（5B-⑱・⑲），ホルンフェルス1母岩（5B-㉑）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は69%（11／16点）である。

・4B-⑮：母岩の特徴は，4B-Fブロックで記したとおり，黒色不透明で灰色の縞がある黒曜石である。本

ブロックでは剥片１点（1.0ｇ）の単独資料であるが，4B-Hブロックの剥片１点と接合して１個体（2.8ｇ）となるほか，さらにもう１点とも接合する。同一母岩は，4B-Ｆブロックに２点，4B-Hブロックに６点ある。

・4B-⑱：母岩の特徴は，4B-Gブロックで記したとおり，暗灰緑色の嶺岡産珪質頁岩である。本ブロックでは使用痕ある剥片１点（4.2ｇ）の単独資料であるが，4B-Gブロックに分布する使用痕ある剥片１点と接合して１個体（10.3ｇ）になる。ただし，本資料は剥片剥離時に打点から二つに割れたものであり，それぞれ別々に使用されたと考えられる。

・5B-①：母岩の特徴は，5B-Aブロックで記したとおり，漆黒色でφ１㎜～２㎜ほどの淡褐色・灰色の夾



第455図　5B-Ｂブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－

雑物を含む黒曜石である。本ブロックでは使用痕ある剥片１点（4.1ｇ）の単独資料であるが，同一母岩が5B-Ａブロックに３点ある。

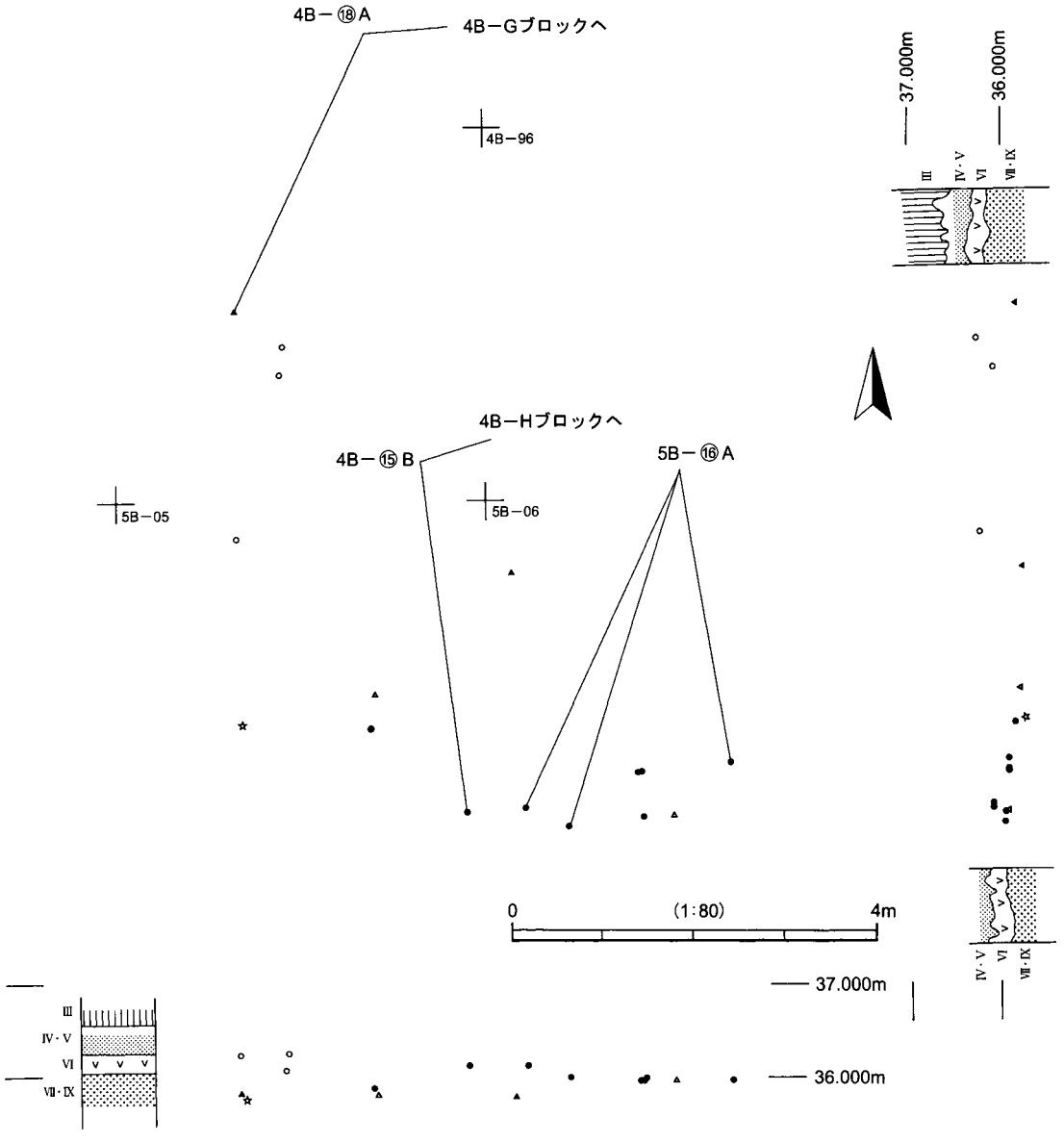
・5B-⑯：漆黒色不透明な黒曜石である。大小の夾雑物を多量に含んでいる。箱根畑宿産であろうか。石器群の内訳は，使用痕ある剥片３点（２個体；30.9ｇ）で，２個体は表裏で接合する。剥片生産の痕跡はなく，搬入品と考えられる。

・5B-⑰：灰色に風化した，やや軟質の安山岩である。ナイフ形石器１点（3.7ｇ）の単独資料である。

・5B-⑱：節理面は赤褐色，内部は濃淡のある青灰色のチャートである。内部はきめ細かく良質である。剥片１点（10.9ｇ）の単独資料である。

・5B-⑲：節理面は黄褐色，内部は青灰色の地に黒色の縞が入るチャートである。使用痕ある剥片１点（17.4ｇ）の単独資料である。

・5B-⑳：褐色をおびた灰色の頁岩である。使用痕ある剥片１点（1.6ｇ）の単独資料である。



第456図　5B-Ｂブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－

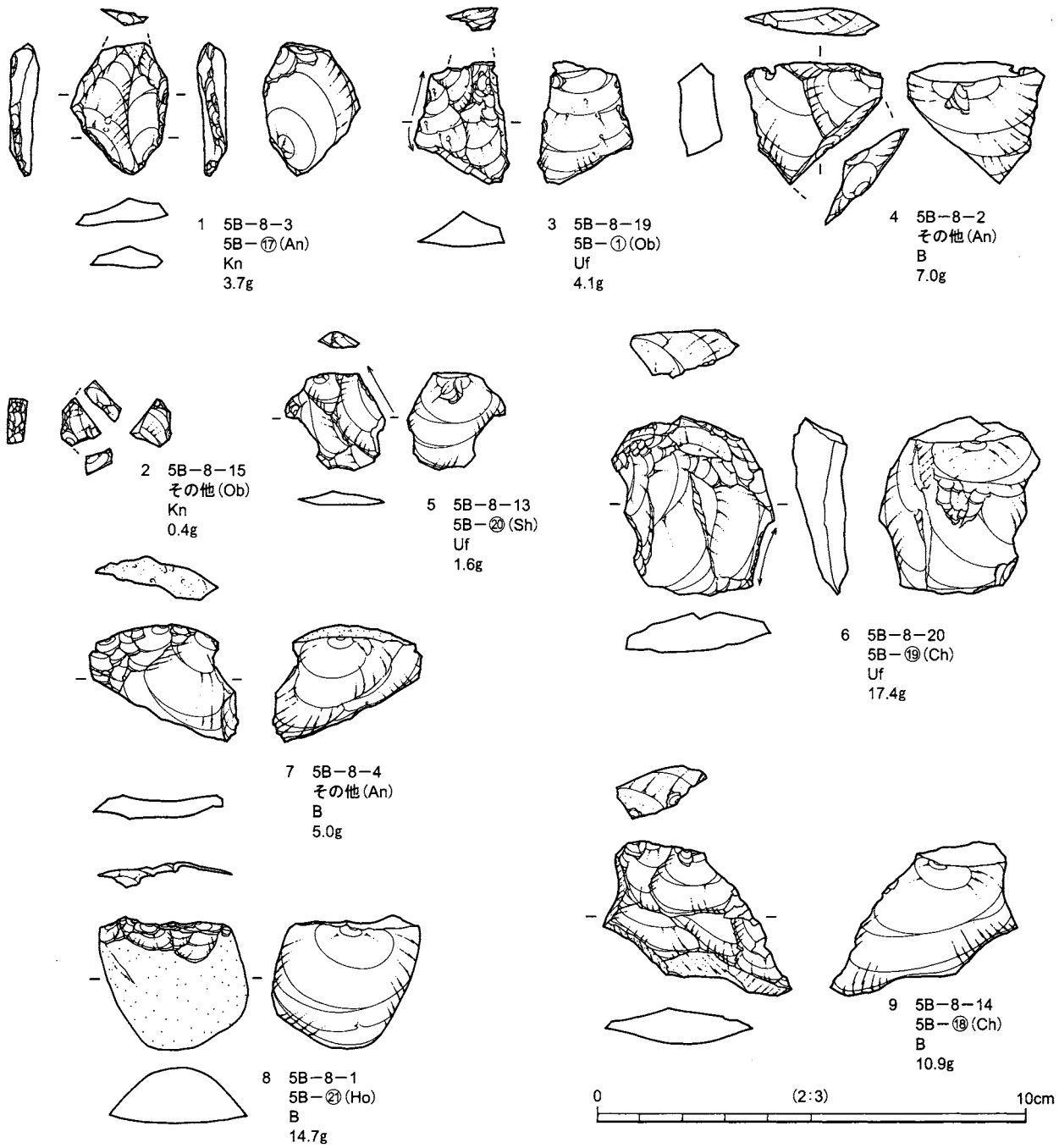
・5B-㉑：黒灰色と灰白色の互層になった泥岩質のホルンフェルスである。剥片１点（14.7ｇ）の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石のナイフ形石器（小片）１点，剥片２点（合計1.0ｇ），安山岩の剥片２点（合計12.0ｇ）がある。

３）出土遺物（第457図）

１は，安山岩による不定型の剥片を素材としたナイフ形石器である。基部を中心に細かく調整加工して，切出形に整えている。素材の打面は残されている。２は，黒曜石によるナイフ形石器の小破片である。左側縁に裏面からの調整加工が見られる。調整加工途中の欠損品であろうか。

３・５・６は各種石材による不定型の剥片を利用した使用痕ある剥片，４・７～９は不定型の剥片であ



第457図　5B-Ｂブロック出土遺物実測図（１）

る。各資料は，先述した5B-Aブロックと同様，製作痕跡がなく搬入品と考えられる。

4）接合資料とその関連資料（第458図）

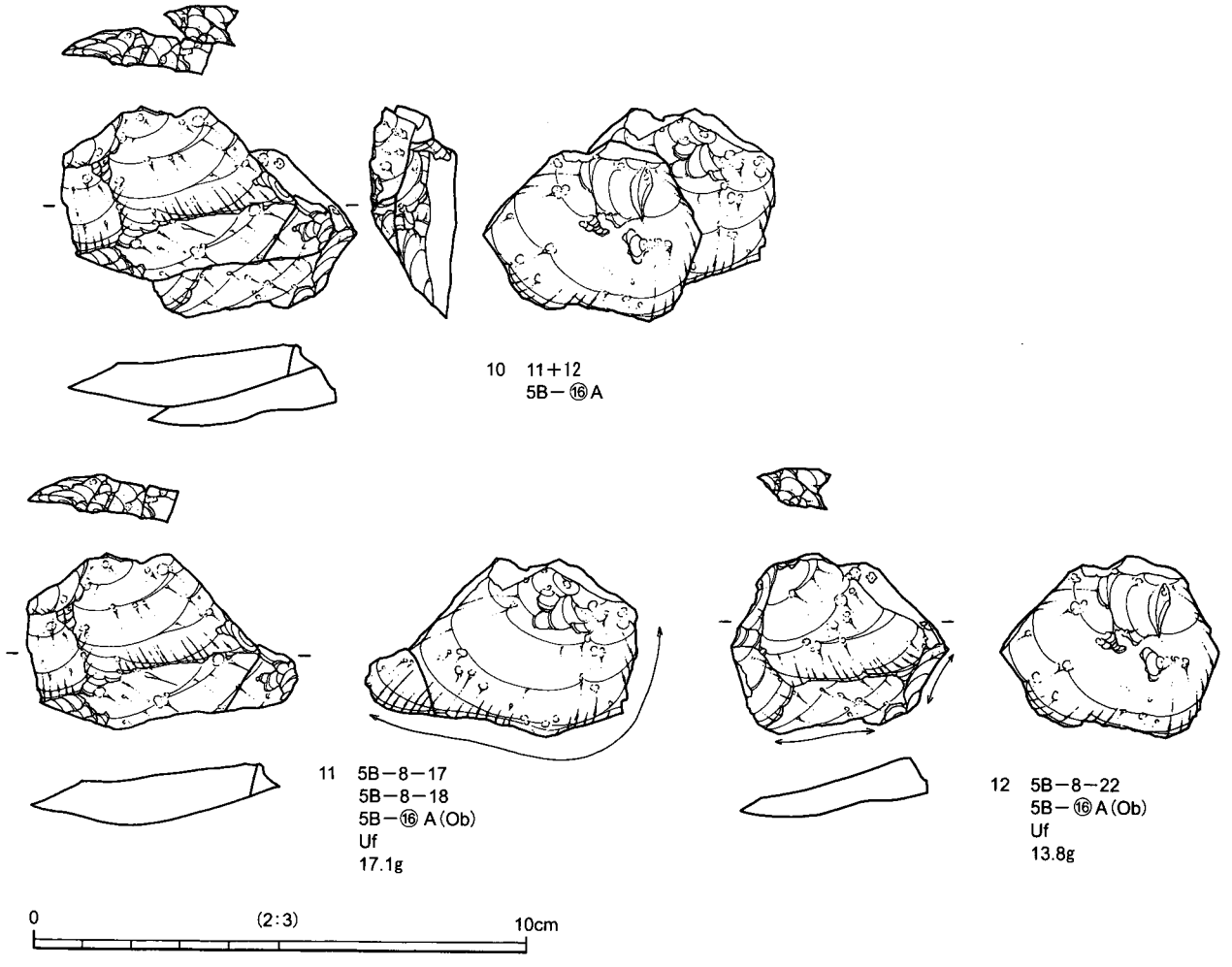
・5B-⑯（第458図10～12）　漆黒色不透明な黒曜石で，使用痕ある剥片３点（２個体）で構成される。

第185表　5B-Bブロック母岩別石器組成表

母岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
4B-⑮(Ob)																			1			1		1
4B-⑱(Csh)											1											1		1
5B-①(Ob)											1											1		1
5B-⑯(Ob)											3											3		3
5B-⑰(An)	1																					1		1
5B-⑱(Ch)																			1			1		1
5B-⑲(Ch)											1											1		1
5B-⑳(Sh)											1											1		1
5B-㉑(Ho)																			1			1		1
その他(Ob)	1																		2			3		3
その他(An)																			2			2		2
合　計	2										7								7			16		16

第186表　5B-Bブロック石材別石器組成表

石材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)	1										4								3			8		8
安山岩(An)	1																		2			3		3
頁岩(Sh)											1											1		1
珪質頁岩(Csh)											1											1		1
チャート（Ch)											1								1			2		2
ホルンフェルス(Ho)																			1			1		1
合　計	2										7								7			16		16



第458図　5B-Bブロック出土遺物実測図（２）

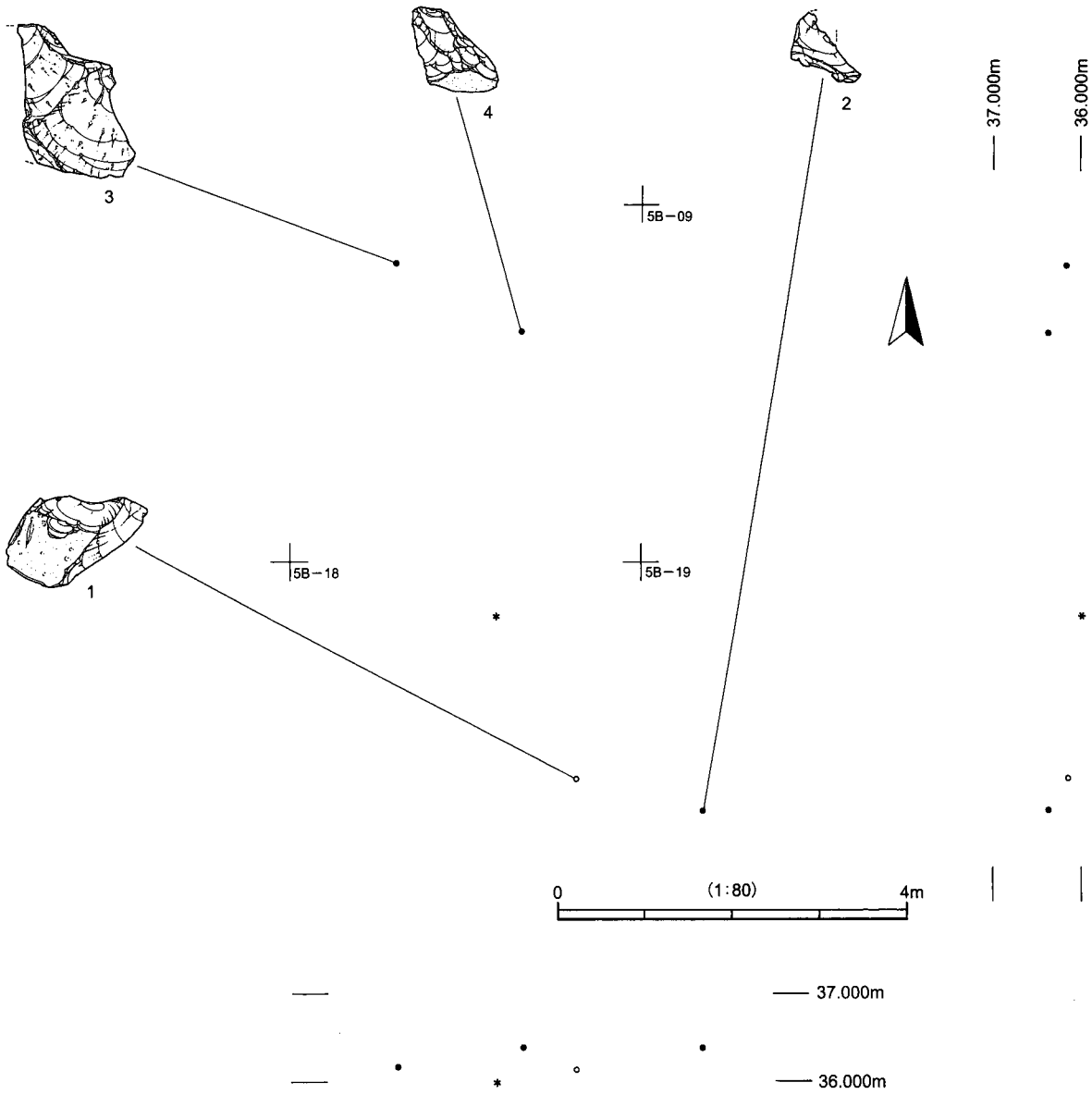
10は，使用痕ある剥片３点（２個体；11・12）の接合資料である。11を剥離した後，打面を一段低くして12を剥離している。12の打面が小さいため詳細は不明であるが，交互剥離によって打面が低くなったと考えられる。11・12とも末端部に刃こぼれがある。

11　5B-Cブロック（第459～461図，第187・188表）

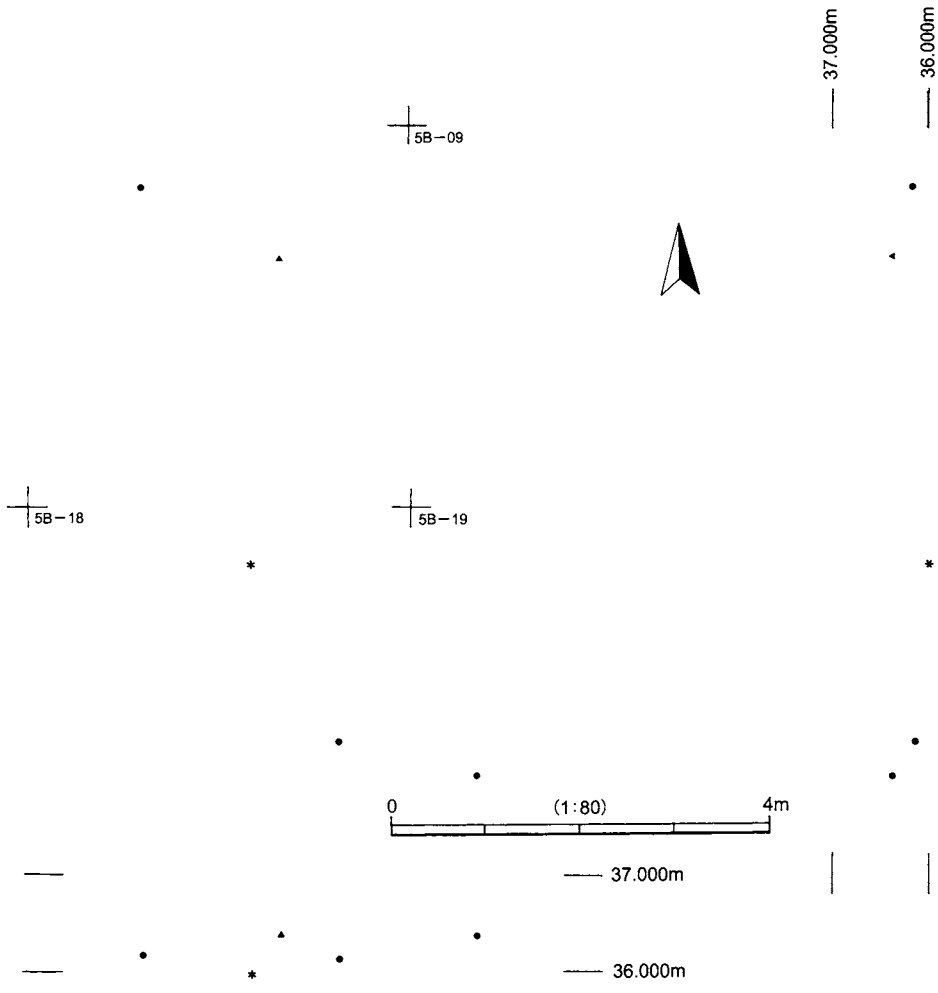
１）ブロックの概要

5B-Cブロックは，調査範囲中央の5B-08・18・19グリッドに位置する。ブロックの立地は，丘陵頂部にある70m四方ほどの平坦面上である。

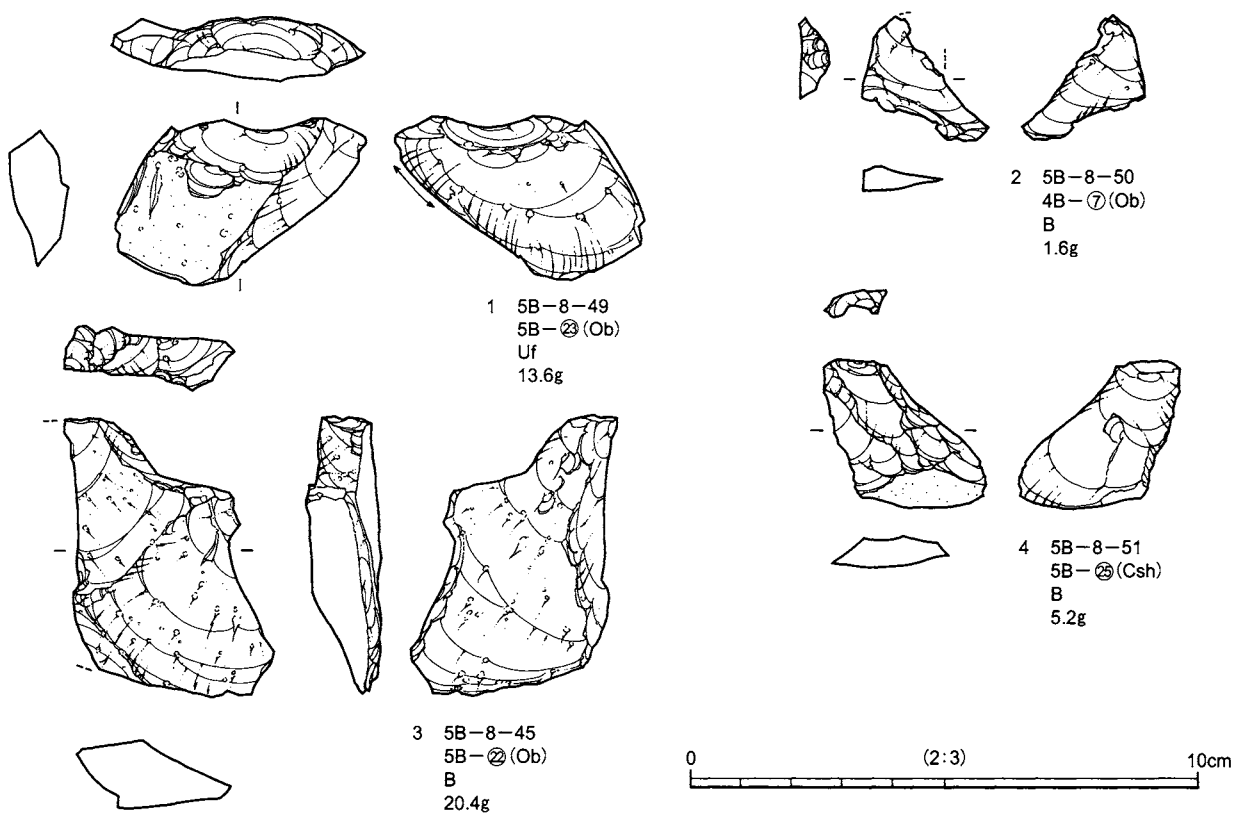
ブロックの規模と形状は，長軸７m，短軸２mの範囲に５点の石器・礫が散漫に分布する。出土層位はⅦ～Ⅸ層である（第459・460図）。



第459図　5B-Cブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－



第460図　5B-Cブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－



第461図　5B-Cブロック出土遺物実測図

ブロックは，使用痕ある剥片１点，剥片３点，礫１点の合計５点で構成される。礫は，被熱により破砕された小片である。石器石材は，黒曜石３点，珪質頁岩１点，礫石材は，チャート１点である。

２）母岩の特徴と内容

・4B-⑦：母岩の特徴は，4B-Dブロックで記したとおり，漆黒色不透明の地に青みがかった灰色の縞が平行する黒曜石である。本ブロックでは剥片１点（1.6ｇ）の単独資料であるが，同一母岩が4B-Dブロックに２点，4B-Hブロックに１点，4B-Gブロックに１点ある。

・5B-㉒：漆黒色不透明で，青みがかった灰色の淡い縞が平行に入る黒曜石である。φ0.5㎜～２㎜の乳白色の夾雑物を多量に含む。箱根畑宿産であろうか。剥片１点（20.4ｇ）の単独資料である。

・5B-㉓：透明の地に青みがかった黒色の縞が平行して多数入り，全体に不透明になっている黒曜石である。φ２㎜ほどの乳白色の夾雑物を含む。自然面は平滑な曲面である。使用痕ある剥片１点（13.6ｇ）の単独資料である。

・5B-㉕：自然面は橙褐色，内部は灰緑色の嶺岡産珪質頁岩である。剥片１点（5.2ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第461図）

１は，黒曜石による横長剥片を利用した不定型の剥片である。２・３は黒曜石，４は嶺岡産珪質頁岩による不定型の剥片である。３は，本剥片剥離時に打点で二つに割れている。

第187表　5B-Cブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
4B-⑦(Ob)																			1			1		1
5B-㉒(Ob)																			1			1		1
5B-㉓(Ob)											1											1		1
5B-㉕(Csh)																			1			1		1
その他(Ch)																							1	1
合　計											1								3			4	1	5

第188表　5B-Cブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)											1								2			3		3
珪質頁岩(Csh)																			1			1		1
チャート（Ch)																							1	1
合　計											1								3			4	1	5

12　5C-Aブロック（第462～464図，第189・190表）

１）ブロックの概要

5C-Aブロックは，調査範囲中央の4B-99，4C-90，5C-00グリッドに位置する。ブロックの立地は，丘陵頂部にある70m四方ほどの平坦面上である。

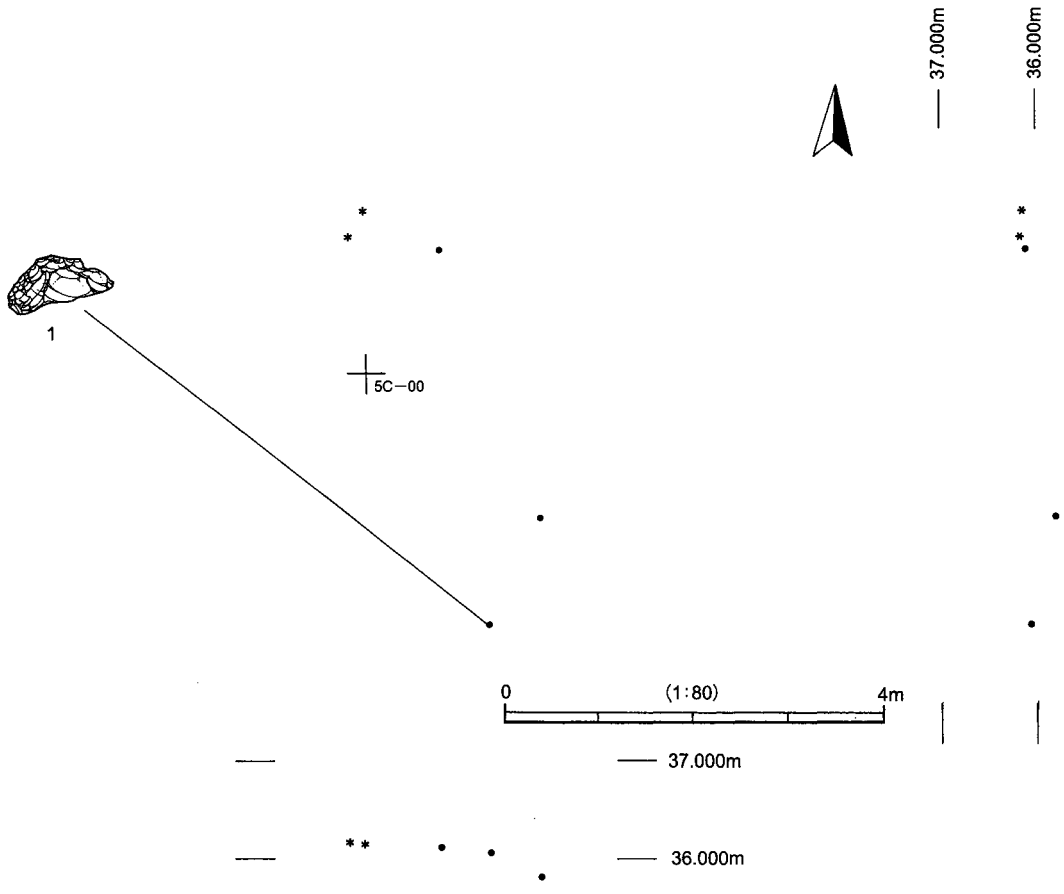
ブロックの規模と形状は，長軸５m，短軸２mの範囲に５点の石器群が散漫に分布している。出土層位

第189表　5C-Aブロック母岩別石器組成表

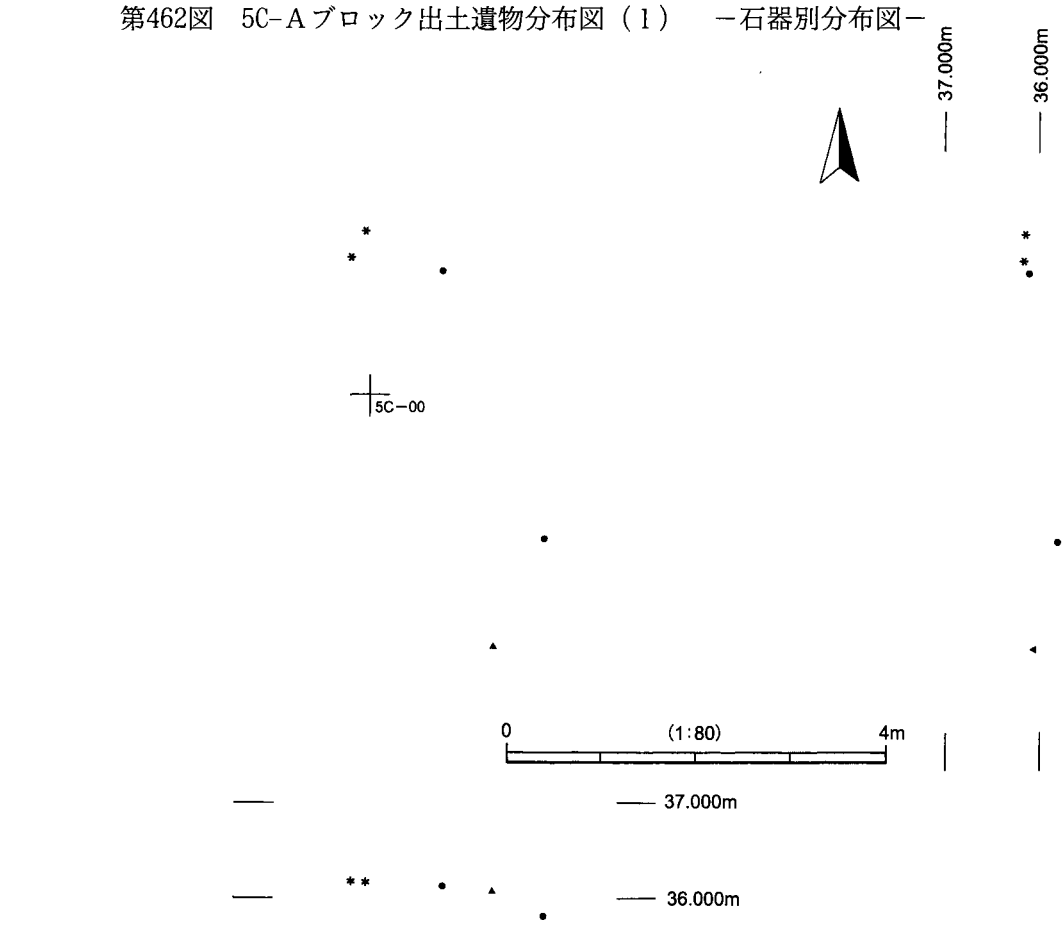
母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
5C-①(Sh)																			1			1		1
その他(Ob)																			2			2		2
5CR-①(Sh)																							2	2
合　計																			3			3	2	5

第190表　5C-Aブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)																			2			2		2
頁岩(Sh)																			1			1	2	3
合　計																			3			3	2	5



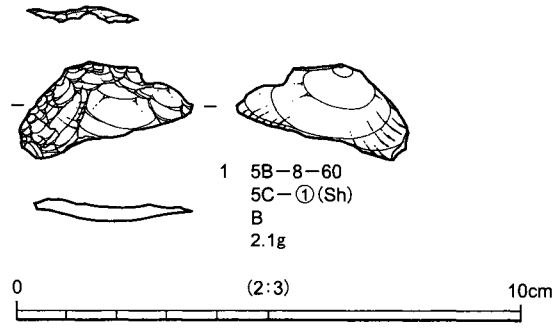
第462図　5C-Aブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



第463図　5C-Aブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－

はⅦ～Ⅸ層である（第462・463図）。

ブロックは，剥片３点，礫２点の合計５点で構成れる。礫は，長軸９cm，短軸４cmほどの円礫である（接合して１個体）。石器石材は，黒曜石２点，頁岩１点，礫石材は，頁岩２点である。



第464図　5C-Aブロック出土遺物実測図

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは頁岩１母岩（5C-①）を識別した。

母岩識別した石器の石器総数に対する割合は33％（１／３点）である。

・5C-①：暗赤紫色（小豆色）の頁岩で，剥片１点（2.1ｇ）の単独資料である。同一母岩が5C-Bブロックに２点ある。

なお，母岩分類できなかった資料に黒曜石の剥片２点（3.3ｇ）がある。１点は淡黒色半透明で気泡の入る信州麦草峠産，もう１点は漆黒色不透明で夾雑物が散在する箱根畑宿産と考えられる資料である。

3）出土遺物（第464図）

１は，頁岩による横長剥片である。打面直下には頭部調整に似た細かな剥離面が連続するが，その性格は不明である。

13　5C-Bブロック（第465～467図，第191・192表）

1）ブロックの概要

5C-Bブロックは，調査範囲中央の5C-11・12・21グリッドに位置する。ブロックの立地は，丘陵頂部にある70m四方ほどの平坦面上である。

ブロックの規模と形状は，長軸５m，短軸２mの範囲に６点の石器が散漫に分布する。出土層位はⅦ～Ⅸ層である（第465・466図）。

ブロックは，使用痕ある剥片２点，剥片３点，石核１点の合計６点で構成される。石材は，黒曜石１点，頁岩５点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは４母岩を識別した。内訳は，黒曜石１母岩（5C-②），頁岩３母岩（5C-①・③・④）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（６／６点）である。

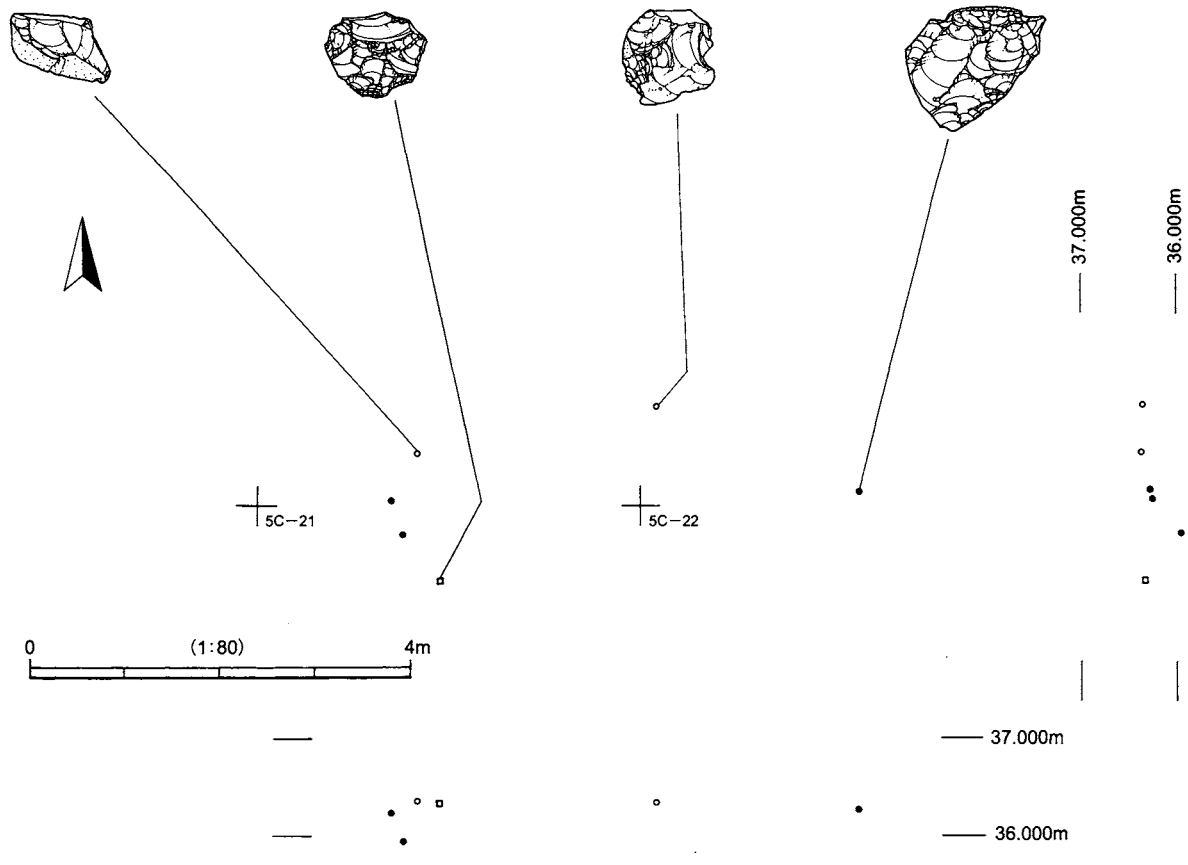
・5C-①：母岩の特徴は，5C-Aブロックで記したとおり，暗赤紫色の頁岩で，剥片２点（1.4ｇ）で構成

第191表　5C-Bブロック母岩別石器組成表

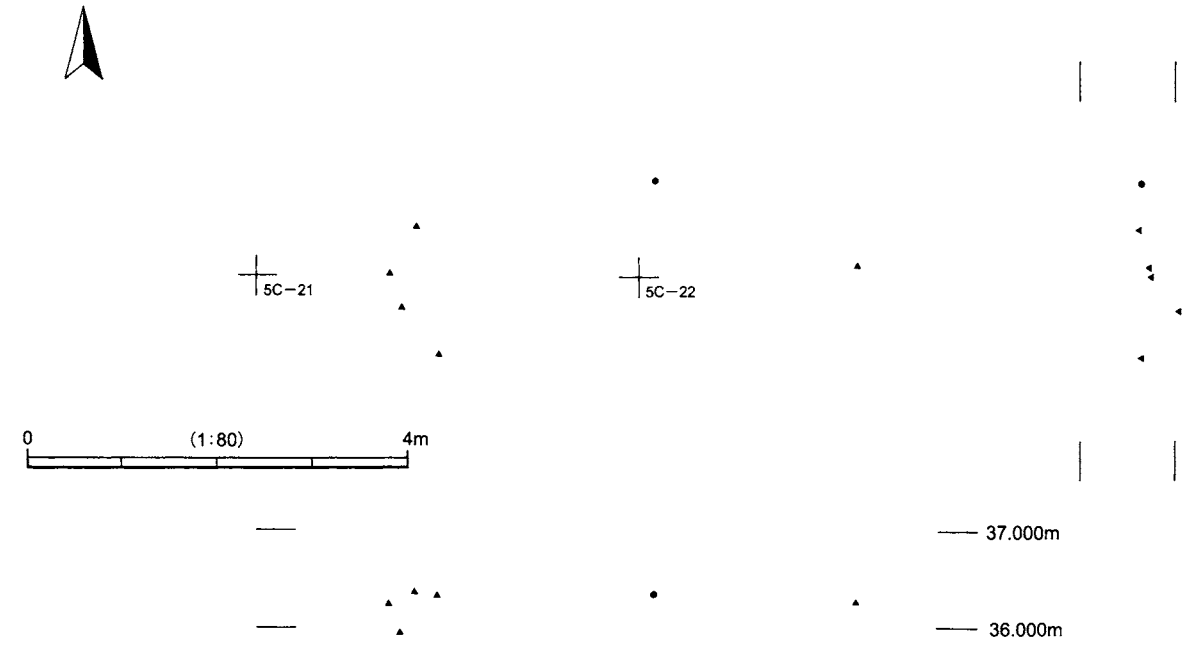
母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
5C-①(Sh)																			2			2		2
5C-②(Ob)											1											1		1
5C-③(Sh)											1										1	2		2
5C-④(Sh)																			1			1		1
合　計											2								3		1	6		6

第192表　5C-Bブロック石材別石器組成表

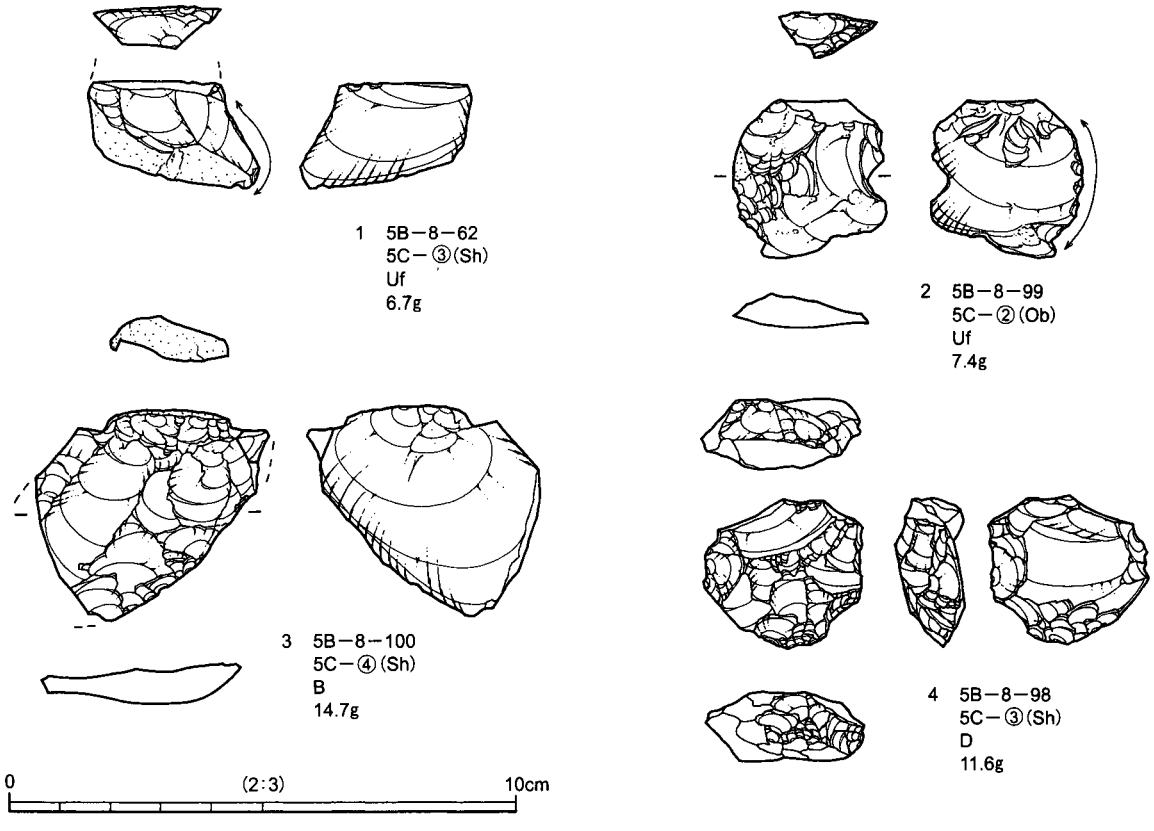
石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)											1											1		1
頁岩(Sh)											1								3		1	5		5
合　計											2								3		1	6		6



第465図　5C-Bブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



第466図　5C-Bブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－



第467図　5C-Bブロック出土遺物実測図

される。同一母岩が5C-Aブロックに1点ある。

・5C-②：漆黒色半透明で，φ1㎜～2㎜の夾雑物を少量含む黒曜石である。表面には光沢がある。栃木県高原山産と考えられる。使用痕ある剥片1点（7.4g）の単独資料である。

・5C-③：淡い灰緑色の頁岩で，使用痕ある剥片1点，石核1点の合計2点（18.3g）で構成される

・5C-④：灰色の「黒色頁岩」である。剥片1点　(14.7g）の単独資料である。

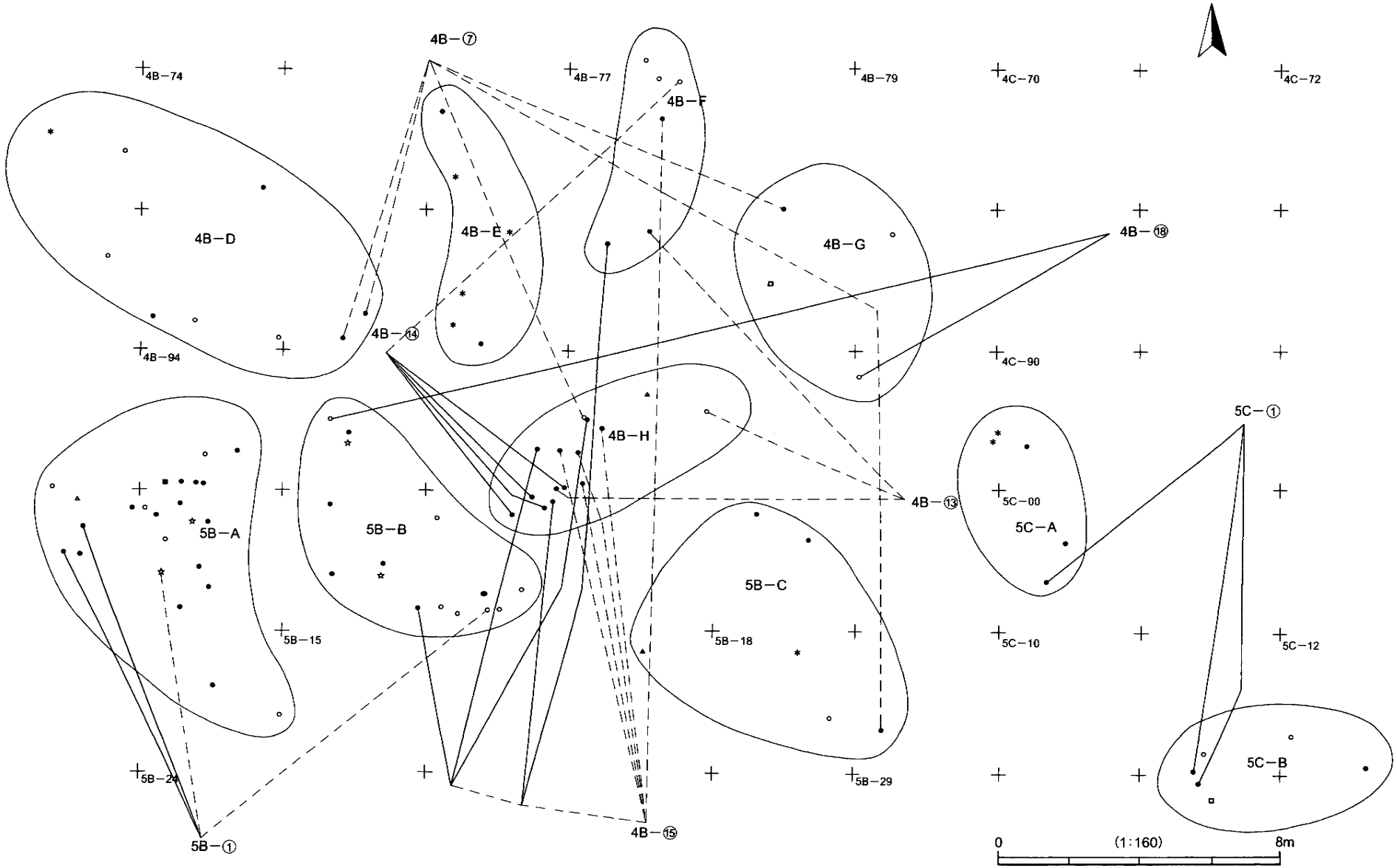
3）出土遺物（第467図）

1は頁岩，2は黒曜石による不定型の剥片を利用した使用痕ある剥片，3は頁岩による不定型の剥片である。

4は，頁岩による剥片を素材とした石核である裏面には素材の主要剥離面が広く残る。表裏両面に対して，求心的な打点移動と交互剥離によって小型不定型の剥片を剥離している。

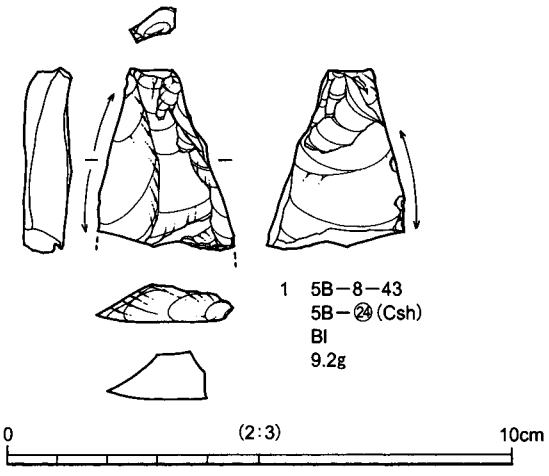
14　4B・5Bグリッドに分布する石器群について（第468・469図）

4Bグリッド東南部から5Bグリッド西北部にかけての範囲（東西40m，南北20m）には，本文化層に帰属する石器群が散漫かつ広範囲に分布しており，これを10か所の小規模なブロックに区分した。その結果，小規模で散漫なブロックが群在することになった。先述したとおり，ブロックのいくつかは同一母岩の共有によって，相互に関連する可能性が高い。



第468図　4B・5Bグリッド出土遺物分布図

1は，灰褐色で緻密な嶺岡産珪質頁岩による石刃である。表面は裏面と同一方向の剥離面で構成され，左側縁に刃こぼれが見られる。下半部は欠損する。5B-17グリッドのⅦ～Ⅸ層から出土した。



第469図　4Bブロック群周辺出土遺物

第３節　第６文化層

第６文化層は，立川ローム層第１黒色帯（Ⅴ層）からソフトローム層（Ⅲ層）にかけて包含される石器群で，1B-A，4A-A，4B-C，6E-Aブロックの４か所が該当する。

1　1B-Aブロック（第470～472図，第193・194表）

1）ブロックの概要

1B-Aブロックは，調査範囲北端の1B-73・74・83～85・93・94グリッドに位置する。ブロックの立地は，南北に延びる幅20mほどのやせ尾根状の地形にある。

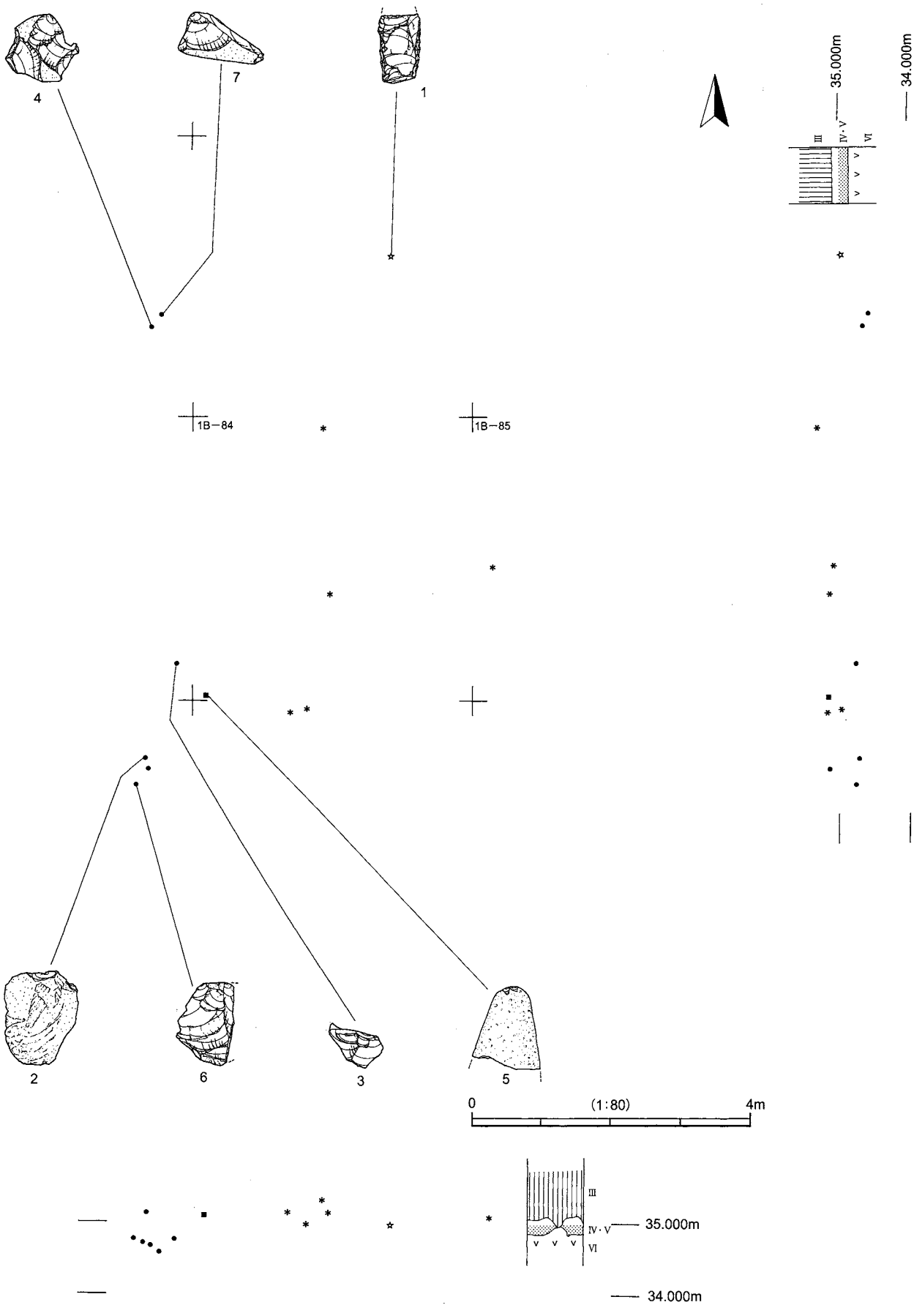
ブロックの規模と形状は，長軸８m，短軸６mの範囲に13点の石器・礫が散漫に分布する。出土層位はⅣ・Ⅴ層を中心としており，80cm程の高低差をもって包含されている（第470・471図）。

ブロックは，ナイフ形石器１点，敲石１点，剥片６点，礫５点の合計13点で構成される。石器石材は，黒曜石１点，安山岩１点，流紋岩１点，珪質頁岩４点，チャート１点，礫石材は，砂岩５点である。礫は，４点（２母岩）が母岩分類できた。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは７母岩を識別した。内訳は，黒曜石１母岩（1B-①），安山岩１母岩（1B-⑦），流紋岩１母岩（1B-⑤），珪質頁岩３母岩（1B-②～④），チャート１母岩（1B-⑥）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100%（８／８点）である。

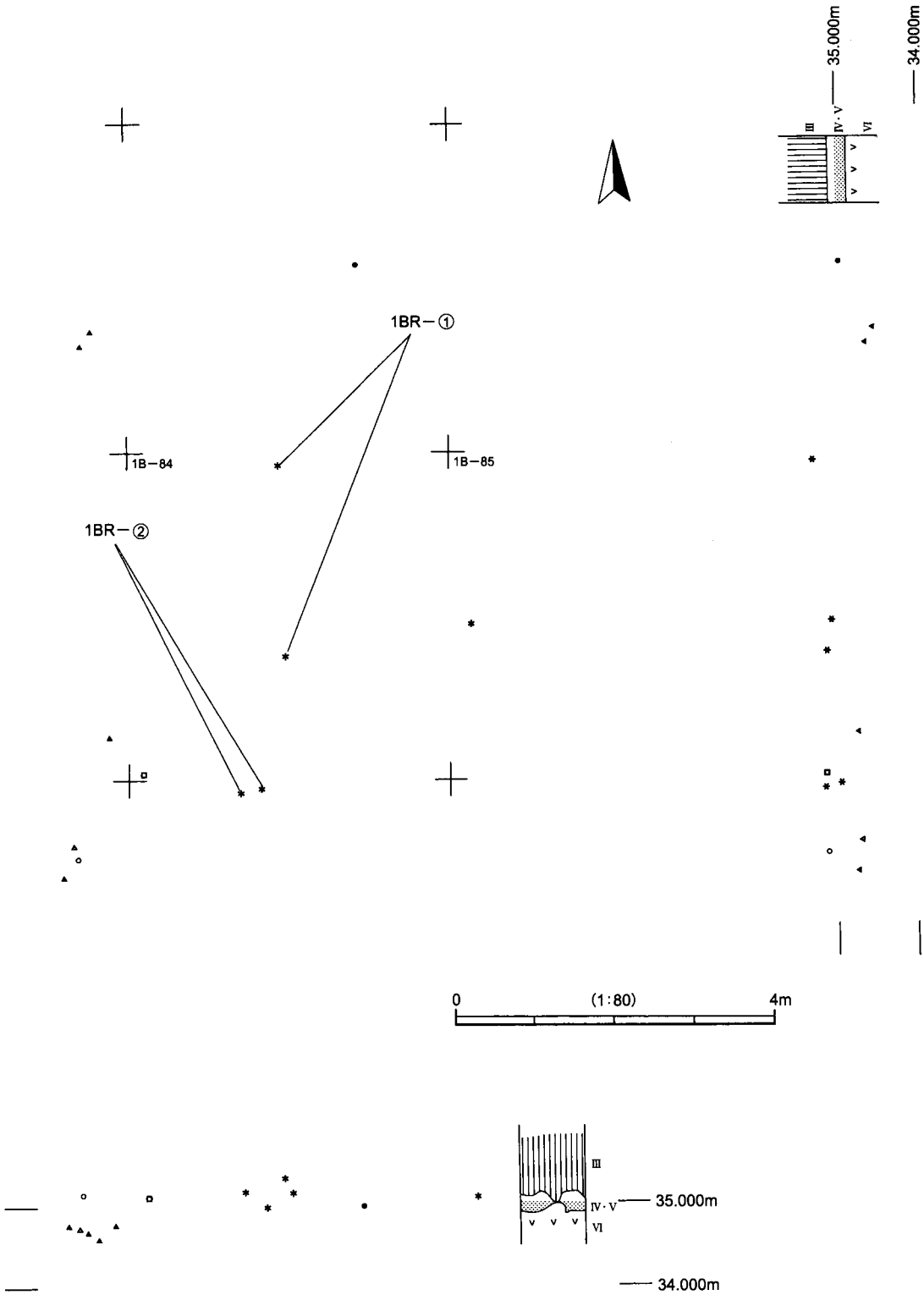
- 1B-①：青みがかった黒灰色不透明な地に灰色の縞が平行に入る黒曜石である。φ１～２㎜の乳白色の夾雑物を含む。表面には光沢があり，神津島産と考えられる。ナイフ形石器１点（6.0g）の単独資料である。
- 1B-②：黒灰色の地に黄白色の斑がある珪質頁岩である。剥片１点（7.8g）の単独資料である。
- 1B-③：黄灰色の嶺岡産珪質頁岩である。剥片１点（1.6g）の単独資料である。
- 1B-④：自然面は橙褐色，内部は黄白色の珪質頁岩である。剥片２点（合計14.0g）で構成される。
- 1B-⑤：灰白色の地に黒灰色の斑がある流紋岩である。敲石１点（25.2g）の単独資料である。
- 1B-⑥：節理は黄褐色，自然面及び内部は青灰色のチャートである。剥片１点（17.8g）の単独資料である。原石は，自然面の状況から見て，中型の円礫と考えられる。
- 1B-⑦：黒灰色に風化した安山岩である。剥片１点（1.3g）の単独資料である。



第470図　1B-Aブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－

3）出土遺物（第472図）

1は，黒曜石によるナイフ形石器である。縦長剥片を縦位に用い，打面側を基部として左右両側縁を裏面から急角度で調整加工（ブランティング加工）し，両側縁が平行になるように整形している。表裏面と



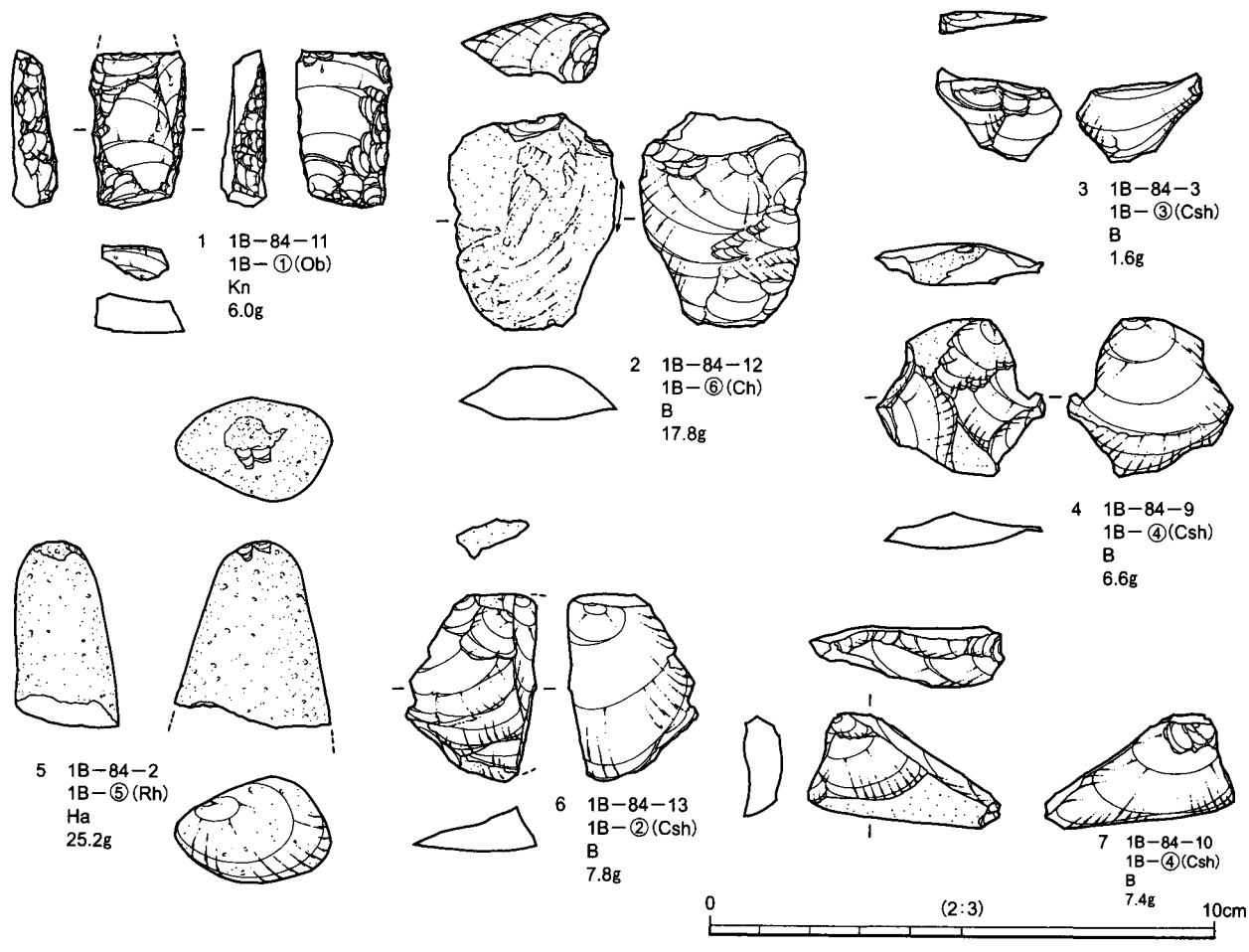
第471図　1B-Aブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－

第193表　1B-Aブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
1B-①(Ob)	1																					1		1
1B-②(Csh)																			1			1		1
1B-③(Csh)																			1			1		1
1B-④(Csh)																			2			2		2
1B-⑤(Rh)															1							1		1
1B-⑥(Ch)																			1			1		1
1B-⑦(An)																			1			1		1
1BR-①(Sa)																							2	2
1BR-②(Sa)																							2	2
その他(Sa)																							1	1
合　計	1														1				6			8	5	13

第194表　1B-Aブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)	1																					1		1
安山岩(An)																			1			1		1
流紋岩(Rh)															1							1		1
珪質頁岩(Csh)																			4			4		4
チャート(Ch)																			1			1		1
砂岩(Sa)																							5	5
合　計	1														1				6			8	5	13



第472図　1B-Aブロック出土遺物実測図

加工面とのなす角は直角に近い。その後，裏面右側から下端にかけて，平坦剥離によって加工し，基部を作り出している。打面は折り取られているようである。先端側は欠損するが，両側縁ともに欠損面付近で調整加工が途切れるようであり，基部調整のナイフ形石器と考えられる。

5は，流紋岩による敲石である。上端は緩やかな曲線を描く円錐形で，その端部に敲打痕がある。下半部は大きく欠損する。

2～4・6・7は，各種石材による剥片である。

2　4A-Aブロック（第473～475図，第195・196表）

1）ブロックの概要

4A-Aブロックは，調査範囲中央の4A-38・39・47～49・58グリッドに位置する。ブロックの立地は，丘陵頂部にある70m四方ほどの平坦面上である。

ブロックの規模と形状は，直径10mの範囲に18点の石器・礫が散漫に分布する。出土層位はⅢ層を中心としており，50cmほどの高低差をもって包含されている（第473・474図）。

ブロックは，ナイフ形石器1点，加工痕ある剥片1点，使用痕ある剥片1点，石刃1点，剥片1点，礫13点の合計18点で構成される。石器石材は，黒曜石1点，安山岩1点，流紋岩1点，ホルンフェルス2点，礫石材は，流紋岩1点，頁岩1点，チャート4点，砂岩6点，ホルンフェルス1点である。礫は，散漫な分布を示しているが，小型の完形品2個体以外は被熱により細かく破砕されており，もとの状態には復元できない礫で構成される。母岩分類できたものが6点（6母岩），母岩不明なものが7点である。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは5母岩を識別した。内訳は，黒曜石1母岩（4A-①），安山岩1母岩（4A-②），流紋岩1母岩（4A-⑥），ホルンフェルス2母岩（4A-④・⑤）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（5／5点）である。

・4A-①：黄色みを帯びた灰色半透明の地に，黒灰色の細かな筋が多数入る黒曜石である。信州産（麦草峠）と思われる。石刃1点（2.2g）の単独資料である。

・4A-③：灰褐色に風化した安山岩である。加工痕ある剥片1点（0.5g）の単独資料である。

・4A-④：緑がかった灰色の，泥岩質のホルンフェルスである。ナイフ形石器1点（16.0g）の単独資料

第195表　4A-Aブロック母岩別石器組成表

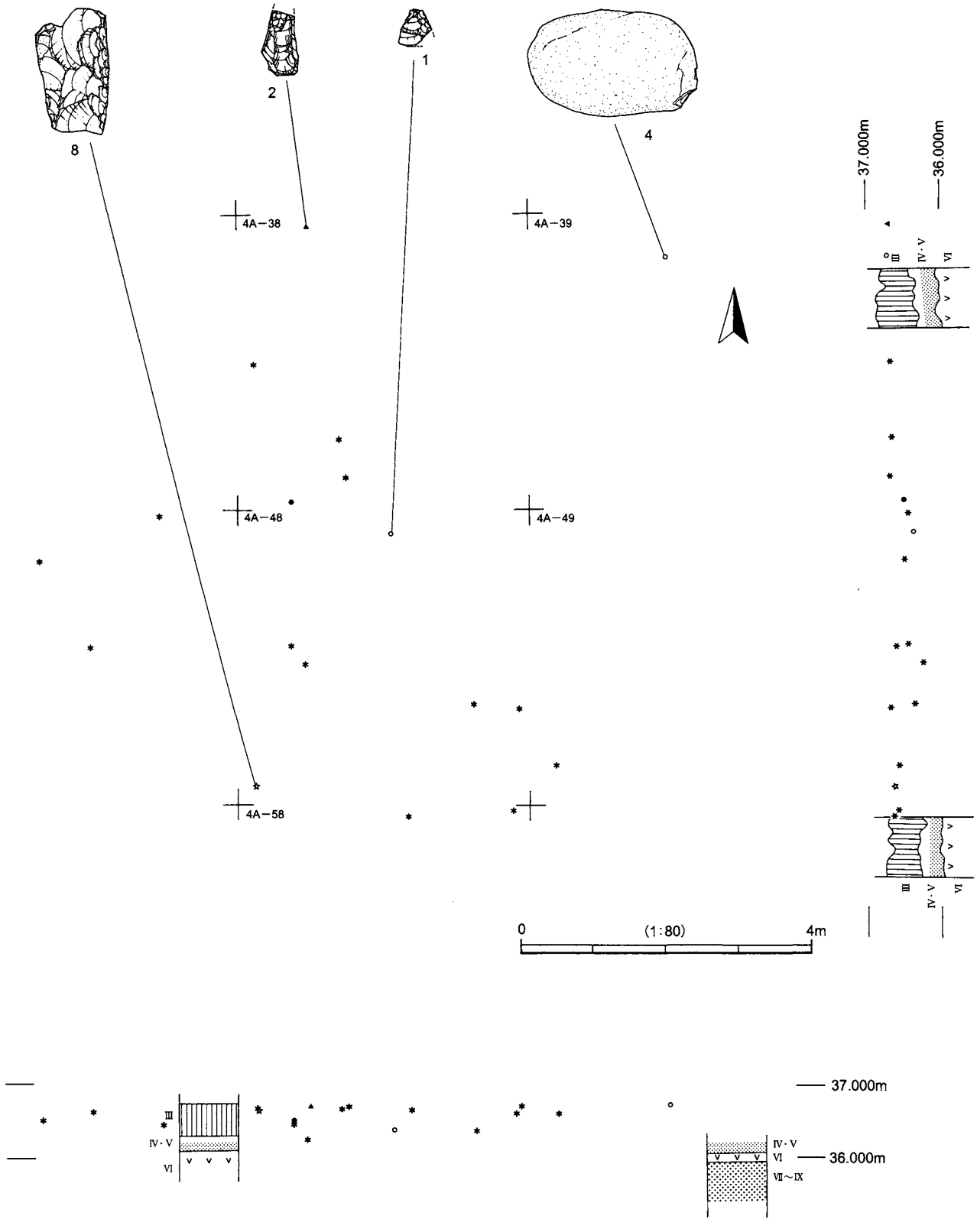
母岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
4A-①(Ob)												1										1		1
4A-③(An)										1												1		1
4A-④(Ho)	1																					1		1
4A-⑤(Ho)											1											1		1
4A-⑥(Rh)																			1			1		1
4AR-①(Sa)																							1	1
4AR-②(Ch)																							1	1
4AR-③(Rh)																							1	1
4AR-④(Sh)																							1	1
4AR-⑤(Sa)																							1	1
4AR-⑥(Ho)																							1	1
その他(Sa)																							4	4
その他(Ch)																							3	3
合　計	1									1	1	1							1			5	13	18

第196表　4A-Aブロック石材別石器組成表

石材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)												1										1		1
安山岩(An)										1												1		1
流紋岩(Rh)																			1			1	1	2
頁岩(Sh)																							1	1
チャート(Ch)																							4	4
砂岩(Sa)																							6	6
ホルンフェルス(Ho)	1										1											2	1	3
合　計	1									1	1	1							1			5	13	18

である。

・4A-⑤：節理面が褐色，自然面，内部ともに黒灰色のホルンフェルスである。使用痕ある剥片１点



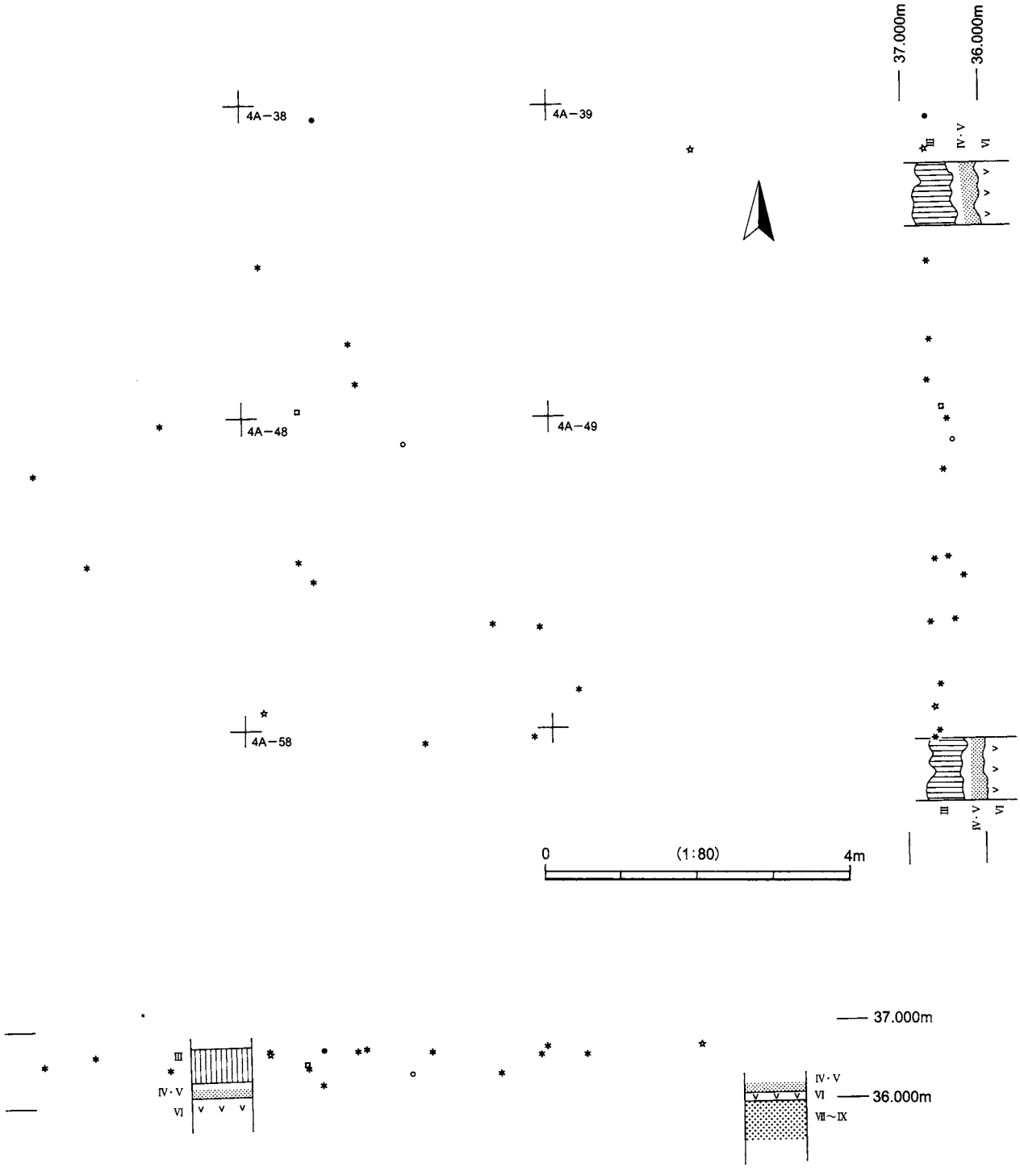
第473図　4A-Aブロック出土遺物分布図（１）　－石器別分布図－

(61.8) の単独資料である。

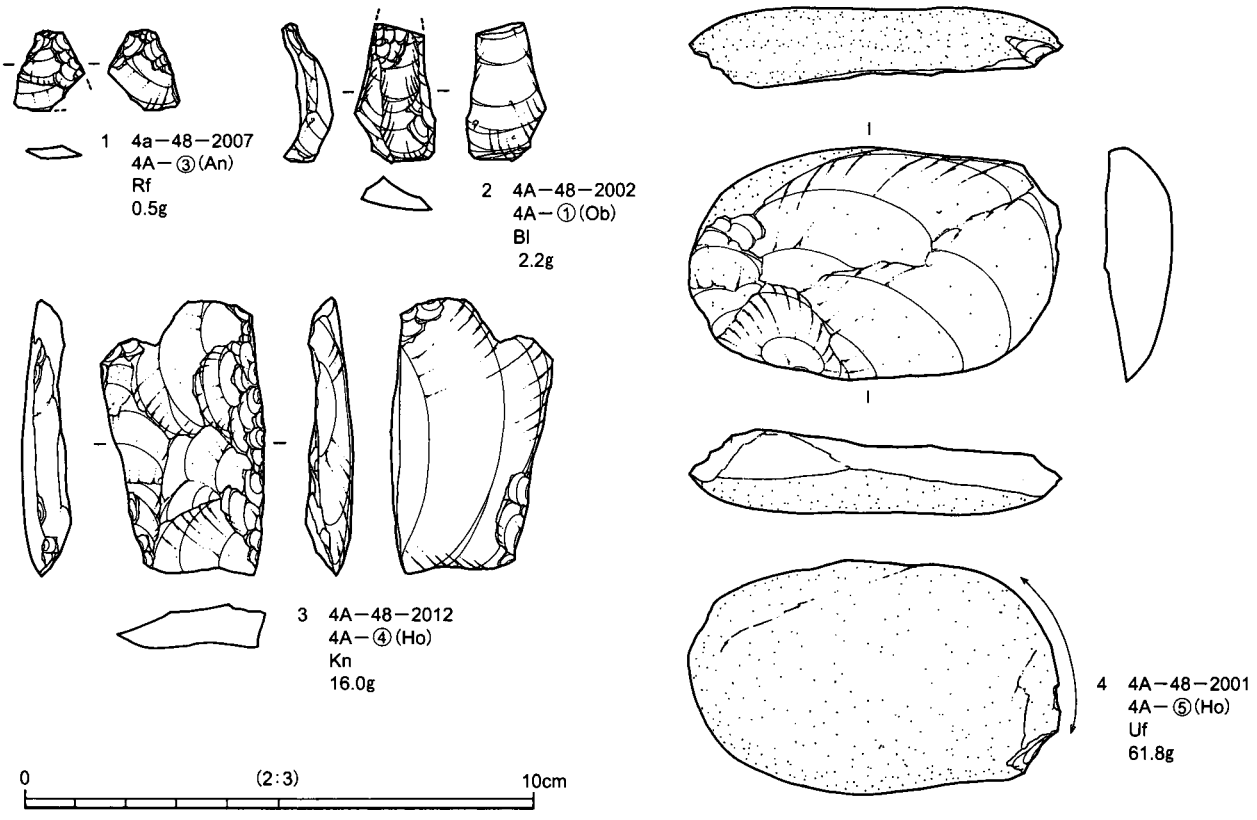
・4A-⑥：灰白色の流紋岩である。剥片１点（2.4ｇ）の単独資料である。

３）出土遺物（第475図）

３は，ホルンフェルスによる不定型の剥片を横位に用いたナイフ形石器である。素材の打面を切断し，その切断面から表面側に平坦な調整加工を行っており，切出形に近い形状に仕上げている。



第474図　4A-Ａブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－



第475図　4A-Aブロック出土遺物実測図

1は，安山岩による加工痕ある剥片である。素材剥片の打面周辺に，表裏両面からの調整加工が見られる。縄文時代の石鏃にも似る。2は，黒曜石による小型の石刃である。表面は概ね裏面と同一方向の剥離面で構成されるが，上半部には石核の側面調整痕と考えられる，裏面と直交する剥離方向の小剥離面がある。打面は欠損する。4は，ホルンフェルスによる使用痕ある剥片である。長軸10cm程度の扁平な円礫を節理面に沿って横割した剥片を利用している。本来は石核の素材であろうか。

3　4B-Cブロック（第476〜478図，第197・198表）

1）ブロックの概要

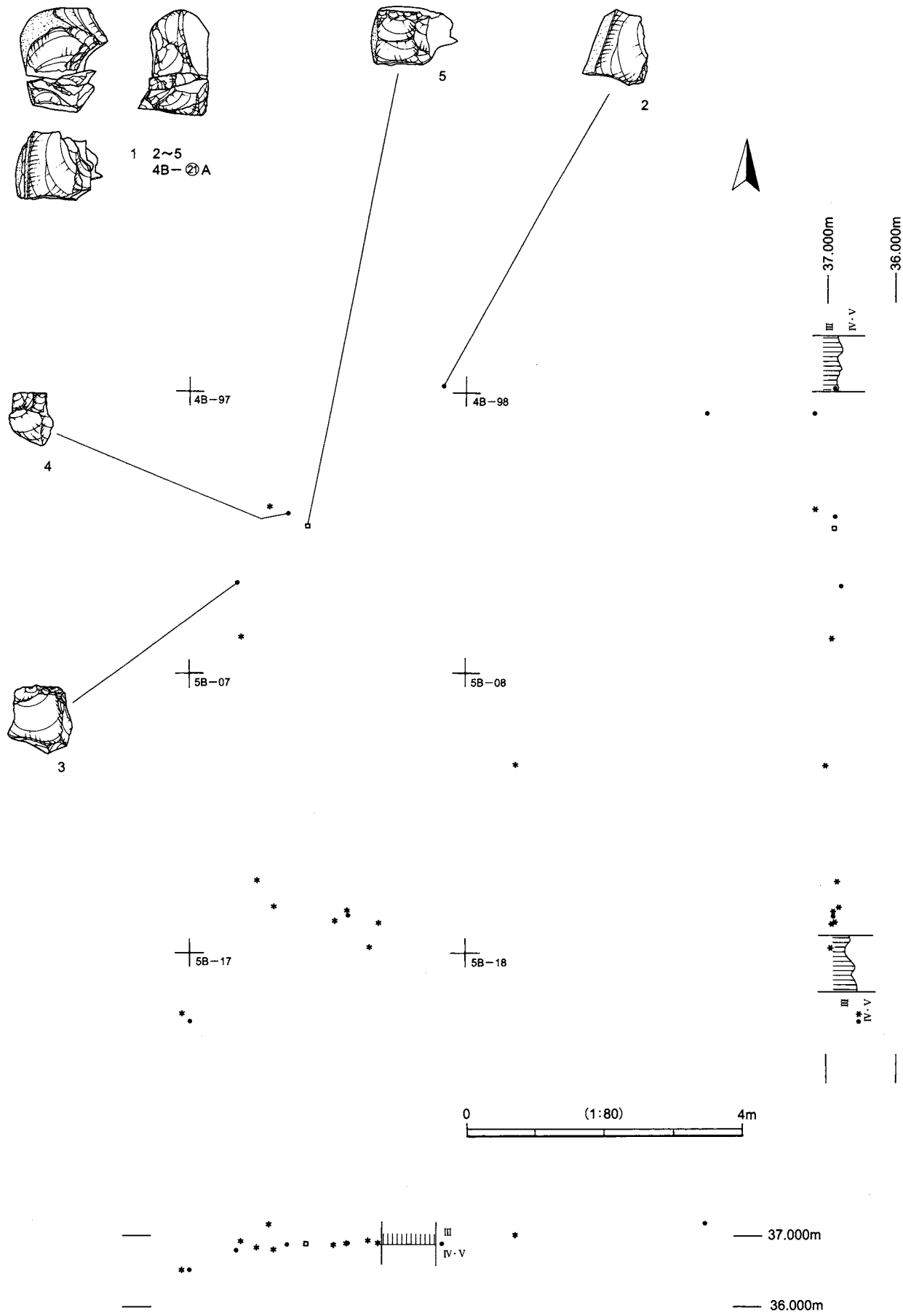
4B-Cブロックは，調査範囲中央の4B-87・97・98，5B-07・08・16グリッドに位置する。ブロックの立地は，丘陵頂部にある70m四方ほどの平坦面上である。

ブロックの規模と形状は，長軸11m，短軸6mの範囲に17点の石器・礫が散漫に分布する。出土層位はⅢ層下部を中心としており，概ね30cmほどの高低差をもって包含されている（第476・477図）。

ブロックは，剥片6点，石核1点，礫10点の合計17点で構成される。石器石材は，黒曜石1点，珪質頁岩1点，砂岩4点，ホルンフェルス1点，礫石材は，安山岩3点，砂岩4点，礫岩1点，ホルンフェルス2点がある。礫は，母岩分類できたものが3点（3母岩），母岩の不明なものが7点ある。

2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは3母岩を識別した。内訳は，珪質頁岩1母岩（4B-⑳），砂岩1母岩（4B-㉑），ホルンフェ



第476図　4B-Cブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－

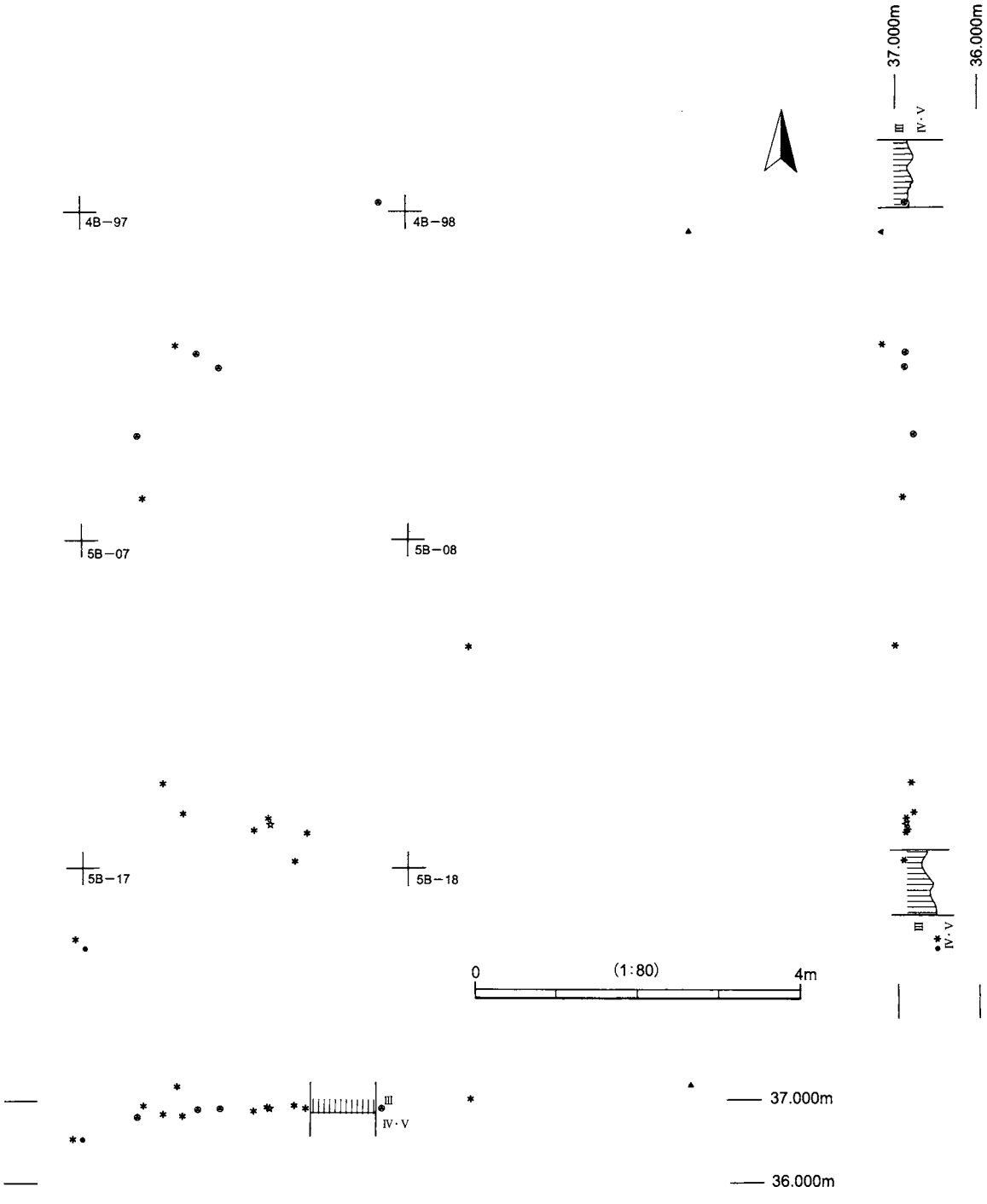
ルス１母岩（5B-㉖）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は86％（６／７点）である。

・4B-⑳：淡灰緑色の地に暗紫色の斑がある嶺岡産珪質頁岩である。剥片１点（0.3ｇ）の単独資料である。

・4B-㉑：灰色の砂岩である。原石は，拳の半分程度の小型の円礫と考えられる。石器群の内訳は，剥片３点，石核１点の合計４点（60.7ｇ）で，すべてが接合する。

・5B-㉖：黄灰色に風化した泥岩質のホルンフェルスである。剥片１点(4.1ｇ)の単独資料である。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石の剥片１点（1.5ｇ）がある。黒色不透明で夾雑物を多く



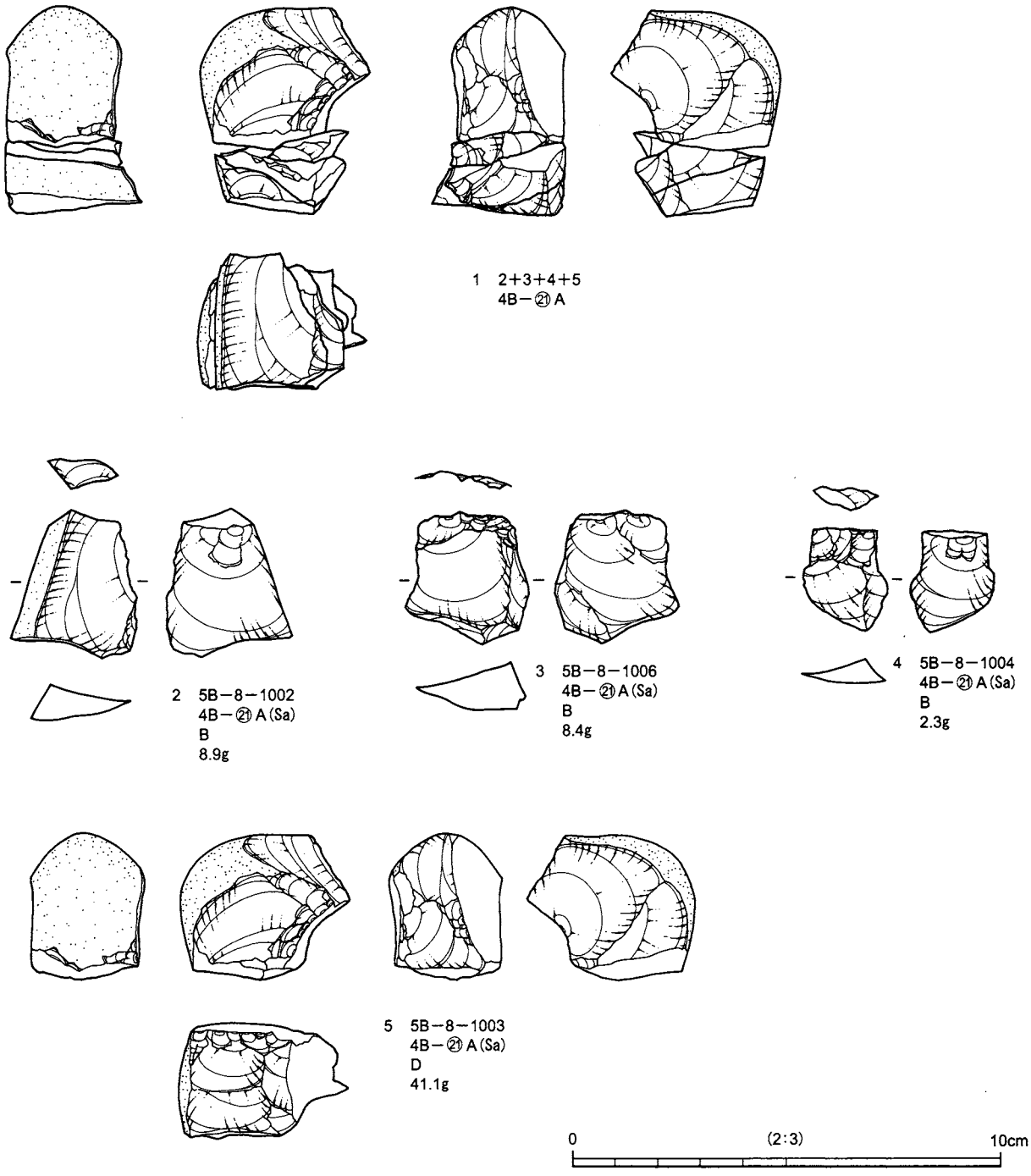
第477図　4B-Ｃブロック出土遺物分布図（２）　－石材別分布図－

含むものである。栃木県高原山産であろうか。

3）接合資料とその関連資料（第478図）

・4B-㉑（第478図１～５）　灰色の砂岩で，剥片３点，石核１点で構成される。

１は，剥片３点（２～４），石核１点（５）の接合資料である。本接合資料から見た剥離手順は以下のとおりである。①；拳の半分程度の円礫を石核の素材とする。②；右側面を打面，下面を作業面として剥片を剥離する。③；正面を打面として，上面に平坦な打面を設ける。④；正面を作業面として，同一の打



第478図　4B-Cブロック出土遺物実測図

面（上面）を用いて２→３→４の順に不定型の剥片を剥離する。⑤；右側面（④の作業面の一部）を打面として，上面，下面から剥片を剥離し，作業を終了している。

第197表　4B-Cブロック母岩別石器組成表

母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
4B-⑳(Csh)																			1			1		1
4B-㉑(Sa)																			3		1	4		4
5B-㉖(Ho)																			1			1		1
その他(Ob)																			1			1		1
4BR-③(Ho)																							1	1
4BR-④(Ho)																							1	1
5BR-①(Sa)																							1	1
その他(An)																							3	3
その他(Sa)																							3	3
その他(Pe)																							1	1
合　計																			6		1	7	10	17

第198表　4B-Cブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)																			1			1		1
安山岩(An)																							3	3
珪質頁岩(Csh)																			1			1		1
砂岩(Sa)																			3		1	4	4	8
礫岩(Pe)																							1	1
ホルンフェルス(Ho)																			1			1	2	3
合　計																			6		1	7	10	17

4　6E-Aブロック（第479～492図，第199・201表）

1）ブロックの概要

6E-Aブロックは，調査範囲南側の6D-08・09・19・29，5E-90～93，6E-00～02・10～12・20～23グリッドに位置する。ブロックの立地は，丘陵頂部にある80m四方ほどの平坦面上である。

ブロックの規模と形状は，東西20m，南北14mの範囲に532点の石器・礫が分布する。ただし，全体の９割は6D-19グリッドと6E-10グリッドの境を中心とした，直径４mの範囲に集中する。出土層位はⅢ層下部を中心としており，40cmほどの高低差をもって凸レンズ状に包含されている（第479～483図）。

ブロックは，掻器３点，削器２点，加工痕ある剥片６点，使用痕ある剥片２点，敲石１点，剥片62点，砕片４点，石核７点，礫445点の合計532点で構成される。石器石材は黒曜石36点，安山岩30点，頁岩10点，珪質頁岩１点，砂岩２点，ホルンフェルス８点，礫石材は，安山岩１点，流紋岩21点，頁岩17点，チャート56点，砂岩282点，ホルンフェルス68点である。

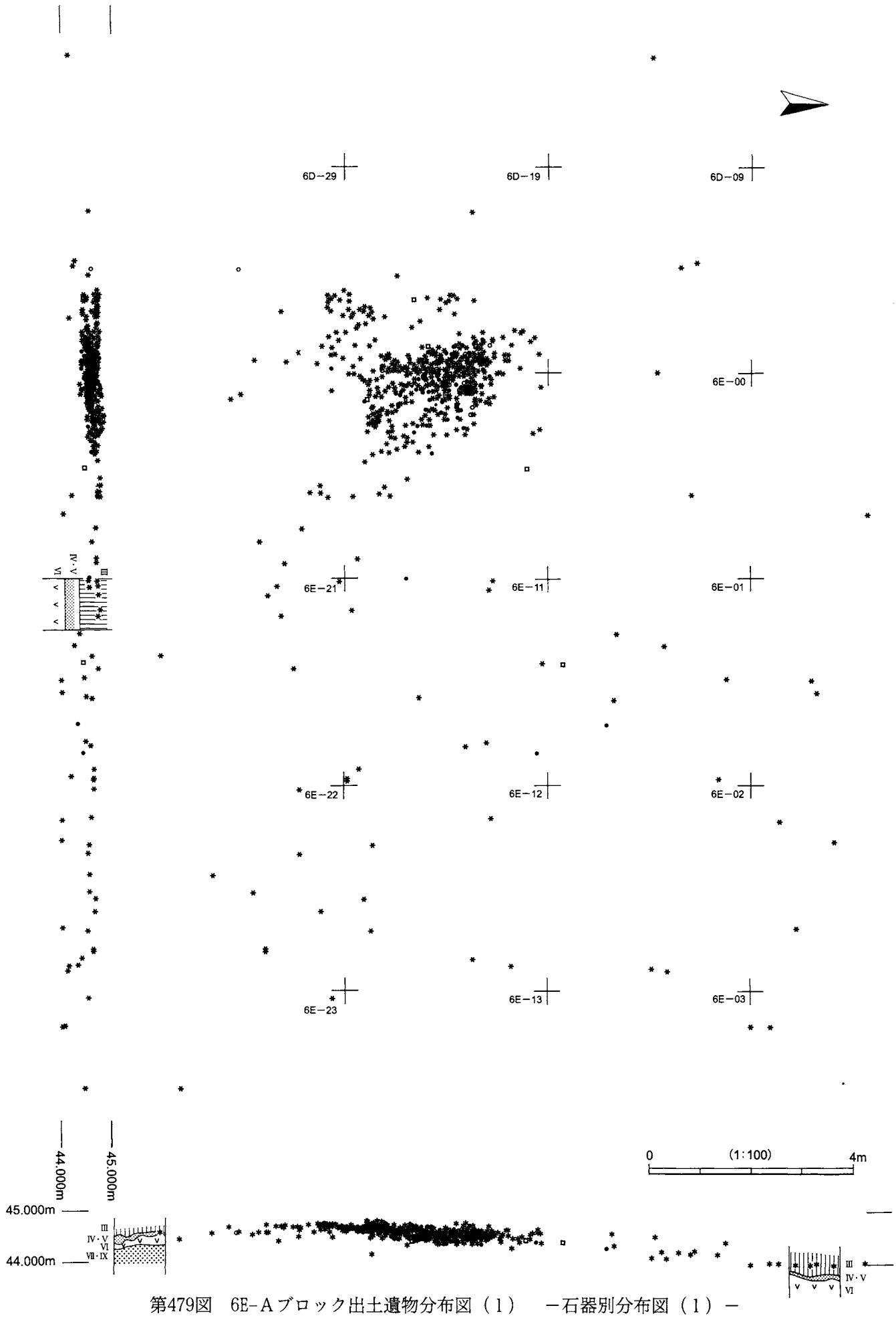
礫を母岩分類した結果，安山岩１個体（１点），流紋岩10個体（18点），砂岩74個体（162点），チャート10個体（28点），頁岩６個体（12点），ホルンフェルス24個体（43点），合計125母岩（264点）を識別した。また，母岩不明の資料が181点ある。

母岩分類した礫について石材ごとに見ると，平均重量は流紋岩が122.5ｇと突出し，それ以外は砂岩64.6ｇ，頁岩56.8ｇ，ホルンフェルス46.1ｇ，チャート38.7ｇである。完形礫に復元資料が多くはないため，礫の大きさをそのまま表わしてはいないが，流紋岩が大きく，それ以外は大差ないようである。

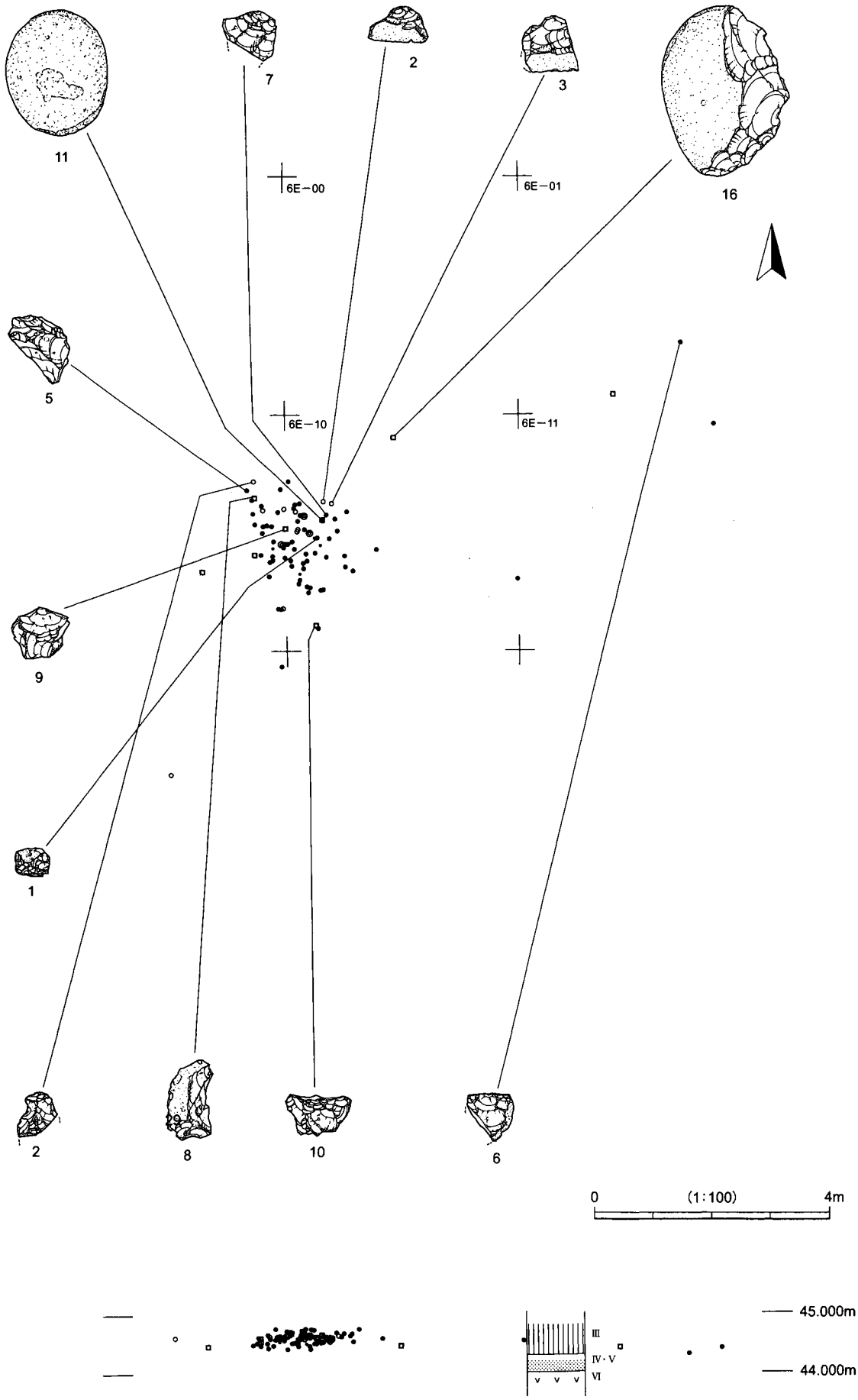
2）母岩の特徴と内容

本ブロックでは17母岩を識別した。内訳は，黒曜石５母岩（6E-①～⑤），安山岩４母岩（6E-⑥～⑨），頁岩２母岩（6E-⑩・⑪），珪質頁岩１母岩（6E-⑯），砂岩１母岩（6E-⑫・⑮），ホルンフェルス１母岩（6E-⑬・⑭・⑰）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は49％（43／87点）である。

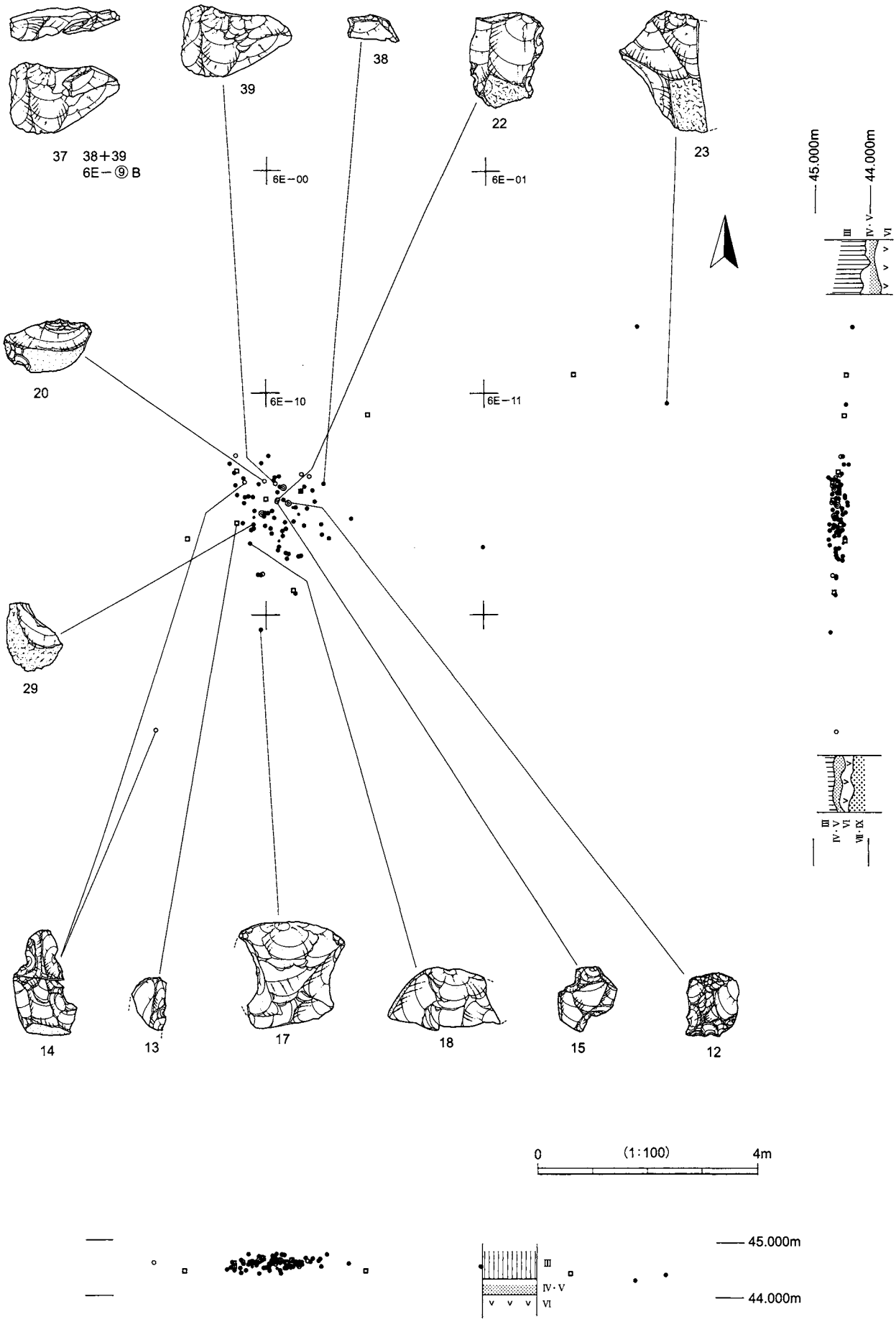
・6E-①：黒灰色不透明でφ１㎜～３㎜の夾雑物が含まれる黒曜石である。自然面は淡褐色でザラザラし



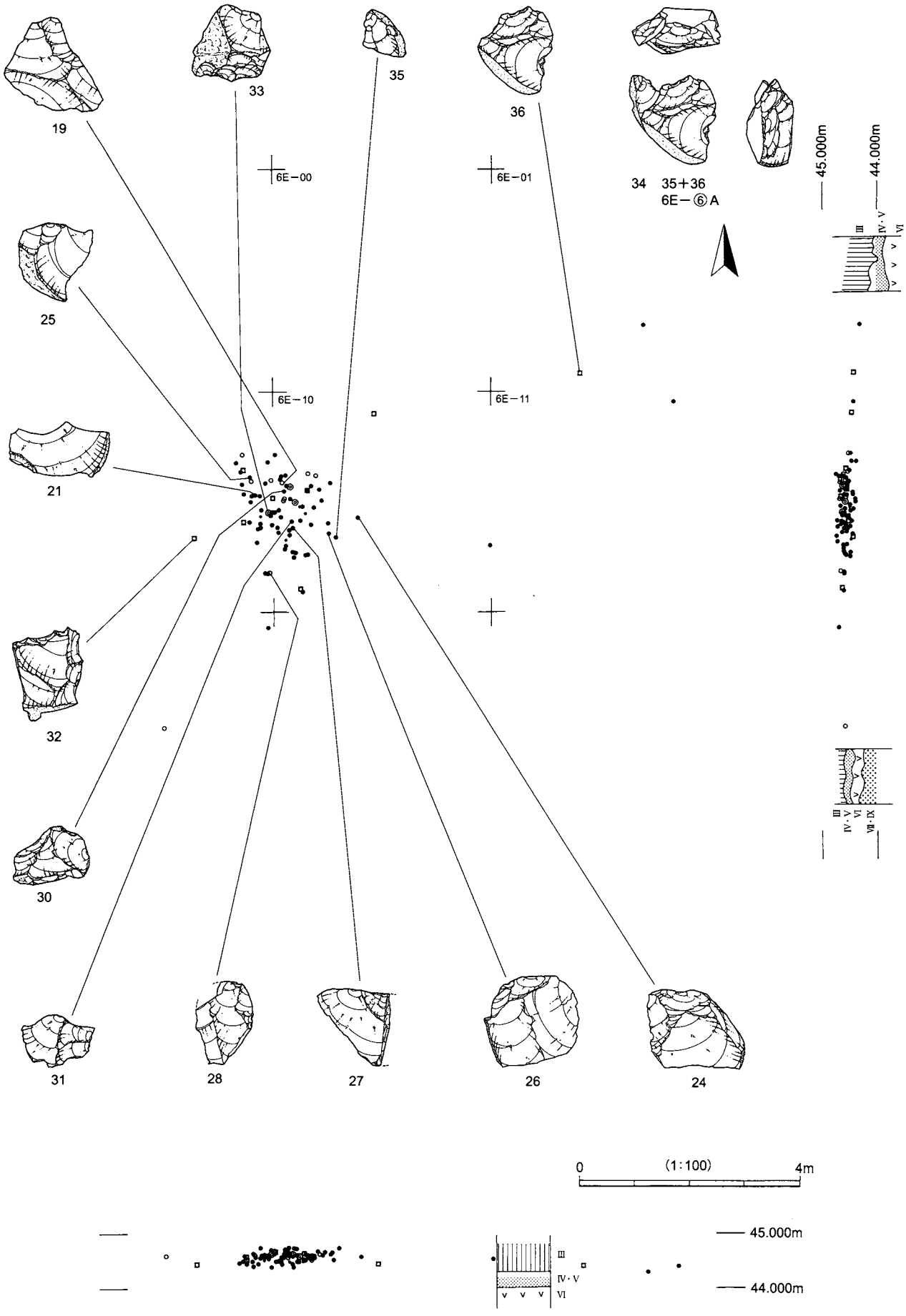
第479図　6E-Aブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図（1）－



第480図　6E-Aブロック出土遺物分布図（2）　－石器別分布図（2）－



第481図　6E-Aブロック出土遺物分布図（3）　－石器別分布図（3）－



第482図　6E-Aブロック出土遺物分布図（4）　－石器別分布図（4）－

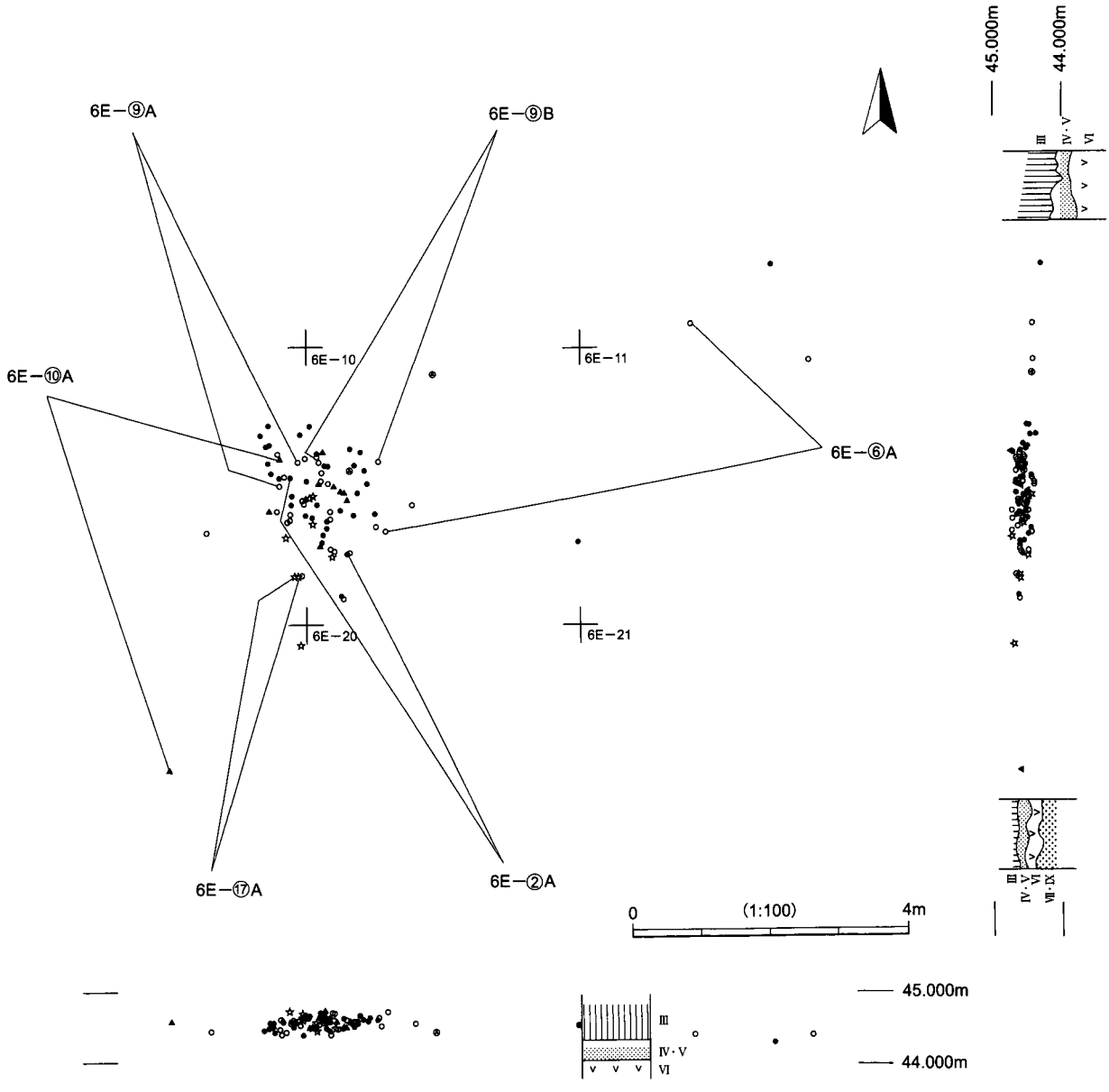
ており，これまでに見てきた黒曜石の中では特異である。自然面の残り方とその湾曲の度合いから見て，原石は小型の亜角礫ないしは円礫の可能性がある。内部の質感は栃木県高原山産に似る。

石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片２点，石核２点の合計５点（23.0ｇ）である。

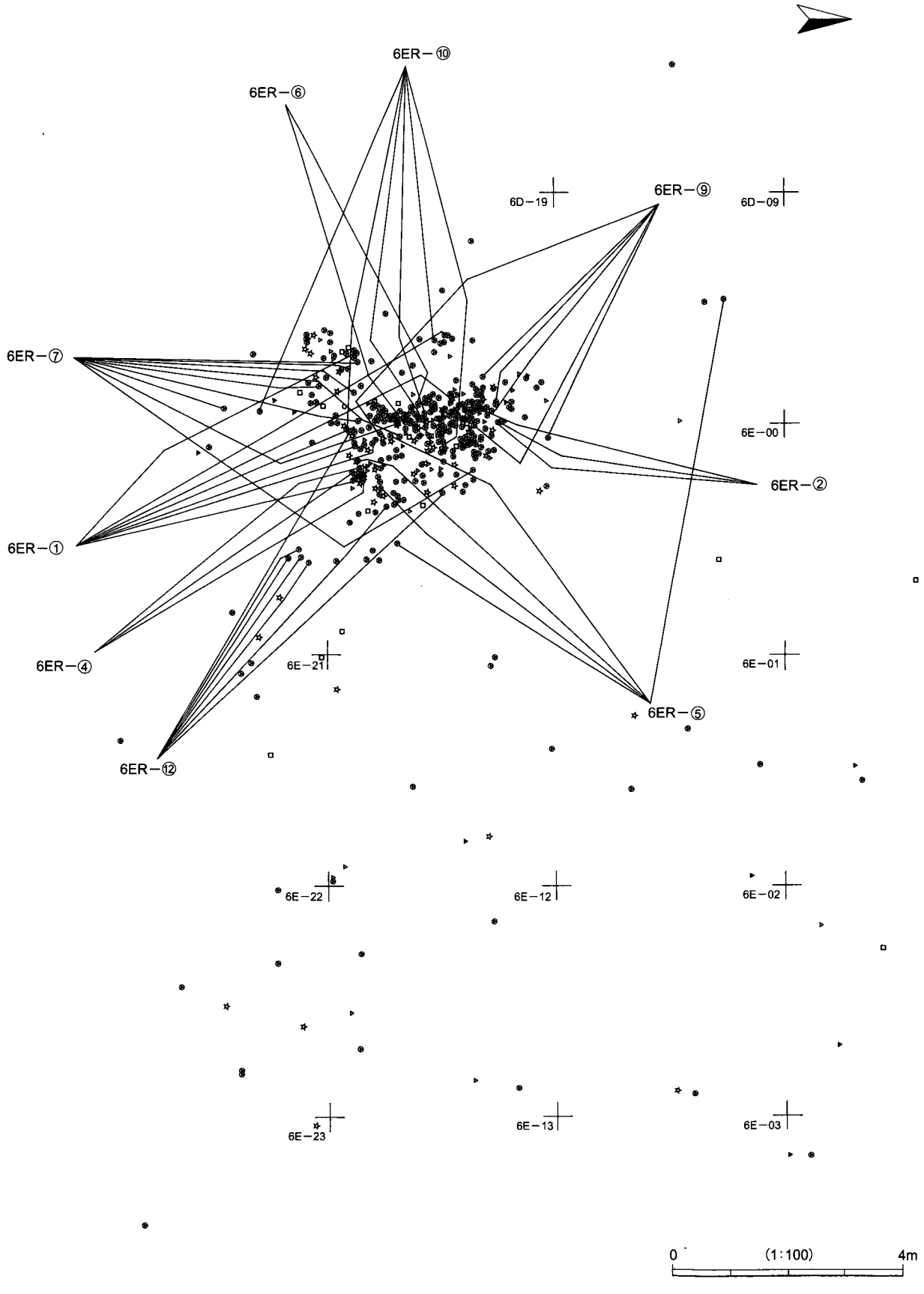
・6E-②：黒色半透明の地に黒色の縞が多数入る黒曜石である。夾雑物は見られない。自然面は平坦であるが，紙やすり状にザラザラしている。信州産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片３点，の合計４点（7.8ｇ）である。この内の剥片２点（合計1.7ｇ）が接合している。

・6E-③：淡黒色半透明な地に黒色の縞が多数入って全体が黒く見える黒曜石である。乳白色の夾雑物を含む。剥片１点（6.6ｇ）の単独資料である。

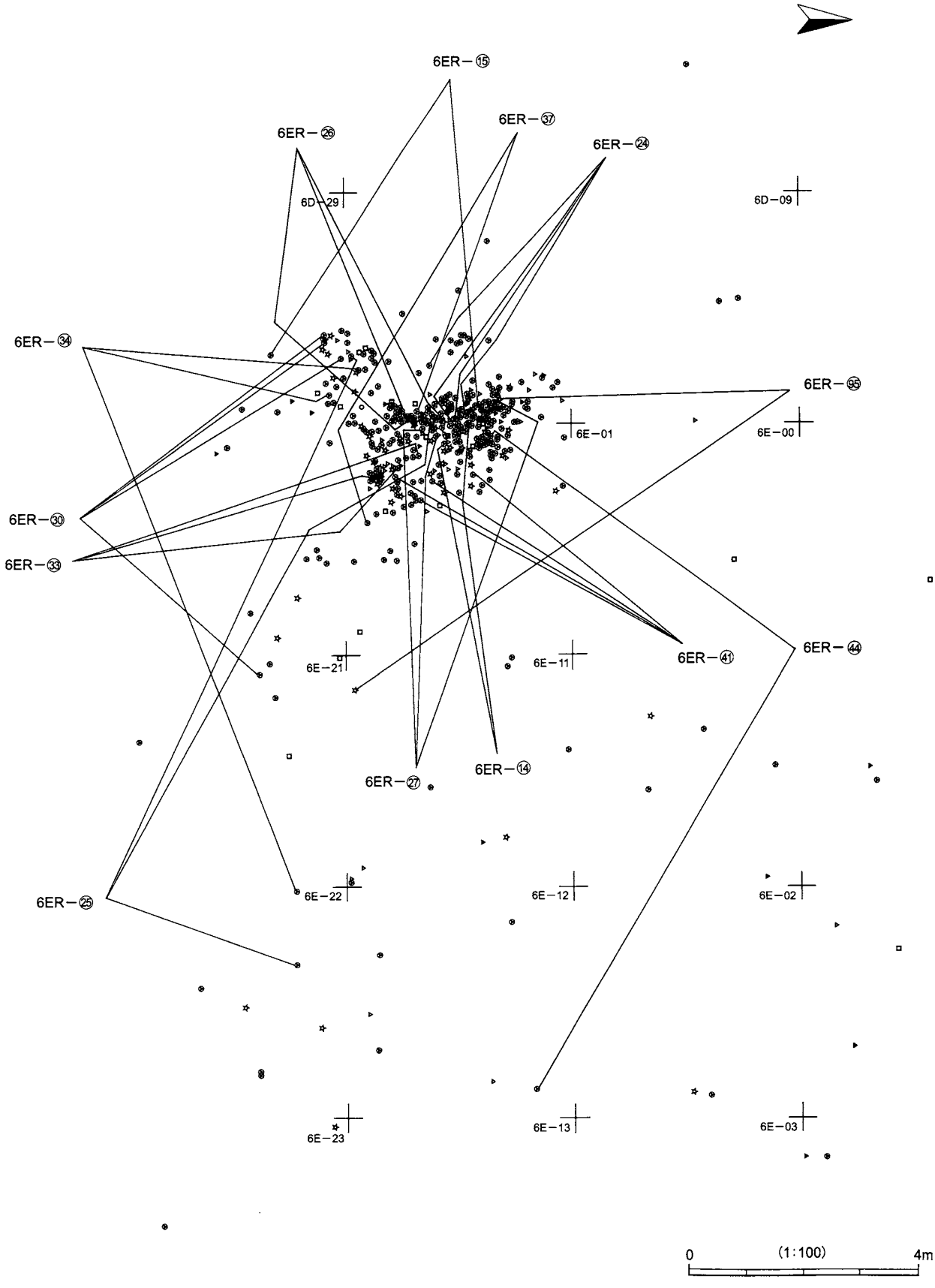
・6E-④：薄く黒みがかった透明な黒曜石である。剥片１点（0.5ｇ）の単独資料である。信州産と考えられる。



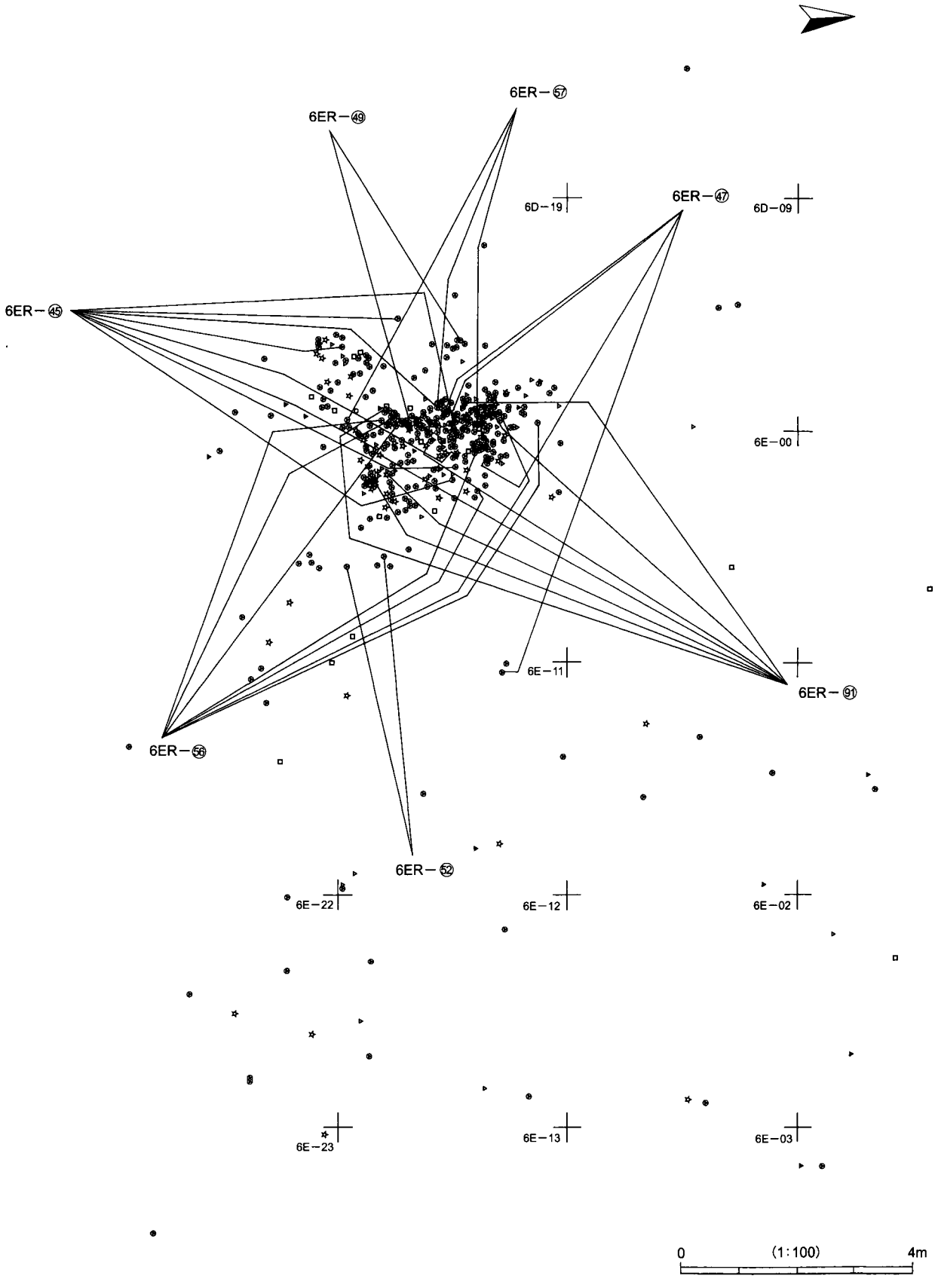
第483図　6E-Ａブロック出土遺物分布図（５）　－石材別分布図－



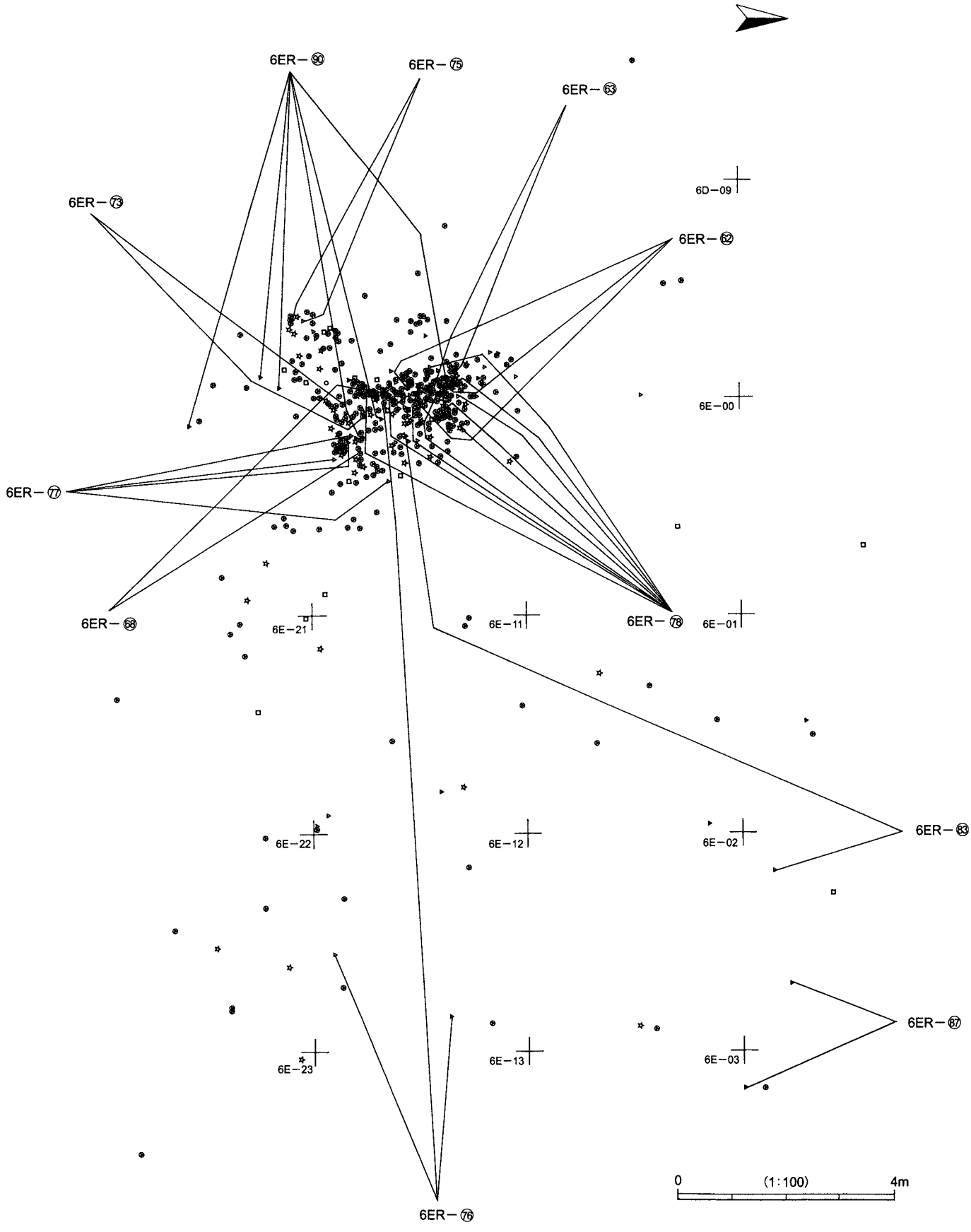
第484図　6E-Aブロック出土遺物分布図（6）　－礫石材別分布図（1）－



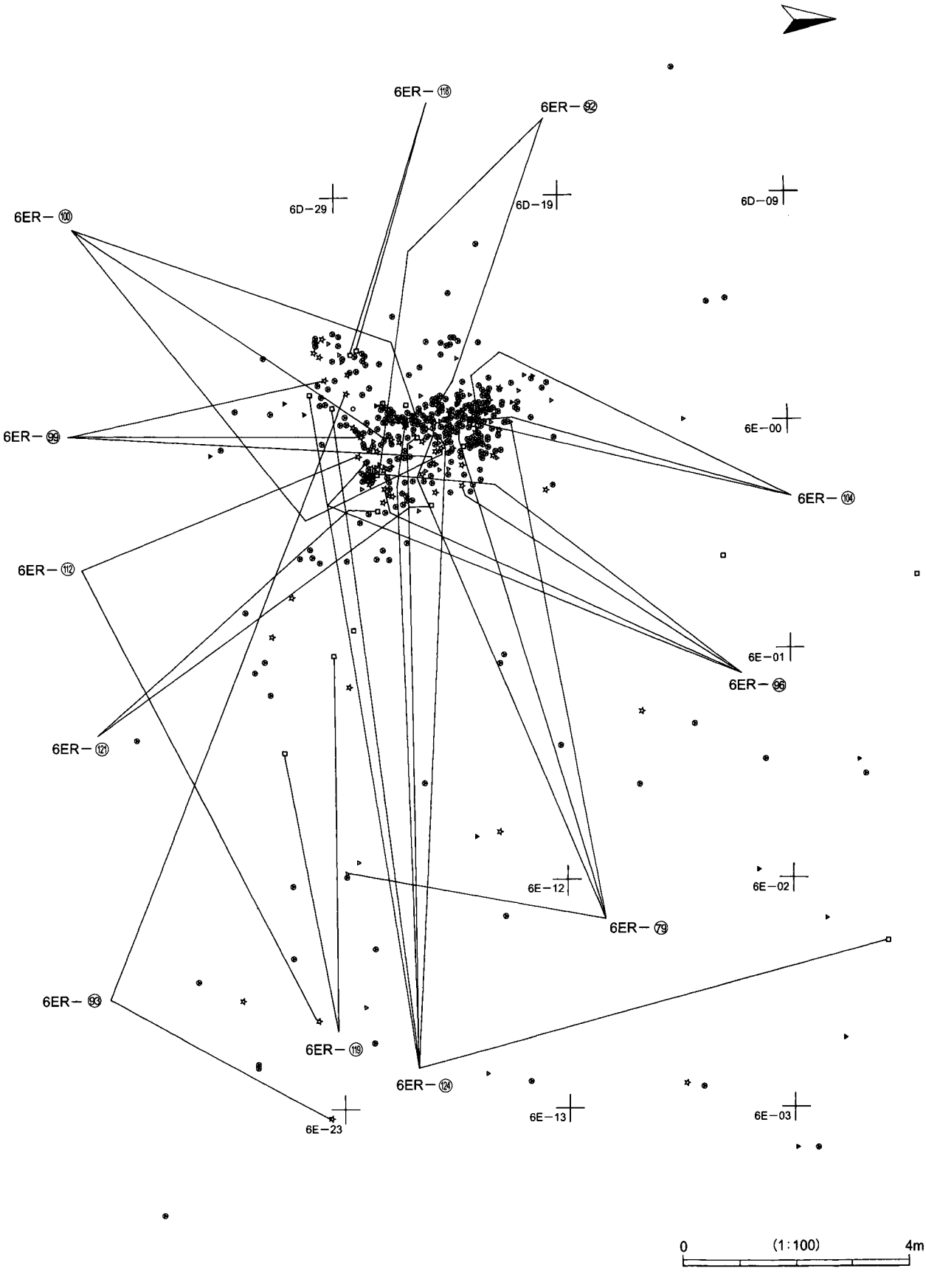
第485図　6E-Aブロック出土遺物分布図（7）　－礫石材別分布図（2）－



第486図　6E-Aブロック出土遺物分布図（8）　－礫石材別分布図（3）－



第487図　6E-Aブロック出土遺物分布図（9）　－礫石材別分布図（4）－



第488図　6E-Aブロック出土遺物分布図（10）　－礫石材別分布図（５）－

・6E-⑤：淡黒色半透明の地に黒色の縞が部分的に入る黒曜石である。夾雑物は見られない。信州産と考えられる。石器群の内訳は，使用痕ある剥片１点，剥片２点の合計３点（3.5ｇ）である。

・6E-⑥：灰褐色に風化した安山岩である。自然面は強く湾曲し，表面には爪形の傷が多数見られることから，原石は円礫と考えられる。節理に沿って赤褐色の筋が入る。

石器群の内訳は，掻器１点，剥片１点，石核１点の合計３点（53.2ｇ）である。接合資料は，剥片１点，石核１点（合計33.2ｇ）で構成される。

・6E-⑦：灰褐色に風化した安山岩である。自然面は平坦で，表面には爪形の傷が多数付着する。石器群の内訳は，削器１点，剥片１点の合計２点（40.9ｇ）である。

・6E-⑧：黒みがかった灰褐色に風化した安山岩である。本ブロックの安山岩の中では最もきめ細かな石材である。自然面は強く湾曲し，表面は紙やすり状の部分と爪形の傷が付着する部分が見られる。原石は円礫と考えられる。

石器群の内訳は，加工痕ある剥片１点，剥片１点の合計２点（10.5ｇ）である。

・6E-⑨：灰褐色に風化した安山岩である。きめは粗い。石器群の内訳は，剥片４点（20.2ｇ）である。接合資料は，剥片２点が接合したものが２組ある（接合資料Ａ；2.5ｇ，接合資料Ｂ；17.2ｇ）。

・6E-⑩：灰白色で部分的に黒色の縞が入る硬質緻密な頁岩である。石器群の内訳は，掻器１点，加工痕ある剥片２点，剥片３点，砕片２点，石核１点の合計９点（28.8ｇ）である。このうち，加工痕ある剥片２点が接合して１個体（14.8ｇ）になる。

・6E-⑪：黒灰色と灰白色の部分が斑になる緻密な頁岩である。加工痕ある剥片１点（3.7ｇ）の単独資料である。

・6E-⑫：黒灰色で硬質粗粒の砂岩である。石核１点（211.0ｇ）の単独資料である。

・6E-⑬：黄灰色に風化した泥岩質のホルンフェルスである。剥片１点（35.0ｇ）の単独資料である。

・6E-⑭：黒灰色で泥岩質のホルンフェルスである。剥片２点（合計14.1ｇ）で構成される。

・6E-⑮：淡褐色で粗粒の砂岩である。小型の円礫による敲石１点（63.9ｇ）の単独資料である。

・6E-⑯：淡褐色で緻密な珪質頁岩である。嶺岡産と考えられる。また，被熱により変色している可能性がある。剥片１点（9.1ｇ）の単独資料である。

・6E-⑰：自然面は灰白色に風化しているが，内部は黒灰色の砂岩質のホルンフェルスである。剥片２点（合計6.5ｇ）で，構成されるが，両者は表裏で接合する。

なお，母岩分類できなかった資料に，黒曜石の掻器１点，剥片18点，砕片２点，石核１点（合計13.6ｇ），安山岩の削器１点，加工痕ある剥片１点，剥片16点，石核１点（合計111.7ｇ），ホルンフェルスの剥片３点（合計2.2ｇ）がある。黒曜石は，黒色不透明の栃木県高原山産と考えられるものや黒色半透明の信州産と考えられるものなど，数種類ある。安山岩は，上記6E-⑥～⑨母岩のいずれかに帰属する可能性が高いが，母岩ごとの差が小さいため，自然面をもたない資料の多くは分類できなかった。

３）出土遺物（第489～492図）

１～10は，各種黒曜石製の石器群である。

１は，掻器の刃部破片である。厳密には，刃部再生に際して最初に切断した部分と考えられる。２は，加工痕ある剥片である。不定型の剥片を素材とし，打面の両側に裏面から粗い調整加工を行っている。下半部を欠損するため，詳細は不明である。

3・4は，小型不定型の剥片を利用した使用痕ある剥片，5～7は，不定型の剥片である。

8は，小型不定型の剥片を生産した石核である。小型の円礫，あるいは分割礫を石核の素材とし，交互剥離によって剥片を剥離している。ただし，分割面等石核の素材時の剥離面は見られない。9は，不定型の剥片を用いた石核である。表面左端に素材時の主要剥離面が残る。周囲を廻るように小型の剥片を剥離している。10は，分割礫を用いた石核である。打面と作業面を固定せず，各所から小型不定型の剥片を剥離している。

11は，砂岩による扁平な敲石である。上下両端に敲打痕がある。

第199表　6E-Aブロック母岩別石器組成表

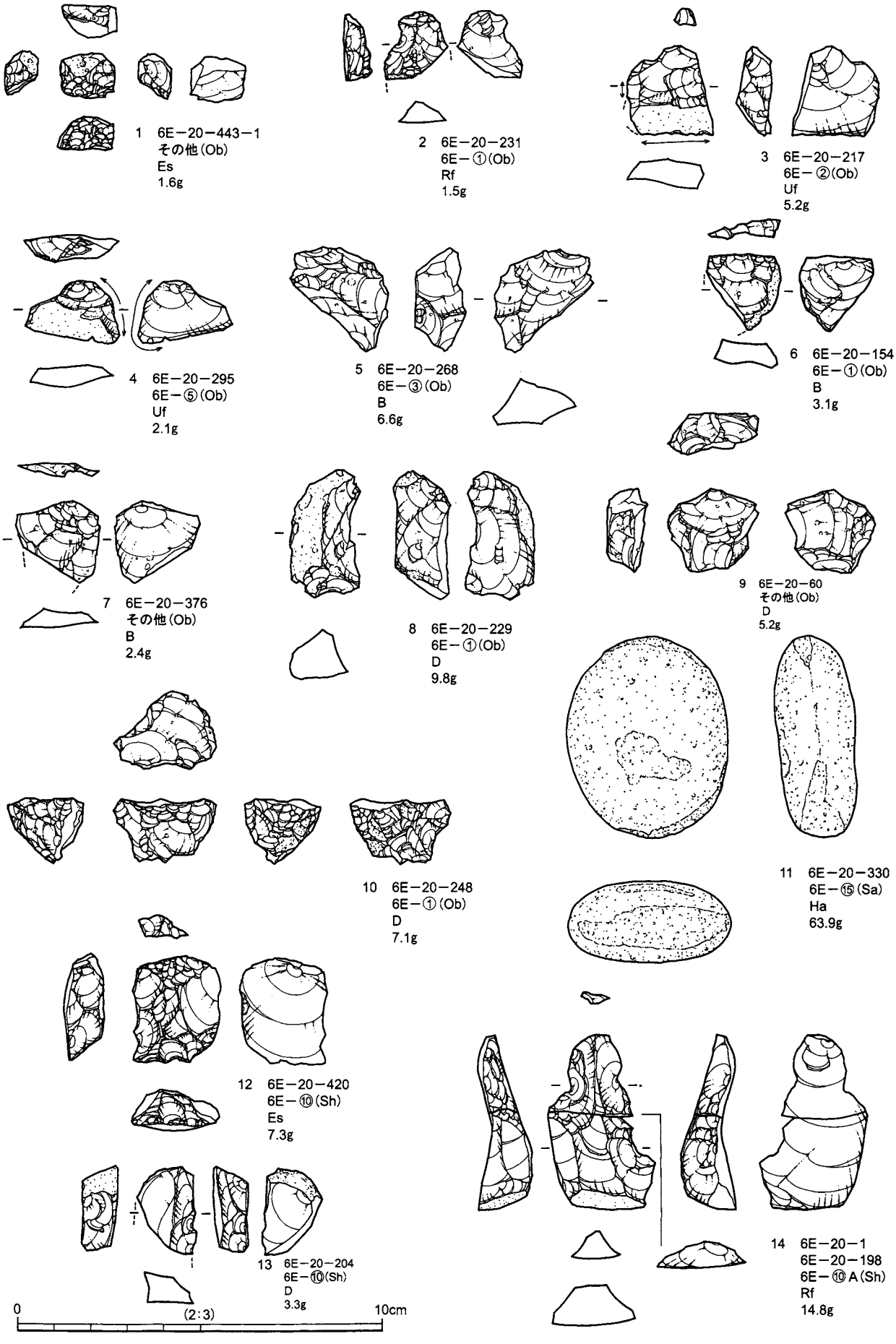
母岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
6E-①(Ob)										1									2		2	5		5
6E-②(Ob)											1								3			4		4
6E-③(Ob)																			1			1		1
6E-④(Ob)																			1			1		1
6E-⑤(Ob)											1								2			3		3
6E-⑥(An)					1														1		1	3		3
6E-⑦(An)						1													1			2		2
6E-⑧(An)										1									1			2		2
6E-⑨(An)																			4			4		4
6E-⑩(Sh)					1					2									3	2	1	9		9
6E-⑪(Sh)										1												1		1
6E-⑫(Sa)																					1	1		1
6E-⑬(Ho)																			1			1		1
6E-⑭(Ho)																			2			2		2
6E-⑮(Sa)															1							1		1
6E-⑯(Csh)																			1			1		1
6E-⑰(Ho)																			2			2		2
その他(Ob)					1														18	2	1	22		22
その他(An)						1				1									16		1	19		19
その他(Ho)																			3			3		3
合計					3	2				6	2				1				62	4	7	87	445	532

第200表　6E-Aブロック石材別石器組成表

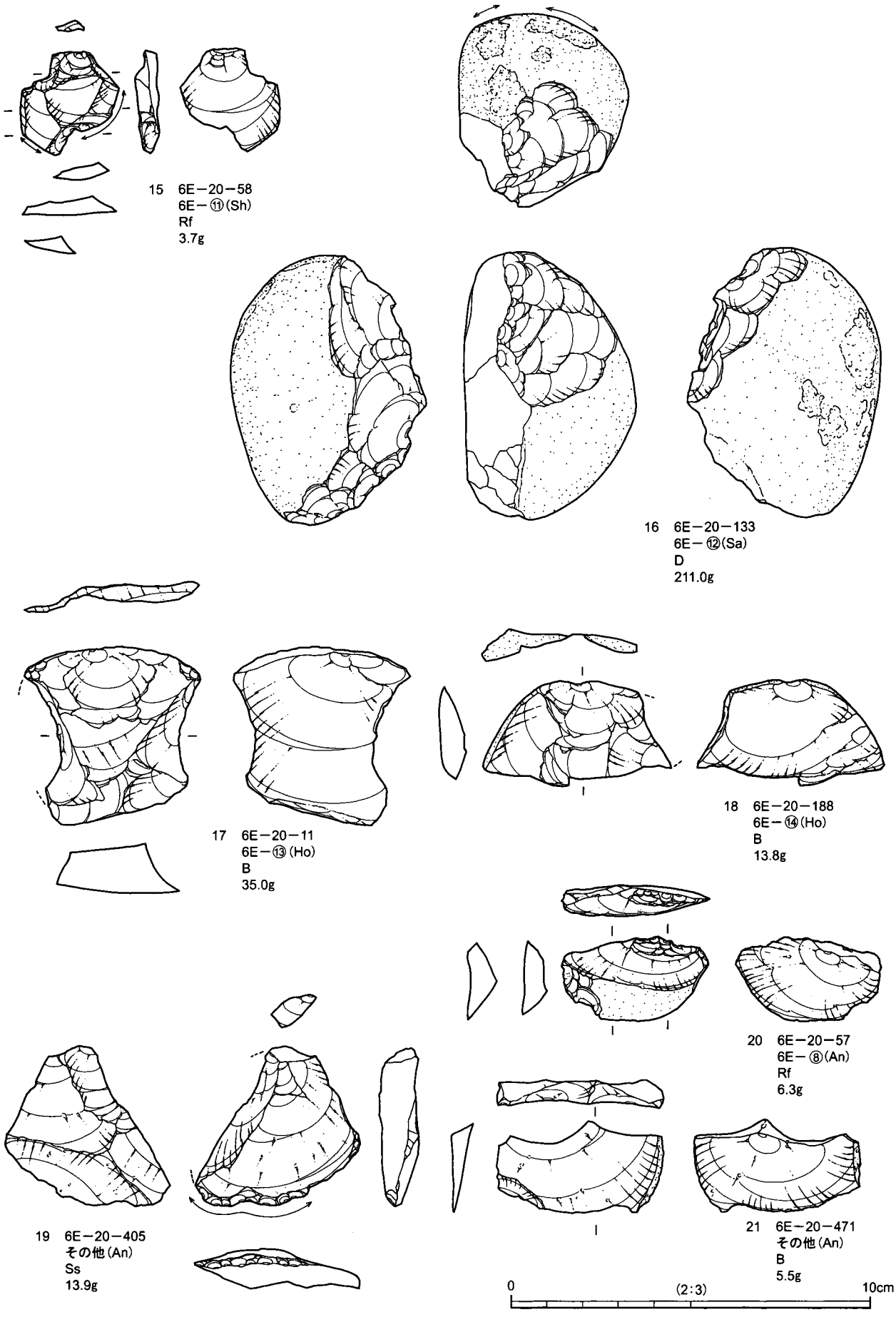
石材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)					1					1	2								27	2	3	36		36
安山岩(An)					1	2				2									23		2	30	1	31
流紋岩(Rh)																							21	21
頁岩(Sh)					1					3									3	2	1	10	17	27
珪質頁岩(Csh)																			1			1		1
チャート(Ch)																							56	56
砂岩(Sa)															1						1	2	282	284
ホルンフェルス(Ho)																			8			8	68	76
合計					3	2				6	2				1				62	4	7	87	445	532

第201表　6E-Aブロック母岩別礫一覧表

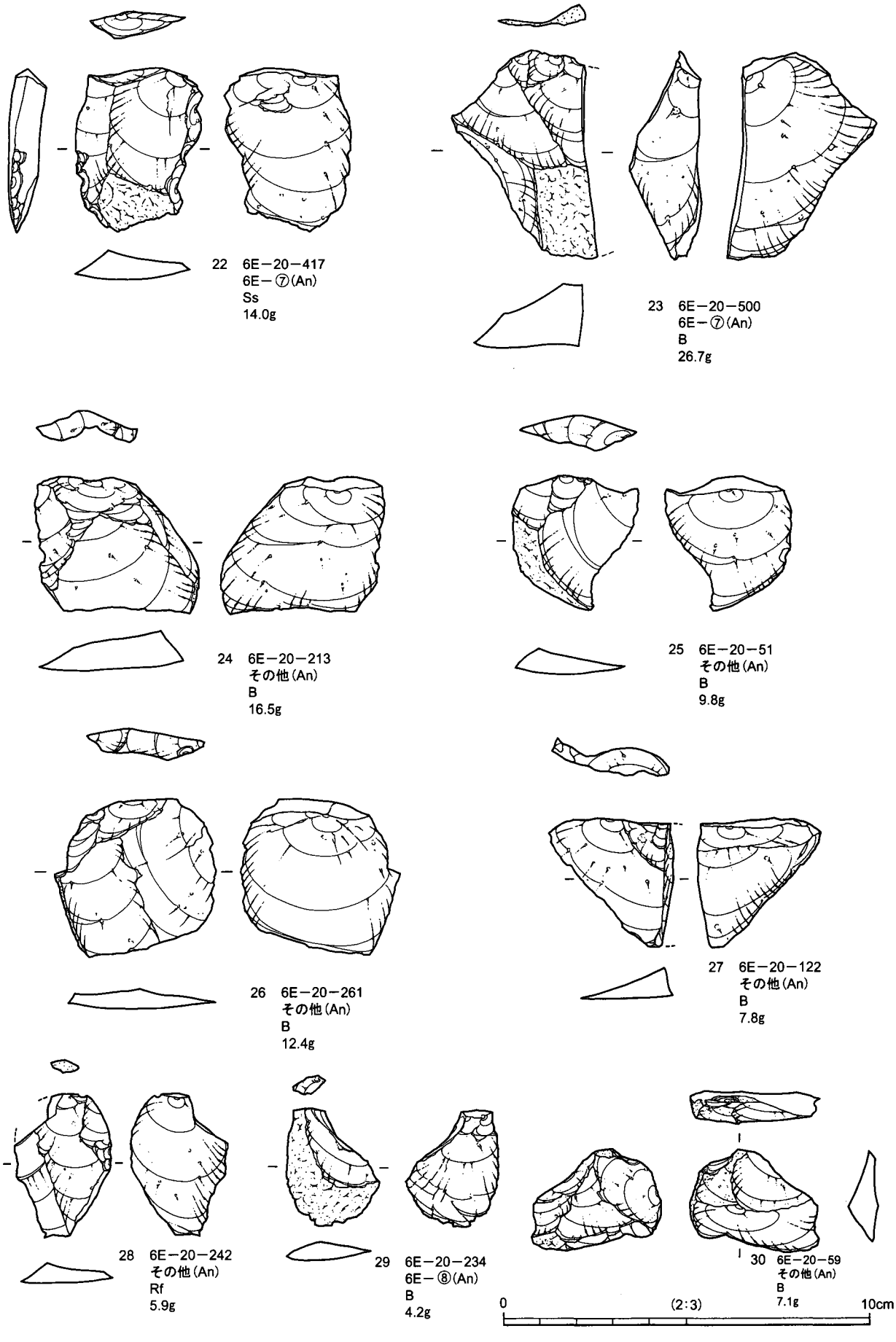
母岩	点数	重量	母岩	点数	重量	母岩	点数	重量	母岩	点数	重量	母岩	点数	重量
6ER-①(Sa)	7	164.0	6ER-㉙(Sa)	1	55.9	6ER-㊺(Sa)	1	34.3	6ER-㊷(Ch)	1	9.6	6ER-㊾(Ho)	1	87.8
6ER-②(Sa)	3	60.1	6ER-㉚(Sa)	1	12.5	6ER-㊻(Sa)	7	80.6	6ER-㊸(Ch)	2	26.4	6ER-㊿(Ho)	1	20.3
6ER-③(Sa)	1	34.3	6ER-㉛(Sa)	5	231.5	6ER-㊼(Sa)	3	93.3	6ER-㊹(Ch)	1	14.7	6ER-(51)(Ho)	1	11.4
6ER-④(Sa)	3	62.1	6ER-㉜(Sa)	1	9.6	6ER-㊽(Sa)	1	69.4	6ER-㊺(Sh)	1	19.5	6ER-(52)(Ho)	2	52.2
6ER-⑤(Sa)	5	65.0	6ER-㉝(Sa)	1	43.6	6ER-㊾(Sa)	1	40.2	6ER-㊻(Sh)	1	27.0	6ER-(53)(Ho)	1	31.1
6ER-⑥(Sa)	2	164.7	6ER-㉞(Sa)	3	56.6	6ER-㊿(Sa)	1	33.4	6ER-㊼(Sh)	1	44.3	6ER-(54)(Ho)	1	62.2
6ER-⑦(Sa)	9	352.5	6ER-㉟(Sa)	3	85.3	6ER-(51)(Sa)	1	47.6	6ER-㊽(Sh)	1	9.6	6ER-(55)(Rh)	1	97.0
6ER-⑧(Sa)	1	42.3	6ER-㊱(Sa)	1	15.6	6ER-(52)(Sa)	3	27.4	6ER-㊾(Sh)	2	28.2	6ER-(56)(Rh)	1	43.0
6ER-⑨(Sa)	6	41.4	6ER-㊲(Sa)	1	7.7	6ER-(53)(Sa)	2	67.1	6ER-(90)(Sh)	6	212.2	6ER-(57)(Rh)	1	64.9
6ER-⑩(Sa)	6	94.0	6ER-㊳(Sa)	2	20.5	6ER-(54)(Sa)	1	34.0	6ER-(91)(Ho)	7	71.6	6ER-(58)(Rh)	2	106.1
6ER-⑪(Sa)	1	79.5	6ER-㊴(Sa)	1	23.6	6ER-(55)(Sa)	1	36.4	6ER-(92)(Ho)	2	78.8	6ER-(59)(Rh)	2	211.4
6ER-⑫(Sa)	7	201.5	6ER-㊵(Sa)	1	34.4	6ER-(56)(Sa)	1	46.1	6ER-(93)(Ho)	2	69.3	6ER-(60)(Rh)	1	37.3
6ER-⑬(Sa)	1	175.3	6ER-㊶(Sa)	1	14.3	6ER-(57)(Sa)	1	33.4	6ER-(94)(Ho)	1	41.9	6ER-(61)(Rh)	2	20.2
6ER-⑭(Sa)	2	104.0	6ER-㊷(Sa)	4	24.8	6ER-(58)(Sa)	2	33.4	6ER-(95)(Ho)	2	72.6	6ER-(62)(Rh)	1	295.1
6ER-⑮(Sa)	2	79.0	6ER-㊸(Sa)	1	40.5	6ER-(59)(Sa)	1	36.5	6ER-(96)(Ho)	4	116.7	6ER-(63)(Rh)	1	67.9
6ER-⑯(Sa)	1	83.0	6ER-㊹(Sa)	1	39.7	6ER-(70)(Sa)	1	18.6	6ER-(97)(Ho)	1	18.6	6ER-(64)(Rh)	6	281.9
6ER-⑰(Sa)	1	68.5	6ER-㊺(Sa)	2	52.9	6ER-(71)(Sa)	1	23.5	6ER-(98)(Ho)	1	41.5	6ER-(65)(An)	1	28.8
6ER-⑱(Sa)	1	40.6	6ER-㊻(Sa)	8	219.4	6ER-(72)(Sa)	1	27.6	6ER-(99)(Ho)	3	52.7	その他(Rh)	3	58.2
6ER-⑲(Sa)	1	96.6	6ER-㊼(Sa)	1	14.3	6ER-(73)(Sa)	2	25.0	6ER-(100)(Ho)	3	24.6	その他(Sh)	5	20.3
6ER-⑳(Sa)	1	45.1	6ER-㊽(Sa)	4	74.3	6ER-(74)(Sa)	1	38.9	6ER-(101)(Ho)	1	55.8	その他(Ch)	28	78.2
6ER-㉑(Sa)	1	53.7	6ER-㊾(Sa)	1	46.2	6ER-(75)(Ch)	2	96.1	6ER-(102)(Ho)	1	66.8	その他(Sa)	120	740.7
6ER-㉒(Sa)	1	112.6	6ER-㊿(Sa)	2	11.0	6ER-(76)(Ch)	3	39.6	6ER-(103)(Ho)	1	10.5	その他(Ho)	25	83.0
6ER-㉓(Sa)	1	200.4	6ER-(50)(Sa)	1	38.3	6ER-(77)(Ch)	4	61.7	6ER-(104)(Ho)	3	39.9	合計	445	8850.9
6ER-㉔(Sa)	4	70.5	6ER-(51)(Sa)	1	4.6	6ER-(78)(Ch)	9	87.3	6ER-(105)(Ho)	1	15.8			
6ER-㉕(Sa)	3	55.5	6ER-(52)(Sa)	2	38.4	6ER-(79)(Ch)	4	16.8	6ER-(106)(Ho)	1	35.0			
6ER-㉖(Sa)	3	67.9	6ER-(53)(Sa)	1	55.8	6ER-(80)(Ch)	1	22.1	6ER-(107)(Ho)	1	20.6			
6ER-㉗(Sa)	3	23.3	6ER-(54)(Sa)	1	26.3	6ER-(81)(Ch)	1	13.0	6ER-(108)(Ho)	1	9.4			



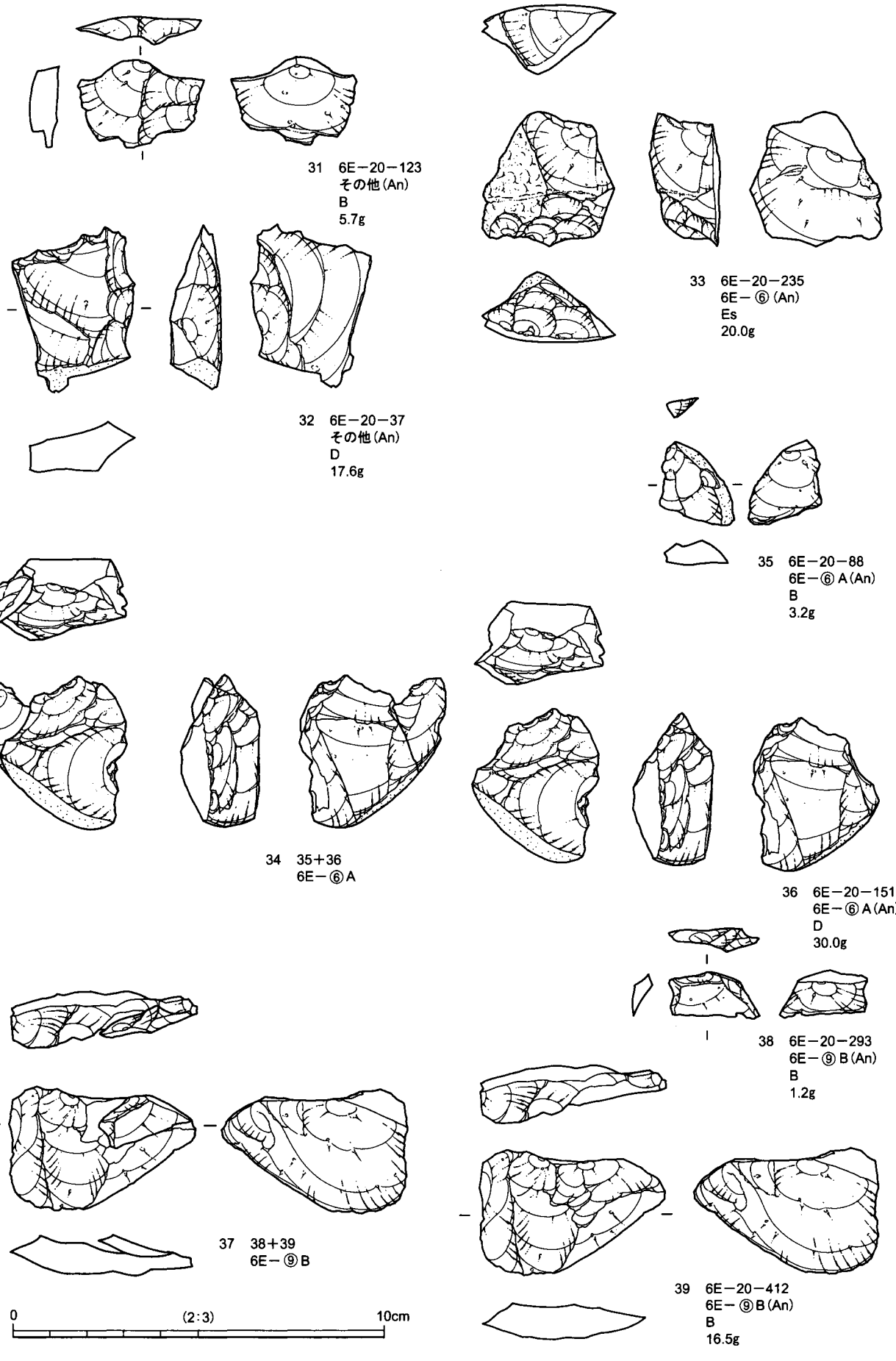
第489図　6E-Aブロック出土遺物実測図（1）



第490図　6E-Aブロック出土遺物実測図（2）



第491図　6E-Aブロック出土遺物実測図（3）



第492図　6E-Aブロック出土遺物実測図（4）

12～15は，頁岩製石器群である。このうち，12～14は同一母岩（6E-⑩母岩）である。

12は，掻器とした石器である。幅広不整形の縦長剥片を素材として，末端部を中心に裏面から粗い調整加工を行っている。14も不整形の縦長剥片を用いた，加工痕ある剥片とした資料である。裏面を打面として両側縁に粗い調整加工を行っているが，中央で二つに折れたためか，廃棄されている。角錐状石器等の未完成品ではなかろうか。13は，剥片素材の石核（片）である。右側縁に裏面を打面とする小型不定型の剥離面が並び，左半部には素材の主要剥離面が残る。

15は，不定型の剥片を用いた加工痕ある剥片である。左側縁上端と右側縁下端に粗い剥離痕があり，さらに，右側縁と末端部には刃こぼれがある。

16は，硬質の砂岩による不定型の剥片を剥離した石核である。拳よりもやや小振りの円礫を用い，表面と右側面で交互剥離を行っている。裏面の中央やや右側にある稜の周辺には敲打痕が見られることから，敲石として機能していた時期もあったと考えられる。

17・18は，ホルンフェルスによる中型不定型の剥片である。いずれも表面の剥離方向は一定しないことから，求心的な打点移動によって剥片剥離を行う石核から得られたものと想定される。

19～39は，各種母岩による安山岩製の石器群である。

19は，中型不定型の剥片を用いた削器である。素材剥片を剥離した際に打点で二つに割れた剥片を用い，裏面の末端部に粗い調整加工を行っている。20は，横長の剥片を用いた加工痕ある剥片である。打面の右側と末端部左側に裏面からの調整加工がある。ナイフ形石器の一種であろうか。22は，不整形の縦長剥片を素材とする削器である。左側縁の一部と右側縁に裏面から粗い刃部を作り出している。

21・23～31は安山岩による不定型な剥片，32は剥片素材の石核である。

4）接合資料とその関連資料（第492図）

・6E-⑥（第492図33～36） 灰褐色に風化した安山岩で，掻器1点，剥片1点，石核1点で構成される。

34は，剥片1点（35），石核1点（36）の接合資料である。厚手の剥片を石核の素材に用い，上端から右側面にかけて作業面として，交互剥離によって不定型の剥片を剥離している。35はその中の1枚である。石核の裏面中央には素材時の主要剥離面が見られ，末端には円礫面の自然面が残る。

33は，接合しないが同一母岩と考えられる石核である。厚手の剥片を石核の素材に用い，裏面（素材の主要剥離面）を打面として，末端から小型不定型の剥片を剥離している。

・6E-⑨（第492図37～39） 灰褐色に風化したきめの粗い安山岩で，剥片4点で構成される。

37は，剥片2点（38・39）の接合資料である。38→39の順に同一打面を用いて剥離している。

第4節　第7文化層

第7文化層は，立川ローム層ソフトローム層（Ⅲ層）に包含される石器群で，2B-A・6C-Aブロックの2か所が該当する。

1　2B-Aブロック（第493～495図，第202・203表）

1）ブロックの概要

2B-Aブロックは，調査範囲北側の2B-73・81～83・93グリッドに位置する。ブロックの立地は，南北に延びた幅20mほどのやせ尾根上の西縁である。

ブロックの規模と形状は，長軸10m，短軸５mの範囲に14点の石器・礫が散漫に分布する。出土層位はⅣ・Ⅴ層を中心としており，50cmほどの高低差をもって地形に沿って包含されている（第493・494図）。

ブロックは，ナイフ形石器１点，槍先形石器１点，石刃３点（２個体），剥片４点，石核１点，礫４点の合計14点（13個体）である。石器石材は，黒曜石１点，頁岩９点，礫石材は，砂岩４点である。礫は，３母岩に分類したが，いずれも拳よりも一回りほど小振りの円礫である。

２）母岩の特徴と内容

本ブロックでは６母岩を識別した。内訳は，黒曜石１母岩（2B-⑥），頁岩５母岩（2B-①～⑤）で，母岩識別した石器の石器総数に対する割合は100％（10／10点）である。

・2B-①：褐色で硬質緻密な東北産頁岩である。石刃２点（１個体），剥片３点の合計５点（４個体；36.3ｇ）で構成され，このうち石刃２点（１個体；26.7ｇ）が接合する。

・2B-②：淡褐色で硬質緻密な東北産頁岩である。石刃を素材とするナイフ形石器１点（1.9ｇ）の単独資料である。

・2B-③：淡褐色で硬質緻密な東北産頁岩である。2B-②母岩に似るが本母岩の方がやや暗い色調である。石刃１点（1.6ｇ）の単独資料である。

・2B-④：灰褐色から黒褐色が漸移的に変化する硬質緻密な東北産頁岩である。一部橙褐色で軟質な部分がある。色調の変化は，被熱による可能性が高い。分割礫を素材とする石核１点（25.5ｇ）の単独資料である。

・2B-⑤：黒灰色で硬質緻密な東北産頁岩である。被熱によって黒変したと考えられる。剥片１点（0.1ｇ）の単独資料である。

・2B-⑥：淡い黒褐色で半透明な黒曜石である。黒い筋と細かな気泡が入っている。槍先形石器１点（7.4ｇ）の単独資料である。蛍光Ｘ線分析によって，信州・麦草峠産という結果が得られた。

３）出土遺物（第495図）

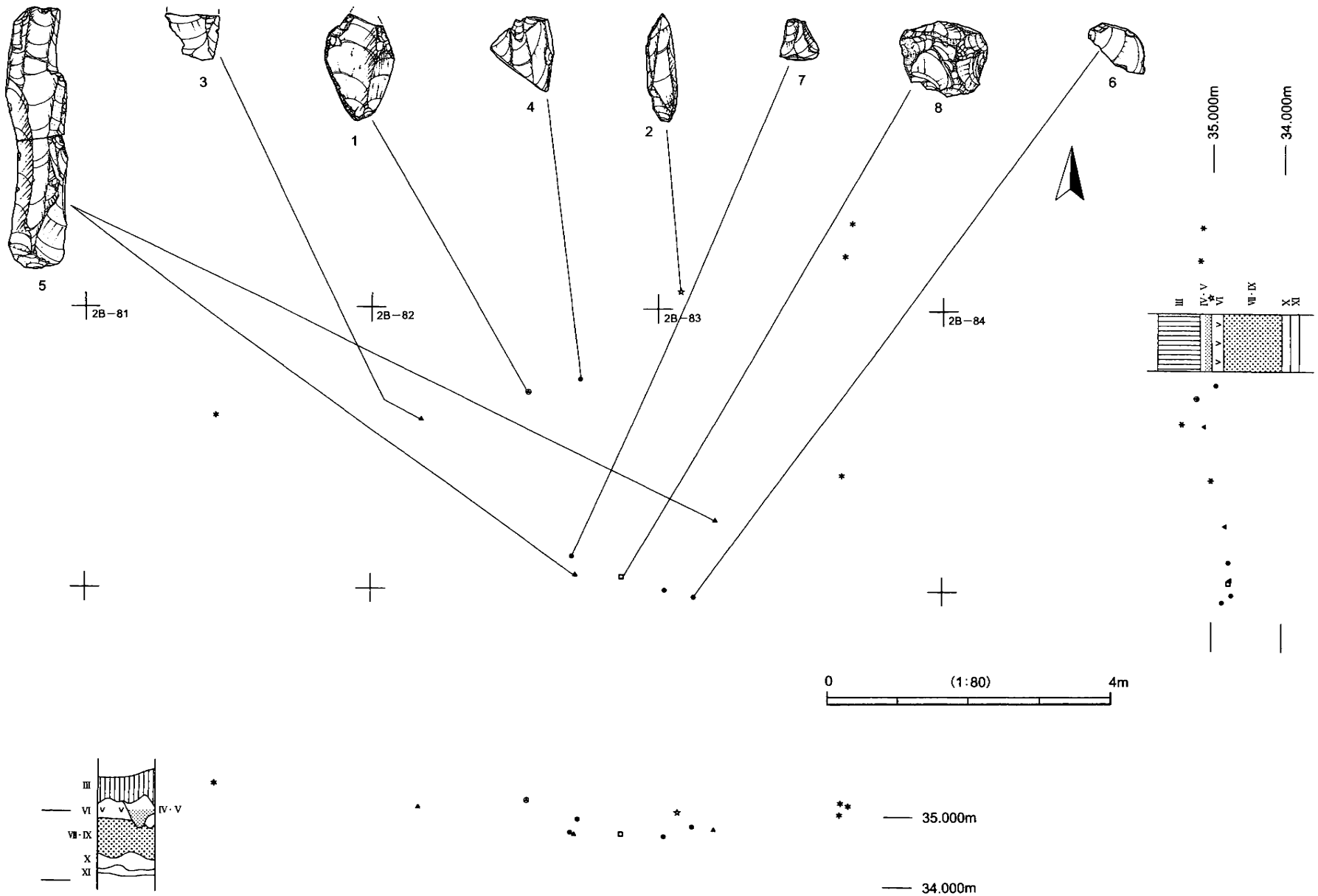
１は，黒曜石による不定型の剥片を素材とする槍先形石器である。素材剥片を縦位に用い，打面を基部側にあてて，左側縁全体と右側縁の先端側は裏面からのやや急角度の調整加工，右側面の裏側は打瘤を除去するような平坦な調整加工が行われている。打面は除去されている。また，左側縁の上部には短い樋状の剥離面がある。本例を槍先形石器と分類することにも問題はあるかも知れないが，中型幅広の木葉形で信州方面の黒曜石を用いた例は，八千代市権現後遺跡第３文化層や同井戸向遺跡で出土しており，千葉県

第202表　2B-Ａブロック母岩別石器組成表

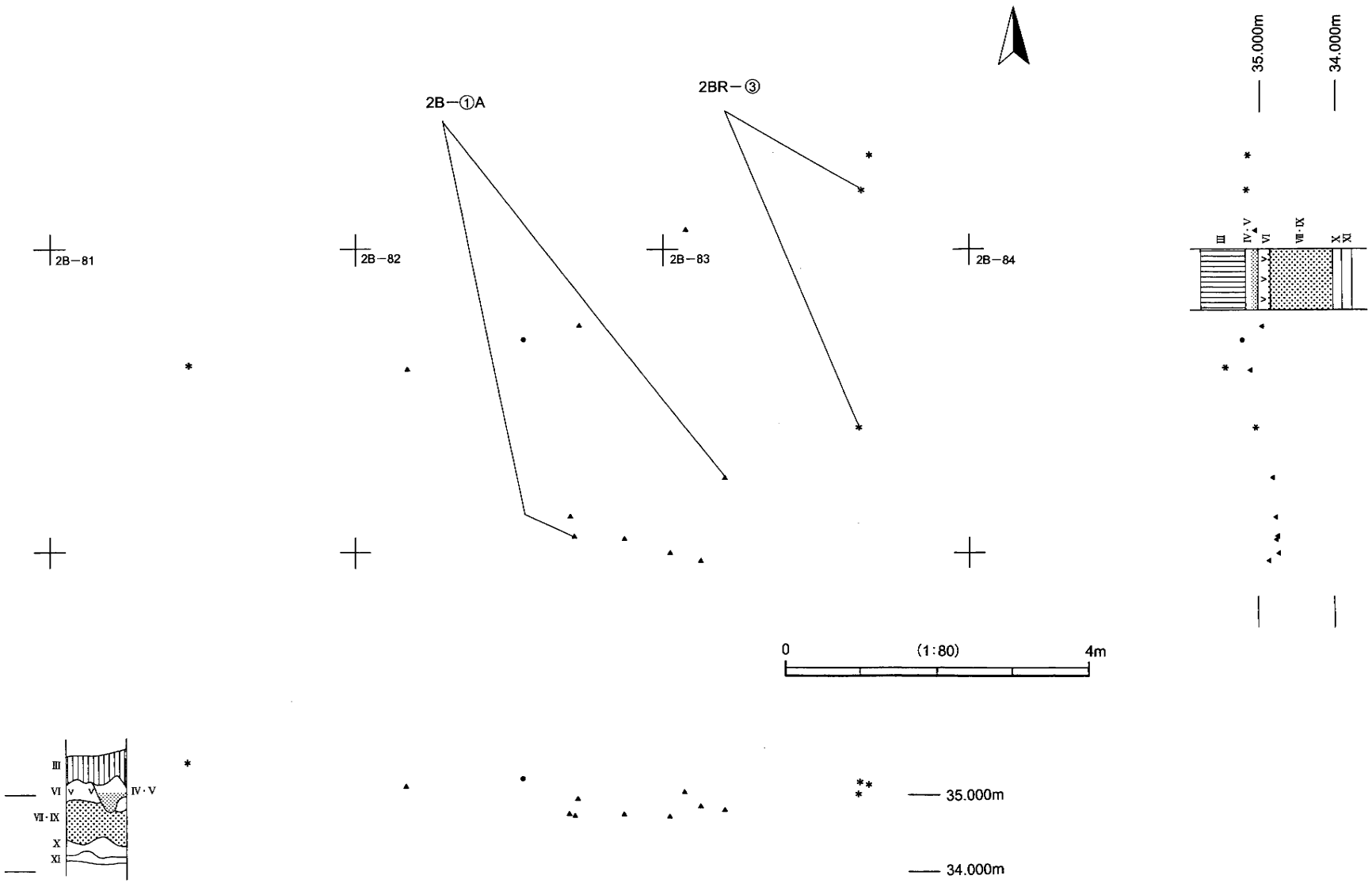
母　岩	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
2B-①(Sh)												2(1)							3			5(4)		5(4)
2B-②(Sh)	1																					1		1
2B-③(Sh)												1										1		1
2B-④(Sh)																					1	1		1
2B-⑤(Sh)																			1			1		1
2B-⑥(Ob)				1																		1		1
2BR-①(Sa)																							1	1
2BR-②(Sa)																							1	1
2BR-③(Sa)																							2	2
合　計	1			1								3(2)							4		1	10(9)	4	14(13)

第203表　2B-Ａブロック石材別石器組成表

石　材	Kn	Tr	Ka	Po	Es	Ss	Gr	Dr	Pi	Rf	Uf	Bl	Bls	Sp	Ha	Anb	Ax	他	B	C	D	石器計	礫	合計
黒曜石(Ob)				1																		1		1
頁岩(Sh)	1											3(2)							4		1	9(8)		9(8)
砂岩(Sa)																							4	4
合　計	1			1								3(2)							4		1	10(9)	4	14(13)



第493図　2B-Aブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－

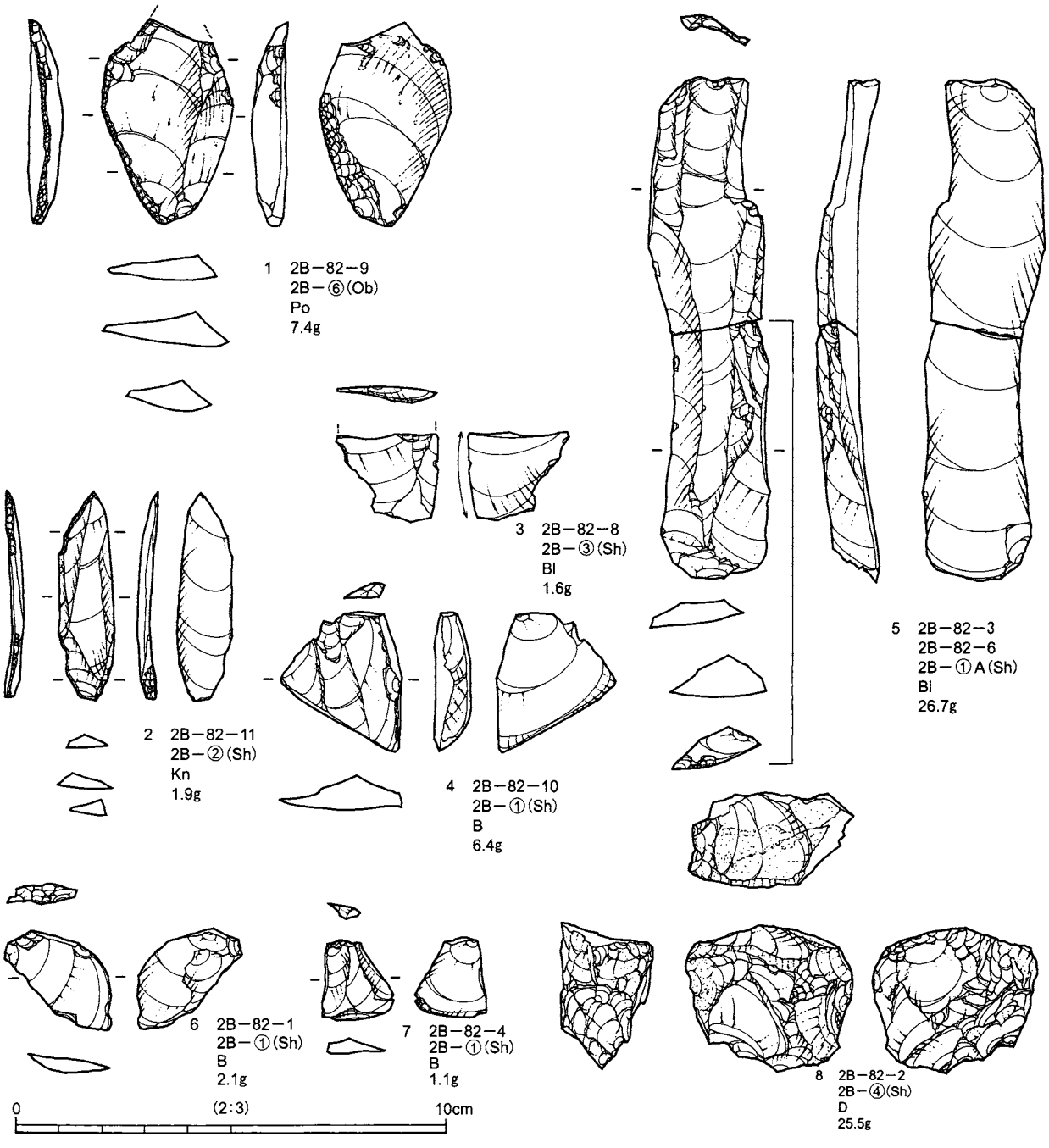


第494図　2B-Aブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－

における槍先形石器出現期の資料と考えられる。

２は，小型の石刃を素材としたナイフ形石器である。基部と先端に細かな調整加工を行っている。この形態のナイフ形石器は，素材の打面を基部に残す例が多いが，本例は素材の打面が先端側で，調整加工によって除去されている。５は，大型の石刃である。表面は上下両方向からの剥離面で構成される。３は，東北産頁岩による石刃の末端部片と考えられる。

４・５・７は，不定型の剥片である。５と同一母岩と考えられる。８は，分割礫素材と考えられる石核である。打面と作業面を固定せず，各所から小型不定型の剥片を剥離している。



第495図　2B-Aブロック出土遺物実測図

なお，２～８の石材は，すべて東北産の頁岩と考えられる。東北産頁岩による大型の石刃は，立川ローム層Ⅵ層下部からⅦ層にかけてが顕著で，それ以外には東内野型有樋尖頭器（Ⅲ層），あるいは神子柴・長者久保石器群（Ⅲ層上面）に散見されるが，本例はそのいずれとも異なる時期と考えられる。

1　6C-Aブロック（第496～497図，第204表）

1）ブロックの概要

6C-Aブロックは，調査範囲南側の5C-96～99，6C-07～09・17グリッドに位置する。ブロックの立地は，丘陵頂部にある80m四方ほどの平坦面の西縁である。

ブロックの規模と形状は，長軸11m，短軸９mの範囲に11点の礫が散漫に分布する。出土層位はⅢ層で，40cmほどの高低差をもって包含されている（第496・497図）。

ブロックは礫11点で構成され，10母岩（10点）に分類した。石材は，流紋岩１点，頁岩２点，チャート１点，砂岩６点，ホルンフェルス１点である。大小の完形に近い円礫が多く，接合資料等はない。

第204表　6C-Aブロック母岩別礫一覧表

母　岩	点数	重量	母　岩	点数	重量
6CR-①(Sa)	1	29.5	6CR-⑦(Ch)	1	8.8
6CR-②(Sa)	1	5.3	6CR-⑧(Sh)	1	91.0
6CR-③(Sa)	1	89.9	6CR-⑨(Ho)	1	38.7
6CR-④(Sa)	1	25.1	6CR-⑩(Rh)	1	37.9
6CR-⑤(Sa)	1	194.1	その他(Sh)	1	0.7
6CR-⑥(Sa)	1	11.5	合　計	11	532.5

第５節　ブロック外出土遺物

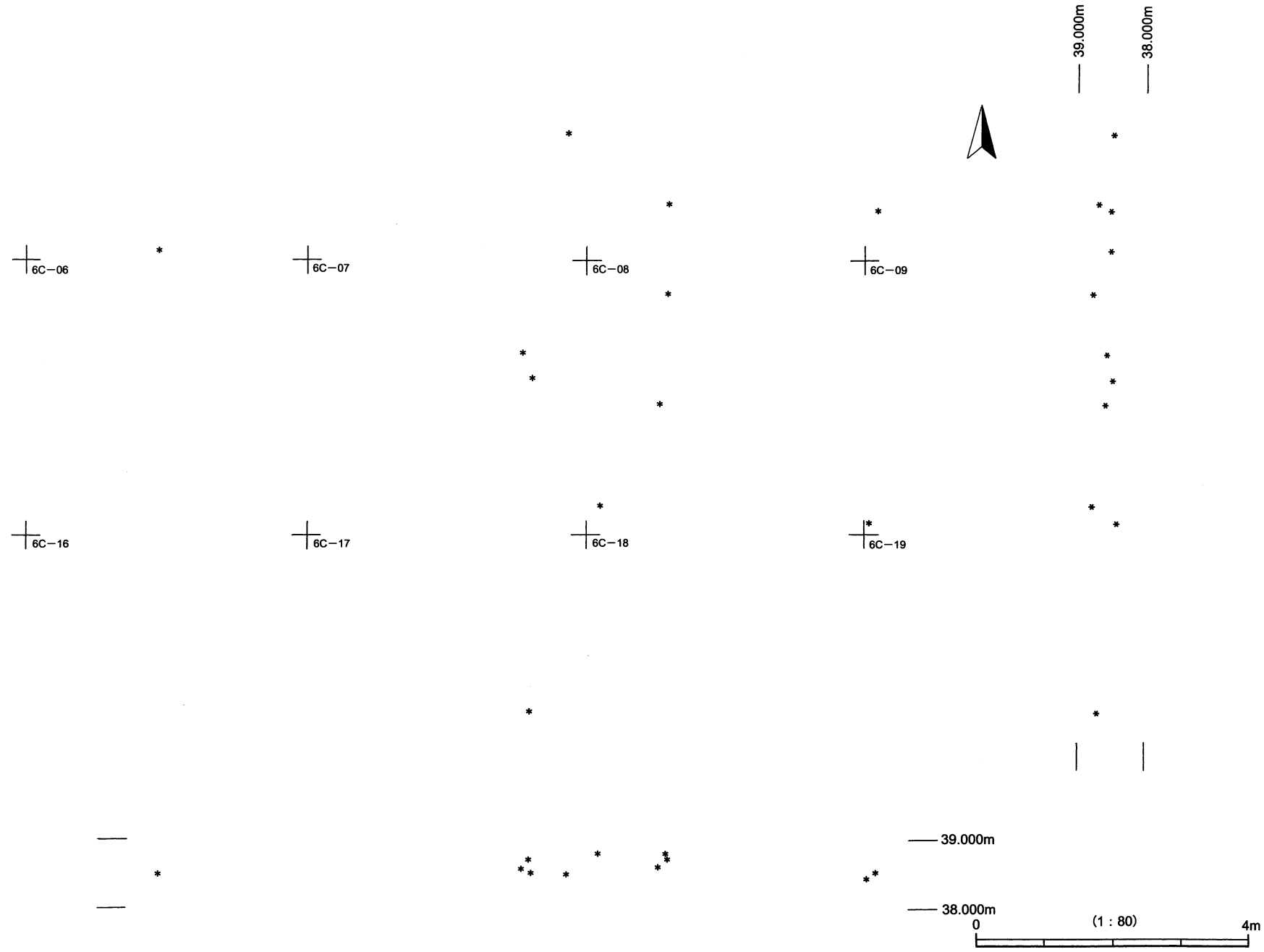
草刈遺跡Ｐ区では，10か所で単独に旧石器時代石器が出土した。また，上層遺構内やその周辺からも若干の資料が得られた（第498～501図）。

第499図は，単独出土の石器群である。

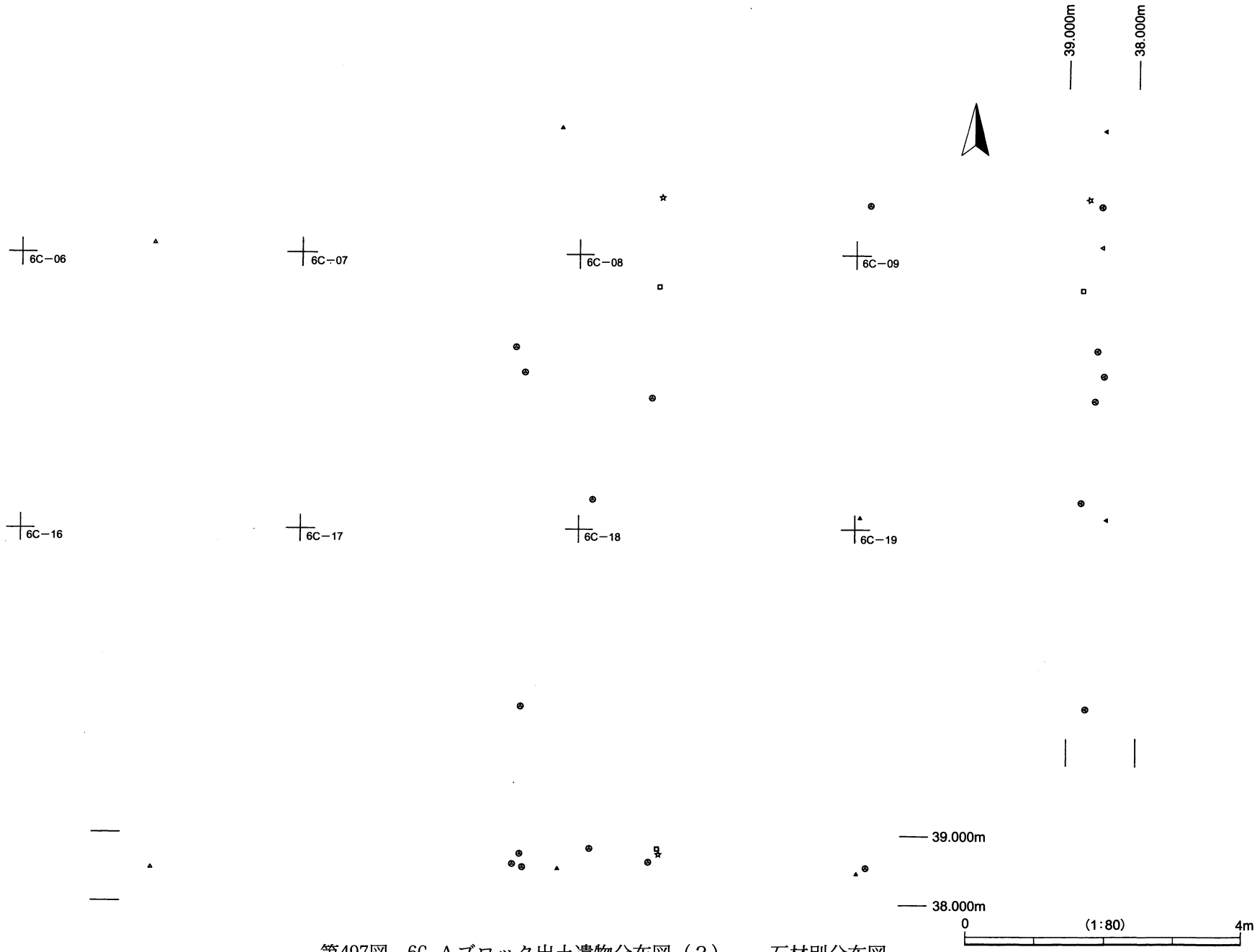
１は，ナイフ形石器の基部破片である。素材の打面を残し，その両側に調整加工を行っていることから，基部調整のナイフ形石器と考えられる。石材は，青みがかった黒灰色不透明の黒曜石である。4A-28グリッドのⅦ～Ⅸ層から出土しており，第４文化層に帰属する可能性が高い。２は，中型薄手の石刃である。表面には上下両方向からの剥離面が見られ，両側縁には刃こぼれがある。石材は，黒灰色不透明で夾雑物を含む黒曜石である。栃木県高原山産と考えられる。3A-19グリッドの遺構検出面から出土した。３は，中型厚手の石刃である。表面左側には石核の側面調整痕が見られる。石材は，淡黒色半透明の地に黒色の帯が入り，乳白色の夾雑物が散在する良質の黒曜石である。信州産であろうか。3B-88グリッドのⅥ層から出土した。

４は，乳白色のメノウによる不定型の剥片である。5B-08グリッドの遺構検出面から出土したが，周辺にはⅢ層出土の遺物がまとまって分布しており，第６文化層に帰属する可能性がある。５は，灰褐色に風化した安山岩による不定型の剥片である。4B-32グリッドのⅦ～Ⅸ層から出土した。６は，自然面が明橙褐色，内部が灰色のメノウを用いた不定型の剥片である。剥離時に打点で二つに割れている。4A-43グリッドの遺構検出面から出土した。７は，黒灰色に風化した安山岩による不定型の剥片である。4B-32グリッドのⅦ～Ⅸ層から出土した。

８は，黒灰色に風化した泥岩質のホルンフェルスを用いた加工痕ある剥片である。右側縁に裏面からの剥離痕がある。5D-68グリッドのⅣ～Ⅴ層から出土した。９は，灰緑色の凝灰岩による掻器である。不定



第496図　6C-Aブロック出土遺物分布図（1）　－石器別分布図－



第497図　6C-Aブロック出土遺物分布図（2）　－石材別分布図－

型の剥片を素材として，その末端部に裏面から粗い調整加工を行っている。上半部は欠損する。3B-05グリッドの遺構検出面から出土した。10は，敲石の破片である。石材は，自然面は紫がかった暗褐色，節理面は橙褐色，内部は青みがかった灰色の粗粒の砂岩である。上下両端に帯状の敲打痕跡がある。使用中に節理面に沿って割れたと考えられる。4C-81グリッドのⅦ～Ⅸ層から出土した。周辺に分布する第４文化層の石器群と関連する可能性が高い。

第500・501図は上層遺構内から出土した石器である。

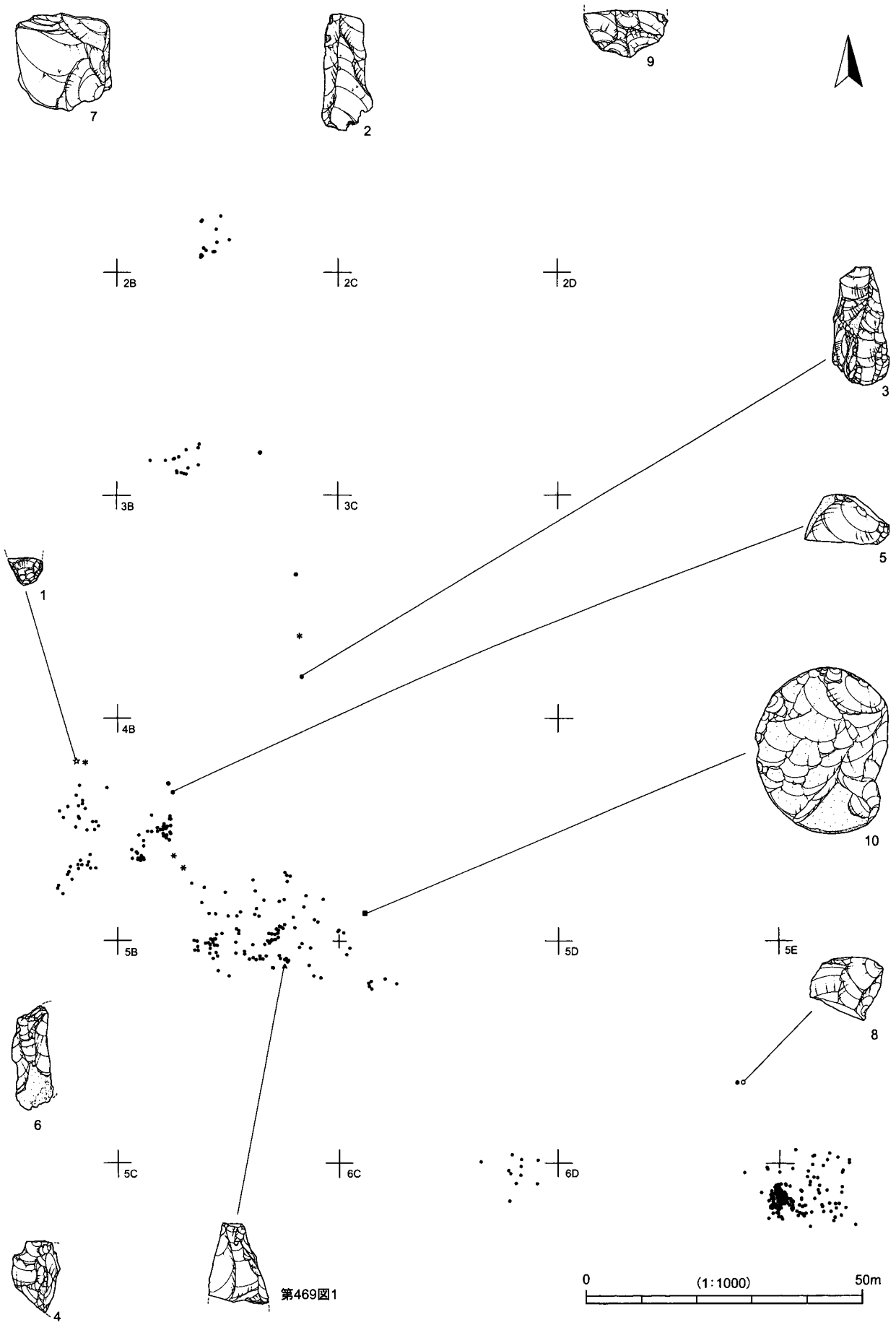
１は，ナイフ形石器の基部欠損品である。中型の石刃を素材とし，先端部の一部と基部に調整加工を行った基部調整のナイフ形石器と考えられる。石材は，淡黒色透明の良質な黒曜石で，信州産の可能性が高い。26号墳から出土した。２は，14のような野岳－休場型細石刃核の作業面再生に伴う調整剥片を素材としたと考えられる掻器である。右側縁には，細石刃の剥離痕と考えられる細長い剥離面が見られる。素材の末端部（細石刃核の打面側）に裏面から調整加工がある。石材は，自然面及び節理面が橙褐色，内部が青みがかった灰色の嶺岡産珪質頁岩である。24号墳の墳丘下から出土した。

３は，乳白色の石刃である。右側縁は鋭利であるが，左側縁は欠損している。裏面（主要剥離面）の一部は，白色の節理が重なっている。50号墳の周溝内から出土した。４は，乳白色のメノウによる削器である。不定型の剥片を素材として，左側面に裏面から粗い調整加工を行っている。素材の打面は広く残されている。５は，灰褐色に風化した安山岩による楔形石器である。下端は欠損しており不明であるが，上端は細かく潰れており，左側面は楔形石器通有の縦方向の折れである。23号墳の周溝内から出土した。６は，黄灰色の地に黒灰色の斑が入る珪質頁岩（あるいは玉髄か）を用いた小型の石刃である。両側縁は鋭利で，刃こぼれが見られる。下端には石核の側面調整痕がある。22号墳から出土した。７は，石核あるいは角錐状石器等の欠損品である。厚手の剥片を素材として，主に裏面から左右両側面に粗い剥離をしている。石材は，黒色不透明で小型の夾雑物を含む黒曜石で，栃木県高原山産と考えられる。26号墳の墳丘盛土内から出土した。

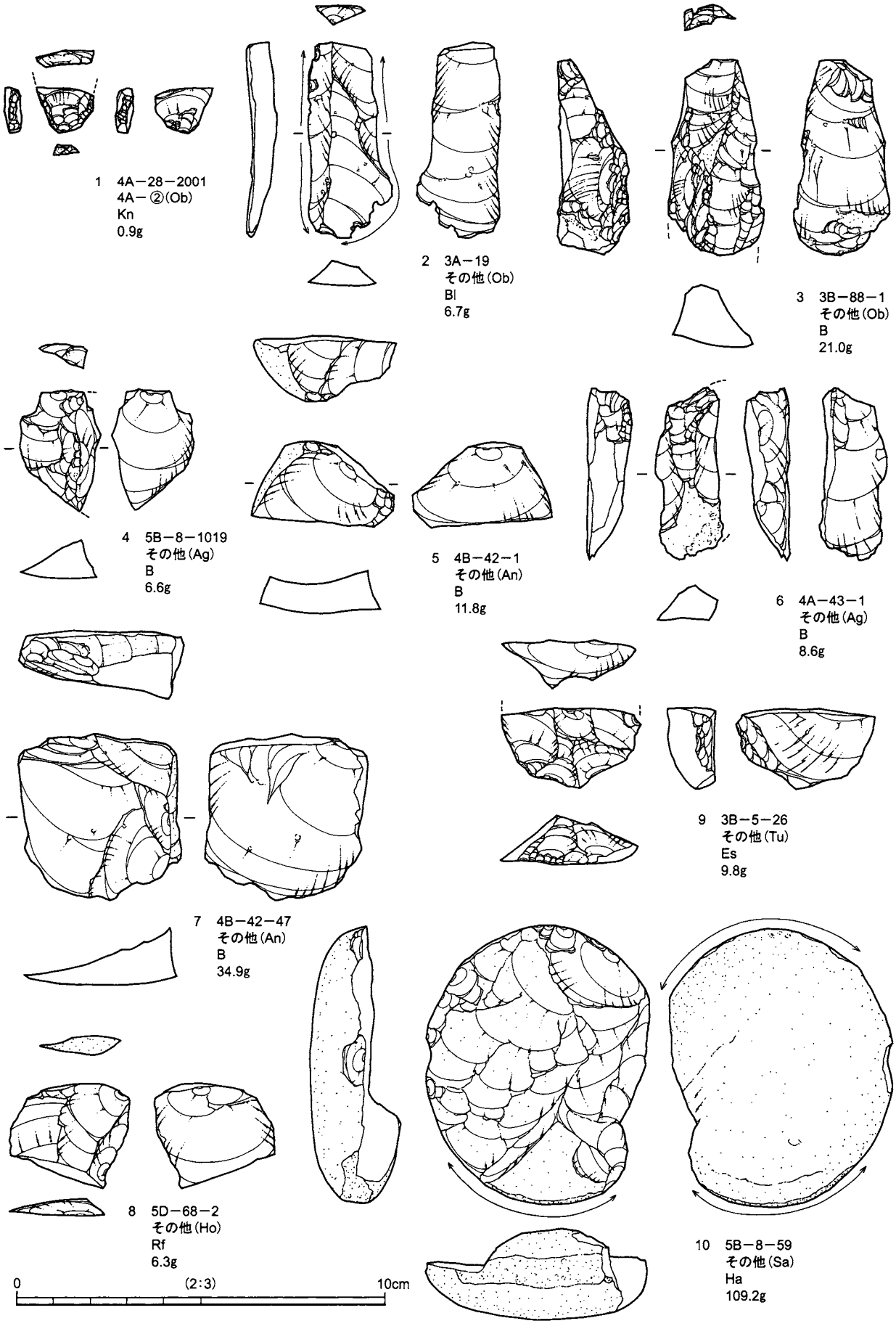
８は，淡灰色の頁岩による使用痕ある剥片である。横長剥片を用いており，末端部に刃こぼれがある。59号墳の墳丘盛土内から出土した。９は，灰褐色に風化した安山岩による不定型の剥片である。27号墳から出土した。10も灰褐色の安山岩による剥片である。自然面をそのまま加撃しているためか，打瘤は平坦である。24号墳から出土した。11は，淡赤紫色（小豆色）の頁岩による不定型の剥片である。表面の剥離方向は一定していない。24号墳から出土した。

12は，分割礫を用いたと考えられる石刃石核である。石材は，明灰緑色で硬質緻密な凝灰岩である。上面に，複剥離ではあるが比較的平坦な打面を設定し，表面の作業面から中・小型の石刃を剥離している。打面調整，頭部調整，側面調整などの石核調整はほとんど見られないが，裏面に粗い調整痕がある。13は，分割礫による不定型な剥片を生産する石核である。石材は，節理面及び自然面に近い部分は橙褐色，内部は淡灰緑色の嶺岡産珪質頁岩である。打面と作業面を固定せず，各所から不定型の剥片を剥離している。

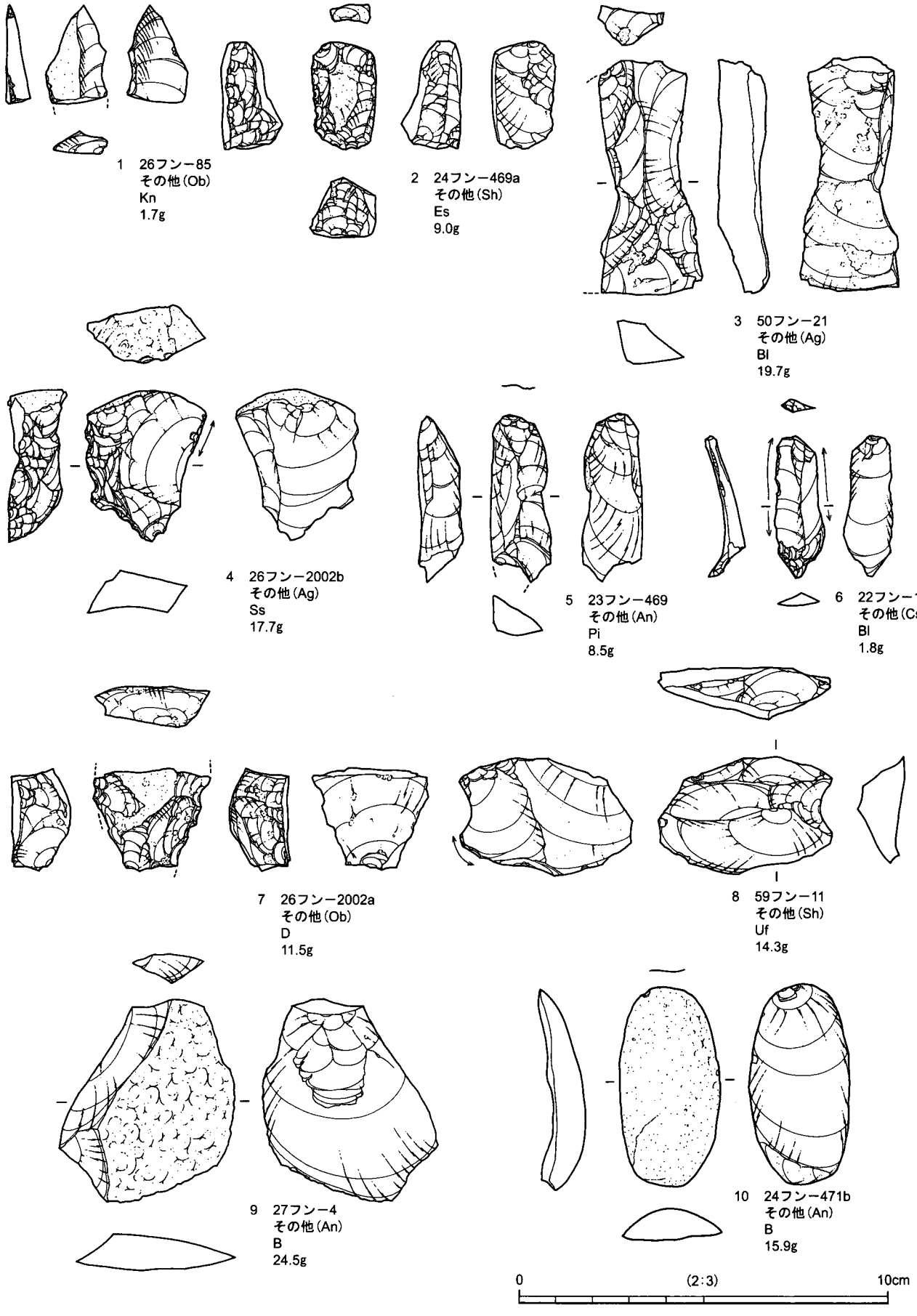
14は，野岳－休場型細石刃核である。石材は，自然面と節理面は橙褐色，内部は緑がかった黄褐色の嶺岡産珪質頁岩である。作業の手順は，つぎのとおりである。①；小型の分割礫を素材とする。②；１枚の剥離面で下設打面（ｆ面）を作り，左側面（ｄ面）から細石刃を剥離する。この時の打面（ｆ面）と作業面（ｄ面）とのなす角は85度である。③；３枚ほどの剥離面で上設打面（ｅ面）を作り，表面（ａ面）から細石刃を剥離する。打面（ｅ面）と作業面（ａ面）とのなす角度は65度で，「傾斜打面」である。上下



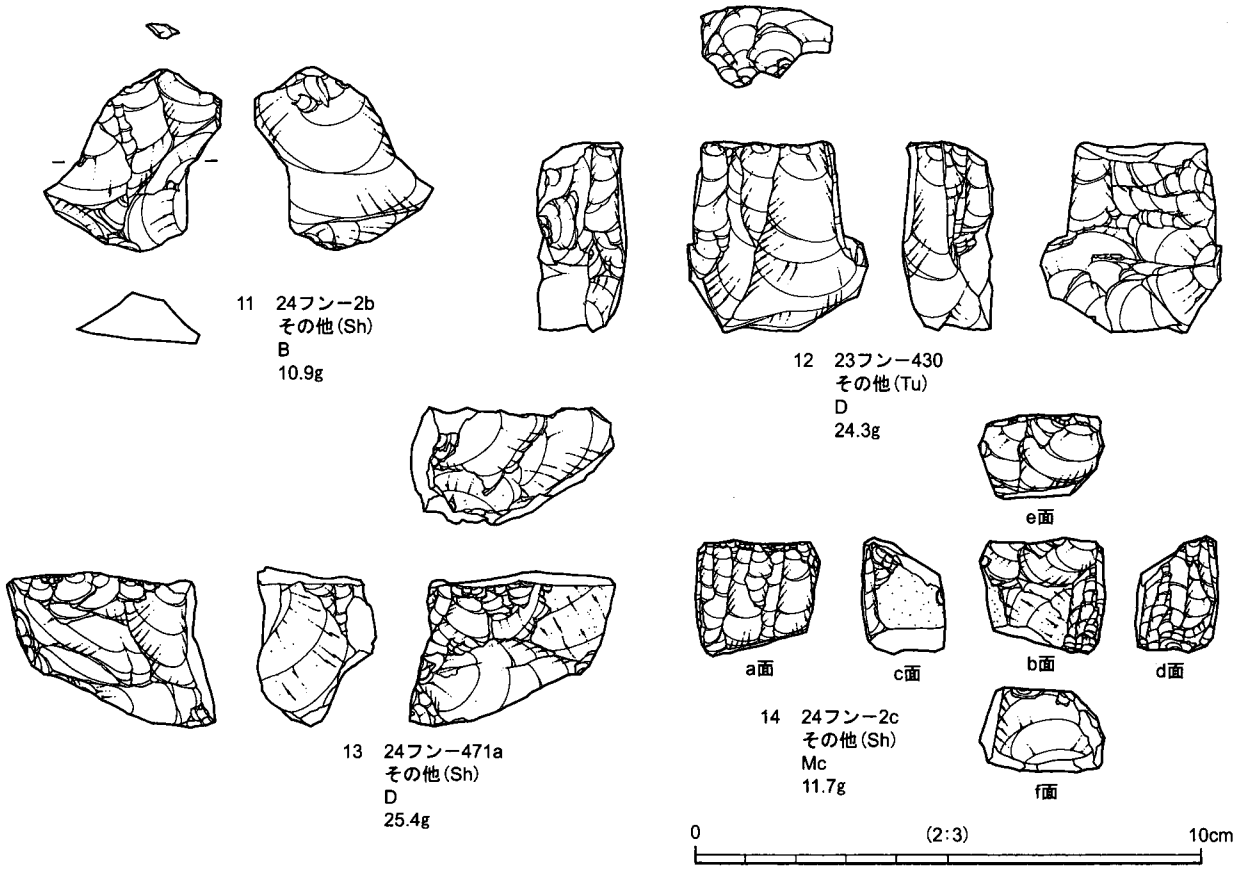
第498図　草刈遺跡Ｐ区ブロック外出土遺物分布図



第499図　草刈遺跡Ｐ区ブロック外出土遺物実測図



第500図　草刈遺跡Ｐ区上層遺構内出土遺物実測図（１）



第501図　草刈遺跡Ｐ区上層遺構内出土遺物実測図（２）

両打面ともに打面の細かな調整は見られないが，頭部調整は行われている。側面・背面調整はない。

第7章　まとめ

草刈遺跡東部地区では，98か所のブロックから約7,500点の石器が出土した。これらは，武蔵野ローム層最上部から立川ローム層最上部にかけての各層準から出土しており，石器群の内容とその出土層準から，７枚の文化層に区分した。本章では，代表的なブロックを取り上げながら文化層ごとにまとめたいと思う。

第１文化層

第１文化層は，武蔵野ローム層最上部から立川ローム層Ｘ層下部にかけて出土した石器群で，草刈遺跡Ｃ区C13-Ｂブロック１か所が該当する。定型的な石器には，尖頭器と台形石器がある。尖頭器は，ナイフ形石器に通有の急角度の調整加工（ブランティング）によって１側縁全体と対向する側縁の一部を細かく整えて，鋭利な先端部を作り出した略三角形の石器である。ただし，ナイフ形石器一般と異なり，調整加工は表面から裏面に向けて行われている。台形石器は，小型の剥片の一端に微細な調整加工を施したものである。両石器とも不定型な剥片を石器の素材に用いているが，これは拳よりもやや小振りの原石を粗く分割して石核の素材とし，分割面を作業面にあてて求心的な打点移動によって生産したものである。石器石材は珪質頁岩とチャートの２種類があるが，珪質頁岩は嶺岡産白滝層群に由来すると推定されるもので，自然面のようすから角礫に近い形状と考えられる。チャートは原産地を特定できないが，上総丘陵砂礫層でも採取可能な円礫である。

C13-Ｂブロックにおける剥片生産は２母岩に限定されるが，両母岩とも分割礫を持ち込んで，小規模な剥片生産を行っている。

本石器群と同時期と考えられる石器群は，現在のところ房総半島はもちろんのこと関東地方全域においても不明瞭で，直接対比する資料は見当たらない。やや上位のＸ層中部から上部にかけては，後述するように，草刈遺跡Ｄ区の第２文化層や隣接する草刈六之台遺跡第１文化層などがあり，ナイフ形石器の存在が不明瞭なこと，中・小型不定型の剥片を素材とし，その一端に細かな調整加工を施した企画性に乏しい石器が特徴的なこと，厚手の剥片や分割礫を石核の素材とし，交互剥離と求心的な打点移動によって剥片生産を行っていることなど類似点が多い。また，石器石材に房総半島南部産と推定される珪質頁岩やチャートを主体的に利用することも本石器群から連続する要素である。いずれにせよ，関東地方に広く展開する旧石器時代の出現を考えるうえで重要な資料である。

第２文化層

第２文化層は，立川ローム層Ｘ層から出土した石器群で，草刈遺跡Ｄ区C77-Ｄブロック１か所が該当する。定型的な石器にナイフ形石器が１点あるが，これは信州産と推定される黒曜石による小型品で，ほかの石器に比べてやや上位から出土しており，本ブロックに伴うか問題が残る資料である。これ以外は，楔形石器と加工痕ある剥片，使用痕ある剥片，石斧などが中心で，小規模な剥片生産を行った母岩と搬入品とによって構成される。石器石材は嶺岡産珪質頁岩を主体とし，チャート，安山岩，ホルンフェルス，砂岩などが加わる。チャート以下の石材は原産地を特定できないが，最も近い所では，上総丘陵砂礫層において採取可能と考えられる。

この石器群は，隣接する草刈六之台遺跡第１文化層と同一層準で，とくにＪブロックとは石器組成，石材構成の点でよく類似する。この他の類例としては，佐倉市向山谷津遺跡，大林遺跡第Ⅶ文化層，四街道

市御山遺跡第Ⅰ・Ⅱ文化層などがある。

なお，草刈遺跡C区では，蛇紋岩による石斧の刃部再生剥片とホルンフェルスによる石斧がそれぞれX層から単独で出土しており，本文化層に帰属する可能性が高い。

第3文化層

第3文化層は，立川ローム層第2黒色帯下部（Ⅸc層）から出土した石器群で，草刈遺跡C区C13-Dブロック，G区C20-Aブロックの2か所が該当する。

C13-Dブロックでは，不定型の剥片を素材とする台形石器を特徴とする石器群が出土している。房総半島における同一層準の石器群は，しばしば刃部磨製石斧を伴い，環状ブロック群を構成するが，本ブロックは小規模な単独のブロックである。また，石刃石器群を伴う時期ではあるが，それも不明瞭である。石器石材は嶺岡産と推定される珪質頁岩が多く，このほかに安山岩，メノウ，ホルンフェルスなど上総丘陵砂礫層に由来する可能性のある石材が用いられている。また，神津島産と見られる黒曜石も含まれている。資料数は少なく，珪質頁岩とホルンフェルス各1母岩による小規模な剥片剥離作業が行われているだけで，大半は搬入品である。

C20-Aブロックは，大型の刃部磨製石斧を石核に転用し，剥片生産を行った一群の資料と楔形石器，使用痕ある剥片などで構成される。石器石材は，石斧関係資料が砂岩のほかは，チャート，珪質頁岩，凝灰岩があり，石材構成はC13-Dブロックと基本的に変わりない。

隣接する草刈六之台遺跡第2文化層では，大型精緻な台形石器や刃部磨製石斧，石刃素材のナイフ形石器などが出土している。石器石材は，台形石器に神津島産黒曜石を用いているほか，嶺岡産珪質頁岩や安山岩，凝灰岩などが加わっており，C13-Dブロックと類似点が多い。

房総半島の同時期資料は，柏市中山新田Ⅰ遺跡，四街道市池花南遺跡第1文化層，千葉市東大野第2遺跡ほか枚挙にいとまないが，高原山産黒曜石，安山岩，嶺岡産や北関東方面と推定される珪質頁岩のいくつかを選択して主たる石材としており，東北産頁岩や信州産黒曜石などの遠隔地石材は少ない。

第4文化層

第4文化層は，立川ローム層第2黒色帯上半部（Ⅶ～Ⅸ層上部）から出土した石器群で，草刈遺跡C区15か所，D区6か所，E区4か所，G区2か所，P区13か所が該当する。出土層位に幅があり，石器群の内容も多様であることから，本来は2～3時期に細分すべきかも知れない。

C区における本文化層の石器群は調査区東南部の台地縁辺に群集しており，東から①C13-A・Hブロック，②C13-C・E，C17-A・B・E～Gブロック，③C23-A～D・Fブロックの3群に大別される。

①では，安山岩による不定型な剥片の生産が主体的で，これに高原山産黒曜石と嶺岡産珪質頁岩による剥片生産がわずかに行われたようである。接合資料を見る限り，第2・3文化層に比べて安山岩の原石がやや大きく，石材採取地に違いがあるのかも知れない。このほか，産地のはっきりしない珪質頁岩や頁岩による製品，石刃，不定型な剥片が搬入されている。ナイフ形石器は横長剥片による2側縁調整と石刃による基部調整がある。

②では，C13-Cブロックで高原山産黒曜石を用いて縦長剥片（あるいは石刃）を集中的に生産し，房総半島南部産諸石材による剥片類を搬入している。それ以外の多くのブロックでは，ホルンフェルス，砂岩，流紋岩など上総丘陵砂礫層に由来する可能性の高い石材の中のいずれかを集中的に消費しており，これに高原山産黒曜石や嶺岡産珪質頁岩，東関東に由来すると考えられるメノウなどによる小規模な剥片生産が

加わっている。さらに，東北産あるいは北関東方面と推定される硬質緻密な頁岩，嶺岡産珪質頁岩などによるナイフ形石器や石刃が製品として持ち込まれている。

ナイフ形石器は，石刃素材による２側縁調整と基部調整がある。これは，東北産頁岩や嶺岡産珪質頁岩を用いた搬入品と，高原山産黒曜石によるブロック内製作品がある。楔形石器は，珪質頁岩のほかにメノウ・玉髄が用いられている。

③では，C23-Ａ・Ｂブロックで嶺岡産珪質頁岩を用いた不定型の剥片生産が集中的に行われ，これに房総半島南部産と推定されるホルンフェルス，凝灰岩と高原山産黒曜石による不定型な剥片の生産が加わる。また，北関東方面と推定される頁岩の石刃が搬入されている。C23-Ｃブロックでは，房総半島南部産の各種石材以上に東関東方面に由来すると考えられるメノウの消費が突出している。C23-Ｆブロックでは黒褐色のノジュールが多い。

このように，それぞれのブロックでは安山岩，高原山産黒曜石，嶺岡産珪質頁岩，上総丘陵砂礫層産と推定される諸石材（砂岩，ホルンフェルス，流紋岩，チャートなど），メノウなどのいくつかを中心として，主に不定型な剥片を生産している。これに東北産や各地の頁岩類，あるいは上記諸石材による製品，石刃が搬入品として加わって構成されている。

Ｄ区では，台地中央部（C77グリッド周辺）と北側緩斜面（C62・C72N40グリッド周辺）の２か所で本文化層の石器群がまとまっている。いずれも安山岩とホルンフェルスによる剥片生産が主体的で，頁岩類による製品，素材の搬入でブロックが形成されている。なお，ここで注目されるのは，相互に160m離れたC62-ＡブロックとC77-Ｂブロックとで，安山岩とホルンフェルス各１母岩が接合することである。安山岩についてはC62-Ａブロックで，ホルンフェルスについてはC77-Ｂブロックで剥片生産を行っており，それぞれ剥片を搬入しており，両ブロックがほぼ同時に存在していたようである。複数のブロックがどのような関係をもって遺跡（集落）を構成していたのかは難しいが，ブロック間の接合資料が鍵になるだろう。

Ｅ区では，房総半島南部産石材による小規模な剥片生産と若干の搬入品によるブロックと，高原山産黒曜石，嶺岡産珪質頁岩による剥片生産を行ったブロックがある。定型的な石器は見られない。

Ｐ区では，小規模なブロックが丘陵状地形の一角に多数分布する。ただし，それぞれのブロックは密集部を持たずに相互に近接しており，ブロックとして区画するような単位性は薄い。むしろ，広範囲にわたって疎密のはっきりしない石器群が散在すると見た方が実態に近い。

各ブロックともに，嶺岡産珪質頁岩，房総半島南部産各種石材，多種多様な黒曜石を用いて不定型な剥片を少量生産している。なお，黒曜石については，栃木県高原山産のほかに，信州産，伊豆・箱根方面産など各地のものが含まれている可能性がある。

以上，総じて遠隔地石材による石刃やそれを素材とするナイフ形石器が搬入品として存在し，それ以外の圧倒的多数は房総半島南部産と推定される各種石材による不定型の剥片生産に関わる母岩である。いっぽう，隣接する草刈六之台遺跡では第３文化層が当該期の石器群であるが，石刃素材の２側縁調整を中心とする小型のナイフ形石器，刃部磨製石斧，砥石を特徴とする。石刃は石核調整こそ少ないものの，打面再生を頻繁に繰り返す両設打面のもので，信州麦草峠産，和田峠周辺産の黒曜石を多量に消費するほか，各種珪化岩をも用いている。石刃以外の不定型な剥片を中心とする石器群もあり，各種珪化岩，安山岩のほかに高原山産黒曜石も少ないながら見られる。したがって，草刈遺跡各地区の石器群とは趣を異にするが，これも生活サイクルと廃棄時期や使用する石材との関わりの中で生じたことなのだろう。

第５文化層

第５文化層は，立川ローム層Ⅶ層上部からⅥ層にかけての層準から出土した石器群で，草刈遺跡東部地区全体では８か所のブロックが検出された。各ブロックの石器群は，石器組成と石材の構成が一様ではない。以下，４種類のブロックについて検討する。

①；草刈遺跡Ｃ区C16-Ａブロックの石器群（第502図１～26）　東北産頁岩による大・中型石刃を特徴とする石器群で，石刃は，いずれも本遺跡内で生産された形跡のない搬入品である（３～22)。房総半島では，香取郡多古町香山新田中横堀遺跡（空港No.7遺跡）に代表されるように，Ⅶ層からⅥ層にかけての層準で東北産頁岩を用いた石刃がしばしば出土するが，本遺跡と同様，本格的な石刃生産の痕跡は見られない。おそらく，原産地周辺で生産した石刃（製品）を持ち込み，使用・廃棄したと考えられる。また，石刃同士の接合資料や同一母岩がほとんど見られないことは，原産地で特定の母岩から連続的に生産した石刃をひとまとめにして持ち込んだわけではないことを意味している。したがって，房総半島と石材原産地との２地点をそれぞれ生活拠点とし，相互間を往復する生活サイクルを考えてよいかも知れない。

石器が製品あるいは半製品（素材）の形をとって遠隔地から運ばれたことと関連して，大型の石刃は使用による欠損とその再生が繰り返えされることになる。鋭利な縁辺部の損傷に対しては，樋状剥離による刃部再生を行い，全体の形状を損なう大きな欠損に対しては，石核に転用して小型の石刃や剥片を生産していることが指摘されている。本遺跡では刃部再生の痕跡は明瞭ではないが，石核へ転用した例は21・22がある。

また，本ブロックでは，栃木県高原山産と考えられる黒曜石の一群が伴っている（23～26)。ナイフ形石器や楔形石器に伴って，中・小型不整形の縦長剥片や不定型の剥片，砕片がある。石核は出土していないが，黒曜石原石の分割片を持ち込み，各種剥片の生産と石器の調整加工を行ったと考えられる。

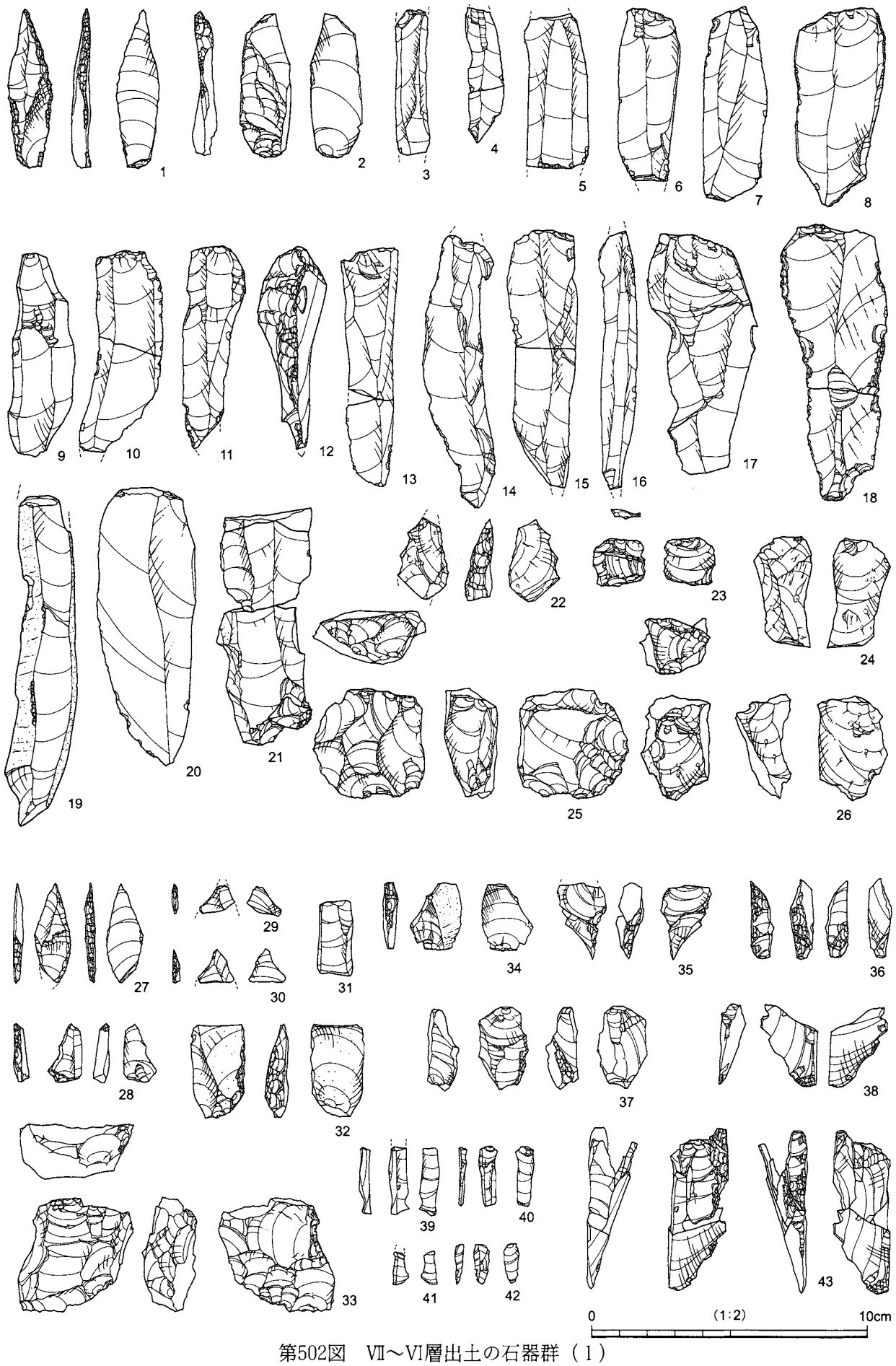
東北産頁岩と高原山産黒曜石とは，もともとの原石の大きさとそこから生産可能な石刃・剥片等の大きさが大きく異なる可能性が高く，したがって，その運搬と消費の方法もそれぞれ異なることになる。具体的には，前者では原産地で生産した大・中型の石刃を携帯・使用し，損傷，欠損に対しては特殊な再生方法を採用する。いっぽう，後者では原産地で得た分割礫を携帯し，製品の消耗に併せて素材生産から製品の製作までを繰り返す方法を採ることになったようである。

以上のように，C16-Ａブロックでは，①東北産頁岩によるナイフ形石器と石刃（搬入された製品)，大型石刃に由来する石核とその剥片類，②高原山産黒曜石によるナイフ形石器，剥片類（遺跡内で製作）の二者が複合する。

②；草刈遺跡Ｃ区C58B-Ｂブロックの石器群（第502図27～43）　暗褐色で硬質緻密な部分と黄褐色で粗悪な部分とを併せ持つ頁岩を用いた石器群と信州産の良質な黒曜石による石器群の二者で構成される。頁岩は，東北産の可能性もあるが，持ち込まれた使用途中の石核は，せいぜい拳程度の大きさと考えられる。

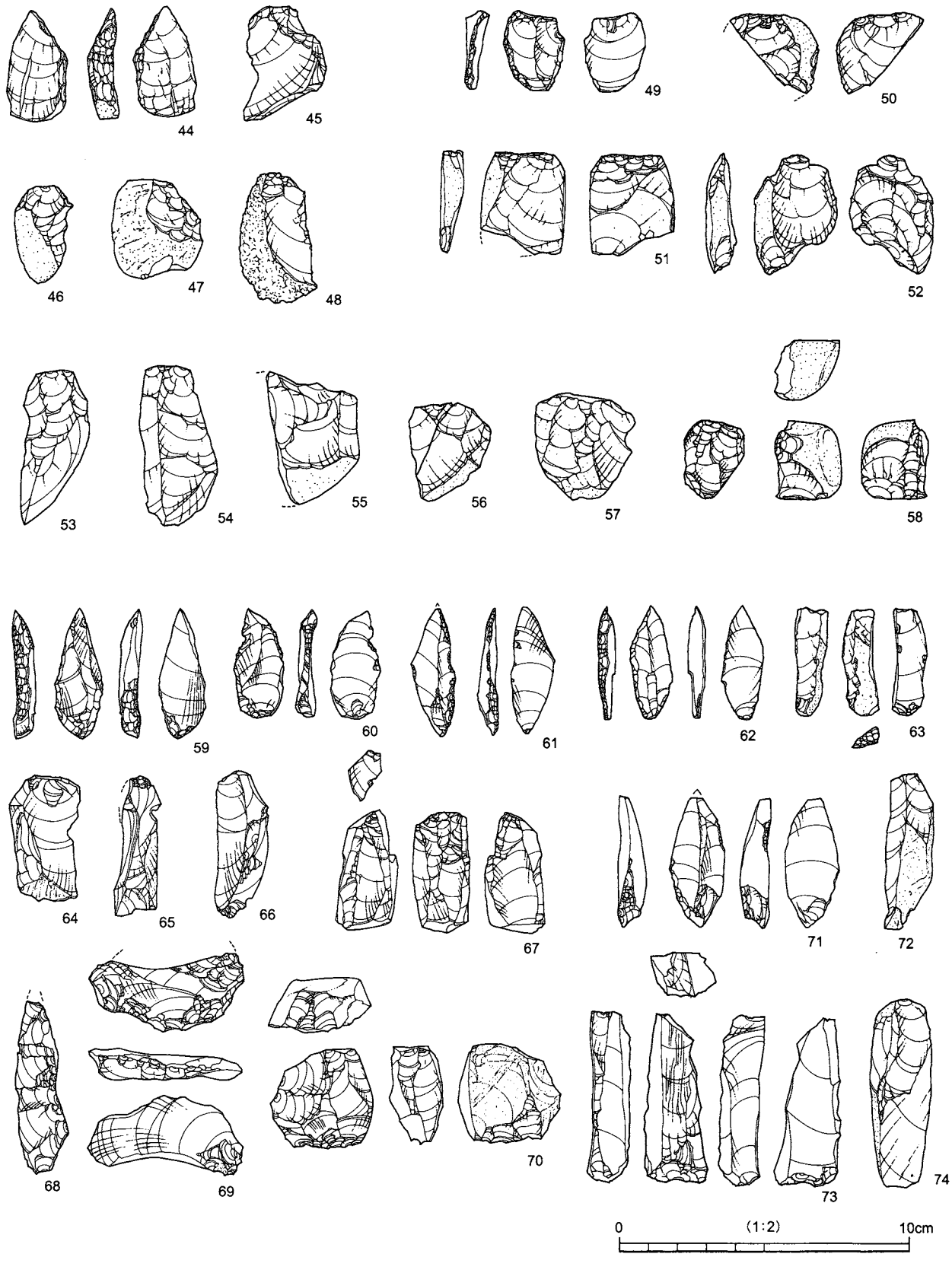
頁岩による石器群は，ナイフ形石器を含む小型の石刃石器群と不定型の剥片石器群が同一母岩で併存する。原石を分割して，小型の石刃と不定型の剥片をそれぞれ別個体の石核から生産したか，両者をひとつの石核から生産したのかはっきりしないが，後者の可能性の方が高いように思う。いずれにしても，良質な部分を可能な限り消費し，粗悪な部分が石核となって残されている。

いっぽう，信州産黒曜石による石器群は，中型の横長剥片を石核の素材として持ち込み，これから生産した小型不定型の剥片と細石刃様の小石刃によって構成される（43)。小型不定型の剥片からはナイフ形



第502図　Ⅶ～Ⅵ層出土の石器群（1）

（1～26：草刈遺跡C区C16-Aブロック，27～43：草刈遺跡C区C58B-Aブロック）



第503図　Ⅶ～Ⅵ層出土の石器群（2）

（44～48：草刈遺跡C区　C61-Eブロック，49～58：草刈遺跡D区　C75-Aブロック
59～74：押沼第1遺跡G地点）

石器（36）を製作し，同時に，細石刃様の小石刃（39～42）をも生産している。

頁岩と黒曜石とでは石器製作の表現形は異なるが，遠隔地産の良質な石材を少量持ち込み，石核の状況に応じて石材を徹底的に消費した結果と見ることができる。

③；草刈遺跡Ｃ区C61-Ｅブロック，草刈遺跡Ｄ区C57-Ａブロックの石器群（第503図44～58）　嶺岡産珪質頁岩や頁岩，凝灰岩，チャート，砂岩，ホルンフェルス，安山岩など東関東一帯で採取可能な各種石材を用いた石器群で，その多くは房総半島南部で採取されたと考えられる。拳の半分程度から小児頭くらいまでの様々な大きさの円礫を用いて，不整形の縦長剥片や不定型の剥片を生産している。また，長軸２㎝～３㎝の小円礫を素材として，両極打撃によって剥片生産を行った例も加わる。遺跡内で本格的な剥片生産を行っていないため詳細は不明であるが，石材採取地周辺でまとまった剥片生産を行い，これを持ち込んだと考えられる。

④；押沼第１遺跡Ｇ地点の石器群（第503図59～74）　草刈遺跡東部地区では良好な資料が検出されていないが，同一事業地内で本遺跡から2.5㎞離れた押沼第１遺跡には，上記①～③とは異なる石器群が存在する。信州産の良質な黒曜石を主体として，東北産頁岩，東関東から房総半島産各種石材が複合する中・小型石刃石器群である。定型的な石器としては，石刃素材による２側縁調整や基部調整のナイフ形石器，掻器がある。石材に関わりなく同規模の石刃を生産し，石器に利用している。押沼第１遺跡Ｇ地点では，信州産黒曜石を用いた剥片生産が中心で，印西市木刈峠遺跡１・７・24ユニットや八千代市権現後遺跡第４文化層，房総半島以外では神奈川県寺尾遺跡第Ⅵ文化層などと共通し，Ⅵ層石器群の代表例のひとつと考えられてきたものである。信州産黒曜石の消費状況は遺跡ごとに異なるが，本遺跡では小型の石核数個体が持ち込まれ，これを徹底的に消費している。

以上の４グループは，出土層位に若干の違いはあるかも知れないが，概ね同時期に帰属する石器群で，相互に連続する編年的差異を持つものではないと考えられる。石器石材の調達について，移動生活の中で日常的に採取したとの前提で考えると，主体となるナイフ形石器の形態や剥片剥離技術の多様さは，石材の大きさ，石材産出地までの距離，石器及び石材の保有状況，移動地点ごとにおける最適な生業などの諸条件が相互に関連した結果であると考えられる。石器群の表現形の違いを編年の差，あるいは，地域を違えた集団による系統差ととらえることが多かったように思うが，当時の人々の石器製作技術に対する多様な知識を前提にして，若干の年代差以上に上記諸条件と最適な表現形，及び各遺跡の位置付けとの関連に思いを巡らせる必要があろう。本遺跡は，その地理的位置と石材環境から，関東地方の南北で展開する多様な生活形態の分岐点となったのかも知れない。

第６文化層

第６文化層は，立川ローム層のハードローム層最上部からソフトローム層下部にかけて出土した石器群で，武蔵野台地における立川ローム層Ⅳ層下部から出土する石器群に対応すると考えられる。草刈遺跡東部地区では35か所のブロックが検出されているが，石器類を主体とするブロックと焼け礫を主体として少量の石器類をもつブロックがあり，それぞれには多様性がある。以下，代表的な例を提示する。

①；草刈遺跡Ｇ区C26-Ａブロック　信州産と考えられる良質な黒曜石を多量にもつ石器群で，切出形のナイフ形石器を主体として，角錐状石器，削器，剥片類で構成されている。石材の様相は，八千代市権現後遺跡第３文化層の石器群に類似する。石器の組合せは房総半島における当該期石器群に一般的であるが，切出形のナイフ形石器は大型品が多く，個性的である。各ブロックでは，素材の生産から調整加工に至る

までの作業を集中的に行っているが，石核や自然面を広く残す剥片が見られないことから，自然面が除去され，剥片剥離作業がある程度進行した石核が本ブロックに持ち込まれ，その後，一定量の剥片剥離作業が行われたと考えられる。ただし，石核は使い切る前に持ち出されたようである。

C26-Aブロックから南東50mのところに位置するC区C21-Aブロックは，ナイフ形石器，角錐状石器，掻器，剥片類で構成されており，搬入された製品と少量の剥片生産によって形成された小規模なブロックである。ここではC26-Aブロックとの接合資料が2母岩あり，石器製作作業を集中的に行ったブロックとその使用に関わるブロックとの関係が想定される。さらに，E区から出土した単独資料にもC26-Aブロックと接合する資料があり，直接関連をもつ複数のブロックが台地中央部に広く展開していたことがわかる。

②；草刈遺跡C区C23-Hブロック　C23-Hブロックは，加工痕ある剥片，使用痕ある剥片，剥片類など24点の石器群に287点の焼け礫が伴っている。石器石材は，少量の黒曜石のほかは頁岩が多い。いっぽう，焼け礫は砂岩が大半を占めており，房総半島南部産石材を用いたと考えられる。隣接するC23-Eブロックもよく似た内容で，もともとあった石器ブロックに別時期の礫群が重なったのではなく，ほぼ同時期に形成されたと考えられる。

なお，草刈遺跡西部地区H区における同時期石器群には，剥片生産を終了した石核を加熱してほかの焼け礫と同様に使用したと考えられる母岩が数例あり，石器ブロックと焼け礫との同時性を示している。

③；草刈遺跡D区C56-Aブロック　石器類は，掻器，楔形石器，使用痕ある剥片，剥片，石核など合計20点ほどで，石器石材は嶺岡産珪質頁岩，チャート，凝灰岩などで構成されている。チャート，凝灰岩は，拳よりも小振りの円礫を素材として，不定型の剥片を生産するものである。これに400点以上の焼け礫が伴う。焼け礫は，長軸が2㎝～3㎝ほどのチャートの完形小円礫を主体とする。石器，礫ともに大半は上総丘陵砂礫層に由来する石材を用いていると考えられる。

④；草刈遺跡D区C72N40-B～Dブロック　ナイフ形石器，掻器，楔形石器，剥片類などで構成される。安山岩と嶺岡産珪質頁岩を中心とする。隣接するE区には，ホルンフェルスを主体とする小規模なブロックが見られる。

以上のように，信州産黒曜石を主体とする石器ブロック，房総半島南部産各種石材による石器ブロック，上総丘陵砂礫層に由来すると考えられる礫を多量にもつブロックなどが見られる。状況の異なるブロック相互に同一母岩が見られないため，それぞれがどのような関係にあったかは不明であるが，石器群の様相自体は移動元との密接な関係が想定される。

第7文化層

第7文化層は，槍先形石器を指標として設定した文化層である。出土層準は，立川ローム層のソフトローム層を中心としており，層位的に上記の第6文化層と区分することは困難である。

石器ブロックは草刈遺跡G区C12-Bブロック，P区2B-Aブロックがある。また，G区の単独資料に栃木県高原山産及び信州産黒曜石を用いた両面調整の有樋尖頭器が各1点ある。2か所のブロックと単独資料の槍先形石器は，それぞれ形態が異なっており，さらに2か所のブロックは石器組成や石材構成も大きな違いがある。

①；草刈遺跡G区単独資料　高原山産の黒曜石を用いた小型両面調整の有樋尖頭器と信州星ヶ塔産黒曜石を用いた小型両面調整の有樋尖頭器である。

房総半島では，佐倉市大林遺跡第Ⅱb文化層，四街道市御山遺跡第Ⅷa文化層などに良好な資料がある。

両石器群ともに両面調整の有樋尖頭器とその調整剥片類を主体とし，不定型な剥片を素材とするナイフ形石器や製作痕跡のない石刃を少量伴う。有樋尖頭器については，半製品や素材剥片を持ち込んで製作したものと搬入品の両者がある。石材構成は，栃木県高原山遺跡の黒曜石を主体とし，信州産の黒曜石，東北産や北関東産と推定される頁岩が加わっている。

いっぽう相模野台地では，大和市深見諏訪山遺跡第Ⅳ文化層，相模原市中村遺跡第Ⅳ文化層に典型的に見られるとおり，在地産石材による中型の石刃石器群（２側縁調整，部分調整のナイフ形石器，掻器，小坂型彫器，上ゲ屋型彫器）に信州産を中心とした黒曜石による有樋尖頭器を少量伴うあり方が一般的である。ブロック内に石核を持ち込み，石刃の生産からナイフ形石器を中心とした各種石器を製作しているが，有樋尖頭器については，再加工以外の製作痕跡がない搬入品である。

このように，房総半島と相模野台地とでは有樋尖頭器と石刃のあり方に大きな違いが見られる。房総半島では，製作作業に多少の手間はかかっても長期携帯に便利な槍先形石器に比重が高く，いっぽう，相模野台地では，製作作業に簡便で消費型のナイフ形石器が盛行する。両石器群の担い手は，その生業を決定的には違えていないと考えられることから，居住地周辺の石材環境とこれに連動した石器の製作機会の差異が石器群全体の表現形としての差異となったのだろう。

本遺跡の出土例は単独資料であるが，編年的に見るならば，先述した大林遺跡，御山遺跡例と同時期の資料で，また佐倉市御塚山遺跡第Ⅱ文化層（石刃製のナイフ形石器，上ゲ屋型彫器），御山遺跡第Ⅷｂ文化層のような砂川型の石刃石器群に併行すると考えられる。

②；草刈遺跡Ｐ区2B-Ａブロック　本ブロックは14点の石器群で構成される小規模なブロックで，特徴的な石器として，信州麦草峠産黒曜石の有樋尖頭器に東北産の大型石刃，石刃素材の基部調整のナイフ形石器が伴っている。有樋尖頭器は周辺調整で調整加工が少なく左右非対称の木葉形で，東内野型に関連する可能性がある。東内野型有樋尖頭器の代表的な遺跡として，富里市東内野遺跡では信州星ヶ塔産黒曜石が散見されるものの，嶺岡産の珪質頁岩や産地不明の頁岩類，安山岩（小型の円礫）が主体的で，東北産頁岩は顕著ではない。頁岩類は有樋尖頭器の搬入品が多く，いっぽう安山岩は素材生産から石器の調整加工に至る全工程を行っている。銚子市三崎三丁目遺跡では隣接地で採取可能なチャートが圧倒的に多く，原石に近い状態から石器製作作業を行っており，これに東北産頁岩や高原山産黒曜石による製作資料が少量伴う。印旛郡印旛村平賀一ノ台遺跡では多量の東北産頁岩に信州産及び高原山産黒曜石の有樋尖頭器が伴っている。両石材ともに素材，あるいは製品が搬入されており，製品の製作と再加工が顕著に見られる。反面，本格的な素材生産は乏しい。また粉々の礫片が多量に伴う点にも特徴がある。これらの３遺跡は，石器と礫を多量に含むブロックが連綿と連なる大規模な遺跡を形成している。草刈遺跡西部地区では，信州産を中心とする黒曜石を用いた有樋尖頭器に嶺岡産珪質頁岩による掻器，彫器が伴う。製品は搬入品が大半で，素材生産の形跡はない。これにホルンフェルスやノジュールの剥片類がまとまっており，これは素材生産を行っている。

以上，東内野型有樋尖頭器を含む石器群は遺跡ごとに多様なあり方が認められるが，本格的な素材生産は顕著ではないものの，同一遺跡を繰り返し利用する傾向にあり，見かけ上大規模な遺跡が形成されるという独特のあり方を示している。その際には，北総台地における石材環境を反映してか，再生型石器群が顕在化する。

③；草刈遺跡Ｇ区C12-Ｂブロック　本ブロックは，石器112点に多量の礫が伴う大規模なもので，頁岩

による槍先形石器に信州産黒曜石や頁岩による掻器，削器類，安山岩によるナイフ形石器，加工痕ある剥片，ホルンフェルスをも含む各種石材の剥片，石核が伴っている。槍先形石器は製作痕跡をもたない搬入品であるが，そのほかの石器は概ね上総丘陵砂礫層に由来する可能性のある石材を用いており，素材生産を行っている。石器の素材や剥片類は，交互剥離による不定型なもので構成され，石刃は見られない。ナイフ形石器は小型不定型のもので，終末期に相当する可能性がある。こうした在地的様相の強い石器群は，千葉市有吉遺跡，同南河原坂第３遺跡Ｄ地点など細石刃石器群直前期のものに対応する可能性が高いが，これらの石器群は槍先形石器がまとまっており，その様相には差異がある。

以上，本遺跡では資料的に乏しいが，①→②→③の時間差が想定される３時期の槍先形石器群が得られた。

石器石材について

本遺跡では，東北産頁岩，北関東及び東関東方面と考えられる頁岩，嶺岡産珪質頁岩などの頁岩類，上総丘陵砂礫層ほかのチャート，砂岩，凝灰岩，メノウ，信州産，栃木県高原山産，箱根畑宿産，神津島産などの黒曜石，産地の特定できない安山岩などが用いられていた。

頁岩類については，田村　隆氏を中心に精力的な産地探索が継続されており，その実態も判明しつつある。

理化学的な分析について，黒曜石の石器については，当センター研究紀要22号の中で東京学芸大学二宮修治氏が本遺跡出土の槍先形石器に対する蛍光Ｘ線分析を行っている。また，安山岩の石器については，隣接する東南部地区六通神社南遺跡の報告の中で京都大学原子炉実験所藁科哲男氏が参考資料として本遺跡出土の石器を分析している。ただし，北関東から東関東にかけての安山岩の原産地資料が乏しいことから，原産地の特定には至っていない。

参考文献

加納　実ほか　2003年「房総の石器石材２　－白滝層の珪質頁岩－」『千葉県史料研究財団だより』第14号

（財）千葉県文化財センター　1987年『千葉県文化財センター研究紀要』11号

（財）千葉県文化財センター　2001年『千葉県文化財センター研究紀要』22号

（財）千葉県文化財センター　2003年『千葉東南部ニュータウン26　－千葉市椎名神社遺跡・古城小弓遺跡・六通神社南遺跡・御塚台遺跡－』

佐藤宏之　1995年「技術的組織・変形論・石材供給　－下総台地後期旧石器時代の社会生態学的考察－」『考古学研究』第42巻第１号

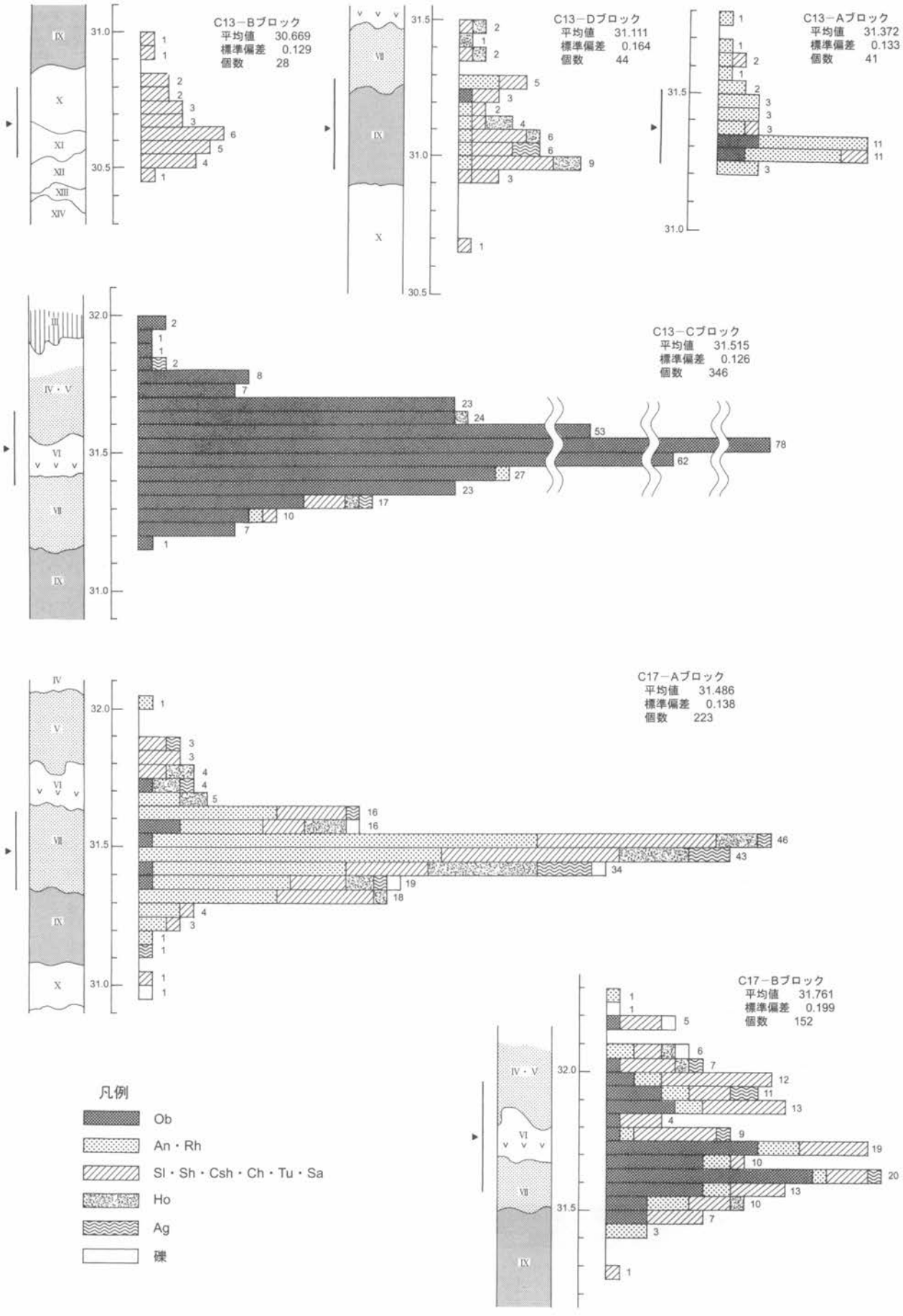
田村　隆　1992年「石材についての諸問題　－特に関東地方の石材採取戦略について－」『考古学ジャーナル』第345号

田村　隆　1998年「移行の論理　－石器群のデザイン分析と文化＝社会理論－」『先史考古学論集』第７集

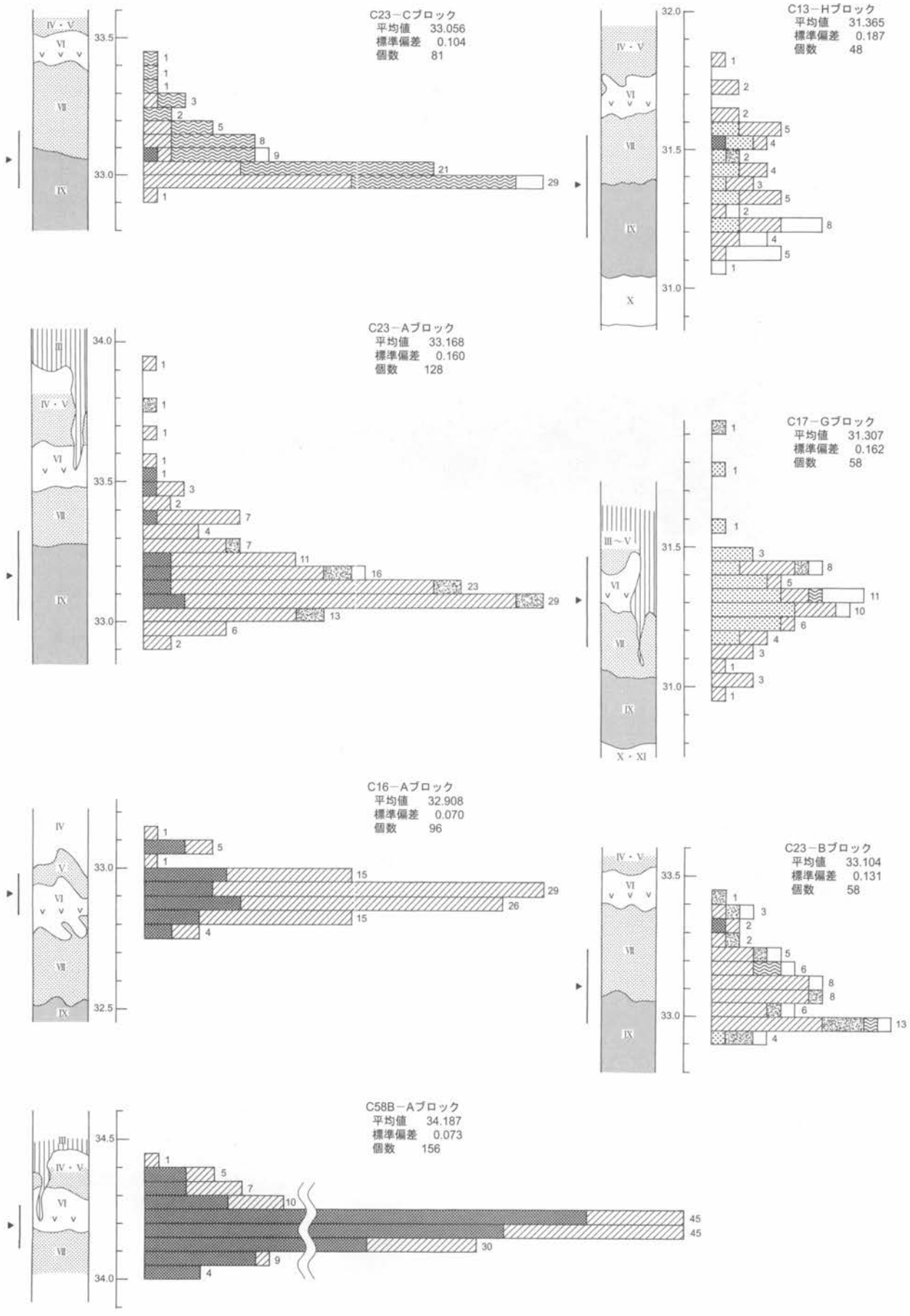
田村　隆　2003年「林小原子台再訪　－東部関東における長者久保-神子柴石器群－」『考古学』Ｉ

田村　隆ほか2003年「下野－北総回廊外縁部の石器石材（第１報）　－特に珪質頁岩の分布と産状について－」『千葉県史研究』第11号

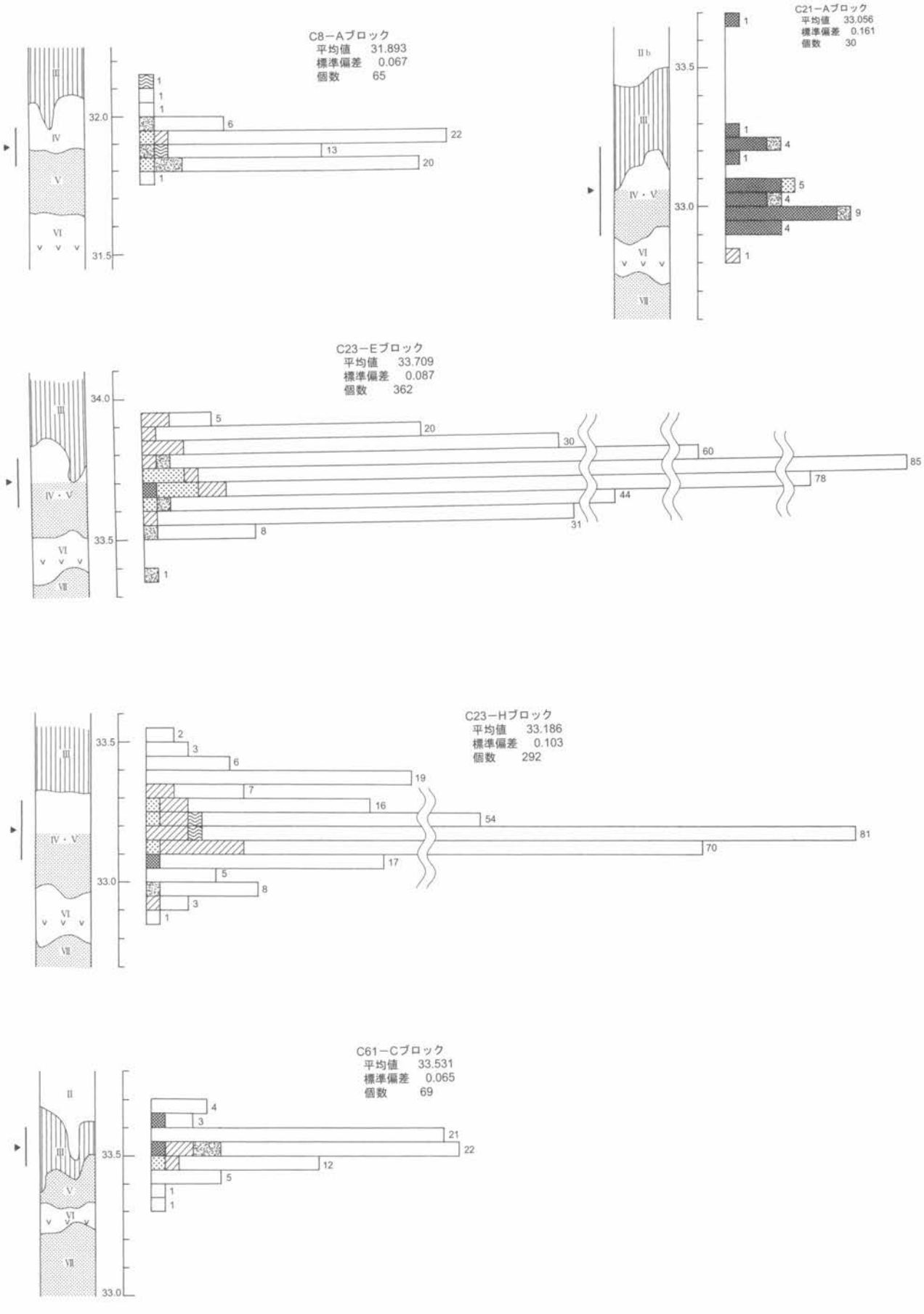
新田浩三　1995年「下総型石刃再生技法の提唱」『千葉県文化財センター研究紀要』16号



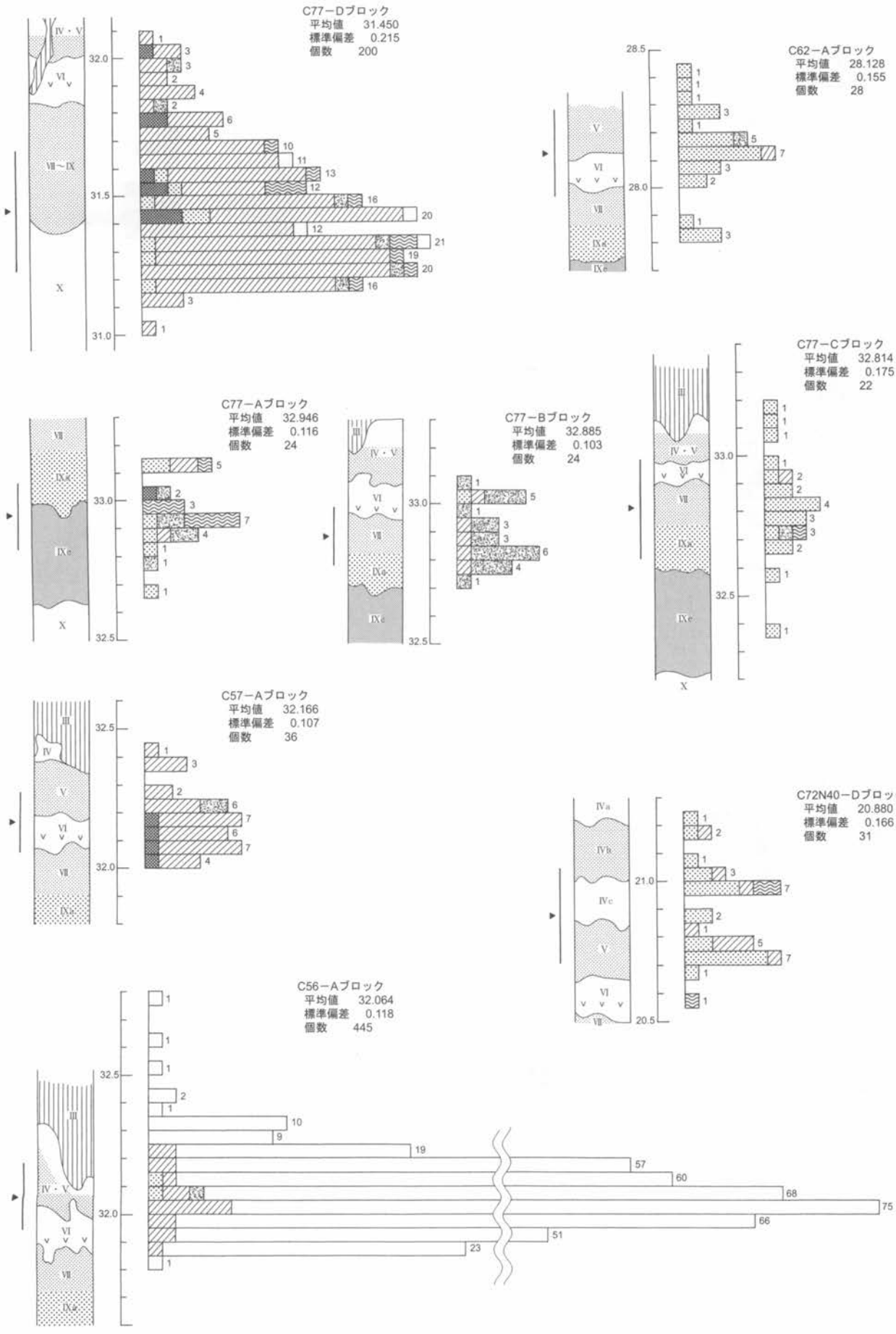
第504図　ブロック別石器垂直分布グラフ（1）　－草刈遺跡C区（1）－



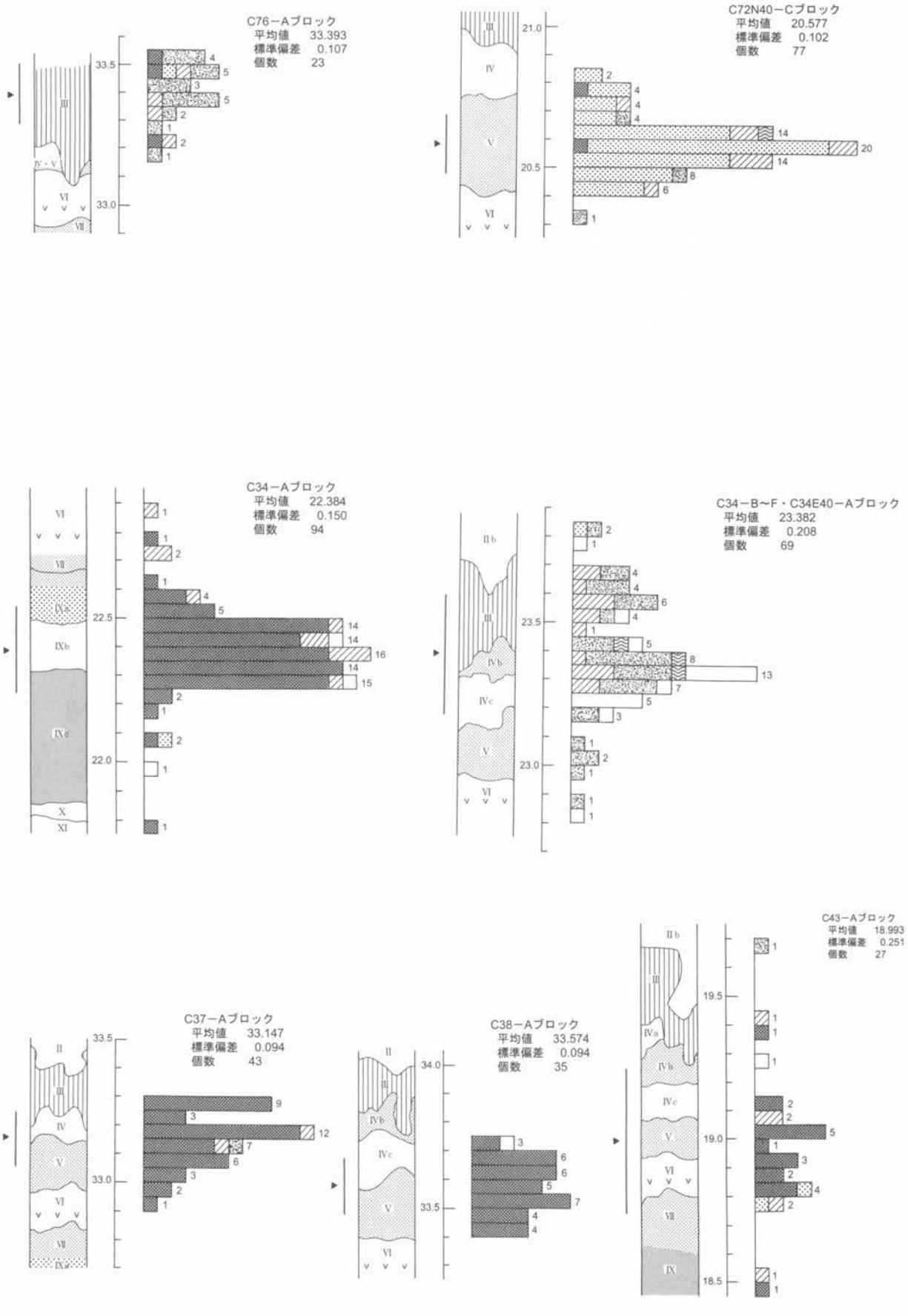
第505図　ブロック別石器垂直分布グラフ（2）　－草刈遺跡C区（2）－



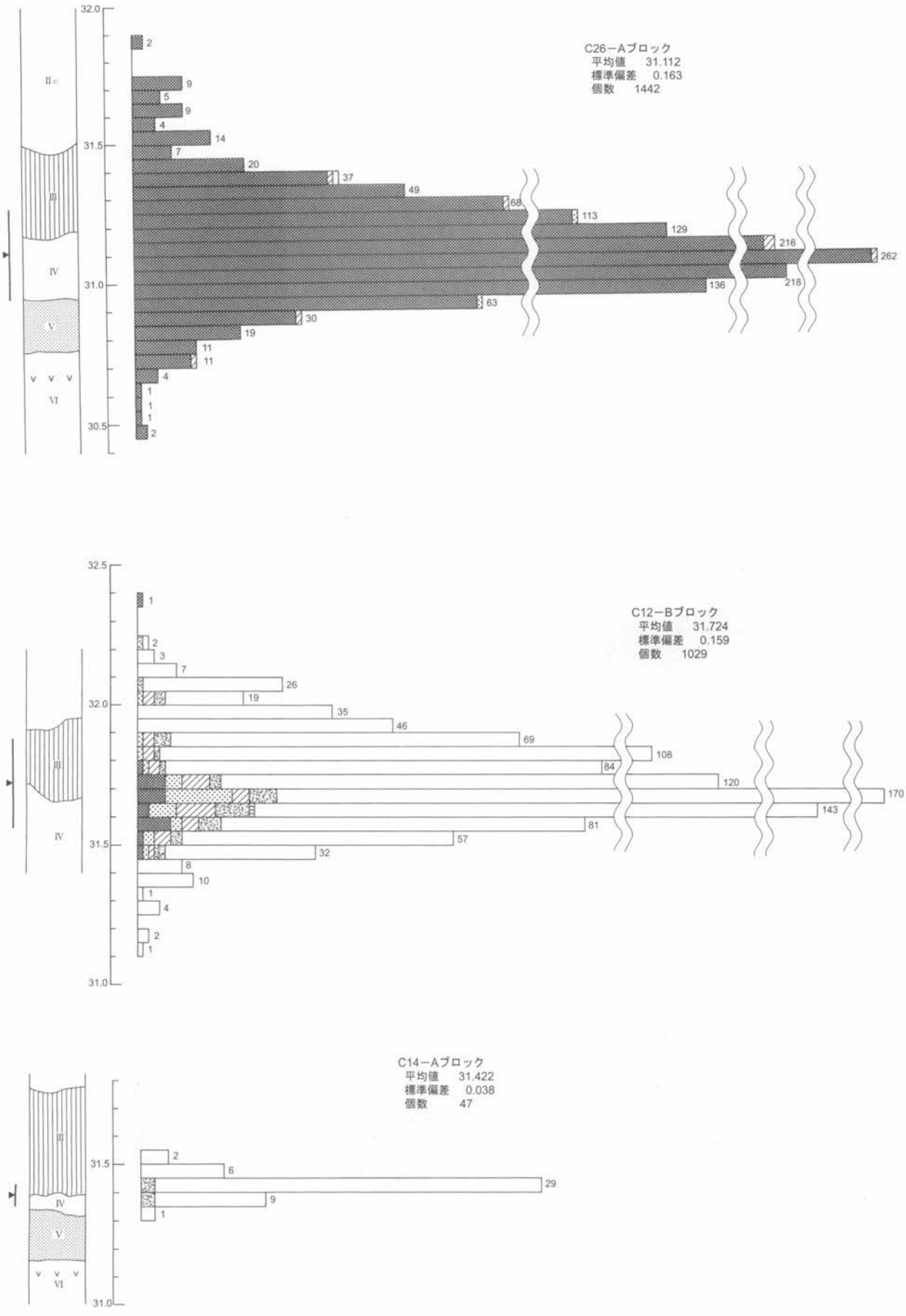
第506図　ブロック別石器垂直分布グラフ（3）　−草刈遺跡C区（3）−



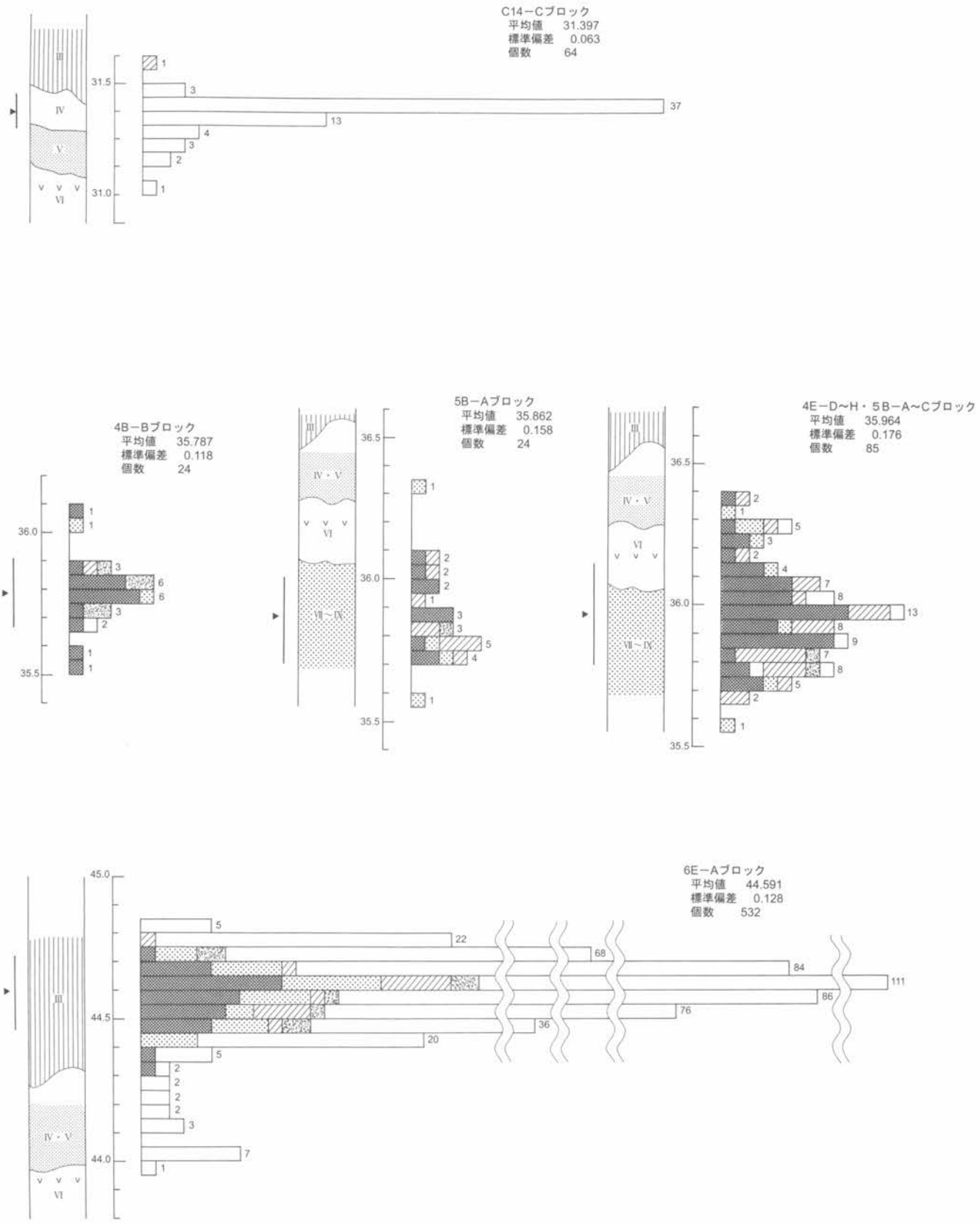
第507図　ブロック別石器垂直分布グラフ（4）　−草刈遺跡D区（1）−



第508図　ブロック別石器垂直分布グラフ（5）　－草刈遺跡D区（2）・E区－



第509図　ブロック別石器垂直分布グラフ（6）　−草刈遺跡G区（1）−



第510図　ブロック別石器垂直分布グラフ（7）　−草刈遺跡G区（2）・P区−

写　真　図　版

1．旧石器時代第１・２文化層主要石器

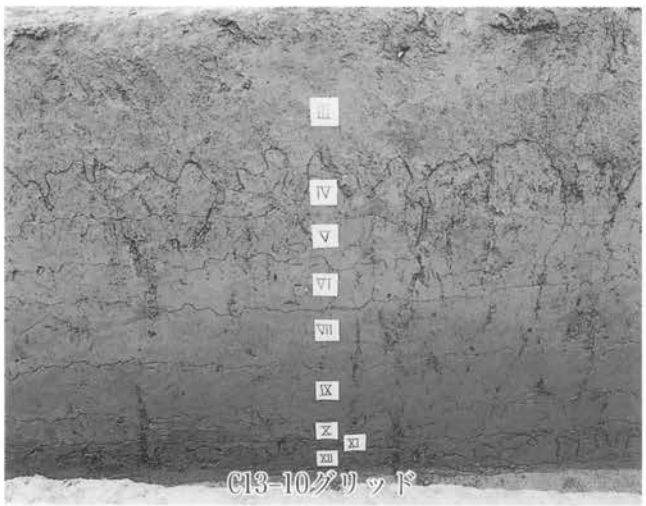
2．旧石器時代第３・４文化層主要石器

3．旧石器時代第４文化層主要石器

4．旧石器時代第５文化層主要石器

5．旧石器時代第６文化層主要石器

6．旧石器時代主要石器接合資料



C13-10グリッド

C13グリッド　西から

C13-Bブロック　北西から

C13-Bブロック　北から

C13-Dブロック　南から

C12-Aブロック　東から

C13-Aブロック　北から

C13-Aブロック　北から

図版２　　草刈遺跡Ｃ区旧石器時代遺物出土状況２

C13-A・Hブロック　北から

C13-C，C17-Aブロック　南から

C13-Eブロック　東から

C13グリッド　西から

C17-B・E・Fブロック　東から

C17-B・E・Fブロック　東から

C17-Gブロック　南東から

C23-A・B・Cブロック　西から

C23-Aブロック　南から

C23-B・Cブロック　東から

C9-Aブロック　西から

C16-Aブロック　西から

C16-Aブロック　南から

C58B-Aブロック　南西から

C61-Dブロック　北東から

C8-Aブロック　東から

図版 4　　草刈遺跡 C 区旧石器時代遺物出土状況 4

C17-Cブロック　南から

C17-Dブロック　東から

C21-Aブロック　北西から

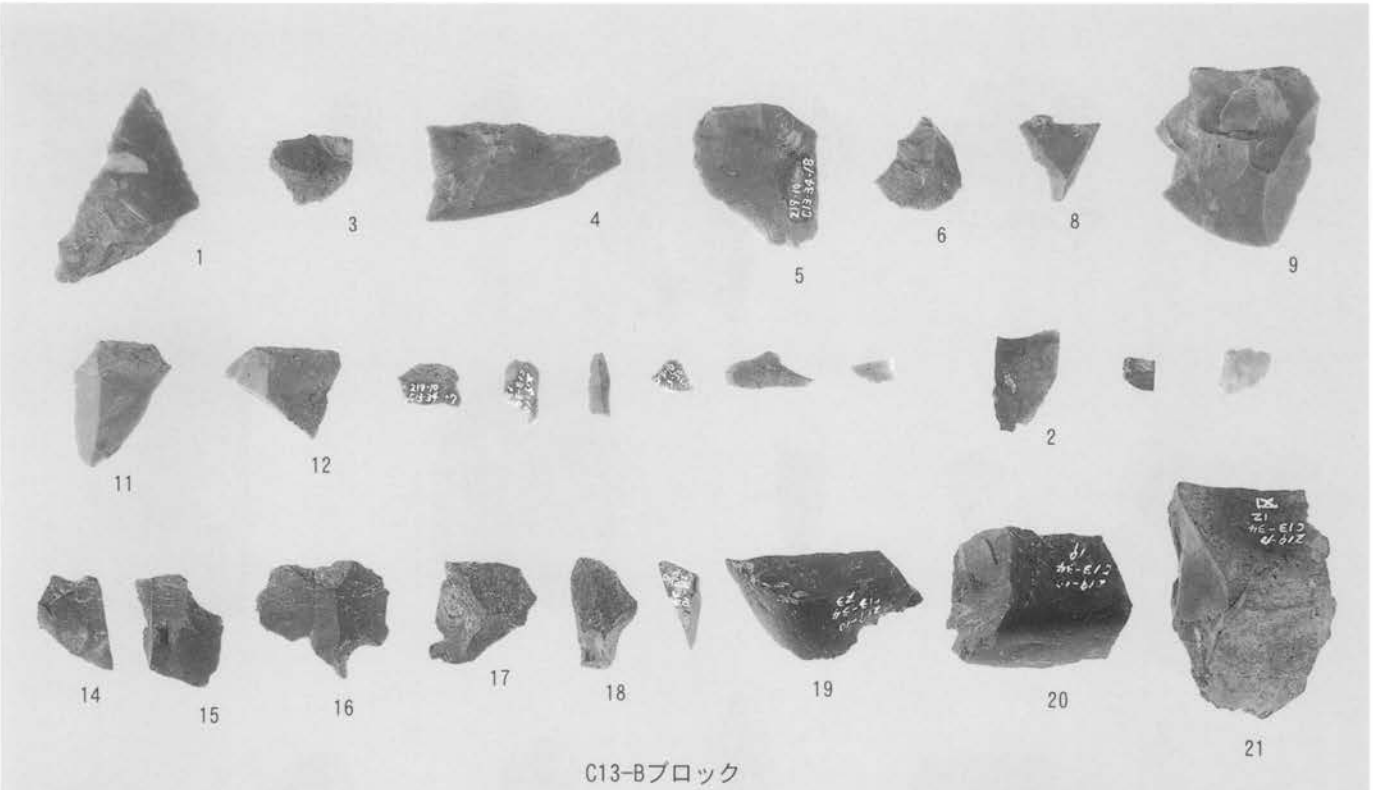
C23-Eブロック　東から

C23-Hブロック　東から

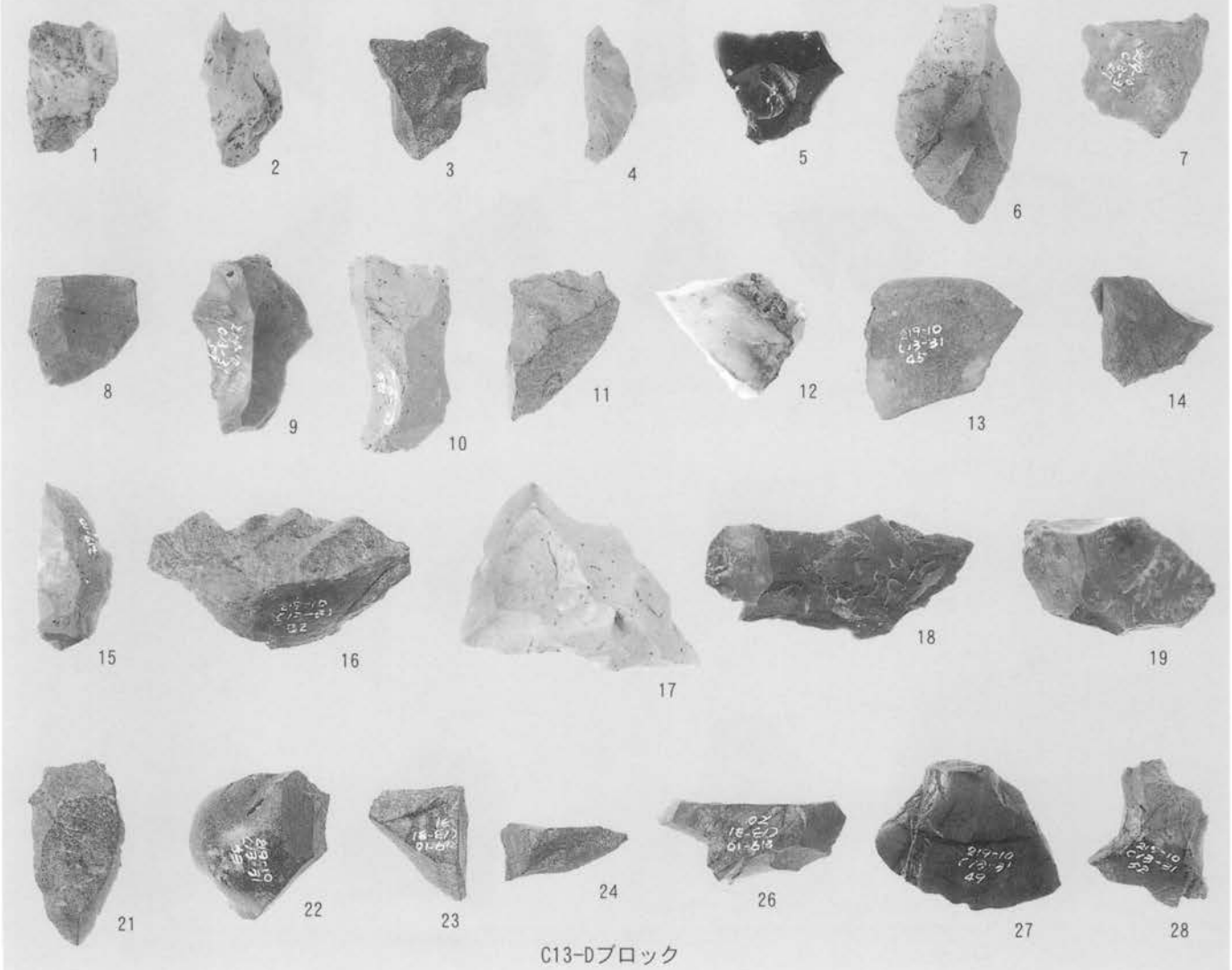
C23-Hブロック　北東から

C23-Iブロック　南東から

C61-Cブロック　南東から

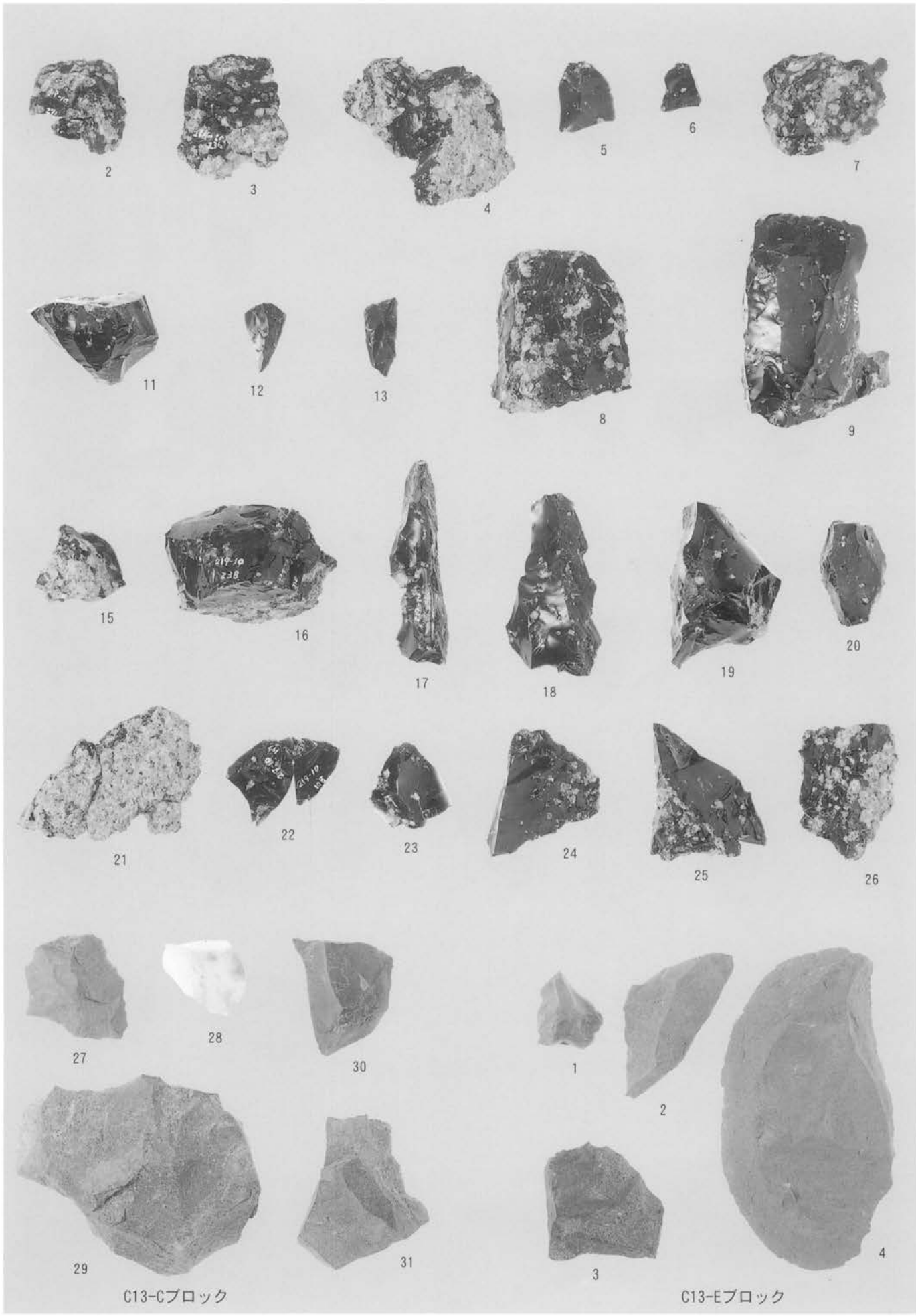


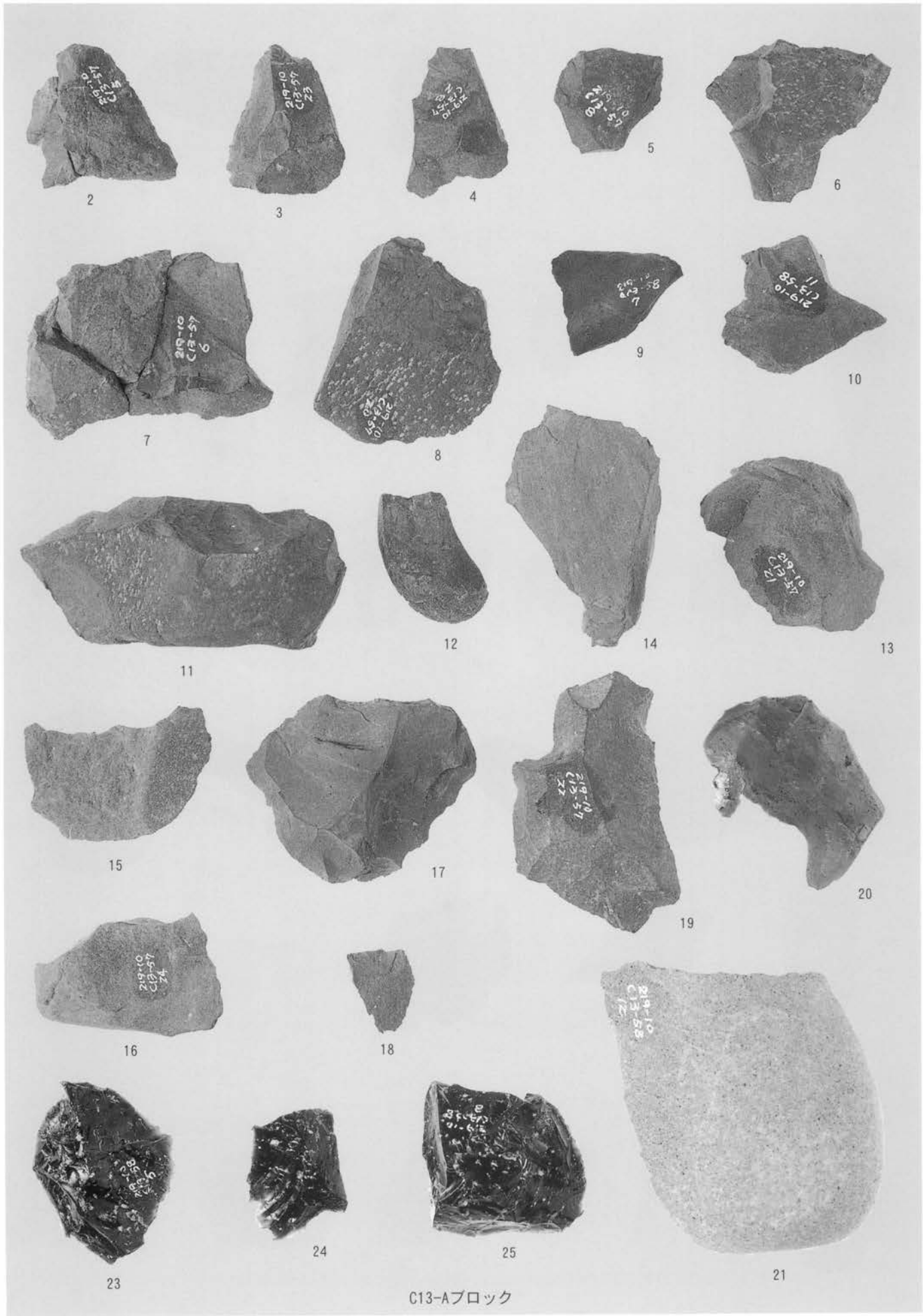
C13-Bブロック



C13-Dブロック

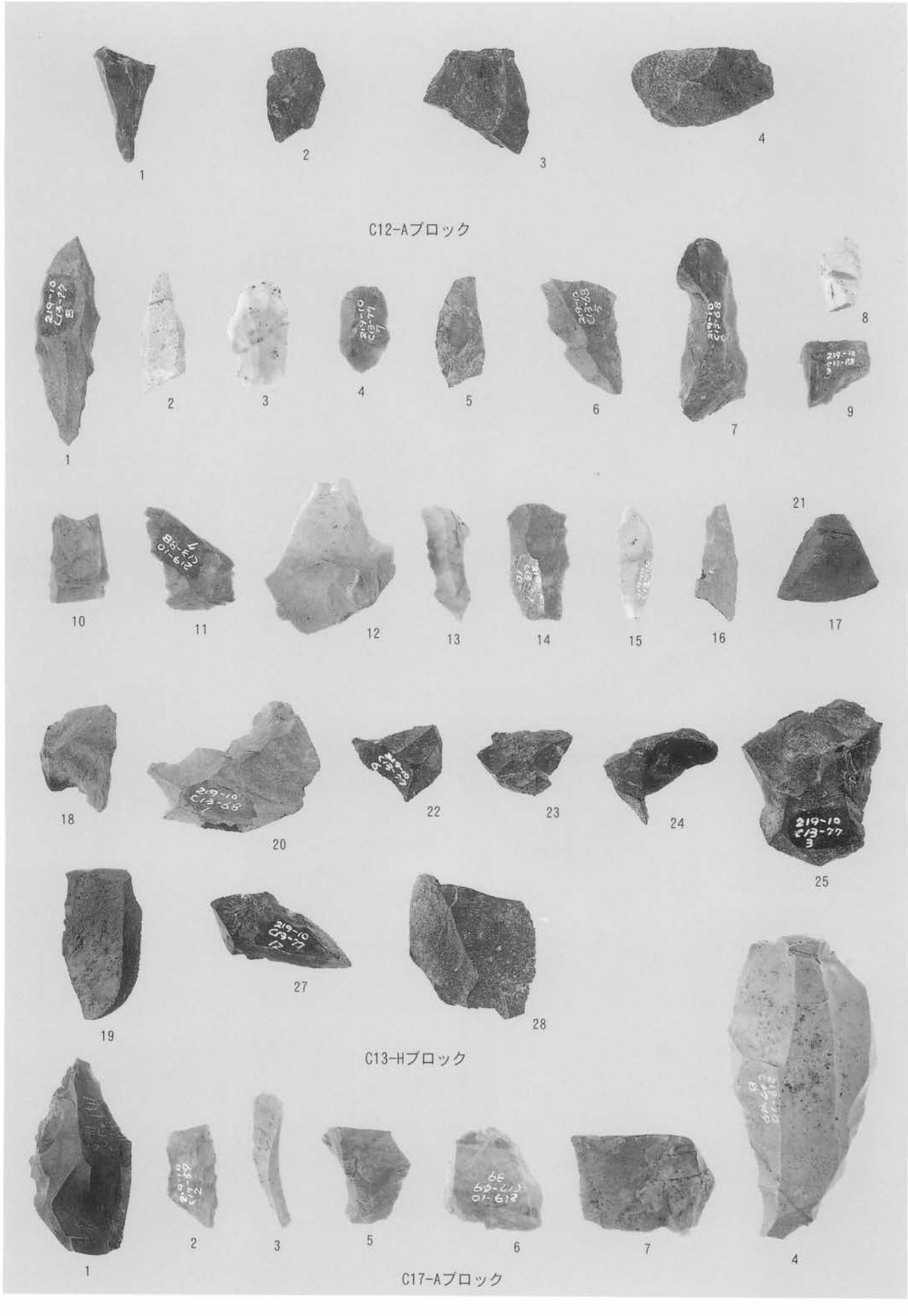
図版 6　　草刈遺跡 C 区旧石器時代遺物 2





C13-Aブロック

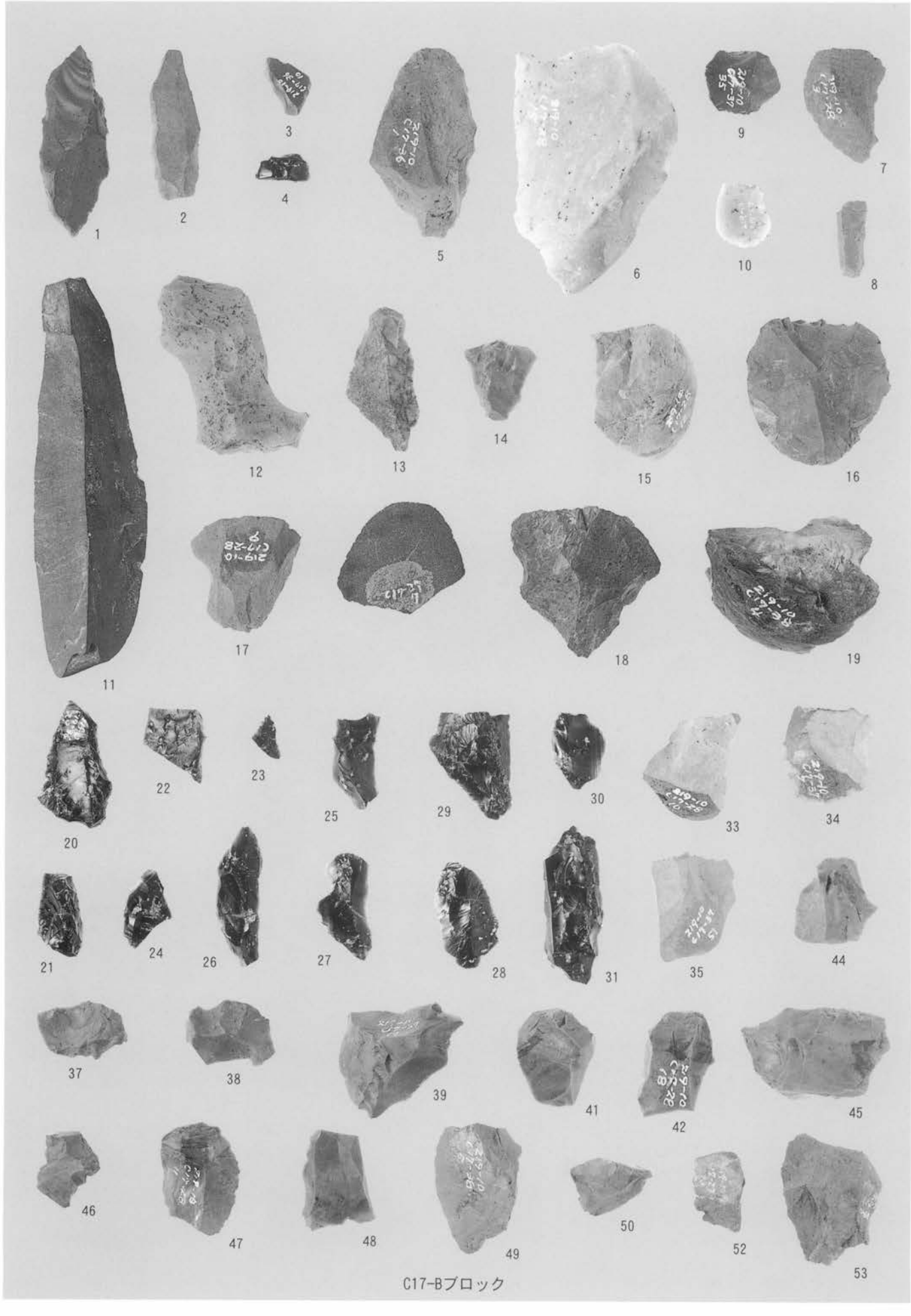
図版 8　　草刈遺跡 C 区旧石器時代遺物 4



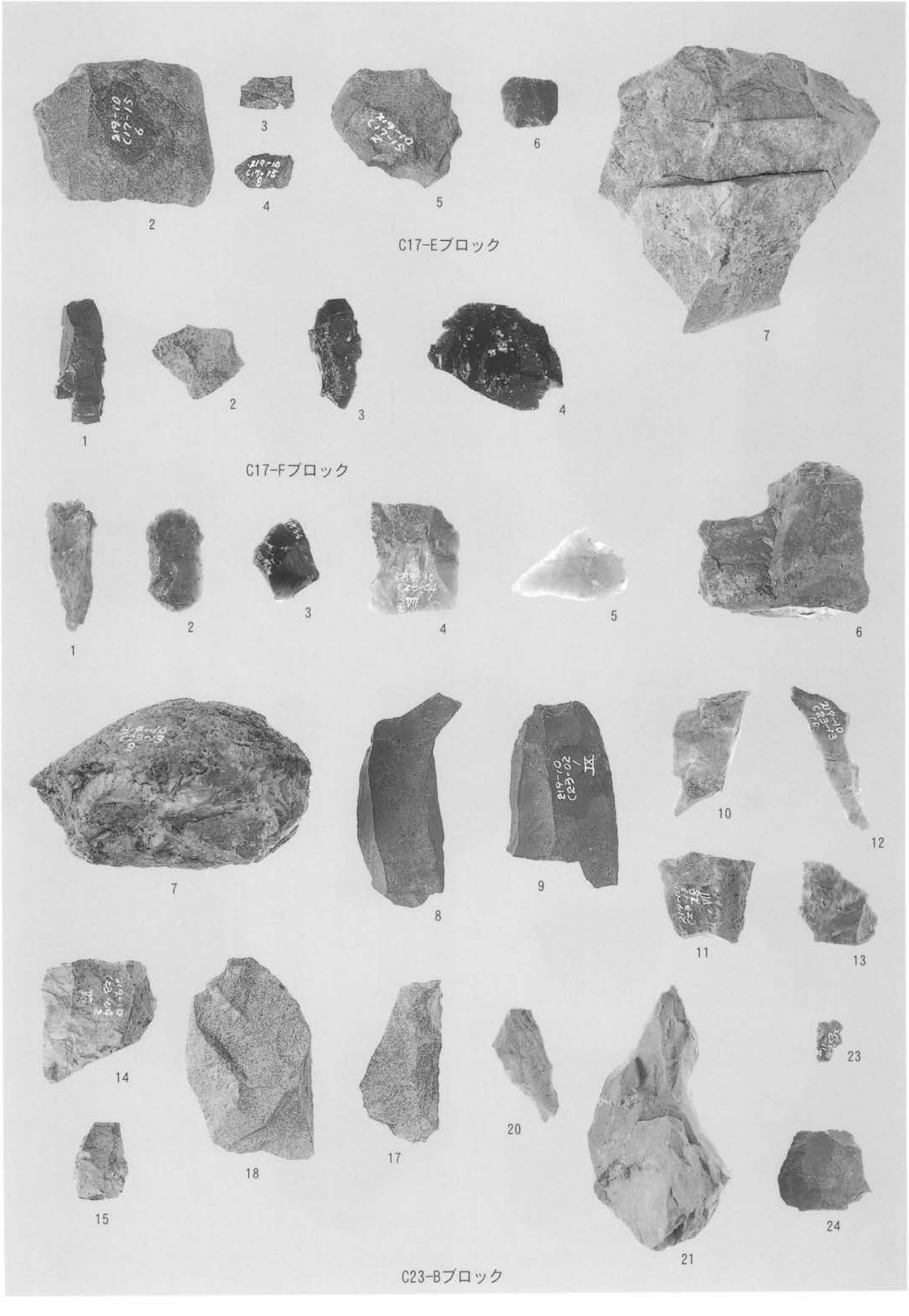
8
9
13
15
12
29
30
10
11
14
28
27
21
22
23
16
17
18
19
24
25
40
37
33
34
35
36
39
41
42
44
45
46
50
47
48
49
51
52
54
56
55
57
58
59

C17-Aブロック

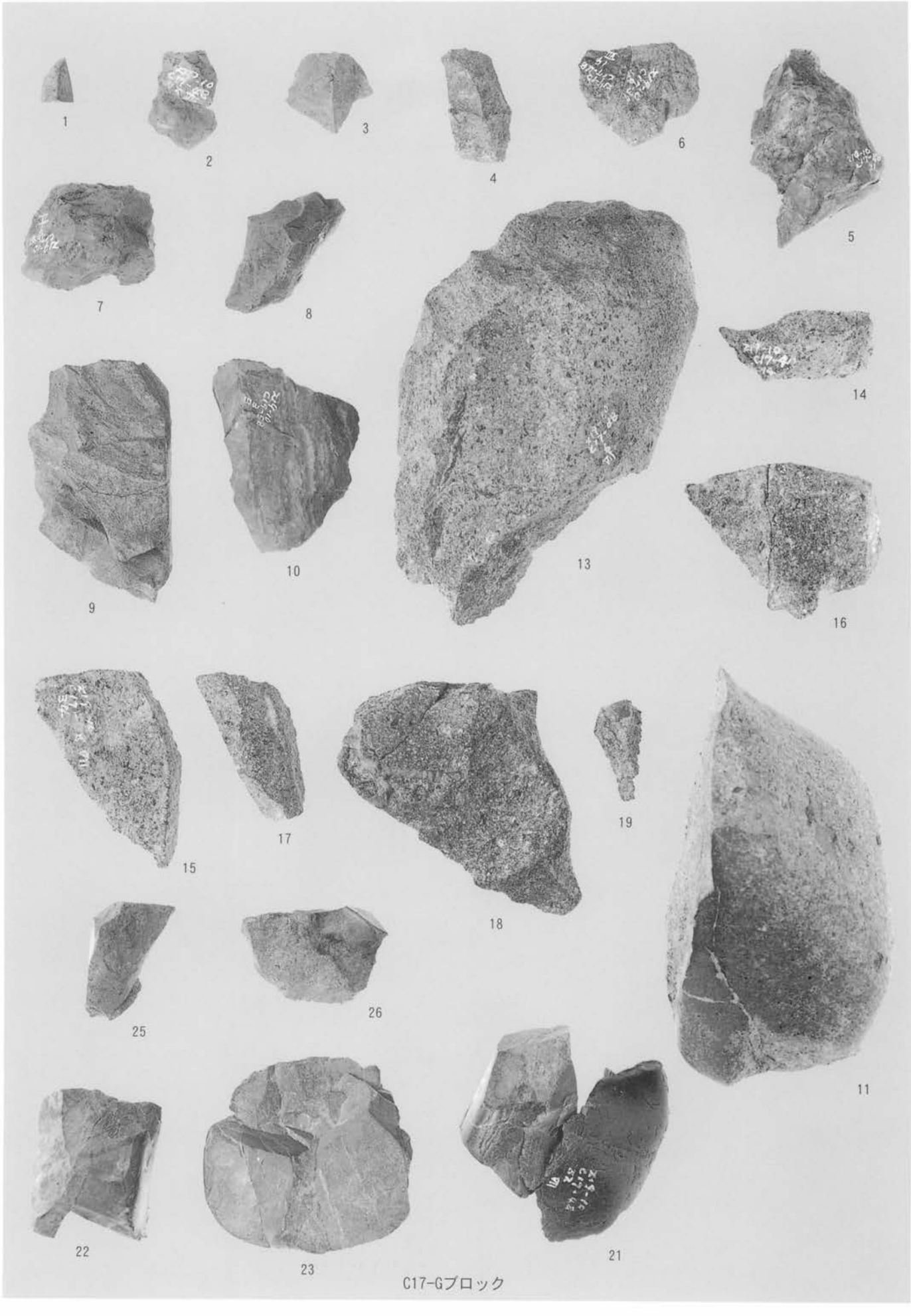
図版10　草刈遺跡Ｃ区旧石器時代遺物６



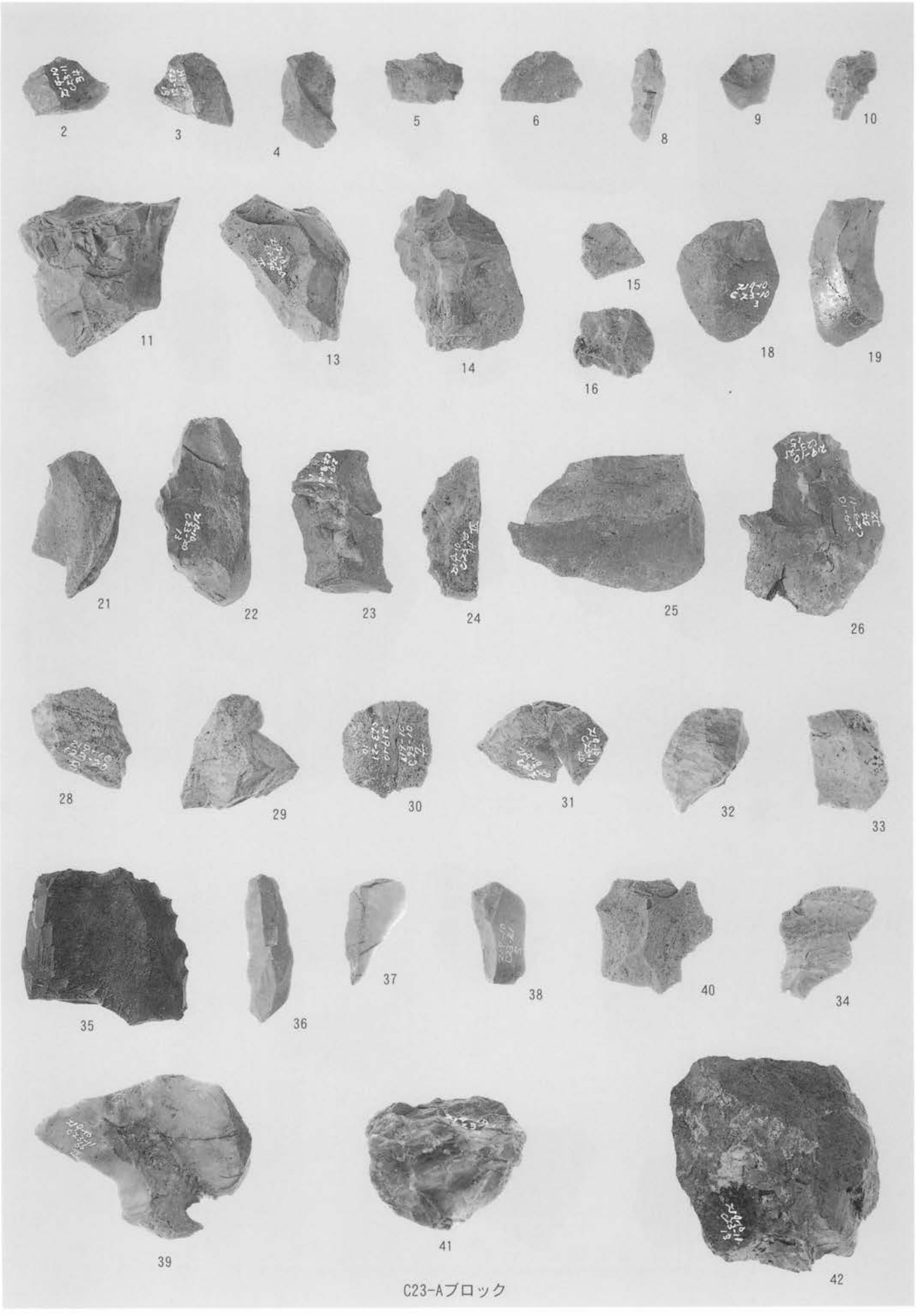
C17-Bブロック


C17-Eブロック
C17-Fブロック
C23-Bブロック

図版12　草刈遺跡Ｃ区旧石器時代遺物 8

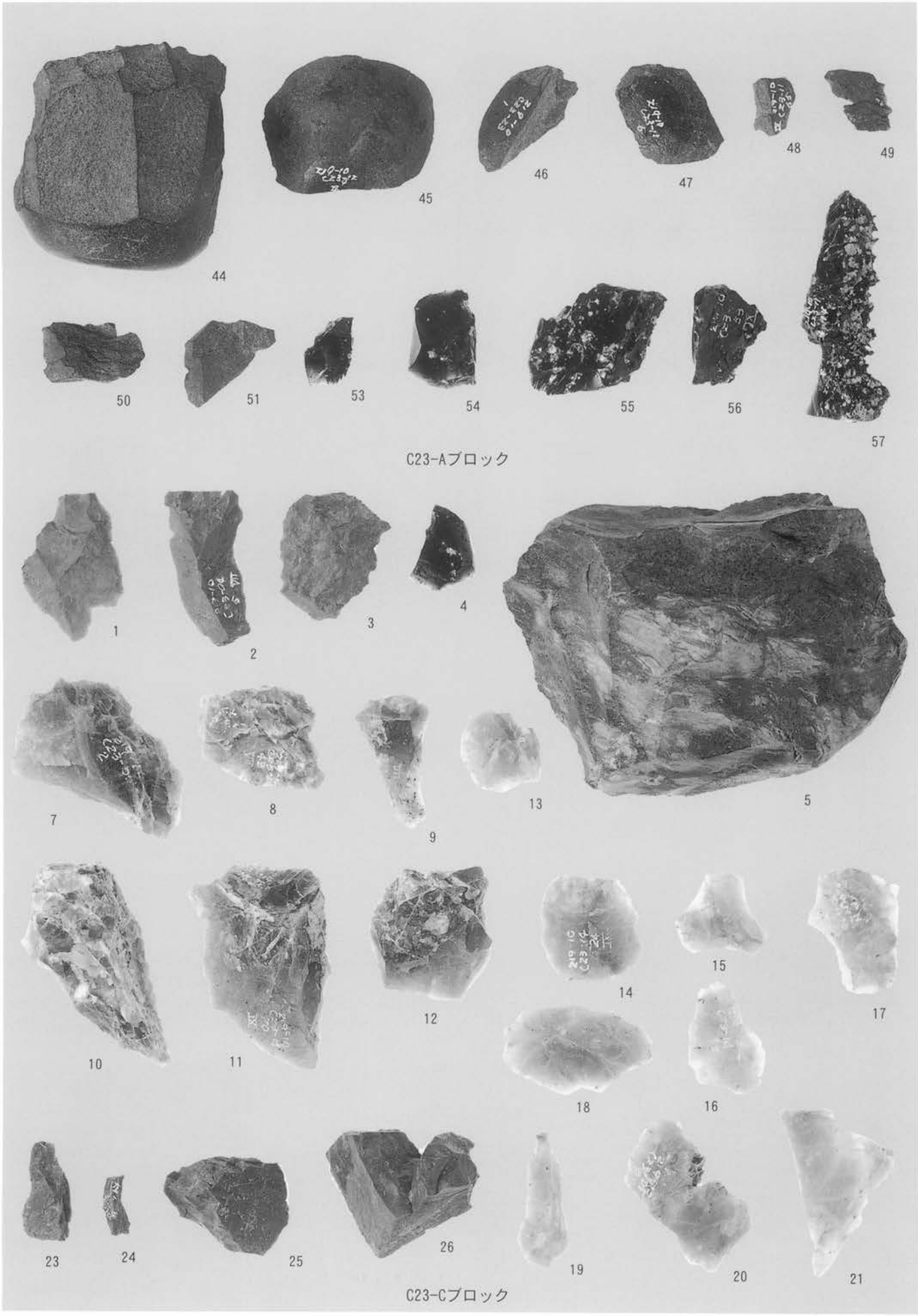


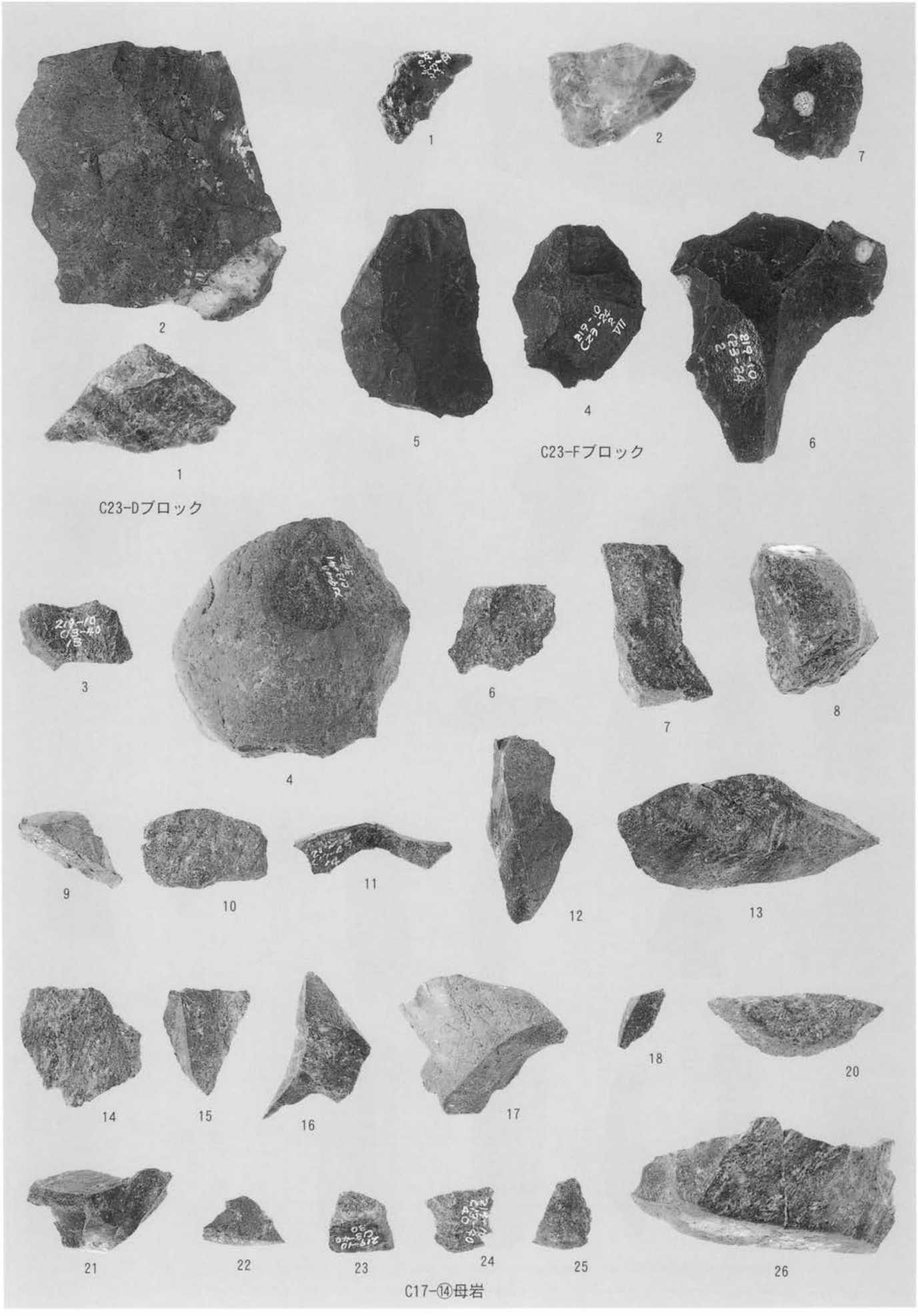
C17-Gブロック


2
3
4
5
6
8
9
10
11
13
14
15
16
18
19
21
22
23
24
25
26
28
29
30
31
32
33
35
36
37
38
40
34
39
41
42

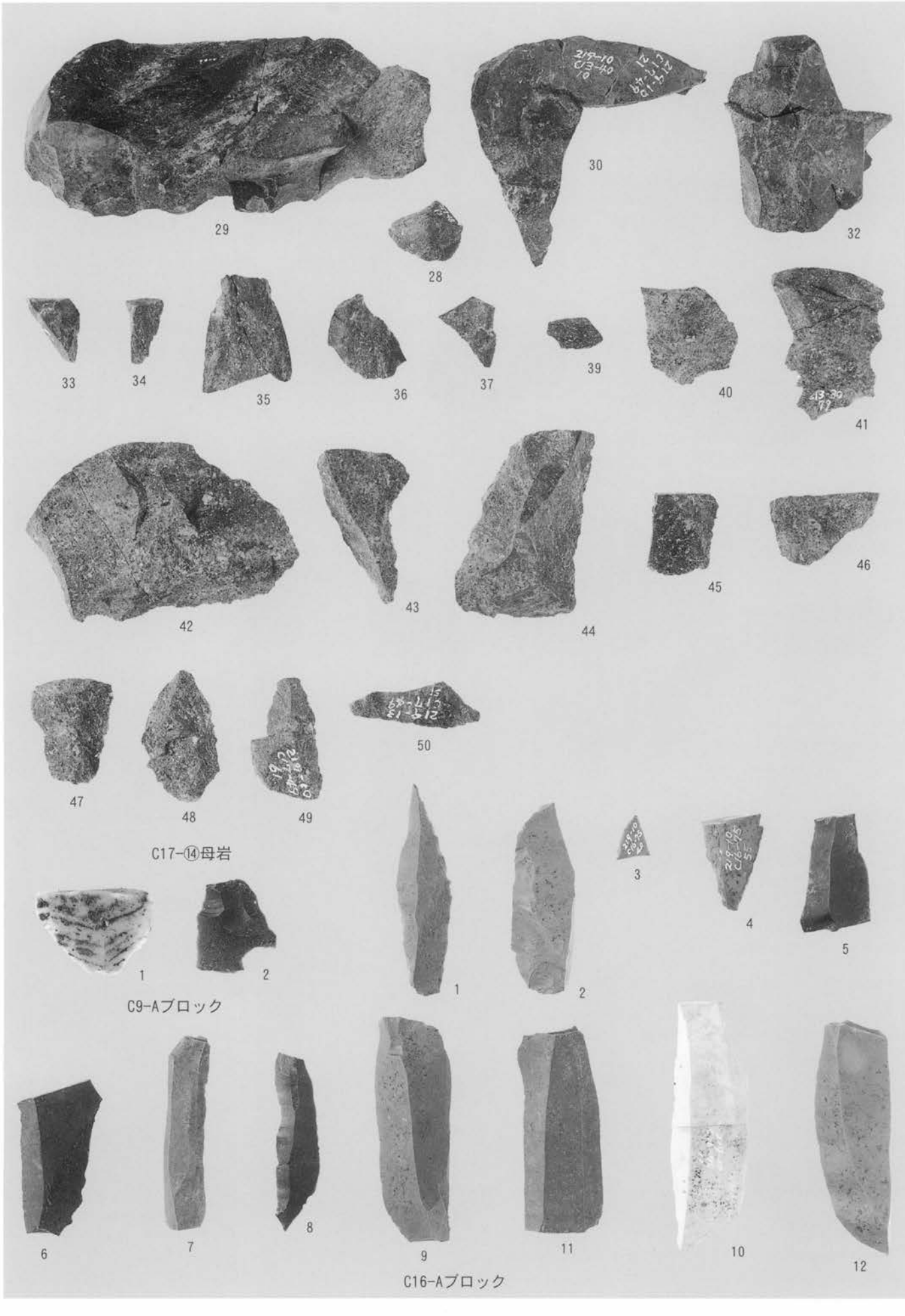
C23-Aブロック

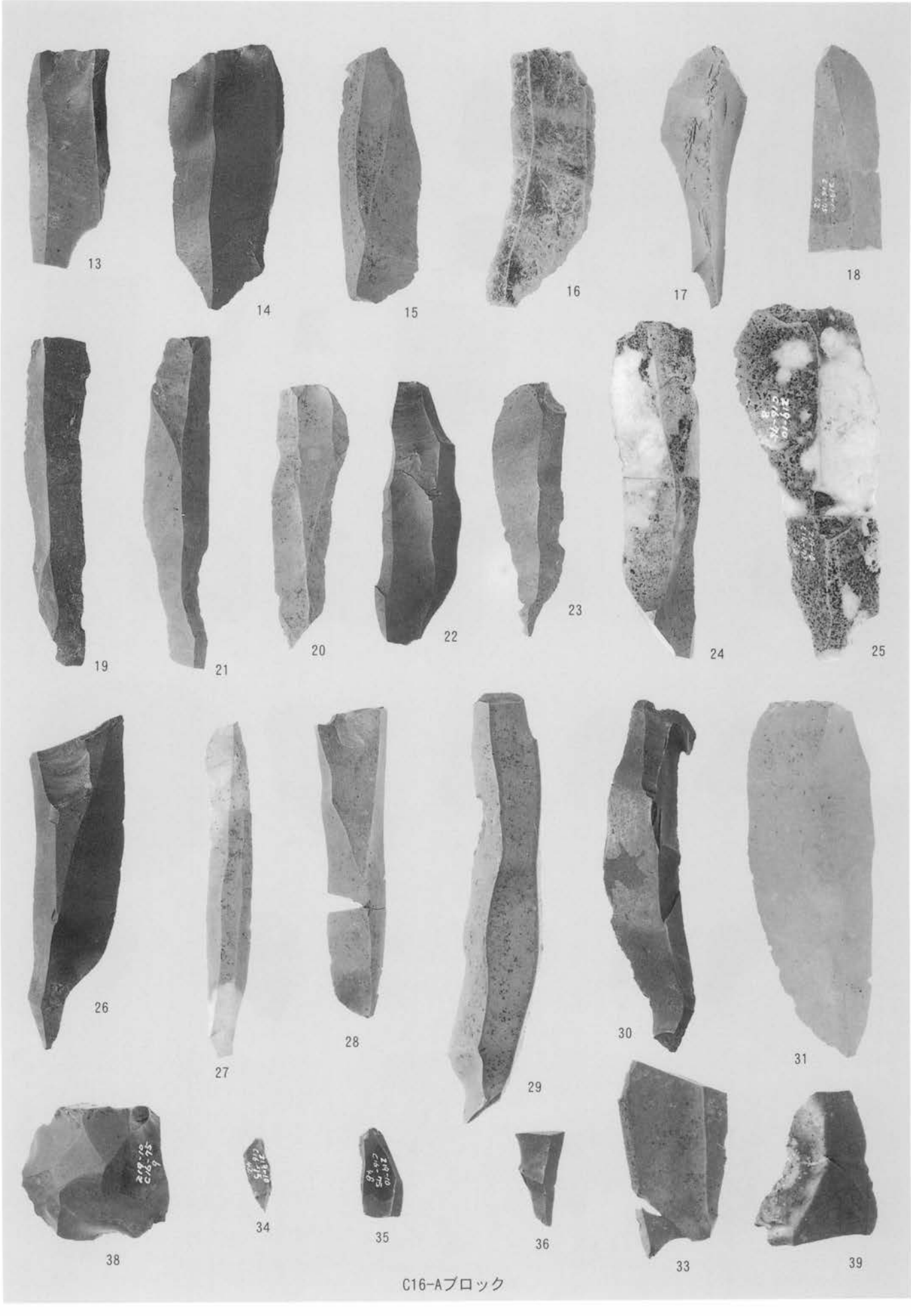
図版14　草刈遺跡Ｃ区旧石器時代遺物10




C23-Dブロック
C23-Fブロック
C17-⑭母岩

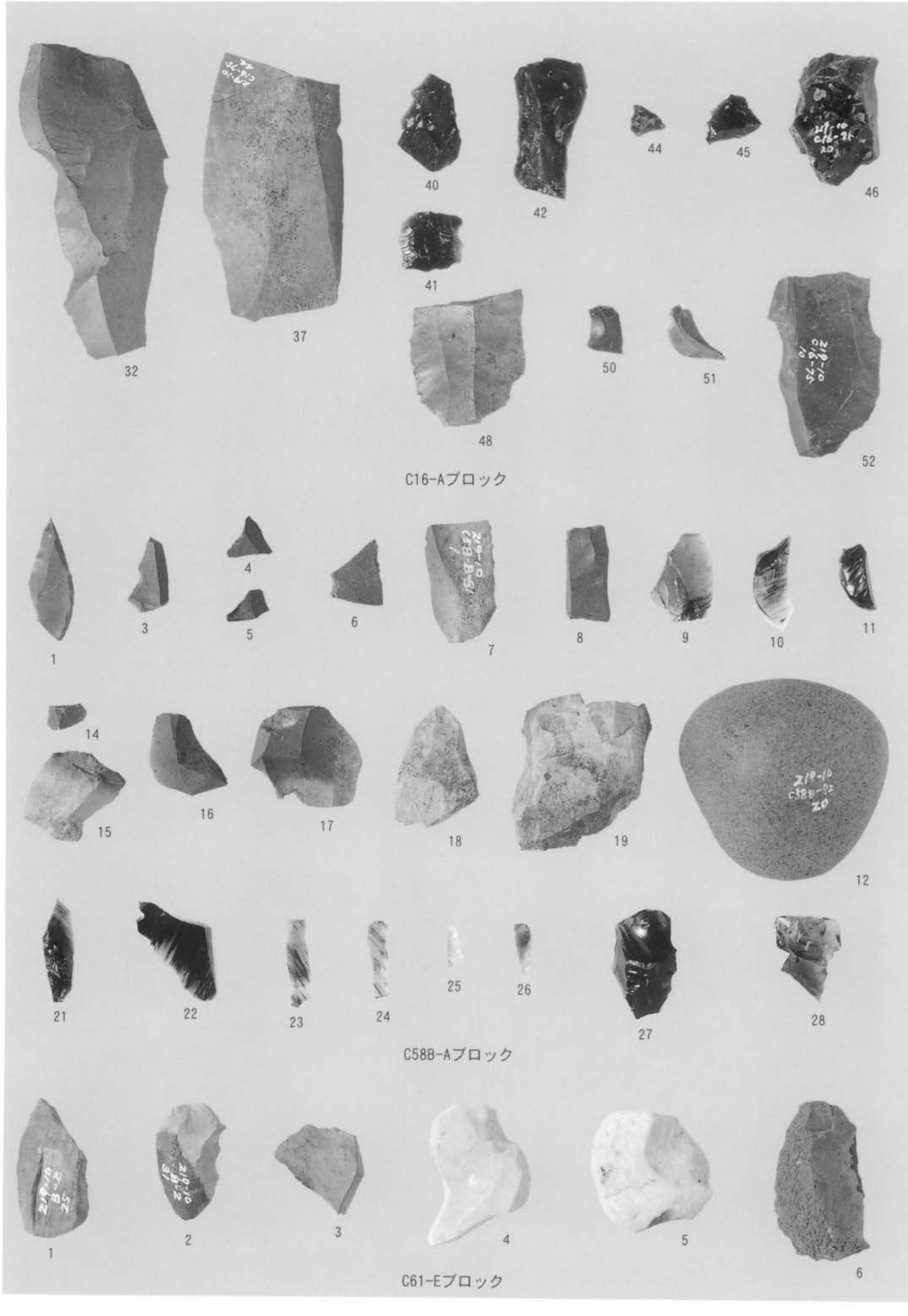
図版16　草刈遺跡Ｃ区旧石器時代遺物12

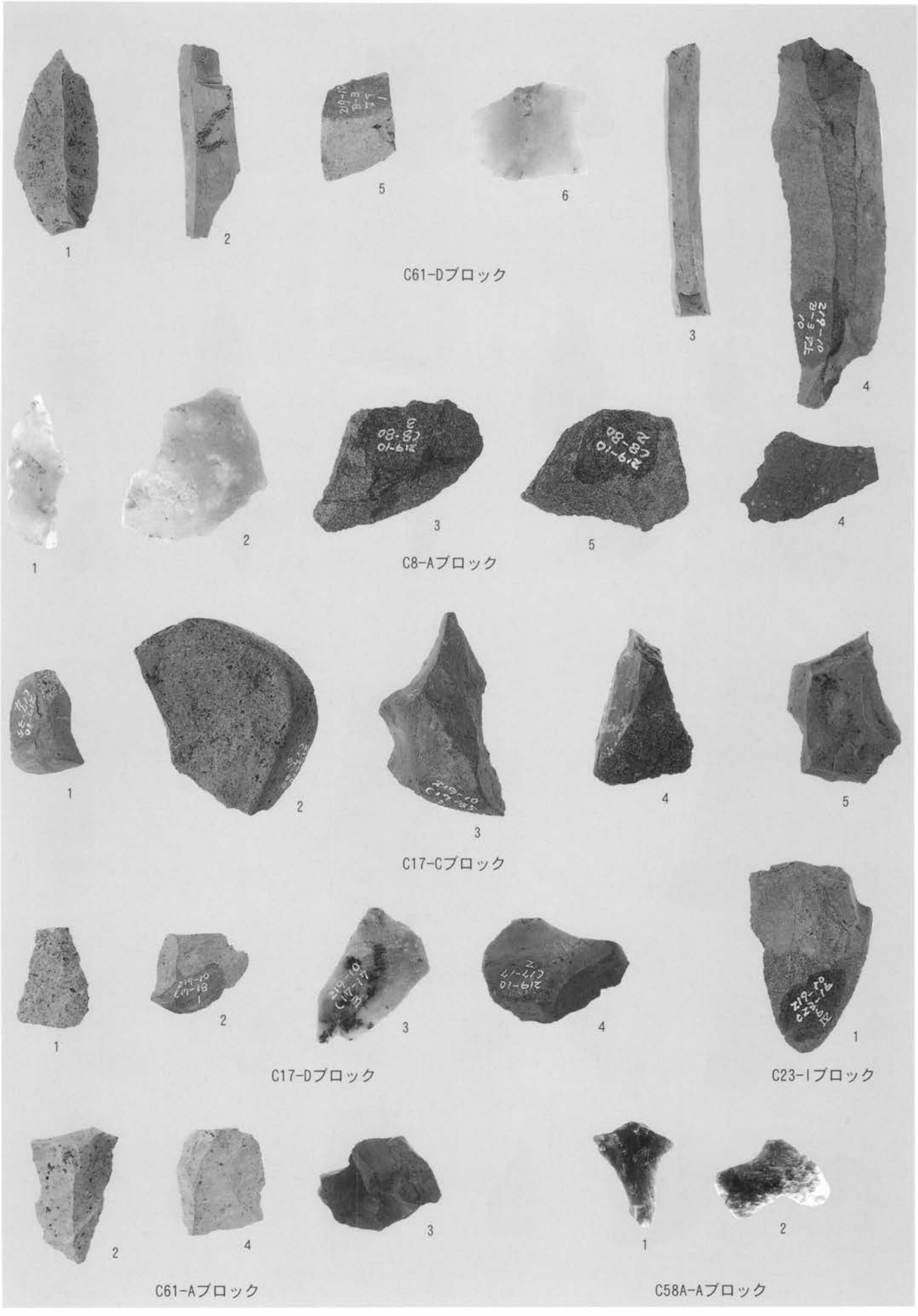



13
14
15
16
17
18
19
21
20
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
38
34
35
36
33
39

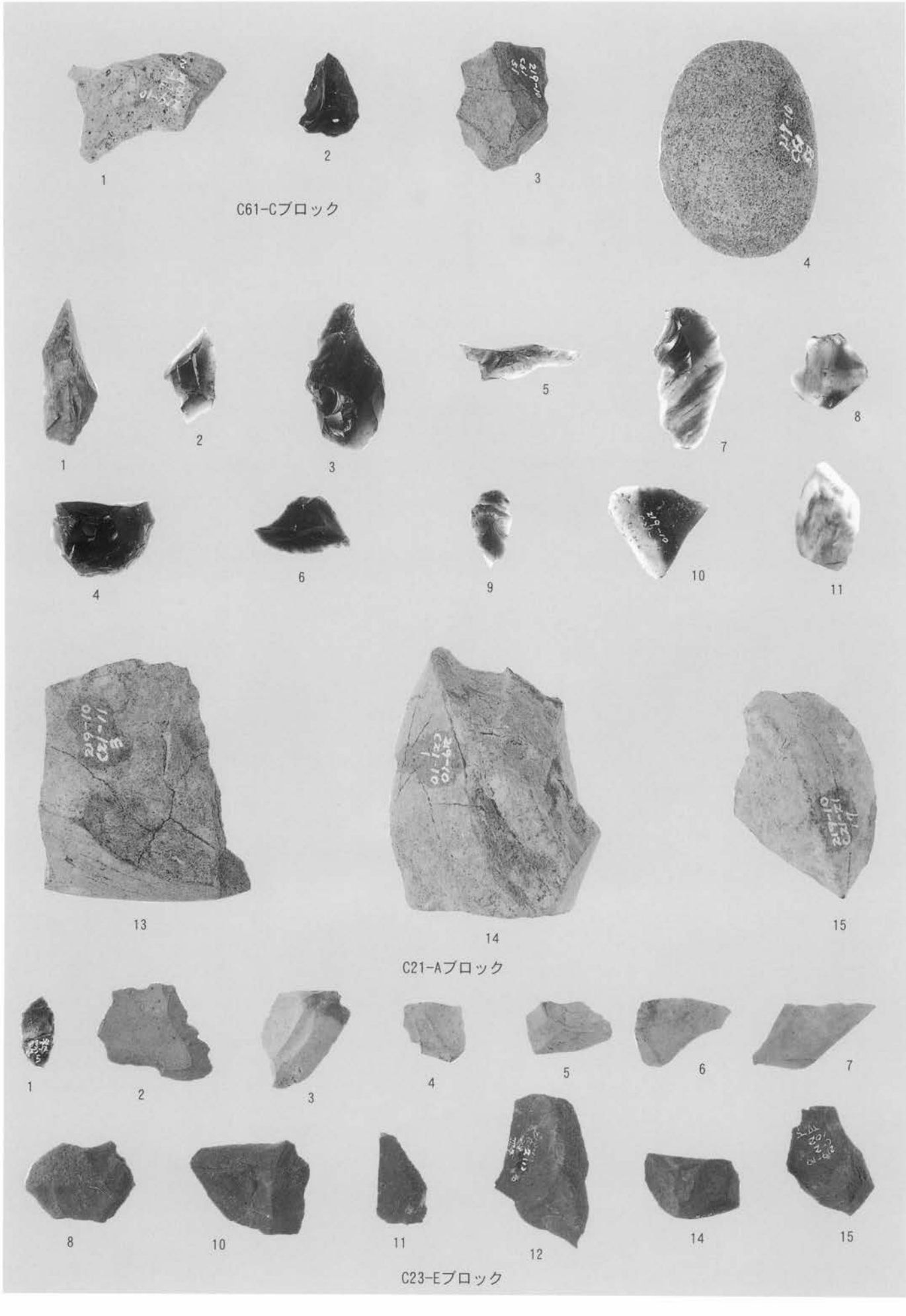
C16-Aブロック

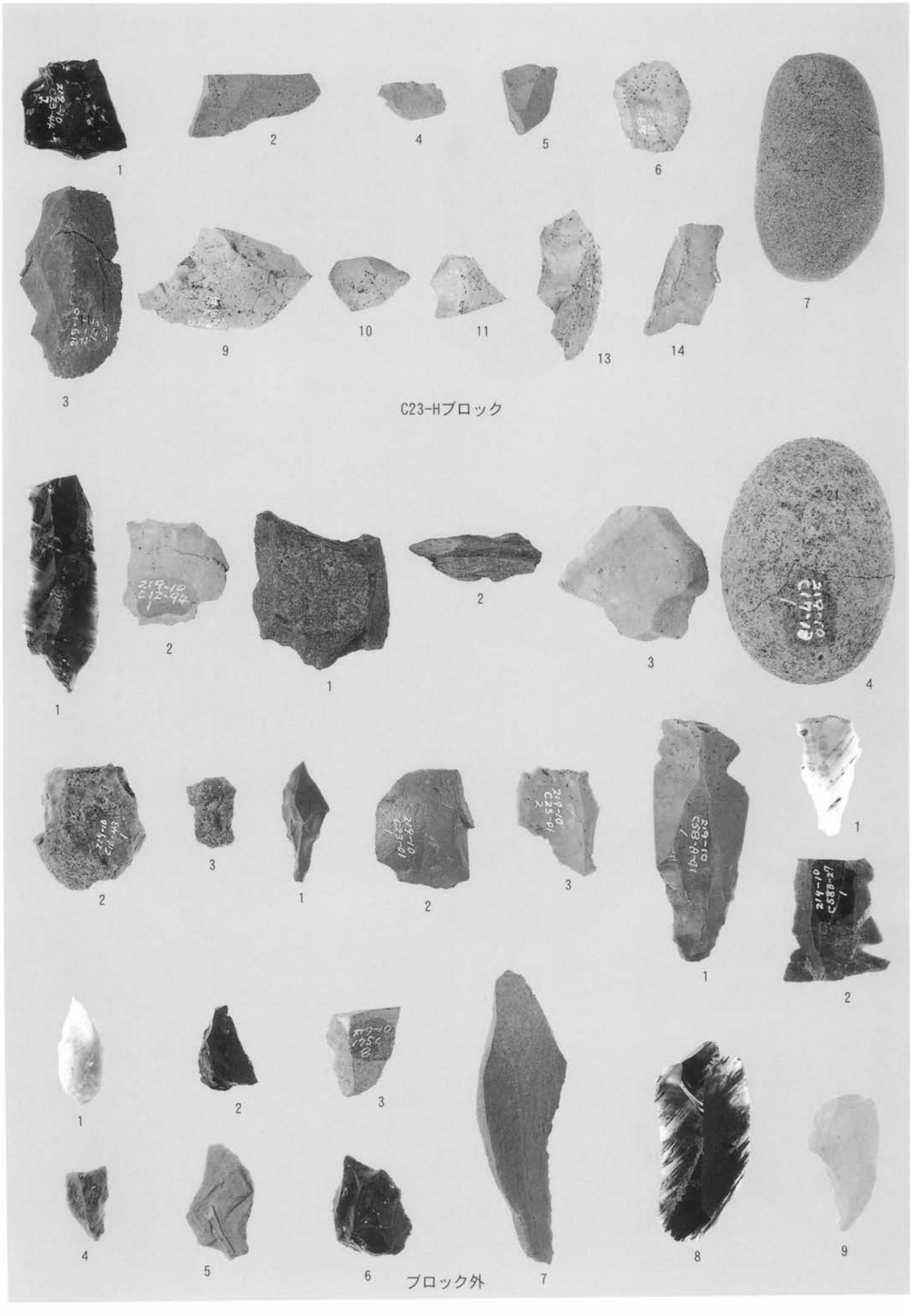
図版18　草刈遺跡Ｃ区旧石器時代遺物14



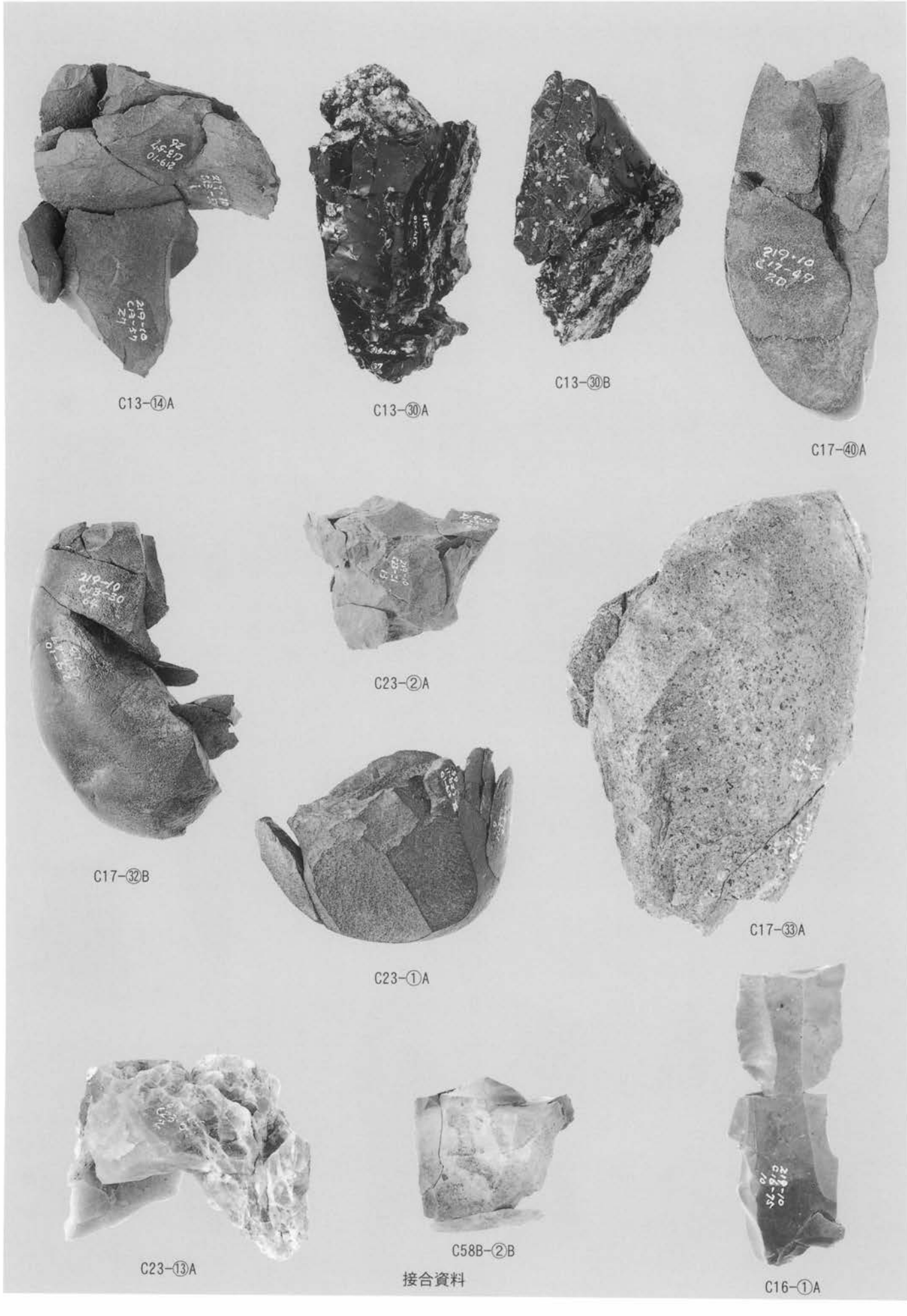

C61-Dブロック
C8-Aブロック
C17-Cブロック
C17-Dブロック
C23-Iブロック
C61-Aブロック
C58A-Aブロック

図版20　草刈遺跡Ｃ区旧石器時代遺物16




C23-Hブロック
ブロック外

図版22　草刈遺跡Ｃ区旧石器時代遺物18



C13−⑭A
C13−㉚A
C13−㉚B
C17−㊵A
C17−㉜B
C23−②A
C17−㉝A
C23−①A
C23−⑬A
C58B−②B
接合資料
C16−①A

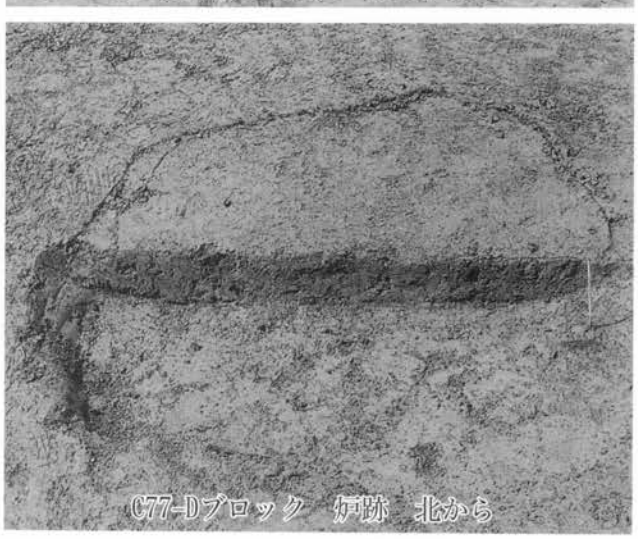
C77-88・98グリッド　土層断面

C77-Dブロック　南西から

C77-Dブロック　西から

C77-Dブロック　南西から

C77-Dブロック


C77-Dブロック　炉跡　北から

C62-Aブロック　北から

C62-A・Bブロック　北から

図版24　草刈遺跡Ｄ区旧石器時代遺物出土状況２

C72N40-Aブロック　西から

C77-A・B・Cブロック　北東から

C55-Aブロック　南から

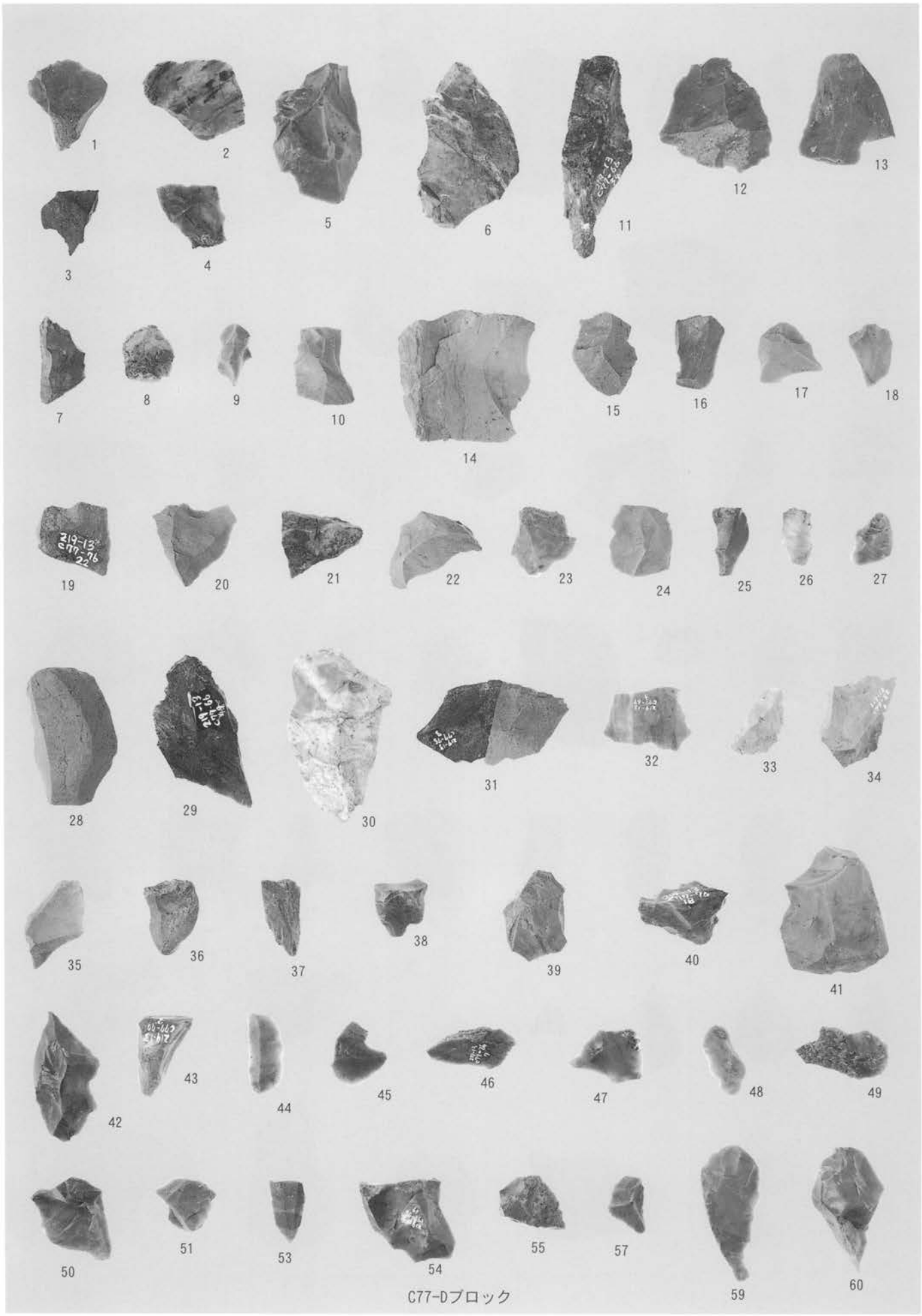
C57-Aブロック　東から

C46-A,C56-Aブロック　西から

C72N40-B・Cブロック　西から

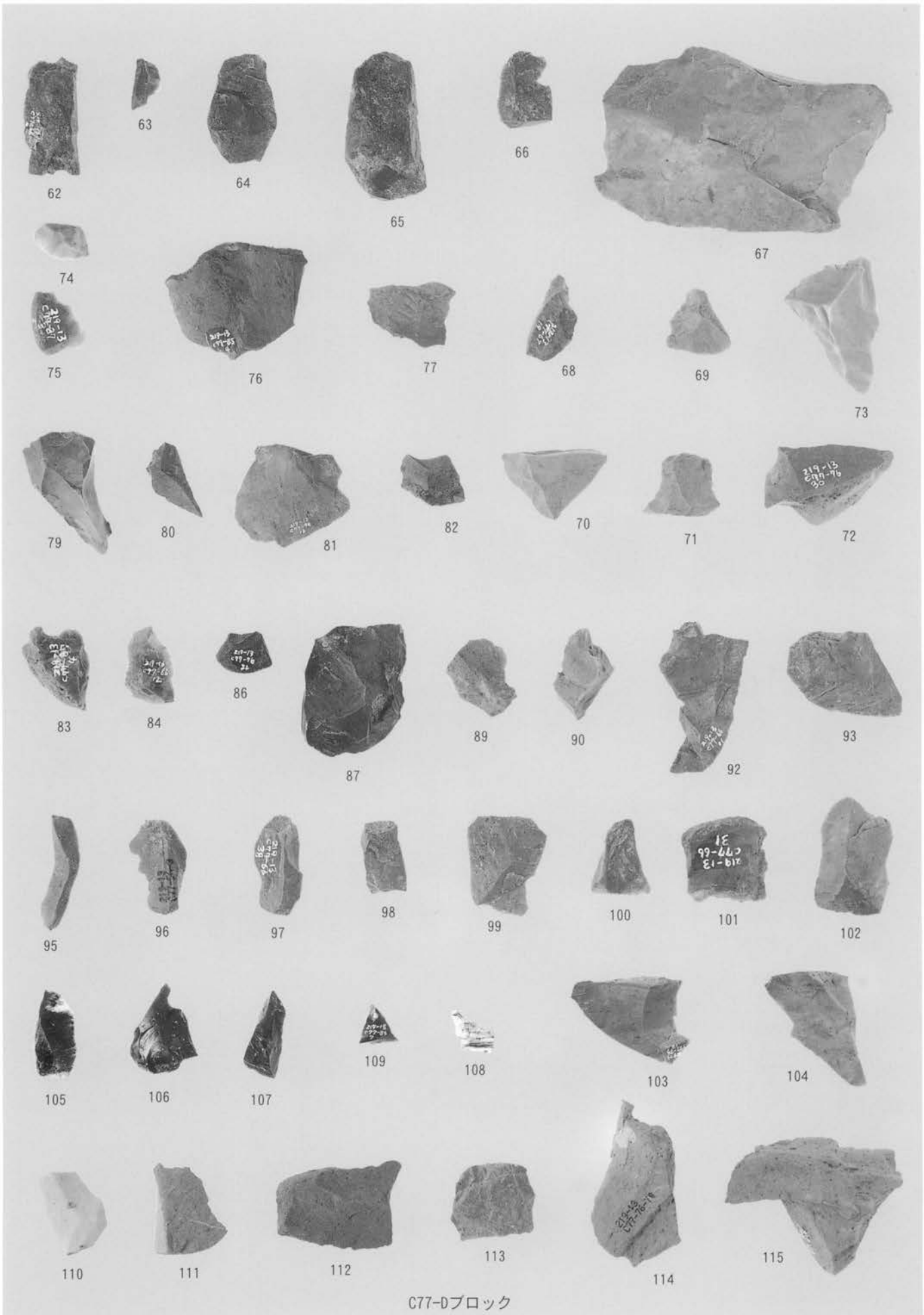
C72N40-Dブロック　西から

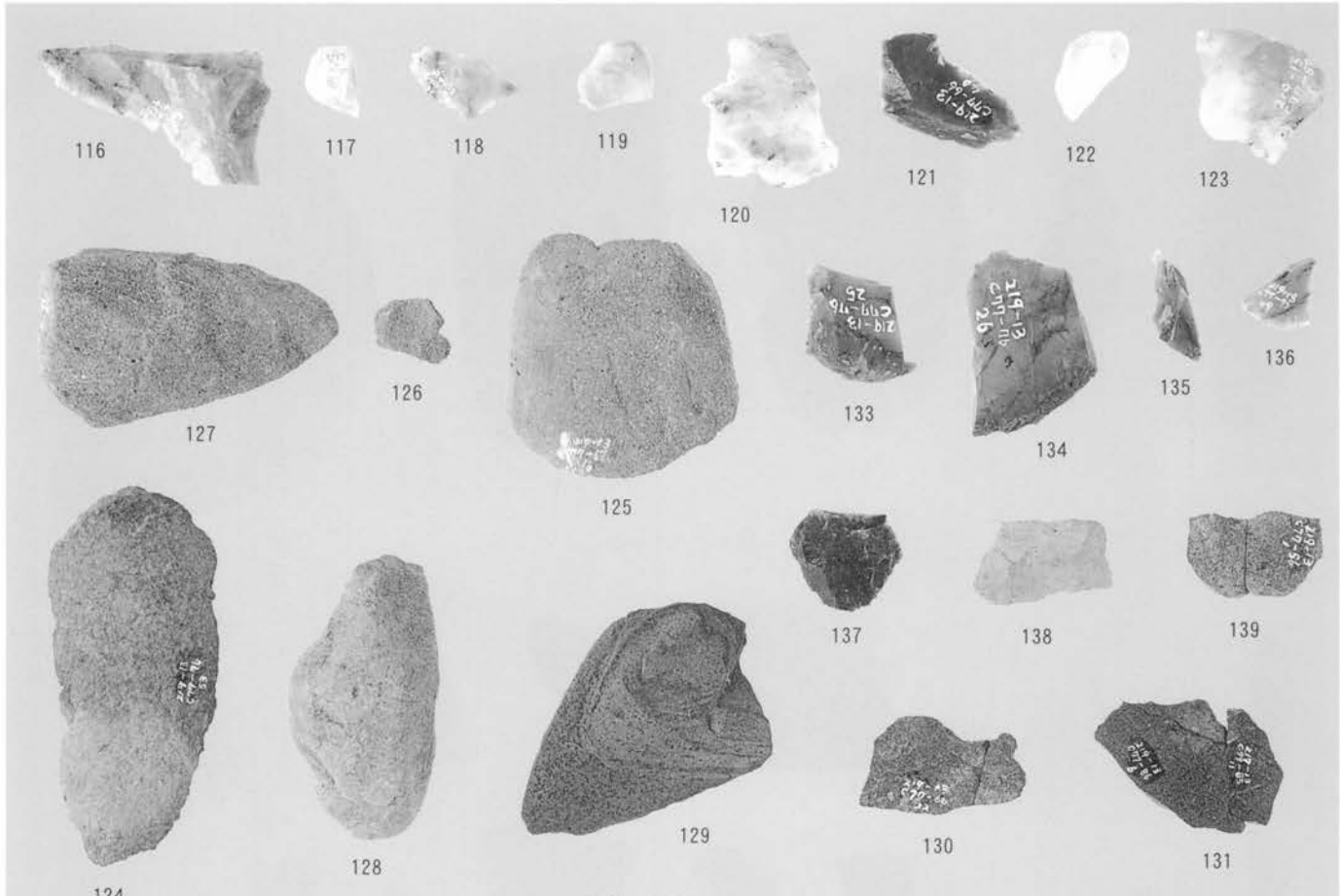
C76-Aブロック　西から


1
2
3
4
5
6
11
12
13
7
8
9
10
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
53
54
55
57
59
60

C77-Dブロック

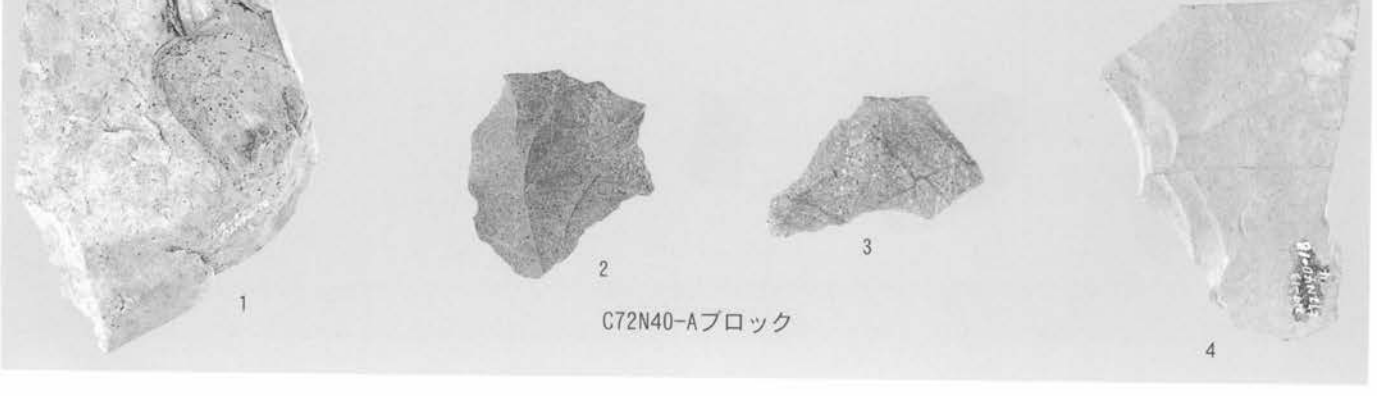
図版26　草刈遺跡Ｄ区旧石器時代遺物２



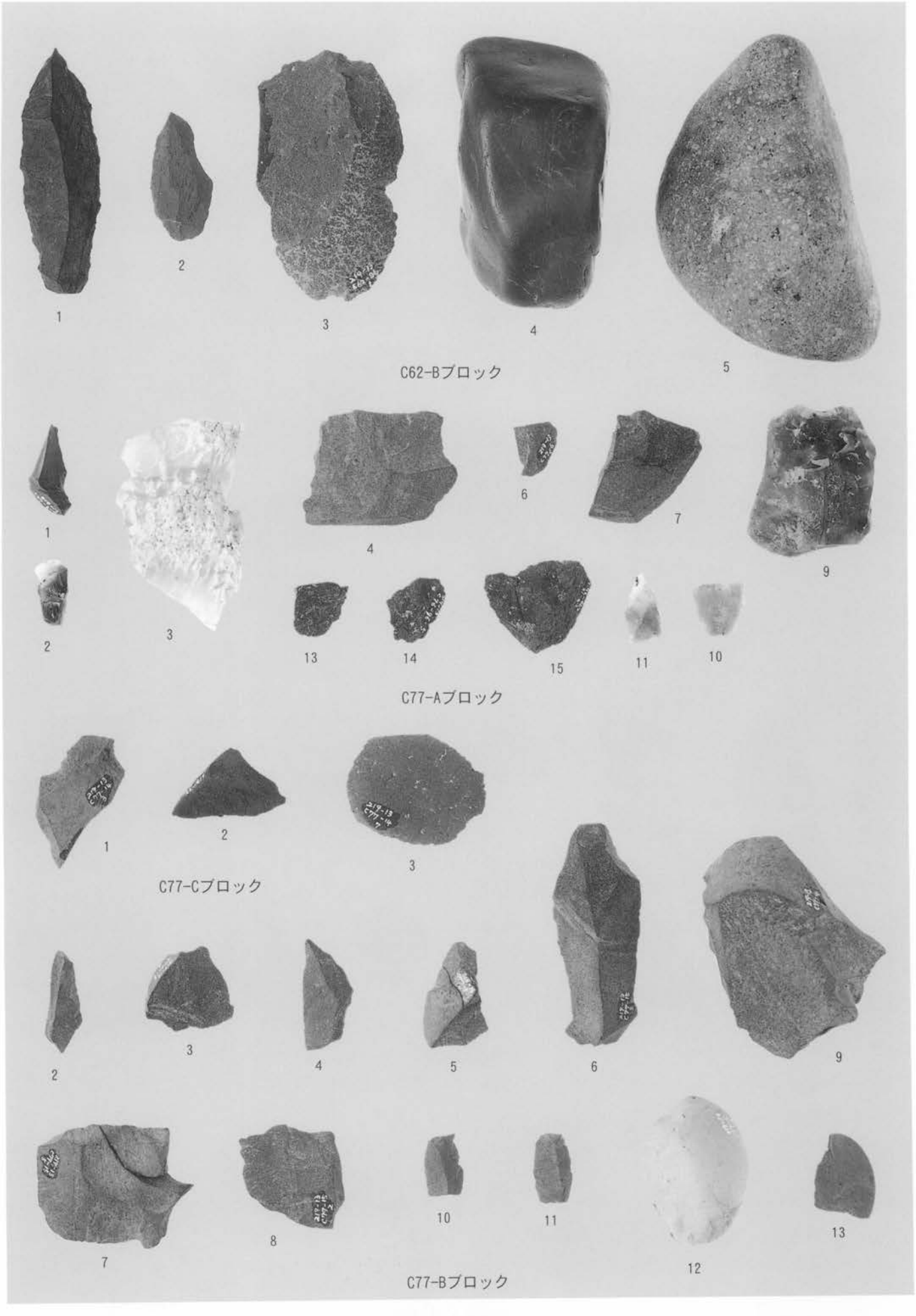

116
117
118
119
120
121
122
123
126
127
125
133
134
135
136
124
128
129
137
138
139
130
131
C77-Dブロック

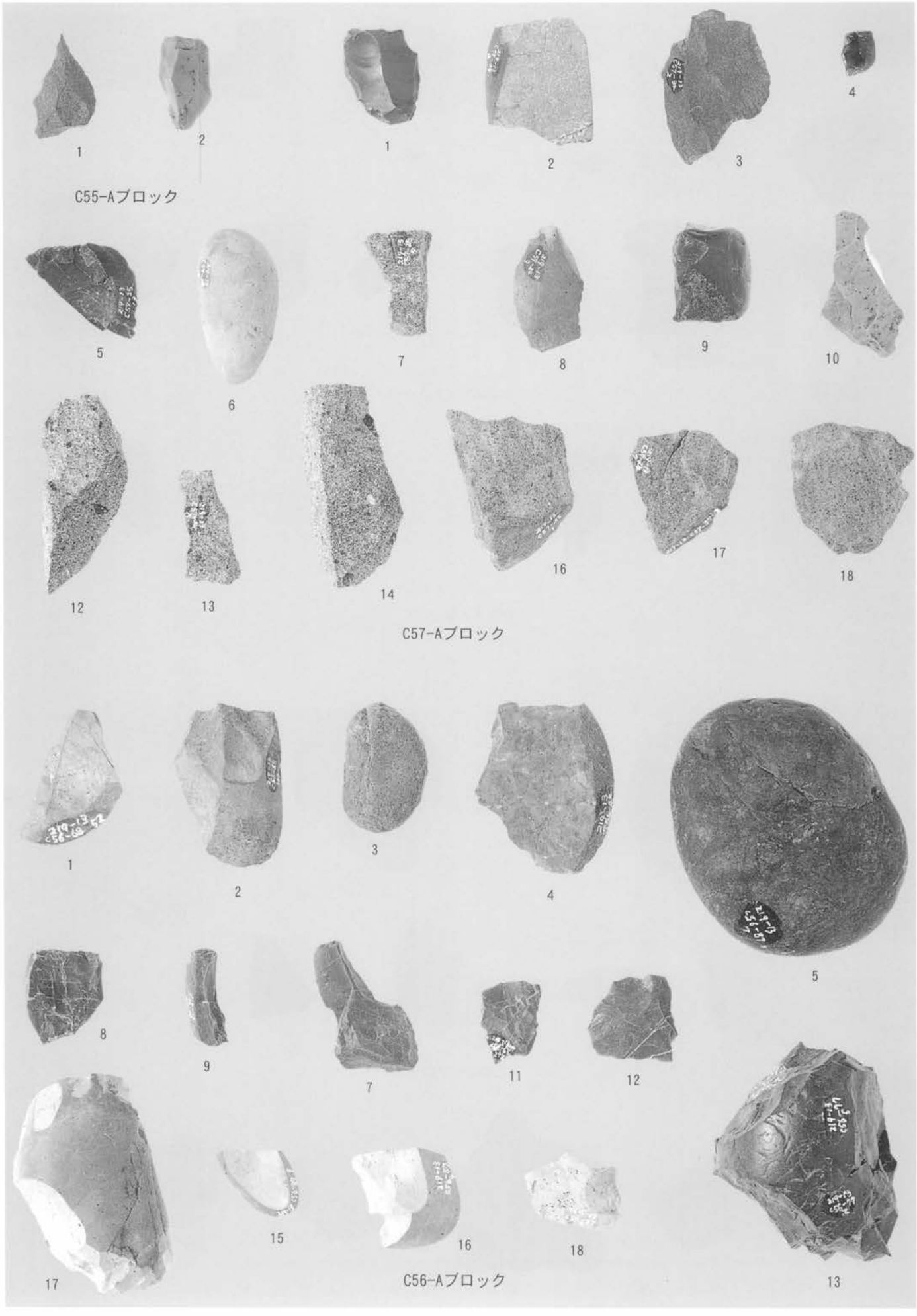
1
2
3
4
5
6
7

8
10
11
12
13
C62-Aブロック

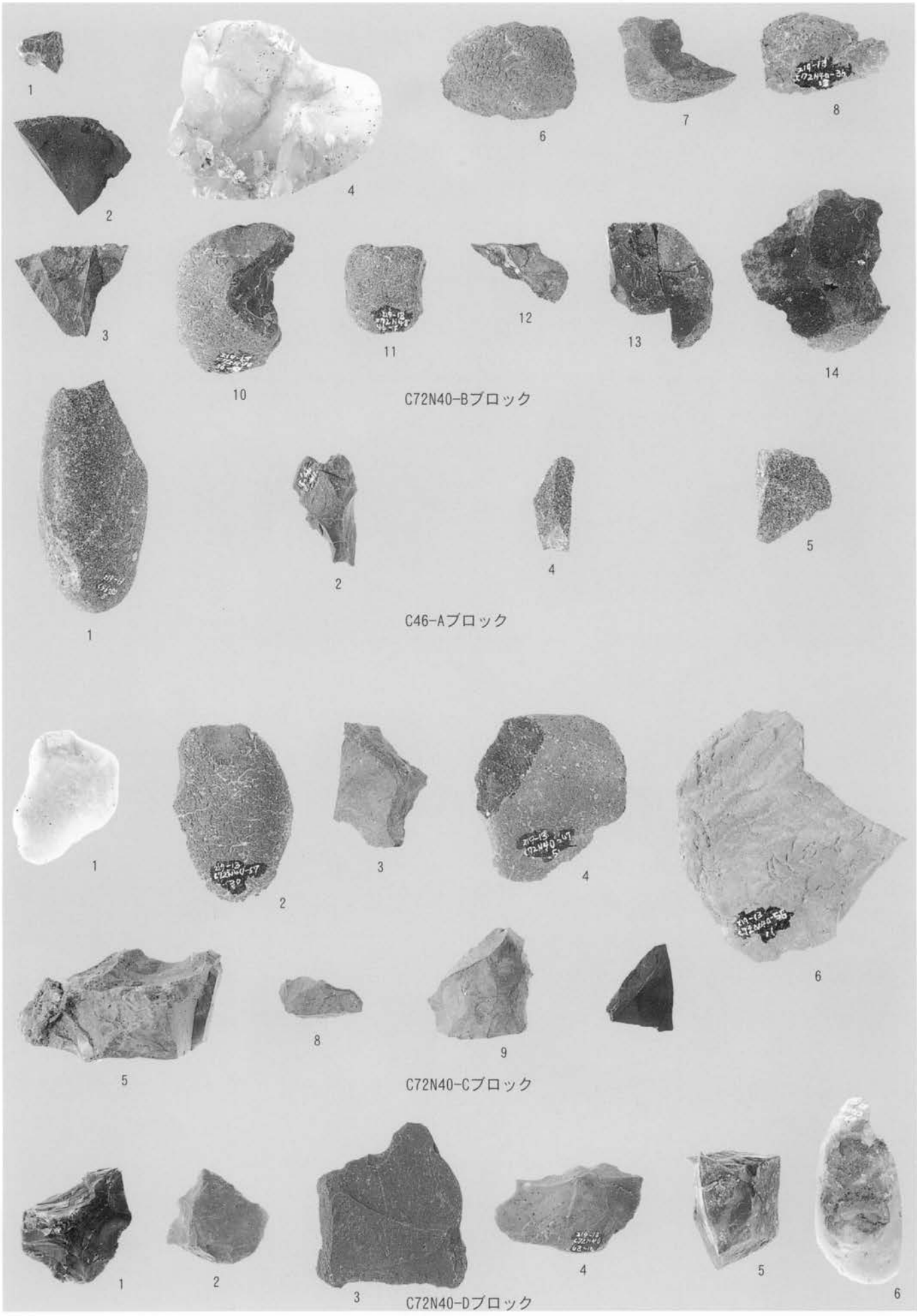

1
2
3
4
C72N40-Aブロック

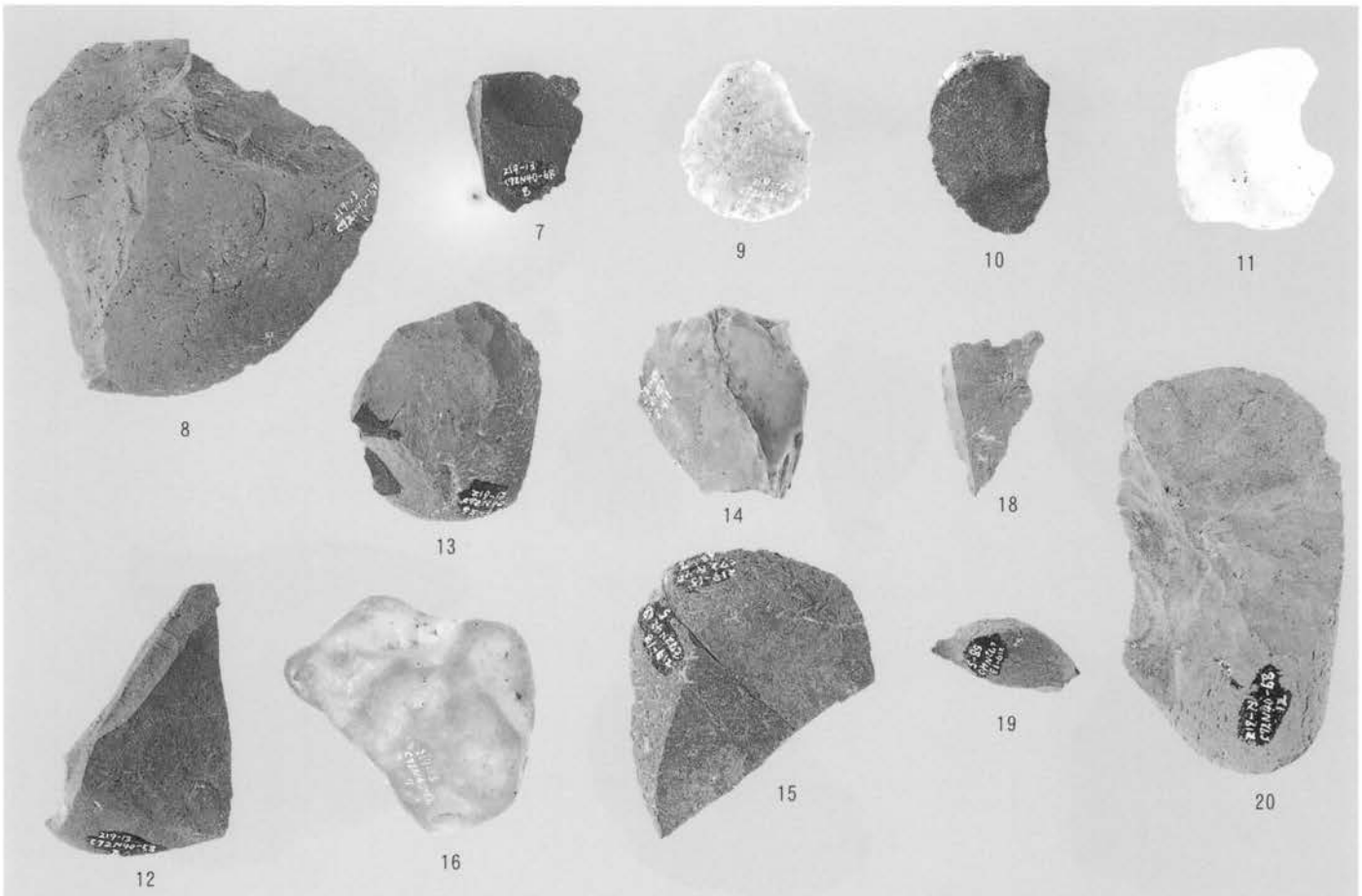
図版28　草刈遺跡Ｄ区旧石器時代遺物 4



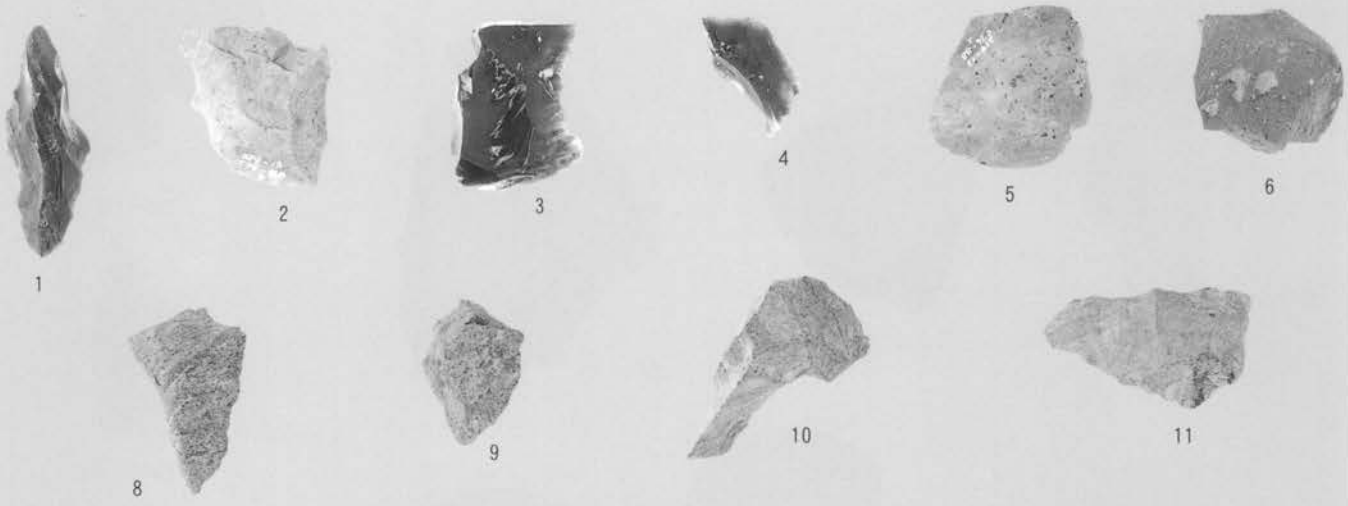

1
2
C55-Aブロック
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
12
13
14
16
17
18
C57-Aブロック
1
2
3
4
5
8
9
7
11
12
17
15
16
18
13
C56-Aブロック

図版30　草刈遺跡Ｄ区旧石器時代遺物６





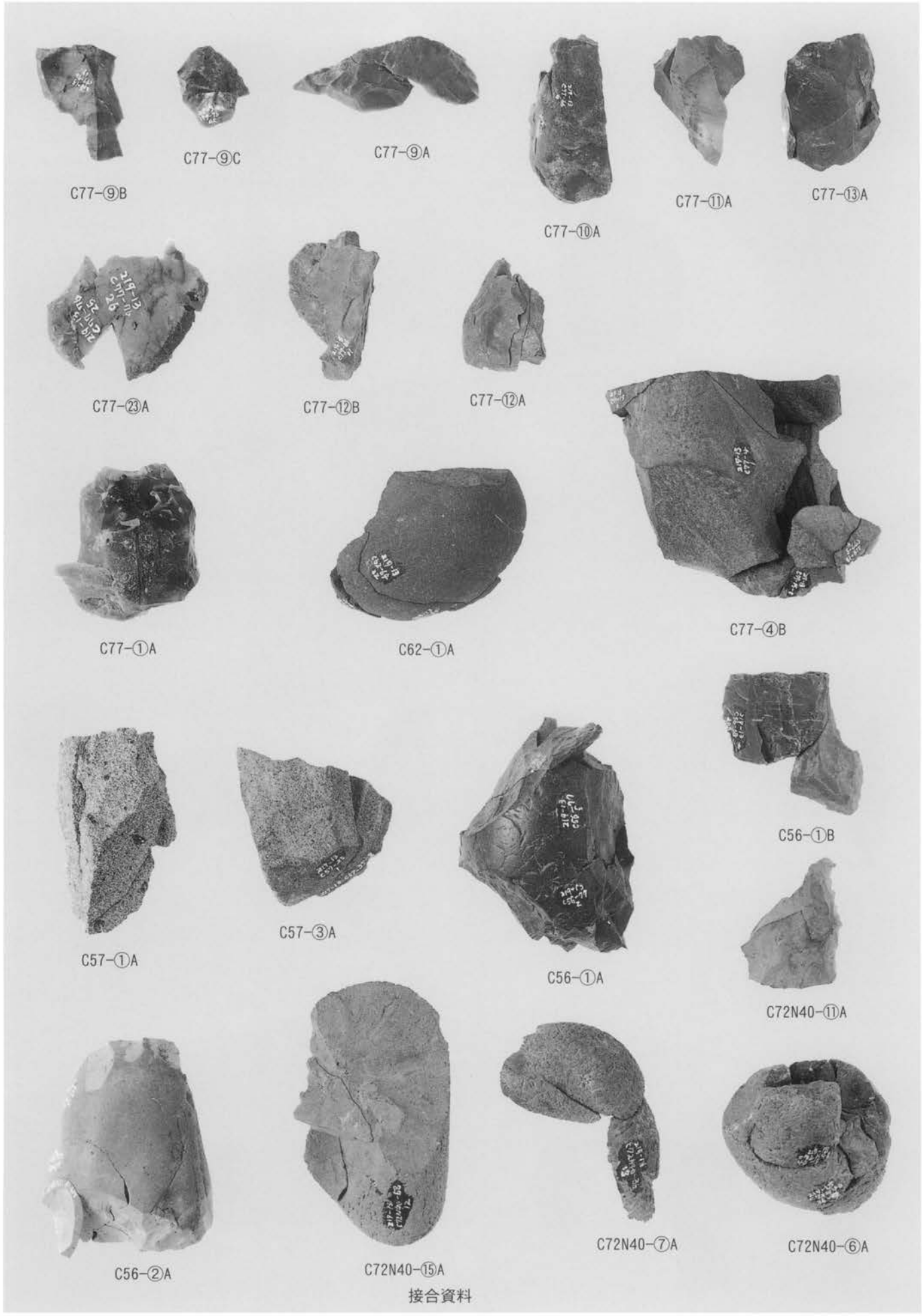
C72N40-Dブロック



C76-Aブロック

ブロック外

図版32　草刈遺跡Ｄ区旧石器時代遺物 8



接合資料

C24-23グリッド　西壁断面

C32-Cブロック　東から

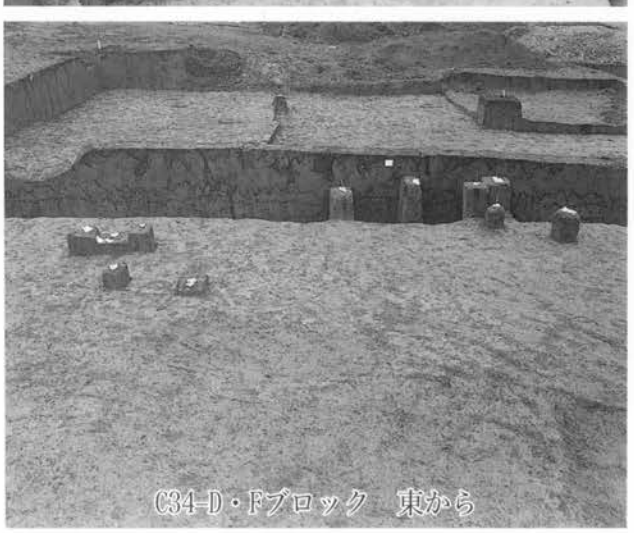
C33-B・Cブロック　南から

C32-A・B・Dブロック，C43-Aブロック　西から

C33-Aブロック　東から

C34-Aブロック　北から

C34-Bブロック　南から


C34-D・Fブロック　東から

図版34　草刈遺跡Ｅ区旧石器時代遺物出土状況２・旧石器時代遺物

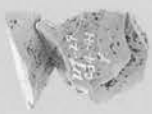
C34E40-Aブロック　西から

C37-Aブロック　西から

C45-Aブロック　東から

C38-Aブロック　西から

C34-⑫A


C34-⑬A

C34-⑬B

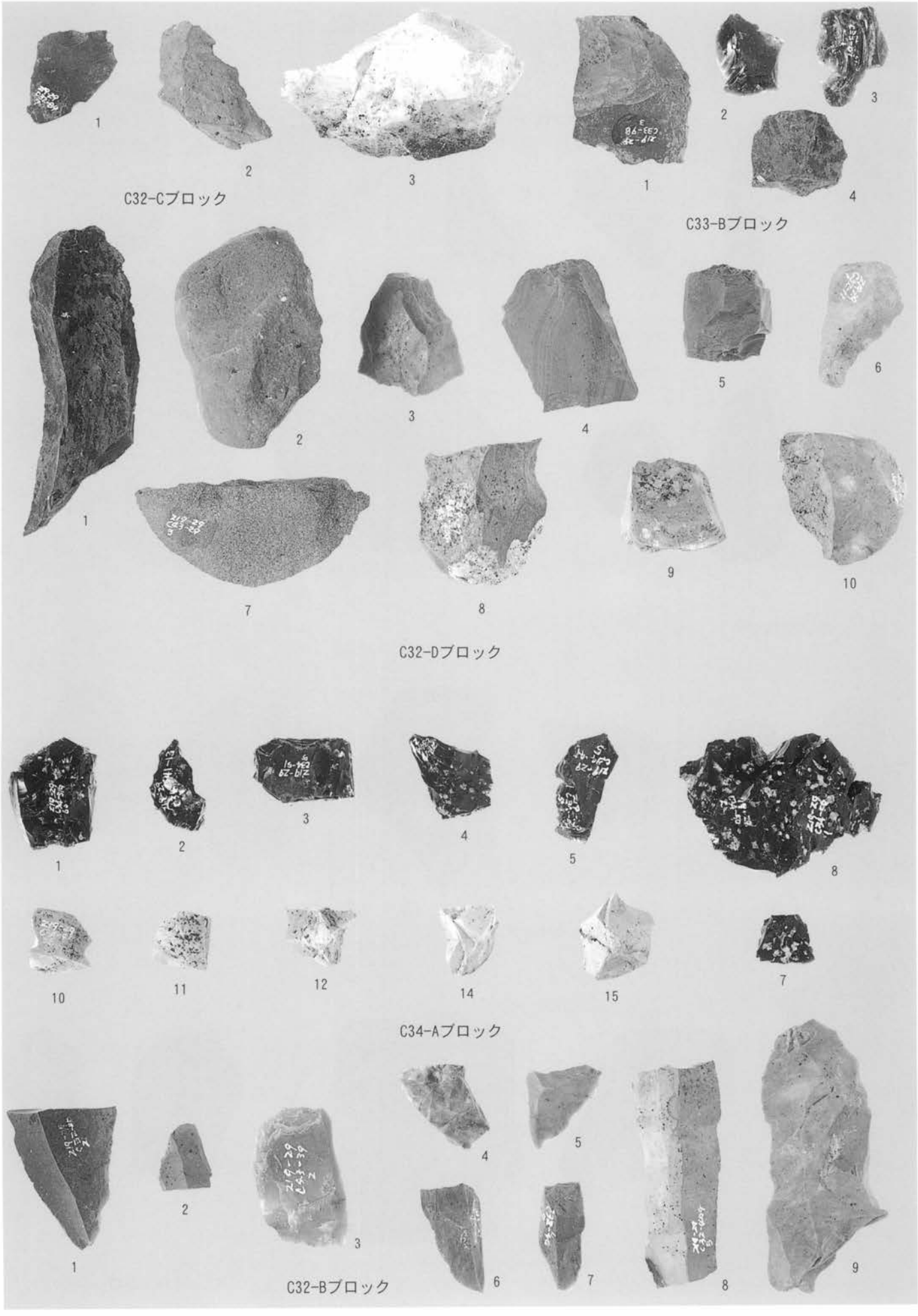
C32-①A

C34E40-①B

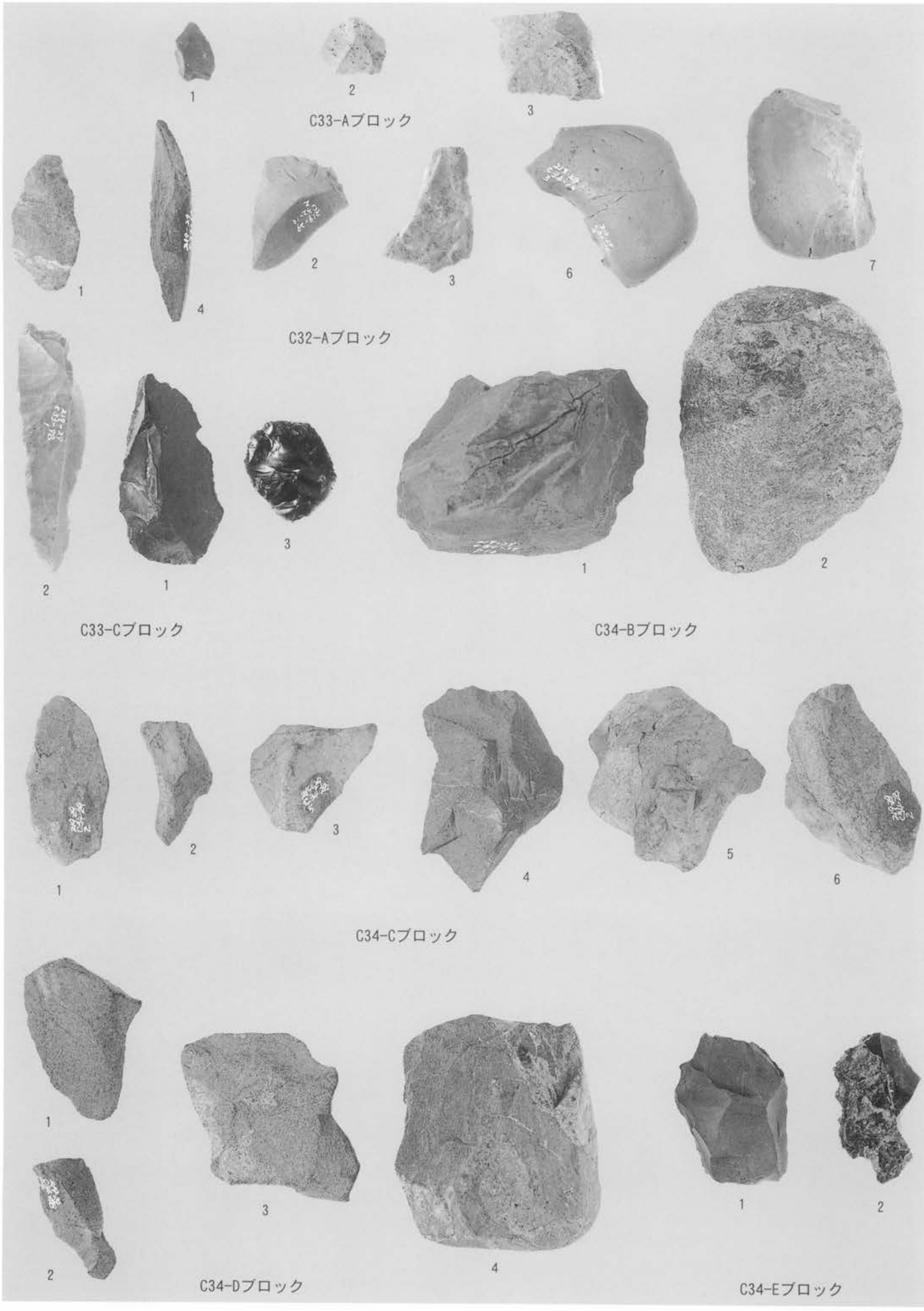
C34E40-①A

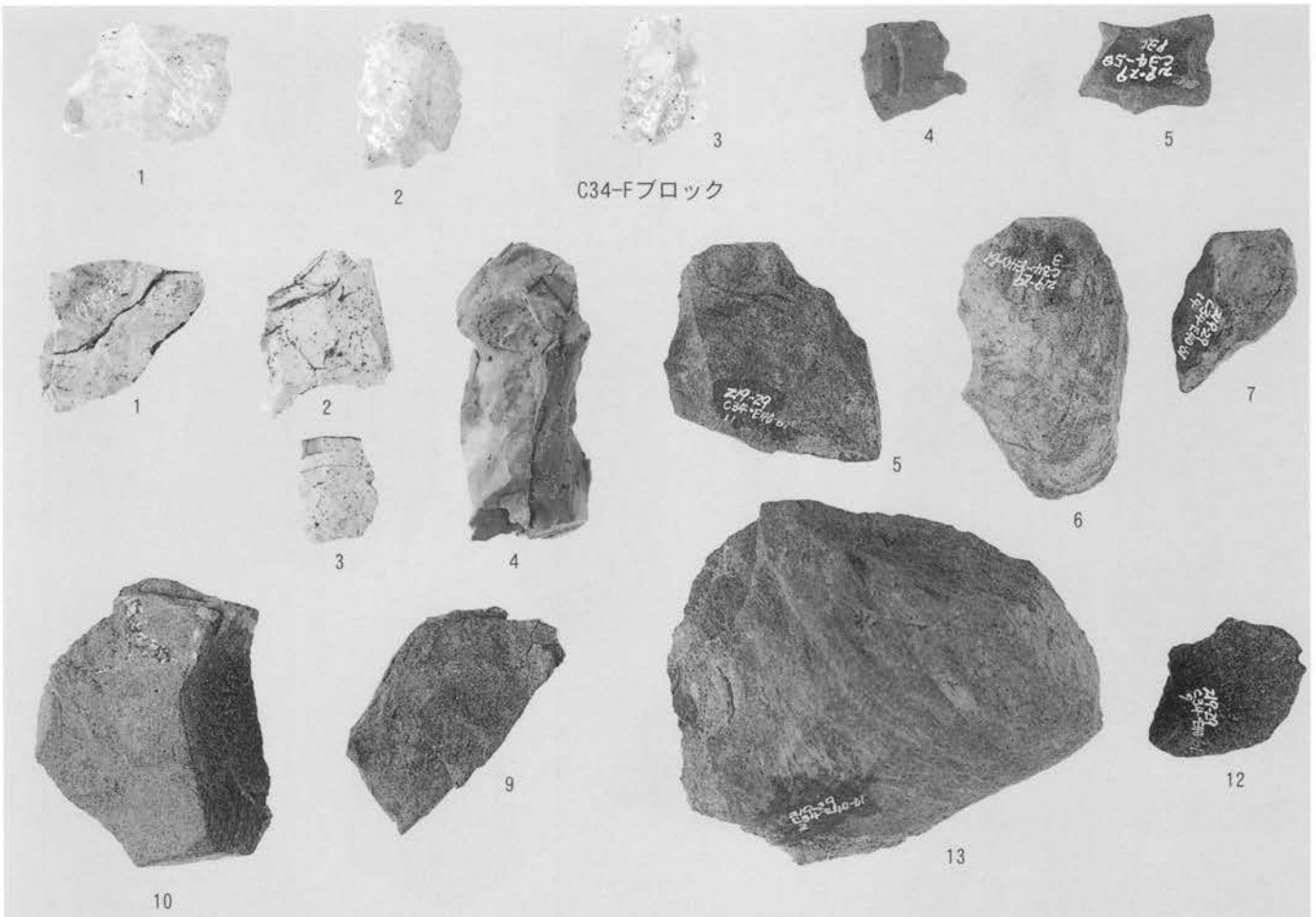
C37-①A

接合資料

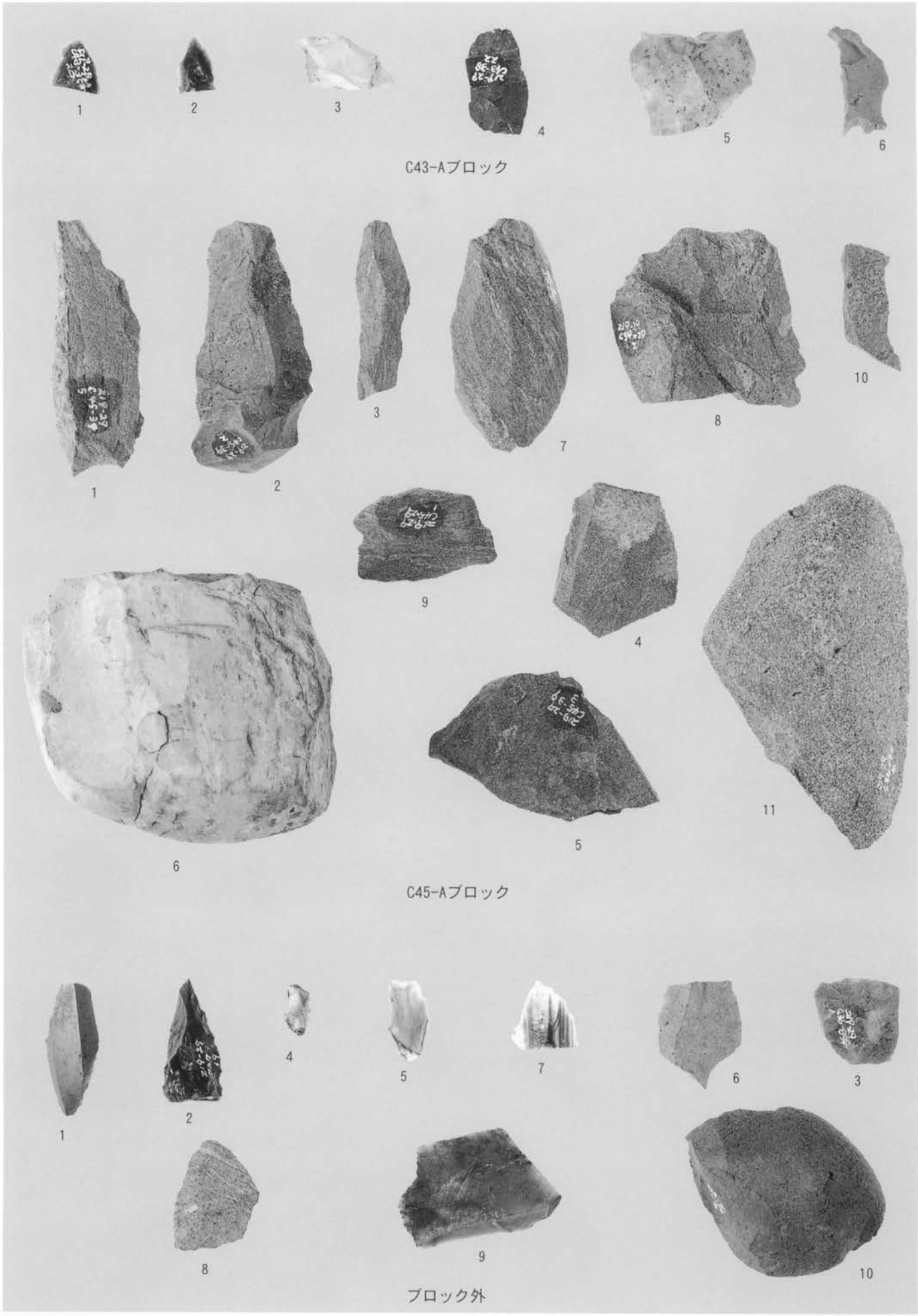

1
2
3
C32-Cブロック
1
2
3
4
C33-Bブロック
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
C32-Dブロック
1
2
3
4
5
8
10
11
12
14
15
7
C34-Aブロック
1
2
3
4
5
6
7
8
9
C32-Bブロック

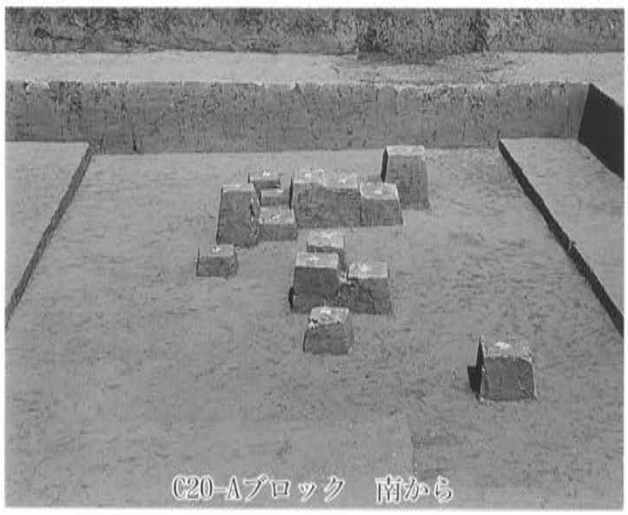
図版36　草刈遺跡 E 区旧石器時代遺物 3




1
2
3
4
5
C34-Fブロック
1
2
3
4
5
6
7
10
9
13
12
C34E40-Aブロック
1
2
3
4
6
7
8
9
10
11
12
14
5
17
18
15
13
C37-Aブロック
1
2
3
4
C38-Aブロック

図版38　草刈遺跡 E 区旧石器時代遺物 5




C20-Aブロック　南から

C20-46グリッド　南から

C14N40-Aブロック　南西から

C15-Aブロック　南から

C21-Bブロック　南から

C26-A1～A4ブロック　西から

C12-Bブロック　東から

C12-Bブロック　東から

図版40　草刈遺跡Ｇ区旧石器時代遺物出土状況２

C12-Bブロック　西から

C12-Bブロック　西から

C12-Bブロック　北西から

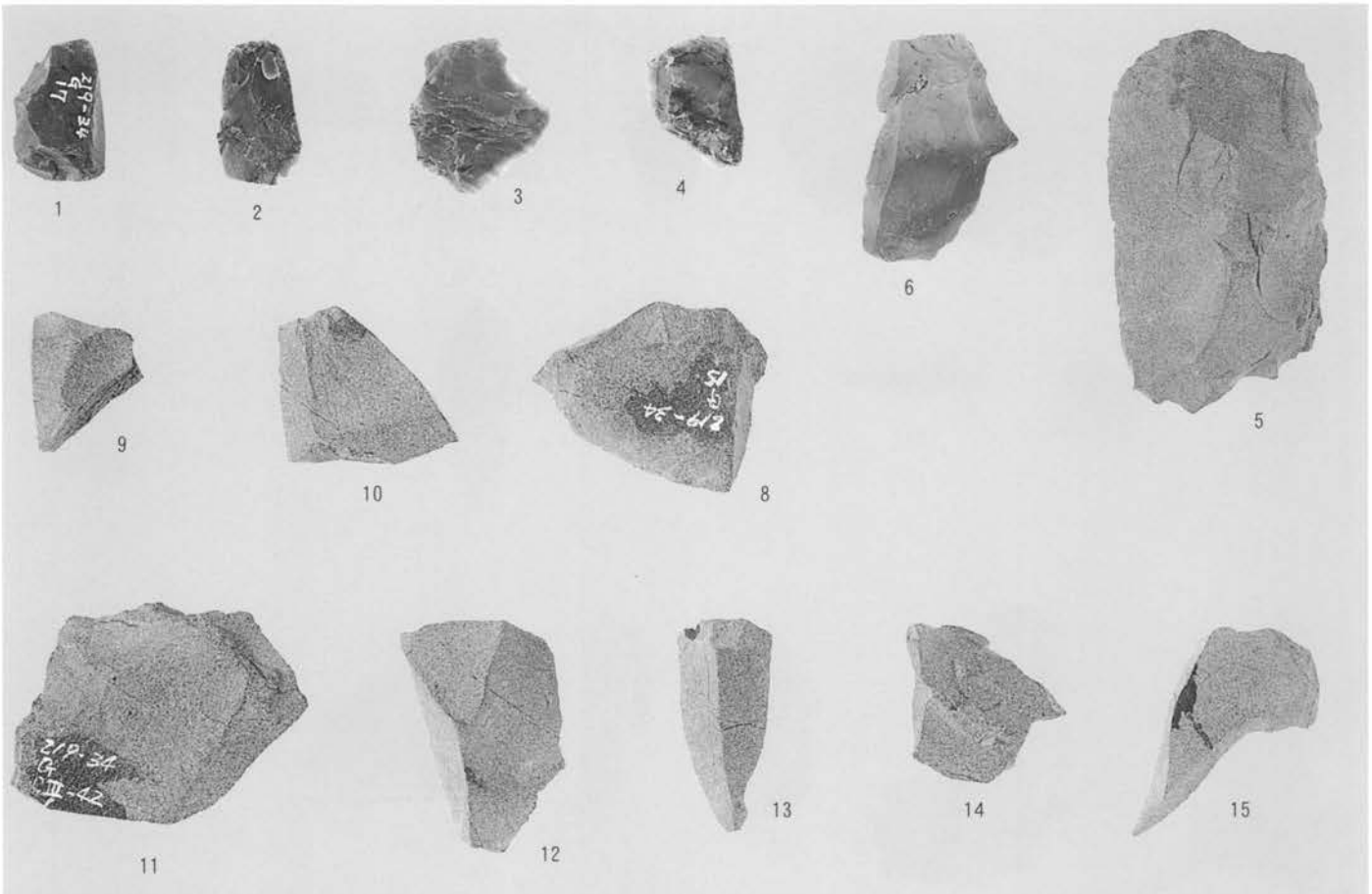
C14-Aブロック　西から

C14-B・Cブロック　南から

C11-Sグリッド　南から

C18-62グリッド　南から

C20-64グリッド　南から



C20-Aブロック

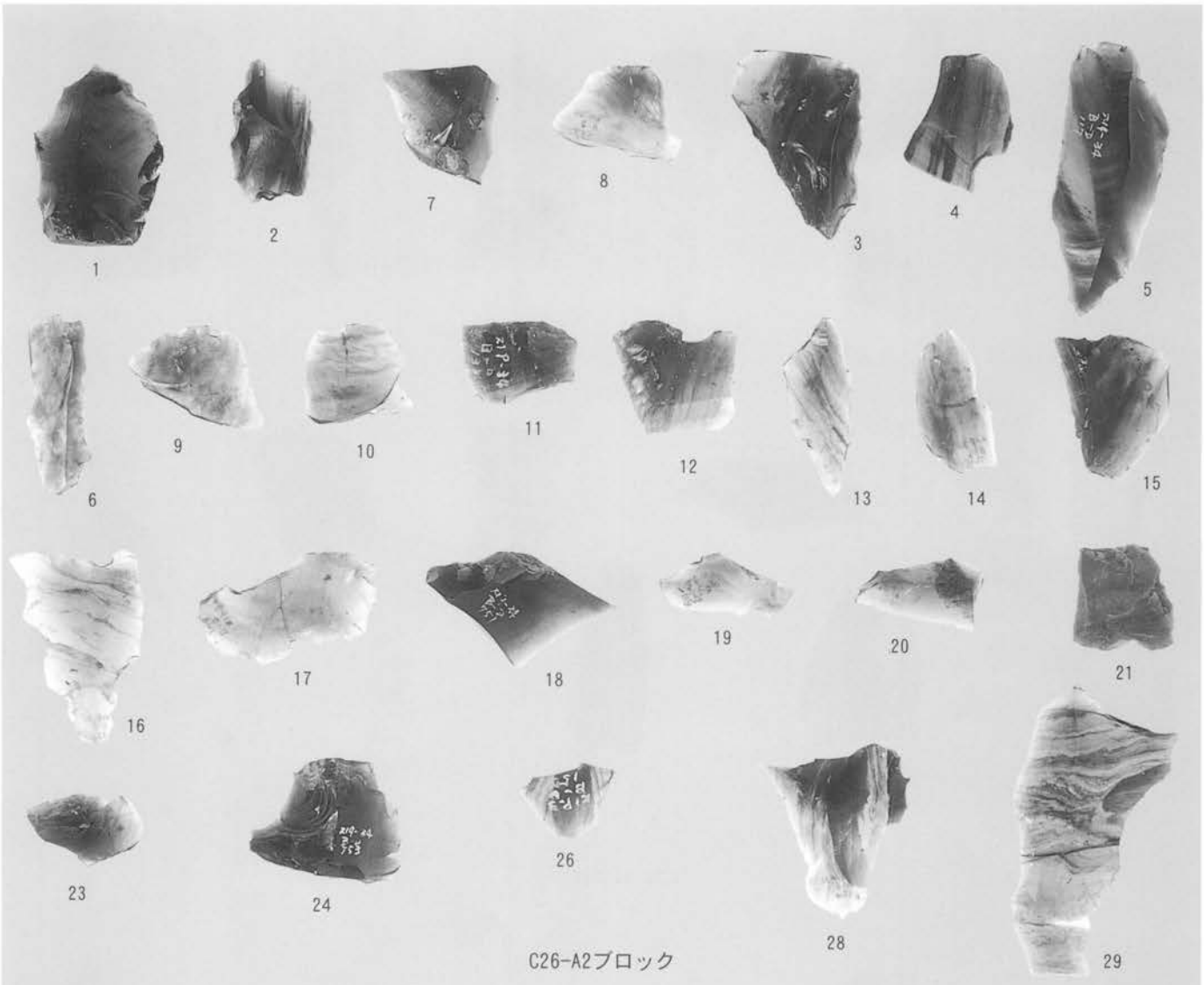
C14N40-Aブロック

C15-Aブロック

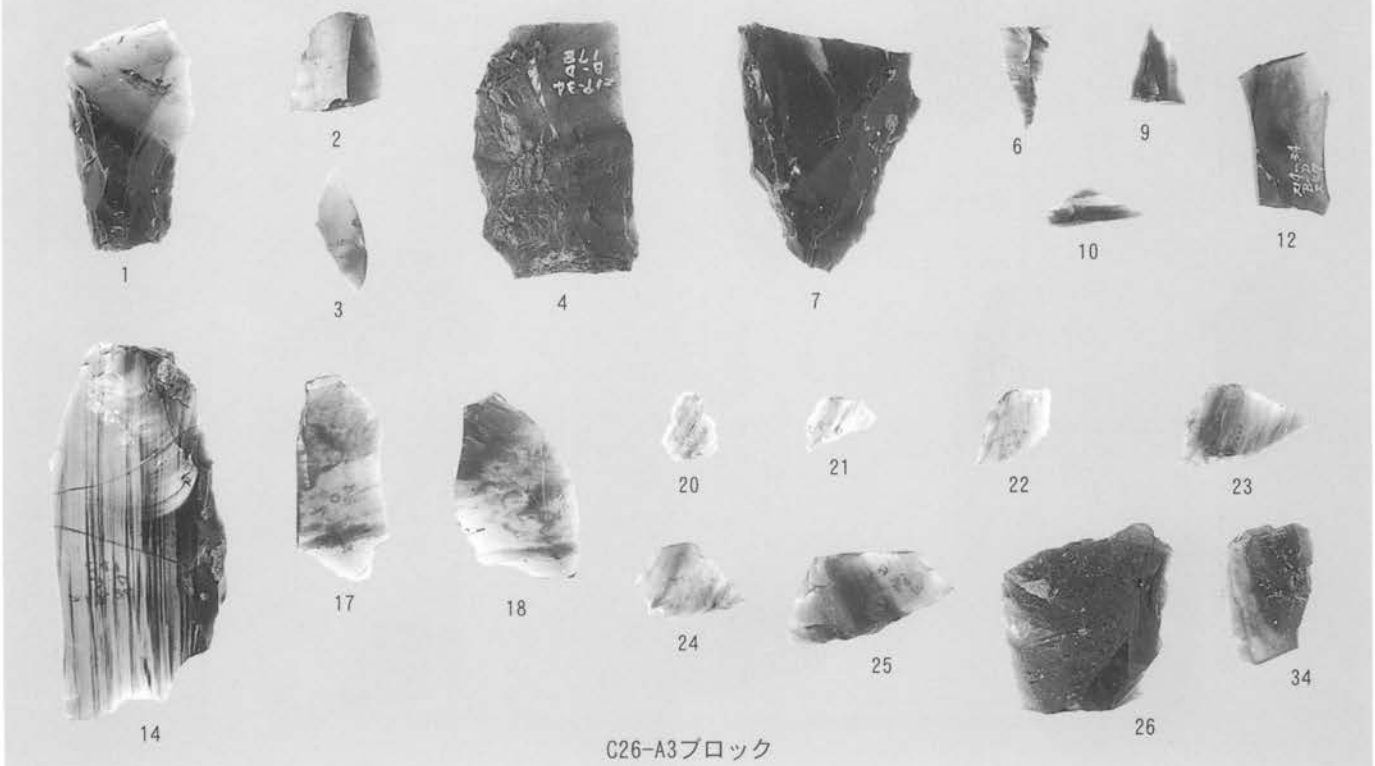
C21-Bブロック

図版42　草刈遺跡Ｇ区旧石器時代遺物２

C26-A1ブロック

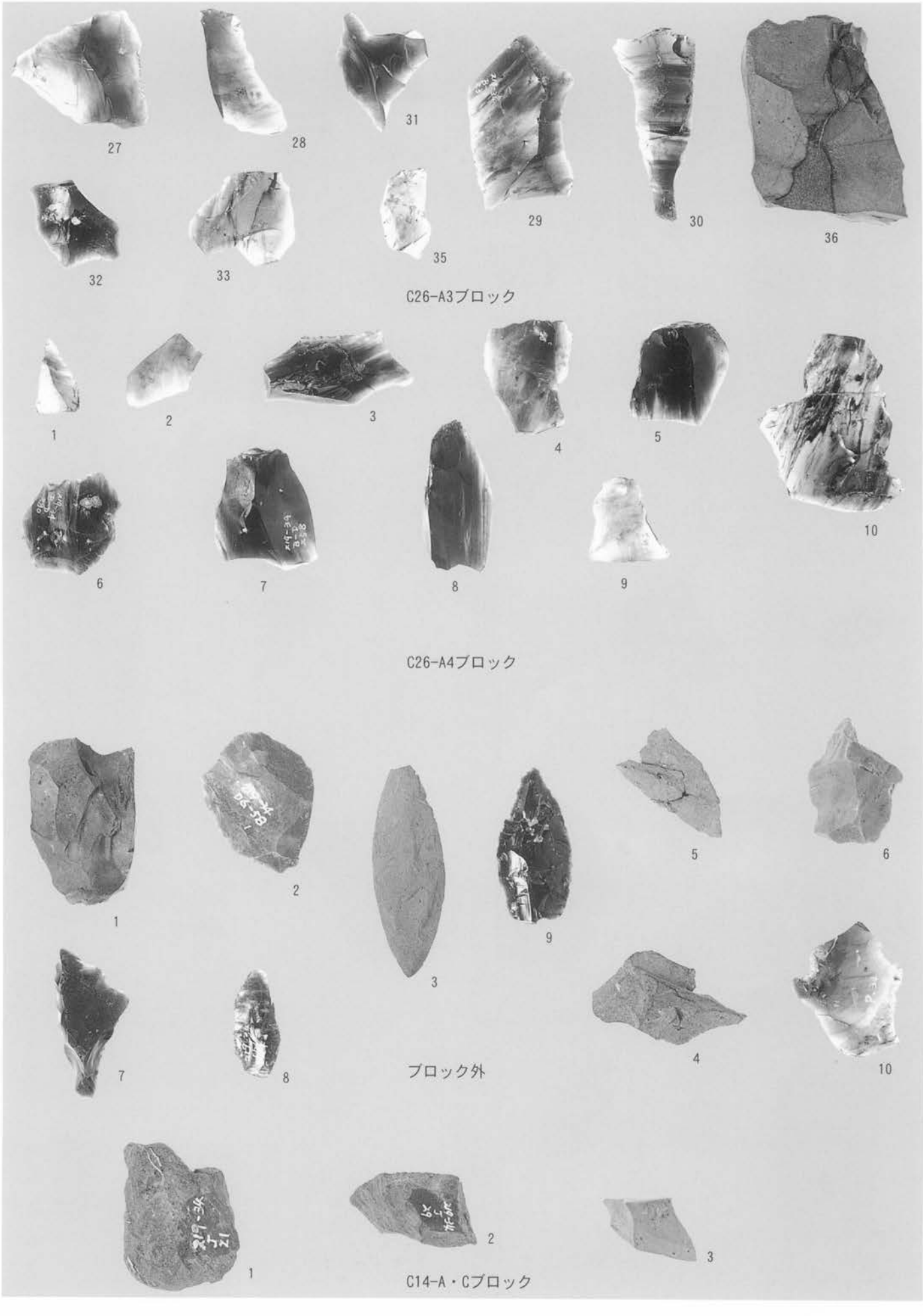


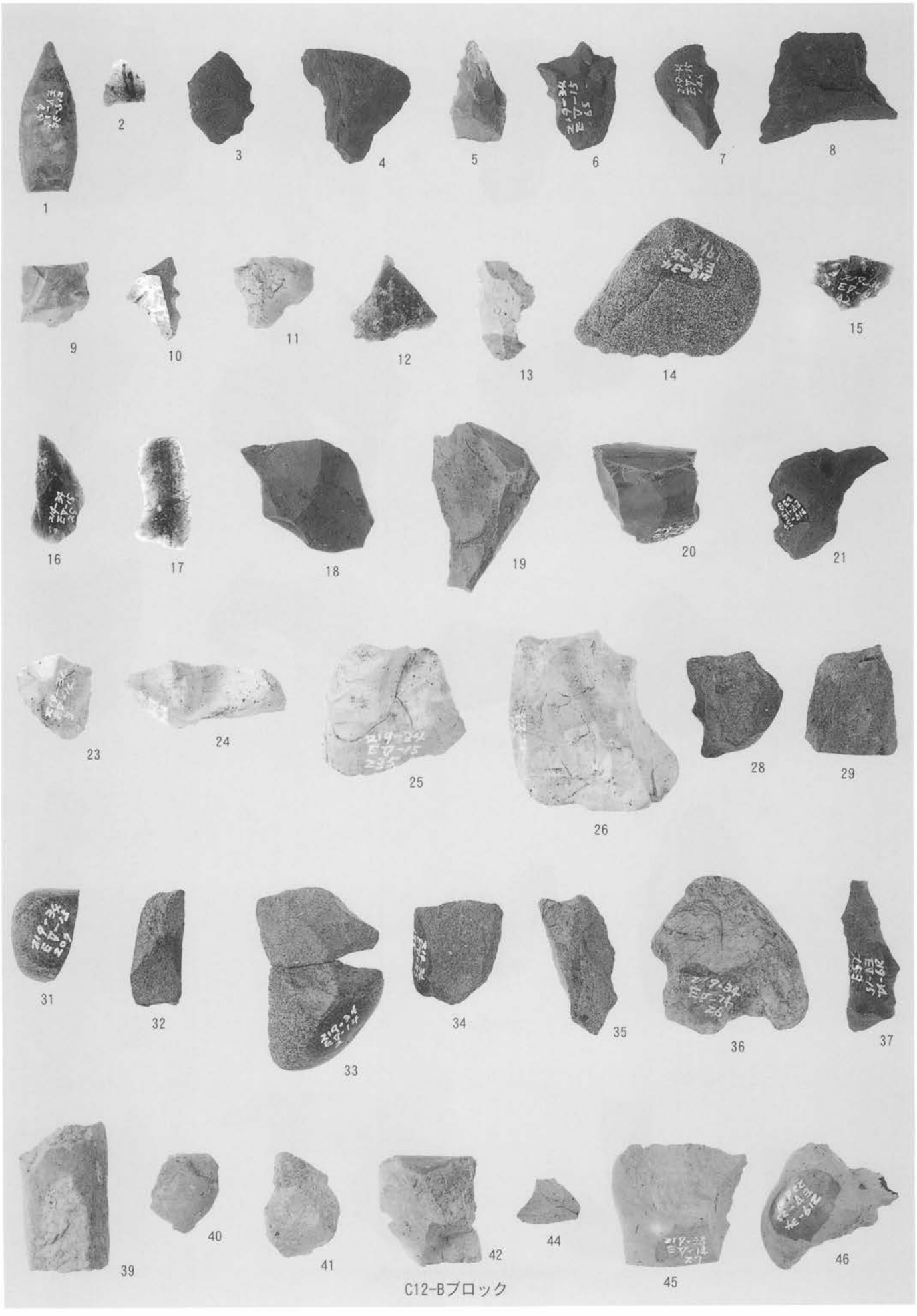
C26-A2ブロック



C26-A3ブロック

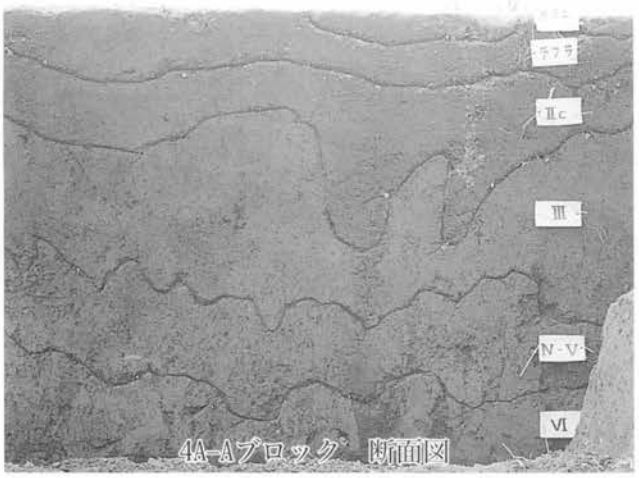
図版44　草刈遺跡Ｇ区旧石器時代遺物４




1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
23
24
25
26
28
29
31
32
33
34
35
36
37
39
40
41
42
44
45
46

C12-Bブロック

図版46　草刈遺跡G区旧石器時代遺物6



4A-Aブロック　断面図

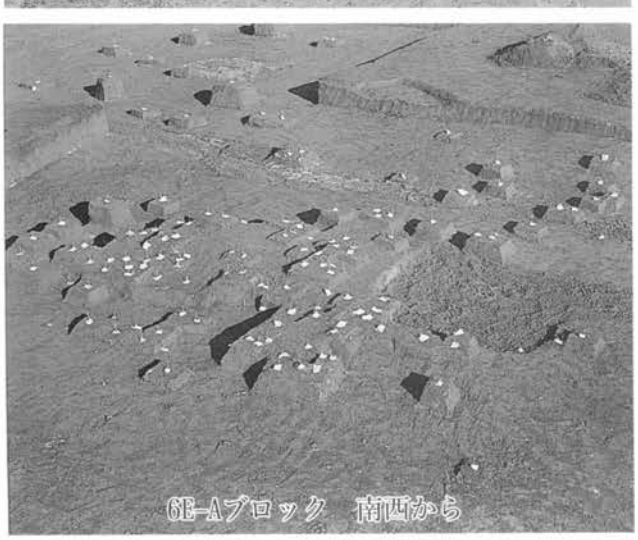
4B-D～H，5B-A～C，5C-A・Bブロック　西から

4B-Bブロック　南東から

1B-Aブロック　東から

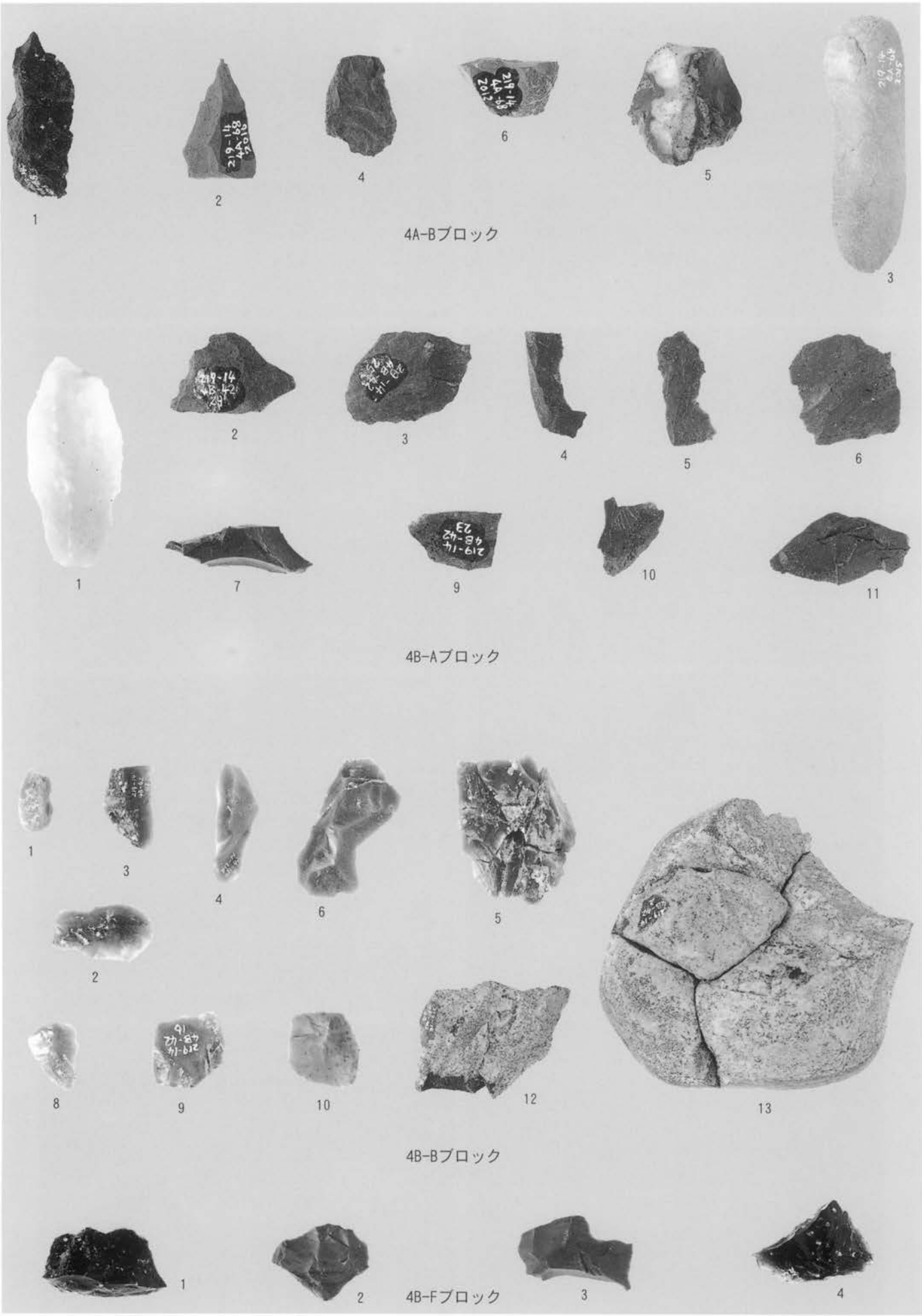
4A-Aブロック　東から

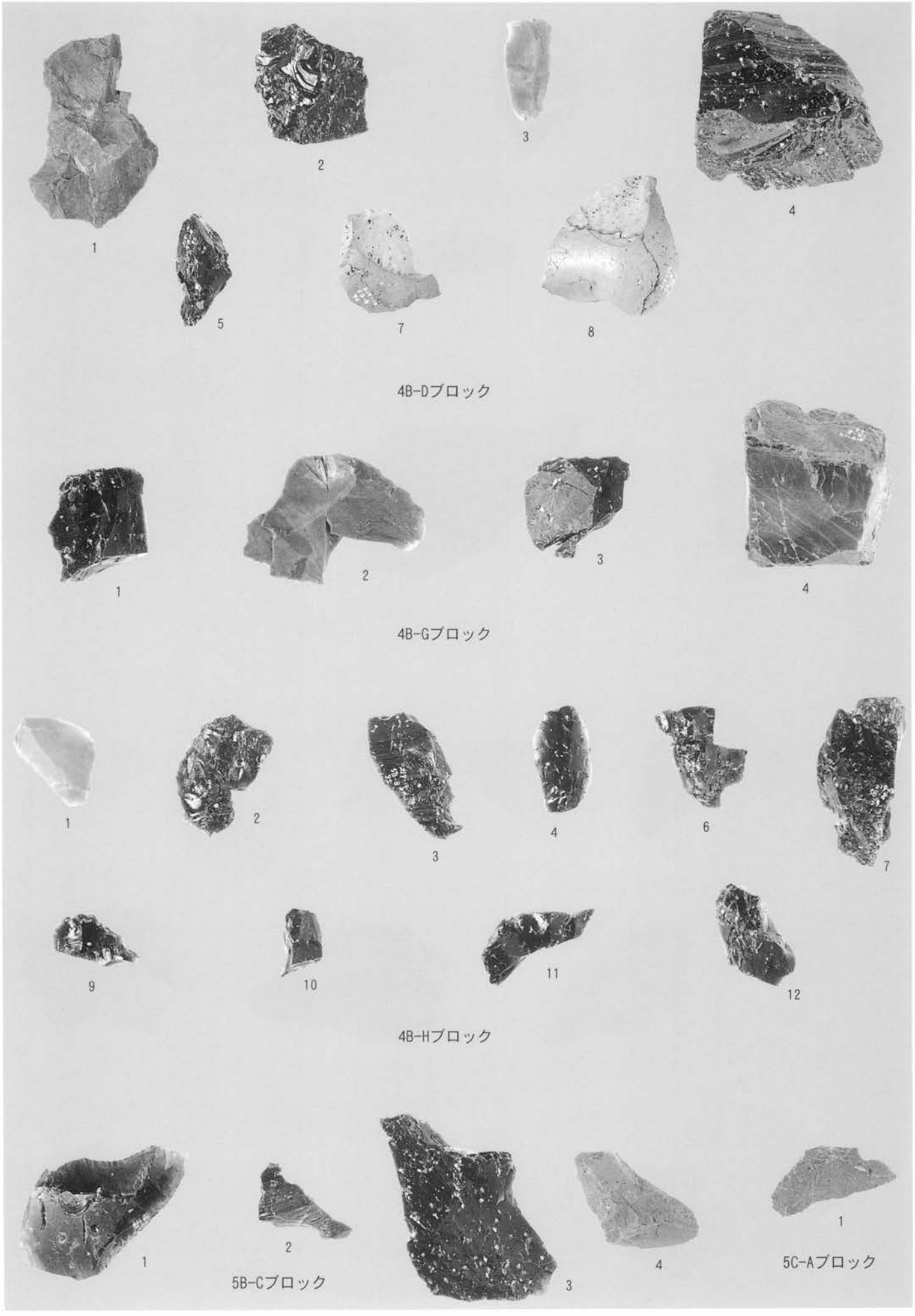
4B-Cブロック　北西から


6E-Aブロック　南西から

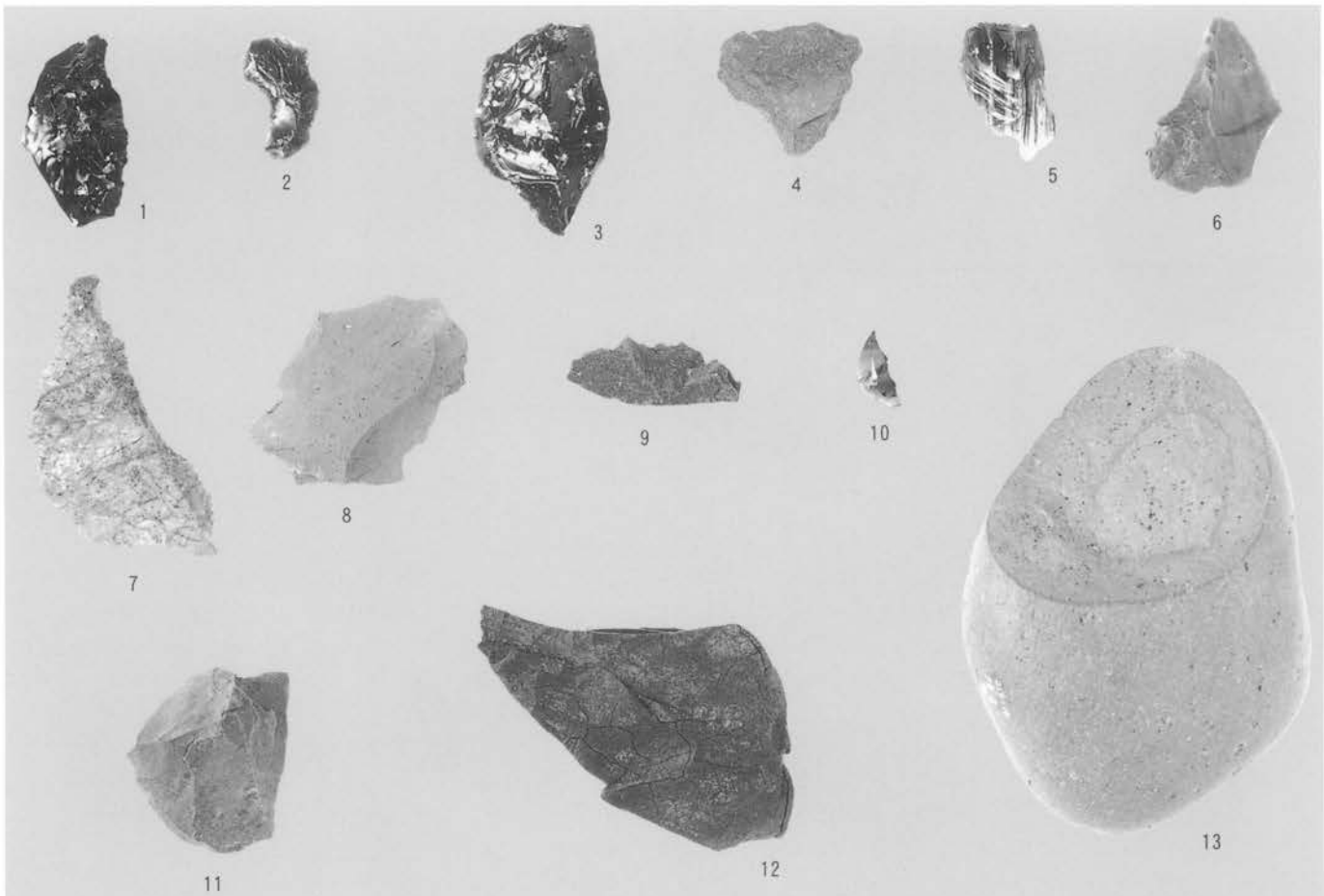
6C-Aブロック　東から

図版48　草刈遺跡 P 区旧石器時代遺物 1



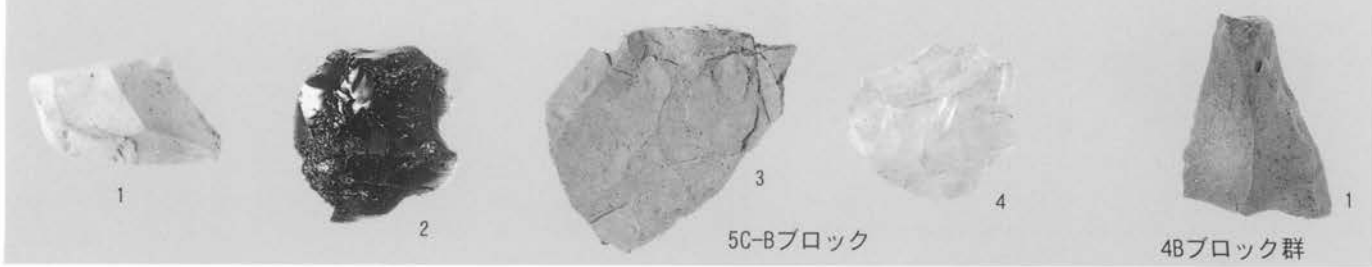

1
2
3
4
5
7
8
4B-Dブロック
1
2
3
4
4B-Gブロック
1
2
3
4
6
7
9
10
11
12
4B-Hブロック
1
2
3
4
5B-Cブロック
1
5C-Aブロック

図版50　草刈遺跡 P 区旧石器時代遺物 3

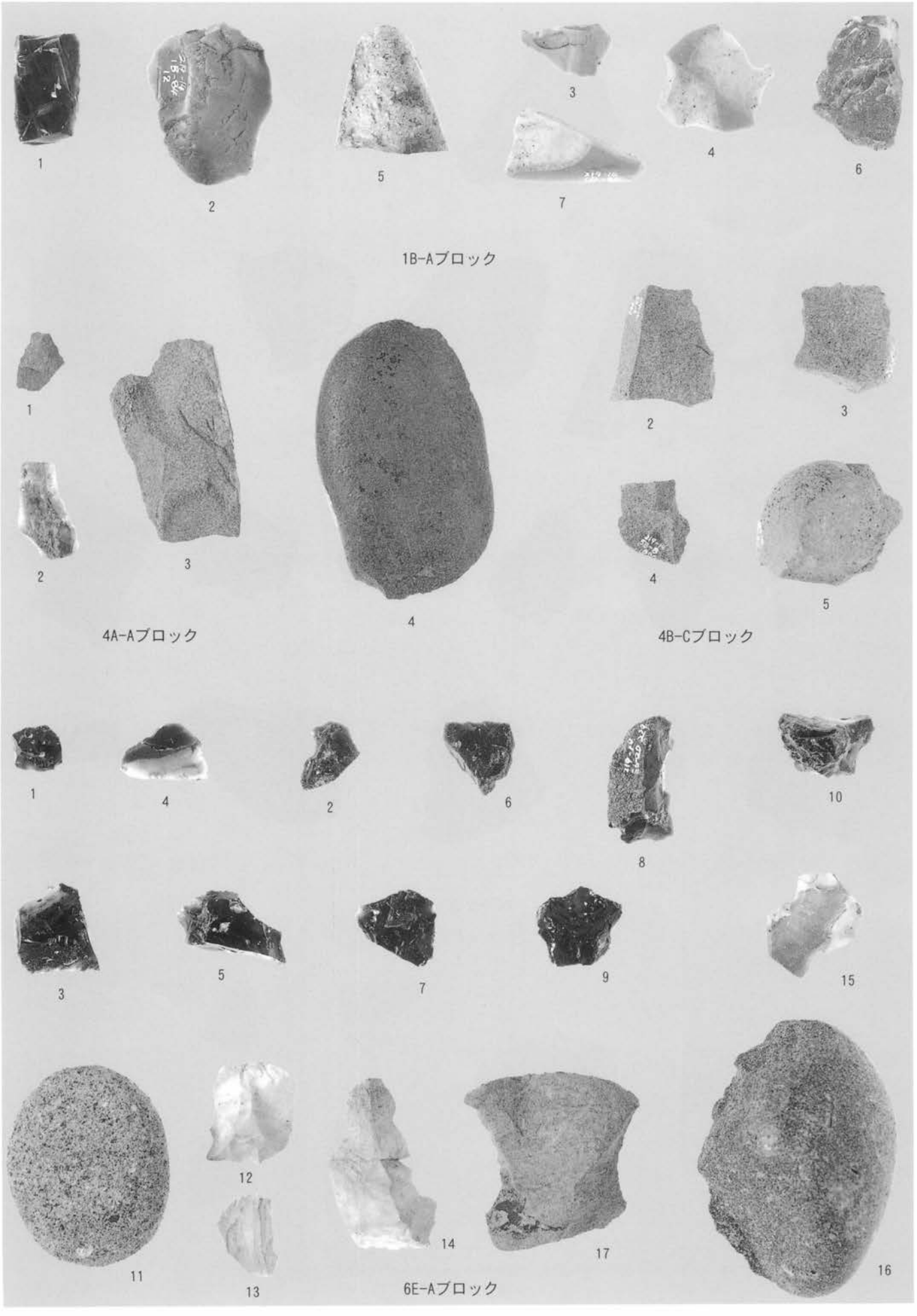


5B-Aブロック

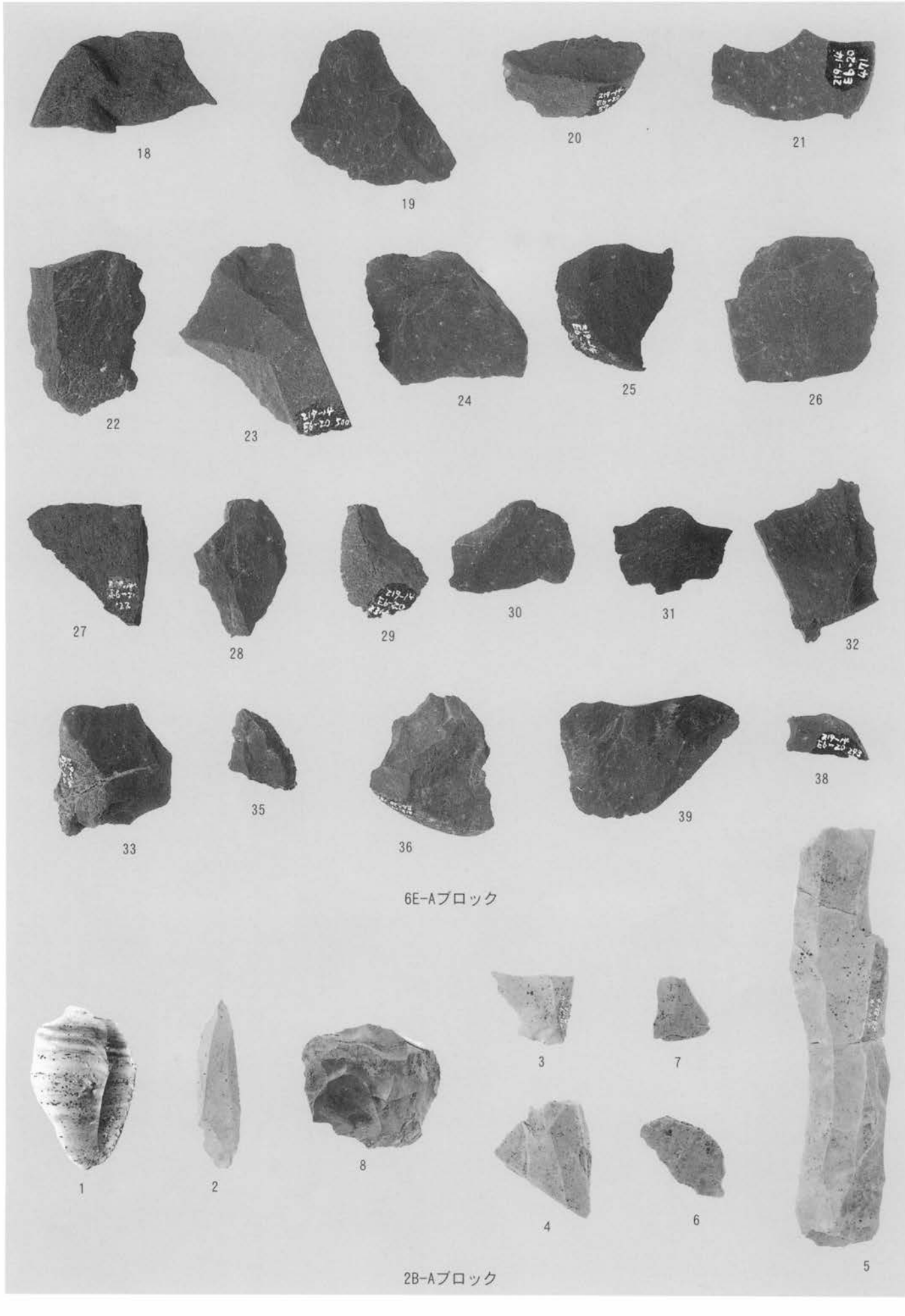
5B-Bブロック

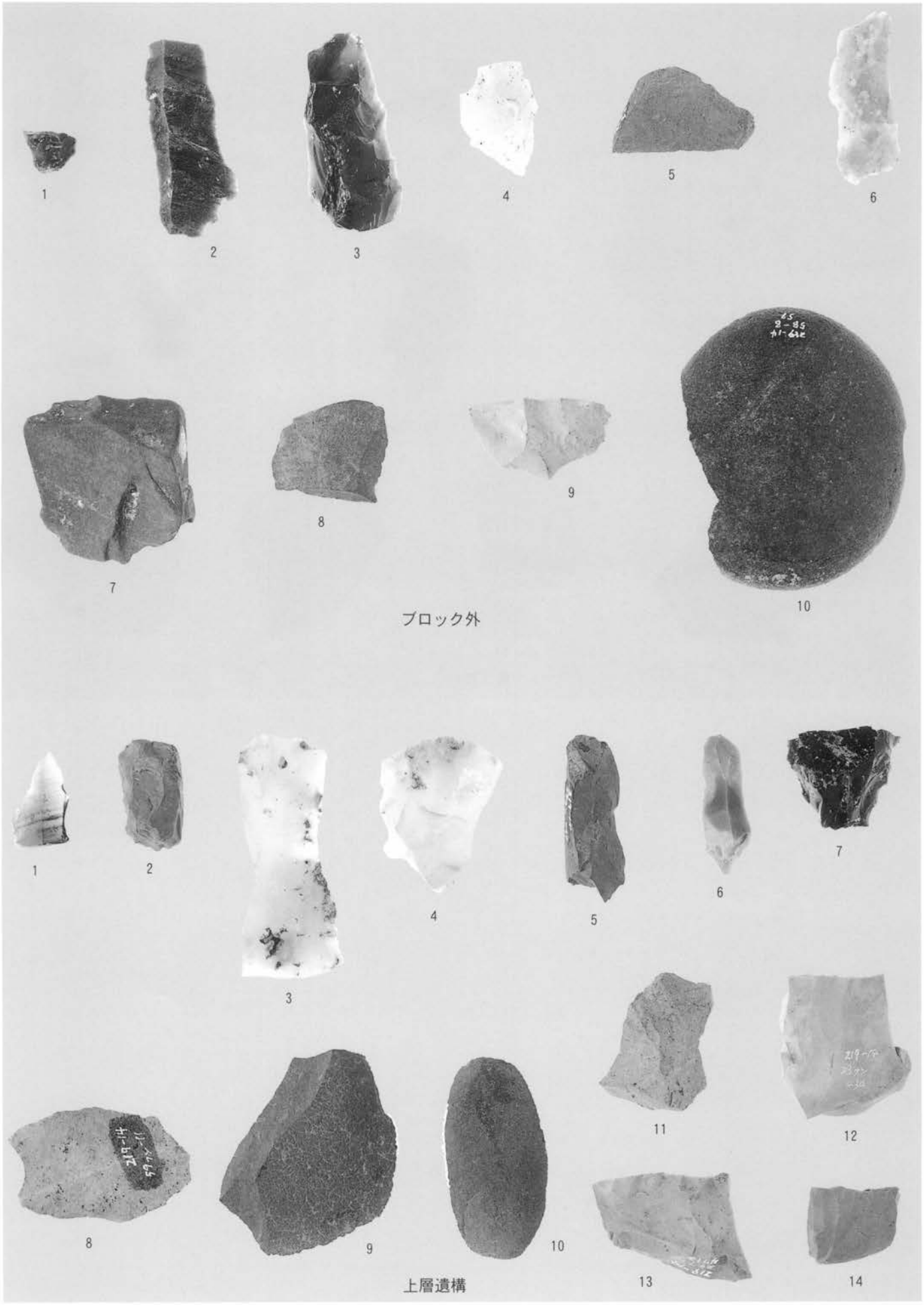


5C-Bブロック　　4Bブロック群

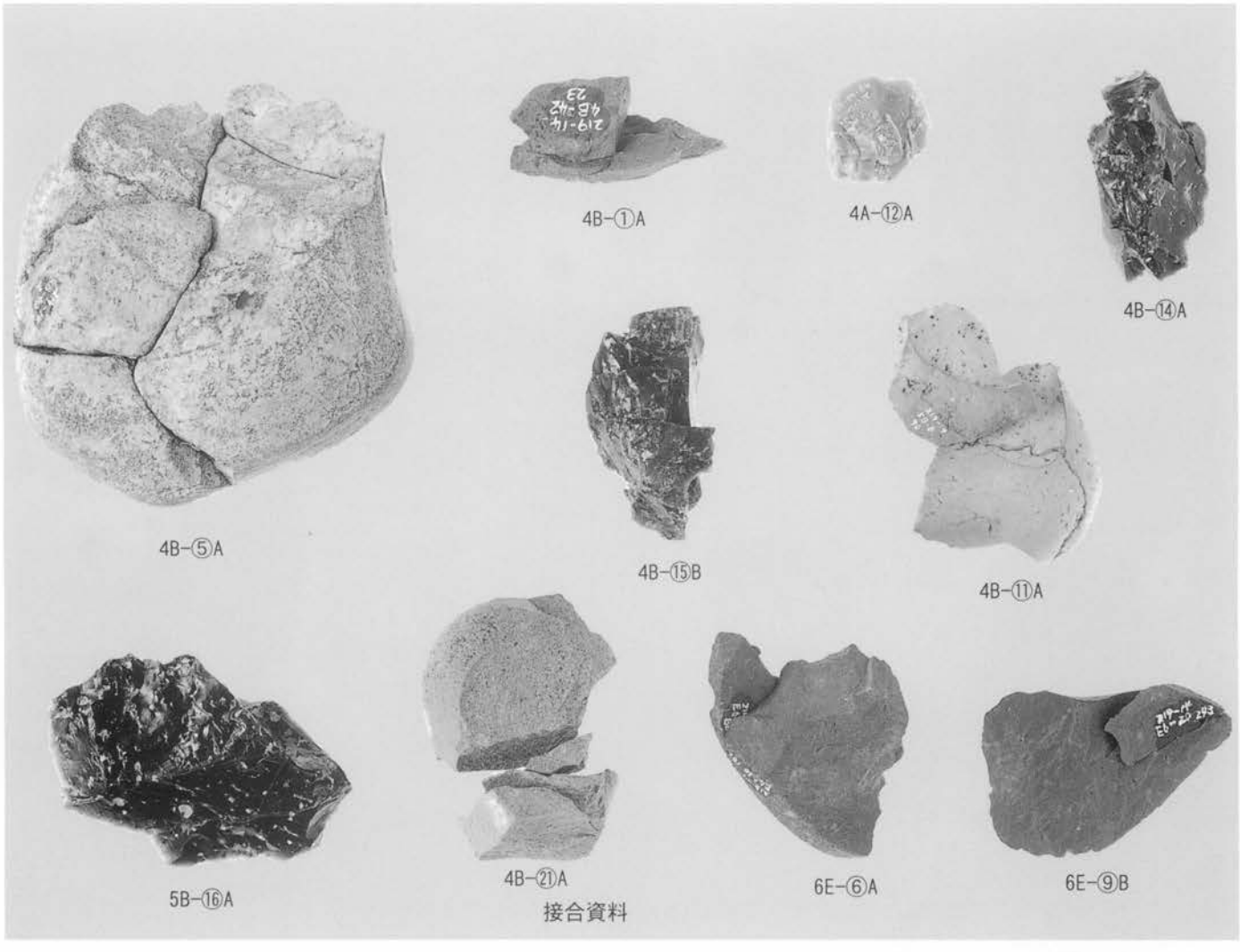

1
2
5
3
7
4
6
1B-Aブロック
1
2
3
4
4A-Aブロック
2
3
4
5
4B-Cブロック
1
4
2
6
8
10
3
5
7
9
15
11
12
13
14
17
16
6E-Aブロック

図版52　草刈遺跡 P 区旧石器時代遺物 5




1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
ブロック外
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
上層遺構

図版54　草刈遺跡 P 区旧石器時代遺物 7



報告書抄録

ふりがな	ちはらだいにゅーたうん　X
書名	千原台ニュータウン　X
副書名	市原市草刈遺跡（東部地区旧石器時代）
巻次	１０
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告
シリーズ番号	第462集
編著者名	島立　桂
編集機関	財団法人　千葉県文化財センター
所在地	〒284-0003　千葉県四街道市鹿渡809番地2　　TEL043-422-8811
発行年月日	西暦 2003年11月28日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
草刈遺跡	千葉県市原市ちはら台西３丁目３番ほか	12219	010 013 014 029 034	35° 31′ 40″	140° 10′ 32″	19820401 ～ 19870203	168,500	千原台地区土地区画整理事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
草刈遺跡	包蔵地	旧石器時代	石器集中地点98か所	尖頭器・台形石器・石斧・ナイフ形石器・槍先形石器・掻器・削器	武蔵野ローム層最上部～立川ローム層最上部で７枚の文化層を確認した。最下層の石器群は県内最古の一群である。

千葉県文化財センター調査報告　第462集

千原台ニュータウンX

－市原市草刈遺跡（東部地区旧石器時代）－

平成15年11月28日発行

編　　集　　財団法人　千葉県文化財センター
発　　行　　都市基盤整備公団千葉地域支社
千葉市美浜区中瀬1-3
財団法人　千葉県文化財センター
四街道市鹿渡809-2
印　　刷　　株式会社　東　プ　リ
船橋市咲が丘1-11-9